

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**メッセージ・リファレンス
第 1 巻**

IBM

**IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows**

**メッセージ・リファレンス
第 1 巻**



ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、1035 ページの『付録 B. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM 資料は、オンラインでご注文いただくことも、ご自分の国または地域の IBM 担当員を通してお求めいただくこともできます。

- オンラインで資料を注文するには、IBM Publications Center (<http://www.ibm.com/shop/publications/order>) をご利用ください。
- ご自分の国または地域の IBM 担当員を見つけるには、IBM Directory of Worldwide Contacts (<http://www.ibm.com/planetwide/>) をお調べください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックslashと表示されたり、バックslashが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC27-3879-00
IBM DB2 10.1
for Linux, UNIX, and Windows
Message Reference Volume 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 2012.

目次

第 1 部 メッセージの概要	1	第 24 章 ADM12000 - ADM12499	91
第 2 部 ADM メッセージ	5	第 25 章 ADM12500 - ADM12999	95
第 1 章 ADM0000 - ADM0499	7	第 26 章 ADM13000 - ADM13499	99
第 2 章 ADM0500 - ADM0999	9	第 27 章 ADM13500 - ADM13999	101
第 3 章 ADM1000 - ADM1499.	11	第 28 章 ADM14000 - ADM14499	103
第 4 章 ADM1500 - ADM1999.	13	第 29 章 ADM14500 - ADM14999	107
第 5 章 ADM2000 - ADM2499.	23	第 30 章 ADM15000 - ADM15499	109
第 6 章 ADM2500 - ADM2999.	25	第 31 章 ADM15500 - ADM15999	111
第 7 章 ADM3000 - ADM3499.	27	第 32 章 ADM16000 - ADM16499	113
第 8 章 ADM3500 - ADM3999.	29	第 3 部 AMI メッセージ.	115
第 9 章 ADM4000 - ADM4499.	31	第 33 章 AMI0000 - AMI0499	117
第 10 章 ADM4500 - ADM4999	37	第 4 部 レプリケーション・メッセ ージ	119
第 11 章 ADM5500 - ADM5999	39	第 34 章 ASN0000 - ASN0499	121
第 12 章 ADM6000 - ADM6499	45	第 35 章 ASN0500 - ASN0999	137
第 13 章 ADM6500 - ADM6999	61	第 36 章 ASN1000 - ASN1499	165
第 14 章 ADM7000 - ADM7499	63	第 37 章 ASN1500 - ASN1999	181
第 15 章 ADM7500 - ADM7999	65	第 38 章 ASN2000 - ASN2499	229
第 16 章 ADM8000 - ADM8499	71	第 39 章 ASN2500 - ASN2999	291
第 17 章 ADM8500 - ADM8999	73	第 40 章 ASN3500 - ASN3999	295
第 18 章 ADM9000 - ADM9499	75	第 41 章 ASN4000 - ASN4499	299
第 19 章 ADM9500 - ADM9999	77	第 42 章 ASN5000 - ASN5499	305
第 20 章 ADM10000 - ADM10499	81	第 43 章 ASN7000 - ASN7499	321
第 21 章 ADM10500 - ADM10999	83	第 44 章 ASN7500 - ASN7999	359
第 22 章 ADM11000 - ADM11499	87	第 5 部 AUD メッセージ	405
第 23 章 ADM11500 - ADM11999	89		

第 45 章 AUD0000 - AUD0499	407
<hr/>	
第 6 部 CCA メッセージ	409
第 46 章 CCA1000 - CCA1499	411
第 47 章 CCA2000 - CCA2499	413
第 48 章 CCA3000 - CCA3499	417
第 49 章 CCA5000 - CCA5499	423
<hr/>	
第 7 部 CIE メッセージ	425
第 50 章 CIE0000 - CIE0499	427
第 51 章 CIE0500 - CIE0999	449
<hr/>	
第 8 部 CLI メッセージ	461
第 52 章 CLI0000 - CLI0499	463
第 53 章 CLI0500 - CLI0999	477
<hr/>	
第 9 部 Net Search Extender の メッセージ	483
第 54 章 CTE0000 - CTE0499	485
第 55 章 CTE0500 - CTE0999	507
<hr/>	
第 10 部 DB2 メッセージ	509
第 56 章 DB20000 - DB20499	511
第 57 章 DB21000 - DB21499	513
第 58 章 DB21500 - DB21999	525
第 59 章 DB22000 - DB22499	533
第 60 章 DB29000 - DB29499	541
第 61 章 DB29500 - DB29999	543
第 62 章 DB210000 - DB210499 . . .	545
第 63 章 DB216000 - DB216499 . . .	549
第 64 章 DB250000 - DB250499 . . .	551
第 65 章 DB250500 - DB250999 . . .	561
第 66 章 DB255000 - DB255499 . . .	563

第 11 部 DBA メッセージ	571
第 67 章 DBA0000 - DBA0499	573
第 68 章 DBA0500 - DBA0999	583
第 69 章 DBA1000 - DBA1499	585
第 70 章 DBA1500 - DBA1999	597
第 71 章 DBA2000 - DBA2499	603
第 72 章 DBA3000 - DBA3499	613
第 73 章 DBA4000 - DBA4499	619
第 74 章 DBA4500 - DBA4999	625
第 75 章 DBA5000 - DBA5499	629
第 76 章 DBA5500 - DBA5999	633
第 77 章 DBA6000 - DBA6499	637
第 78 章 DBA7000 - DBA7499	641
第 79 章 DBA7500 - DBA7999	649
第 80 章 DBA8000 - DBA8499	657
<hr/>	
第 12 部 DBI メッセージ	659
第 81 章 DBI1000 - DBI1499	661
第 82 章 DBI1500 - DBI1999	733
第 83 章 DBI20000 - DBI20499 . . .	759
<hr/>	
第 13 部 DBT メッセージ	775
第 84 章 DBT1000 - DBT1499	777
第 85 章 DBT2000 - DBT2499	785
第 86 章 DBT3000 - DBT3499	791
第 87 章 DBT3500 - DBT3999	795
第 88 章 DBT4000 - DBT4499	805
第 89 章 DBT5000 - DBT5499	811
第 90 章 DBT5500 - DBT5999	817
第 91 章 DBT6000 - DBT6499	825

第 92 章 DBT7000 - DBT7499	827	第 105 章 SAT1000 - SAT1499.	993
第 14 部 DQP メッセージ	847	第 106 章 SAT2000 - SAT2499.	995
第 93 章 DQP0000 - DQP0499	849	第 107 章 SAT3000 - SAT3499.	999
第 94 章 DQP1000 - DQP1499	855	第 108 章 SAT4000 - SAT4499	1005
第 95 章 DQP2000 - DQP2499	857	第 21 部 SPM メッセージ	1007
第 96 章 DQP2500 - DQP2999	869	第 109 章 SPM0000 - SPM0499	1009
第 97 章 DQP3000 - DQP3499	873	第 22 部 SPM プロトコル違反レ コード	1019
第 15 部 EXP メッセージ	875	第 23 部 付録	1021
第 98 章 EXP0000 - EXP0499	877	付録 A. DB2 技術情報の概説	1023
第 16 部 GSE メッセージ	893	DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーま たは PDF 形式)	1024
第 17 部 ICM メッセージ	945	コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを 表示する	1026
第 99 章 ICM0000 - ICM0499	947	異なるバージョンの DB2 インフォメーション・ センターへのアクセス	1027
第 100 章 ICM0500 - ICM0999	959	コンピューターまたはイントラネット・サーバ ーにインストールされた DB2 インフォメーショ ン・センターの更新	1027
第 101 章 ICM10000 - ICM10499	967	コンピューターまたはイントラネット・サーバ ーにインストールされた DB2 インフォメーショ ン・センターの手動更新	1029
第 102 章 ICM10500 - ICM10999	973	DB2 チュートリアル	1031
第 18 部 LIC メッセージ	975	DB2 トラブルシューティング情報	1031
第 103 章 LIC1000 - LIC1499	977	ご利用条件	1032
第 19 部 MQL メッセージ	985	付録 B. 特記事項	1035
第 104 章 MQL0000 - MQL0499	987	索引	1039
第 20 部 SAT メッセージ	991		

第 1 部 メッセージの概要

本書では、DB2[®] がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なりカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

メッセージ構造

メッセージ・ヘルプは、メッセージの原因と、そのメッセージへの応答として行うべき処置を説明します。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号と、それに続く 1 文字の接尾部から成り立っています。例えば、*SQL1042C* です。メッセージ接頭部のリストについては、2 ページの『メッセージ・ヘルプの呼び出し』 および 2 ページの『その他の DB2 メッセージ』を参照してください。1 文字の接尾部は、エラー・メッセージの重大度を示します。

一般に、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、*N* で終了するものはエラー・メッセージ、*W* で終了するものは警告メッセージ、*I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

ADM メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、*W* で終了するものは重要メッセージ、*I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

SQL メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大なシステム・エラー、*N* で終了するものはエラー・メッセージ、*W* で終了するものは警告メッセージまたは情報メッセージであることを示します。

メッセージにはトークン (メッセージ変数と呼ばれることもある) が含まれている場合があります。トークンを含むメッセージが DB2 によって生成される場合、各トークンは検出されたエラー条件に固有の値によって置き換えられ、ユーザーがエラー・メッセージの原因を診断できるようにします。例えば、DB2 メッセージ *SQL0107N* は以下ようになります。

- コマンド行プロセッサから:

SQL0107N 名前 "<name>" が長すぎます。最大長は "<length>" です。

- DB2 インフォメーション・センターから:

SQL0107N 名前 *name* が長すぎます。最大長は *length* です。

このメッセージには、2 つのトークン "<name>" および "<length>" が含まれています。このメッセージが実行時に生成される場合、メッセージ・トークンはエラーの原因となったオブジェクトの実際の名前と、オブジェクトのタイプに許可される最大長にそれぞれ置き換えられます。

トークンがエラーの特定のインスタンスに該当しない場合は、代わりに値 *N が戻されます。例えば以下のようになります。

```
SQL20416N The value provided ("*N") could not be converted to a security label. Labels for the security policy with a policy ID of "1" should be "8" characters long. The value is "0" characters long. SQLSTATE=23523
```

メッセージ・ヘルプの呼び出し

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサを開いて、以下を入力します。

```
? XXXnnnnn
```

ここで、XXX は有効なメッセージ接頭部、nnnnn は有効なメッセージ番号を表します。

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できます。

```
? nnnnn
```

または

```
? nn
```

ここで、nnnnn は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、nn は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

注: db2 コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID では、大文字小文字の区別はありません。また、単一文字の接尾部はオプションであり、無視されます。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- ? SQL0000N
- ? sql0000
- ? SQL0000w

UNIX ベースのシステムのコマンド行でメッセージ・ヘルプを呼び出すには、以下を入力します。

```
db2 "? XXXnnnnn"
```

ここで、XXX は有効なメッセージ接頭部、nnnnn は有効なメッセージ番号を表します。

メッセージ・テキストが長すぎて画面に収まらない場合、以下のコマンドを使用します (UNIX ベースのシステム、または 'more' をサポートする他のシステム)。

```
db2 "? XXXnnnnn" | more
```

その他の DB2 メッセージ

DB2 コンポーネントの中には、オンラインで使用不可であるメッセージや本書で解説されていないメッセージを戻すものもあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

AUD DB2 監査機能によって生成されるメッセージ。

DIA 多くの DB2 コンポーネントによって生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、DB2 診断 (db2diag) ログ・ファイルに書き込まれ、エラーの調査時にユーザーや DB2 サービス担当者に追加情報を提供することを目的としています。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

第 2 部 ADM メッセージ

このセクションには、管理通知 (ADM) メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

第 1 章 ADM0000 - ADM0499

ADM0001C 重大なエラーが発生しました。管理通知ログを検証し、必要に応じて IBM サポートに連絡してください。

第 2 章 ADM0500 - ADM0999

ADM0500E DB2 サービスにはコマンドを完了するのに必要な権限がありません。ユーザー・アカウントが DB2 サービスに関連している場合、ユーザー・アカウントにローカル・システムでの正しいアクセス権があり、ユーザー認証およびグループ列挙のドメイン・セキュリティー・データベースにアクセスしていることを確認してください。

ADM0501C スタック・オーバーフロー例外が発生しました。DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、次のように `db2hdr` ユーティリティーを使って `db2syscs.exe` のデフォルトのスタック・サイズを増やしてみてください: `db2hdr %sqllib%\bin\%db2syscs.exe /s:<stackreserve>,<stackcommit>` デフォルトのスタック・サイズを増やすと、仮想メモリー・スペースが消費され、同時接続の最大数が減る可能性があります。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0502C DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、`AGENT_STACK_SZ` DBM 構成パラメーターを増やしてください。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0503C 予期しない内部処理エラーが発生しました。このインスタンスに関連するすべての DB2 プロセスが、シャットダウンされました。診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0504C 予期しない内部処理エラーが発生しました。このインスタンスに関連するすべての DB2 プロセスが、中断されました。診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

ADM0505E DB2 がオペレーティング・システムから SIGDANGER シグナルを受信しました。このシグナルは、システムでページング・スペースが不足していることを示しています。ページング・スペースが少なくなりすぎると、オペレーティング・システムは強制的にユーザー処理を終了します。システム管理者に連絡して、ページング・スペースを増やしてもらってください。

ADM0506I DB2 は自動的に、`parameter` カーネル・パラメーターを `originalValue` から推奨値 `recommendedValue` に更新しました。

ADM0507W DB2 は自動的に、`parameter` カーネル・パラメーターを推奨値 `recommendedValue` に更新できませんでした。手操作でこのカーネル・パラメーターを更新してください。

ADM0508E DB2 は、Java インタープリター・ライブラリー `libraryPath` をロードできませんでした。このエラーは、オペレーティング・システムの制限によって一般に発生します。ソリューションについて、IBM DB2 資料を参照してください。この問題が続く場合は、IBM サポートに連絡してください。

ADM0509E ルート非対応の DB2 インスタンスが検出されました。限定機能が使用可能になります。

ADM0510E ルート機能が使用できない場合、`AGENTPRI` 構成変数またはエージェント優先順位リソース構成を変更できません。

ADM0511E キャラクター型デバイス・コントローラーによるロー・デバイスへのアクセスはオペレーティング・システムによって推奨されなくなっており、将来削除される可能性があります。DB2 はブロック・デバイス・インターフェースを使用して同じデバイスにアクセスできますが、影響を受けるデバイスの表スペース・コンテナーまたはロー・ログ・コンテナー内の名前を変更するには、個々のデータベース上で **relocatedb** を実行する必要があります。詳しくは、**IBM DB2** 資料を参照してください。

ADM0512W データベース・マネージャー・インスタンスは、データベース・メモリー・セグメントを **pin** することを許可されていません。データベース・マネージャー・インスタンス所有者がメモリーを **pin** するための必要な許可を付与するようシステム管理者に連絡してください。データベース・マネージャーは、**pin** されていないデータベース・メモリーを使用して機能し続けます。

ADM0513W **db2start** が成功しました。ただし、入出力完了ポート (IOCP) は使用可能になっていません。

説明: このエラーは、DB2 データベースがインストールされているコンピューター上で「使用可能」の状況になっている入出力完了ポートがない場合に戻されます。入出力完了ポートは、入出力要求のためのオペレーティング・システム・チャンネルです。入出力完了ポートを使用すると、大規模なデータベースのパフォーマンスを向上させることができます。

ユーザーの処置: 入出力完了ポートを使用してパフォーマンスを向上させる場合を除き、このエラーに応答する必要はありません。入出力完了ポートを構成する場合は、DB2 インフォメーション・センターのトピック『AIX での IOCP の構成』にある指示に従ってください。

ADM0514W 稼働中であり適切に同期されたシステム **Network Time Protocol (NTP)** プロセスは検出されませんでした。

説明: エラー・ロギング、モニター、ポイント・イン・タイム・リカバリーなど、クロックに依存する操作が分散環境全体にわたって確実に最適に実行されるようにするため、**Network Time Protocol (NTP)** サービスを実行し、すべてのメンバーが同一のシステム・ピアに同期さ

れるようにすることを強く推奨します。

ユーザーの処置: NTP サービスを稼働し、すべてのメンバーが確実に同一ホストに同期されるようにします。

ADM0515W このメンバーのシステム・クロックは、許容しきい値を上回る差があり、メンバー *coordinator-member* と同期していません。差分は *timestamp-diff* 分です。

説明: メンバー間での時刻の不一致が **MAX_TIME_DIFF** データベース・マネージャー構成パラメーターの設定によって事前定義された許容しきい値未満になることを保証するため、各メンバーからのタイム・スタンプは定期的に比較されます。このホストのローカル・システム・クロックと、示されたりモート・メンバーのシステム・クロックの間の差分が、この限度を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: すべてのメンバーのシステム・クロック間の差分が **MAX_TIME_DIFF** に指定された限度以内になっているかどうか検査してください。

ADM0516W CPU バインディング情報: クラスタ・キャッシング・ファシリティ (CF) プロセスは *number* 個のコアにバインド済みです。

説明: クラスタ・キャッシング・ファシリティと DB2 メンバーが単一のホスト上に共存している場合、CF プロセスは使用可能なコア全体のサブセットに割り当てられます。論理プロセッサに関する具体的な情報については、**db2diag.log** ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ADM0517W CPU バインディング情報: DB2 メンバー・プロセスは *number* 個のコアにバインド済みです。

説明: DB2 メンバーとクラスタ・キャッシング・ファシリティ (CF) が単一のホスト上に共存している場合、メンバー・プロセスは使用可能なコア全体のサブセットに割り当てられます。論理プロセッサに関する具体的な情報については、**db2diag.log** ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

第 3 章 ADM1000 - ADM1499

ADM1010I 表 *tableName* で調整が開始されました。

ADM1011I 表 *tableName* の調整は、正常に完了しました。

ADM1012W 表 *tableName* の調整が失敗しました。この表はデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態になります。

ADM1013W 表 *tableName* の調整は、稼働中の Data Links Manager (DLM) では成功し、停止されていた DLM ではペンディング状態です。この表はデータ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態になります。

ADM1014E 表 *tableName* の調整が失敗しました。

ADM1022W データ・リンク列のメタデータ情報が DB2 Data Links Manager *serverName* ありません。

ADM1023W Data Links Manager *serverName* で調整処理がペンディングになっています。

ADM1024W Data Links Manager *serverName* で調整処理が完了しました。

第 4 章 ADM1500 - ADM1999

ADM1500W DB2 はログ・ファイル *filename* を見つけられません。

ADM1501W メンバー *member-number* 上のデータベース *database* で *log-archive-method* のアーカイブ中に、ログ・ファイル *log-file* でログ・ファイルの圧縮に失敗しました。

説明: ログ・ファイルをアーカイブする前に圧縮できませんでした。警告メッセージが *db2diag.log* ファイルに記録されます。ログ・ファイルは圧縮されずに、引き続きアーカイブされます。

ログ・ファイルのアーカイブに失敗するようであれば、ADM1848W メッセージも *db2diag.log* ファイルに記録されます。

ユーザーの処置: ありません。

ADM1510W ログ・ファイル *fileName* にアクセス中、ファイル共有違反が発生しました。別の処理でこのファイルが使用されている可能性があります。DB2 は後でこのファイルの削除を試行します。

ADM1511W ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。DB2 は後でこのファイルの削除を試行します。

ADM1512E ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。ユーザーは、手動でこのファイルを削除する必要があります。

ADM1513W ログ・ファイル *fileName* は削除されています。

ADM1514W ログ・ファイル *fileName* は、もはや存在しません。

ADM1524I メンバー・クラッシュ・リカバリーが開始されました。

説明: DB2 メンバーによって変更されたデータベースを、一貫性のある使用可能な状態に戻す処理が行われています。この DB2 メンバーがクラッシュしたときにメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロ

ールバックされ、DB2 メンバーがクラッシュしたときにメモリー内にあったすべてのコミット済みトランザクションは完了されます。メンバー・クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまでは、この DB2 メンバーではデータベースは使用不可です。ただし、他の DB2 メンバーはリカバリーが進行中でもデータベースへのアクセスを続行できます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1525I メンバー・クラッシュ・リカバリーが正常に完了しました。

説明: この DB2 メンバーによって変更されたデータベースは、一貫性のある状態に戻りました。クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロールバックされ、すべてのコミット済みトランザクションは完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1526E メンバー・クラッシュ・リカバリーが失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*

説明: メンバー・クラッシュ・リカバリーが失敗しました。メンバー・クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまで、障害が起こった DB2 メンバーではデータベースは使用不可です。DB2 メンバーの異常終了時点でこのメンバーが保持ロックを持っていた場合、他の DB2 メンバー上のトランザクションにも影響する可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージに示された SQLCODE については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM1527I グループ・クラッシュ・リカバリーが開始されました。

説明: データベースを一貫性のある使用可能な状態に戻す処理が行われています。クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロールバックされ、すべてのコミット済みトランザクションは完了されます。グループ・クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまで、データベースは使用不可です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1528I グループ・クラッシュ・リカバリーが正常に完了しました。

ADM1529E

説明: データベースが一貫性のある使用可能な状態に戻りました。クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロールバックされ、すべてのコミット済みトランザクションは完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1529E グループ・クラッシュ・リカバリーが失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*

説明: グループ・クラッシュ・リカバリーが失敗しました。グループ・クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまで、データベースは使用不可です。

ユーザーの処置: メッセージに示された SQLCODE については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM1530I クラッシュ・リカバリーが開始されました。

説明: データベースを一貫性のある使用可能な状態に戻す処理が行われています。クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロールバックされ、クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべてのコミット済みトランザクションは完了されます。クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまで、データベースは使用不可です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1531I クラッシュ・リカバリーが正常に完了しました。

説明: データベースが一貫性のある使用可能な状態に戻りました。クラッシュ発生時にメモリー内にあったすべての未完了トランザクションはロールバックされ、すべてのコミット済みトランザクションは完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM1532E クラッシュ・リカバリーが失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*。

説明: クラッシュ・リカバリーが失敗しました。クラッシュ・リカバリーが正常に完了するまで、データベースは使用不可です。

ユーザーの処置: メッセージに示された SQLCODE については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM1533W データベースがリカバリーされました。ただし、1 つ以上の表スペースがオフラインになっています。

ADM1534W 表スペース *tablespaceName* の末尾に使用したページがあるので、この表スペースのサイズを小さくできませんでした。

ADM1540W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター MAX_LOG (現行値 *MAX_LOG_value*) で許可されているより多くのログ・スペースを使用しました。COMMIT、ROLLBACK または FORCE APPLICATION を実行して、このアプリケーションを終了してください。

ADM1541W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター NUM_LOG_SPAN に違反している (現行値 *NUM_LOG_SPAN_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されました。作業単位はロールバックされます。

ADM1542W 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター MAX_LOG に違反している (現行値 *MAX_LOG_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されます。作業単位はロールバックされません。

ADM1550W アクティブ・ログ・スペースが LOGPRIMARY DB 構成パラメーターを超えています。ログ・ファイルをアーカイブから検索する必要がある場合、ROLLBACK に時間がかかる可能性があります。

ADM1551W DB2 は、アーカイブからアクティブ・ログ・ファイル *fileName* を検索しています。これにより、遅延が生じる可能性があります

ADM1552E DB2 は、アクティブ・ログ・ファイル *filename* をオープンできません。この原因として、ログ・ファイルをアーカイブから検索する際に発生した問題が考えられます。DB2 は、5 分おきに再試行します。

ADM1600W メモリー不足のため並列リカバリーを有効にはできませんが、リカバリーは進行中です。今後のリカバリーでは、*blockSize* で、DBHEAP または UTIL_HEAP_SZ 構成パラメーターを増やしてください。

ADM1601E データベース *database-name* でのリカバリーまたはロールフォワード操作を続行できません。理由は、ログ・ファイル *log-file-name* がデータベース・パーティション *dbpartitionnum* にも、ログ・ストリーム *log-stream-ID* にも欠落しているからです。

説明: リカバリーまたはロールフォワード操作では、指定されたログ・ストリームに対応するアーカイブ、データベース・ログ・ディレクトリー、およびオーバーフロー・ログ・ディレクトリーのどこにも指定されたログ・ファイルを検出することができませんでした。

操作がクラッシュ・リカバリーだった場合、データベースは不整合状態のままです。操作がロールフォワード操作だった場合、この操作は停止し、データベースはロールフォワード・ペンディング状態のままになっています。

ユーザーの処置: 以下のアクションのいずれかを実行して、欠落しているログ・ファイルをリカバリーします。

- 指定されたログ・ファイルをデータベース・ログ・ディレクトリーに移動し、操作を再開します。
- オーバーフロー・ログ・パスを指定できる場合は、オーバーフロー・ログ・パスにログ・ファイルを含むパスを指定して、操作を再開します。

欠落したログ・ファイルを見つけることができない場合、以下の特殊なケースのいずれかが適用されるかどうか判別します。

- 操作がログ・ SHIPPING によるスタンバイ・システムの保守のための ROLLFORWARD DATABASE コマンドである場合、このエラーが生じても正常である可能性があります。これは、1 次サイトで使用可能なフ

ァイルの一部がスタンバイ・システムではまだ使用可能になっていないことが原因です。スタンバイ・システムを確実に最新の状態にしておくには、各ロールフォワード操作後に QUERY STATUS オプションを指定して ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行することにより、ログの適用が適切に進行しているかをチェックします。スタンバイ・システム上のロールフォワード操作が長時間にわたって進行しない場合、欠落が報告されたログ・ファイルがスタンバイ・システム上で使用不可である理由を判別し、問題を修正します。ARCHIVE LOG コマンドを使用して、現在 1 次システム上でアクティブなログ・ファイルを切り捨て、これがアーカイブおよびスタンバイ・システム上で後に行うログの適用に適切になるようにすることができます。

- オンライン・バックアップ・イメージからのリストア操作に続けて ROLLFORWARD DATABASE コマンドに TO END OF LOGS オプションを指定して発行し、使用可能なログがこのバックアップ・イメージ内に含まれているものしかない場合は、以下の 2 つのシナリオが考えられます。
 - シナリオ 1: バックアップ・イメージ内に含まれるすべてのログ・ファイルがロールフォワード操作で検出されている。それにもかかわらず、ロールフォワード操作ではオリジナルのバックアップ操作の後に更新されたログ・ファイルをさらに検索している。この場合は、データベースを一貫性のある状態にするため、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (TO END OF LOGS オプションは指定せずに) 発行してください。将来このようなシナリオにならないようにするには、END OF LOGS オプションではなく END OF BACKUP オプションを使用します。これにより、ロールフォワード操作ではバックアップを取った後に更新されたログ・ファイルを検索しないようになります。
 - シナリオ 2: バックアップ・イメージに含まれている 1 つ以上のログ・ファイルがロールフォワード操作で検出されない。データベースを一貫性のある状態にするにはこれらのログ・ファイルが必要です。ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (TO END OF LOGS オプションは指定せずに) 発行することにより、データベースを一貫性のある状態にしようとしても、SQL1273N で失敗してしまいます。この場合は、このセクションで前述した方法で、欠落したログ・ファイルをリカバリーしてください。

欠落したログ・ファイルをリカバリーできない場合は次のようになります。

- このときの操作が ROLLFORWARD DATABASE コマンドの場合、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに STOP オプションを指定して (END OF LOGS オプションおよび END OF BACKUP オプションはどちらも指定せずに) 再発行することにより、データベースを一貫性のある状態にします。この一貫性ポイント (欠落したログ・ファイルの直前) が適切でない場合は、データベースをリストアして欠落したログ・ファイル以前の任意の時点にロールフォワードすることができます。これを行うには、ROLLFORWARD DATABASE コマンドに、より早期のタイム・スタンプを指定します。
- 操作が ROLLFORWARD DATABASE コマンドで、STOP または COMPLETE オプションを指定して (END OF LOGS オプションおよび END OF BACKUP オプションは指定しない) 実行した場合、データベースを一貫性のある状態にするには欠落しているログ・ファイルが必要です。欠落したログ・ファイルがリカバリーできないので、リストアしてより早期の (最小リカバリー時間より前でない) 特定の時点にロールフォワードしなければなりません。

ADM1602W ロールフォワード・リカバリーが開始されました。

ADM1603I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

ADM1604I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

ADM1605I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

ADM1606I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

ADM1607I DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

ADM1608I DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

ADM1609W DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

ADM1610W DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

ADM1611W ロールフォワード・リカバリー・フェーズが完了しました。

ADM1612W データベース・アクティビティーの量が多いため、オンライン表スペース・ロールフォワード・リカバリーを完了できませんでした。データベース・アクティビティーを減らすか、MAXAPPLS 構成パラメーターを増やすか、オフラインで表スペースのロールフォワードを実行してください。

ADM1613W 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、以前に *timestampRFWD* で、*timestampPIT* に、ロールフォワードされました。

ADM1614W 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、リストア・ペンディング状態になりました。残りの表スペースは、ログの終わりまでロールフォワードされました。

ADM1615W 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) はまだアクティブ・トランザクションによって使用されているため、DB2 はこの表スペースをロールフォワードできません。アプリケーション・ハンドルは *appHandle* です。COMMIT、ROLLBACK、または FORCE APPLICATION によりこのアプリケーションを終了してください。

ADM1616E DB2 はリカバリー中、ID *droppedTableID* を持つ、指定されたドロップ表に一致する、ドロップ表のログ・レコードを検出できませんでした。

ADM1617W 最後のロールフォワードに含まれていた表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) は、まだ完了していません。この表スペースは、このロールフォワードに指定された表スペース・リストに含まれていませんでした。この表スペースはリストア・ペンディング状態になりました。

ADM1618W データベースのロールフォワード中、DB2 は表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) をリカバリーできません。表スペースは、ロールフォワード・ペンディング状態に置かれています。リカバリーするには、データベースのロールフォワードが完了した後に、表スペースのロールフォワードを実行してください。

ADM1619W ロールフォワードは、ここで停止できません。ログ・ファイル *logFilename* の LSN *rollforwardLSN* へのロールフォワード。

ADM1620W 表スペース *tablespaceID* 内にあり、オブジェクト **ID** *objectID* を持つ表パーティションは、ドロップされた表のリカバリー中にスキップされました。このパーティションからのデータをリカバリーするには、表スペースをロールフォワード・リストに組み込んでください。

ADM1700W DB2 はバックアップ・イメージによって指定されたログ・パスを使用できません。デフォルト・パスに切り替えます。

ADM1701W LOGARCHMETH1 DB 構成パラメーターが LOGRETAIN に設定されているため、USEREXIT ログ保存ロギングは無効です。

ユーザーの処置:

ADM1710C DB2 データベース・マネージャーがデータベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *file-name* に書き込むことができないため、データベースにアクセスできません。これには、ファイルが存在しない、ネットワーク、ファイル・システム、または OS の問題が原因でデータベース・マネージャーがファイルにアクセスできない、あるいは、ファイル許可が正しくないためにデータベース・マネージャーがファイルに書き込むことができない、といった理由が考えられます。データベース・マネージャーがファイルにアクセス可能であり、ファイル・システムが正しく機能していることを確認してから、データベースを再始動するか、またはデータベースに再接続してください。

ADM1711W データベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *log-control-file-name* が欠落しているか、または壊れています。これは、これまでに発生したデータベース異常停止の結果である可能性があります。データベース・マネージャーはこのファイルを再作成しました。

ADM1712C データベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *file-name* が欠落しているか、または壊れています。DB2 データベース・マネージャーは、このファイルを再作成しようとしたが失敗しました。これには、ネットワーク、ファイル・システム、または OS の問題が原因でデータベース・マネージャーがファイルにアクセスできない、またはファイル許可が正しくないためにデータベース・マネージャーがファイルに対する読み書きを行えない、といった理由が考えられます。データベース・マネージャーがファイルにアクセス可能であり、ファイル・システムが正しく機能していることを確認してください。

ADM1713C	DB2 データベース・マネージャーが、1 次ログ制御ファイル <i>primary-log-file</i> と 2 次ログ制御ファイル <i>secondary-log-file</i> のいずれも開くことができないため、データベース・パーティション <i>database-partition-num</i> でデータベースを開始できません。	ADM1806E	NEWLOGPATH DB 構成パラメーター <i>newLogPath</i> を使用できないため、DB2 は現在のログ・パスの使用を継続します。
ADM1800E	DB2 は、ログ <i>logNumber</i> が古いログ・パスでアーカイブされたことを確認できませんでした。データベースを確実にリカバリできるように、データベースのバックアップを取ってください。	ADM1807E	NEWLOGPATH と MIRRORLOGPATH の新しい DB 構成パラメーター値が同じですが、これは許可されません。この 2 つのパラメーターには必ず異なる値を指定してください。
ADM1801W	DB2 は、ロー・デバイス上の 2GB を超えるファイル・ストレージにアクセスできませんでした。そのため、ロギングには 2GB のファイル・ストレージだけが使用されます。	ADM1810E	MIRRORLOGPATH DB 構成パラメーターの新しい値は無効であるか、または使用できません。DB2 はこの新しい値を無視します。新しいパスの値が有効であることを確認してください。
ADM1802W	ロー・デバイスを使ってロギングしている間に LOGFILSIZ DB 構成パラメーターが変更されたため、データベースはオフライン・バックアップ・ペンディング状態に置かれました。	ADM1811E	DB2 はデフォルトのログ・パス <i>logpath</i> に切り替えます。
ADM1803W	ロー・デバイス <i>path</i> にログ・ファイルのための十分なスペースが残っていません。実際のデバイス・サイズは <i>actualDevice</i> 4K ページです。デバイスの最小必須サイズは <i>minimumDevice</i> 4K ページです。	ADM1812E	MIRRORPATH DB 構成パラメーター <i>newMirrorPath</i> の新しい値は使用できません。DB2 は、既存のミラー・パス <i>defaultMirrorPath</i> の使用を継続します。
ADM1804W	ロー・デバイスが小さすぎるため、アクティブ・ログ・スペースをサポートできません。 <i>actualDeviceSize</i> 4K ページが使用できますが、 <i>minimumDeviceSize</i> 4K ページが必要です。もっと大きなデバイスを使用するか、または LOGPRIMARY と LOGFILSIZ DB 構成パラメーター、またはそのいずれかを減らしてください。	ADM1813E	現在のミラー・パス <i>currentMirrorPath</i> は無効です。
ADM1805E	ロー・デバイスがすでに他の場所でログまたは表スペース・コンテナとして使用されているため、DB2 は NEWLOGPATH DB 構成パラメーターを使用できません。	ADM1814E	現在のログ・パス <i>currentLogPath</i> は無効です。
		ADM1815E	DB2 が <i>logFilePath</i> からログ・ファイルを削除しようとしているときにエラーが発生しました。
		ADM1817E	DB2 は、データベース <i>DBName</i> の <i>dirPath</i> からログ・ファイル <i>logFilename</i> をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは <i>returnCode</i> です。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。
		ADM1818E	ユーザー出口プログラムからエラーを受け取りました。DB2 は、5 分間このデータベースに対してユーザー出口プログラムを呼び出しません。

ADM1819C 古いログをロー・デバイス上でアーカイブ中にエラーが発生したため、DB2 は新しいログ・ファイル・サイズに切り替えられませんでした。その結果、このデータベースにアクセスできません。

ADM1820W USEREXIT を有効にする場合、DB 構成パラメーター LOGRETAIN を CAPTURE に設定してさらに USEREXIT をオンにすることはできません。このため、USEREXIT は無効です。

ADM1821E ログ・パスはデフォルト値にリセットされました。

ADM1822W アクティブ・ログがダーティー・ページによって保留されています。これはエラーではありませんが、データベース・パフォーマンスに影響する可能性があります。可能であれば、データベースの作業ロードを減らしてください。この問題が続く場合は、SOFTMAX を減らして NUM_IOCLEANERS DB 構成パラメーターを増やすか、そのいずれかを実行してください。

ADM1823E アクティブ・ログがフルになっており、アプリケーション・ハンドル *handle* によって保留されています。COMMIT、ROLLBACK または FORCE APPLICATION を実行して、このアプリケーションを終了してください。

ADM1824W DB2 は、ログ・ファイル *filename* を削除できません。ユーザーは、手動でこのログ・ファイルを削除する必要があります。

ADM1825W ユーザー出口の問題のため、DB2 は次のログ・ファイルを作成できません。

ADM1826E ログイング用に使用しているディスクがフルのため、DB2 は継続できません。

ADM1827E ログイング用のスペースがロー・デバイスに残っていません。ユーザーは、データベースのオフライン・バックアップを作成する必要があります。

ADM1828C DB2 は、5 分後にこのログ・ファイルの作成を試行します。

ADM1829E アクティブ・ログがフルになっており、未確定トランザクションによって保留されています。

説明: このメッセージは、データベース・マネージャーが現行のアクティブ・ログ・ファイルを解放して別のログ・ファイルを使用しなければならないのに、未確定トランザクションが現行のアクティブ・ログ・ファイルに対するロックを保持しているために解放できない場合に返されます。

ユーザーの処置: LIST INDOUBT TRANSACTIONS WITH PROMPTING コマンドを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

ADM1830E アクティブ・ログ・パスはデフォルト値に設定されています。

ADM1831E DB2 は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* を取得しているときに、ユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。

ADM1832E DB2 は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。

ADM1833E データベース *DBName* の *dirPath* から *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。エラー・コードは *returnCode* です。

ADM1834E DB2 は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* を検索しているときに、ユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。

ADM1835E ログ・ファイル *logFilename* をデータベース *DBName* の *dirPath* へ取得しているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。ユーザー出口プログラムからデータベース・マネージャーに返されたエラー・コード: *returnCode*。

説明: DB2 データベース・マネージャーから呼び出してアーカイブ操作または取得操作を行うユーザー出口プログラムを作成することにより、ログ・ファイルのアーカイブと取得を自動化できます。

DB2 データベース・マネージャーがユーザー出口プログラムを呼び出すと、次のことが生じます。

- データベース・マネージャーからユーザー出口プログラムに制御が渡される
- データベース・マネージャーからユーザー出口プログラムにパラメーターが渡される
- 完了すると、ユーザー出口プログラムからデータベース・マネージャーに戻りコードが渡される

DB2 データベース・マネージャーが処理できるのは特定のエラー・コードのみです。一方、ユーザー出口プログラムは、例えばオペレーティング・システムのエラーなど、さまざまな種類のエラー状態に遭遇する可能性があります。ユーザー出口プログラムは、遭遇したエラー状態を、データベース・マネージャーが処理できるエラー・コードにマップしなければなりません。

このメッセージが返されるのは、ユーザー出口プログラムが失敗し、指定の戻りコードを DB2 データベース・マネージャーに返したときです。

ユーザーの処置:

1. 標準ユーザー出口エラー・コードをリストした資料を参照してください。
2. 使用しているユーザー出口プログラムのエラー処理情報を参照してください。

ADM1836W *tablespaceName* (ID *tablespaceName*) にある表 *tableID* (ID *tableID*) は、データ・リンク調整ペンディング (DRP) 状態です。

ADM1837W *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) 上の表 *tableName* (ID *tableID*) はデータ・リンク調整不可 (DRNP) 状態です。

ADM1838W アプリケーションは、未確定トランザクションによって掛けられたロックを待機中です。これにより、アプリケーションは無限に待機します。LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使って未確定トランザクションを調査し、解決してください。

ADM1839W DB2 がパス *logPath1* にあるログ・ファイル *logFile* にログ・データを書き込み中に、エラーが発生しました。このログ・ファイルは、まだログ・パス *logPath2* にあります。DB2 は、この後のログ・ファイルについて、両方のパスの使用を試行します。その間に、エラーが発生した、指定されたログ・パスをチェックして、それが存在しており、アクセス可能であることを確認してください。また、ファイル・システムに使用できるスペースがあることもチェックしてください。

ADM1840W ログ・パス *logPath* のエラーは解決されました。DB2 は、このパスにログ・ファイルを書き込みます。

ADM1841W DB2 は、ログ *logNumber* のアーカイブを試行中、このログを見つけられませんでした。リカバリー中にこの欠落しているログ・ファイルが必要な場合は、既存のリカバリー・ストラテジーが機能しない可能性があります。このデータベースのリカバリー可能性を確保するためには、データベースのバックアップが必要です。ただし、バックアップは、First Active Log file (LOGHEAD) DB 構成パラメーターが指定ログ以外になった後に取る必要があります。データベースを非アクティブ化して First Active Log file (LOGHEAD) を移行させ、バックアップを取ることを検討してください。

ユーザーの処置:

ADM1842W データベース構成は正常に更新されましたが、データベースをリカバリー可能にはできませんでした。

説明: 更新は成功しましたが、データベースはリカバリー可能ではありません。この理由として、以下が考えられます。

- 少なくとも 1 つの表スペースが「正常」以外の表スペース状態になっている
- この DB2 pureCluster インスタンスの少なくとも 1 つのメンバーが、メンバー・クラッシュ・リカバリー・ペンディング状態になっている

すべての表スペースが「正常」状態になるまで、データベースでは引き続き循環ロギングが使用されます。

DB2 pureCluster を使用する環境では、すべてのメンバーが一貫性のある状態になります。

ユーザーの処置: 1 つ以上の表スペースが「正常」状態ではないためにこのエラーが返されている場合、このエラーに対応するため以下のステップを実行してください。

1. どの表スペースが「正常」状態ではないかを判別するため、MON_GET_TABLESPACE 表関数を使用します。
2. 「正常」状態ではない各表スペースに対して、それぞれの状態に対応する問題を解決します。

メンバー・クラッシュ・リカバリーがペンディング状態であるためにこのエラーが発生している場合、不整合のある各メンバーに対してメンバー・クラッシュ・リカバリーを実行します。多くの場合メンバー・クラッシュ・リカバリーは自動的に開始されるので、ユーザー応答は必要ありません。メンバー・クラッシュ・リカバリーが自動的に開始されない場合は、RESTART DATABASE コマンドを発行します。

データベースは次に始動したときまたはアクティブになったときに、リカバリー可能になります。この時点で、完全データベース・バックアップを行う必要があります。

ADM1843I ログ・ファイル *logFilename* のリトリートを開始しました。

ADM1844I ログ・ファイル *logFilename* のアーカイブを開始しました。

ADM1845I *destPath* からの、チェーン *chain* 上のログ・ファイル *logFilename* のリトリートを完了しました。

ADM1846I ログ・ファイル *logFilename* の *dirPath* から *destPath* へのアーカイブを完了しました。

ADM1847W *destPath* への、チェーン *chain* 上のログ・ファイル *logFilename* のリトリートに失敗しました。

ADM1848W ログ・ファイル *logFilename* の *dirPath* から *destPath* へのアーカイブに失敗しました。

ADM1849C データベースで、ログ・レコード ID の型 *LSN/LSO/LFS-type* が *current-LSN/LSO/LFS-value* に達しました。最大値に近づいています。最大値に達すると、その後はもはやデータベースを使用できなくなります。

説明: データベース・マネージャーでは、それぞれ異なる減少しない ID である LSN、LFS、および LSO を使用して、データベース・ログ・レコードを識別します。

このデータベースでは、これらの ID のうちの少なくとも 1 つにおいて、使用可能な値のほぼすべてが使用済みになっています。

ユーザーの処置: データベースの LSN/LSO/LFS 固有値が尽きる前に、以下のステップを実行してください。

1. データベースからすべてのデータをアンロードする。
2. データベースをドロップして再作成する。
3. データを再ロードします。

以上の手順が完了した後、LSN/LSO/LFS 値は 0 から再開されます。

このエラーに対処するためにさらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ADM1850C データベースでログ・レコード ID を使い尽くしました。ログ・レコード ID の型 *LSN/LSO/LFS-type* が *current-LSN/LSO/LFS-value* に達しました。データベースはログ・レコードの追加書き込みを必要とするトランザクションを処理できません。

説明: データベース・マネージャーでは、それぞれ異なる減少しない ID である LSN、LFS、および LSO を使用して、データベース・ログ・レコードを識別します。

このデータベースでは、*LSN/LSO/LFS-type* ID で使用可能な値のほぼすべてが使用済みになっています。これ以上ログ・レコードの書き込みができません。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. データベースからすべてのデータをアンロードする。
2. データベースをドロップして再作成する。
3. データを再ロードする。

以上の手順が完了した後、LSN/LSO/LFS 値は 0 から再開されます。

このエラーに対処するためにさらに支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

第 5 章 ADM2000 - ADM2499

ADM2000E イベント・モニター *eventMonitor* は入出力エラーを検出したため、非アクティブ化されました。

ADM2001W **MAXFILES** と **MAXFILESIZE CREATE EVENT MONITOR** パラメーターの限度に達したため、イベント・モニター *eventMonitor* は非アクティブ化されました。

ADM2002E ターゲット・パイプからの読み取り処理が切断されたときに、イベント・モニター *eventMonitor* は非アクティブ化されました。

ADM2003W アクティブ・イベント・モニターの数の限度にすでに達しているため、イベント・モニター *eventMonitor* はアクティブ化されませんでした。

ADM2004E データベース・モニター・ヒープに十分なストレージ・スペースがなかったため、イベント・モニター *eventMonitor* はアクティブ化されませんでした。この問題を解決するには、**MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターの値を大きくしてください。

ADM2005W データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。 **MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターの値を大きくしてください。

ADM2006W データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。ステートメント・エレメントを信頼できない可能性があります。 **MON_HEAP_SZ DBM** 構成パラメーターの値を大きくしてください。

ADM2007W **PCTDEACTIVE** 限度に達したため、イベント・モニター *eventMonitor* は非アクティブ化されました。このイベント・モニターを再度アクティブ化するには、表スペースのサイズを増やすか、または **PCTDEACTIVE** しきい値を増やしてください。

ADM2009C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列名 *colName* が無効であることを検出しました。

ADM2010C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が許可されないことを検出しました。

ADM2011C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が無効な *dataType* データ・タイプを持っていることを検出しました。

ADM2012C 表 *tableName* (**ID tableID**) で、行サイズがページ・サイズよりも大きくなっています。

ADM2013C イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* が誤りであることを検出しました。1 列目は、**PARTITION_KEY** でなければなりません。

ADM2014W イベント・モニター *eventMonitor* が、表 *tableName* (**ID tableID**) で、列 *colName* のサイズがデフォルト・サイズの *defaultColumnSize* よりも小さいことを検出しました。そのため、内容はユーザーの指定したサイズで切り捨てられます。

ADM2015W リモート・ターゲット・ノードから受け取った **SQLCODE** は、*SQLCODE* です。

ADM2016W 表 *tableName* (**ID tableID**) が見つかりません。

ADM2017C イベント・モニター *monitor-name* がファイルの容量に達しました。ターゲット・ディレクトリー *directory* のファイルを削除するか、またはそれらを別のディレクトリーに移動してください。

ADM2018W イベント・モニター *monitor-name* が非アクティブ化されています。イベント・モニター・データ収集を実行できません。

説明: 処理中に発生した何らかのエラーにより、イベント・モニターが非アクティブ化されています。発生したエラーについては、管理通知および `db2diag` ログ・ファイルに詳しい調査のための情報が記述されています。

ユーザーの処置: 管理通知または `db2diag` ログ・ファイルを参照し、イベント・モニターが非アクティブ化された理由を示す詳しい調査のための情報を調べて、エラーを訂正します。その後、以下のステートメントを発行してイベント・モニターを再アクティブ化します。

```
SET EVENT MONITOR monitor-name STATE 1
```


第 6 章 ADM2500 - ADM2999

ADM2500E データベース・サーバー
DRDAApplicationServer で重大なエラーが発生し、これにより処理の継続ができなくなりました。ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390、zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。リモート・サーバーが **DB2 UDB for System i** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

ADM2501C データベース・サーバーでデータ・タイプについて受信したデータの量が、予期されていた量と一致しませんでした。ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390、zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。リモート・サーバーが **DB2 UDB for System i** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

ADM2502C リモート・データベース・サーバーがエラーを検出しました。

説明: クライアントが、リモート・サーバー上での問題を検出しました。

ユーザーの処置: リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390、zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。

リモート・サーバーが **DB2 UDB for System i** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。

リモート・サーバーが **DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

リモート・サーバーが **IBM Informix Dynamic Server** の場合は、このエラーに関して、**online.log** を確認するか、**onstat (-m)** を使用してください。

ADM2503C データ・ストリーム構文解析エラーが検出されました。ダンプが生成されています。

ADM2504C **LOB** データ・タイプは、このデータベース・サーバーではサポートされていません。APAR 修正が必要です。このデータベース・サーバーが **DB2 for OS/390 v6** および **v7** の場合は、APAR の修正 **PQ50016** と **PQ50017** を適用してください。データベース・サーバーが **DB2 for System i** の場合は、**V5.1** よりも前のリリースはサポートされていません。**DB2 for iSeries v5.1** の場合、APAR **9A00531** の **PTF** を適用する必要があります。データベース・サーバーが **DB2 for VM** および **VSE** の場合は、**IBM** お客様サポートまでご連絡ください。

ADM2505E **DB2** がシスプレックス・サポートの使用を試行中、SNA アドレス **SNAAddress** にあるデータベース・サーバーへの接続を確立できませんでした。これは、不明の **cpic** シンボリック宛先名 **destName** が原因です。SNA 構成をチェックして、ネットワーク・サポート担当者に確認するか、または **DB2 Connect** サーバーでシスプレックスのサポートを無効にしてください。

ユーザーの処置:

ADM2506W アプリケーションが据え置き SET ステートメントの発行を試行中、サーバーが非ゼロ `sqlcode` を戻しました。 `sqlcode` は `SQLCODE` です。ご使用のアプリケーションをチェックし、据え置き SET ステートメントを確認してください。

ADM2507I 製品シグニチャーの違反のために、クライアント・リポートは失敗しました。 オリジナル製品のシグニチャー: `product signature`。以下の製品シグニチャーでやり直してください。 `product signature`。

ADM2508I クライアント・リポートは正常に完了しました。 ホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 `hostname/IP address`。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 `service name/port number`。

ADM2509I データベース接続は正常に完了しました。接続先のホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 `hostname/IP address`。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 `service name/port number`。

第 7 章 ADM3000 - ADM3499

ADM3000C `db2nodes.cfg` ファイルの `lineNumber` 行目にあるネットワーク・ホスト項目 `networkHostEntry` を解決できません。

ADM3001C `DB2` は、中間ソケット・ディレクトリー `socketDirectory` を作成できません。このパスの許可をチェックしてください。

ADM3003C ノード `node` は `FCM` 始動時には存在していましたが、現在は `db2nodes.cfg` に存在しません。これは、通信障害を示している可能性があります。

ADM3006C ノード `node` への接続の確立を試行中に、再試行限度に達しました。`DB2` は、ノード・リカバリーを開始します。

ADM3008C ノード `node` との接続が、予期せずに切断されました。`DB2` は、ノード・リカバリーを開始します。

ADM3019C ノード `node1` とノード `node2` との間のリンクが壊れています。ご使用のスイッチとケーブルをチェックしてください。

ADM3020C `FCM` バッファの数値が小さすぎます。これは、`DB2` エージェント間の通信に影響を与え、ランタイム・エラーを引き起こします。このメッセージが何度も表示される場合は、`FCM_NUM_BUFFERS` `DBM` 構成パラメーターを調整してください。

ADM3021W このノードで `VI` が有効になっていません。

第 8 章 ADM3500 - ADM3999

ADM3500W データベース・パーティション上のグループ ID が一致しません。パーティション・データベースでは、各パーティションに同じユーザーとグループのセットが定義されていない必要があります。定義が同じでないと、あるユーザーが実行を許可されるアクションが、パーティションによって異なる場合があります。すべてのパーティションを通して一貫性のあるユーザーとグループの定義をお勧めします。

第 9 章 ADM4000 - ADM4499

ADM4000W カタログ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。エラーではありませんが、これはカタログ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。この状態が続く場合は、**CATALOGCACHE_SZ DB** 構成パラメーターを調整してください。

ADM4001I ビュー *viewName* の再生成中に障害が発生しました。

ADM4002W イベント・モニターのターゲット表 *targetTableName* (表スキーマ *tableSchema*) はすでに存在します。

ADM4003E ストアド・プロシージャ *stored-procedure-name* でのエラーが原因で、**UPGRADE DATABASE** コマンドによる **DB2 Text Search** カタログまたは索引のアップグレードに失敗しました。

説明: データベースで **DB2 Text Search** が有効であり、正常にアップグレードされています。ただし、テキスト検索のカタログまたは索引のアップグレード中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャを呼び出して、**DB2 Text Search** カタログまたは索引をアップグレードしてください。

- **SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_INDEX** を正常に完了できなかった場合は、このストアド・プロシージャを再実行します。
- **SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_CATALOG** を正常に完了できなかった場合は、以下のアップグレード用プロシージャをここに示した順序で再度呼び出します。
 1. **SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_CATALOG**
 2. **SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_INDEX**

ADM4004W **db2ckupgrade** ユーティリティは、アップグレード先として検討中の **DB2** データベースのバージョンではサポートされない次のタイプのオブジェクトがデータベースに含まれていることを検出しました:
XML グローバル変数、または **XML** パラメーターを使用したり **XML** タイプを返したりするコンパイル済みの **SQL** 関数。

説明: **db2ckupgrade** ユーティリティを使用して、指定のデータベースがさらに新しいバージョンの **DB2** データベースに正常にアップグレード可能かどうかを検査できます。

アップグレード先の **DB2** データベースのバージョンではサポートされないデータベース・オブジェクトを **db2ckupgrade** ユーティリティが検出した場合に、このメッセージは返されます。具体的には、検査対象のデータベース内に以下のデータベース・オブジェクトが存在する場合に、このメッセージが返されます。

- タイプ **XML** のグローバル変数
- タイプ **XML** のパラメーターを使用したり **XML** タイプを返したりするコンパイル済みの **SQL** 関数

ターゲット・バージョンの **DB2** データベースへのデータベースのアップグレードを続行すると、これらのオブジェクトはデータベースのアップグレード中に無効化されます。これらのデータベース・オブジェクトをサポートする **DB2** データベースのバージョンにアップグレードするまで、これらのデータベース・オブジェクトは使用できません。

ユーザーの処置: アップグレード中に無効化されたデータベース・オブジェクトを使用できるようにするには、**XML** グローバル変数、および **XML** パラメーターを使用したり **XML** タイプを返したりするコンパイル済みの **SQL** 関数をサポートする **DB2** データベースのリリースおよびフィックスバックにアップグレードしてください。これらのデータベース・オブジェクトをサポートするフィックスバックにアップグレードすると、データベースのアップグレードの完了後に初めてオブジェクトが参照された時点で、それらが自動的に再び有効化されません。

ADM4005W アップグレード・プロシージャは次のタイプのデータベース・オブジェクトに「無効」のマークを付けました。アップグレードしたバージョンの DB2 データベースではこれらのオブジェクトはサポートされないためです: XML グローバル変数、または XML パラメーターを使用したり XML タイプを返したりするコンパイル済みの SQL 関数。

説明: UPGRADE DATABASE コマンドを使用して、より新しいバージョンの DB2 データベースにデータベースをアップグレードできます。

以下のデータベース・オブジェクトを含むデータベースが、それらのタイプのデータベース・オブジェクトをサポートしない DB2 データベースのバージョンにアップグレードされた場合に、このメッセージは返されます。

- タイプ XML のグローバル変数
- タイプ XML のパラメーターを使用したり XML タイプを返したりするコンパイル済みの SQL 関数

アップグレード操作によって、これらのタイプの全データベース・オブジェクトに「無効」のマークが付けられました。これらのデータベース・オブジェクトをサポートする DB2 データベースのバージョンにアップグレードするまで、これらのデータベース・オブジェクトは使用できません。

ユーザーの処置: アップグレード中に無効化されたデータベース・オブジェクトを使用できるようにするには、XML グローバル変数、および XML パラメーターを使用したり XML タイプを返したりするコンパイル済みの SQL 関数をサポートする DB2 データベースのリリースおよびフィックスパックにアップグレードしてください。これらのデータベース・オブジェクトをサポートするフィックスパックにアップグレードすると、データベースのアップグレードの完了後に初めてオブジェクトが参照された時点で、それらが自動的に再び有効化されます。

ADM4014N ソース表上に索引がないか、ソース表 *source-table-name* 上の索引がターゲット表 *target-table-name* 上のパーティション索引 *index-name* と一致しないため、ALTER TABLE ATTACH 操作が失敗しました。
理由: *reason-code*。

説明: 詳細は、該当する理由コードを参照してください。

1

ソース表上の索引がターゲット表上のユニーク・パーティション索引と一致しません。

2

ソース表上の索引が、ターゲット表上で REJECT INVALID VALUES を使用して作成されたパーティション XML パターン値索引と一致しません。

3

ソース表上の索引がターゲット表上のパーティション索引と一致しておらず、ALTER TABLE ATTACH ステートメントが REQUIRE MATCHING INDEXES 節を使用して定義されています。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じた対応を行った後、ALTER TABLE ATTACH 操作を再実行します。

1

ソース表上に、ターゲット表上の固有のパーティション索引と一致するユニーク索引を作成します。

2

ソース表上に、ターゲット表上の索引と一致する XML パターン値索引を作成します (REJECT INVALID VALUES 節を使用)。

3

ソース表上にターゲット表上のパーティション索引と一致する索引を作成するか、ALTER TABLE ATTACH ステートメントから REQUIRE MATCHING INDEXES 節を除去します。

ADM4015I ソース表 *source-table* に、ターゲット表 *target-table* のパーティション索引 *index-name* と一致する索引がありません。ALTER TABLE ATTACH 処理は続行されます。

説明: ATTACH 操作が正常に完了した後、索引パーティションは、新しく接続された表パーティションに初めてアクセスする際に作成されます。通常、最初のアクセスは SET INTEGRITY ステートメントから行われます。

ロールインの効果を最大限に引き出すためには、ソース表をターゲット表に接続する前に、ターゲット表のパーティション索引と一致する索引をソース表に作成してください。詳細は、DB2 インフォメーション・センタ

一内のデータ・パーティションの接続に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM4016I ソース表 *source-table* 上の索引 *indexName* が、ターゲット表 *target-table* 上のどのパーティション索引とも一致しません。
ALTER TABLE ATTACH 処理は続行されます。

説明: ATTACH 操作が正常に完了すると、この索引はソース表からドロップされます。

ロールインの効果を最大限に引き出すためには、ソース表をターゲット表に接続する前に、ターゲット表上の索引と一致しないソース表上の索引をドロップしてください。詳細は、DB2 インフォメーション・センター内のデータ・パーティションの接続に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM4100W **db2ckupgrade** または **UPGRADE DATABASE** コマンドにより、マルチスレッド・データベース・マネージャーと不適合のおそれがある外部ルーチンまたはユーザー定義ラッパーが特定されました。
generated-file ファイルを参照してください。このファイルには、特定されたルーチンおよびラッパーのリスト、または **UPGRADE DATABASE** コマンドで変更されたルーチン定義またはラッパー定義をリストアするためのステートメントのセットが含まれています。

説明: Linux および UNIX オペレーティング・システムにおいて、データベース・マネージャーは、マルチプロセスにて処理を行っていましたが、DB2 バージョン 9.5 以降、マルチスレッド対応になっています。NOT FENCED および NOT THREADSAFE 外部ルーチンまたはユーザー定義ラッパー (マルチスレッド・データベース・マネージャーでは NOT FENCED) を実行すると、正しくない結果が出たり、データベース破壊、またはデータベース・マネージャーの異常終了が発生したりするおそれがあります。その結果、すべての NOT FENCED ルーチンとすべての NOT FENCED ユーザー定義のラッパーは THREADSAFE でなければなりません。

データベースのアップグレードの際、DB2 エンジン・ライブラリーとの従属関係を持たない外部 NOT FENCED ルーチンはすべて、FENCED および NOT THREADSAFE に変更されます。また、すべてのユーザー定義ラッパーについて DB2_FENCED オプションが

Y に設定されます。UPGRADE DATABASE コマンドによって、*generated-file* スクリプトが生成されます。このスクリプトには、ルーチン定義またはラッパー定義をリストアするためのステートメントが含まれています。

db2ckupgrade の実行中に、DB2 エンジン・ライブラリーとの従属関係を持たない外部 NOT FENCED ルーチンが識別されます。これらのルーチンは、データベースのアップグレード中に FENCED および NOT THREADSAFE に変更されます。特定された外部 NOT FENCED ルーチンおよびユーザー定義ラッパー (DB2_FENCED オプションが N に設定されている) のすべてからなるリストを含む、*generated-file* ファイルが生成されます。

ユーザーの処置: データベースをアップグレードするには、影響を受けるすべてのルーチンおよびユーザー定義ラッパーが、NOT FENCED および THREADSAFE として安全に実行できることを確認してください。確認後、それらを NOT FENCED および THREADSAFE に戻すことができます。これを行うには、*generated-file* ファイルを実行して、それらのルーチンおよびユーザー定義ラッパーすべてを NOT FENCED に変更します。このファイルを、実行すべきステートメントだけを含めるように変更し、データベースがアップグレードされた後で CLP スクリプトを実行してください。

db2ckupgrade の実行後、データベースをアップグレードする前に、生成ファイル *generated-file* 内のリストで特定されたルーチンを FENCED および NOT THREADSAFE に変更し、ユーザー定義ラッパーの DB2_FENCED オプションを Y に設定します。

ADM4101W **UPGRADE DATABASE** コマンドで *table-name* システム・カタログ表の統計を自動的に収集するのに失敗しました。次の **RUNSTATS** コマンドによって、**SQLCODE** *sqlcode* がトークン *tokens* と共に返されました。 *command*。

説明: データベースのアップグレードを正常に完了した後、UPGRADE DATABASE コマンドで *table-name* システム・カタログ表の統計を収集することができませんでした。RUNSTATS コマンドによって、SQLCODE *sqlcode* がトークン *tokens* と共に返されました。

ユーザーの処置:

1. 返された SQLCODE *sqlcode* に基づいて、適切なユーザー応答を決定します。
2. 問題を修正し、RUNSTATS コマンドを *table-name* システム・カタログ表で再発行して統計を収集します。

ADM4102W データベースに NULL という ID が 1 つ以上含まれています。NULL キーワードとの競合を回避するため、SQL ステートメント中の NULL という ID すべてを、二重引用符で修飾すなわち区切る必要があります。

説明: 型なし NULL 指定は、式中の任意の箇所で行われます。SQL ステートメント内で NULL という ID を完全に修飾すなわち引用符で区切られていない形で使用すると、この ID 指定により、ID 参照ではなく NULL キーワードに解決されるおそれがあります。結果として、以前のリリースの場合とは異なる動作になることが考えられます。

ユーザーの処置: 以下のステートメントを発行して、データベース内に NULL という ID が含まれていないかを確認します。

- SELECT TABSCHEMA, TABNAME, COLNAME
FROM SYSCAT.COLUMNS WHERE COLNAME = 'NULL'
- SELECT ROUTINESCHEMA, ROUTINENAME,
PARMNAME FROM SYSCAT.ROUTINEPARMS
WHERE PARMNAME = 'NULL'
- バージョン 9.5 以降のデータベースの場合、SELECT
VARSCHEMA, VARNAME FROM
SYSCAT.VARIABLES WHERE VARNAME = 'NULL'

NULL キーワードとの競合を回避するため、SQL ステートメント中の NULL という ID を、二重引用符で修飾すなわち区切る必要があります。

ADM4103W 接続属性 *attributename* において、アスタリスク (*) がワークロード *workloadname* に含まれています。データベースのアップグレード中に、単一のアスタリスク (*) は、2 つのアスタリスク (**) に置き換えられます。理由コード = *reason-code*。

説明: DB2 バージョン 9.7 以降、単一のアスタリスク (*) ワイルドカード文字として使用し、2 つのアスタリスク (**) をワークロード属性のいくつかで 1 つのリテラル・アスタリスクを表すために使用することができます。

db2ckupgrade コマンドにより、接続属性内のアスタリスク (*) が特定されます。また、UPGRADE DATABASE コマンドにより、接続属性のタイプが以下のいずれかの値である場合に、単一のアスタリスク (*) が 2 つのアスタリスク (**) に置き換えられます。 1 (APPLNAME) 6 (CURRENT CLIENT_USERID) 7 (CURRENT CLIENT_APPLNAME) 8 (CURRENT

CLIENT_WRKSTNNAME) 9 (CURRENT CLIENT_ACCTNG)

理由コードは以下のとおりです。

1

データベースのアップグレード中に単一のアスタリスク (*) が 2 つのアスタリスク (**) に置き換えられた際、接続属性の最大長に達したために接続属性は切り捨てられました。

2

データベースのアップグレード中に単一のアスタリスク (*) が 2 つのアスタリスク (**) に置き換えられた際、接続属性は切り捨てられませんでした。

ユーザーの処置: 可能であれば、接続属性内のアスタリスク (*) を別の文字に置き換えてください。

ADM4104E 1 つ以上のデータベースで XML Extender が使用可能になっています。アップグレード前に、XML Extender 機能をインスタンスおよびデータベースから除去しなければなりません。

説明: DB2 バージョン 9.7 以降、XML Extender は使用されません。このエラーの理由として、以下が考えられます。

- アップグレードするために指定したインスタンスにおいて XML Extender 機能が有効です。1 つ以上のデータベースで XML Extender が有効であるために db2ckupgrade の暗黙的な呼び出しに失敗しました。
- アップグレードのために検査しているデータベースで、XML Extender が使用可能になっています。

ユーザーの処置: XML Extender 機能をインスタンスから除去し、データベースで XML Extender を無効にします。次いで、db2iupgrade または db2ckupgrade コマンドを再発行します。

データベース内で XML Extender を無効にする方法を含め、XML Extender をアップグレードするための手順について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM4105W データベースで DB2 WebSphere MQ 関数が有効です。XML Extender 用に定義された関数のセットは、データベースのアップグレード中にドロップされます。

説明: DB2 バージョン 9.7 以降、XML Extender は使用されません。XML Extender 用に定義された DB2 WebSphere MQ 関数のセットは、データベースのアップグレード中にドロップされます。これらの関数では、

XML Extender のユーザー定義データ・タイプを使用して、パラメーターを宣言します。

ユーザーの処置: データベースをアップグレードした後、DB2 WebSphere MQ で XML データ・タイプのパラメーターを使用する必要がある場合は、-force パラメーターと -xml パラメーターを指定して enable_MQFunctions コマンドを実行し、XML データ・タイプ用の新しい MQ 関数の作成および既存の MQ 関数の再作成を行います。enable_MQFunctions コマンドの実行方法について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM4106W アップグレードされたデータベースで XML Extender が有効になっています。データベース・アップグレードの際、XML Extender の機能が無効化されましたが、この機能は実行に失敗します。

説明: DB2 バージョン 9.7 以降、XML Extender は使用されなくなりました。以前のリリースで作成されたバックアップ・イメージから復元されたデータベースでは、XML Extender が有効になっています。

データベースは正常にアップグレードされましたが、ルーチンなどの XML Extender 機能は実行に失敗します。

ユーザーの処置: XML Extender がサポートされている DB2 データベース製品バージョンを実行する DB2 コピーにデータベースをリストアし、XML Extender からのアップグレードを行う手順を実行します。

XML Extender からのアップグレードを行う手順について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM4200N 行 ID *rowid* の行のデータが原因で、列のデータ・タイプを変更できませんでした。

説明: ALTER COLUMN 節および SET DATA TYPE 節を指定して ALTER TABLE ステートメントを使用することにより、表列のデータ・タイプを変更できます。

表内のいずれかの行のデータと列の変更後のデータ・タイプの間での非互換性のために、列のデータ・タイプを変更しようとして失敗した場合に、このメッセージが戻されます。

ユーザーの処置:

1. その行のデータが原因で列のデータ・タイプの変更を行えなかった理由について詳しくは、db2diag ログを調べてください。
2. 以下のいずれかを行って、この非互換性を解決してください。

- 列のデータ・タイプを変更できるように、行のデータを変更します。
- 列のデータ・タイプを、既存のデータと互換性のあるものに変更します。

ADM4201N 表 *table-name* 内の列 *column-name* のデフォルト値が原因で、列のデータ・タイプを変更できませんでした。

説明: ALTER COLUMN 節および SET DATA TYPE 節を指定して ALTER TABLE ステートメントを使用することにより、表列のデータ・タイプを変更できます。

変更する列のデフォルト値との非互換性のために、列のデータ・タイプを変更しようとして失敗した場合に、このメッセージが戻されます。

ユーザーの処置:

1. その列のデフォルト値が原因で列のデータ・タイプの変更を行えなかった理由について詳しくは、db2diag ログを調べてください。
2. 以下のいずれかを行って、この非互換性を解決してください。
 - 列のデータ・タイプを変更できるように、列のデフォルト値を変更またはドロップします。
 - 列のデータ・タイプを、既存のデータと互換性のあるものに変更します。

第 10 章 ADM4500 - ADM4999

ADM4500W パッケージ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。エラーではありませんが、これはパッケージ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。この状態が続く場合は、追加のモニターを実行して、**PCKCACHESZ DB** 構成パラメーターを変更する必要があるかどうかを判別してください。また、それを **AUTOMATIC** に設定する必要があります。

第 11 章 ADM5500 - ADM5999

ADM5500W DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。影響を受けたアプリケーションの名前は *appl_name* です。メンバー *member_num* でワークロード名 *workload_name* およびアプリケーション ID *appl_id* に関連付けられています。現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。

説明: トークン *locksHeld* は、データベース内のアプリケーションすべてによって現在保持されているロックの合計数を示します。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5501I DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。影響を受けたアプリケーションの名前は *appl_name* です。メンバー *member_num* でワークロード名 *workload_name* およびアプリケーション ID *appl_id* に関連付けられています。現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。現在実行されているステートメントは *currentStatement* です。

ADM5502W ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは成功しました。

説明: トークン *numLocks* は、この表にアクセスしているすべてのアプリケーションによって現在保持されているロックの合計数を示します。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ADM5503E ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは失敗しました。
SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM5504W ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* の **DATAPARTITIONID** *datapartitionid* 上での *numLocks* 個のロックのエスカレーションは成功しました。

ADM5505E ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* の **DATAPARTITIONID** *datapartitionid* 上での *numLocks* 個のロックのエスカレーションは失敗しました。
SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM5506I 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になりました。イベントのタイプは *event-type* です。このイベントが発生したロックの ID は *lock-ID* です。タイム・スタンプのタイプは *timestamp* です。イベントが発生したメンバーの ID およびイベントの ID は *member-ID-event-ID* です。影響を受けたアプリケーションの名前は *application-name* です。このアプリケーションは *workload-name* という名前のワークロードに関連付けられています。アプリケーション ID は *application-ID* です。アプリケーションを実行しているメンバーの ID は *app-member-id* です。このロックに関してこのアプリケーションが果たす役割は *role* です。

説明: 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になりました。

ロック・エスカレーションは行ロックを表ロックに置き換える処理であり、リスト内のロック数が削減されません。

ユーザーの処置: このイベントをさらに検査するには、CREATE EVENT MONITOR FOR LOCKING ステートメントを使用してイベント・モニターを作成します。これは、問題の原因を特定するのに役立ちます。

デッドロックまたはロック・タイムアウトを防ぐには、可能であれば、長く実行されるアプリケーションまたは、デッドロックを引き起こしやすいアプリケーションに対して、頻繁に COMMIT 操作を発行してください。

デッドロックはだいたい標準であるか、または決まった SQL の組み合わせを処理中に予期されます。可能な限りデッドロックを避けるために、アプリケーションを設計することをお勧めします。

CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES しきい値などのキューイングしきい値のためにデッドロック状態になった場合は、キューイングしきい値の値を増やしてください。

デッドロックまたはロック・タイムアウトの回避について詳しくは、「デッドロックの回避」、「デッドロック」、「ロック・タイムアウト」などの語句で DB2 インフォメーション・センターを検索してください。

ロック・エスカレーションを防ぐには、**locklist** および **maxlocks** 構成パラメーターを調整してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM5507I 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になりました。イベントのタイプは *event-type* です。このイベントが発生したロックの ID は *lock-ID* です。タイム・スタンプのタイプは *event-timestamp* です。イベントが発生したメンバーの ID は *event-source-member-id* です。イベントの ID は *event-ID* です。アプリケーションがロックを保持しているメンバーの ID は *app-member-id* です。

説明: 現在の作業単位が、オブジェクトの使用について、未解決競合状態になりました。

ロック・エスカレーションは行ロックを表ロックに置き換える処理であり、リスト内のロック数が削減されません。

ユーザーの処置: このイベントをさらに検査するには、CREATE EVENT MONITOR FOR LOCKING ステートメントを使用してイベント・モニターを作成します。これは、問題の原因を特定するのに役立ちます。

デッドロックまたはロック・タイムアウトを防ぐには、可能であれば、長く実行されるアプリケーションまたは、デッドロックを引き起こしやすいアプリケーションに対して、頻繁に COMMIT 操作を発行してください。

デッドロックはだいたい標準であるか、または決まった SQL の組み合わせを処理中に予期されます。可能な限りデッドロックを避けるために、アプリケーションを設計することをお勧めします。

CONCURRENTDBCOORDACTIVITIES しきい値などのキューイングしきい値のためにデッドロック状態になった場合は、キューイングしきい値の値を増やしてください。

デッドロックまたはロック・タイムアウトの回避について詳しくは、「デッドロックの回避」、「デッドロック」、「ロック・タイムアウト」などの語句で DB2 インフォメーション・センターを検索してください。

ロック・エスカレーションを防ぐには、**locklist** および **maxlocks** 構成パラメーターを調整してください。詳し

くは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM5508I 表 *tableName* のデータ・パーティション *DATAPARTITIONID* にある 1 つ以上のパーティション索引が無効としてマークされており、再作成が必要です。

説明: DB2 データ・サーバーは、自動的にこのデータ・パーティション上の無効な索引パーティションを再作成します。索引の再作成が開始されたときから再作成が行われている作業単位が終了するまでの間、そのデータ・パーティションでは超排他 Z ロックが保持されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5509I 表 *tableName* のデータ・パーティション *DATAPARTITIONID* で *count* 個の索引パーティションを再作成中です。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションで、データ・サーバーが表の索引パーティションを再作成中です。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5510E 表スペース *tableSpace* (ID *tableSpace*) がいっぱいです。この表スペースの内部オブジェクト表には、これ以上スペースがありません。

ADM5511E 表 *tableName* の表スペース *tblspace-id* 内にある ID *object-id* を持つオブジェクト *object* が、可能な最大サイズに達しました。

ADM5512N 表 *tableName* のパーティション *DATAPARTITIONID* で、索引パーティションの再作成が *SQLCODE SQLCODE* で失敗しました。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションで、索引パーティションの再作成が失敗しました。

ユーザーの処置: メッセージに示された *SQLCODE* については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM5513I 表 *tableName* のデータ・パーティション *DATAPARTITIONID* での索引の再作成が正常に完了しました。

説明: データ・サーバーによってデータ・パーティシヨ

ンの索引が正常に再作成されました。ただし、データ・パーティション上の他のパーティション索引は、まだ再作成が必要である場合があります。この索引の再作成は、現在の作業単位の間に行われます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5514I 表 *tableName* のデータ・パーティション *DATAPARTITIONID* で、オブジェクト *indexObjectID* および表スペース *indexTablespaceID* に **IID** *indexIID* で索引パーティションを再作成中です。

説明: メッセージに示された索引パーティションをデータ・サーバーが再作成中です。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5515I 表 *tableName* のデータ・パーティション *DATAPARTITIONID* で、索引パーティションが正常に再作成されました。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションで、表の索引パーティションがデータ・サーバーによって再作成されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5520E このデータベースのバージョンでは、データベースのアップグレードはサポートされません。

説明: アップグレードを試みているデータベースのバージョンは、DB2 コピーでサポートされませんが、ここからデータベースのアップグレードを行おうとしています。

ユーザーの処置: データベースのアップグレードが DB2 コピーでサポートされるリリースを確認してください。ここからデータベースをアップグレードします。これらのリリースのいずれかに、データベースをアップグレードします。その後、DB2 コピーへのデータベースのアップグレードを再実行します。

データベースのアップグレードをサポートするバージョンについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ADM5521C 表 *tableName* は欠落しているか、または切り捨てられ、マイグレーションされませんでした。データベースのマイグレーションは継続されますが、この表にはアクセスできなくなります。

ADM5530W **NOT LOGGED INITIALLY** を使用した表 *tableName* の **COMMIT** 処理が開始されています。この表の表スペースのバックアップを取ることをお勧めします。

ADM5540W 表 *tableName* で *count* 索引を再作成中です。

説明: パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して再作成が行われます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5541W 表 *tablename* 上の、**ID** *indexObjectID* および表スペース **ID** *indexTablespaceID* のオブジェクト中で、**IID** *indexIID* の索引を再ビルドしています。

説明: パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して再作成が行われます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5542W 表 *tableName* の索引が正常に再作成されました。

説明: パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して再作成が行われました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5543E 表 *tablename* で、索引の再作成が **SQLCODE** *SQLCODE* で失敗しました。

説明: パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して再作成が行われました。

ユーザーの処置: 詳細は、参照 **SQLCODE** を確認してください。

ADM5550C 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) が、ロールフォワード・セットから除去されています。 **SQLCODE** は *SQLCODE* です。

ADM5560C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と **LONG** 表スペース *LongTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) の両方が一緒にロールフォワードされていないかぎり、**DB2** は表の再編成を再実行できません。この両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認するか、または再編成の再実行が必要ないように、再編成後に取られたバックアップ・イメージをリストアしてください。

ADM5561C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と **LONG** 表スペース *longTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) の両方が同じポイント・イン・タイムにないかぎり、**DB2** は表の再編成を再実行できません。両方の表スペースのバックアップが、表の再編成より前のものである (そのため、再実行できる) か、または表編成の後のもの (そのため、再実行が必要ない) であることを確認してください。

ADM5562C データ表スペース *dataTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) と索引表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *dataTablespaceID*) が一緒にロールフォワードされていないかぎり、**DB2** は表のインプレース再編成を取り消せません。両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認してください。

ADM5570W 表 *tableName* の表スペース *ibspace-id* のうち **ID** が *object-id* のオブジェクトは使用できないオブジェクトですが、それに対するアクセスが試行されました。オブジェクトが表の場合は、ドロップする必要があります。オブジェクトがパーティションの場合は、デタッチする必要があります。オブジェクトが非パーティション索引の場合は、その索引をドロップする必要があります。

ADM5571W 表 *tableName* の表スペース *ibspace-id* にある、**ID** が *object-id* の *object* オブジェクトは、使用できないものとしてマークされています。

説明: オブジェクトにアクセスできません。

ユーザーの処置: オブジェクトが表または非パーティション索引である場合は、そのオブジェクトをドロップします。オブジェクトがパーティション表のデータ・パーティションである場合は、そのオブジェクトをデタッチします。

ADM5572I 表 *tableName* 上の 1 つ以上の索引が無効としてマークされており、再作成が必要です。

説明: **DB2** データ・サーバーは、この表の無効な索引を自動的に再作成します。再作成は、パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して行われます。

索引の再作成の間、および再作成が行われる作業単位の間は、その表に対して超排他 Z ロックが保持されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM5580W 表スペース **ID** *tablespaceID* は存在していないか、またはリカバリー中の表スペースのセットにありません。リカバリーは継続されますが、この表スペース、またはこの表スペースにある表/オブジェクトのフィルター操作は無視されます。

ADM5581W **DB2** は、**ID** *tablespaceID*、オブジェクト **ID** *object-ID* を持つ表スペースを正常にフィルター操作しました。

ADM5582C 表スペース **ID** *tablespaceID*、**object ID** *objectID* をフィルター操作しようとして、内部エラー *error* が発生しました。

ADM5583W 1 つの **Data Links Manager** に割り当てられている合計時間の 16.7 時間を超えました。

ADM5590E **SQLCODE -2219** 理由コード *reasonCode* のため、表 *tableName* に対する、指定された **INPLACE** 表の再編成アクションはこのノードでは実行できません。

ADM5591W データが不足しているため、タイプ *object-type* でオブジェクト ID *objectID* のオブジェクトに対して、新しいコンプレッション・ディクショナリーを作成できませんでした。このオブジェクトは、表スペース *table-space-id* 内の *table-name* という表に存在します。

説明: 自動辞書作成 (ADC) が実行されると、表でデータ行圧縮が有効になっている場合に、表のコンプレッション・ディクショナリーが作成されます。ディクショナリーは、データベース表の行にあるデータを圧縮するために作成されます。タイプ XML の列を含む表の場合は、その表の XML 記憶オブジェクト内のデータを圧縮するために別個のディクショナリーが追加で作成されます。

表 *table-name* のコンプレッション・ディクショナリーは作成されませんでした。 *object-type* が DATA である場合、表 *table-name* 内にある行のためにディクショナリーを作成できませんでした。 *object-type* が XML である場合、表の XML 記憶オブジェクトのためにディクショナリーを作成できませんでした。

ディクショナリーが存在しており、新しいコンプレッション・ディクショナリーを作成できない場合、以下が起こります。

- LOAD を使用していない場合、既存のディクショナリーが保持および使用されます。
- LOAD を使用している場合、既存のディクショナリーは保持されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM5592I 表 *table-name* 用の表スペース *table-spaceID* 内にある、ID *objectID* を持つ *object-type* オブジェクトのために、*dictionary-creator* 処理によってコンプレッション・ディクショナリーが作成されました。

説明: 自動辞書作成 (ADC) が実行されると、表でデータ行圧縮が有効になっている場合に、表のコンプレッション・ディクショナリーが作成されます。ディクショナリーは、データベース表の行にあるデータを圧縮するために作成されます。タイプ XML の列を含む表の場合は、その表の XML 記憶オブジェクト内のデータを圧縮するために別個のディクショナリーが追加で作成されます。

object-type が DATA である場合、表 *table-name* の表オブジェクトのためにコンプレッション・ディクショナリーが作成されました。 *object-type* が XML である場合、表の XML 記憶オブジェクトのためにコンプレッショ

ン・ディクショナリーが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM5593I 表 *table-name* 用の表スペース *table-spaceID* 内にある、ID *objectID* を持つ *object-type* オブジェクトに対して、自動辞書作成 (ADC) 処理が一時的に無効となっています。インスタンスが再始動すると、ADC 処理は再び有効になります。

説明: 自動辞書作成 (ADC) が実行されると、表でデータ行圧縮が有効になっている場合に、表のコンプレッション・ディクショナリーが作成されます。ディクショナリーは、データベース表の行にあるデータを圧縮するために作成されます。タイプ XML の列を含む表の場合は、その表の XML 記憶オブジェクト内のデータを圧縮するために別個のディクショナリーが追加で作成され

ません。ADC 処理がオブジェクト *objectID* に対して無効となっています。 *object-type* が DATA である場合、表 *table-name* における表の行に対して、ADC 処理が無効です。 *object-type* が XML である場合、表の XML 記憶オブジェクトに対して、ADC 処理が無効です。

表に含まれる行データがディクショナリーを作成するのに十分でも、データがフラグメント化されている場合は、ディクショナリーが作成されないことがあります。

ユーザーの処置: 表の行データのデフラグを実行するには、REORG TABLE コマンドを使用して、表 *table-name* を再編成します。 *object-type* が XML の場合は、LONGLOBDATA オプションを使用して、表の XML 記憶オブジェクトを再編成します。

ADC 処理を有効にするには、インスタンスを再始動します。

ADM5594I データベースにおいて、*object-type* オブジェクトに対する自動辞書作成 (ADC) 処理が一時的に無効になっています。

説明: 自動辞書作成 (ADC) が実行されると、表でデータ行圧縮が有効になっている場合に、表のコンプレッション・ディクショナリーが作成されます。ディクショナリーは、データベース表の行にあるデータを圧縮するために作成されます。タイプ XML の列を含む表の場合は、その表の XML 記憶オブジェクト内のデータを圧縮するために別個のディクショナリーが追加で作成されます。

このメッセージは、データベースにおいて ADC 処理が無効の際に返されます。 *object-type* が DATA である場合、表内のデータに対して ADC 処理が無効です。 *object-type* が XML である場合、表の XML 記憶オブ

ADM5595E

ジェクト内にあるデータに対して、ADC 処理が無効です。

ユーザーの処置: ADC 処理を有効にするには、データベースを再始動します。

ADM5595E 表 *schema-name.table-name* で索引データの不整合が検出されました。 "INSPECT CHECK TABLE NAME *table-name* SCHEMA *schema-name* INDEXDATA RESULTS KEEP *table-name_resfile.out*" を失敗したノードで実行してから、DB2 サポート・チームに連絡して問題を報告してください。

ADM5600I メモリーの制約のため、スキャン共有が一時的に制限されています。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

第 12 章 ADM6000 - ADM6499

ADM6000E DB2 は、(コンテナ *container-path* のオフセット *offset* にある) オブジェクト *object-id* に関する表スペース *tblspace-id* からのページ *page-number* の読み取り中に、読み取りエラーを検出しました。
DB2 はページを再読み取りしてこのエラーをバイパスできましたが、このエラーは将来障害を起こすかもしれない重大な問題があることを示している可能性があります。コンテナのアクセスに関するハードウェア (ディスク、コントローラー、ネットワークなど)、ファイル・システム、またはその両方の調査を始めることもできます。

ADM6001I パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義された規則を基に、コンテナが名前変更されました。コンテナ *oldName* は、*newName* に名前変更されました。

ADM6002E 無効な長さのコンテナ・パスが指定されました。指定されたパスは *containerName* でした。資料を参照して、SQLCODE -297 を確認してください。

ADM6003I コンテナは、パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義されている規則による影響を受けなかったため、名前を変更されませんでした。名前は、*contname* のままです。

ADM6004N データベースに対する SET WRITE SUSPEND コマンドが失敗しました。データベース名: *database-name*。

説明: データベースでの書き込み操作を中断しようとしているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. DB2 診断ログ・ファイルを検討して、失敗の原因を調査してください。
2. 問題を訂正します。
3. SET WRITE SUSPEND コマンドを再発行します。

ADM6005N データベースに対する SET WRITE RESUME コマンドが失敗しました。データベース名: *database-name*。

説明: データベースへの書き込み操作を再開しようとしたがエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. DB2 診断ログ・ファイルを検討して、失敗の原因を調査してください。
2. 問題を訂正します。
3. SET WRITE RESUME コマンドを再発行します。

ADM6006E DB2 は、(コンテナ *container-path* のオフセット *offset* にある) オブジェクト *object-id* に関する表スペース *tblspace-id* からのページ *page-number* の読み取り中に、エラーを検出しました。

説明: DB2 は操作を完了できませんでしたが、データベースには引き続きアクセス可能です。このエラーは将来障害を起こすかもしれない重大な問題があることを示している可能性があります。

ユーザーの処置: コンテナのアクセスに関するハードウェア (ディスク、コントローラー、ネットワークなど)、ファイル・システム、またはその両方の調査を始めることもできます。

DB2 データ自体がエラー状態になっている疑いがある場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡すると、適切な修正アクションが案内されます。

ADM6007C オブジェクト・タイプ *object-type* のオブジェクト *object-id* で、表スペース *tblspace-id* のページ *page-number* を処理している際に、DB2 がエラーを検出しました。

説明: DB2 は操作を完了できませんでしたが、データベースには引き続きアクセス可能です。このエラーは将来障害を起こすかもしれない重大な問題があることを示している可能性があります。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡すると、適切な修正アクションが案内されます。

ADM6008I 表スペース *tblspace_name* (ID *tblspace_id*) 内のエクステン트가移動さ

れました。理由コード = *reason-code*。

説明: エクステントの移動が終了した理由は、以下のとおりです。

1. 別のユーティリティーが表スペースの処理を試行し、エクステントの移動を中断した。
2. 削除がペンディングの状態であるために、高水準点の移動が妨げられている。
3. 表スペースにフリー・スペースが残っていないため、残りのエクステントを移動できない。
4. エクステントの移動が完了した。

ユーザーの処置: 理由コードに応じて、以下の操作を検討してください。

1. 別のユーティリティーによって移動操作が中断されないときに、エクステントの移動を再実行してください。
2. 削除のペンディング状態を修正してから、エクステントの移動操作を再実行してください。
3. アクションは不要です。
4. アクションは不要です。

ADM6009W データベース・マネージャーは、最適なりカバリー・パフォーマンスには **restart light** メモリー (**rstrt_light_mem**) の量が小さすぎることを検出しました。

説明: データベース・マネージャーは、**restart light** 操作で使用するメモリーを、いくらか各メンバー・ホストで自動的に予約します。この予約されたメモリーは、ホーム・ホスト以外のホストで、**restart light** モードで再始動する必要のある失敗したメンバーを入れるために使用されます。 **rstrt_light_mem** データベース・マネージャー構成パラメーターは、**restart light** リカバリーのためにホストで割り振られて予約されるメモリーの最大量を指定します。

このメッセージは、ホストで **restart light** のために予約されているメモリーの量が、最適なりカバリー・パフォーマンスには不十分である場合に返されます。

ユーザーの処置: オプション: リカバリー・パフォーマンスを改善するには、以下のデータベース・マネージャー構成パラメーターの値を増やします。

- RSTRT_LIGHT_MEM
- INSTANCE_MEMORY

ADM6010I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランスが中断されました。

説明: ALTER TABLESPACE REBALANCE SUSPEND ステートメントの使用により、表スペースのリバランス操作が手動で中断されました。

ユーザーの処置: 次のステートメントを実行して、表スペースのリバランス操作を手動で再開してください。

```
ALTER TABLESPACE tablespace-name REBALANCE
RESUME
```

ADM6011E データベースがシャットダウンまたは停止の処理中であるか、データベースが静止しているため、この **DB2** メンバーで書き込み操作を中断または再開することができませんでした。

説明: SET WRITE コマンドか db2SetWriteForDB API を使用して、データベースの書き込み操作の中断と再開を行うことができます。DB2 pureCluster 環境では、いずれかのメンバーに対して SET WRITE コマンドを実行するか db2SetWriteForDB API を呼び出すと、DB2 クラスタ内のすべてのメンバーにおいて書き込み操作が中断または再開されるようになります。

書き込み操作を正常に中断したり再開したりできるのは、データベースがアクティブまたは停止いずれかの状態になっている場合に限られます。このメッセージは、アクティブでも停止中でもないデータベースにおいて書き込み操作を中断または再開しようとした場合に返されます。例えば、以下のようなシナリオで SET WRITE コマンドを実行する場合に、このメッセージが返されることがあります。

- データベースにおいて STOP DATABASE コマンドが実行されたが、そのデータベースが完全には停止していなかった。
- QUIESCE DATABASE コマンドが実行されていた。
- データベースでエラーが発生し、クラッシュ・リカバリーを実行しようとしている。

このメッセージが返されるのは、DB2 pureCluster 環境の場合に限られます。特に、このメッセージは、データベースの状況に関する問題が検出されたメンバーの管理通知ログに出力されます。

ユーザーの処置: このエラーを報告しているメンバーで SET WRITE コマンドが正常実行されない問題を解決するには、データベースがアクティブ状態または停止状態に遷移するまで待機します。

このメンバーにおける問題を解決した後に、DB2 クラスタ内の他のメンバーの管理通知ログを確認します。

ADM6012W DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID と DB2_LO_PRI_PREFETCH_AUTHID レジストリー変数 *maxAuthIds* の両方に指定できる許可 ID の結合最大数を超過しました。このレジストリー変数の片方または両方から許可 ID を除去して、この許可 ID の指定数より多い数が指定されていないようにしてください。加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

ADM6013W DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID と DB2_LO_PR_PREFETCH_AUTHID レジストリー変数の片方または両方で許可 ID *authId* が複数回指定されました。その結果、この許可 ID に最高優先順位が選択されました。この動作が望ましくなければ、レジストリー変数内で重複した許可 ID が決して生じないように、レジストリー変数を適切に設定する必要があります。加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

ADM6014E 1 つ以上の表スペースが NORMAL 状態ではないため、この DB2 メンバーで書き込み操作を中断または再開することができませんでした。

説明: SET WRITE コマンドか db2SetWriteForDB API を使用して、データベースの書き込み操作の中断と再開を行うことができます。DB2 pureCluster 環境では、いずれかのメンバーに対して SET WRITE コマンドを実行するか db2SetWriteForDB API を呼び出すと、DB2 クラスタ内のすべてのメンバーにおいて書き込み操作が中断または再開されるようになります。

書き込み操作を正常に中断したり再開したりできるのは、データベース内の表スペースがすべて NORMAL 状態になっている場合に限られます。

このメッセージが返されるのは、DB2 pureCluster 環境の場合に限られます。特に、このメッセージは、表スペースの状態に関する問題が検出されたメンバーの管理通知ログに出力されます。

ユーザーの処置: このエラーが報告されている DB2 メンバーに対して SET WRITE コマンドが正常実行されない問題を解決するには、以下のステップを実行してください。

1. どの表スペースが NORMAL 状態ではないかを識別するため、MON_GET_TABLESPACE 表関数を使用します。TBSP_STATE 列に表スペースの状態がリストされます。

2. 必要なトラブルシューティングのステップを実行して、データベース内の NORMAL 状態でない表スペースを NORMAL 状態に変更します。

このメンバーにおける問題を解決した後に、DB2 クラスタ内の他のメンバーの管理通知ログを確認します。

ADM6015E データベース・ロギングの中断中に内部エラーが検出されたため、この DB2 メンバーで書き込み操作を中断できませんでした。

説明: SET WRITE コマンドか db2SetWriteForDB API を使用して、データベースの書き込み操作の中断と再開を行うことができます。DB2 pureCluster 環境では、いずれかのメンバーに対して SET WRITE コマンドを実行するか db2SetWriteForDB API を呼び出すと、DB2 クラスタ内のすべてのメンバーにおいて書き込み操作が中断または再開されるようになります。

このメッセージが返されるのは、DB2 pureCluster 環境の場合に限られます。特に、このメッセージは、中断操作の処理に関する内部問題が検出されたメンバーの管理通知ログに出力されます。

ユーザーの処置: このエラーが報告されている DB2 メンバーに対して SET WRITE コマンドが正常実行されない問題を解決するには、以下のトラブルシューティング・ステップを実行してください。

1. このメンバーで DB2 診断 (db2diag) ログ・ファイルから追加の診断情報を収集します。
2. db2diag ログ・ファイル内の追加の診断情報を使用し、中断操作が失敗した根本原因を識別して解決します。

このメンバーにおける問題を解決した後に、DB2 クラスタ内の他のメンバーの管理通知ログを確認します。

ADM6016E データベース・ロギングの再開中に内部エラーが検出されたため、この DB2 メンバーで書き込み操作を再開できませんでした。

説明: SET WRITE コマンドか db2SetWriteForDB API を使用して、データベースの書き込み操作の中断と再開を行うことができます。DB2 pureCluster 環境では、いずれかのメンバーに対して SET WRITE コマンドを実行するか db2SetWriteForDB API を呼び出すと、DB2 クラスタ内のすべてのメンバーにおいて書き込み操作が中断または再開されるようになります。

このメッセージが返されるのは、DB2 pureCluster 環境の場合に限られます。特に、このメッセージは、再開操

作の処理に関する内部問題が検出されたメンバーの管理通知ログに出力されます。

ユーザーの処置: このエラーが報告されている DB2 メンバーに対して SET WRITE コマンドが正常実行されない問題を解決するには、以下のトラブルシューティング・ステップを実行してください。

1. このメンバーで DB2 診断 (db2diag) ログ・ファイルから追加の診断情報を収集します。
2. db2diag ログ・ファイル内の追加の診断情報を使用し、再開操作が失敗した根本原因を識別して解決します。

このメンバーにおける問題を解決した後に、DB2 クラスタ内の他のメンバーの管理通知ログを確認します。

ADM6017E 以下の表スペースがいっぱいです。表スペース名: *table-space-name*。表スペース ID: *table-space-ID*。コンテナ・パス: *container-path*。コンテナ ID: *container-ID*。

説明: このメッセージが返される理由は多数あります。例えば、次のような理由があります。

- 基礎となるファイル・システムがいっぱいになっている。
- このファイル・システムに許可されている最大スペース使用量に達した。
- 最大ファイル・サイズのユーザー限度に達した。
- 開くことができるファイルの最大数のユーザー限度に達した。

ユーザーの処置:

1. 診断ログ内の情報を検討して、どの限度に達したのか判別します。
2. どの限度に達したかに応じて、必要なリソースを解放します。例えば、メモリーを解放したり、追加のメモリーを割り振ったり、開いているファイルを閉じたりします。

ADM6018I *directory-path* でファイル・システムをアンマウントします。

ADM6019E バッファ・プール *bpname* (ID *bpid*) のすべてのページが使用中です。資料を参照して、SQLCODE -1218 を確認してください。

ADM6020I マウントされているファイル・システムを *contPath* で使用するために残します。

ADM6021I 複数ページのファイルの割り振りは、現在は使用できません。無効にしても、効果はありません。

ADM6022W 一時表の非同期ドロップが失敗しました。この表と関連したリソースは、次回データベースを始動するまで解放されません。この理由により、データベースを再始動することをお勧めします。また、IBM お客様サポートに連絡して、この障害の理由を判別することをお勧めします。

ADM6023I 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、状態 *tablespaceState* です。この表スペースにアクセスできません。資料を参照して、SQLCODE -290 を確認してください。

ユーザーの処置:

ADM6024C データベースを再始動できません。データベース名: *database-name*。

説明: データベースへの書き込み操作が中断されているか、または中断処理中のため、データベースの再始動ができません。

ユーザーの処置: データベース書き込み操作が中断されている場合にデータベースを再始動するには、RESTART DATABASE コマンドに WRITE RESUME パラメーターを指定します。

データベース書き込み操作が中断処理中の場合にデータベースを再始動するには、SET WRITE SUSPEND 操作が処理を完了するまで待つてから、RESTART DATABASE コマンドに WRITE RESUME パラメーターを指定して再発行します。

ADM6025I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は、状態 *state* です。operation は不可能です。資料を参照して、SQLCODE -290 を確認してください。

ユーザーの処置:

ADM6026E 中断または再開プロセス中に内部エラーが発生したため、この DB2 メンバーで書き込み操作を中断するか再開することができませんでした。

説明: SET WRITE コマンドか db2SetWriteForDB API を使用して、データベースの書き込み操作の中断と再開を行うことができます。DB2 pureCluster 環境では、いずれかのメンバーに対して SET WRITE コマンドを実行するか db2SetWriteForDB API を呼び出すと、DB2 クラスタ内のすべてのメンバーにおいて書き込み操作が中断または再開されるようになります。

このメッセージが返されるのは、DB2 pureCluster 環境の場合に限られます。特に、このメッセージは、中断操作か再開操作の処理に関する内部問題が検出されたメンバーの管理通知ログに出力されます。

ユーザーの処置: このエラーが報告されている DB2 メンバーに対して SET WRITE コマンドが正常実行されない問題を解決するには、以下のトラブルシューティング・ステップを実行してください。

1. このメンバーで DB2 診断 (db2diag) ログ・ファイルから追加の診断情報を収集します。
2. db2diag ログ・ファイル内の追加の診断情報を使用し、中断操作または再開操作が失敗した根本原因を識別して解決します。

このメンバーにおける問題を解決した後に、DB2 クラスタ内の他のメンバーの管理通知ログを確認します。

ADM6027E オブジェクト *object-id* に関する表スペース *tblspace-id* のページ *page-number* の書き込み中 (コンテナ *container-path* のオフセット *offset* への書き込み中) に、エラーを検出しました。操作は完了しませんでした。

説明: DB2 は操作を完了できませんでしたが、データベースには引き続きアクセス可能です。このエラーは将来障害を起こすかもしれない重大な問題を示している可能性があります。

ユーザーの処置: コンテナのアクセスに関するディスク、コントローラー、ネットワーク、ファイル・システムなどのハードウェアを調査します。問題の原因が DB2 データのエラーである場合は、適切な修正アクションの手順について DB2 サポートにお問い合わせください。

ADM6028W レジストリー変数設定 *regvarstr* は、メモリ不足条件により、このレジストリー変数設定の処理が許可されなかったため無視されました。

ADM6029W 指定された設定が無効だったため、レジストリー変数設定 (*regvarstr*) は無視されました。

ADM6031W EXTENDED STORAGE は、バッファーク・プール *bpname* (ID *bpid*) で使用するように構成されましたが、このデータベースについて AWE が有効になっているため、この構成は無視されます。EXTENDED STORAGE を無効にし、このバッファーク・プールを使用しないよう構成してください。

ADM6034W EXTENDED STORAGE は、バッファーク・プール *bpname* (ID *bpid*) で使用するように構成されましたが、DB2_OVERRIDE_BPF レジストリー変数が設定されているため、この構成は無視されます。このレジストリー変数は、IBM サポートの指示のもとでのみ使用します。

ADM6035W レジストリー変数 DB2NTNOCACHE が設定されていないため、散在データ読み取りを使用できませんでした。DB2NTNOCACHE レジストリー変数を設定して、散在データ読み取りを有効にしてください。

ADM6036W EXTENDED STORAGE が複数のページ・サイズに使用されています。パフォーマンスが最適でない可能性があります。EXTENDED STORAGE の使用について詳しくは、DB2 の資料を参照してください。

ADM6037W コンテナ *path* は、サイズが *userBytes* KB のデバイス上に、サイズが *userBytes* KB になるように作成されました。余分なストレージが無駄になります。ALTER TABLESPACE を使用して、無駄になったスペースを使用するようにコンテナを拡張することができます。

ADM6038E コンテナ *path* は表スペース *tsname* (ID *tsid*) に存在しないため、このコンテナに対して操作を実行できません。資料を参照して、SQLCODE -298 を確認してください。

ADM6039E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対して、無効なストライプ・セット *sset* が ALTER TABLESPACE に指定されました。表スペースの最大ストライプ・セットは *maxsset* です。

ADM6040E コンテナ *contpath* に無効なコンテナ・サイズが指定されました。使用するよう指定されたページ数が大きすぎます。資料を参照して、SQLCODE -1422 を確認してください。

ADM6041E 表スペース操作の結果として生成される表スペースのサイズが、表スペースに対して定義されている最大サイズを超えたため、その表スペース操作は失敗しました。表スペース名: *table-space-name*。表スペース ID: *table-space-id*。定義されている最大サイズ: *max-size*。

説明: 表データの行は、ページと呼ばれるブロックに格納されます。データベース管理スペース (DMS)、一時 DMS、および非一時自動ストレージ表スペースでは、PAGESIZE データベース構成パラメータを使ってデータベースに対して選択するページ・サイズによって表スペース・サイズの上限が決まります。

このメッセージは、REGULAR または USER TEMPORARY DMS 表スペースでの表スペース操作によって表スペースのサイズが増え、定義されている最大許容サイズ (PAGESIZE データベース構成パラメータによって決定されたもの) を超える場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- MAXSIZE 節または EXTEND 節を指定した ALTER TABLESPACE ステートメントを使用して表スペースの最大許容サイズを増やし、表スペース操作を再実行します。
- 表スペースのサイズが増えて PAGESIZE データベース構成パラメータによって決定された最大許容サイズを超えないように表スペース操作を変更し、表スペース操作を再実行します。

ADM6042E 現在の表スペースサイズが大きすぎるため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する操作が失敗しました。REGULAR 表スペースのサイズは 0x0100 0000 (16777216) ページに制限され、LARGE および TEMPORARY 表スペースのサイズは 0x7FFF FEFF (2147483391) ページに制限されています。資料を参照して、SQLCODE -1139 を確認してください。

ADM6043W レジストリー変数

DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB は、無効値 (*regVarVal*) に設定されています。その結果、新たに作成したデータベースでは、複数ページのファイル割り振りが有効になります。それが意図した結果でなければ、DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB レジストリー変数を「はい」に設定して、データベースを再作成してください。新たに作成したすべてのデータベースで複数ページ・ファイルの割り振りを無効にするには、DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB レジストリー変数を YES に設定します。

ADM6044E DMS 表スペース *tsname* (ID *tsid*) がいっぱいです。これが自動サイズ変更または自動ストレージ DMS 表スペースである場合、最大表スペース・サイズに達したか、または既存のコンテナまたはストレージ・パスをこれ以上増やせない状態にあります。新規コンテナを追加するか、または ALTER TABLESPACE SQL ステートメントを使って既存のコンテナを変更することにより、表スペースにさらにスペースを追加することができます。これが自動サイズ変更 DMS 表スペースまたは自動ストレージ DMS 表スペースである場合、自動サイズ変更表スペースにコンテナを追加するか、または使用されているストレージ・グループに新規ストレージ・パスを追加することによって、スペースをさらに追加できます。

ユーザーの処置:

ADM6045I データベースはもはや WRITE SUSPEND 状態ではありません。データベース名: *database-name*。

説明: db2DatabaseRestart API または WRITE RESUME パラメータを指定した RESTART DATABASE コマンドのどちらかによってデータベースへの書き込み操作が

再開されたため、WRITE SUSPEND 状態は解除されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM6046I 複数ページのファイルの割り振りは、すでに有効になっています。再度有効にしても、効果はありません。

ADM6047W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は **DROP_PENDING** 状態です。表スペースは、**OFFLINE** 状態になります。表スペース状態は、*state* です。この表スペースは使用できないので、ドロップしてください。

ユーザーの処置:

ADM6048I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は以前は **OFFLINE** でしたが、**ONLINE** になりました。表スペース状態は、*state* です。

ユーザーの処置:

ADM6049E 1 つ以上の表スペースをオンラインにできないため、データベースを再始動できません。データベースを再始動するには、"**DROP PENDING TABLESPACES**" オプションを **RESTART DATABASE** コマンドに指定してください。表スペースをドロップ・ペンディング状態にすると、その表スペースへはアクセスできなくなります。その後その表スペースが存在する間ずっと、その表スペースの内容はアクセス不能となり、その表スペースに許可される唯一の操作は、"**DROP TABLE SPACE**" だけとなります。この表スペースを元の状態に戻す方法はありません。このアクションの結果、データが失われる可能性があるということをよく考える必要があります。処理を実行する前に、DB2 資料を参照し、必要であれば IBM お客様サポートまで連絡してください。 **DROP PENDING TABLESPACES** リストに指定する表スペースは、以下のとおりです: *tsnames*。

ADM6050W バッファ・プール *bpname* (ID *bpid*) に対する **ALTER BUFFERPOOL** ステートメントは成功しましたが、メモリ不足のため即時実行することはできませんでした。この変更は、次回データベースを始動したときに有効になります。資料を参照して、**SQLCODE 20189** を確認してください。

ADM6051E **RESTART DATABASE** (クラッシュ・リカバリー) 中に **REORG** コマンドが失敗しました。

説明: 関連する表またはデータ・パーティションが **DROP_PENDING** 状態の表スペースにあるため、索引または索引パーティションを再作成できません。

ユーザーの処置: **INDEXREC** データベース構成パラメーターを "ACCESS" に設定して、**RESTART DATABASE** が完了するまで索引の再作成を遅らせませす。

ADM6052E **CREATE TABLESPACE** または **ALTER TABLESPACE** ステートメントに、コンテナ *contpath* に対して無効なコンテナ・サイズが指定されました。使用するよう指定されたページ数が小さすぎます。

説明: **CREATE TABLESPACE** コマンドを使用して表スペースを作成する際に、データベース管理スペース (DMS) 表スペース・コンテナのサイズを指定できません。 **ALTER TABLESPACE** コマンドを使用して DMS 表スペース・コンテナのサイズを変更することもできます。

表スペースの作成時に指定された **EXTENTSIZE** の値と比べて、指定されたページ数が小さすぎると、このメッセージが戻されます。

DMS 表スペースのサイズについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『**CREATE TABLESPACE** ステートメント』および『**DMS** コンテナのサイズ変更』のトピックを参照してください。

ユーザーの処置: **CREATE TABLESPACE** ステートメントを実行している場合は、**EXTENTSIZE** の指定値の 2 倍以上のコンテナ・サイズ値を指定して、ステートメントを再実行してください。

ALTER TABLESPACE ステートメントを実行している場合は、表の作成時に指定した **EXTENTSIZE** 値の 2 倍以上のコンテナ・サイズ値を指定して、ステートメントを再実行してください。

ADM6053W データベース共有メモリーに十分な空きメモリーがないため、バッファ・プール *bpname* (**ID** *bpid*) に対する **CREATE BUFFERPOOL** ステートメントは、即時実行できませんでした。このバッファ・プールは、次回データベースを再始動したときに作成されます。資料を参照して、**SQLCODE 20189** を確認してください。

ADM6054I **DB2DART** は、現在アクセス不能な表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を検出しました。**DB2DART** は診断ユーティリティーなので、この表スペースに対する操作を継続します。

ADM6055I ページ *pagenum* が表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から要求されましたが、この表スペースで現在進行中のリバランスによりまだスペースが有効になっていないため、このページはまだ使用できません。要求者は、このページが使用できるようになるまで待機します。

ADM6056I プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。この結果、プリフェッチ要求はキューに入らず、パフォーマンスは最適にはなりません。プリフェッチャー構成 (**NUM_IOSERVERS**、**PREFETCHSIZE**) と各表スペースのコンテナの数を再検討してください。

ADM6057I プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。エージェントはキューでスペースが解放されるのを待機するため、パフォーマンスは最適になりません。プリフェッチャー構成 (**NUM_IOSERVERS**、**PREFETCHSIZE**) と各表スペースのコンテナの数を再検討してください。

ADM6058I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が開始されました。

ADM6059I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が再始動しました。

ADM6060I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対してリ balancer ・ユーティリティーは正常に開始されましたが、メモリー不足の状態のためにこのユーティリティーの実行をスロットルする機能は使用できなくなっています。インスタンスを再始動すると、このメモリーの問題が解決される可能性があります。スロットルが使用できるようになります。

ADM6061I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が停止されます。このリバランスによって最後に移動されたエクステン트는、*lastext* でした。

ADM6062I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が完了しました。

ADM6063I 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が一時停止されました。

ADM6064I ロールフォワードは、表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリ balancer が完了するのを待機しています。

ADM6065I **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から除去しようとしたのですが、この表スペースはオフラインではありませんでした。このコマンドは無視されます。表スペース状態は、*tsstate* です。

ユーザーの処置:

ADM6066I **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から除去しようとしたのですが、このアクションは失敗したため、表スペースはこの状態のままになります。表スペース状態は、*tsstate* です。資料を参照して、**SQLCODE -293** を確認してください。

ユーザーの処置:

ADM6069W バッファース・プール *bpname* (ID *bpid*) は、NUMBLOCKPAGES 値 *oldNumBlockPages* を持っていますが、この値はこのサイズのバッファース・プールでサポートされている最大値を超えています。このバッファース・プールの現在のアクティブ化について、バッファース・プールの NUMBLOCKPAGES 値は、*newNumBlockPages* に引き下げられました。NUMBLOCKPAGES の値を永久に変更するには、ALTER BUFFERPOOL SQL ステートメントを使用します。

ADM6070W バッファース・プール *bpname* (ID *bpid*) は、NUMBLOCKPAGES 値 *numBlockPages* を持っています。この値は、NUMBLOCKPAGES に対して許可されている最小値 (BLOCKSIZE *blockSize*) に達していません。その結果、このバッファース・プールは現在のアクティブ化については、ブロック・ベースになりません。NUMBLOCKPAGES の値を永久に変更するには、ALTER BUFFERPOOL SQL ステートメントを使用します。

ADM6071I バッファース・プール *bpname* (ID *bpid*) で、並行して許可される最大ピン・ページ数に達しました。その結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。SORTHEAP データベース構成パラメーターを増やすことにより、今後この状態が発生する可能性を減らすことができます。

ADM6072W バッファース・プール *bpname* (ID *bpid*) から一時ページを書き出しているときに、ディスクがフルの状態を検出しました。必要なページがすべてディスクに書き込まれるまで、バッファース・プールのサイズを小さくすることはできません。管理通知ログのこの前のメッセージに、ディスクがフルの状態に関する詳細情報がないか確認してください。DB2 は、ディスクがフルの状態が解決されるまで、引き続きディスクにこのページの書き込みを再試行します。

ADM6073W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は、バッファース・プール ID *ondiskBP* を使用するよう構成されていますが、このバッファース・プールは現在アクティブ化されていません。一時的に、表スペースはバッファース・プール ID *RTBP* を使用します。非アクティブのバッファース・プールは、必要なメモリーが使用できるなら、次回データベースを始動したときに使用できるようになるはずですが。

ADM6074I データベースは既に WRITE SUSPEND 状態です。データベース名:
database-name。

説明: データベースを WRITE SUSPEND 状態にしようとしたが、このデータベースは既に WRITE SUSPEND 状態です。このデータベースへのすべての書き込み操作は、SET WRITE RESUME コマンドまたは WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドを発行するまで、中断状態になります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM6075W データベースは WRITE SUSPEND 状態になりました。データベース名:
database-name。

説明: このデータベースへのすべての書き込み操作は、SET WRITE RESUME コマンドまたは WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドを発行するまで、中断状態になります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM6076W データベースはもはや WRITE SUSPEND 状態ではありません。データベース名:
database-name。

説明: データベースは以前に WRITE SUSPEND 状態でしたが、現在はその状態ではありません。データベースへの書き込み操作は再開されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM6077I データベースは WRITE SUSPEND 状態ではありません。データベース名:
database-name。

説明: データベースの WRITE SUSPEND 状態を解除しようとしたが、このデータベースは WRITE SUSPEND 状態ではありません。WRITE RESUME を指

定しても何の効果もありません。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドが SET WRITE RESUME コマンドの場合、アクションは不要です。

失敗したコマンドが WRITE RESUME パラメーターを指定した RESTART DATABASE コマンドである場合、WRITE RESUME パラメーターを指定せずに RESTART DATABASE コマンドを発行してください。これも失敗し、データベースが WRITE SUSPEND 状態ではない場合、次のようにします。

1. すべての SET WRITE SUSPEND 操作が完了するまで待ってください。
2. WRITE RESUME パラメーターを指定して RESTART DATABASE コマンドを再発行してください。

ADM6078W 次の表スペースは、DROP_PENDING 状態にするよう RESTART DATABASE コマンドに指定されました: *tsnames*。

ADM6079E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は ROLLFORWARD_IN_PROGRESS 状態でしたが、最早アクセスできなくなりました。この表スペースはオフラインにされて、RESTORE_PENDING 状態に置かれました。

ADM6080E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は、OFFLINE にされ、ROLLFORWARD_PENDING 状態です。表スペース状態は、*tsstate* です。

ユーザーの処置:

ADM6081W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は OFFLINE 状態で、アクセスできません。表スペース状態は、*tsstate* です。資料を参照して、SQLCODE -293 を確認してください。

ユーザーの処置:

ADM6082W 現行のトランザクションは、失敗が許可されない作業を行おうとしています。ただし、この作業は、バッファーク・プールに使用できるフリー・ページがないために完了することができません。さらにフリー・ページを検出しようとはしますが、将来、この状態はバッファーク・プール *bpname* (ID *bpid*) のサイズを増やすことで回避できるようになります。

ADM6083E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対して、表スペース変更操作の再実行中にエラーが発生しました。このエラーはトランザクションの余りをやり直す間、一時的に無視されます。変更操作が最終的にロールバックすると、エラーは廃棄されます。ただし、操作がコミットされると、このエラーは戻され、表スペースに対するリカバリーを停止します。

ADM6084E 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する変更操作をコミットしようとしたが、直前のエラーによって、この試みを行うことができませんでした。リカバリーを再試行する前に、オリジナルのエラーを解決してください。

ADM6085I バッファーク・プール・ハッシュ・バケットのサイズ変更中に、メモリー不足状態が発生しました。この状態の結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。データベースをシャットダウンして再始動してください。バッファーク・プールを、最適のサイズのハッシュ表によって開始することができます。

ADM6086W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対して、ファントム静止状態の取得およびリセットを行おうとしたが、コマンドから正常に戻っても、この状態が変わりませんでした。現行ユーザーの許可 ID が、静止プログラムの許可 ID に一致しません。これらは、ファントム静止プログラムを正常に取得し、リセットするためには同一でなければなりません。表スペースのスナップショットを取って正しい静止プログラムの許可 ID を決定し、その ID を使用して `quiesce reset` コマンドをやり直してください。

ADM6087I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) の静止状態をリセットしようとしたが、表スペースが現在静止状態ではありません。

ADM6088W メモリー不足状態のため、現行エージェン
トは表スペース *tsname* (ID *tsid*) をモニ
ターすることができません。その結果、モ
ニター出力を信頼できない可能性があります。
DBHEAP 構成パラメーターを増や
して、この問題が将来発生しないようにし
てください。

ADM6089I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対してリ
バランサー・ユーティリティーは正常に開
始されましたが、メモリー不足の状態のた
めに進捗モニター・サービスは使用できな
くなっています。インスタンスを再始動
すると、このメモリー問題が解決される可
能性があり、進捗モニター・サービスが有
効になることがあります。

ADM6090W ページ・クリーナーによって、システム全
体またはプロセス/スレッド固有のファイ
ル・ハンドル限界に達しました。ペー
ジ・クリーナーは、エラー条件を受け取っ
たクリーナーによって開かれたファイル・
ハンドルをすべて閉じることによって応答
します。このエラーは、それを受け取る
ページ・クリーナーにつき 1 度だけログ
に記録されます。推奨アクション: オペ
レーティング・システムのファイル・ハン
ドル限界を確認し、次いで *maxfilop* 構成
パラメーターの値を減らします。それらの
パラメーターの変更を有効にするには、デ
ータベースを再始動する必要があります
(データベースの非アクティブ化または最
終接続の終了)。

ユーザーの処置:

ADM6091W 自動サイズ変更表スペース *tsname* (ID
tsid) のサイズを自動的に増やそうとしま
したが、表スペースの最大サイズ (*maxsize*
バイト) に達しました。この値は、コミ
ットされていない ALTER
TABLESPACE ステートメントが原因
で、予想より低い可能性があります。ま
た DB2 は同じ比率でコンテナを拡張
し、拡張は複数のエクステントで行う必要
があるので、最大サイズに正確に達するの
は実際には不可能です。この場合、現行
サイズ (*currentsize* バイト) の値は最大サ
イズよりも小さくなります。この表ス
ペースの最大サイズを増やすために、
ALTER TABLESPACE ステートメント
の MAXSIZE 節を使用できます。

ADM6092W 自動ストレージ表スペース *tsname* (ID
tsid) のサイズを自動的に増やそうとしま
した。この操作は、ストレージ・グルー
プに関連したストレージ・パスはすべてフ
ルか、または新規コンテナを作成するの
に十分なスペースがないために失敗しま
した。新規ストレージ・パスは ALTER
STOGROUP ステートメントを使用して
ストレージ・グループに追加できます。

ユーザーの処置:

ADM6093W サイズ変更表スペース *tsname* (ID *tsid*)
のコンテナ *container* を自動的に拡張し
ようとしたが、ファイル・システム上
にスペースがありません。そのため、表
スペースのサイズをこれ以上増やせませ
ん。これを解決するための 1 つの方法
は、ファイル・システム上に使用できるス
ペースを増やすことです。あるいは、
ALTER TABLESPACE ステートメント
の BEGIN NEW STRIPE SET 節を使用
して表スペースに新規ストライプ・セット
を追加することもできます。この後で表
スペースのサイズを自動変更しようとする
と、新しく追加されたコンテナのみが拡
張され、既存のコンテナは現状のままと
なります。

ADM6094W RESTORE DATABASE または ROLLFORWARD DATABASE コマンドにより、自動サイズ変更表スペース *tsname* (ID *tsid*) のストレージが変更されました。そのため、表スペースの最大サイズをこのパーティション上で *oldmaxsize* バイトから *newmaxsize* バイトに増やす必要がありました。データベース・パーティションが複数ある場合、表スペースの最大サイズはデータベース・パーティション間で整合しなくなります。これによって問題が生じることはありませんが、望ましくありません。これを解決するには、それぞれのデータベース・パーティションで ALTER TABLESPACE ステートメントを使用して、MAXSIZE 値を新たに現行サイズ以上に設定します。あるいは、MAXSIZE NONE オプションを使用して、最大サイズがないことを指定することもできます。

ADM6095W ロールフォワード操作で、ALTER DATABASE ステートメントの ADD STORAGE 節か ALTER STOGROUP ステートメントの ADD 節に関連付けられたログ・レコードが検出されました。しかしながら、データベースと関連したストレージ・パスは以前のデータベースのリストア中に再定義されており、ストレージ・パスの完全セットがその時点で定義されたと推測されるため、このログ・レコードは再生されませんでした。そのため、ストレージ・パス *storagepath* はデータベースに追加されませんでした。

ユーザーの処置:

ADM6096W ロールフォワード操作は、自動サイズ変更表スペース *tsname* (ID *tsid*) の最大サイズを変更しようとするログ・レコードを検出しました。実行時にはこれは成功しましたが、データベースまたは表スペースのリストアおよびロールフォワードのプロセス中に新規コンテナ構成が確立されました。この最大サイズは、表スペースの現行サイズ未満です。そのため、表スペースの最大サイズは *maxsize* バイトではなく *currentsize* バイトに設定されています。データベース・パーティションが複数ある場合、表スペースの最大サイズはそれらの間で整合しなくなります。これによって問題が生じることはありませんが、望ましくありません。これはロールフォワードが完了した後、それぞれのデータベース・パーティションで ALTER TABLESPACE ステートメントを使用して、MAXSIZE 値を新たに現行サイズ以上に設定することによって解決できます。あるいは、MAXSIZE NONE オプションを使用して、表スペースに最大サイズがないことを指定することもできます。

ADM6097I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) 新規ストライプ・セットで *extend* バイト正常に拡張されました。

ADM6098W コンテナ・マップが複雑になりすぎたため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) を拡張できませんでした。

ADM6099W このタイプおよびページ・サイズの表スペースで、表スペース *tsname* (ID *tsid*) が最大サイズ (*maxsize* バイト) に達しました。データベースにさらにストレージを追加するには、新規表スペースを追加してください。

ADM6100W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) の自動サイズ変更試行中に、コンテナ *cname* を増やせませんでした。

ADM6101W 表スペース *tsname* (ID *tsid*) の拡張試行中に、*path* の空きが *freebytes* バイト未満でした。このスペースは DB2 やオペレーティング・システムによる使用のために予約されています。

ADM6102I 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は *extend* バイト正常に拡張されました。

ADM6103W ID *index-id* を持つ索引はまだラージ RID をサポートしていないため、表 *table-name* は新規ページを割り振ることができません。この表がある表スペースは、ALTER TABLESPACE ステートメントの CONVERT TO LARGE 節によって LARGE 表スペースに変換されました。表上に以前から存在しているすべての索引を再編成するか再ビルドしてラージ RID をサポートするまでは、表自体がラージ RID をサポートできません。この表の将来の拡大をサポートできるように、索引を再編成または再ビルドする必要があります。

説明: 再ビルド・モードの REORG INDEXES ALL FOR TABLE *table-name* コマンドを使用して索引を再編成できます。パーティション化された表の場合は、ALLOW NO ACCESS を指定する必要があります。別の方法としては、すべての索引を再ビルドするだけでなく、ページあたり 255 行より多い行数を表がサポートできるようにするかたちで、表を再編成できます (INPLACE ではなく、従来の REORG)。

ユーザーの処置:

ADM6104W 表スペース *ibspace-name* を REGULAR から LARGE に変換中です。この表スペース内の表の索引を再編成または再ビルドして、ラージ RID をサポートする必要があります。変換中の表スペースは (COMMIT の後)、REGULAR 表スペースの記憶容量より大きい容量をサポートすることができます。REGULAR 表スペースでのデータ・ページの最大ページ番号は 0x00FFFFFF です。0x00FFFFFF を超えるページ番号を割り振られている表には、そのようなページ番号をサポートするために、表の索引によるサポートが必要です。表の索引が再編成または再ビルドされて上記のページ番号がサポートされるようになるまでは、表にそれらのページ番号を割り当てるとエラーになります。

説明: 「DB2 SQL リファレンス」の ALTER TABLESPACE ステートメントに関する説明に、CONVERT TO LARGE オプションを使用する場合のベスト・プラクティスが見られています。将来表が大きくなったときに障害が起きないようにするために、事前

の対策として推奨事例にしたがい、この表スペース内にあるすべての表のすべての索引を再編成または再ビルドしておくことをお勧めします。

ADM6105E このストレージ・グループに関連付けられているストレージ・パスが、データベース・パーティション *X* とデータベース・パーティション *Y* とで一貫性がありません。データベース・マネージャーはすべてのデータベース・パーティションの間でストレージ・パスを整合させようとしたのですが、現在も矛盾しています。データベースは引き続き機能しますが、データベース内のすべてのパーティションの間でストレージ・パスを整合させることをお勧めします。その作業は、各パーティション上のデータベースをバックアップし (バックアップ・イメージがまだない場合)、バックアップ・イメージを復元することによって行うことができます。まず、各パーティションによって使用されるパスのリストを指定して、カタログ・パーティションをリストアします (RESTORE REDIRECT コマンドおよび SET STOGROUP PATHS コマンドを使用する)。データベースがリカバリー可能な場合、すべてのパーティション上でデータベースがリストアされた後に、ロールフォワードを実行する必要があります。

ユーザーの処置:

ADM6106E ロールフォワード操作中に、表スペース *name* (ID = *id*) を作成できませんでした。おそらく、表スペースに関連付けられているコンテナを作成するだけの十分なスペースがないことが原因です。ロールフォワード操作後にデータベースへの接続が完了したなら、SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを使用して、表スペースにコンテナを割り当てます。次に、もう一度 ROLLFORWARD DATABASE コマンドを発行して、この表スペースのリカバリーを完了します。

ADM6107E ロールフォワード操作中に、自動ストレージ表スペース *name* (**ID = id**) を作成できませんでした。おそらく、*size* バイトの表スペースを作成するだけの十分なスペースがストレージ・グループのストレージ・パスにないことが原因です。このことが原因である場合は、既存のストレージ・パスで使用できるスペースを増やすか、または **ALTER STOGROUP SQL** ステートメントを使用して新規のストレージ・パスを追加してから、もう一度 **ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを発行してこの表スペースをリカバリーします。

ユーザーの処置:

ADM6108I ストレージ・パス *storage-path* をストレージ・グループからドロップする要求が出されました。このデータベース・パーティションにはこのパスのインスタンスが複数存在しますが、それらのインスタンスすべてがドロップされます。

説明: データベース・パーティション上の 1 つのストレージ・グループに、指定されたストレージ・パスのインスタンスが複数含まれる場合は、**ALTER STOGROUP** ステートメントを使用してこのストレージ・パスのドロップを要求すると、当該ストレージ・グループにあるこのストレージ・パスのインスタンスすべてがドロップされます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM6109I ストレージ・パス *storage-path* をストレージ・グループからドロップする要求が出されました。このストレージ・パスは、即座にドロップされます。

説明: 当該データベース・パーティション上のこのストレージ・パスを使用する表スペースはありません。このストレージ・パスは、即座にドロップされます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM6110I ストレージ・パス *storage-path* をストレージ・グループからドロップする要求が出されました。このストレージ・パスは、そこにあるコンテナのすべてがドロップされるまで、このデータベース・パーティションから除去されることはありません。

説明: 1 つ以上の自動ストレージ表スペースが、当該データベース・パーティション上にあるこのストレージ・パスにコンテナを備えています。したがって、このス

トレージ・パスは「ドロップ・ペンディング」状態になります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行います。

- **TEMPORARY** 自動ストレージ表スペースをドロップし、再作成します。
- **ALTER TABLESPACE** ステートメントの **REBALANCE** 節を使用して、「ドロップ・ペンディング」状態のストレージ・パスからデータを移動します。
- 不要な表スペースをドロップします。

以下の **SQL** ステートメントを発行して、「ドロップ・ペンディング」状態のストレージ・パスを使用している、自動ストレージ表スペースのリストを確認します。

```
SELECT DISTINCT(A.TBSP_NAME),
       A.TBSP_CONTENT_TYPE
FROM SYSIBMADM.SNAPTbsp A,
     SYSIBMADM.SNAPTbsp Part B
WHERE A.TBSP_ID = B.TBSP_ID AND
      B.PATHS_DROPPED = 1
```

ADM6111I このデータベース・パーティション上のストレージ・パス *storage-path* 上には、表スペース・コンテナが存在しません。このストレージ・パスは「ドロップ・ペンディング」状態であり、このデータベース・パーティションから除去されます。

説明: このストレージ・パスにはデータが含まれないため、即座にドロップされます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM6112I ストレージ・パス *storage-path* がストレージ・グループに追加されました。新規ストレージ・パスは、自動的に使用されません。

説明: **TEMPORARY**、**REGULAR**、または **LARGE** 自動ストレージ表スペースでは、自動的に新規ストレージ・パスを使用することができません。

ユーザーの処置: **TEMPORARY** 表スペースで新規ストレージ・パスを使用するには、データベースを停止し、再始動する必要があります。

- データベースが明示的にアクティブ化された場合は、まず **DEACTIVATE DATABASE** コマンドを使用してデータベースを非アクティブ化し、次いで **ACTIVATE DATABASE** コマンドを使用して再びアクティブ化します。

- データベースが明示的にアクティブ化されなかった場合は、すべてのユーザーをデータベースから切断または強制終了してから、データベースに再接続します。

データベースの開始時に、TEMPORARY 表スペースによって新規ストレージ・パスが使用されます。

あるいは、DROP TABLESPACE ステートメントを使用して TEMPORARY 表スペースをドロップし、CREATE TABLESPACE ステートメントを使用して再作成することができます。再作成時に、TEMPORARY 表スペースによって新規ストレージ・パスが使用されます。

REGULAR および LARGE 表スペースでは、既存のコンテナで「ディスクがフル」状態になるまで新規ストレージ・パスは使用されません。表スペースをすべてのストレージ・パス (新規パスを含む) にストライピングする場合、ALTER TABLESPACE ステートメントを REBALANCE 節と共に使用します。このステートメントにより、表スペースのストライプ・セットの各々についてコンテナが作成されます。まだコンテナが含まれていない各パスごとに 1 つずつです。

以下の SQL ステートメントを発行することにより、データベース内の自動ストレージ表スペースのリストを確認することができます。

```
SELECT TBSP_NAME, TBSP_CONTENT_TYPE
      FROM SYSIBMADM.SNAPTbsp
      WHERE TBSP_USING_AUTO_STORAGE = 1
      ORDER BY TBSP_ID
```

ADM6113I 表スペース *tablespace* は、最大サイズを超えました。

説明: リバランス操作により、ドロップされた 1 つ以上のストレージ・パスからのデータが、この表スペースに追加されました。リバランス操作は正常に行われましたが、表スペースが最大サイズを超えました。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

第 13 章 ADM6500 - ADM6999

ADM6500W データ・リンク・ファイル・サーバー
fileServer の接続が失敗しました。サーバーは、ブロックされています。

ADM6501W データ・リンク・ファイル・サーバー
fileServer の接続が再始動に失敗しました。

ADM6502W データ・リンク・ファイル・サーバー
fileServer の接続が失敗しました。

ADM6510W データ・リンク・ファイル・サーバー
fileServer は、登録されていません。

ADM6511W データ・リンク・ファイル・サーバー
fileServer はアクティブではありません。

ADM6512W DB2 は、データ・リンク構成ファイルから読み取れません。

ADM6513W DB2 は、データ・リンク構成ファイル
fileName を作成できません。

ADM6514W DB2 がデータ・リンク構成ファイルに書き込み中、エラーが発生しました。

ADM6515W DB2 がデータ・リンク構成ファイルをクローズ中、エラーが発生しました。

ADM6516W DB2 は、データ・リンク構成ファイル
fileName をオープンできません。

第 14 章 ADM7000 - ADM7499

ADM7000W 無効な SEARCH ディスカバリー・プロトコル *fileName* が DISCOVER_COMM レジストリー変数に指定されました。

ADM7001E DB2 関数 *sqlinstancepath* が失敗しました。インスタンス・パスは設定されませんでした。UNIX をご使用の場合は、DB2INSTANCE レジストリー変数をチェックしてください。Windows をご使用の場合は、DB2INSTANCE、DB2PATH、および DB2INSTPROF レジストリー変数をチェックしてください。

ADM7004E 無効値 (*value*) が DB2COMM レジストリー変数に指定されました。

ADM7005W DISCOVER モードが SEARCH に設定されました。ただし、DISCOVER_COMM レジストリー変数は、どのプロトコルでも構成されていません。

ADM7006E SVCENAME DBM 構成パラメーターが構成されていません。TCP/IP サービス・ファイルに定義されているサービス名を使って、SVCENAME 構成パラメーターを更新してください。

ADM7007E SVCENAME DBM 構成パラメーター *socketAddress* は、ポートまたはサービス名で構成されています。サービス名で構成されている場合は、サービス名をポート番号にマップするために TCP/IP サービス・ファイルが使用されます。このフィールドに指定されたポートは、別の処理で使用されています。ポートを使用している処理を削除するか、または別のポートを使って、この問題を解決してください。

ADM7008W DB2TCPCONNMGERS レジストリー可変値 *userValue* は無効です。有効な値は 1 から 8 までです。デフォルト DB2TCPCONNMGERS 値の *defaultValue* が使用されます。

ADM7009E *protocolTCPIP* プロトコル・サポートでエラーが検出されました。原因として、エージェントの最大数を越えたことが考えられます。

ADM7011E 同期点マネージャーは、このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンをサポートしていません。最小要件は、Microsoft SNA サーバー V4 Service Pack 3 です。

ADM7012E SSL_SVR_KEYDB DBM 構成パラメーターが構成されていません。SSL_SVR_KEYDB 構成パラメーターを更新してください。

ADM7013E SSL_SVR_STASH DBM 構成パラメーターが構成されていません。SSL_SVR_STASH 構成パラメーターを更新してください。

ADM7014E SSL_SVCENAME DBM 構成パラメーターが構成されていません。TCP/IP サービス・ファイルに定義されているサービス名を使って、SSL_SVCENAME 構成パラメーターを更新してください。

ADM7015I 接続では、SSL バージョン *version* および暗号仕様 *cipherspec* が使用されていません。

ADM7016I 許可された SSLv3 暗号仕様は *cipherspecs* です。許可された TLSv1 暗号仕様は *cipherspecs* です。

ADM7017E TCP/IP と SSL を同じポート番号で構成することはできません。

第 15 章 ADM7500 - ADM7999

ADM7500W インスタンスを静止する要求が、次の静止モードを指定して行われました。

quiesce-mode

説明: QUIESCE INSTANCE コマンドまたは START DATABASE MANAGER コマンド (あるいは db2InstanceQuiesce API または db2InstanceStart API) を使用すると、データベース・マネージャー・インスタンス内のすべてのユーザーを強制的にオフにし、そのインスタンスとその中のすべてのデータベースを静止モードにすることができます。このメッセージが戻される目的は、インスタンスを静止するための要求の静止モードについて通知し、ログに記録するためです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ADM7501W インスタンスの静止要求が正常に完了しました。

ADM7502E インスタンスの静止要求が失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7503W インスタンスの非静止要求は正常に完了しました。

ADM7504W インスタンスの非静止が要求されました。

ADM7505E インスタンスの非静止要求が失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7506W データベースを静止する要求が、次の静止モードを指定して行われました。

quiesce-mode

説明: QUIESCE DATABASE コマンドまたは db2DatabaseQuiesce API を使用して、データベースを静止モードにする要求が出されました。このメッセージが戻される目的は、データベースを静止するための要求の静止モードについて通知し、ログに記録するためです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

ADM7507W データベースの静止要求が正常に完了しました。

ADM7508E データベースの静止要求は失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7509W データベースの非静止要求は正常に完了しました。

ADM7510W データベースの非静止が要求されました。

ADM7511E データベースの非静止要求が失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7512E トランザクションの再同期エラーが発生しました。IBM お客様サポートに連絡してください。

ADM7513W データベース・マネージャーが開始されました。

ADM7514W データベース・マネージャーが停止されました。

ADM7515W ディレクトリー・キャッシング・サポートなしでコンセントレーターが有効にされていますが、この結果、パフォーマンスが低下する可能性があります。この問題を訂正するには、データベース・マネージャー構成でディレクトリー・キャッシングを有効にしてください。

説明: ディレクトリー・キャッシングは比較的オーバーヘッドの低い機能であり、エンジンにおいてデフォルトで有効になります。ユーザーがこの機能を無効にする理由はほとんどありません。特にコンセントレーター構成でディレクトリー・キャッシングをオフにすることには特に注意が必要です。これは、コンセントレーターのボトルネックであるディスクパッチャー処理が、新しい接続が行われる度にディスクに行くことを要求される可能性があるためです。

ユーザーの処置: ディレクトリー・キャッシングを有効にするか、または非コンセントレーター構成で実行してください。

ADM7516N 自動再始動中に、DB2 クラスター・サービスは DB2 メンバー *member-ID* 上の *database-name* という名前のデータベースのリカバリーに失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境では、データベース・メンバーで障害が起こった場合、そのメンバーに対するメンバー・クラッシュ・リカバリーが自動的に開始されません。さらに、両方のクラスター・キャッシング・ファシリティーに同時に障害が発生した場合は、グループ・クラッシュ・リカバリーが自動的に開始されます。

メンバー・クラッシュ・リカバリー中は、そのメンバー経由のそのデータベースへの接続は許可されません。その名前の DB2 メンバー経由でその名前のデータベースに接続しようとしても、データベースが正常にリカバリーされるまで、その試行は失敗します。

このメッセージは、自動再始動中に、DB2 クラスター・サービスが障害が起こったメンバーのデータベースのリカバリーに失敗した場合に返されます。リカバリーが失敗したホスト上のメンバーに対してアラートが設定されます。

ユーザーの処置:

1. 追加の関連したトラブルシューティングおよび診断情報を収集するため、db2diag ログ・ファイルからこのメッセージ ID を検索します。
2. データベースがバックアップ・ペンディング状態、ロールフォワード・ペンディング状態、あるいはリストア・ペンディング状態にあるかどうかを判別するため、GET DB CONFIG コマンドを実行します。
3. データベースがペンディング状態にある場合は、必要なアクションを取り、データベースのペンディング状態を解除します。
4. 障害が起こったデータベースを手動でリカバリーするため、RESTART DATABASE コマンドを実行します。データベースが正常にリカバリーされると、アラートは自動的にクリアされます。

ADM7517W コンセントレーターが有効になっている場合、データベース *databaseName* における、1 つのアプリケーション・グループ当たりの最大アプリケーション数は、*maxApp* に制限されます。この問題を訂正するには、APPGROUP_MEM_SZ 構成パラメーターの値を減らしてください。

ADM7518C 重大エラーが発生したため、データベース・マネージャーはデータベース *database-name* をシャットダウンしました。

説明: このエラーは、データベース・アクセス中にデータの整合性を損なうおそれのある重大な問題が突然発生した場合に返されます。このエラーが返される可能性があるシナリオの一例を以下に示します。

- トランザクション中にデータベース・オブジェクトが予期せずにアクセス不能になると、データベース・ログへの書き込み操作はすべて停止し、このデータベースでのすべての操作がシャットダウンされます。データベースは、再度アクティブになるときにクラッシュ・リカバリーを必要とします。

ユーザーの処置: db2support ツールなどのツールを使用して、以下の診断情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- diagpath データベース・マネージャー構成パラメーターで指定されるディレクトリーの内容 (FODC_ForceDBShutdown ディレクトリーの内容を含む)。

ADM7519W DB2 は、エージェントを割り振れませんでした。SQLCODE は *SQLCODE* です。

ADM7520E ノード *db-partition-number* で、アンマウントされたファイル・システムのマウントが失敗しました。マイグレーションの前に、手動で再マウントする必要があります。 *errorFile* をチェックして、マイグレーションを再試行する前にファイル・システムを再マウントしてください。

ADM7521E ノード *db-partition-number* で、マウントされたファイル・システムのアンマウントが失敗しました。アンマウントされているファイル・システムを再マウントして、データベースのマイグレーションを再試行してください。

ADM7522E ノード *db-partition-number* で、アンマウントされているファイル・システムを新しいマウント・ポイントに再マウントしようとして失敗しました。データベースのマイグレーションを再始動する必要があります。

ADM7523E DB2 は、アプリケーション・グループ・メモリー・セットを割り振れませんでした。これにより、データベースのアクティブ化が失敗します。
APPGROUP_MEM_SZ DB 構成パラメーターを減らして再試行してください。

ADM7524W データベース・マネージャーは、**restart light** リカバリーのために割り振られているメモリーの量を **DB2** アイドル・プロセスの始動に最低限必要なサイズまで増やしました。

説明: 現在の **restart light** の計算されたメモリー・サイズは小さすぎるため、**DB2** アイドル・プロセスの始動のための十分なメモリーを割り振ることができません。**restart light** のメモリー・サイズは **instance_memory** 構成パラメーターおよび **rstrt_light_mem** 構成パラメーター (これによって **instance_memory** のパーセンテージが指定されます) を使用して計算されます。**restart light** のメモリー・サイズは、**restart light** に最低限必要なメモリー・サイズ以上である必要があります。

DB2START 処理が正常に行われるためには **DB2** アイドル・プロセスを開始する必要があるため、**restart light** のメモリー・サイズを最低限必要なサイズまで増加させました。

ユーザーの処置:

1. **db2diag.log** から次の値を検索して確認してください。
 - **restart light** の計算されたメモリー・サイズ
 - **restart light** の必要最小限のメモリー・サイズ
2. **instance_memory** および **rstrt_light_mem** 構成パラメーターの現行値を確認し、**restart light** の計算されたメモリー・サイズが **restart light** に最低限必要なメモリー・サイズ以上になるように、どちらかまたは両方の値を増加させます。

ADM7525E 以下のメンバーは、2 次 CF にアクセスしてキャッチアップを開始することができませんでした: **member-id**。メンバー・ホスト名: **host-name**。2 次 CF ホスト名: **CF-host-name**。

説明: 2 次クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF と呼ばれる) を追加し、2 次 CF のホスト・コンピューターを再始動した後、2 次 CF はクラスターを結合するプロセスを経る必要があります。特に、2 次 CF がクラスターを結合した後、最初にデータベース接続が確立されたときに、2 次 CF は情報を 1 次 CF からコピーします。この情報のコピーを「キャッチアッ

プ」といいます。2 次 CF が 1 次 CF からデータをコピーしている間、2 次 CF は **CATCHUP** 状態になります。

このメッセージは、2 次 CF がクラスターを結合した後、最初のデータベース接続を処理しているメンバーが、2 次 CF にアクセスしてキャッチアップ・プロセスを開始することができない場合に返されます。

メンバーが 2 次 CF でキャッチアップ・プロセスを開始できない理由には、以下のようなものがあります。

- ネットワーク・エラー (uDAPL の問題など) により、メンバーが 2 次 CF にアクセスできない
- 2 次 CF があるホストが使用不可になっている
- 2 次 CF サーバー・プロセスが稼働していない

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティングのステップを実行します。

- メンバー **member-id** が、**ping** ユーティリティーなどを使って、2 次 CF があるホスト **CF-host-name** にアクセスできることを確認します。
- 以下の診断ファイルで、2 次 CF サーバー・プロセスに関係するメッセージを探します。
 - **cfdump.out*** ファイル
 - **cfdiag.log** ファイル
 - コア・ファイル
- **uDAPL** 通信の問題がないかどうかを調査します。

ADM7526E 2 次 CF が必要な構造の割り振りに失敗したためにデータベースのアクティブ化に失敗しました。

説明: クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF と呼ばれる) には、以下の構造が含まれます。

- グループ・バッファー・プール (GBP)
- CF ロック・マネージャー (LOCK)
- 共用通信域 (SCA)

これらの構造 **GBP**、**SCA**、および **LOCK** のサイズはそれぞれ、オンラインで構成できます。

この失敗が発生する理由の 1 つとして、データベースのアクティブ化の際に 2 次 CF の 1 つ以上の構造で無効なサイズが計算されたことが考えられます。このエラーが発生すると、このエラーに関する詳細な診断情報が **DB2** 診断 (**db2diag**) ログ・ファイルに出力されます。

ユーザーの処置:

1. **db2diag** ログ・ファイルからこのエラーに関する詳細な診断情報を収集してください。
2. 問題の原因を訂正してください。

3. データベースのアクティブ化を再試行してください。

ADM7527E 必要な 1 つ以上の構造を割り振るためのメモリーが 2 次 CF サーバーで不足していたためにデータベースのアクティブ化に失敗しました。

説明: クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF と呼ばれる) には、以下の構造が含まれます。

- グループ・バッファー・プール (GBP)
- CF ロック・マネージャー (LOCK)
- 共用通信域 (SCA)

これらの構造 GBP、SCA、および LOCK のサイズはそれぞれ、オンラインで構成できます。

この失敗が発生する理由の 1 つとして、2 次 CF が構造のメモリーを割り振っていたときに、2 次 CF ホスト上の非 DB2 アプリケーションで大量のメモリーが使用されたことが考えられます。

ユーザーの処置: 以下に示す 1 つ以上のステップを実行してこのエラーに対応してください。

- 2 次 CF 自体に加えて 2 次 CF サーバー・ホストで非 DB2 アプリケーションが実行されている場合、2 次 CF をアクティブ化する前に、2 次 CF ワークロードを処理するのに十分なメモリーを確保してください。

例えば、1 次 CF の CF_MEM_SZ の値と同じかそれより大きくなるように、CF_MEM_SZ データベース・マネージャー・パラメーターによって指定される 2 次 CF のメモリーの量を構成してください。

- 以下のデータベース構成パラメーターに対して、より小さいサイズを指定することにより、2 次 CF で使用される合計メモリーが少なくなるように構成してください。
 - CF_SCA_SZ
 - CF_GBP_SZ
 - CF_LOCK_SZ
 - CF_DB_MEM_SZ
 - CF_MEM_SZ

ADM7528N データベース・マネージャーが開始されたとき、Host Channel Adapter (HCA) の数は、クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) における構成値より少ない数でした。

説明: データベース・マネージャーの始動時に、重大ではないエラーが発生しました。CF において 1 つ以上の

HCA と通信を確立できませんでしたが、それぞれのクラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) は、少なくとも 1 つの HCA によって接続されています。HCA が少ないほど、CF のスループット能力は低下します。また、冗長度の低下により、ダウン時間が発生するリスクが大きくなります。

ユーザーの処置: 'db2cluster -cm -list -alert' を実行してクラスタ・アラートを調べ、応答していない HCA を識別します。アラートに示された修正アクションにしたがって、報告された問題を解決します。

ADM7529I クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) が停止しました。

説明: CF が正常に停止しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM7530W 予期しないクラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) のエラーが発生しました。CF のリカバリーが試行されます。

説明: 予期しないエラーのために CF が停止しました。DB2 はクリーンアップを実行し、CF を再開します。

ユーザーの処置: このメッセージを今後受け取らないようにするには、db2diag.log ファイルおよび cfdiag.cfid.log ファイルを確認し、リカバリー試行時刻の前後にメッセージがないかどうかを調べます。

ADM7531I CF の状態が変わりました。CF: *identifier*。新しい状態: *state*。

説明: 現在、示された CF は示された状態にあります。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM7532E ID が *identifier* であるクラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) は、現在 ERROR 状態です。

説明: 示された CF は、再開できませんでした。

ユーザーの処置: 問題を解決し、アラートを手動でクリアしてください。これを行う助けとなる、db2instance コマンドおよび db2cluster コマンドを使用できます。問題を解決した後に、CF の開始を試みてください。

ADM7533I クラスタ・キャッシング・ファシリティー (CF) が開始されました。

説明: CF が正常に開始されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM7534W データベースのアップグレード時に、1 つ以上のパッケージの再バインド操作が失敗しました。ログ・ファイル: *log-file*。

説明: データベースのアップグレード時にすべてのパッケージを再バインドするために、REBINDALL オプションが UPGRADE DATABASE コマンドで指定されました。データベースは正常にアップグレードされましたが、1 つ以上のパッケージを再バインドできませんでした。エラーおよびパッケージ名は、生成されたログ・ファイルに記録されています。

ユーザーの処置:

1. 生成されたログ・ファイルに記録されているメッセージに示された処置にしたがって、問題の原因を解決します。
2. db2rbind コマンドを使用してパッケージを再バインドします。

ADM7535W UPGRADE DATABASE コマンドでカタログ表の表スペース属性をリフレッシュする操作に失敗しました。ただし、データベースは正常にアップグレードされました。

説明: DB2 V10 では、データベースにある各々の表スペースのカタログ表に、いくつかの新しい属性が追加されています。データベースのアップグレード・プロセスにおいて、それらの新しい属性を適切な値で初期化できませんでした。ファイル db2diag.log を参照し、失敗の原因を判別してください。表スペース属性が適切に初期化されるまでは、データベースのパフォーマンスが最適にならない可能性があります。

ユーザーの処置: データベースのアップグレード時に表スペース属性の初期化の失敗を引き起こしたエラーを解決します。DATABASE UPGRADE コマンドを再実行して、表スペース属性を初期化します。

ADM7536I CF は、以下のアダプターがオンラインであるかオフラインであるかを判別しました。アダプター名: *adapter-name*。アダプターの状況: *ONLINE-or-OFFLINE*。

説明: クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) を開始すると、CF はアダプターがオンラインであるかオフラインであるかを判別します。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM7537I 以下のアダプターの状況が変更されています。アダプター名: *adapter-name*。新しい状況: *ONLINE-or-OFFLINE*。現在オンラインになっているアダプターの数: *number*。

説明: クラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) は、アダプターをモニターして、それらのアダプターがオンラインかオフラインかを判別します。

このメッセージは、アダプターがオンラインからオフラインまたはオフラインからオンラインに変更されたことを CF が検出すると返されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM7538E データベースのアップグレード操作は正常に完了しました。しかし、アップグレードされたデータベースの中に、ロード・ペンディング状態の表があります。アップグレードされたデータベースはこれらの表を使用できません。

説明: このメッセージは、データベースのアップグレード操作時に、データベース内の 1 つ以上の表に対する以前の LOAD 試行が正常に完了していなかったことが分かった場合に返されます。アップグレードされたデータベースはこれらの表にアクセスできません。

ユーザーの処置:

1. どの表がロード・ペンディング状態になっているかを調べるには、以下のコマンドを実行します。


```
select <tablename> from SYSIBMADM.ADMINTABINFO
where load_status is not NULL
```
2. 以前のリリースの環境で、失敗した LOAD 操作を再開または終了します。これは、RESTART オプションまたは TERMINATE オプションを指定して LOAD コマンドを発行することによって行います。
3. 以下のステップを実行して、表を再ロードします。
 - a. 以前のリリースのデータベースから表をアンロードします。
 - b. アップグレードされたデータベースで表をドロップして再作成します。
 - c. 以前のリリースのデータベースからアンロードされたデータを使用して、アップグレードされたデータベース内の表を再ロードします。

第 16 章 ADM8000 - ADM8499

ADM8000C バックアップが終了されました。戻された *SQLCODE* は *SQLCODE* です。

ADM8001W *TRACKMOD DB* 構成パラメーターが有効になっていないため、このデータベースでは増分バックアップが有効になっていません。

ADM8002W このバックアップと関連したログがロー・デバイス上で上書きされているため、このバックアップ・イメージをロールフォワードに使用できません。より新しいバックアップ・イメージを使用してください。

ADM8003C リストアが終了されました。戻された *SQLCODE* は *SQLCODE* です。

ADM8004W *TRACKMOD* 構成パラメーターが有効になっていないため、増分バックアップは、この表スペース *tableName (ID tableSpaceID)* に対して有効になっていません。

ADM8005W 増分バックアップは表スペース *tableName (ID tableSpaceID)* に対して有効になっていませんでした。この表スペースの非増分バックアップが必要です。

ADM8006W *DB2* は、指定されたリストア・バッファーク・サイズ *restoreBufferSize 4K* ページを使用できません。リストア・バッファーク・サイズは、バックアップ・バッファーク・サイズ *backupBufferSize 4K* ページの倍数でなければなりません。リストア操作は、デフォルトのバッファーク・サイズを使って継続されます。

ADM8007W *DB2* は、複数の同時増分リストアを実行できません。

ADM8008W *DB2* は、リストア中にすべての表スペースのオンライン再編成状態ファイルの検索または削除、あるいはそのいずれかを実行できませんでした。このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

ADM8009W リストア中に、表スペース *tableName (ID tableSpaceID)* のオンライン再編成状態ファイルを検索または削除、あるいはその両方を実行できませんでした。このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

ADM8010E バックアップ処理において、要求されたログ・ファイル *logfileName* を、バックアップ・イメージに含めるためにコピーできませんでした。バックアップは異常終了しました。

ADM8011W データベースのバックアップに成功しました。ただし、*DB2* データベース・サーバーは、バックアップ時にイメージの増分チェーンの一部を作成できなかったため、その影響を受けるイメージをリストア時に使用することはできません。特に、表スペース *table-space-name* を含む、増分リストアのタイム・スタンプ *timestamp* を持つバックアップ・イメージを使用することはできません。

ADM8012W データベースのバックアップに成功しました。ただし、リカバリー履歴ファイル自体の更新中に書き込みエラーが発生したため、タイム・スタンプ *timestamp* を持つバックアップ・イメージに対応するリカバリー履歴ファイルの項目はフォームが整っていません。詳しくは、*db2diag* ログ・ファイルを参照してください。

第 17 章 ADM8500 - ADM8999

ADM8500W データ破壊の可能性があるため、DB2 は履歴ファイルからの読み取りに失敗しました。このファイルが存在しており、破壊されていないことを確認してください。

ADM8501W ディスクがフルのため、DB2 は履歴ファイルへの書き込みに失敗しました。

ADM8502W 履歴ファイルは破壊されています。このファイルで、リカバリー不能エラーが検出されました。既存ファイルは削除され、バックアップが作成されました。この問題の原因を判別する場合は、IBM お客様サポートまで連絡してください。それ以外の場合は、これ以上のアクションは不要です。

ADM8503W DB2 は操作 *operation* の履歴項目を記録できませんでした。

ADM8504I タイム・スタンプが *timestamp* のバックアップ・イメージを正常に削除しました。

ADM8505I タイム・スタンプが *timestamp* のロード・コピー・イメージを正常に削除しました。

ADM8506I ログ・チェーン *log-chain* 内にある以下のデータベース・ログ *log-list* を正常に削除しました。

ADM8507N タイム・スタンプが *timestamp* のバックアップ・イメージを削除できません。

説明: DB2 データベース・マネージャーは、指定のバックアップ・イメージを削除しようとしたが失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーがストレージ・マネージャーまたはバックアップ・イメージの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

ADM8508N タイム・スタンプが *timestamp* のロー

ド・コピー・イメージを削除できません。

説明: DB2 データベース・マネージャーは、指定のロード・コピー・イメージを削除しようとしたが失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーがストレージ・マネージャーまたはロード・コピー・イメージの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

ADM8509N ログ・チェーン *log-chain* 内のデータベース・ログ *log-list* を削除できませんでした。

説明: DB2 データベース・マネージャーは、指定のデータベース・ログを削除しようとしたが失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 がストレージ・マネージャーまたはログ・ファイルの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

第 18 章 ADM9000 - ADM9499

ADM9000W ソートのマージ中に、プリフェッチが無効になっていました。パフォーマンスは最適でない可能性があります。このメッセージが繰り返し表示される場合は、**TEMPORARY** 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) のバッファ・プール・サイズを増やすか、またはソート・スピルのエクステントを減らすために **SORTHEAP DB** 構成パラメータの値を増やしてください。

第 19 章 ADM9500 - ADM9999

ADM9500W オンライン索引作成/再編成中に、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) で発生した並行更新の数が多すぎます。そのため、オンライン索引作成/再編成を完了するためにより長い時間がかかります。
UTIL_HEAP_SZ DB 構成パラメーターを増加してみてください。

ADM9501W 表 *tableName* (**ID** *tableID*) および表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) で、索引再編成が開始されました。

説明: メッセージに示された表の索引をデータ・サーバーが再編成中です。再編成は、パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して行われます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9502W 表 *tableName* (**ID** *tableID*) および表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) で、索引再編成が完了しました。

説明: メッセージに示された表の索引をデータ・サーバーが再編成しました。パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して再編成が行われました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9503W 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) の表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *indexTablespaceID*) の索引 **IID** *indexIID* (**OBJECTID** *indexObjectID*) を再編成中です。

説明: メッセージに示された索引をデータ・サーバーが再編成中です。再編成は、パーティション表上の非パーティション索引、または非パーティション表上の索引に対して行われます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9504W このデータベース・パーティションにおける、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対する索引再編成は失敗しました。
SQLCODE *SQLCODE*、理由コード *reasonCode*。

説明: **SQLCODE** に示された理由により、このデータベース・パーティション上での索引再編成が失敗しました。このコンテキストで参照されている索引は、パーティション表上の非パーティション索引であるか、非パーティション表上の索引です。

ユーザーの処置: **SQLCODE** によって示された問題を訂正した後、データベース・パーティション上で **REORG INDEXES** コマンドを再試行してください。

ADM9505W 索引が再ビルドするようマークされているため、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引再編成はオフライン・モードに切り替えられました。これらの索引は、索引の作成と再作成、またはそのいずれかの間のロールフォワード中に、再ビルドするようマークされた可能性があります。その場合は、**INDEXREC** データベース・マネージャー構成パラメーターを **RESTART** に設定してみてください。これにより、ロールフォワード中に再ビルドするようマークされている索引は、**RESTART DATABASE** 処理中に再ビルドされます。

ADM9506W HADR は有効ですが、表スペース *tablespace-name* (表スペース ID: *tablespace-id*) 内の表 *table-name* (表オブジェクト ID: *object-id*) に対する索引の作成、再作成、または再編成でのフル・ロギングは無効になっています。ユーザーがそれを無効にするよう明示的に要求したからです。したがって、この表で索引作成操作を行っても、HADR を使用する 2 次データベース・サーバー上でそれがただちにリカバリーされることはありません。HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、2 次データベース・サーバー上の索引は暗黙で再作成されます。これが意図した動作でなければ、索引の作成、再作成、または REORG の実行の前に、表に対するフル・ロギングを有効にしてください。

ADM9507W HADR を有効にする場合は、HADR の 1 次および 2 次の両方のデータベース・サーバーで、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定するようお勧めします。そうしないと、現在または将来の HADR 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成をログ記録できなくなる可能性があります。HADR を使用する 2 次データベース・サーバーでは、1 次データベース・サーバーで完全にはログ記録されていない索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーされなくなります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。これが意図した動作でなければ、索引作成操作の実行の前に、フル・ロギングを有効にするか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

ADM9508W HADR を有効にする場合、データベースまたはデータベース・マネージャー構成パラメーター INDEXREC を RESTART または ACCESS に設定して、索引の作成、再作成、または再編成の再実行を有効にすることをお勧めします。そうしないなら、HADR を使用した場合に、1 次データベース・サーバーで完全にログ記録されている索引の作成、再作成、または再編成が 2 次データベース・サーバー上でリカバリーされなくなります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。これが意図した動作でなければ、索引作成操作の実行の前に、INDEXREC を更新するか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

ADM9509W HADR を開始する前に、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定するようお勧めします。そうしないと、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成を、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上ではリカバリーできなくなることがあります。リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。これが意図した動作でなければ、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに更新します。

ADM9510W エラー (sqlcode *sqlcode*) が発生したため、索引の再作成処理を完了できませんでした。処理終了時に再作成されなかった無効な索引は、表の初回アクセス時に再作成されます。この索引再作成処理は、データベースの明示的または暗黙的な再始動時に呼び出されたか、または HADR テークオーバーの終了時に呼び出されました。

ADM9511W 表スペース **ID** *tablespaceID* 中の表 *tableName* (**ID** *tableID*) に関する、表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *indexTablespaceID*) 中の索引 *indexname* (**IID** *indexIID*、**OBJECTID** *indexObjectID*) に対する索引再編成を継続します。

ADM9512W このノードにおける、表スペース **ID** *tablespaceID* 中の表 *tableName* (**ID** *tableID*) に関する表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *indexTablespaceID*) 中の索引 *indexname* (**IID** *indexIID*、**OBJECTID** *indexObjectID*) の索引再編成は失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*、理由コード *reasonCode*。この問題を解決するには、失敗したノードで **REORG INDEX** コマンドを再サブミットしてください。

ADM9513W 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) の表 *tableName* (**ID** *tableID*) におけるオンライン索引再編成で、無効としてマークされている索引が 1 つ以上検出されたため、これらの索引が再作成されるまで処理を続行できません。

説明: データ・サーバーは、自動的にこの表の索引を再作成します。非パーティション索引が再作成されている場合は、再作成が行われている間、超排他 Z 表ロックが掛けられます。再作成されているのがパーティション索引だけの場合は、無効な索引が含まれている各データ・パーティションに対して、再作成の間、超排他 Z パーティション・ロックが掛けられます。再作成が完了した後、現行コマンドによって再編成の対象として指定されている索引のうち、まだ再作成されていない索引に対して (元のロック・モードを使用して) オンライン索引再編成が続行されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9514I 表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対する非同期索引クリーンアップを開始します。

ADM9515I 表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対する非同期索引クリーンアップを終了します。

ADM9516W データベースのアップグレード中に、表 *table_identifier* 上の索引が、再ビルドのためにマーク付けされました。

説明: *table_identifier* は、以下のいずれかの形式で示されます。

- `TBSPACEID=table_space_id.TABLEID=table_id`
- `schema_name.table_name`

データベースのアップグレード中に、以下のいずれかの状態が検出されたため、特定された表上の索引を再ビルドする必要があります。

- ルート・ページのスペースが不十分です。
- タイプ 1 索引が検出されました。
- 索引ページの変換中に、重大ではないエラーが 1 つ以上発生しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、データベースのアップグレード後、索引は自動的に再ビルドされません。

- **indexrec** データベース構成パラメーターが **RESTART** または **RESTART_NO_REDO** に設定されている場合、**RESTART DATABASE** コマンドの発行により、索引の再ビルドが開始されます。
- **indexrec** データベース構成パラメーターが **ACCESS** または **ACCESS_NO_REDO** に設定されている場合、索引が定義された表に対する最初のアクセス時に、索引が再ビルドされます。**ADMIN_GET_TAB_INFO** 関数を使用して、再ビルドが必要な索引を含んでいる表を特定することができます。

索引の再ビルド時、一回限り、パフォーマンスに影響が及びます。

ADM9518I 表 *tableName* (**ID** *tableID*)、表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) のデータ・パーティション *dataPartitionID* で、パーティション索引の索引再編成が開始されました。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションのパーティション索引をデータ・サーバーが再編成中です。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9519I 表 *tableName* (**ID** *tableID*)、表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) のデータ・パーティション *dataPartitionID* で、パーティション索引の索引再編成が完了しました。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションの

ADM9520I

パーティション索引がデータ・サーバーによって再編成されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9520I 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*)、表 *tableName* (**ID** *tableID*) のデータ・パーティション *dataPartitionID* で、表スペース *indexTablespaceName* (**ID** *indexTablespaceID*) のパーティション索引 **IID** *indexIID* (**OBJECTID** *indexObjectID*) を再編成中です。

説明: メッセージに示されたパーティション索引のメッセージに示されたデータ・パーティションで、データ・サーバーが索引パーティションを再編成中です。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

ADM9521W このデータベース・パーティション上で、表 *tableName* (**ID** *tableID*) および表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) のデータ・パーティション *dataPartitionID* のパーティション索引の再編成が、**SQLCODE** *SQLCODE*、理由コード *reasonCode* により失敗しました。

説明: **SQLCODE** に示された理由により、このデータベース・パーティション上でパーティション索引の索引再編成が失敗しました。

ユーザーの処置: **SQLCODE** によって示された問題を訂正した後、データベース・パーティション上で **REORG INDEXES** コマンドを再試行してください。

ADM9522I 表 *tableName* (**ID** *tableID*)、表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) のデータ・パーティション *datapartitionID* で、パーティション索引の索引再編成が完了しました。

説明: メッセージに示されたデータ・パーティションのパーティション索引がデータ・サーバーによって再編成されました。データ・パーティション上の一部のパーティション索引は、まだ再編成が必要である可能性があります。この索引の再編成は、後ほど、再編成の際に実行されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

第 20 章 ADM10000 - ADM10499

ADM1000W Java 例外を検出しました。Java スタック・トレースバックが、db2diag ログ・ファイルに書き込まれました。

第 21 章 ADM10500 - ADM10999

ADM10500E ヘルス・インディケーター

Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、値
Health-Indicator-Value を持つ
Threshold-Bound-Name アラームしきい値
Threshold-Bound-Value に違反しました。
計算: *Formula-String* =
Formula-with-Values =
Health-Indicator-Value。履歴 (タイム・ス
タンプ、値、公式): *Health-Indicator-*
History-List

説明: このヘルス・インディケーターのアラームしきい値に違反したため、ヘルス・モニターはアラートを生成しました。この状態は、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断を引き起こす可能性があるため、即時にアドレッシングする必要があります。

ユーザーの処置: CLP コマンドを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10501W ヘルス・インディケーター

Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、値
Health-Indicator-Value を持つ
Threshold-Bound-Name 警告しきい値
Threshold-Bound-Value に違反していま
す。計算: *Formula-String* =
Formula-with-Values =
Health-Indicator-Value。履歴 (タイム・ス
タンプ、値、公式): *Health-Indicator-*
History-List

説明: このヘルス・インディケーターの警告しきい値に違反したため、ヘルス・モニターはアラートを生成しま

した。この状態は特にすぐにアテンションが必要なわけではありませんが、この状態が次第に悪化した場合、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断につながる可能性があります。

ユーザーの処置: CLP コマンドを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10502W ヘルス・インディケーター

Health-Indicator-Short-Description
(*Health-Indicator-Short-Name*) は、
Monitored-Object-Type
Monitored-Object-Name について、状態
Health-Indicator-Value です。

説明: ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの状態値が通常でないためアラートを生成しました。これは必ずしも即座に注意が必要な状態ではありませんが、その時点で実行されるべき操作が指定されているデータベースの予想される状態と優先するワークロードに依存します。

ユーザーの処置: CLP コマンドを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10503I ヘルス・モニターは、システム *System-Name* 上で、*Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* を実行しているときに、アラート・アクションを開始しました。これは、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) が、*Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* に対して、*Alert-State* アラート状態であるためです。

説明: ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されました。このメッセージは、このアクションが実際に開始されたことを示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ADM10504E ヘルス・モニターは、*Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* をシステム *System-Name* で実行中、ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) が *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* に対して *Alert-State* アラート状態になったときに、アラート・アクションの開始に失敗しました。 *sqlcode* は *SQLCODE* です。

説明: ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されていますが、アクションを実行するために API を呼び出したときにこの *SQLCODE* を受け取りました。アラート・アクションは開始されませんでした。

ユーザーの処置: この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (db2diag ログ・ファイル) を確認してください。

ADM10505E DB2 サービスがヘルス・モニターの実行に必要な権限を持っていません。ヘルス・モニターは、シャットダウンされました。サービスがローカル・システム・アカウント (SYSTEM) を使ってログオンするよう構成されている場合は、特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう変更する必要があります。特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう構成されている場合は、そのユーザー・アカウントが有効である、この DB2 サービスを実行するためのアクセス権を持っていることを確認する必要があります。ログオン構成を訂正した後は、DB2 サービスを再始動してヘルス・モニターを開始する必要があります。

ADM10506E SMTP サーバー (smtp_server) DB2 Administration Server 構成パラメーターが設定されていないため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できません。有効な SMTP サーバーの名前で *smtp_server* 構成パラメーターを更新してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバー DAS 構成パラメーターに SMTP サーバー名が指定されていないため、送信できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な SMTP サーバーの名前で *smtp_server* 構成パラメーターを更新してください。

ADM10507E SMTP サーバー DB2 Administration Server 構成パラメーター (*smtp_server*) に指定されたサーバー *SMTP-Server-Name* が SMTP サーバーではないようなため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。有効な SMTP サーバー名が DB2 Administration Server 構成に指定されていることを確認してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、DB2 Administration Server 構成に指定されたサーバーが SMTP サーバー機能を持っていないため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な SMTP サーバー名が DB2 Administration Server 構成の *smtp_server* パラメーターに指定されていることを確認してください。

ADM10508E *Notification-List* が含まれているヘルス通知リストに無効な受信者が指定されたため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。無効なアドレスで、連絡先レコードを更新してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、ヘルス通知リストに指定された 1 つ以上の連絡先アドレスが無効なため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: ヘルス通知に指定された連絡先のレコードをチェックし、無効な受信者アドレスを更新してください。

ADM10509E アラート通知は、アドレス *Sender-Address* を持つ無効な送信者によって送信されたため、ヘルス・モニターはその通知を送信できませんでした。SMTP サーバー構成を確認してください。すべての設定が正しい場合は、DB2 サポートまで連絡してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、送信者のアドレスが SMTP サーバーにより受け入れ不可としてリジェクトされたため、通知を送信できませんでした。送信者のアドレスのフォーマットは <instance name>@<host> で、この場合の 'instance' は 'host' 上で実行されています。

ユーザーの処置: SMTP サーバー構成を確認してください。すべての設定が正しい場合は、DB2 サポートまで連絡してください。

ADM10510E SMTP サーバーが次のエラーを発行したため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした: *SMTP_ERROR*。戻されたエラー・コードの情報については、SMTP サーバーの資料をチェックしてください。問題が解決されない場合は、DB2 サポートに連絡してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーがエラーを検出したため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: 戻されたエラー・コードの情報については、SMTP サーバーの資料をチェックしてください。問題が解決されない場合は、DB2 サポートに連絡してください。

ADM10511E SMTP サーバーとの通信エラーにより、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (*db2diag* ログ・ファイル) を確認してください。

説明: ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーに到達しようとして通信エラーが発生したため、通知を送信できませんでした。

ユーザーの処置: この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (*db2diag* ログ・ファイル) を確認してください。

ADM10512W ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) は、*Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* について、状態 *Health-Indicator-Value* です。コレクション (オブジェクト名、タイム・スタンプ、値、詳細): *Collection*。

説明: ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの状態値が通常でないためアラートを生成しました。これは必ずしもすぐにアテンションを必要とする状態ではありませんが、このヘルス・インディケーターの下で収集される 1 つ以上のオブジェクトの正常性に関して最適でない状態が広がっていることを示しています。この状態は、対応する自動保守ユーティリティーがオンにされて状態が自動化されると、自動的に解決できます。

ユーザーの処置: CLP コマンドを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

ADM10513I 自動 *Utility-Name* が、データベース *Database-Name* 内の表 *Table-Name* で、戻りコード *SQL-Return-Code* を伴って完了しました。このユーティリティーは *Start-Timestamp* に開始され、*End-Timestamp* に完了しました。

ADM10514I 自動 BACKUP が、データベース *Database-Name* で、戻りコード *SQL-Return-Code* を伴って完了しました。このユーティリティーは *Start-Timestamp* に開始され、*End-Timestamp* に完了しました。このバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *Backup-Image-Timestamp* です。

ADM10515I 自動保守ポリシー *Policy-Name* がデータベース *Database-Name* で更新されました。このポリシー・オプションは、*Original-Policy-Options-List* から *New-Policy-Options-List* に更新されました。

ADM10516I 自動保守ポリシー *Policy-Name* がデータベース *Database-Name* で更新されました。現在、このポリシーで使用されているオプションは、*Policy-Options-List* です。

第 22 章 ADM11000 - ADM11499

ADM11000E DB2 は、FENCED ルーチン通信で使用するメモリー・セグメントの作成、またはこのメモリーへのアタッチができません。
インスタンスで使用するデータベース共有メモリーの量を減らし、やり直してください。

ADM11001E DB2 は FENCED ルーチンの実行用に、メモリー・セグメントを作成することができませんでした。これは、
DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数を使用して指定されました。

ADM11002E db2fmp 処理との通信で使用できる共有メモリーが十分ではありません。
DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数を使用して、FENCED ルーチンで使用できる共有メモリーの量を増やしてください。

ADM11003E DB2 は FENCED ルーチンとの通信に使用するメモリー・セグメントを作成できませんでした。DB2 を再始動する場合、再始動前のインスタンスに、アクティブな db2fmp 処理がないことを確認してください。再始動しない場合は、
DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数から値を調整するか、またはデータベース・マネージャー構成で **ASLHEAPSZ** の値を減らしてください。

第 23 章 ADM11500 - ADM11999

ADM11500W MQListener がメッセージを生成しました。メッセージ・コード = *MQL-msgcode*。メッセージに関する情報については、資料を参照してください。

第 24 章 ADM12000 - ADM12499

ADM12000C DB2START 処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンドを使用してこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

ユーザーの処置:

ADM12001C DB2 接続処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンドを使用してこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

ユーザーの処置:

ADM12002C 接続処理は失敗しました。有効製品ライセンスが見つかりませんでした。ホストまたは System i データベース・サーバーへのアクセス時には、ライセンス交付を受けた DB2 Connect 製品または DB2 コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントがインストール済みであることを確認してください。DB2 コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントは、DB2 Enterprise Edition に付属しています。

ユーザーの処置:

ADM12006E この製品 *product-name* には、有効なライセンス・キーが登録されていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンドを使用してこのライセンスを登録することができます。ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。ライセンス・キーが登録されていない場合でも、評価期間の *num-days* 日間はこの製品が使用できます。評価期間製品を使用された場合、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリー中にある IBM ご使用条件に同意されたものとみなされます。

ユーザーの処置:

ADM12007E 製品 *product-name* の評価期間はあと *num-days* 日残っています。評価版のご使用条件については、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリー中にある IBM ご使用条件およびライセンス情報の資料を参照してください。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンド行ユーティリティを使用してこのライセンスを登録することができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

ユーザーの処置:

ADM12008C この製品 *product-name* には有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間の期限は切れています。この製品に固有な機能は使用できません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、確認してください。**db2licm** コマンドを使用してこのライセンスをインストールすることができます。ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

ユーザーの処置:

ADM12009E DB2 Workgroup 製品の並行ユーザー数が、*entitlement*のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12010E DB2 Connect 製品の並行ユーザー数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12011C 1 つ以上のデータベース・パーティションに、*product-name* 製品に対して有効な DB2 ライセンス・キーがインストールされていません。**db2licm** コマンドを使って、有効なライセンス・キーを各物理パーティションにインストールしてください。

ユーザーの処置:

ADM12012E DB2 Enterprise 製品の並行ユーザー数が、*entitlement*のライセンスに規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12013E DB2 Connect 製品への並行データベース接続数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。データベース接続数は *num-connections* です。

ADM12014C 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが TCP/IP プロトコルを指定して使用するようライセンスされていません。TCP/IP を使用できるように、全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

ADM12015C 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにライセンスされていません。同一トランザクション内の複数のデータベースを更新できるよう、全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

ADM12017E このマシンのプロセッサ数は、製品 *product-name* に規定されたライセンス数 *entitlement* を超えています。このマシンのプロセッサ数は *num-cpu* です。

説明: DB2 Connect および DB2 データベース製品は、プロセッサ単位 (プロセッサ・バリュー・ユニット (PVU) による価格) またはユーザー単位で購入することができます。

DB2 データベース製品ライセンスをプロセッサ単位で購入した場合、ライセンス・センターの表示またはコマンド「**db2licm -l**」の出力で、ライセンス・タイプ: 「CPU オプション」になっていることが確認できます。

DB2 V9.5 フィックスパック 4 より前では、現在のマシンに存在するプロセッサの数が、指定された製品で使用可能なライセンス数よりも多いと判断された場合に、DB2 Connect および DB2 データベース製品からこのメッセージが返されていました。このメッセージが返されたとしても、DB2 製品は機能し続けます。ただし、定義されたライセンスで許諾される以上のプロセッサで DB2 製品を使用した場合、IBM サポートにアクセスする必要が生じた際に、ビジネス監査プロセスで問題が生じる原因となり、サポート・プロセスが困難になります。

DB2 V9.5 フィックスパック 4 以降では DB2 Connect および DB2 データベース製品からこのメッセージは返されません。これは、DB2 製品が、使用ライセンス数に応じたマシン・リソースのみを使用するからです。

ユーザーの処置:

1. IBM 担当員または認定販売業者からプロセッサ・ベースの追加ライセンスを購入してください。
2. **db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ADM12018E この製品の並行ユーザー数は、ライセンスに規定された数 *entitlement* を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12020E コネクター数が、*entitlement* の規定内容を超えました。現在のコネクター数は *num-connectors* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のコネクター別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12022E データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されていることが **DB2** で検出されました。IBM 担当員または認定販売店から追加のデータベース・パーティション用ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12023E *product-name* 製品の並行ユーザー数が、ライセンス要綱 *entitlement* に規定された数を超えています。並行ユーザー数は *user-count* です。IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12024E 要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。
product_name 製品の現行ライセンス・キーでは、要求した機能を実行できません。IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、**db2licm** コマンドを使用してライセンスを更新してください。

ユーザーの処置:

ADM12025E このマシンのメモリー量は *product-name* 製品に定義された *limit* (MB) の制限値を超えています。このマシンのメモリー量は *memory* (MB) です。

説明: この製品には定義されたメモリー制限があり、それを超えています。メモリー制限を DB2 ライセンス・ツールで変更することはできません。

ユーザーの処置: IBM 担当員または認定販売店に連絡して、このシステムで実行するためのライセンス交付を受けられる製品を入手してください。

ADM12026W 製品 *product-name* のための有効なライセンスが登録されていないことが、**DB2** サーバーによって検出されました。

説明: 使用条件の条項に準拠するためには、有効なライセンス・キーの登録が必要です。この製品のライセンス・キーは、この製品のアクティベーション CD の「license」ディレクトリー内にあります。

ユーザーの処置: 購入した適切なライセンスを登録するには、**db2licm** コマンド (`sqlib¥bin` (Windows の場合) または `sqlib/adm` (Unix および Linux の場合) から `db2licm -a license-file-name` を実行) を使用します。ご使用条件の本文は、この製品のインストール・ディレクトリーの「license」ディレクトリーにあります。

ADM12027E このサーバーのメモリー量は *product-name* 製品に定義された *limit* (GB) の制限値を超えています。このサーバーのメモリー量は *memory* (GB) です。

説明: DB2 インスタンスが、製品ライセンスで指定されている量より多くのメモリーを DB2 に割り振って使用しようとしています。DB2 で使用できるメモリーの量は、ライセンスによって制限されています。

ユーザーの処置: サーバーのメモリー容量を最大限に活用するには、IBM 担当員または認定販売業者に連絡して、ライセンスされるメモリーの上限がより高い DB2 のエディションを入手してください。

第 25 章 ADM12500 - ADM12999

ADM12500E 1 次データベースに対して HADR スタンバイ・データベースを整合させることができません。スタンバイ・データベースのログ・ストリームは、1 次データベースのものと互換性がありません。このデータベースをスタンバイとして使用するには、1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーから作成し直さなければなりません。

ADM12501E 1 次とスタンバイのデータベースで、オペレーティング・システムが一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。1 次データベースまたはスタンバイ・データベースを別のホストに移動するか、または一方のホストのオペレーティング・システムをアップグレードして、もう一方のホストに一致させてください。

ADM12502E 1 次データベースとスタンバイ・データベースで、DB2 のバージョンが一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。HADR 1 次データベースまたは HADR スタンバイ・データベース上で DB2 ソフトウェアを同じリリースとフィックスパックにアップグレードして、相互に一致するようにします。

ADM12503E 1 次データベースとスタンバイ・データベースで DB2 ビット・レベル (32 ビット対 64 ビット) が一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。1 次データベースまたはスタンバイ・データベースのビット・レベルを変更して、相互に一致するようにしてください。

ADM12504E あるインスタンスの HADR_REMOTE_INST の値が、他のインスタンスの実際のインスタンス名と一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。これは、意図したデータベースのみのペア化が行われたことを確認する正常性検査です。いずれかの HADR_REMOTE_INST 構成パラメーターまたはインスタンス名の設定が正しくない場合は、訂正してから HADR の開始を再試行できます。

ADM12505E データベース名が一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。データベース名を訂正して、HADR 1 次と HADR スタンバイ間で一致するようにしてください。

ADM12506E 1 次データベースとスタンバイ・データベースは、同一のデータベースを起点としていないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーからスタンバイを作成し直してください。

ADM12507E HADR 構成パラメーターが一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。HADR 1 次またはスタンバイ上で構成パラメーター HADR_TIMEOUT および HADR_SYNCMODE を変更して、これらのパラメーターが相互のシステム値に一致するようにしてから、HADR_LOCAL_HOST と HADR_REMOTE_HOST がローカル・マシンとリモート・マシンのホスト名に必ず一致するようにします。

ADM12508W ディスクが満杯の状態であるため、HADR スタンバイ・データベースでログの受信が中断されました。1 次データベースおよびスタンバイ・データベースがピア状態であり、同期モードが SYNC、NEARSYNC、または ASYNC HADR である場合は、1 次側でのトランザクションがブロックされる可能性があります。

説明: スタンバイ・データベースは 1 次データベースからログ・データをこれ以上受信できません。これは、スタンバイ側のディスクが満杯の状態であるためです。ログが 1 次側でアーカイブされており、コミットされていないトランザクションが所定のログ・ファイル内またはその前において開始されていない場合、スタンバイ側では、ログの再生が終了した後にディスク・スペースが自動的に解放されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- スタンバイ側が 1 次側にキャッチアップするまで待機します。古いログがスタンバイ側で再生され、1 次側でアーカイブされた後に解放されると、スタンバイ側でログの受け取りが再開されます。
- スタンバイ側でログ用のディスク・スペースを増やします。ログは削除しないでください。削除操作は DB2 によって自動的に処理されます。

スタンバイ側でディスクが満杯の状態にあるために 1 次側がブロックされた場合は、このエラーが今後発生しないように SUPERASNYC HADR 同期モードを使用することを検討してください。

ADM12509E HADR で異常な状態が検出されました。

理由コード: *reason-code*

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

HADR 1 次データベースは、スタンバイ側で要求されたログ・ファイルを見つけることができません。HADR では、1 次側およびスタンバイ側の切断と再接続により、この状態からの回復が試行されます。再接続ごとに、ファイルへのアクセスが試行されますこれらの再試行は、他のログ・ファイルの使用と競合することなど、一時的エラーの回避に役立ちます。

2

HADR スタンバイ側は、不適切なログ・ページを受信しました。HADR では、1 次側およびスタンバイ側の切断と再接続により、この状態か

らの回復が試行されます。これらの再試行は、一時的エラーの回避に役立ちます。

3

HADR 1 次側は、スタンバイ側への接続を切断しました。これは、1 次側でピア限度に達したためです。この状態は、スタンバイ側またはネットワークで、1 次側のワークロードに対応できていないことを示しています。1 次側は、スタンバイ側から切断されて、ブロック解除されます。スタンバイ側は、受信したログを再生してから 1 次側に再接続します。このペアは、1 次ログ書き込みがブロックされないリモート・キャッチアップ状態から開始されます。

4

HADR スタンバイ側は、ログ書き込みディスクが満杯であり、再利用可能なスペースもないため、シャットダウンしています。スタンバイ側のログ装置は、1 次側で生成されるログを保持するのに十分な容量がありません。

5

HADR スタンバイが、必要な 1 つ以上のログ・ファイルにアクセスできませんでした。アクセス障害の原因として、ユーザーによるログ・ファイルの削除や、ログ装置上の入出力エラーなどが考えられます。HADR スタンバイは自動的にログ・ファイルを管理するため、それらが手動で削除されたり変更されたりしないように常に注意してください。HADR スタンバイでは、欠落しているログ・ファイルからのリモート・キャッチアップが開始されて、この状態からの回復が試行されます。

6

1 次データベースがもう 1 つ検出されました。

99

致命的エラーが発生しました。データベースをシャットダウンしています。

ユーザーの処置: 1 次側からのより新しいバックアップ・イメージを使用してスタンバイを再作成するか、または理由コードに応じて以下のユーザー応答を実行してください。

1

ログ・ファイルにアクセスする試みが失敗し続ける場合は、db2diag.log ファイルでそのファイル番号を探し、ファイルが見つからない原因を突き止めます。この問題は、ファイルが非常に古くてアーカイブから削除された場合、または

- メディアの障害が発生した場合に発生することがあります。原因に応じて、以下のように対応できます。
- 当該ファイルをログ・パスまたはアーカイブに戻します。
 - 障害が発生したメディアを修復します。
- 2**
- エラー状態が解消されない場合は、根本原因を突き止め、適切な修正を行ってから、データベースで HADR の開始を試みます。
- 3**
- 以下のいずれかのアクションを行います。
- DB2_HADR_PEER_WAIT_LIMIT レジストリ変数の設定値を引き上げます。
 - 1 次側のワークロードを削減します。
 - ネットワークをチューニングまたはアップグレードします。
 - スタンバイ側をチューニングまたはアップグレードします。
- 4**
- ログ装置の容量を増やして、スタンバイ側を再始動します。
- 5**
- 1 次側のファイルを要求して、スタンバイがリカバリーできるようにする必要があります。エラー状態が続く場合は、根本原因を突き止め、適切な修正を加えます。
- 6**
- 1 次データベースとするデータベースを決定します。もう一方の 1 次データベースはドロップするか、またはスタンバイへの変換を試行します。両方を 1 次にする場合は、互いの *hadr_target_list* からそれらを除去することにより、それらを独立したものとなるようにする必要があります。
- 99**
- 根本原因を突き止め、適切な修正を行ってから、データベースの開始を試みます。
- リモート・データベースにおける構成パラメータ *hadr_remote_host* および *hadr_remote_service* の設定値が、ローカル・データベースにおける構成パラメータ *hadr_local_host* および *hadr_local_service* の設定値と一致していません。
- 2**
- ローカル・データベースにおける構成パラメータ *hadr_remote_host* および *hadr_remote_service* の設定値が、リモート・データベースにおける構成パラメータ *hadr_local_host* および *hadr_local_service* の設定値と一致していません。
- 3**
- 一部の HADR データベースで *hadr_target_list* 構成パラメータが構成されていません。
- 4**
- 複数待機モードでローカル・データベースを HADR スタンバイとして始動できません。これは、その *hadr_target_list* 構成パラメータの設定で、HADR 1 次データベースのローカル・ホスト名およびローカル・サービス名が指定されていないためです。
- 5**
- hadr_timeout* 構成パラメータの設定値が、ローカル・データベースとリモート・データベースで異なります。
- 6**
- hadr_syncmode* 構成パラメータの設定値が、ローカル・データベースとリモート・データベースで異なります。1 次側とは異なる同期モードにすることができるのは、複数スタンバイ・セットアップにおける補助スタンバイ・データベースのみです。
- 7**
- hadr_peer_window* 構成パラメータの設定値が、ローカル・データベースとリモート・データベースで異なります。
- 8**
- スタンバイ・データベースが *superAsync* 同期モードで稼働していないため、遅延再生を有効にすることができません。複数スタンバイ・セットアップでは、基本スタンバイ側の有効な同期モードは、1 次側での *hadr_syncmode* 構成パラメータの設定値で決まります。

ADM12510E HADR の 1 次側とスタンバイ側の接続を確立できません。理由コード: *reason-code*

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1

ユーザーの処置: 理由コードに対応するユーザー応答は、以下のとおりです。

1

リモート・データベースで、`hadr_remote_host` 構成パラメーターをローカル・データベースのローカル・ホスト名 (`hadr_local_host` 構成パラメーターで指定) に設定し、`hadr_remote_svc` 構成パラメーターをローカル・データベースのローカル・サービス名 (`hadr_local_host` 構成パラメーターで指定) に設定します。

2

ローカル・データベースで、`hadr_remote_host` 構成パラメーターをリモート・データベースのローカル・ホスト名 (`hadr_local_host` 構成パラメーターで指定) に設定し、`hadr_remote_svc` 構成パラメーターをリモート・データベースのローカル・サービス名 (`hadr_local_host` 構成パラメーターで指定) に設定します。

3

`hadr_target_list` 構成パラメーターを、すべての HADR データベースで構成するか、またはどの HADR データベースでも構成しないようにします。

4

ローカル・データベースの `hadr_target_list` 設定で、HADR 1 次データベースのローカル・ホスト名およびローカル・サービス名を指定します。

5

すべての HADR データベースで `hadr_timeout` 構成パラメーターの設定値が同じであることを確認します。

6

1 次側およびスタンバイ側の HADR データベースで `hadr_syncmode` 構成パラメーターの設定値が同じであることを確認します。

7

1 次側およびスタンバイ側の HADR データベースで `hadr_peer_window` 構成パラメーターの設定値が同じであることを確認します。

8

複数待機モードにおいて、`hadr_replay_delay` 構成パラメーターが補助スタンバイ側で構成されていることを確認します。

ADM12511W HADR スタンバイ・データベースが、ログ・ファイル `log-file-name` を取り出そうとしたときに、ログ・アーカイブにアクセスできませんでした。

説明: スタンバイ・データベースがログ・アーカイブからログ・ファイルを取り出そうとして、エラーが発生しました。このエラーは致命的ではありません。スタンバイ・データベースは、リモート・キャッチアップ状態になって、1 次データベースからファイルを獲得しようとします。

ユーザーの処置: 以下のようにして、スタンバイ・データベースがログ・アーカイブにアクセスできない理由を調査してください。

- LOGARCHMETH1 と LOGARCHMETH2 の構成が正しいことを確認します。
- スタンバイ・マシンおよびインスタンス所有者がログ・アーカイブ装置にアクセスできることを確認します。
- アーカイブに含まれているログ・ファイルのログ・チェーンが正しいことを確認します。

特に、今後このデータベースでテークオーバーを実行して 1 次データベースにする必要が生じる可能性がある場合には、この問題を解決することは重要です。1 次データベースにした後は、アクティブ・ログ・パス内のディスク・スペースを使い果たさないように、アーカイブ装置にアクセスできなければなりません。

ADM12512W 表スペース `tablespace_name` (ID

`tablespace_id`) の状態が `tablespace_state` になっているため、HADR スタンバイ上のログの適用がこの表スペース上で停止しています。

説明: エラーのために、スタンバイ・データベースがこの表スペース上でログ・レコードを再生できなくなりました。このデータベースが 1 次ロールをテークオーバーする場合、この表スペース内のデータを使用できません。引き続きスタンバイ・データベースは、1 次側から提供されるログを他の表スペースで再生します。

ユーザーの処置: 以下のような考えられる原因を調査して解決します。

- ファイル・システムがマウントされていない。
- スタンバイが一部のコンテナにアクセスできないか、そのコンテナの大きさが十分でない。
- スタンバイがロード・コピー・イメージを見つけれないか、そこにアクセスできない。

第 26 章 ADM13000 - ADM13499

ADM13000E プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を GSS (Generic Security Service) API *GSS-API-name* から受信しました。

ADM13001E プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を DB2 セキュリティー・プラグイン API *GSS-API-name* から受信しました。

ADM13002E プラグイン *plugin-name* をアンロードできませんでした。 これ以上のアクションは不要です。

ADM13003E *plugin-name* で使用されているプリンシパル名 *principal-name* が無効です。 プリンシパル名が有効なものであり、セキュリティー・プラグインの認識する形式であることを確認してください。

ADM13004E プラグイン名 *plugin-name* が無効です。有効なプラグイン名を指定してください。

ADM13005E プラグイン *plugin-name* をロードできませんでした。 このプラグインが存在していて、そのディレクトリーの位置とファイル・アクセス許可が有効であることを確認してください。

ADM13006E プラグイン *plugin-name* で予期しないエラーが検出されました。 IBM サポートに連絡してください。

第 27 章 ADM13500 - ADM13999

ADM13500E 非同期バックグラウンド・タスク・プロセッサーを実行しているエージェントが、リカバリー不能エラーを検出しました。タスク・プロセッサーは中断し、診断情報が `db2diag` ログ・ファイルに書き込まれました。IBM サポートに連絡してください。タスク・プロセッサーのコンテキストは `address` です。タスク・プロセッサーの説明は `description` です。

第 28 章 ADM14000 - ADM14499

ADM14000E DB2 は、診断ログ・ファイル *filename* をオープンできません。コマンド "db2diag -rc *rcList*" を実行して、さらに情報を入手してください。

ADM14001C 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。結果として、インスタンスがシャットダウンしている可能性があります。 *capture-type* FODC (First Occurrence Data Capture) が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

ADM14002C 症状 *error-type* に関する *capture-type* FODC が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

ADM14003W 症状 *symptom* に関する FODC が *db2fodc* ツールからユーザーによって呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

ADM14004C EDU データベース *database-name* は、不正とマークされています。 *capture-type* FODC が呼び出され、診断情報がディレクトリー *parameter* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

ADM14005E 次のエラーが発生しました: *symptom*。
First Occurrence Data Capture (FODC) が次のモードで呼び出されました:
capture-mode。診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。

説明: First Occurrence Data Capture (FODC) は、エラー発生時に DB2 Administration Server が自動的にキャプチャーする一連の診断情報を指す一般的な用語です。

FODC について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターで「First Occurrence Data Capture (FODC)」を検索してください。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリー内のログ・ファイル、ダンプ・ファイル、トラップ・ファイルなどの診断情報を検討してください。

ADM14010C 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。 *capture-type* **First Occurrence Data Capture** が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。

説明: このインスタンスに関連付けられた 1 つ以上の DB2 スレッドが中断されていますが、インスタンス・プロセスは引き続き実行中です。DB2 インスタンスは不安定になる可能性があり、一度停止して再始動させる必要があります。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスを安定した状態に戻すためには、コマンド・プロンプトで以下のコマンドを実行して、インスタンスを停止および再始動させます。

db2_kill

db2start

可能な限り、DB2 インスタンスがどのアプリケーションからもアクセスされなくなるまで待つてから db2_kill コマンドを発行するようにしてください。db2_kill を使用すると、次に db2start を実行する際にクラッシュ・リカバリーの処理が行われてしまう場合があります。

発生状況に関する詳しい証拠を取得するには、名前の示されたディレクトリー内を調査してください。そして、必要な場合は、問題を診断するために IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ADM14011C 重大な障害により、次のタイプのエラーが発生しました: *error-type*。DB2 データベース・マネージャーはこの障害からリカバリーできません。First Occurrence Data Capture (FODC) が次のモードで呼び出されました: *capture-type*。FODC 診断情報は次のディレクトリーにあります: *directory-name*。

説明: First Occurrence Data Capture (FODC) は、エラー発生時に DB2 Administration Server が自動的にキャプチャーする一連の診断情報を指す一般的な用語です。FODC について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『First Occurrence Data Capture (FODC)』を参照してください。

サポートされているすべてのプラットフォーム上の DB2 エンジンにはトラップ回復力機能があるので、DB2 インスタンスが実行し続けられるようにするために、特定のコード・トラップやセグメンテーション違反に対応することができます。持続されたトラップについては詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『持続されたトラップからのリカバリー』を参照してください。

トラップ回復力が使用可能になっているにもかかわらず、データベース・マネージャーがリカバリーできないクリティカル・エラーによるトラップがある場合に、このメッセージが戻されます。

DB2 データベース・マネージャーはインスタンスを停止します。

ユーザーの処置: 1. 名前の指定されたディレクトリーから FODC 診断情報を収集します。
2. IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を診断します。

ADM14012C 重大な障害により、次のタイプのエラーが発生しました: *error-type*。DB2 データベース・マネージャーはこの障害からのリカバリーを試行します。First Occurrence Data Capture (FODC) が次のモードで呼び出されました: *capture-type*。FODC 診断情報は次のディレクトリーにあります: *directory-name*。

説明: First Occurrence Data Capture (FODC) は、エラー発生時に DB2 Administration Server が自動的にキャプチャーする一連の診断情報を指す一般的な用語です。FODC について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『First Occurrence Data Capture (FODC)』を参照してください。

サポートされているすべてのプラットフォーム上の

DB2 エンジンにはトラップ回復力機能があるので、DB2 インスタンスが実行し続けられるようにするために、特定のコード・トラップやセグメンテーション違反に対応することができます。持続されたトラップについては詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『持続されたトラップからのリカバリー』を参照してください。

トラップがクリティカル・エラーによるもので、トラップ回復力が使用可能になっているので DB2 データベース・マネージャーが障害からのリカバリーを試行する場合に、このメッセージが戻されます。

DB2 データベース・マネージャーはインスタンスを停止します。

ユーザーの処置: DB2 データベース・マネージャーは障害からのリカバリーを試行しますが、次のステップを実行して障害の発生理由を診断することが重要です。

1. 名前の指定されたディレクトリーから FODC 診断情報を収集します。
2. IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を診断します。

ADM14013C 次のタイプのクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。現行の DB2 インスタンスと関連する 1 つ以上のスレッドが中断されましたが、インスタンスのプロセスは実行を続けているために、このエラーが発生しました。First Occurrence Data Capture (FODC) が次のモードで呼び出されました: *capture-type*。FODC 診断情報は次のディレクトリーにあります: *directory-name*。

説明: First Occurrence Data Capture (FODC) は、エラー発生時に DB2 Administration Server が自動的にキャプチャーする一連の診断情報を指す一般的な用語です。FODC について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『First Occurrence Data Capture (FODC)』を参照してください。

DB2 データベース・マネージャーがオペレーティング・システムのスレッドおよびプロセスを使用する方法については詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『DB2 プロセス・モデル』を参照してください。持続されたトラップについては詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『持続されたトラップからのリカバリー』を参照してください。

ユーザーの処置:

1. タイムアウト期間内に COMMIT または ROLLBACK を発行するアクティブ・アプリケーションをすべて終了するには、次のコマンドを発行し

ます。これにより、db2start コマンドの実行時にクラッシュ・リカバリーに関するリカバリー時間枠が最小化されます。

```
db2 quiesce instance <instance_name>
  user <user_name>
  defer with timeout <minutes>
```

2. [オプション] ステップ 1 でタイムアウト期間中に COMMIT または ROLLBACK を発行しなかったアプリケーションと、タイムアウト期間の完了後にデータベースにアクセスした新規アプリケーションを終了するには、次のコマンドを発行します。

```
db2 quiesce instance <instance_name>
  user <user_name>
  immediate
```

3. 次のコマンドを実行して、インスタンスおよび中断状態の EDU を強制的にシャットダウンします。

```
db2_kill
```

注: インスタンスに持続されたトラップがある場合は、db2stop コマンドを発行しても完了しません。

4. 次のいずれかのコマンドを使用して、DB2 インスタンスを再始動します。

```
db2start
```

または

```
START DATABASE MANAGER
```

ADM14014C 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。このエラーのため、メンバー *member-id* 上の *resource-or-service-name* リソースまたはサービスの使用可能性に影響が及ぶ場合があります。

説明: 1 つ以上の DB2 スレッドで予期しないエラーが発生しましたが、DB2 メンバーは引き続き実行されています。このエラーにより、影響を受けたデータベースの特定のリソースまたはサービスの使用可能性に影響が及ぶ場合があります。データベースは引き続き使用可能ですが、特にアプリケーションがその特定のリソースまたはサービスに依存している場合は、最適なサービスを提供できない可能性があります。

ユーザーの処置: データベースを安定した状態に復元するには、以下のコマンドを使用して、このメンバー上のすべてのアプリケーションを停止し、このメンバーの DB2 インスタンスを強制的に再始動します。

1. db2stop member <member-id>
quiesce <timeout_minutes>

既存のアプリケーションには、強制的にオフにされる前に次のコミット・ポイントまたはロールバック・ポイントに達するように、最大

<timeout_minutes> が与えられます。指定された <timeout_minutes> の後に、残っているすべてのアプリケーションは強制終了されます。

2. db2start member <member-id>

発生した状況に関する追加の証拠を取得するには、影響を受けた DB2 メンバーの DIAGPATH を調査してください。そして、必要な場合は、問題を診断するために IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

第 29 章 ADM14500 - ADM14999

ADM14500E 表 *schema.table* に対する据え置き索引ク
リーンアップに必要なメモリーを割り振る
ことができません。このステートメントに
関する即時クリーンアップ・ロールアウト
を使用する場合は、
DB2_MDC_ROLLOUT レジストリー変数
を **ON** に設定するか、**CURRENT**
ROLLOUT MODE 特殊レジスターを使
用して、ステートメントを再実行してくだ
さい。

第 30 章 ADM15000 - ADM15499

ADM15000E ファイル *logfileName* に読み取りアクセスできません。このファイルと関連装置に関するアクセス許可を確認してください。

ADM15001E ファイル *logfileName* のアクセス中に、エラーが戻されました。ファイルが存在し、装置またはファイルがアクセス可能かどうか、確認してください。

第 31 章 ADM15500 - ADM15999

ADM15500E INSPECT コマンド中に、表 *schema-name.table-name* で索引データの不整合が検出されました。DB2 サポート・チームに連絡して、問題を報告してください。

ADM15501W 管理用タスク・スケジューラーは、タスク *task-id* の実行を防止していた一時リソース制約を検出しました。スケジューラーは、*retry-interval* 秒ごとに再試行します。

ADM15502W データベースが非アクティブであるため、管理用タスク・スケジューラーはタスク *task-id* を実行できませんでした。

ADM15503E 管理用タスク・スケジューラーは、データベース *database-name* にセキュリティ・エラーを検出しました。このデータベースでは、スケジュール済みタスクが実行されません。タスクの実行を再開するには、SYSTOOLS.ADMINTASKS および SYSTOOLS.ADMINTASKSTATUS 表をドロップして、SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD ストアド・プロシージャを使用してこのデータベース上のスケジュール済みタスクをすべて再作成します。

ADM15510E INSPECT コマンドは、*schema-name.table-name* という名前のマルチディメンション・クラスタリング (MDC) 表に含まれるブロックで、行の内容が矛盾していることを検出しました。

説明: MDC 表のコンテキストでは、ブロックはディスク上の連続ページのセットです。MDC 表では、検索速度とパフォーマンスを高めるために、表データの行のうち同じ索引が含まれる行は、ディスク上のこうしたブロックと一緒にクラスタ化されます。

INSPECT コマンドは、このメッセージで名前が示されている表のブロック索引を検査中に、ブロック索引のエントリによると無効な行を 1 つ以上のブロックで見つけました。これが起こる原因として、ディスク・エラーやデータ破壊など、さまざまなことが考えられます。

ユーザーの処置: このエラーの詳細については、

db2diag ログ・ファイルを参照してください。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

第 32 章 ADM16000 - ADM16499

ADM16000W アタッチ操作の後、非パーティション索引が定義されているパーティション表に対して実行されている SET INTEGRITY...ALL IMMEDIATE UNCHECKED ステートメントが、SET INTEGRITY...ALLOW WRITE ACCESS IMMEDIATE CHECKED ステートメントのように実行されています。 SET INTEGRITY 操作は、新たにアタッチされるパーティションのデータが組み込まれるように索引を更新します。また、表で定義されているその他すべての非パーティション索引の制約チェック、範囲の妥当性検査、および保守の実行も行います。

第 3 部 AMI メッセージ

第 33 章 AMI0000 - AMI0499

AMI0016E メモリー不足です。

説明: 要求された操作を完了するために必要なメモリーがありません。

ユーザーの処置: Message Query (MQ)、MQ Application Messaging Interface (AMI)、および DB2 プログラムに十分なメモリーが割り振られており、使用できる状態になっていることを確認してください。

AMI0018E サービスが見つかりません。

説明: 指定されたサービスが見つかりません。要求は完了しません。サービスは以下のいずれかである可能性があります。

- sender
- receiver
- distribution list
- publisher
- subscriber

ユーザーの処置: 使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリ・ファイルにサービス定義が含まれていることを確認してください。

AMI0019E メッセージが見つかりません。

説明: 指定されたメッセージが見つかりません。要求は完了しません。

ユーザーの処置: メッセージが使用可能なことを確認してください。

AMI0020E ポリシーが見つかりません。

説明: 指定されたポリシーが見つかりません。要求は完了しません。

ユーザーの処置: 使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリ・ファイルにポリシー定義が含まれていることを確認してください。

AMI0035E 使用できるメッセージがありません。

説明: 指定された待機時間の後、受信要求に使用できるメッセージがありません。これは、ターゲット・キューが空の場合に生じます。

ユーザーの処置: メッセージがターゲット・キューに存在することを確認してください。

AMI0049E トランスポート・エラー。

説明: 基礎となる (MQSeries) メッセージ・トランスポート層がエラーを報告しています。指定された AMI オブジェクトに関する GetLastError 要求から戻される 2 次理由コード値によって、メッセージ・トランスポート理由コードを取得できます。詳細については、*Application Messaging Interface* の『問題の共通原因 (Common causes of problems)』を参照してください。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) サービスまたはポリシーの参照先となる基礎 MQ オブジェクト (特にシステム・キュー、ユーザー・キュー) を作成していることを確認してください。これらのオブジェクトの名前は大小文字の区別があることに注意してください。q1 という名前のキューは Q1 と同じではありません。さらに、キューの属性がメッセージを処理するのに十分であることを確認してください。たとえば、MAXMSGL の大きさがメッセージ・サイズを扱うために十分であることを確認します。Publish または Subscribe 関数が失敗する場合、MQ メッセージ・ブローカーが開始されていることを確認します。

AMI0109E ユーザーが許可されていません。

説明: ユーザーは、基礎となるトランスポート層によって、指定された要求の実行を許可されていません。

ユーザーの処置: UDF のユーザーが適切な許可を得ていることを確認してください。これは通常、ユーザー ID がグループ mqm のメンバーでなければならないことを意味します。

AMI0110E トランスポートを使用できません。

説明: 基礎となるトランスポート層は使用できません。

ユーザーの処置: キュー・マネージャーが実行中であることを確認してください。

AMI0402E ホスト・ファイルが見つかりません。

説明: 指定された名前のローカル・ホスト・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル amthost.xml が存在していて、正しいディレクトリに置かれていることを確認してください。

AMI0405E ポリシーがリポジトリにありません。

AMI0406E

説明: リポジトリにない定義名を使ってポリシーを作成しました。ポリシーはデフォルト値を使って作成されます。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) ポリシーがリポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0406E sender がリポジトリにありません。

説明: リポジトリに見つからない定義名を使用して sender を作成しました。sender はデフォルト値を使って作成されます。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) sender サービスがリポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0407E receiver がリポジトリ内にありません。

説明: リポジトリに見つからない定義名を使用して receiver を作成しました。receiver はデフォルト値を使って作成されます。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) receiver サービスがリポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0409E publisher がリポジトリにありません。

説明: リポジトリに見つからない定義名を使用して publisher を作成しました。publisher はデフォルト値を使って作成されます。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) publisher サービスがリポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0410E subscriber がリポジトリ内にありません。

説明: リポジトリに見つからない定義名を使用して subscriber を作成しました。subscriber はデフォルト値を使って作成されます。

ユーザーの処置: Application Messaging Interface (AMI) subscriber サービスがリポジトリ・ファイルに定義されていることを確認してください。

AMI0416E リポジトリ・エラー。

説明: リポジトリの初期化またはアクセス時にエラーが戻されました。発生理由として、以下が考えられます。

- XML リポジトリ・ファイル (たとえば、amt.xml) に無効なデータが含まれている。

- DTD ファイル (*.dtd) が見つからないか、無効なデータを含んでいる。
- リポジトリを初期化するのに必要なファイルが見つからない。これらのファイルは通常、intlFiles ディレクトリおよび locales ディレクトリにあります。

ユーザーの処置: 通常、これは XML パーサー・エラーの結果です。適正な amt.dtd ファイルが使用されており、amt.xml ファイルと一致することを確認してください。

AMI0418E リポジトリが見つかりません。

説明: リポジトリ・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: リポジトリ・ファイルがデフォルトのロケーションにある、または環境変数 AMT_DATA_PATH で指定されているパスにあることを確認してください。

AMI0419E トランSPORT・ライブラリー・エラー。

説明: トランSPORT・ライブラリーのロード中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: MQSeries および AMI ライブラリーが正しくインストールされていることを確認してください。MQ および AMI には、このソフトウェアが正常にインストールされていることを確認するために使用できるサンプル・プログラムが用意されています。

AMI0424E DTD ファイルが見つかりません。

説明: AMI dtd ファイル (amt.dtd) が XML リポジトリ・ファイルと同じディレクトリに見つかりません。

ユーザーの処置: amt.dtd ファイルがリポジトリ・ファイル amt.xml と同じディレクトリにあることを確認してください。ロケーションは環境変数 AMT_DATA_PATH を使用して定義できます。

第 4 部 レプリケーション・メッセージ

第 34 章 ASN0000 - ASN0499

ASN0004E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、トレースを開始できませんでした。戻りコードは *return_code*。理由コードは *reason_code*。

説明: START TRACE DB2 コマンドが発行されたとき、またはキャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: メッセージの DB2 コード・セクション、およびご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーのコード資料を参照して適切な理由コードを見つけてください。詳しくは、次のいずれかの管理資料 - 「START TRACE DB2 エラーの呼び出し接続機能 (CAF)」、または「DB2 ログ読み取りエラーの計測機能インターフェース (IFI)」を参照するか、または DBA に連絡してください。CAF または IFI がメッセージを戻した場合は、それもシステムのディスプレイ・コンソールに表示されます。

ASN0005E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、DB2 ログの読み取り中に、エラーを検出しました。ログのシーケンス番号は *lsn*、SQLCODE は *sql_return_code*、理由コードは *reason_code* です。

説明: キャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。SQL エラーがある可能性があります。

- DB2 レプリケーションの場合、*sqlcode* 値は非同期読み取りログ API 用です。
- キャプチャー (VSE 版) の場合、*sqlcode* は VSE/VSAM GET マクロ用です。
- キャプチャー (VM 版) の場合、*sqlcode* は Diagnose X'A4' 用です。

ユーザーの処置: 適切な理由コードについては、以下のリストの提案に従って、ご使用のオペレーティング・システム用の DB2 データベース・マネージャーのメッセージおよびコードの資料の DB2 コード・セクションを参照してください。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) については、ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーの管理資料の中の「計測機能インターフェース (IFI)」の項を参照するか、または DBA に連絡してください。

- キャプチャー (VSE 版) の詳細については、「VSE/VSAM コマンドおよびマクロ」、「VSE/ESA システム・マクロ・リファレンス」および「VSE/ESA V2R3 メッセージおよびコード・マニュアル」を参照してください。
- VM/ESA の場合、詳しくは、「VM/ESA Programming Services」を参照してください。
- Linux、Windows、および UNIX でのキャプチャーについては、DB2 のアクティブおよびアーカイブ・データベース・ログ管理資料を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートにご連絡ください。

ASN0006E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、予期しない不明ログ・バリエーションのログ・エラーを検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムが DB2 ログ・レコードを処理中に、予期しないログ・エラーが発生し、次のいずれのインターフェースによっても報告されませんでした。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) 用計測機能インターフェース (IFI)
 - キャプチャー・プログラム用非同期ログ読み取り API
- キャプチャー・プログラムは、どのタイプの SQL 更新がこのログ・レコードと関連付けられているのかを判断できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0008I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが停止されました。

説明: キャプチャー・プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0009E CAPTURE *capture_schema*. 登録済みソース表 *src_owner.src_table* には DATA CAPTURE CHANGES 属性がありません。

説明: 登録を初期化しようとして、キャプチャー・プログラムは、誤って定義されたソース表を検出しました。ソース表の DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されていない場合、キャプチャー・プログラムはそのソー

ASN0011E

ス表と関連付けられたログ・レコードを処理できません。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプション・セットの最初の CAPSTART シグナルを受信したときに発行されます。このエラーが CAPSTART シグナルの処理中に発生した場合、キャプチャー・プログラムはその登録を活動化しません。このエラーが (ウォーム・スタートまたはキャプチャーの REINIT コマンドから) の再初期設定中に発生した場合は、キャプチャー・プログラムはその登録を「停止」状態に置き、アプライ・プログラムが関連するサブスクリプション・セットと再同期化する前にその登録の修正が必要であることを示します。

ユーザーの処置:

1. ソース表を変更して、データ・キャプチャー変更をオンにしてください。例えば:
 - `alter table regress.table3 data capture changes`
2. キャプチャー・プログラムによって登録が非活動化された (状態 = 停止済み) 場合、登録を更新して状態を非アクティブに設定します。
3. レプリケーション・センターを使って、このソース表から複製するすべてのサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行するよう、アプライ・プログラムに強制します。

ASN0011E CAPTURE *capture_schema*. 圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 コンプレッション・ディクショナリーが現在存在していないため、キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。読み取れなかったログ・レコードは、登録済みソース表 `table_owner.table_name` のものです。理由コードは `reason_code`。

説明: キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取りインターフェースからエラーを受け取りました。理由コードは、DB2 からのもので、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。それは、対応する DB2 表または表スペースのコンプレッション・ディクショナリーを恒久的に使用できなくなったからです。このソース表を含む圧縮表または表スペースは、おそらく KEEPDICTIONARY オプションなしで実行された REORG ユーティリティによって再編成されました。キャプチャー・プログラムは、再編成の前に生じたソース表の変更について、残りの圧縮されたログ・レコードを読み取ることができません。キャプチャー・プログラムは、この登録に関して、「エラーでキャプチャーを停止」(レプリケーション・センター) または STOP ON ERROR (ASNCLP コマンド行プログラム) で指定されたオプションに従います。

ユーザーの処置: 登録において、エラー時にキャプチャーを停止するよう指定したかどうかに応じて、以下のいずれかのアクションをとります。

いいえ

アクションは不要です。キャプチャー・プログラムは登録を非活動化します。アプライ・プログラムは登録を再活動化し、ターゲット表のフル・リフレッシュを実行します。

はい

登録を非活動化してから、キャプチャー・プログラムを再始動します。アプライ・プログラムは登録を再活動化し、ターゲット表のフル・リフレッシュを実行します。

ASN0013E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムで、変更データ (CD) 表に定義されていない列が必要です。表名は `table_name`。

説明: CD 表の必須列が定義されていません。

ユーザーの処置: CD 表の定義が正しいことを確認してください。

ASN0019E CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラム・ライブラリーが、許可プログラム機能 (APF) に対して許可されていません。

説明: キャプチャー・プログラムは開始できません。

ユーザーの処置: APF に対するキャプチャー・リンク・ライブラリーを許可して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0020I CAPTURE *capture_schema*. Netview 総称アラート・インターフェースの障害。Netview 戻りコードは `return_code` です。

説明: プログラム・インターフェースが失敗したため、プログラムにより Netview に Network Major Vector Transport (NMVT) を送信できませんでした。これは、2 次情報メッセージです。

ユーザーの処置: インターフェース・エラーを判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。キャプチャー・プログラムのアラートは、エラーが訂正されるまでシステム・サービス・コントロール・ポイント (SSCP) に受信されません。

ASN0021I **CAPTURE** *capture_schema*. Netview のプログラム間インターフェースを使用できません。 Netview 戻りコードは *return_code* です。

説明: Netview が使用できません。これは、2 次情報メッセージです。

ユーザーの処置: Netview の問題を判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。例えば、サブシステムが開始されていない可能性があります。

ASN0023I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが再初期化され、*number* 登録に対する変更をキャプチャーしています。 *Stopped_number* 登録は停止状態です。 *Inactive_number* 登録は非アクティブ状態です。

説明: キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドが発行されました。これによって、キャプチャー・プログラムはすべての登録に関する内部コントロール情報のフル・リフレッシュを試行しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更をキャプチャーしている場合、アクションは不要です。それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。登録を修正したら、キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドを再発行します。

ASN0028I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより中断されました。

説明: オペレーター・コマンドがキャプチャー・プログラムを中断したため、プログラムは待ち状態に入りました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0029I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより再開されます。

説明: オペレーター・コマンドが中断状態からキャプチャー・プログラムを再開し、キャプチャー・プログラムが実行を続けました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0031E **CAPTURE** *capture_schema*. プログラム・パラメーター表 **IBMSNAP_CAPPARMS** は、1 つの行しか持てません。

説明: キャプチャー・プログラム・パラメーター表が正しく定義されていないか、または無効な行で更新されました。

ユーザーの処置: IBMSNAP_CAPPARMS 表に 1 行しかないことを確認してください。詳しくは、「SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」の中の表構造についての記述を参照してください。

ASN0035E **CAPTURE** *capture_schema*. 表 **IBMSNAP_REGISTER** でサポートされないアーキテクチャー・レベルの行が検出されました。無効な行は **CD** 表 *cd_owner.cd_table* を指定しており、アーキテクチャー・レベルは *arch_level* です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義に無効なアーキテクチャー・レベルが含まれていることを発見しました。キャプチャー・プログラムは、互換性のあるアーキテクチャー・レベルの登録だけを使用できます。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: ソース・サーバーにある IBMSNAP_REGISTER 表の ARCH_LEVEL 列の値が正しいことを確認してください。キャプチャー・プログラムが予期するレベルよりもアーキテクチャー・レベルが低い場合、キャプチャー・プログラムと互換性のあるレベルにキャプチャー・コントロール表をマイグレーションしてください。

ASN0049I **CAPTURE** *capture_schema*. **SIGNAL_SUBTYPE** *CAPSTOP* の行が、表 **IBMSNAP_SIGNAL** に挿入されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、データのキャプチャーを停止するためのシグナルを受信しました。キャプチャー・プログラムは、現在実行中の作業をコミットして終了します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0055E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、表 *table_name* にサポートされない **SQLTYPE** を持つ列 *column_name* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義にサポートされない **SQL** タイプ (抽象タイプなど) が含まれていることを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の **CAPSTART** シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用し、サポートされていない **SQL** タイプを含まないように登録を変更するか、登録をドロップしてください。

ASN0057E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、*operation* 上で、ファイル *filename* に対するエラー *errno* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムがファイルを処理中に、エラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが、すべての必須パスとファイルに対して正しいアクセスとセキュリティ許可を持っていることを確認してください。また、システムに使用可能なスペースが十分にあるかどうかを確認してください。このメッセージがプロダクト障害によって出力されたと思われる場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN0058W **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_SIGNAL** 表の **CAPSTART** 行にある **MAP_ID** *mapid* は、**IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の中のどの項目とも対応しません。

説明: **CAPSTART** シグナルによって指定されている **MAP_ID** が、**IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **MAP_ID** 列のどの現行値とも一致しません。サブスクリプション・セットが削除されているか、またはユーザーが **CAPSTART** シグナルを正しく挿入していない可能性があります。

ユーザーの処置: この **CAPSTART** がユーザーによって発行された場合は、このシグナル表の挿入の **MAP_ID** が正しいことを確認して、再度発行してください。この **CAPSTART** シグナルがアプライ・プログラムによって発行された場合は、サブスクリプション・セットがまだ存在していることを確認してください。

ASN0059W **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **SYNCHPOINT** フィールドが、**MAP_ID** *map_id* を持つサブスクリプションの **CAPSTART** に対してゼロではありません。

説明: アプライ・プログラムがキャプチャー・プログラムに対してフル・リフレッシュのシグナルを送ると、アプライ・プログラムは **IBMSNAP_SIGNAL** 表に **CAPSTART** シグナルの行を挿入します。同時に、**IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **SYNCHPOINT** 列が 16 進数のゼロに設定されます。するとキャプチャー・プログラムは、次のようにして、キャプチャー・プログラムが **CAPSTART** シグナルを受信したことを確認する応答をアプライ・プログラムに送信します。キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **SYNCHPOINT** 列の値を、**CAPSTART** ログ・レコードに対応するログ・シーケンスの番号に設定します。アプライ・プログラムが **SYNCHPOINT** 列の値を 16 進ゼロに設定したため、アプライ・プログラムは、非ゼロの値がキャプチャー・プログラムによって挿入されているかどうかをチェックします。キャプチャー・プログラムは、値が 16 進ゼロでなかった場合でも、**SYNCHPOINT** の値を更新します。ただし、**SYNCHPOINT** の値が 16 進ゼロでない場合、キャプチャー・プログラムはこの警告を発行して、検出された値が予期したものでなかったことを示します。

この警告は、ユーザーが **APPLY CAPSTART** シグナルを自分で発行し、アプライ・プログラムのアクションを完全にシミュレートしない場合に発行されることがあります。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0060E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムが内部エラー *error_code* を検出しました。

説明: キャプチャー・プログラムで予期しないエラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0061E **CAPTURE** *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。ソース表 *source_owner.source_table* は、システム・カタログ表に存在しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行

して、登録に指定されているソース表がソース・システム・カタログに存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、または無効な登録を含むサブスクリプション・セットに対して最初の CAPSTART シグナルをアプライ・プログラムが発行したときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の中の列 *source_owner* と *source_table* の値が正しく指定されていないか、またはソース表がドロップされて、現在存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。ソース表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去できます。

ASN0062E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。CD 表 *phys_change_owner.phys_change_table* が、システム・カタログ表に存在しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録に指定されている CD 表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値を訂正してください。CD 表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去することができます。

ASN0063E CAPTURE *capture_schema*. MAP_ID *mapid* を持つサブスクリプションと関連付けられたソース表 *source_owner.source_table* は、システム・カタログ表に存在しません。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更のキャプチャーを開始できませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムはサブスクリプションの CAPSTART シグナルへの応答を試行して、そのサブスクリプションに対応するソース表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。こ

のエラー・メッセージは、無効なサブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_PRUNCNTL の列 *source_owner* と *source_table* の値が正しく指定されていないか、またはソース表がドロップされて、もはや存在しない可能性があります。

ユーザーの処置: サブスクリプションがエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。ソース表がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションはもはや有効ではないため、除去することができます。

ASN0064E CAPTURE *capture_schema*. この登録は、MAP_ID *mapid* を持つ関連したサブスクリプションに対して無効です。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できません。

説明: キャプチャー・プログラムは特定のサブスクリプションと関連付けられた登録の初期化を試行して、登録に 1 つ以上の無効な列値が含まれていることを検出しました。このエラー・メッセージは、この登録に対して、サブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

ユーザーの処置: 登録がエラーの場合は、列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値を訂正してください。この登録がもはや必要ない場合は、除去することができます。

ASN0065E CAPTURE *capture_schema*. 無効な登録が検出されました。ソース表 *source_owner.source_table* は、ローカル物理表ではありません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行し、この登録のソース表がローカル物理表でなく、ソースとして使用され、ニックネームで呼び出される、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上にあることを発見しました。DB2 以外のリレーショナル・サーバーがソースとして使用された場合、各サーバーのデータはトリガー・プログラムを介してキャプチャーされます。各ソース表は、その DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に作成された独自の登録表になければなりません。

このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはサブスクリプションに対して、この登録に対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。この登録は DB2 データベースの IBMSNAP_REGISTER 表に誤って作成されています。

ユーザーの処置: この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成して、有効化する必要があります。

ASN0066E CAPTURE capture_schema. 無効な登録が検出されました。CD 表 phys_change_owner.phys_change_table は、ローカル物理表ではありません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、サブスクリプションに対応するその登録の CD 表が、ソースとして使用される DB2 以外のリレーショナル・データベースのニックネームであることを発見しました。このメッセージは、この登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースは、トリガー・プログラムを介してキャプチャーされ、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにある独自の登録表になければなりません。そのようなソースの CCD 表は、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにも作成されます。何らかの理由により、DB2 以外のリレーショナル・ソース表登録が、誤って IBMSNAP_REGISTER コントロール表に登録されました。この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成する必要があります。

ASN0067E CAPTURE capture_schema. MAP_ID map_id を持つサブスクリプションと関連付けられたビュー登録が、表 IBMSNAP_REGISTER に見つかりませんでした。キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、このサブスクリプションに対応するビュー登録が存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。キャプチャー・コントロ

ール表 IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_PRUNCNTL の中の列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* の値が、正しく指定されていない可能性があります。そのため、一致が見つからなかったか、または登録がドロップされており、もはや存在しません。

ユーザーの処置: サブスクリプションまたは登録がエラーの場合は、列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* の値を訂正してください。登録がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションは無効なので、除去することができます。

ASN0068E CAPTURE capture_schema. INSERT ステートメントが CD 表 phys_chg_owner.phys_chg_tbl には長すぎます。

説明: CD 表の列数が多すぎるため、SQL INSERT ステートメントが、キャプチャー・プログラムのコーディングの限界である 32K を超えています。

ユーザーの処置: この表のすべての列が登録で定義されているが、ターゲットではそれらの列のサブセットしか必要としないときは、その登録の列数を削減してください。または、その表を 2 つの登録に分割して、それぞれの登録に、表列の異なるサブセットを入れてください。

ASN0069E CAPTURE capture_schema. CD 表 phys_chg_owner への挿入中に、SQLCODE sqlcode が戻されました。phys_chg_tbl. この CD 表は、ドロップされたように見えます。

説明: キャプチャー・プログラムが CD 表に行を挿入しようとしたが、DB2 がその CD がもはや存在しないことを示す SQLCODE を戻しました。この CD 表が誤ってドロップされたか、または登録全体がドロップされた可能性があります。IBMSNAP_REGISTER 表にこの CD を参照する行がまだ存在する場合、キャプチャー・プログラムは CD_OLD_SYNCHPOINT 列の値を NULL に設定してこれらの登録を非活動化し、この CD 表の変更のキャプチャーを試行しません。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: CD 表がもはや存在しておらず、必要でない場合は、その登録はもはや無効なので除去してください。登録を除去する前に、非活動化することをお勧めします。この CD 表を使用する登録と関連付けられたサブスクリプション・セットも、非活動化してください。さらにこれらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられた

サブスクリプション・セット・メンバーを除去してください。

ASN0070E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner*, *phys_chg_tbl* の列名 *column_name* の組み合わせと、この登録に対する表 **IBMSNAP_REGISTER** の **BEFORE_IMG_PREFIX** *before_img_prefix* の値は、ソース表の中の複数の列名と一致します。登録定義の中のあいまいさは、キャプチャー・プログラムによって解決できません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列があいまいであることを発見しました。この列は、1 つのソース列の変更前イメージを参照している可能性もあり、また別のソース列の変更後イメージを参照している可能性もあります。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: IBMSNAP_REGISTER 表で、BEFORE_IMG_PREFIX 列の現行値を、このあいまいさの生じない文字値に変更してください。

ASN0071E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner*, *phys_chg_tbl* にある列 *column_name* のデータ・タイプ属性は、対応するソース列のデータ・タイプ属性と非互換です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列がそれに対応するソース列と非互換であることを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: この登録について、CD 表を訂正してください。

ASN0072E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner*, *phys_chg_tbl* の変更前イメージ列 *column_name* は NULL 値を許可する必要があります。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の変更前イメージ列が NULL 値を受け入れるよう定義されていないことを

発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: この登録について、CD 表を訂正してください。

ASN0073E **CAPTURE** *capture_schema*. **CAPSTOP** シグナル上の **CD** 表を記述する指定 *input_in* は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が

phys_change_owner.phys_change_table の有効なフォーマットになっていないことを発見しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはない、このシグナルに対して何のアクションも行われません。

ユーザーの処置: INPUT_IN の値が、非活動化する登録と関連付けられた CD 表の名前と一致することを確認してください。IBMSNAP_SIGNAL 表に新規行を挿入してください。

ASN0074E **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_REGISTER** 表に、**CAPSTOP** シグナルに指定されている *src_owner.src_table* に対応する行がありません。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が無効なフォーマットであり、*source_owner.source_table* の値に一致するものが登録表に存在しないことを発見しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: INPUT_IN の値を訂正して、再度シグナルを挿入してください。

ASN0075W **CAPTURE** *capture_schema*. **CAPSTOP** シグナルの **INPUT_IN**, *src_owner.src_table* に対応する登録が、変更を取り込んでいませんでした。アクションはとられません。

説明: キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値は有効なフォーマットであり、登録表の中の *source_owner.source_table* の値と一致するが、この登録がすでに非活動化されていることを発見しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはない、またキャプチャー・プ

ASN0076I

プログラムはこのシグナルに対して何のアクションも行いません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0076I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャーは、**CAPSTOP** シグナルにตอบสนองして、ソース表 *source_owner.source_table* に対する変更のキャプチャーを停止しました。

説明: キャプチャー・プログラムは、**CAPSTOP** シグナルに指定された登録を正常に非活動化しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0077E **CAPTURE** *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* を持つ **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の **PHYS_CHANGE_OWNER** と **PHYS_CHANGE_TABLE** 列に指定された値が **NULL** であるか、または **IBMSNAP_REGISTER** 表の有効な行と一致しません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録を初期化していて、サブスクリプションに対する **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の中の **PHYS_CHANGE_OWNER** と **PHYS_CHANGE_TABLE** の列値が、**IBMSNAP_REGISTER** 表の登録行と一致できないことを検出しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の **CAPSTART** シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: このサブスクリプションに対する **IBMSNAP_PRUNCNTL** 表の値を訂正してください。このサブスクリプションがレプリケーション・センターを使って作成された場合は、**IBM** ソフトウェア・サポートに連絡し、管理問題の可能性のあることを報告してください。

ASN0078E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_owner.phys_table* の変更前イメージ列 *column name* は、この登録に対して **CD** 表の中に対応する変更後イメージを持っていません。登録は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、**CD** 表内の登録の変更前イメージ列がそれに対応する変更後イメージを持っていないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブス

クリプションの最初の **CAPSTART** シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列が、それに対応する変更後イメージ列も **CD** 表に組み込まれる場合のみ、組み込まれることを確認して、この登録について **CD** 表を訂正してください。

ASN0079E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* と関連する登録について **IBMSNAP_REGISTER** 表を更新中に、**SQLCODE** *sqlcode* が戻されました。これらの行は、削除されている可能性があります。

説明: キャプチャー・プログラムは、指定された **CD** 表に対してデータがキャプチャーされたことを示すために **IBMSNAP_REGISTER** 表を更新しようとしたが、**DB2** がその行がもはや存在しないことを示す **SQLCODE** を戻しました。この登録は、ドロップされている可能性があります。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: 登録がドロップされている場合、この登録に対してこれ以上のアクションは不要です。登録をドロップする場合は、最初にその登録を非活動化することをお勧めします。**IBMSNAP_REGISTER** 表の中のこの行が誤って削除された場合は、関連付けられた **CD** 表をドロップして、登録を再作成してください。この登録と関連付けられているサブスクリプション・セットは、すべて非活動化してください。登録をドロップする必要がある場合は、これらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられたサブスクリプション・セット・メンバーを除去してください。登録が再作成されると、関連するサブスクリプション・セットについてフル・リフレッシュを実行するよう指示するシグナルがアプライ・プログラムに送信されます。

ASN0080E **CAPTURE** *capture_schema*. **CD** 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* で表スペースがフルの状態が検出されました。この表は、ソース表 *source_owner.source_table* の登録と関連付けられています。

説明: キャプチャー・プログラムは、指定された **CD** 表への挿入を処理しようとしたが、表スペースがフルの状態のため、挿入を処理できませんでした。通常、この状態は、**CD** 表スペースへのスペース割り振りが十分でなかったり、整理の頻度が低かったり、または整理の効果的に行われていないことなどが原因で発生します。このエラーにより、キャプチャー・プログラムは終了します。

ユーザーの処置: 以下のステップに従って、表スペースがフルの状態が発生した原因を判別してください。

1. 通常の処理条件を実行するのに十分な表スペースがこの CD 表に割り振られていることを確認します。
2. キャプチャーのコントロール表のストレージ要件を減らすために、整理が適切な頻度で行われていることを確認します。
3. 通常の整理処理を実行するのに十分な頻度でアプライ・プログラムが実行されていることを確認します。
4. 通常の整理に必要な追加ステップを実行せずに、長期間サブスクリプション・セットが非活動化されていることを確認します。

ASN0082W **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラム が、CD 表 *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* の中で、列 *column_name* を検出しましたが、この列の長さ *CD_column_length* は、対応するソース表 *source_owner.source_table* の長さ *src_column_length* にある、対応する列の長さよりも短くなっています。

説明: 登録の初期化中、キャプチャー・プログラムは、登録定義が、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列の長さを持つ列を CD 表に含んでいることを発見しました。この登録定義は許可されますが、キャプチャーされたソース表のデータが、定義された CD 表列の中に収まらない可能性があることを知らせる警告メッセージが表示されます。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。登録は、正常に初期化されます。

ユーザーの処置: 登録をこの方法で定義しなければならない特別な理由がある場合 (例えば、変更されたデータの長さが決して、CD 表の列の長さよりも長くなることのないことが確実な場合) を除き、ソース表と CD 表のデータ定義が完全に一致するように、登録を定義してください。

ASN0083E **CAPTURE** *capture_schema*. CD 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* への挿入を処理しようとしたときに、**SQLCODE** *sqlcode* が戻されました。CD 表列 *column_name* は短すぎるため、ソース表 *source_owner.source_table* の中の対応する列からキャプチャーされたデータを入れることができません。登録は、キャプチャー・プログラムにより停止されました。

説明: キャプチャー・プログラムは CD 表への挿入を処理しようとして、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列が CD 表に含まれていることを示す、DB2 からの **SQLCODE** を検出しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありませんが、この登録は停止状態に置かれます。

ユーザーの処置: この登録定義を再評価してください。ソース表の列と CD 表の列の長さが一致するように登録を変更するか、または CD 表にトリガーを追加してデータを切り捨ててください。

ASN0084E **CAPTURE** *capture_schema*. ソース表 *source_owner.source_table* と CD 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* の登録が、キャプチャー・プログラムにより停止されました。

説明: このエラー・メッセージは、キャプチャー・プログラムにより登録が停止状態に置かれる (STATE 列が **IBMSNAP_REGISTER** 表の中で 'S' の値に設定される) と必ず表示されます。このアクションの理由は、1 つ以上の前述のメッセージで説明されています。

ユーザーの処置: 前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録定義を修理してください。登録定義の修理が終わったら、手動で **IBMSNAP_REGISTER** 表の中の STATE 列の値を 'I' に設定して、アプライ・プログラムにより登録が再度使用できることを示す必要があります。

ASN0100I **CAPTURE** *capture_schema* : キャプチャー・バージョン *version_number* プログラムが正常に初期化されました。

説明: これは、キャプチャー・プログラムの開始とキャプチャー・プログラムのバージョンを知らせるメッセージです

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0101W **CAPTURE** *capture_schema*. 既存データが古すぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。コールド・スタートが試行されます。

説明: 変更データ表のデータが古すぎます。コールド・スタートが実行されます。

ユーザーの処置: 詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションに関するキャプチャー・プログラムの操作』を参照してください。

ASN0102W CAPTURE *capture_schema*. ウォーム・スタート情報が十分でないため、キャプチャー・プログラムはコールド・スタートに切り替えます。

説明: 再始動情報の検索中に、問題が発生しました。再始動表のデータは無効です。コールド・スタートが実行されます。

- DB2 の場合、ウォーム・スタート中に DB2 がログを読み取ったときに非同期ログ読み取り API エラーが発生しました。
- z/OS の場合、ウォーム・スタート中に DB2 がログを読み取っている間、Instrumentation Facility Information (IFI) エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションに関するキャプチャー・プログラムの操作』を参照してください。

ASN0104I CAPTURE *capture_schema*. MAP_ID *mapid* を持つ CAPSTART シグナルへの応答で、ソース表 *source_owner.source_table* に対し、ログ・シーケンス番号 *log_sequence_number* から開始されるログで検出された変更について、変更のキャプチャーが開始されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、正常に CAPSTART シグナルを処理しました。これが特定のソース表と関連付けられた最初の CAPSTART シグナルの場合、このメッセージはキャプチャー・プログラムが現在、ソース表への更新をキャプチャー中であることを示します。これが、変更がすでにキャプチャー中の表に対する CAPSTART シグナルである場合は、このメッセージは、キャプチャー・プログラムがシグナルを受信し、アプライ・プログラムが入力 MAP_ID 値と関連付けられたサブスクリプション・セットの変更の受信を開始できるように、必要な処理を実行したことを示しています。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0105I CAPTURE *capture_schema*. *n* 行は、表 *table_owner.table_name* から *timestamp* に整理されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表からレコードを整理しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0109I CAPTURE *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは正常に初期化され、*number* 登録に対するデータの変更をキャプチャー中です。Stopped_*number* 登録は停止状態です。Inactive_*number* 登録は非アクティブ状態です。

説明: このメッセージは、キャプチャー・プログラムが登録項目の再初期設定を完了したときに表示されます。再初期設定は、ウォーム・スタート中、CAPSTART シグナルの処理中、またはキャプチャーの REINIT コマンドに応答して行われます。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更を取り込んでいる場合、アクションは不要です。それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。登録の定義を修正したら、reinit パラメーターを指定して asncmd コマンドを発行してください。

ASN0111I CAPTURE *capture_schema*. 整理循環は、*timestamp* に開始されました。

説明: このメッセージは、各整理循環の開始時に発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0112I CAPTURE *capture_schema*. 整理循環が、*timestamp* に終了しました。

説明: このメッセージは、各整理循環の終了時に発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0113W CAPTURE *capture_schema*. あと 24 時間で、整理保存限界に到達します。

説明: この警告メッセージは、IBMSNAP_UOW 表の値が、保存限界の整理が翌日発生する可能性があることを示しているときに発行されます。

ユーザーの処置: なぜ通常の整理が行われていないのか、その理由を確認してください。通常これは、何日もの間、1 つ以上のアプライ・プログラムが実行されていないために、CD および UOW 表が効率的に整理できないために発生します。もう 1 つの原因としては、IBMSNAP_PRUNE_SET 表にある、対応する同期点の値を除去またはリセットせずに、サブスクリプション・セットを除去または非活動化したことが考えられます。レ

プリケーション・アナライザー・ツールを使って、この状況の詳細な分析を得ることができます。

ASN0114E **CAPTURE** *capture_schema*. 表 *table_owner*. *table_name* の整理中に、整理が SQL コード *sqlcode* で失敗しました。

説明: このエラー・メッセージは、予期しない SQL エラー・コードで整理が失敗したときに発行されます。整理は終了し、次のインターバルまたはコマンド呼び出し時に再度試行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、『ASN - レプリケーション』メッセージ・セクションで SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

ASN0121E **CAPTURE** *capture_schema*. 既存データが古すぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: *lag_limit* パラメーターは、キャプチャー・プログラムが DB2 ログのレコード処理で遅延可能な時間を分単位で表します。キャプチャーは、ユーザー指定の *lag_limit* により許可されたものより古いトランザクションを処理するので、ウォーム・スタートはできません。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムのログ読み取りが遅れる原因を調べます。ラグ限界パラメーターを実用化しないテスト環境の場合は、ラグ限界を高く設定し、キャプチャー・プログラムを再起動してください。また、テスト環境下のソース表のデータが非常に少ない場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートし、ターゲット表の全データを完全にリフレッシュしてください。

ASN0122E **CAPTURE** *capture_schema*. 再始動情報または DB2 ログの読み取り中に、エラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: 再始動情報の検索中に、問題が発生しました。再始動表のデータが無効です。ただし、z/OS の場合は、再始動中にログを読み取っているときに計測機能インターフェース (IFI) エラーが発生しました。エラーが解決されたら、ウォーム・スタート・オプションを使って再始動できます。

ユーザーの処置: キャプチャーが IBMSNAP_RESTART から再始動情報を検索できない原因を調べます。問題の原因については、前のメッセージを参考にしてください

い。可能な場合は問題を訂正し、キャプチャーをウォームで再始動します。問題を訂正できない場合は、キャプチャーをコールドで再始動してください。

ASN0123I **CAPTURE** *capture_schema*. プログラムの終了時、正常にキャプチャーされたログ・レコードの最も高いログ・シーケンス番号は *max_commitseq* で、まだコミットされていないレコードの最も低いログ・シーケンス番号は *min_inflightseq* です。

説明: キャプチャー・プログラムは終了し、監査目的でその時点の再始動表の値を記録します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0133I **CAPTURE** *capture_schema*. AUTOSTOP 機能が指定されているため、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したので終了します。

説明: ユーザー・オプション AUTOSTOP で要求されているように、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したときに終了しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0142E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、モニター表 IBMSNAP_CAPMON に対して挿入操作を実行できません。SQL コードは *sqlcode* です。このインターバルのモニター情報は、スキップされます。

説明: このエラー・メッセージは、予期しない SQL コードでモニター・スレッドが失敗したときに発行されます。このインターバルのモニター関数はスキップされ、次のインターバルのときにプログラムは再試行します。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

ユーザーの処置: SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、『ASN - レプリケーション』メッセージ・セクションで SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

ASN0143W **CAPTURE** *capture_schema*. プログラムは、ソース・データベース *src_db_name* がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。キャプチャー・プログラムは、ウォーム・スタートからコ

ールド・スタートに切り替えました。

説明: キャプチャー・プログラムは、WARMSA または WARMSI の開始モードで開始されました。キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しました。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは、コールド・スタートに切り替えました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0144E **CAPTURE** *capture_schema*. プログラムは、ソース・データベース *src_db_name* がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。整合性をリストアするために、コールド・スタートをお勧めします。

説明: キャプチャー・プログラムは、WARMNS または WARMSI の開始モードで開始されました。キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しました。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは終了され、コールド・スタートへの切り替えは自動的に行いません。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートを実行しても安全だという確信がある場合は、キャプチャー・プログラムを再始動してください。2 度目の試行では終了されません。キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート後、キャプチャーされたデータが整合するかどうかについて確信が持てない場合は、キャプチャー・プログラムのコールド・スタートを実行することをお勧めします。

ASN0180W **CAPTURE** *capture_schema*. 表 **IBMSNAP_SIGNAL** は、キャプチャーが要求している **EBCDIC** 表ではありません。このシグナルは処理されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_SIGNAL** 表が **EBCDIC** 表として定義されていないことを検出しました。シグナルを **EBCDIC** に変換して正しく処理するために、追加処理が必要です。追加処理により、若干の性能低下が起ります。

ユーザーの処置: なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. **IBMSNAP_SIGNAL** 表をドロップし、**EBCDIC** エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0181W **CAPTURE** *capture_schema*. タイム・スタンプ *signal_time* を持つシグナルの行は、もはや **IBMSNAP_SIGNAL** 表に存在しません。このシグナルは処理されました。

説明: キャプチャー・プログラムはシグナルからの要求を処理しましたが、**SIGNAL_STATE** および **SIGNAL_LSN** を更新できませんでした。そのため、シグナルの発行者はキャプチャー・プログラムがシグナルを受信したことを判別できません。

ユーザーの処置: 別のプロセスがキャプチャー・プログラムからのシグナルの更新を待機しているかどうかを判別し、必要に応じて、シグナルを再送信してください。

ASN0182W **CAPTURE** *capture_schema*. タイム・スタンプ *signal_time* を持つシグナルの行は、もはや **IBMSNAP_SIGNAL** 表に存在せず、この表は **EBCDIC** ではありません。シグナルは、キャプチャーより無視されます。

説明: キャプチャー・プログラムが **EBCDIC** でエンコードされていないシグナルを受信したために、初期化に障害が発生しました。キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_SIGNAL** 表の行がもはや存在しないため、シグナルを **EBCDIC** に変換できませんでした。キャプチャー・プログラムは、どのシグナルが送信されて、無視されたのかを判別できません。

ユーザーの処置: どのシグナルが送信されたかを判別して、そのシグナルを再送信してください。

なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. **IBMSNAP_SIGNAL** 表をドロップし、**EBCDIC** エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0183E **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_PARTITIONINFO** 表と **DB2** パーティション情報の間の不整合を検出しました。

説明: このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 新規データベース・パーティションがデータベースに追加された。
- IBMSNAP_PARTITIONINFO コントロール表が破壊されています。

ユーザーの処置: 新規パーティションが追加される場合は、キャプチャー・プログラムを `add_partition=Y` オプションで再起動してください。

IBMSNAP_PARTITIONINFO コントロール表が破壊されている場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートするまたは IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0184I **CAPTURE** *capture_schema*. ログ・シーケンス番号 *log_sequence_number* から始まるログにある変更に対して、キャプチャー・プログラムをパーティション *partition_num* で開始しました。

説明: 新規パーティションが `ADD_PARTITION` オプションを使用して追加されました。キャプチャー・プログラムがそのパーティションの処理を開始しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0185I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは必要なファイルを検出しなかったため、コントロール表 *control_table* および関連する索引 *index* をキャプチャー・プログラム・サーバーに作成しました。

説明: キャプチャー・プログラムは指定したコントロール表を必要としています。キャプチャー・プログラムがコントロール表を発見できない場合は、適当なキャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表と関連索引を作成します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0186W **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムはソース・データベース *database* をパーティション *partition_ID* で検出できません。キャプチャー・プログラムは、このパーティションに対するログを処理できません。

説明: このパーティションは、ソース・データベースに認識されていません。キャプチャー・プログラムは、ソース・データベースに認識されているパーティション

からのデータのみをキャプチャーします。

ユーザーの処置: データベースにパーティションを追加して、`ADD_PARTITION=Y` オプションを使用してキャプチャー・プログラムを再起動してください。パーティションが必要ない場合、除去してください。

ASN0187W **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 で識別されたパーティション *partition_id* を検出できません。

説明: キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 で識別されたパーティションを検出できません。このパーティションは、マルチパーティション・ソース・サーバーの一部でなくなりました。

ユーザーの処置: 欠落しているパーティションが適切に除去されていることを確認してください。これ以上のアクションは不要です。

ASN0188I **CAPTURE** *capture_schema*. *n* 行が表 *src_owner.table* から *timestamp* に、保存限度の整理のために整理されました。

説明: キャプチャー・プログラムは、CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表から保存限度の整理のためにレコードを整理しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0189I **CAPTURE** *capture_schema*. キャプチャー・プログラムは、登録済み表 *src_owner.table* でエラーが発生し、エラー時登録を停止するように構成されているため終了します。

説明: 登録は、`STOP_ON_ERROR = Y` です。キャプチャー・プログラムは、この直前のメッセージで示されたエラーのため終了します。

ユーザーの処置: 次のアクション(片方ないしは両方)を取り、キャプチャー・プログラムを再起動してください:

- 直前のメッセージで示されたエラーを訂正してください。
- レジスター (IBMSNAP_REGISTER) 表で、`STOP_ON_ERROR=N` に設定してください。

ASN0190I **CAPTURE** *capture_schema*. ソース表 *src_owner.table* の登録がエラーのために非活動化されました。キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。

説明: キャプチャー・プログラムはこの直前のメッセー

ジで示されたエラーのために、指定されたソース表の登録を非活動化しました。キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。登録が STOP_ON_ERROR = N であるために稼働し続けます。

ユーザーの処置: 登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STATE 列で確認される、このソース表に対するエラーを訂正し、登録を再活動化してください。登録を再活動化すると、フル・リフレッシュが実行されます。

フル・リフレッシュを今後回避するためには、STOP_ON_ERROR を Y に設定してエラーが発生した場合にキャプチャー・プログラムを終了するようにしてください。

ASN0191E CAPTURE *capture_schema* : LSN LSN を持つログ・レコードは不明なログ・バリエーションであるため、これを処理できませんでした。DBID は DBID です。その OBID は OBID です。トランザクション ID は ID です。

説明: ログ・レコードに不明なログ・バリエーション・タイプが含まれているため、キャプチャー・プログラムはログ・レコードを処理できませんでした。

ユーザーの処置: このエラーのためにキャプチャーが停止した場合、キャプチャーがこのログ・レコードを無視できるよう、一致する DBID および OBID を持つ登録またはサブスクリプションを使用不可にする必要があります。キャプチャーの停止がこのエラーによるものではない場合、複製が必要なデータがこのログ・レコードに含まれていないか確認してください。

ASN0192E CAPTURE *capture_schema* : キャプチャー・プログラムはソース表 *table_owner.table_name* のログ・レコードをデコードすることができません。プログラムが停止されました。

説明: 表が変更されたために、キャプチャー・プログラムは表の異なるバージョンを検出しました。キャプチャー・プログラムは、IBMQREP_COLVERSION 表と IBMQREP_TABVERSION 表を読み取って正しいバージョンを判別することはできませんでした。これらの表がドロップされている可能性があります。

ユーザーの処置: IBMQREP_COLVERSION 表と IBMQREP_TABVERSION 表がドロップされていないことを確認してください。欠落しているのであれば、これらの表をリストアしてから、キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0193W CAPTURE : *capture_schema* : ログ・リーダーのスレッドを依然として初期化しています。プログラムは引き続き待機します。

説明: 初期化の際、Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは再始動点 (Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムがウォーム・モードで開始される際の特定のログ・シーケンス番号、またはコールド・スタートの場合には現在アクティブなログ・シーケンス番号) から読み取りを試行します。リカバリー・ログまたはデータベースを使用できない場合には、初期化にかなりの時間がかかる可能性があります。DB2 複数パーティション環境または Oracle RAC 環境における初期化にも、ログ・リーダー・スレッドはかなりの時間を要します。

ユーザーの処置: ログ・リーダーが初期化を完了するのを引き続きお待ちください。

ASN0194W CAPTURE : *capture_schema* : キャプチャー・プログラムは、表 *table_owner.table_name* にパーティションがアタッチされたことを検出しました。キャプチャーは、登録が活動化された時点に対応するポイントまでのログ・レコードを読み取っていませんでした。キャプチャーは、パーティションとしてアタッチされる前の表から誤って行をキャプチャーした可能性があります。

説明: キャプチャーが表の登録を活動化するときに、表の情報がシステム・カタログから集められます。キャプチャーが登録を活動化する前にパーティションが表にアタッチされた場合、システム・カタログ情報には、キャプチャー・プログラムがどの位置までログを読み取ったかが正しく反映されない可能性があります。新しくアタッチされたパーティションの場合、キャプチャーは、パーティションとしてアタッチされる前の表から誤って行をキャプチャーする可能性があります。

ユーザーの処置: 登録のキャプチャーを停止して、サブスクリプション・セットのフル・リフレッシュを実行してください。

ASN0195I CAPTURE *capture_schema* : ID が *transaction_identifier* であるトランザクションは、要求どおりに無視されました。

説明: キャプチャーの開始時に IGNORE_TRANSID パラメーターにトランザクション ID が指定されたか、トランザクションを無視するための情報が IBMQREP_IGNTRAN 表に挿入されたために、キャプチ

ャー・プログラムがトランザクションをキャプチャーしませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0196W **キャプチャー:** *capture_schema* : 登録済みソース表 *table_owner.table_name* の内容が、DB2 ユーティリティ・プログラム *utility_program* により変更されました。

説明: ソース表は、以下の DB2 オンライン・ユーティリティ・プログラムの 1 つにより変更されました。

- LOAD SHRLEVEL NONE RESUME YES
- LOAD SHRLEVEL NONE REPLACE
- REORG TABLESPACE DISCARD
- CHECK DATA DELETE YES LOG NO
- RECOVER PIT
- EXCHANGE DATA ON CLONE TABLESPACE

ソース表への変更がターゲット表に自動的に複製されおらず、それら 2 つの表が同期化されていない可能性があります。

ユーザーの処置: ソースとターゲットとの間の同期を維持するには、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表のフル・リフレッシュを実行します。
- *asntdiff* プログラムを使用してソース表とターゲット表の間の相違を識別してから、*asntrep* プログラムを使用してその相違を修復します。

ASN0197W **CAPTURE** *capture_schema* : 登録されたソース表 *table_name* がドロップされました。

説明: キャプチャー・プログラムがソース表の表スペースがドロップされたことを検出したため、表自体もドロップされました。

ユーザーの処置: そのソース表から今後データを複製しない場合は、レプリケーション管理ツールを使用して登録をドロップします。その表をリカバリーする場合は、表のリカバリー後にキャプチャー・プログラムを再初期化するか、キャプチャー・プログラムを停止してウォーム・モードで開始します。

ASN0198E **CAPTURE** *capture-schema*: データベース・パーティションの数が SQL レプリケーションがサポートするパーティションの最大数を超過しています。キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: キャプチャー・プログラムは、複数パーティション環境で最大 16 個のパーティションをサポートしません。

ユーザーの処置: パーティション数を 16 以下に減らして、キャプチャー・プログラムを開始してください。

ASN0199E **CAPTURE** *capture_schema* : キャプチャー・プログラムは表 *table_owner.table_name* の登録をアクティブにできませんでした。表が変更されました。表のバージョンは *version* です。

説明: 表が変更された場合、そのログ・レコードの処理をキャプチャー・プログラムが開始する前に、表を再編成する必要があります。示された表の状態が以下のいずれかである可能性があります。

- 表が変更されたが、再編成されていない。
- 最後の再編成後に表が変更された。

ユーザーの処置: 表を再編成して登録をアクティブにしてください。

ASN0200E **CAPTURE** *capture_schema*. 圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 コンプレッション・ディクショナリーが一時的に使用できないため、キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。読み取れなかったログ・レコードは、登録済みソース表 *table_owner.table_name* のものです。理由コードは *reason_code*。

説明: キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取りからエラーを受け取りました。このエラーは、対応する DB2 表または表スペースのコンプレッション・ディクショナリーが一時的に使用できないため、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。

z/OS の場合、この理由コードは *z/OS* 診断コードです。Linux、UNIX、および Windows では、この理由コードは SQL コードです。この問題の原因の 1 つとして、DB2 ログ読み取りインターフェースがコンプレッション・ディクショナリーを読み取ろうとしたときに、圧縮表スペースが停止状態になっていることが考えられます。DB2 は、辞書へのアクセスのために、ソースの圧縮表スペースにラッチをかけますが、その表スペースが停止していると、ラッチは機能しません。このエラーの場合、キャプチャー・プログラムは、停止を指示されます。

ユーザーの処置: コンプレッション・ディクショナリーが使用できるようになると、この問題は解決されます。キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0201W CAPTURE : capture_schema : キャプチャー・プログラムは、表 *table_owner.table_name* からパーティションがデタッチされたことを検出しました。キャプチャーは、この表の登録が活動化された時に対応するポイントまでのログ・レコードを読み取っていませんでした。表からデタッチされる前に、パーティションの行がキャプチャー処理で不適切に欠落した可能性があります。

説明: キャプチャーが表の登録を活動化するとき、表の情報がシステム・カタログから集められます。キャプチャーが登録を活動化する前にパーティションが表からデタッチされた場合、システム・カタログ情報にはログ内でのキャプチャーの位置が正しく反映されない可能性があります。新しくデタッチされるパーティションの場合、デタッチされる前に、パーティションの行がキャプチャー処理で不適切に欠落する可能性があります。

ユーザーの処置: 登録のキャプチャーを停止して、サブスクリプション・セットに対するフル・リフレッシュを実行してください。

ASN0202W CAPTURE : capture_schema : 表 *table_name* の列 *column_name* に対して新しいデータ・タイプ *data_type* を指定した ALTER TABLE ALTER COLUMN ステートメントが検出されました。CD 表 *table_name* の列 *column_name* は、データ・タイプ *data_type* に変更されました。ターゲット表は自動変更されません。

説明: キャプチャー・プログラムは、登録済みソース表の列が変更されたことを検出しました。キャプチャーは、新しいデータ・タイプと一致するように CD 表の列を自動的に変更しました。

ユーザーの処置: 変更された列のデータを複製する場合は、ターゲット表の対応する列を変更する必要があります。

ASN0203E CAPTURE capture_schema : IBMSNAP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列の値 *value* は、2 つ以上のメンバーを持つバージョン *version* の DB2 pureCluster システムではサポートされていません。

説明: 2 つ以上のメンバーを持つバージョン 10 の DB2 pureCluster システムでは、IBMSNAP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列で 1001 以上の値が必要です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムの互換性設定をアップグレードする前に、キャプチャーが連動するアプライ・プログラムまたはアプライ・コントロール・サーバー上の変更による影響を検討してください。アプライ・コントロール表をバージョン 10 にマイグレーションすることが必要な場合があります。必要に応じて、COMPATIBILITY 列を 1001 以上に更新し、キャプチャー・プログラムを再開してください。

ASN0204E CAPTURE : capture_schema : IBMSNAP_RESTART 表内のログ・シーケンス番号値 *LSN* は、予期されていません。キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: キャプチャーが DB2 リカバリー・ログ内の正しい再始動点を見つけるのに使用する LSN 値が、正しい形式ではありません。この問題は、DB2 をバージョン 10 にアップグレードしたものの、IBMSNAP_RESTART 表に前のバージョンからの LSN 値がまだ含まれている場合に発生することがあります。レプリケーションが使用する LSN 値は、DB2 for Linux, UNIX, and Windows V10 で変更され、以前に保存された LSN 値とは互換性がありません。

ユーザーの処置: migrate=y パラメーター (再開情報を正しい形式に更新する) を使用して、キャプチャー・プログラムを再開してください。

第 35 章 ASN0500 - ASN0999

ASN0500E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター名 *parameter_name* に対して行われたパラメーター入力 *input_value* が無効です。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定された入力パラメーターで呼び出されましたが、そのパラメーターは無効です。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前を、パラメーター名と無効なパラメーター値と一緒に示しています。

ユーザーの処置: 有効な呼び出しパラメーターに関する資料を調べて入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

ASN0501E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター *parameter_name* に対して指定された値 *input_value* が正しいデータ・タイプではありません。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、関連データ・タイプを指定した入力値で呼び出されましたが、そのデータ・タイプは無効です。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、誤った入力値、およびこの入力値が指定されたパラメーターの名前を示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しいデータ・タイプが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0502E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター *parameter_name* に対して指定された、長さ *invalid_string_length* の値 *input_value* は、ストリングの許容最大長 *allowed_string_length* より長くなっています。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、無効なストリング長を指定した入力値を使用して呼び出されました。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しいストリングの長さが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0503E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター値 *parameter_name* に対して指定された整数値 *input_value* が、このパラメーターでサポートされている範囲外です。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、サポートされる範囲外の入力値を指定して呼び出されました。このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

ユーザーの処置: パラメーター入力に正しい範囲値が含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

ASN0504E *pgmname : program_qualifier* : プログラムが呼び出しパラメーター *incorrect_input* を認識しませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定されたパラメーターまたはコマンドで呼び出されましたが、そのパラメーターまたはコマンドは無効です。このメッセージは、どのプログラムがこのメッセージを発行したかと、認識されない呼び出し入力を示しています。

ユーザーの処置: 有効な入力パラメーターに関する資料を調べて入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

ASN0505E *pgmname : program_qualifier* : プログラムが IPC キーを取得または設定できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマンドの処理に必要なプロセス間通信を初期化できませんでした。このエラーにより、失敗したプログラムは終了します。

ユーザーの処置: 失敗したプログラムまたはコマンドを再試行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0506E *program_name : program_identifier* : ターゲット・レプリケーション・プログラム *program_name* が実行されていないか、または誤ったパラメーター値が入力されたために (例えば、サーバー名、スキーマ、または修飾子のつづりの誤り)、コマンドが処理されませんでした。

説明: この問題は、プログラムがコマンドを受け取るために使用する IPC メッセージ・キューの問題のために起こった可能性もあります。

ユーザーの処置: パラメーター値が正しく、実行中のレプリケーション・プログラムを識別していることを確認してください。コマンドを再実行してください。詳しくは、『IPC メッセージ・キューに関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。

ASN0507E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューを作成できませんでした。この失敗のためにプログラムが終了することはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。詳しくは、『IPC メッセージ・キューに関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。

ASN0508E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューにメッセージを送信できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0509E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、誤ったメッセージ・バージョンのため、受信したメッセージを処理できませんでした。

説明: プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0510E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、応答メッセージの待機中にタイムアウトを検出しました。

説明: コマンド・プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0511E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、不明メッセージ関数のため、受信したメッセージを処理できませんでした。

説明: プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0512E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューから読み取れませんでした。

説明: プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再発行してください。問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

ASN0513E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、*msg_file* という名前のメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。

説明: プログラムが使用するこのメッセージ・ファイルが正しくインストールされていないか、または言語環境変数が正しく設定されていません。

ユーザーの処置: インストールと構成について、資料を参照してください。

ASN0514E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、*log_file* という名前のログ・ファイルを開くことができませんでした。

説明: プログラムが、そのプログラム自身のメッセージ・ログのファイルを開こうとしたときに内部エラーが発生し、そのために異常終了しました。この問題は、そのファイルが誤って削除されたか、またはこの処理と関連付けられたユーザー ID がそのファイルを開くのに十分な権限を持っていなかったために発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 処理ユーザー ID に、十分な権限が提供されていることを確認してください。ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

ASN0515E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、ログ・ファイルを閉じることができませんでした。

説明: プログラムは、そのプログラム自身のメッセージ・ログとして使用されているファイルを閉じようとしている間に、内部エラーを検出しました。このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

ASN0516E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、メッセージ・カタログを閉じることができませんでした。

説明: プログラムは、メッセージ・カタログ・ファイルを閉じようとしている間に、内部エラーを検出しました。このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルが削除されている場合は、再インストールする必要があります。

ASN0517E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューからの読み取り機能を回復しました。

説明: プログラムは、直前の失敗後、コマンドの処理に必要な、メッセージ・キューからの読み取り機能を再初期化することができました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、ア

クションは必要ありません。

ASN0518E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、複数のコマンドを受け入れません。

説明: コマンド・プログラムが、複数のコマンドを指定して呼び出されました。各コマンド呼び出しは、単一の入力コマンドを使い、他の必須コマンド入力と一緒に実行される必要があります。注: CHGPARMs コマンドは、1 つの CHGPARMs コマンドの呼び出しで、複数のパラメーターの変更を許可します。

ユーザーの処置: 無効なコマンド入力を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0519E *pgmname : program_qualifier* :
CHGPARMs パラメーター
parameter_name に対して指定されたパラメーター入力 *parameter_value* が無効です。

説明: CHGPARMs コマンドが、誤ったパラメーター入力呼び出されました。

ユーザーの処置: コマンド入力を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0520I *pgmname : program_qualifier* : **STATUS**
コマンド応答: *thread_type* スレッドは
status_condition 状態にあります。

説明: *status* コマンドに回答して、コマンドを受け取ったプログラムと関連するそれぞれのスレッドごとにこれらのメッセージの 1 つが発行され、スレッドの現在の状態を提供します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0521I *pgmname : program_qualifier* :
QRYPARMs コマンド応答:
parameter_name は、方式 *method* によって *parameter_value* に設定されました。

説明: QRYPARMs コマンドに回答して、それぞれのプログラム・パラメーターごとにメッセージが発行されます。このメッセージは、パラメーターごとにパラメーターの名前と現在の設定、およびそのパラメーターの値を設定するためにユーザーが使用した方式 (デフォルトによる、IBMSNAP_CAPPARMs 表を変更する、始動オプションによる、または CHGPARMs コマンドを使用する) を示します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0522I *pgmname : program_qualifier* : プログラムは *command_type* コマンドを受信しました。

説明: プログラムは、処理するコマンドを受信しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0523I *pgmname : program_qualifier* :
CHGPARMS コマンド応答:
parameter_name は *parameter_value* に設定されました。

説明: CHGPARMS コマンドに応答して、変更されたそれぞれのプログラム・パラメーターごとにこれらのメッセージの 1 つが発行されます。各パラメーターごとに、メッセージはそのパラメーターの新規値を提供します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0524E *pgmname : program_qualifier* : プログラムの必須パラメーター *parameter_name* が指定されていません。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムが、いずれかの必須パラメーターを指定せずに呼び出されました。欠落しているパラメーターが *capture_server* または *control_server* の場合、プログラムまたはコマンドは、適用可能な DB2DBDFT 環境変数設定を介して、暗黙的なデータベース名へのアクセスも試行しましたが、これも成功しませんでした。

ユーザーの処置: 適切なパラメーターとそれに対応する入力値が含まれるように、呼び出しを訂正してください。

ASN0525E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、その外部通信メッセージ・キューから読み取れませんでした。

説明: プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマンドの処理に必要な、外部通信メッセージ・キューからの読み取り機能を初期化できませんでした。

ユーザーの処置: 失敗したコマンドを再実行し、問題が解決されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポートまで連絡してください。

ASN0526E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、コマンド入力なしで呼び出されました。

説明: コマンド・プログラムが、処理するコマンドなしで呼び出されました。コマンド処理は実行されません。

ユーザーの処置: 必須入力をすべて指定して、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0527E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、**CHGPARMS** コマンド入力なしで呼び出されました。

説明: コマンド・プログラムが、CHGPARMS コマンドで呼び出されましたが、処理するコマンド入力がありませんでした。コマンド処理は実行されません。

ユーザーの処置: 必須入力をすべて指定して、コマンドを再サブミットしてください。

ASN0528E *pgmname : program_qualifier* : 必須コントロール表 *tableowner.tablename* が存在しないため、プログラムは終了します。

説明: キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、必要なキャプチャー・コントロール表に対して SQL 操作を実行しようとした。プログラムは、DB2 から *not found* 戻りコードを受信しました。この戻りコードは、マイグレーションが完了していない場合や、必要なキャプチャー・コントロール表が誤って環境からドロップされた場合に発生します。

ユーザーの処置: 欠落しているコントロール表の名前については、メッセージ・テキストを参照してください。この問題に対する訂正アクションは、どの表が欠落しているかによって異なります。例えば、この表が **IBMSNAP_PRUNE_LOCK** であれば、単純にこの表を再作成して、キャプチャー・プログラムを再始動できます。しかし、この表が **IBMSNAP_RESTART** で、正しい表の内容をリストアできない場合は、表を再作成して、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートする必要があります。

ASN0529I *pgmname : program_qualifier* :
parameter_name の値は、始動時にメソッド *method* によって *parameter_value* に設定されました。

説明: プログラムが開始され、指定された始動オプションとパラメーター表の既存の内容の組み合わせに基づいて、プログラム・パラメーターが初期化されました。パラメーターは、デフォルトによる、パラメーター表を

変更する、または始動オプションによる、のいずれかの方式で設定されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0530E *pgmname : program_qualifier : プログラムは、データベース database_name にユーザー ID user_id で接続できませんでした。 SQLCODE は sql_code。*

説明: プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 への暗黙接続

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 for Linux または DB2 for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。

ASN0531E *pgmname : program_qualifier : プログラムは、プランをオープンできませんでした。 SQL 戻りコードは return_code、理由コードは reason_code、サブシステム名は DB2_subsystem、およびプラン名は plan_name。*

説明: プログラムがプラン、ASNLPLAN をオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 適切な理由コードを見つけるには、ご使用オペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーの、メッセージとコード資料の中の DB2 コードを参照してください。管理ガイドの中で呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。

ASN0532E *pgmname : program_qualifier : DB2 リリース release_number はサポートされていません。*

説明: プログラムは、この DB2 のリリースをサポートしていません。

ユーザーの処置: 適切な DB2 のリリースでプログラムを実行してください。

ASN0533E *pgmname : program_qualifier : DB2 は、異常終了しました。*

説明: DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。

z/OS、VSE/ESA、または VM/ESA に対して、DB2 はプログラムがまだアクティブの間に終了し、ユーザーは NOTERM 呼び出しパラメーターを指定しませんでした。

ユーザーの処置: DB2 を開始して、プログラムを開始してください。

ASN0534E *pgmname : program_qualifier : DB2 database は、state 状態のため、使用できません。*

説明: DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。データベースは、UNDETERMINED、TERMINATED、QUIESCED、ROLLWARD、または ACTIVE のいずれかの状態にあります。

ユーザーの処置: DB2 を開始し、次にプログラムを開始してください。

ASN0535E *pgmname : program_qualifier : プログラムは、データベース db_server から切断できませんでした。 戻りコードは return_code、理由コードは reason_code。*

説明: DB2 への接続を終了する間、プログラムは呼び出し接続機能 (CAF) からエラー・コードを受信しました。

ユーザーの処置: プログラムを再始動してください。

ASN0536E *pgmname : program_qualifier : インスタンス名を取得中に、エラーが戻されました。 SQLCODE は sqlcode。*

説明: DB2 の SQLEGIN API がエラーを戻しました。

ユーザーの処置: エラーを判別するために「DB2 API リファレンス」で SQLEGIN API の詳細情報を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0537E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、データベース *database_name* に接続できませんでした。戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 への暗黙接続

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 for Linux または DB2 for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。

ASN0538I *pgmname : program_qualifier* : プログラムは DB2 が始動するのを待機中です。

説明: プログラムを最初に始動したときに DB2 が停止している場合、プログラムは DB2 が始動するまで待機します。DB2 の開始後、キャプチャー・プログラムは接続を行って、変更のキャプチャーを開始します。

キャプチャーの呼び出しパラメーターに TERM=N オプションが指定されており、DB2 が順調に停止された場合、キャプチャー・プログラムは DB2 が始動するまで待機します。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0539E *program_name : program_identifier* : キャプチャー・プログラムは開始されませんでした。あらかじめ、データベース *database_name* に **logarchmeth1** または **logarchmeth2** データベース構成パラメーターを構成して、アーカイブ・ロギングをサポートするようしておかなければなりません。

説明: キャプチャー・プログラムは開始を試みましたが、ソース・データベースは、キャプチャーがログ読み取りインターフェースを使用するように適切に構成されていませんでした。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. **logarchmeth1** データベース構成パラメーターおよび **logarchmeth2** データベース構成パラメーターの設定を見直してください。両方のパラメーターが OFF に設定されている場合は、**logarchmeth1** データベース構成パラメーターまたは **logarchmeth2** データベース構成パラメーターに OFF 以外の値を設定して、リカバリー可能ロギングを有効にしてください。
2. 何らかのアプリケーションでデータベースを使用する前には、**backup** コマンドを使用してデータベースをバックアップしてください。

ASN0540E *pgmname : program_qualifier* : プログラムは、ファイル *path_filename* から、パッケージ *pkg_name* に対する自動バインド操作を正常に実行できませんでした。**SQLSTATE sqlstate** が戻されました。

説明: プログラムの実行には、バインドまたは再バインドが必要なことを検出しました。プログラムは自動バインドを試行しましたが、自動バインドは成功しませんでした。プログラムは初期化に失敗しました。

ユーザーの処置: 対応するデータベース・メッセージをチェックし、自動バインドの失敗の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。失敗の原因としては、許可の失敗、コントロール表の欠落や誤り、またはバインド・ファイルがプログラムと一致していないことが考えられます。状態を訂正して、プログラムを再始動してください。

ASN0541E *pgmname : program_qualifier* : プログラム・パラメーター表 *parms_table* の列 *column_name* に対して、誤った値 *column_value* が指定されました。

説明: このメッセージは、IBMSNAP_CAPPARMS 表の妥当性検査でパラメーター値の設定の 1 つが無効であることが発見された場合、キャプチャー・プログラムの初期化中に発行されます。キャプチャー・プログラムは、このエラーにより終了します。

ユーザーの処置: この表で使用が許可されているパラメーター値について、資料を調べてください。値を訂正して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0542E *pgmname : program_qualifier* : ロック・タイムアウトまたはデッドロック再試行の最大数に達しました。

説明: プログラムが内部で、タイムアウトまたはデッド

ロック状態を複数回試行しました。永続的なロック状態を受け取るプログラム・タスクが、クリティカルなもの(ワーカー・スレッドなど)である場合、プログラムは終了します。プログラム・タスクが、整理やモニターなど、クリティカルなものでない場合、タスクは後で再試行され、プログラムはアクティブな状態のままとなります。

ユーザーの処置: 対応するデータベース・メッセージをチェックし、ロック競合の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。このエラーがユーザーによって保持されたロックなど、ユーザー・エラーである場合は、状態を訂正してください。この状態が解決されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポートまで連絡してください。

ASN0543E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、*object* のための *number* バイトのストレージを取得できません。プログラムは終了します。

説明: プログラムは、必要なメモリー内のストレージ構造のメモリーを取得できません。

ユーザーの処置: プログラムに割り振るメモリーを増やして、プログラムを再始動してください。

ASN0544E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、すでにアクティブです。

説明: 1 つの DB2 サブシステムまたはデータベースに対して複数のキャプチャー・プログラムを開始しようとしてしました。

ユーザーの処置: スキーマまたは修飾子が正しく指定されていることを確認してください。

- DB2 for z/OS サブシステムの場合、データ共有グループのメンバーであるすべてのサブシステムに対して、キャプチャー・プログラムの 1 つのインスタンスだけを実行するか、または 1 つのスタンドアロン・システム上で、キャプチャー・プログラムの 1 つだけのインスタンスを実行します。ユニークなりソース名に対する違反を判別するには、ENQ リソースを表示してください。
- その他の DB2 データベース・プラットフォームの場合は、所定のスキーマを使用して、1 つのデータベースごとに 1 つのキャプチャー・プログラムだけを実行します。

ASN0545E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、始動パラメーター *PWDFILE* で開始されましたが、パスワード・ファイル *password_file* が見つかりませんでした。

説明: プログラムがパスワード・ファイルを見つけれません。ユーザーは、*PWDFILE* パラメーターを介してパスワード・ファイル名を指定します。ユーザーがパス始動パラメーターを指定した場合、パスワード・ファイルはその指定されたディレクトリーにあるはずですが、ユーザーがパス始動パラメーターを指定していない場合、パスワード・ファイルは、プログラムが実行されている現行ディレクトリーにあるはずですが、

ユーザーの処置: パスワード・ファイル名が正しく指定されており、正しいディレクトリーに置かれていることを確認してください。

ASN0546W *pgmname* : *program_qualifier* : 自動再始動マネージャーに対するプログラム呼び出しが失敗しました。呼び出された *IXCARM* マクロは *arm_call*、戻りコードは *return_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、自動再始動マネージャー (ARM) に接続できないか、接続を切断できないか、または作動可能状況指示を受信できません。メッセージは、失敗した呼び出しと、ARM からプログラムに戻された戻りコードまたは理由コードを表示しています。プログラムは終了しませんが、ARM 処理を続行できません。

ユーザーの処置: この失敗の原因についての詳細は、自動再始動マネージャーの資料を調べてください。

ASN0547I *pgmname* : *program_qualifier* : 渡された置換変数の数 *nbr_vars* は、メッセージ番号 *msg_nbr* のテキストの中のトークンの数 *nbr_tokens* と一致しません。

説明: プログラム・コードとプログラム・メッセージ・ファイルが一致しません。プログラムとメッセージ・ファイル・カタログのリリース・レベルが一致しません。

ユーザーの処置: プログラム・メッセージ・ファイルが、適切なファイル許可設定で、正しくインストールされていることを確認してください。

ASN0548I *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、オペレーター停止コマンドを受信しました。

説明: この通知メッセージは、プログラムに対して停止コマンドが発行されたことを示しています。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0552E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、SQL エラーを検出しました。サーバー名は、*server_name*。SQL 要求は次の通りです。*sql_request*。表名は *table_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_tokens*。SQLERRP は *error_module*。

説明: キャプチャー、アプライ、モニターのいずれかのプログラムが EXEC SQL ステートメントまたは CLI 呼び出しを発行したときに、ゼロ以外の SQLCODE が戻されました。この SQLCODE が戻された原因として、スペース不足状態などの調査が必要な DB2 上の問題か、または DB2 がアプリケーションで使用できないことが考えられます。このメッセージの後には、この SQLCODE が検出されたときに実行されていたレプリケーションに関する情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明と DB2 で実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。レプリケーションがこのメッセージの直後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。

ASN0553W *pgmname* : *program_qualifier* : *num_tokens* 置換フィールド *sub_tokens* の入ったメッセージ番号 *msg_number* で、内部エラー *error_number* が発生しました。

説明: *error_number* は 10 進数の内部エラー番号で、以下のように定義されます。

- 1 インスタンスが無効です
- 2 アクセスが否認されました
- 3 ファイルがありません
- 4 メッセージがありません
- 5 ロケールが無効です
- 6 システム・エラー
- 7 メモリー不足

msg_number は、プログラムが発行しようとしていたメッセージです。*num_tokens* は、このメッセージに提供される置換トークン (*pgmname* と *program_qualifier* トークンは含みません) の数です。*sub_tokens* は、エラーが発生したメッセージの置換トークンで、コンマで区切られます。

ユーザーの処置: 示されたエラー・コードに基づいて可

能な修正アクションを実行してください。例えば、メッセージ・ファイルが見つからなかった場合やアクセスできなかった場合、ファイル名を示すメッセージ ASN0513 も参照してください。正しい許可を持つメッセージ・ファイルが存在することを確認してください。エラー・コード 4 が出された場合、メッセージ・ファイルが古い可能性があります。

ASN0554E *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、サーバー *server_name* で DB2 ログがフルの状態を検出しました。

説明: プログラムは挿入または更新の処理を試行しましたが、DB2 トランザクション・ログがフルのため、DB2 によって拒否されました。プログラムは処理を停止します。

ユーザーの処置: データベース・ファイルが入っているファイル・システム上のスペース残量を調べてください。データベースの構成ファイルの最大ログ・サイズを拡大することを考慮してください。

ASN0555W *pgmname* : *program_qualifier* : プログラムは、APF 許可されていないために自動リソース・マネージャー (ARM) に登録できません。

説明: キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムは、プログラム・ライブラリーが APF 許可されていないため、自動リソース・マネージャーのサービスを使用するための登録ができません。

ユーザーの処置: キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムを自動リソース・マネージャーに登録する場合は、プログラム・ライブラリーを APF 用に許可し、プログラムを再始動してください。

ASN0556E *pgmname* : *program_qualifier* : 無効な登録が検出されました。CD 表 *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* は、基本表 *source_owner.source_table* に一致する列を持っていません。

説明: キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、CD 表がソース表と一致する列を持っていないことを発見しました。この登録に対して何もキャプチャーできないため、無効であると考えられます。この登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STOP_ON_ERROR 列が N に設定されている場合、この登録は非アクティブ状態のままとなります。そうでない場合は、キャプチャー・プログラムが停止します。

ユーザーの処置: CD 表に、この登録のソース表と一致する列が少なくとも 1 つあることを確認してください。

ASN0557E *pgmname : program_qualifier* : ソース表 *source_owner.source_table* 付きの *owner.table* の列 *column_name* の値 *column_value* は無効です。

説明: キャプチャー・プログラムが登録の初期化を試行し、その IBMSNAP_REGISTER 表で、列に無効な値を検出しました。

ユーザーの処置: エラーになっている列の値を訂正してください。

ASN0558E *pgmname : program_qualifier* : パラメーター表 *parameter_table* は、プログラム修飾子 *program_qualifier* に対応する 1 行だけを持つことができます。

説明: プログラム・パラメーター表が正しく定義されなかったか、または無効な行を使って更新されました。

ユーザーの処置: *program_qualifier* に対応する行が、パラメーター表に 1 行しか存在しないことを確認してください。パラメーター表が、そのプログラム修飾子に対するユニーク索引を持っていることを確認してください。

ASN0559W *pgm_name : program_qualifier* : ジョブを CPU 時間制限 *xx* 秒で開始しました。プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。

説明: z/OS のみ。ジョブを CPU 時間制限 *xx* 秒で開始しました。プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。

ユーザーの処置: プログラムの実行を続行するには、現行ジョブを取り消してください。新規のジョブ制限として、NOLIMIT または 1440 を指定して、ジョブを再サブミットしてください。

ASN0560E *pgm_name : program_qualifier* : プログラムは *db_object object_name* をデータベース *db_name* に作成できません。

説明: プログラムはデータベースにデータベース・オブジェクトを作成できません。データベース・オブジェクトは、サーバー・コントロール表と同じオブジェクトの表スペースに作成されています。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージに関連する SQL エラー・コードを確認して、適切なアクションを取ってください。

ASN0561W *program_name : program_identifier* : プログラムのアプリケーションのコード・ページ *application_code_page* が、データベース *database_name* のコード・ページ *database_code_page* と同じではありません。

説明: Linux、UNIX、Windows、および System i の場合: キャプチャー・プログラムのアプリケーション・コード・ページが、ソース・データベースのコード・ページと異なります。この 2 つのコード・ページ間に互換性がないかぎり、このような相違が原因で、キャプチャー・プログラムがデータを CD 表に挿入したときにデータの破壊または想定外のエラーが発生することがあります。

ユーザーの処置: コード・ページに互換性がある場合には、アクションは不要です。互換性がない場合、キャプチャー・プログラムを停止し、アプリケーションのコード・ページを、データベースのコード・ページに変更してから、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN0562E *pgmname:program_qualifier*: プログラムが既に稼働中かどうか確認中にエラーが発生しました。戻りコードは *return_code*。エラー・メッセージは *error_message*。操作は *operation*。

説明: プログラムがすでに稼働中かどうか確認中にエラーが発生しました。以下は、有効な戻りコードの値です。

- 1 Windows で、セマフォの作成中にプログラムがエラーを検出しました。
- 2 UNIX では、HOME 環境変数が見つかりませんでした。
- 3 mkdir コマンドは HOME/sqllib ディレクトリーの作成中に失敗しました。
- 4 mkdir コマンドは HOME/sqllib/dpropr ディレクトリーの作成中に失敗しました。
- 5 fgets 操作が、pid ファイルから行を読み取ることができませんでした。
- 6 ps コマンドが失敗しました。
- 7 grp ファイルの除去中にエラーが発生しました。
- 8 grp ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。
- 9 pid ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

- 10 pid ファイルに対する fput コマンドがエラーで終了しました。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

- 1 これは Windows の内部エラーです。Windows の解説書を参照してください。
- 2 UNIX では、HOME 環境変数が正しい値に設定されていることを確認してください。
- 3-10 HOME パスでディレクトリーおよびファイルを作成する正しい許可があるかどうか確認してください。

ASN0563W *pgmname:program_qualifier:* パラメーター *parameter-1* は、パラメーター *parameter-2* と互換性がありません。パラメーター *parameter-2* は無視されます。

説明: プログラムは、コマンドあるいはパラメーター表で指定された両方のパラメーターで開始しました。これらのパラメーターに互換性はありません。プログラムが開始済みで実行を継続した場合、1 つのパラメーターが無視されます。

ユーザーの処置: 次回プログラムを開始するときは、プログラムが使用するパラメーターだけを指定してください。

ASN0564I *pgmname : program_qualifier :* プログラムは、コントロール表 *control_table_name* 上で *sql_request* 操作を行って、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートすることができませんでした。サーバー名は、*server_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_token*。SQLERRP は *module_name*。

説明: キャプチャー、アプライ、またはモニター・コントロール表は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上で定義されます。コントロール表には、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートしない列も含まれます。プログラムは、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするようにコントロール表を変換しようとしたのですが、その操作は成功しませんでした。レプリケーション・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: DB2 for z/OS の「メッセージおよびコード」資料を参照し、SQLCODE の説明および、DB2 で取るべき可能性のある訂正アクションの情報を調べてください。SQLCODE が -551 である場合には、以下のいずれかを行ってください。

- キャプチャー、アプライ、またはモニター・プログラムを開始するユーザー ID に対し、コントロール表での ALTER 特権を付与します。
- AASNSAMP member(ASN2M2V8) を実行し、すべてのレプリケーション・コントロール表がスキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするように、ALTER を実行します。

ASN0565E *program_name : program_identifier :* プログラムは統計を表 *table_name* 中に挿入できません。SQL 戻りコードは *sqlcode* です。このインターバルのデータはスキップされ、次のインターバルに組み込まれません。

説明: プログラムは活動に関する統計を保守しますが、予期しない SQL コードのためにこのデータを表に保管できませんでした。プログラムは、次のインターバルにデータの挿入を再試行します。

ユーザーの処置: SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

ASN0566E *program_name : program_identifier :* 表 *table_name* の整理が、SQL 戻りコード *sqlcode* で失敗しました。

説明: 整理が想定外の SQL エラー・コードで失敗しました。このエラーによってプログラムが終了することはありません。次の整理のインターバルか、またはプログラムの再始動時に、プログラムは表の整理を再試行します。

ユーザーの処置: SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは必要ありません。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

ASN0567I *program_name : program_identifier :* *number* 行が表 *table_name* から整理されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0568E *program_name* : *program_identifier* : 文字データをコード・ページ *code_page* から変換する際に、ICU エラーが発生しました。ICU 関数は *function_name* であり、CCSID *CCSID* のコンバーターを使用しています。ICU 戻りコードは、*return_code* です。見込まれていた ICU バージョンは *version_number* です。詳細: *details*。

説明: 非互換バージョンの ICU (International Components for Unicode) が検出されました。ICU 関数は ICU API 名です。この API から戻りコードが戻されました。ICU 操作に関する詳細は、Q キャプチャー・プログラムに備えられています。

ユーザーの処置: ICU のバージョンが正しいことを確認し、プログラムの再始動を試行してください。

ASN0569E *program_name* : *program_identifier* : このプログラムが内部エラー *error_code* を検出しました。プログラムは終了します。

説明: プログラムで想定外のエラーが発生しました。

ユーザーの処置: この問題のトラブルシューティングを促進する方法については、『InfoSphere Replication Server および InfoSphere Data Event Publisher に関するデータの収集』を参照してください。

ASN0571E *program_name* : *program_identifier* : パラメーター表 *table_name* が空か複数の行が含まれているので、プログラムを開始できません。

説明: プログラム・パラメーター表の行数は 1 行でなければなりません。

ユーザーの処置: `sqllib/samples/repl` ディレクトリーのサンプル・マイグレーション・スクリプトを DDL ステートメントで使用し、パラメーター表の内容を再定義して、1 行だけ含まれるようにしてください。

ASN0572I *program_name* : *program_identifier* : *version* プログラムは正常に初期化されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0573I *program_name* : *program_identifier* : プログラムが停止されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0574E *program_name* : *program_identifier* : **WebSphere MQ** キュー・マネージャー *queue_manager_name* が使用できないか、または開始されませんでした。プログラムは終了します。

説明: プログラムを WebSphere MQ キュー・マネージャーに接続できません。このエラーにより、プログラムは終了します。

ユーザーの処置: キュー・マネージャーが実行されていない場合は、例えば `strmqm` コマンドを使用してキュー・マネージャーを開始してください。その他の詳細については、WebSphere MQ インフォメーション・センターの『2059 (080B) (RC2059): MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE』も参考になります。

ASN0575E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが、オブジェクト *name* で **WebSphere MQ** コマンド *command* を発行した際に、**WebSphere MQ** エラー *reason_code* を検出しました。

説明: プログラムが WebSphere MQ コマンドを発行した際に、ゼロ以外の WebSphere MQ 理由コードが戻されました。この理由コードは、WebSphere MQ の問題 (ストレージを WebSphere MQ オブジェクト用に使用できないなど) があるか、または WebSphere MQ を使用できないことを示しています。

ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。Q アプライ・プログラムの値は IBMQREP_TARGETS 表に保管されます。

ユーザーの処置: この WebSphere MQ 理由コードの説明と、行う必要のあるアクションに関する情報は、「WebSphere MQ Application Programming Reference」中の理由コードの資料を参照してください。以下のリストは、Q レプリケーションに特定の、取り得るアクションに関する情報を提供しています。

2003 (X'07D3') MQRC_BACKED_OUT
(Linux, UNIX, Windows)

Q キャプチャーは、この理由コードを受信すると、キュー・マネージャー・ログのサイズは、この Q キャプチャーが生成するワークロードを処理するのに十分な大きさでない (大きなトランザクションの複製時には特にそうです) ことを示すことがあります。キュー・マネージャー・ログはリカバリーのために使用されます。キュー・マネージャーにはエラー・ログもあります。キュー・マネージャー・ログ・サイズが問題なのかどうかを判断するには、キュー・マネージャーのエラー・ログを調べて、キュー・マネージャー・ログがいっぱいになったことを示すメッセージ (例えばメッセージ AMQ7469) がないか調べます。デフォルトでは、キュー・マネージャー・エラー・ログは、パス

`MQ_install_directory/queue_manager_name/errors` のディレクトリー内にあります。エラー・ログ・ファイルには、`AMQERR01.LOG` といった名前が付いています。3 つのキュー・マネージャー・プロパティ

`LogPrimaryFiles`、`LogSecondaryFiles`、

`LogFilePages` の値を大きくすることによって、キュー・マネージャー・ログのサイズを大きくすることができます。例えば、それらのプロパティを次の値以上にするとよいでしょう。

- `LogPrimaryFiles`: 15
- `LogSecondaryFiles`: 10
- `LogFilePages`: 1024

ASN0576E `program_name : program_identifier : プログラムは WebSphere MQ キュー queue_name にアクセスできません。`

説明: コントロール表中にキューが存在しないか、または指定が誤っています。プログラムは、このエラーの結果として終了します。

ユーザーの処置: キュー名がコントロール表中で正しく指定されていることと、アプリケーション・プログラムにアクセスできることを確認してください。キューが存在しない場合は作成してください。

ASN0580E `program_name : program_identifier : 製品 product_name のライセンスが見つかりませんでした。`

説明: プログラムはライセンスなしで実行できないので終了しました。

ユーザーの処置: プログラムのライセンスをインストールするか、またはIBM 担当員に連絡してください。

ASN0581W `program_name : program_identifier : リカバリー可能リソース・マネージャー・サービス (RRS) が開始されていないために、プログラムは name への接続を初期化できませんでした。プログラムは代わりに、呼び出し接続機能 (CAF) の使用を試行します。`

説明: RRS/AF を使用する場合は、最初に識別要求を発行する必要があります。z/OS の RRS サービスが開始されていないために、要求は失敗しました。

ユーザーの処置: プログラムは CAF を使用して正しく実行されるため、アクションは不要です。ただし、プログラムで RRS/AF を使用する場合は、最初に RRS を開始してからプログラムを再始動しておく必要があります。

ASN0582I `program_name : program_identifier : プログラムが、オペレーター・コマンドにより中断されました。`

説明: オペレーター・コマンドがプログラムを中断したため、プログラムは待ち状態に入りました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0583I `program_name : program_identifier : プログラムが、オペレーター・コマンドにより再開されました。`

説明: オペレーター・コマンドが中断状態からプログラムを再開し、プログラムが実行を続けました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0584E `program_name : program_identifier : プログラムが WebSphere MQ ライブラリー library_name を動的にロード中にエラーが発生しました。エラー・コード: error_code、error_description。環境変数 ASNUSEMQCLIENT は value に設定されています。`

説明: WebSphere MQ ライブラリーの動的ロードの試行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 環境変数 `ASNUSEMQCLIENT` が `TRUE` に設定される場合、WebSphere MQ クライアント・ライブラリーが使用されます。`TRUE` に設定されない場合は WebSphere MQ サーバー・ライブラリーが使用されます。環境変数 `ASNUSEMQCLIENT` が設定されない場合にもサーバー・ライブラリーが使用されます。

サーバー構成が使用される場合、ローカル・ホストで WebSphere MQ サーバーを稼働させてください。クライアント構成が使用される場合、このホストとサーバーが稼働しているリモート・ホストの間で通信が行えるようにしてください。

デフォルトのロケーションに WebSphere MQ をインストールしなかった場合、ライブラリー・パス変数 (例えば AIX では LIBPATH、SUN OS では LD_LIBRARY_PATH、HPUX では SHLIB_PATH、Windows では PATH) が、インストールされた正しいパスを指しているか確認してください。複数バージョンの WebSphere MQ がある場合、変数が正しいバージョンを指しているか確認してください。

ASN0585I *program_name : program_identifier* : プログラムは、WebSphere MQ ライブラリー *library_name* を正常にロードしました。環境変数 **ASNUSEMQCLIENT** は *value* に設定されています。

説明: WebSphere MQ ライブラリーの動的ロードは正常に行われました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0586E *program_name : program_identifier*。プログラムが動的にロードしたライブラリーから *function_name* の関数アドレスを取得中に、エラーが発生しました。エラー・コード *error_code*、*error_description*。

説明: 指定された WebSphere MQ API コマンドの関数アドレスの検索中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーはよく、WebSphere MQ の API シグニチャーに違いがある場合に発生します。正しいバージョンの WebSphere MQ サーバーまたはクライアント、およびそのライブラリーを使用しているかどうか確認してください。環境変数

ASNUSEMQCLIENT が TRUE に設定される場合、クライアント・ライブラリーが使用されます。TRUE に設定されない場合はサーバー・ライブラリーが使用されません。環境変数 **ASNUSEMQCLIENT** が設定されない場合にも WebSphere MQ サーバー・ライブラリーが使用されます。サーバー構成が使用される場合、ローカル・ホストで WebSphere MQ サーバーを稼働させてください。クライアント構成が使用される場合、このホストとサーバーが稼働しているリモート・ホストの間で通信が行えるようにしてください。

デフォルトのロケーションに WebSphere MQ をインストールしなかった場合、ライブラリー・パス変数 (例えば AIX では LIBPATH、SUN OS では

LD_LIBRARY_PATH、HPUX では SHLIB_PATH、Windows では PATH) が、インストールされた正しいパスを指しているか確認してください。複数バージョンの WebSphere MQ がある場合、変数が正しいバージョンを指しているか確認してください。

ASN0587I *program_name : program_identifier* スレッドは、WebSphere MQ キュー・マネージャーとの接続を再試行中です。

説明: WebSphere MQ キュー・マネージャーは現在使用できません。スレッドは接続を再試行中です。

ユーザーの処置: WebSphere MQ キュー・マネージャーがアクティブになっていない場合は再始動してください。

ASN0588I *program_name : program_identifier* プログラムは、データベース *database_name* への接続を試行中にタイムアウトになりました。

説明: このメッセージは、プログラムの初期化中に、プログラムが自身のコントロール表を使用してサーバーに接続できない場合に発行されます。プログラムはシャットダウンします。

ユーザーの処置: データベース・メッセージを確認してください。プログラムがデータベース接続を確立できなかった理由が示されている可能性があります。質問や診断については、データベース管理者にお問い合わせください。

ASN0589I *program_name : program_identifier* プログラムは、ルーチン *routine* から、戻りコード *return_code* を受け取りました。

説明: プログラムは、自身のルーチンの 1 つから、示された戻りコードを受け取りました。戻りコードおよびルーチン情報は、IBM がエラーの原因を判別する際に役立つことがあります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。通常はこのメッセージの前に、プログラムのログ・ファイルで参照できるエラー・メッセージが表示されます。

ASN0590I *program_name : program_identifier* スレッド *thread_name* は、終了スレッド *thread_name* から、戻りコード *return_code* を受け取りました。

説明: プログラムは、自身のスレッドの 1 つを停止したときに、この戻りコードを受け取りました。最も一般的なスレッド終了戻りコードを、以下に示します。

0

スレッドは正常に停止しました。理由コードはありません。

n

アプライ・プログラムは n 個の失敗した循環を検出しました。

2001

スレッドは、停止コマンドまたは停止シグナルにより停止させられました。

2009

スレッドは、リカバリー・マネージャーにより停止させられました。

2010

スレッドは、リカバリー・マネージャー再呼び出しにより停止させられました。

2011

スレッドは、エラーが原因ではなく自身で停止しました。

2012

スレッドは、エラーが原因で停止しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。このメッセージがエラー・メッセージとともに表示される場合は、そのメッセージが含まれるプログラムのログ・ファイルを調べてください。

ASN0591I *program_name* : *program_identifier* スレッド *thread_name* は、*action* シグナル *signal_name* を受信しました。

説明: スレッドは、スレッドがシャットダウンする前にこのシグナルを受信しました。ACTION パラメーター値は、扱われる場合と扱われない場合があります。スレッド・リカバリー機能は、予期しているシグナルを扱い、予期していないシグナルは扱いません。HoldLThread は通常、初期スレッドが HoldLThread をシャットダウンする前に SIGUSR2 シグナルを受信します。他のレプリケーション・スレッドは、それが初期スレッドにより終了させられる場合に SIGUSR1 シグナルを受信します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。このメッセージがエラー・メッセージとともに表示される場合は、そのメッセージが含まれるプログラムのログ・ファイルを調べてください。

ASN0592I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、キーが *key_values* の IPC キューにアタッチしました。

説明: プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューにアタッチしました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0593I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、キーが *key_values* の IPC キューからデタッチしました。

説明: プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューからデタッチしました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0594I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、キーが *key_values* の IPC キューを作成しました。

説明: プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューを作成しました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0595I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、キーが *key_values* の IPC キューを除去しました。

説明: プログラムは、プログラムの初期化中または終了中に、IPC コマンド・メッセージ・キューを除去しました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。レプリケーション・プログラムは、開始するたびに新規メッセージ・キューを作成します。メッセージ・キューが存在する場合は除去し、新しいものを作成します。レプリケーション・プログラムは、シャットダウンするたびにメッセージ・キューの除去を試行します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0596I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、パス *path_name* 用の、キーが *key_values* の IPC キューを作成できませんでした。OSSE 理由は、*reason* です。

説明: プログラムは、自身の IPC コマンド・メッセージ・キューを作成できません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。レプリケーション・プログラムは、開始するたびに新規メッセージ・キューの作成を試行します。メッセージ・キューが存在する場合は、除去して新しいものを作成しようとします。

ユーザーの処置: 理由が「指定されたリソース ID の共有メモリー ID がすでに存在します」の場合は、以下のステップを実行して、ファイルとそれに関連したメッセージ・キューを手動で除去してください。

1. キー値をメモします。キー値は次のようなものです。
(0x300667f7, 0x310667f7, 0x320667f7)
2. レプリケーション・プログラムを開始するときに使用されたユーザー ID を使って、サーバーにログインします。
3. ASN0594I メッセージに含まれるキーごとに、次のコマンドを入力します。

```
ipcs grep | 0x300667f7
```

キーが見つかったら、その IPC リソース・タイプ、ID、および所有者をメモします。UNIX および z/OS サーバーでは、IPC リソース・タイプ (m、q、または s) は IPCS 出力の最初の列にあります。LINUX サーバーでは、IPC リソース・タイプはヘッダ行で識別できます。

4. キーが見つからない場合は、スーパーユーザー ID を使用してサーバーにログインし、キーごとにステップ 3 の IPCS コマンドを入力します。
5. 上記のステップで見つかった IPC リソースを所有するユーザー ID を使用して、サーバーにログインします。キーが共有メモリー・セグメントを示す場合は、次のコマンドを入力してその共有メモリー・セグメントを除去します。

```
ipcrm -m ID
```

キーがセマフォアを示す場合は、次のコマンドを入力してそのセマフォアを除去します。

```
ipcrm -s ID
```

キーがメッセージ・キューを示す場合は、次のコマンドを入力してそのメッセージ・キューを除去します。

```
ipcrm -q ID
```

6. PATHNAME パラメーター値で指定されるファイルを所有するユーザー ID を使用して、サーバーにログインします。例えば次のようにコマンドを入力して、そのファイルを除去します。

```
rm /tmp/dpropr5.SRCDB.TIMING03.APP.IPC
```

ASN0597I *program_name* : *program_identifier* プログラムは、パス *path_name* 用の、キーが *key_values* の IPC キューにアタッチできませんでした。OSSE 理由は、*reason* です。

説明: プログラムは、レプリケーション IPC コマンド・メッセージ・キューにアタッチできません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムが実行されていない可能性があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0598W *program_name* : *program_identifier* : プログラムはデータベース *database_name* に接続しましたが、1 バイト文字しかサポートされません。SQLCODE は +863 です。

説明: サーバー・データベースおよびクライアント・アプリケーションは異なる言語タイプのコード・ページを使用しており、7 ビットの ASCII 範囲外の文字はいつでも保証できないことを DB2 は示しました (SQLCODE +863)。

ユーザーの処置: 使用されているオペレーティング・システムおよびデータベース・マネージャーのコード・ページが正しく構成されているか確認してください。SQLCODE +863 について詳しくは、「DB2 メッセージ・リファレンス 第 2 巻」を参照してください。

ASN0599E *program_name* : *program_identifier* : プログラムはサポートされないアーキテクチャー・レベル *bad_arch_level* を検出しました。サポートされるレベルは *good_arch_level* のみです。

説明: レプリケーション・プログラムの製品レベルは、指定されたプログラム ID のコントロール表のものと異なります。プログラムはこれを、

IBMQREP_APPLYPARMS 表、IBMQREP_CAPPARMS 表、または IBMSNAP_APPLEVEL 表の ARCH_LEVEL

ASN0600I

列に設定されるアーキテクチャー・レベルを検査することによって判別します。

ユーザーの処置: プログラムの開始時に正しいデータベース別名を指定したか確認してください。レプリケーション・コントロール表がプログラムよりも古い場合、表をプログラムと同じ製品レベルにマイグレーションしてください。

ASN0600I *program_name : program_identifier :* プログラム *program_name-version* は開始中です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0601I *program_name : program_identifier :* プログラムはパス *path* のキー *keys* を使用して IPC キューにメッセージを送信できませんでした。エラー・コードは *error_code* です。

説明: プログラムは、レプリケーション IPC コマンド・メッセージ・キューに送信できません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムがもはや実行されていない可能性があります。

このメッセージはエラー・メッセージ ASN0508E への追加メッセージとして発行され、これには追加の診断情報を提供するエラー・コードが含まれます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0602I *program_name : program_identifier :* プログラムはパス *path* のキー *keys* を使用してその IPC キューからメッセージを読み取れませんでした。エラー・コードは *error_code* です。

説明: プログラムは IPC コマンド・メッセージ・キューからメッセージを読み取れません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムがもはや実行されていない可能性があります。

このメッセージはエラー・メッセージ ASN0508E への追加メッセージとして発行され、これには追加の診断情報を提供するエラー・コードが含まれます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0603E *program_name : program_identifier :* アクティブの Q サブスクリプションが存在するものの、**WebSphere Replication Server** のライセンスが検出されませんでした。

説明: アクティブの Q サブスクリプションは存在するものの、レプリケーションのライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

ASN0604E *program_name : program_identifier :* アクティブな発行が存在するものの、**WebSphere Event Publisher** のライセンスが検出されませんでした。

説明: アクティブな発行は存在するものの、イベント・パブリッシングのライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: 発行を活動化する前に、WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールし、Q キャプチャーを再始動します。

ASN0605E *program_name : program_identifier :* **WebSphere Replication Server** のライセンスと **WebSphere Event Publisher** のライセンスのどちらも検出されませんでした。

説明: 有効なライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- ライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールし、Q キャプチャーによってパブリ

ツシュの処理が行われるようにしてください。
WebSphere Replication Server のライセンスをインストールし、Q キャプチャーによって Q サブスクリプションの処理が行われるようにしてください。

ASN0606I *program_name : program_identifier :* プログラムは、ライブラリー *library_name* を正常にロードしました。

説明: このメッセージは、レプリケーション・プログラムが正常に開始された後に表示されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0607E *program_name : program_identifier :* ライブラリー *library_name* をロードできません。エラー・コードは *error_code* です。エラー・メッセージは *error_message* です。

説明: プログラムがレプリケーション・ライブラリーのロード中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: 指定したパスにライブラリーが存在していることを確認してください。

ASN0608I レプリケーション・コードは "64" ビットを使用します。通知トークンは "DB2 v9.1.0"、"n060704"、"WR21350"、およびフィックスパック "1" です。DB2 インスタンス・パスは "/home/inst1/sqllib" です。レプリケーション・パスは "/home/inst9/sqllib" です。

説明: このメッセージは *asnlevel* プログラムを呼び出した後に現れます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0609W *program_name : program_identifier :* WebSphere Event Publisher のライセンスが検出されませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムはレプリケーションのライセンスを検出しましたが、イベントの発行のライセンスは検出されませんでした。アクティブの発行が検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しません。Q キャプチャーは新規発行を活動化できません。

ユーザーの処置: 発行を作成して活動化する計画の場合、WebSphere Event Publisher のライセンスをインストール

してください。そうでない場合には、アクションは不要です。

ASN0610W *program_name : program_identifier :* WebSphere Replication Server のライセンスが検出されませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムはイベント・パブリッシングのライセンスを検出しましたが、レプリケーションのライセンスは検出されませんでした。アクティブの Q サブスクリプションが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しません。Q キャプチャーは新規 Q サブスクリプションを活動化できません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを作成して活動化する計画の場合、WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

ASN0612E *program_name : program_identifier :* WebSphere Event Publisher のライセンスが検出されなかったため、発行 *publication_name* は活動化されませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムはイベント・パブリッシングのライセンスを検出しない場合、発行を活動化しません。Q キャプチャー・プログラムは終了しません。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- イベント・パブリッシングのライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のイベント・パブリッシングのライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールしてください。

ASN0613E *program_name : program_identifier :* WebSphere Replication Server のライセンスが検出されなかったため、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* は活動化されませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムはレプリケーションのライセンスを検出しない場合、Q サブスクリプションを活動化しません。Q キャプチャー・プログラムは終了しません。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

ASN0614E

- レプリケーションのライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のレプリケーションのライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

ASN0614E *program_name* : *program_identifier* :
WebSphere Replication Server のライセンスが検出されませんでした。

説明: 有効なライセンスが検出されなかったため、Q アプリ・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- ライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

ユーザーの処置: WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

ASN0615E *program_name* : *program_identifier* : 以下のライブラリーのいずれかから関数を動的にロードできなかったため、プログラムは動的関数 *function_name* を呼び出すことができませんでした: *libraries*。

説明: プログラムは、ダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) 関数を呼び出そうとしましたが、その関数を使用してライブラリーをロードできなかったか、あるいはロードされたライブラリーからその関数アドレスを解決できなかったため、呼び出すことができませんでした。

ユーザーの処置: ライブラリーが存在していて、z/OS オペレーティング・システム上の STEPLIB に指定されているか、あるいは Linux、UNIX、または Windows システムに固有のライブラリー・パス環境変数に指定されていることを確認してください。

ASN0616E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、以下のダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) をロードできません: *libraries*。プログラムがロードしようとしたすべての DLL のオペレーティング・システムのエラー番号は *error_number* です。

説明: プログラムは、リストされているダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) をロードしようとしたが、リストされているオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

ユーザーの処置: オペレーティング・システム・エラーを訂正して、プログラムを始動してください。

ASN0617E *program_name* : *program_identifier* : 関数 *function_name* は、ダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) *library_name* からエクスポートされませんでした。OSSe (Operating System Service Everywhere) 戻りコードは *return_code* です。OSSe 戻りコードの説明は *description* です。

説明: プログラムは、リストされた DLL が関数をエクスポートしなかったため、その DLL 内の関数のアドレスを解決できませんでした。

ユーザーの処置: リストされた DLL を STEPLIB から除去して、プログラムが異なるバージョンで DLL を試行できるようにしてください。

ASN0618W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、コード化文字セット ID (CCSID) *identifier* から CCSID *identifier* への変換に Unicode Conversion Services (UCS) を使用できません。UCS 戻りコードは *return_code* です。UCS 理由コードは *reason_code* です。

説明: プログラムは、UCS を使用してリストされた CCSID 間でデータを変換することができませんでした。プログラムは、International Components for Unicode (ICU) 文字セットを使用して変換を試行します。

ユーザーの処置: UCS および ICU のどちらも変換に使用できない場合は、必要なステップに従って、リストされた CCSID に対して UCS または ICU のいずれかを有効にしてください。

ASN0619W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、コード化文字セット ID (CCSID) *identifier* から CCSID *identifier* ヘデータを変換するために Unicode Conversion Services (UCS) または International Components for Unicode (ICU) を使用できません。

説明: プログラムは、UCS および ICU の両方を使用して、リストされた CCSID 間でデータを変換しようとしたが、どちらのメソッドも変換に使用できませんでした。

ユーザーの処置: 必要なステップに従って、リストされた CCSID に対して UCS または ICU のいずれかを有効にしてください。

ASN0620E *program_name : program_identifier :* このプログラム・ログの読み取りは、理由コード *reason_code* で失敗しました。読み取れなかったログ・レコードには、ログ・シーケンス番号 (LSN) *lsn* が付いていて、これは表 *table_name* のものです。

説明: レプリケーション・キャプチャー・プログラムは、表のログ・レコードの取得中に、データベース・ログ読み取り API からエラーを受け取りました。

ユーザーの処置: 理由コードを使用して、データベース・ログの読み取りエラーを判別してください。データベースから発行されたメッセージを見つけ出し、その後のキャプチャー・メッセージを調べて、エラーに関する詳細を確かめてください。

ASN0621E *program_name : program_identifier :* プログラムは、表 *table_name* のログ・レコードを読み取れませんでした。行の内容をエンコードするのに使用された編集ルーチン (EDITPROC) を、行内容のデコードのために DB2 から呼び出せなかったからです。

説明: EDITPROC 定義を持った表が、レプリケーションでサポートされます。データベース・ログ読み取り API は、EDITPROC を呼び出して行内容をデコードしてから、それをレプリケーション・キャプチャー・プログラムに戻します。このAPI は、EDITPROC を使用して行内容をデコードできませんでした。指定されているエラー・アクション・オプションに応じて、キャプチャーはサブスクリプションまたは登録を停止または非活動化します。

ユーザーの処置: ログ読み取り API が、EDITPROC を使用して行内容をデコードできなかった理由を判別してください。エラーに関するその他の詳細を示していると考えられるメッセージをデータベースで見つけ出してください。

ASN0622E *program_name : program_identifier :* プログラムはデータベース *database_name* に接続されていません。現行のサーバーは *current_server* です。

説明: プログラムは明示的にデータベース・サーバーに接続しましたが、そのデータベース・サーバーは接続の実行後に現行のサーバーではありませんでした。

ユーザーの処置: エラーに関するその他の詳細を示して

いると考えられるデータベース発行のメッセージを、システム・コンソールで見つけ出してください。

ASN0623E *program_name : program_identifier :*
thread_name スレッドは、*list_name* リストに対して **mutex** をロックすることができません。エラー番号は *error_number* です。理由は、*reason* です。ロック・ホルダー *lock_holder* は、**mutex** を *number* 回ロックしました。

説明: プログラム・スレッドは、リストに対して **mutex** をロックすることができません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知用です。

ASN0624E *program_name : program_identifier :*
thread_name スレッドは、*list_name* リストに対して **mutex** をアンロックすることができません。エラー番号は *error_number*。理由は、*reason* です。ロック・ホルダー *lock_holder* は、**mutex** を *number* 回ロックしました。

説明: プログラム・スレッドは、リストに対して **mutex** をアンロックすることができません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知用です。

ASN0625W *program_name : program_identifier :*
ODBC 関数 *function_name* は、戻りコード *return_code*、SQL 状態 *SQL_state*、およびネイティブ・データベース完了コード *completion_code* で完了しました。

説明: レプリケーションは、特定のデータベースにアクセスするための ODBC 関数の使用をサポートしていません。ODBC 関数は失敗戻りコードで完了しました。この結果、レプリケーションにとってエラー状態になる場合もあれば、ならない場合もあります。診断メッセージの続く部分では、ネイティブ・データベースからのメッセージ・テキストが表示されます。

ユーザーの処置: 後のメッセージを調べて、後続のエラー状態がレプリケーションで発生したかどうかを判断してください。これらのメッセージ内の情報が、エラーの原因の判別に役立つことがあります。該当する場合は、問題を訂正してください。

ASN0626E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムで、ターゲット表をロードする前にクラシック・レプリケーション・ソース・データを一時的に保管する目的で、ターゲット・サーバーにファイルを作成している間にエラーが発生しました (*routine_name*、*function*、*dataset_name*、*dataset_type*、*error*)。

説明: クラシック・レプリケーションの場合、ターゲット表のロード・プロセスの間に、Q アプライ・プログラムはターゲット・サーバーに一時的な中間ファイルを作成して、ソース表から選択するデータを置きます。Q アプライ・プログラムは、データをターゲットに挿入する前にそのファイルを読み取ります。Q アプライ・プログラムを実行するユーザー ID には、このファイルを作成する権限が必要です。

ユーザーの処置: Q アプライ・プログラムを実行するユーザー ID がファイルの作成権限を持っていること、およびファイルを作成するための十分なディスク・スペースがターゲット・サーバーにあることを確認します。メッセージの中のエラー情報を参考にして、ファイルを作成できなかった他の理由を判別します。

ASN0627E *program_name* : *program_identifier* : 列 *column_name* がコントロール表 *table_name* から欠落しているため、プログラムは停止しました。

説明: 必要な列がコントロール表から欠落しています。これはマイグレーションが必要であることを示しています。

ユーザーの処置: 必要なマイグレーション・プログラムまたはスクリプトを実行して、プログラムを開始してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『Migrating to Replication and Event Publishing Version 9』を参照してください。

ASN0628E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプションまたは発行 *name* の一部である、ソース列 *column_name* の列オプション *option* に、無効な値 *value* が含まれています。

説明: 指定された値は、列オプションには無効です。

ユーザーの処置: 発行または Q サブスクリプションに列オプションが正しく指定されていることを確認してください。レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. Q サブスクリプションまたは発行をドロップし、列オプションの有効な値を指定して再作成してください。
2. Q サブスクリプションまたは発行を開始します。

ASN0629E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、登録、**Q** サブスクリプション、または発行を活動化しようとしているときに、サポートされていないデータ・タイプ *data_type* を検出しました。

説明: プログラムは、ソース表に、サポートされていないデータ・タイプで定義された 1 つ以上の列を検出しました。Q レプリケーションの場合の XML データ・タイプのレプリケーションでは、IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 値が 0905 以上であることが必要です。

ユーザーの処置: サポートされていないデータ・タイプを含む列のない登録、Q サブスクリプション、または発行を再定義してください。ソース表に XML データ・タイプが含まれる場合は、Q キャプチャー・プログラムがバージョン 9.5 以上であること、および COMPATIBILITY 値が 0905 以上であることを確認してください。

ASN0631E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、ソース表 *table_owner.table_name* の列 *column_name* のフィールド・プロシージャ *procedure_name* をロードできませんでした。z/OS は、システム完了コード *completion_code* および理由コード *reason_code* を戻しました。プログラムが停止されました。

説明: キャプチャーまたは Q キャプチャー・プログラムは、ソース列内のデータをデコードするためにユーザー指定のフィールド・プロシージャのロードを試みましたが、それは、その列が、このフィールド・プロシージャで定義されているからです。エラーが起きたため、プログラムはこのプロシージャを呼び出しませんでした。

ユーザーの処置: システム完了コードおよび理由コードで示されているエラーを訂正してから、キャプチャーまたは Q キャプチャーをウォーム・スタートしてください。システム完了コードおよび理由コードについては、「MVS システム・コード」に説明されています。

ASN0632E *program_name* : *program_identifier* : ソース表 *table_owner.table_name* の列 *column_name* のフィールド・プロシージャがエラーを検出しました。フィールド・プロシージャは、戻りコード *return_code* および理由コード *reason_code* を戻しました。プログラムが停止されました。

説明: ユーザー指定のフィールド・プロシージャは、列内のデータのデコード中にエラーを検出しました。フィールド・プロシージャからのエラー・メッセージが、このメッセージの後に続くことがあります。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび理由コードで示されているエラーを訂正してから、キャプチャーまたは Q キャプチャーをウォーム・スタートしてください。戻りコードと理由コードの意味は、フィールド・プロシージャで定義されています。

ASN0633W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、長時間実行中のトランザクションまたは発生の可能性のある問題を検出しました。プログラムは、*timestamp* に、トランザクション *transaction_ID* の開始に関するログ・レコードを読み取りました。しかしプログラムは、*number* 秒間、このトランザクションのコミットまたはロールバックのログ・レコードを検出しませんでした。許可 ID は *auth_ID* です。関連 ID は、*corellid* です。トランザクションの開始ログ・シーケンス番号は *LSN* です。Q キャプチャーまたはキャプチャーは、*LSN* までの *LSN* をキャプチャーしました。

説明: このプログラムは、トランザクションの開始をキャプチャーしましたが、コミットまたはロールバックのログ・レコードを 1 時間を超える期間検出していません。これは、問題である場合もそうでない場合もあります。

ユーザーの処置: それが長時間実行のトランザクションである場合、このメッセージを無視してください。z/OS の場合、DSN1LOGP ユーティリティを使用し、リカバリー・ログの内容のフォーマット設定と、長時間実行中のトランザクションかどうかの判別を行えます。

ASN0634W *program_name* : *program_identifier* : トランザクション *transaction_ID* は、*timestamp* 秒を超える期間コミットされていません。トランザクションの初期ログ・シーケンス番号は *LSN* です。許可 ID は *authid* です。関連 ID は、*corellid* です。

説明: ASN0633W で言及されている最も古い未コミットのトランザクションに加えて、Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムで 1 時間を超えてコミットまたはロールバックのログ・レコードが検出されていないトランザクションが、このメッセージで示されます。

ユーザーの処置: それが長時間実行のトランザクションである場合、このメッセージを無視してください。z/OS の場合、DSN1LOGP ユーティリティを使用し、リカバリー・ログの内容のフォーマット設定と、長時間実行中のトランザクションかどうかの判別を行えます。

ASN0635I *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、許可 ID *authid*、許可トークン *authtoken*、およびプラン名 *planname* によって識別されるトランザクションを無視します。

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、IBMQREP_IGNTRAN 表の AUTHID、AUTHOKEN、および PLANNAME 列に挿入された値によって識別されるトランザクションのログ・レコードを無視します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0636E *program_name* : *program_identifier* : プログラムはデータベース *database_name* に接続できませんでした。理由コードは *reason_code*。

説明: プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT
- DB2 への暗黙接続

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。

ASN0637I *program_name* : *program_identifier* :
file_name のファイル・サイズ限度を超過
 しないようにするために、スピルが停止し
 ました。

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、メモリーを解放するためにメモリー内トランザクションをファイルにスピルしていました。しかしファイル・サイズが 1 GB の内部限度に達したため、スピルは停止しました。メモリーを再度使い果たした場合、新規ファイルに対してスピルが再開される可能性があります。データは失われません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0638W *program_name* : *program_identifier* : **DB2**
 インスタンス・レベル変数
DB2_SKIPINSERTED=ON または
DB2_SKIPDELETED=ON の一方あるい
 は両方が設定されており、レプリケーシ
 ョンを妨げる可能性があります。

説明: DB2 インスタンスに対して
 DB2_SKIPINSERTED=ON または
 DB2_SKIPDELETED=ON が設定されている場合は、カーソル固定分離モードであっても、まだコミットされていない挿入済み行および削除済み行は SELECT ステートメントで返されません。以下の結果が考えられます。

- ロード・フェーズを持つサブスクリプションを開始した場合、挿入済みまたは削除済みの行は、表がターゲットでロードされるときに EXPORT ユーティリティによって選出されず、ターゲットの複製表から欠落する場合があります。
- asntdiff ユーティリティは、不整合の結果を返す場合があります。

ユーザーの処置: 表に対する CAPSTART シグナルが IBMQREP_SIGNAL 表に挿入されるまで、ソース表に対して挿入または削除を行うすべてのアプリケーションを中断してください。さらに、asntdiff ユーティリティの実行時にはアプリケーションを中断してください。

ASN0639W *program_name* : *program_identifier* : **DB2**
 インスタンス・レベル変数
DB2_SKIPINSERTED=ON または
DB2_SKIPDELETED=ON の一方あるい
 は両方が設定されているため、ターゲット
 にあるソース表 *table_owner.table_name* で
 行が失われる場合があります。

説明: DB2 インスタンスに対して
 DB2_SKIPINSERTED=ON または

DB2_SKIPDELETED=ON が設定されている場合は、カーソル固定分離モードであっても、まだコミットされていない挿入済み行および削除済み行は SELECT ステートメントで返されません。ロード・フェーズを持つサブスクリプションを開始した場合、挿入済みまたは削除済みの行は、表がターゲットでロードされるときに EXPORT ユーティリティによって選出されず、ターゲットの複製表から欠落する場合があります。

ユーザーの処置: 表に対する CAPSTART シグナルが IBMQREP_SIGNAL 表に挿入されるまで、ソース表に対して挿入または削除を行うすべてのアプリケーションを中断してください。

ASN0640I *program_name* : *program_identifier* : プロ
 グラムは、WebSphere MQ キュー・マネ
 ージャーが使用可能になるのを待っていま
 す。

説明: term 呼び出しパラメーターが N に設定された状態で Q キャプチャー・プログラムが実行されていて、Q キャプチャーは WebSphere MQ キュー・マネージャーに接続できません。term=N の場合、キュー・マネージャーに接続できるようになるか、停止コマンドによって停止されるまで、Q キャプチャーは待機します。キュー・マネージャーに接続した後、Q キャプチャーは変更のキャプチャーを継続します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0641E *program_name* : *program_identifier* :
TERM=N パラメーターが指定されました
 が、不整合な状態を防ぐためにプログラム
 をシャットダウンしています。プログラム
 を再始動する必要があります。

説明: TERM=N パラメーターは、DB2 データベース・マネージャーが使用不可の場合およびキュー・マネージャーが使用不可の場合でも実行を維持するようプログラムに指示する働きをします。

このメッセージは、DB2 データベース・マネージャーが使用不可だったかキュー・マネージャーが使用不可だったかのどちらかではあるものの、待ち状態に入るためにプログラムがいくつかのスレッドを一時的に停止したときに、1 つ以上のスレッドが安全に停止しなかったために戻されました。不整合な状態を防ぐために、プログラム全体が停止しました。

ユーザーの処置: プログラムを再始動してください。

ASN0642E *program_name : program_identifier : 互換性レベル level が無効です。Q キャプチャー・プログラムは停止します。*

説明: 送られるメッセージのレベルを判別するために、レプリケーション・プログラムは Q キャプチャー互換性パラメーターを使用します。Q キャプチャー・コントロール表で検出された互換性レベルはサポートされていません。

ユーザーの処置: 互換性レベルを有効な値に変更して、Q キャプチャー・プログラムを開始します。互換性については、『バージョン 9.7 の Q レプリケーションおよびイベント・パブリッシングの共存サポート』を参照してください。

ASN0643E *program_name : program_identifier : 無効なワイルドカード・パターン pattern が、IBMQREP_IGNTRAN 表の column_name 列で指定されました。複製の対象となり得るトランザクションを無視することを避けるために、Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムをシャットダウンしません。*

説明: 単一のパーセント記号 (%) が IBMQREP_IGNTRAN 表に挿入されました。この文字は (0 個を含む) 任意の数の文字を表すワイルドカードとして扱われるため、単一の % を表に挿入した場合、すべてのトランザクションを無視するよう Q キャプチャーに指示することになるため、このような指定は無効です。

ユーザーの処置: 有効な許可トークンまたはプラン名 (z/OS) あるいは許可 ID (Linux、UNIX、Windows) を使用して IBMQREP_IGNTRAN 表を更新します。パーセント記号がデータに含まれ、それがワイルドカード文字として使用されていない場合には、円記号を使ってワイルドカード文字をエスケープしてください (%%)。その後、Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムを開始します。

ASN0644W *program_name : program_identifier : IBMQREP_IGNTRAN 表の column_name 列で非ヌル値が指定されました。この値は無視されました。*

説明: Linux、UNIX、または Windows では、IBMQREP_IGNTRAN 表の AUTHID (許可 ID) 列にのみトランザクション ID を挿入できます。

ユーザーの処置:

1. AUTHID 列にトランザクション ID を指定します。

2. Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムを再初期化します。

ASN0646E *program_name : program_identifier : TZ 環境変数が定義されていません。プログラムは停止します。*

説明: レプリケーション・プログラムを使用するためには、TZ 環境変数を設定して時間帯と協定世界時 (CUT) とのオフセットを定義する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの場所に TZ 環境変数を定義してください。

- etc/profile
- レプリケーション・プログラムを実行するユーザー ID のホーム・ディレクトリー内の .profile ファイル
- LE_CEE_ENVFILE 環境変数で指定されるファイル。LE_CEE_ENVFILE 環境変数を使用すると、指定したファイルに基づいて環境変数のリストを設定できます。

ASN0647E *program_name : program_identifier : バージョン version のデータベース database_name は、このバージョン version の Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムではサポートされていません。*

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャーは、このバージョンのデータベースからの変更のキャプチャーをサポートしていません。

ユーザーの処置: データベース・レベル別のキャプチャー・サポートについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ASN0648E *program_name : program_identifier : システム・カタログ表 table_name に DATA CAPTURE CHANGES が設定されていなければなりません。*

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、表に対する ALTER TABLE ADD COLUMN 変更および ALTER TABLE ALTER COLUMN SET DATA TYPE 変更を検出するために、システム・カタログ表の更新を探します。このシステム・カタログ表の DATA CAPTURE CHANGES が有効になっていなければなりません。

ユーザーの処置: このシステム・カタログ表の DATA CAPTURE CHANGES を有効にしてください。

ASN0649I *program_name* : *program_identifier* : スキーマ・レベルの Q サブスクリプションが作成されましたが、Q サブスクリプション *name* は、送信キューまたは受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を指定するソース表 *table_owner.table_name* に既に存在しており、状態 *state* です。既存の Q サブスクリプションは上書きされます。

説明: 同じスキーマを持つすべての表が複製されるように指定する、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションが作成されました。プログラムは、表に Q サブスクリプションを作成しようとしたのですが、表のための非アクティブな Q サブスクリプションが既に存在していません。プログラムは、新規 Q サブスクリプションの作成を続け、非アクティブな Q サブスクリプションを上書きします。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0650I *program_name* : *program_identifier* : 送信キューまたは受信キュー *queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップ *queue_map_name* を使用する Q サブスクリプション *name* が削除されました。

説明: 一致するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを持つ表がドロップされる時、その関連する Q サブスクリプションが削除されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0651E *program_name* : *program_identifier* : 表 *table_owner.table_name* の列 *column_name* が変更されました。このバージョンの Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、データ・タイプの変更を自動複製できません。プログラムが停止されました。

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャーは、プログラムが z/OS 上のバージョン 10 でない限り、ALTER TABLE ALTER COLUMN SET DATA TYPE ステートメントの結果を自動的に複製することはできません。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

1. ソース表を再編成します。
2. ターゲット表の対応する列を変更します。

3. ソース列とターゲット列が正しくマップされるように登録または Q サブスクリプションを再定義します。
4. Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN0652I *program_name* : *program_identifier* : NMI サービスは、正常に初期化されました。サーバーは、ソケット *socket_number* で **listen** しています。

説明: プログラムは AF_UNIX ソケットを定義し、NMI クライアント接続要求を **listen** しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0653I *program_name* : *program_identifier* : NMI サービスは、ソケット *socket_number* で停止しました。

説明: プログラムは、NMI TERM メッセージを受け取り、すべての NMI クライアント接続をクローズしました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0661E *program_name* : *program_identifier* : ジョブはキャンセルされました。

説明: ジョブが、明示的にユーザーによって、または ABEND などの予期しないイベントの結果、キャンセルされました。

ユーザーの処置: 原因を調べ、プログラムを再始動してください。

ASN0664W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムまたはキャプチャー・プログラムは、**warntxsz** パラメーターで指定されたサイズの *size* MB を超えるトランザクションを検出しました。トランザクション ID は *transaction_ID*、トランザクションのサイズは *transaction_size* MB、許可 ID は *auth_ID*、許可トークンは *auth_token*、プラン名は *plan_name* です。

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは **warntxsz** パラメーターを指定して開始されたので、複製しようとしているトランザクションが指定されたサイズを超える場合、プログラムはこの警告メッセージを出力します。トランザクションのサイズが **warntxsz** の値を超えました。これは、問題である場合

もそうでない場合もあります。

ユーザーの処置: これが予期しないトランザクションである場合、プログラムを停止し、表示されたトランザクション ID を **ignore_transid** または **transid** ランタイム・パラメーターで使用する、プログラムを再始動するときに問題のトランザクションをスキップすることができます。

ASN0665E *program_name : program_identifier :* プログラムが開始されませんでした。ネットワーク管理インターフェース (NMI) クライアント接続要求を認証するためには、このプログラムは APF 許可されたライブラリーから実行されなければなりません。

説明: プログラムが、NMI サーバーとして稼働できるように **nmi_enable** パラメーターを指定して開始されました。この場合、プログラムは APF 許可されていなければなりません。

ユーザーの処置: プログラム・ロード・ライブラリーを APF 許可して、プログラムを再始動してください。

ASN0666E *program_name : program_identifier :* レプリケーション NMI サーバーが、NMI クライアント・セキュリティ ID の値を取得できません。戻りコードは *return_code*。エラー番号は *error_number* です。理由は、*reason* です。

説明: システム・エラーのため、プログラムの `ioctl()` SECIGET コマンドは NMI クライアント・セキュリティ ID 値を取得しませんでした。レプリケーション NMI サーバーがリクエストの許可 ID を認証できないので、NMI クライアント接続要求は拒否されます。

ユーザーの処置: `ioctl()` C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。

ASN0667E *program_name : program_identifier :* NMI クライアント認証関数が SAF 戻りコード *return_code* を RACROUTE REQUEST=AUTH から受け取りました。RACF 戻りコードは *return_code*。RACF 理由コードは *reason_code* です。

説明: レプリケーション NMI サーバーがリクエストの許可 ID を認証できないので、NMI クライアント接続要求は拒否されます。

ユーザーの処置: RACROUTE 戻りコードと理由コードの説明については、「zOS Security Server RACROUTE マクロ解説書」(SA88-8621-11)を参照してください。

ASN0668I *program_name : program_identifier :* レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* の状況は、*status* になっています。

説明: この送信キューの状況を表示するための、Q キャプチャーの QSTATUS コマンドが発行されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0669I *program_name : program_identifier :* レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* の状況は、*status* になっています。現行キュー項目数は *queue_depth* です。

説明: この受信キューの状況を表示するための、Q アプライの QSTATUS コマンドが発行されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0670E *program_name : program_identifier :* 送信キュー *queue_name* が存在しません。qstatus コマンドは無視されます。

説明: qstatus コマンドが、存在しない送信キューに対して使用されました。

ユーザーの処置: キュー名またはレプリケーション・キュー・マップ名が正しいことを確認してから、qstatus コマンドを再発行してください。

ASN0671E *program_name : program_identifier :* 受信キュー *queue_name* が存在しません。qstatus コマンドは無視されます。

説明: qstatus コマンドが、存在しない受信キューに対して使用されました。

ユーザーの処置: キュー名またはレプリケーション・キュー・マップ名が正しいことを確認してから、qstatus コマンドを再発行してください。

ASN0672E *program_name : program_identifier :* Q スクリプション、発行、または登録名 *table_owner.table_name* の列 *column_name* は、サポートされていないデータ・タイプであり、複製できません。データ・タイプは *data_type* です。

説明: この列のデータ・タイプは、ソース・データベースではサポートされていますが、Q キャプチャーまたは

ASN0673I

キャプチャー・プログラムではサポートされていません。この状態が発生する可能性があるのは、Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムがデータベースのバージョン・レベルより下位の場合 (例えば、バージョン 9.7 Q キャプチャー・プログラムを DB2 10 for z/OS サブシステム上で実行中の場合など) です。

ユーザーの処置: 表から列を削除し、さらに Q サブスクリプション、発行、または登録から列を削除するか、キャプチャーまたは Q キャプチャー・プログラムを作業対象のデータベースと同じレベルにアップグレードしてください。

ASN0673I *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムまたはキャプチャー・プログラムは、ファイル *file_name* (トランザクション ID *trans_ID*、許可 ID *authid*、相関 ID *correlid*、プラン名 *plan_name*) のファイル・サイズ限度を超過しないようにするため、スピルを停止しました。

説明: Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムは、メモリーを解放するためにメモリー内トランザクションをファイルにスピルしていました。しかしファイル・サイズが 1 GB の内部限度に達したため、スピルは停止しました。メモリーを再度使い果たした場合、新規ファイルに対してスピルが再開される可能性があります。データは失われません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0674I *program_name : program_identifier :* プログラムは、データベース接続をチェックしています。

説明: プログラムが稼働しているとき、データベース接続を定期的にチェックします。プログラムの呼び出しパラメーターに *term=n* オプションが指定されている場合、データベースが使用不可ならばプログラムは実行を続行し、データベースが使用可能になるまで待機します。データベースが使用可能になった後、プログラムは接続し、処理を開始します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0675I *program_name : program_identifier :* プログラムは、ファイル *file_name* にシード値 *value* を生成しました。

説明: プログラムがシードを生成し、シード値をファイルに保存しました。プログラムはシードからキーを生成し、そのキーを使用して IPC キューを作成します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN0676I *program_name : program_identifier :* プログラムが、パス *path_name* のプロセス間通信 (IPC) キーを作成するためのシードを生成できませんでした。OSSE 理由は、*reason* です。

説明: プログラムがシードを生成できません。プログラムはシードからキーを生成し、そのキーを使用して IPC キューを作成します。ftok() 関数が既に存在するメッセージ・キューのキーを戻した後に、プログラムがシードを生成しようとしていました。

ユーザーの処置: 『IPC メッセージ・キューに関する問題のトラブルシューティング』のステップに従って、IPC ファイルとその関連メッセージ・キューを手動で削除してください。

ASN0677E *program_name : program_identifier :* ネットワーク管理インターフェース (NMI) ソケット名 *socket_name* が無効です。プログラムは停止します。

説明: プログラムが、NMI サーバーとして稼働できるように *nmi_enable* パラメーターを指定して開始されました。有効な NMI ソケット名は、先頭がスラッシュ文字 (/) で、長さが 64 文字以下でなければなりません。

ユーザーの処置: NMI ソケット名を訂正して、プログラムを再始動してください。

ASN0678E *program_name : program_identifier :* DB2 for z/OS サブシステム *subsystem_name* がアクティブでなく、プログラムは *term=y* パラメーターを指定して開始されたので終了します。

説明: *term=y* パラメーターを指定すると、DB2 が使用不可になっている場合にプログラムが終了します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- DB2 for z/OS サブシステムを開始してから、*term=y* を指定してプログラムを再始動します。
- *term=n* を指定してプログラムを開始します。プログラムは始動してから、サブシステムがアクティブになるまで待ち、その後データの複製を始めます。

ASN0679E *program_name* : *program_identifier* : **DB2 for z/OS** サブシステム *subsystem_name* が制限アクセス・モードで開始されており、プログラムは **term=y** パラメーターを指定して開始されたので終了します。

説明: **term=y** パラメーターを指定すると、DB2 が使用不可になっている場合にプログラムが終了します。DB2 for z/OS サブシステムは制限アクセス・モードで開始されたので、プログラムは終了しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- フルアクセス・モードで DB2 for z/OS サブシステムを開始してから、**term=y** を指定してプログラムを再始動します。
- **term=n** を指定してプログラムを開始します。プログラムは始動し、サブシステムがフルアクセス・モードで実行されるまで待ってから、データの複製を始めます。

ASN0777I *pgmname* : *program_qualifier* : **追加情報**
message_text、**理由コード:** *rc1*、*rc2*、*rc3*。

説明: このメッセージの **追加情報** は、情報メッセージ・テキストを表示します。理由コードは、このメッセージ・テキストに関連する戻りコードの補足情報を示します。通知コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN0888E *pgmname* : *program_qualifier* : **EEE エラー条件** *message_text*、**エラー・コード:**
rc1、*rc2*、*rc3*。

説明: このメッセージの **EEE エラー条件** とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子 (表示されている場合) が付いた、EEE 特定のエラーの記述です。エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。エラー・コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: **EEE エラー条件** の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。エラーを解決できない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN0999E *pgmname* : *program_qualifier* : **エラー条件**
message_text、**エラー・コード:** *rc1*、*rc2*、*rc3*。

説明: このメッセージの **エラー条件** とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子 (表示されている場合) が付いた、エラーの記述です。エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。エラー・コード・フィールドが適用できない場合、"*" (アスタリスク) が表示されます。

ユーザーの処置: エラー条件 の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。エラーを解決できない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

第 36 章 ASN1000 - ASN1499

ASN1001E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、SQL エラーを検出しました。**ERRCODE** は *error_code*。 **SQLSTATE** は *sqlstate*。 **SQLCODE** は *sqlcode*。 **SQLERRM** は *sqlerrm*。 **SQLERRP** は *sqlerrp*。 サーバー名は、 *server_name*。 表名は *table_name*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1002E **APPLY** *apply_qualifier*。 *table_name* をロックできませんでした。 **ERRCODE** は *error_code*、 **SQLSTATE** は *sqlstate*、 **SQLCODE** は *sqlcode*、 **SQLERRM** は *sqlerrm*、 **SQLERRP** は *sqlerrp*、サーバー名は *server_name*、表名は *table_name*

説明: アプライ・プログラムは、表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1003E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、サーバー *server* に接続できませんでした。

説明: アプライ・プログラムがデータベースへの接続を試みましたが、失敗の戻りコードを受信しました。アプライ・プログラムがデータベースに接続できなかったのは、さまざまな原因が考えられます。例えば、データベースが停止中であったり、データベースにアクセスしているユーザーの数が多すぎると、アプライ・プログラムは失敗の戻りコードを受信します。

ユーザーの処置: DB2 の「メッセージおよびコード」の資料で (アプライ診断ログから) **SQLCODE** を探し、接続が失敗した理由を調べます。レプリケーション・ユーザー ID とパスワードを保管する方法については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1006E **APPLY** *apply_qualifier*。製品登録モジュールが予期しない内容を持っています。

説明: レプリケーションの登録モジュール (ASNAPR61) の内容が、DB2 のこのバージョンに予期されないものです。正しい登録モジュールを提供するまで、これ以上製品をご使用いただけません。

ユーザーの処置: DB2 がエラーなしでインストールされたことを確認してください。エラーが発生している場合は、訂正してから再試行してください。

DB2 が問題なくインストールされており、フィーチャー登録モジュール (ASNAPR61) に正しくアクセスしている場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

ASN1008E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ修飾子 *qualifier* と、セット名 *set_name* を持つサブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。 **ERRCODE** は、 *error_code*。

説明: サブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。

ユーザーの処置: IBMSNAP_SUBS_SET 表の中の WHOS_ON_FIRST 列および APPLY_QUAL 列が正しく指定されていることを確認してください。

ASN1009E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ修飾子 *qualifier* にサブスクリプション・セットが定義されていません。

説明: アプライ修飾子 *qualifier* にサブスクリプション・セットが定義されていません。

ユーザーの処置: アプライ修飾子 *qualifier* には、少なくとも 1 つのサブスクリプション・セットを定義してください。

ASN1010E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、次のエラーにより、行 *row* を監査証跡表に挿入できませんでした。エラー・コード: *error_code*。

説明: これは、監査証跡表が IBMSNAP_APPLYTRAIL 表と同じ構造で設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

ユーザーの処置: 詳細は、ご使用のデータベースの

ASN1011E

SQL 参照情報と、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

ASN1011E **APPLY** *apply_qualifier*。コピー要求に、非互換のソース属性とターゲット属性があります。SQL コードは *error_code*。

説明: これは、ターゲット表の属性がソース表の属性と互換性を持っていないか、あるいは互換性がないことを示す SQL コードです。

ユーザーの処置: ソース属性とターゲット属性の互換性については、登録表の SOURCE_STRUCTURE 列を参照してください。

ASN1012E **APPLY** *apply_qualifier*。ソース表の構造が無効です。エラー・コードは、*error_code*。

説明: これは、登録表の中のソース表構造が、登録表の中の SOURCE_STRUCTURE 列に応じて設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

ユーザーの処置: IBMSNAP_REGISTER 表で使用される SOURCE_STRUCTURE 列の有効な値については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

ASN1013E **APPLY** *apply_qualifier*。ターゲット表の構造が無効です。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプション・ターゲット・メンバー表の中のターゲット表の構造が無効です。

ユーザーの処置: 有効なターゲット表の構造については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

ASN1014E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは変更データ (CD) 表を見つけられなかったため、コピー要求のソースを見つけられませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムが登録表で変更データ表名を見つけられなかったか、またはソース表が正しく登録されていなかったため、CD 表が IBMSNAP_REGISTER

表に定義されませんでした。

ユーザーの処置: IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照して、CD 表が IBMSNAP_REGISTER 表に正しく定義されていることを検証してください。

ASN1015I **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、サーバー *server_name* のキャプチャー・プログラムがグローバル SYNCETIME を進めるのを待機中です。キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

ASN1016I **APPLY** *apply_qualifier*。コピーのリフレッシュは、使用不可になっています。エラー・コードは、*error_code*。

説明: フル・リフレッシュを試行中、アプライ・プログラムが、登録表の中で、オンに設定された DISABLE_REFRESH 列を検出しました。

ユーザーの処置: DISABLE_REFRESH 列をオフにするか、またはアプライ・プログラムをバイパスして、手動でリフレッシュを実行してください。

ASN1017E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、ターゲット列名を見つけられませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、IBMSNAP_SUBS_COLS 表の中で列を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットとサブスクリプション・セット・メンバーを再定義してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクリプト』を参照してください。

ASN1018I **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name(whos_on_first).(set_number of total_sets)* を処理中です。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1019E **APPLY** *apply_qualifier*. ターゲット表には、キー欄がありません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、ユニーク索引または主キーを必要とする列のいずれかでキー欄の名前を見つけれられません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットとサブスクリプション・セット・メンバーを再定義してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

ASN1020E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ストレージ・ブロックを予約できませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、必須 (メモリー) ストレージを取得できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1021E **APPLY** : *apply_qualifier* : **ERRNO** *error_code* のシステム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイル *filename* を読み取れません。

説明: システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルを読み取れません。

ユーザーの処置: C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、*errno.h* という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。問題の原因がスペース不足によるものかどうかを判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

ASN1022E **APPLY** : *apply_qualifier* : **ERRNO** *errno* のシステム・エラーのために、アプライ・プログラムは作業ファイル *filename* に書き込めません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: ユーザー ID にファイルの 1 つまたはすべてに

ついて適切なアクセス権限がないか、またはアプライ・プログラムがターゲット・ファイルに書き込んだ後に十分なスペースが残っていません。

ユーザーの処置: C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、*errno.h* という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。問題の原因がアクセス権限の不足によるものかスペースの不足によるものかを判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

ASN1023E **APPLY** : *apply_qualifier* : **ERRNO** *errno* のシステム・エラーのために、アプライ・プログラムは作業ファイル *filename* をオープンできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、*errno.h* という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。

ASN1024E **APPLY** : *apply_qualifier* : **ERRNO** *error-number* のシステム・エラーのために、アプライ・プログラムは作業ファイル *filename* をクローズできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、*errno.h* という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。

ASN1025I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name(whos_on_first)* の処理を完了しました。戻りコードは *return_code*。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1026I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、バインド試行中にエラーを検出しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: バインドの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1027E **APPLY** *apply_qualifier*. 指定されているラージ・オブジェクト (LOB) 列の数が多すぎます。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプション・セット・メンバーに指定されているラージ・オブジェクト (BLOB、CLOB、または DBCLOB) 列の数が多すぎます。許可される最大列数は 10 です。

ユーザーの処置: 余分なラージ・オブジェクト列をサブスクリプション・セット・メンバーから除去してください。

ASN1028E **APPLY** *apply_qualifier*. キー列の変更前イメージ列が見つかりませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: ソース表内の、ターゲット・キーの一部になっている列 (IBMSNAP_SUBS_COLS 表内の IS_KEY=Y) をユーザーが更新できるようにする場合は、アプライ・プログラムがターゲット・キー列を更新するときにソース表内の変更前イメージ値を使用するように指定しなければなりません。変更前イメージ値を使用することにより、アプライがターゲット表内で古いキー値を検索し、その行を削除して、新しいキー値を持つ新しい行を挿入できるようになります。以下の 2 つのステップが必要です。

- ターゲット・キーを構成する列の変更前イメージ値をキャプチャーするようにソース登録を定義しなければなりません。
- アプライ・プログラムがターゲット・キーの更新のために変更前イメージ値を使用するように、サブスクリプション・セット・メンバー・オプションを選択しなければなりません。このオプションを選択すると、変更前イメージ列の情報が IBMSNAP_SUBS_COLS 表に追加されます。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. サブスクリプション・セットを非アクティブにします。

2. レプリケーション・センターで、サブスクリプション・セット・メンバーの「メンバー・プロパティ」ダイアログを開きます。
3. 「ターゲット表索引」ページで、「ターゲット・キー列を更新するために、アプライ・プログラムに変更前イメージ値を使用させる」チェック・ボックスをクリックします。
4. サブスクリプション・セットを活動化します。

ASN1029E **APPLY** *apply_qualifier*. whos_on_first 値 *whos_on_first* を持つ、*set_name* という名前のサブスクリプション・セットの SQL ステートメントが正常に実行されませんでした。ステートメントは、SQLCODE *sqlcode* および SQLSTATE *sqlstate* で失敗しました。アプライ・プログラムの内部エラー・コードは、*error_code*。

説明: ユーザー指定の SQL ステートメントが、正常に実行されませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の中で該当する情報と、ご使用のデータベースの SQL 資料を参照してください。

ASN1031E **APPLY** *apply_qualifier*. SQL ステートメントが空です。エラー・コードは、*error_code*。

説明: SQL ステートメントが空ストリングです。

ユーザーの処置: 実行する SQL ステートメントを指定してください。

ASN1032E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムのログ・ファイルをオープンできません。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: アプライ・プログラムが、ログ・ファイルをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、ご使用の特定オペレーティング・システムのトラブルシューティングについて説明している資料を参照してください。

ASN1033E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、アプライ・ログ・ファイルに書き込めませんでした。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: アプライ・プログラムは、ログ・ファイルに書き込めませんでした。

ユーザーの処置: 戻りコードの詳細については、ご使用

の特定オペレーティング・システムのトラブルシューティングについて説明している資料を参照してください。

ASN1034I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムの初期化が成功しました。

説明: このメッセージは、アプライ処理の初期化の成功時に発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1035E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブスクリプション列表にアクセスできませんでした。エラー・コードは、*error_code*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLERRM は *sqlerrm*。SQLERRP は *sqlerrp*。サーバー名は、*server_name*。表名は *table_name*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1036E **APPLY** *apply_qualifier*. 式 *expression* の列タイプ *col_type* が無効です。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプション列表の中の COL_TYPE 列の値が無効です。

ユーザーの処置: 値を A、B、C、D、F、L、または R に変更してください。

ASN1038E **APPLY** *apply_qualifier*.
IBMSNAP_SUBS_COLS 表に、列名または式が指定されていません。

説明: コピー・ステートメントの列名または式を指定する必要があります。

ユーザーの処置: サブスクリプション定義の要件についての詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

ASN1039E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラム・プラン、*plan_name* をオープンできませんでした。エラー・コードは、*error_code*。戻りコードは *return_code*。理由コードは *reason_code*。

説明: アプライ・プログラム・プランをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: アプライ (z/OS 版) ・プログラム・ディレクトリーを参照してください。

ASN1040E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、z/OS エラーを検出しました。エラー・コードは *error_code*、戻りコードは *return_code*。

説明: z/OS システム操作の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: z/OS システム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1041I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、サブシステム名: *subsystem* を使って開始されました。

説明: このメッセージは、示されたサブシステム名を使用してアプライ・プログラムが開始したことを通知しています。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1042W **APPLY** *apply_qualifier*. 呼び出しパラメーターの数が多すぎます。

説明: アプライ・プログラムを呼び出すときに指定されたパラメーターの数が、許可される最大数を超過しています。

ユーザーの処置: 呼び出しパラメーターの適切な数については、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章を参照してください。

ASN1043E **APPLY** *apply_qualifier*. このアプライ・プログラム修飾子 *qualifier* で実行されているアプライ・インスタンスが、すでに 1 つあります。エラー・コードは *error_code*、理由コードは *reason_code*。

説明: 検査試行が失敗しました。

ユーザーの処置: このサブシステムまたはデータベース上で、このユーザー ID を使って実行され、示されたアプライ修飾子が付いているアプライ・プログラムのインスタンスが 1 つしかないことを確認してください。

ASN1044I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、*number* 分と *number* 秒の間、非アクティブになります。

説明: アプライ・プログラムは非アクティブです。

ASN1045I

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1045I **APPLY** *apply_qualifier* : アプライ・バージョン *version_number* プログラムは、データベース *database_name* を使用して開始されました。

説明: このメッセージは、どのデータベースからアプライ・プログラムが実行されているかを知らせるためのものです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1047I **APPLY** *apply_qualifier*. 指定された列の数が多すぎます。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプションのメンバーに指定された列の数が多すぎます。

ユーザーの処置: ユーザーは、サブスクリプションのメンバーに指定された列の数を削減する必要があります。サポートされている最大列数は、すべての列名の全長によって決定されます。列名の長さが短いほど、指定できる列数は多くなります。

ASN1048E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ循環の実行に失敗しました。詳しくは、アプライ・トレール表を参照してください。 *text*

説明: アプライ循環が失敗しました。メッセージの中で、*text* は、*target_server*、*target_owner*、*target_table*、*stmt_number*、および *cntl_server* を識別します。

ユーザーの処置: 監査証跡表の中の APPERRM フィールドを調べて、アプライ循環の失敗の理由を判別してください。

ASN1049E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、システム・エラーを検出しました。エラー・コードは、*error_code*。戻りコードは *return_code*。

説明: システム操作の実行に失敗しました。

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システムのシステム・ライブラリー情報を参照してください。

ASN1050E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な操作を検出しました。エラー・コードは、*error_code*。適用しようとしている操作は、*operation* です。

説明: ソース表から取り出された行の命令フィールドが無効です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1051W **APPLY** *apply_qualifier* : アプライ・プログラムは、ソース表 *table_owner.table_name* とターゲット表との間で、データが変更されたためのギャップを検出しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムが変更データをコピーする前に、ログされた変更内容または削除された行をキャプチャー・プログラムが CD 表でスキップしたことを、アプライ・プログラムが検出しました。例えば、キャプチャー・プログラムがコールド・スタートされたか、または保存限界の整理が行われました。

ユーザーの処置: メッセージ ASN0100I を見つけ出して、キャプチャー・プログラムが直前に開始したかどうかを確かめてください。開始していた場合、ASN0529I を見つけ出して、STARTMODE パラメーターの値が COLD かどうかを確かめてください。COLD である場合には、フル・リフレッシュが無効になっていないかぎり、アプライ・プログラムはターゲット表のフル・リフレッシュを実行します。CD 表の保存限界整理がキャプチャー・プログラムによって実行されたことが分かった場合、それに対応するサブスクリプションは、ソースに対してターゲット表を同期するためのフル・リフレッシュを必要とするかもしれません。

ASN1052E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ASNLOAD プログラムを見つけられませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、現行ディレクトリーで ASNLOAD プログラムを見つけられませんでした。

ユーザーの処置: ASNLOAD が、アプライ・プログラムを呼び出しているディレクトリーにあることを確認してください。

ASN1053E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASNLOAD** 出口ルーチンの実行に失敗しました。 戻りコードは *return_code*。

説明: ASNLOAD 出口ルーチンはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに戻しました。以下は、有効な戻りコードの値です。

98

予期しないエラーが発生しました (ASNLOAD 出口ルーチンが予期しないエラーが発生して失敗しました。 処理は実行されません)。

99

DB2 *pwdfile* キーワードが提供されました - パスワード・ファイルが見つかりません (*pwdfile* パラメーターは渡されましたが、パスワード・ファイルが見つかりませんでした。 これはエラーであり、接続またはその他のいずれの処理も行われません)。

100

出口ルーチンの **CONNECT** ステートメントで、暗号化されたアプライ・パスワード・ファイルで指定されている値を使用するユーザー ID とパスワードが指定されていました。この DB2 サーバーに対する、パスワード・ファイルおよびユーザー ID とパスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続は失敗しました。

101

user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - *pwdfile* は見つかりません (パスワード・ファイルが提供されていないため、*user/using* 句なしで接続が行われました。 接続は失敗しました)。

102

user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - *pwdfile* が見つかりましたが、項目がありません (DB2 サーバーの *pwdfile* にサーバー項目が見つからないため、*user/using* 句なしで接続が行われました。 接続は失敗しました)。

103

user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - *asnload.ini* からの *uid/pwd* が使用されました (*asnload.ini* ファイルの中の値を使用して、*user/using* 句を使った接続が行われました。 DB2 サーバーに対するファイルとユーザー ID/パスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続に失敗しました)。

104

user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - *asnload.ini* が見つかりませんでした (*asnload.ini* ファイルが見つからなかったため、*user/using* 句なしの接続が行われました。 接続は失敗しました)。

105

user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - サーバーの *uid/pwd* が見つかりません (*user/using* 句なしの接続が行われました。 *asnload.ini* ファイルは見つかりましたが、ユーザー ID とパスワードの組み合わせが提供されていません。 接続は失敗しました)。

106

ユーザーが **LOADX_TYPE** = 2 指定しましたが、ユーザー・コードが提供されていません (表 **ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR** の **LOADX_TYPE** の値がユーザーによって 2 の値に設定されました。これはユーザーが ASNLOAD 出口ルーチンにカスタム・コードを提供することを示しています。しかし、このコードは見つからず、アプライ・プログラムが 2 の **LOADX_TYPE** 値を渡したときに、ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。)

107

DB2 インポート・ユーティリティーが失敗しました (インポート・ユーティリティーの実行に失敗しました。このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

108

DB2 エクスポート・ユーティリティーが失敗しました (エクスポート・ユーティリティーの実行に失敗しました。このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

109

DB2 ロード・ユーティリティーが失敗しました (ロード・ユーティリティーの実行に失敗しました。このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

110

DB2 ロード・ユーティリティーが失敗しました - クロスロードとして呼び出されました (ロード・ユーティリティーの実行に失敗しました。ロード・ユーティリティーは、カーソル・オプションからのロードを使って呼び出されま

した。このユーティリティによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されま
す)。

111

LOADX_TYPE が無効な値に設定されました (ASNLOAD 出口ルーチンは、ユーザーによっ
て設定された LOADX_TYPE 値で呼び出され
ました。LOADX_TYPE 値はこの環境には無効
なため、ASNLOAD 出口ルーチンは失敗しまし
た)。

112

LOADX_TYPE 3 には、選択のためのニックネ
ームが必要です (ASNLOAD 出口ルーチンが失
敗しました。ASNLOAD 出口ルーチンは、ユ
ーザーによって設定された LOADX_TYPE 値
で呼び出されました。ニックネームがリモ
ート DB2 ソース表用に作成されて、
ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表に保管され
ているのでない限り、LOADX_TYPE 値はこの
環境に無効です)。

113

LOADX_TYPE 4 は、ターゲット表と非互換で
す (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。
ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによっ
て設定された LOADX_TYPE で呼び出されま
した。DB2 for Linux, UNIX, and Windows ロー
ド・ユーティリティによってターゲット表を
保守できないため、LOADX_TYPE 値はこの環
境には無効です)。

114

LOADX_TYPE 5 は、ターゲット表と非互換で
す (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。
ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによっ
て設定された LOADX_TYPE で呼び出されま
した。DB2 インポート・ユーティリティによ
ってターゲット表を保守できないため、
LOADX_TYPE 値はこの環境には無効です)。

115

ASNDLCOPY 出口ルーチンが失敗しました (サ
ブスクリプション・セット・メンバーに
DATALINK 列があったために、ASNLOAD 出
口ルーチンが ASNDLCOPY 出口ルーチン
を呼び出しました。ASNDLCOPY 出口ルーチン
が失敗したため、このサブスクリプション・セ
ット・メンバーをロードする処理も失敗しま
した)。

ユーザーの処置: 戻りコードとそれに対応する説明を調
べてください。ASNLOAD メッセージ・ファイルと、

172 メッセージ・リファレンス 第 1 巻

DB2 ユーティリティによって生成されたメッセ
ージ・ファイルで、追加情報を調べてください。

ASN1054E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プロ
グラムは、IBMSNAP_REGISTER または
IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に、ソー
ス所有者 *src_ownr*、ソース表 *src_tbl*、お
よびソース・ビュー修飾子 *src_view_qual*
に対する、セット名 *set_name* を持つサブ
スクリプション・セット・メンバーに対応
する行を検出できませんでした。

説明: ソース表登録が誤りか、または完了していませ
ん。

ユーザーの処置: 登録をドロップして、再定義してくだ
さい。

ASN1055E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プロ
グラムは、ソース所有者 *src_ownr*、ソー
ス表 *src_tbl*、ソース・ビュー修飾子
src_view_qual、ターゲット所有者
tgt_ownr、およびターゲット表 *tgt_tbl* に
対する整理コントロール情報を見つけられ
ません。

説明: ソース表登録が正しくありません。

ユーザーの処置: サブスクリプションをドロップして、
再実行してください。

ASN1056E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プロ
グラムは、ユーザー ID/パスワードがない
ため、サーバーに接続できませんでした。
エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、サーバーに接続するた
めのパスワードとユーザー ID を検出できませ
んでした。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムのパスワード・
ファイルが存在することを確認してください。アプ
ライ・プログラムのパスワード・ファイルは、アプライ・
プログラムの開始ディレクトリーと同じ場所にありま
す。DB2 Satellite Edition を使用している場合は、パス
ワードとユーザー ID がクライアント・システムに定義
されていることを確認してください。

ASN1057E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プロ
グラムは、アプライ・パスワード・ファ
イルのパスワードを読み取れませんでした。
エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、パスワードを検出でき
ませんでした。

ユーザーの処置: AUTHENTICATION=SERVER スキームを使用する場合は、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章の中のアプライ・プログラム・セクションに記述されているように、パスワードを指定する必要があります。

ASN1058E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1059E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの *line* 行目で、無効な構文を検出しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの中の 1 行を認識できませんでした。

ユーザーの処置: パスワード・ファイルの中の構文エラーを訂正してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『asnpwd: パスワード・ファイルの作成および保守』を参照してください。

ASN1060E **APPLY** *apply_qualifier*。一時作業ファイルの動的割り振りに失敗しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: 動的割り振り中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1061E **APPLY** *apply_qualifier*。示されたキーワード・パラメーターが無効です。エラー・コードは、*error_code*。

説明: 無効な呼び出しパラメーターが指定され、アプライ・プログラムによって無視されました。

ユーザーの処置: 呼び出しパラメーターを訂正してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『asnapply: アプライの始動』を参照してください。

ASN1062W **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、このサブスクリプション・セット・メンバーのフル・リフレッシュの実行には **SELECT** および **INSERT** ステートメントを使用する必要があります。次の情報はこのサブスクリプション・セット・メンバーに関連するものです。セット名は *set_name*、ソース所有者は *source_owner*、ソース表は *source_table*、ソース・ビュー修飾子は *source_view_qual*、ターゲット所有者は *target_owner*、およびターゲット表は *target_table*。

説明: ASNLOAD 出口ルーチンがユーザー指定の LOADX_TYPE 値を検出できず、このサブスクリプション・セット・メンバーを処理するために使用できるユーティリティがありません。そのため、ASNLOAD 出口ルーチンは、アプライ・プログラムにフル・リフレッシュの制御を渡します。ASNLOAD 出口ルーチンは、一部のターゲット表タイプ (Sybase や MS SQL サーバーのターゲット表など) を現在サポートしておらず、処理できません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。ただし、ASNLOAD 出口ルーチンによる不必要な処理を避けるために、これらのサブスクリプション・セット・メンバーに対して、LOADX_TYPE の値を 1 に設定することができます。

ASN1063E **APPLY** *apply_qualifier*。サブスクリプション・セットは、200 を超えるメンバーを持つことはできません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: サブスクリプションの数が、最大許可数の 200 を超えています。

ユーザーの処置: 余分なメンバーをサブスクリプション・セットから除去してください。

ASN1064W **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット *set_name* に対してフル・リフレッシュを実行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムがまだコールド・スタートされていないためです。

説明: アプライ・プログラムはこのサブスクリプション・セットに対し、フル・リフレッシュを試行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムが今までにコールド・スタートされたことがなく、アプライ・プログラムによって挿入される CAPSTART シグナルの処理準備ができていないためです。

ユーザーの処置: このソースに対して、キャプチャー・プログラムを開始してください。

ASN1065E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ソース表の 1 つ以上の登録が停止しているものがあるため、サブスクリプション・セット *set_name* のデータを処理できません。

説明: アプライ・プログラムは、IBMSNAP_REGISTER 表に 'S' の状態の登録は少なくとも 1 つあるため、このサブスクリプション・セットのデータを処理できません。

キャプチャー・プログラムは、ユーザー介入の必要な問題が登録にある場合、その登録を停止状態にします。エラー情報については、IBMSNAP_REGISTER 表の STATE_INFO 列を参照してください。その登録についてキャプチャーされたデータの整合性に問題が生じている可能性があるため、アプライ・プログラムはフルリフレッシュを実行する必要があります。この問題は、登録済みソース表がデータ・キャプチャーなしで変更されたことがない場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: エラー・メッセージからの情報を使って、停止された登録を修正してください。登録を再び活動化してください。登録を再活動化する場合、アプライ・プログラムはフル・リフレッシュを実行します。

ASN1066E **APPLY** *apply_qualifier*. 内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: 内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1067E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、更新の矛盾を検出し、拒否されたトランザクションを補正しました。詳しくは、作業単位表を参照してください。エラー・コードは、*error_code*。

説明: 複数のアプリケーションが別々のロケーションから、1 つの表の中の同じ行を更新しました。一部のトランザクションが拒否されて、補正されました。

ユーザーの処置: 詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターで、SQL レプリケーション表の構造に関する資料を参照してください。

ASN1068E **APPLY** *apply_qualifier*. 制約違反のため、アプライ・プログラムはサブスクリプションを非活動化しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: ソース表からターゲット表にデータをコピー中、制約違反が検出されました。アプライ・プログラムは終了され、サブスクリプションが非活動化されました。

ユーザーの処置: 制約エラーを訂正して、サブスクリプションを再度活動化してください。

ASN1070E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ターゲット表をロックできませんでした。ERRCODE は *error_code*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLERRM は *sqlerrm*。SQLERRP は *sqlerrp*。サーバー名は、*server_name*。表名は *table_name*。

説明: アプライ・プログラムは、更新の矛盾をチェックする前に、ターゲット表をロックできませんでした。

ユーザーの処置: アプライを再始動する前に、すべてのターゲット表が使用可能であることを確認してください。

ASN1071E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、作業ファイル位置変更できませんでした。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムは、一時作業ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1072E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムは、ASNDONE プログラムを見つけられませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、ユーザー出口プログラム、ASNDONE を検出できませんでした。

ユーザーの処置: ASNDONE プログラムが正しいディレクトリーにあることを確認してください。

ASN1073E **APPLY** *apply_qualifier*. ASNDONE プログラムの実行に失敗しました。戻りコードは *return_code*。

説明: ユーザー出口プログラム、ASNDONE の呼び出し中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1074E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、**ASNDLCOPY** プログラムを検出できませんでした。

説明: アプライ・プログラムは、現在の検索パスで **ASNDLCOPY** プログラムを検出できませんでした。

ユーザーの処置: **ASNDLCOPY** プログラムを検索パスに追加して、再度アプライ・プログラムを実行してください。

ASN1075E **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNDLCOPY** プログラムが失敗しました。 戻りコードは *return_code*。 追加情報については、 **ASNDL file**を参照してください。

説明: **ASNDLCOPY** プログラムはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに渡しました。 以下は、有効な戻りコードの値です。

98

予期しないエラーが発生しました。

99

ASNDLCOPY プログラムに渡された引数が無効です。

100

メモリーを割り振りできません。

101

ASNDLSRVMAP 構成ファイルをオープンできません。

102

ASNDLSRVMAP 構成ファイルの中の項目数が最大限度を超えています。

103

ASNDLSRVMAP 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

104

ASNDLUSER 構成ファイルの中で、指定されたファイル・サーバーに対するユーザー・ログイン情報が見つかりません。

105

ASNDLPARM 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

106

ASNDLUSER 構成ファイルをオープンできません。

107

ASNDLUSER 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

108

入力ファイルからの読み取り中に、入出力エラーが発生しました。

109

入力ファイルで無効な項目が検出されました。

110

入力ファイルをオープンできません。

111

結果ファイルをオープンできません。

112

結果ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが発生しました。

113

FTP プロトコルの制御チャンネルの初期化中に、エラーが発生しました。

114

制御チャンネルを介してデータを送信中に、エラーが発生しました。

115

指定されたユーザーとパスワードを使ってファイル・サーバーにログオンできません。

116

コピー・デーモンがまだ開始されていません。

117

FTP プロトコルのデータ・チャンネルの初期化中に、エラーが発生しました。

118

ソース・ファイル・サーバーからファイルを検索できません。

119

ターゲット・ファイル・サーバーにファイルを保管できません。

120

受動モードでファイルを転送中に、エラーが発生しました。

121

指定されたファイル参照に対するパス・マッピングが見つかりません。

122

ASN1076E

FTP BINARY コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

123

FTP SIZE コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

124

FTP MODTIME コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

125

FTP SITE UMASK コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

126

FTP SITE TOUCH コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

127

FTP SITE CHMOD コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 戻りコードとそれに対応する意味を調べてください。戻りコードは、製品と一緒に出荷されているサンプル ASNDLCOPY プログラムを基にしていません。ログ・ファイルに追加情報があります。

ASN1076E アプライ・プログラムは、ASNDLCOPY プログラムによって生成された結果ファイルのフォーマットを読み取れません。

説明: ASNDLCOPY プログラムによって生成された結果ファイルが、予期していたフォーマットではありません。

ユーザーの処置: ASNDLCOPY プログラムを変更した場合は、その変更が原因でフォーマットが無効になったのかどうか調べてください。変更が問題の原因ではない場合、マシンに結果ファイル用のスペースが十分にあるか調べてください。

ASN1077E **APPLY** *apply_qualifier*。アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な DATALINK 列を検出しました。エラー・コードは、*error_code*。

説明: ソース表から取り出された行の DATALINK 列が無効です。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1078E **APPLY** *apply_qualifier*。ASNDLCOPY プログラムは、シグナル *signal_number* によって終了されました。追加情報については、*filename* ファイルを参照してください。

説明: ASNDLCOPY プログラムは、指定されたシグナルで異常終了しました。

ユーザーの処置: 指定されたログ・ファイルで、エラーの原因を調べてください。ASNDLCOPY プログラムを変更し、その変更されたモードによってシグナルが生成されている場合は、コードを修正して、再実行してください。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1079E **APPLY** *apply_qualifier*。**MEMBER_STATE** は、次では無効です：**WHOS_ON_FIRST** *whos_on_first* に対する設定 *set_name*、ソース所有者 *source_owner*、ソース表 *source_table*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット所有者 *target_owner*、およびターゲット表 *target_table*

説明: IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の **MEMBER_STATE** 列に無効な更新がされました。この列の有効な値は以下のとおりです: 'N'、'L'、'S'、または 'D'。

ユーザーの処置: 有効な値で **MEMBER_STATE** 列を更新し、アプライ・プログラムを再度起動します。**MEMBER_STATE** 列の値についての詳細は、IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表を参照してください。

ASN1080E **APPLY** *apply_qualifier* : セット *set_name* (**whos_on_first** *whos_on_first_value*) 内で、ターゲット表 *table_owner.table_name* に対して列が定義されていません。エラー・コードは、*error_code*。

説明: アプライ・プログラムの **ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** コントロール表には、指定されたターゲット表内の列に関する情報が示されていません。レプリケーション・センターまたは **ASNCLP** コマンド行プログラムによって生成された SQL スクリプトの編集時に、列情報が手動で除去された可能性があります。

ユーザーの処置: サブスクリプションをドロップしてから、再作成してください。サブスクリプションをドロップできない理由が分かっている場合、列データを **ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** 表に手動で挿入する必要があります。

ASN1097I **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムが停止されました。

説明: この前に報告されたエラーが原因で、アプライ・プログラムが停止されました。

ユーザーの処置: このメッセージの前に報告されたエラーを修正してください。

ASN1207E **APPLY** *apply_qualifier*. *subscription* のサブスクリプションが活動化されていません。

説明: 選択されたサブスクリプションは、非アクティブです。

ユーザーの処置: このサブスクリプションを活動化するか、または別のサブスクリプションを選択してください。

ASN1210E **APPLY** *apply_qualifier*. キーワード **-q** の後に、アプライ修飾子を指定する必要があります。

説明: キーワード **-q** の後にアプライ修飾子を指定する必要があります。

ユーザーの処置: キーワード **-q** の後にアプライ修飾子を指定してください。

ASN1212E **APPLY** *apply_qualifier*. キーワード *keyword* の後に、読み取り専用セット名 *set_name* が検出されました。

説明: キーワード **U** または **D** の後に、読み取り専用セット名が指定されました。

ユーザーの処置: キーワード **U** および **D** のレプリカだけを指定してください。

ASN1221I **APPLY** *apply_qualifier*. セット *set_name* は、*number* 行で *time* に、正常にリフレッシュされました。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1242E **APPLY** *apply_qualifier*. **SQL** エラーが発生しました。 **ERRCODE** は *error_code*、**SQLSTATE** は *sqlstate*、**SQLCODE** は *sqlcode*、**SQLERRM** は *sqlerrm*、**SQLERRP** は *sqlerrp*、表名は *table_name*。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1243E **APPLY** *apply_qualifier*. **ASN.IBMSNAP_SUBS_SET** 表に、適格なサブスクリプションがありません。

説明: サブスクリプション・セットが選択されていないか、またはアプライ修飾子が無効です。

ユーザーの処置: サブスクリプション名とアプライ修飾子を確認してください。

ASN1304E **APPLY** *apply_qualifier*. キャプチャー・エラーのため、**ASNSAT** プログラムが終了しました。

説明: キャプチャー・プログラムが、エラーを戻しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

ASN1305E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・エラーのため、**ASNSAT** プログラムが終了しました。

説明: アプライ・プログラムが、エラーを戻しました。

ユーザーの処置: アプライ・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

ASN1310E **APPLY** *apply_qualifier*. キャプチャー・プログラムの呼び出し試行中に、**ASNSAT** プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは *return_code*。

説明: **ASNCAP** の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

ASN1311E **APPLY** *apply_qualifier*. アプライ・プログラムの呼び出し試行中に、**ASNSAT** プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは *return_code*。

説明: **ASNAPPLY** の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

ASN1312E **APPLY** *apply_qualifier*. デフォルト・ターゲット・サーバーを指定する環境変数 **DB2DBDFT** が設定されていません。

説明: ターゲット・サーバー名が指定されておらず、ASNSAT プログラムが **DB2DBDFT** 変数からデフォルトのデータベース名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: `-t` キーワードの後に、ターゲット・サーバー名を指定してください。

ASN1314E **APPLY** *apply_qualifier*. ASNSAT がデフォルトのアプライ修飾子を取得中、SQL エラーが発生しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: ユーザーがアプライ修飾子を指定しませんでした。USER 特殊レジスターを検索中、ASNSAT プログラムがエラーを検出しました。

ユーザーの処置: `-q` キーワードの後に、アプライ修飾子を指定してください。

ASN1315E **APPLY** *apply_qualifier*. データベース・サーバーに接続できません。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: ターゲット・データベースへの接続試行中に、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1316E **APPLY** *apply_qualifier*. バインドを試行中に、ASNSAT がエラーを検出しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: 自動バインドの試行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: `sqllib¥bnd` ディレクトリーにバインド・ファイルが存在することを確認してください。

ASN1317E **APPLY** *apply_qualifier*. ASNSAT が **ASN.IBMSNAP_REGISTER** 表から **CD_TABLE** を取得中、SQL エラーが発生しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: 登録表から選択中、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1318E **APPLY** *apply_qualifier*. ASNSAT が **DB2** ノード・タイプの取得を試行中、SQL エラーが発生しました。SQLSTATE は *sqlstate*、SQLCODE は *sqlcode*。

説明: ノード・タイプ構成パラメーターを検索中、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1319I **APPLY** : *apply_qualifier* : プログラムは、オプション **CONCURRENTACCESSRESOLUTION WAIT FOR OUTCOME** を使用してフル・リフレッシュに必要なパッケージを再バインドしています。

説明: ターゲット表のフル・リフレッシュでソース・サーバーのすべてのデータが正常に選択されるようにするには、アプライ・プログラムはこのオプションを指定して SQL パッケージをバインドする必要があります。このオプションを使用すると、ソース表を変更する処理中のすべてのトランザクションが完了するのを SELECT 操作は待機してから行の取り出しを開始します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1320W **APPLY** : *apply_qualifier* : プログラムは、フル・リフレッシュに必要なパッケージをバインドできませんでした。ファイル *path_filename* からのバインドがパッケージ *package_name* で失敗しました。SQLCODE *sqlcode* が戻されました。

説明: プログラムがフル・リフレッシュに必要なパッケージをバインドしようとして、エラーが生じました。

ユーザーの処置: 失敗したバインド呼び出しの SQLCODE を解釈してください。フル・リフレッシュの際にデータ損失が生じないようにするには、問題を修正してから、アプライ・プログラムを再開します。ソース・データベースに接続してから、以下のコマンドを実行すると、必要なパッケージを手動でバインドできます。

```
db2 bind @qapplycs.lst
      CONCURRENTACCESSRESOLUTION WAIT_FOR_OUTCOME
```

差分リフレッシュだけを実行している場合には、この警告は無視できます。

ASN1321I **APPLY** *apply_qualifier* : フルリフレッシュ操作中に、*Number* 行がターゲット表 *table_owner.table_name* にコミットされました。

説明: アプライ・プログラムは、フル・リフレッシュの直近のコミット中に、指示された数の行をターゲット表にコミットしました。1 回のコミットに含まれる行数は、*nickname_commit_ct* パラメーターを使用することによって制御できます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1322W **APPLY** : *apply_qualifier* : アプライ・プログラムのパラメーター **MONITOR_ENABLED** が **Y** に設定されていますが、モニター機能を使用するのに必要なコントロール表 **ASN.IBMSNAP_APPLYMON** が存在しません。アプライ状況情報は保存されません。

説明: **MONITOR_ENABLED** が **Y** に設定されている場合、アプライ・プログラムはその状況に関する情報を **ASN.IBMSNAP_APPLYMON** 表に挿入します。この表が見つからなかったため、状況情報を保存することができません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- アプライ・コントロール・サーバーに **ASN.IBMSNAP_APPLYMON** 表を作成します。次の SQL ステートメントを使用できます。

```
CREATE TABLE ASN.IBMSNAP_APPLYMON
(MONITOR_TIME TIMESTAMP NOT NULL,
APPLY_QUAL CHAR(18) NOT NULL,
WHOS_ON_FIRST CHAR(1),
STATE SMALLINT,
CURRENT_SET_NAME CHAR(18),
CURRENT_TABOWNER VARCHAR(128),
CURRENT_TABNAME VARCHAR(128)
);
```

```
CREATE INDEX IXIBMSNAP_APPLYMON ON
ASN.IBMSNAP_APPLYMON(MONITOR_TIME,
APPLY_QUAL,
WHOS_ON_FIRST);
```

表の作成後に、**MONITOR_ENABLED=Y** を指定してアプライ・プログラムを再始動します。

- アプライ状況情報なしで続行します。この表が存在しなくても、アプライは一度警告メッセージを発行して、サブスクリプションの処理を続けます。

ASN.IBMSNAP_APPPARMS 表の

MONITOR_ENABLED 列の値を **N** に変更し、次回再始動したときにアプライがこの値を使用することができます。

ASN1323E **APPLY** *apply_qualifier* : コントロール・サーバー *control_alias* 上の **ASN.IBMSNAP_APPLEVEL** 表の **ARCH_LEVEL** 列の値は、サブスクリプション・セット *set_name* に予期されているレベル **1001** ではありません。サブスクリプション・セットは非アクティブ化されました。

説明: アプライ・プログラムがバージョン 10 にアップグレードされるときには、アプライ・コントロール表をバージョン 10 にマイグレーションする必要があります。マイグレーション後、**ASN.IBMSNAP_APPLEVEL** 表の **ARCH_LEVEL** 列の値は **1001** です。

ユーザーの処置: SQL レプリケーション・バージョン 10 のマイグレーション情報にあるステップに従って、アプライ・コントロール・サーバーをマイグレーションし、その後サブスクリプション・セットを再アクティブ化してください。

ASN1324E **APPLY** *apply_qualifier* : キャプチャー・コントロール表が、サブスクリプション・セット *set_name* のための **IBMSNAP_CAPPARMS** 表の **COMPATIBILITY** 列に *value* の値を持つため、アプライ・プログラムはソース・サーバー *source_alias* にあるキャプチャー・プログラムと連動できません。サブスクリプション・セットは非アクティブ化されました。

説明: キャプチャー・サーバーはバージョン 10 であり、新しい再始動情報および 16 バイトのログ・シーケンス番号の列をサポートするために、アプライ・プログラムおよびアプライ・コントロール・サーバーもバージョン 10 である必要があります。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

- アプライ・プログラムおよびアプライ・コントロール・サーバーをバージョン 10 以降にアップグレードします。
- アプライ・コントロール表をバージョン 10 にマイグレーションします。
- サブスクリプション・セットを再アクティブ化します。

ASN1325E **APPLY** *apply_qualifier* : サブスクリプション・セット *set_name* にあるターゲット CCD 表 *table_owner.table_name* は、ログ・シーケンス番号 (LSN) を保持する 16 バイトの列が含まれるようにはアップグレードされませんでした。キャプチャー・プログラムは、**IBMSNAP_CAPPARMS** 表の **COMPATIBILITY** 列に 1001 の値がある、バージョン 10 です。サブスクリプション・セットは非アクティブ化されました。

説明: キャプチャー・プログラムがバージョン 10 である場合、ターゲット CCD 表には、キャプチャー・プログラムからのログ・シーケンス番号の詳細を保持する 16 バイトの LSN 列 (IBMSNAP_COMMITSEQ、IBMSNAP_INTENTSEQ) が必要です。

ユーザーの処置: SQL レプリケーション・バージョン 10 のマイグレーション情報にあるステップに従って、ターゲット CCD 表を 16 バイトの LSN 列にアップグレードし、サブスクリプション・セットを再アクティブ化してください。

ASN1326E **APPLY** *apply_qualifier* : ソース・サーバーが 16 バイトのログ・シーケンス番号 (LSN) の列を使用しているため、アプライ・プログラムはサブスクリプション・セット *set_name* のためのソース・サーバー *source_alias* にあるソース CCD 表 *table_owner.table_name* をサポートしません。サブスクリプション・セットは非アクティブ化されました。

説明: アプライ・プログラムはバージョン 10 より古いため、16 バイトの LSN 列をサポートしません。ソース CCD 表は 16 バイトの LSN 列にアップグレードされたので、アプライ・プログラムはこの表を処理することができません。

ユーザーの処置: 16 バイトの LSN 列をサポートするように、アプライ・プログラムおよびアプライ・コントロール・サーバーをバージョン 10 以降にアップグレードし、サブスクリプション・セットを再アクティブ化してください。

ASN1327E **APPLY** *apply_qualifier* : サブスクリプション・セット *set_name* について、1001 の値が **ASN.IBMSNAP_SUBS_SET** 表の **ARCH_LEVEL** に設定されますが、ソース・サーバー *source_alias* では、**COMPATIBILITY** 列が **IBMSNAP_CAPPARMS** 表に存在しないか、または **COMPATIBILITY** 列の値が 0801 です。互換性値が 1001 に更新される必要があります。サブスクリプション・セットは非アクティブ化されました。

説明: サブスクリプション・セットの **ARCH_LEVEL** 値が 1001 であるとき、キャプチャーの互換性値は 1001 に変更される必要があります。

ユーザーの処置: バージョン 10 のキャプチャーのマイグレーションおよび互換性スクリプトを実行し、サブスクリプション・セットを再アクティブ化してください。

ASN1328E **APPLY** *apply_qualifier* : ソース・サーバー *source_alias* 上のパラメーター表 *table_name* が空であるか、複数の行が含まれているため、サブスクリプション・セット *set_name* は非アクティブ化されました。

説明: プログラム・パラメーター表の行数は 1 行でなければなりません。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. パラメーター表が正しい形式であり、1 行だけが含まれていることを確認します。 `sqllib/samples/repl/mig10` ディレクトリーにあるマイグレーション・スクリプトに、表の正しい DDL があります。
2. サブスクリプション・セットを再アクティブ化します。

第 37 章 ASN1500 - ASN1999

ASN1500I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias* で、キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1501I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、リモート・サーバーは *remote_servername*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1502I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に、アーキテクチャー・レベル *architecture_level* で開始されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply_serveralias* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Apply server control tables* と *Drop Apply server control tables* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1503I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、ソース所有者は *source_owner*、ソース表、ビュー、またはニックネームは *source_table* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration*、および *Promote Registration* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1504I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。キャプチャー・サーバーは *capture_serveralias*、リモート・サーバーは *remote_server*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、ソース所有者は *source_owner*、およびソース表、ビュー、またはニックネームは *source_table* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration* と *Drop Registration* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1505I レプリケーション・アクション
action_name が開始されました。サブスクリプション・セット情報は次のとおりです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、リモート・サーバー *remote_servername* のターゲット・サーバーは *target_server*、リモート・サーバー *remote_servername* のキャプチャー・サーバーは *capture_server*、キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1506I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、ターゲット・サーバーは *target_server*、リモート・サーバー *remote_servername* のキャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1507I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、リモート・サーバーの *remote_server* ターゲット・サーバー名は *target_server*、キャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1508I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*、セット名は *set_name*、ターゲット・サーバーは *target_server*、キャプチャー・サーバーは *capture_server*、およびキャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、ア

クションは必要ありません。

ASN1510I レプリケーション・アクション
action_name は、*timestamp* に、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Capture server control tables*、*Drop Capture server control tables*、*Create Apply control server control tables*、および *Drop Apply control server control tables* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1511I レプリケーション・アクション
action_name は、ソース所有者 *source_owner*、およびソース表、ビュー、またはニックネーム *source_table* に対して、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration Column*、および *Promote Registration* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1512I レプリケーション・アクション
action_name は、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name* に対して、正常に終了しました。

説明: *action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、*Add Statements to Subscription Set*、*Drop Statements from Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1513I レプリケーション・アクション
action_name は、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース所有者 *source_owner*、ソース表 *source_table*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット所有者 *target_owner*、およびターゲット表 *target_table* に対して、正常に終了しました。

説明: 以下は、*action name* に有効な値です。

- *Add Subscription Member*
- *Add Subscription Member Column*

- Drop Subscription Member

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1514I レプリケーション・アクションは、*timestamp* に、*number* 個の成功、*number* 個のエラー、および *number* 個の警告を伴って終了しました。

説明: ASNCLP スクリプトの中の少なくとも 1 つのタスクが失敗しました。エラーの数を決定する 1 つの要因は、以下のオプションです。これらは、エラーの後に ASNCLP でコマンド処理を続行するかどうかを決定します。

SET RUN SCRIPT NOW

- STOP ON SQL ERROR ON (デフォルト)
- STOP ON SQL ERROR OFF

SET RUN SCRIPT LATER

- GENERATE SQL FOR EXISTING NO (デフォルト)
- GENERATE SQL FOR EXISTING YES

ユーザーの処置: 失敗したタスクに関するメッセージは ASNCLP ログ・ファイルにすべて含まれます。メッセージの最初には ASN エラー・コードがあります。エラーを発生させたタスクについての詳細は、そのタスクに関する通知メッセージで調べることができます (例えば Q サブスクリプションの作成 - ASN2003I)。スクリプト処理のエラー・オプション設定についての詳細は、Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『スクリプトの生成時および実行時に ASNCLP でエラーが処理される方法』を参照してください。

ASN1550E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値がありません。

説明: 入力パラメーターはこのアクションには必須ですが、指定されていません。

ユーザーの処置: 必須パラメーターを指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。

ASN1551E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値 *value* が誤りです。理由コードは *reason_code*。

説明: 入力パラメーターとして指定された値は、有効な値ではありません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

ブロッキング時間値 (分単位) は、0 から 999 の間でなければなりません。

1

コミット・カウント値は、0 から 999 の間でなければなりません。

2

サーバー・タイプ値はキャプチャー・サーバーでなければなりません。

3

表のタイプは、以下のいずれかである必要があります。

- USERTABLE
- CCD TABLE
- POINT IN TIME
- BASE AGGREGATE
- CHANGE AGGREGATE
- REPLICA
- USERCOPY

4

リモート・サーバー名値は NULL でなければなりません。

5

サーバーのタイプは、以下のいずれかである必要があります。

- キャプチャー・サーバー
- コントロール・サーバー
- キャプチャーおよびコントロール・サーバー
- キャプチャー、コントロールおよびターゲット・サーバー

6

内部 CCD 表は、非コンプリートでなければなりません。

7

アプライ修飾子が、18 文字の最大長を超えています。

8

セット名が、18 文字の最大長を超えています。

ASN1552E

- 9 イベント名の長さは、128 バイト以下でなければなりません。
- 10 ソース・キャプチャー・スキーマ名が、128 バイトの最大長を超えています。
- 11 ターゲット・キャプチャー・スキーマ名が、128 バイトの最大長を超えています。
- 12 BEFORE_OR_AFTER ステートメント値は、'A'、'B'、または 'S' でなければなりません。
- 13 EI_OR_CALL 値は、'C' または 'E' でなければなりません。
- 14 SQLSTATES は、長さが 50 桁以下でなければなりません。
- 15 SQLSTATES は数値でなければなりません。
- 16 CONFLICT_LEVEL は、ゼロ (0) または NONE でなければなりません。
- 17 CHGONLY 値は、'N' でなければなりません。
- 18 外部 CCD 表は非コンデンスで、LOB 列が含まれています。
- 19 CONFLICT_LEVEL は 0 から 2 の間でなければなりません。
- 20 CHGONLY 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 21 RECAPTURE 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 22 DISABLE_REFRESH 値は 0 か 1 でなければなりません。
- 23
- 24 CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。t
- 25 STOP_ON_ERROR 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。
- 26 BEFORE_IMG_PREFIX 値は 1 文字でなければなりません。
- 27 それ以前のシナリオではいずれも、対応する表スペースの *New Tablespace* フラグが真に設定されていません。
- 28 表名が有効なコントロール表ではありません。有効なコントロール表のリストは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの SQL レプリケーション表の構造に関する資料を参照してください。
- 29 フェデレーテッド・サーバーが検出されましたが、対応するフェデレーテッド・スキーマ名が見つかりませんでした。フェデレーテッド・システムで API を呼び出す場合には、フェデレーテッド・スキーマ名が指定されていることを確認してください。
- OS/400 システム上の指定されたりリモート・ソース・データベース名が、登録されているリモート・ソース・データベース名と一致しません。
- ユーザーの処置:** 入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。

ASN1552E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、入力パラメーター *input_parameter2* の値 *value2* と非互換です。

説明: レプリケーション・パラメーターに指定された値が、別のパラメーターの指定と競合します。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。

い。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーション・システム・コマンドに関する資料を参照してください。

ASN1553E 入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、既存のサブスクリプション・セット *subscription_set*、アプライ修飾子 *apply_qual*、および処理順序 *whos_on_first* の値 *value2* と非互換です。

説明: レプリケーション・パラメーターに提供された値は、既存のサブスクリプション・セットのいずれかの値と競合します。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を提供するか、またはサブスクリプション・セットの定義を変更してから、レプリケーション・アクションを再実行してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーション・システム・コマンドに関する資料を参照してください。

ASN1560E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージ: *sql_message*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN1561E サーバー *server_alias* への接続を確立できません。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージ: *sql_message*。

説明: 指定されたサーバーへの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。ユーザー ID とパスワード情報が正しいことを確認してください。

ASN1562E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。予期しないエラーが発生しました。参照コード *reference_code*。

説明: ランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1563E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。レプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、サーバー *server_alias* をサポートしていません。

説明: 指定されたレプリケーション・アーキテクチャー・レベルは、指定されたサーバーのオペレーティング・システム、バージョン、またはリリースでサポートされていません。

ユーザーの処置: 登録表の ARCH_LEVEL 列に必要な値を調べるには、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

ASN1564E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のキャプチャー・サーバー・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。

説明: このキャプチャー・スキーマの IBMSNAP_REGISTER 表で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール表をバージョン 8 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、このアクションを再試行してください。

ASN1565E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバー・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。

説明: ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール表をバージョン 8 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、このアクションを再試行してください。

ASN1567W 表スペース *tablespace_name* の表スペース・コンテナ情報が、ライブラリー *library_name* 中の DB2 ストアド・プロシージャ *procedure_name* が見つからないために読み取れません。

説明: DB2 ストアド・プロシージャ READTSCINFOS が、キャプチャー・サーバーまたはターゲット・サーバーに見つかりません。このストアド・プロシージャは、そのサーバーの DB2 表スペース・コンテナ情報を検索するために必要です。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャがサーバー上に存在するかどうかを判別します。ファイル *db2rtsc* が *sqllib* ディレクトリーの *function* ディレクトリーに存在するかどうかをチェックします。ファイル *db2rtsc* は、サーバーが V8 より前のサーバーの場合には、存在しない可能性があります。ストアド・プロシージャが存在しない場合は、出力スクリプトで提供されている表スペース・コンテナ定義を編集してください。

ASN1568E データベース *object*、*objectname* の名前の長さ *length* が、許可された限界 *allowed_limit* を超えています。

説明: 2 番目のパラメーターで提供されているデータベース・オブジェクト・タイプでは、このパラメーターで提供されている実際のオブジェクトの長さよりも短い長さが許可されます。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Tablespace*、*Table owner*、*Nickname*。

ユーザーの処置: 該当するデータベースの SQL リファレンスを参照して正しい名前の長さを指定してください。

ASN1569E 作成しようとしているデータベース・オブジェクトの名前は、タイプ *object_type* の既存名 *objectowner.objectname* と同一です。

説明: このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Nickname*、*Tablespace*、*Table owner*

ユーザーの処置: DB2 にまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1570E データベース・オブジェクト *object*、*objectowner.objectname* は、存在しません。

説明: このデータベース・オブジェクトは DB2 カタログに存在しません。このオブジェクトは、サブスクリプション・セットのソースまたはターゲットとして定義するために、レプリケーション・アクションごとに存在している必要があります。このオブジェクトは既存の登録またはサブスクリプション・セット定義の一部として定義された可能性があります。DB2 カタログの中で見つかりません。プロパティ・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Nickname*、*Tablespace*、*Table owner*、*View* です。

ユーザーの処置: DB2 にすでに存在している名前を指定して、レプリケーション・タスクを再発行してください。オブジェクトが既存の登録またはサブスクリプション・セットの一部として定義された場合は、そのオブジェクトが DB2 カタログの中に存在するか確認してください。

ASN1571E データベース表 *tableowner.tablename* を作成できません。このデータベース定義は、データ・タイプ *datatype* と列 *column_name* では無効です。理由コードは *reason_code*。

説明: *reason code*として有効な値は以下のとおりです。

- 0 データ・タイプがこのプラットフォームでサポートされていません。
- 1 列の長さがこのプラットフォームでサポートされていません。
- 2 列の精度またはスケールがこのプラットフォームでサポートされていません。

ユーザーの処置: 該当するデータベースの SQL リファレンスを参照してください。

ASN1572E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *objectowner.objectname* の行サイズ *row_size* が、そのデータベース・バッファ・プールの行サイズ *bufferpool_rowsize* を超えています。このデータベース・オブジェクトを作成できません。

説明: 表の行サイズは、その表の表スペースのページ・サイズを超えることはできません。表スペースのページ・サイズは、その表スペースが属しているバッファ

ー・プールのページ・サイズから派生します。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の表スペースに表を作成する必要がある可能性があります。 ご使用の DB2 プラットフォームの資料を参照してください。

ASN1573E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *objectowner.objectname* の列数 *number_columns* が、データベースの限界 *db2_limit* を超えています。 このデータベース・オブジェクトを作成できません。

説明: データベース・オブジェクト (表または索引) に含まれる列数は DB2 プラットフォームに依存しますが、事前定義の数を超えることはできません。 スクリプトは生成されません。 次の値がオブジェクト・タイプに有効です: *table*, *index*。

ユーザーの処置: DB2 オブジェクトを設計し直してください。

ASN1574E 表スペース *tablespace_name* の DB2 ページ・サイズ *page_size* が無効です。理由コードは *reason_code*。

説明: 表スペースを正常に作成するには、ページ・サイズが有効でなければなりません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ページ・サイズが、指定されたバッファ・プールのページ・サイズと等しくない。
- 1 ページ・サイズが、次のいずれとも等しくない: 4K, 8K, 16K, 32K。

ユーザーの処置: 適切なページ・サイズの範囲または値については、「DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1575W DB2 表 *tableowner-tablename* は、DB2 デフォルト表スペースに作成されます。

説明: 指定された表の作成場所を示す表スペース名が指定されていないため、この表は DB2 のデフォルト表スペースに作成されます。 指定された表に対してデフォルト表スペースが適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表を独自の表スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1576W DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト索引スペースまたは表スペースに作成されます。

説明: 指定された索引が作成される表スペース (ワークステーション・オペレーティング・システムの場合) または索引スペース (z/OS オペレーティング・システムの場合) が指定されていません。 そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自の表スペースまたは索引スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1577W DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。

説明: z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるデータベースが作成されていません。 そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1578I DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるストレージ・グループが指定されていません。 そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1579I DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されません。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、DB2 索引が作成されるストレージ・グループが指定されていません。そのため、DB2 は、デフォルト指定を使って索引を作成しました。指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1580I DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・バッファークールに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるバッファークールが指定されていません。そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のバッファークールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1581I DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・バッファークールに作成されます。

説明: ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された索引が作成されるバッファークールが指定されていません。そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。索引を独自のバッファークールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1582W 表スペース *tablespace* は、バッファークール *buffer_pool* に作成されますが、このバッファークールは存在しないか、またはアクティブになっていません。

説明:

- DB2 for z/OS データベースにあるアプリケーションの場合、指定された表スペースが作成されるバッファークールがアクティブになっていません。
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースにあるアプリケーションの場合、指定された表スペースが作成されるバッファークールが存在していません。

ユーザーの処置:

- DB2 for z/OS データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファークールがアクティブになっていることを確認してください。
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファークールが存在していることを確認してください。

ASN1583E 表スペース *tablespace* のページ・サイズ *page_size* が、デフォルトのバッファークール・ページ・サイズと一致しません。

説明: 指定されたページ・サイズは、デフォルトのバッファークールのページ・サイズと一致しません。表スペースを作成できません。

ユーザーの処置: ページ・サイズを変更するか、または別のバッファークールを選択してください。

ASN1584E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のキャプチャー・サーバー・レプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。

説明: *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、キャプチャー・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

ASN1585E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。

説明: ASN.IBMSNAP_SUBS_SET で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

ユーザーの処置: このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、アプライ・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

ASN1586W DB2 表 *tableowner.tablename* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。

説明: z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表が作成されるデータベースが作成されていません。そのため、表は DB2 デフォルトを使って作成されます。指定された表に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 デフォルトについては、「SQL リファレンス」を参照してください。表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1587E データベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parameter_name* の値 *value* (タイプ *type*) は無効です。

説明: 指定された値は無効であるか、または別のパラメーター値と競合します。

ユーザーの処置: 有効な値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1588E パラメーターのコード化スキームに指定された値 *encoding_scheme* は、DB2 サーバー *server_name* では無効です。

説明: コード化スキームに指定された値が、サーバーの DB2 バージョンでは無効です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: DB2 バージョンのコード化スキームの有効値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1589W 表スペース *tSPACE* の表スペース・コンテナ *container* のサイズ計算で、誤ったコンテナ・サイズが算出されました。そのため、コンテナ・サイズがサイズ *size* MB に変更されました。

説明: 表スペース・コンテナのサイズを計算した結果、有効な表スペース・コンテナ定義で使用するには小さすぎる値が算出されました。その定義が DB2 に確実に受け入れられるように、表スペース・コンテナ定義に対してレプリケーション特定の最小コンテナ・サイズが指定されています。

ユーザーの処置: 現在のソース表サイズのパーセンテージを基にした計算の場合は、ソース表に含まれているかチェックし、RUNSTATS ユーティリティを使ってソース表の統計が最新かどうかを調べてください。行数を基にした計算の場合は、行数が実際のものであるか調べてください。

ASN1590E DB2 表スペース *table_sp_name* がパーティション化され、DB2 *object_type group* の中にあります。この表スペースはパーティション化してはならず、*object_type IBMCATGROUP* の中になければなりません。

説明: 指定されている表スペースはパーティション表スペースです。パーティション表スペースの中でのレプリケーション・コントロール表の作成はサポートされていません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: パーティション化されていない表スペースを指定してください。

ASN1600E リモート・サーバー *remote_server_name* が見つかりません。

説明: 指定された SERVERNAME 値を持つ指定されたリモート・サーバー名は、フェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSSERVERS に見つかりません。DB2 以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

ユーザーの処置: リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

ASN1601E リモート・サーバー *remote_servername* に対するリモート認証情報が見つかりません。

説明: 指定された SERVERNAME 値のリモート認証情報が、フェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSUSEROPTIONS に見つかりません。DB2

ASN1602E

以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

ユーザーの処置: リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

ASN1602E サーバー *server_alias* は、フェデレーテッド・サーバーへのアクセスをサポートしていません。

説明: フェデレーテッド・レプリケーション関数は、DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 およびそれ以降でのみサポートされます。

ユーザーの処置: 指定したデータベース・サーバーが正しいレベルであることを確認するか、またはレプリケーション・タスクをサポートしないサーバーに対してそのタスクを発行しないでください。

ASN1603E アプライ・コントロール・サーバーは、DB2 リレーショナル以外のサーバーには常駐できません。

説明: DB2 以外のリレーショナル・サーバーは、キャプチャー・コントロール・サーバーまたはターゲット・サーバーとなることはできますが、アプライ・コントロール・サーバーにはなれません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーをアプライ・コントロール・サーバーと指定してください。

ASN1604E リモート表 *remoteowner.tablename* は、DB2 リレーショナル・サーバー以外に存在しますが、指定されたニックネーム *nicknameowner.nickname* が、フェデレーテッド・サーバーに見つかりません。

説明: 指定されたりモート表は、リモート・データベースに存在しますが、それに対応するニックネームがフェデレーテッド・データベースに見つかりません。

ユーザーの処置:

1. ニックネームを作成する方法の詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『データ・ソースの構成』を参照してください。
2. フェデレーテッド・データベースにニックネームを作成します。
3. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

ASN1605E ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、フェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *remoteowner.remotetable* が、DB2 リレーショナル・サーバー以外のサーバーに見つかりません。

説明: 指定されたりモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。

ユーザーの処置:

1. ニックネームをドロップします。
2. 表タイプに応じて、以下のアクションを実行します。
 - 表がユーザー表の場合は、リモート・サーバーにそのリモート表を作成します。
 - 表がキャプチャー・コントロール・サーバー上のレプリケーション・コントロール表である場合は、以下のアクションを実行します。
 - a. キャプチャー・コントロール・サーバー上の既存のコントロール表からデータをコピーします。
 - b. キャプチャー・コントロール・サーバー上のコントロール表をドロップします。
 - c. キャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表を作成します。
3. フェデレーテッド・サーバーにニックネームを作成します。
4. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

ASN1606W ニックネーム *nickname_owner.nickname_name* はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *table_owner.table_name* が、IBM 以外のサーバーに見つかりません。

説明: 指定されたりモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。これは孤立したニックネームですが、この不整合な状態は、レプリケーション定義をドロップする際には問題ありません。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーション定義を作成する際に、ソース・ニックネームがドロップされていません。カタログの整合性を維持するために、ニックネームをドロップしてください。

ASN1607W 列 *column_name* のローカル・データ・タイプを *existing_local_datatype* から *recommended_local_datatype* に変更して、列データ・タイプのソースからターゲットへのマッピングが正しく行われるようにするために、レプリケーション・サブスクリプション・ターゲットに対して定義されたニックネーム *nickname_owner.nickname_name* を変更するよう強くお勧めします。

説明: ソース列のデータ・タイプとそれに対応するニックネーム・ターゲット列データ・タイプとの間でミスマッチが見つかりました。これは DB2 互換性規則に違反していませんが、ネイティブの、IBM 以外のエンド・ユーザー・アプリケーションに問題が発生する可能性があります。列データのレプリケーション中は、問題は発生しません。問題は、エンド・ユーザー・アプリケーションがデータを検索するときに発生します。例えば、DB2 以外のリレーショナル・データ・タイプから DB2 データ・タイプへのデフォルト・マッピングを使って、ニックネーム・データ・タイプが作成されている場合、その列にはデータ・タイプ値のブロードキャスト範囲が保留されます。これにより、エンド・ユーザー・アプリケーションの、より厳密な制限のあるデータ・タイプの要件との競合が発生する可能性があります。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: ターゲットをチェックして、ターゲットに必要なニックネーム・データ・タイプが、間違いなくソース列のデータ・タイプであることを確認してください。そうであることが確認できたら、ALTER NICKNAME ステートメントを発行して、ニックネーム列のローカル・データ・タイプを変更してください。ニックネームのローカル・データ・タイプをソース列のデータ・タイプと同じに変更すると、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上のエンド・ユーザー・アプリケーションに対して、ソース列のデータ・タイプと同じデータ・タイプの表示が強制されます。

ASN1608I ソースのニックネーム *source_nickname* と、整合した変更データ (CCD) 表のニックネーム *ccd_nickname* は、変更された列データ・タイプを持っています。リモート・データ・タイプが *remote_datatype* であるため、ローカル・データ・タイプ列 *local_datatype* は、*changed_datatype* に設定されています。理由コードは *reason_code*。

説明: CCD 表にニックネームを作成すると、そのニックネームは、DB2 以外のリレーショナル・サーバーで作成された CCD 表のデータ・タイプに基づいて、適正

なデータ・タイプが設定されるように変更されます。レプリケーション管理ツールで指定された定義を更新するスクリプトが生成されます。

ユーザーの処置: レプリケーション更新が受け入れ可能であれば、何のアクションも必要ありません。

ASN1609E ニックネーム *nicknameowner.nickname* はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *remoteowner.remotetable* に必要な列がすべて含まれていません。

説明: ターゲット表のニックネームは存在しますが、サブスクリプションで要求される列のサブセットしか含まれていません。

ユーザーの処置: ターゲット表に別のニックネームを使うか、または既存のニックネームの列と一致するように、サブスクリプションを変更してください。

ASN1620E キャプチャー・コントロール表と、アプライ・コントロール表の両方が、すでに存在します。キャプチャー・コントロール表は、アーキテクチャー・レベル *capture_arch_level* とキャプチャー・スキーマ *capture_schema* で存在します。アプライ・コントロール表は、アーキテクチャー・レベル *apply_arch_level* で存在しません。

説明: 指定されたサーバーにこのキャプチャー・スキーマの IBMSNAP_REGISTER 表と

ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表がすでに存在します。

ユーザーの処置:

- このキャプチャー・スキーマの既存の IBMSNAP_REGISTER 表のアーキテクチャー・レベルが 0201 の場合:
 - IBMSNAP_REGISTER 表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
 - IBMSNAP_REGISTER 表が空の場合は、キャプチャー・コントロール表の古いバージョンをドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。
- 既存のキャプチャー・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 8 以降で、そのバージョンがユーザーの意図するアーキテクチャー・レベルである場合は、別のキャプチャー・スキーマ名を使ってキャプチャー・コントロール表を作成してみてください。

- 既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表のアーキテクチャー・レベルが 0201 の場合:
 - ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプライ・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
 - ASN.IBMSNAP_SUBS_SET コントロール表が空の場合は、アプライ・コントロール表の古いバージョンをドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。
- 既存のアプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 8 以降で、そのバージョンがユーザーの意図するアーキテクチャー・レベルである場合は、別のサーバーにアプライ・コントロール表を作成してみてください。

ASN1621W 少なくとも 1 行がコントロール表 `table_owner-table_name` に見つかりました。このコントロール表をドロップすると、その表に保管されているすべてのレプリケーション定義がドロップされます。

説明: ドロップ要求で選択されるレプリケーション・スキーマのコントロール表は空ではありません。生成されたスクリプトが実行されると、レプリケーション・コントロール情報が削除されます。

ユーザーの処置: 次の場合にのみ、生成されたスクリプトを実行してください。

- キャプチャー・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、従属する既存のサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- アプライ・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、(multi-tier シナリオに対する) 既存の従属するサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- レプリケーションに、これらの定義に対するキャプチャーまたはアプライ・プロセスをこれ以上実行させたくない。

アーキテクチャー・レベルが 0201 の場合は、コントロール表をドロップする前に、キャプチャーまたはアプライ・コントロール表を最新のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。

ASN1622E レプリケーション・アクション `action_name` はエラー終了しました。必要なコントロール表 `controlowner.controltable` が見つかりません。

説明: レプリケーション定義は、レプリケーション・コントロール表に保管されています。登録またはサブスクリプション定義の作成前に、これらの表が存在している必要があります。IBMSNAP_REGISTER 表の存在は、特定のキャプチャー・スキーマに対して、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されます。IBMSNAP_SUBS_SET 表の存在は、アプライ・コントロール・サーバー上のコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されます。IBMSNAP_SUBS_MEMBR の存在は、サブスクリプション・メンバーの存在をチェックする際にチェックされません。

ユーザーの処置: コントロール表

IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表が存在しない場合は、ご使用環境が不整合の状態にあります。アプライ・コントロール・サーバーからすべてのコントロール表をドロップし、それをすべて作成した後でアクションを試行してください。

または、コントロール表 IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_SUBS_SET が存在しない場合は、登録またはサブスクリプション定義をコントロール・サーバーに追加する前に作成してください。それ以外に、以下のことを実行できます。

1. 登録に関連するアクションを実行する場合は、適切なキャプチャー・スキーマが指定されているかどうか、または適切なキャプチャー・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
2. サブスクリプションに関連するアクションを実行する場合は、適切なアプライ・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
3. ターゲット・サーバー (CCD またはレプリカ) での自動登録が必要なターゲット表の含まれたサブスクリプション・セットを作成する場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーに対する適切なコントロール表が、サブスクリプション・ターゲット・サーバーに存在するかどうかをチェックします。

ASN1623W レプリケーション・コントロール表 `controlowner.controltable` が見つからず、ドロップされていません。

説明: *Drop Capture control tables* または *Drop Apply control server control tables* アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、ア

クシオンは必要ありません。

ASN1624I サーバー *server_alias* は、*capture_schema* に対する既知のレプリケーション・キャプチャー・サーバーではありません。

説明: *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表が見つかりません。サーバーは、適切なキャプチャー・サーバーのコントロール表 (*IBMSNAP_REGISTER* 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・キャプチャー・サーバーとして定義されます。

ユーザーの処置: 必要であれば、適切なキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

ASN1625I サーバー *server_alias* は、既知のレプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーではありません。

説明: *ASN.IBMSNAP_SUBS_SET* 表が見つかりませんでした。サーバーは、適切なアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表 (*IBMSNAP_SUBS_SET* 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーとして定義されます。

ユーザーの処置: 必要であれば、アプライ・コントロール・サーバーに適切なコントロール表を作成してください。

ASN1626E キャプチャー・サーバーのコントロール表は、同じキャプチャー・スキーマのアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在しています。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* は、すでに指定されたサーバーに存在します。

ユーザーの処置:

- 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表のアーキテクチャー・レベルが *0801* または *0805* の場合は、以下のオプションを考慮してください。
 - 同じキャプチャー・スキーマに表がすでに存在するため、コマンドの実行は必要ありません。
 - 別のキャプチャー・スキーマでコマンドを実行します。
- 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *0201* の場合:
 - 既存の *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーにマイグレーションします。

- コントロール表が空の場合は、単純に V8 より前のキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、再度レプリケーション・タスクを発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN1627E いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表がすでに同じキャプチャー・スキーマに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。

説明: 指定されたサーバーで他のキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 *captureschema.ASN.IBMSNAP_REGISTER* は存在しません。キャプチャー・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。キャプチャー・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。

ユーザーの処置: 残りのキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、キャプチャー・コントロール・サーバー定義をクリーンアップし、コントロール表の作成タスクを再発行してください。データの逸失が発生するため、Drop タスクの発行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

ASN1628E キャプチャー・サーバーのコントロール表が、必要なアーキテクチャー・レベルがありません。

説明: 表 *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1629E 指定されたキャプチャー・スキーマに対するキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりません。

説明: キャプチャー・コントロール表にコントロール表が存在しません。コントロール表はドロップされず、スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1630W いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表が既にキャプチャー・スキーマ *capture_schema* に存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* とキャプチャー・スキーマは、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。

説明: IBMSNAP_REGISTER 表はキャプチャー・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。キャプチャー・コントロール表の特定のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。コントロール表が存在する場合は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを発行してください。

ASN1631E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、アーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在します。

説明: 表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、すでに指定されたサーバーに存在します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET コントロール表のアーキテクチャー・レベルが 0201 の場合:

- 既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーにマイグレーションしてください。
- 表が空の場合は、単に V8 より前のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN1632E いくつかのアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。

説明: 指定されたサーバーで他のアプライ・コントロー

ル・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は存在しません。アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーにある残りのコントロール表をドロップして、アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義をクリーンアップしてください。Create control table タスクを再発行してください。データの逸失が発生するため、Drop タスクの発行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

ASN1633E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、要求されたアーキテクチャー・レベルにありません。

説明: 表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1634E アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が見つかりませんでした。

説明: アプライ・コントロール・サーバーからドロップするコントロール表がありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

ASN1635W いくつかのアプライのコントロール表がすでに存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* は、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。

説明: 表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、アプライ・コントロール・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。特定のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。コントロール表が存在する場合

は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを発行してください。

ASN1636E アプライ修飾子 *apply_qual* とセット名 *set_name* に対する手動フル・リフレッシュのレプリケーション・アクションが、エラー終了しました。ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable* とターゲット・メンバー *targetowner.target_table* の *capschema.IBMSNAP_PRUNCNTL* 表の同期点が、キャプチャー・プログラムによって変換されていません。

説明: 同期点が 0 より小さいか、または16 進のゼロと等しくなっています。

ユーザーの処置: ロード前のスクリプトを実行して 16 進のゼロを変換し、キャプチャーがサーバーで実行されていることを確認してください。

ASN1637E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション '手動フル・リフレッシュ' はエラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。いずれのサブスクリプション・セット・メンバーも、手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。

説明: 指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。手動フル・リフレッシュは、8 より大きいターゲット構造をサポートしていません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セット・メンバーのターゲット構造が 8 以下であることを確認して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1638W ターゲット *targetowner.targetname* とソース *sourceowner.sourcenname* を持つサブスクリプション・セット・メンバーが完全ではありません。このサブスクリプション・セット・メンバーは、手動フル・リフレッシュに含まれません。

説明: 手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートします。指定されたサブスクリプション・セット・メンバーは完全でないため、含められません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1639E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション '手動フル・リフレッシュ' はエラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットのいずれのターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーも、完全ではないか、または手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。

説明: 手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートしますが、ターゲットのいずれも完全ではありません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セット内のサブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つが完全であることを確認して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1640E アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクションがエラー終了しました。サブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーが存在しません。

説明: このサブスクリプション・セットには、サブスクリプション・セット・メンバーがまったく含まれていません。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのサブスクリプション・セット・メンバーをサブスクリプション・セットに追加して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1641E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。**OS/400** システム上では、このアクションは **OS/400** コマンドを使用する場合のみサポートされます。

説明: レプリケーション・センターとコマンド行は、どちらも **OS/400** システムでレプリケーション・アクションをサポートしません。可能なアクションは、キャプチャー・サーバー・コントロール表の作成、アプライ・サーバー・コントロール表の作成、キャプチャー・サーバー・コントロール表のドロップ、またはアプライ・サーバー・コントロール表のドロップです。

ユーザーの処置: レプリケーション・アクションを実行するための **OS/400** コマンドを発行してください。

ASN1650I レプリケーション・アクション
action_name が、*timestamp* に開始されました。モニター・サーバーは *server_name* で、*Group_or_Contact* の名前は *group_name_or_contact_name* です。

説明: レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで開始されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1653I *group_contact_or_condition_name* に対する
レプリケーション・アクション
action_name は、*timestamp* に、正常に終了しました。モニター・サーバーは *server_name* です。

説明: レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで正常に終了しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1654E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入力パラメーター *parameter-name* の長さ *parameter_length* が、限界 *maximum-limit* を超えています。

説明: 示された入力パラメーターの長さが、許容最大長を超えています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 入力パラメーター値を確認し、パラメーター値を再入力してください。

ASN1655E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値 *input_value* が誤っています。

説明: 示された入力パラメーターの値が誤っています。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター値については、ご使用の資料を参照してください。

ASN1656E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter* の値がありません。

説明: このアクションでは、ここに示された入力パラメーターの値は必須ですが、その値がありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: この必須入力パラメーターに値を入力

し、レプリケーション・アクションを再実行してください。

ASN1657E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定する必要があります。

説明: 各パラメーター値がオプションのコマンドを発行するときは、少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定しなければなりません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーターを指定してコマンドを再発行してください。

ASN1658E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。入力パラメーター *input_parameter1* の値 *value1* は、入力パラメーター *input_parameter2* の値 *value2* と異なっている必要があります。

説明: 1 つの入力パラメーターの値が別の入力パラメーターの値と同じであるために、矛盾した定義が作成されました。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター値を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1659E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* はすでに存在します。

説明: 示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表の行の 1 つにすでに存在しています。連絡先名は固有でなければなりません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1660E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* が存在しません。

説明: 示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表のどの行にも存在していません。ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表に連絡先名が存在していないと、その名前の変更、置換、代行者指定、またはドロップはできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

ASN1661E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、この連絡先をドロップすると各関連グループが空になるためにドロップできません。

説明: 1つのグループには、少なくとも1つの関連連絡先がなければなりません。示された連絡先は各関連グループの最後の連絡先であるため、ドロップできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 各関連グループをドロップしてから、この連絡先をドロップしてください。

ASN1662E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、この連絡先が1つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。

説明: ドロップしようとしている連絡先名は、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一の連絡先です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: DROP CONTACT コマンドの SUBSTITUTE オプションを使用するか、または SUBSTITUTE コマンドを使用して、条件の連絡先名を変更してください。その条件が不要な場合は、条件をドロップしてから連絡先をドロップしてください。

ASN1663E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。開始日に対して指定された値 *startdate_value* は、終了日に対して指定された値 *enddate_value* を超えています。

説明: 終了日を超える開始日は入力できません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な日付の組み合わせを指定して、コマンドを再発行してください。

ASN1664E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。グループ *group-name* はすでに存在します。

説明: 示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表の行の1つにすでに存在しています。グループ名は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: グループ名を変更して、コマンドを再発行してください。

ASN1665E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。グループ *group_name* が存在しません。

説明: 示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表のどの行にも存在していません。ASN.IBMSNAP_GROUPS 表にグループ名が存在していないと、そのグループ名の変更またはドロップはできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: グループ名を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1666E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。グループ *group_name* は、このグループが1つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。

説明: ドロップしようとしているグループは、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一のグループです。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: このグループをドロップするには、関連した条件の連絡先を変更してから、コマンドを再発行してください。

ASN1667E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* と関連していません。

説明: ドロップしようとしている連絡先名は、示されたグループと関連していません。

ユーザーの処置: 示された連絡先名を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1668E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* とすでに関連しています。

説明: 指定した連絡先名は、示されたグループとすでに関連しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1671E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* がすでに存在します。

説明: 作成しようとしているアラート条件は、示されたパラメーターに対して、モニター・コントロール・サーバー上にすでに存在しています。

ユーザーの処置: このアラート条件を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1672E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* が存在しません。

説明: ドロップまたは変更しようとしているアラート条件が、モニター・コントロール・サーバー上に存在していません。

ユーザーの処置: アラートの名前を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN1673W 条件 *condition_name* は、アプライ修飾子レベルでのみ有効です。

説明: この条件名は、サブスクリプション・セット名の値では無効です。 サブスクリプション・セットの名前は無視されます。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットの値を指定しないでください。

ASN1674W 条件 *condition_name* は、**Update-anywhere** サブスクリプション・セットでのみ有効です。

説明: この条件名は、Update-anywhere サブスクリプション・セットでのみ有効です。

ユーザーの処置: この条件を設定しないでください。この条件は無視されます。

ASN1675I これはレプリケーション・センターからのテスト・メッセージです。

説明: このメッセージは、連絡先に入力された E メール・アドレスを検証する、テスト用の E メールに使用されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1677E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 アプライ修飾子 *apply-qual* とサブスクリプション・セット名 *set-name* は、サーバー *server-name* に存在しません。

説明: このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットが、示されたアプライ・コントロール・サーバー上の IBMSNAP_SUBS_SET 表の中に存在していません。

ユーザーの処置: 有効なアプライ修飾子と有効なサブスクリプション・セット名を指定してください。

ASN1678E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ *cap-schema* は、サーバー *server-name* に存在しません。

説明: このキャプチャー・スキーマは、示されたキャプチャー・コントロール・サーバー上の ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表の中に存在していません。

ユーザーの処置: 有効なキャプチャー・スキーマを指定してください。

ASN1679E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 置換しようとした連絡先 *contact_name* は、条件と関連していません。

説明: この連絡先名は ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在していません。 連絡先は、ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在している場合にのみ置換できます。 スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 有効な連絡先名を指定してください。

ASN1680I レプリケーション・アクション *action_name* は、*time* に開始されました。 モニター・サーバーは *server_name* です。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1681E モニター・サーバーの作成要求が失敗しました。アーキテクチャー・レベル *arch_level* のモニター・コントロール表はすでに存在します。

説明: モニター・コントロール表は、指定されたサーバーにすでに存在しています。SQL スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 既存のモニター・コントロール表のレベルが古い場合:

- 既存のモニター・コントロール表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、モニター・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
- ASN.IBMSNAP_ALERTS 表および ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表が空の場合は、古いバージョンのモニター・コントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN.IBMSNAP_MONPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に保管されている既存のモニター・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがレプリケーションによってサポートされる最新レベルの場合、その表はすでに存在しているため、コマンドを実行する必要はありません。

ASN1682E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。モニター・コントロール表が見つかりませんでした。

説明: ドロップするモニター・コントロール表がありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: モニター・コントロール表を含む適切なサーバーに対して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1683E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。指定されたキャプチャー・スキーマによる行は、キャプチャー・コントロール表がそのキャプチャー・スキーマの下に存在しなくても、すでに ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表で検出されています。

説明: IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表には、"キャプチ

ャー・サーバー・コントロール表の作成" アクションに対する入力として指定されたキャプチャー・スキーマ値がすでに含まれています。キャプチャー・スキーマ値は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: キャプチャー・スキーマ・フィールドに正しい値を指定していることを確認し、IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表から指定されたキャプチャー・スキーマが含まれる行を削除してください。タスクを再発行してください。

ASN1684W レプリケーション・コントロール表 *controlowner.control_table* に対するニックネーム *nicknameowner.nickname* が、フェデレーテッド・データベースで見つかりませんでした。

説明: すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・コントロール表のニックネームをドロップしようとしたため、生成されたスクリプトには、このニックネームの DROP ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1685W タイプ *object_type* のオブジェクト *objectowner.object_name* が、非 DB2 リレーショナル・サーバーで見つかりませんでした。

説明: すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・オブジェクトをドロップしようとしたため、生成されたスクリプトには、このレプリケーション・オブジェクトの DROP ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1686E 非 DB2 リレーショナル・オブジェクト *object_name* に対する名前の長さ *length* が、許可されている限度 *allowed_limit* を超えています。

説明: 実際のオブジェクトに対して許可されている最大長より長い DB2 以外のオブジェクト名が指定されました。

ユーザーの処置: ご使用のデータベースの「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN1687E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。表
 スペース *tablespace_name* が、
IBMCATGROUP ノード・グループに属
 していません。

説明: 指定された表スペースが、デフォルトの
 IBMCATGROUP ノード・グループに属していません。
 レプリケーション・アクションは現在このノード・グル
 ープをサポートしていません。

ユーザーの処置: 表スペース名を確認して、コマンドを
 再発行してください。

ASN1688E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。指
 定された表スペース・オプション
tableowner.tablename が無効です。

説明: コントロール表を作成するときに、表スペースを
 カスタマイズすることができます。既存の表スペース、
 また新規に表スペース、あるいは、同じセッションで、
 以前に別のコントロール表用に既に指定された表スペ
 ースを使用することができます。これらの表スペース・オ
 プションで指定された値はあいまいです。これらの表
 スペース・オプションに対して指定された値がないか、
 または複数の値が指定されています。

ユーザーの処置: 表スペースのオプションの値を確認し
 て、タスクを再発行してください。

ASN1689E レプリケーション・アクション
action_name はエラー終了しました。モ
 ニター修飾子 *monitor_qualifier_name*、サ
 ーバー *capture_or_apply_server* およびス
 キーマまたは修飾子 *schema_or_qualifier*
 に対してアラート条件が存在しません。

説明: 指定されたモニター修飾子、キャプチャーまたは
 アプライ・コントロール・サーバーおよびスキーマまた
 はアプライ修飾子に対してアラート条件が定義されてい
 ません。

ユーザーの処置: モニター修飾子、キャプチャーまたは
 アプライ・コントロール・サーバーおよびスキーマまた
 はアプライ修飾子に対して、少なくとも 1 つのアラ
 ート条件を定義してください。

ASN1700E データ・タイプ *data_type* の列
tableowner.tablename.columnname は、登録
 に組み込めません。理由コードは
reason_code。

説明: この列は、定義されているように、レプリケーシ
 ョン・キャプチャー・プログラムでサポートできませ

ん。指定された列を登録するためのスクリプトは生成
 されません。理由コードとして有効な値は以下のとおり
 です。

- 0 データ・タイプがサポートされていません。
- 1 この列はすでに登録済みです。
- 2 z/OS fieldproc 列。
- 3 この列は、変更前イメージとして適格ではありません。
- 4 このデータ・タイプは、フェデレーテッドに対し、DB2 を介してサポートされていません。
- 5 この列は、ソース・オブジェクトに存在しません。
- 6 その表について、登録済み LOB 列の最大数を
 超えました。
- 7 列名が、変更前イメージの接頭部で開始されて
 います。
- 8 この列は、変更前イメージ列または変更後イメ
 ージ列として適格ではありません。
- 9 ソース表が 非 DB2 サーバーにある場合は、
 列名で大小文字混合はサポートされていませ
 ん。
- 10 この列名は、このソースに提供されている列の
 1 つと重複しています。

ユーザーの処置: 理由コードを調べて、列を登録できな
 い理由を判別してください。より詳しい説明や制限につ
 いては、IBM Information Management Software for z/OS
 Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 イ
 ンフォメーション・センターのレプリケーションに関す
 る資料を参照してください。

ASN1701E 指定された表スペース *tablespace_name* に
 対して指定されたロック・サイズ値
lock_size は無効です。

説明: z/OS オペレーティング・システムの場合、ロッ
 ク・サイズは、P(PAGE)、R(ROW) または A(ANY) の
 いずれかに等しくなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいロック・サイズを指定して、再
 度アクションを実行してください。

ASN1702W 登録済み列
objectowner.objectname.columnname のレプ
 リケーション定義が、NULL 値をサポート
 するように変更されました。

説明: 変更前イメージ列は、NULL 値をサポートする
 必要があります。変更前イメージ列の値が指定されて

いないと、INSERT ステートメントは失敗します。ユーザー提供の定義を更新するために、スクリプトが生成されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1703E 表 *tableowner.tablename* は、変更キャプチャー・レプリケーションのために登録できません。理由コードは *reason_code*。

説明: この表は、定義されているように、キャプチャー・プログラムでサポートできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 z/OS validproc を持つ表。
- 1 内部 CCD 表が存在します。
- 2 CD 表が存在します。
- 3 DB2 カタログ表 (Windows、UNIX、System i)
- 4 この表はすでに登録済みです。
- 5 内部 CCD 表のソースは登録済みソースではありません。
- 6 ソースは CD 表であり、登録できません。
- 7 このソース名はこのセッションで重複しています。
- 8 ソースがレプリケーション・コントロール表です。
- 9 ソース列のいずれも、登録資格がありません。
- 10 この表の登録済み LOB 列の最大数を超えました。
- 11 構造化データ・タイプは、サポートされません。
- 12 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。
- 13 内部エラーが発生しました。
- 14 ブランク文字は、変更前イメージ接頭部では無効です。
- 15 **System i:** ソース表またはビューに、ブランクを含めてはいけません。
- 16 **System i:** ブランク・スペース文字は CD 表所有者/名前 フィールドで無効です。
- 17 **System i:** 指定されたソースに対して、変更前イメージ列および変更後イメージのみの列を登録することができません。列のすべてが変更前イメージであるか、または変更前イメージの列がないかのいずれかである必要があります。

18 このソースの CD 名が重複しています。このセッションにすでに存在する CD 名です。

19 ソース・オブジェクト・タイプがレプリケーションに有効なオブジェクト・タイプではありません。

ユーザーの処置: この表を変更キャプチャー・レプリケーションに対して登録できない理由について、理由コードをチェックし判別してください。より詳しい説明および制限については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照してください。

ASN1704E ビュー *viewowner.viewname* を登録できません。理由コードは *reason_code*。

説明: このビューは、定義されているように、レプリケーション・キャプチャー機構でサポートできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 このビューの従属表が登録されていません。
- 1 ビューが従属するソース表の列は登録されません。
- 2 このビューは、内部 CCD にあります。
- 3 このビューはすでに登録済みです。
- 4 このビューは、'OUTER JOIN' 構文を持っています。
- 5 このビューには、関数を含む複数の表またはビュー列が組み込まれていますが、ビュー定義の中に、各表に対する相関が指定されていません。
- 6 このビューには、総計関数に対する参照が含まれています。
- 7 このビューには、副選択または副照会が含まれています。
- 8 このビューには、別のビューに対する参照が含まれています。
- 9 このビューは、UNION を持っています。
- 10 この列に対する相関が指定されていません。
- 11 基本表にスキーマ名がありません。
- 12 基本表が存在しません。
- 13 このビューには、表として表式が含まれています。
- 14 従属表が存在しません。
- 15 ビュー上のビューは登録できません。

- 16 指定されたソース・オブジェクトはビューではありません。
- 17 このソース・ビューはこのセッションで重複しています。
- 18 このビュー定義はサポートできません。
- 19 このビューのビュー定義には、特定の列名の代わりにアスタリスク (*) が使用されています。
- 20 このビューには、CCD 表と CCD 以外の表の結合が含まれています。
- 21 CCD 表で定義されるビューはコンプライトおよびコンデンスである必要があります。
- 22 従属表がニックネームです。
- 23 フェデレーテッド登録は、ニックネームがソースとして登録されることを予期しています。

ユーザーの処置: 理由コードを調べて、ビュー登録できない理由を判別してください。追加説明および制限については、「SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

ASN1705E 変更データ *object*, *objectowner.objectname* は、すでにサーバーに存在します。

説明: 変更データ表またはビューは、キャプチャー・サーバーにすでに存在するため、現行ソースで登録に使用することはできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

ASN1706W 列 *column_name* は、登録済みソース *sourceowner.sourcename* に追加されました。この登録済みソースは、内部 CCD 表を保守しています。この新しい列は、既存の、またはまだ既存ではないサブスクリプション・メンバーに追加する前に、CCD 表のサブスクリプション・メンバーに最初に追加する必要があります。

説明: 新規列が従属サブスクリプション・セットに必要な場合は、その列を必要なサブスクリプション・メンバーに追加する前に、まず内部 CCD サブスクリプション・メンバーに追加する必要があります。

ユーザーの処置: 変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

ASN1707W *sourceowner.sourcename* に対するレプリケーション・アクション「登録の変更」は、キャプチャーの REINIT コマンドがキャプチャー・サーバーで発行されるまでは無効です。

説明: 登録済みソースは正常に更新されました。ただし、REINIT コマンドが強制するまで、キャプチャー・プログラムは対応する *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表の更新を認識しません。スクリプトが生成されました。スクリプトにアクションを実行させるために、後でキャプチャー・コマンドを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 変更を即時有効にするには、次のようにします。

1. 生成されたスクリプトを実行します。
2. 適切なキャプチャー・スキーマに対して、適切なキャプチャー・プログラムの REINIT を発行します。

ASN1708E 表、ビュー、またはニックネーム *objectowner.objectname* は、レプリケーションに登録されたソースではありません。

説明: 指定されたレプリケーション・オブジェクトは、レプリケーション・コントロール表に定義されていません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: オブジェクトがコマンドに正しく指定されており、存在していることを確認してください。

ASN1709W 登録済みソース *sourceowner.sourcename* がドロップされると、関連したサブスクリプション・セットは無効になります。

説明: サブスクリプション・メンバーは、ソース・メンバーを定義する、その元のソース登録に依存しています。登録済みのソース表をドロップすると、サブスクリプション・セットの従属ソース・メンバーが無効になります。指定された登録ソースと関連するサブスクリプション・セットが、キャプチャー・コントロール・サーバーの *captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL* 表に見つかりました。この場合 SOURCE_OWNER と SOURCE_TABLE は、ドロップされる登録済みソースに対応しています。適切なアプライ・コントロール・サーバーとサブスクリプション・セット名は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中の列です。アプライが実行されている場合、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 登録されたソースに従属サブスクリプション・セットがある場合は、スクリプトを実行する前に、従属するサブスクリプション・セットを非活動化またはドロップしてください。

ASN1710W 登録済みのソース *sourceowner.sourcetable* がドロップされると、従属するビュー登録ソースは無効になります。

説明: ビュー登録は、ビュー定義を構成する、元となる表の登録に依存しています。登録されているソース表をドロップすると、その表を基にしているビュー登録は無効になります。影響を受ける可能性のあるビューは、キャプチャー・サーバーの `captureserver.IBMSNAP_REGISTER` 表にあります。この場合、`PHYS_CHANGE_OWNER` と `PHYS_CHANGE_TABLE` は、ドロップされる登録されたソースの `CD_OWNER` と `CD_TABLE` と同じです。アプライが実行されている場合、ビュー登録に依存する、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 登録されたソースに従属するビュー登録がある場合は、スクリプトを実行する前に、該当するサブスクリプション・セットまたはビュー登録を、非活性化あるいはドロップしてください。

ASN1711W ソース *sourceowner.sourcename* はまだアクティブなので、これをドロップするとキャプチャーが失敗します。

説明: アクティブ登録は、`captureschema.IBMSNAP_REGISTER` 表で `NULL` でない `SYNCHPOINT` 値を持っています。キャプチャー・プログラムは、開始されたとき、すべてのアクティブ登録が常に存在し、有効であると予期していました。そのため、登録済みソースがドロップされた場合は、ドロップ・アクションによって登録情報が無効になるため、キャプチャー・プログラムにそのことを伝えるシグナルを送信する必要があります。その情報をキャプチャー・プログラムに知らせなかった場合、キャプチャー・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されますが、作動不能です。

ユーザーの処置:

1. 適切な登録を (レプリケーション・センター GUI を使うか、または `STOP` シグナルと `CMD` のコマンド・タイプを発行することにより) 非活性化します。
2. `captureschema.IBMSNAP_SIGNAL` 表の中で、`SIGNAL_STATE` が完了になるのを待ちます。
3. 登録をドロップするスクリプトを実行します。

ASN1712E 表、ビュー、またはニックネーム *objectowner.objectname* は、有効なレプリケーション登録済みソースではありません。理由コードは *reason_code*。

説明: キャプチャー・サーバー・コントロール表で、こ

の登録済みソースの矛盾が検出されました。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 登録済みソースをドロップし、再度登録を作成してください。

ASN1713E 登録済みソース *sourceowner.sourcename* は、非活性化できません。理由コードは *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ソースはフル・リフレッシュとして登録されているため、非活性化できません。
- 1 ソースは `CCD` であり、`CCD` 登録は非活性化できません。
- 2 ソースはビューであり、ビュー登録は非活性化できません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1714E 登録済みソース *sourceowner.sourcename* は変更できません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 このソースの `CD` 表には、`RRN` 列があります (System i のみ)。ソースが変更できないように、`RRN` 列は表の最後の列でなければなりません。
- 1 ソースはビューであり、ビュー登録は変更できません。
- 2 ソースはフル・リフレッシュに対して登録されており、変更できません。
- 3 ソース表の列が、変更されている列と一致しません。
- 4 列は、`LOB`、`DATALINK`、または `ROWID` データ・タイプのため、変更前イメージ値として適格ではありません。
- 5 変更前イメージ列値は `NULL` またはブランク文字にできません。
- 6 変更後イメージ値は、指定された列に対して登録されていません。
- 7 変更前イメージの接頭部は、既存の登録済みソースで使用されている場合、更新できません。
- 8 現在の変更前イメージの接頭部を使用すると、この登録済みソースの中の列の 1 つが未確定になります。

ASN1715E

- 9 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。
- 10 内部エラーが発生しました。
- 11 指定された登録ソース名は、変更された登録によって組み込まれたソースの複写で、その登録に対するスクリプトはまだ実行されていません。
- 12 競合レベルを、レプリカ登録に対して更新できません。

ユーザーの処置: 理由コードを調べてソースを変更できない理由を判別し、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照して、これらのエラーを訂正する方法の詳細を調べてください。

ASN1715E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、エラーを検出しました。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 詳しいエラー情報については、OS/400 コンソール・ログを参照してください。

ASN1716W レプリケーション・アクションが、警告で終了しました。ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、警告を検出しました。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 詳しい警告情報については、System i コンソール・ログを参照してください。

ASN1717I レプリケーション・アクションが、通知節で終了しました。ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。

説明: OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、通知メッセージを検出しました。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1718E ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、登録できません。理由コードは *reasoncode*。

説明: ニックネームは、定義されているように、キャプチャー・プログラムでサポートされていません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 内部 CCD 表 (ユーザーの CD 表) はすでに存在します。
- 1 ニックネームはネイティブ・カタログ表にあります。
- 2 ニックネームはすでに登録済みです。
- 3 フェデレーテッド登録は、登録するソースとしてのニックネームを予期しています。
- 4 キャプチャー・プログラムに適切な列がありません
- 5 指定されたニックネームは、前に登録されたニックネームと重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。
- 6 フェデレーテッド登録は、ユーザー表しかサポートしません。
- 7 フェデレーテッド登録は、非コンデンスおよび非コンプリート CCD 表しかサポートしません。
- 8 指定されたニックネームは、前に登録された CCD ニックネームと重複していますが、その登録に対応するスクリプトがまだ実行されていません。
- 9 リモート・サーバー情報がニックネームの登録のために提供されていません。

ユーザーの処置: 理由コードを調べて、ニックネームを登録できない理由を判別してください。

ASN1719W 登録済みソース *nicknameowner.nickname* に定義された、IBM 以外のトリガーはドロップされます。後にユーザーによって提供されるこれらのトリガーの追加ロジックは、すべて失われます。 **will be lost.**

説明: 登録済みソースのドロップは、後に更新されたかどうかに関係なく、そのソースの登録中に作成されたすべてのオブジェクトがドロップされることを暗黙指定します。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: 必要であれば、登録済みソースをドロップする前に、トリガー・ロジックをコピーしてください。

ASN1720E ソース・ニックネーム *nicknameowner.nickname* の変更データ表情報が、*capschema.IBMSNAP_REGISTER* 表に見つかりません。

説明: 指定されたソース・ニックネームの行は *captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表に見つかりましたが、そのソースの CCD 表がありません。レプリケーション定義をドロップするためには、変更データ表情報が必要です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 正しいソース名が指定されていることを確認して、再度アクションを呼び出してください。

ASN1722W ビュー *view_owner.viewname* はフル・リフレッシュとして登録されます。このビューの基本表がすべて、フル・リフレッシュとして登録されているためです。

説明: このビューの基本表がフル・リフレッシュ専用として登録されているか、または登録されたレプリケーション・ソースでないため、このビューはフル・リフレッシュとして登録する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1723W このビューの 1 つまたは複数の基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、このビュー *viewowner.viewname* は変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されません。

説明: このビューは、このビューの基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、変更キャプチャー・レプリケーションとして登録する必要があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1724E DB2 以外のリレーショナル・サーバーで作成中のオブジェクトの名前が、タイプ *objecttype* の *objectowner.objectname* と同一です。

説明: 指定したオブジェクトは、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に同じタイプ、同じ名前の既存オブジェクトがあるために作成できません。

ユーザーの処置: オブジェクトに固有な名前を指定し、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1725W トリガー *triggerowner.trigger_name* は、リモート表 *remoteowner.remotetablename* にすでに存在します。既存のトリガーの内容を、生成されたトリガー定義とマージする方法を決定するまでは、生成されたスクリプトを実行しないでください。

説明: この名前のトリガーは、DB2 以外のリレーショナル・データベースのリモート表にすでに存在しています。生成されたスクリプトで CREATE TRIGGER ステートメントを実行すると、データベース・マネージャーは、競合があることを示さず、後で既存のトリガーを上書きする可能性があります。データベース・マネージャーは、オブジェクトが既に存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。生成されたトリガー名はカスタマイズできません。カスタマイズされたトリガーは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

ユーザーの処置: まず、既存のトリガーを生成されたトリガーとマージする方法を決定してください。次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したトリガー・ロジックとマージするか、またはレプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のトリガー定義を組み込んでください。

ASN1726W トリガー *triggerowner.trigname* は、リモート・サーバー *rmtservername* 上のリモート表 *owner.tablename* に存在しません。

説明: このトリガーは、リモート・データベース上に存在していません。トリガーがドロップされた可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1727I 登録済みソース *registered_source* は非活動化されました。

説明: 示された登録済みソースは、すでに非活動化されています。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1728W ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の *IBMSNAP_UOW* 表の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。

説明: 示されたキャプチャー・スキーマでは、ASN.IBMNSNAP_MEMBR 表の列 JOIN_UOW_CD が Y

ASN1729E

に設定されていれば、アプライ・プログラムは、IBMSNAP_UOW 表と、示されたソースの CD 表を結合します。この列に Y が含まれるのは、関連したサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット・タイプがユーザーのコピーでない場合、または IBMSNAP_UOW 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの WHERE 節の中で使用されている場合です。アプライ・プログラムが異なるコード化スキームの表を結合すると、エラーが発生します。コード化スキームの詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『UNICODE および ASCII コード化スキーム』を参照してください。

ユーザーの処置: この登録を使用するサブスクリプション・メンバーの場合は、タイプをユーザーのコピーに指定してターゲット表を定義し、WHERE 節の中では IBMSNAP_UOW 列を使用しないでください。

ASN1729E ニックネーム *nicknameowner.nickname* の登録はドロップできません。理由コードは *reasoncode* です。

説明: このニックネームの登録はドロップできません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 示されたニックネームは、以前にドロップされた登録に組み込まれていたニックネームと重複しています。ただし、その登録のドロップのスクリプトはまだ実行されていません。

ユーザーの処置: 理由コードの説明を見直して、より詳しい説明および制限については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照してください。

ASN1730W プロシージャ *procedureowner.procedurename* は、リモート・サーバー *remote_server* にすでに存在します。既存のプロシージャの内容は、生成されたスクリプトが実行される前に、生成されたプロシージャの定義とマージされる必要があります。

説明: この名前プロシージャは、DB2 以外のリレーショナル・データベースにすでに存在しています。生成されたスクリプトで CREATE PROCEDURE ステートメントを実行すると、データベース・マネージャーは、競合があることを示さずに、後で既存のトリガーを上書きをすることができます。場合によっては、オブジェ

クトがすでに存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。生成されたプロシージャ名はカスタマイズできません。カスタマイズされたプロシージャは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

ユーザーの処置: プロシージャを、生成されたプロシージャとマージする方法を決定してください。次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したプロシージャ・ロジックとマージするか、またはレプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のプロシージャ定義を組み込んでください。

ASN1731W DB2 以外のリレーショナル・データベースにあるデータ・タイプ *datatype* の列 *column_name* は、フェデレーテッド・ラッパーによるニックネームにあるデータ・タイプ *datatype* に変換されます。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 DB2 以外のリレーショナル・データベースは Oracle データベースで、その表にある番号列はフェデレーテッド・サーバーによるニックネームで、倍精度のデータ・タイプに変換されません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1732E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。ソース表 *srcowner.srctable* は、変更前イメージおよび変更後イメージの両方でジャーナル化されなくてはなりません。

説明: 固有の OS/400 コマンドでは、登録の前に、変更前イメージおよび変更後イメージ列の両方でジャーナルされるソース表が必要です。

ユーザーの処置: 表の登録のために生成されているスクリプトを実行する前に、変更前イメージおよび変更後イメージの両方で、ソース表をジャーナルしてください。

ASN1733E ソースの登録 *srcowner.srctable* をドロップできません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 指定されたソースは、前の DROP 登録と重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。

ユーザーの処置: 提供されたソース名を検査し、再度タスクを発行してください。

ASN1734W 従属ビューによる登録済みソースの定義は、登録済みソース *srcowner.srctable* の列によって更新されません。

説明: 既存の登録済みソースに対して、1 つ以上の列を変更または追加しようとした。ソースの登録には従属ビューの登録がありますが、変更された列は、ビューの登録定義に反映されません。

ユーザーの処置: 新規列の定義が、ビュー登録に反映されるように、ビュー登録の定義を更新してください。

1. 現行のビュー登録をドロップする。
2. ビュー登録を再作成する。

ビュー登録に新規列情報を反映したくない場合は、アクションは不要です。

ASN1735E 表、ビュー、またはニックネーム *owner.name* が登録できません。ドロップされた前の登録からのソース表に関連したサブスクリプション・セット・メンバーがあります。現在の登録に対して要求される定義が、既存のサブスクリプション・セット・メンバーに対するレプリケーション・コントロール表に保管されている定義と矛盾します。理由コードは *reason_code*。

説明: 表、ビュー、またはニックネームは以前に登録され、ドロップされました。ただし、関連したサブスクリプション・セット・メンバーはドロップされておらず、これらのメンバーの情報もレプリケーション・コントロール表に存在します。キャプチャーおよびアプライ・プログラムによる問題を回避するために、表またはニックネームは再登録され、要求されている情報は、孤立したメンバーのコントロール表に保管された情報と一致する必要があります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録を試みました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが変更-キャプチャー・メカニズムによって以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。
- 1 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが FULL REFRESH ONLY として以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。

- 2 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。ソース表は以前に定義されドロップされました。IBMSNAP_PRUNCNTL 表にある PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE 列の値が、CD/CCD 所有者または CD/CCD 表フィールドで指定された入力値と一致しません。

ユーザーの処置: 以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

- 0 表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録してください。
- 1 表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録してください。
- 2 表またはニックネームを登録し、変更データまたは整合変更データの所有者および表の名前は、IBMSNAP_PRUNCNTL フィールドにあるものと一致するかどうか確認してください。レプリケーション・アクションがコントロール表に保管された値を受け取るために、これらの値をカスタマイズしないでください。

ASN1736W データ・タイプ *datatype* の列 *column_name* に対する変更前イメージ列の名前は、変更前イメージ接頭部付の列名の長さが切り捨てられます。変更前イメージ接頭部付の列名の長さが、DB2 以外のリレーショナル・データベースで可能な列名の制限値 *allowed_limit* を超過しているため、切り捨てられます。

説明: 指定された変更前イメージ接頭部が列名に追加される時、その列名が DB2 以外のリレーショナル・サーバーに対する列名の最大値より長くなっています。列名は、長さが最大値に等しくなるように、後ろから切り捨てられていきます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1737W レプリケーション・アクション *action_name* は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表にあるプロシージャまたはトリガー定義を再作成するための十分な情報を引き出すことができません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を整理します。ニックネームが登録または登録からドロップされるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガーはドロップされ、そ

の特定のニックネームに対する新しい情報を使用して再作成されます。この登録に対して指定された情報には IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガーを定義するために必要な情報が含まれていません。そのため、生成されたスクリプトには、プロシージャまたはトリガーに対する DROP または CREATE ステートメントが含まれていません。

ユーザーの処置: ニックネームまたは表が存在しない登録をドロップします。

ASN1738W IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガー *name* をリモート・サーバーで見つけることができませんでした。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。コントロール表に保管された定義は、このサーバーに、前の登録が存在するけれども IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャが見つからなかったことを示します。それでも、プロシージャはコントロール表に保管された定義によって、IBMSNAP_PRUNCNTL 表に作成されます。

ユーザーの処置: IBMSNAP_PRUNCNTL 表に生成されたプロシージャまたはトリガーのステートメントに登録済みソースのすべてがあることを確認してください。

ASN1739W ユーザー表にあるデータ・タイプ *datatype* の列名 *column_name* は、DB2 以外のレレーショナル・データベースにある CCD 表に、新規のデータ・タイプ *new_datatype* として作成されます。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 データ・タイプ **TIMESTAMP** の列を、Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは挿入または更新ができません。CCD 表はデータ・タイプ **TIMESTAMP** を使用した列 (IBMSNAP_SYBTMSTMP 列または IBMSNAP_MSTMSTMP 列) で、DB2 以外のレレーショナル・システムのいずれかを作成しています。Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは、データ・タイプ **TIMESTAMP** の列を複数持つことができません。そのため、ユーザー表の列のデータ・タイプはバイナリー(8) データ・タイプに変換されます。

ユーザーの処置: 新規データ・タイプが許可できるものである場合、アクションは不要です。新規データ・タイプを受け付けることができない場合は、生成されたスクリプトを実行しないでください。登録定義から指定した列の選択を除去し、タスクを再度発行してください。

ASN1740W CCD ニックネーム

nicknameowner.nickname はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表 *tableowner.tablename* が、DB2 以外のサーバーに存在しません。この表の情報は、PRUNCNTL プロシージャまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。ニックネームはフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表が DB2 以外のサーバーに存在しません。この表は、PRUNCNTL プロシージャまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

ユーザーの処置: CCD 表がドロップされた理由を判別してください。誤ってドロップされた場合、そのソースの登録をドロップするか、または元の定義で CCD 表を再作成してください。

ASN1741W CCD ニックネーム

nicknameowner.nickname が、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。この表の情報は、PRUNCNTL プロシージャまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

説明: IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。CCD ニックネームは、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。この表は、PRUNCNTL プロシージャまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

ユーザーの処置: CCD ニックネームがドロップされた理由を判別してください。誤ってニックネームをドロップした場合、そのソースの登録をドロップするか、または CCD ニックネームを再作成してください。

ASN1742E プラットフォーム *platform* 上のソース・ニックネーム *nickname_owner.nickname* は、最初に登録をアーキテクチャー・レベル *arch_level* にマイグレーションしなければ登録できません。

説明: IBMSNAP_REGISTER 表には DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、新しいソースは登録できません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。詳しくは、「SQL レプリケーション・バージョン 8 へのマイグレーション」を参照してください。

ASN1800E サブスクリプション・セット *set_name* は、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* に対し、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* に、すでに存在しています。

説明: 1 つの指定されたアプライ修飾子とアプライ・コントロール・サーバーに対し、同じ名前のサブスクリプション・セットは 1 つしか存在できません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 新規セット名を作成するか、または新規メンバーを既存のセットに追加してください。

ASN1801E ステートメント番号 *statement_number* はステートメント・ストリングの長さ *statement_stringlength* と関連付けられていますが、この長さは、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* での、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first* に対するステートメントの最大長を超えていません。

説明: ステートメントの長さが、許可される限界 (V8 では 1024) を超えています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: ストリングの長さが許可される限度より短くなるように、ステートメント・ストリングを変更してください。

ASN1802W レプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが、RECAPTURE='N' で定義されています。ターゲット・レプリカに対する変更は、すべて他のターゲット・レプリカに伝搬されません。

説明: Update-anywhere シナリオでは、1 つのターゲット・レプリカへの変更は、RECAPTURE='N' の場合にはソースで再取り込みされません。複数のターゲット・レプリカが同じソースをサブスクライブしている場合、1 つのターゲット・レプリカに行われた変更は他のターゲット・レプリカには反映されません。

ユーザーの処置: 変更を他のターゲット・レプリカに伝搬するには、RECAPTURE='Y' を設定してください。

ASN1803I 以前に定義され、後にドロップされたサブスクリプション・セットからの *orphan_statements* レプリケーション・サブスクリプション・セット・ステートメントが存在します。これらの孤立したステートメントは、指定されたアプライ・コントロール・サーバー上の、サブスクリプション・セット、指定されたアプライ修飾子に対してドロップされません。

説明: 前のサブスクリプション・セットが、その適切なステートメントをすべてドロップせずに、ドロップされました。ドロップされた前のサブスクリプション・セットと同じ名前を共有する、新規サブスクリプション・セットに対してスクリプトが生成されます。前のサブスクリプション・ステートメントは、ドロップされません。

ユーザーの処置: サブスクリプションのドロップ・ステートメントを発行して、孤立したステートメントを削除してください。

ASN1804I レプリケーション・サブスクリプション・セット MAX_SYNC_MINUTES *maxsynch_minutes* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に許可される範囲内にありません。代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。

説明: この列の有効範囲は、0 から 999 です。

ユーザーの処置: 30 分のデフォルト値が受け入れ可能である場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1805I レプリケーション・サブスクリプション **COMMIT_COUNT** *commitcount_value* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に許可される範囲内にありません。代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。

説明: この列の有効範囲は、0 から 999 です。

ユーザーの処置: 0 分のデフォルト値が受け入れ可能な場合は、何のアクションも必要ありません。

ASN1806E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 サブスクリプション・セットは、メンバーの最大限度に達しました。
- 1 キャプチャー・スキーマのソース・メンバーが、キャプチャー・スキーマのサブスクリプション・セットと同じでない。
- 2 System i ソース・メンバーが、サブスクリプション・セット・ジャーナルと同じでない。
- 3 コンデンス表メンバー構造が、他のメンバー構造と非互換である。
- 4 ソース・メンバーが変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしていないのに、ターゲット・メンバーが変更キャプチャーに依存している。ターゲット構造が CCD またはレプリカ表なのに、ソースに CD 表がない。
- 5 ソース・メンバーが、完全な表でない。
- 6 ターゲット・メンバー定義はターゲット表の存在を予期しているのに、ターゲット表が存在しない。

- 7 ターゲット・メンバー定義はターゲット表の作成を求めているが、ターゲット表がすでに存在する。
- 8 このセットにはフル・リフレッシュの、サポートされているターゲット表しか含まれていませんが、新規メンバーは変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしています。
- 10 このセットには、変更キャプチャー・レプリケーションでサポートされるターゲット表しか含まれていないのに、新規メンバーがフル・リフレッシュのみをサポートしている。
- 11 レプリカ規則: ターゲット・メンバーがレプリカの場合、ソース・メンバーはレプリカまたはユーザー表にすることができる。
- 12 このオペレーティング・システムで、ターゲット構造がサポートされていない。
- 13 ターゲット構造が登録ソース (自動登録) として設定されている CCD なのに、構造が完全でない。
- 14 ソース・メンバーが登録されていない。
- 15 ソース・メンバー列に列定義があるのに、ターゲット・タイプが集合体でない。
- 16 サブスクリプション・セットから除外されたターゲット列の少なくとも 1 つが、NULL 可能でもなく、デフォルトを使用した NOT NULL でもありません。
- 17 ターゲット・メンバーが、更新できないビューである。
- 18 サブスクリプション・セット・メンバーがすでに存在する。
- 19 登録済みソースへの有効なマッピングを持つターゲット列または式が見つからない。
- 20 複数の有効ソースが見つかったが、定義に整合性がない。
- 21 外部 CCD 表は非コンデンスで、DATALINK 列または LOB 列を含んでいます。
- 22 ソース・メンバー・ジャーナル・ライブラリー名が一致しません。
- 23 リモート・ジャーナル名が無効です。
- 24 ジャーナル名またはライブラリーが無効です。
- 25 リモート・ジャーナル記録を持つレプリカ表は許可されません。
- 26 内部 CCD 表は、指定された登録済みソース表に対してすでに存在します。

- 27 ソース・サーバーとターゲット・サーバーは、内部 CCD 表に対して同じでなければなりません。
- 28 内部 CCD 表は、非コンプリートでなければなりません。
- 29 ソース表はリモート側でジャーナルされ、LOB 列または DATALINK 列を含んでいます。
- 30 IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に関連情報が存在しません。
- 31 IBMSNAP_PRUNE_SET の中に関連情報が存在しません。
- 32 ビューを含む内部 CCD 表は、ソースとして使用できません。
- 33 ターゲット表が、すでに別の既存のメンバーと共有されており、IBMSNAP_SUBS_COLS 表に保管されている名前、IS_KEY、式、およびタイプ・フィールドの値に関するレプリケーション定義と、新規メンバーで要求される定義との間に競合を検出しました。
- 34 ソースが DB2 以外のサーバーにあり、要求されたターゲット・タイプはレプリカです。このシナリオはサポートされていません。
- 35 指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。
- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
 - ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
 - ニックネームでないオブジェクトを提供した。
 - ターゲット・サーバーに存在するが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

ユーザーの処置: 理由コード 1 から 34 の場合、別のサブスクリプション・セットの中に新規メンバーを作成するか、または新規メンバー用にサブスクリプション・セットを新しく作成してください。

理由コード 35 については、ターゲット・サーバーで既存の有効なニックネームを提供していて、ソース・メンバーと関連していること確認してください。

ASN1807I レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に通知節を付けて追加されます。理由コードは *reason_code*。

説明: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。スクリプトが生成されました。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 新規のセットが作成された結果、レプリカと読み取り専用ターゲット・メンバーが混合されました。
- 1 サブスクリプション・セットはトランザクション・コミット・カウントをサポートしていますが、ターゲット・メンバーはトランザクション処理に適格ではありません。
- 2 少なくとも 1 つのメンバーは、CCD 表をターゲット・メンバーとして持っていますが、すべてのメンバーが CCD 表のターゲット・メンバーを持っているわけではありません。同じセットの中に、世代の異なる表が含まれていません。
- 3 ターゲット・メンバーは、非コンデンスおよび非コンプリートの CCD 表で、IBMSNAP から列が追加されていません。このターゲット表は、基本的に CD 表と同じです。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

- 0 レプリカ表をすべて 1 つのセットの中に保持し、読み取り専用表は別のセットに保持することを検討してください。
- 1 同じセットの中にトランザクション処理をサポートするすべてのターゲット・タイプを保持し、それ以外の表を別のセットに保持することを検討してください。
- 2 セット間でデータの経過日数の整合性を確保するために、同じ世代に含まれるすべての CCD ターゲット表を同じセットの中に保持することを検討してください。さらに、CCD 以外のすべてのターゲット表は別のセットの中に保持することを検討してください。第 2 のセットは、例えばミドル・ティア・ステージの場合のように、第 1 のセットに入っているデータによって決まります。
- 3 CCD ターゲット表が必要かどうかを検討してください。

ASN1808E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。サブスクリプション・ターゲット・メンバーは、その索引キー列が更新されることを予期していますが、少なくとも 1 つの索引キーが、その変更前イメージ列をサブスクリプション・ソース・メンバーに登録していません。

説明: ターゲット表では、その索引キーが更新できるように設定されています (PRIMARY_KEY_CHG = 'Y')。この要件をサポートするには、アプライ・プログラムが索引キーの変更前イメージ列にアクセスする必要があります。そのため、これらの変更前イメージ列が、ソース・メンバーの変更データ表に存在していなければなりません。存在していない場合、アプライ・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- キャプチャー・サーバーで、その列の変更前イメージ列が、すでにソース・メンバーに登録されているかチェックします。
- まだ登録されていない場合は、適切な変更前イメージ列を登録してください。

ASN1809W レプリケーション・アクションは、サブスクリプション索引キー列が更新されることを予期していますが、サブスクリプション・メンバーは、ターゲット索引キー列への更新が許可されずにサブスクリプション・セットに追加されます。理由コードは *reason_code*。

説明: リストされているケースでは、PRIMARY_KEY_CHG 設定は無意味です。ユーザー提供の定義をオーバーライドする、レプリケーション定義を使用して更新されたスクリプトが生成されます。以下は、有効な理由コードの値です。

0

ターゲット表のタイプ CCD:
PRIMARY_KEY_CHG は無効です。

1

IBMSNAP_REGISTER 表の
CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' に設定されます。

2

ターゲット表はコンデンスではありません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1810W ソース・サーバーで、DB2 参照整合性制約が設定されたサブスクリプション・セット・メンバーが定義されていますが、ターゲット・メンバーは、これらの制約を保持していないレプリカです。

説明: ターゲット表の参照整合性制約が、レプリカ・サイトでは DB2 によって施行されていません。これは、レプリカ・サイトで意図した振る舞いでない場合があります。スクリプトは生成されていますが、作動不能の可能性もあります。

ユーザーの処置: 必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な参照制約を組み込んでください。

ASN1811W ターゲット・サブスクリプション・メンバーの索引定義が、ターゲットにおいてユニークであることは保証できません。理由コードは *reason_code*。

説明: アプライ・プログラムが一部のターゲット・タイプのターゲット表の行を正しく更新および削除するには、索引定義がユニークであることが必要です。指定された索引がユニークであることが保証されない場合、アプライ・プログラムは一部の作業をやり直します。ご使用のアプリケーションにこの状況が該当していないことを確認してください。以下は、有効な理由コードの値です。

0 SQL 関数によって少なくとも 1 つの列が生成されていますが、列が生成されたことによって索引がユニークであることは保証されません。

1 ユニーク索引では、SQL 関数によって NULL 可能列は生成されません。

ユーザーの処置: サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- アプライ・コントロール・サーバー
ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, COL_TYPE の列タイプが 'F' かどうか調べてください。
- 'F' であれば、索引列の式を再定義して SQL 式を組み込まないようにするか、または索引キーからその列を除去してください (ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, IS_KEY 列は 'N' に設定されています)。

ASN1812E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。必須のターゲット・キーが無効であるため、サブスクリプション・ターゲット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: ユニーク索引を必要とするターゲット・メンバーのターゲット・タイプは、ポイント・イン・タイム、ユーザーのコピー、レプリカ表、およびコンデンス CCD です。これらのターゲットにユニーク索引がない場合、アプライ・プログラムは失敗します。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ターゲット表はまだ存在していませんが、ターゲット・キー情報をソース表から引き出せませんでした。
- 1 ターゲット・キー情報を見つけることも、引き出すこともできませんでした。また、CD 表の RRN が定義されていません (System i のみ)。
- 2 ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、必須ターゲット・キー情報がありません。
- 3 ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、ターゲット・キー情報が既存のパーティション・キー情報と非互換です。
- 4 ターゲット表タイプのレプリカはすでに存在します。指定された列はターゲット・キー情報の一部ですが、ソース・キー情報にはこの列が含まれていません。ソースおよびターゲット・メンバーの両方にあるキーは、ターゲット表のタイプがレプリカの場合には一致してはなりません。
- 5 指定されたターゲット・キー列が、ターゲット表定義で見つかりません。

ユーザーの処置: 有効なターゲット・キーを定義してください。以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

- 0 ソース表に適切なユニーク索引を作成して、レプリケーション推奨索引を引き出すために使用してください。
- 2 必須のターゲット・キー情報を指定してください。

- 3 パーティション索引に関する DB2 規則については、「SQL リファレンス」を参照してください。例えば、指定したキーに必須のパーティション・キーが組み込まれていない場合があります。
- 4 レプリケーションが正しい索引を引き出すことができるように、ターゲットまたはソース・キー情報を適切に変更してください。
- 5 列名を検証してください。

ASN1813I ソース・サーバーで、いくつかの DB2 制約が設定されたレプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが定義されていますが、サブスクリプション・ターゲット・メンバーはこれらの制約を保持していません。理由コードは *reason_code*。

説明: ソース表の制約は、ターゲット・メンバーの定義時に指定されていない場合、DB2 によって施行されません。これは、レプリカ表サーバーで意図した振る舞いでない場合があります。スクリプトは生成されていますが、作動可能になっていない可能性もあります。制約については、以下の理由コードの有効値を参照してください。

- 0 ターゲット・メンバーの中に少なくとも 1 つの NOT NULL WITH DEFAULT 節があります。
- 1 パーティション表スペース

ユーザーの処置: 必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な DB2 制約を組み込んでください。

ASN1814E データ・タイプ *datatype* のターゲット列 *column_name* は、サブスクリプション・ターゲット・メンバー *tableowner.tablename* に追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: サブスクリプション・メンバーは、サブスクリプション列のチェックに失敗しました。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 この列のデータ・タイプは、レプリケーションによってサポートされていません。DB2 でサポートされていないデータ・タイプの場合は、メッセージ ASN1648E を発行するようにレプリケーション・プログラムに指示します。
- 1 ターゲット・データ・タイプは、対応するソース・データ・タイプと非互換です。

ASN1815E

- 2 ソース表の登録でこの列が見つかりません。
 - 3 この列タイプは、フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされていません。
 - 4 ターゲット列は LOB です。ターゲット・メンバーの LOB 列の最大数を超過しています。
 - 5 ソース列に SQL 列関数が含まれていますが、ターゲット・メンバー構造は基礎集約でも変更集約でもありません。
 - 6 ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は LOB 列です。
 - 7 ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は DATALINK 値です。ただし、CONFLICT_LEVEL > 0 です。
 - 8 LOB 列を含む、非コンデンス CCD ターゲット表はサポートされていません。
 - 9 この列は既存のターゲット表の中にありません。
 - 10 ターゲット列は、サブスクリプション・メンバー定義ですすでに定義されています。
 - 11 指定された列のデータ・タイプ定義によって、挿入または更新操作、またはこの両方の操作が列でできなくなります。
 - 12 指定されたターゲット列名が、マップされたソース列名に一致しません。ターゲット表がレプリカの場合、ターゲット列名をソース列の名前と別にするにはできません。
 - 13 ターゲット列はソースの変更前イメージ列からマップされ、ソース列には NULL 値が含まれます。ただし、ターゲット列は NULL 可能ではなく、デフォルトで NOT NULL でもありません。
 - 14 指定されたターゲット列名が、マップされた CD 列名に一致しません。ターゲット表が内部 CCD の場合、ターゲット列名を CD 列の名前と別にするにはできません。
- ユーザーの処置:** 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。
- 0 データ・タイプをサポートされているものに変更してください。
 - 1 ターゲット・データ・タイプを確実にソース・データ・タイプと一致させてください。
 - 2 ソース表の列を登録してください。
 - 3 フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされている有効なデータ・タイプを選択してください。
 - 4 ターゲット・メンバーの LOB 列の数が許容限度を超えていないことを確認してください。
 - 5 ソース列の式かターゲット表の構造を変更してください。
 - 6 サブスクリプション・メンバーからターゲット・レプリカの LOB 列を除去してください。
 - 7 レプリカが 0 より大きい競合レベルを必要とする場合は、サブスクリプション・メンバーから DATALINK 列を除去してください。それ以外の場合、レプリカの競合レベルを変更してください。
 - 8 LOB 列を除去してください。
 - 9 列名を検証してください。
 - 10 列名を検証してください。
 - 11 サブスクリプション・ターゲット・メンバーから列を除去してください。
 - 12 ターゲットの列名がソース列名のマップされた列名に一致することを確認してください。
 - 13 ターゲット・メンバーの列定義を変更して、NULL 値またはデフォルト値を許容するようにしてください。
 - 14 ターゲットの列名が CD 表のマップされた列名に一致することを確認してください。

ASN1815E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のサブスクリプション・セット *set_name* は、空の場合はドロップされますが、このセットには少なくとも 1 つのメンバーが存在します。このサブスクリプション・セットはドロップできません。

説明: 指定されたアプライ・コントロール・サーバーの ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の中に、特定のサブスクリプション・セットのアプライ修飾子 (示されたもの) に対し、少なくとも 1 つのメンバーが存在しているため、このサブスクリプション・セットはドロップされません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: まだ存在しているサブスクリプション・メンバーをドロップしてから、サブスクリプション・セットをドロップしてください。または、サブスクリプション・セットが空でなければならないという要件を付けずに、*Drop Subscription Set* タスクを発行してください。

ASN1816W レプリケーション・サブスクリプション・セットに、サブスクリプション・セットがドロップされるとドロップされるメンバーが少なくとも 1 つ含まれています。

説明: サブスクリプション・セットが正常にドロップされると、そのセットの該当するメンバーもすべて自動的にドロップされます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1818W レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、新規サブスクリプションの **WHERE** 節の述部を使用して更新されます。そのサブスクリプション・メンバーには、以前の述部がすでに存在します。この述部は新規の述部情報によって上書きされます。

説明: 指定されたメンバーにはすでに述部が含まれています。新規の述部が古い述部を上書きします。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: レプリケーション・タスクのための完全な述部節を指定してください。既存の述部節全体が含まれているわけではない場合、その述部節の更新が必要になる可能性があります。

ASN1819W レプリケーション・サブスクリプション・セットは正常に使用不可になっています。ただし、サブスクリプション・セットを使用不可にすると、そのサブスクリプション・セットのすべてのソース・メンバーのキャプチャーの整理ロジックが直接影響を受けるということに注意してください。

説明: キャプチャーの整理ロジックは、アプライ・プログラムによって従属サブスクリプション・メンバーが移植されるまで、どの CD 表の整理も行いません。スクリプトが生成されました。サブスクリプション・セットを使用不可にすることが最適な選択ではなく、むしろドロップすることが適切なオプションである場合、このロジックの更新が必要になる場合があります。

ユーザーの処置: CD 表の整理処理に影響するほど、長時間にわたってサブスクリプション・セットが使用不可にされる場合、または従属登録済みソースに関する CD 表への影響が、キャプチャー・プログラムとキャプチャー・サーバーの CD 表に大きな影響を与える場合は、単純にサブスクリプション・セットを使用不可にするのではなく、いったんドロップして、後で再作成することを検討してください。または、該当する登録を非活動化してください。

ASN1820E サブスクリプション・セット *set_name*、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のレプリケーション・ストリングに、無効な DB2 構文が含まれています。このストリングのタイプは *string_type*、ストリング・テキストは *string_text* および SQL メッセージは *sql_message* です。

説明: 指定されたストリングは無効です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 該当するオブジェクト構文を訂正し、レプリケーション・タスクを再発行してください。

ASN1821W 従属サブスクリプション・セットは、その中にターゲット・サーバーでの登録済みソースであるターゲット・メンバーが含まれている場合、既存のサブスクリプション・セットがドロップされると無効になります。

説明: 従属サブスクリプションは、それらのソース・メンバー表の存在に依存しています。これらのソース・メンバーがレプリケーション・ターゲットとして維持され、これらのターゲットがドロップされると、アプライ・プログラムは、従属サブスクリプション・セットを処理するときに失敗します。ターゲット・サーバーの `captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL` 表に `SOURCE_OWNER` 行または `SOURCE_TABLE` 行が含まれ、それらの値が、ドロップされるターゲット表である場合、従属サブスクリプション・セットが影響される場合があります。スクリプトが生成されました。

ユーザーの処置: スクリプトを実行する前に、必要に応じて従属サブスクリプション・セットを非活動化するか、またはドロップしてください。

ASN1822E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcename*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。示されているサブスクリプション・メンバーは、示されているサブスクリプション・セットに対して存在しません。

説明: 示されているメンバーが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に対して、`ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR` の中で見つかりません。

ユーザーの処置: 指定されたアプライ修飾子、セット

ASN1823E

名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

ASN1823E サブスクリプション・セット *set_name* は、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* に対し、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* に、存在していません。

説明: 示されているサブスクリプション・セットが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に対して、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET の中で見つかりません。

ユーザーの処置: 指定されたアプライ修飾子、セット名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

ASN1824W レプリケーション・サブスクリプション・セットが、0 の COMMIT_COUNT を指定して更新されました。

説明: ソースは複数の表を含むビューで、そのセットのコミット・カウントは NULL です。コミット・カウント 0 がそのセットに適用されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1825W メンバーをドロップするためのレプリケーション・アクションは、ビューをドロップしませんでした。

説明: ビューをドロップすることを要求しましたが、要求どおりにアクションが完了しませんでした。

ユーザーの処置: ビューを手動でドロップする必要があります。

ASN1826W キャプチャー・スキーマ *capture_schema* が、指定されたソース・サーバーに存在しません。

説明: サブスクリプション・セットにメンバーを追加する前に、キャプチャー・スキーマが存在するか確認してください。

ユーザーの処置: キャプチャー・スキーマを指定して、ソース・サーバーでキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

ASN1827W ターゲット・メンバー *target_member* の列 *target_columnname* は、ソース・メンバー *source_member* の対応する列 *source_columnname* の DB2 列属性を保持していません。理由コードは *reason_code*。

説明: ソース列の DB2 列属性が、対応するターゲット列と異なっています。以下は、有効な理由コードの値です。

- 1 ソース列は NULL 可能で、ターゲット列は NULL 可能ではありません。
- 2 ソース列は NULL 可能でなく、ターゲット列は NULL 可能です。
- 3 ソース列にはデフォルト値があり、ターゲット列にはありません。
- 4 ターゲット列にはデフォルト値があり、ソース列にはありません。

ユーザーの処置: 理由コードが 1 の場合、ソース列の中にターゲット列に適用される NULL 値があるかどうか調べてください。必要に応じて、ターゲット列を NULLABLE に変更してください。または、必要に応じて、生成されたスクリプトを更新してターゲットで適切な DB2 属性を組み込んでください。

ASN1828E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcename*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。サブスクリプション・ターゲット・サーバーが IBM 以外のターゲット・サーバーの場合、このアクションがサポートされていないか、または制限付きでサポートされています。理由コードは *reason_code*。

説明: これらは現行の制限です。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 サポートされていません。
- 1 ターゲット表構造がポイント・イン・タイム、CCD、ユーザーのコピーの場合にサポートされます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1829I サブスクリプション・ターゲット表で、有効なニックネーム *nicknameowner.nickname* が見つかりました。列に対するデータ・タイプのマッピング規則が施行されます。このニックネームはそのまま使用されま

説明: このサブスクリプションに対して有効なフェデレーテッド・データベース (ソース表の列とニックネーム列の間のデータ・タイプのマッピングがチェックされ、有効と判断された) の中で、既存のターゲット・ニックネームが見つかりましたが、DB2 以外のリレーショナル・データベース・サーバーでターゲット表の存在を検証するためのチェックがありません。

ユーザーの処置: 示されているニックネームに対応するリモート表が存在することを確認してください。存在しない場合、アプライ・プログラムは失敗します。

ASN1830E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット *set_name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner-sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner-targettable*、および述部 *predicate* に対して、エラー終了しました。このサブスクリプション・セット・メンバーは、このサブスクリプション・セットに追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: このサブスクリプション・セット・メンバーは無効です。スクリプトは生成されません。有効な理由コードは以下のとおりです。

0

存在しない CD 表または UOW 表からの述部参照列があります。

ユーザーの処置: 示されている述部の正確性を検証し、詳細変更述部の機能についての資料を参照してください。

ASN1831E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ・コントロール・サーバー *control_server* で、処理順序値が *whos_on_first* である、アプライ修飾子 *apply_qual* を持ったサブスクリプション・セット *set_name* に対して、サブスクリプション・ステートメントが存在しません。

説明: このアプライ修飾子では、示されているサブスクリプション・セット名に対するサブスクリプション・ス

テートメントが存在しません。

ユーザーの処置: このアプライ修飾子で、示されているサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・ステートメントが含まれているか確認してください。

ASN1832W 列 *column_name* は、**ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** コントロール表の中にすでに存在します。

説明: 示されている列はすでに **ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS** 表の中に存在しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN1833E ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の **CCSID** *Unicode_ASCII_EBCDIC* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の **IBMSNAP_UOW** 表の **CCSID** *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。指定されたサブスクリプション・メンバー定義によれば、これらの 2 つの表を結合する必要があります。

説明: 示されているキャプチャー・スキーマでは、関連したサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット・タイプがユーザーのコピーでない場合、または **IBMSNAP_UOW** 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの **WHERE** 節で使用されている場合、アプライ・プログラムは、**IBMSNAP_UOW** 表および示されているソースの CD 表を結合します。アプライ・プログラムが、ソース表の CD 表を **IBMSNAP_UOW** 表と結合することによって、示されたソース表とキャプチャー・スキーマで定義されたサブスクリプション・セット・メンバーを処理すると、これらの表のコード化スキームが異なるためにエラーが発生します。コード化スキームの詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『UNICODE および ASCII コード化スキーム』を参照してください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット・タイプとしてユーザーのコピーを選択します。サブスクリプション・メンバーの **WHERE** 節の **IBMSNAP_UOW** 表の列は使用しないでください。
- 異なるキャプチャー・スキーマを使用してソースを登録し、その新しいキャプチャー・スキーマの **IBMSNAP_UOW** 表と同じコード化スキームを使用して、表スペースに CD 表を作成してください。

ASN1834W サブスクリプション・セットに、デフォルト・ターゲット・スキーマ 'ASN' が使用されます。

説明: サブスクリプション・セットにはターゲット・キャプチャー・スキーマを使用する必要があり、デフォルト値の 'ASN' が使用されます。

ユーザーの処置: デフォルトが、このサブスクリプション・セットの中のターゲット・キャプチャー・スキーマ列として適当であれば、アクションは不要です。

ASN1835W データ・タイプ *datatype* のターゲット列 *column_name* がサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット *tableowner.tablename* およびソース *sourceowner.sourcename* に追加されましたが、データ・タイプが *datatype* である、対応するソース列 *column_name* に、ターゲット列に適用できないデータが含まれている可能性があります。理由コードは *reason_code*。

説明: ソース列の定義が、ターゲット列の定義と正確に一致していません。そのため、アプライ・プログラムがソースから選択したデータがターゲット列として適さない場合、アプライ・プログラムは失敗するか、またはソース・データを切り捨てて変更する可能性があります。注: ご使用のアプリケーションが、アプライ・プログラムの失敗の原因となるデータを生成していない場合、定義のミスマッチの問題があります。

理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1

ターゲット列の長さが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

2

ターゲット列のスケールが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

3

ターゲット列の精度が、解決されたソース列の式より小さくなっています。

4

ターゲット列とソース列のデータ・タイプが、特定のソース値の場合にしか互換ではありません。

ユーザーの処置: 可能であれば、ターゲット・サイトで定義を変更して、ソースの定義と互換になるようにしてください (この操作は、通常、ターゲット・サイトで実行されているアプリケーションによって実行されます)。

定義のミスマッチを保持する必要がある場合 (ターゲット

トの定義がソースの定義と異なっていなければならない具体的な理由がある場合)、アプリケーションを調べて、定義のミスマッチがランタイムの問題の原因とならないことを確認してください。

ASN1836W ターゲット表 *owner.name* は、キャプチャー・スキーマ *schemaname* を使用してソースとして登録されているため、ドロップされません。

説明: このターゲット表は、示されているキャプチャー・スキーマを使用してソースとして登録されています。この表がドロップされると、登録は無効になります。

ユーザーの処置: ターゲット表の登録をドロップしてから、表をドロップしてください。

ASN1837W DB2 ターゲット *tableowner.tablename* はドロップされません。

説明: このターゲット表は、レプリカ、または外部の整合変更データ (CCD) 表です。この表はターゲット・サーバーでも登録されているため、従属ターゲットのソースである可能性があります。この表を自動的にドロップできません。

ユーザーの処置: そのレプリカまたは外部 CCD 表に対する登録済みソースをドロップしてください。その後、DB2 ターゲット表を手動でドロップするか、またはレプリカまたは外部 CCD サブスクリプション・メンバーを削除してください。メンバーを削除すると、DB2 ターゲット表がドロップされます。

ASN1838E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。
OS/400 表 *tableowner.tablename* を、レプリカのターゲット・サブスクリプション・メンバーとして使用することができません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

指定されたターゲット表名が存在しないか、またはそのスキーマが、「Create Collection」または「Create Schema」コマンドを使用して作成されていないかのいずれかです。そのため、指定された表はジャーナル記録されません。レプリカに対して 'F' 方向のサブスクリプション・セットでターゲット表を登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。この表は、OS/400 システム上で必ず作成してください。

1

指定したターゲット表は存在しますが、表のジ

ジャーナル記録がありません。 'F' 方向設定のターゲット表をレプリカとして登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。

ユーザーの処置: 取るべきアクションは理由コードに依存します:

- 0 ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット表を作成し、これを変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。ターゲット表が存在する場合は、変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。
- 1 変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用して指定されたターゲット表をジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。

ASN1839I ソース・ビュー *viewowner.viewname* の基本表 *tableowner.tablename* が、レプリカ・ターゲットによる更新に選択されました。

説明: ソース・メンバーが、このレプリカ・シナリオのタイプ・ビューです。ビューを更新することができません。そのため列の最大数をもつビューの登録済み基本表は 'F' 方向のターゲット・メンバーとして使用されます。

ユーザーの処置: シナリオが有効であるか確かめてください。

ASN1840W ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。

説明: ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。ターゲット表スペース定義は無視されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1841E サブスクリプション・ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、ターゲット列 *colname* で指定された式 *expression_name* が、失敗しました。個々のサブスクリプション・ソース・メンバー *sourceowner.sourcenname* に対して実行されたチェックが、SQL エラー (*sqlcode = sqlcode*, *sqlstate = sqlstate*) を戻したために失敗しました。

説明: データ整合性規則を確認するために、ソース・メンバーに対するターゲット・メンバーに指定された式値に、一連のチェックが実行されました。指定された式には、このチェックのうちで失敗したものがあります。

ユーザーの処置: 追加情報については、SQL 戻りメッセージおよび SQL リファレンスを参照してください。

ASN1842W 内部 CCD 表 *ccdowner.ccdname* には、ソース・オブジェクト

sourceowner.sourcenname の CD 表

ccdowner.cdtable より少ない列があります。

このソースでは、内部 CCD の定義前に定義された既存のメンバーが無効になる可能性があります。

説明: 内部 CCD 表は、アプライが変更内容をターゲットに適用しようとする時に、CD 表より先に優先順位をとります。内部 CCD は、すでに CD 表があり、サブスクリプション・メンバーが定義されている指定ソースに対して作成されます。CD 表の列の中には内部 CCD 表に存在しないものがあり、CCD 表の作成の前に定義されていたメンバーは無効になります。

ユーザーの処置: シナリオが有効であるか確かめてください。

ASN1843E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。

説明: OS/400 のみ。IBMSNAP_REG_EXT 表では、ソース所有者、ソース表、およびソース・ビュー修飾子の組み合わせについて、重複行は許可されません。

ユーザーの処置: 所属しない IBMSNAP_REG_EXT 表から行を削除し、タスクを再発行してください。

ASN1844E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。指定されたソース表とその登録は、別のサーバーにあります。

説明: ソース・データベースとキャプチャー・データベースの両方が、System i マシンにある場合、ソース表とその登録は、別のサーバーにのみ常駐することができます。サーバーのうち少なくとも 1 つが、System i システムではありません。

ユーザーの処置: タスクを再発行する前に、指定されたソース表とそのソース表の登録は、同じマシンにあることを確認してください。

ASN1845E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* の表名の長さ *length* が、サーバー *server* の z/OS レプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度 *max_limit* を超過しています。

説明: z/OS レプリケーション・コントロール表は、表の名前の最大長を 30 文字として作成されました。キャプチャー・コントロール・サーバーまたはアプライ・コントロール・サーバーのいずれか、またはこの両方が、z/OS システムにあり、指定したターゲット表名が 30 より長い場合、エラー・メッセージを受け取りました。このサブスクリプション・セット・メンバーは作成できません。

ユーザーの処置: ターゲット・メンバーの表の名前の長さが 30 文字以下か確認してください。ターゲット表の名前はキャプチャー・コントロール・サーバーおよびアプライ・コントロール・サーバーに保管される必要があるため、ソース・データベースの制限がターゲットの機能を制限する場合があります。この場合では、30 文字以下の名前で作成されたターゲット表のビューを作成し、ターゲット・ビュー名を使用してサブスクリプション・セット・メンバーを定義することができます。

ASN1846E セットには、1 つ以上の無効なメンバーが含まれています。オリジナルのエラー・メッセージは *original_message*。

説明: 設定に 1 つ以上の無効なメンバーがあるため、指定された設定をプロモート中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 入力した情報が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

ASN1847E ビュー *viewowner.viewname* は、サポートされていない定義を含んでいます。

説明: ビュー定義がサポートされないため、対応する基本表の列にビューの列をマップすることができません。

ユーザーの処置: ビュー定義が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

ASN1848W 索引または制約 *index_constraint_name* を、タイプ *object_name* の *targetowner.targetname* に作成することができませんでした。ビュー定義はすべてのキー列に対する列のマッピングを提供しませんでした。

説明: ターゲット・オブジェクトはビューです。ターゲット・キーがそのビューに対して作成されます。ターゲット・キーで使用されるビュー列を基本表の列にマップすることができなかったため、このターゲット・キーをサポートしているユニーク索引をビューの基本表に作成することができませんでした。

ユーザーの処置: 索引を基本表に手動で作成してください。

ASN1849E レプリケーション・サブスクリプション・セット *set_name* を、指定されたアプライ・コントロール・サーバーのアプライ修飾子にプロモートできません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 キャプチャー・サーバーまたはターゲット・サーバーがフェデレーテッド・データベースです。プロモート・サブスクリプションは、2 つの DB2 システムのサブスクリプション・セットでのみ動作します。

ユーザーの処置: これは現時点での制約事項です。アクションは不要です。

ASN1850W データ・タイプが 10 進の列 *column_name* の値は、データ・タイプが整数の列にマップされる場合、切り捨てられます。

説明: 指定された列には、有理数が含まれますが、整数列にマップされています。元のデータの数字で、切り捨てられたものがある可能性があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN1851E タイプ *type* の DB2 オブジェクト *object_name* を、表 *tableowner.tablename* に追加することができません。新規プロパティと表のパーティション・キーに競合が見つかったためです。

説明: 新規の定義と既存の表プロパティは、パーティション表の共存制約に関する DB2 の規則により共存することができないため、指定されたオブジェクトを表の

定義に追加することができません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1852E タイプ *type* の DB2 オブジェクト *object_name* を、表 *tableowner.tablename* に追加することができません。新規プロパティと既存のパーティション・キー *partitioning_key* に競合があるためです。

説明: 新規の定義とパーティション・キーの既存の表プロパティは、パーティション表の共存制約に関する DB2 の規則により共存することができないため、指定されたオブジェクトを表の定義に追加することができません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1853E DB2 の表 *tableowner.tablename* 定義は、索引 *indexowner.indexname* およびその表のパーティション・キーと競合します。

説明: 指定された索引定義とパーティション・キーに競合する定義があり、索引プロパティとパーティション表のパーティション・キーの共存に関する DB2 の規則により、共存できません。

ユーザーの処置: 表の制約の詳細については「SQL リファレンス」をご覧ください。

ASN1854E 表 *tableowner.tablename* の定義は z/OS プラットフォームで完了していません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ROWID をサポートするユニーク索引、主キー、およびユニーク制約などの必須プロパティ、または ROWID、LOB 表スペース、補助表、補助索引などの LOB 列のプロパティが、表定義で抜けています。表定義を完了するには、上記のうち少なくとも 1 つの要素が存在する必要があります。

ユーザーの処置: 必要な表プロパティを含めるために表定義を再定義してください。

ASN1855E ターゲット・キーの変更に使用する変更後イメージ列 *column_name* をレプリカ表 *tableowner.table_name* に見つけることができません。

説明: サブスクリプション中にキー列に対するターゲット・キーの変更オプションを選択しました。レプリカ

のソース表で変更後イメージ列に相当するものが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 元の変更後イメージ列がレプリカ・ソースのサブスクリプションで使用可能であるか確認してください。

ASN1856E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。OS/400 コレクション名 *collection_name* のチェックが失敗しました。ネイティブ OS/400 メッセージは *OS/400_message* です。

説明: 指定された OS/400 コレクションが無効です。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: エラー情報の詳細については、System i コンソール・ログを参照してください。

ASN1857E レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。ソース表 *sourceowner.sourcename* には、コンデンスとして定義された内部 CCD 表があり、ターゲット *targetowner.targetname* は、非コンデンス・ターゲットとして要求されています。

説明: レプリケーション・コントロール表に保管された定義は、ソース・メンバーが、すでに内部 CCD をコンデンスとして定義した別のサブスクリプション・セットに存在することを示します。同じソース・メンバーが、ソースとして別のサブスクリプション・セットに追加されていますが、ターゲット・メンバーは非コンデンスです。ソース・サイドのデータがすでにコンデンスであり、非コンデンス・ターゲットにはコピーできません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: ターゲット・メンバー定義を変更して、タスクを再発行してください。

ASN1858E 表 *tableowner.tablename* に対する表タイプ *type* は、この DB2 プラットフォームでサポートされていません。

説明: 表またはビューで指定されているタイプは、DB2 プラットフォームでサポートされていません。DB2 プラットフォームに応じて、サブスクリプションにソースまたはターゲットとして表のタイプのみ組み込むことができます。

ユーザーの処置: 複製された表に対するプラットフォーム固有のサポートについては、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 表をソースとして登録する』および『SQL レプリケーションのソースのサブス

クライブ』を参照してください。

ASN1859E レプリケーション・アクション *action_name* は、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、セット名 *set_name*、処理順序 *whos_on_first*、ソース・メンバー *source_owner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qualifier*、およびターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。クロスローダー・オプションが、このメンバーに使用されていますが、ニックネーム所有者およびニックネーム表の値が抜けています。

説明: IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の列 *LOADX_TYPE* の値が、指定されたメンバーの 3 です。この値は、クロスローダーがこのメンバーに使用されることを示します。ソース表のニックネームはターゲット・サーバーで作成され、*LOAD_SRC_N_OWNER* および *LOAD_SRC_N_TABLE* 列で指定される必要があります。これらの値のいずれかあるいは両方が欠落しています。

ユーザーの処置: *LOAD_SRC_N_OWNER* フィールドまたは *LOAD_SRC_N_TABLE* フィールドに値を指定し、タスクを再発行してください。

ASN1860W ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* が存在せず、メンバーをドロップするスクリプトは生成されません。

説明: ターゲット・データベース上にターゲット表、ビューまたはニックネームが存在していません。そのためドロップできません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1861E サブスクリプション・セット・メンバーを、ターゲット *targetowner.targetname* に作成できません。これは、ターゲットがすでにセットのメンバーであり、既存のメンバー定義が要求された定義と競合するためです。

説明: IBMSNAP_SUBS_COLS コントロール表の列にはすでに *NAME*、*IS_KEY*、*EXPRESSION*、および *TYPE* に対する値が含まれ、これらの値は新規メンバーに要求された値と異なります。新規メンバーを作成するスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 新規サブスクリプション・メンバーを作成するには、*IBMSNAP_SUBS_COLS* 表に保管され

ているターゲット・プロパティと同じプロパティを使用してください。

ASN1862E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set name*、処理順序値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。指定されたセットに対するサブスクリプション・セット・メンバーを更新できません。

説明: 指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。

- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
- ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
- ニックネームでないオブジェクトを提供した。
- ターゲット・サーバーに存在するが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

ユーザーの処置: ターゲット・サーバーにすでに存在し、ソース・メンバーと関連する有効なニックネームを提供しているかどうか確認してください。

ASN1863E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ソース・メンバー *sourceowner.sourcenname* の表所有者の長さ *length* が、サーバー *server* のレプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度 *max_limit* を超過しています。

説明: キャプチャー・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーは、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンのいずれかにあります。バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ名に許可される最大長は、このサーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

ユーザーの処置: バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムをアプライ・コントロール・サーバーとして使用するようにセットアップを再定義して、タスクを発行します。

ASN1864E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* の表所有者の長さ *length* が、サーバー *server* のレプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度 *max_limit* を超過しています。

説明: ターゲット・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかが、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンにあります。バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ名に許可される最大長は、コントロール・サーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

ユーザーの処置: バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムを、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかとして使用するようセットアップを再定義します。

ASN1865E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* 用のキャプチャー・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムではサポートされません。

説明: 指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、*capture_schema*.IBMSNAP_REGISTER 表から取得するアーキテクチャー・レベル値は、0805 でなければなりません。その表から取得するアーキテクチャー・レベルは、0805 ではありません。現在、バージョン 8 新機能モードでレプリケーションを実行していますが、新しいアーキテクチャー・レベルをサポートするようにコントロール表をマイグレーションしませんでした。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: マイグレーション・プログラム AASNSAMP member(ASN2V8) を実行し、レプリケーション・コントロール表の定義に、変更します。このマイグレーション・プログラムは、アーキテクチャー・レベルを 0805 に設定し、コントロール表のいくつかの列の長さを変更して長くします。

ASN1866E レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、それが定義されているバージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムとは互換性がありません。

説明: 指定されたアプライ・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表から取得するアーキテクチャー・レベルは、バージョン 8 の新機能モード DB2 サブシステムをサポートしません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール表を最新のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、アクションを再試行してください。

ASN1867E レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、WHOS_ON_FIRST 値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *target_owner.target_table* に対して、エラー終了しました。最初にサブスクリプション・セットを現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしないと、指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。理由コードは *reason_code*。

説明: メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 schema.IBMSNAP_REGISTER 表には Oracle ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、このセットに新しいメンバーは追加できません。
- 1 ASN.IBMSNAP_SUBS_SETS 表には Oracle ソースの既存サブスクリプション・セット・メンバーがあり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。すべてのサブスクリプション・セット・メンバーを新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、新しいソースをサブスクライブできません。

ユーザーの処置: DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。詳しくは、「SQL レプリケーション・バージョン 8 へのマイグレーション」を参照してください。

ASN1900E 表またはビュー *objectowner.objectname* は、新しいサーバーにプロモートできません。理由コードは *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 このオペレーティング・システムの表タイプが、プロモート要求に関してはサポートされていません。
- 1 プロモートを要求したソース・サーバーのオペレーティング・システムが、ターゲット・サーバーのオペレーティング・システムと一致しました。
- 2 表またはビューが存在していません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。
- 1 現行の制限。
- 2 ソース・サーバーのオペレーティング・システムに、この表またはビューが存在するか確認してください。

ASN1901E 登録済みソース *source_owner.source_name* は、キャプチャー・サーバー *capture_server* でキャプチャー・スキーマ *capture_schema* に対してプロモートできません。理由コードは *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 表またはビューが登録済みソースではありません。
- 1 登録済みソースがレプリカ表です。
- 2 登録済みソースは DB2 for System i 上にありますが、このソースのリモート・ジャーナルがあります。
- 3 表またはビューはすでにプロモートされています。
- 4 ビューの上にあるビューは、レプリケーション・プロモート登録回数によってサポートされていません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 IBMSNAP_REGISTER 表の中で指定した表またはビュー名に、示されたキャプチャー・スキーマに関する項目が含まれていません。表またはビューの登録は、この特定のキャプチャー・スキーマに対してはプロモートできません。

- 1 指定した表のタイプは、*captureschema.IBMSNAP_REGISTER* 表の中のレプリカ (*SOURCE_STRUCTURE* 列の値は 7) です。この表は登録済みソースとしてプロモートできません。レプリカは、ソースのユーザー表とターゲット・レプリカの間で適正な定義を維持するために、サブスクリプション・セットのコンテキストの中でのみプロモートできます。
- 2 この登録済みソースは、リモート・ジャーナルを持ち、DB2 for System i 上で維持されていますが、SQL スクリプトを使用する場合にのみプロモートできます。

ASN1902W スクリプトを実行する前に、プロモートされたキャプチャー・サーバー上にスキーマが存在することを確認してください。レプリケーション定義は、プロモートされたキャプチャー・サーバーにオブジェクトが存在しない場合、不完全になります。

説明: プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーと新規のキャプチャー・サーバー・スキーマを指定できます。ただし、プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーに接続して、キャプチャー・サーバーとスキーマの名前と存在の確認はしません。スクリプトを正常に実行するために、その実行前にこの情報を確認する必要があります。

ユーザーの処置: 必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

ASN1903W オブジェクト *objectowner.objectname* は、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバー上に存在しませんが、プロモートされたオブジェクトの一部は、このオブジェクトの存在に依存しています。このオブジェクトを作成できない場合、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバーでレプリケーション定義が不完全になります。理由コードは *reason_code*。

説明: プロモート・タスクでは新規のアプライ・コントロール・サーバー名を指定できるため、生成されたスクリプトを正しく実行するための必須オブジェクトが存在するかどうかを、このタスクで検出します。スクリプトは生成されますが、作動不能です。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が存在しません。
- 1 プロモートされたセットのすべてのソース・メンバーに関する登録情報。

ユーザーの処置: 必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

ASN1904I レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたアプライ修飾子に対して正常にプロモートされました。理由コードは *reason_code*。

説明: これは情報メッセージです。アクションは不要です。スクリプトは生成されていますが、実行前に一部更新が必要になる可能性があります。以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 ソース・メンバー構造が、ターゲット・メンバー構造と非互換です。
- 1 ターゲット・メンバーは、別のレプリカ (replica2) のソース・メンバーでもあるレプリカ (replica1) です。replica2 の登録行に RECAPTURE 値を指定すると、ユーザー表の更新を replica2 で複製することは許可されません。
- 2 ソース・メンバーは、複数のレプリカ (replica1 と replica2) のソース・メンバーでもあるユーザー表です。ユーザー表の登録行に RECAPTURE 値が指定されている場合、replica1 の更新を replica2 で複製すること、およびその逆も許可されません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

- 0 ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の TARGET_STRUCTURE 列を調べてください。この列の値は、対応するソース・メンバー、captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の SOURCE_STRUCTURE 列と互換でなければなりません。
- 1, 2 必要に応じて、値を更新してください。

ASN1905W ホストと新規の両方のシステムで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が同じです。生成されたレプリケーション定義が、ホスト・システム上で実行された場合に機能しません。

説明: プロモート・タスクで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が、ホストと新規のどちらのシステムでも同じであることが検出されました。生成された SQL スクリプトを変更する必要があります。変更しない場合、実行時にスクリプトが失敗します。

ユーザーの処置: アクションとして、1) ホスト・シス

テムと新規システムに、それぞれ異なるキャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名の値を指定して、同じタスクを実行するか、2) 生成されたスクリプトの中でキャプチャー・サーバー別名かキャプチャー・スキーマ名を変更してください。

ASN1950E ASNCLP : 予期しないトークン *token_name* が検出されました。有効なトークンには *list_of_tokens* が含まれます。

説明: 誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: 資料を調べて、コマンドの構文を確認してください。

ASN1951E ASNCLP : 無効なプロファイル *profile_name* を使用したコマンドが入力されました。

説明: あらかじめプロファイルが存在していないと、コマンドで使用できません。

ユーザーの処置: 対応する SET PROFILE コマンドを発行してから、失敗したコマンドを再入力してください。

ASN1952E ASNCLP : プログラムは内部エラーを検出しました。

説明: レプリケーション・コマンド行プロセッサが、リカバリー不能エラー条件を検出しました。

ユーザーの処置: エラーが載っているログ・ファイル入手し、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN1953I ASNCLP : コマンドが完了しました。

説明: この ASNCLP セッションのすべてのコマンドが正常に完了しました。このセッション内のいくつかのコマンドによって、エラー、警告、または通知のメッセージが生成された可能性があることにも注意してください。

ユーザーの処置: ASNCLP ログ・ファイルを調べて、このセッション内のコマンドによってエラー、警告、または通知のメッセージが生成されたか確認してください。

ASN1954E ASNCLP : コマンドが失敗しました。

説明: ASNCLP セッション内で少なくとも 1 つのコマンドが失敗し、処理が停止しました。

ユーザーの処置: ASNCLP ログ・ファイルを調べて、

ASN1955I

エラーについて診断してください。その後、エラーを修正し、コマンドを再実行してください。

ASN1955I ASNCLP : プログラムは次のファイルを使用します。キャプチャー SQL スクリプトとして *capture_script_file_name*、コントロール SQL スクリプトとして *control_script_file_name*、ターゲット SQL スクリプトとして *target_script_file_name*、およびログ・ファイルとして *log_file_name*。

説明: ASNCLP セッションにより、示されたファイルで情報が生成されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1956I ASNCLP : プログラムは、現在、アクション *action_name* を実行するためのスクリプトを生成しています。

説明: このコマンドに関する入力はすべて正常に解析され、スクリプトを生成するコマンドが現在呼び出されています。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1957E ASNCLP : 入力パラメーター *input_parameter* の値 *value* は誤りです。理由コードは *reason_code*。

説明: 入力パラメーターの値は誤りです。以下は、有効な理由コードの値です。

1

この入力パラメーターは文字値ですが、数値でなければなりません。

2

この入力パラメーターは数値ですが、文字値でなければなりません。

3

コマンド行プロセッサが指定されたファイルにアクセスできません。

4

日付のフォーマットは必ず yyyy-mm-dd に、時間フォーマットは hh:mm:ss.fffffff にしてください。日時のコンポーネントは、fffffff で示される時刻の小数部以外はすべてが必須指定です。ハイフンとコロンも必須指定です。

5

RELEASE の値は、91 (バージョン 9.1)、95 (バージョン 9.5)、または 97 (バージョン 9.7) でなければなりません。

ユーザーの処置: 理由コードをチェックし、有効な入力パラメーター値を指定してください。

ASN1976E *pgmname* : *program_qualifier*. 指定されたデータベース別名 *db_alias_name* は、パスワード・ファイル *password_file_name* にすでに存在します。

説明: 指定したキーは、パスワード・ファイルの中にすでに存在しています。

ユーザーの処置: ADD パラメーターの代わりに MODIFY パラメーターを使用して、このコマンドを再入力してください。

ASN1977E *pgmname* : *program_qualifier*. 入力パラメーター *parameter_name* の値がありません。

説明: 示されている入力パラメーターを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な入力パラメーターを使用して、ユーティリティを再呼び出ししてください。

ASN1978E *pgmname* : *program_qualifier*. 入力パラメーター *parameter_name* の値が長すぎます。

説明: asnpwd コマンドはデータベース別名の長さとして最大 8 文字をサポートし、ユーザー ID とパスワードの長さはいずれも最大 128 文字までサポートします。ユーザー ID とパスワードの具体的な長さは、使用しているオペレーティング・システムによって異なります。

ユーザーの処置: 長さが有効な入力パラメーターを使用して API を呼び出してください。

ASN1979E *pgmname* : *program_qualifier*. プログラムは、予期しないトークン *token_name* を検出しました。予期していたトークンには *list_of_tokens* が含まれます。

説明: 誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

ユーザーの処置: 資料を調べて、コマンドの構文を確認してください。

ASN1980E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは *reason* のために正常に完了しませんでした。

説明: `asnpwd` コマンドは、メッセージに示したシステム上の問題を検出しました。

ユーザーの処置: メッセージの情報を基にして、アクションをとってください。エラーの修正後、コマンドを再入力してください。

ASN1981I *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* を使用して正常に完了しました。

説明: `asnpwd` コマンドは正常に完了しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN1982E *pgmname : program_qualifier.* 指定されたデータベース別名 *db_alias_name* が、パスワード・ファイル *password_file_name* ではありません。

説明: `MODIFY` または `DELETE` パラメーターを使用して指定したキーは、パスワード・ファイルの中に存在していません。

ユーザーの処置: `ADD` パラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

ASN1983E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* を検出できません。

説明: パスワード・ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 指定したパス内にこのパスワード・ファイルが存在していることを確認してください。初めてパスワード管理ユーティリティを使用している場合、`INIT` パラメーターを使用してください。

ASN1984E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* がすでに存在しているため、初期化できません。

説明: 指定したパス内に、パスワード・ファイルがすでに存在しています。

ユーザーの処置: パスワード・ファイルが削除されたことを確認してください。その上で、コマンドを再実行してください。

ASN1985E *pgmname : program_qualifier.* プログラムは、パスワード・ファイル *password_file_name* を使用しているときに内部エラーを検出しました。

説明: オペレーティング・システムで、このパスワード・ファイルにアクセスしようとしたときに、予期しないエラーが発生しました。このエラーに関して使用可能な情報はありません。ただし、このエラーは、パスワード・ファイルを手動で編集したことが原因で、ファイルのフォーマットが変更されたために発生した可能性があります。

ユーザーの処置: コマンドを再実行してください。問題が解決しない場合は、`INIT` パラメーターを使用して新規のパスワード・ファイルを作成してください。

ASN1986E *pgmname : program_qualifier.* パスワード・ファイル *file_name* には、リスト不可能な暗号化された情報が含まれます。

説明: `Encrypt All` を使用して作成されたパスワード・ファイルには暗号化されたデータ (別名、ユーザー ID、およびパスワード) のみが含まれます。暗号化されたデータはリストできません。 `Encrypt Password` パラメーターを使用して作成されたパスワード・ファイルからのみデータをリストできます。

ユーザーの処置: `List` オプションを使用する場合は、パスワードのみを暗号化した状態でパスワード・ファイルを保守してください。 `asnpwd delete` コマンドで旧パスワード・ファイルを削除し、 `asnpwd init encrypt password` コマンドでパスワード・ファイルを新規作成する必要があります。

ASN1987E *program_name : program_identifier :* `ASNPWD` コマンドに対して指定した *option_name* オプションは、このオペレーティング・システムではサポートされていません。

説明: 64 ビットの Windows オペレーティング・システムでは、`ASNPWD` コマンドの `ADD`、`MODIFY`、`DELETE`、および `LIST` オプションは、バージョン 9.5 フィックスバック 2 より前に `ASNPWD` コマンドを使って作成されたパスワード・ファイルではサポートされません。このフィックスバック以降では、`ASNPWD` コマンドでは新しい暗号化方式の使用が開始されています。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- `ASNPWD INIT` オプションを使用して、新規パスワード・ファイルを作成します。この方式を使用する場

ASN1987E

合、バージョン 9.5 フィックスパック 2 と同じかまたはそれより新しいレプリケーション・プログラムでのみ、パスワード・ファイルの暗号化解除および読み取りが可能です。それより古いレプリケーション・プログラムでパスワード・ファイルを読み取る必要がある場合は、この方式を用いないでください。

- 別のオペレーティング・システムを使用し、ADD、MODIFY、DELETE、または LIST オプションを指定した ASNPWD コマンドを実行して、パスワード・ファイルを変更します。

第 38 章 ASN2000 - ASN2499

ASN2000I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。Q キャプチャー・サーバーは *capture_server* で、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2001I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2002I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。発行名は *pub_name*、Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、ソース表、ビュー、またはニックネームは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2003I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。Q サブスクリプション名: *name*。Q キャプチャー・サーバー: *capture_server*。Q キャプチャー・スキーマ: *capture_schema*。Q アプライ・サーバー: *apply_server*。Q アプライ・スキーマ: *apply_schema*。ソース表は *table_name*。ターゲット表またはストアド・プロシージャーは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2004I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。パブリッシング・キュー・マップ名は *queue_map_name*、Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2005I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。レプリケーション・キュー・マップ名は *queue_map_name*、Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2006I Q キャプチャー・サーバー *capture_server* および Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2007I Q アプライ・サーバー *apply_server* および Q アプライ・スキーマ *apply_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2008I 発行名 *pub_name*、**Q** キャプチャー・サーバー *capture_server*、**Q** キャプチャー・スキーマ *capture_schema*、およびソース表、ビュー、またはニックネーム *table_name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2009I **Q** サブスクリプション名 *name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。**Q** キャプチャー・サーバーは *capture_server*、**Q** キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、**Q** アプライ・サーバーは *apply_server*、**Q** アプライ・スキーマは *apply_schema*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアド・プロシージャは *table_name*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2010I パブリッシング・キュー・マップ名 *queue_map_name*、**Q** キャプチャー・サーバー *capture_server*、および **Q** キャプチャー・スキーマ *capture_schema* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2011I レプリケーション・キュー・マップ名 *queue_map_name* に関するアクション *action_name* が *time_stamp* に正常に終了しました。**Q** キャプチャー・サーバーは *capture_server* で、**Q** キャプチャー・スキーマは *capture_schema* です。**Q** アプライ・サーバーは *apply_server* で、**Q** アプライ・スキーマは *apply_schema* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2018E 入力パラメーター *input_parameter* の値がありません。

説明: 入力パラメーターの値が必須ですが、ありません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 必須パラメーターの値を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2019E 入力パラメーター *input_parameter* の値 *value* は誤りです。理由コード: *reason_code*

説明: 入力パラメーターとして指定された値は、有効な値ではありません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

このコンテキストでは、SUBTYPE 列の値は 'U' か 'B' でなければなりません。

1

SLEEP_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

2

ALL_CHANGED_ROWS 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

3

BEFORE_VALUES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

4

CHANGED_COLS_ONLY 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

5

発行の場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N' か 'E' でなければなりません。

6

Q サブスクリプションの場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N'、'T'、または 'E' でなければなりません。

7

SUPPRESS_DELETES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

8

パブリッシング・キュー・マップの場合、MESSAGE_FORMAT 列の値は 'X' でなければなりません。

9	レプリケーション・キュー・マップの場合、 MESSAGE_FORMAT 列の値は 'C' でなければ なりません。	21	Q サブスクリプションの場合、MSG_FORMAT 列の値は 'C' でなければなりません。
10	パブリッシング・キュー・マップの場合、 MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' か 'R' で なければなりません。	22	STATE パラメーターの有効な値は 'A' のみで す。
11	レプリケーション・キュー・マップの場合、 MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' でなけれ ばなりません。	23	TARGET_TYPE パラメーターは 'I' (ユーザー 表) か 'S' (ストアード・プロシージャ) でな ければなりません。
12	IBMQREP_SENDQUEUES 表では、パブリッシ ング・キュー・マップかレプリケーション・キ ュー・マップの場合、ERROR_ACTION 値は 'T' か 'S' でなければなりません。	24	SUBNAME パラメーターにセミコロン文字 (;) を含めることはできません。
13	Q サブスクリプションの場合、 ERROR_ACTION 列の値は 'T'、'S'、'Q'、または 'D' でなければなりません。	25	SENDQ または RECVQ 列の値に特殊文字かブ ランクを含めることはできません。
14	Q サブスクリプションの場合、 CONFLICT_ACTION 列の値は 'F'、'T'、'D'、'S'、または 'Q' でなければなり ません。	26	MONITOR_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
15	LOADTYPE パラメーターは、 '0'、'1'、'2'、'3'、'4'、または '5' でなければなり ません。	27	MONITOR_LIMIT 列の値は 0 より大きく 10080 以下でなければなりません。
16	SOURCENODE パラメーターはゼロより大き くなければなりません。	28	TRACE_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。
17	TARGETNODE パラメーターはゼロより大き くなければなりません。	29	PRUNE_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 3600 未満でなければなりません。
18	NUM_APPLY_AGENTS パラメーターは 0 よ り大きく 100 未満でなければなりません。	30	AUTO_STOP 列の値は 'Y' か 'N' でなければ なりません。
19	MEMORY_LIMIT パラメーターは 0 より大き く 100 未満でなければなりません。	31	LOG_REUSE 列の値は 'Y' か 'N' でなければ なりません。
20		32	LOGSTDOUT パラメーターは 'Y' か 'N' でな ければなりません。
		33	TERM パラメーターは 'Y' か 'N' でなければ なりません。
			STARTMODE 列の値は 'COLD'、'WARMSI' ま たは 'WARMNS' でなければなりません。

34

COMMIT_INTERVAL 列の値は 100 より大きく 600000 未満でなければなりません。

35

SIGNAL_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

36

DBSPACE 名の長さが 18 文字より長くなっています。

37

指定されたロック・サイズのオプションが無効です。

38

0 未満のページ数は指定できません。

39

ヘッダー・ページの数 を 1 未満または 8 より大きい値にすることはできません。

40

パーセント索引、データ・ページのパーセント・フリー・スペース、または索引ページのフリー・スペースに 0 未満または 99 より大きい値を指定できません。

41

DBSPACE 名の値が無効です。

42

表でないすべてのターゲット・オブジェクトのロード・フェーズ・パラメーターは、'N' でなければなりません。

43

表でないターゲット (ニックネームやストアード・プロシージャなど) はロードできません。したがって、ロード HAS_LOADPHASE パラメーターは 'N' でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定して、アクションを再実行してください。詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターで、Q レプリケーションの資料を参照してください。

ASN2020E 入力パラメーター *input_parameter* の値が長すぎます。値 *value* の長さが、許可された最大限度 *maximum_limit* を超えています。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力パラメーターに有効な値を指定してください。各パラメーターに有効な値については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの記述を参照してください。

ASN2021E アクションがエラー終了しました。内部エラーが発生しました。戻りコードは *return_code*。

説明: 内部エラーまたはランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メッセージ中に戻された戻りコードを報告してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2022E アクションがエラー終了しました。SQL エラーを検出しました。SQL メッセージは *sql_message*。

説明: SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

ASN2023E サーバー *server_alias* 上のデータベース・プラットフォーム *platform*、バージョン *version* はサポートされていません。

説明: 指定されたプラットフォーム、バージョン、またはリリースでは、Q レプリケーションおよびイベント・パブリッシングはサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているプラットフォーム、バージョン、およびリリースの詳細については、レプリケーションの技術サポートの Web サイトで、システム要件のページを参照してください。

ASN2050E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* 用に指定されている受信キュー *queue_name* は、Q アプライ・サーバー *server_alias* および Q アプライ・スキーマ *apply_schema* の別のレプリケーション・キュー・マップにすでに使用されています。

説明: 受信キューは、1 つの Q アプライ・スキーマの下で、1 つのレプリケーション・キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

ユーザーの処置: この Q アプライ・スキーマの他のレプリケーション・キュー・マップで使用されていない別の受信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

ASN2051E コントロール表は、指定の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の Q キャプチャー・サーバーにすでに存在していません。

説明: 1 つ以上の Q キャプチャー・コントロール表が、指定のスキーマの下で、このサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の Q キャプチャー・スキーマの下で、「キャプチャー・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

ASN2052E コントロール表は、指定の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* の Q アプライ・サーバーにすでに存在しています。

説明: 1 つ以上の Q アプライ・コントロール表が、指定のスキーマの下で、指定のサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 別の Q アプライ・スキーマの下で、「アプライ・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

ASN2053E Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。

説明: 指定された Q キャプチャー・スキーマの Q キャプチャー・サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「キャプチャー・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「発行の作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q キャプチャー・スキーマの下データベースからコントロール表を取り出せなかったため、そのアクションのスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な Q キャプチャー・サーバーおよび Q キャプチャー・スキーマのアクションを再発行してください。

ASN2054E Q アプライ・スキーマ *apply_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。

説明: 指定された Q アプライ・スキーマの Q アプライ・サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「アプライ・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「Q サブスクリプションの作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q アプライ・スキーマの下データベースからコントロール表を取り出せなかったため、そのアクションのスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な Q アプライ・サーバーおよび Q アプライ・スキーマのアクションを再発行してください。

ASN2055I レプリケーション・コントロール表 *table_name* が見つからないので、ドロップされませんでした。

説明: 「Q キャプチャー・コントロール表のドロップ」または「Q アプライ・コントロール表のドロップ」アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2056W 少なくとも 1 行がコントロール表 *table_name* に見つかりました。このコントロール表のドロップを選択すると、この表に保管されているレプリケーション定義もドロップされます。

説明: 指定されたコントロール表をドロップするスクリプトが生成されましたが、この表は空ではありません。このスクリプトを実行すると、この表にあるレプリケーション制御情報が削除されるので、既存の発行や Q サブスクリプションに影響があります。

ユーザーの処置: このコントロール表をドロップした場合の、発行や Q サブスクリプションへの影響を判断してください。その結果が許容できる場合のみ、生成されたスクリプトを実行してください。

ASN2057W 表 *tablespace_name* は、すでに指定されたサーバーに存在します。この表スペースにコントロール表が作成されます。

説明: デフォルトをオーバーライドして他の表スペースを指定しない場合、デフォルトではコントロール表は推奨されている表スペースに作成されます。この状態では、推奨されている表スペースは既存なので、コントロール表は既存の表スペース中に作成されます。

ユーザーの処置: 表を既存の表スペース中に作成しない場合は、スクリプトに変更を加えて、別の表スペースを指定してください。コントロール表を既存の表スペース中に作成する場合は、アクションは必要ありません。

ASN2058E ロック・サイズが *locksize* なので、Q キャプチャー・コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。

説明: z/OS プラットフォームでは、コントロール表によって、行のロック・サイズの表スペースを必要とするものと、ページのロック・サイズの表スペースを必要とするものがあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

ユーザーの処置: 適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q キャプチャー・コントロール表の作成」を再発行してください。

ASN2059E ロック・サイズが *locksize* のため、Q アプライ・コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。

説明: z/OS プラットフォームでは、コントロール表によって、行のロック・サイズの表スペースを必要とするものと、ページのロック・サイズの表スペースを必要とするものがあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

ユーザーの処置: 適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q アプライ・コントロール表の作成」を再発行してください。

ASN2075E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、指定された Q キャプチャー・スキーマの下の、指定されたサーバーに存在しています。

説明: 指定されたタイプの重複値は、同一の Q キャプチャー・スキーマのコントロール表では使用できません。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・スキーマでユニークな、別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2076E パブリッシング・キュー・マップ *queue_map_name* 用に指定されている送信キュー・オブジェクト *sendqueue_name* は、Q キャプチャー・サーバー *server_alias* および Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の別のパブリッシング・キュー・マップにすでに使用されています。

説明: 送信キューは、1 つの Q キャプチャー・スキーマの下で、1 つのパブリッシング・キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

ユーザーの処置: この Q キャプチャー・スキーマの他のパブリッシング・キュー・マップで使用されていない別の送信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

ASN2077E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のサーバー *capture_server* にありません。

説明: Q キャプチャー・コントロール表にカタログ定義が見つからない Q サブスクリプションで、このアクションが呼び出されました。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーから指定のオブジェクトをドロップし、必要であれば再作成します。

ASN2078E タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q アプライ・スキーマ *apply_schema* のサーバー *apply_server* にありません。

説明: Q アプライ・コントロール表にカタログ定義が見つからない Q サブスクリプションで、このアクションが呼び出されました。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・サーバーから指定のオブジェクトをドロップし、必要であれば再作成します。

ASN2081E 表 *table_name* を発行できません。理由コード: *reason_code*。

説明: この表は発行用にサポートされていません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 指定されているソース表は DB2 カタログ表です。システム・カタログ表から変更を発行できるのは、Q キャプチャー・プログラムが z/OS 上で実行されている場合のみです。
- 1 Q キャプチャー・サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は EDITPROC オプションを指定して定義されていますが、DB2 for z/OS が正しいレベルではありません。
- 2 Q キャプチャー・サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は Valid proc オプションを指定して定義されています。
- 3 ソース表に 1 つ以上の LOB 列がありますが、ユニーク性が定義されていません。
- 4 ソース表の列が発行用に選択されませんでした。
- 5 ソース表の発行される列用にキー欄を引き出せませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 DB2 カタログ表以外のソース表を指定して、アクションを再実行してください。
- 1 編集ルーチン (EDITPROC) によりデータのセキュリティを高めるために定義された DB2 for z/OS ソース表がサポートされています。これらの表をソースとして使用するためには、表が含まれる DB2 サブシステムがバージョン 8 (APAR PK13542 を適用済み) である必要があります。
- 2 Valid proc オプションを指定して定義されていない、別のソース表を指定して、アクションを再実行してください。
- 3 LOB 列以外のサブスクライブされるソース列の 1 つに、ユニークなデータベース・プロパティを作成して、アクションを再実行してください。
- 4 ソース表の 1 つ以上の列を選択して、アクションを再実行してください。
- 5 キー欄を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2082E データ・タイプ *datatype* の列 *tablename-columnname* を発行に含められません。理由コード: *reason_code*

説明: 指定された列は、発行ではサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプは発行用にサポートされていません。
- 1 この表について、発行される LOB 列の最大数を超えました。
- 2 LOB データ・タイプの列を、表のキー定義の一部にすることはできません。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、発行中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2083E Q サブスクリプション *name* は、指定された Q キャプチャーまたは Q アプライのスキーマの下にすでに存在しているので、作成できません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: サーバーにまだ存在していない別の Q サブスクリプション名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2084E タイプ *object_type* のオブジェクト *objectowner.objectname* は、指定された Q アプライ・スキーマの下に、指定されたサーバーに存在しています。

説明: 指定されたオブジェクト名および Q アプライ・インスタンスのコントロール表に、カタログ定義がすでに存在しています。同一の Q アプライ・インスタンス中にこのタイプの値が重複することはできません。

ユーザーの処置: 別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2086E ストアード・プロシージャ *storedproc_owner.storedproc_name* は、関連した Q サブスクリプションで使用できません。理由コード: *reason_code*。

説明: このストアード・プロシージャは無効です。スクリプトは生成されません。以下は、有効な理由コードの値です。

ASN2087E

- 0 ストアード・プロシージャーにパラメーターがありません。
- 1 ストアード・プロシージャーの最初のパラメーターは、「OPERATION」でなければなりません。
- 2 ストアード・プロシージャーの 2 番目のパラメーターは、「SUPPRESSION_IND」であることが必要です。
- 3 ストアード・プロシージャーの 3 番目のパラメーターは、「SRC_COMMIT_LSN」でなければなりません。
- 4 ストアード・プロシージャーの 4 番目のパラメーターは、「SRC_TRANS_TIME」でなければなりません。
- 5 OPERATION パラメーターの「INOUT」属性値が、「INOUT」と等しくありません。
- 6 「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、または
「SRC_TRANS_TIME」パラメーターの
「INOUT」属性値が、「IN」と等しくありません。
- 7 ストアード・プロシージャーには、少なくとも 5 つのパラメーターが含まれる必要があります。4 つ（「OPERATION」、
「SUPPRESSION_IND」、
「SRC_COMMIT_LSN」、
「SRC_TRANS_TIME」）は必要パラメーターで、少なくとも 1 つが追加パラメーターです。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、有効なストアード・プロシージャーを指定し、アクションを再実行してください。

ASN2087E ストアード・プロシージャーのパラメーター *owner.name.parameter* を Q サブスクリプションに含められません。理由コード：*reason_code*。

説明: このストアード・プロシージャーのパラメーターは、Q サブスクリプションではサポートされていません。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 パラメーターの 'INOUT' 属性値が、'IN' と等しくありません。
- 1 このパラメーターは、Q アプライ・プログラムに必要な特殊前提条件パラメーターで、この種のパラメーターを Q サブスクリプションの一部にすることはできません。

- 2 このパラメーターは before-value パラメーターで、この種のパラメーターは Q サブスクリプション中のソース列にマップできません。
- 3 このパラメーターは、キーの一部ですが、対応する before-value パラメーターがストアード・プロシージャー定義中のこのパラメーターの前にありません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べてください。ストアード・プロシージャーのパラメーター定義に変更を加えるか、またはサポートされているパラメーターをストアード・プロシージャーに指定して、アクションを再実行してください。

ASN2088E 列またはストアード・プロシージャーのパラメーター *targetowner.targetname.name* を Q サブスクリプションに追加できません。理由コード：*reason_code*。

説明: 列またはストアード・プロシージャーのパラメーターは、サポートされていないか、または無効です。スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲットはストアード・プロシージャーで、このパラメーターは、Q サブスクリプションに追加する前に、プロシージャー定義中に存在している必要があります。
- 1 この列はすでに Q サブスクリプションに関係しています。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 ストアード・プロシージャーの定義に変更を加えて、ストアード・プロシージャー中にこのパラメーターを組み込み、アクションを再実行してください。

- 1 列名を確認して、Q サブスクリプションにまだ関係していない別の列名を指定してください。

ASN2100E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parameter* のストリング *string* の長さ *length* が、最大限度 *max_limit* より長くくなっています。

説明: このタイプのデータベース・オブジェクトには、パラメーターに指定されたストリングより短いストリングが必要です。

ユーザーの処置: 該当するデータベースの SQL リファ

レンスを参照して、有効なストリングの長さを調べ、正しい名前の長さを指定してください。

ASN2101E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、サーバー *server_alias* にすでにあります。

説明: このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。

ユーザーの処置: データベースにまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、タスクを再発行してください。

ASN2102E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、サーバー *server_alias* にありません。

説明: このデータベース・オブジェクトはデータベース・カタログに存在しません。このオブジェクトに関する検索情報がないので、発行または Q サブスクリプションに関係することができません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース・オブジェクトの名前を正しく指定していることを確認し、タスクを再実行してください。

ASN2104E サーバー *server* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のすべての列の行サイズ *row_size* が、許可された最大限度 *max_limit* を超えています。

説明: 指定されたオブジェクト中のすべての列の行サイズを結合した値は、限度を超えることはできません。このオブジェクトを作成したり変更したりすることはできません。

ユーザーの処置: ページ・サイズを大きくしてこのオブジェクトの表スペースを割り当てるか、またはこのオブジェクトの列の指定値を少なくするか短くしてください。データベース・オブジェクトの行サイズの限度に関する詳細は、データベースごとに固有の「SQL リファレンス」を参照してください。

ASN2105E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中の列数 *num_columns* が、データベースの限度 *max_limit* を超えています。

説明: データベース・オブジェクト (表または索引) に含まれる列数はデータベースのプラットフォームに依存しますが、事前定義の最大数を超えることはできません。

ん。オブジェクトの作成または変更を行うスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 適切な列数のデータベース・オブジェクトを再定義してください。該当するデータベースの SQL リファレンスを参照して、有効なデータベース・オブジェクトの列数を調べてください。

ASN2106E サーバー *server_alias* にある表スペース *tablespace_name* のページ・サイズ *page_size1* が、表スペースのバッファークール *buffer_pool* のページ・サイズ *page_size2* と一致していません。理由コード: *reason_code*。

説明: 表スペースのページ・サイズは、この表スペースに割り当てられているバッファークールのページ・サイズと一致していなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 指定されたバッファークールはこの表スペースに割り当てられていますが、このバッファークールから取得されるページ・サイズは、指定されたこの表のページ・サイズと等しくありません。
- 1 この表スペースのバッファークール情報は指定されていないので、デフォルトのバッファークールがこの表スペース用に選択されています。しかし、デフォルトのバッファークールのページ・サイズは、表スペースのページ・サイズと一致していません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、次のアクションを行ってください。

- 表スペース中にバッファークール情報が指定されている場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファークールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。
- 表スペース用にデフォルトのバッファークールを使用した場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファークールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。

ASN2118E タイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、タイプ *object_type2* の従属オブジェクトが依然としてサーバー *server_alias* にあるので、削除できません。

説明: このデータベース・オブジェクトは、指定されたサーバーにこのオブジェクトの存在に従属する 1 つ以上のオブジェクトがあるので、削除できません。

ユーザーの処置: 指定されたオブジェクト名を確認し

て、タスクを再発行してください。

ASN2119E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*が、欠落しています。

説明: 指定されたオブジェクトのパラメーター値が必要です。

ユーザーの処置: 入力を確認して、必須パラメーターに有効な値を指定してください。

ASN2120E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*が、サポートされていません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。詳しくは、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2121E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*を、更新操作に使用できません。

説明: このパラメーターの値を更新できません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。

ASN2122E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name* の値 *value* に、無効文字 *char* が含まれています。

説明: パラメーターの値には、特定の文字のみ含めることができます。

ユーザーの処置: 指定された値から無効文字を除去してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、指定されたパラメーターにとって有効な文字を調べてください。

ASN2123E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm1* の値 *value1* が、パラメーター *parm2* の値 *value2* と競合しています。

説明: 指定されたパラメーターの、指定された値は、サーバーで共存できません。

ユーザーの処置: 入力に変更を加えて、有効な値の組み合わせになるようにしてください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、有効な値の組み合わせを調べてください。

ASN2124E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が、許可される最大値 *max_value* を超えています。

説明: 指定された値が大きすぎます。指定された最大値以下の値のみサポートされています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定する数値を小さくしてください。値の有効な範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2125E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が、許可される最小値 *min_value* 未満です。

説明: 指定された値が小さすぎます。指定された最小値以上の値のみサポートされています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定する数値を大きくしてください。値の有効な範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2126E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name1* に、タイプ *object_type2* および名前 *object_name2* の重複オブジェクトが含まれています。

説明: 重複オブジェクトは許可されません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、個々のオブジェクトが 1 つのみ指定されていることを確認してください。

ASN2127E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name* に、タイプ *object_type2* のオブジェクトが *num_objects* 個含まれていますが、許可される最大数は *max_limit* です。

説明: 指定されたパラメーターに、指定されているオブジェクトが多すぎます。

ユーザーの処置: 入力を確認し、これらのデータベース・オブジェクトの数を減らして最大値にしてください。

ASN2128E タイプ *datatype* の列 *col_name* は、サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中では使用できません。
理由コード: *reason_code*。

説明: 指定されたデータベース・オブジェクトで、この列はサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプが無効です。
- 1 この列は、データベース・オブジェクトで使用できません。
- 2 列の長さが長すぎます。
- 3 参照側の列のデータ・タイプが、外部キー制約のある参照元の列のデータ・タイプに一致しません。

ユーザーの処置: 説明中にリストされている理由コードを調べてください。別の列を選択するか、またはこの列のために別のデータベース・オブジェクトを選択してください。

ASN2129E タイプ *prop_type* のプロパティ *prop_name* と、サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のプロパティとの間に競合が存在します。

説明: 競合しているプロパティが見つかり、これらのプロパティは共存できないので、オブジェクトの作成または更新は行われませんでした。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 オブジェクトを作成しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティと競合するプロパティを指定しました。
- 1 オブジェクトを更新しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティと競合するプロパティを指定しました。
- 2 オブジェクトを更新しようとして、オブジェクト中の既存のプロパティと競合するプロパティを指定しました。

ユーザーの処置: 両方のプロパティとも新規に指定している場合は、一方のプロパティのみ指定し、タスクを発行してください。一方のプロパティがオブジェク

ト中に既存の場合は、そのオブジェクト中に新しいプロパティを指定しないでください。

ASN2130E サーバー *server_alias* の表 *table_name* に列 *column_name* がないので、タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* の作成または更新を行えません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、表の中にある別の列名を指定してください。

ASN2131E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* は、読み取り専用なので Q レプリケーションで使用できません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 別のターゲット列を選択してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、更新できない列を判別してください。

ASN2132E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* は、レプリケーションのソース列にマップされていません。この列は NULL 可能でなくデフォルト値がないので、Q サブスクリプションを作成または更新できません。

説明: Q サブスクリプションに関係していないターゲット表中の列は、NULL 可能か、またはデフォルトで NOT NULL でなければなりません。ターゲット表の中の Q サブスクリプションの対象として選択しなかった少なくとも 1 つの列が、基準を満たしていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表の中の指定した列をソース表の中の列にマップすることで、指定した列が Q サブスクリプションに関係するようにします。
- ターゲット列の NULL 可能プロパティを使用可能に設定します。
- この列のデフォルト値を指定します。

ASN2135E ターゲット列 *target_colname* のデータ・タイプ *target_datatype* は、ソース列 *source_colname* のデータ・タイプ *source_datatype* と互換性がありません。

説明: ソース列のデータ・タイプに互換性がないので、この列の値をターゲット列に適用できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲットが存在していてユーザー表である場合、互換性のあるデータ・タイプの別の列に列マッピングを変更してください。
- ターゲットが存在していてニックネームである場合、ニックネーム列のデータ・タイプをソース列のデータ・タイプに一致するように変更します。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『フェデレーテッド Q レプリケーションに必要なニックネーム・データ・タイプ』を参照してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット列のデータ・タイプを変更してソース列と互換性があるようにしてください。

ASN2136W ターゲット列 *target_column* の属性とソース列 *source_column* の属性が一致しません。理由コード: *reason_code*

説明: ソース列とターゲット列の同じ属性の値の間に違いが検出されました。Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトが生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ソース列は NULL 可能ですが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。
- 1 ソース列は NULL 可能ではありませんが、ターゲット列は NULL 可能です。
- 2 ソース列とターゲット列のコード化スキームが違います。
- 3 ソース列にはデフォルト値がありますが、ターゲット列にはデフォルト値がありません。
- 4 ソース列にはデフォルト値がありませんが、ターゲット列にはデフォルト値があります。

ユーザーの処置: この違いのために問題が起きる可能性がある場合は、列マッピングか列プロパティに変更を加えてください。この違いを許容できる場合は、アクションは不要です。

ASN2137W ソース列 *source_column* とターゲット列 *target_column* の間の互換性は、ソース列の特定の値のみ存在します。理由コード: *reason_code*。

説明: ソース列の値をターゲット列に適用できない場合があります。Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは依然として生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ソース列には NULL 値を含められますが、タ

ーゲット列では NULL 値は許可されません。ソース列中の NULL 値はターゲット列に適用できません。

- 1 ソース列のデータ・タイプは CHAR か VARCHAR ですが、ターゲット列のデータ・タイプは DATE、TIME、または TIMESTAMP です。ソース列中の、時刻、日付、またはタイム・スタンプの表記が有効でないストリング値は、ターゲット列に適用できません。
- 2 ターゲット列がサポートしている値の範囲外の数値が、ソース列に含まれています。
- 3 ソース列の VARCHAR データ・タイプの長さが、ターゲット列の CHAR または VARCHAR データ・タイプの長さより長くなっています。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ターゲット列で許可されている値のみソース列に含まれている場合は、アクションは不要です。

ASN2138W データ・タイプ *source_datatype* ソース列 *source_column* の値を、データ・タイプ *target_datatype* のターゲット列 *target_column* に複製する際に、小数桁が失われる可能性があります。

説明: ターゲット列で許可されている精度がソース列の精度より低いことがターゲット列のデータ・タイプ定義に示されているので、ソース列とターゲット列の間でデータが失われる可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ソース列に値が全く存在しない場合や、ターゲット列で切り捨てが受け入れられる場合は、アクションは不要です。

ASN2139E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parm* の値 *value* は、次の値の 1 つと等しくないので無効です。 *valid_values*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定された値のリストから値を指定してください。

ASN2140E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* 中のパラメーター *parm1* の値 *value* は、*factor* の倍数ではありません。

説明: データベース・オブジェクト中の指定されたパラメーターの値は、指定された因子の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定された因子の倍数である値を指定してください。

ASN2141E サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が無効です。

説明: データベース・プラットフォーム上の、指定されたパラメーターの値は無効です。

ユーザーの処置: 入力を確認して、別の値を指定してください。このパラメーターの有効な値については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2142E サーバー *server_alias* 上の LOB 表スペース *tablespace_name* の属性 *parm* が無効です。

説明: 次の属性は、LOB 表スペースにとって無効です。

PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIIZE。

ユーザーの処置: LOB 表スペースにとって無効な属性 (PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIIZE) を除去して、アクションを再実行してください。

ASN2144E 外部キー *foreign_key* の定義が無効なので、サーバー *server_alias* の表 *table_name* の作成または更新は行われませんでした。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 参照側の列の数が参照元の列より少なくなっています。

1 参照側の列の数が参照元の列の数より多くなっています。

ユーザーの処置: 入力を確認して、参照元の列の数が参照側の列の数と一致することを確認してください。

ASN2145E サーバー *server_alias* にある表 *table_name* の列名 *column_name* が、同一セッション中で複数指定されました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 入力を確認して、重複名を除去してください。

ASN2146E 必要な情報が欠落しているため、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 ソース表の情報が欠落しています。

1 ターゲット表の情報が欠落しています。

2 ソース列が選択されませんでした。

3 ターゲット列が選択されませんでした。

ユーザーの処置: 入力を確認して、指定されたパラメーターの値を入力してください。

ASN2147E サーバー *server_alias* の表 *targetowner-targetname* に列 *column_name* がないので、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 この列は、ソース表に存在しません。

1 既存のターゲット表が指定されましたが、指定された列はターゲット表に存在しません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ソース表かターゲット表にある列を選択してください。

ASN2148E サーバー *server_alias* にある表 *table_name* 中の列 *column_name* はレプリケーション・キー欄にできないので、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

キー欄用に選択した列は、選択されているソース列のリストの一部ではありません。

1

キー欄用に選択した列は、選択されているターゲット列のリストの一部ではありません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ソース列かターゲット列として選択されているキー欄を選択してください。

ASN2149E タイプ *target_type* のターゲット *table_name* は読み取り専用です。

説明: 指定されたデータベース・オブジェクトは更新できないので、ターゲットにすることはできません。

ユーザーの処置: 別のデータベース・オブジェクトをレプリケーションのターゲットとして選択してください。更新できるデータベース・オブジェクトに関する情報は、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

ASN2150E レプリケーション・ターゲット・キーが欠落しているため、Q サブスクリプションを作成できません。理由コード: *reason_code*。

説明: スクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 ターゲット・キーのユーザー入力が欠落しています。

1 ターゲット表がなく、選択されたソース列に固有なデータベース・プロパティがソース表に含まれていません。

2 ソース表とターゲット表が両方ありますが、選択されたソース列とターゲット列に固有なデータベース・プロパティが含まれていません。

ユーザーの処置: 入力を確認して、ターゲット・キーの

一部として適切な列が選択されていることを確認してください。

ASN2151E ソース列 *source_column* に、マップされたターゲット列がありません。

説明: 指定されたソース列に、マップされたターゲット列がないので、Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

ユーザーの処置: ソース列を確認して、有効なターゲット列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

ASN2152E ターゲット列 *target_column* に、マップされたソース列がありません。

説明: 指定されたターゲット列に、マップされたソース列がないので、Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

ユーザーの処置: ターゲット列を確認して、有効なソース列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

ASN2153E 指定されたオプション *option* は、サーバー *server* 上のプラットフォーム *platform* ではサポートされていません。

説明: サーバー・プラットフォームでは ASNCLP オプションはサポートされていません。

ユーザーの処置: 構文を確認して、正しいオプションを指定してください。

ASN2154E 指定された環境値は、この特定のコンテキストに関係がありません。トークン *token* は無視されます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 構文を確認して、正しい値を指定してください。

ASN2155E 発行またはレプリケーションのキュー・マップ *queue_map_name* は、1 つ以上の発行または Q サブスクリプションで使用されているため、削除できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 バブリッキング・キュー・マップを削除しようとしたが、このキュー・マップに従属する発行が 1 つ以上あります。

1 レプリケーション・キュー・マップを削除しよ

うとしましたが、このキュー・マップに従属する Q サブスクリプションが 1 つ以上あります。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 パブリッシング・キュー・マップを使用している発行を削除する場合は、最初に発行を削除してからパブリッシング・キュー・マップを削除してください。
- 1 レプリケーション・キュー・マップを使用している Q サブスクリプションを削除する場合は、最初に Q サブスクリプションを削除してからレプリケーション・キュー・マップを削除してください。

ASN2156W ソース表、ターゲット表、またはその両方で、レプリケーション・キー値をユニークにすることは強制されていません。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲット表ではレプリケーション・キー値がユニークに強制されていますが、ソース表では強制されていません。
- 1 ソース表ではレプリケーション・キー値がユニークに強制されていますが、ターゲット表では強制されていません。
- 2 ソース表とターゲット表の両方で、レプリケーション・キー値がユニークに強制されていません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 ソース表のアプリケーションが、レプリケーション・ターゲット・キー列にマップされたソース列のユニーク値のみ生成することを確認してください。
- 1 ターゲット表のアプリケーションが、レプリケーション・ターゲット・キー列として選択されたターゲット列のユニーク値のみ生成することを確認してください。
- 2 理由コード 0 と 1 に記述されているアクションを行ってください。

ASN2157I アクションは不要なので、スクリプトは生成されませんでした。

説明: データベースのオブジェクトはすでに必要な状態になっているので、アクションは不要です。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2158E 指定された照会 *query* で、タイプ *object_type* のオブジェクトが見つかりませんでした。コマンドは、無視されます。

説明: コマンド行インターフェースで、アクション (発行の作成や Q サブスクリプションの作成など) に関係している複数のオブジェクトを検索する照会を指定しました。この照会はオブジェクトを戻しませんでした。作成、更新、または削除アクションに関するスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: 照会を再定義し、指定されたタイプのオブジェクトを 1 つ以上戻せるようにして、コマンドを再発行してください。

ASN2159E オプション *option* の指定値 *value* は、*token* と併用できません。

説明: ASNCLP プログラムには、特定のシナリオでサポートされていないパラメーターがあります。例えば、サブスクリプションが新しいターゲット表を作成することを指定する場合、TYPE 値を STOREDPROC にすることはできません。ストアード・プロシージャの作成がサポートされていないためです。

スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: キーワードに有効な組み合わせのリストは、ASNCLP に関する資料を参照してください。

ASN2160E 論理データベースが指定されていなかったため、タイプ *type* のオブジェクト *object* をサーバー *server* に作成できません。

説明: 指定されたオブジェクト・タイプを z/OS プラットフォーム上に作成するためには、論理データベースを指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 論理データベースの値を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2161E 列 *column_name* が無効なので、サーバー *server* の表 *table_name* の作成または更新を行えませんでした。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。
- 1 ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、列

のコード化スキーム "FOR MIXED DATA" はサポートされていません。

- 2 指定されたサーバーでは、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。

ユーザーの処置: この表の UNICODE 表スペースを指定し、アクションを再実行してください。

ASN2162W サーバー *server* のターゲット表 *table_name* 中のユニーク制約または索引名 *name* の列が、サーバー *server* のソース表 *table_name* ではユニークに強制されていません。

説明: 1 つ以上の複製される列が、ターゲット表ではユニークに強制されていてもソース表ではユニークに強制されていない場合、このユニーク性に違反するソース列値の組み合わせをターゲットに複製できません。ソース表中のデータはターゲット表に適用できません。

ユーザーの処置: ソース表の列値の組み合わせが、ターゲット表のユニークなデータベース制約または索引すべてのユニーク性に違反することがない場合、アクションは必要ありません。違反することがある場合、生成されたスクリプトを実行しないでください。代わりに、ターゲット表のユニーク制約または索引をドロップすることを再考して、アクションを再実行してください。

ASN2163E Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは生成されませんでした。ソース表は *table_name*。ターゲット表は *table_name*。理由コード: *reason_code*

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 ターゲット表がなく、ソース表には新しいターゲット表で使用できるユニーク・キーがありません。
- 1 理由は、ターゲット・タイプによって以下のように異なります。

ターゲット表

ターゲット表はありますが、ターゲット表にもソース表にもユニーク索引または主キーがありません。

ストアード・プロシージャ・ターゲット

ストアード・プロシージャにある、キー列のパラメーター数が正しくありません。ソースのキー列それぞれに、2 つのストアード・プロシージャ・パラメーターが必要です。1 つはキーの以前の値に、もう 1 つはキーの変更後の値に必要です。以前の値のパラ

メーターは、変更後の値のパラメーターの前に置かれる必要があります。以前の値のパラメーターは、必ず X で始まる必要があります。

- 2 ターゲット表のための自動索引付けを派生できませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べてください。ソース表の定義、またはターゲット表かストアード・プロシージャの定義の一方、あるいはその両方の定義を変更します。アクションを再発行してください。

ASN2164E データ・タイプ *datatype* の列 *tablename.columnname* を Q サブスクリプションに含められません。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 この列のデータ・タイプは Q サブスクリプション用にサポートされていません。
- 1 この表について、サブスクライブされる LOB 列の最大数を超えました。
- 2 ターゲットはフェデレーテッド・サーバーであり、フェデレーテッド・データ・ソースの場合の LOB データ・タイプへの書き込みアクセス権限が許可されていません。

ユーザーの処置: 理由コードを調べ、Q サブスクリプション中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2165E キュー・マップ *queue_map_name* が関連付けられた *sourcetarget* データベースまたはサブシステム *name* がレプリケーション・センターのオブジェクト・ツリーに追加されていないため、このキュー・マップのプロパティを更新できません。

説明: バブリッキング・キュー・マップまたはレプリケーション・キュー・マップのプロパティを変更するには、キュー・マップに対して指定されたソース・サーバーとターゲット・サーバーを両方ともレプリケーション・センターに追加する必要があります。

ユーザーの処置: 「Q キャプチャー・サーバーの追加」または「Q アプリ・サーバーの追加」ウィザードを使用して、欠落しているサーバーをオブジェクト・ツリーの「Q キャプチャー・サーバー」または「Q アプリ・サーバー」フォルダーに追加してください。

ASN2200E サーバー *server* の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* または Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* を多方向レプリケーションに使用できませんでした。

説明: 多方向レプリケーションに関係するサーバーごとに、Q アプライ と Q キャプチャーのコントロール表のスキーマは同じでなければなりません。

ユーザーの処置: Q アプライ・コントロール表と Q キャプチャー・コントロール表のスキーマ名が同じで、多方向レプリケーションに使用している同一サーバー上にあることを確認してください。

ASN2201E Q キャプチャー・スキーマ *schema_name* の IBMQREP_SUBS 表で、SOURCE_NODE 列の値が相互に等しくありません。

説明: 指定されたスキーマの Q キャプチャー表に 1 つ以上の Q サブスクリプションがあり、SOURCE_NODE フィールドに別個の値が含まれていません。多方向レプリケーションで、SOURCE_NODE 列中の行には同じ値が含まれていなければなりません。

ASNCLP によって生成されるレポート・ログには、失敗した Q サブスクリプションに関する詳細情報が含まれています。

ユーザーの処置: IBMQREP_SUBS 表中の Q サブスクリプションの SOURCE_NODE 値がすべて同じであることを確認してください。

ASN2202E 1 つ以上の報告されたエラーが訂正されなかったため、1 つ以上の Q サブスクリプション (SUBTYPE *subtype*) を作成できません。

説明: Q サブスクリプションが無効なため、多方向レプリケーション用に作成できません。Q サブスクリプションごとに表示されるエラー・メッセージを参照してください。

ユーザーの処置: 無効な Q サブスクリプションを修正し、作成を再試行してください。

ASN2203E 多方向レプリケーション用のサーバー *server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の Q サブスクリプション名 *name* がユニークではありません。

説明: 多方向レプリケーション構成の設定時には、複数の Q サブスクリプションに同じ名前を指定しないでください。Q キャプチャー・プログラムのインスタンスごとに、Q サブスクリプション名はすべてユニークで

なければなりません。Q サブスクリプションの名前はソースとターゲットの両方のサーバーに保管されるので、ソースとターゲットの両方のサーバーでこの名前がコード・ページと互換性があることを確認してください。

ユーザーの処置: 個々の Q サブスクリプション名がユニークであることを確認してください。

ASN2204E 表 *table_name* はサーバー *server* 上にありますが、Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* がこのサーバー上で見つかりませんでした。

説明: 指定されたスキーマを含む Q キャプチャーと Q アプライのコントロール表が、複製しようとしている表と同じサーバー上にありませんでした。多方向レプリケーションでは、Q キャプチャーと Q アプライのコントロール表は、複製しようとしている表と同じサーバー上になければならず、同じスキーマ名を使用していなければなりません。

ユーザーの処置: この表と、この表が多方向レプリケーションで使用する Q アプライと Q キャプチャーのコントロール表が、同じサーバー上にあることを確認してください。

ASN2205W Q アプライ・サーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* の Q サブスクリプション *name* は無効で、一括操作の一部として作成されませんでした。

説明: 単一方向レプリケーション用に複数の Q サブスクリプションを同時に作成する際に、1 つ以上の Q サブスクリプションが無効な場合、それらの Q サブスクリプションは作成されません。しかし、それ以外の Q サブスクリプションは有効であれば作成されます。

ユーザーの処置: 無効な Q サブスクリプションを訂正してから作成してください。

ASN2206E サーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマ *source_schema* からサーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマ *target_schema* への、指定された接続情報が、それ自体を指していません。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q アプライ・サーバー (ソース) の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマを、Q キャプチャー・サーバー (ターゲット) としても使用することはできません。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーの Q アプライ

と Q キャプチャーの表のスキーマ名とサーバーが、Q キャプチャー・サーバーの Q アプライと Q キャプチャーの表のスキーマ名とサーバーと違うことを確認してください。

ASN2207E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* は、Q キャプチャー・サーバー *server* 上のソース Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *source_schema* から Q アプライ・サーバー *server* 上のターゲット Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *target_schema* への接続の設定が無効です。

説明: このレプリケーション・キュー・マップは、多方向レプリケーションに使用する、指定されたスキーマと一致していません。

ユーザーの処置: レプリケーション・キュー・マップが、指定された Q キャプチャー・コントロール表から、指定された Q アプライ・コントロール表にマップすることを確認してください。

ASN2208E **SUBGROUP** *subgroup* の接続情報が指定されませんでした。

説明: Q サブスクリプション・グループが CREATE、ALTER、または DELETE 操作を続行するには、その前に必要な情報がすべて定義されていなければなりません。

ユーザーの処置: ソースとターゲットの表の間のレプリケーション・キュー・マップがすべて指定されていることを確認してください。

ASN2209E **SUBGROUP** *subgroup* の接続情報が既存で、上書きできません。

説明: Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義し終えると、その情報を変更できません。

ユーザーの処置: 複数回 Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義しないでください。

ASN2210E **SUBGROUP** 名 *subgroup* の Q サブスクリプションが、Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* を使用している Q キャプチャー・サーバー *server* 上にありません。

説明: Q サブスクリプション・グループ情報が見つかりません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・スキーマ上に

SUBGROUP 名の Q サブスクリプションが少なくとも 1 つあることを確認してください。

ASN2211E **SUBGROUP** *subgroup* の、参照表 *table_name* の Q サブスクリプションが、Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* を使用しているサーバー *server* 上にありません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・スキーマ上に、指定された参照表をソースとして使用する SUBTYPE 'P' (ピアツーピア) または 'B' (双方向) の Q サブスクリプションがあることを確認してください。

ASN2212E 内部の不整合が検出されました。理由コード: *reason_code*

説明: Q サブスクリプション・グループを使用する前に、このグループがデータベース上の永続情報と同期していなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 Q サブスクリプション・グループは既存ですが、同期されなかったか、または同期状態ではありません。

1 ノード間の接続情報が欠落していました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2213E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の指定でソースとターゲットの情報が重複しています。Q アプライ・サーバー *apply_server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* および Q キャプチャー・サーバー *capture_server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema*。

説明: ソースとターゲットの情報が重複しているレプリケーション・キュー・マップが指定されました。レプリケーション・キュー・マップは、関係する接続の間でユニークでなければなりません。例えば、最初の接続は任意です。2 番目の接続は、一方の終端を最初の接続の一方の終端と共有しなければなりません。3 番目の接続は、一方の終端を前述の 2 つの接続に関係する 3 つのポイントのいずれかと共有しなければなりません。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップが、Q アプライ・サーバーと Q キャプチャー・サーバーでユニークであることを確認してください。

ASN2214E Q アプライ・サーバー *apply_server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* と Q キャプチャー・サーバー *capture_server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の間のレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* が、接続情報中で以前に指定されたどのレプリケーション・キュー・マップとも接続していません。

説明: レプリケーション・キュー・マップは相互に接続していなければなりません。個々のレプリケーション・キュー・マップは、Q キャプチャーまたは Q アプライ・スキーマを、以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと共有しなければなりません。

ユーザーの処置: 以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと Q キャプチャー・または Q アプライ・スキーマを共有しているレプリケーション・キュー・マップを指定してください。

ASN2215E ピアツーピア Q サブスクリプションで許可された Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの最大数を超えました。許可されたペアの最大数は *max_limit* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: この構成中で使用されている、ピアツーピア・レプリケーション用の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数を減らしてください。

ASN2216E SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションは、同じ SUBTYPE の他の Q サブスクリプションを含む Q サブスクリプション・グループにのみ割り当てることができます。

説明: SUBTYPE 'P' (ピアツーピア) の Q サブスクリプションを双方向のレプリケーション構成に追加できず、SUBTYPE 'B' (双方向) の Q サブスクリプションをピアツーピアのレプリケーション構成に追加できません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを SUBGROUP に追加する際には、その Q サブスクリプションの SUBTYPE が SUBGROUP 中の他のサブスクリプションと同じであることを確認してください。

ASN2217E 個々の Q サブスクリプションの元となる Q アプライと Q キャプチャー・スキーマのペアが、指定されませんでした。2 つの Q サブスクリプションの属性を、双方向レプリケーション用に更新することはできません。

説明: 双方向レプリケーションの設定時に、2 つの Q サブスクリプションに別個の属性を指定できます。そのためには、個々の Q サブスクリプションの元となる Q アプライと Q キャプチャー・スキーマを指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 双方向レプリケーションの設定時に属性を Q サブスクリプションに割り当てするには、Q サブスクリプションの元となる Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアを指定してください。

ASN2218E 内部の不整合が検出されました。理由コード: *reason_code*。

説明: Q サブスクリプションが、UPDATE または DELETE 操作を実行するデータベース上の永続情報と同期していません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0 SUBGROUP は既存ですが、同期されなかったか、または同期状態にありません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN2219E Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマのペア *schema* が、SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP *subgroup* で許可された数を超えています。

説明: Q サブスクリプション・グループの構成では、Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が制限されます。双方向レプリケーションでは、SUBGROUP 当たり 2 つのみ Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアが許可されます。

ユーザーの処置: Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が、この SUBTYPE で許可された最大値以下であることを確認してください。

ASN2220E Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマのペア *schema* が、SUBTYPE *subtype* の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP *subgroup* にとっては足りません。必要なペアの最小数は *number* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が、このタイプの Q サブスクリプションで許可された最小値と等しいことを確認してください。

ASN2221E 接続情報が、SUBTYPE *subtype* のこの SUBGROUP *subgroup* にとっては無効です。

説明: 双方向およびピアツーピアのレプリケーションでは、すべてのサーバーが相互に接続されていることが必要です。

ユーザーの処置: この SUBGROUP と SUBTYPE に対して指定した接続情報を妥当性検査し、すべてのサーバーの相互接続を妨げている問題を修正してください。その後、Q サブスクリプションを再作成してください。

ASN2222E サーバー *server* 上の表 *table_name* 上の属性タイプ *object_type* の数 *number* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクト・タイプ *object_type* の数 *number* と一致しません。

説明: 列、ユニーク索引、主キー、外部キー、ユニーク・キー、およびチェック制約は、多方向レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

ユーザーの処置: ソース表またはターゲット表の指定された属性の定義を変更を加えて属性の数を一致させるか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

ASN2224E サーバー *server* 上の表 *table_name* のタイプ *object_type* のオブジェクト *object* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクトと一致していません。

説明: 属性は、多方向レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

ユーザーの処置: ソース表またはターゲット表の指定された属性の定義を変更を加えて他の表の属性と一致させ

るか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

ASN2225E ASNCLP: SUBGROUP の作成、更新、または削除を行うスクリプト中に複数の SET SUBGROUP ステートメントが見つかりました。

説明: スクリプト当たり 1 つの SUBGROUP のみ指定できます。ASNCLP プログラムは、1 つのセッション中で複数のサブグループを処理できません。SUBGROUP の作成、更新、または削除は行われませんでした。

ユーザーの処置: スクリプト当たり 1 つの SET SUBGROUP のみ指定していることを確認し、スクリプトを再実行してください。

ASN2226E ASNCLP: Q サブスクリプションの SUBTYPE *subtype* は、Q サブスクリプション・グループ中の他の Q サブスクリプションの SUBTYPE と一致していません。

説明: サブスクリプション作成コマンド中で指定された情報が、この多方向レプリケーション構成に属する他のサブスクリプション作成コマンドと矛盾しています。Q サブスクリプション・グループの Q サブスクリプション・タイプが複数検出されました。SUBGROUP は 1 つのみ指定でき、SUBGROUP 中の Q サブスクリプションの SUBTYPE は 1 つでなければなりません。Q サブスクリプションは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 特定の SUBGROUP の下で SUBTYPE 'P' または 'B' を指定していることを確認してください。1 つの Q サブスクリプション・グループ中で Q サブスクリプションのタイプを混用しないでください。サブスクリプション作成コマンドを再実行してください。

ASN2227E ASNCLP: スキーマ設定ステートメントの数と比較して、接続設定ステートメントの数が足りません。

説明: 多方向レプリケーション構成では、*n* ノードの場合は必ず $n*(n-1)$ の接続が必要です。例えば、3 つのノードがある場合は、 $3*(3-1) = 6$ の接続が必要です。

ユーザーの処置: 接続設定ステートメントとスキーマ設定ステートメントが規則に準拠していることを確認してください。

ASN2228E ASNCLP: SUBGROUP *subgroup* の Q サブスクリプションは、指定されたサーバー上にすでに存在しています。

説明: 追加の Q サブスクリプションを作成しようとして、SUBGROUP に対する参照情報を指定する代わりに、SUBGROUP 情報を指定しました。

ユーザーの処置: 再度 SUBGROUP を定義せずに、SUBGROUP に対する参照を指定してください。

ASN2229I アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバー名は *remote_servername* です。

説明: アクションが Q アプライ・サーバーで正常に開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2230I Q サブスクリプションを作成するアクションが、*time_stamp* に開始されました。Q サブスクリプション名: *name*。Q キャプチャー・サーバー: *capture_server*。Q キャプチャー・スキーマ: *capture_schema*。Q アプライ・サーバー: *apply_server*。リモート・サーバー名: *remote_servername*。Q アプライ・スキーマ: *apply_schema*。ソース表は *table_name*。ターゲット表またはストアド・プロシージャは *table_name*。

説明: Q サブスクリプションの作成が開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2231E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、リモート・サーバー *remote_server* で定義されたデータ・ソース *datasource* にありません。

説明: このデータベース・オブジェクトは、指定したデータ・ソースでのデータベース・カタログに存在しません。このオブジェクトの情報を取得できないため、このオブジェクトは Q サブスクリプションに関係することはできません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース・オブジェクトの名前を正しく指定していることを確認し、タスクを再実行してください。

ASN2232E タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、リモート・サーバー *remote_server* を使用して定義されているデータ・ソース *datasource* にすでにあります。

説明: 指定されたデータ・ソースに同じ名前の別のオブジェクトがすでに存在するため、このデータベース・オブジェクトを作成できません。

ユーザーの処置: データベースにまだ存在しない名前をそのオブジェクトに指定して、タスクを再実行してください。

ASN2233E リモート・サーバー *remote_servername* を使用して定義されたデータ・ソース *datasource_name* は、Q レプリケーションのターゲットとしてサポートされていません。

説明: データ・ソース・プラットフォームのサブセットのみが、Q レプリケーションにおけるターゲットとしてサポートされます。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターの『サポートされているソースおよびターゲット』を参照してください。サポートされるターゲットが定義されているリモート・サーバー名を指定し、タスクを再実行してください。

ASN2234W ソース列 *source_colname* の長さ *length1* が、ターゲット列 *target_colname* の長さ *length2* より長くなっています。ターゲットに適用されるソース・データが切り捨てられる可能性があります。

説明: ソース列の実際の値をターゲット列に完全には保管できない場合は、ターゲットに適用されるデータは切り捨てられる可能性があります。ソースの実際の値の長さがターゲット列定義の長さを超えなければ、データは変更されません。

ユーザーの処置: 切り捨てを受け入れることができる場合、またはソース列の値が短いので必ずターゲット列に適用される場合は、アクションは不要です。切り捨てを受け入れることができない場合は、この列を Q サブスクリプションの一部として選択しないようにしてください。

ASN2235E ターゲット・ニックネームの名前 *owner.name* は、タイプ *object_name* の別のデータベース・オブジェクトと競合しています。

説明: フェデレーテッド・ターゲットの場合は、レプリ

ケーション管理ツールが作成する新規ターゲット・ニックネームの名前が、そのシステム上に存在する表、ビュー、またはその他のニックネームの名前と同じになることはありません。指定した名前はすでに存在します。

ユーザーの処置: そのシステム上にすでに存在する表、ビュー、またはその他のニックネームの名前と同じではない名前をニックネームに指定してください。

ASN2236W ターゲット・ニックネーム
schema.nickname のターゲット表
schema.tablename に、外部キーが定義されています。このニックネームには外部キーが定義されていませんが、定義する必要があります。

説明: ソース表に対して定義されている参照制約が、自動的にニックネームに引き継がれることはありません。制約をニックネームに引き継ぐための ALTER ステートメントを発行することで、情報を DB2 カタログ表に置く必要があります。

親表と子表の両方が Q サブスクリプションに関係する場合は、Q アプライ・プログラムが変更を正しいシーケンスで親ターゲット表と子ターゲット表に適用するためには、参照整合性制約に関する情報が DB2 カタログ表に保管されていることが必要です。参照制約情報がニックネームに引き継がれない場合、データが参照整合性規則に違反していると、Q アプライ・プログラムはニックネームのロード中にエラーを検出する可能性があります。

ユーザーの処置: 親データ・ソース表も Q サブスクリプションに関係する場合は、ALTER NICKNAME ステートメントを発行してください。ニックネームを変更するための正しい構文は、DB2 インフォメーション・センターの『ニックネームの変更 (DB2 コマンド行)』を参照してください。

ASN2237E 表スペースが指定されていないので、サーバー *server* に表 *object* を作成できません。

説明: レプリケーション管理ツールでは、すべての z/OS 表は、表スペースを明示的に割り当てて作成する必要があります。

ユーザーの処置: z/OS 表に表スペースを割り当ててください。

ASN2238W DB2 以外のリレーショナル・サーバーのデータを複製するときは、トランザクション・モード処理はサポートされません。この状態では、サブスクリプション・セットの COMMIT_COUNT 属性の有効な値は NULL のみです。指定した COMMIT_COUNT *commitcount_value* は無視されます。

説明: サブスクリプション・セットのソースが DB2 以外のリレーショナル・サーバーのときは、アプライ・プログラムは表モード処理を使用します。表モード処理の場合、アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット・メンバーの応答セットを 1 メンバーずつ取り出すことで、すべてのデータを処理します。セット全体のデータ処理の終わりに、アプライ・プログラムは単一コミットを発行します。表モード処理を使用することをアプライ・プログラムに通知するには、NULL の COMMIT_COUNT を使用します。指定された COMMIT_COUNT は NULL ではありません。そのため COMMIT_COUNT は無効になり、無視されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2239I Q アプライ・サーバー *apply_server*、Q アプライ・スキーマ *apply_schema*、およびリモート・サーバー名 *remote_servername* に関するアクション *action_name* が、*time_stamp* に正常に終了しました。

説明: アクションが Q アプライ・サーバーで正常に終了しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2240I Q サブスクリプション名 *name* の Q サブスクリプションの作成が、*time_stamp* に終了しました。Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバーは *remote_servername*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアード・プロシージャは *table_name* です。

説明: Q サブスクリプションは正常に作成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2241I **Q** サブスクリプション名 *name* の **Q** サブスクリプションのドロップを、*time_stamp* に終了しました。 **Q** キャプチャー・サーバーは *capture_server*、**Q** キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、**Q** アプライ・サーバーは *apply_server*、**Q** アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバーは *remote_servername*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアード・プロシージャは *table_name* です。

説明: Q サブスクリプションは正常にドロップされました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2251E テンプレート *template_name* は 1 つ以上のモニター・サスペンションで使用されているので、ドロップできません。

説明: IBMSNAP_MONSUSPENDS 表に、指定されているテンプレート名を参照する少なくとも 1 つの行が存在します。

ユーザーの処置: このテンプレートを使用するすべてのサスペンションをドロップし、テンプレートをドロップしてください。

ASN2252W テンプレートが提供されていないため、開始日 *start_date* と終了日 *end_date* の間の全期間中モニター・プログラムは中断します。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 全期間モニター・プログラムを中断する予定の場合、アクションは不要です。しかし、開始日と終了日の間の特定日数の特定期間モニター・プログラムを中断する予定の場合は、これらの属性を使用して定義されているテンプレートを提供する必要があります。

ASN2253E サーバー *server_name* のレプリケーション・アラート・モニター・コントロール表のレベルは、バージョン 8 アーキテクチャー・レベルです。サスペンション機能を使用する前に、これらをバージョン 9 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションする必要があります。

説明: モニター・サスペンション・テンプレートおよび

サスペンションは、この機能をサポートするレベルにモニター・コントロール表がマイグレーションされている場合にのみ作成できます。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: アクションを呼び出す前に、マイグレーション・プログラムを実行して、コントロール表のアーキテクチャー・レベルをアップグレードし、新規コントロール表のセットを作成してください。

ASN2254E 同じ名前を持つ別のテンプレートがすでにサーバー *server_name* に存在するため、テンプレート *template_name* を作成できません。

説明: 指定されたテンプレート名と同じ値が TEMPLATE_NAME 列にある行が、IBMSNAP_TEMPLATES 表に既に存在します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: テンプレートに有効な名前を指定し、コマンドを再発行してください。

ASN2255E 同じ名前を持つ別のサスペンションがすでにサーバー *server_name* に存在するため、サスペンション *suspension_name* を作成できません。

説明: 指定されたサスペンション名と同じ値が SUSPENSION_NAME 列にある行が、IBMSNAP_SUSPENDS 表に少なくとも 1 つ存在します。スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: サスペンション名に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2256E 終了日の値 *end_date* は開始日 *start_date* より小さいため、無効です。

説明: モニター・プログラムを指定期間中断させるには、終了日の値は開始日の値よりも大きくなければなりません。

ユーザーの処置: 終了日に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2257E 開始日の値 *start_date* が過去の日付になっているので、無効です。

説明: モニター・プログラムにいつ中断を開始するかを示すために、開始日の値は将来の日付の値を表さなければなりません。

ユーザーの処置: 開始日に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2258E 入力パラメーター **START DATE** または **END DATE** に指定された値 *value* は範囲外にあります。

説明: **START DATE** および **END DATE** の入力パラメーターは、**DB2 TIMESTAMP** データ・タイプの許容範囲内にある値を必要とします。

ユーザーの処置: 指定された値が許容範囲内にあるか確認してください。 **TIMESTAMP** データ・タイプの許容値についての詳細は、「**DB2 SQL** リファレンス」を参照してください。

ASN2259E 入力パラメーター *parameter* に指定された値 *value* は誤りです。 *reason_text*

説明: **CREATE TEMPLATE** または **ALTER TEMPLATE** コマンドへの入力パラメーターとして指定された値が誤っているか、または必要な値の範囲外であるかのどちらかです。

ユーザーの処置: *reason_text* に基づいて、入力値に正しい値を指定してください。

ASN2261E データベース *database_name* のストアード・プロシージャ *schema_name* によるホスト *host_name* でのコマンド *command_name* の実行中にオペレーティング・システム・エラーが発生しました。オペレーティング・システムのエラー・メッセージは *message* です。

説明: オペレーティング・システムはコマンドを実行できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたデータベースの **DB2** インスタンスの **fenced** ユーザーが指定のコマンドを実行できるかどうか確認してください。

ASN2262E **WebSphere MQ** キュー・マネージャーに指定された名前 *name* がホスト・システム *host_name* では無効または不明であるために、要求されたアクションは失敗しました。**WebSphere MQ** エラー・コードは、*error_code*。

説明: 要求されたアクションを実行するには、指定されたキュー・マネージャーにレプリケーション管理ツールが接続できなければなりません。指定されたキュー・マネージャー名は、ホスト・システム上のどの既存のキュー・マネージャーとも一致しません。

ユーザーの処置: キュー・マネージャーがホスト・システムに存在するかどうか、およびキュー・マネージャー名を確認してください。 **WebSphere MQ** オブジェクト

名には大/小文字の区別があります。詳しくは、**WebSphere MQ** インフォメーション・センターの『2058 (080A) (RC2058): **MQRC_Q_MGR_NAME_ERROR**』を参照してください。

ASN2263E **WebSphere MQ** キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* が接続可能でないため、要求されたアクションは失敗しました。**WebSphere MQ** エラー・コードは、*error_code*。

説明: 要求されたアクションを実行するには、指定されたキュー・マネージャーにレプリケーション管理ツールが接続できなければなりません。キュー・マネージャーが実行されていない可能性があります。その他の考えられる原因については、**WebSphere MQ** が返したエラー・コードを参照してください。

ユーザーの処置: キュー・マネージャーが実行されていない場合は、例えば **strmqm** コマンドを使用してキュー・マネージャーを開始してください。それ以外の場合の詳細については、**WebSphere MQ** インフォメーション・センターの『2059 (080B) (RC2059): **MQRC_Q_MGR_NOT_AVAILABLE**』を参照してください。

ASN2264E **WebSphere MQ** キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* のコマンド・サーバーが実行されていないため、要求されたアクションは失敗しました。**WebSphere MQ** エラー・コードは、*error_code*。

説明: 要求されたアクションを実行するには、指定されたキュー・マネージャーにレプリケーション管理ツールが接続できなければなりません。キュー・マネージャーにコマンドを発行し、応答を送信側に送り返すには、コマンド・サーバーが実行されていなければなりません。

ユーザーの処置: コマンド・サーバーを開始してください (例えば **strmqcsv** コマンドを使用)。

ASN2265E サブシステム *subsystem_name* のストアード・プロシージャ *schema_name* は **WebSphere MQ** キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* へのアクセスを許可されていません。

説明: ストアード・プロシージャの有効ユーザーに、キュー・マネージャーに接続するための十分な権限がありません。

ユーザーの処置: サブシステム・ユーザー、ストアード・プロシージャの定義者、または **DB2** ユーザーに **WebSphere MQ** へのアクセス権があるかどうか確認して

ください。詳しくは、WebSphere MQ インフォメーション・センターの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』を参照してください。

ASN2266E **WebSphere MQ キュー・マネージャー**
host_name-queue_manager_name へのアクセス中にエラーが発生しました。
WebSphere MQ 理由コードは
reason_code。

説明: キュー・マネージャーへのアクセス中に問題が発生しました。

ユーザーの処置: この理由コードの説明を WebSphere MQ インフォメーション・センターで参照し、問題を修正してください。

ASN2267E **指定された名前** *queue_name* の
WebSphere MQ キューは、**キュー・マネージャー** *host_name-queue_manager_name*
 に存在しません。**WebSphere MQ エラー**
 ・**コード**は、*error_code*。

説明: 指定された名前キューは、指定されたキュー・マネージャーで見つかりません。指定されたキュー名が正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: キュー名につづりの誤りがないか調べ、(例えば DISPLAY QUEUE コマンドを使用するなどして) キュー・マネージャーにキューが存在するかどうか確認してください。詳しくは、WebSphere MQ インフォメーション・センターの『2085 (0825) (RC2085): MQRC_UNKNOWN_OBJECT_NAME』を参照してください。

ASN2268E **WebSphere MQ キュー**
host_name-queue_manager_name-queue_name で**アクション** *action* が失敗しました。**WebSphere MQ 理由コード**は *reason_code*。

説明: キューへのテスト・メッセージの書き込み中またはキューからのメッセージの取得中に問題が発生しました。

ユーザーの処置: 理由コードの詳細について、WebSphere MQ インフォメーション・センターで参照してください。

ASN2270E **オペレーティング・システムのユーザー ID** *user_ID* (このデータベースを含むインスタンスの **DB2 fenced ユーザー**) がホスト *host_name* で **WebSphere MQ アプリケーションのオペレーティング・システム・グループ** (通常は **mqm**) のメンバーではないため、データベース *database_name* のストアード・プロシージャ *schema_stored_procedure_name* は **WebSphere MQ キュー・マネージャー** *queue_manager_name* へのアクセスを許可されていません。

説明: データベース・インスタンスの fenced ユーザーに、WebSphere MQ 環境または指定されたキュー・マネージャーへのアクセス権がありません。

ユーザーの処置: データベース・インスタンスの fenced ユーザー ID が、WebSphere MQ に割り当てられるオペレーティング・システム・グループ (通常は **mqm**) の一部になっているかどうか確認してください。詳しくは、WebSphere MQ インフォメーション・センターの『2035 (07F3) (RC2035): MQRC_NOT_AUTHORIZED』を参照してください。

ASN2271W **WebSphere MQ キュー・マネージャー**
host_name-queue_manager_name のバージョン *version_number* は、サポートされる最小のバージョン *version_number* よりも古いバージョンです。

説明: Q レプリケーションおよびイベント・パブリッシングは、最小バージョン・レベルの WebSphere MQ を必要とします。

ユーザーの処置: 正しいバージョンがインストールされているか確認するか、または最小バージョン・レベルの WebSphere MQ サーバーをインストールしてください。

ASN2272W **WebSphere MQ キュー**
host_name-queue_manager_name-queue_name の定義が無効であるため、オープンできません。**WebSphere MQ エラー・コード**は、*error_code*。

説明: 指定されたキューの定義が正しくありません。

ユーザーの処置: 理由コードの詳細について WebSphere MQ インフォメーション・センターで参照し、問題を修正した後にアクションを再試行してください。

ASN2273W 別名キュー *host_name-queue_manager_name-queue_name2* によって参照される **WebSphere MQ 基本キュー (BASE_Q)** *queue_name1* が存在しません。

説明: WebSphere MQ 別名キューの定義が不整合です。Q レプリケーションまたはイベント・パブリッシングによって使用される別名キューはすべて、既存の基本キューで定義されなければなりません。

ユーザーの処置: 別名キューのパラメーター **BASE_Q** につづりの誤りがないか確認してください。さらに、指定されたキューが存在するかどうか確認してください。必要な場合、別名キューの **BASE_Q** パラメーターを更新するか、または指定の名前で基本キューを作成してください。基本キューに、Q レプリケーションが必要とする正しいタイプおよびパラメーターがあるか確認してください。

ASN2274W リモート・キュー *host_name-queue_manager_name-queue_name* の **WebSphere MQ 伝送キュー** *queue_name* が存在しません。

説明: Q アプリ管理キューや Q キャプチャー送信キューなどのリモート・キューの作成時には、使用される伝送キューを指定するために **XMITQ** 属性を使用します。指定されたリモート・キューに関する **XMITQ** 属性で指定された名前の伝送キューが、同じキュー・マネージャーの中に存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたリモート・キューの属性 **XMITQ** につづりの誤りのミスがないか確認するか、または指定されたリモート・キューの伝送キューを作成してください。

ASN2275W WebSphere MQ キュー
host_name-queue_manager_name-queue_name の最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) *size1* がそのキュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* の最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) *size2* より大きくなっています。

説明: 指定されたキューの最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) は、キュー・マネージャーの最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: キューの最大メッセージ・サイズを減らすか、またはキュー・マネージャーの最大メッセージ・サイズを増やしてください。

ASN2276W 送信キューとして使用されている WebSphere MQ キュー
host_name-queue_manager_name-queue_name の最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) *size* が、受信キュー *host_name-queue_manager_name-queue_name* の最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) *size* より大きくなっています。

説明: 送信キューの最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) は、受信キューの最大メッセージ・サイズ (**MAXMSGL**) 以下にする必要があります。

ユーザーの処置: 送信キューの最大メッセージ・サイズを減らすか、受信キューの最大メッセージ・サイズを増やしてください。

ASN2277W WebSphere MQ キュー
host_name-queue_manager_name-queue_name は、ローカル・キューまたはローカル・キューを参照する別名キューのどちらでもないので、*Q_replication_queue_type* として使用できません。

説明: Q キャプチャー管理キューおよび再始動キューは、ローカル・キュー、またはローカル・キューを参照する別名キューでなければなりません。

ユーザーの処置: ローカル・キュー、またはローカル・キューを参照する別名キューを指定します。

ASN2278W WebSphere MQ キュー
host_name-queue_manager_name-queue_name は、ローカル・キュー、リモート・キュー、またはローカル/リモート・キューを直接または間接的に参照する別名キューのいずれでもないので、送信キューとして使用できません。

説明: レプリケーション・キュー・マップの作成時または変更時に指定する送信キューは、ローカル・キュー、リモート・キュー、あるいはローカル/リモート・キューを参照する別名キューでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいタイプのキューを指定してください。

ASN2279W キュー・マップ *queue_map_name* の最大メッセージ・サイズ (*max_message_size*) *size* が、送信キューとして使用される **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* の最大メッセージ・サイズ (*MAXMSGL*) *size* より大きくなっています。

説明: キュー・マップの *max_message_size* 属性 (送信キューによるメッセージ送信に使用されるバッファの最大サイズを指定するための属性) を、キューに定義された **WebSphere MQ** 最大メッセージ長 (*MAXMSGL*) 属性より大きくすることはできません。

ユーザーの処置: レプリケーション・センターまたは **ASNCLP** コマンド行プログラムを使用してキュー・マップの *max_message_size* 値を小さくするか、キューの *MAXMSGL* 属性を大きくしてください。

ASN2280W レプリケーション・キュー・マップ *replication_queue_map_name* の最大メッセージ・サイズ (*max_message_size*) *size1* が、送信キューとして使用される **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* の最大メッセージ・サイズ (*MAXMSGL*) *size2* より大きくなっています。

説明: レプリケーション・キュー・マップの最大メッセージ・サイズは、指定された送信キューの最大メッセージ・サイズ以下でなければなりません。

ユーザーの処置: レプリケーション・キュー・マップの *max_message_size* 値を小さくするか、キューの *MAXMSGL* 値を大きくしてください。

ASN2281W **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* を *Q_replication_queue_type* として使用できません。 **Q** キャプチャー・プログラムと **Q** アプリ・プログラムは同じキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはローカル・キュー、またはローカル・キューを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。

説明: **Q** キャプチャー・プログラムと **Q** アプリ・プログラムが同じキュー・マネージャーを使用する場合、レプリケーション・キュー・マップに関して指定される送信キュー、受信キュー、および管理キューは、ローカル・キュー、あるいはローカル・キューを直接または間

接的に参照する別名キューでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいタイプのキューを指定してください。

ASN2282W **Q** キャプチャー・プログラムと **Q** アプリ・プログラムは同じキュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* を使用しますが、*Q_replication_queue_type1* として使用されるキュー *queue1* と *Q_replication_queue_type2* として使用されるキュー *queue2* は同一でないか、または同じローカル・キューを参照する別名キューではありません。

説明: **Q** キャプチャー・プログラムと **Q** アプリ・プログラムが同じキュー・マネージャーを使用する場合、送信キューと受信キューは同じローカル・キュー、または同じローカル・キューを参照する別名キューのいずれかでなければなりません。これは、**Q** キャプチャーおよび **Q** アプリの管理キューについても該当します。

ユーザーの処置: 両方の目的のための 1 つのキューを選択してください。

ASN2283W **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* をレプリケーション・キュー・マップ *replication_queue_map_name* の受信キューとして使用できません。 **Q** キャプチャー・プログラムと **Q** アプリ・プログラムは異なるキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはローカル・キューまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。

説明: **Q** キャプチャーと **Q** アプリが異なるキュー・マネージャーを使用する場合、受信キューはローカル・キューかまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいタイプのキューを指定してください。

ASN2284W WebSphere MQ キュー

host_name-queue_manager_name-queue_name をレプリケーション・キュー・マップ *replication_queue_map_name* の *Q_replication_queue_type* として使用できません。Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムは異なるキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはリモート・キュー、またはリモート・キューを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。

説明: Q キャプチャーと Q アプライが異なるキュー・マネージャーを使用する場合、送信キューおよび Q アプライ管理キューはリモート・キュー、またはリモート・キューを直接または間接的に参照する別名キューでなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいタイプのキューを指定してください。

ASN2285W Q サブスクリプションはロード・フェーズを指定しますが、キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* に WebSphere MQ モデル・キュー *queue_name* が存在しません。

説明: ロード・フェーズを使用する Q サブスクリプションの場合、Q アプライ・プログラムが予備キューを動的に作成できるよう、Q アプライ・プログラムが使用するキュー・マネージャーにモデル・キューが存在しなければなりません。デフォルトでは、Q アプライはモデル・キューの名前が IBMQREP.SPILL.MODELQ であることを想定します。

ユーザーの処置: モデル・キューの名前につづりの誤りがないか確認するか、新しいモデル・キューを作成してください。あるいは、Q サブスクリプションにロード・フェーズを指定しないようにしてください。

モデル・キューでは、以下の属性が必須です。

- メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLVSQ): FIFO
- デフォルトの共有オプション (DEFSOPT): SHARED
- キューの最大長 (MAXDEPTH): 500000 以上
- メッセージの最大サイズ (MAXMSGL): 100000 以上
- 定義タイプ (DEFTYPE): PERMDYN

ASN2286W WebSphere MQ モデル・キュー

host_name-queue_manager_name-queue_name のパラメーター *parameter_name* の値 *value1* が正しくないか、または小さすぎます。必須値は *value2* です。

説明: Q アプライ・プログラム用のスパイル・キューを作成するために使われるモデル・キューでは、以下のパラメーター値が必要です。

- メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLVSQ): FIFO
- デフォルトの共有オプション (DEFSOPT): SHARED
- キューの最大長 (MAXDEPTH): 500000 以上
- メッセージの最大サイズ (MAXMSGL): 100000 以上
- 定義タイプ (DEFTYPE): PERMDYN

ユーザーの処置: モデル・キューのパラメーター値を更新するか、またはパラメーター値の正しいモデル・キューを指定してください。

ASN2287W 属性 *parameter_name* の値 *value1* が必須値 *value2* と一致しないため、WebSphere MQ キュー *host_name-queue_manager_name-queue_name* を *Q_replication_queue_type* として使用できません。

説明: 指定された WebSphere キュー属性は指定の目的に対して無効です。

ユーザーの処置: 別のキューを選択するか、または属性を必須値に更新してください。

ASN2288W WebSphere MQ キュー

host_name1-queue_manager_name1-queue_name1 に書き込まれたテスト・メッセージがキュー *host_name2-queue_manager_name2-queue_name2* に到着しませんでした。

説明: 最初のキューと 2 番目のキューの間のメッセージ・フローが適切に機能しません。

ユーザーの処置: テスト・メッセージは、Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが実行されていない場合にのみ、正常に送信できます。Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが停止していることを確認してください。WebSphere MQ セットアップでエラー・メッセージを確認して、メッセージ・フローをテストします。それを行うには、WebSphere MQ に付属のプログラム (amqsput, amqsget, amqsbcg, amqsbr) を使用します。

ASN2289W WebSphere MQ キュー

host1_queue_manager1_queue1 に書き込まれたテスト・メッセージはキュー *host2_queue_manager2_queue2* で受信されましたが、内容が変更されています。

説明: 最初のキューと 2 番目のキューの間のメッセージ・フローが適切に機能しません。メッセージは送信できますが、その内容が変更されています。

ユーザーの処置: ソースおよびターゲットのキュー・マネージャーのコード・ページを調べてから、WebSphere MQ ツールを使用して、2 つのキュー間でメッセージの相違が生じる可能性のある構成上のひずみがあるかどうかを検査してください。

ASN2290I WebSphere MQ キュー

host_name1-queue_manager_name1-queue_name1 に書き込まれたテスト・メッセージが *Q_replication_queue_type* として使用されるキュー *host_name2-queue_manager_name2-queue_name2* で受信されました。

説明: テスト・メッセージは、2 つのキューの間のメッセージ・フローが正しく機能していることを確認します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2291I number テストが失敗しました。

説明: 現行オブジェクトの WebSphere MQ 環境がいくつかのチェックによって妥当性検査され、問題が見つかりました。

ユーザーの処置: 失敗したテストについて、対応するメッセージを調べ、問題を修正してください。

ASN2293E モニターをしているサーバーは z/OS ではなく Linux、UNIX、または Windows 上にあるため、モニター修飾子 *monitor_qualifier* およびモニター・サーバー *server_name* を持つレプリケーション・アラート・モニターの OPERATOR CONSOLE オプションは無効です。

説明: z/OS コンソールにアラートを送信するために OPERATOR CONSOLE オプションが使用されます。このオプションは Linux、UNIX、または Windows の各オペレーティング・システムでは無効です。

ユーザーの処置: このモニターの連絡先または連絡先グループにアラートを送信してください。

ASN2294E レプリケーション・アクション

action_name はエラー終了しました。Q キャプチャー・スキーマ *Q_capture_schema* 用の Q キャプチャー・サーバー *server* のアーキテクチャー・レベル *arch_level* には、Q キャプチャー・コントロール表が定義されているバージョン 9 の DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のデータベースとの互換性がありません。

説明: バージョン 9 の DB2 on Linux、DB2 on UNIX、および DB2 on Windows プラットフォームのデータベースに対して加えられたデータおよびスキーマの変更をキャプチャーするには、バージョン 9 キャプチャー・サーバーが必要です。バージョン 9 の Q キャプチャー・サーバーは、コントロール表のアーキテクチャー・レベルとサーバーで実行されている Q キャプチャー・プログラム・インスタンスのバージョンの両方を参照します。しかし、コントロール表の構造は、IBMQREP_CAPPARMS 表から得られるアーキテクチャー・レベルの値に基づいて、バージョン 9 より前のレベルとなります。これは、コントロール表に保管されているデータに不整合があるか、またはコントロール表がマイグレーションされていなかったことを示しています。

ユーザーの処置: 既存の Q キャプチャー・コントロール・サーバーを現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。

ASN2296E 表の列構造が正しくないため、表 *schema_name* を CCD 表として使用できません。列 *column_name* が欠落しているか、またはその定義が無効です。

説明: CCD 表には次の 4 つの列がなければなりません。

- IBMSNAP_INTENTSEQ
- IBMSNAP_OPERATION
- IBMSNAP_COMMITSEQ
- IBMSNAP_LOGMARKER

ユーザーの処置: 正しい CCD 列を持つ既存の表を選択するか、またはレプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムを使用して新規 CCD 表を作成してください。

ASN2297E 表 *schema_name* に CCD 列構造があるため、ユーザー表として使用できません。列 *column_name* は CCD 表構造を示しません。

説明: CCD 表を Q サブスクリプションのユーザー表のターゲットとして使用できません。

ユーザーの処置: CCD 列を全く含まない別の既存の表を選択するか、あるいはレプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムを使用して新規ターゲット表を作成してください。

ASN2298E プログラム *program_name* のスキーマ *schema* のアーキテクチャー・レベル *arch_level* が、必要なアーキテクチャー・レベル *arch_level* より古いいため、操作 *operation* を完了できません。

説明: 指定された操作は、より高いアーキテクチャー・レベルを必要とします。

ユーザーの処置: 要求された操作に対して、提供されたスキーマが正しく指定されているか確認してください。正しく指定されていない場合、提供されたプログラムに対して別の適切なスキーマを選択してください。

ASN2299E CCD 表 *schema.name* は、Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* 内の Q サブスクリプション *Q_subscription_name* が既にターゲットとして使用しているため、この CCD 表をこのスキーマによって設定することはできません。

説明: Q アプライによって設定される CCD 表は、1 つの Q サブスクリプションのターゲットにしかなれません。

ユーザーの処置: CCD 表をターゲットとして持つ Q サブスクリプションを、1 つを除いてすべて除去してください。

ASN2300E CCD オプション *option* を Q サブスクリプション属性 *attribute_name* の値 *value* と一緒に指定することはできません。有効な属性値は *value_list* です。

説明: コマンドは CCD のターゲット表タイプを持つ Q サブスクリプションを作成しようとしたが、指定された一部のパラメーター値はこのターゲットのタイプと互換性がありません。

ユーザーの処置: 有効な Q サブスクリプション属性の値を指定してください。

ASN2301E Q サブスクリプションの属性 *attribute_name* の値 *value1* は SQL 登録の値 *value2* と一致しないため、Q サブスクリプション

receive_queue_Q_subscription_name を使用して CCD 表 *schema_name* の SQL 登録を設定することができません。

説明: 「コンプリート」および「コンデンス」の属性は、Q サブスクリプションと SQL 登録の間で一致している必要があります。

ユーザーの処置: 既存の Q サブスクリプションまたは SQL 登録の属性を更新してください。

ASN2302E Q アプライは現在 SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するように構成されているので、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するように Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成を変更することはできません。

説明: Q アプライ・プログラム (Q アプライ・スキーマによって識別される) は、1 つの SQL キャプチャー・スキーマに登録されている CCD 表にのみ変更を送信することができます。指定された Q アプライ・スキーマは既に、ある SQL キャプチャー・スキーマの CCD 表に変更を送信するために使用されています。指定された Q アプライ・スキーマを、別の SQL キャプチャー・スキーマ内の CCD 表のために使用する場合は、指定された Q アプライ・プログラムの IBMQREP_APPLYPARMS 表の中の SQL_CAP_SCHEMA 値を変更してください。

ユーザーの処置: Q アプライ・スキーマにつづりの誤りがないか、また Q アプライ・スキーマの構成済み SQL キャプチャー・スキーマを確認するか、または Q アプライ・スキーマを更新してください。スキーマを更新するには、ASNCLP コマンド行・プログラムで ALTER APPLY CONFIGURATION コマンドを使用するか、またはレプリケーション・センター内の Q アプライ・プログラム用の「保管パラメーターの変更」ウィンドウを使用します。

ASN2303W SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するために、Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成が、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の設定中の登録から変更されています。CCD ターゲット表を設定している既存の非アクティブ Q サブスクリプションが無効になる場合があります。

説明: Q アプライはすでに、別の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように構成されています。更新によって既存の値が上書きされ、CCD ターゲットを持つ既存の Q サブスクリプションをすべて無効にします。

ユーザーの処置: 既存の Q サブスクリプションを無効にできる場合、アクションは不要です。無効にできない場合は、別の Q アプライ・スキーマを選択してください。

ASN2304E SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するために、Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成を、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の設定中の登録から変更できません。この Q アプライ・スキーマに、CCD ターゲット表を設定するアクティブ Q サブスクリプションがあります。

説明: Q アプライはすでに、別の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように構成されています。更新によって既存の値が上書きされ、CCD ターゲットを持つ既存の Q サブスクリプションをすべて無効にします。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを非活動化するか、または別の Q アプライ・スキーマを使用してください。

ASN2305E Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* には、ターゲット表として提供されている CCD 表 *schema_name* を使用する Q サブスクリプションが入っていません。

説明: この CCD 表の Q サブスクリプションを Q レプリケーションによって設定されるソースとして登録する前に、これが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: 表名につづりの誤りがないか、また提供された表が、提供された Q アプライ・スキーマの Q サブスクリプションのターゲット表かどうか確認してください。

ASN2306E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマによって設定されていない登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: サブスクリプション・セットには、Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみ、または Q アプライ・スキーマによって設定されない登録を持つメンバーのみが入ります。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2307E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマによって設定されていない登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: サブスクリプション・セットには、Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみ、または Q アプライ・スキーマによって設定されない登録を持つメンバーのみが入ります。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2308E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によって設定されている登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: Q アプライ・スキーマと受信キューがすべてのメンバーの登録に関して同じである場合、サブスクリプション・セットには Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみが入ります。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2309E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは受信キュー *receive_queue_name* を使用する Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定される登録を使用しており、新規メンバーは受信キュー *receive_queue_name* を使用して設定される登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: Q アプライ・スキーマと受信キューがすべてのメンバーの登録に関して同じである場合、サブスクリプション・セットには Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみが入ります。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2310W SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の CCD 表 *schema_name* の SQL 登録は設定解除されます。

説明: SQL キャプチャー・スキーマの CCD 表登録を設定している Q サブスクリプションがドロップされると、登録はそれ以降 Q アプライからの更新を受信しなくなります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

ASN2311I 表 *table_owner.table_name* には、編集ルーチン (EDITPROC) が定義されています。このような表のデータを正しく処理するには、DB2 パージョン 8 APAR PK13542 またはそれ以降がレプリケーションで必要です。

説明: レプリケーションは、EDITPROC が定義された表をサポートしますが、そのような表を備えた DB2 サブシステムを、指定の APAR にアップグレードする必要があります。APAR を適用すると、DB2 は編集ルーチンを呼び出して、行を元の状態にトランスフォームしてから、レプリケーション・ログ・リーダー・プログラムにデータを引き渡します。

ユーザーの処置: 表の入った DB2 インスタンスを、指定された APAR にアップグレードしてください。

ASN2312E *type* のターゲット・タイプは、変更前イメージ列をサポートしません。

説明: 変更前イメージ列に対して有効なターゲット・タイプは CCD のみです。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションのターゲット

ト・タイプを CCD に変更してください。

ASN2313E 変更前イメージ列の接頭部 *prefix* は無効です。なぜなら、その長さ *length* は、1 から 4 字までという許容範囲内に収まっていないからです。

説明: 変更前イメージ列内の値を特定するのに使用する接頭部は、最低 1 字から最大 4 字までの長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 接頭部の長さを、規定の範囲内に収まる値に変更してください。

ASN2314E 変更前イメージ列の接頭部 *prefix* は、無効です。なぜなら、サポートされていない文字 *character* が使用されているからです。

説明: 変更前イメージ列の接頭部では、列名の冒頭と列名内での使用をデータベースで許可されたアルファベット文字のみを使用できます。

ユーザーの処置: 無効文字を置き換えるか、または接頭部から除去してください。

ASN2315E 列 *column2* 用の変更前イメージ列 *column1* がありません。

説明: Q サブスクリプションは、ソース表の列に対して、対応する変更前イメージがターゲット表内に存在するようにセットアップされています。ソース列にマップされるターゲット列の名前に対して、変更前イメージの接頭部を追加することで、変更前イメージの列名が生成されます。そのようにして生成された名前の付いた列が、ターゲット表内に見つかりません。

ユーザーの処置: そのようにして生成された名前の付いた列が、ターゲット表内にあることを検証してください。ない場合、Q サブスクリプションを変更して変更前イメージの接頭部値を更新し、スクリプトを再生成します。変更前イメージが不要の場合、ターゲット列の仕様から除去してください。

ASN2316E 変更前イメージ用のターゲット列 *column_name* を選択できません。列のデータ・タイプ *data_type* は、変更前イメージをサポートしていないからです。

説明: Q レプリケーションは、ラージ・オブジェクト (LOB) データ・タイプを除くすべてのデータ・タイプに対して変更前イメージ列をサポートします。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列の選択項目からこの列を除去してください。

ASN2317E 変更前イメージ列に対して列 *column_name* を選択することはできません。なぜなら、結合後の列名と変更前イメージ接頭部 *combined_name* の長さ *length* が、データベース *database_alias* での制限を超えるからです。

説明: 列名と変更前イメージ接頭部を結合した長さは、列名の長さに関するデータベースでの制限内に収まっていない可能性があります。

ユーザーの処置: 変更前イメージ接頭部を短くしてください。

ASN2318E レプリケーションのターゲット列として、列 *column_name1* を選択できません。この列は、列 *column_name2* の変更前イメージ値を保管するのに使用されるからです。

説明: 変更前イメージ列を、レプリケーションでのターゲット列にすることはできません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列の接頭部の値を変更するか、または指定の変更後イメージ列に別の変更前イメージ列を選択してください。

ASN2319W ターゲット表 *table_owner.table_name* 内の変更前イメージ列には、同一の変更前イメージ接頭部が付いていません。この表を 3 層配布用に SQL レプリケーション・アプライ・プログラムに登録することはできません。

説明: 3 層レプリケーション中の中間層として使用する CCD 表内の変更前イメージ列では、変更前イメージ接頭部に対して同じ単一文字を使用する必要があります。指定した表内の複数の変更前イメージ列では、同じ接頭部が使用されていません。この表を 3 層アーキテクチャーで使用することはできません。

ユーザーの処置: この表を 3 層レプリケーション・アーキテクチャーで使用する予定の場合、変更前イメージの接頭部を修正してください。

ASN2320E 列 *column_name2* の変更前イメージ列として要求された列 *column_name1* は、ターゲット表内に存在しません。

説明: 列を変更前イメージ列として使用するには、まずその列がターゲット表内に存在していなければなりません。

ユーザーの処置: ターゲット表内に存在する列の名前を指定してください。

ASN2321E データ・タイプ *data_type* の列 *column_name1* を、データ・タイプ *data_type* の列 *column_name2* 用の変更前イメージ列として使用することはできません。これらのデータ・タイプには相互に互換性がないからです。

説明: 変更後イメージ列のデータ・タイプと、それに対応する変更前イメージ列には、互いに互換性がなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい列名を指定したことを確認してください。

ASN2322E 外部 CCD 表として表 *table_owner.table_name* を登録できません。なぜなら、変更前イメージ列には同じ接頭部が付いていないからです。

説明: 表を外部 CCD として登録するには、CCD 表内の変更前イメージ列には、共通の接頭部が付いている必要があります。指定した表内の複数の変更前イメージ列には、共通の接頭部が付いていません。

ユーザーの処置: この CCD 表を SQL レプリケーション・ソースとして使用するには、表中の変更前イメージ列に共通の接頭部が付くように Q サブスクリプションを再定義してから、もう一度同じアクションを実行してください。

ASN2323E 表 *table_owner.table_name* 内の列 *column_name* は発行の一部ではないため、この列の以前の値は送信できません。

説明: 指定した列の以前の値を Q キャプチャー・プログラムから送信するよう要求しましたが、この列は、発行に組み込まれていません。

ユーザーの処置: 発行の一部になるような列を選択するか、または列の以前の値を要求しないでください。

ASN2324I デフォルトの変更前イメージ接頭部 **X** が原因で、ターゲット表 *table_owner.table_name* において列名の競合が生まれました。別の変更前イメージ接頭部 *prefix* が使用されて、ユニークな変更前イメージ列名が生成されます。

説明: 表内の列は、ユニーク列である必要があります。そのため、デフォルトの変更前イメージ接頭部に起因して、名前の競合が発生しました。指定した接頭部が、代わりに使用されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2325E SQL レプリケーション用に登録されている CCD 表にデータを追加するのに、Q アプライ・スキーマ *schema* を使用できません。SQL キャプチャー・スキーマが指定されなかったからです。

説明: まず、データの追加先の CCD 表用の特定の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように Q アプライ・プログラムを構成してから、その表を SQL レプリケーション用のソースとして登録する必要があります。

ユーザーの処置: ASNCLP コマンド行プログラム内で ALTER CONFIGURATION APPLY コマンドを使用するか、またはレプリケーション・センター内で Q アプライ・プログラム用の「保管パラメーターの変更」ウィンドウを使用して、Q アプライ・スキーマを更新してください。

ASN2326E Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* の CCD ターゲット表 *table_owner.table_name* の SQL 登録を作成できません。なぜなら、この Q サブスクリプションは、Q キャプチャー・スキーマ *schema* および Q アプライ・スキーマ *schema* を使用するからです。これらのスキーマは、選択された他の Q サブスクリプションで使用される Q キャプチャー・スキーマ *schema* および Q アプライ・スキーマ *schema* とは異なります。

説明: 同じ Q キャプチャー・スキーマから同じ Q アプライ・スキーマへ複製された Q サブスクリプションだけを、同時に登録することができます。

ユーザーの処置: 指定した Q サブスクリプションを、登録しようとしている Q サブスクリプション・グループから除外してください。

ASN2327E SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内の CCD 表 *table_owner.table_name* の既存の SQL 登録を、Q アプライ・プログラムで使用するように修正できません。この登録内のプロパティ *property1* の値 *value1* は、Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* 内のプロパティ *property2* の値 *value2* と競合するからです。

説明: SQL 登録と Q サブスクリプションは、CCD 表のプロパティ CONDENSED および COMPLETE に対して同じ値をもっていなければなりません。その値は、ON または OFF のどちらかにすることができます。一

致するプロパティが必要なのは、既存の登録を Q アプライ・プログラムで使用できるよう変更するためです。

ユーザーの処置: CCD 表のプロパティ CONDENSED および COMPLETE が SQL 登録のプロパティに一致するように、Q サブスクリプションを変更してください。

ASN2328E キャプチャー・スキーマ *schema* は、データベース *database_alias* に存在しません。

説明: 指定されたキャプチャー・スキーマは、このデータベースで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 名前を調べてつづりの誤りを確認し、キャプチャー・スキーマの名前を訂正してください。

ASN2329E キャプチャー・スキーマ *schema* のアーキテクチャー・レベル *level1* は、必要アーキテクチャー・レベル *level2* より古いレベルです。

説明: キャプチャー・スキーマが古すぎます。

ユーザーの処置: 別のキャプチャー・スキーマを選択するか、またはキャプチャー・スキーマを必要アーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。

ASN2330E キャプチャー・スキーマ *schema* は、フェデレーテッド・データベース *database_name* で定義されているため、Q レプリケーションのターゲットである CCD 表の登録には使用できません。

説明: このキャプチャー・スキーマは、フェデレーテッド・データ・ソース用にセットアップされているため、DB2 ソースには使用できません。

ユーザーの処置: フェデレーテッド・データ・ソース用にセットアップされていない別のキャプチャー・スキーマを選択してください。

ASN2331E Q アプライ・スキーマ *schema* によって管理されるキャプチャー・スキーマ *schema* を、新規スキーマ *schema2* に合わせて修正することはできません。アクティブな Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* が、既存のスキーマ内のターゲット CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録を管理しているためです。

説明: キャプチャー・スキーマが変更されると、アクテ

イブな Q サブスクリプションが無効になることとなります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを非活動化し、アクションをやり直してください。

ASN2332W Q アプライ・スキーマ *schema* によって管理されるキャプチャー・スキーマ *schema* は、新規スキーマ *schema2* に合わせて修正されます。既存および非アクティブの Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* は、無効になると思われます。

説明: 要求されたキャプチャー・スキーマの更新によって、Q サブスクリプションが無効になる可能性があります。

ユーザーの処置: ユーザー処置は不要です。

ASN2333E キャプチャー・スキーマの値 *schema* の長さ *length1* が、サポートされる最大長さ *length2* より長くなっています。

説明: 指定されたキャプチャー・スキーマの長さは無効です。

ユーザーの処置: キャプチャー・スキーマの長さを短くし、アクションを再実行してください。

ASN2334W CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、今後は Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* によってデータが追加されないように修正されます。

説明: SQL 登録が更新を受け取れるのは、1 つの Q サブスクリプションからだけです。更新が送信されるように別の Q サブスクリプションを選択すると、これまでの Q サブスクリプションは今後はターゲットを更新できなくなります。

ユーザーの処置: 以下のオプションのうちの 1 つを選択してください。

- 指定した Q サブスクリプションによって SQL 登録にデータが追加されるようにする予定の場合、処置は必要ありません。生成されたスクリプトを実行することができます。
- オリジナルの Q サブスクリプションを引き続き使用して SQL 登録にデータを追加する予定の場合、生成されたスクリプトを実行しないで、処置をキャンセルしてください。

ASN2335E CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、データベース *database_alias* の SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内で見つかりません。

説明: このデータベースの SQL キャプチャー・スキーマには、指定された SQL 登録は入っていません。

ユーザーの処置: 指定した登録に対応する CCD 表の名前を調べて、処置をやり直してください。

ASN2336E CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、データベース *database_alias* の SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内にすでに存在します。

説明: SQL 登録を指定しましたが、このデータベースの SQL キャプチャー・スキーマ内には同名の別の登録がすでに存在します。

ユーザーの処置: 指定した登録に対応する CCD 表の名前を調べて、処置をやり直してください。

ASN2337W Q サブスクリプションをドロップすると、CCD 表 *table_owner.table_name* 用の SQL 登録にはデータは追加されなくなります。

説明: この CCD 表にデータを追加する Q サブスクリプションをドロップすると、その CCD 表の SQL 登録は今後はソースからデータを受け取らなくなります。

ユーザーの処置: ユーザー処置は不要です。

ASN2338W CCD 表 *table_owner.table_name* 用の SQL 登録はドロップされます。アプライ修飾子 *apply_qualifier* を使用する SQL サブスクリプション・セット *set_name* 内の SQL アプライ・コントロール・サーバー *database_alias* にあるターゲット表 *table_owner.table_name* の SQL サブスクリプション・セット・メンバーが、非活動化されていることを確認してください。

説明: この SQL 登録をドロップする場合、この登録からデータを受け取っているサブスクリプション・セット・メンバーを非活動化して、データ損失が起きないようにする必要があります。

ユーザーの処置: 指定したメンバーが非活動化されたかどうかを調べてください。

ASN2339W CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* によってデータが追加されるように更新されます。アプライ修飾子 *apply_qualifier* を使用する SQL サブスクリプション・セット *set_name* 内の SQL アプライ・コントロール・サーバー *database_alias* にあるターゲット表 *table_owner.table_name* 用のサブスクリプション・セット・メンバーが、非活動化されていることを確認してください。

説明: この SQL 登録を更新する場合、この登録からデータを受け取っているサブスクリプション・セット・メンバーを非活動化して、データ損失が起きないようにする必要があります。

ユーザーの処置: 指定したメンバーが非活動化されたかどうかを調べてください。

ASN2340E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは、Q アプライ・プログラムによってデータを追加されていないソース登録を使用しているのに対して、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されているソース登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューを使用する 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータが追加されるソース登録か、または Q アプライによってデータが追加されないソース登録を持つメンバーのみです。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2341E サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されているソース登録を使用しているのに対して、新規メンバーは Q アプライ・プログラムによってデータを追加されていないソース登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。

説明: サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューを使用する 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータが追加されるソース登録か、また

は Q アプライによってデータが追加されないソース登録を持つメンバーのみです。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2342E サブスクリプション・セット・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。なぜなら、このセット内の既存のメンバーは、受信キュー *receive_queue* を使用する Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されるソース登録を使用するのに対して、新規メンバーは、受信キュー *receive_queue* を使用する Q アプライ・スキーマ *schema2* によってデータを追加されるソース登録を使用するからです。

説明: サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューから 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータを追加されるソース登録を持つメンバーのみです。

ユーザーの処置: 空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

ASN2343E ターゲット CCD *table_owner.table_name* 用の SQL 登録を、Q アプライ・プログラムによって管理されるように修正できません。プロパティ *property* の値 *value* は、サポートされていないからです。

説明: Q アプライが管理できるのは、特定の SQL 登録だけです。制限の詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『(Q レプリケーションから SQL レプリケーションに対する) 3 層データ配布構成の作成』を参照してください。

ユーザーの処置: SQL 登録を更新するか、または別の SQL キャプチャー・スキーマ内の別の SQL 登録を選択してください。

ASN2344I この Q サブスクリプション用のターゲット CCD *table_owner.table_name* は、SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内に既存の SQL 登録をもっており、Q アプリ・プログラムは、このスキーマ内で SQL 登録を管理するよう構成されています。この Q サブスクリプションがアクティブになると、Q アプリ・プログラムは、SQL レプリケーション用のソースとしてターゲット CCD 表を管理します。

説明: ターゲット CCD はすでに登録済みであって、Q アプリは正しく構成されているので、ターゲット CCD は自動的に SQL レプリケーション用のソースになります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2345E 式 *expression* の結果としてのデータ・タイプ *data_type1* は、マップされたターゲット列 *column_name* のデータ・タイプ *data_type2* に対して互換性がありません。

説明: ターゲット列に対して式を複製するには、Q アプリ・プログラムにおいて、式の結果としてのデータ・タイプが、ターゲット列のデータ・タイプに一致する必要があります。式のデータ・タイプと、そのマップ先のターゲット列のデータ・タイプが一致しません。

ユーザーの処置: 指定したターゲット列のデータ・タイプに対して、式の結果のデータ・タイプが一致するように式を修正するか、または式と同じデータ・タイプをもつターゲット内の別の列を選択してください。

ASN2346E 式 *expression* に指定された列 *column_name* は、ソース表 *table_owner.table_name* 内に存在しません。

説明: 式の一部となる列がソース表内に存在しなければなりません、指定された列が見つかりません。

ユーザーの処置: ソース表内に存在する別の列を指定するか、または列を式から除去してください。

ASN2347E 式 *expression* をターゲット列 *column_name* にマップできません。この式内では、NULL 値を使用できるのに対して、ターゲット列は NOT NULL 属性を指定して定義されているからです。

説明: 式とターゲット列のヌル特性は一致しなければなりません。式中で選択されたソース列はいずれも、NOT NULL 属性を指定して定義されていないので、式の結果

値はヌルであってもかまいません。しかし、ターゲット列は、NOT NULL と定義されています。

ユーザーの処置: NOT NULL と定義されている少なくとも 1 つのソース列を式に組み入れるか、または NULL 値を収容できるターゲット内の別の列に対して式をマップしてください。

ASN2348E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* をソース列に直接マップできません。なぜなら、指定したターゲット列は、すでに式 *expression* にマップされているからです。

説明: ソース列と式の両方に対してターゲット列をマップすることはできません。

ユーザーの処置: 別のターゲット列をマッピング用に選択してください。

ASN2349E ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* を式 *expression* にマップできません。なぜなら、ターゲット列は、すでにソース列 *column_name* に直接マップされているからです。

説明: 式とソース列の両方に対してターゲット列をマップすることはできません。

ユーザーの処置: 別のターゲット列をマッピング用に選択してください。

ASN2350E レプリケーション管理ツールは、DB2 バージョン 8 レベルで稼働中です。このツールを使用して、Q レプリケーション用の DB2 バージョン 9 サーバーを管理することはできません。

説明: レプリケーション・コントロール表の構造と、レプリケーション・アーキテクチャー・レベルに変更が加えられたため、バージョン 9 より前のレプリケーション管理ツールを使用して、DB2 バージョン 9 サーバーを管理することはできません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールが稼働する DB2 クライアントを、バージョン 9 にマイグレーションしてください。

ASN2351E CCD 表 *schema.name* をコンデンスとして定義できません。タイプ *typename* のデータベース・オブジェクト *name* は、レプリケーション・キーの一部ではない列 *column_names* のユニーク性を有効化しているためです。

ASN2353E

説明: レプリケーション・キーの一部ではない列のユニーク性を有効化している主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がターゲット表に収容されている場合に、この表に変更を加えようとする、アプライ・プログラムは失敗します。通常、これが当てはまるのは、この表に対して 2 番目のユニーク制約またはユニーク索引が定義されている場合です。注: 例えば IBMSNAP_INTENTSEQ や IBMSNAP_COMMITSEQ などの、2 次的なユニーク索引を CCD 列に対して定義することができます。

ユーザーの処置: ユニーク制約またはユニーク索引を除去するか、あるいは新規の CCD ターゲット表の生成を検討してみてください。

ASN2353E z/OS では、レプリケーション・プログラムおよびイベント・パブリッシング・プログラムに対する開始、停止、再初期化などの操作タスクを、レプリケーション・センターを使用して実行することはできません。

説明: z/OS 上でレプリケーション・プログラムまたはパブリッシング・プログラムに対する操作を行うコマンドを実行するレプリケーション・センター機能は非推奨になりました。

ユーザーの処置: このプログラムを開始するには、JCL または開始されているタスクを使用してください。実行中のレプリケーション・プログラムまたはパブリッシング・プログラムに対して停止または再初期化などのコマンドを発行するには、MODIFY コマンドを使用します。

ASN2354E z/OS 上のレプリケーション・センターを使用して、レプリケーション・プログラムおよびイベント・パブリッシング・プログラムの開始、停止、再初期化などの操作タスクを実行することはできません。

説明: z/OS 上でレプリケーション・プログラムまたはパブリッシング・プログラムに対する操作を行うコマンドを実行するレプリケーション・センター機能は非推奨になりました。

ユーザーの処置: このプログラムを開始するには、JCL または開始されているタスクを使用してください。実行中のレプリケーション・プログラムまたはパブリッシング・プログラムに対して停止または再初期化などのコマンドを発行するには、MODIFY コマンドを使用します。

ASN2355E コマンド *command* はクラシック・レプリケーション・ソースでは使用できません。

説明: 以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。指定されたコマンドは、クラシック・レプリケーション・ソースには無効です。クラシック・ソースに有効なコマンドは以下のとおりです。

- CREATE REPLQMAP
- ALTER REPLQMAP
- DROP REPLQMAP
- CREATE QSUB
- ALTER QSUB
- DROP QSUB
- LOADDONE
- START QSUB
- STOP QSUB
- LIST
- ALTER CAPPARMS

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 環境コマンド SET SERVER CAPTURE を発行して、キャプチャー・サーバーを、このコマンドをサポートする別のサーバーに設定します。
- クラシック・ソースでサポートされるコマンドの 1 つを使用します。

ASN2356W キャプチャー・サーバーがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、ASN のデフォルト・スキーマが割り当てられません。指定されていたスキーマは使用されません。

説明: 以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。サーバーには、1 組のクラシック・キャプチャー・コントロール表しか存在しません。これらの表には ASN のスキーマがあり、ASNCLP プログラムは常に ASN のデフォルト・スキーマを使用します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2357E オプション *option* はクラシック・レプリケーション・ソースでは使用できません。

説明: 以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。指定されたオプションは、クラシック・レプリケーション・ソースには無効です。サポートされていないオプションは以下のとおりです。

- SUPPRESS DELETES
- SEARCH CONDITION
- TRGCOLS EXCLUDE (新規ターゲット用)
- LOAD TYPE (値 1、2、または 3 を指定した場合)

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 環境コマンド SET SERVER CAPTURE を発行して、キャプチャー・サーバーを、このオプションをサポートする別のサーバーに設定します。
- クラシック・ソースに別のオプションを指定します。LOAD TYPE の場合、サポートされるオプションは 0 (ロードしない) または 4 (クラシック・ソースからロード) です。

ASN2358E 構成ファイル *file_name* は指定されたレプリケーションに存在しません。ディレクトリ名、ファイル名、およびファイルの許可について確認してください。

説明: ASNCLP プログラムは、*file_name* パラメーターに指定されたパスとファイル名を使って、指定された構成ファイルを検出できませんでした。

ユーザーの処置: パスとファイル名が正しいことを確認してください。さらに、ASNCLP プログラムがファイルを読み取ることができるように、ファイルの許可が正しく設定されていることも確認します。

ASN2359E Q サブスクリプションを作成するコマンドが正常に完了しませんでした。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーで定義されましたが、Q アプライ・サーバーでは定義されませんでした: *Q_subscription_list1*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも定義されませんでした: *Q_subscription_list2*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションは両方のサーバーで定義されました: *Q_subscription_list3*。

説明: CREATE QSUB コマンドの処理中にエラーが発

生しました。一部の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーでのみ定義され、別の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも定義されませんでした。1つのサーバーにのみ定義されている Q サブスクリプションは不完全であり、削除する必要があります。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

- ASNCLP プログラムで DROP QSUB コマンドを使用して、クラシック・サーバーにだけ定義されているサブスクリプションを削除します。
- CREATE QSUB コマンドを使用して、どのサーバーにも定義されていない Q サブスクリプションを作成します。

両方のサーバーに定義されている Q サブスクリプションは完全であり、追加のアクションは必要ありません。

ASN2360E 1 つ以上の Q サブスクリプションを削除するコマンドが正常に完了しませんでした。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーからは削除されましたが、Q アプライ・サーバーからは削除されませんでした: *Q_subscription_list1*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはどちらのサーバーからも削除されませんでした: *Q_subscription_list2*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションは両方のサーバーから削除されました: *Q_subscription_list3*。

説明: DROP QSUB コマンドの処理中にエラーが発生しました。一部の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーでのみ削除され、別の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも削除されませんでした。クラシック・サーバーでのみ削除された Q サブスクリプションは、Q アプライ・サーバーにまだ存在しており、手動で削除する必要があります。

ユーザーの処置: ASNCLP プログラムで DROP QSUB コマンドを使用して、クラシック・サーバーでのみ削除された Q サブスクリプションと、どちらのサーバーでも削除されなかった Q サブスクリプションを削除します。

ASN2361E レプリケーションのためにソース表 *table_owner.table_name* の列のサブセットだけが選択されており、ソース・サーバーがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、Q サブスクリプションを作成できません。

説明: クラシック・レプリケーションの場合、レプリケ

ASN2362E

ーションにはソース表のすべての列を選択する必要があります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションのためにソース表のすべての列を指定して、CREATE QSUB コマンドを再実行します。

ASN2362E スキーマ *schema* の下にある Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 9 より前のものであり、ソースがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、アクション *action_name* はエラー終了しました。

説明: クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとして使用するためには、Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 9 でなければなりません。指定された Q アプライ・スキーマはバージョン 9 よりも前のアーキテクチャー・レベルです。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ・コントロール表をバージョン 9 にマイグレーションします。
- 新しい Q アプライ・コントロール表一式をバージョン 9 アーキテクチャーで作成します。

ASN2363E キャプチャー・コントロール表がクラシック・レプリケーション・サーバーで見つからないため、アクション *action_name* はエラー終了しました。

説明: 指定されたアクションを実行する前にコントロール表が存在している必要がありますが、見つかりませんでした。コントロール表は、クラシック・レプリケーション製品のインストール時に作成されます。

ユーザーの処置: クラシック・レプリケーション・サーバーを構成する方法の詳細について、IBM InfoSphere Classic インフォメーション・センターを参照し、レプリケーション・オブジェクトを定義または使用する前に手順を完了します。

ASN2364E IBMQREP_CAPPARMS 表が空であるため、アクション *action_name* はエラー終了しました。

説明: ASNCLP プログラムでレプリケーションのためにオブジェクトを定義する前に、IBMQREP_CAPPARMS コントロール表に行が存在している必要があります。表に行が存在しませんでした。

ユーザーの処置: このアクションを実行する前に、

ASNCLP コマンド ALTER CAPPARMS を実行して表に行を追加してください。

ASN2365I Q アプライ・スキーマに、クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとする Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップがあります。これらの定義はここに示すリストには表示されません。

説明: クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとする Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップは、レプリケーション・センターでは表示されません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2366E SET コマンド *command_name* は、Oracle ソース・サーバーでは使用できません。

説明: 指定されたコマンドは、Oracle ソースではサポートされていません。

ユーザーの処置: Oracle ソースでサポートされているコマンドについては、DB2 インフォメーション・センターの ASNCLP に関する資料を参照してください。

ASN2367E コマンドは処理できませんでした。中間フェデレーテッド・サーバーがインストールされ、構成されていない限り、Oracle サーバーはレプリケーション・ターゲットとしてサポートされません。

説明: Oracle ターゲットにデータを複製するには、Q アプライ・プログラムが DB2 フェデレーテッド・インスタンスの中で実行されるように構成する必要があります。これには、InfoSphere Federation Server が必要です。

ユーザーの処置: InfoSphere Federation Server をインストールして構成してから SET SERVER コマンドを使用して、フェデレーテッド DB2 インスタンス上にある Q アプライ・サーバーを指定してください。

ASN2368E ソースが Oracle である場合、CREATE QSUB コマンドは SUBTYPE キーワードの値 B または P をサポートしていません。

説明: 双方向 (タイプ B) およびピアツーピア (タイプ P) のレプリケーションは、ネイティブ Oracle ソースではサポートされません。許可される Q サブスクリプション・タイプは、単一方向 (タイプ U) のみです。

ユーザーの処置: SUBTYPE キーワードには、値 U を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2369E **ロード・タイプ・オプション option は Oracle ソースでは使用できません。**

説明: これより前の SET SERVER コマンドで、Oracle サーバーが Q キャプチャー・サーバーとして指定されました。Oracle サーバーの場合、値 1、2、3、および 4 は LOAD TYPE キーワードではサポートされていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- SET SERVER コマンドを発行して、このオプションがサポートされている別の Q キャプチャー・サーバーを指定する。
- Oracle ソースの場合は、LOAD TYPE キーワードに値 0 (ロードなし) または 5 (Oracle ロード) を指定する。

ASN2370E **Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルが level であり、ソースが Oracle サーバーであるために、アクション action はエラー終了しました。**

説明: Oracle サーバーをソースとして使用するためには、Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルが 0905 (バージョン 9.5) 以上でなければなりません。指定された Q アプライ・スキーマは以前のアーキテクチャー・レベルです。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ・コントロール表を必要なアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。
- 新しい Q アプライ・コントロール表一式を必要なアーキテクチャー・レベルで作成し、指定したアクションに対してそのスキーマを使用します。

ASN2371E **表レベルの補足ロギングが設定されていないため、表 table_name は Q レプリケーション・ソースとして使用できません。**

説明: 表レベルの補足ロギングは、レプリケーションに必要なログ・データを Oracle が保守するように、ON に設定しておく必要があります。

ユーザーの処置: ALTER コマンドを発行して、表レベルの補足ロギングができるように、ソース表を変更してください。

ASN2372E **データベース全体の補足ロギングが有効でないため、データベース database_name は Q レプリケーション・ソースとして使用できません。**

説明: Q キャプチャー・プログラムは Oracle LogMiner を使用しますが、これには、最小限の補足ロギングが有効になっている必要があります。この機能では、Oracle LogMiner が DML 変更からのやり直し操作を識別、グループ化、およびマージするために必要な最小限の情報をログに記録します。最小限の補足ロギングにより、Oracle LogMiner と Q キャプチャーに、チェーニングされた行および種々のストレージ配置をサポートするための十分な情報 (クラスター表など) が与えられます。

ユーザーの処置: ALTER コマンドを発行して、データベース全体にわたる最小限の補足ロギングができるように、データベースを変更してください。

ASN2373E **Q キャプチャー・サーバーとして指定されたデータベースは、ソースとして使用できません。Q レプリケーションは、Oracle バージョン 10g 以降のみをサポートしています。**

説明: Oracle ソースからのデータを複製するには、Oracle バージョン 10g 以降のソース・データベースを Q キャプチャー・サーバーとして指定する必要があります。

ユーザーの処置: サポートされているレベルのデータベースを指定して、コマンドを再試行してください。

ASN2375E **CREATE PUB コマンドで XML キーワードが指定されましたが、発行に指定されたパブリッシング・キュー・マップは DELIMITED メッセージ形式を使用しません。**

説明: 発行と、それが使用するパブリッシング・キュー・マップのメッセージ形式は一致していなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- XML メッセージ形式で発行する場合は、XML 形式を使用するパブリッシング・キュー・マップを指定します。
- DELIMITED メッセージ形式で発行する場合は、発行のメッセージ形式を DELIMITED に変更します。

ASN2376E パブリッシング・キュー・マップ *queue_map_name* が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の指定された Q キャプチャー・スキーマに存在しないために、このキュー・マップをプロモートできません。

説明: オブジェクトをプロモートするには、そのオブジェクトが、指定するスキーマの中に存在していなければなりません。指定された名前のパブリッシング・キュー・マップが、このスキーマの中に存在しません。

ユーザーの処置: 正しいパブリッシング・キュー・マップ、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

ASN2377E 発行 *publication_name* が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の指定された Q キャプチャー・スキーマに存在しないために、この発行をプロモートできません。

説明: オブジェクトをプロモートするには、そのオブジェクトが、指定するスキーマの中に存在していなければなりません。指定された名前の発行が、このスキーマの中に存在しません。

ユーザーの処置: 正しい発行、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

ASN2378E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の Q キャプチャー・スキーマ *Q_Capture_schema* または指定された Q アプライ・サーバー上の Q アプライ・スキーマ *Q_Apply_schema* に存在しないために、このキュー・マップをプロモートできません。

説明: レプリケーション・キュー・マップをプロモートするには、指定する Q キャプチャー・スキーマと Q アプライ・スキーマの中にそのキュー・マップが存在しなければなりません。指定された名前のレプリケーション・キュー・マップが、これらのスキーマの中に存在しません。

ユーザーの処置: 正しいレプリケーション・キュー・マップ、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

ASN2379E ターゲット・データベースへのアクセスがフェデレーテッド・サーバー経由で行われたために、コマンドがサポートされません。

説明: 指定されたコマンドは、フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされていません。

ユーザーの処置: このコマンドがサポートされるサーバーを指定してください。

ASN2380I プログラム *program_name* に対する操作 *operation* が、*timestamp* にホスト *host_name* にあるデータベースまたはサブシステム *name* 上のスキーマまたは修飾子 *name* に対して開始しました。

説明: 要求された操作が開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2381I 操作 *operation* は、タイム・スタンプ *timestamp* に正常に終了しました。

説明: レプリケーションまたはイベント・パブリッシング・プログラムが、示されている操作を正常に実行しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2383I プログラムの状況は、*status* です。追加情報: *information*。

説明: このメッセージは、レプリケーションまたはイベント・パブリッシング・プログラムの状況を説明しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2384E 操作 *operation* は、プログラム *program_name* がアクティブではないためにエラー終了しました。

説明: 示されている操作を実行するように求められたプログラムが実行されていなかったため、操作を実行できませんでした。

ユーザーの処置: プログラムを開始してから、もう一度この操作を要求してください。

ASN2385I アクティブ・プログラムの詳細な状況は *detailed_status* です。

説明: 要求された状況情報に、プログラムの現行状態が詳しく記述されています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2386I プログラム・パラメーター *parameter* に *value* の値があり、*origin* により定義されました。

説明: このメッセージは、プログラムが現在使用しているパラメーター値を反映したものです。この値は、コントロール表に保管されている値とは異なる場合があります。保管された値を始動時またはプログラムの実行中にオーバーライドしていなければ、プログラムが停止して再始動するとき、この保管された値が使用されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2387E アクセス方式 *method* がホスト *host* にあるデータベースまたはサブシステム *name* で使用できないため、操作 *operation* を実行できません。理由: *reason*。推奨アクション: *action*。推奨アクションを実行して、このアクセス方式を将来利用できるようにしてください。

説明: 要求された操作には、指定されたアクセス方式が使用可能になっていることが必要です。

ユーザーの処置: 推奨アクションを実行して、操作を再試行してください。

ASN2388E タイムアウトの *number* 秒を超えたため、*timestamp* に操作が終了しました。

説明: レプリケーションまたはイベント・パブリッシング・プログラムは、指定された時間内に要求された操作を実行できませんでした。

ユーザーの処置: プログラムの状況を確認してから、操作を再試行してください。

ASN2389E ホスト *host* にあるデータベースまたはサブシステム *name* に、前提条件となるセットアップ手順がないため、操作 *operation* を実行できません。理由: *reason*。推奨アクション: *action*。推奨アクションを実行して、この操作を将来利用できるようにしてください。

説明: 要求された操作において、前提条件となるセット

アップ手順が完了している必要があります。

ユーザーの処置: 推奨アクションを実行して前提条件となるセットアップ手順を完了させてから、操作を再試行してください。

ASN2390E アクティブ・プログラム *program_name* との通信中に、エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *message*。応答: *response*。

説明: レプリケーション・プログラムとの通信中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: レプリケーションのセットアップに必要な変更についての詳細を DB2 インフォメーション・センターで調べてから、アクションを再試行してください。

ASN2391E プログラム *program_name* に対する操作 *operation* は、*database_type* データベースではサポートされません。

説明: レプリケーション・プログラムによる一部の操作は、データベース・タイプによってはサポートされていないものがあります。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションおよびイベント・パブリッシングに関する資料を参照して、どの操作がサポートされているか調べてください。

ASN2392W DB2 インスタンスを判別できませんでした。 *instance_name* の DB2 インスタンス名は、要求された操作をデータベース *database_name* で実行するためのデフォルトとして使用されます。この操作に対するその他の DB2 インスタンス名をサポートするには、推奨アクション *action* を実行してください。

説明: 操作の実行には DB2 インスタンス名が必要ですが、そのインスタンス名を判別できません。デフォルトのインスタンス名が使用されます。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスの名前がデフォルトと同じである場合、アクションは不要です。それ以外の場合は、推奨アクションを実行してください。

ASN2394W ホスト *host_name* にあるデータベースまたはサブシステム *name* で操作 *operation* を実行するための、推奨されるアクセス方式 *method* が使用できません。理由: *reason*。推奨アクション *action*。推奨されるアクセス方式を将来利用できるようにするため、推奨アクションを実行してください。

説明: データベースまたはサブシステムにアクセスするための推奨方式が使用できません。要求された操作を実行するために、代わりの方式を試みます。

ユーザーの処置: 推奨アクションを実行して、操作を再試行してください。

ASN2395E 同じスキーマまたは修飾子を持つプログラム *program_name* のインスタンスが、データベースまたはサブシステム *name* で既に実行されているため、このプログラムを開始できませんでした。

説明: 1 つのデータベースの中では、特定のスキーマまたは修飾子を持つプログラム・インスタンスは 1 つしか実行できません。

ユーザーの処置: 同じスキーマまたは修飾子を持つ実行中のプログラムを停止するか、2 番目のプログラムのスキーマまたは修飾子をドロップしてから再作成してください。

ASN2396E 操作 *operation* は、プログラムが 1 つ以上のエラー・メッセージ *error_messages* を戻したためにエラー終了しました。

説明: プログラムは操作を実行する要求を受け取りましたが、エラーを戻しました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージを調べて問題を訂正し、操作を再試行してください。

ASN2397E **MAXAGENTS_CORRELID** 値 (*number_agents*) が **NUM_APPLY_AGENTS** 値 (*total_agents*) より大きいために、レプリケーション・キュー・マップを作成できません。

説明: 受信キューおよびレプリケーション・キュー・マップにおけるアプライ・エージェントの総数は、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 値で指定されます。**MAXAGENTS_CORRELID** 値は、同一のジョブ名から並列に適用するトランザクションの数を指定します。この設定により、バッチ・ワークロード中にロック競合が起きないように、Q アプライ・プログラムで並列処理を制限できます。

ユーザーの処置: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**NUM_APPLY_AGENTS** 値よりも小さく設定してください。

ASN2398E **MAXAGENTS_CORRELID** 値 (*number_agents*) が **NUM_APPLY_AGENTS** 値 (*total_agents*) より大きいために、レプリケーション・キュー・マップを更新できませんでした。

説明: 受信キューおよびレプリケーション・キュー・マップにおけるアプライ・エージェントの総数は、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 値で指定されます。**MAXAGENTS_CORRELID** 値は、同一のジョブ名から並列に適用するトランザクションの数を指定します。この設定により、バッチ・ワークロード中にロック競合が起きないように、Q アプライ・プログラムで並列処理を制限できます。

ユーザーの処置: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**NUM_APPLY_AGENTS** 値よりも小さく設定してください。

ASN2399E 表 *capture_schema.IBMQREP_IGNTRAN* に行がありません。この構成では、Q アプライ・プログラムの許可 ID を含む行が必要です。

説明: 値に基づく競合検出を行うピアツーピア構成を使用しています。この構成では、Q キャプチャー・プログラムがトランザクションを無視して再帰を回避できるように、**IBMQREP_IGNTRAN** 表に Q アプライ・プログラムの許可 ID が入っている必要があります。

ユーザーの処置: **ALTER SERVER ADD IGNORE TRANSACTIONS** コマンドを指定してください。

ASN2400I *capture_schema.IBMQREP_IGNTRAN* 表に、指定された情報が入っている行が既に存在します。トランザクションを無視する指定を挿入する SQL スクリプトは生成されません。

説明: 行が既に存在するため、このコマンドは SQL スクリプトを生成しませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2401I 指定された情報のある行が *capture_schema.IBMQREP_IGNTRAN* 表に存在しません。トランザクションを無視する指定を削除する SQL スクリプトは生成されません。

説明: 行が IBMQREP_IGNTRAN 表に存在しないため、コマンドは SQL スクリプトを生成しませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2402E コマンド *command* は、Q レプリケーションおよびイベント・パブリッシングに対してのみサポートされています。

説明: 指定されたコマンドは、SQL レプリケーションには適用されません。

ユーザーの処置: このコマンドを使用する前に、ASNCLP SESSION SET TO Q REPLICATION コマンドを使用して環境を指定してください。

ASN2403E 指定されたソース表 *owner.table_name* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* にサブスクリプションも発行もありません。ALTER ADD COLUMN コマンドは、IBMQREP_SIGNAL 表にシグナルを追加しませんでした。

説明: 指定されたソース表に対するサブスクリプションまたは発行が存在しないため、コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: ソース表の名前を確認して、コマンドを再発行してください。

ASN2404E 列 *column_name* は、指定されたソース表 *owner.table_name* に対するサブスクリプションまたは発行 *sub_name* のために既にサブスクライブされています。

説明: この列は、サブスクリプションまたは発行のために既にサブスクライブされているため、追加できません。

ユーザーの処置: 間違った表または列の名前が指定されている場合は、ステートメントを訂正して、コマンドを再発行してください。そうでない場合には、アクションは不要です。

ASN2405W 参照整合性制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。

説明: 双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表の参照整合性制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラ

ムで問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表の参照整合性制約が必ず一致するようにしてください。

ASN2406W チェック制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。

説明: 双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表のチェック制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラムで問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表のチェック制約が必ず一致するようにしてください。制約一致の実施を「no」に設定したため、スクリプトが生成されました。

ASN2407W ユニーク制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。

説明: 双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表のユニーク制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラムで問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: 制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表のユニーク制約が必ず一致するようにしてください。

ASN2408W サブスクリプション・セット
subs_set_name のターゲット・メンバー
target_owner-target_table が外部整合変更
 データ (CCD) 表です。この表タイプで
 は、LOGMARKER 列にデータを追加す
 るために変更データ (CD) 表と作業単位
 (UOW) 表を結合する必要はありません。
 サブスクリプション・セットにゼロ以外の
 コミット・カウント値を指定しました。こ
 の CCD 表を 3 層配布のソースとして使
 用し、ブロック化因数がゼロ以外の場合
 は、アプライ・プログラムの実行中にデー
 タ損失の問題が発生する可能性があります。

説明: CCD ターゲット・タイプが「9」であるため、
 アプライ・プログラムは LOGMARKER 列に値を取得す
 るための CD 表と UOW 表の結合は実行しません。サ
 ブスクリプション・セットの作成時にコミット・カウ
 ントにゼロ以外の値を指定しました。この CCD 表を 2
 層目のソースとして使用する場合、ブロック化因数、ま
 たはサブスクリプション・セットに対する
 IBMSNAP_SUBS_SET 表の MAX_SYNCH_MINUTES
 列にゼロを指定する必要があります。

ユーザーの処置: ブロック化因数、または
 IBMSNAP_SUBS_SET 表の MAX_SYNCH_MINUTES
 列にゼロを指定してください。

ASN2410E キーワード GENERATE SQL FOR
 EXISTING は、SQL レプリケーションで
 はサポートされていません。

説明: GENERATE SQL FOR EXISTING オプションが
 原因で、SQL スクリプトの生成時に SET RUN SCRIPT
 コマンドは特定のエラーを無視します。このオプション
 は、Q レプリケーションでのみサポートされます。ただ
 し、現行セッションは SQL レプリケーションです。

ユーザーの処置: GENERATE SQL FOR EXISTING キ
 ーワードを入力ファイルから除去してください。

ASN2411W タイプ *object_type* のオブジェクト
object_name は、指定した Q キャプチャー
 ・スキーマの下に既に存在します。スクリ
 プト生成中のエラーを無視するオプシ
 ョンを選択したので、オブジェクトを作成す
 るスクリプトはやはり生成されました。

説明: この名前の付いた発行または発行キュー・マップ
 用の Q キャプチャー・コントロール表内に、既にデー
 タが存在します。GENERATE SQL FOR EXISTING
 YES オプションが SET RUN SCRIPT LATER コマン
 ド内で設定されているので、オブジェクトを作成する

SQL はやはり生成されました。生成された SQL を特定
 のコントロール表に対して実行すると、SQL エラーの
 原因になります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN2412W タイプ *object_type* のオブジェクト
object_name は、指定した Q キャプチャー
 ・スキーマおよび Q アプライ・スキ
 ーマの下に既に存在します。スクリプト生成
 中のエラーを無視するオプションを選択し
 たので、オブジェクトを作成するスクリ
 プトはやはり生成されました。

説明: この名前の付いたサブスクリプションまたはレプ
 リケーション・キュー・マップ用の Q キャプチャーま
 たは Q アプライのコントロール表内に、データは既に
 存在します。GENERATE SQL FOR EXISTING YES
 オプションが SET RUN SCRIPT LATER コマンド内
 で設定されているので、オブジェクトを作成する SQL は
 やはり生成されました。生成された SQL を特定のコン
 トロール表に対して実行すると、SQL エラーの原因に
 なります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN2413W タイプ *object_type* のデータベース・オブ
 ジェクト *object_name* は、サーバー
server_alias に既に存在しています。スクリ
 プト生成中のエラーを無視するオプシ
 ョンを選択したので、オブジェクトを作成す
 るスクリプトはやはり生成されました。

説明: 表、表スペース、または索引は、既にデータバ
 ース内に存在します。GENERATE SQL FOR EXISTING
 YES オプションが SET RUN SCRIPT LATER コマン
 ド内で設定されているので、このオブジェクトを作成す
 る SQL はやはり生成されました。生成された SQL を
 特定のデータベースに対して実行すると、SQL エラー
 の原因になります。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。

ASN2414W WebSphere MQ モデル・キュー
*host_name-queue_manager_name-
 queue_name* の *parameter_name* パラメ
 ーターの値は低すぎます。この値は *value1*
 に設定されていますが、必要な値は少なく
 とも *value2* でなければなりません。

説明: Q アプライ・プログラム用のスピル・キューの
 モデル・キューには以下のパラメーター値が必要です。

- キューの最大長 (MAXDEPTH): 500000 以上
- メッセージの最大サイズ (MAXMSGL): 100000 以上

ユーザーの処置: モデル・キューのパラメーター値を更新するか、またはパラメーター値の正しいモデル・キューを指定してください。

ASN2415E **ロード・タイプ** *load_type* は、**Q** サブスクリプション *name* では無効です。同じターゲット表 *table_owner.table_name* が、競合するロード・タイプ *load_type* を持つ別の **Q** サブスクリプション *name* に参加しているためです。

説明: Q サブスクリプションに指定されたターゲット表名が間違っているか、指定されたロード・タイプが適切ではありません。複数のソース表からデータを追加された (このプロセスはデータ統合ともよく呼ばれます) ターゲット表では、特定のロード・タイプが必要とされます。ターゲット表名が正しい場合には、表内のすべての内容を置換するロード・タイプ (タイプ 4 または 5) を持つ既存の Q サブスクリプションが少なくとも 1 つあります。複数の Q サブスクリプションがターゲット表内のデータを置換する予定の場合、データが失われる可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 正しくないターゲット表名が指定されているのであれば、その名前を訂正してください。
- ロード・タイプの選択を変更し、挿入が指定される選択とロード (104) または挿入が指定される選択とインポート (105) を使用します。

ASN2416E **ロード・タイプ** *load_type* は、**Q** キャプチャー・サーバーがクラシック・サーバーである **Q** サブスクリプションの場合のみサポートされます。コマンドは失敗しました。

説明: ロード・タイプ 4 (置換が指定される選択とロード)、104 (挿入が指定される選択とロード)、5 (置換が指定される選択とインポート)、および 105 (挿入が指定される選択とインポート) は、ソースがクラシック・サーバーの場合に限ってサポートされます。

ユーザーの処置: 別のロード・オプションを選択して、コマンドを再実行してください。

ASN2417E レプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプション *name* を開始してください。

説明: Q サブスクリプションに指定されたターゲット表が、他の 1 つ以上の Q サブスクリプションのターゲット表と同じです。Q アプライ・プログラムはこれら

の Q サブスクリプションを自動的に開始しません。そのうちの 1 つのロード・タイプが、ターゲット表内のすべてのデータを置換するロード・タイプ (4 または 5) であるためです。データが失われないようにするには Q サブスクリプションを、同じターゲット表を指定する他の Q サブスクリプションより前に開始する必要があります。

この Q サブスクリプションでは、以下のいずれかのロード・タイプが使用されています。

104

挿入が指定される選択とロード

5

置換が指定される選択とインポート

105

挿入が指定される選択とインポート

データが失われないようにするには、Q サブスクリプションを特定の順序で開始する必要があります。この Q サブスクリプションには、Q サブスクリプションを手動で開始するオプションが指定されています。

ユーザーの処置: Q レプリケーション・ダッシュボード、ASNCLP コマンド行プログラム、またはレプリケーション・センターを使用して、Q サブスクリプションを開始してください。詳しくは、『Q サブスクリプションの開始』を参照してください。

ASN2418E **ロード・タイプ** *load_type* は、**HAS LOAD PHASE** が *value* に設定されている場合には無効です。

説明: HAS LOAD PHASE 値が N として指定されています。これは、ターゲット表がロードされないことを示しています。しかし、0 より大きいロード・タイプ値が指定されました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライにターゲット表をロードさせるには、HAS LOAD PHASE 値に I を選択します。
- Q アプライにターゲット表をロードさせない場合には、HAS LOAD PHASE 値を N のままにして、CREATE QSUB コマンドから LOAD TYPE オプションを削除します。

ASN2419E 予期しない値 *value* が、レプリケーション・コントロール表 *table_name* の列 *column_name* で見つかりました。

説明: 指定のコントロール表には、現在のアクションの処理を妨げる値が少なくとも 1 つは含まれています。

ASN2420I

この表が、レプリケーション・センターまたは ASNCLP によって生成されたのではない SQL によって更新された可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して、予期しない値を持つオブジェクトをドロップしてから再作成してください。例えば、オブジェクトが Q サブスクリプションの場合、それをドロップしてから再作成します。

ASN2420I レプリケーション・キーは、選択したターゲット列をすべて組み込むように定義されました。なぜなら、主キー、ユニーク制約、または索引が、複製された列の範囲内のソース表とターゲット表のどちらでも見つからなかったためです。

説明: 主キー、ユニーク制約、または索引がソースでもターゲットでも見つからない場合、管理ツールは、有効なすべての複製済み列をレプリケーション用のキー列と自動的に指定します。LOB 列などの、一部のサブスクライブ列は、キーとして使用できません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2421W 列 *column_name* は、Q サブスクリプションから自動的に除外されます。

説明: ROWID および GENERATED ALWAYS と定義された列は、双方向および対等の Q サブスクリプションから自動的に除外されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2422E SET SERVER コマンドで Q サブスクリプションに対して指定された *source/target* データベースまたはサブシステムは、Q サブスクリプションのレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に関連付けられた *source/target* データベースまたはサブシステムと一致しません。

説明: Q サブスクリプションに対して指定するソース・サーバーとターゲット・サーバーは、Q サブスクリプションの定義に使用されているキュー・マップのソース・サーバーとターゲット・サーバーと同じでなければなりません。

ユーザーの処置: キュー・マップに対して指定されているサーバーの名前を判別するには、レプリケーション・センターを使用するか、IBMQREP_RECVQUEUES 表の CAPTURE_SERVER 列または IBMQREP_SENDQUEUES 表の APPLY_SERVER 列を

調べてください。その値を SET SERVER コマンドで使用してください。

ASN2423E 指定されたソース表 *table_owner.table_name* に主キーがありますがキー列のユニーク索引がないため、CREATE QSUB コマンドが失敗しました。

説明: 主キーのある DB2 for z/OS 表には、主キー列のユニーク索引もなければなりません。そうしないと表定義が不完全になるため、ASNCLP は表の Q サブスクリプションを作成できません。

ユーザーの処置: 適切な主キー列のユニーク索引をソース表に作成し、コマンドを再試行してください。

ASN2424E サーバー *server_name* 上のレプリケーション・コントロール表のリリース・レベルを指定するオプションは、サーバーが z/OS 上にあるか、Oracle ソース・データベースのため、使用できません。コントロール表の作成用のスクリプトは生成されませんでした。

説明: Q キャプチャーまたは Q アプライ・コントロール表のリリース・レベル、またはアーキテクチャー・レベルを指定する機能は、DB2 for Linux, UNIX, and Windows 上でのみサポートされます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの変更を行って、コントロール表を再定義してください。

ASNCLP コマンド行プログラム

```
CREATE CONTROL TABLES FOR コマンド内の  
RELEASE キーワードを省略してください。
```

レプリケーション・センター

「Q キャプチャー・コントロール表の作成」ウィザードで Q キャプチャーのリリースを変更しないでください。同様に、「Q アプライ・コントロール表の作成」ウィザードで Q アプライのリリースを変更しないでください。

ASN2425E 指定されたリリース・レベルは DB2 データベースのリリース・レベルより古いいため、Q キャプチャーまたは Q アプライ・コントロール表を作成するためのスクリプトの生成に失敗しました。指定されたリリース・レベル: *specified-release-level*。サーバー名: *server-name*。DB2 データベースのリリース・レベル: *DB2-release-level*。

説明: Q キャプチャーまたは Q アプライ・コントロール表の作成用に指定されるリリース・レベルまたはアーキテクチャー・レベルは、コントロール表が作成される DB2 インスタンスのリリースと一致しているか、またはそれより新しくなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 データベースと同じまたはそれより新しいリリースを指定して、コントロール表を再定義してください。

ASN2426I ASNCLP : 入力された節 *input_parameter* はネイティブ z/OS プラットフォームでは無視されます。

説明: 以下に示すように、JCL を使って z/OS プラットフォームで ASNCLP プログラムが実行される場合、いくつかの入力パラメーターは不要です。

- 双方向およびピアツーピア・レプリケーション用の SET OUTPUT MULTIDIR コマンドは、適切なソースおよびターゲット SQL ステートメントが書き込まれる場所を参照する DD ステートメントによって置き換えられます。
- LOAD MULTIDIR REPL SCRIPT コマンドは、双方向またはピアツーピア・レプリケーションをセットアップする ASNCLP 入力スクリプトの場所を参照する DD ステートメントによって置き換えられます。
- コミュニケーション・データベース (CDB) を介してユーザー認証が処理されるため、PASSWORD キーワードは使用されません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2427E ASNCLP : -EXE キーワードはネイティブ z/OS プラットフォームではサポートされません。

説明: JCL を使って z/OS プラットフォームで ASNCLP プログラムが実行される時、-EXE キーワードによって指示される即時実行モードはサポートされません。

ユーザーの処置: JCL を使って実行される入力ファイルの中にコマンドを含めてください。

ASN2428E IBMQREP_CAPPARMS 表の CAPTURE_ALIAS 列から取得されたデータベース別名 *alias* が、データベース接続で指定された別名 *alias* と一致しません。

説明: CAPTURE_ALIAS 列に保管される別名情報は、レプリケーション・センターまたは ASNCLP コマンド行プログラムを使って Q キャプチャー・コントロール表が作成されたときにデータベース接続に使用されたも

のです。しかしこの列に保管されている別名が、現在のデータベース接続で使用された別名と一致しません。ツールが使用されたシステムで 1 つの別名を使ってデータベースがカタログされた後、異なる別名を使って別のシステムでカタログされたような場合に、この状態が発生することがあります。

ユーザーの処置: データベースを再びカタログして、コントロール表の作成時に使われたのと同じ別名を使用してください。

ASN2429I ASNCLP : DB2 サブシステム *subsystem_ID* がデフォルト接続に使用されます。

説明: ストアード・プロシージャー SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID は、ASNCLP の最初の接続先となるコミュニケーション・データベース (CDB) の名前を戻しました。ASNCLP の接続先として必要なレプリケーション・ソースおよびターゲット・サーバーの接続情報をセットアップするには、この CDB を使用してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2430W CHAR データ・タイプのソース表列を、Informix Boolean データ・タイプのターゲット表列にマップしました。ソース列に、t、f、および NULL の値だけが挿入または更新されるようにします。これらの値だけが、Informix Boolean タイプでは許可されています。

説明: ターゲット表の Informix Boolean 列は、値 t、f、および NULL だけを受け入れます。t と f には大/小文字の区別がないので、T と F も可能です。それ以外の値を、Boolean 列にマップするソース列に挿入または更新すると、ターゲットでエラーが生じます。

ユーザーの処置: ソース列に t、f、または NULL 以外の値を挿入または更新するつもりの場合には、Informix Boolean データ・タイプを使用しないターゲット列にそうした列をマップしてください。

ASN2431E Q キャプチャー・プログラムの互換性レベル *compatibility_level* が Q アプライ・プログラムのアーキテクチャー・レベル *arch_level* よりも高いため、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* を作成できません。

説明: IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列の値が、IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に保存されている Q アプライのパー

ジョンと一致する場合のみ、前のバージョンの Q アプライ・プログラムは新しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムと連携できます。

ユーザーの処置: Q キャプチャーの COMPATIBILITY 値を Q アプライ・プログラムのバージョンと一致するように変更するか、または Q アプライ・プログラムを Q キャプチャー・プログラムと同じバージョンにアップグレードしてください。

ASN2432E サーバー *capture_server* およびスキーマ *capture_schema* での Q キャプチャー・プログラムのアーキテクチャー・レベル *arch_level* が、サーバー *apply_server* およびスキーマ *apply_schema* での Q アプライ・アーキテクチャー・レベル *arch_level* と一致していません。Q サブスクリプションを作成または開始できません。

説明: Q キャプチャー・プログラムまたは Q アプライ・プログラムのどちらかがバージョン 9.7 であり、もう一方のプログラムがこれより前のバージョンです。多方向レプリケーション構成では、すべてのプログラムが同じバージョンでなければなりません。

IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列と COMPATIBILITY 列が、IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL 列の値と一致する必要があります。

ユーザーの処置: ダウン・レベルの Q キャプチャー・プログラムまたは Q アプライ・プログラムを、バージョン 9.7 または同等の PTF (z/OS の場合) にアップグレードした後に、Q サブスクリプションを作成または開始してください。

ASN2433E サーバー *capture_server* およびスキーマ *capture_schema* での Q キャプチャー・プログラムのアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、サーバー *apply_server* およびスキーマ *apply_schema* での Q アプライ・アーキテクチャー・レベル *arch_level* と一致しています。しかし、Q キャプチャー・サーバーでの互換性レベル *compatibility_level* は、これよりも低いレベルになっています。Q サブスクリプションを作成または開始できません。

説明: 多方向レプリケーション構成では、IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL 列の値と、IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列および COMPATIBILITY 列の値がすべて一致しなければなりません。

ユーザーの処置: COMPATIBILITY 列の値を更新して Q アプライおよび Q キャプチャーの ARCH_LEVEL

列と一致させた後、Q サブスクリプションを作成または開始してください。

ASN2434I ASNCLP : ASNCLP は、デフォルト接続に使用される DB2 サブシステムを表すサブシステム ID (SSID) を取得できません。SQLCODE *sql_code*。

説明: ネイティブ z/OS プラットフォームでは、ソースおよびターゲット・サーバーへの接続用にプログラムで使われるコミュニケーション・データベース (CDB) の名前を戻す SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID ストアード・プロシージャが、ASNCLP によって呼び出されません。このストアード・プロシージャがインストールされていない可能性があります。または、このストアード・プロシージャに関する EXECUTE 特権が ASNCLP にありません。

ユーザーの処置: SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID がインストール済みであること、および ASNCLP を実行するユーザー ID に適切なプロシージャ実行特権が与えられていることを確認してください。

ASN2435E ASNCLP : 入力された節 *input_parameter* は、ネイティブ z/OS プラットフォームでは許可されていません。

説明: ネイティブ z/OS プラットフォームでは、双方向またはピアツーピア・レプリケーション用の各サーバーで対になる Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムを指定するために、SET BIDI NODE SERVER または SET PEER NODE SERVER コマンドが ASNCLP によって使用されます。SET SERVER MULTIDIR コマンドはネイティブ z/OS では使用されません。

ユーザーの処置: SET BIDI NODE SERVER または SET PEER NODE SERVER コマンドを使用してください。

ASN2436E IBMQREP_APPLYPARMS 表の APPLY_ALIAS 列から取得されたデータベース別名 *alias* が、データベース接続で指定された別名 *alias* と一致しません。

説明: APPLY_ALIAS 列に保管される別名情報は、レプリケーション・センターまたは ASNCLP コマンド行プログラムを使って Q アプライ・コントロール表が作成されたときにデータベース接続に使用されたものです。しかしこの列に保管されている別名が、現在のデータベース接続で使用された別名と一致しません。ツールが使用されたシステムで 1 つの別名を使ってデータベースがカタログされた後、異なる別名を使って別のシス

テムでカタログされたような場合に、この状態が発生することがあります。

ユーザーの処置: データベースを再びカタログして、コントロール表の作成時に使われたのと同じ別名を使用してください。

ASN2437E Q キャプチャー・コントロール表が、Linux、UNIX、および Windows の Q アプライ・アーキテクチャー・レベル *arch_level*、または z/OS の Q アプライのどのアーキテクチャー・レベルでもサポートされていないアーキテクチャー・レベル *arch_level* にあるため、Q サブスクリプションを作成できません。

説明: Q キャプチャー・プログラムがバージョン 9.8 (IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列の値が 0908) の場合、レプリケーションは、Q アプライ・コントロール表が DB2 for Linux, UNIX, or Windows データベースのバージョン 9.7 フィックスバック 2 以降である場合にのみサポートされています。

ユーザーの処置: Q アプライ・コントロール表の場所に依じて、以下のいずれかのアクションを行います。

DB2 for Linux, UNIX, and Windows

DB2 を V9.7 フィックスバック 2 以降にアップグレードします。

DB2 for z/OS

V9.8 以前の Q キャプチャー・プログラムを構成に使用します。

ASN2438E Q キャプチャー・プログラムのバージョンが *version* で、IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列の値が *current_value* であるため、Q サブスクリプションを作成できません。
COMPATIBILITY の必要な値は *expected_value* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムが (IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に記録されている) 指定されたアーキテクチャー・レベルにある場合、COMPATIBILITY 列の値はメッセージ・テキストに表示されている値でなければなりません。

ユーザーの処置: Q レプリケーション・ダッシュボード、レプリケーション・センター、あるいは SQL を使用して、COMPATIBILITY 列の値を更新します。

ASN2439E 2 つの異なるシステムに存在するキュー・マネージャーに、同じキュー・マネージャー名 *name* が指定されました。キュー・マネージャー名は、ネットワーク全体で固有でなければなりません。コマンドは失敗しました。

説明: WebSphere MQ を使用するためには、1 つのネットワーク内に接続された各キュー・マネージャーの名前は、それらが別々のシステムに存在していても、固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 固有のキュー・マネージャー名を指定するか、固有のキュー・マネージャー名の選出を CREATE MQ SCRIPT コマンドに任せるようにします (QMANAGER キーワードにキュー・マネージャー名を指定しないことにより)。

ASN2440E SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID ストアード・プロシージャがインストールされていないため、レプリケーション・センターは DB2 for z/OS のサブシステム ID を取得できません。

説明: レプリケーション・センターは、サブシステム ID を使用して DB2 for z/OS に接続し、コントロール表を作成したり他のタスクを実行したりします。サブシステム ID を提供するためのストアード・プロシージャが、SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID です。DB2 for z/OS バージョン 10 では、SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID はデフォルトでインストールされます。DB2 for z/OS バージョン 8 およびバージョン 9 では、SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID ストアード・プロシージャをインストールするためのジョブは、DSNTIJSJG です。

ユーザーの処置: ソースまたはターゲットのサブシステムで SYSPROC.ADMIN_INFO_SSID ストアード・プロシージャをインストールした後に、アクションを再試行してください。

ASN2441E ソースまたはターゲットの DB2 サブシステムがバージョン 10 より前のバージョンである場合、CREATE QSUB コマンドはオプション REPLICATE ADD COLUMN をサポートしません。

説明: REPLICATE ADD COLUMN 機能は、ソースとターゲットの両方とも DB2 for z/OS バージョン 10 以降である場合に限り、有効です。

ユーザーの処置: ソースとターゲットの両方ともバージョン 10 以降のサブシステムを指定するか、あるいは

REPLICATE ADD COLUMN キーワードを指定しないようにしてください。

ASN2442E 前のコマンドで双方向ノードまたはピアツーピア・ノード *node_number* に関する必須情報が指定されていなかったため、アクション *action_name* を完了できません。

説明: CREATE CONTROL TABLES または CREATE REPLQMAP コマンドには、ノード番号の参照が含まれます。ノード番号は、双方向レプリケーションまたはピアツーピア・レプリケーションに関わるサーバーを識別するために使用されます。しかし、前の SET BIDI NODE または SET PEER NODE コマンドで、このノード情報が設定されていませんでした。

ユーザーの処置: サーバーをノード番号で識別するための SET BIDI NODE または SET PEER NODE コマンドを発行してから、CREATE CONTROL TABLES および CREATE REPLQMAP コマンドでノード番号を指定してください。

ASN2443W ターゲット表 *table_owner.table_name* の主キー制約またはユニーク制約の指定に BUSINESS_TIME WITHOUT OVERLAPS (BTWO) 節が含まれていますが、ソース表 *table_owner.table_name* に同じオプションがありません。Q アプライ・プログラムがエラーを検出する可能性があります。

説明: ターゲットには、WITHOUT OVERLAPS オプションを使用した BUSINESS_TIME 期間節が定義されています。このオプションがあると、一致するキーの BUSINESS_TIME 期間値はオーバーラップできません。オーバーラップした BUSINESS_TIME 値がソース表にある場合、Q アプライ・プログラムは、その変更をターゲット表に適用するときに、SQL エラーを受け取るようになります。

ユーザーの処置: ターゲット表の主キー制約またはユニーク制約をドロップし、WITHOUT OVERLAPS オプションなしでターゲット表を再定義してください。

ASN2444E ソース表 *table_owner.table_name* は、システム期間の一時表でも双一時表でもなく、表のバージョン管理にも対応していません。履歴表の Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーは作成されません。

説明: 履歴表の Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーを作成しようとしたが、ソース表がシステム期間の一時

表でも双一時表でもなく、バージョン管理対応の表でもないために、失敗しました。そのため、ソース表には履歴表がありません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ADD PERIOD SYSTEM_TIME および ADD VERSIONING USE HISTORY TABLE 節を指定することによってソース表を変更した後、CREATE QSUB または CREATE MEMBER コマンドを再発行してください。
- Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーの作成時に INCLUDE HISTORY TABLE を指定しないようにしてください。

ASN2445E ソース表 *table_owner.table_name* の Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーを作成しようとしたが、失敗しました。ソース表には SYSTEM_TIME または BUSINESS_TIME 期間が定義されていますが、ターゲット表 *table_owner.table_name* には SYSTEM_TIME または BUSINESS_TIME 期間が定義されていません。

説明: ソース表とターゲット表の両方が正しく定義されていないければ、Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーを作成できません。ターゲットの一時表を定義するためには、SYSTEM_TIME か BUSINESS_TIME のどちらかの期間が定義されていないければなりません。

ユーザーの処置: ALTER TABLE ステートメントを使用してターゲット表の SYSTEM_TIME 期間または BUSINESS_TIME 期間を定義した後、CREATE QSUB または CREATE MEMBER コマンドを再発行してください。

ASN2446W ソース表 *table_owner.table_name* に期間 *period_name* が存在しません。CREATE QSUB または CREATE MEMBER コマンドで使用された PERIOD キーワードは、無視されます。

説明: PERIOD キーワードを使用できるのは、SYSTEM_TIME または BUSINESS_TIME 期間が定義されている表をサブスクライブする場合のみです。

ユーザーの処置: サブスクリプションの作成時に PERIOD 節を指定しないようにするか、ソース表の期間を定義した後、コマンドを再発行してください。

ASN2447W ソース履歴表 *table_owner.table_name* が Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーの一部であるにもかかわらず、ターゲット一時表 *table_owner.table_name* がバージョン管理対応になっています。ターゲット表に行が適用されるときに SQL 競合が起こる可能性があります。

説明: Q アプライまたはアプライ・プログラムによって行われる更新に加えて、ターゲットの一時表のバージョン管理属性により DB2 が表を更新するようになります。そのために、表で SQL 競合が起こる可能性があります。

ユーザーの処置: 履歴表のサブスクリプションを削除するか、ALTER TABLE を実行してターゲット一時表のバージョン管理を削除してください。

ASN2448E ASNCLP プログラムは、ターゲット表 *table_owner.table_name* の履歴表を作成できませんでした。CREATE QSUB または CREATE MEMBER コマンドで履歴表の名前が指定されなかったためです。

説明: 一時表の Q サブスクリプション・セット・メンバーまたはサブスクリプション・セット・メンバーを作成するには、ターゲット表の履歴表が既に存在するか、または ASNCLP プログラムが履歴表を作成できるように履歴表の名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ターゲット履歴表を作成するために使用できる名前を指定するか、ターゲット表の履歴表を作成してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN2449E 整合変更データ (CCD) 表からの読み取りジョブを作成するための DataStage 定義 (.dsx) ファイルを生成しようとして、エラーが発生しました。ファイルは作成されませんでした。理由コード: *reason_code*。

説明: 以下の問題のいずれか (理由コードで特定可能) が原因で、.dsx ファイルの生成に失敗しました。

1

アプライ・コントロール・サーバーに IBMSNAP_FEEDETL コントロール表が存在しません。この表は、IBM InfoSphere DataStage によって読み取られる CCD 表メンバーが少なくとも 1 つ含まれる SQL レプリケーション・サブスクリプション・セットを識別するために必要です。

2

非コンデンスかつ非コンプリートのメンバー CCD 表がサブスクリプション・セットに含まれていません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1

SQLLIB/samples/repl/sql ディレクトリー内のサンプルを使用して IBMSNAP_FEEDETL コントロール表を手動で作成し、.dsx ファイルを再生成してください。

2

非コンデンスかつ非コンプリートのメンバー CCD 表が、サブスクリプション・セットに少なくとも 1 つ含まれるようにしてください。

ASN2450E Q キャプチャー・コントロール表あるいは Q アプライ・コントロール表のいずれかが *arch_level* アーキテクチャー・レベルにある場合、ストアード・プロシージャ・ターゲットはサポートされていません。

説明: ソースあるいはターゲットのコントロール表のバージョンが 0908 (バージョン 9.8) の場合、ストアード・プロシージャ・ターゲットへのレプリケーションはサポートされていません。

ユーザーの処置: 別のターゲット・タイプを選択してください。

ASN2451E ターゲット表が Linux、UNIX、あるいは Windows 上にある場合、ERROR ACTION 「B」はサポートされていません。

説明: CREATE QSUB コマンドの ERROR ACTION キーワードに値「B」を指定すると、エラー発生時に Q サブスクリプションの変更メッセージを一時スピル・キューにスピルするよう Q アプライ・プログラムに指示することになります。ERROR ACTION 「B」は z/OS ターゲット表に対してのみサポートされています。

ユーザーの処置: ERROR ACTION に別の値を選択し、CREATE QSUB コマンドを再実行してください。

ASN2458E CREATE QSUB コマンドの ERROR ACTION キーワードの値 B は、ソース表またはターゲット表に参照整合性制約がある場合はサポートされていません。

説明: ERROR ACTION に B を指定して、SQL エラーの発生時にそのエラーが解決されるまで Q サブス

リプションの変更メッセージを一時スピル・キューに置くように Q アプライ・プログラムに指示することができます。しかし、Q サブスクリプションのソース表またはターゲット表に他のテーブルとの参照整合性関係が含まれる場合、値 B はサポートされていません。

ユーザーの処置: ERROR ACTION に別の値を指定し、CREATE QSUB コマンドを再サブミットしてください。

ASN2459E ターゲットのニックネーム *nickname_owner.nickname_name* はリモート・サーバー *remote_server* 上の表を参照していますが、Q アプライ・コントロール表のニックネームは別のリモート・サーバー *remote_server* 上のコントロール表を参照しています。ターゲットのニックネームおよび Q アプライ・コントロール表のニックネームは、同じリモート・サーバーを指している必要があります。

説明: Q アプライ・プログラムはニックネーム・ターゲットといくつかのコントロール表を同じコミット範囲内で更新し、フェデレーテッド・ラッパーは 2 フェーズ・コミットをサポートしないため、ターゲットのニックネームおよび Q アプライ・コントロール表のニックネームは同じリモート・サーバー上の表を参照していなければなりません。

ユーザーの処置: 次のアクションのうち 1 つを行い、それから CREATE QSUB コマンドを再試行してください。

- Q アプライ・コントロール表が指すのと同じリモート・サーバーを指すターゲットのニックネームを作成します。
- EXIST 節を指定せずに ASNCLP プログラムにニックネームを作成させます。

ASN2460E LOAD FROM CURSOR オプションが指定されましたが、ニックネームが指定されていないため、ソース表 *table_owner.table_name* の Q サブスクリプションは作成できませんでした。ニックネームの代わりにカタログされた DB2 別名を使用する LOAD FROM CURSOR オプションは、Q サブスクリプションに 1 つ以上の XML 列が含まれるため、使用できません。

説明: この Q サブスクリプションは、Q アプライ・プログラムが LOAD FROM CURSOR ユーティリティを使用してターゲット表をロード (自動ロード) するこ

とを指定しています。しかし、このユーティリティは使用できません。

このメッセージは、ターゲット・データベースがバージョン 9.7 フィックスバック 4 以降でニックネームが指定されていない場合に返されます。

DB2 pureCluster 環境の場合のみ:

フェデレーテッド環境では DB2 pureCluster フィーチャーはサポートされないため、LOAD FROM CURSOR ユーティリティは DB2 pureCluster 環境でニックネームの代わりに別名を使用できます。しかしながら、Q サブスクリプションに 1 つ以上の XML 列が含まれる場合、LOAD FROM CURSOR ユーティリティは別名を使用できません。このメッセージは、DB2 pureCluster 環境においてニックネームが指定されず、Q サブスクリプションに 1 つ以上の XML 列がある場合に返されます。

ユーザーの処置: LOAD FROM CURSOR オプションにニックネームを指定して Q サブスクリプションを作成し直すか、レプリケーション・センターでの「選択可能な最適な方式: Q アプライ・プログラムにロード・オプションを選択させる」(ASNCLP コマンド行プログラムでの LOAD TYPE 0) または EXPORT および IMPORT ユーティリティの組み合わせなどの別のロード・オプションを選択してください。

DB2 pureCluster 環境の場合のみ:

レプリケーション・センターでの「選択可能な最適な方式: Q アプライ・プログラムにロード・オプションを選択させる」(ASNCLP コマンド行プログラムでの LOAD TYPE 0)、または EXPORT および IMPORT ユーティリティの組み合わせなどの別のロード・オプションを指定して Q サブスクリプションを作成し直してください。

ASN2461E 「LOAD FROM CURSOR」(LOAD TYPE 1) が Q サブスクリプションに対して選択されましたが、ソース表のニックネームを指定するキーワードが CREATE QSUB コマンドで指定されていません。ソース・サーバー *server_name* のバージョンは *version* で、このバージョンで「LOAD FROM CURSOR」を使用するにはソースのニックネームが必須です。

説明: 指定されたサーバー・レベルでは、「LOAD FROM CURSOR」オプションを使用するにはソース表のニックネームが必須です。ニックネームはバージョン 9.7 フィックスバック 4 以降では必須ではありません。

ユーザーの処置: NICKNAME あるいは NEW NICKNAME RMT SERVERNAME キーワードを使用して既存のあるいは新規のニックネームを指定し、CREATE QSUB コマンドを再発行してください。

ASN2462E CREATE QSUB コマンドは、「LOAD FROM CURSOR」オプションをソース表のニックネームと共に使用する複数の Q サブスクリプションを作成するように指定されています。しかし、ソース表に対して指定されているのは単一のニックネーム *nickname_owner.nickname_name* のみです。

説明: 複数の Q サブスクリプションを作成する場合は、NAMING PREFIX オプションを NEW NICKNAME RMT SERVERNAME キーワードと共に使用し、ASNCLP プログラムが各ソース表に対して固有のニックネームを生成できるようにすることが推奨されています。

ユーザーの処置: NAMING PREFIX オプションを使用するように CREATE QSUB コマンドを変更し、コマンドを再発行します。

ASN2463E ご使用の構成内の 1 つ以上のサーバーが DB2 for z/OS サブシステムであるか、バージョン 10 より前の DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースであるため、*command* コマンドはサポートされません。

説明: 構成に含まれているすべてのデータベースが DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 10 以降にある場合のみ、指定されたコマンドがサポートされます。

ユーザーの処置: バージョン 10 以降の DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースでコマンドを再発行してください。

ASN2464E スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを、スキーマ *schema_name* に作成できません。スキーマ・レベルの Q サブスクリプションは、同じキュー・マップ *queue_map_name* を使用する別のスキーマ *existing_schema* にすでに存在し、これらの 2 つのスキーマはオーバーラップするためです。

説明: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションのスキーマを選択するのに使用された式は、既存のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションのスキーマとオーバーラップ、または競合します。スキーマのオーバーラ

ップは、サポートされていません。例えば、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションをスキーマ・パターン "ANU%".T%" に作成する場合、別のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを、同じレプリケーション・キュー・マップを使用するパターン "ANU1".T%" に作成できません。

ユーザーの処置: 既存のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションとオーバーラップしない異なる式を指定するか、既存のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションをドロップして、この式を再使用してください。

ASN2465E 構成タイプ *configuration_type* のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを、スキーマ *schema* に作成できません。このスキーマに属するいくつかの表の表レベルの Q サブスクリプションは、異なる構成タイプ *configuration_type* の下にすでに存在し、同じレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するためです。

説明: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションに属し、同じレプリケーション・キュー・マップを使用する Q サブスクリプションはすべて、同じ構成タイプ (単一方向、双方向、またはピアツーピア) でなければなりません。

ユーザーの処置: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを作成する前に、既存の Q サブスクリプションをドロップしてください。

ASN2466E 構成タイプ *configuration_type* のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを、スキーマ *schema* に作成できません。このスキーマに属するいくつかの表の表レベルの Q サブスクリプションは、同じ構成タイプを持ち、同じレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用しますが、競合アクションおよび競合規則などのプロパティの値が異なるためです。

説明: 同じスキーマ・レベルの Q サブスクリプションに属し、同じ構成タイプ (単一方向、双方向、またはピアツーピア) を持ち、同じレプリケーション・キュー・マップを使用する表レベルの Q サブスクリプションには、同じ競合アクションおよび競合規則が必要です。

ユーザーの処置: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを作成する前に、既存の Q サブスクリプションをドロップしてください。

ASN2467E Q サブスクリプション・タイプ *type* に対する Q サブスクリプションのオプションのリストを識別するために指定された名前 *name* は使用できません。Q キャプチャー・スキーマ *schema* の下のサーバー *server_name* に、Q サブスクリプション・タイプ *type* に対する Q サブスクリプションのオプションの同じ名前を持つ別のリストがすでに存在するためです。

説明: CREATE SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドは、指定されたスキーマ内の指定された構成タイプ (単一方向、双方向、またはピアツーピア) のすべての Q サブスクリプションにオプションを設定します。オプションのリストの名前は、Q キャプチャー・スキーマに対して固有でなければなりません。

ユーザーの処置: オプションのリストに別の名前を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2468W 表 *table_owner.table_name* は、指定されたスキーマ・パターン *schema_pattern* およびソース表パターン *table_pattern* と一致しますが、すでに Q サブスクリプションの一部です。この Q サブスクリプションの SCHEMA_SUBNAME 列は、*schema_subname* に更新されます。

説明: 表レベルの Q サブスクリプションはすでに存在するため、指定された表に作成することができません。しかし、この Q サブスクリプションをスキーマ・レベルの Q サブスクリプションの一部にするために、IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SCHEMA_SUBNAME 列が、指定された値に更新されません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2469W オプション TARGET EXISTS VALIDATION NO が選択されたため、ASNCLP プログラムは、ソース表とターゲット表が同じであると想定し、ソース表およびターゲット表でチェックを実行しません。

説明: オプション TARGET EXISTS VALIDATION NO が選択されると、ASNCLP プログラムは、ターゲット表が存在するかどうか、列マッピングがソース表とターゲット表間で互換性があるかどうか、およびソース表とターゲット表間で制約が一致するかどうかなどのチェックを実行しません。ASNCLP プログラムは、コントロール表への insert ステートメントのみを生成して、Q サブスクリプションを作成します。

ユーザーの処置: Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムに関する問題を避けるには、ターゲット表が存在していること、およびソース表とターゲット表が同じであることを、このオプションを使用する前に確認してください。

ASN2470E CREATE SCHEMASUB コマンドまたは CREATE QSUB コマンドの OPTIONS 節で指定されたオプション名 *options_name* が存在しません。

説明: オプション名は、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション内のすべての表レベルの Q サブスクリプションに対する、オプションのセットを識別します。指定された属性を使用して表レベルの Q サブスクリプションを作成する前に、オプション名によって識別される行が IBMQREP_SUBS_PROF 表に存在している必要があります。

ユーザーの処置: CREATE SCHEMASUB コマンドまたは CREATE QSUB コマンドでオプション名を使用する前に、CREATE SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドを発行して、オプションをまず作成してください。

CREATE SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドが入力ファイルですでに指定されている場合、生成されたスクリプトをすぐに実行するために、SET RUN SCRIPT NOW コマンドが使用されていることを確認してください。

ASN2471E CREATE SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドでオプション名 *options_name* を使用して指定された Q サブスクリプションのタイプ *type* が、CREATE SCHEMASUB コマンドまたは CREATE QSUB コマンドで指定された Q サブスクリプション・タイプ *type* と一致しません。

説明: Q サブスクリプション・タイプ (単一方向、双方向、またはピアツーピア) は、CREATE SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドと、オプションを使用する CREATE SCHEMASUB コマンドまたは CREATE QSUB コマンドとの間で一致している必要があります。そうでない場合、Q サブスクリプションのプロパティは非互換になる可能性があります。

ユーザーの処置: CREATE SCHEMASUB コマンドまたは CREATE QSUB コマンドで指定されたのと同じ Q サブスクリプション・タイプを持つ別のオプション名を指定してください。また、OPTIONS 節を省略することができ、ASNCLP プログラムは、その Q サブスクリプション・タイプの製品デフォルトを選びます。

ASN2472I **START SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションの一部である *number* 個の **Q** サブスクリプションに対して、**CAPSTART** シグナルが *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されます。

説明: **START SCHEMASUB** コマンドは、**ALL** オプションを指定して発行されました。新規状態および非アクティブ状態にあるスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに属するすべての **Q** サブスクリプションがアクティブ化されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2473I **START SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに対して、**CAPSTART** シグナルが *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されました。

説明: 指定されたスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションをアクティブ化するために、**CAPSTART** シグナルが挿入されました。 **Q** キャプチャー・プログラムは、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションの一部であるソース表への変更のキャプチャーを開始します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2474I **START SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに対して、**CAPSTART** シグナルが *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されませんでした。それは、**Q** キャプチャー・プログラムが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションの一部であるソース表の変更を既にキャプチャーしているためです。

説明: スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションは、すでにアクティブ状態です。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションを開始するスクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2475I **STOP SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに属する *number* 個の表レベルの **Q** サブスクリプションに対して、**CAPSTOP** シグナルが *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されました。

説明: **STOP SCHEMASUB** コマンドは、**ALL** オプションを指定して発行されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに属するすべてのアクティブな **Q** サブスクリプションが非アクティブ化されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2476I **STOP SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションに対して、**CAPSTOP** シグナルが *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されました。

説明: **STOP SCHEMASUB** コマンドへの応答で、**ASNCLP** プログラムは **SQL** スクリプトを生成して、**CAPSTOP** シグナルを挿入しました。シグナルは、スキーマ内のすべてのソース表への変更のキャプチャーを停止するように、**Q** キャプチャー・プログラムにプロンプトを出します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2477I **STOP SCHEMASUB** コマンドが、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に対して処理されました。ただし、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションが既に非アクティブ状態であるため、**CAPSTOP** シグナルは *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入されませんでした。

説明: スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションが既に非アクティブであるため、**ASNCLP** プログラムは、スキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションを停止するスクリプトを生成しませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2478E *name* という名前のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションは、スキーマ *schema* の下のサーバー *server* に存在しません。スクリプトは生成されません。

説明: DROP SCHEMASUB コマンドで指定されたスキーマ・レベルの Q サブスクリプションが IBMQREP_SCHEMASUBS 表に存在せず、削除できません。

ユーザーの処置: 既存のスキーマ・レベルの Q サブスクリプション名を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN2479I スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に属する *Number* 個の表レベルの Q サブスクリプションが削除されません。

説明: DROP SCHEMASUB コマンドは、ALL オプションを指定して発行されました。スキーマ・レベルの Q サブスクリプションに属するすべての表レベルの Q サブスクリプションが削除されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2480E Q サブスクリプション・オプションの指定されたリスト *options_list* が、Q キャプチャー・スキーマ *schema* の下のサーバー *server_name* に存在せず、削除できません。

説明: IBMQREP_SUBS_PROF 表には、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション内で指定されたタイプのすべての Q サブスクリプションに対するユーザー定義オプションが保管されています。指定されたオプション名のある行が、IBMQREP_SUBS_PROF 表で検出できません。オプション・リストを削除する SQL スクリプトは生成されません。

ユーザーの処置: オプション・リストに異なる名前を指定して、DROP SUBSCRIPTION OPTIONS コマンドを再実行してください。

ASN2481E 1 つ以上のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションがオプションを使用しているため、Q サブスクリプション・オプションのセット *options_name* を削除できません。

説明: Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション・オプションの保存されたリストを参照して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションにこのオプション名を使用する新しい Q サブス

クリプションを作成します。オプション・リストが削除されると、レプリケーション・プログラムの実行中にエラーが発生します。

ユーザーの処置: 削除する Q サブスクリプション・オプションの異なるセットの名前を指定するか、そのオプションを使用しているスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを削除してから、オプションを削除してください。

ASN2482I WebSphere MQ オブジェクトのデフォルト値を採用する MQDEFAULTS オプションが、CREATE CONTROL TABLES コマンドで選択されました。ASNCLP プログラムは次のデフォルトを割り当てます。キュー・マネージャー: *queue_manager*。管理キュー: *admin_queue*。再始動キュー: *restart_queue*。

説明: MQDEFAULTS オプションが指定されている場合、ASNCLP プログラムは、CREATE MQ SCRIPT コマンドによって生成されるのと同じ WebSphere MQ オブジェクトのデフォルトを使用して、コントロール表を作成します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2483I WebSphere MQ オブジェクトのデフォルト値を採用する MQDEFAULTS オプションが、CREATE REPLQMAP コマンドで使用されました。ASNCLP プログラムは次のデフォルトを割り当てます。管理キュー: *admin_queue*。受信キュー: *recv_queue*。送信キュー: *send_queue*。

説明: MQDEFAULTS オプションが指定されている場合、ASNCLP プログラムは、CREATE MQ SCRIPT コマンドによって生成されるデフォルトと同じ WebSphere MQ オブジェクトのデフォルトを使用して、レプリケーション・キュー・マップを作成します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2484W ノード番号 *number* によって指定されたサーバー上でコントロール表をドロップするオプションが選択されましたが、指定されたスキーマ *schema* の下のサーバー *server_name* に、コントロール表 *table_name* が存在しません。

説明: コマンドは、ASNCLP プログラムがノード番号によって識別されるサーバーで Q キャプチャーと Q

アプライ・コントロール表の両方をドロップするように指定します。しかし、Q キャプチャーと Q アプライ・コントロール表の両方が存在しないため、アクションは実行できません。

ユーザーの処置: Q キャプチャーと Q アプライ・コントロール表の両方を持つ異なるスキーマを指定するか、通常の DROP CONTROL TABLES コマンドを使用して、Q キャプチャーか Q アプライ・コントロール表のいずれかを個々にサーバーでドロップしてください。

ASN2485E ソース・サーバーまたはターゲット・サーバーが DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 10 以降にない場合、キーワード *keyword* はサポートされません。

説明: オプションは、DB2 for Linux, UNIX, and Windows V10 以降でのみサポートされます。

ユーザーの処置: オプションを削除して、コマンドを再発行してください。

ASN2486E ノード *node_number* に関する必須情報が指定されていなかったため、アクション *action_name* を完了できません。

説明: ノード番号は双方向レプリケーションにおいてサーバーを識別するために使用されます。CREATE CONTROL TABLES FOR または CREATE REPLQMAP コマンドでノード番号が参照されましたが、以前の SET BIDI NODE コマンドでそのノード情報が設定されていませんでした。

ユーザーの処置: CREATE CONTROL TABLES FOR または CREATE REPLQMAP コマンドでノード番号を使用する前に、SET BIDI NODE コマンドを発行します。

ASN2487I ホスト *hostname* ポート *port_number* の MQSERVER *server_number* のキュー・マネージャーは、ASNCLP プログラムが実行されているシステムに対してローカルです。ASNCLP プログラムはこのサーバーに対して WebSphere MQ セットアップ・スクリプトを実行します。

説明: CREATE MQ SCRIPT コマンドと共に RUN NOW オプションを使用し、ASNCLP プログラムがキュー・マネージャーと同じシステムで実行されている場合、ASNCLP はスクリプトを生成してからそのスクリプトを実行します。キュー・マネージャーが別のシステム上にある場合、ASNCLP は RUN NOW が指定されていてもスクリプトを実行しません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2488W ホスト *hostname* ポート *port_number* の MQSERVER *server_number* のキュー・マネージャーは、ASNCLP プログラムが実行されているシステムに対してリモートです。RUN NOW オプションが指定されていますが、ASNCLP プログラムはこのサーバーに対して WebSphere MQ セットアップ・スクリプトを実行しません。

説明: CREATE MQ SCRIPT コマンドと共に RUN NOW オプションを使用し、ASNCLP プログラムがキュー・マネージャーとは別のシステムで実行されている場合、ASNCLP はスクリプトを生成しますがそのスクリプトを実行しません。キュー・マネージャーが同じシステム上にある場合、RUN NOW が指定されていれば ASNCLP はスクリプトを実行します。

ユーザーの処置: 以下のコマンドを使用して、生成された WebSphere MQ スクリプトを実行します。

```
runmqsc <queue_manager_name> <
  <filepath>/<script_file_name>
```

ASN2489E CREATE QSUB コマンドで WITH LOGMARKER オプションが指定されており、ターゲット表またはニックネーム *owner.name* が存在していますが、IBMSNAP_LOGMARKER 列がありません。

説明: Q サブスクリプションで WITH LOGMARKER オプションを使用するには、ターゲット表またはニックネームに IBMSNAP_LOGMARKER 列がある必要があります。

ユーザーの処置: 次のアクションのうち 1 つを実行し、コマンドを再実行します。

- ターゲット表を変更し、データ・タイプが TIMESTAMP で NOT NULL WITH DEFAULT の IBMSNAP_LOGMARKER 列を追加します。
- IBMSNAP_LOGMARKER 列がある別のターゲット表を使用します。

ASN2490E ターゲット表またはニックネーム *owner.name* に IBMSNAP_LOGMARKER 列がありますが、列のデータ・タイプ *data_type* は必要とされるデータ・タイプ *data_type* と一致しません。

説明: IBMSNAP_LOGMARKER 列のデータ・タイプは Q レプリケーションの要件と一致している必要があります。

ASN2491E

そうでないと Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプションをアクティブ化しません。

ユーザーの処置: 次のアクションのうち 1 つを実行し、コマンドを再実行します。

- IBMSNAP_LOGMARKER 列の定義が有効な、別のターゲットを使用します。
- 新規のターゲット表を使用します。

ASN2491E Q アプライ・サーバーが DB2 for z/OS 上にあり、かつコントロール表がバージョン 10 以上 (ARCH_LEVEL が 100Z) でないか、または DB2 for Linux, UNIX, and Windows 上にあり、かつバージョン 9.7 フィックスパック 4 以上ではないため、WITH LOGMARKER オプションはサポートされていません。

説明: CREATE QSUB コマンドの WITH LOGMARKER オプションは、ソースの行が変更された時刻のタイム・スタンプをターゲット表あるいはニックネームに追加します。このオプションがサポートされているのは以下の場合のみです。

- Q アプライ・サーバーが Linux, UNIX、および Windows 上にあり、バージョン 9.7 FP4 以上。
- Q アプライ・サーバーが z/OS 上にあり、アーキテクチャー・レベルが 100Z 以上 (これはバージョン 10 に対応) で、バージョン 9.7 フィックスパック 4 に対応する PTF がインストールされている。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーを、このオプションをサポートしているバージョン、および PTF またはフィックスパックへアップグレードし、CREATE QSUB コマンドを再サブミットします。

ASN2494E *name* という名前のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションが、スキーマ *schema* の下のサーバー *server_name* に既に存在しています。

説明: CREATE SCHEMASUB コマンドを使用して指定された名前は、IBMQREP_SCHEMASUBS 表に既に存在しています。重複したスキーマ・レベルの Q サブスクリプションは作成できません。

ユーザーの処置: 異なる名前を指定して、CREATE SCHEMASUB コマンドを再発行してください。

ASN2496E ターゲットの整合変更データ (CCD) 表が、ターゲット・サーバーが DB2 バージョン *version* である場合に必要の 16 バイトのログ・シーケンス番号 (LSN) 列にアップグレードされていません。

説明: ソース・サーバーが DB2 バージョン 10 である場合、ターゲット CCD 表には、ログ・シーケンス番号を保持する 16 バイトの LSN 列 (IBMSNAP_COMMITSEQ、IBMSNAP_INTENTSEQ) が必要です。

ユーザーの処置: バージョン 10 のマイグレーション情報にあるステップに従って、ターゲット CCD 表を 16 バイトの LSN 列にアップグレードし、Q アプライ・プログラムを再開してください。

ASN2497E WITH LOGMARKER オプションは、ソース表 *table.owner_table.name* に IBMSNAP_LOGMARKER 列があるために使用できません。

説明: ターゲット表の IBMSNAP_LOGMARKER 列には、互いに排他的な 2 つの異なる方法でデータを設定できます。

- WITH LOGMARKER キーワードを CREATE QSUB コマンドで指定する。この方式では、IBMSNAP_LOGMARKER 列がターゲット表に追加され、その列にはソース・リカバリー・ログから直接取られたタイム・スタンプ値が設定されます。
- ソース表に IBMSNAP_LOGMARKER 列を含め、その列を、ターゲット表の対応する IBMSNAP_LOGMARKER 列にマッピングする。この方式では、ターゲット列は、ソース列からの値でデータが設定されます。この方式は、層 2 の IBMSNAP_LOGMARKER 列が層 1 のリカバリー・ログからデータを設定され、次に、その値がレプリケーションされて層 3 の列に設定されるという 3 層構成で使用できます。

IBMSNAP_LOGMARKER という名前のソース列がある場合、WITH LOGMARKER キーワードは使用できません。

ユーザーの処置: CREATE QSUB コマンドを、WITH LOGMARKER オプションを除外して再発行します。ソース表の IBMSNAP_LOGMARKER 列を、対応するターゲット列にマップします。この方式は確実に、IBMSNAP_LOGMARKER 列の値が、ログからではなくソース表からのものになるようにします。

ASN2498E アクション *action* が失敗しました。アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、キャプチャーの互換性の値 *compatibility* とは互換性がありません。

説明: ソース・サーバーは、DB2 バージョン 10 であり、16 バイトのログ・シーケンス番号 (LSN) を使用し

ます。バージョン 10 からのデータを複製するには、アプライ・プログラムはバージョン 10 にマイグレーションされたコントロール表および 16 バイトの LSN 値を処理する必要があります。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーをバージョン 10 にマイグレーションしてください。

ASN2499E アクション *action* が失敗しました。ソースの整合変更データ (CCD) 表とターゲット CCD 表は非互換です。

説明: ソース CCD 表とターゲット CCD 表は、ログ・シーケンス番号 (LSN) を保持する 10 バイトまたは 16 バイトの列 (両方が同じであること) が必要です。

ユーザーの処置: ソース CCD 表が 16 バイトの LSN 列を使用している場合、ターゲット CCD 表を 16 バイトの LSN 列にアップグレードしてください。またはソース CCD 表を 16 バイトの LSN 列にアップグレードしてください。ソース CCD 表は、ユーザーが作成する外部 CCD 表か、アプライ・プログラムまたは Q アプライ・プログラムによって保守される CCD 表 (この場合、これらのサーバーのマイグレーションも必要) のいずれかです。

第 39 章 ASN2500 - ASN2999

ASN2500E TYPE CCD オプションは、ソース表 *table.owner_table.name* に次の **IBMSNAP_%** 列があるために使用できません: *columns*。

説明: ターゲット表の **IBMSNAP_%** 列には、互いに排他的な 2 つの異なる方法でデータを設定できます。

- TYPE CCD キーワードを CREATE QSUB コマンドで指定する。この方式では、ターゲット・タイプが 2 に設定され、ターゲット表の **IBMSNAP_%** 列には、ソース・リカバリー・ログから直接取られた値が設定されます。
- ソース表に **IBMSNAP_%** 列を含め、その列を、ターゲット表の対応する **IBMSNAP_%** 列にマッピングする。この方式では、ターゲット列は、ソース列からの値でデータが設定されます。この方式は、層 2 の **IBMSNAP_%** 列が層 1 のリカバリー・ログからデータを設定され、次に、その値がレプリケーションされて層 3 の列に設定されるという 3 層構成で使用できます。

IBMSNAP_% 列の 1 つの名前のソース列がある場合、TYPE CCD キーワードは使用できません。

ユーザーの処置: CREATE QSUB コマンドを、ターゲットが通常ユーザー表であることを示すために TYPE CCD オプションを除外して再発行します。ソース表の **IBMSNAP_%** 列を、対応するターゲット列にマップします。この方式は確実に、**IBMSNAP_%** 列が、ログからではなくソース表からのものになるようにします。

ASN2503E DB2 バージョン、アーキテクチャー・レベル、あるいはソース・サーバーまたはターゲット・サーバーの互換性設定のために、ALTER ADD COLUMN コマンドで **TARGET** キーワードがサポートされていません。理由コードは *reason_code*。

説明: ALTER ADD COLUMN コマンドでターゲット列名を指定するオプションは、以下のケースでのみ許可されます。

Linux、UNIX、Windows

ソース・サーバーまたはターゲット・サーバーが DB2 バージョン 9.7 フィックスパック 5 以上であり、IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列の値が 0907 以上である。

z/OS

Q キャプチャー・コントロール表または Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベル (IBMQREP_CAPPARMS または IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL 列) が 0907 以上で、IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 列の値が 0907 以上である。

理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

Q キャプチャー・サーバーが DB2 for Linux, UNIX, and Windows V9.7 FP5 以上にあり、COMPATIBILITY が 0907 より下である。

1

Q キャプチャー・サーバーが DB2 for Linux, UNIX, and Windows V9.7 FP4 以下にある。

2

Q キャプチャー・サーバーが DB2 for z/OS にあり、ARCH_LEVEL が 0907 より下である。

3

Q キャプチャー・サーバーが DB2 for z/OS にあり、COMPATIBILITY が 0907 より下である。

4

Q アプライ・サーバーが DB2 for Linux, UNIX, and Windows V9.7 FP4 以下にある。

5

Q アプライ・サーバーが DB2 for z/OS にあり、ARCH_LEVEL が 0907 より下である。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. Q キャプチャー・サーバー、Q アプライ・サーバーまたはその両方を、必要な互換性設定を持つ DB2 for Linux, UNIX, and Windows V9.7 FP5 以上にアップグレードするか、必要な互換性設定とアーキテクチャー・レベルを持つ DB2 for z/OS にアップグレードします。
2. コマンドを再実行します。

ASN2506E レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *subscription_name* を作成できません。それは、Q サブスクリプションに組み込まれるか、それから除外されるスキーマまたは表に指定された式 *expression* が無効であるためです。

説明: パーセンテージ記号 (%) をワイルドカードとして使用して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを指定することができます。また、Q キャプチャー・プログラムは、ワイルドカード式に一致する名前を使用して、スキーマ内のすべての表に自動的に Q サブスクリプションを作成します。ただし、ワイルドカードは、以下のキーワードを使用するときに、接尾部としてのみ指定できます。

- OWNER LIKE
- NAME LIKE
- EXCLUDE NAME

接頭部として使用されるワイルドカード (例えば、「%AN」または「%AN%」) はサポートされていません。また、EXCLUDE OWNER キーワードではワイルドカードは許可されていません。

ユーザーの処置: 許可されているワイルドカード式に変更して、CREATE SCHEMASUB コマンドを再発行してください。

ASN2508I REINIT SCHEMASUB コマンドが、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に対して処理されました。

説明: REINIT SCHEMASUB コマンドは、SQL スクリプトを生成して REINIT_SCHEMASUB シグナルを IBMQREP_SIGNAL 表に挿入するように、ASNCLP プログラムにプロンプトを出します。シグナルにより、Q キャプチャー・プログラムはスキーマ・レベルの Q サブスクリプションのために保存されているオプションを再読み取りします。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2509I REINIT SCHEMASUB コマンドがスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に対して処理されましたが、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションが非アクティブであるため、REINIT_SCHEMASUB シグナルを *schema.IBMQREP_SIGNAL* 表に挿入するスクリプトは生成されませんでした。

説明: REINIT_SCHEMASUB シグナルが処理されるためには、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションがアクティブ (A) 状態でなければなりません。

ユーザーの処置: START SCHEMASUB コマンドを発行してから、REINIT SCHEMASUB コマンドを発行してください。

ASN2510E *name* という名前のスキーマ・レベルの Q サブスクリプションが、スキーマ *schema* の下のサーバー *server* に存在しないので、削除できませんでした。

説明: 指定された Q サブスクリプション名が IBMQREP_SCHEMASUBS 表に存在しないため、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを削除しようとしたことが失敗しました。

ユーザーの処置: 既存のスキーマ・レベルの Q サブスクリプション名を指定して、アクションを再実行してください。

ASN2511E ターゲット表 *table_owner.table_name* 内の列 *column_name* のデータ・タイプ *data_type* が、必要とされるデータ・タイプ *required_data_type* と一致していないので、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプをこの列に入れることができません。

説明: ターゲット表がポイント・イン・タイム表の働きをするには、その表にタイム・スタンプ列がなければなりません。このタイプの表は、ソース・データベースでそれぞれの行変更がコミットされた時刻を保管します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの変更を加えた後に、Q サブスクリプションを作成するアクションを再実行してください。

- ターゲット表内の、TIMESTAMP データ・タイプを指定して定義されている別の列を使用します。
- タイム・スタンプ列が組み込まれている別のターゲット表を使用します。

ASN2512E ターゲット表 *table_owner.table_name* 内の列 *column_name* に、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプを追加できません。このターゲット列は、既に表 *table_owner.table_name* 内のソース列 *column_name* にマップされているからです。

説明: ターゲット表内の指定された列は既にソース列にマップされているので、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプを入れるためにこの列を指定することは

できません。タイム・スタンプは、ソース・データベースのリカバリー・ログから取得されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの変更を加えた後に、Q サブスクリプションを作成するアクションを再実行してください。

- ターゲット表内の別の適格な列を使用して、ソースのリカバリー・ログにマップします。
- 以下のように、ソース列マッピングを削除します。
 - TRGCOLS EXCLUDE オプションを使用して、ソース列への直接マッピングからターゲット列を除外します。
 - 既にこの列に TRGCOLS INCLUDE オプションを使用している場合は、含めるターゲットの列のリストからこの列を削除します。

ASN2513E ターゲット表またはニックネーム *owner.name* には、タイム・スタンプ列が含まれていないので、ポイント・イン・タイム表またはニックネームとして使用できません。

説明: ポイント・イン・タイム表またはニックネームには、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプを入れる追加の列が組み込まれています。このオプションを使用するには、ターゲット表またはニックネームに、TIMESTAMP データ・タイプを指定して定義された列が少なくとも 1 つなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- レプリケーション・センターで、この表またはニックネームの「Q サブスクリプションのプロパティ」ノートブックの「ソースおよびターゲット」ページで、「ポイント・イン・タイム」オプションを選択解除します。
- ターゲット表を変更し、タイム・スタンプ列を組み込んでから、アクションを再実行します。
- このターゲット表またはニックネームが含まれる Q サブスクリプションを作成しないようにします。

ASN2514E ターゲット表またはニックネーム *owner.name* に、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプを保管するのに適格な列がありません。この表またはニックネーム内のすべてのタイム・スタンプ列は、既にソース表の列にマップされています。

説明: ポイント・イン・タイム表またはニックネームには、ソース行が変更された時点のタイム・スタンプを入れる追加の列が組み込まれています。このオプションを使用するには、ターゲット表またはニックネームに、ソ

ース列にマップされていないタイム・スタンプ列が少なくとも 1 つなければなりません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの変更を加えた後に、Q サブスクリプションを作成するアクションを再実行してください。

- レプリケーション・センターで、「Q サブスクリプションのプロパティ」ノートブックの「ソースおよびターゲット」タブにある「ポイント・イン・タイム」チェック・ボックスのチェック・マークを外します。
- 以下のステップに従って、ターゲット表列のうちのタイム・スタンプ列の 1 つをポイント・イン・タイム・マッピングについて適格にします。
 1. 「列のマッピング」ページで、ターゲット表内のタイム・スタンプ列に関するソースとターゲットの間のマッピングを削除します。
 2. ターゲット列を選択し、「LOGMARKER にマップ」をクリックして、この列をソース・リカバリー・ログからの値にマップします。

ASN2515W フェデレーテッド・データベース *database_name* 上で、リモート表 *table_owner.table_name* の既存のニックネームが見つかりませんでした。新しいニックネーム *owner.name* が作成されます。

説明: フェデレーテッド・ターゲットに対して複数の Q サブスクリプションを作成すると、レプリケーション・センターは、作成されたターゲット・オブジェクト・プロファイルを使用して、既存のニックネームを使用するか、それとも新しいニックネームを作成するかを判別します。プロファイル内では既存のニックネームを使用するオプションが選択されていますが、レプリケーション・センターは IBM 以外のサーバー上の表を指す既存のニックネームを検出ませんでした。リモート表の新しいニックネームが作成されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN2516E ニックネーム *owner.name* がフェデレーテッド・データベース *database_name* 上にありますが、このニックネームは、Q サブスクリプションのターゲット表として指定されたリモート表 *table_owner.table_name* を指していません。

説明: フェデレーテッド・ターゲットに対して複数の Q サブスクリプションを作成すると、レプリケーション・センターは、作成されたターゲット・オブジェクト・プロファイルを使用して、既存のニックネームを使用するか、それとも新しいニックネームを作成するかを

ASN2517E

判別します。プロファイル内では既存のニックネームを使用するオプションが選択されており、プロファイルと一致するニックネームがフェデレーテッド・データベース上にあります。しかし、このニックネームはリモート・ターゲット表を指していません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 「Q サブスクリプションの作成」ウィザードの「ターゲット表」ページで「変更」をクリックしてから、「ターゲット・オブジェクト・プロファイル」ノートブック上で「既存のニックネームの使用」チェック・ボックスのチェック・マークを外します。これにより、レプリケーション・センターは、リモート・ターゲット表を指すニックネームを作成します。
- リモート・ターゲット表を指すニックネームを作成し、Q サブスクリプションでその既存のニックネームを使用します。

ASN2517E 複数のニックネームがリモート表 *table_owner.table_name* を指しているの
で、レプリケーション・センターは使用する
ニックネームを判別できません。

説明: フェデレーテッド・ターゲットに対して複数の Q サブスクリプションを作成すると、レプリケーション・センターは、作成されたターゲット・オブジェクト・プロファイルを使用して、既存のニックネームを使用するか、それとも新しいニックネームを作成するかを判別します。プロファイル内では既存のニックネームを使用するオプションが選択されていますが、「Q サブスクリプションのプロパティ」ノートブックを使用して、使用するニックネームを指定しなければなりません。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

- ウィザードの「Q サブスクリプションの検討」ページで、このリモート表を指定している Q サブスクリプションを選択し、「プロパティ」をクリックします。
- 「Q サブスクリプションのプロパティ」ノートブックの「ソースおよびターゲット」タブで、「既存のニックネーム」リストからニックネームを選択します。

ASN2523E Oracle ソース・データベースでは、レプリケーション・センターを使用して、レプリケーション・プログラムおよびイベント・パブリッシング・プログラムの開始や停止、および送信キューまたは受信キューの管理などの操作タスクを実行することはできません。

説明: Oracle ソース・データベースでは、レプリケーション・プログラムまたはパブリッシング・プログラムに対する操作を行うコマンドを実行するレプリケーション・センターの機能はサポートされません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムを開始するには、Oracle サーバー上でコンソールを開き、`asnoqcap` コマンドを使用してください。実行中の Q キャプチャー・プログラムに対してコマンドを発行するには、`asnoqcmd` コマンドを使用してください。

第 40 章 ASN3500 - ASN3999

ASN3750I 例外報告ツールが正常に開始されました。

説明: `asnqexrp` コマンドへの応答で、レプリケーションの例外報告ツールが正常に開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN3751I 例外報告ツールは、例外報告の生成の開始時刻として Q キャプチャー・プログラムの最新の開始時刻を使用します。

説明: デフォルトでは、例外報告ツールは、例外報告の開始時刻として最新の Q キャプチャーの開始時刻を使用します。ツールは報告の終了時刻として、すべての保留されていた変更がフェイルオーバー・サイトに送達され処理されたときのタイム・スタンプを使用します。

`asnqexrp` コマンドの `exception_report_start` パラメーターおよび `exception_report_end` パラメーターを使用して、開始時刻および終了時刻を変更できます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN3752I 例外報告ツールは例外報告の終了時刻として、すべての保留されていた変更がフェイルオーバー・サイトに送達され処理されたときのタイム・スタンプを使用します。

説明: デフォルトでは、例外報告ツールは、例外報告の開始時刻として最新の Q キャプチャーの開始時刻を使用し、例外報告の終了時刻としてすべての保留されていた変更がフェイルオーバー・サイトに送達され処理されたときのタイム・スタンプを使用します。 `asnqexrp` コマンドの `exception_report_start` パラメーターおよび `exception_report_end` パラメーターを使用して、開始時刻および終了時刻を変更できます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN3753I 例外 `exception_number` が、報告期間の開始 `exception_report_start` (`Q_Apply_time_zone`) と報告期間の終了 `exception_report_end` (`Q_Apply_time_zone`) の間の `duration` 時間中に検出されました。

説明: 例外報告ツールは、完了するまで実行され、`asnqexrp` コマンドが呼び出されたディレクトリー、また

はファイル・パラメーターによって指定されたディレクトリーに報告を生成しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。生成された例外報告を検討してください。

ASN3754I 報告期間の開始 `exception_report_start` (`Q_Apply_time_zone`) から報告期間の終了 `exception_report_end` (`Q_Apply_time_zone`) までの間の `duration` 時間中に、例外は検出されませんでした。

説明: 例外報告ツールは、完了するまで実行され、`asnqexrp` コマンドが呼び出されたディレクトリー、またはファイル・パラメーターによって指定されたディレクトリーに報告を生成しました。報告期間中に例外は検出されませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN3755E 例外報告ツールが開始したとき、無効なタイム・スタンプ `timestamp` が、`exception_report_start` パラメーターで使用されました。ツールは停止します。

説明: `exception_report_start` パラメーターでは、次の形式のいずれかを使用するタイム・スタンプが必要です: `YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.ssssss`、`YYYY-MM-DD-HH.MM.SS`、`YYYY-MM-DD-HH.MM`、`YYYY-MM-DD-HH`、および `YYYY-MM-DD`。

ユーザーの処置: ツールを再開し、有効な形式でタイム・スタンプを指定してください。

ASN3756E 例外報告ツールが開始されたとき、無効なタイム・スタンプ `timestamp` が、`exception_report_end` パラメーターで使用されました。ツールは停止します。

説明: `exception_report_end` パラメーターでは、次の形式のいずれかを使用するタイム・スタンプが必要です: `YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.ssssss`、`YYYY-MM-DD-HH.MM.SS`、`YYYY-MM-DD-HH.MM`、`YYYY-MM-DD-HH`、および `YYYY-MM-DD`。

ユーザーの処置: ツールを再開し、有効な形式でタイム・スタンプを指定してください。

ASN3757E 例外報告ツールが開始されたとき、無効なタイム・スタンプ *timestamp* が、**exception_report_end** パラメーターで使用されました。終了時刻は、開始時刻 *timestamp* とモニター・インターバル *interval_value* の合計より大きくなければなりません。ツールは停止します。

説明: 例外報告のエンドポイントを指定するとき、**exception_report_end** パラメーターに指定するタイム・スタンプは、1 つの Q アプライ・モニター・インターバル (**monitor_interval** パラメーターによって指定される) と少なくとも同じ長さでなければなりません。デフォルトの Q アプライ・モニター・インターバルは、z/OS では 60000 ミリ秒あるいは 1 分、Linux、UNIX、および Windows では 30000 ミリ秒あるいは 30 秒です。通常、例外報告期間は 1 つのモニター・インターバルよりかなり長くなります。

ユーザーの処置: ツールを再開し、タイム・スタンプを適切な値で指定してください。

ASN3758E 例外報告ツールは、保留されていたトランザクションをパブリッシュするために Q キャプチャーが開始されたときを表示するタイム・スタンプを判別できませんでした。報告が生成されましたが、報告に例外は示されていません。

説明: **asnqexpr** コマンドが発行されましたが、**exception_report_start** パラメーターまたは **exception_report_end** パラメーターに値が指定されませんでした。これらのパラメーターが指定されていないとき、例外報告ツールは、最新の Q キャプチャーの再開後に保留されていたトランザクションの送達中に発生した例外についての報告を、ユーザーが希望していると想定します。ただし、このタイプの報告を提供するためには、Q キャプチャーがいつ開始されたのかをツールが認識できなければなりません。最新の Q キャプチャーの開始のタイム・スタンプを含む ASN0572I メッセージが、障害のサイトの **IBMQREP_CAPTRACE** 表の **DESCRIPTION** 列で検出できませんでした。この状態では、ツールは例外についての情報が含まれていない報告を発行し、**exception_report_start** パラメーターまたは **exception_report_end** パラメーターの値として使用する可能性のある、最新の Q キャプチャーの開始のタイム・スタンプを提供します。

ユーザーの処置: 希望する例外報告のタイプに応じて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 一般的な例外報告 (原因がフェイルオーバー状態後の保留されていたトランザクションに制限されない例外を表示する報告) を生成するには、**asnqexpr** コマンド

を再発行し、**exception_report_start** パラメーターおよび **exception_report_end** パラメーターを指定します。これらのパラメーターは、例外報告時間枠の開始時刻および終了時刻を指定します。

- 保留されていたトランザクションの送達によって引き起こされた例外の報告を生成するには、**asnqexpr** コマンドを再発行し、フェイルオーバー後の Q キャプチャーの再開時刻を使用して、**exception_report_start** パラメーターを指定します。すべての保留されていたトランザクションがリパブリッシュされる前に、Q キャプチャーが複数回停止および開始された場合には、Q キャプチャーが開始された最初の時刻を指定します。

すべてのタイム・スタンプは、Q アプライ・サーバーのタイム・ゾーンになければなりません。

ASN3759E 例外報告ツールは、*timestamp* から *timestamp* の期間に

IBMQREP_APPLYMON 表でレコードを検出しなかったか、または Q アプライ・プログラムのモニター・インターバルを判別できませんでした。例外報告は生成されませんでした。

説明: 例外報告ツールは、この例外報告時間枠の **IBMQREP_APPLYMON** 表で行を検出できなかったの、報告を生成しませんでした。理由としては、以下のことが考えられます。

- asnqexpr** コマンドが発行される前に、Q アプライが開始されていませんでした。
- Q アプライ **monitor_interval** パラメーターの値が大きすぎます。
- asnqexpr** コマンドが発行される前、例外報告の開始時刻後に、Q アプライが **IBMQREP_APPLYMON** への挿入を実行していませんでした。

ユーザーの処置: 問題の理由に応じて、**asnqexpr** コマンドを再発行する前に、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ・プログラムを開始します。
- monitor_interval** を 60000 ミリ秒より小さい値に減らします。
- 3 回のモニター・インターバルを待ちます。

ASN3760W 例外報告時間枠の *timestamp* から *timestamp* までの間に Q アプライ・プログラムが停止されていたため、`asnxqrxp` コマンドによって生成された例外報告は、正確ではなく、未完成の可能性があります。Q アプライが `IBMQREP_APPLYMON` 表へのすべてのモニター統計の書き込みを終了する前に、この停止が発生した可能性があります。

説明: 例外報告ツールは、適用された可能性はあるものの `IBMQREP_APPLYMON` 表には報告されていないトランザクションを検出しました。以下の 2 つのことが発生した可能性があります。

- トランザクションまたは保留されていたトランザクションが適用される前に、Q アプライが停止しました。
- すべてのトランザクションまたは保留されていたトランザクションが適用されましたが、`IBMQREP_APPLYMON` 表の統計にはトランザクションのすべてが反映されているとは限りません。

ユーザーの処置: すべてのトランザクションまたは保留されていたトランザクションが適用される前に Q アプライが停止されたと思われる場合は、Q アプライを再開し、`IBMQREP_APPLYMON` 表の `ROWS_PUBLISHED` 列の値が、3 つの連続したモニター・インターバルに対して 0 になるまでそれを実行してください。この問題を今後回避するには、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ `monitor_interval` パラメーターの値を短くして、60000 ミリ秒より小さくなるようにします。
- Q アプライを停止する必要がある場合には、`IBMQREP_APPLYMON` 表の `ROWS_PUBLISHED` 列の値が、3 つの連続したモニター・インターバルに対して 0 になるまでそれを実行してください。

ASN3761W 例外報告ツールは、Q アプライ・プログラムがデータをまだ処理していることを検出しました。例外報告は正確ではなく、未完成の可能性があります。

説明: 例外報告ツールは、Q アプライが変更をまだ適用していることを判別しました。これらの変更のいくつかは、例外が発生する可能性のある保留されていたトランザクションである場合があります。そのため、ツールは完全な報告を提供できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- `exception_report_end` パラメーターにタイム・スタンプを指定して、`asnxqrxp` コマンドを再発行します。

- この警告メッセージが返されなくなるまで、`asnxqrxp` コマンドを再発行します。これを行うことにより、Q アプライが障害によって保留にされていたすべてのトランザクションの処理を完了したことを検証できます。

ASN3762W 例外報告ツールは、保留されていたトランザクションの処理を Q アプライ・プログラムがいつ終了したかを判別できませんでした。例外報告時間枠の終了時刻の値は、報告内に N/A として表示されます。

説明: 保留されていたトランザクションの処理中に発生したすべての例外の報告を作成するために、ツールは Q アプライ・プログラムからの情報を必要とします。以下の問題が発生した可能性があります。

- フェイルオーバー・サイトで、`IBMQREP_APPLYMON` 表に行がありません。そこでは、`ROWS_NOT_APPLIED` の値または `ROWS_APPLIED` の値がゼロより大きく、`MONITOR_TIME` が例外報告時間枠の開始時刻より後になっています。
- Q アプライ・プログラムがまだ実行されています。

ユーザーの処置: 問題の理由に応じて、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- `asnxqrxp` コマンドを再発行して、`exception_report_start` パラメーターにおおよそのタイム・スタンプを指定します。
- 3 回の Q アプライ・モニター・インターバルを待つから、`asnxqrxp` コマンドを再発行します。
- `exception_report_start` パラメーターおよび `exception_report_end` パラメーターを使用して `asnxqrxp` コマンドを再発行し、例外報告時間枠の開始時刻と終了時刻の両方を指定します。

第 41 章 ASN4000 - ASN4499

ASN4003E *program_name* : *program_identifier* : ソース列 *source_col* のデータ・タイプまたは長さターゲット列 *target_col* のデータ・タイプまたは長さに互換性がありません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、タイプ、精度、および長さが等しい列を比較していることを確認してください。

ASN4004E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL エラーを検出しました。関数名は *function_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。

説明: プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、負の SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、SQLCODE が検出されたときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

ASN4005E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL 警告を検出しました。関数名は *function_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。

説明: プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、警告 SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、SQLCODE が検出されたときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレー

ティング・システムの DB2 データベース・マネージャのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

ASN4006I *program_name* : *program_identifier* : ソース表とターゲット表の間に、*common_rows* 個の共通行、*source_rows* 個のソース表でユニークな行、および *target_rows* 個のターゲット表でユニークな行があります。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 相違表の詳細情報を確認してください。必要な場合、asntrep コマンドを実行して表を同期してください。

ASN4007E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが誤ったサブスクリプション定義を見つけました。理由コード: *reason_code*。

説明: 可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

1. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列に指定されたキー欄が、ターゲット表にありません。
2. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表に、ターゲット表の表列が見つかりません。

ユーザーの処置: 詳細については、アナライザーを実行して、サブスクリプション定義の修正に役立ててください。レプリケーション管理ツールを使用して、サブスクリプション定義を修正してください。asntdiff または asntrep コマンドを再実行してください。

ASN4008E *program_name* : *program_identifier* : WHERE パラメーター *where_clause* が原因で DB2 PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。

説明: 指定された WHERE パラメーターが原因で SQL PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。このステートメントは、SQL レプリケーションに関する IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表または Q レプリケーションに関する IBMQREP_TARGETS

ASN4009E

表から行を選択して、ターゲット表の名前を取得するのに必要です。

ユーザーの処置: 対話式コマンド行プロセッサを使用して、適切なコントロール表 `IBMSNAP_SUBS_MEMBR` または `IBMQREP_TARGETS` に関する `WHERE` 節をデバッグしてください。 `WHERE` パラメーター中に有効な `WHERE` 節を使用して、コマンドを再実行してください。

ASN4009E *program_name : program_identifier :* ソース表から取り出された行が、動的照合の順序でありませんでした。プログラムが停止されました。

説明: ソース表から行を取り出すために使用されたカーソルによって取り出された行が、順序どおりではありませんでした。この問題は、ソース表におけるキー列の実際の照合が、相違表を使用して決定された想定される照合順序と一致していないために発生します。ソース表を含む表スペースとは異なる属性を持つ表スペースで、相違表が作成された可能性があります。あるいは、ソースとターゲットで日付またはタイム・スタンプの形式が異なっている可能性もあります。

ユーザーの処置: 正しい表スペースに相違表を作成する方法については、技術情報『`asntdiff` を実行する場合のコード・ページと表スペースに関する考慮事項』を参照してください。

表に日付またはタイム・スタンプのフォーマットが含まれる場合は、技術情報『ソース表とターゲット表が等しいときに `asntdiff` の結果としてすべての行の `DIFF` 列が `asn4009e` または値「U 2」になるのはなぜですか?』を参照してください。

ASN4010I *program_name : program_identifier :* ソース表とターゲット表の間で見つかった違いの数: *number*。詳細は、データベース *source_DB* 中の相違表 *difference_table* にあります。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 相違表を確認して、必要な場合は `asntrep` コマンドを実行して違いを修正してください。

ASN4011I *program_name : program_identifier :* ソース表とターゲット表の間に違いが見つかりませんでした。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN4012I *program_name : program_identifier :* プログラムは、このメッセージの後に示されるパラメーターのリストを使用して、表を比較しています。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN4013E *program_name : program_identifier :* **WHERE** 節が無効なので、プログラムが停止されました。この節は、*number_of_rows* 個のサブスクリプション・メンバーまたは **Q** サブスクリプションを戻しました。

説明: `WHERE` パラメーターに指定された節が、`IBMSNAP_SUBS_MEMBR` または `IBMQREP_TARGETS` 表から行を戻さなかったか、または複数の行を戻しました。

ユーザーの処置: 対話式コマンド行プロセッサを使用して、適切なコントロール表 `IBMSNAP_SUBS_MEMBR` または `IBMQREP_TARGETS` に関する `WHERE` 節をデバッグしてください。 `WHERE` パラメーター中に有効な `WHERE` 節を使用して、コマンドを再実行してください。

ASN4014E *program_name : program_identifier :* ソース表の構造 *source_structure* はサポートされていません。

説明: 次のソース表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされています。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ **Q** レプリケーション用にサポートされています。

ユーザーの処置: `WHERE` 節に変更を加えて、サポートされているソース構造を選択し、`asntdiff` または `asntrep` コマンドを再実行してください。

ASN4015E *program_name : program_identifier :* ターゲット表の構造 *target_structure* はサポートされていません。

説明: 次のターゲット表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされています。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ **Q** レプリケーション用にサポートされています。

ユーザーの処置: `WHERE` 節に変更を加えて、サポートされているターゲット構造を選択し、`asntdiff` または

asntrep コマンドを再実行してください。

ASN4018E *program_name* : *program_identifier* : 相違表 *table_owner.table_name* はすでにデータベース *database_name* に存在し、その列はソース表のキー列との互換性がありません。

説明: 相違表はすでに存在し、asntdiff プログラムはその表を再利用して相違を書き込もうとしています。その表のキー列情報は、asntdiff プログラムが実行される現在のソース表のキー列と一致しません。

ユーザーの処置: 相違表を削除するか、またはパラメーター DIFF_DROP=Y を指定して asntdiff プログラムを呼び出してください。

ASN4019I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは相違表からの行を次のようにターゲット表に適用しました: *number* 行は挿入され、*number* 行は更新され、*number* 行は削除されました。

説明: メッセージは、ターゲット表をソース表と同期するために、ターゲット表に適用された相違を要約しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN4020I *program_name* : *program_identifier* : このサブスクリプションで **SUPPRESS_DELETES** 列の値が **Y** に設定されているため、*number* の削除は無視されました。

説明: サブスクリプションの SUPPRESS_DELETES 値が Y の場合、asntdiff プログラムはターゲットにユニークの行を無視し、相違を報告しません。

SUPPRESS_DELETES=Y は、サブスクリプションの削除を処理しないよう、Q キャプチャーと SQL キャプチャーにプロンプトを出します。これによって、ターゲット表には行が存在し、ソース表には存在しないことになる場合があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN4021E *program_name* : *program_identifier* : 相違表 *table_owner.table_name* がクラシック・レプリケーション・サーバー *server_name* がありません。プログラムが停止されました。

説明: asntdiff ユーティリティーを実行するために必要

な相違表がクラシック・レプリケーション・サーバーにありません。このユーティリティーは、相違表を自動的に作成しません。表は、手動で作成する必要があります。

ユーザーの処置: クラシック・レプリケーション・サーバーで相違表を作成し、asntdiff コマンドを発行してください。

ASN4022E *program_name* : *program_identifier* : *number* 個のキーがファイルにスビルされた後で、スビル・キー・ファイル *spill_filename* が入っているファイル・システムがスペース不足になりました。プログラムが停止されました。

説明: asntdiff ユーティリティーは、メモリー限度に到達したときは、ソース表から読み取ったキーを一時的にディスクにスビルします。このユーティリティーがキーを書き込んでいる時に、このスビル・ファイルが入っているファイル・システムがスペース不足になりました。スビル・ファイルにすべてのキーを書き込めない場合、asntdiff ユーティリティーは続行できません。デフォルトで、このユーティリティーはスビル・ファイルを一時ディレクトリーに作成します。

ユーザーの処置: キーのスビルに使用されているファイル・システムの一時ディレクトリーでスペースを解放するか、または *diff_path* パラメーターを付けて asntdiff ユーティリティーを呼び出し、さらにスペースがあるディレクトリーを指定してください。一時ファイルのパスを表示するには、asntdiff コマンドに DEBUG=Y オプションを付けて実行します。

ASN4023E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL エラーを検出しました。関数名は *function_name*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。

説明: プログラムがクラシック・サーバーに対して ODBC/CLI ステートメントを実行した際に、SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、エラーが発生したときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

ユーザーの処置: この SQLCODE の説明および修正アクションについては、IBM WebSphere Classic インフォメーション・センターでクラシック・システムのメッセージについて参照してください。プログラムがこのメッセージの後に別のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行番

ASN4024E

号と関数名は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

ASN4024E *program_name : program_identifier :* 修理表 *table_owner.table_name* が既にデータベース *database_name* に存在し、その列がデータベース *database_name* の相違表 *table_owner.table_name* の列と非互換です。

説明: ターゲット・データベースにある修理表はソース・データベースにある相違表のコピーで、削除されるキーのみを含みます。このインスタンスでは、修理表は以前の `asntrep` コマンド呼び出し時から既に存在していますが、この表には非互換の列が含まれています。

ユーザーの処置: 修理表を削除してから `asntrep` コマンドを再発行するか、コマンドにパラメーター `DIFF_DROP=Y` を付けて発行してください。

ASN4026E *program_name : program_identifier :* **RANGECOL** オプションの解析時にエラーが起きました。 `asntdiff` プログラムは停止しました。

説明: **RANGECOL** オプションが指定されましたが、構文が誤っていました。

ユーザーの処置: 正しい **RANGECOL** 構文を指定してください。

ASN4027E *program_name : program_identifier :* **RANGECOL** オプションで指定したソース列の **SQL データ・タイプ**は無効です。有効なデータ・タイプは、**DATE**、**TIME**、または **TIMESTAMP** です。

説明: **RANGECOL** オプションで誤った列を指定したか、または指定した列のデータ・タイプが誤っています。

ユーザーの処置: **DATE**、**TIME**、または **TIMESTAMP** のデータ・タイプのソース列を指定し、プログラムを再実行してください。

ASN4028E *program_name : program_identifier :* **IBMTDIFF_REFRESH** 表へのアクセス中に、エラーが検出されました。 `sqlcode` は `sql_code`。

説明: **ASNTDIFF** プログラムが **RANGECOL** オプションの処理のために **IBMTDIFF_REFRESH** 表へのアクセスを試みたときに、DB2 からエラーが戻されました。

ASN4029E *program_name : program_identifier :* **IBMTDIFF_REFRESH** 表の **UPTO_VALUE** 列が設定されていませんでした。

説明: **REFRESHONLY** オプションを使用するには、**IBMTDIFF_REFRESH** 表内の **UPTO_VALUE** 列を最初に設定しておく必要があります。

ユーザーの処置: **FROM:**、**TO:**、または **FROM:** と **TO:** **RANGECOL** オプションを使用して **ASNTDIFF** プログラムを実行すれば、**UPTO_VALUE** を初期化できます。あるいは、**IBMTDIFF_REFRESH** 表に **UPTO_VALUE** 列の値を挿入してから **REFRESHONLY** オプションを指定して `asntdiff` を実行し直すこともできます。

ASN4030I *program_name : program_identifier :* **RANGECOL** オプションを使って起動された `asntdiff` プログラムは、*timestamp* から *timestamp* までの行を処理しました。スキーマは *schema*。サブスクリプション名は *subscription_name*、処理された行数は *number* です。

説明: このメッセージは、**RANGECOL** オプションを使って実行した `asntdiff` プログラムの結果をレポートします。実行が正常に完了しなかった場合、処理された行数は -1 に設定されます。

ユーザーの処置: 処理された行数が -1 の場合、`asntdiff.log` ファイルを調べて、実行が正常に完了しなかった理由を説明しているエラー・メッセージを確認してください。

ASN4031E *program_name : program_identifier :* **RANGECOL** パラメーターに対して指定したソース列 *column_name* に関連したターゲット列名は、ターゲット表内で見つかりませんでした。

説明: `asntdiff` プログラムは、**IBMQREP_TRG_COLS** 表 (Q レプリケーション) または **IBMSNAP_SUBS_COLS** 表 (SQL レプリケーション) でターゲット列を見つけられませんでした。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、Q サブスクリプションまたはサブスクリプション・セット・メンバーを定義し直し、正しいターゲット列がソース列にマップされるようにしてください。

ASN4034W *program_name : program_identifier :*
asntdiff プログラムが、精度が異なる
TIMESTAMP 列を比較しました。その比
 較でプログラムは、精度が一致するよう
 に、データベース *database_name* 内の列
column_name の値を切り捨て、データ長
 が *data_length* になるようにします。

説明: **TIMESTAMP** 列を比較するとき精度が異なる
 場合、**asntdiff** は、精度の高い方の列を対応する列の精
 度に合わせてから、その値を使って比較します。例え
 ば、**TIMESTAMP(12)** および **TIMESTAMP(6)** として定
 義された列を比較する場合、**asntdiff** はそのどちらも
TIMESTAMP(6) として扱い、列値に相違があればレポ
 ートします。

ユーザーの処置: **asntdiff** コマンドの結果を解釈する場
 合は、データ切り捨てを考慮に入れてください。**asntdiff**
-f オプションを使用すれば、比較のために
TIMESTAMP 列を特定の精度に明示的にキャストできま
 す。

ASN4035W *program_name : program_identifier :* デー
 タベース *database_name* では
VARCHAR2 サポートが有効にされてい
 ます。**asntdiff** プログラムは、このデー
 タベースで **NULL** 値と空ストリングとを区
 別できません。

説明: **VARCHAR2** サポートが有効になっている場合、
 データベースは **NULL** 値と空の文字ストリングとを同
 等に扱います。**VARCHAR2** サポートが有効になってい
 ない別のデータベースとの間で文字データを比較する
 と、**asntdiff** プログラムは **NULL** 値と空ストリングを異
 なる値として扱い、相違に対してフラグを立てます。例
 えば、**VARCHAR2** サポートが有効になっているデー
 タベースでは空ストリングが **NULL** 値に変換されるの
 で、2 つのデータベースの間では空ストリングが異なる
 値として扱われます。

ユーザーの処置: **asntdiff** コマンドの結果を解釈する場
 合は、これらの相違を考慮に入れてください。

ASN4038W *program_name : program_identifier :* **Q** サ
 ブスクリプション *name* に関する変更条
 件が検出されました。報告される相違は、
 この述部の結果である可能性があります。

説明: 変更条件では、**Q** キャプチャー・プログラムが
 変更を複製またはパブリッシュするときに行が作成され
 た方法についての情報をフィルター操作するために、
\$OPERATION、**\$AUTHID** などのログ・レコード変数
 を使用できます。検索条件とは異なり、変更条件はソース
 表からの情報を参照しないため、**asntdiff** では、いくつ

かの行の表示がソースとターゲットの間で異なる可能性
 があります。

ユーザーの処置: **Q** キャプチャーによって使われてい
 る変更条件の影響により多数の操作が行われると考えら
 れる場合には、表を修復するために **asntrep** ユーティリ
 ティーを使用しないでください。この方法でターゲット
 表を修復すると、ソースにおけるフィルタリングの効果
 が取り消されます。

第 42 章 ASN5000 - ASN5499

ASN5101I **MONITOR** *monitor_qualifier*。レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。

説明: このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが正常に開始された後に表示されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5102I **MONITOR** *monitor_qualifier* : レプリケーション・アラート・モニターのバージョン *version_number* のプログラムは正常に初期化されて、*number* アラート条件をモニターしています。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5103I **MONITOR** *monitor_qualifier*。レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、正常に再初期化され、*number-of-alert-conditions* のアラート条件をモニター中です。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に再初期化されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5104W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
number-of-alert-conditions のアラート条件は無視されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、初期化または再初期化されました。一部の無効なアラート条件は、直前に発行されたメッセージで通知されたように、除外されている可能性があります。

ユーザーの処置: 除外されたアラート条件に関するメッセージについては、IBMSNAP_CAPTRACE 表を調べてください。

ASN5107I **MONITOR** *monitor_qualifier*。レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは停止されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは終了されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5108W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、E-mail 通知を送信できません。

説明: EMAIL_SERVER パラメーターの値を指定せずにレプリケーション・アラート・モニターを開始しました。IBMSNAP_MONPARMS 表の EMAIL_SERVER 列が空です。レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

ユーザーの処置: アラートの E-mail 通知を受信する場合には、EMAIL_SERVER の値を設定して、レプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

ASN5109W **MONITOR** *monitor_qualifier*。
EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、**MONITOR_ERRORS** パラメーターが無視されました。

説明: レプリケーション・アラート・モニターを開始しましたが MONITOR_ERRORS パラメーターは EMAIL_SERVER パラメーターに値が指定されていないために無視されました。MONITOR_ERRORS パラメーターには EMAIL_SERVER パラメーターが必要です。レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

ユーザーの処置: アラートが発生した時に E-mail による通知が必要な場合には、MONITOR_ERRORS パラメーターと EMAIL_SERVER パラメーターを設定してレプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

ASN5111I **MONITOR** *monitor_qualifier*。
number-of-rows 個の行が、表 *schema.table-name* から *timestamp* に整理されました。

ASN5117E

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、IBMSNAP_ALERTS 表または IBMSNAP_MONTRACE 表から行を整理しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5117E **MONITOR** *monitor_qualifier*。モニター・サーバー *monitor_server* で、モニター修飾子に対して有効なアラート条件がありません。

説明: レプリケーション・エラー・モニター・プログラムは、このモニター修飾子に対するアラート条件を検出できません。

ユーザーの処置: *monitor_qual* パラメーターで使用されているモニター修飾子が正しいことを確認し、アラート条件が使用可能になっているか調べてください。また、これ以前に発行されたメッセージをすべて調べてください。

ASN5118E **MONITOR** *monitor_qualifier*。プログラムは、モニター・コントロール・サーバー *server_name* に接続できません。
SQLCODE は *sqlcode*、**SQLSTATE** は *sqlstate* です。

説明: モニター・プログラムは、モニター・コントロール・サーバーに接続しようとしたが失敗し、対応する **SQLCODE** が戻されました。

ユーザーの処置: この **SQLCODE** に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

ASN5119E **MONITOR** *monitor_qualifier*。プログラムは、サーバー *server_name* に接続できません。
SQLCODE は *sqlcode*、**SQLSTATE** は *sqlstate* です。

説明: SQL CONNECT ステートメントは、モニター・プログラムがモニター対象のキャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーに接続しているときに失敗しました。

ユーザーの処置: この **SQLCODE** に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

ASN5121E **MONITOR** *monitor_qualifier*。コンポーネント *component*、サーバー *server*、スキーマまたは修飾子 *schema_or_qualifier*、および条件名 *condition* のアラート条件に対して、連絡先が存在しません。

説明: 指定された連絡先は、このアラート条件では

IBMSNAP_CONTACTS 表に存在していません。

ユーザーの処置: 連絡先情報を検証して、アラート条件を訂正してください。

ASN5122E **MONITOR** *monitor_qualifier*。連絡先グループ *group-name* は、存在しないか、または空です。コンポーネントは *component*、サーバーは *server*、スキーマまたは修飾子は *schema_or_qualifier*、および条件名は *condition* です。

説明: アラート条件に指定された連絡先グループが、IBMSNAP_CONTACTGRP 表の中に対応する連絡先を持たないか、またはIBMSNAP_CONTACTGRP 表に存在していません。連絡先グループを空にすることはできません。

ユーザーの処置: このグループの連絡先を検証して、アラート条件を訂正してください。

ASN5123E **MONITOR** *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* に関する表 *table_name* が見つかりませんでした。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。条件名は *condition_name*。

説明: モニター・プログラムが、プログラムで使用されているサーバーに関する条件のモニターの試行中に、表を見つけれませんでした。

ユーザーの処置: この表がサーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

ASN5124E **MONITOR** *monitor_qualifier*。表 *table-name* を検出できません。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セット名は *set-name*。条件名は *condition-name*。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、表を検出できません。

ユーザーの処置: この表がアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

ASN5125E **MONITOR** *monitor_qualifier*。アプライ修飾子 *apply-qualifier* またはサブスクリプション・セット *set-name* を検出できません。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、アプライ修飾子またはサブスクリプション・セットを検出できません。

ユーザーの処置: このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットがアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

ASN5126E MONITOR *monitor_qualifier*. 通知の送信中にエラーが発生しました。 戻りコードは *rc* です。

説明: アラート通知の送信時に、ASNMAIL 出口がエラーを戻しました。 このエラーの理由には、以下が含まれます。

1

SMTP プロトコルが失敗しました。 E メール・サーバーのアドレスを管理者に確認してください。

2

SMTP ソケットが失敗しました。 E メール・サーバーまたはクライアントの構成を検証してください。

3

E メール・アドレスが無効です。 E メール・アドレスを検証してください。

4

ソフトウェア・エラー。

99

ASNMAIL 出口が見つかりません。

ユーザーの処置: 戻りコード 1 および 2 の場合は、ご使用の E メール・サーバーとクライアントの構成を検証してください。 戻りコード 3 の場合は、E メール・アドレスが正しいか調べてください。 戻りコードが 99 の場合は、ASNMAIL 出口が正しくインストールされていることを確認してください。

ASN5127E MONITOR *monitor_qualifier*. 無効な値 *value* が、表 *table-name* の列 *column-name* に存在します。

説明: このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、プログラムの初期化中に、無効な値を含む列を検出したことを示しています。

ユーザーの処置: 示された表の列定義の値を検証してください。

ASN5128W MONITOR *monitor_qualifier*. 表 *table_name* から行が欠落しているのに、アラート条件が処理されませんでした。 条件名は *condition_name*。 サーバーは *server_name*。 スキーマまたは修飾子は *schema_or_qualifier*。

説明: アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは指定された表で必要な行を見つけられませんでした。 アラート条件に関する行の要件は次のとおりです。

- CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件では、IBMSNAP_RESTART 表に 1 行以上必要です。
- CAPTURE_LATENCY アラート条件では、IBMSNAP_REGISTER 表中のグローバル行 (GLOBAL_RECORD = Y) を読み取る必要があります。
- APPLY_SUBSDELAY および APPLY_SUBSINACT アラート条件では、IBMSNAP_SUBS_SET 表にアプライ修飾子の行が 1 行以上指定されている必要があります。
- QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件では、IBMQREP_SUBS 表にサブスクリプション名の行が 1 行必要です。
- QAPPLY_QDEPTH および QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件では、IBMQREP_APPLYPARMS 表に 1 行必要です。

ユーザーの処置: レプリケーション・プログラム (キャプチャー、アプライ、Q キャプチャー、または Q アプライ) が適切な設定で実行していることを確認してください。アラート条件が正しく指定されていることも確認してください。スキーマ名かサーバー名が誤っている可能性があります。

ASN5129I MONITOR *monitor_qualifier*. サーバー *server-name* 上のレプリケーション・アラート・モニターは、E メール・アラートを報告しました。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが E メール・アラートを送信しました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5130I MONITOR *monitor_qualifier*. *capture_message*. キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture-server*。 スキーマは *schema*。 モニター・コントロール・サーバーは *monitor-server*。

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、CAPTURE_ERRORS または

ASN5131I

CAPTURE_WARNINGS 条件の処理時に、IBMSNAP_CAPTRACE 表からキャプチャー・プログラム・メッセージを検索しました。

ユーザーの処置: そのキャプチャー・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。また、キャプチャー・コントロール・サーバーから出力されたエラーまたは警告がないかどうか調べてください。

ASN5131I **MONITOR** *monitor_qualifier*. *apply_message*. **アプライ・コントロール・サーバー**は *apply-server*. **アプライ修飾子**は *apply-qualifier*. **モニター・コントロール・サーバー**は *monitor-server*.

説明: レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、APPLY_SUBSFALING、APPLY_ERRORS、または APPLY_WARNINGS アラート条件の処理時に、IBMSNAP_APPLYTRAIL または IBMSNAP_APPLYTRACE 表からアプライ・プログラム・メッセージを検索しました。

ユーザーの処置: そのアプライ・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。また、アプライ・コントロール・サーバーから出力されたエラーまたは警告がないかどうか調べてください。

ASN5133I **MONITOR** *monitor_qualifier*. 現在までの *number_of_minutes* 分の間に、以下のアラート *message_number* が *number_of_times* 回、発生しました。このアラートの通知は延期されます。

説明: このメッセージは、MAX_NOTIFICATIONS_MINUTES パラメーターに指定した分数 (デフォルトは 60 分) の間に、アラートが、MAX_NOTIFICATIONS_PER_ALERT パラメーターに指定した回数 (デフォルトは 3 回) だけ発生した後に発行されます。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5134I **MONITOR** *monitor_qualifier*. **アラート**が発行されました。

説明: このメッセージのテキストは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムによって送信された E メール・アラートのサブジェクト行に表示されません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5135W **MONITOR** *monitor_qualifier*. *lower_bound_time* と *upper_bound_time* の間に、サーバー *server_name* で発生したアラート *number_of_alerts* が多すぎます。スキーマまたは修飾子は *schema_qual_name*、条件名は *condition_name*.

説明: アラート・モニターが、モニター・サイクルで許可されているアラートの最大数 (1024) に達したか、またはそれらのアラートにメモリーを割り振れません。アラート・モニターは通知を送信し、モニター・コントロール・サーバーを更新し、次の条件からサーバーに再接続します。指定されたアラート条件の一部のアラートが送信されず、モニター・コントロール・サーバーに挿入される可能性があります。

ユーザーの処置: サーバーでアラート条件を直接検証して、アラートが失われたかどうかを調べてください。

ASN5136W **MONITOR** *monitor_qualifier*. **DAS** コンポーネントの呼び出しでエラーが発生しました。戻りコードは、スキーマまたは修飾子 *schema_qual_name* および条件名 *condition_name* に関して、サーバー *server_name* の場合、*rc* です。

説明: 示されたサーバーで条件名を処理中に、DAS コンポーネントがエラーを戻しました。

ユーザーの処置: クライアントとリモート・サーバーの両方で DAS が正しく実行されていることを確認してください。

ASN5137E **MONITOR** *monitor_qualifier*. **WebSphere MQ API** の呼び出し中に、エラーが発生しました。条件名は *condition_name*。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。キュー・マネージャーは *queue_manager*。キュー名は *queue_name*。**MQI API** は *mqi_api_name*。理由コード: *reason_code*.

説明: 失敗理由コードが WebSphere MQ API によって生成されました。次のような理由が考えられます。

- 指定されたサーバーで WebSphere MQ が停止しました。
- キュー・マネージャーが開始されていません。
- キュー名が存在しません。

モニター・プログラムがアクションを完了できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたサーバーで WebSphere

MQ が実行していることと、キュー・マネージャーやキュー名などの必要なオブジェクトが存在していることを確認してください。

ASN5150W **MONITOR** *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* は実行されていません。サーバーは *server_name*、スキーマは *schema* です。

説明: アラート条件 STATUS は、このメッセージ中で指定されているプログラムが実行されていないことを示しています。

ユーザーの処置: 示されたサーバーで、プログラムの状況を確認してください。

ASN5151W **MONITOR** *monitor_qualifier*。キャプチャー・プログラムの最後のコミット以降の経過時間が、しきい値を超えています。キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture-server*。スキーマは *schema*。最後のコミット時刻は *time*。しきい値は *seconds* 秒。

説明: CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件で、現在のタイム・スタンプ値と IBMSNAP_RESTART 表の MAX_COMMIT_TIME 列の値の差が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバーをチェックし、コミットの遅延の理由を判別してください。

ASN5152W **MONITOR** *monitor_qualifier*。現在のキャプチャー待ち時間がしきい値を超えています。キャプチャー・コントロール・サーバーは *capture_server*。スキーマは *schema*。キャプチャー待ち時間は *latency* 秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: CAPTURE_CLATENCY アラート条件で、IBMSNAP_RESTART 表の CURR_COMMIT_TIME 列値と MAX_COMMIT_TIME 列値の差が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバーをチェックし、キャプチャーの遅延の理由を判別してください。

ASN5153W **MONITOR** *monitor_qualifier*。待ち時間が、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。待ち時間は *latency* 秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: 次のいずれかが発生していると考えられます。

- CAPTURE_HLATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは IBMSNAP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と SYNCTIME 列値の差が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。
- QCAPTURE_LATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは IBMQREP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と CURRENT_LOG_TIME 列値の差が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5154W **MONITOR** *monitor_qualifier*。プログラム *program_name* によって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。使用されたメモリー量は *memory* バイト。しきい値は *threshold* MB。

説明: CAPTURE_MEMORY または QCAPTURE_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、メモリー使用量が増えすぎた理由を判別してください。必要に応じて、プログラムのメモリー制限パラメーターを変更してください。

ASN5155W MONITOR *monitor_qualifier*. **Q** アプライ・プログラムによって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。 **Q** アプライ・サーバーは *qapply_server*. **Q** アプライ・スキーマは *schema*. 受信キューは *queue_name*. 使用されたメモリー量は *memory* バイト。しきい値は *threshold* **MB**.

説明: QAPPLY_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPLYMON 表の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーをチェックし、メモリー使用量が増えすぎた理由を判別してください。必要であれば、指定された受信キューを使用するレプリケーション・キュー・マップの *memory_limit* パラメーターの値を大きくしてください。

ASN5156W MONITOR *monitor_qualifier*. トランザクションのサイズが、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*. スキーマは *schema*. トランザクションのサイズは *transaction_size* バイト。しきい値は *threshold* **MB**.

説明: CAPTURE_TRANSIZE または QCAPTURE_TRANSIZE アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: サーバーをチェックし、トランザクションのサイズが増えすぎた理由を判別してください。

ASN5157W MONITOR *monitor_qualifier*. **Q** サブスクリプション *subscription_name* は、非アクティブです。サーバーは *server_name*. スキーマは *schema*. 状態情報は *stateinfo*.

説明: QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_SUBS 表中に非アクティブな Q サブスクリプションを検出しました。

ユーザーの処置: サーバー上の IBMQREP_SUBS 表をチェックし、Q サブスクリプションが INACTIVE 状

態になった理由を判別してください。

ASN5160W MONITOR *monitor_qualifier*. アプライ・プログラムは実行されていません。アプライ・コントロール・サーバーは *apply_server*. アプライ修飾子は *apply_qualifier*.

説明: APPLY_STATUS アラート条件で、アプライ・プログラムが実行されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: 示されたアプライ・コントロール・サーバーで、アプライ・プログラムの状況を確認してください。

ASN5161W MONITOR *monitor_qualifier*. サブスクリプション・セットが非アクティブで、エラー状態にあります。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*. アプライ修飾子は *apply_qualifier*. サブスクリプション・セットの名前は *set-name*. 処理順序値は *wof*.

説明: APPLY_SUBSINACT アラート条件で、サブスクリプション・セットが非アクティブで、状況がゼロ (0) 以外であることが検出されました。

ユーザーの処置: サブスクリプション・セットがアクティブでなければならない場合、アプライ・コントロール・サーバーでこのサブスクリプション・セットを調べてください。

ASN5162W MONITOR *monitor_qualifier*. フル・リフレッシュが発生しました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*. アプライ修飾子は *apply_qualifier*. サブスクリプション・セットの名前は *set-name*. 処理順序値は *wof*.

説明: APPLY_FULLREFRESH アラート条件で、直前のモニター・サイクル中にターゲット表がリフレッシュされたことが検出されました。

ユーザーの処置: フル・リフレッシュがエラーの場合は、ここに示したターゲット表がフル・リフレッシュされた原因を検証してください。

ASN5163W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプションが、しきい値を超えるまで遅延されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。遅延時間は *time*、しきい値は *threshold* 秒です。

説明: APPLY_SUBSDELAYED アラート条件で、「CURRENT TIMESTAMP から LASTRUN を引いた値がしきい値より大きい」という条件に適合するサブスクリプション・セットが検出されました。

ユーザーの処置: これ以前のメッセージを調べて、このサブスクリプション・セットにエラーがあるか確かめて、アプライ・プログラムが実行されているか確認してください。

ASN5164W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプションの中で再加工された行が、しきい値を超えています。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。変更された行数は *rows*、しきい値は *threshold* 行です。

説明: APPLY_REWORKED アラート条件で、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の SET_REWORKED 列値が、示されたしきい値を超えているサブスクリプション・セットが検出されました。

ユーザーの処置: この行数が変更された理由を確認してください。

ASN5165W MONITOR *monitor_qualifier*。サブスクリプション・セットでトランザクションが拒否されました。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。処理順序値は *wof*。拒否されたトランザクションの数は *transactions*。

説明: APPLY_TRANSREJECT アラート条件で、このサブスクリプション・セットに関して拒否されたトランザクションが検出されました。

ユーザーの処置: これらのトランザクションが拒否された理由を確認してください。

ASN5166W MONITOR *monitor_qualifier*。手動フル・リフレッシュが必要です。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*。

説明: 示されたサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行する必要があります。

ユーザーの処置: フル・リフレッシュが必要な理由を確認してください。

ASN5167W MONITOR *monitor_qualifier*。エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えています。アプライ・コントロール・サーバーは *apply-control-server*。アプライ修飾子は *apply-qualifier*。サブスクリプション・セットの名前は *set-name*、エンドツーエンドの待ち時間は *latency* 秒、しきい値は *threshold* 秒です。

説明: APPLY_LATENCY アラート条件で、このサブスクリプション・セットのエンドツーエンドの待ち時間が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーを調べて、エンドツーエンドの待ち時間の値が大きくなりすぎた理由を判別してください。

ASN5168W MONITOR *apply_control_server*。サブスクリプション・セットの処理は、エラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバーは *control_server_name*、アプライ修飾子は *apply_qualifier*。

説明: レプリケーション・アラート・モニターは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表に以下の情報を持つ失敗したサブスクリプション・セットを検出しました。

- STATUS 列が 0 でも 2 でもない
- APPERRM 列が NULL

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバーにある IBMSNAP_APPLYTRAIL 表のデータを調べます。指定されたアプライ修飾子用の行に問題の原因を示す情報が含まれていない場合、IBM ソフトウェア・サポートと連絡を取ってください。

ASN5171W **MONITOR** *monitor_qualifier*. **Q** アプライ待ち時間がしきい値を超えています。サーバーは *server_name*。 **Q** アプライ・スキーマは *schema*。待ち時間は *latency* ミリ秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: QAPPLY_LATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPLYMON 表の APPLY_LATENCY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5172W **MONITOR** *monitor_qualifier*. エンドツーエンドの待ち時間が、**Q** アプライ・プログラムのしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。エンドツーエンドの待ち時間は *eelateny* ミリ秒。しきい値は *threshold* 秒。

説明: QAPPLY_EELATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_APPLYMON 表の END2END_LATENCY 列の値が、このアラート条件のしきい値を超えていることを検出しました。このしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

ユーザーの処置: Q アプライ・サーバーをチェックし、エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えている理由を判別してください。

ASN5173W **MONITOR** *monitor_qualifier*. **Q** アプライ・プログラムに関する例外が見つかりました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。受信キューは *queue_name*。理由コードは *reason_code*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_tokens*。

説明: QAPPLY_EXCEPTIONS アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_EXCEPTIONS 表中に行を検出しました。SQLCODE か SQLSTATE に、例外の理由が説明されています。

ユーザーの処置: サーバー上の QAPPLY_EXCEPTIONS 表をチェックし、例外の理由を判別してください。

ASN5174W **MONITOR** *monitor_qualifier*. **Q** サブスクリプション *subscription_name* および受信キュー *receive_queue_name* の予備キュー *spill_queue_name* の項目数が、しきい値を超えています。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。現行キュー項目数は *current_depth%*。しきい値は *threshold%*。

説明: QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、受信キューに関連した予備キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。

ユーザーの処置: 追加情報について、IBMQREP_APPLYTRACE 表を調べてください。さらに、使用可能な場合は IBMQREP_SPILLQS 表中のデータを調べてください。

ASN5175W **MONITOR** *monitor_qualifier*. キュー *queue_name* の項目数が、プログラム *program_name* のしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。現行キュー項目数は *current_depth%*。しきい値は *threshold%*。

説明: QAPPLY_QDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このパーセント単位で指定されたしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。現行の項目数をキューの最大項目数の属性で除算してから、100 を乗算すると、この値が求められます。

ユーザーの処置: プログラムが予期したとおりにこのキューに関するトランザクションを処理していることを確認してください。また、処理中のトランザクションのボリュームと比較してキューの大きさが十分であることも確認してください。

ASN5176I **MONITOR** : *monitor_qualifier* : サーバー *monitored_server* のモニターが *timestamp* に中断されました。モニター・サスペンションは *suspension_name* で、サスペンション・テンプレートは *template_name* です。

説明: モニター・サイクルは指定されたサスペンションおよびテンプレートの時刻、日付、および期間内にあるので、指定されたサーバーのすべてのモニター・アクティビティーが中断されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5177I MONITOR : *monitor_qualifier* : サーバー *monitored_server* のモニター・アクティビティが *timestamp* に再開されました。

説明: 指定されたサーバーに定義されているサスペンションのモニター・サイクルはすべて時刻、日付、または期間よりも後にあるので、指定されたサーバーの、以前に中断されたすべてのモニター・アクティビティが再開されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5178W MONITOR *monitor_qualifier* : 送信キュー *send_queue_name* は、非アクティブです。サーバーは *server_name*。Q キャプチャー・スキーマは *schema_name*。状態情報: *information*。

説明: QCAPTURE_SENDQ SINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_SENDQUEUES 表の STATE 列に非アクティブな送信キューを検出しました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツール、またはメッセージ・テキストで提供される状態情報を使用して、送信キューが Q キャプチャーにより INACTIVE 状態に置かれた理由を判別してください。

ASN5179W モニター *monitor_qualifier* : 受信キュー *receive_queue_name* は、非アクティブです。サーバーは *server_name*。Q アプライ・スキーマは *schema_name*。状態情報: *information*。状態時間: *timestamp*。

説明: QAPPLY_RECVQ SINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列に非アクティブな受信キューを検出しました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツール、またはメッセージ・テキストに示される状態情報を使用して、Q アプライにより受信キューが INACTIVE 状態になった理由を判別してください。

ASN5180W モニター *monitor_qualifier* : Q アプライ受信キュー *receive_queue_name* でのトランザクションのデッドロック再試行数がしきい値を超えました。サーバーは *server_name*。Q アプライ・スキーマは *schema_name*。現在のデッドロック再試行数は *number* です。デッドロック再試行のアラートしきい値は *threshold*。

説明: QAPPLY_DEADLOCKRETRIES アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、受信キューでのトランザクションのデッドロック再試行数がアラートしきい値を超えていることを検出しました。しきい値を決定する方法について詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『レプリケーション・アラート・モニターのアラート条件』を参照してください。

ユーザーの処置: 環境をチェックしてください。z/OS バッチ・ジョブが実行されている場合は、受信キューを含むレプリケーション・キュー・マップの MAXAGENT_CORRELID 値を、キュー・マップの NUM_APPLY_AGENTS の値の半分に更新します。これらの値はともに、IBMQREP_RECVQUEUES 表に指定されています。他の OLTP トランザクションについては、環境をチェックしてデッドロックの数を減らしてください。

ASN5181W モニター *monitor_qualifier* : トランザクション・サイズが、レプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップに指定された送信キューの最大メッセージ・サイズを超えたため、Q キャプチャー・プログラムがラージ・オブジェクト (LOB) 列のデータを送信しませんでした。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema_name*。送信キューは *queue_name*。最大メッセージ・サイズに収まらない大きさであったため、適用されずに拒否された LOB 列の数は *number* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムが LOB 値を含む行を処理しましたが、LOB データは、送信キューを含むレプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップの *max_message_size* に指定された値を超えているために、拒否されました。トランザクション・メッセージに対してデータが大きすぎます。

QCAPTURE_LOBSTOOBIG アラート条件が、*max_message_size* 値に収まっていないために送信されなかった LOB 列の数を検出しました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、レプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップの `max_message_size` 値を大きくしてください。また、WebSphere MQ 送信キューの MAXMSGL パラメーターのサイズも大きくする必要があります。 `max_message_size` パラメーターの値は、MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4 KB 小さくしてください。 `max_message_size` パラメーターの値を大きくできない場合は、IBMQREP_CAPPARMS 表の LOB_SEND_OPTION 値を S に設定することにより、トランザクション・メッセージの後に LOB メッセージで LOB 値を送信することができます。いずれの場合も、reinit コマンドを発行する必要があります。ソース表とターゲット表を同期するには、asntdiff および asntrep ユーティリティを実行します。

ASN5182W モニター `monitor_qualifier` : トランザクション・サイズが、レプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップに指定された送信キューの最大メッセージ・サイズを超えたため、Q キャプチャー・プログラムが XML 列のデータを送信しませんでした。サーバーは `server_name`。スキーマは `schema_name`。送信キューは `queue_name`。最大メッセージ・サイズに収まらない大きさであったため、適用されずに拒否された XML 列の数は `number` です。

説明: Q キャプチャー・プログラムが XML 値を含む行を処理しましたが、XML データは、送信キューを含むレプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップの `max_message_size` に指定された値を超えているために、拒否されました。トランザクション・メッセージに対してデータが大きすぎます。

QCAPTURE_XMLDOCSTOOBIG アラート条件が、`max_message_size` 値に収まっていないために送信されなかった XML 列の数を検出しました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、レプリケーション・キュー・マップまたはパブリッシング・キュー・マップの `max_message_size` 値を大きくしてください。また、WebSphere MQ 送信キューの MAXMSGL パラメーターのサイズも大きくする必要があります。 `max_message_size` パラメーターの値は、MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4 KB 小さくしてください。 `reinitq` コマンドを実行して Q キャプチャー・プログラムがキュー・マップの変更を読み取るようにします。ソース表とターゲット表を同期するには、asntdiff および asntrep ユーティリティを実行します。

ASN5183W モニター `monitor_qualifier` : Q キャプチャー・プログラムが、送信キューにメッセージを入れる再試行数のしきい値を超えました。Q キャプチャー・サーバーは `server_name`。スキーマは `schema_name`。WebSphere MQ 送信キューは `queue_name`。再試行数は `full_queue_retries` で、再試行のモニター・アラートしきい値は `threshold` です。

説明: Q キャプチャー・プログラムが、MQPUT コマンドを使用してメッセージを送信キューに入れることができませんでした。この条件は、いくつかの理由で発生します。

- Q アプライ・プログラムが受信キューのメッセージを処理していない。
- Q アプライ・プログラムが停止している。
- Q キャプチャー・プログラムが、WebSphere MQ が処理するよりも速くメッセージをキューに入れている。
- Q キャプチャー・プログラムの停止中に、ソース表に多くの変更が累積された。

このエラーは、多くの場合、キューを共有する環境で起こります。

QCAPTURE_QFULLNUMRETRIES アラート条件により、IBMSNAP_SENDQUEUES 表に QFULL_NUM_RETRIES 列値を持つ送信キューで、指定のしきい値を超えたものが検出されます。

ユーザーの処置: このメッセージの「説明」セクションにリストされた考えられる原因をチェックします。また、Q キャプチャー・プログラムが診断ログに出力した WebSphere MQ 理由コードを確認して、該当する処置を行います。

ASN5184E MONITOR `monitor_qualifier` : モニター・プログラムがプログラム `program_name` の状況を判別するためにモニター・コントロール表を照会していたとき、SQL エラーが起きました。モニター表名は `table_name`、サーバー名は `server_name`、SQLCODE は `sqlcode`、SQLSTATE は `sqlstate` です。

説明: モニター・プログラムが、プログラムの状況を調べるために、指定されたプログラムのモニター表にアクセスしようとしたときに、エラーが起きました。モニターは、状況を判別できませんでした。

ユーザーの処置: SQLCODE および SQLSTATE の情

報を使用して、問題を訂正してください。モニターの実行は継続します。

ASN5185E **MONITOR** *monitor_qualifier* : モニター・プログラムが、アプライ修飾子 *apply_qualifier* の付いたアプライ・プログラムの状況を判別するために、*table_name* 表を照会していたときに、SQL エラーが起きました。サーバー名は *server_name*、SQLCODE は *sqlcode*、および SQLSTATE は *sqlstate* です。モニターは、プログラムの状況を判別できませんでした。

説明: SQL エラーが起きたため、モニター・プログラムはコントロール表にアクセスしてアプライ・プログラムの状況を調べることができませんでした。モニターの実行は継続します。

ユーザーの処置: SQLCODE および SQLSTATE の情報を使用して、問題を訂正してください。問題の訂正後、指定されているアラート条件をプログラムの状況が満足していれば、モニター・プログラムはアラートを発行します。

ASN5190E **MONITOR** *monitor_qualifier*. ストアド・プロシージャ *stored_proc_name* の実行エラーが発生しました。条件名は *condition_name*。サーバーは *server_name*。スキーマは *schema*。理由コードは *reason_code*。SQLCODE は *sqlcode*。SQLSTATE は *sqlstate*。SQLERRMC は *sql_tokens*。

説明: モニター・プログラムは、指定されたストアド・プロシージャを実行できませんでした。SQLCODE と SQLSTATE に理由が説明されています。

ユーザーの処置: SQLCODE と SQLSTATE を調べてください。サーバーで、ストアド・プロシージャの定義が正しく指定されていることを確認してください。

ASN5191W **MONITOR** *monitor_qualifier*. *message*

説明: このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によって警告メッセージが発行されたときに表示されます。

ユーザーの処置: 発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

ASN5192E **MONITOR** *monitor_qualifier*. *message*

説明: このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によってエラー・メッセージが発行されたときに表示されます。

ユーザーの処置: 発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

ASN5193E **MONITOR** *monitor_qualifier*. サーバー *server_name* でストアド・プロシージャ *stored_proc_name* が見つかりませんでした。条件名は *condition_name*。スキーマは *schema*。

説明: アラート条件の処理中に、モニター・プログラムで必要なストアド・プロシージャがサーバーにありませんでした。

ユーザーの処置: 正しいサーバーで、メッセージ中に指定されたストアド・プロシージャ名に関する CREATE PROCEDURE ステートメントが発行されたことを確認してください。

ASN5194I **MONITOR** *monitor_qualifier* : モニター・プログラムは、モニター対象サーバー *server_name* について、*time_range* の時刻範囲内でアラート条件をモニターします。

説明: モニター・プログラムは、指定された時刻範囲内に起きるアラート条件をモニターします。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN5200E **ASNSCRT:** レプリケーション処理タイプは必須パラメーターなので、**asnsrt** コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: **asnsrt** コマンドが、指定されたレプリケーション処理タイプを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: レプリケーション処理タイプとして -C、-A、または -M を指定してコマンドを再入力してください。

ASN5201E **ASNSCRT:** データベース・インスタンスは必須パラメーターなので、**asnsrt** コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: **asnsrt** コマンドが、指定されたデータベース・インスタンスを使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: データベース・インスタンス名を指定

ASN5202E

して、コマンドを再入力してください。

ASN5202E ASNSCRT: レプリケーション処理パスは必須パラメーターなので、`asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたレプリケーション処理パスを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: `asncap`、`asnapply`、または `asnmon` コマンドへのパスを指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5203E ASNSCRT: キャプチャー・サーバーは必須パラメーターなので、`asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: キャプチャー・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5204E ASNSCRT: アプライ・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この `asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: アプライ・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5205E ASNSCRT: アプライ修飾子は必須パラメーターなので、この `asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたアプライ修飾子を指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: アプライ修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5206E ASNSCRT: モニター・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この `asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたモニター・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: モニター・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5207E ASNSCRT: モニター修飾子は必須パラメーターなので、この `asnsrct` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsrct` コマンドが、指定されたモニター修飾子を指定せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: モニター修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

ASN5208I ASNSCRT: レプリケーション・サービス `service_name` は、正常に作成されました。

説明: 示されたサービスが、`asnsrct` コマンドによって正常に作成されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5209I ASNSCRT: レプリケーション・サービス `service_name` は、正常に開始されました。

説明: 示されたサービスが、`asnsrct` コマンドによって正常に開始されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5210E ASNSCRT: レプリケーション・サービス `service_name` は、表示名がサービス・コントロール・マネージャー・データベースの中にすでに存在している (サービス名、または他の表示名として) ため、作成されませんでした。

説明: 表示名が、他のサービス名または表示名としてサービス・コントロール・マネージャー・データベースにすでに存在しているため、`asnsrct` コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャー・データベースの中から、重複したサービス名または表示名を持つサービスを除去してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5211E ASNSCRT: レプリケーション・サービス `service_name` は、指定されたサービス名が無効なために、作成されませんでした。

説明: システムの API が、サービス名が誤りであることを示すエラー・コードを戻したため、`asnsrct` コマンドによって、示されたサービスを作成できません。示され

たサービスのインスタンス名、データベース名、またはスキーマ名に特殊文字が含まれている可能性があります。サービス名に特殊文字は使用できません。

ユーザーの処置: 可能であれば、インスタンス名、データベース名、またはスキーマ名を変更してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5212E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名がすでに存在するために、作成されませんでした。

説明: 同じサービス名を持つ別のサービスが、サービス・コントロール・マネージャーの中にすでに存在するため、`asnsCRT` コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

ユーザーの処置: 同じサービス名を持つ古いサービスを除去してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5213E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、サービスのバイナリー・ファイルを検出できなかったために、開始されませんでした。

説明: `PATH` 環境変数によって指定されたシステム・パスでは対応する `asncap`、`asnapply`、または `asnmon` コマンドを呼び出せなかったために、示されたサービスを `asnsCRT` コマンドによって開始できません。完全修飾パスが指定されている場合、`asnsCRT` コマンドでは、そのパスで `asncap`、`asnapply` または `asnmon` コマンドを検出できません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが正しいことを確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5214E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスのインスタンスがすでに実行されているために開始されませんでした。

説明: 示されたサービスはすでに実行されているために、`asnsCRT` コマンドによってこのサービスを開始できません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5215E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが、存在しないか、または削除済みとしてマークされた DB2 インスタンス・サービスに依存しているため、開始されませんでした。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスが存在しないか、または削除されたために、`ASNSCRT` コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーの中に存在することを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5216E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、このサービスが、開始できなかった別のサービスに依存しているため、開始されませんでした。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスが開始できなかったために、`ASNSCRT` コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーで開始されたことを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5217E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが使用不可のため、開始されませんでした。

説明: 示されたサービスはサービス・コントロール・マネージャーで使用不可になっていたため、`asnsCRT` コマンドによってこのサービスを開始できません。

ユーザーの処置: サービスの始動タイプがサービス・コントロール・マネージャーで自動または手動のどちらに設定されているか確認してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5218E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスがログオンできないため、開始されませんでした。このエラーは、正しい「サービスとしてログオン」アクセス権限を持たないアカウントからサービスが開始された場合に発生します。

説明: 対応する DB2 インスタンス・サービスがログオンできないために、`ASNSCRT` コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャ

ASN5219E

一へ進み、指定されたサービスを見つけてください。指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5219E ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は削除済みとしてマークされているため、作成されませんでした。

説明: 指定されたサービスは削除されているため、`asnsrct` コマンドはそのサービスを作成できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーのウィンドウを閉じてください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5220E ASNSDROP: サービス名は必須パラメーターなので、`asnsdrop` コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: `asnsdrop` コマンドが、指定されたサービス名を使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: サービス名を指定してこのコマンドを再入力してください。

ASN5221I ASNSDROP: サービス *service_name* は、正常に除去されました。

説明: `asnsdrop` コマンドが、示されたサービス名を指定して呼び出されました。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5222E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、要求されたアクセスが拒否されたために、除去できません。

説明: ユーザーには、示されたサービス名を除去するための適切な許可がないため、`ASNSDROP` コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: 現行ユーザーが、対応する DB2 インスタンスにログオンするための許可を持っていることを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5223E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名が無効なために、除去できません。

説明: 示されたサービス名に正しくない特殊文字が含まれているため、`asnsdrop` コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーへ進み、指定されたサービスを見つけてください。サービス名が有効であることを確認して、コマンドを再入力してください。

ASN5224E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービスが存在しないために、除去できません。

説明: 指定されたサービス名がサービス・コントロール・マネージャーの中に存在しないため、`asnsdrop` コマンドによってこのサービス名を除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーへ進み、指定されたサービスを見つけてください。サービス名が正しいことを確認して、コマンドを再入力してください。

ASN5225E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、他の実行中のサービスがこのサービスに從属しているため、停止できません。 *service_name* は除去されません。

説明: ここに示されたサービスに從属している他のサービスが、現在実行中であるため、`asnsdrop` コマンドによってこのサービスを除去できません。

ユーザーの処置: サービス・コントロール・マネージャーの中から、ここに示されたサービスに從属しているすべてのサービスを停止してください。その後、コマンドを再入力してください。

ASN5226E ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、システムがシャットダウンしているために、除去できません。

説明: オペレーティング・システムがシャットダウンしているため、`asnsdrop` コマンドによって、示されたサービスを除去できません。

ユーザーの処置: システムの再始動後、コマンドを再入力してください。

ASN5227I ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、すでに削除済みとしてマークされているために、除去できません。

説明: 示されたサービスはすでに削除されているために、`asnsdrop` コマンドによってこのサービスを除去できません。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN5228E *pgmname* : このコマンドは、レプリケーション・サービス *service_name* を *command_action* できません。これは、システム呼び出し *API_func_name* から、予期しないエラー・コード *error_code* が戻されたためです。

説明: *asnscri* コマンドと *asndrop* コマンドが、サービスを処理するためにシステム呼び出しを行っています。示されたシステム呼び出しから予期しないエラー・コードが戻されました。このエラー・コードは、指定されたコマンドが要求されたアクションを完了できないことを示しています。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。このエラー・コードは、単に一時的なシステムの状態を示している可能性があります。このエラー・コードについては、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

ASN5229E **ASNSCRT:** アカウントは必須パラメーターなので、*asnscri* コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: **ASNSCRT** コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定アカウント名を使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンスのアカウント名を指定して、コマンドを再発行してください。

ASN5230E **ASNSCRT:** パスワードは必須パラメーターなので、*asnscri* コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。

説明: **ASNSCRT** コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定パスワードを使用せずに呼び出されました。

ユーザーの処置: 対応する DB2 インスタンスのパスワードを指定して、コマンドを再発行してください。

ASN5231E **ASNSCRT:** レプリケーション・サービス *service_name* は、アカウント・パラメーターに指定されたアカウント名が存在しないため、作成されませんでした。

説明: **ASNSCRT** コマンドが、対応する DB2 インスタンスに対して不明のアカウント名を指定して、呼び出されました。

ユーザーの処置: 指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5232E **ASNSCRT:** 必須パラメーター *path* が指定されませんでした。

説明: レプリケーション・コマンドをサービスとして開始するときは、そのコマンドに、コマンドにユニークなパス・キーワードによって指定されたパスが含まれていなければなりません (*asncap* の場合は *capture_path*、*asnapply* の場合は *apply_path*、*asnmon* の場合は *monitor_path*)。パス・キーワードを指定すると、エラーが発生しなければそのサービスは登録されます。

パス・キーワードを指定しない場合、*asnscri* コマンドによって、DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 *DB2PATH* が検索されます。この変数に非 NULL 値が含まれている場合、*asnscri* コマンドで、*DB2PATH* の値を使用して、コマンドに適切なパス・キーワードが追加されます。この変数が設定されていない場合、*asnscri* コマンドによってサービスを登録できません。

ユーザーの処置: 適切なパス・キーワードを指定した後、または DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 *DB2PATH* を定義した後に、コマンドを再入力してください。

ASN5233E **ASNSCRT:** レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたデータベース・インスタンス *database_instance* が存在しないため、作成されませんでした。

説明: 指定されたデータベース・インスタンスがシステムに存在しないため、**asnscri** コマンドは、指定されたサービスを作成できません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース・インスタンスがシステムに存在することを確認してください。その後で、コマンドを再発行してください。

ASN5234E **ASNSCRT:** *capture_server* パラメーターが指定されていません。

説明: Q キャプチャー・サーバー名を指定せずに *asnscri* コマンドが入力されました。 *capture_server* パラメーターは必須です。

ユーザーの処置: *capture_server* パラメーターを Q キャプチャー・サーバー名に設定して、もう一度 *asnscri* コマンドを入力してください。

ASN5235E **ASNSCRT:** *apply_server* パラメーターが指定されていません。

説明: Q アプライ・サーバー名を指定せずに *asnscri* コ

マンドが入力されました。 `apply_server` パラメーターは必須です。

ユーザーの処置: `apply_server` パラメーターを Q アプリライ・サーバー名に設定して、もう一度 `asnsrct` コマンドを入力してください。

第 43 章 ASN7000 - ASN7499

ASN7000I *program_name* : *program_identifier* :
number サブスクリプションがアクティブ
です。 *number* サブスクリプションは非
アクティブです。新しい *number* サブス
クリプションは、正常に活動化されまし
た。新しい *number* サブスクリプション
は、活動化できず非アクティブになってい
ます。

説明: このメッセージは、さまざまな状態の発行または
Q サブスクリプションの数を記述しています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクション
は不要です。

ASN7001I *program_name* : *program_identifier* :
command_name コマンドを受け取りまし
た。

説明: 受け取ったコマンドは非同期で処理された可能性
があります。プログラムは、コマンドの処理時にメッセ
ージを発行し、そのメッセージをトレース表
(IBMQREP_CAPTRACE) に保管します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクション
は不要です。

ASN7002E *program_name* : *program_identifier* : 送信
キュー *queue_name* が満杯です。このエ
ラーは、発行または Q サブスクリプシ
ョン *name* (発行またはレプリケーション・
キュー・マップ *queue_map_name*) の処理
中に発生しました。

説明: メッセージ数が、送信キューの MAXDEPTH 属
性に設定した数に達しました。 ERROR_ACTION 値
は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。
Q キャプチャー・プログラムの値は
IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。

ユーザーの処置: キューをクリアしないでください。変
更を含むすべてのメッセージが除去されてしまいます。

Q アプライまたはサブスクライブ・アプリケーションが
実行されていることを確認してください。

必要であれば、送信キューの MAXDEPTH 属性の値を
増やしてください。値を増やしたら、必要な該当アクシ
ョンすべてを実行してください。

- このエラーで Q キャプチャー・プログラムが終了し
た場合、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・
スタートしてください。
- 発行または Q サブスクリプションが非活動化された
場合、それらを活動化してください。

ASN7004E *program_name* : *program_identifier* : 発行
または Q サブスクリプション *name* でサ
ブスクライブされたソース列
source_column が、ソース表 *table_name*
に存在しません。

説明: IBMQREP_SRC_COLS 表に示されている列が、
ソース表に存在しません。このエラーは、以下のいづれ
かの問題により発生したと思われる:

- 発行または Q サブスクリプションで列名が間違っ
て指定された。
- 発行または Q サブスクリプションが作成されてか
ら、ソース表が変更された。
- 発行または Q サブスクリプションで余分の列が指定
された。

したがって、発行または Q サブスクリプションを活動
化することはできません。

ユーザーの処置: 発行または Q サブスクリプションに
列名が正しく指定されていることを確認してください。

発行または Q サブスクリプションが正しくない場合
(例えば、ソース表で使用できる列よりも多くの列を含む
など)、レプリケーション管理ツールを使用して、以下の
ステップを実行してください。

1. 発行または Q サブスクリプションをドロップして
から、再作成します。
2. 発行または Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7006E *program_name* : *program_identifier* : 発行
または Q サブスクリプション *name* が、
エラーのために非活動化されました。

説明: 指定した発行または Q サブスクリプションは、
以前のメッセージで示されたエラーのために非活動化さ
れました。

ユーザーの処置: Q キャプチャー診断ログか
IBMQREP_CAPTRACE 表を調べ、このエラー・メッセ
ージの前のメッセージを探してください。適切なアクシ
ョンを実行して、問題を訂正してください (以前のメッ
セージのユーザー応答の指示に従ってください)。発行ま

たは Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7007E *program_name : program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、再始動情報のないデータベース・パーティションを検出したため、ウォーム・スタートできません。このデータベース・パーティションは *node_id,...,node_id* です。

説明: このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 1 つ以上の新しいデータベース・パーティションがデータベースに追加された。Q キャプチャー・プログラムは、*add_partition* パラメーターを 'N' に設定した状態でウォーム・スタートしようとしたため、新しいパーティションのログ・レコードを処理できませんでした。このパラメーターは、Q キャプチャー・プログラムが、最後に始動されてから追加されたパーティションのログ・ファイルの読み取りを開始するかどうかを決定します。デフォルトでは、このパラメーターは 'N' に設定されています。*add_partition* パラメーターは、Q キャプチャー・プログラムがログ・ファイルを読み取る前に、'Y' に設定しておく必要があります。
- 再始動 Q の再始動メッセージが破壊された。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・パーティションが追加された場合、*add_partition='Y'* オプションを使用して Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

再始動キューの再始動メッセージが破壊されている場合、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7008I *program_name : program_identifier* : プログラムは、正常に再初期設定されました。*number* サブスクリプションはアクティブです。*number* サブスクリプションは非アクティブです。新しい *number* サブスクリプションは、正常に活動化されました。新しい *number* サブスクリプションは、活動化できず非アクティブになっています。

説明: REINIT コマンドは正常に処理されました。その結果、Q キャプチャー・プログラムは、発行、Q サブスクリプション、およびキュー・マップの変更された属性を認識します。新しい発行または Q サブスクリプションはすべて、自動的に活動化されました。さまざまな状態の発行または Q サブスクリプションの数については、メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7010I *program_name : program_identifier* : プログラムは、ソース表 *table_name* の発行または Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、発行またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を正常に活動化しました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、アクティブな発行または Q サブスクリプションの変更を複製しています。

Q キャプチャー・プログラムが始動すると、新しい発行または Q サブスクリプションを活動化します。Q キャプチャー・プログラムを実行する間、以下のアクションが行われます。

- 再初期設定時に新しい発行または Q サブスクリプションを活動化します。
- CAPSTART シグナルを受信すると、新しい、あるいは非アクティブな発行または Q サブスクリプションを活動化します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7011E *program_name : program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、発行またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のソース表 *table_name* が見つかりませんでした。

説明: 発行または Q サブスクリプションに指定されたソース表が存在しません。ほとんどの場合、発行または Q サブスクリプションを活動化しようとしたときに、間違った表名が指定されたものと思われます。そうでない場合、発行または Q サブスクリプションが作成されたから、ソース表が意図的にドロップされた可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ソース表がコントロール表に正しく指定されていて、データベース内に存在することを確認してください。もう一度、発行または Q サブスクリプションを活動化してください。
- ソース表を意図的にドロップした場合、発行または Q サブスクリプションを削除してください。

ASN7012I *program_name : program_identifier* : 発行
または Q サブスクリプション *name* は、
正常に再初期設定されました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、発行を正常に再初期設定したので、新しい属性に従ってトランザクションを処理します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7013I *program_name : program_identifier* : 発行
または Q サブスクリプション *name* は非
活動化されました。

説明: 発行または Q サブスクリプションは、CAPSTOP シグナルを受信したために非活動化されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7015E *program_name : program_identifier* : これ
は、メッセージ **ASN0575E** の追加情報で
す。プログラムは、パブリッシング・キュー
・マップまたはレプリケーション・キュー
・マップ *queue_map_name* の送信キュー
send_queue_name のリカバリー不能
WebSphere MQ エラーを検出しました。
キュー・マップに指定されたエラー・アク
ションは、*error_action* です。

説明: この送信キューで回復不能な WebSphere MQ エラーが発生しました。Q キャプチャー・プログラムは停止します。送信キューでの発行または Q サブスクリプションを非活動化するエラー・アクション I の使用は推奨されません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー診断ログ・ファイルか IBMQREP_CAPTRACE 表で調べて、このメッセージの前にあるエラー・メッセージ (通常は ASN0575E) を見つけてください。適切なアクションを実行して WebSphere MQ の問題を修正してください (前のメッセージのユーザー応答の指示に従ってください)。エラーを修正した後、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・モードで開始してください。

ASN7016E *program_name : program_identifier* :
LOADDONE シグナルは、発行または Q
サブスクリプション *name* にロード・フ
ェーズがないために失敗しました。

説明: 発行または Q サブスクリプションには、ロード・フェーズがありません (HAS_LOADPHASE=N)。このエラーは、LOADDONE シグナルまたはロード終了受

信メッセージに、間違った発行または Q サブスクリプション名が指定されているためである可能性があります。

ユーザーの処置:

発行または Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、**LOADDONE** シグナルを挿入した場合

シグナルの発行名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、**LOADDONE** シグナルを再挿入してください。

発行または Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、ロード終了受信メッセージを送信した場合

メッセージの発行名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、ロード終了受信メッセージを再送信してください。

ASN7017I *program_name : program_identifier* : ター
ゲット表 *table_name* は、すぐに発行また
は Q サブスクリプション *name* のソース
表 *table_name* からロードできます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7018E *program_name : program_identifier* : 発行
または Q サブスクリプション *name* のソ
ース表 *table_name* には、**DATA**
CAPTURE CHANGES 属性が設定されて
いません。

説明: ソース表が間違って定義されています。この発行または Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

ユーザーの処置: ソース表を変更し、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性が設定されるようにしてから、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。例えば:

```
alter table src_owner.src_table data
capture changes
```

ASN7019I *program_name : program_identifier* :
signal_name シグナルが受信されたので処
理されます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7020I *program_name* : *program_identifier* :
AUTOSTOP オプションが指定されているため、プログラムはアクティブ・ログの終了に達して終了しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7021E *program_name* : *program_identifier* : 内部ロード・フェーズが指定されているため、発行 *name* は開始しませんでした。

説明: 発行の場合、2 つのオプションだけがサポートされています。IBMQREP_SUBS 表の HAS_LOADPHASE 値は、以下のいずれかの値に設定する必要があります。

N ターゲットはロードされません。

E Q アプライ・プログラム以外のアプリケーションがターゲット表をロードします。

内部ロード・オプション (HAS_LOADPHASE=I) は発行ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 発行でサポートされているロード・オプションを指定し (正しい HAS_LOADPHASE 値が IBMQREP_SUBS 表にあることを確認してください)、発行を開始してください。

ASN7022W *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* が、IBMQREP_SUBS コントロール表に存在しません。 *signal* シグナルは無視されました。

説明: プログラムは、IBMQREP_SUBS コントロール表で、この発行または Q サブスクリプションを見つけられません。

ユーザーの処置: 発行または Q サブスクリプション名が、シグナルで使用するための正しい名前であることを確認してください。

ASN7023W *program_name* : *program_identifier* : ソース表 *table_name* には、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がありません。

説明: ソース表に、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がないため、LOB 列を除くすべての列がレプリケーション・キーとして選択されました。送信されるデータ量が原因で、パフォーマンスに影響が出る可能性があります。関連した発行または Q サブスクリプションは引き続き活動化されます。

ユーザーの処置: ソース表で、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引を作成し、必要に応じて関連するすべての発行または Q サブスクリプションを再初期設定してください。

ASN7024E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、再始動キュー *restart_queue* からの再始動メッセージを処理できません。

説明: プログラムが内部不整合を検出しました。これは、PTF またはバージョンが上位レベルである Q キャプチャーから、前の PTF レベルまたは前のバージョンにフォールバックする場合に起きることがあります。Q キャプチャーは、新しい形式を使用してその再始動情報を保存します。Q キャプチャーは、前のレベルの Q キャプチャーからの再始動情報を使用してウォーム・スタートを実行できますが、前のレベルの Q キャプチャーは、新しい再始動情報形式を使用してウォーム・リスタートを実行することはできません。

ユーザーの処置: 正しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムを実行していることと、再始動キューが不適切に変更されていないことを確認してください。前のレベルの Q キャプチャーのウォーム・リスタートを実行する必要がある場合、LSN および MAXCMTSEQ パラメーターを指定して、ログ内の既知の時点から Q キャプチャーを開始する必要があります。Q キャプチャー診断ログからメッセージ ASN7109I を見つけてください。LSN の値については、「まだコミットされていないトランザクションの最下位ログ・シーケンス番号」と説明されています。MAXCMTSEQ の値については、「正常に処理されたトランザクションの最高位ログ・シーケンス番号」と説明されています。

ASN7025E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、再始動キュー *restart_queue* にアクセスできません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 再始動キューが正しく指定されていて、アプリケーション・プログラムで使用可能であることを確認してください (GET が使用可能になっている)。

ASN7026E *program_name* : *program_identifier* : シグナル・タイプ *signal_type* およびサブタイプ *subtype* が無効です。

説明: シグナル・タイプまたはシグナル・サブタイプがサポートされていません。

ユーザーの処置: IBMQREP_SIGNAL コントロール表に挿入された行の SIGNAL_TYPE および SIGNAL_SUBTYPE を検査してください。シグナル・タ

イブまたはシグナル・サブタイプが正しいことを確認してから、シグナルをもう一度挿入してみてください。

ASN7027E *program_name* : *program_identifier* : 再始動キュー *restart_queue* が空です。

説明: Q キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートできませんでした。メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7028E *program_name* : *program_identifier* : **IBMQREP_SENDQUEUES** 表の発行またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* に指定した **MAX_MESSAGE_SIZE** が、**WebSphere MQ** で定義された *number* バイトの **MAXMSGL** キュー属性値よりも大きいです。

説明: この送信キューの **MAX_MESSAGE_SIZE** 列値は、**WebSphere MQ** キュー・マネージャーの **MAXMSGL** 属性を超過しているため無効です。送信キューは無効になります。

ユーザーの処置: この送信キューの **MAX_MESSAGE_SIZE** 列値を減らしてください。必要に応じて **MAXMSGL** 属性を増やしてください。

- リモート送信キューの場合、伝送キューの **MAXMSGL** 属性を増やしてください。
- ローカル送信キューの場合、**MAXMSGL** 属性を増やしてください。

その送信キューで発行または Q サブスクリプションを再始動してください。

送信キューがリモートの場合、**MAX_MESSAGE_SIZE** 値は、伝送キューおよびキュー・マネージャーの両方の **MAXMSGL** 属性より少なくとも 4 KB 小さくなければなりません。この 4 KB の違いは、メッセージが伝送キュー内にあるときにメッセージ・ヘッダーに含まれる追加情報に相当します。

ASN7029E *program_name* : *program_identifier* : 再始動メッセージが、再始動キュー *restart_queue* の最大メッセージ・サイズを超過しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 再始動キューの最大メッセージ・サイ

ズを増やし、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

ASN7030E *program_name* : *program_identifier* : 再始動キュー *queue_name* が満杯です。Q キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: メッセージ数が、再始動キューの **MAXDEPTH** 属性に設定した数に達しました。

ユーザーの処置: 必要であれば、再始動キューの **MAXDEPTH** 属性の値を増やしてください。値を増やしてから、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7033E *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* で、無効な検索条件が検出されました。列名: *column_name*。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

列名の通常 ID は、文字で開始しなければならず、その後に文字、数値、または下線が続きます。

1

列名の後に二重引用符がありません。

4

検索条件でキーワード **WHERE** が欠落しています。

5

検索条件に、ソース表にない列が含まれています。

6

検索条件に、ソース表の列名が含まれていません。

7

検索条件と変更条件の組み合わせに、ソース表の列名もログ・レコード変数も含まれていません。

ユーザーの処置: 検索条件または変更条件の形式が適切であることを確認して、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。

ASN7034W *program_name : program_identifier* : プログラムは、管理キュー *queue_name* からのメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ: *message_type*。メッセージ内容: *message_content*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 制御メッセージの書式と属性が正しいことを確認してから、メッセージをもう一度管理キューに置いてください。

ASN7035W *program_name : program_identifier* : プログラムは、サポートされないメッセージを含む管理キュー *queue_name* で、**WebSphere MQ 例外レポート・メッセージ**を受信しました。メッセージ・タイプ: *message_type*。メッセージ内容: *message_content*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: WebSphere MQ 構成が正しいことを確認してください。

ASN7036E *program_name : program_identifier* : プログラムは、管理キュー *queue_name* からのメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ: *message_type*。メッセージ内容: *message_content*。

説明: プログラムが内部不整合を検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。受信した正確なメッセージを伝えてください。これにより、Q キャプチャー・スキーマを識別します。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7037E *program_name : program_identifier* : XML パーサーの初期設定に失敗しました。予想される XML パーサーのバージョンは *version_number* です。このエラー・メッセージを受信しました: *error_message*。

説明: 内部の不整合が検出されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7038E *program_name : program_identifier* : XML 制御メッセージは、*mqsub.xsd* ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たしていません。このメッセージはキューから削除されて無視されます。XML 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: XML 制御メッセージを訂正し、*mqsub.xsd* ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たすようにして、もう一度管理キューに置いてください。

ASN7039W *program_name : program_identifier* : XML 制御メッセージの構文解析中にエラーが発生しました。メッセージは無視されましたが、プログラムは実行を続行します。エラー・メッセージ: *error_message*。XML 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: XML 制御メッセージは無効であり無視されました。Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: XML 制御メッセージを修正して再送信してください。

ASN7040E *program_name : program_identifier* : XML 制御メッセージの構文解析中に DOM エラーが発生しました。DOM 例外コード: *exception_code*。XML 制御メッセージ: *xml_message*。

説明: XML 制御メッセージは無視されますが、Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

ASN7043W *program_name : program_identifier* : 存在しないかまたは非アクティブな発行または Q サブスクリプション *name* の管理キューで、*message_type* メッセージを受信しました。制御メッセージは無視されました。

説明: 管理キューで受信した要求は、発行または Q サブスクリプションが存在しないか非アクティブであるために実行できませんでした。

ユーザーの処置: 発行または Q サブスクリプションに

ついて、名前が正しいことと、アクティブ状態であることを確認してください。もう一度、制御メッセージを管理キューに置いてください。

ASN7045E *program_name* : *program_identifier* : 発行またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* がアクティブではありません。REINITQ コマンドは無視されました。

説明: REINITQ コマンドは、アクティブな送信キューに発行する必要があります。

ユーザーの処置: キュー名が正しいことを検査してから、REINITQ コマンドを再発行するか、またはレプリケーション・センターからキューを再初期設定してください。

ASN7046I *program_name* : *program_identifier* : 発行またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* は、正常に再初期設定されました。次の属性が更新されました:
ERROR_ACTION は *error_action*、
HEARTBEAT_INTERVAL は *heartbeat_interval*、
MAX_MESSAGE_SIZE は *max_message_size* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7051W *program_name* : *program_identifier* : **IBMQREP_SRC_COLS** 表にキー列が指定されていないため、発行または Q サブスクリプション *name* は非活動化されました。

説明: ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列は、発行または Q サブスクリプションのキー列として指定する必要があります。この列の名前は、**IBMQREP_SRC_COLS** 表に指定されます。

ユーザーの処置: ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列が発行または Q サブスクリプションのキー列として指定されていることを確認してから、発行または Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7052E *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* のソース表 *table_name* に、**LONG VARCHAR** または **LONGVARGRAPHIC** 列が含まれていますが、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性が **INCLUDE LONGVAR COLUMNS** に設定されていません。

説明: ソース表が間違っていて定義されています。この発行または Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

ユーザーの処置: ソース表を変更し、**DATA CAPTURE CHANGES** 属性を **INCLUDE LONGVAR COLUMNS** に設定してから、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。例えば:

```
alter table owner.table data capture changes
include longvar columns
```

ASN7057I *program_name* : *program_identifier* : コントロール表 **IBMQREP_SUBS** の発行または Q サブスクリプション *name* の **SUB_ID** がユニークではありません。新しい **SUB_ID** が生成されます。

説明: 発行または Q サブスクリプション *name* のコントロール表 **IBMQREP_SUBS** で、重複した **SUB_ID** が見つかりました。この列の値はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7059E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* は、**IBMQREP_SUBS** 表の **GROUP_MEMBERS** 列が **NULL** でないために活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでの非アクティブな Q サブスクリプションでは、**IBMQREP_SUBS** 表の **GROUP_MEMBERS** 列は **NULL** でなければなりません。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7060E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* が活動化されていませんでした。多方向レプリケーション用の **Q** サブスクリプション *name* に対応する **Q** サブスクリプションは、無効な状態であるか、または **IBMQREP_TARGETS** 表の同じ **Q** サブスクリプション・グループに存在しません。

説明: 多方向レプリケーション用の **Q** サブスクリプションをアクティブ化するには、**IBMQREP_TARGETS** 表の同じ **Q** サブスクリプション・グループにある対応するすべての **Q** サブスクリプションが、アクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ **Q** サブスクリプション・グループの **Q** サブスクリプションが、初期設定または非活動化されているときに生じる可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7061E *program_name* : *program_identifier* : **IBMQREP_SUBS** 表で同じ **Q** サブスクリプション・グループ *group_name* および表 *table_name* を共有する他の **Q** サブスクリプション *name* に、別の **SOURCE_NODE** *source_node* があるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでは、同じ **Q** サブスクリプション・グループおよび表を共有するすべての **Q** サブスクリプションでは、**IBMQREP_SUBS** 表に同じ **SOURCE_NODE** が必要です。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7062E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* が無効な状態 *state* であるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: ピアツーピア・レプリケーション用の **Q** サブスクリプションをアクティブ化するには、同じ **Q** サブスクリプション・グループの他のすべての **Q** サブスクリプションが、**IBMQREP_SUBS** 表でアクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ **Q** サブスクリプション・グループの **Q** サブスクリプションが、初期設定または非活動化されているときに生じる可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7063E *program_name* : *program_identifier* : 同じ **Q** サブスクリプション・グループを共有する別の **Q** サブスクリプション *name* が活動化の途中であるため、**Q** サブスクリプション *name* は活動化されませんでした。

説明: ピアツーピア・レプリケーションでは、**Q** サブスクリプション・グループの複数の **Q** サブスクリプションは、同時に開始することはできません。

ユーザーの処置: **IBMQREP_SUBS** 表を調べ、他の **Q** サブスクリプションがアクティブ ('A') 状態であることを確認してください。その後、非アクティブ状態であった **Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7065E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* には、サポートされた範囲 (*low_limit* から *high_limit*) 外のソースまたはターゲット・ノード番号があります。

説明: 多方向レプリケーションでは、**Q** サブスクリプションのソース・ノードおよびターゲット・ノードは、サポートされた範囲内である必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7067E *program_name* : *program_identifier* : **SIGNAL_INPUT_IN** *signal_input_in* が無効であるため、シグナル *signal_name* を処理できません。望ましい形式は *signal_input_format* です。

説明: プログラムでは、シグナルのパラメーターを **SIGNAL_INPUT_IN** で指定する必要があります。このエラーは、パラメーターの一部が欠落しているか、または望ましくない形式である場合に生じます。

ユーザーの処置: **SIGNAL_INPUT_IN** が正しく指定されていることを確認してから、シグナルを再挿入してください。

ASN7073E *program_name* : *program_identifier* : 発行または **Q** サブスクリプション *name* がアクティブでないため、**REINIT_SUB** コマンドは失敗しました。

説明: **REINIT_SUB** コマンドでは、発行または **Q** サブ

スクリプションがアクティブである必要があります。

ユーザーの処置: コマンド・パラメーターで発行または Q サブスクリプションが正しく指定されていることを確認し、コマンドを再発行してください。

ASN7074E *program_name* : *program_identifier* :
REINIT_SUB コマンドまたは
REINIT_SUB シグナルは、Q サブスクリプション *name* に有効ではありません。
Q サブスクリプションは再初期設定されませんでした。

説明: REINIT_SUB コマンドまたは REINIT_SUB シグナルは、ACTIVE 状態にある、タイプ U (単一方向) の Q サブスクリプションまたは発行にのみ適用されます。ACTIVE 状態ではない単一方向の Q サブスクリプションや発行、またはタイプ B (双方向) やタイプ P (ピアツーピア) の Q サブスクリプションは、再初期設定できません。

ユーザーの処置: 発行の場合は、必ず正しい名前を指定し、発行が ACTIVE 状態であるようにしてください。Q サブスクリプションの場合は、必ず正しい名前を指定し、IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE を U にし、Q サブスクリプションが ACTIVE 状態であるようにしてください。コマンドを再発行するか、シグナルを再挿入してください。

ASN7079W *program_name* : *program_identifier* : 行操作メッセージは、短縮メッセージ形式で、キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* に送信できません。代わりに、トランザクション・メッセージが送信されます。

説明: XML メッセージ形式では行操作メッセージとトランザクション・メッセージはどちらも有効ですが、短縮形式ではトランザクション・メッセージだけが有効です。

ユーザーの処置: 行操作を発行するのであれば、IBMQREP_SENDQUEUES コントロール表の MESSAGE_FORMAT を、'X' に設定する必要があります。

ASN7080E *program_name* : *program_identifier* :
WebSphere MQ 理由コード *reason_code* 付きの **WebSphere MQ** 例外レポート・メッセージを、管理キューで受信しました。

説明: このエラーは、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーへのメッセージ配信問題に対して、受信側 MCA (メッセージ・チャンネル・エージェント) に

よって MQ 例外レポート・メッセージが生成されるときに発行されます。

ユーザーの処置: 理由コードの説明と、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーに対して実行する必要のあるアクションの詳細は、WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンスの理由コードの説明を参照してください。

ASN7081W *program_name* : *program_identifier* :
WebSphere MQ 例外レポート・メッセージで指定された発行または Q サブスクリプション *name* の送信キューは、**IBMQREP_SUBS** コントロール表に存在しなくなりました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7083E *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* は、LOB データ・タイプの 1 つ以上の列が発行または Q サブスクリプションのキー列として指定されたために活動化されませんでした。

説明: LOB データ・タイプの列は、発行または Q サブスクリプションのキー列として指定してはなりません。

ユーザーの処置: キー列として指定される発行または Q サブスクリプションのすべての列が、LOB 以外のデータ・タイプであることを確認してください。発行または Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7084E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* は、ソース表の一部の列が組み込まれていないために活動化されませんでした。

説明: ピアツーピア・レプリケーションでは、Q サブスクリプションにすべてのソース列およびバージョン列を組み込む必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7085E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* は、バージョン列 *name* が論理表 *table_name* で定義されていないために活動化されませんでした。

ASN7086E

説明: ピアツーピア・レプリケーションでは、Q サブスクリプションの論理表にはバージョン列を含める必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7086E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* は、論理表 *table_name* のバージョン列 *column_name* が、データ・タイプ *datatype* で定義されていないか、またはバージョン列がソース表で定義されていないために活動化されませんでした。

説明: バージョン列のデータ・タイプが正しく定義されていないか、またはピアツーピア・レプリケーションで、バージョン列が Q サブスクリプションの論理表で定義されていませんでした。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7087E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name*) は、送信キューが短縮メッセージ形式を使用していないために活動化されませんでした。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションの送信キューは、短縮メッセージ形式を使用する必要があります。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7088E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* で、プログラムは、IBMQREP_SUBS 表で SUBGROUP、SOURCE_NODE、または TARGET_NODE 列の情報を見つけられません。

説明: 多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションには、Q サブスクリプション・グループ、ソース・ノード、およびターゲット・ノードが必要です。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7089E *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* は、LOB 列が含まれていて、ソース表 *table_name* に主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引が存在しないために活動化されませんでした。

説明: LOB 列を含む発行または Q サブスクリプションのソース表には、1 つ以上のキー列が必要です。キー列として指定される列はすべて、LOB データ・タイプ以外のデータ・タイプでなければなりません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. ソース表に、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引があることを確認します。または、LOB データ・タイプ列を発行または Q サブスクリプションから除去します。
2. 発行または Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7090E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* は、検索条件が含まれているために活動化されませんでした。

説明: ピアツーピア・レプリケーションの Q サブスクリプションには、検索条件を含めることはできません。

ユーザーの処置: この Q サブスクリプションが単一方向または双方向レプリケーションである場合、サブスクリプション・タイプをそれぞれ 'U' または 'B' に変更してください。この Q サブスクリプションがピアツーピア・レプリケーションである場合、検索条件を除去してください。どの場合も、いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7091W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、Q サブスクリプション *name* の IBMQREP_SUBS 表で、対応する Q サブスクリプションを見つけられません。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

ASN7093E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name_or_subid* は、**IBMQREP_SUBS** 表の中で、双方向レプリケーションの **Q** サブスクリプション・グループ *subgroup* の唯一の **Q** サブスクリプションではないために活動化されませんでした。

説明: 双方向レプリケーションの **Q** サブスクリプション・グループでは、1 つの **Q** サブスクリプションだけが許可されています。

ユーザーの処置: いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して **Q** サブスクリプションを再定義してから、**Q** サブスクリプションを活動化してください。

ASN7094E *program_name* : *program_identifier* : 発行または **Q** サブスクリプション *name* には、無効なサブタイプ *subtype* または無効な状態 *state* があるため、*signal_name* シグナルは失敗しました。

説明: プログラムは、特定の発行または **Q** サブスクリプションのサブタイプか状態に関して、予期しないシグナルが無効なシグナルを受信しました。

ユーザーの処置: 発行または **Q** サブスクリプションがこのシグナルを予期するようにしてください。例えば、CAPSTART シグナルは、非アクティブな **Q** サブスクリプションだけをターゲットにしたものです。必要に応じて、シグナルを再挿入してください。

ASN7095E *program_name* : *program_identifier* : アクティブまたはロード中状態の発行または **Q** サブスクリプション *name* で、**IBMQREP_SUBS** コントロール表の列 **SUB_ID** が **NULL** です。

説明: 以前にアクティブであった発行または **Q** サブスクリプションで、表 **IBMQREP_SUBS** の **SUB_ID** は **NULL** にすることはできません。

ユーザーの処置: **ASNCLP** コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して、発行または **Q** サブスクリプションを停止してから開始してください。

ASN7096E *program_name* : *program_identifier* : 発行または **Q** サブスクリプション *name* に、セミコロンが含まれています。

説明: **IBMQREP_SUBS** コントロール表の発行または **Q** サブスクリプション名には、セミコロンを含めることはできません。

ユーザーの処置: 発行または **Q** サブスクリプション名にセミコロンが含まれないことを確認してから、発行または **Q** サブスクリプションを開始してください。

ASN7097E *program_name* : *program_identifier* : サブスクリプション *name* は開始しませんでした。双方向またはピアツーピア・レプリケーション用の別の **Q** サブスクリプション・グループ内に、同じ表のための **Q** サブスクリプションがあるためです。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 別の **Q** サブスクリプション・グループに同じ表のための別の **Q** サブスクリプションがないことを確認した上で、**Q** サブスクリプションを再開してください。

ASN7098W *program_name* : *program_identifier* : 既に列 *column_name* はシグナル挿入で指定された発行または **Q** サブスクリプション *name* の一部であるため、**ADDCOL** シグナルは失敗しました。

説明: **ADDCOL** シグナル挿入で指定されたソース表列は既に、**Q** サブスクリプションまたは発行の定義の一部となっています。

ユーザーの処置: 列が正しく指定されているかどうかを確認し、必要な場合は **ADDCOL** シグナルを再び挿入してください。

ASN7100I *program_name* : *program_identifier* : 列 *column_name* が発行または **Q** サブスクリプション *name* に追加されました。

説明: 現在列に対する変更が **Q** サブスクリプションまたは発行の定義に基づいてキャプチャーされています。**Q** サブスクリプションの場合、新しい列がターゲット表にまだ存在していなければ、その列がターゲット表に追加されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7101E *program_name* : *program_identifier* : **NULL** 可能ではなく、デフォルト値もないため、発行または **Q** サブスクリプション *name* の **ADDCOL** シグナルに指定された列 *column_name* を追加できません。

説明: **ADDCOL** シグナルを持つ **Q** サブスクリプションまたは発行に追加されている列は **NULL** 可能か、または **NOT NULL WITH DEFAULT** として定義されていない必要があります。

ASN7102E

ユーザーの処置: 追加されている列が正しく定義されているかどうかを確認し、ADDCOL シグナルを再び挿入してください。

ASN7102E *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムが、自分に関係ない再始動情報を検出しました。再始動情報は再始動キュー *queue_name* からのものであり、Q キャプチャー・サーバー *name* と Q キャプチャー・スキーマ *schema* に関するものです。

説明: 再始動キュー内の再始動情報が無効であるため、Q キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートできません。

ユーザーの処置: 再始動キューを正しく指定したことを確認してください。または再始動キューを空にし、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

ASN7103W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 に認識されていたパーティションを検出できません。このデータベース・パーティションは *partition_name* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、再始動情報として保管されているデータベース・パーティション情報を検証中です。このプログラムは、前の呼び出しで認識したデータベース・パーティションのうち、除去されているものがあることを検出しました。Q キャプチャー・プログラムはそのデータベース・パーティション情報を更新し、通常の処理を続けます。

ユーザーの処置: リストされたデータベース・パーティションが実際に除去されているかどうかを確認してください。そうであれば、これ以上のアクションは不要です。データベース・パーティションが除去されていない場合は、Q キャプチャー・プログラムは欠落しているデータベース・パーティションでのトランザクションをキャプチャーしないので、Q キャプチャー・プログラムを停止してください。Q キャプチャー・プログラムをコールド開始モードで開始してください。

ASN7104E *program_name* : *program_identifier* : 発行 *name* は、発行キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* にあるアクティブな発行とは異なるトピック *topic* を含んでいるため、アクティブ化されませんでした。

説明: 同じ送信キューを使用する発行のトピックはすべて同じでなければなりません。発行は、トピックが同じ

でないために活動化されませんでした。

ユーザーの処置: 同じ送信キューを使用する発行のトピックがすべて同じであることを確認してください。

ASN7105I *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *queue_name* の再始動情報は存在しますが、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のこの送信キューが IBMQREP_SENDQUEUES 表にありません。

説明: この送信キューは、最後の実行後に IBMQREP_SENDQUEUES から削除されています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7106I *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* がウォーム・スタート中に非アクティブ以外の状態になりましたが、キュー・マップ *queue_map_name* の対応する送信キュー *queue_name* の再始動情報が見つかりません。

説明: 送信キューの再始動情報が再始動メッセージの中にありません。再始動メッセージが壊れている可能性があります。Q キャプチャー・プログラムがその再始動情報を修正します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7107E *program_name* : *program_identifier* : この WebSphere MQ コミット・インターバル内に挿入された ADDCOL シグナルの数は、最大の 20 を超過しました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、1 つの WebSphere MQ コミット・インターバル内に最大 20 の ADDCOL シグナルを処理できます。このインターバルは、Q キャプチャー・プログラムが WebSphere MQ へのメッセージをコミットする頻度を指定し、Q キャプチャー・プログラムの *commit_interval* パラメーターを使用することによって設定されます。

ユーザーの処置: 失敗した ADDCOL シグナルを Q キャプチャー・プログラムが新規インターバル内にコミットできるよう、それらのシグナルを挿入してください。

ASN7108I *program_name : program_identifier :* プログラムの初期設定時、まだコミットされていないトランザクションの最も低いログ・シーケンス番号 (LSN) は *restart_lsn* で、正常に処理されたトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号 (MAXCMTSEQ) は *maxcmtseq* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムは開始し、再始動メッセージの値を記録します。Q キャプチャーは再始動ログ・シーケンス番号からのログの読み取りを開始し(トランザクションの最も低い LSN はこれからコミットされる)、コミットが最大コミット・シーケンス番号より前のトランザクション (成功したトランザクションの最も高い LSN) はすべて無視されます。パーティション・データベースでは、これらのログ標識は Q キャプチャー・プログラムが実行されているパーティションから来ます。

LSN および MAXCMTSEQ の値を使用して、リカバリー・ログの既知のポイントから Q キャプチャーを開始できます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7109I *program_name : program_identifier :* プログラムの終了時、まだコミットされていないトランザクションの最も低いログ・シーケンス番号 (LSN) は *restart_lsn* で、正常に処理されたトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号 (MAXCMTSEQ) は *maxcmtseq* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムは終了し、再始動メッセージの値を記録します。次回実行時に、Q キャプチャーは再始動ログ・シーケンス番号からのログの読み取りを開始し(トランザクションの最も低い LSN はこれからコミットされる)、コミットが最大コミット・シーケンス番号より前のトランザクション (成功したトランザクションの最も高い LSN) はすべて無視されます。パーティション・データベースでは、これらのログ標識は Q キャプチャー・プログラムが実行されているパーティションから来ます。

LSN および MAXCMTSEQ の値を使用して、リカバリー・ログの既知のポイントから Q キャプチャーを開始できます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7110E *program_name : program_identifier :* LSN パラメーターは、MAXCMTSEQ パラメーターを付けて指定する必要があります。

説明: リカバリー・ログの特定の時点から Q キャプチャー・プログラムを開始する場合、LSN パラメーターと MAXCMTSEQ パラメーターの両方を指定する必要があります。LSN パラメーターは、これからコミットされるトランザクションの最も低い LSN を指定します。MAXCMTSEQ パラメーターは、成功したトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号を指定します。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムを再始動し、LSN パラメーターと MAXCMTSEQ パラメーターの両方を指定してください。

ASN7111E *program_name : program_identifier :* LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターはコールド・スタート・モードで指定できません。

説明: LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターはウォーム・スタート・モードで指定する必要がありますので、Q キャプチャー・プログラムは停止されました。

ユーザーの処置: LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターを付けて、ウォーム・スタート・モードで Q キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN7112I サーバー名

ASN7113I スキーマ名

ASN7114I プログラム状況

ASN7115I プログラム開始以降の時間

ASN7116I ログ・ファイルのロケーション

ASN7117I アクティブ Q サブスクリプションの数

ASN7118I 現行メモリー

ASN7119I ログ・リーダーの現行性

ASN7120I コミット済みの最終発行トランザクション (LSN)

ASN7121I 現行アプリケーション・メモリー

ASN7122I Q キャプチャー・プログラム状況

ASN7123I 実行中

ASN7124I 停止中

ASN7125I DB2 ログ・ファイルへのパス。

ASN7126I Q キャプチャーの再始動には、最も古い DB2 ログ・ファイルが必要です。

ASN7127I 現在の DB2 ログ・ファイルがキャプチャーされます。

ASN7128I *program_name* : *program_identifier* : db2flsn ユーティリティーは、LSN *lsn* の入っているログ・ファイルを見つけられませんでした。戻りコードは *return_code*。理由は、*reason* です。Q キャプチャー・プログラムは、通常の処理を続行します。

説明: Q キャプチャーは、再始動に必要な最も古い DB2 ログ・シーケンス番号を含むログ・ファイル名の表示を開始する際に、db2flsn (ログ・シーケンス番号の検出) コマンドを実行します。この番号は、ASN7155I メッセージに表示されます。Q キャプチャーは、最後にキャプチャーした DB2 ログ・シーケンス番号が含まれるログ・ファイル名の表示を停止する際に、db2flsn を実行します。この番号は、ASN7156I メッセージに表示されます。また Q キャプチャーは、status show details コマンドを受信して、再始動に必要な最も古い DB2 ログ・ファイルとキャプチャーした現在の DB2 ログ・ファイルを表示する際にも db2flsn を実行します。Q キャプチャー・プログラムを実行するユーザー ID に Q キャプチャー・サーバーのデータベース・ホーム・ディレクトリー内のログ・コントロール・ファイル SQLOGCTL.LFH.1 および SQLOGCTL.LFH.2 に対する読み取り特権がない場合には、db2flsn プログラムによって戻りコード -101 が生成されます。

ユーザーの処置: このユーティリティーの戻りコードが -101 の場合、Q キャプチャー・プログラムを実行するユーザー ID に、SQLOGCTL.LFH ログ・コントロール・ファイルに対する読み取り特権を付与してください。

ASN7129I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、db2flsn ユーティリティーを実行するためのパイプをオープンできませんでした。戻りコードは *return_code*。理由は、*reason* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、db2flsn ユーティリティーを実行するためのパイプをオープンできませんでした。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7130E *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、ソース表 *table_owner.table_name* のログ・レコードをデコードできません。プログラムが停止されました。

説明: 表が変更されたために、Q キャプチャー・プログラムは表の異なるバージョンを検出しました。Q キャプチャー・プログラムは、IBMQREP_COLVERSION 表と IBMQREP_TABVERSION 表を読み取って正しいバージョンを判別することはできませんでした。これらの表がドロップされている可能性があります。

ユーザーの処置: IBMQREP_COLVERSION 表と IBMQREP_TABVERSION 表がドロップされていないことを確認してください。欠落しているのであれば、これらの表をリストアしてから、Q キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN7131I *program_name* : *program_identifier* : ウォーム・スタート情報が見つからなかったため、Q キャプチャー・プログラムはコールド・スタート・モードに切り替わりま

説明: 再始動情報がなく、WARMSI 始動モードが指定されていたため、Q キャプチャー・プログラムがコールド・スタートに切り替わりました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7132E *program_name* : *program_identifier* : ウォーム・スタート情報が見つかりませんでした。アクティブな Q サブスクリプションが存在します。Q キャプチャー・プログラムは終了します。

説明: 再始動に必要な情報がなく、Q サブスクリプションがアクティブであるため、Q キャプチャー・プログラムが停止しました。

ユーザーの処置: 必要に応じて、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタート・モードで再始動してください。 `asncap` コマンドで `lsn` および `maxcmtseq` パラメーターを使用して再始動点を指定することもできます。

ASN7133I *program_name : program_identifier : 発行*
または **Q** サブスクリプション *name* は停止しました。

説明: シグナルまたはエラーのため、発行または Q サブスクリプションが停止しました。

ユーザーの処置: エラーによる非活動化の場合は、Q キャプチャー診断ログ・ファイルまたは `IBMQREP_CAPTRACE` 表から、問題を示すメッセージを探してください。エラーを修正して、発行または Q サブスクリプションを開始します。

ASN7134E *program_name :program_identifier : 発行*
または **Q** サブスクリプション *name* が、エラーのため、**Q** キャプチャー・プログラムの初期化中に活動化できませんでした。

説明: エラーのため、発行または Q サブスクリプションが開始できませんでした。

ユーザーの処置: Q キャプチャー診断ログ・ファイルまたは `IBMQREP_CAPTRACE` 表から、問題を示すメッセージを探してください。エラーを修正して、発行または Q サブスクリプションを開始します。

ASN7135E *program_name : program_identifier : 発行*
または **Q** サブスクリプション *name* は、**LONG** データ・タイプの 1 つ以上の列が発行または **Q** サブスクリプションのキー列として指定されたためにアクティブ化されませんでした。

説明: **LONG** データ・タイプの列は、発行またはレプリケーション用として使用されるキー (`IBMQREP_SRC_COLS` または `IBMQREP_TRG_COLS` コントロール表内で `IS_KEY > 0`) に対しては有効ではありません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、レプリケーションまたは発行のキーとして使用する列を再定義してから、発行または Q サブスクリプションを開始します。

ASN7136E *program_name : program_identifier :*
IBMQREP_SENDQUEUES 表のパブリッシング・キュー・マップまたはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のリモート送信キュー *queue_name* に指定した **max_message_size** 値は、**WebSphere MQ** で伝送キュー *queue_name* に定義された **MAXMSGL** 属性値 *number* バイトより少なくとも **4000** バイト小さくなければなりません。

説明: この送信キューを使用するキュー・マップの **max_message_size** 値が大きすぎます。送信キューがリモートの場合、**max_message_size** 値は、伝送キューとキュー・マネージャーの両方の **MAXMSGL** 属性より少なくとも **4 KB** 小さくなければなりません。**MQ_MSG_HEADER_LENGTH** により指定されるこの **4 KB** の違いは、メッセージが伝送キュー内にあるときにメッセージ・ヘッダーに含まれる追加情報に相当しません。

ユーザーの処置: **ASNCLP** またはレプリケーション・センターを使用して、キュー・マップの **MAX_MESSAGE_SIZE** 値を小さくします。必要に応じて、伝送キュー、送信キュー、リモート・キュー、キュー・チャンネル、およびクライアント/サーバー接続チャンネル (**WebSphere MQ** クライアント) の **MAXMSGL** 属性を増やしてください。送信キューを使用する発行または Q サブスクリプションを再始動します。

ASN7137W *program_name : program_identifier : 発行*
または **Q** サブスクリプション *name* に対して指定した **MAX_MESSAGE_SIZE** は、送信キュー *queue_name*、発行キュー・マップ、またはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* には小さすぎる可能性があります。最大値として *size* バイトを設定する必要があると考えられます。

説明: この送信キューを指定するパブリッシング・キュー・マップまたはレプリケーション・キュー・マップの **MAX_MESSAGE_SIZE** の値が小さすぎて、**WebSphere MQ** メッセージの行を収容できない可能性があります。Q キャプチャー・プログラムの実行中にこの問題が発生すると、Q キャプチャーが停止します。

ユーザーの処置: キュー・マップの **MAX_MESSAGE_SIZE** の値を大きくしてください。`asncapcmd reinitq` コマンドを使用して、キュー・マップを再初期化してください。

ASN7138W *program_name* : *program_identifier* : **Q** キャプチャー・プログラムが、区切られた発行 *publication_name* (送信キュー *send_queue_name*) のソース列をコード・ページ *code_page* からコード・ページ *code_page* に変換しています。

説明: ソース・データベース列のエンコードに、IBMQREP_SENDQUEUES 表の MESSAGE_CODEPAGE 列に指定されたものと異なるコード・ページが使用されています。Q キャプチャー・プログラムにより、送信キューに入れられたメッセージのすべてのデータが変換されます。

ユーザーの処置: データ変換が許可できるものである場合、アクションは不要です。データ変換を行わないのであれば、Q キャプチャー・プログラムを停止して、MESSAGE_CODEPAGE 値を、ソース列のコード・ページと一致するように更新してください。その後で、Q キャプチャーを開始します。

ASN7139W *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *send_queue_name* (発行キュー・マップ *queue_map_name*) に関する IBMQREP_SENDQUEUES 表の HEARTBEAT_INTERVAL の値は、区切りメッセージ・フォーマットでは 0 でなければなりません。

説明: 区切りメッセージに発行キュー・マップを使うことを指定する場合、ハートビート・メッセージ送信のために Q キャプチャー・プログラムで使われるインターバルの値は 0 (ハートビート・メッセージを送信しない) でなければなりません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。Q キャプチャー・プログラムにより、HEARTBEAT_INTERVAL 値がオーバーライドされます。このメッセージを表示しないようにするには、ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使ってキュー・マップのハートビート・インターバルを 0 に変更します。その後、reinitq コマンドまたはレプリケーション管理ツールを使って送信キューを再初期化します。

ASN7140E *program_name* : *program_identifier* : 発行の BEFORE_VALUES 属性が Y でないため、区切られた発行 *publication_name* (送信キュー *send_queue_name*) が開始しませんでした。

説明: 区切りメッセージを発行する場合、Q キャプチャー・プログラムは常に、更新操作の前と後の値を送信します。パブリケーションで区切りメッセージ・フォー

マットを使用するよう指定した場合、変更前の値を有効にする必要があります。

ユーザーの処置: ASNCLP またはレプリケーション・センターを使用して、発行の変更前の値を指定し、発行を開始します。

ASN7141E *program_name* : *program_identifier* : 発行の CHANGED_COLS_ONLY 属性が N でないため、区切られた発行 *publication_name* (送信キュー *send_queue_name*) が開始しませんでした。

説明: 区切りメッセージを発行する場合、Q キャプチャー・プログラムは常に、変更されていない場合でも行のすべての列を送信します。発行で区切りメッセージ・フォーマットを使用するよう指定した場合、CHANGED_COLS_ONLY 属性を N にする必要があります。

ユーザーの処置: ASNCLP またはレプリケーション・センターを使用して、発行に CHANGED_COLS_ONLY=N を指定します。

ASN7142I *program_name* : *program_identifier* : **Q** キャプチャー・プログラムが、MQPUT コマンドを使用してキュー *queue_name* にメッセージを入れたときに、WebSphere MQ エラー (理由コード *reason_code*) を受信しました。プログラムは、最大 *number* 回にわたって (*number* 秒間隔で) メッセージを入れるよう再試行してから停止します。

説明: Q キャプチャー・プログラムがメッセージをキューに入れることができませんでした。MQPUT 操作から、以下のいずれかの WebSphere MQ 理由コードを受信しました。

- 2051: MQRC_PUT_INHIBITED
- 2053: MQRC_Q_FULL
- 2192: MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL
- 2346: MQRC_CF_STRUC_IN_USE
- 2373: MQRC_CF_STRUC_FAILED

このエラーを受信すると、Q キャプチャー・プログラムは、WebSphere MQ *qfull_num_retries* および *qfull_retry_delay* パラメーターに基づいてメッセージの送信を再試行します。このエラーは、Q アプライ・プログラムが受信キューのメッセージを処理していない場合に発生することがあります。Q アプライ・プログラムが停止しているか、Q キャプチャー・プログラムが、WebSphere MQ が処理するよりも速くメッセージをキュー

ーに入れている可能性があります。このエラーは、Q キャプチャー・プログラムの停止中に、ソース表に多くの変更が累積された場合にも発生します。このエラーは、多くの場合、キューを共有する環境で起こります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7143I *program_name* : *program_identifier* : キュー *queue_name* への WebSphere MQ MQPUT コマンドが、*number* 回の再試行後に成功しました。

説明: キューがいっぱいであったため、Q キャプチャー・プログラムは複数回にわたって MQPUT 操作を再試行する必要がありました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7145E *program_name* : *program_identifier* : Oracle LogMiner は、表 *table_name* の V\$LOGMNR_CONTENTS からの読み取り中に、辞書の不一致を見つけました。LogMiner の状況は *status* です。情報は、*informational-message* です。表の Q サブスクリプションはすべて停止しました。

説明: Oracle LogMiner は、辞書の不一致を検出したため、ログ・レコードを変換できませんでした。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- データベース全体を通して、補足ロギングが使用可能になっていない。
- サブスクライブした表の表レベルの補足ロギングが使用可能になっていない。
- サブスクライブした表が変更されたため、Q キャプチャーが、DDL の変更より前のシステム変更番号 (SCN) ロケーションから再始動した。

上記の状態はすべて、オンライン辞書とログ・レコードのフォーマットの間で不一致の原因になりえます。

ユーザーの処置: Oracle ソース・データベースへのデータベース全体の補足ログオンを使用可能にしてください。さらに、すべてのサブスクライブした表で、表レベルの補足ロギングも使用可能にしてください。表のすべての Q サブスクリプションを開始します。

ASN7146E *program_name* : *program_identifier* : Oracle LogMiner は、処理中であったやり直しログ・ファイルのリストで、欠落しているシステム変更番号 (SCN) 範囲を見つけました。Oracle エラー・メッセージは '*oracle_message*' です。ログ・レコードが欠落しているため、Q キャプチャー・プログラムは先に進めません。プログラムは停止します。

説明: Q キャプチャー・プログラムに必要なログ・レコードが欠落しています。欠落しているやり直しログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルを探せるよう、プログラムは停止します。

ユーザーの処置: Oracle エラー・メッセージを使用して、どのやり直しまたはアーカイブ・ログにその SCN 値が入っているかを特定し、そのファイルを Oracle で利用できるようにしてから、Q キャプチャーを開始してください。それらの欠落しているログ・ファイルが使用不可になっている場合、コールド・スタートが必要です。

ASN7147E *program_name* : *program_identifier* : Oracle LogMiner セッションを開始しようとしたときに、エラーが起きました。Oracle エラーは、*error* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムは Oracle LogMiner を使用して、Oracle ソース表のログ・レコードを読み取ります。LogMiner は、開始の試行中にエラーを戻しました。

ユーザーの処置: このエラーに関連する原因とアクションの詳細を、Oracle メッセージおよびコードの資料で確認し、推奨のアクションを実行してください。

ASN7148E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、操作 *operation* の実行中に Oracle Call Interface (OCI) エラーを検出しました。Oracle エラーは、*error* です。

説明: Q キャプチャー、Q アプライ、またはレプリケーション・アラート・モニター・プログラムが OCI 呼び出しを発行したときに、エラーが起きました。このエラーの考えうる原因は、スペース不足条件などの、調査が必要な Oracle 問題にあるか、または Oracle をアプリケーションで利用できなくなっている可能性によるものです。場合によっては、このメッセージの後に 2 番目のメッセージが続き、エラーの発生時のレプリケーション・プログラムの動作内容に関する情報が提供されることがあります。

ユーザーの処置: このエラー・コードの説明と、Oracle で実行を必要とする可能性がある訂正アクションに関する詳細は、Oracle メッセージおよびコードの資料を参照してください。このすぐ後に別のメッセージがレプリケーション・プログラムから発行された場合、そのメッセージに関する説明とユーザー処置を参照してください。

ASN7149E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、SQL 操作実行時に Oracle C++ Call Interface (OCCI) エラーを検出しました。操作は *operation*。サーバー名は、*server_name*。SQL 要求は次の通りです。*sql_request*。表名は *table_name*。
Oracle エラー・コードは *error_code* です。**エラー・メッセージ**は *error_message*。

説明: Q キャプチャー、Q アプライ、またはレプリケーション・アラート・モニター・プログラムが OCCI 呼び出しを発行したときに、エラーが起きました。このエラーの考える原因は、スペース不足条件などの、調査が必要な Oracle 問題にあるか、または Oracle をアプリケーションで利用できなくなっている可能性によるものです。場合によっては、このメッセージの後に 2 番目のメッセージが続き、エラーの発生時のレプリケーション・プログラムの動作内容に関する情報が提供されることがあります。

ユーザーの処置: このエラー・コードの説明と、Oracle で実行を必要とする可能性がある訂正アクションに関する詳細は、Oracle メッセージおよびコードの資料を参照してください。このすぐ後に別のメッセージがレプリケーション・プログラムから発行された場合、そのメッセージに関する説明とユーザー処置を参照してください。

ASN7150E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、操作 *operation* の実行中に Oracle C++ Call Interface (OCCI) エラーを検出しました。**Oracle エラー・コード**は *error_code* です。**エラー・メッセージ**は *error_message*。

説明: Q キャプチャー、Q アプライ、またはレプリケーション・アラート・モニター・プログラムが OCCI 呼び出しを発行したときに、エラーが起きました。このエラーの考える原因は、スペース不足条件などの、調査が必要な Oracle 問題にあるか、または Oracle をアプリケーションで利用できなくなっている可能性によるものです。場合によっては、このメッセージの後に 2 番目のメッセージが続き、エラーの発生時のレプリケーション・プログラムの動作内容に関する情報が提供されることがあります。

ユーザーの処置: このエラー・コードの説明と、Oracle で実行を必要とする可能性がある訂正アクションに関する

詳細は、Oracle メッセージおよびコードの資料を参照してください。このすぐ後に別のメッセージがレプリケーション・プログラムから発行された場合、そのメッセージに関する説明とユーザー処置を参照してください。

ASN7151E *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、内部処理中にサポートされないデータ・タイプを検出しました。列名は *column_name* です。表名は *table_name*。

説明: Oracle ログ・レコードの処理中に、内部エラーが起きました。

ユーザーの処置: このデータ・タイプがサポートされていない場合、表の Q サブスクリプションを再定義してください。そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ASN7153W *program_name* : *program_identifier* : 表 *table_name* の TRUNCATE TABLE ログ・レコードが検出されて、無視されました。

説明: TRUNCATE TABLE ステートメントは、Q キャプチャー・プログラムでは複製されません。このステートメントによってソース表から削除されたどの行も、ターゲット表からは削除されませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

ASN7154E *program_name* : *program_identifier* : 発行または Q サブスクリプション *name* 用のソース表 *table_name* では、すべての列で表レベルの補足ロギングが使用可能になっているわけではありません。この発行または Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

説明: ソース表が間違っていて定義されています。すべての列に対して SUPPLEMENTAL LOG DATA 属性を定義する必要があります。

ユーザーの処置: SUPPLEMENTAL LOG DATA (ALL) COLUMNS が使用可能になるようにソース表を変更し、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。例えば:

```
alter table <src_owner>.<src_table>
  add supplemental log data (all) columns;
```

ASN7155I *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムは、ログ・ファイル *log_file_name* 内のログ・レコードの処理を開始しました。

説明: Q キャプチャー・プログラムの開始時には、このログ・ファイルには、プログラムによって読み取られた最初の DB2 ログ・シーケンス番号 (LSN) または Oracle システム変更番号 (SCN) が入っていました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7156I *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムは、ログ・ファイル *log_file_name* 内のログ・レコードの処理を停止しました。

説明: Q キャプチャー・プログラムの停止時には、このログ・ファイルには、プログラムによって読み取られた最後の DB2 ログ・シーケンス番号 (LSN) または Oracle システム変更番号 (SCN) が入っていました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7157E *program_name : program_identifier :* **IBMQREP_CAPPARMS** コントロール表の **COMPATIBILITY** 列内の値 *value* は、Oracle ソース用の Q キャプチャーでは使用できません。'0905' 以上の値のみを使用できます。Q キャプチャー・プログラムは停止しました。

説明: 始動時に、Q キャプチャー・プログラムは **COMPATIBILITY** 列内でサポートされない値を検出しました。Oracle ソース用の Q キャプチャーは、バージョン 9.5 以上の Q アプライ・プログラムでのみ稼働することができます。COMPATIBILITY 列は、Q キャプチャーが Q アプライに送信するメッセージのバージョンを示します。

ユーザーの処置: **IBMQREP_CAPPARMS** 内の **COMPATIBILITY** 列を '0905' 以上に更新してから、Q キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN7158E *program_name : program_identifier :* **IBMQREP_CAPPARMS** コントロール表の **LOB_SEND_OPTION** 列内の値 *value* は、Oracle ソース用の Q キャプチャーではサポートされていません。サポートされている唯一の値は「I」です。ラージ・オブジェクト (LOB) データはインラインで送信されます。

説明: 始動時に、Q キャプチャー・プログラムは **LOB_SEND_OPTION** 列内でサポートされない値を検出しました。Oracle ソース用の Q キャプチャーは、LOB のインライン送信オプションのみをサポートしません。

ユーザーの処置: **IBMQREP_CAPPARMS** 内の **LOB_SEND_OPTION** 列を「I」に更新してください。

ASN7160W *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムが最も新しいモニター期間中に Oracle LogMiner ユーティリティからログ・レコード・バッチを受信するのに要した平均時間は、Q キャプチャーのコミット・インターバルを超えていました。取り出しの最小、最大、および平均の時間 (ミリ秒) は、*minimum_fetch_time*、*maximum_fetch_time*、*average_fetch_time* です。

説明: Q キャプチャーがパフォーマンス統計をコントロール表に書き込んだ最新の期間では、Q キャプチャーがログ・レコード・バッチを LogMiner から受信するのに要した平均時間は、Q キャプチャーの **commit_interval** パラメーターの値より大きい値でした。このパラメーターは、送信キュー上にあるメッセージを WebSphere MQ に対してコミットするまで Q キャプチャーが待機する時間の長さを設定します。平均取り出し時間がコミット・インターバルより長いと、Q キャプチャーのパフォーマンスが低下します。

ユーザーの処置: このエラー・メッセージに示されている平均取り出し所要時間以上になるように、**commit_interval** パラメーターをミリ秒単位の値に更新してください。

ASN7166W *program_name : program_identifier :* トランザクション・サイズ *size_bytes* が送信キューの最大メッセージ・サイズ *size_bytes* を超えたため、LOB または XML 列のデータが送信されませんでした。サブスクリプションまたは発行は *name*。LOB または XML 列 *column_name* はソース表 *table_name* にあります。行のキー列 *key_columns* のキー値は *key_values*。送信キューのエラー・アクションが実行されます。

説明: LOB または XML データが、トランザクション・メッセージに対して大きすぎます。

ユーザーの処置: **IBMQREP_SENDQUEUES** 表にある **MAX_MESSAGE_SIZE** 値を増やしてください。また、WebSphere MQ 送信キューの **MAXMSGL** パラメータ

ASN7167E

一のサイズも大きくする必要があります。
MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値は、
MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4KB 小
さくしてください。

MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値を大きくでき
ない場合は、IBMQREP_CAPPARMS 表の
LOB_SEND_OPTIONS 値を S に設定して、トランザク
ション・メッセージに続けて LOB メッセージの LOB
値を送信することができます。

ASN7167E *program_name : program_identifer : Q* キ
ャプチャー・プログラムは、表
table_owner.table_name の *Q* サブスクリ
プションまたは発行をアクティブにできま
せんでした。表が変更されました。表のバ
ージョンは *version* です。

説明: 表が変更された場合、*Q* キャプチャー・プログ
ラムはログ・レコードをデコードできません。ソース表
を指定する *Q* サブスクリプションまたは発行を作成し
た後は、その *Q* サブスクリプションまたは発行をアク
ティブ化する前に表を変更しないでください。表のバー
ジョンは 0 でなければなりません。

ユーザーの処置: 表を再編成して *Q* サブスクリプショ
ンまたは発行をアクティブにしてください。

ASN7168E *program_name : program_identifer : 列区*
切り文字、レコード区切り文字、ストリン
グ区切り文字、および小数点として選択さ
れた文字は、送信キュー *queue_name* を
指定するパブリッシング・キュー・マップ
queue_map_name での固有の文字ではあり
ません。

説明: イベント・パブリッシングにおいて区切り文字で
区切られているメッセージに使用されているこの 4 つ
のタイプの区切り文字のいずれにも、同じ文字を使用す
ることはできません。

ユーザーの処置: *Q* レプリケーション・ダッシュボー
ドまたはレプリケーション・センターを使用して、すべ
ての区切り文字が固有な値になるように、パブリッシン
グ・キュー・マップを変更してください。その後、*Q* キ
ャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN7169E *program_name : program_identifer : 列区*
切り文字、レコード区切り文字、ストリン
グ区切り文字、および小数点として選択さ
れた文字は、送信キュー *queue_name* を
指定するパブリッシング・キュー・マップ
queue_map_name では無効です。

説明: イベント・パブリッシングにおいて区切り文字で

区切られているメッセージに使用する区切り文字を、英
数字 (0 から 9 まで、aA から zZ まで) にすることは
できません。

ユーザーの処置: *Q* レプリケーション・ダッシュボー
ドまたはレプリケーション・センターを使用して、どの
区切り文字にも英数字が使用されないように、パブリッ
シング・キュー・マップを変更してください。その後、
Q キャプチャー・プログラムを再始動してください。

ASN7170E *program_name : program_identifer : 送信*
キュー *queue_name* を指定するレプリケ
ーション・キュー・マップまたはパブリッ
シング・キュー・マップ *queue_map_name*
の *max_message_size* パラメーターの値を
超えています。

説明: WebSphere MQ メッセージが送信キュー上に置
かれましたが、このメッセージは、このキューを使用す
るキュー・マップに対して定義されている最大メッセー
ジ・サイズ制限より大きいです。

ユーザーの処置: キュー・マップの *max_message_size*
の値を大きくしてから、*Q* キャプチャー・プログラムを
再び初期化してください。

ASN7171E *program_name : program_identifer : LOB*
または XML 列のデータが大きすぎるた
め、送信キュー *queue_name* が含まれて
いるレプリケーションまたはパブリッシン
グ・キュー・マップ *queue_map_name* の
エラー・アクションによってプログラムが
停止しました。

説明: LOB または XML 列のデータは、トランザクシ
ョン・メッセージ内に送信されます。LOB または XML
データが大きい場合、WebSphere MQ メッセージの最大
メッセージ・サイズを増やす必要があることがありま
す。メッセージで可能なサイズは 2 つのパラメーター
(キュー・マップに関しては
max_message_size、WebSphere MQ キューに関しては
MAXMSGL (最大メッセージ長)) によって制御されてい
ます。

ユーザーの処置: レプリケーションまたはパブリッシン
グ・キュー・マップの *max_message_size* の値を大きく
します。また、キュー・マップで指定されている
WebSphere MQ 送信キューの MAXMSGL のサイズも
大きくする必要のある場合があります。
max_message_size の値を、MAXMSGL の値よりも少な
くとも 4 KB 小さくしてください。

ASN7172E *program_name* : *program_identifier* : 区切り文字で区切られているメッセージ・フォーマット (*message_format=D*) 用にセットアップされたパブリケーション *publication_name* (送信キュー *queue_name*、パブリッシング・キュー・マップ *queue_map_name*) をアクティブにできません。Q キャプチャー・パラメーター *lob_send_options* が S (LOB 値を別のメッセージで送信) に設定されているためです。

説明: 区切り文字で区切られているメッセージ・フォーマットは、別のメッセージを使った LOB 値の送信をサポートしません。区切り文字で区切られているメッセージ・フォーマットは、トランザクション・メッセージ (*lob_send_options=I*) 内での LOB 値の送信のみをサポートします。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して *lob_send_options=I* を設定してください。その後、Q キャプチャー・プログラムを再初期化してから、パブリケーションを開始してください。

ASN7173W *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *queue_name* は、MQPUT エラー *error_number* が原因で非活動化されました。Q キャプチャー・プログラムは、IBMQREP_SENDQUEUES 表内の Q (キューの停止) エラー・アクションに基づいて、引き続き他の送信キューへのメッセージ書き込みを続けます。問題の訂正後、*startq* コマンドを使用して、キュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開することができます。

説明: Q エラー・アクションは、1 つの送信キューが非活動化されていても、アクティブな送信キューへのメッセージの書き込みを継続するよう、Q キャプチャーに求めます。Q キャプチャーは、非活動化された送信キューを使用する Q サブスクリプションまたは発行に関する再始動情報を保存しているため、該当するキューの変更点をログから再キャプチャーして、他のキューと同じ再始動点に置くことができます。

ユーザーの処置: WebSphere MQ エラー番号を使用して、キュー上のエラーの原因となった問題を判別してから、*startq* コマンドを使用して、キュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開してください。

ASN7174I *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* は *startq* コマンドによってアクティブにされました。

説明: Q キャプチャーは、ログからこのキューの変更点を再キャプチャーし、それを他のキューと同じ再始動点に置きます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7175E *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *queue_name* が存在しません。*startq* コマンドは無視されます。

説明: *startq* コマンドが、存在しない送信キューに発行されました。

ユーザーの処置: キュー名が正しいことを確認してから、*startq* コマンドを再発行してください。

ASN7176I *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の送信キュー *queue_name* が、*stopq* コマンドによって非アクティブにされました。Q キャプチャーはこのキューのログ・シーケンス番号 *lsn* までをキャプチャーしました。このキューの最大コミット・シーケンスは *maxcmtseq* です。

説明: Q キャプチャーは、1 つの送信キューが非アクティブであっても、アクティブな送信キューへのメッセージの書き込みを継続します。Q キャプチャーは、非活動化された送信キューを使用する Q サブスクリプションまたは発行に関する再始動情報を保存しているため、該当するキューの変更点をログから再キャプチャーして、他のキューと同じ再始動点に置くことができます。

ユーザーの処置: *startq* コマンドを使用して、キュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開します。

ASN7177I *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *queue_name* が存在しないか、Q キャプチャー・プログラムに認識されていません。*stopq* コマンドは無視されません。

説明: 存在しないか Q キャプチャー・プログラムに認識されていない送信キューに対して *stopq* コマンドが発行されました。

ASN7178I

ユーザーの処置: キュー名が正しいことを確認してから、stopq コマンドを再発行してください。レプリケーションがアクティブ状態のときにキューが追加された場合は、そのキューを使用する Q サブスクリプションを開始すると、Q キャプチャー・プログラムがそのキューを認識するようになります。

ASN7178I *program_name : program_identifier :* すべての送信キューが非アクティブ (I) 状態にあります。STARTQ コマンドを使用して、非アクティブなキュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開することができます。

説明: すべてのキューが非アクティブですが、Q キャプチャー・プログラムは CAPSTART などのシグナルに関するログの読み取りや、モニター表への挿入を継続し、コマンドを待機します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7179W *program_name : program_identifier :* Q キャプチャー・プログラムは、ソース表 *table-owner.table_name* の Q サブスクリプション *name* をアクティブにできません。Q サブスクリプションが使用する送信キュー *queue_name* が非アクティブ (I) 状態にあり、他のアクティブな Q サブスクリプションがその送信キューを使用しているためです。Q サブスクリプションをアクティブにするための CAPSTART シグナルを、Q キャプチャーは無視します。

説明: 送信キューが stopq コマンドによって停止されたために非アクティブな場合、またはエラーが原因で非アクティブな場合には、そのキューを指定する Q サブスクリプションを Q キャプチャー・プログラムはアクティブにできません。ただし、他のアクティブな Q サブスクリプションがそのキューを使用していない場合、またはキューを開始する場合は例外です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- startq コマンドを使用して、キュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開します。
- このキューを使用する他のすべてのアクティブな Q サブスクリプションを停止してから、このメッセージで指定されている Q サブスクリプションを開始します。
- 他のアクティブな Q サブスクリプションを停止または開始すると、すべての Q サブスクリプションのタ

ーゲット表を新規ロード (フル・リフレッシュ) するかプロンプトが出されます。メッセージ・テキストで指定されている表だけに新規ロードのプロンプトを出さず場合には、startq コマンドを使用します。

ASN7180E *program_name : program_identifier :* 圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 コンプレッション・ディクショナリーが現在存在していないため、Q キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。読み取れなかったログ・レコードは、ソース表 *table_owner.table_name* のものです。理由コードは *reason_code*。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取りインターフェースからエラーを受け取りました。理由コードは、DB2 for z/OS では理由コード、Linux、UNIX、または Windows では SQLCODE です。このエラーは、対応する DB2 表または表スペースのコンプレッション・ディクショナリーが恒久的に使用できないため、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。このソース表を含む圧縮表または表スペースは、おそらく KEEPDICTIONARY オプションなしで実行された REORG ユーティリティによって再編成されました。Q キャプチャー・プログラムは、再編成の前に生じたソース表の変更について、残りの圧縮されたログ・レコードを読み取ることができないため、Q サブスクリプションは非アクティブになります。その後 Q キャプチャーは Q サブスクリプションをアクティブ化し、ロードが指定されている場合にはターゲット表の新規ロードのプロンプトを出します。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションでターゲット表の自動ロードが指定されている場合、アクションは必要ありません。Q サブスクリプションで手動ロードが指定されている場合は、ターゲットを再ロードして Q キャプチャーに LOADDONE シグナルを発行するためのアクションをとる必要があります。Q アプライは、Q キャプチャーから LOADDONE メッセージがあるまでは、スピル・キューに変更をスピルします。Q サブスクリプションでロードが指定されていない場合は、ターゲットを再ロードして Q サブスクリプションを再活動化するためのアクションをとる必要があります。

ASN7181E *program_name : program_identifier :* 圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 コンプレッション・ディクショナリーが一時的に使用できないため、Q キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。読み取れなかったログ・レコードは、ソース表 *table_owner.table_name* のものです。理由コードは *reason_code*。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取りからエラーを受け取りました。このエラーは、対応する DB2 表または表スペースのコンプレッション・ディクショナリーが一時的に使用できないため、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。z/OS の場合、この理由コードは z/OS 診断コードです。Linux、UNIX、および Windows では、この理由コードは SQL コードです。この問題の原因の 1 つとして、DB2 ログ読み取りインターフェースがコンプレッション・ディクショナリーを読み取ろうとしたときに、圧縮表スペースが停止状態になっていることが考えられます。DB2 は、辞書へのアクセスのために、ソースの圧縮表スペースにラッチをかけますが、その表スペースが停止していると、ラッチは機能しません。このエラーが発生すると、Q キャプチャー・プログラムはソース表用 Q サブスクリプションを非活動化することになります。

ユーザーの処置: コンプレッション・ディクショナリーが使用できるようになると、この問題は解決されます。Q キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN7182W *program_name : program_identifier : シグナル signal_type が失敗しました。Q サブスクリプション name が使用する送信キュー queue_name が非アクティブ (I) 状態にあるためです。Q キャプチャー・プログラムはこのシグナルを無視しました。*

説明: 送信キューが **stopq** コマンドによって停止されたために非アクティブな場合、またはエラーが原因で非アクティブな場合には、そのキューが開始されるまでは、そのキューを使用する Q サブスクリプションで Q キャプチャー・プログラムはシグナルを処理できません。

ユーザーの処置: **startq** コマンドを使用して、キュー上でのレプリケーションまたはパブリッシングを再開してから、シグナルを再挿入するか、結果としてシグナル挿入が生じるアクションを繰り返します。

ASN7183I *program_name : program_identifier : データ・パーティション data_partition_number がソース表 table_owner.table_name に追加されました。*

説明: ソース・パーティション表が変更されてパーティションが追加されました。Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムはこの変更を複製しません。したがって、ターゲット表に新しいパーティションが自動的に追加されることはありません。新しく追加されたこのパーティションに対する後続の挿入、更新、および削除は、キャプチャーされます。ターゲットが同じようにパーティション化された表であり、新規ソース・パーティ

ションがターゲットに存在しない場合、Q アプライまたはアプライ・プログラムが行をターゲットに適用しようとするとエラーが起きます。

ユーザーの処置: ターゲットに新しいパーティションを必要とする場合は、手動で追加する必要があります。

ASN7184W *program_name : program_identifier : データ・パーティション data_partition_number がソース表 table_owner.table_name にアタッチされました。*

説明: ソース・パーティション表が変更されてパーティションがアタッチされました。Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムはこの変更のレプリケーションをサポートしていません。したがって、ターゲットで新しいパーティションが自動的にアタッチされることも、新しいパーティション内の既存データがターゲットに複製されることもありません。新しくアタッチされたこのパーティションに対する後続の挿入、更新、および削除は、複製されます。

ユーザーの処置: ターゲットに新しいパーティションを必要とする場合は、手動で追加する必要があります。アタッチされたデータをターゲットでも必要とする場合は、手動でターゲットにロードする必要があります。

ASN7185W *program_name : program_identifier : データ・パーティション data_partition_number がソース表 table_owner.table_name からデタッチされました。*

説明: ソース・パーティション表が変更されてパーティションがデタッチされました。Q キャプチャーまたはキャプチャー・プログラムはこの変更のレプリケーションをサポートしていません。したがって、デタッチされたパーティションがターゲットでデタッチされることも、DELETE 操作がターゲットに複製されることもありません。

ユーザーの処置: パーティションまたはそのデータがターゲットで不要になった場合は、パーティションをデタッチするかまたはデータを削除してください。

ASN7186W *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に使用される表 *table_name* で、ユーティリティー *utility_name* による操作が検出されました。追加または変更された行の取り扱いは、データ変更を行った **DB2** ユーティリティーのタイプと、ソース表でのロード操作を複製することを **Q** サブスクリプションが指定しているかどうか (**IBMQREP_SUBS** コントロール表の **CAPTURE_LOAD** 列の値) によって異なります。

説明: **Q** キャプチャー・プログラムは、以下のユーティリティーのいずれかによるソース表でのデータ変更を検出しました。

DB2 for z/OS

- LOAD SHRLEVEL NONE RESUME YES
- LOAD SHRLEVEL NONE REPLACE
- REORG TABLESPACE DISCARD
- CHECK DATA DELETE YES LOG NO
- RECOVER PIT
- EXCHANGE DATA ON CLONE TABLESPACE

DB2 for Linux, UNIX, and Windows

DB2 LOAD

以下の **DB2** ユーティリティーの場合、**Q** キャプチャーは **CAPTURE_LOAD** 値に基づいて動作します。

- LOAD SHRLEVEL NONE RESUME YES
- LOAD SHRLEVEL NONE REPLACE
- REORG TABLESPACE DISCARD
- CHECK DATA DELETE YES LOG NO
- RECOVER PIT
- EXCHANGE DATA ON CLONE TABLESPACE
- **DB2 LOAD** (Linux, UNIX, Windows)

CAPTURE_LOAD オプションは、データ変更操作が検出されたときの以下のアクションをサポートします。

R (再始動)

Q サブスクリプションが再始動され、ターゲット表にソース表のデータがロードされます。ロードのタイプは、**IBMQREP_TARGETS** コントロール表の **LOAD_TYPE** 値によって決まります。

W (警告)

Q サブスクリプションは再始動されず、この警告メッセージが出されます。

ユーザーの処置: **CAPTURE_LOAD** が **W** に設定されている場合、または **CAPTURE_LOAD** が **DB2** ユーティリティーをサポートしていない場合は、ソース表とターゲット表を同期させるアクションをとってください。

ASN7187E *program_name* : *program_identifier* : **IBMQREP_SUBS** コントロール表の **CAPTURE_LOAD** 列の値が **Q** サブスクリプション *name* に対して **R** に設定されています。この値は最大で 2 つのサーバーを使用する単一方向、双方向、およびピアツーピア **Q** サブスクリプションでのみサポートされています。しかし、ロード操作がソース表で検出されました。**Q** キャプチャー・プログラムは停止しました。

説明: **CAPTURE_LOAD** が **R** に設定されていますが、**Q** サブスクリプション・タイプは 3 つ以上のサーバーを使用するピアツーピアです。値 **R** は、2 つのサーバーを使用する単一方向、双方向、およびピアツーピア・レプリケーションでのみサポートされています。

ユーザーの処置: ピアツーピア・グループに参加するすべての **Q** サブスクリプションについて、**CAPTURE_LOAD** の値を **W** に変更してください。ソース表がロードされたため、ソース表とターゲット表は同期化されていません。以下のアクションを行ってください。

1. **asntdiff** および **asntrep** ユーティリティーを使用して、手動で表を同期化します。
2. **CAPTURE_LOAD** を **W** に設定します。
3. **Q** キャプチャーをウォーム・モードで開始します。**Q** キャプチャーは、ログ内にソース表のロード操作を検出すると、警告メッセージを出します。

ASN7188W *program_name* : *program_identifier*: **IBMQREP_SUBS** コントロール表の **CAPTURE_LOAD** オプションの値が **R** に設定されています。**IBMQREP_SUBS** コントロール表の **HAS_LOADPHASE** オプションの値が **N** に設定されています。**Q** キャプチャー・プログラムがロード操作を検出した場合、**Q** サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、ロード・フェーズなしで **Q** キャプチャーによって再始動されます。

説明: Q キャプチャー・プログラムがロード操作を検出し、CAPTURE_LOAD 値が R に設定されている場合、Q キャプチャーは Q サブスクリプションを再始動します。再始動プロセス中に、Q アプライ・プログラムは HAS_LOADPHASE 値を使用して、使用するロードのタイプを判別します。HAS_LOADPHASE 値が N に設定されている場合、Q アプライ・プログラムはソース表をロードしません。ターゲット表にソース表の最新データがロードされていないため、ソース表とターゲット表とは非同期になります。ソース表とターゲット表が非同期になった場合、それらの表を同期させる必要があります。

ユーザーの処置: IBMQREP SUBS コントロール表で、影響を受ける Q サブスクリプションの CAPTURE_LOAD オプションおよび HAS_LOADPHASE オプションの設定を確認してください。

ASN7189I *program_name : program_identifier : データベース・リカバリー・ログで utility_name 操作が検出されたため、表 table_owner.table_name に関する Q サブスクリプション name (送信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) が再始動されました。*

説明: Q キャプチャー・プログラムはソース表内のデータを変更したユーティリティー操作を検出し、CAPTURE_LOAD オプションは R に設定されています。Q サブスクリプションは再始動されました。再始動によってターゲット表の新規ロードが行われるようになり、該当する場合、これには新しくロードされたデータが含まれます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7190W *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (送信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) に関する、IBMQREP SUBS コントロール表の CAPTURE_LOAD 列の値は R に設定されています。しかし、互換性レベルは compatibility_level です。Q キャプチャー・プログラムは、ソース表で検出したロード操作を報告しますが、複製はしません。*

説明: CAPTURE_LOAD オプションの R は互換性レベルが 0907 以上の場合のみ有効で、Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムの両方がバージョン 9.7 以上であることが必要です。バージョン 9.7 以上のバージョン

ンにおいて、CAPTURE_LOAD が R に設定されている場合、ソース表のロード操作は Q サブスクリプション用に選択されたロード・タイプを使って複製されません。

ユーザーの処置: ロードの複製機能を使用可能にするには、Q アプライ・プログラムをバージョン 9.7 以上にアップグレードし、IBMQREP_CAPPARMS 表の COMPATIBILITY 値を 0907 以上に設定します。

ASN7191E *program_name : program_identifier : データベース database_name が ARCHIVELOG モードではありません。Q キャプチャー・プログラムは停止しました。*

説明: Q キャプチャー・プログラムがコールドまたはウォーム・スタートを実行しようとしたましたが、Q キャプチャー・プログラムが Oracle LogMiner ユーティリティーと連動するようにソース・データベースが正しく構成されていませんでした。V\$DATABASE 動的ビューの LOG_MODE 列が、ARCHIVELOG に設定されていなければなりません。

ユーザーの処置: ARCHIVELOG モードが有効になるように、データベースの構成を変更してください。アーカイブ・ロギングを使用可能にする方法については、「Oracle Database Administrator's Guide」の『Managing Archived Redo Logs』という章を参照してください。

ASN7192E *program_name : program_identifier : データベース database_name が最小限の補足ロギング・モードではありません。Q キャプチャー・プログラムは停止しました。*

説明: Q キャプチャー・プログラムがコールドまたはウォーム・スタートを実行しようとしたましたが、Q キャプチャー・プログラムが Oracle LogMiner ユーティリティーと連動するようにソース・データベースが正しく構成されていませんでした。V\$DATABASE 動的ビューの SUPPLEMENTAL_LOG_DATA_MIN 列が、YES または IMPLICIT に設定されていなければなりません。

ユーザーの処置: データベースで最小限の補足ロギングを使用可能にしてください。詳しくは、「Oracle Database Utilities guide」の『Supplemental Logging』を参照してください。

ASN7193I 応答の待機中にタイムアウトになりました。

ASN7194W *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムは、表 *table_owner.table_name* にパーティションがアタッチされたことを検出しました。Q キャプチャーは、この表に関する最初の Q サブスクリプションが開始した時点に対応するポイントまでのログ・レコードを読み取っていませんでした。表がパーティションとしてアタッチされる前に、Q キャプチャーによって表の行が不適切にキャプチャーされた可能性があります。

説明: Q キャプチャー・プログラムが表の最初の Q サブスクリプションを開始するときに、表の情報がシステム・カタログから集められます。Q キャプチャーが表の最初の Q サブスクリプションを開始する前にパーティションが表にアタッチされた場合、システム・カタログ情報にはログ内での Q キャプチャーの位置が正しく反映されない可能性があります。新しくアタッチされるパーティションの場合、パーティションとしてアタッチされる前に、Q キャプチャーによって表の行が不適切にキャプチャーされる可能性があります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを停止した後、開始します。

ASN7195W *program_name : program_identifier : Q* キャプチャー・プログラムは、表 *table_owner.table_name* からパーティションがデタッチされたことを検出しました。Q キャプチャーは、この表に関する最初の Q サブスクリプションが開始した時点に対応するポイントまでのログ・レコードを読み取っていませんでした。新しくデタッチされるパーティションの場合、デタッチされる前のパーティションの行を、Q キャプチャーが誤ってキャプチャーしそこなう可能性があります。

説明: Q キャプチャー・プログラムが表の最初の Q サブスクリプションを開始するときに、表の情報がシステム・カタログから集められます。Q キャプチャーが表の最初の Q サブスクリプションを開始する前にパーティションが表からデタッチされた場合、システム・カタログ情報にはログ内での Q キャプチャーの位置が正しく反映されない可能性があります。新しくデタッチされるパーティションの場合、デタッチされる前に、パーティションの行が Q キャプチャー処理で不適切に欠落する可能性があります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを停止した後、開始します。

ASN7198E *program_name : program_identifier :* パラメーター *trans_batch_sz* が 1 より大きい値に設定されていますが、Q キャプチャーの *lob_send_options* パラメーターは必要な設定値 *I* ではなく *S* に設定されています。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: ラージ・オブジェクト (LOB) データが単一のトランザクション・メッセージ内で送られる場合に限り、トランザクションのバッチ処理を使用できます。*trans_batch_sz* パラメーターが 1 より大きく設定される場合、*lob_send_options* パラメーターは *S* (分離) ではなく *I* (インライン) に設定される必要があります。

ユーザーの処置: *lob_send_option* パラメーターを *I* に設定して、Q キャプチャー・プログラムを再始動します。

ASN7199E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプションまたは発行 *name* 用の *IBMQREP_SUBS* 表の *CHANGE_CONDITION* 列で指定されたログ・レコード変数 *variable_name* は、このデータベースでは無効です。Q サブスクリプションまたは発行は非活動化されません。

説明: Linux、UNIX、および Windows では、変数 *\$AUTHTOKEN* および *\$PLANNAME* を変更条件に使用することはできません。これらの変数は、z/OS オペレーティング・システム上のデータベース・ログ・レコードでのみ使用可能です。Linux、UNIX、および Windows では *\$OPERATION* および *\$AUTHID* 変数を使用できます。

ユーザーの処置: 検索条件と変更条件の形式が適切であることを確認して、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。検索条件または変更条件を指定する正しい方法について、詳しくは DB2 インフォメーション・センターの『行のフィルタリングのためのログ・レコード変数 (単一方向レプリケーション)』を参照してください。

ASN7200E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプションまたは発行 *name* に関する *IBMQREP_SUBS* 表の *SEARCH_CONDITION* 列の変数 *variable_name* が無効です。*CHANGE_CONDITION* 列でのみログ・レコード変数を指定する必要があります。Q サブスクリプションまたは発行は非活動化されます。

説明: SEARCH_CONDITION 列には、ソース表の列名または定数だけを含める必要があります。ログ・レコード変数は CHANGE_CONDITION 列で指定してください。

ユーザーの処置: 検索条件と変更条件の形式が適切であることを確認して、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。検索条件または変更条件を指定する正しい方法について、詳しくは DB2 インフォメーション・センターの『行のフィルタリングのためのログ・レコード変数 (単一方向レプリケーション)』を参照してください。

ASN7201E *program_name : program_identifier : キュー queue_name の再始動情報に、バージョン version の Q キャプチャーとの互換性がありません。*

説明: このバージョンの Q キャプチャーでは再始動メッセージを処理できません。Q キャプチャーが最近アップグレードされたことがその理由として考えられます。

ユーザーの処置: パラメーター「migrate=y」を指定 (ログの最初から読み取るようプログラムに指示) した asnqcap コマンドを使用して Q キャプチャーを開始してください。このオプションは、初めて Q キャプチャーを開始し、startmode=warmns を指定する際のみ使用してください。

ASN7202E *program_name : program_identifier : Q キャプチャー・プログラムは、理由 reason により、再始動ファイル file_name を開けませんでした。プログラムは開始されませんでした。*

説明: Q キャプチャー・プログラムは、override_restartq パラメーターを Y (はい) に設定して開始されました。この設定は Q キャプチャーに、再始動キューではなく再始動ファイルで再始動情報を探すよう指示します。しかし、Q キャプチャーは再始動ファイルを開くことができませんでした。ファイルが誤って削除された可能性があります。あるいは、Q キャプチャー処理と関連付けられているユーザー ID にそのファイルを開くための十分な権限がありません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー処理と関連付けられているユーザー ID に十分な権限があることを確認してください。ファイルが誤って削除されている場合は、新しい再始動ファイルを作成し、Q キャプチャーを再始動してください。Q キャプチャーは、ログの読み取りを開始した後、およびその最後の WebSphere MQ コミットを行ってから終了するまでの間に、再始動情報を標準出力 (STDOUT) に書き込みます (Q キャプチャーはこ

のとき、再始動データ・セットまたはファイルへの再始動情報の書き込みも行います)。再始動情報を標準出力またはジョブ・ログから再始動メッセージにコピーしてください。

ASN7203E *program_name : program_identifier : 送信キュー queue_name が再始動情報に存在しません。プログラムは開始されませんでした。*

説明: Q キャプチャー・プログラムは、override_restartq パラメーターを Y (はい) に設定して開始されました。この設定は Q キャプチャーに、再始動キューの代わりにファイルから再始動情報を取得するよう指示し、1 つ以上の送信キューに対して個別に再始動点を指定できるようにします。しかし、Q キャプチャーは、再始動ファイル内に、いずれかのアクティブ Q サブスクリプションによって使用されるキューを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: 再始動ファイルで、アクティブ Q サブスクリプションによって使用されるキューを指定し、Q キャプチャーを再始動してください。

ASN7205E *program_name : program_identifier : override_restartq=y パラメーターを使ってウォーム・モードで Q キャプチャー・プログラムを開始できません。lsn および maxcmtseq パラメーターも指定されていたからです。lsn および maxcmtseq を指定するか、override_restartq を指定するかのどちらかにしてください。*

説明: Q キャプチャー・プログラムは、ウォーム・スタート時に lsn および maxcmtseq パラメーターを一緒に使用することにより、グローバル再始動情報を使って開始することができます。あるいは、override_restartq=y パラメーターを使用することにより、送信キューごとに異なる再始動点から Q キャプチャーを開始することもできます。lsn/maxcmtseq と override_restartq の両方を指定することはできません。

ユーザーの処置: グローバル・ウォーム・スタート情報を使って Q キャプチャーを開始するか (lsn および maxcmtseq)、再始動ファイルのウォーム・スタート情報を使って Q キャプチャーを開始してください (override_restartq)。

ASN7206E *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、システム・エラー *error_code* により、再始動キューの指定変更ファイル *file_name* に書き込むことができません。Q キャプチャーの実行は継続します。

説明: Q キャプチャー・プログラムは各送信キューの再始動情報を、データ・セット名またはファイル名 *capture_path/qrestart* を持つファイルに書き込みます。*capture_path* は、*capture_path* パラメーターの値です。Q キャプチャー・プログラムを開始したユーザー ID にファイルへのアクセス権限がないか、ファイルが小さすぎるかのどちらかです。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムを開始したユーザー ID にファイルへの正しいアクセス権限およびセキュリティ権限があることを確認してください。また、ファイルに対して十分なスペースが割り振られていることも確認してください。

ASN7207I *program_name* : *program_identifier* : 再始動キューの指定変更ファイルの内容は、次のとおりです:
<*send_queue_name*>、<*restart_lsn*>、<*maxcmtseq*>、<*partition*> (パーティション・データベースの場合のみ):

説明: 再始動メッセージに加えて、Q キャプチャー・プログラムはデータ・セットまたはファイルに再始動情報を記録します。Q キャプチャーは、再始動ログ・シーケンス番号 (まだコミットされていないトランザクションの最低の LSN) からログの読み取りを始め、最大のコミット・シーケンス番号 (成功したトランザクションの最高の LSN) より前にコミットが行われたトランザクションを無視します。パーティション・データベースでは、これらのログ標識は Q キャプチャー・プログラムが実行されているパーティションから来ます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7208I *program_name* : *program_identifier* : 新しいデータ・タイプ *data_type* の表 *table_name* の列 *column_name* で ALTER TABLE ALTER COLUMN ステートメントが検出されました。Q サブスクリプション *name* の列は自動的に変更されました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、Q サブスクリプションの一部となっている列が変更されたことを検出しました。メッセージは自動的に Q アプライ・プログ

ラムに送信され、ターゲットの列で対応する変更を行います。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7209I *program_name* : *program_identifier* : 表 *table_name* の列 *column_name* がパブリケーションまたは Q サブスクリプション *name* に自動的に追加されました。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、サブスクライブした表に列が追加されたことを検出しました。*repl_addcol* パラメーターの値は Y (はい) です。パラメーターは、表で新しく追加される列を自動的に Q サブスクリプションに追加するように指定しており、それに従って列が追加されました。ターゲット表にまだ列が存在しない場合は、追加されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7210I *program_name* : *program_identifier* : スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に対応する Q サブスクリプション *name* が、送信キュー *queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するソース表 *table_owner.table_name* に、正常に作成されました。

説明: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションは、レプリケーション・プログラムが、指定された表所有者を持つすべての表に Q サブスクリプションを自動的に作成するように指定します。表レベルの Q サブスクリプションが正常に作成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7211E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* はソース表 *table_owner.table_name* に既に存在しており、Q サブスクリプションが非アクティブ (I) 以外の状態であるため、上書きできません。Q サブスクリプションは、送信キュー *queue_name* およびキュー・マップ *queue_map_name* を指定します。プログラムは停止します。

説明: レプリケーション・プログラムが、同じ表所有者を持つすべての表に Q サブスクリプションを自動的に作成するように指定する、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションが存在しています。Q キャプチャー・プログラムは、指定された表に Q サブスクリプション

を作成しようとしたのですが、その表のための Q サブスクリプションは既に存在しています。Q サブスクリプションが非アクティブだった場合は、既存の Q サブスクリプションを上書きする新規 Q サブスクリプションが作成されているはずで

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

- レプリケーション管理ツールを使用して、既存の Q サブスクリプションを削除するか、サブスクリプションの状態を非アクティブ (I) に設定して、上書きできるようにします。
- Q キャプチャー・プログラムを開始します。

ASN7212E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name* は、停止処理中だったために開始できませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムは既にこの Q サブスクリプションの CAPSTOP シグナルを受け取っており、停止処理中でした。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションの状態が I (非アクティブ) に変わった後、レプリケーション管理ツールを使用するか CAPSTART シグナルを挿入して、Q サブスクリプションを再び開始してください。

ASN7213I *program_name : program_identifier : プログラムはデータベースのコミット・タイム・スタンプ timestamp* まで変更をパブリッシュした後、停止します。

説明: captureupto オプションを使って stop コマンドが発行されました。このオプションは、指定されたタイム・スタンプまで (その時刻も含む) にコミットされるデータベース・トランザクションをパブリッシュした後、Q キャプチャーが停止することを指定します。タイム・スタンプは、データベースのタイム・ゾーンにあるものとして扱われます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7214I *program_name : program_identifier : プログラムはデータベースのコミット・タイム・スタンプ timestamp* まで変更をパブリッシュし、変更が送信または適用されるのを待った後、停止します。

説明: captureupto という名前のパラメーターを使用して、Q キャプチャー・プログラムをいつ停止するのかを指定することができます。あるタイム・スタンプを captureupto パラメーターで指定することにより、(そのタイム・スタンプを含む) タイム・スタンプまでにコミットされたすべてのデータベース・トランザクションを

Q キャプチャー・プログラムがパブリッシュした後に、プログラムを停止させることができます。このメッセージは、Q キャプチャー・プログラムが停止され、captureupto という名前のパラメーターが指定されていた場合に返されます。タイム・スタンプは、データベースのタイム・ゾーンにあるものとして扱われます。

stop コマンドで stopafter オプションも指定されました。以下のうち、指定された方の条件が満たされるまで、プログラムは停止を待ちます。

- 伝送キューが空である (または、キューがローカルの場合は Q アプライがすべてのメッセージをコンシュームした)。
- 停止ポイントまでのすべての変更がターゲットで適用される。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7215I *program_name : program_identifier : プログラムは送信キュー queue_name のトランザクションをデータベースのコミット・タイム・スタンプ timestamp* までパブリッシュした後、キューを非活動化します。

説明: captureupto オプションを指定して stopq コマンドが発行されました。このオプションは、指定されたタイム・スタンプまで (その時刻も含む) にコミットされるデータベース・トランザクションをパブリッシュした後、Q キャプチャーが特定のキューへの変更のパブリッシュを停止することを指定します。タイム・スタンプは、データベースのタイム・ゾーンにあるものとして扱われます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7216I *program_name : program_identifier : プログラムは送信キュー queue_name のトランザクションをデータベースのコミット・タイム・スタンプ timestamp* までパブリッシュし、キューを非活動化した後、変更が送信または適用されるのを待ちます。

説明: captureupto オプションを指定して stopq コマンドが発行されました。このオプションは、指定されたタイム・スタンプまで (その時刻も含む) にコミットされるデータベース・トランザクションをパブリッシュした後、Q キャプチャーが特定のキューへの変更のパブリッシュを停止することを指定します。タイム・スタンプは、データベースのタイム・ゾーンにあるものとして扱われます。

stopq コマンドで stopafter オプションも指定されまし

ASN7217I

た。以下のうち、指定された方の条件が満たされるまで、プログラムは停止を待ちます。

- 伝送キューが空である (または、キューがローカルの場合は Q アプライがすべてのメッセージをコンシュームした)。
- 停止ポイントまでのすべての変更がターゲットで適用される。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7217I *program_name* : *program_identifier* : プログラムはアクティブ・ログの終わりまで変更をパブリッシュした後、停止します。

説明: captureupto オプション eol (ログの終わり) を指定して stop コマンドが発行されました。このオプションは、アクティブ・データベース・ログの終わりまでデータベース・トランザクションをパブリッシュした後、Q キャプチャーが停止することを指定します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7218I *program_name* : *program_identifier* : プログラムはアクティブ・ログの終わりまで変更をパブリッシュし、変更が送信または適用されるのを待った後、停止します。

説明: captureupto オプション eol (ログの終わり) を指定して stop コマンドが発行されました。このオプションは、アクティブ・データベース・ログの終わりまでデータベース・トランザクションをパブリッシュした後、Q キャプチャーが停止することを指定します。

stop コマンドで stopafter オプションも指定されました。以下のうち、指定された方の条件が満たされるまで、プログラムは停止を待ちます。

- 伝送キューが空である (または、キューがローカルの場合は Q アプライがすべてのメッセージをコンシュームした)。
- 停止ポイントまでのすべての変更がターゲットで適用される。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7219I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは送信キュー *queue_name* のトランザクションをアクティブ・ログの終わりまでパブリッシュした後、キューを非活性化します。

説明: captureupto オプション eol (ログの終わり) を指

定して stopq コマンドが発行されました。このオプションは、アクティブ・データベース・ログの終わりに達した後、Q キャプチャーが特定のキューへのデータベース・トランザクションのパブリッシュを停止することを指定します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7220I *program_name* : *program_identifier* : プログラムは送信キュー *queue_name* のトランザクションをアクティブ・ログの終わりまでパブリッシュし、キューを非活性化した後、変更が送信または適用されるのを待ちます。

説明: captureupto オプション eol (ログの終わり) を指定して stopq コマンドが発行されました。このオプションは、アクティブ・データベース・ログの終わりに達した後、Q キャプチャーが特定のキューへのデータベース・トランザクションのパブリッシュを停止することを指定します。

stopq コマンドで stopafter オプションも指定されました。キューが非活性化された後、プログラムはモニターし、以下のいずれかの条件が満たされる場合にメッセージを発行します。

- 伝送キューが空である (または、キューがローカルの場合は Q アプライがすべてのメッセージをコンシュームした)。
- 停止ポイントまでのすべての変更がターゲットで適用される。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7221E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが captureupto パラメーターで誤った値 *value* を検出しました。コマンドまたはシグナルは無視されます。

説明: stop または stopq コマンドで、無効なタイム・スタンプを持つ captureupto パラメーターが使用されています。タイム・スタンプは Q キャプチャー・サーバーのタイム・ゾーンになければならず、完全タイム・スタンプ形式または部分的タイム・スタンプ形式で指定する必要があります。完全タイム・スタンプでは、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.mmmmmm という形式を使用します。

受け入れられる部分的タイム・スタンプの形式の例については、『指定したポイントで Q キャプチャー・プログラムを停止する』を参照してください。

別の方法として、キーワード CURRENT_TIMESTAMP

を指定することもできます。Q キャプチャー・プログラムは現行時刻を置き換えることにより、その現行時刻までにコミットされるトランザクションがパブリッシュされます。

ユーザーの処置: タイム・スタンプの形式を修正し、コマンドまたはシグナルを再発行してください。

ASN7222I *program_name : program_identifier :*
stopafter オプションを使用した **stop** または **stopq** コマンドに応じて、プログラムは、パブリッシュされるすべてのメッセージが受信キューに送信されるまで送信キュー *queue_name* をモニターします。ローカル・キューまたは伝送キュー *queue_name* の現行キュー項目数は *queue_depth* です。

説明: stopafter=data_sent を使用して stop または stopq コマンドが指定されました。Q キャプチャーは、すべてのメッセージが受信キューに送信されるまで (つまり、キュー項目数が 0 になるまで) 特定の送信キューをモニターします。stop コマンドを使用する場合、Q キャプチャーはすべてのアクティブ・キューが空になった後、終了します。stopq コマンドを使用する場合、Q キャプチャーはキューが空になった後、メッセージを発行します。Q キャプチャーと Q アプライがローカル・キューを共有する場合、Q キャプチャーは、Q アプライがキューからすべてのメッセージを削除するまで待ちます。複数のリモート・キューが伝送キューを共有する構成では、非 Q キャプチャー・メッセージが伝送キューに送信されるために Q キャプチャーの待ち時間が予想よりも長くなる可能性があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7223I *program_name : program_identifier :*
stopafter オプションを使用した **stop** または **stopq** コマンドに応じて、プログラムは、送信キュー *queue_name* にパブリッシュされるすべてのトランザクションがターゲットで適用されるのを待ちます。

説明: オプション stopafter=data_applied を使用して stop または stopq コマンドが指定されました。特定のキューですべてのメッセージが適用されると、Q アプライは Q キャプチャーに通知します。stop コマンドを使用する場合、Q キャプチャーは Q アプライがすべてのアクティブ・キューに応答を送信した後、停止します。stopq コマンドを使用する場合、Q キャプチャーは Q アプライから通知を受けると、メッセージを発行します。Q アプライが実行されていない場合、Q キャプチャーは無期限で待ち続けます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7224I *program_name : program_identifier :* 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、送信キュー *queue_name* にパブリッシュされた、コミット・シーケンス番号 *commit_seq*、コミット・タイム・スタンプ *timestamp* までのすべてのトランザクションが適用されたことを Q キャプチャー・プログラムに通知しました。ブラウザー・スレッドはメッセージの処理を継続します。

説明: オプション stopafter=data_applied を指定して stop または stopq コマンドが Q キャプチャーに発行されました。コマンドが発行された時間までのすべてのトランザクションの適用が終了した後、Q アプライが通知を送信することを Q キャプチャーは要求しました。Q アプライは Q キャプチャーに通知しましたが、受信キューの処理を続行します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7225I *program_name : program_identifier :* パブリッシュされたすべてのメッセージが送信キュー *queue_name* からドレーンされました。

説明: オプション stopafter=data_sent を指定して stop または stopq コマンドが Q キャプチャーに発行されました。Q キャプチャーは、すべてのメッセージがリモート受信キューに送信された (または Q アプライが Q キャプチャーとローカル・キューを共有する場合は Q アプライによってコンシュームされた) こと、およびキュー項目数が現時点で 0 になっていることを検出しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7226E *program_name : program_identifier :* Q キャプチャー・プログラムは、理由 *reason* により、再始動ファイル *file_name* を読み取ることができませんでした。プログラムは開始されませんでした。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、override_restartq パラメーターを Y (はい) に設定して開始されました。この設定は Q キャプチャーに、再始動キューではなく再始動ファイルで再始動情報を探そう

指示します。しかし、Q キャプチャーは再始動ファイルを読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: Q キャプチャーを開始したユーザー ID に、再始動ファイルに対する読み取り権限があることを確認してください。そのデータ・セット名またはファイル名は `capture_path/qrestart` です。capture_path は、capture_path パラメーターの値です。

ASN7227I *program_name : program_identifier :* 送信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) にパブリッシュされたすべてのトランザクションがターゲットで適用されました。

説明: オプション `stopafter=data_applied` を使用して `stop` または `stopq` コマンドが指定されました。Q キャプチャーは、特定の送信キューにパブリッシュされたすべてのトランザクションがターゲットに適用されたことを検出しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7228E *program_name : program_identifier :* プログラムはパブリッシュされたメッセージが送信キュー *queue_name* からドレーンされるのを待つことができませんでした。理由コードは *reason_code*。ローカル・キューまたは伝送キューは *queue_name* です。

説明: Q キャプチャーは、すべてのメッセージがいつリモート受信キューに送信されたのか、または Q キャプチャーと Q アプライがローカル・キューを共有している場合はローカル・キューからいつドレーンされたのかを確認できませんでした。Q キャプチャーはキュー項目数のモニターを中止します。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1

伝送キュー名をリモート・キュー定義から引き出せませんでした。

2

伝送キューが Q キャプチャーと別のアプリケーションの間で共有されている可能性があります。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1

リモート・キュー定義に有効な伝送キュー名が含まれていることを確認してください。

2

他のアプリケーションが伝送キューを共有している場合、Q キャプチャーはメッセージのドレーンを待つことができません。この問題を回避するには、送信キューに専用の伝送キューを使用してください。

ASN7229E *program_name : program_identifier :* プログラムは送信キュー *queue_name* のパブリッシュされたトランザクションがターゲットで適用されるのを待つことができませんでした。理由コードは *reason_code*。

説明: Q キャプチャーは、特定の送信キューにパブリッシュされたすべてのトランザクションがターゲットでいつ適用されたのか判別できませんでした。Q キャプチャーはトランザクションの適用の待機を中止します。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1

Q アプライは現在、関連付けられている受信キューを処理していません。

2

下記のいずれかの状態が存在します。

- Q アプライが実行されていない可能性があります。または、この Q キャプチャーからメッセージを受信している受信キューを処理していません。あるいは、応答メッセージが Q キャプチャー管理キューに到着していません。
- 妥当な時間内に応答が受信されませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1

ターゲットの対応する受信キューに対して `startq` コマンドを発行し、トランザクションを適用できるようにしてください。

2

Q アプライが実行されていること、関連する受信キューがすべてアクティブであること、および管理キューのメッセージのための接続が存在することを確認してください。

ASN7230I *program_name : program_identifier : stop*
 コマンドまたはシグナルの **captureupto**
 基準、**stopafter** 基準、またはその両方が
 完了した後、プログラムは正常に停止しま
 した。

説明: captureupto 基準、stopafter 基準、またはその両方を指定して stop コマンドまたはシグナルが発行されました。これらは、特定の条件が true になるのを待ってから Q キャプチャーを停止するためのコマンドです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7232E *program_name : program_identifier : Q* サ
 ブスクリプション *name* に対する送信キ
 ュー *queue_name* が
IBMQREP_SENDQUEUES テーブルで定
 義されていません。

説明: プログラムは Q サブスクリプションをメモリー
 ヘロードしようとしたのですが、Q サブスクリプションに
 対して指定された送信キュー名が
IBMQREP_SENDQUEUES 表に見つかりませんでした。
 エラーが発生したのは、レプリケーション・センターま
 たは **ASNCLP** プログラムによって生成されたもの以外の
 SQL で Q サブスクリプションが更新されたため、
 またはこれらのツールによって生成された SQL が変更
 されたためである可能性があります。

ユーザーの処置: いずれかの管理ツールを使用して、Q
 サブスクリプションをドロップしてから再作成してくだ
 さい。

ASN7236W *program_name : program_identifier : ソー*
 ス表 *table_owner.table_name* に対する **Q**
 サブスクリプションが正常に作成されま
 した。 **Q** キャプチャー・プログラムが、送
 信キュー *queue_name* を使用するスキ
 マ・レベルの **Q** サブスクリプション
name に基づいて、この新しい **Q** サブ
 スクリプション項目をコントロール表
table_owner.table_name に作成した際、同
 じソース表の既存の **Q** サブスクリプシ
 ヨン項目が **Q** キャプチャーによって削除さ
 れました。

説明: 一致するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプシ
 ヨンを持つ表に対する **CREATE TABLE** 操作が検出さ
 れた後、**Q** キャプチャー・プログラムは、この表に対す
 る **Q** サブスクリプション項目を **IBMQREP_SUBS** コ
 ントロール表および **IBMQREP_SRC_COLS** コントロール
 表に自動的に作成します。 **Q** サブスクリプションの項

目が、これらのコントロール表のいずれか、または両方
 に既に存在している場合、**Q** キャプチャーは前の **Q** サ
 ブスクリプションの項目を削除し、新規項目を作成しま
 す。

ユーザーの処置: 同じソース表に対する **Q** サブスクリ
 プション項目がこのコントロール表に既に存在していた
 理由を判別するとよいでしょう。 **Q** キャプチャーがロ
 グ内の前の時点から再開されていた場合、同じ
CREATE TABLE 操作に対するログ・レコードを検出し
 た可能性があります。

ASN7237W *program_name : program_identifier : ソー*
 ス・データベースまたはサブシステムでの
CREATE TABLE 操作への応答で、**Q** キ
 ャプチャー・プログラムは、送信キュー
queue_name を使用するスキーマ・レベ
 ルの **Q** サブスクリプション *name* に基づい
 て、ソース表 *table_owner.table_name* に対
 して **Q** サブスクリプションを作成しよう
 としました。しかし、**Q** サブスクリプシ
 ヨン情報の **IBMQREP_SUBS** コントロー
 ル表への挿入に失敗したため、個々の **Q**
 サブスクリプションを作成できませんで
 した。 **SQL** コードまたは内部レプリケー
 ション理由コードは
sqlcode_or_reason_code です。 **Q** キャ
 プチャーは、送信キューを使用する他の **Q**
 サブスクリプションに対する変更の処理を
 続行します。

説明: 一致するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプシ
 ヨンを持つ表に対する **CREATE TABLE** 操作が検出さ
 れた後、**Q** キャプチャー・プログラムは、
IBMQREP_SUBS コントロール表にこの表のための **Q**
 サブスクリプションの項目を自動的に作成します。 **Q**
 サブスクリプションの項目の挿入が失敗した場合、**Q** サ
 ブスクリプションは作成されず、レプリケーションはソ
 ース表に対して開始されません。

ユーザーの処置: このソース表を複製する場合、レプリ
 ケーション管理ツールを使用して、その表に対する **Q**
 サブスクリプションを作成してください。ターゲット表
 が存在していることを確認するか、レプリケーション・
 ツールがターゲット表を作成するようにしてください。
SQL コードまたは内部理由コードを確認して、
IBMQREP_SUBS への挿入が失敗した理由を判別してく
 ださい。

ASN7238W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、送信キュー *queue_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に基づいて、ソース表 *table_owner.table_name* の **IBMQREP_SRC_COLS** コントロール表に Q サブスクリプションの新規項目を作成しようとした。しかし、Q サブスクリプション情報のコントロール表への挿入が失敗しました。SQL コードまたは内部レプリケーション理由コードは *sqlcode_or_reason_code* です。このソース表に対する Q サブスクリプション *name* は非アクティブ化されます。Q キャプチャーは、送信キュー上の他の Q サブスクリプションに対する変更の処理を続行しません。

説明: 一致するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを持つ表に対する CREATE TABLE 操作が検出された後、Q キャプチャー・プログラムは、ソース表の列についての Q サブスクリプション情報を

IBMQREP_SRC_COLS コントロール表に自動的に追加します。しかし、この情報のコントロール表への挿入は失敗しました。Q サブスクリプションは、IBMQREP_SUBS 表で非アクティブ化されます。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. SQL コードまたは内部理由コードを確認して、IBMQREP_SRC_COLS への挿入が失敗した理由を判別します。
2. レプリケーション管理ツールを使用して、表の Q サブスクリプションを削除し、再作成します。ターゲット表が存在していることを確認するか、レプリケーション・ツールがターゲット表を作成するようにしてください。

ASN7240E *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムを開始するコマンドに、**autostop=Y** パラメーターと **term=N** パラメーターの両方が入っていません。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: autostop=Y は、term パラメーターの値が N (No) の際には指定できません。さらに、IBMQREP_CAPPARMS 表の autostop の保存された値が Y の場合は、term=N を指定できません。

ユーザーの処置: autostop パラメーターまたは term=N パラメーターのどちらかを指定しているときに、Q キャプチャー・プログラムを再始動します。必要であれば、

IBMQREP_CAPPARMS 表の autostop の値を更新してください。

ASN7241E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* のための **IBMQREP_SCHEMASUBS** 表の **SCHEMA_NAME** 列で、無効な式 *expression_list* が検出されました。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: パーセンテージ記号 (%) をワイルドカードとして使用して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを指定することができます。また、Q キャプチャー・プログラムは、ワイルドカード式に一致するスキーマ内のすべての表に自動的に Q サブスクリプションを作成します。ただし、スキーマ名の前にワイルドカードを指定する (例えば、「%AN」または「%AN%」) ことはできません。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. IBMQREP_SCHEMASUBS 表で、スキーマ名の式を許可されているワイルドカード式に変更します。
2. Q キャプチャー・プログラムを開始します。
3. IBMQREP_SIGNAL 表に START_SCHEMASUB シグナルを挿入します。

ASN7242E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* のための **IBMQREP_SCHEMASUBS** 表の **OBJECT_NAME** 列で、無効な式 *expression_list* が検出されました。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: パーセンテージ記号 (%) をワイルドカードとして使用して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを指定することができます。また、Q キャプチャー・プログラムは、ワイルドカード式に一致するスキーマ内のすべての表に自動的に Q サブスクリプションを作成します。ただし、オブジェクト名の前にワイルドカードを指定する (例えば、「%AN」または「%AN%」) ことはできません。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. IBMQREP_SCHEMASUBS 表で、オブジェクト名の式を許可されているワイルドカード式に変更します。
2. Q キャプチャー・プログラムを開始します。

3. IBMQREP_SIGNAL 表に START_SCHEMASUB シグナルを挿入します。

ASN7243E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* のための IBMQREP_SCHEMASUBS 表の SCHEMA_NAME 列または OBJECT_NAME 列で、オーバーラップする式が検出されました。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: スキーマ名では、オーバーラップする式は許可されません。例えば、「ANU%」および「AN%」などの式は、同時に使用できません。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. IBMQREP_SCHEMASUBS 表で、スキーマ名またはオブジェクト名の式を変更します。
2. Q キャプチャー・プログラムを開始します。
3. IBMQREP_SIGNAL 表に START_SCHEMASUB シグナルを挿入します。

ASN7244E *program_name* : *program_identifier* : IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の SCHEMA_NAME 列で式が検出されました。Q キャプチャー・プログラムは停止します。

説明: 式を使用して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションから表のようなオブジェクトを除外できません。式は IBMQREP_EXCLSCHEMA 表に保管されません。ただし、IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の SCHEMA_NAME 列には式を使用できません。

ユーザーの処置: IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の SCHEMA_NAME 列で式を削除し、Q キャプチャー・プログラムを開始してください。

ASN7247I *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* とそれに対応するプロファイルを正常にロードしました。Q サブスクリプションはレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用し、Q サブスクリプションが *object_name* オブジェクトのスキーマ *schema_name* で自動的に作成されるように指定します。

説明: REINIT_SCHEMASUBS シグナルに対応するログ・レコードの処理の結果として、Q キャプチャー・プ

ログラムは、IBMQREP_SCHEMASUBS 表に定義されているスキーマ・レベルの Q サブスクリプションと、IBMQREP_SUBS_PROF 表に定義されている対応するプロファイルを正常にロードしました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7248W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* と一致する表 *table_owner.table_name* を検出しましたが、これは表レベルの Q サブスクリプションの一部ではありません。

説明: Q キャプチャー・プログラムは、IBMQREP_SCHEMASUBS 表に定義されているスキーマ・レベルの Q サブスクリプションのアンサブスクライブされた表を検出しました。スキーマ・レベルの Q サブスクリプションが作成される時、レプリケーション管理ツールはスキーマ内のすべての既存の表に Q サブスクリプションを作成するため、この状態は予期されていません。ただし、表レベルの Q サブスクリプションが作成される時とスキーマ・レベルの Q サブスクリプションがロードされる時の間に新規表が作成される場合、この状態が発生する可能性があります。例えばユーザーは、すべての既存の表に対する Q サブスクリプションを作成するスクリプトを生成できても、このスクリプトを実行する前に、新規表が作成されるまでの間、待機することになります。

ユーザーの処置: 必要であれば、レプリケーション管理ツールを使用して、この表に Q サブスクリプションを作成してください。

ASN7249E *program_name* : *program_identifier* : IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の OBJECT_NAME 列で、無効な式 *expression_list* が検出されました。

説明: パーセンテージ記号 (%) をワイルドカードとして IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の OBJECT_NAME 列で使用して、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションから除外する必要のある表などのオブジェクトの名前を指定できます。単一の % を使用して、指定されたスキーマのすべてのオブジェクトが除外されるように指定します。ただし、オブジェクト名の前にワイルドカードを指定する (例えば、「%AN」または「%AN%」) ことはできません。

ユーザーの処置: IBMQREP_EXCLSCHEMA 表の OBJECT_NAME 列で式を変更し、Q キャプチャー・プログラムを開始してください。

ASN7250E *program_name* : *program_identifier* : スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に基づくソース表 *table_owner.table_name* の Q サブスクリプション *name* をアクティブ化できませんでした。この表に対するレプリケーションは手動でセットアップする必要があります。

説明: 一致するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを持つ表に対する CREATE TABLE 操作が検出される時、Q キャプチャー・プログラムは Q アプリケーション・プログラムに通知して、表レベルの Q サブスクリプションを自動的に作成し、アクティブ化できるようにします。Q サブスクリプションのアクティブ化に失敗する場合、Q サブスクリプションは非アクティブ化され、このソース表への今後の変更は無視されます。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使用して、新規 Q サブスクリプションを表に作成するか、または既存の Q サブスクリプションをアクティブ化してください。ソース表とターゲット表が存在しているか確認するか、あるいはレプリケーション・ツールがターゲット表を作成するようにしてください。また、Q レプリケーション・プログラムによって、または外部で、表がロードされることを確認してください。

ASN7251I *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*、スキーマ *schema_name*、およびオブジェクト *object_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* を正常に非アクティブ化しました。

説明: IBMQREP_SIGNAL 表に挿入された STOP_SCHEMASUB シグナルへの応答で、Q キャプチャー・プログラムは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを非アクティブ化しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7252I *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー・プログラムは、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*、スキーマ *schema_name*、およびオブジェクト *object_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* を正常に再初期設定しました。

説明: IBMQREP_SIGNAL 表に挿入された

REINIT_SCHEMASUB シグナルへの応答で、Q キャプチャー・プログラムは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションを再初期設定しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7255E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がまだロード状態である間に、ユーティリティ *utility_name* による操作が表 *table_owner.table_name* に対して実行されました。Q サブスクリプションは非アクティブにされます。

説明: Q サブスクリプションがまだロード状態である間に、ログ内でユーティリティ操作が検出されました。Q サブスクリプションは、ソース表のロード内容を複製するようにセットアップされています (CAPTURE_LOAD R)。Q サブスクリプションがロード状態になっているときにユーティリティを呼び出すと、ロード・プロトコルは中断し、変更がスピル・キューからターゲット表に適用されているときに SQL エラーが発生する場合があります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションが停止して非アクティブになるまで待ってください。その後、Q サブスクリプションを開始します。CAPTURE_LOAD が R に設定されている場合は、ターゲット表の再ロードを起動するユーティリティを呼び出す前に、必ず Q サブスクリプションがアクティブになるのを待ってください。

ASN7307W *program_name* : *program_identifier* : 送信キュー *queue_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* の一部である表 *table_owner.table_name* を、レプリケーションに使用可能にできませんでした。表が DATA CAPTURE NONE を使用して明示的に作成されたためです。

説明: 一致するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを持つ表に対する CREATE TABLE 操作が検出される時、表には DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されている必要があります。CREATE TABLE コマンドが DATA CAPTURE NONE を明示的に指定する場合、ユーザーがこの表が複製されることを望まないことを示すものとして扱われ、一致するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションよりも優先されます。

ユーザーの処置: この表を複製したい場合には、以下の

ステップに従ってください。

1. DATA CAPTURE CHANGES を指定した表を変更します。
2. レプリケーション管理ツールを使用して、表レベルの Q サブスクリプションを表に作成します。

第 44 章 ASN7500 - ASN7999

ASN7504E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、ルーチン *routine_name* において *number* バイトのストレージを獲得できません。プログラムは停止します。

説明: Q アプライ・プログラムには、内部データ構造を割り振るために必要な、オペレーティング・システムからの物理メモリーが十分にありませんでした。

ユーザーの処置: Q アプライ・プログラムを開始する前に、オペレーティング・システムから使用できるメモリーが十分あることを確認してください。

ASN7505E *program_name*: *program_identifier*: レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* において、ターゲット列の属性が、受信キュー *queue_name* 上の Q サブスクリプション *name* に対して正しく設定されていません。理由コードは *reason_code*。

説明: IBMQREP_TRG_COLS 表の列のセットアップのエラー。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

IBMQREP_TRG_COLS 表で指定されている列の数が、ターゲット表の列の数と一致しません。ターゲットに存在する列よりも、IBMQREP_TRG_COLS 表で定義されている列の方が上回っています。

1

IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER 列の値がユニークではありません。

2

キー列は、IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER の先頭列ではありません。

3

MSG_COL_NUMBER 列の値が範囲外です。値が 0 未満か、または IBMQREP_TRG_COLS 表で定義された最大列よりも大きくなっています。

4

行を一意的に識別できるよう定義された列がありません。Q レプリケーションでは、少なくとも 1 つの列がユニークであることが必要です。

5

IBMQREP_TRG_COLS 表の次の列の 1 つ以上が NULL です。すなわち、MSG_COL_NUMBER、MSG_COL_TYPE、MSG_COL_CODEPAGE、または MSG_COL_LENGTH。

6

宣言されたキー列に対応するユニーク索引がありません。DB2 データベースには、ソース表の 1 つの行をターゲット表の 1 つの行のみに対応させる制約がなければなりません。Q アプライ・プログラムは、トランザクションの並列処理をスケジュールするときにユニーク索引情報を使用します。そのため、ターゲット表ごとにユニーク索引を宣言する必要があります。

7

ターゲット列にはキー列に SQL 式がありますが、ソース列はレプリケーション IS_KEY の一部ではありません。キー式で使用されるすべてのソース列は、キャプチャー・サーバーでは IBMQREP_SRC_COLS コントロール表でキー列として定義されなければなりません。

8

Q サブスクリプションが XML 列とキー列の両方の式を指定しています。XML 列とキー列の両方で XML 式を複製することはできません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

理由コード 0、1、2、3、および 5 は、同じユーザー応答が必要です。それぞれの理由コードに対して、以下のユーザー応答アクションを取ってください。

レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。

4

レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、Q サブスクリプションを再定義し、ユニークな列を識別してください。その後、Q サブスクリプションをアクティブにします。

6

1. Q サブスクリプションでのキー列として定義されたユニーク索引がある別の列セットを選択してください。
2. またはターゲット表のユニーク索引またはユニーク制約を作成してください。
3. その後で、対応する Q サブスクリプションを再始動してください。

7

IBMQREP_SRC_COLS コントロール表内の影響を受けるソース列に対して、IS_KEY の値を 1 に設定してください。

8

Q サブスクリプションを再定義し、キー列または XML 列のいずれかの式を除去してください。その後で、対応する Q サブスクリプションを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7506E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) のターゲット target_name が存在しません。Q サブスクリプションはロードされず、変更もこのターゲットには複製できません。*

説明: IBMQREP_TARGETS 表で定義されている Q サブスクリプションのターゲットが存在しません。ターゲットが適切に指定されなかったか、または存在しないかのどちらかです。

ユーザーの処置: ターゲット・データベースにターゲットが存在することを確認してください。

IBMQREP_TARGETS 表の

TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列の値が、このターゲットに対して適切であることを確認してください。さらに、TARGET_TYPE 列の値がターゲットに適切であることも確かめます。例えば、ターゲットがストアード・プロシージャである場合、IBMQREP_TARGETS 表のターゲット・タイプが「5」であることを確認します。Q サブスクリプションが有効でない場合、レプリ

ケーション管理ツールの 1 つを使用して再定義してください。

ASN7510E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション name (送信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) で ADD COLUMN メッセージを受け取りましたが、Q サブスクリプションは非アクティブです。*

説明: Q サブスクリプションに新しい列を追加するには、その前にアクティブにしなければなりません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを開始します。

ASN7512E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) をアクティブにすることができませんでした。理由コード: reason_code。*

説明: Q サブスクリプション定義が正しくありません。レプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムによって生成された SQL 以外の SQL で Q サブスクリプションが更新されたため、またこれらの管理ツールによって生成された SQL が変更されたため、エラーが発生する場合があります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS コントロール表に存在しません。

1

IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値が I ではありません。

2

Q キャプチャーおよび Q アプライ・サーバーの Q サブスクリプションのタイプが異なります。

3

ターゲットに対する DESCRIBE ステートメントが失敗しました。

4

- 5 IBMQREP_TRG_COLS 表の TARGET_COLNAME 列の値が、ターゲットの任意のターゲット列と一致しません。
- 6 IBMQREP_TRG_COLS 表の TARGET_COLNAME、MSG_COL_TYPE、または MSG_COL_LENGTH 列の値は、ターゲット表またはストアード・プロシージャの対応する列の名前、タイプ、または長さとも一致しません。
- 7 IBMQREP_TRG_COLS 表の SOURCE_COLNAME 列が、IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME の値と一致しません。
- 8 Q サブスクリプション ID が、受信キューでユニークではありません。
- 9 Q サブスクリプションが双方向に定義されていて、競合規則によれば Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が A または C に設定されていますが、IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列の送信オプションが Y に設定されていません。
- 10 IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_OWNER、SOURCE_NAME 列が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。また、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_SERVER 列の値が、Q キャプチャー・プログラムが実行されているサーバー上にありません。
- 11 IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。
- 12 ソース列のコード・ページが、Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換できません。
- 13 IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。
- 14 Q サブスクリプション ID が、受信キューでユニークではありません。
- 15 Q サブスクリプションが双方向に定義されていて、競合規則によれば Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が A または C に設定されていますが、IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列の送信オプションが Y に設定されていません。
- 16 IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_OWNER、SOURCE_NAME 列が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。また、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_SERVER 列の値が、Q キャプチャー・プログラムが実行されているサーバー上にありません。
- 17 IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。
- 18 ソース列のコード・ページが、Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換できません。
- 19 IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。
- 20 ソース列のコード・ページが、Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換できません。
- くありません。CONFLICT_ACTION が F の場合、そのメッセージには変更した列だけでなくすべての列を含める必要があります。 IBMQREP_SUBS 表では、CHANGED_COLS_ONLY は N に設定してください。
- IBMQREP_TARGETS の CONFLICT_RULE は K に設定されていますが、Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。 IBMQREP_SUBS 表では、BEFORE_VALUES 列は N に設定してください。
- Q キャプチャーの送信オプションは IBMQREP_SUBS 表で CHANGED_COLS_ONLY が N に指定されていますが、IBMQREP_TARGETS 表内の次のいずれかまたはその両方の設定のため、値を Y に設定してください。
- CONFLICT_ACTION が F ではない
 - CONFLICT_RULE が A ではない
- IBMQREP_TRG_COLS 表には存在せず、NOT NULL かつデフォルトには定義されていない余分の列がターゲットにあります。
- IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列の値が、正しく指定されていません。
- IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE 列と TARGET_NODE 列の値が一致しません。
- 列を表すストアード・プロシージャ・パラメーターが、IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME フィールドに一致していません。
- Q サブスクリプションがタイプ「U」(単一方向)ですが、IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が K に設定されていません。

- このサブスクリプションのターゲット・タイプは CCD 表です。 CCD 表には次の 4 つの列がなければなりません。
- IBMSNAP_INTENTSEQ
 - IBMSNAP_OPERATION
 - IBMSNAP_COMMITSEQ
 - IBMSNAP_LOGMARKER
- 21
- このサブスクリプションのターゲット・タイプは CCD 表で、サブスクリプション・タイプは双方向レプリケーションか対等レプリケーションのいずれかです。 CCD 表は単一方向レプリケーションでのみサポートされます。このエラーは以下のうちの 1 つが真でない場合には起こり得ません。
- レプリケーション・センターまたは ASNCLP コマンド行プログラムによって生成された SQL 以外の SQL で Q サブスクリプションが更新された。
 - レプリケーション・センターまたは ASNCLP によって生成された SQL スクリプトが、その実行前に変更された。
- 22
- ターゲットは非コンデンス CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION に有効な値は F (強制) のみです。着信変更は常にすべて挿入されるため、IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。
- 23
- Q サブスクリプションのターゲット・タイプは、コンデンス CCD 表およびコンプリート CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION の値は、F (強制) または I (無視) でなければなりません。 F (強制) の場合、IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。 I (無視) の場合、有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = N および CHANGED_COLS_ONLY = Y のみです。
- 24
- ターゲットはコンデンス CCD 表および非コンプリート CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS
- 25
- 表の CONFLICT_ACTION は F (強制) です。 IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。
- 26
- ターゲットは CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の CCD_CONDENSED および CCD_COMPLETE のいずれかまたは両方の値はヌルです。
- 27
- この Q サブスクリプションのターゲット・タイプは非コンプリート CCD 表ですが、IBMQREP_SUBS 表の HAS_LOADPHASE 列の値は N 以外になります。
- 28
- ターゲットは CCD 表です。 Q アプライ・プログラムは、バージョン 9 より小さいバージョン (例えば、バージョン 8.2) の Q キャプチャー・プログラムからメッセージを読み取りました。 Q アプライ・プログラムは、このような下位レベルのメッセージを処理できませんが、CCD ターゲットなどのバージョン 9 の機能をこの構成でサポートすることはできません。
- 29
- IBMQREP_TRG_COLS 表のターゲット列情報が正しくセットアップされていません。
- 0
- この Q サブスクリプションのターゲット・タイプはストアード・プロシージャで、Q サブスクリプションの対象は DB2 pureCluster Feature があるデータベースとの間のレプリケーションです。ストアード・プロシージャのターゲットがサポートされるのは単一方向のレプリケーションのみで、DB2 pureCluster Feature ではサポートされません。
- 1
- ユーザーの処置:** 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。
- 1
- Q サブスクリプション、IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SUBNAME 列の定義を検査してください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。

- IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値を I に設定して、Q サブスクリプションを非アクティブにしてください。Q キャプチャー・サーバーで、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。
- 2 IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE 列の値が、IBMQREP_TARGETS 表の SUBTYPE 列の値と一致するか調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 3 SQL 戻りコード情報が含まれる、ASN0552E メッセージの Q アプライ診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_TRACE 表を参照してください。
- 4 Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表上の記述に関して、およびターゲット表のために IBMQREP_TRG_COLS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 5 Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表またはストアード・プロシージャの記述に関して、IBMQREP_TRG_COLS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 6 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 7 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 8 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 9 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 10 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 11 変換されなかった CCSID を指定している、ASN0568E メッセージの Q アプライ診断ログ・ファイルを参照してください。推奨: Q アプライ・コード・ページをソース・データベース・コード・ページと同じに変更してください。
- 12 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 13 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 14 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。
- 15 ターゲット属性を変更するか、またはこれらのエクストラ列にサブスクライブしてください。
- 16 IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列のテキストをチェックし、複製されている表の列名だけが括弧で囲まれているようにしま

す。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

17

レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

18

レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

19

レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

20

レプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムを使用して CCD 表に 4 つの必須列を追加し、その後 Q サブスクリプションを活動化してください。

21

以下のいずれかの処置を実行してください。

- レプリケーション・センターまたは ASNCLP によって生成された SQL およびユーザーが変更した SQL をすべて訂正する。
- Q サブスクリプションをドロップし、管理ツールのいずれかを使ってそれを再作成する。

22

IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

23

IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

24

364 メッセージ・リファレンス 第 1 巻

IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

25

IBMQREP_TARGETS 表で、CCD_CONDENSED 列を Y (コンデンス CCD の場合) に設定するか、または N (非コンデンス CCD の場合) に設定してください。CCD_COMPLETE 列を Y (コンプリート CCD の場合) に設定するか、または N (非コンプリート CCD の場合) に設定してください。

26

ターゲット表をロードする必要がある場合、CCD 表はコンプリートでなければなりません。非コンプリート CCD 表が必要な場合、HAS_LOADPHASE の値は N でなければなりません。

27

ソース・システムの Q キャプチャー・プログラムをバージョン 9 にアップグレードしてから、Q サブスクリプションを開始してください。

28

Q アプライ診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_APPLYTRACE 表から、列定義の問題を示すメッセージを探してください。いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを開始してください。

29

DB2 pureCluster Feature のないソース・データベース、ターゲット・データベース、またはその両方を使用してください。

ASN7513W *program_name* : *program_identifier* :
SUB_ID *subid* が変更された行を受け取りましたが、アクティブな Q サブスクリプション (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がありません。Q アプライ・プログラムは変更を適用できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 次の理由により、トランザクション内の行がアクティブな Q サブスクリプションに属していません。

0 Q サブスクリプションは ERROR_ACTION ま

たは CONFLICT_ACTION のために非アクティブですが、Q キャプチャー・プログラムは変更の送信を依然として停止していませんでした。Q サブスクリプションが非アクティブになった理由に関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

- 1 Q サブスクリプションのセットアップが無効なため、Q アプライ・プログラムが Q サブスクリプションをアクティブにできませんでした。
- 2 Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS 表に存在しません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1. IBMQREP_SUBS および IBMQREP_TARGETS コントロール表の SUB_ID に対応する Q サブスクリプションを調べてください。
2. Q サブスクリプションが存在する場合、IBMQREP_TARGETS 表の STATE_INFO 列を調べ、CONFLICT_ACTION または ERROR_ACTION のために Q サブスクリプションが非アクティブにされたかどうかを判別します。
 - a. Q サブスクリプションが非アクティブにされた場合、Q キャプチャー・プログラムはこの Q サブスクリプションに対する変更の送信を最終的には停止します。ユーザー側でのアクションは不要です。
 - b. Q サブスクリプションが非アクティブにされなかった場合、これがアクティブになって開始されているということは決してありません。正確な理由コードおよび必要な応答に関しては、Q アプライ診断ログの ASN7512E メッセージを参照してください。

ASN7514W *program_name : program_identifier : 管理キュー queue_name がフルです。Q サブスクリプション: name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name)。*

説明: メッセージの数が、管理キューの MAXDEPTH 属性で設定された数に達しました。管理キューがフルで、Q アプライ・ブラウザーが書き込むことができません。おそらく、Q キャプチャー・プログラムはその管理キューからは読み取っていません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。実行されていない場合には、再始動してください。

必要であれば、管理キューの MAXDEPTH 属性の値を増やします。

ASN7515E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムが、バージョン message_version のメッセージ・タイプ message_type を処理できません。*

説明: このメッセージ・バージョンは、Q アプライ・プログラムのこのバージョンではサポートされていません。Q キャプチャー・プログラムは、この Q アプライ・プログラムのバージョンとは互換性がありません。

ユーザーの処置: IBMQREP_CAPPARMS 表で COMPATIBILITY 列の値を、Q アプライ・プログラムのバージョンと一致するように設定してください。Q アプライのバージョンは、IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に記録されています。Q キャプチャーが複数の Q アプライ・プログラムと連携する場合、COMPATIBILITY は最も古い Q アプライ・プログラムのバージョンと一致するように設定してください。Q キャプチャーの COMPATIBILITY 値を変更するために、レプリケーション・センターまたは Q レプリケーション・ダッシュボードを使用できます。

ASN7516E *program_name : program_identifier : ターゲット表 table_owner.table_name 上の操作 operation に関する SQL ステートメントが長すぎます。*

説明: ターゲット表スキーマ (所有者名) と表名を合わせたサイズが、256 バイトを超えてはなりません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションのターゲット表を長さ制限内で指定してください。

ASN7517E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) の受信メッセージのロードが処理できません。理由コード: reason_code。*

説明: Q アプライ・プログラムは Q キャプチャーからの受信メッセージのロードを受け取りましたが、そのメッセージを処理できません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 メモリーにロードされる Q サブスクリプション情報が正しくありません。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション状態が正しくありません。
- 2 この Q サブスクリプションに対して定義されたスピル・キューはありません。

IBMQREP_TARGETS の SPILLQ 列の情報が間違っているか、または物理キューが存在しません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 Q サブスクリプションが IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列で非アクティブ (I) 状態であることをチェックし、その理由について Q アプライ診断ログ・ファイルを参照します。問題を修正し、Q サブスクリプションをアクティブにします。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション値が、予期したものと異なります。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。
- 2 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

ASN7519E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) は、SUB_ID 列の値が NULL であるためロードできません。*

説明: SUB_ID は、Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ)の場合にのみ NULL が可能です。Q サブスクリプション定義が変更されました。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションを非アクティブにし、再定義してからアクティブにしてください。

ASN7522E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) でエラーを検出したために停止しました。*

説明: Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「S」(Q アプライ・プログラムの停止)です。エラーが発生した理由の詳細については、Q アプライ診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、Q アプライ・プログラムを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリ

プションを非アクティブにしてから、Q アプライ・プログラムを再開します。Q アプライ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

ASN7523E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) でエラーまたは矛盾を検出しました。Q アプライ・プログラムは、受信キューからの読み取りを停止します。*

説明: Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止)です。エラーが発生した理由の詳細については、Q アプライ診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。Q アプライ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

ASN7524E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) でエラーまたは矛盾を検出しました。受信キューからの読み取りを停止しました。LSN LSN に対応するトランザクションからの行の適用中にエラーが発生しました。*

説明: Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止)です。

ユーザーの処置: 診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。Q アプラ

イ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できません。

ASN7525W *program_name : program_identifier : 受信キュー queue_name (レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) はアクティブ状態でないために、Q アプライ・プログラムは処理しません。skiptrans パラメーターが指定されていても、キューが非アクティブであるために無視されます。*

説明: 受信キューが非アクティブです。

IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列は、この受信キューに関して I (非アクティブ) とマークされています。Q アプライ・プログラム呼び出しで skiptrans パラメーターが指定されていても、このパラメーターは無視されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。Q アプライ・プログラムがキューを処理するようにする場合は、以下のいずれかの方法を使用します。

- Q アプライを再始動せずに startq コマンドを発行する。
- IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列を A に変更して、Q アプライを再始動する。

ASN7526I *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の受信キュー queue_name の処理を開始しました。*

説明: Q アプライ・プログラムは、受信キューからの読み取りを開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7527I *program_name : program_identifier : レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の受信キュー queue_name で使用する Q アプライ・ブラウザーが、startq コマンドを使用してアクティブにされます。*

説明: startq コマンドが受信キューに対して発行され、Q アプライ・プログラムがこのキューで Q アプライ・ブラウザーを開始しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7528I *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) に対して、Q アプライ・プログラムが utility_name ユーティリティを使用して table_name 表をロードします。*

説明: この Q サブスクリプションのロード・フェーズは、内部として指定されています。Q アプライは、ロードを実行するためにこのユーティリティを選択しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7529I *program_name : program_identifier : target_name 表の utility_type ユーティリティが、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) に対して正常に完了しました。このユーティリティからのメッセージは次のとおりです。text。*

説明: 指定されたロード・ユーティリティが正常に終了しました。統計に関しては、ユーティリティからの詳細メッセージを確認してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7530E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) に対する target_name 表のロード・ユーティリティ utility_name が失敗しました。このロード・ユーティリティからの詳細メッセージは次のとおりです。text。*

説明: ロード・ユーティリティが、Q サブスクリプションでエラーを検出しました。Q サブスクリプションをアクティブにできません。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび SQL 戻りコードに関しては、ロード・ユーティリティからの詳細メッセージを参照してください。問題を修正してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。問題が解決されない場合には、別のロード・ユーティリティを選択してください。

ASN7531I *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対して、ロード・ユーティリティー *utility_name* が **Q** アプライ・プログラムによって選択されました。理由コード: *reason_code*。

説明: この Q サブスクリプションは、Q アプライ・プログラムがターゲット表をロードすることを指定しています。Q アプライ・プログラムは、このロード・ユーティリティーをレプリケーション環境に基づいて選択しました。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

ターゲットは、DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、以下の条件の 1 つが当てはまります。

- ソース表にニックネームが定義されているか、ソース表がターゲット・システムに対してローカルであり、サーバー・オプション `CONCURRENT_ACCESS_RESOLUTION=W` がサポートされています。この場合、`LOAD FROM CURSOR` はニックネームを使用してターゲット表をロードします。
- ソース表にニックネームが定義されておらず、ソース表に XML 列がありません。この場合、`LOAD FROM CURSOR` はカタログされた DB2 別名を使用して実行されます。

1

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、ソースはニックネームを持たず、ソースはターゲットに対してリモートです。

2

ターゲットは、DB2 for z/OS バージョン 7 以降です。

3

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、ソース・ニックネームが定義されているか、またはソースはターゲットに対してローカルです。あるいはターゲットは DB2 for z/OS バージョン 7 以降です。

4

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降です。

5

ターゲットは、DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、以下の条件の 1 つが当てはまります。

- ターゲットはニックネームです。
- ターゲットはリモートであり、ソース表には単一方向 Q サブスクリプションの一部であるラージ・オブジェクト (LOB) 列が含まれています。

6

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、ソース・ニックネームが定義されていますが、サーバー・オプション

`CONCURRENT_ACCESS_RESOLUTION=W` を使用していません。`LOAD FROM CURSOR` を使用して、ソース表を変更する進行中のトランザクションすべてが完了するまでユーティリティーが待機し、その後でロードを開始するには、このオプションが必須です。Q アプライは、次に最適な代替ユーティリティーをロード用に選択しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7532E *program_name* : *program_identifier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対して、**Q** アプライ・プログラムが *utility_type* ロード・ユーティリティーを選択できませんでした。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

ターゲットは分散されていますが、DB2 for Linux, UNIX, or Windows バージョン 8 以降ではありません。

1

ターゲットは、DB2 for z/OS バージョン 7 以降ではありません。

2

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, or Windows バージョン 8 以降であり、以下の条件の 1 つが当てはまります。

- ソース表にニックネームが定義されておらず、ソース表がターゲット・データベースに対してローカルではありません。

- ソース表はターゲット・データベースからリモートであり、XML 列が Q サブスクリプションの一部です。

3

ターゲットは分散されていません。

4

ロード・タイプが無効です。

5

ターゲットはニックネームで、指定されるロード・タイプは無効です。ニックネームの場合、有効なロード・タイプは EXPORT/IMPORT です。しかし、Q アプライ・サーバーが DB2 pureCluster フィーチャーを使用する場合、フェデレーテッド・ターゲットでニックネームへのインポートはサポートされません。

6

Q サブスクリプションは双方向またはピアツーピアであり、EXPORT/IMPORT メソッドによって行がターゲットで再キャプチャーされる場合があります。有効なロード・タイプは LOAD FROM CURSOR または EXPORT/LOAD です。

7

ターゲットはリモート・データベースであり、ソース表には Q サブスクリプションの一部であるラージ・オブジェクト (LOB) 列または XML 列が含まれています。EXPORT/LOAD オプションは、LOB または XML データが含まれるリモート・ターゲットのロードをサポートしません。唯一の有効なロード・タイプは LOAD FROM CURSOR です。

8

ターゲットはリモートであり、ソース表には双方向またはピアツーピア Q サブスクリプションの一部である LOB 列が含まれているため、自動ロードを指定するには LOAD FROM CURSOR を使用する必要があります。リモート・ターゲットでは、EXPORT/LOAD を使用して LOB または XML データをロードすることはできません。双方向またはピアツーピア Q サブスクリプションの場合、ロードされたデータはターゲットで再キャプチャーされる可能性があるため、IMPORT ユーティリティは有効なオプションではありません。LOAD FROM CURSOR を使用するには、ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, or Windows バージョン 8 以降でなければなりません。ソースがターゲット

からリモートである場合、ソース・ニックネームまたはカタログされた DB2 別名に対して LOAD FROM CURSOR を使用することができます。

9

ターゲットは DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 以降であり、ソースはサーバー・オプション

CONCURRENT_ACCESS_RESOLUTION=W を使用していません。LOAD FROM CURSOR を使用して、ソース表を変更する進行中のトランザクションすべてが完了するまでユーティリティが待機し、その後でロードを開始するには、このオプションが必須です。このユーティリティを使用する必要がある場合は、次のコマンドを使用してフェデレーテッド・サーバーのオプションを更新する必要があります。

```
db2 alter server <name> options
      (add CONCURRENT_ACCESS_RESOLUTION 'W')
```

10

XML から LOB 列 (BLOB、CLOB、DBCLOB) へのデータ移動は、DB2 ロード・ユーティリティ (LOAD/IMPORT) ではサポートされていません。自動ロード・タイプを選択できません。

11

Q サブスクリプションに XML 列が含まれるため、カタログされた DB2 別名に対する LOAD FROM CURSOR は選択できません。

ユーザーの処置: 戻りコードおよび SQL 戻りコードに関しては、ユーティリティからの詳細メッセージを参照してください。この Q サブスクリプションに対して別のロード・タイプを選択してください。Q サブスクリプションをアクティブにします。理由コード 8 のとき、LOAD FROM CURSOR をセットアップできない場合は、IBMQREP_TARGETS コントロール表内の HAS_LOADPHASE に対して手動ロードまたはロードなしを指定してください。理由コード 10 の場合は、手動ロードまたはロードなしを指定する必要があります。

ASN7533E *program_name* : *program_identifier* : ターゲット表の *column_name* 列は、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)の一部ではなく、なおかつ NULL 可能ではないかデフォルト値がありません。

ASN7534E

説明: Q サブスクリプションの一部ではないターゲット表内の列は、NULL 可能であるか、またはデフォルト値がなければなりません。

ユーザーの処置: ターゲットの属性を変更するか、または列を Q サブスクリプションに追加してください。Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

ASN7534E *program_name* : *program_identifier* : ストアード・プロシージャは、理由 *reason-code* のために無効です。

説明: ターゲットとして使用されるストアード・プロシージャは、4 つの必須パラメーターと、ソース列に逆マップされるパラメーターを定義しなければなりません。

以下は、有効なストアード・プロシージャの例です。

```
CREATE TABLE mySource (Parm1 INT NOT NULL,
Parm2 VARCHAR(20) NOT NULL, Parm3 TIMESTAMP,
Parm4 DATE, Parm5 CHAR(2),
PRIMARY KEY(Parm1, Parm2));
CREATE statement for stored procedure:
CREATE PROCEDURE storedprocedure_name(
INOUT operation integer,
IN suppression_ind VARCHAR(size),
IN src_commit_lsn CHAR(10),
IN src_trans_time TIMESTAMP,
IN XParm1 INT NOT NULL,
IN Parm1 INT NOT NULL,
IN XParm2 VARCHAR(20)
NOT NULL IN Parm2 VARCHAR(20)
NOT NULL,
IN Parm3 TIMESTAMP,
IN Parm4 DATE,
IN Parm5 CHAR(2) )
```

0

ストアード・プロシージャには、ソース列ごとに 4 つの必須パラメーター (OPERATION、SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、SRC_TRANS_TIME)、および少なくとも 1 つのパラメーターの、少なくとも 5 つのパラメーターを含める必要があります。

1

ストアード・プロシージャの最初のパラメーターは、OPERATION でなければなりません。

2

ストアード・プロシージャの 2 番目のパラメーターは、SUPPRESSION_IND でなければなりません。

3

ストアード・プロシージャの 3 番目のパラメーターは、SRC_COMMIT_LSN でなければなりません。

4

ストアード・プロシージャの 4 番目のパラメーターは、SRC_TRANS_TIME でなければなりません。

5

OPERATION パラメーターの INOUT 属性値が、INOUT と等しくありません。

6

SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、または SRC_TRANS_TIME パラメーターの INOUT 属性値が、IN と等しくありません。

7

最初のパラメーターには、パラメーター・モード INOUT がなければなりません。その他すべてのパラメーターには、パラメーター・モード IN がなければなりません。

8

キー列の以前の値にマップされるパラメーターが見つかりませんでした。キーの更新にはキー列の以前の値が必要です。キー列の以前の値の名前は、ソース列の名前に文字 X の接頭部が付いたものになります。例えばキー・パラメーターの名前が Co13 の場合は、そのキー・パラメーターの以前の値の名前は XCo13 でなければなりません。

9

ストアード・プロシージャ内のキー列に、キー列の以前の値にマップされるパラメーターがありません。キーの更新にはキー列の以前の値が必要です。キー列の以前の値の名前は、ソース列の名前に文字 X の接頭部が付いたものになります。例えばキー・パラメーターの名前が Co13 の場合は、そのキー・パラメーターの以前の値の名前は XCo13 でなければなりません。

10

4 つの必須パラメーターのうちのいずれかが、予期されるデータ・タイプのものではありませんでした。予期されるデータ・タイプは、以下のとおりです。

1. **OPERATION:** INTEGER
2. **SUPPRESSION_IND:** VARCHAR(x)
3. **SRC_COMMIT_LSN:** CHAR(10)

4. SRC_TRANS_TIME: TIMESTAMP

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションを実行してストアード・プロシージャを変更してください。ストアード・プロシージャを再登録し、Q サブスクリプションを再始動してください。

0

最初のパラメーターとして、必須パラメーターの OPERATION、SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、SRC_TRANS_TIME を追加してください。次に、主キー列ごとにそのデータ・タイプと一致するパラメーターを 1 つ、更新されるキー列の変更前イメージに該当するパラメーターを 1 つ、それぞれ追加します。その後、データ・タイプがソース列と一致する非キー列ごとに、パラメーターを 1 つ追加してください。

1

ストアード・プロシージャの最初のパラメーターは、OPERATION でなければなりません。

2

ストアード・プロシージャの 2 番目のパラメーターは、SUPPRESSION_IND でなければなりません。

3

ストアード・プロシージャの 3 番目のパラメーターは、SRC_COMMIT_LSN でなければなりません。

4

ストアード・プロシージャの 4 番目のパラメーターは、SRC_TRANS_TIME でなければなりません。

5

OPERATION パラメーターを INOUT として宣言してください。

6

パラメーター
SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、
SRC_TRANS_TIME を、IN パラメーターとして宣言してください。

7

最初のパラメーターのパラメーター・モードが INOUT になるようにし、他のすべてのパラメーターのパラメーター・モードが IN になるようにしてください。

8

9

ストアード・プロシージャのパラメーターが、各キー列の以前の値にマップされるようにしてください。欠落しているパラメーターを追加して、すべてのキー列で以前の値を扱えるようにしてください。

10

ストアード・プロシージャのパラメーターが、各キー列の以前の値にマップされるようにしてください。パラメーターを追加して、すべてのキー列で以前の値を扱えるようにしてください。

4 つの必須パラメーターのデータ・タイプを、次のようにしてください。

1. OPERATION: INTEGER
2. SUPPRESSION_IND: VARCHAR(x)
3. SRC_COMMIT_LSN: CHAR(10)
4. SRC_TRANS_TIME: TIMESTAMP

ASN7535E *program_name* : *program_identifier* : 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **IBMQREP_TARGETS** 表で無効です。理由コード: *reason_code*。

説明: 以下は、有効な理由コードの値です。

- 0 Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS 表に存在しません。
- 1 SUBTYPE 値が「P」(ピアツーピア) に設定されていますが、CONFLICT_RULE 値が「V」(バージョンの検査) に設定されていないか、または CONFLICT_ACTION 値が「F」(変更を強制) に設定されていません。
- 2 IBMQREP_SUBS 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。
- 3 SUBGROUP 列が NULL です。
- 4 IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE または TARGET_NODE、あるいはその両方が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。
- 5 特定の SUBGROUP 列に関して、IBMQREP_SUBS 表の Q サブスクリプション定義が、IBMQREP_TARGETS 表の Q サブスクリプション定義と一致しません。
- 6 IBMQREP_SUBS 表および

IBMQREP_TARGETS 表には同じ数の Q サブスクリプションがありますが、Q サブスクリプションの SUBGROUP 値が一致しません。

- 7 IBMQREP_TARGETS 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。
- 8 以下の 1 つ以上の条件が存在します。
- ターゲット表が存在しません。
 - バージョン列「ibmqrepVERTIME」および「ibmqrepVERNODE」が存在しません。
 - バージョン列は存在しますが、データ・タイプまたはデフォルトが間違っています。
- 9 IBMQREP_TARGETS 表で、SUBTYPE が「B」(双方向)の場合には CONFLICT_RULE 値「V」(バージョンの検査)が許可されません。この競合規則は、SUBTYPE「P」(ピアツーピア)に対してのみ有効です。双方向レプリケーションの Q サブスクリプションの場合、有効な競合規則値は「K」、「C」、または「A」です。
- 10 指定された SUBGROUP および TARGET_NAME に関して、IBMQREP_SUBS 表で定義された Q サブスクリプションが複数あります。双方向レプリケーションの場合 (SUBTYPE='B')、指定された SUBGROUP に関して、IBMQREP_SUBS 表に Q サブスクリプションが 1 つのみ、および IBMQREP_TARGETS 表に 1 つでなければなりません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 理由コード 8 の場合: ターゲット表が存在し、適切な列があることを確認してください。適切な列がない場合には、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して適切な列のある表を作成するか、または手動で適切な列を作成します。ターゲット表が存在しない場合、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、ノードからも Q サブスクリプションを再定義します。
- その他すべての理由コードの場合: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7536E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (送信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、**IBMQREP_SUBS** 表で適切に定義されていません。Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を **SUBGROUP** に追加しようとした際に、エラーが検出されました。理由コード: *reason_code*。

説明: 新規ノードを Q サブスクリプション・グループに追加しようとした際に、エラーが検出されました。新規ノードからアクティブなメンバーになった Q サブスクリプションが、**IBMQREP_SUBS** 表で正しく定義されていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q サブスクリプション・グループ内の Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE 値がありません。サブスクリプション・グループのすべての Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE 値がなければなりません。SUBTYPE 値は、「P」(ピアツーピア)か「B」(双方向)であることが必要です。
- 1 IBMQREP_SUBS 表の SOURCE_NODE が、IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE と同じではありません。
- 2 IBMQREP_SUBS 表の GROUP_MEMBERS 列が NULL ではありません。
- 3 IBMQREP_SUBS 表の STATE 列は「I」(非アクティブ)でなければなりません。
- 4 IBMQREP_SUBS 表の TARGET_NODE 列が、複数の Q サブスクリプションで同じ値でなければなりません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

ASN7537E *program_name* : *program_identifier* : 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **IBMQREP_TARGETS** 表で無効です。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE

値はありません。グループの Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE でなければなりません。SUBTYPE は、「P」(ピアツーピア)か「B」(双方向)であることが必要です。

- 1 IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE が、新規メンバー Q サブスクリプションのノードではありません。
- 2 この Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ)ではありません。STATE 列は、メンバーである Q サブスクリプションの IBMQREP_TARGETS 表では「I」にしてください。
- 4 SUBGROUP 内の複数の Q サブスクリプションで、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE の値が同じです。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7538E *program_name : program_identifier : 多方向レプリケーションの場合、Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) の IBMQREP_TARGETS 表内に行がないか、またはこのサーバーの IBMQREP_SUBS 表でこの Q サブスクリプションと一致するものはありません。*

説明: Q サブスクリプションが、ピアツーピア・レプリケーションまたは双方向レプリケーションに関して正しく定義されていません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このサーバーの表に対して Q サブスクリプションを再定義して、このサーバーの表から Q サブスクリプションを再定義します。

ASN7539E *program_name : program_identifier : 同じ表のすべての Q サブスクリプションを非アクティブにした際、この Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) が非アクティブ状態ではなく、このサーバーにおいて IBMQREP_SUBS 表に対応する Q サブスクリプションがありません。*

説明: 一部の Q サブスクリプションが見つかりません。ある Q サブスクリプションは削除されたか、また

は最初から作成されていなかった可能性があります。このノードに追加される Q サブスクリプションおよびこのノードから追加される Q サブスクリプションすべては、非アクティブにはできません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションがこの論理表からすべての物理表へと十分に接続されていないため、適切に定義されませんでした。ですから、非アクティブ化プロトコルによって、すべての Q サブスクリプションを自動的に非アクティブにして、このノードから追加することはできません。

変更がこの表に複製されていないこと、またはこの表から複製されていないことを確認するには、以下のステップを実行してください。

1. このサーバーで、この論理表の IBMQREP_SUBS 表内にある Q サブスクリプションに CAPSTOP シグナルを挿入します。まだ非アクティブになっていない Q サブスクリプションに対してのみ、このステップを実行してください (例えば、アクティブ状態かロード状態にあるかもしれません)。すべての Q サブスクリプションが非アクティブになるまで、1 度に 1 つの Q サブスクリプションに対してシグナルを挿入します。
2. 他のすべてのサーバーにある Q サブスクリプションすべてに対して前述のステップを繰り返し、変更を最初のサーバーに複製します。

ASN7540I *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) で、ターゲット target_name 上の RI 制約 constraint_name がドロップされました。*

説明: Q サブスクリプションは、内部または外部のいずれかのロード・フェーズで指定されます。ロードの際、参照制約がターゲット表からドロップされ、IBMQREP_SAVERI 表に保管されます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7541I *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) で、RI 制約 constraint_name がターゲット target_name に追加されました。*

説明: Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプションのロードを終了し、参照制約を再びターゲットに追加しました。参照制約が、IBMQREP_SAVERI 表から除去されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7542E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の初期化の際に、この **Q** サブスクリプションと一致する **Q** サブスクリプションが **IBMQREP_SUBS** 表にありませんでした。

説明: **IBMQREP_SUBS** 表の **Q** サブスクリプション定義が、新規メンバーの初期化の際にドロップされました。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して **Q** サブスクリプションを再定義し、ノードからも **Q** サブスクリプションを再定義します。

ASN7543W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のメモリー限界を変更するため、**REINITQ** コマンドが発行されました。しかし、メモリー限界 *memory_limit MB* は変更されませんでした。

説明: 受信キューのメモリー限界を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されましたが、指定されたメモリー限界値は既存の値と同じでした。

ユーザーの処置: メモリー限界を現行値から変更する場合には、この受信キューに対して **REINITQ** コマンドを再発行して新規メモリー限界を **MB** 単位で指定します。

ASN7544W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue map* *queue_map_name* のエージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されました。しかし、エージェントの数 *number* は変更されませんでした。

説明: 受信キューのアプライ・エージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されましたが、指定されたエージェントの数は既存の数と同じでした。

ユーザーの処置: この受信キューのエージェントの数を変更する場合には、受信キューに対して **REINITQ** コマンドを再発行して、エージェントの新しい数を指定してください。

ASN7545W *program_name : program_identifier : 受信* キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対する **REINITQ** コマンドが、エージェントの数がゼロに減らされてしまうので処理されませんでした。

説明: エージェントの数を変更するために **REINITQ** コマンドが発行されましたが、変更後に残るエージェントが 0 になります。そのため、**REINITQ** コマンドが処理されませんでした。

ユーザーの処置: この受信キューに対して、エージェントの正しい数が指定されたことを確認してください。

ASN7546W *program_name : program_identifier :* **REINITQ** コマンドは、レプリケーション・キュー・マップに指定されたエージェント・スレッドが多すぎるので処理できません。許可されているエージェント・スレッドの最大数は、*number* です。エージェントの元々の数は *number* なので、そのままにしてください。

説明: **Q** アプライ・プログラムでは、レプリケーション・キュー・マップごとに最大数のエージェント・スレッドが許可されます。その数を超えると、キュー・マップの属性をリフレッシュする **REINITQ** コマンドが失敗します。

ユーザーの処置: キュー・マップに指定されたエージェント・スレッド数を減らして、コマンドを再発行してください。

ASN7547I *program_name : program_identifier :* **REINITQ** コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のエージェントの数が、*number* から *number* に減りました。

説明: 受信キューのエージェントの数を減らすために発行した **REINITQ** コマンドが、正常に処理されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7548I *program_name : program_identifier :* **REINITQ** コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のエージェントの数が、*number* から *number* に増えました。

説明: エージェントの数を増やすために発行した

REINITQ コマンドが、正常に処理されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7549I *program_name* : *program_identifier* :
REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のメモリー限界が、*memory_limit MB* から *memory_limit MB* に設定されました。

説明: REINITQ コマンドが正常に発行され、この受信キューのメモリー限界が増加しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7550E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムは、トランザクション (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の最後のメッセージとして *msgA* タイプのメッセージを予期していましたが、*msgB* タイプのメッセージが検出されました。

説明: 内部の不整合が検出されました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7551E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムは、受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) 上のメッセージ番号がスキップしているのを検出しました。メッセージ ID *message_ID* が見つかりと予想していましたが、メッセージ ID *message_ID* を読み取りました。**Q** アプライ・プログラムは、予想したメッセージが見つかるまではどのメッセージも処理できません。

説明: Q アプライ・プログラムまたはサブスクライブ・アプリケーションが、欠落したメッセージや順不同のメッセージを容易に検出できるようにするため、Q レプリケーションおよびイベント・パブリッシング・プログラムは連続番号付けシステムを使用します。連続番号付けシステムは、間に隔たりのない正整数を各メッセージに割り当てるシステムです。Q キャプチャー・プログラムは、送信キューに入れる各メッセージにユニーク ID を割り当てます。これらの ID が必要なのは、Q アプライ・プログラムは厳密な順序でメッセージを処理す

るからです。予想していた順序でメッセージが受信キューに到着しないと、Q アプライ・プログラムはメッセージを探し続けます。Q アプライ・プログラムは、既に受信したメッセージに属する変更をすべて適用します。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムおよび Q アプライ・プログラム間でメッセージを送信するのに使用される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復すると、受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. stopq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。
4. startq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

ASN7552W *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムが、メッセージ ID *message_ID* の受信キュー *queue_name*、レプリケーション・マップ *queue_map_name* をポーリングしています。

説明: Q アプライ・プログラムがメッセージ ID でギャップを検出し、そのメッセージ ID が見つかるまでは処理できません。予想されたメッセージ ID のメッセージが送信キューまたは受信キューに書き込まれるまでは、このメッセージは定期的に発行され続けます。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・プログラムおよび Q アプライ・プログラム間でメッセージを送信するのに使用される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復すると、受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. stopq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。

4. startq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

ASN7553E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムが受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* からの読み取りを停止しました。最後に読み取ったメッセージ (*timestamp message_seq*) よりも古いメッセージ (*timestamp message_seq*) が見つかったためです。

説明: メッセージ ID にはタイム・スタンプ (整数フォーマット) が含まれます。Q アプライ・プログラムは、読み取ったメッセージよりも古いメッセージを検出する場合、キューからの読み取りを続けることができません。このエラーは、おそらく次のいずれかの理由によって生じます。

- 同一の受信キューに対して、2 つの Q キャプチャー・プログラムの書き込みメッセージが存在する。このセットアップはサポートされていません。Q アプライ・プログラムは、任意の指定された受信キュー上にある、単一の Q キャプチャー・プログラムからのメッセージであると予想しています。
- Q キャプチャー・プログラムが実行しているシステム・クロックが正しい時刻に戻され、Q キャプチャー・プログラムがコールド・スタートした、あるいはウォーム・スタートしたものの、このレプリケーション・マップ・キューに対するアクティブな Q サブスクリプションがなかった。

ユーザーの処置: 同じ受信キューに対して複数の Q キャプチャー・プログラムが書き込んでいる場合、以下のステップを実行してください。

1. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。
2. セットアップを再定義して、各 Q キャプチャー・プログラムからのメッセージが別個の受信キューに送られるようにします。
3. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
4. startq コマンドを発行して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

ソースでシステム・クロックを正しい時間に戻す場合には、次のステップを実行します。

1. Q キャプチャー・プログラムを停止します。
2. クロックを本来の時間 (または遅い時間) にリセットするか、または現行の時間が本来の時間になるまで待ちます。
3. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。
4. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
5. startq コマンドを発行して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
6. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7554W *program_name* : *program_identifier* : 従属 Q サブスクリプション *name* が非アクティブ (I) 状態にあるため、RI 制約 *constraint_name* を Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のターゲット *target_name* に追加できませんでした。制約は IBMQREP_SAVERI 表に保管されました。引き続きプログラムは、RI 制約を使用しないで変更を Q サブスクリプションに適用します。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 従属 Q サブスクリプションが非アクティブ状態にあるかどうか判別します。アクティブにされていない場合には、アクティブにします。エラーのために非アクティブ状態にある場合は、Q アプライ診断ログ・ファイルを調べてエラーを修正してください。従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、Q アプライ・プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管されていた RI 制約を追加します。

ASN7555W *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name* レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のターゲット *table_name* には、Q アプライ・プログラムが認識していない表を使用している RI 制約 *constraint_name* があるため、そのターゲットに RI 制約を追加できません。

説明: Q アプライ・プログラムが、Q サブスクリプションに RI 制約を追加しようとした際に SQLCODE 667

を検出しました。Q アプライ・プログラムが従属表を認識していない可能性があります。従属表で定義された Q サブスクリプションがないか、または Q サブスクリプションは定義されているものの CAPSTART シグナルが全く発行されなかったためです。従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、Q アプライ・プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管されていた RI 制約を追加します。

ユーザーの処置: 従属表を見つけ、その表で Q サブスクリプションを定義します。Q サブスクリプションが定義されている場合には、CAPSTART シグナルを発行してください。

ASN7557W *program_name : program_identifier : レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の受信キュー queue_name のメモリー限界が低すぎます。現在 memory_limit MB ですが、memory_limit MB 以上でなければなりません。*

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を大きくしてください。

ASN7558E *program_name : program_identifier : 予備キュー queue_name が満杯です。Q サブスクリプション name。レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name。*

説明: 予備キューのメッセージ数が、この予備キューの MAXDEPTH 属性に設定された数に達しました。予備キューがフルで、Q アプライ・プログラムが書き込むことができません。Q アプライ・プログラムは依然としてターゲット表のロードを行っていると考えられますが、対応するソース表には相当の更新が加えられています。

ユーザーの処置: 可能なら、Q キャプチャー・プログラムを停止します。必要であれば、予備キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。

ASN7559W *program_name : program_identifier : レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の受信キュー queue_name のメモリー限界が高すぎます。現在 memory_limit MB ですが、memory_limit MB 未満でなければなりません。*

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー

ー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

ASN7583W *program_name : program_identifier : LOB データを取り出す際にエラーが発生しました。Q アプライ・プログラムが、LOBid lobid の LOB メッセージを見つけられませんでした。*

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: キューからすべてのメッセージをドレーンし、Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7584E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) が、ストアード・プロシージャー・タイプと定義されています。ストアード・プロシージャー proc_name が見つかりませんでした。*

説明: IBMQREP_TARGETS で定義された名前のストアード・プロシージャーが見つからないため、またはストアード・プロシージャーが登録されていないため、Q サブスクリプションはアクティブにできません。

ユーザーの処置: IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列のストアード・プロシージャー・スキーマおよび名前を調べてください。「CREATE PROCEDURE」ステートメントを使用して、ストアード・プロシージャーを登録します。

ASN7586E *program_name : program_identifier : レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name の受信キュー queue_name のメモリー限界 memory_limit MB が低すぎます。メモリー限界は、入力メッセージ・サイズ message_size の少なくとも 3 倍でなければなりません。*

説明: memory_limit は、Q アプライ・プログラムが適用されるトランザクションを保管するのに使用するメモリーの量です。少なくとも入力メッセージ 1つを含められる大きさであることが必要です。

ユーザーの処置: IBMQREP_SENDQUEUES 表内の入力送信キューの最大メッセージ・サイズを調べてください。メモリー限界は、多くのメッセージを含めることができるようにする必要があります。そうしないと、パフォーマンスが悪くなります。そのためには、IBMQREP_RECVQUEUES 表の memory_limit 値を増やし、その後 REINITQ コマンドを発行するか、または Q アプライ・処理を停止してから開始します。

ASN7587E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* のメモリー限界 *memory_limit* MB が高すぎます。メモリー限界は、*memory_limit* MB 未満でなければなりません。

説明: 受信キューのメモリー限界が高すぎます。

ユーザーの処置: 指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

ASN7588E *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対する startq コマンドを完了できません。理由コード: *reason_code*

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 キューが既に処理されています。
- 1 IBMQREP_TARGETS 表には、このキューに関する情報はありません。
- 2 プログラムが、まだ初期化フェーズにあります。
- 3 IBMQREP_RECVQUEUES 表の MAXAGENTS_CORRELID 列の値が正しくありません。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 アクションは不要です。
- 1 このキューの情報に関して、IBMQREP_RECVQUEUES 表を調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。
- 2 後で、コマンドを再発行してください。
- 3 IBMQREP_RECVQUEUES 表の MAXAGENTS_CORRELID 列の値を変更して、コマンドを再発行します。この値は、NUM_APPLY_AGENTS 値より小さくする必要があります。

ASN7589E *program_name* : *program_identifier* : レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* が、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表に見つかりません。

説明: この受信キューの状態を更新しようとする際に、Q アプライ・ブラウザーは受信キュー名に対応する項目を IBMQREP_RECVQUEUES 表で見つけることができません。

ユーザーの処置: IBMQREP_RECVQUEUES 表の RECVQ 列を調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションを再びアクティブにします。

ASN7590I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* のキュー *queue_name* からの読み取りを停止しました。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q アプライ・プログラムが AUTOSTOP パラメーター・オプションを使用して実行中に、空の受信キューを検出しました。
- 1 Q アプライ・ブラウザーが、STOPQ コマンドを受け取りました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7591I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムが、受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に対してアプライ・エージェント *agent_name* を開始しました。

説明: Q アプライ・エージェントがこの受信キューに対して開始されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7592E *program_name : program_identifier : Q* アプリ・プログラム (Q サブスクリプション *name*、キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、メッセージ *message_type* のフィールド *field_name* のコード・ページの変換中に、エラーを検出しました。オリジナル値は、*field_value* です。

説明: Q キャプチャー・プログラムによって送信され、Q アプリ・プログラムによって処理される内部メッセージ内の文字フィールドを、Q アプリ・プログラムのコード・ページ (コード・ページ・コードを CCSID と言います) に変換できません。不要な変換を行わないで済むよう、ソース・データベース、Q キャプチャー・プログラム、Q アプリ・プログラム、およびターゲット・データベースを同じコード・ページで稼働することを強くお勧めします。この場合、コード・ページを別のコード・ページに変換するのに使用される ICU ライブラリーは、Q キャプチャー・プログラムのコード・ページを Q アプリ・プログラムのコード・ページに変換することはできません。DB2 の場合、コマンド `db2set DB2CODEPAGE=[CCSID]` を使って、アプリケーション・コード・ページを設定することができます。

ユーザーの処置: コマンドを発行して、Q アプリ・プログラムのコード・ページを Q キャプチャー・プログラムのコード・ページに設定するか、または ICU ライブラリーで変換可能なコード・ページに設定します。

ASN7593E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の列 *column_name* にサポートされていないデータ・タイプが存在するので、複製できません。データ・タイプ・コードは、*data_type* です。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: 列のデータ・タイプをチェックし、DB2 が、ターゲットでこのデータ・タイプをサポートしていることを確認します。サポートされていないデータ・タイプについては、Q レプリケーション資料も調べてください。

ASN7594W *program_name : program_identifier :* メッセージ・フォーマットが正しくないため、Q アプリ・プログラムが受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* からメッセージを除去しました。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0 Q キャプチャー・プログラムが送信したメッセージは、イベント・パブリッシングを意図した XML メッセージです。Q アプリ・プログラムではサポートされていません。
- 1 Q アプリ・プログラムは、メッセージが Q キャプチャー・プログラムから送信されたことを識別できませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 0 IBMQREP_SENDQUEUES 表で、このレプリケーション・キュー・マップの送信キューのメッセージ・フォーマットを「C」に変更してください。
- 1 Q キャプチャー・プログラム以外のプログラムが、指定されたキューにメッセージを書き込むと、プログラムが停止します。このキューは、1 つの Q キャプチャー・プログラム専用で使用される必要があります。他のプログラムがこのキューを使用していない場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

ASN7595W *program_name : program_identifier : Q* アプリ・プログラムが Q サブスクリプションの非アクティブなメッセージを受け取りましたが、SUB_ID *SUB_ID* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を見つけることができないか、またはまたは Q サブスクリプションが非アクティブ状態です。

説明: Q アプリ・プログラムは、入力メッセージに対応する Q サブスクリプションを複製、またはロードしていません。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションが既に非アクティブ (IBMQREP_TARGETS 表で状態が「I」) の場合には、何も行う必要はありません。Q サブスクリプションの SUB_ID が IBMQREP_TARGETS 表で見つからない場合、Q サブスクリプションは Q キャプチャー

ASN7597E

ー・プログラムに対してのみ定義されます。ターゲット情報が Q サブスクリプションの一部となるように、Q サブスクリプションを定義します。

ASN7597E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が、競合アクションまたはエラー・アクションのために使用不可にされようとしています。この Q サブスクリプションで指定されるソース表に対する将来の行変更は、Q サブスクリプションが再始動するまでスキップされます。

説明: Q アプライ・プログラムは、トランザクションでの変更を適用しているときにエラーまたは競合を検出しました。Q サブスクリプションは、競合またはエラーの発生時に Q サブスクリプションを非活動化するための、競合アクション、エラー・アクション、またはその両方を指定しています。競合またはエラーの原因となった行は IBMQREP_EXCEPTIONS 表に保存されます。さらにソース表からの変更があった場合、それらの変更はすべて、Q サブスクリプションが再始動するまで無視されます。その再始動により、ターゲット表が新たにロードされます。

ユーザーの処置: 競合またはエラーに関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を調べてください。問題を修正してから、Q サブスクリプションを再始動してください。IBMQREP_EXCEPTIONS 表に行がない場合は、行が削除されているか、または初期ロード・プロセスでエラーが発生しています。ロード・プロセスでは、IBMQREP_EXCEPTIONS 表にこれ以上の情報は保管されません。代わりに、Q アプライ・ログ・ファイル (現在のログ・ファイルまたは前のログ・ファイル) に情報が保管されます。

ASN7598E *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のトランザクション・メッセージには、列の以前の値が入っていません。

説明: Q サブスクリプションは IBMQREP_SUBS 表では *before_values* に「N」をおそらく指定していますが、IBMQREP_TARGETS 表の *conflict_rule* は「C」または「A」を指定しています。このような構成は無効です。IBMQREP_SUBS 表を CAPSTOP コマンドおよび CAPSTART コマンドを発行しないで変更した場合に、この構成になることがあります。

ユーザーの処置: Q サブスクリプションが正しく定義

されていることを確認してください。Q サブスクリプションを正しく定義してから、CAPSTOP を発行して、その後 CAPSTART を発行します。

ASN7605I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) はアクティブですが、ロード・フェーズの従属 Q サブスクリプションがあるため、RI 制約をターゲット *target_name* に再び追加できませんでした。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7606I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がアクティブです。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7607I *program_name : program_identifier : Q* サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がターゲットのロードを終了しました。変更は、スビル・キュー *queue_name* から適用されます。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7608I *program_name : program_identifier :* プログラムが Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のロードを終了し、Q キャプチャー・プログラムに通知しました。

説明: メッセージ・テキストを参照してください。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7609W *program_name : program_identifier* : ソースとターゲットのコード・ページの違いのため、受信キュー *queue_name* での Q サブスクリプション *name* の列 *name* の変換されたデータの長さが、ターゲット列の長さより長くなっています (変換されたデータの長さは *number_of_bytes*、ソースデータの長さは *number_of_bytes*)。

説明: ソース表とターゲット表で同じコード・ページが使用されていません。Q アプライ・プログラムはコード・ページ変換を実行しましたが、1 つの列のデータが拡張されました。拡張されたデータはターゲット列に適合しないため、データベース・エラーが発生し、それによりこの Q サブスクリプションの Q アプライ・エラー・アクションが起動されます。Q アプライ・エラー・アクションは、Q アプライ・ログ・ファイルと IBMQREP_APPLYTRACE 表にログとして記録されます。

ユーザーの処置: ターゲット表の列を変更して列の長さを大きくしてください。例えば、列が VARCHAR(10) として宣言されている場合は、VARCHAR(30) に拡張できます。Q アプライ・ログ・ファイルか IBMQREP_APPLYTRACE 表で、Q アプライ・エラー・アクションが起動された後に発行されるメッセージを調べてください。

ASN7610E *program_name : program_identifier* : Q アプライ・プログラムは列を Q サブスクリプションに追加するメッセージを受信しましたが、SUB_ID *subscription_identifier* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) がアクティブではありません。

説明: Q キャプチャー・プログラムに対して AddCol シグナルが発行されたために、Q アプライ・プログラムにメッセージが送信されました。しかし、Q サブスクリプションが開始されていない、エラーのために停止した、ドロップされた、のいずれかの原因により、Q サブスクリプションは Q アプライ・プログラムに認識されていません。

ユーザーの処置: Q アプライ・ログ・ファイルか IBMQREP_APPLYTRACE 表で、関連メッセージを調べてください。例えば、メッセージ ASN7512E がある場合、Q サブスクリプションは開始されていません。また、メッセージ ASN7597E がある場合、Q サブスクリプションは停止していました。Q サブスクリプションが存在する場合は、再始動してください。Q サブスクリプションが存在しない場合は、作成して開始してください。

ASN7611I *program_name : program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で追加された列 *name* は、ターゲット表 *schema_name.table_name* にすでに存在しています。

説明: Q アプライ・プログラムはターゲット表を変更して新しい列を追加しようとしたのですが、その新しい列はすでに存在しています。Q アプライ・プログラムはこの列を Q サブスクリプションに追加し、変更の複製を開始します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7612I *program_name : program_identifier* : 列 *column_name* が Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に追加されました。

説明: Q アプライ・プログラムは AddCol シグナルを正常に処理しました。新しく追加された列の変更が、現在ターゲット表に複製されています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7613I *program_name : program_identifier* : キューの処理を開始します (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)。アプリケーション 1 バイト・コード・ページ CCSID、2 バイト・コード・ページ CCSID、ソース・コード・ページ CCSID、必要なエンディアン変換 *needed_or_not*、浮動小数点変換 *encoding*。

説明: このメッセージには、レプリケーション・キュー・マップのコード・ページ情報が含まれます。

ユーザーの処置: この情報から、Q アプライ・プログラムでどのコード・ページ (CCSID) が使用されるかが分かります。またこの情報は、コード・ページ変換に関連した問題をデバッグするときに役立つことがあります。

ASN7614W *program_name* : *program_identifier* : ローカル・クロックは、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* にメッセージを送信しているシステムのクロックから、少なくとも *number_of_seconds* 秒遅れています。この時間差のために、ピアツーピア構成の行の処理が遅れます。

説明: Q アプライ・プログラムは、ピアツーピア構成の複製される行のタイム・スタンプが、ローカル時刻より進んでいることを検出しました。矛盾を回避するために、この変更を処理するアプライ・エージェントは、ローカル時刻がその変更自身の時刻と同じになるかそれを超えるまで、変更を適用しません。

ユーザーの処置: ローカル・クロックの時刻を調整してください。ローカル側のオペレーティング・システムおよびソフトウェア・パッケージに、ローカル時刻を調整するためのコマンドがあります。Q アプライ・プログラムを実行するシステムのローカル時刻を進めて、Q キャプチャー・プログラムを実行するマシンの時刻に合わせる必要があります。クロックを遅らせるのは望ましくありません。

ASN7615W *program_name* : *program_identifier* : ピアツーピア構成のすべてのキューが開始されているわけではないため、またはキューが非アクティブでハートビート・メッセージを送信していないために、プログラムは **IBMQREP_DELTOMB** 表を整理できません。

説明: ピアツーピア構成の Q サブスクリプションとしてアクティブなものがあれば、Q アプライ・プログラムは **IBMQREP_DELTOMB** 表の行を定期的に削除しません。タイム・スタンプが現在行より後になっているトランザクション・メッセージまたはハートビート・メッセージを Q アプライ・プログラムが確認するまで、行は削除されません。キューが処理されていないか、またはメッセージがキューを通過していないか、または Q キャプチャー・プログラムがメッセージをキューに書き込んでいません。

ユーザーの処置: 次のコマンドを使用して、処理されていないキューを再始動してください。

```
asnlqcmd APPLY_SERVER=
database_or_subsystem_name
startq=receive_queue_name
```

また、この Q アプライ・プログラムにメッセージを送信するすべての送信キューに、最大 3600 秒 (1 時間) のハートビート値を設定する必要があります。

ASN7616E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) への列追加のメッセージに含まれる **LOB** データ・タイプの列 *name* は、ターゲット表 *schema_name* に存在しません。表は、*table_name* です。

説明: DB2 for z/OS では、ADDCOL シグナルを発行する前に、Q サブスクリプションに追加する **LOB** 列 (**BLOB**、**CLOB**、**DBCLOB**) をターゲット表に定義する必要があります。ADDCOL シグナル内にあった列は、ターゲットに存在しません。

ユーザーの処置: ターゲット表に **LOB** 列を作成し、ADDCOL シグナルを再発行してください。

ASN7617E *program_name* : *program_identifier* : *schema_name* のターゲット表定義です。表 *table_name* は、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) への列追加のメッセージに含まれる **LOB** データ・タイプの列 *name* が不完全です。表の状況は、*status* です。

説明: **LOB** 列 (**BLOB**、**CLOB**、**DBCLOB**) を Q サブスクリプションに追加する AddCol シグナルが、Q キャプチャー・プログラムに対して発行されました。列は見つかりましたが、列の定義が以下のいずれかの理由で不完全です。

- L** **LOB** 列に補助表または補助索引が定義されていません。
- P** 表に、1 次索引が欠けています。
- R** 表に、行 ID に必要な索引が欠けています。
- U** 表に、ユニーク・キーに必要な索引が欠けています。

ユーザーの処置: 表の状況を確認し、対応する索引を追加することで、ターゲット表に **LOB** 列を追加するための定義を完成してください。その後、AddCol シグナルを再発行してください。

ASN7618I *program_name* : *program_identifier* : トランザクション *LSN* は、理由コード *code* でロールバックされました (エラー・メッセージ **SQL0911**)。アプライ・エージェント *agent_id* は、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の *operation* を適用していました。このトランザクションは、デッドロック再試行限度に達するまで再試行されます。

説明: この情報メッセージ (SQL0911 に対応) は、ロック・タイムアウトまたはデッドロックのために、トランザクションが再試行されることを示しています。理由コード:

- 2 トランザクションがロールバックされました。
- 68 ロック・タイムアウト

同一トランザクションが複数回再試行されたかどうかを、トランザクション・ログ・シーケンス番号 (LSN) で識別できます。トランザクションは、IBMQREP_APPLYPARMS 表の DEADLOCK_RETRIES の数に達するまで、複数回再試行されます。この限度に達すると、Q アプライ・プログラムはそのレプリケーション・キュー・マップの変更処理を停止します。

ユーザーの処置: ピアツーピア・レプリケーションの場合にのみ、RUNSTATS プログラムをターゲット表と Q アプライ内部表

(IBMQREP_DONEMSG、IBMQREP_SPILLEDROWS、IBMQREP_DELTOMB) に対して実行してください。

多くの矛盾が予想されるピアツーピア環境では、デッドロックも多いことが予想されます。

DEADLOCK_RETRIES 限度をデフォルトより大きい値にすることをお勧めします。z/OS の場合、ターゲット表と Q アプライ内部表

(IBMQREP_DONEMSG、IBMQREP_SPILLEDROWS、IBMQREP_DELTOMB) では、行レベル・ロッキングを使用するべきです。データベースまたはサブシステムが生成するデッドロック・イベント・ファイルを使用して、デッドロックの参加者を正確に判別できます。

このレプリケーション・キュー・マップのアプライ・エージェントの数を減らすことで並行性を低下させ、デッドロックの可能性を減らすことも可能です。デッドロックが続くようであれば、ターゲット表に非ユニーク 2 次索引が定義されていて、それがこの Q サブスクリプションに関係していないかどうかを確認してください (非ユニーク索引は、単純な削除ステートメントまたはキー更新ステートメントで EXPLAIN を実行することによって検査できます)。非ユニーク索引が選択されている場

合は、レジストリー変数 db2set

DB2_REDUCED_OPTIMIZATION=UNIQUEINDEX を使用して、並行性を高めるユニーク索引を DB2 オプティマイザーで選択するようにしてください。ただし、この変数はデータベース全体に影響するため、SELECT 照会の速度が低下する可能性があることに注意してください。

ASN7619W *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、浮動小数点変換を近似値で行いました。ソースの IEEE 浮動小数点数は、*value* です。ターゲット表に適用された z/OS 浮動小数点数は、*value* です。

説明: 変更は、2 つの浮動小数点列の間で複製されます。ソースは非 z/OS サーバー、ターゲットは z/OS サーバーです。非 z/OS サーバーでは IEEE 浮動小数点数表記標準が使用されますが、z/OS サーバーでのフォーマットは独自のものです。この 2 つのフォーマットの間の変換は可能です。しかし、あらゆる値を表すことはできないため、値によっては近似値が使用されます。この警告が発行されても、レプリケーション構成は変更されず、Q アプライ・エラー・アクションも実行されません。この近似値のため、ターゲット表がソース表と正確に一致しない場合もあります。

z/OS サーバーと非 z/OS サーバーの間で複製を行うときは、主キー列を浮動小数点列にしないようにしてください。これは、浮動小数点値が近似値になってソースとターゲットの間の 1 対 1 のマッピングがくずれることがないようにするためです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。処置は必要ありません。

ASN7620W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、受信キューの 1 つ以上の Q アプライ・エージェントまたはスピル・エージェントのモニター情報を収集できませんでした。このモニター・インターバルでプログラムが収集したデータは、次のモニター・インターバル後に報告するために保管されます。プログラムがモニター情報を収集できなかったエージェントの数: *number*。受信キュー名: *queue_name*。

説明: Q アプライ・プログラムのモニター・スレッドは、少なくとも 1 つの Q アプライ・エージェントまたはスピル・エージェントのモニター情報を収集できませんでした。このモニター・インターバルでのモニター・データは信頼性がないため、このモニター・インターバルでのレポートはスキップされます。ただし、データは次のモニター・インターバル後に報告されるので、データが失われることはありません。類似したメッセージの

報告が続く場合は、Q アプライ・エージェントまたはスピル・エージェントが停止しているか、またはパフォーマンス統計を収集するためにメモリー内で使用される構造で予期しないエラーが検出されています。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、メッセージに応答します。

- このメッセージが 1 回だけ表示される場合は、アクションは不要です。
- 複数のモニター・サイクルがスキップされる場合は、以下のトラブルシューティング手順を実行します。
 1. 問題の識別に役立つ追加エラー・メッセージを探して、問題の訂正を試みてください。
 2. 問題の識別または訂正ができない場合は、Q アプライ・プログラムを停止して開始してください。

Q アプライ・プログラムの停止と開始は、データ・レプリケーションへの影響が最小限になる最適な時間を判断して行ってください。この問題によってレプリケーションが影響を受けることはないので、データ・レプリケーションは継続されています。

ASN7621E *program_name* : *program_identifizier* : **Q** サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) でのソース列 *name* は、理由コード *code* のために、ターゲット列 *name* にマップされません。

説明: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションを活動化しているときに、ソース列とターゲット列の互換性がないことを検出しました。そのため、Q サブスクリプションは開始されません。

- 1 ソースとターゲットのデータ・タイプのミスマッチ。
- 2 ソースとターゲットの長さのミスマッチ。文字データ・タイプの場合は、ターゲット列の長さはソースより長いと等しくなければなりません。GRAPHIC から CHAR (または VARGRAPHIC から VARCHAR) に複製する場合は、ターゲット列の長さはソース列の少なくとも 2 倍でなければなりません (GRAPHIC および VARGRAPHIC データ・タイプは 2 バイトであるため)。
- 3 NULL から NOT NULL への複製は許可されません。
- 4 LONG VARCHAR から VARCHAR に複製する場合は、VARCHAR 列の長さを最大サイズにする必要があります。

- 5 Q サブスクリプションは双方向またはピアツーピア構成になっていますが、ソースとターゲットのデータ・タイプか列の長さがマッチングしません。

ユーザーの処置: ターゲット列またはソース列 (あるいはその両方) を、互換性がとれるように変更してください。Q サブスクリプションを再作成し、再始動してください。

ASN7622W *program_name* : *program_identifizier* : ターゲット列 *name* にマップされるソース列 *name* は、ターゲットより長くなっています。切り捨てが発生する可能性があります。Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)。

説明: VARCHAR 列の最大長が、LONG VARCHAR 列の長さより短くなっています。受信データによっては、複製中に切り捨てが行われる可能性があります。

ユーザーの処置: データ切り捨てを許容できない場合は、ターゲット列を LONG VARCHAR として作成してください。その後、Q サブスクリプションを再定義し、再始動してください。切り捨てを許容できる場合は、アクションは不要です。

ASN7623E *program_name* : *program_identifizier* : **Q** アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) への AddCol シグナルを処理できません。ターゲットは ALTER ステートメントをサポートしないニックネームであり、追加する列 *name* は、ニックネーム定義に組み入れられていません。

説明: ニックネームがターゲットになっている Q サブスクリプションへの AddCol シグナルが、Q キャプチャー・プログラムに対して発行されました。Q アプライ・プログラムはニックネームを直接変更することができないため、AddCol シグナルは処理されません。

ユーザーの処置: ニックネームを再定義して新しい列を組み込み、AddCol シグナルを再発行してください。

ASN7624I *program_name* : *program_identifizier* : **Q** サブスクリプション *Q_subscription_name* の *number* 2 次ユニーク索引 (複数可) が検出されました (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)。

説明: Q アプライ・プログラムは、トランザクション

を正しく順序付けし、それらを並行して適用できるよう、すべてのターゲット表に関するユニーク索引情報をロードします。このメッセージは、検出された 2 次ユニーク索引の個数を指定します。その数には、レプリケーション・キーとなるために使用されるユニーク索引は含まれません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7625E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション Q_subscription_name のターゲット・タイプ (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name)* はニックネームですが、**Q キャプチャー送信オプション**が正しくセットアップされていません。

説明: Q サブスクリプションのターゲット・タイプがニックネームでこのニックネームに複数のユニーク索引がある場合、Q アプライ・プログラムは、変更された前の列の値と変更されなかった列の値を送信するために Q キャプチャー・プログラムを必要とします。これらの送信オプションにより、Q アプライはターゲットのユニーク制約に違反することなく正しい順序でトランザクションを適用することができます。DB2 はトランザクションの順序付けに使用される必要な索引 ID を提供するので、ターゲット・タイプがユーザー表の場合にはこれらのオプションは不要です。ただしこの識別情報は、DB2 以外のデータベースからは入手できない場合があります。

ユーザーの処置: ソース・システムの IBMQREP_SUBS 表で、この Q サブスクリプションの BEFORE_VALUES 属性を Y に変更し、CHANGED_COLS_ONLY を N に変更してください。

ASN7626E *program_name : program_identifier :* ニックネーム *owner.nickname* によって参照されるターゲット表は、**IMPORT** ユーティリティが開始する前には空でなければなりません。Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は非活動化されます。

説明: **IMPORT** ユーティリティを使ってフェデレーテッド・ターゲットにデータをロードする場合、ターゲット表は空でなければなりません。IMPORT ユーティリティは **REPLACE** オプションをサポートしていません。

ユーザーの処置: ターゲット表の内容を削除し、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7627E *program_name : program_identifier : Q アプライ・ブラウザー browser_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、エラー・コード *error_code* で終了しました。

説明: 以前のエラーまたは条件のため、Q アプライ・ブラウザーは終了しました。理由コードは、SQLCODE、WebSphere MQ 理由コード、またはレプリケーション診断コードのいずれかになります。

ユーザーの処置: このメッセージの前に診断メッセージまたはエラー・メッセージがないか Q アプライ・ログ・ファイルを確認してください。

ASN7628E *program_name : program_identifier : Q アプライ・ブラウザー browser_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に、違反を受け取った保留中の **RI** 制約があり、制約違反を解決するための未完了トランザクションがないため、そのブラウザーは終了しました。

説明: Q アプライ・ブラウザーは表がロードされた後、表に RI 制約を追加しようとしていました。しかし、制約違反のため、操作は失敗しました。この違反を解決できるトランザクションがこれ以上ないため、Q アプライ・ブラウザーは停止しました。

ユーザーの処置: ソース表とターゲット表を比較し、制約違反の原因となっている行を修正してください。**ヒント:** ソース表とターゲット表の比較には **asntdiff** プログラムを使用できます。

ASN7629E *program_name : program_identifier :* モデル・キュー名 *model_queue_name* を使用する受信キュー *receive_queue_name* にある Q サブスクリプション *Q_subscription_name* の予備キュー名 *spill_queue_name* は予備キュー名の最大文字数 **48** 文字を、*number* 文字超過しました。

説明: 予備キュー名は、Q アプライで、モデル・キューの名前を Q サブスクリプション情報と連結することにより生成されます。許容最大長は 48 文字です。

ユーザーの処置: **IBMQREP_TARGETS** 表の **MODELQ** 列を、より短いモデル・キュー名で更新し、予備キュー名が 48 文字を超過しないようにしてください。

ASN7630I

ASN7630I	平均の計算に使用される時間
ASN7631I	(時間) 現在適用されるすべてのトランザクション
ASN7632I	(LSN) 現在適用されるすべてのトランザクション
ASN7633I	最も長い時間処理が行われているトランザクション
ASN7634I	エンドツーエンド平均待ち時間
ASN7635I	Q キャプチャー平均待ち時間
ASN7636I	WSMQ 平均待ち時間
ASN7637I	Q アプライ平均待ち時間
ASN7638I	現行メモリー
ASN7639I	現行キュー項目数
ASN7640I	ログ・リーダーの現行性
ASN7641I	Q アプライ・プログラム状況
ASN7642I	受信キュー
ASN7643I	<i>program_name</i> : <i>program_identifier</i> : ターゲット <i>nickname_owner_nickname_name</i> は Q サブスクリプション <i>Q_subscription_name</i> (受信キュー <i>queue_name</i> 、レプリケーション・キュー・マップ <i>queue_map_name</i>) のニックネームです。

説明: Q サブスクリプションのターゲットは、DB2 以外のデータベースの表を参照するニックネームです。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7644W *program_name* : *program_identifier* : Q キャプチャー MQPUT タイム・スタンプは、受信キュー *queue_name* の Q アプライ MQGET から *number* ミリ秒後に発生します。ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの間のクロック・スキューの可能性あります。

説明: ソース・サーバー・マシンとターゲット・サーバー・マシンのクロックは同期されない場合があります。

ユーザーの処置: 一致するように、ソース・サーバーまたはターゲット・サーバーのクロックを調整してください。これによりクロック・スキューが回避されます。

ASN7645E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *q_subscription_name* (受信キュー *receive_queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のターゲット表 *table_name* が存在しません。

説明: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションの活動化時にターゲット表を見つけようとしたますが、その表は、ターゲット・データベース内に存在しません。

ユーザーの処置: レプリケーション管理ツールを使って Q サブスクリプションを再定義してから、存在する表を指定するか、または管理ツールで新規のターゲット表が作成されるようにしてください。その後、Q サブスクリプションをアクティブにします。

ASN7646E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、Q アプライの IBMQREP_EXCEPTIONS 表への書き込み中に、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の受信キュー *queue_name* 上の Q サブスクリプション *Q_subscription_name* においてエラーを検出しました。オリジナルの行には、LSN のソース・コミット LSN、*transaction_ID* のソース・トランザクション ID、SQLDETAILS の SQLDETAILS、および ROWDETAILS の ROWDETAILS がありました。

説明: Q アプライ・プログラムは、IBMQREP_EXCEPTIONS コントロール表に行を挿入できませんでした。これは行をレプリケーション・ターゲットに適用しようとしたますが、失敗しました。このメッセージの内容は、エージェントが適用しようとした行を特定しています。

ユーザーの処置: メッセージ内の SQLCODE、SQLERRMC、OPERATION、および REASON を使用して、Q アプライ・プログラムがターゲットに行を適用しようとした際の妨げとなった問題を判別してください。また、この Q アプライ・スキーマ用の IBMQREP_EXCEPTIONS 表が存在し、使用可能であることを確認してください。詳しくは、IBM DB2 インフォメーション・センターの DB2 DESCRIBE コマンドの説明を参照してください。

ASN7647E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *subname* の CCD 列 *column_name* に、不適切なデータ・タイプ *data_type*、不適切なデータ長 *data_length*、またはその両方が含まれています。想定されるデータ・タイプは *data_type*、想定されるデータ長は *data_length* です。

説明: Q サブスクリプション用に指定した CCD 列には、想定外のデータ・タイプまたはデータ長 (またはこの両方) が設定されています。

ユーザーの処置: 指定した列のデータ・タイプとデータ長が正しくなるように、CCD 表を変更してください。

ASN7648E *program_name* : *program_identifier* : SQL 式は、*data_type* 列ではサポートされません。Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の IBMQREP_TRG_COLS 表に MAPPING_TYPE が正しくセットアップされていません。

説明: Q サブスクリプションの IBMQREP_TRG_COLS 表の MAPPING_TYPE 値 E は、データ変換に SQL 式を使用するよう指定しています。ただし、指定されたデータ・タイプで式はサポートされません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q サブスクリプションに SQL 式を指定するには、サポートされないデータ・タイプを含む列が複製されないように Q サブスクリプションを変更します。
- ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して Q サブスクリプションを変更し、式が指定されないように、また、IBMQREP_TRG_COLS 表の MAPPING_TYPE 値が R (regular) になるようにします。

いずれかの変更を行ったら、Q サブスクリプションを開始します。

ASN7649E *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の列 *column_name* は、定数、派生した定数、または CCD 監査列です。この列では、変更前イメージ列をターゲットに定義することはできません。

説明: 定数 (「IBM」など) や派生した定数 (CURRENT TIMESTAMP など)、または CCD 監査列 (IBMSNAP_LOGMARKER など) を含む SQL 式では、変更前イメージ列をターゲットに定義することはできません。

ユーザーの処置: ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して Q サブスクリプションを変更し、不適格な式または列に変更前の値が指定されないようにしてから、Q サブスクリプションを開始してください。

ASN7650I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、タイム・スタンプ *timestamp* までにコミットされたすべてのソース・トランザクションを適用した後で停止します。ユーザー入力は、*input* でした。

説明: 指定されたタイム・スタンプに Q アプライ・ブラウザー・スレッドを停止するよう指定するコマンドが発行されました。ブラウザー・スレッドは、ソース・コミット時刻が指定されたタイム・スタンプ以内であるすべてのトランザクションを処理した後に停止します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7651I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、ユーザー指定の停止点 *timestamp* より後のコミット・タイム・スタンプを持つソース・トランザクションを処理しました。ブラウザー・スレッドは停止します。

説明: Q アプライ・プログラムの開始に applyupto パラメーターが使用されました。これにより、ブラウザー・スレッドが指定のタイム・スタンプで停止するよう

ASN7652E

指定されています。ブラウザー・スレッドは、ソース・コミット時刻がタイム・スタンプ以降であるトランザクションを検出したため、停止します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7652E *program_name :program_identifier : Q* アプライ・プログラムが、開始時に、**applyupto** パラメーターの無効なタイム・スタンプを検出しました。タイム・スタンプ *timestamp* のフィールド *field* が正しくありません。Q アプライ・プログラムは終了します。

説明: Q アプライ・プログラムを開始するためのコマンドの **applyupto** パラメーターに指定されたタイム・スタンプの形式が無効です。予期される形式は、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.MMMMMM、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS、YYYY-MM-DD-HH.MM、YYYY-MM-DD-HH、HH.MM、または HH のいずれかです。

ユーザーの処置: Q アプライ・プログラムを再始動して、**applyupto** パラメーターの有効なタイム・スタンプを指定してください。

ASN7653E *program_name :program_identifier : Q* アプライ・プログラムを開始するコマンドに、**autostop** および **applyupto** の両方のパラメーターが入っています。Q アプライ・プログラムは終了します。

説明: **applyupto** パラメーターは、**autostop** パラメーターの値が Y (はい) の場合は指定できません。そのため、Q アプライ・プログラムの開始時には、**applyupto** と **autostop=Y** の両方を指定することはできません。さらに、**IBMQREP_APPLYPARMS** 表の **autostop** の保存された値が Y の場合は、**applyupto** を指定できません。

ユーザーの処置: **autostop** パラメーターまたは **applyupto** パラメーターのどちらかを指定しているときに Q アプライ・プログラムを再始動してください。必要であれば、**IBMQREP_APPLYPARMS** 表の **autostop** の値を更新してください。

ASN7654E *program_name :program_identifier : Q* アプライの操作パラメーターを変更するコマンドに **autostop** パラメーターが入っていますが、**applyupto** パラメーターは既に指定されています。コマンドは処理されませんでした。

説明: **asnlqcmd** コマンドを使用して Q アプライ・プログラムを操作する場合、**autostop** および **applyupto** パラメーターを同時に有効にすることはできません。

ユーザーの処置: **autostop** パラメーターを指定せずに、**asnlqcmd** コマンドを再発行してください。

ASN7655E *program_name : program_identifier :* **MAXAGENTS_CORRELID** の値が、受信キュー *recv_queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *repl_qmap_name* の **IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** の値より大きくなっています。Q アプライ・プログラムは、この受信キューのブラウザー・スレッドを停止します。

説明: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**NUM_APPLY_AGENTS** 値より大きくすることはできません。

ユーザーの処置: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 値より小さくしてください。

ASN7656W *program_name : program_identifier :* **MAXAGENTS_CORRELID** の値が、受信キュー *recv_queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *repl_qmap_name* の **IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 値と同じです。ブラウザー・スレッド (レプリケーション・キュー・マップ *repl_qmap_name*) は、**相関 ID** に基づいて並列処理を制限しません。

説明: **MAXAGENTS_CORRELID** の値が **NUM_APPLY_AGENTS** 値と同じであるため、Q アプライ・ブラウザーは相関 ID に基づくトランザクションのシリアルイズは行いません。

ユーザーの処置: ロック競合が問題である場合は、**MAXAGENTS_CORRELID** 値を **NUM_APPLY_AGENTS** 値より小さく設定することで、トランザクションをシリアルイズできます。**MAXAGENTS_CORRELID** 値をゼロに設定した場合、この警告が出ることはなく、ブラウザーは引き続きトランザクションを並列で適用します。

ASN7657E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムが、指定された **Q** サブスクリプション *subscription_name* および指定された受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) について **spillsub** コマンドの処理に失敗しました。サブスクリプションの状態は、*subscription_state* です。
理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

プログラムが初期化フェーズにあります。

1

指定された受信キューが見つかりませんでした。

2

指定された **Q** サブスクリプションが見つかりませんでした。

3

spillsub コマンドは、**A** (アクティブ) 状態のサブスクリプションに対してのみ発行できます。**Q** サブスクリプションは、アクティブ以外の状態にありました。

4

指定された **Q** サブスクリプションのターゲット表が、別の表との参照整合性関係を持っています。

5

一時スピル・キューを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションを次のように実行します。

0

プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。

1

受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

2

Q サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

3

Q サブスクリプションの状態が **I** または **T** である場合は、**spillsub** コマンドが発行される前

に、**Q** サブスクリプションでエラーが発生した可能性があります。**Q** アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。その他の状態については、**Q** サブスクリプションがアクティブになるのを待つ必要があります。

4

spillsub コマンドは、参照整合性関係を持つターゲット表ではサポートされません。参照整合性関係を持つターゲット表への複製されたトランザクションの適用を停止するには、**stopq** コマンドを使用して、受信キュー全体を停止する必要があります。

5

Q アプライ・プログラムのログ・ファイルから直前の診断またはエラー・メッセージを確認して、障害の原因を判別します。

ASN7658E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・エージェント・スレッドは、**Q** サブスクリプション *Q_subscription_name* の行メッセージをスピル・キュー *spill_queue_name* にスピルしているときに、エラーを検出しました。受信キュー *queue_name* のブラウザー・スレッド (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は停止します。

説明: 行の適用を試みる間にエラーが発生したため、**Q** アプライ・プログラムが、**Q** サブスクリプションについて指定されたエラー・アクションを行いました。指定されたアクションは、エラーが訂正されるまでメッセージを一時スピル・キューに入れるよう **Q** アプライに指示します。ただし、**Q** アプライは **Q** サブスクリプションをスピル・モードにできなかったため、ブラウザー・スレッドを停止します。

ユーザーの処置: **Q** アプライ診断ログ・ファイルまたは **IBMQREP_APPLYTRACE** 表から、障害の原因を示すメッセージを探してください。**Q** サブスクリプションのスピル・キューの作成に使用する **WebSphere MQ** モデル・キューが作成されており、キューが **IBMQREP_TARGETS** 表に正しく指定されていることを確認してください。

注: **Q** アプライを開始するときに **DFTMODELQ** パラメーターを使用した場合、**Q** アプライは、このパラメーターで指定されたモデル・キューを使用します。

問題を訂正した後で、**startq** コマンドを使用して、受信キューを再始動します。

ASN7659I *program_name* : *program_identifier* : **spillsub** コマンドに基づき、**Q** アプライ・ブラウザ・スレッド (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **Q** サブスクリプション *Q_subscription_name* をスピル・モードにしました。スピル・キューは *queue_name*。

説明: **Q** アプライ・プログラムが、**spillsub** コマンドの指示に従い、**Q** サブスクリプションのメッセージを一時スピル・キューに入れています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7660I *program_name* : *program_identifier* : **resumesub** コマンドに基づき、**Q** アプライ・ブラウザ・スレッド (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **Q** サブスクリプション *Q_subscription_name* を再開しました。

説明: スピル・モードにされた **Q** サブスクリプションが、**resumesub** コマンドに従い、通常の処理に戻されます。スピルされたメッセージが適用されます。新しいメッセージは引き続きスピルされ、ターゲット表では参照整合性制約がドロップされます。スピル・キューが空になると、制約が再び追加されるようになり、**Q** サブスクリプションはアクティブ (A) 状態にされます。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7661I *program_name* : *program_identifier* : **REINITQ** コマンドが正常に処理されました。**Q** アプライ・プログラムは、並列処理を *number* 個のエージェントに制限します (受信キュー *recv_queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*)。

説明: **MAXAGENTS_CORRELID** パラメーターは、同じ **z/OS** 相関 ID またはジョブ名でトランザクションを処理できるエージェント・スレッドの最大数を指定します。このパラメーターを使用すると、**z/OS** **Q** キャプチャー・サーバー上の同じバッチ・ジョブからのトランザクションの並列処理を制限することによって、ロック競合を少なくすることができます。ロック競合を少なくすると、待ち時間を短くすることができます。

この設定を使用することにより、**Q** アプライ・プログラ

ムはロック競合を防ぐためにバッチ・ワークロード中に並列処理を制限します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7662E *program_name* : *program_identifier* : **Q** アプライ・プログラムが、指定された **Q** サブスクリプション *name* および受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) について **resumesub** コマンドの処理に失敗しました。**Q** サブスクリプションの状態は *state* です。**理由コード:** *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

- 0** プログラムが初期化フェーズにあります。
- 1** 指定された受信キューが見つかりませんでした。
- 2** 指定された **Q** サブスクリプションが見つかりませんでした。
- 3** **resumesub** コマンドは、**S** (スピル) または **P** (保留中) 状態の **Q** サブスクリプションに対してのみ発行できます。**Q** サブスクリプションは、スピルまたは保留中以外の状態にありました。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションを次のように実行します。

- 0** プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。
- 1** 受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。
- 2** **Q** サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。
- 3** **Q** サブスクリプションの状態に応じて、以下のいずれかのアクションを行ってください。
 - 状態が **I** または **T** である場合は、**resumesub** コマンドが発行される前に、**Q** サブスクリプ

ションでエラーが発生した可能性があります。Q アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。エラーが修正された後、`resumesub` コマンドを再発行してください。

- 状態が A、R、または F である場合は、Q サブスクリプションは既に再開されており、`resumesub` コマンドを発行する必要はありません。

ASN7663E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムが、指定された Q サブスクリプション *subscription_name* および指定された受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) について `loaddonesub` コマンドの処理に失敗しました。サブスクリプションの状態は、*subscription_state*。
理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

プログラムが初期化フェーズにあります。

1

指定された受信キューが見つかりませんでした。

2

指定された Q サブスクリプションが見つかりませんでした。

3

`loaddonesub` コマンドは、E 状態の Q サブスクリプションに対してのみ発行できます。

4

`loaddonesub` コマンドは、CAPSTART シグナルに使用されたピアツーピア Q サブスクリプションに対してのみ発行されなければなりません。このサブスクリプションは、手動ロードのロード・ソースとして使用されたソース表を持つものと同じのサブスクリプションです。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションを次のように実行します。

0

プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。

1

受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

2

Q サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

3

Q サブスクリプションの状態が I または T である場合は、`loaddonesub` コマンドが発行される前に、Q サブスクリプションでエラーが発生した可能性があります。Q アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。他の状態についてはすべて、正しい Q サブスクリプションが指定されており、Q サブスクリプションの状態が「E」であることを確認してください。コマンドを再発行してください。

4

`loaddonesub` コマンドで正しいピアツーピア Q サブスクリプションが指定されていることを確認します。初期ロードの実行に使用したソース表を指定する Q サブスクリプションを使用してください。正しい Q サブスクリプションのコマンドを再発行します。

ASN7664W *program_name* : *program_identifier*
MAXAGENTS_CORRELID 列の値が、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 列の値より大きくなっています。ブラウザー・スレッド (受信キュー *recv_queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *repl_qmap_name*) は、**MAXAGENTS_CORRELID** の以前の値を使用します。

説明: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**NUM_APPLY_AGENTS** 値より大きくすることはできません。

ユーザーの処置: **MAXAGENTS_CORRELID** 値を、**IBMQREP_RECVQUEUES** 表の **NUM_APPLY_AGENTS** 値より小さくしてください。

ASN7665E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラム (受信キュー *receive_queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* のターゲット表内の XML 列に対して、セグメント化されたラージ・オブジェクト

(LOB) データを適用できません。

説明: Q アプライ・プログラムは、XML 列を持つターゲット表に対して LOB データの含まれる行を適用しようとしたときに、エラーを検出しました。スピル・キューの処理中にこのエラーが発生した場合、Q サブスクリプションは非活動化されます。それ以外の場合、ブラウザ・スレッドは終了します。

ユーザーの処置: ターゲットの XML 列に LOB データを複製するには、セグメントに分割してではなく、いわゆるインラインで、トランザクション・メッセージに入れて LOB データを送信する必要があります。以下のいずれかの手順を行います。

Q サブスクリプションが非活動化された場合

1. Q キャプチャー・プログラムを停止します。
2. IBMQREP_CAPPARMS 表内の LOB_SEND_OPTION 列を、I の値を使って更新します。
3. Q キャプチャー・プログラムをウォーム・モードで開始します。
4. レプリケーション管理ツールを使用して、Q サブスクリプションを活動化します。

ブラウザ・スレッドが停止した場合

1. IBMQREP_TARGETS 表で、Q サブスクリプションの STATE 列の値を I に変更します。
2. asnqacmd startq コマンドを使用して、受信キューのブラウザを開始します。
3. IBMQREP_SUBS 表内の STATE 列が I の値に変更されるまで待機します。
4. Q キャプチャー・プログラムを停止します。
5. IBMQREP_CAPPARMS 表内の LOB_SEND_OPTION 列を、I の値を使って更新します。
6. Q キャプチャー・プログラムをウォーム・モードで開始します。
7. レプリケーション管理ツールを使用して、Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7666E *program_name* : *program_identifier* :
INSERT_BIDI_SIGNAL パラメーターが N に設定されましたが、
IBMQREP_IGNTRAN 表には、Q アプライの許可 ID *auth_ID* またはプラン名 *plan_name* に有効なエントリーがありません。Q アプライ・プログラムは停止しました。有効なエントリーを **IBMQREP_IGNTRAN** 表に指定するか、または **INSERT_BIDI_SIGNAL** を Y に設定してください。

説明: 以下の 2 つの方法のいずれかを使用して、双方向レプリケーション環境でトランザクションが再キャプチャーされないようにすることができます。

- Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムがシグナル挿入 (*insert_bidi_signal*=Y) を使用する際のデフォルト動作を受け入れます。
- 指定されたトランザクションを Q キャプチャー・プログラムで無視する機能 (*insert_bidi_signal*=N と、Q アプライの許可 ID またはプラン名を使った **IBMQREP_IGNTRAN** 表への入力) を使用します。

ユーザーの処置: トランザクションを無視する方法を使用する場合、双方向構成において Q アプライ・プログラムおよび Q キャプチャー・プログラムが共有するサーバーで、**IBMQREP_IGNTRAN** 表の **AUTHID** 列または **PLANNAME** 列に、Q アプライ・プログラムの有効な ID を挿入してください。その後、Q アプライ・プログラムを再始動します。

ASN7667E *program_name* : *program_identifier* :
INSERT_BIDI_SIGNAL パラメーターが N に設定されましたが、
IBMQREP_IGNTRAN 表は存在しません。Q アプライ・プログラムは停止しました。**IBMQREP_IGNTRAN** 表を作成し、Q アプライの許可 ID またはプラン名 (*z/OS*) を指定します。あるいは、**INSERT_BIDI_SIGNAL** を Y に設定します。

説明: 以下の 2 つの方法のいずれかを使用して、双方向レプリケーション環境でトランザクションが再キャプチャーされないようにすることができます。

- Q キャプチャーおよび Q アプライ・プログラムがシグナル挿入 (*insert_bidi_signal*=Y) を使用する際のデフォルト動作を受け入れます。
- 指定されたトランザクションを Q キャプチャー・プログラムで無視する機能 (*insert_bidi_signal*=N と、Q アプライの許可 ID またはプラン名を使った **IBMQREP_IGNTRAN** 表への入力) を使用します。

ユーザーの処置: トランザクションを無視する方法を使用する場合、以下のアクションを行います。

1. Q キャプチャーのコントロール表をバージョン 9.1 フィックスバック 2 以上にアップグレードし、IBMQREP_IGNTRAN 表を追加します。
2. 双方向構成において Q アプライ・プログラムおよび Q キャプチャー・プログラムが共有するサーバーで、IBMQREP_IGNTRAN 表の AUTHID 列または PLANNAME 列に、Q アプライ・プログラムの有効な ID を挿入します。
3. Q アプライ・プログラムを再始動します。

ASN7668E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション Q_subscription_name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) のターゲット表 table_owner.table_name 上のユニーク索引 index_name は、キー列の最大数 limit を超える数のキー列を持っています。*

説明: Q アプライ・プログラムは、ユニーク索引用のキー列数が、DB2 での最大許容数を超過していることを検出しました。限度は、プラットフォームとバージョンによって異なります。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ユーザーの処置: ユニーク索引をドロップしてから再作成して、キー列の最大数内に収まるようにしてください。

ASN7669W *program_name : program_identifier : 受信キュー queue_name (レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) 上の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MAXAGENTS_CORRELID の値を無視し、相関 ID に基づいた並列処理の制限を行いません。理由コードは reason_code。*

説明: Q キャプチャー・サーバーが z/OS 上において、APAR PK49430 以上の PTF を適用されたバージョン 9.1 である場合のみ、Q アプライ・プログラムは、受信キューの MAXAGENT_CORRELID 設定を使用しません。以下の理由コードが該当します。

0

Q キャプチャー・プログラムは、相関 ID 情報の送信をサポートしない古いバージョンです。

1

Q キャプチャー・サーバーが z/OS 上にありません。非 z/OS ソースに対して、相関 ID 情報は有効ではありません。

ユーザーの処置: Q キャプチャー・サーバーをアップグレードしてください。ただし、Q キャプチャー・サーバーが Linux、UNIX、または Windows 上にある場合は、この受信キューの IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MAXAGENT_CORRELID 列を NULL に設定してください。

ASN7670I *program_name : program_identifier : トランザクション transaction_ID は、受信キュー queue_name (レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) から正常にスキップされました。*

説明: プログラム呼び出しの skiptrans パラメーターで指定されたトランザクション ID、または startq コマンドで指定されたトランザクション ID が、受信キューから正常にスキップされました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7671I *program_name : program_identifier : beginning_ID から ending_ID までの範囲のトランザクション ID は、受信キュー queue_name (レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) から正常にスキップされました。スキップされたトランザクションの数: number。*

説明: プログラム呼び出しの skiptrans パラメーターで指定された範囲のトランザクション ID、または startq コマンドで指定された範囲のトランザクション ID を受信キューから読み取りましたが、適用されませんでした。メッセージは受信キューから削除されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7673E *program_name : program_identifier : トランザクション transaction_id を受信キュー queue_name (レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) からスキップできませんでした。理由コード: reason_code。プログラムは、キューからの読み取りを停止します。*

説明: プログラム呼び出しの skiptrans パラメーターで指定されたトランザクション ID、または startq コマンドで指定されたトランザクション ID は、形式が無効であるか、受信キューで見つかりませんでした。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

スキップするトランザクション ID が受信キューで見つかりませんでした。

1

スキップするトランザクション ID の形式が無効です。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

0

z/OS 上で asnqmfmt ツールまたは asnqxfmt ツールを使用して、トランザクション ID が受信キューに存在するかどうかを調べてください。存在していてそれをスキップする場合は、skiptrans パラメーターでこのトランザクション ID を指定してプログラムを再度開始してください。

1

skiptrans パラメーターでトランザクション ID を指定するときを使用できる文字は、以下のとおりです。

- 大文字の A から F
- 小文字の a から f
- 数字の 0 から 9
- 特殊文字: 「-」と「:」のみ

例えば、次の各トランザクション ID は許可されます。

```
0000:0000:0000:51a1:0000
```

```
00000000000051a10000
```

```
0000:0000:0000:0000:51a1-  
0000:0000:0000:0000:51a8
```

注:

- トランザクション ID の先行ゼロは省略できません。トランザクション ID の指定にコロンの使用しても使用しなくてもどちらでもかまいません。例えば、0000:0000:0000:51a1:0001 は 00000000000051a10001 と同じに扱われます。
- 入力トランザクション ID のコロン間の各ユニットの長さは、4 文字にする必要があります。例えば、0000:1090:1234:5671:001 は許可されません。最後のユニットの長さが 4 文字より少ないためです。

- (*) などのワイルドカード文字は許可されません。例えば、「*-1123:0000:01fa:bbc2:0001」などの範囲節は許可されません。
- skiptrans パラメーターの構文で区切り文字 (セミコロン、ハイフン、コンマ) を使用する場合、区切り文字間のスペースは許可されません。
- ある特定の範囲のトランザクション ID をスキップする場合は、開始と終了のトランザクション ID をそれぞれ含めます。

ASN7674E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のスキーマ・メッセージの処理中に、無効な Q サブスクリプション状態を検出しました。Q アプライは状態が W であることを予期していましたが、state の状態を検出しました。Q サブスクリプションは活動化されませんでした。

説明: Q アプライ・プログラムは、ターゲット表がロードされたことを示す、Q サブスクリプションに対するスキーマ・メッセージを受け取りました。

IBMQREP_TARGETS 表での Q サブスクリプションの状態は W であるはずですが、異なる値になっています。

ユーザーの処置: セットアップを確認して、Q サブスクリプションを再始動してください。

ASN7675I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のスキーマ・メッセージを正常に処理しました。Q アプライは Q サブスクリプションの状態を E (外部アプリケーションによりロード中) に変更しました。

説明: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションのスキーマ・メッセージを受け取り、その状態を正常に変更しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7676I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション *Q_subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のスキーマ・メッセージを正常に処理しました。Q アプライは Q サブスクリプションの状態を L に変更しました。

説明: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションのスキーマ・メッセージを受け取り、その状態を正常に変更しました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7677I Q キャプチャーの再始動点 (MAXCMTSEQ)

ASN7678I トランザクションを処理中のエージェント

ASN7679I トランザクションを待機中のエージェント

ASN7680I 内部メッセージを処理中のエージェント

ASN7682I 初期化状態のエージェント

ASN7684E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・エージェント・スレッドは、Q サブスクリプション *name* の行メッセージをスピル・キュー *queue_name* にスピルしているときに、エラーを検出しました。受信キュー *queue_name* のブラウザー・スレッド (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は停止します。

説明: Q アプライ・プログラムに、Q サブスクリプションの行メッセージを一時スピル・キューに入れようとしている最中に、リカバリー不能な障害が発生しました。Q アプライはブラウザー・スレッドを停止しました。

ユーザーの処置: Q アプライ・ログ・ファイルを調べるか、またはこのメッセージの前に診断メッセージやエラー・メッセージがあればそれらを調べて、この障害の原因を特定します。スピル・キューの問題については、診断メッセージが WebSphere MQ エラー・コードをリストします。スピル・キューがいっぱいになっている可能性があります。根底にある障害の原因を修正し、startq コマンドを使用して、受信キューのメッセージ処理を再始動してください。

ASN7687E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対してバッファークイ挿入モードで実行中に SQL エラーを検出しました。プログラムは、キューからの読み取りを停止します。

説明: Q アプライ・プログラムは、この Q サブスクリプションのトランザクションをバッファークイ挿入モードで適用しようとしているときに、エラーまたは競合を検出しました。このモードで Q アプライを実行すると、通常の競合処理オプションまたはエラー処理オプションが無視されるので、ブラウザーが検出した SQL エラーが原因となって、Q アプライは影響を受ける受信キューからの読み取りを停止します。

IBMQREP_EXCEPTIONS 表に項目は追加されません。エラーが発生した理由の詳細については、Q アプライ診断ログ・ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 診断ログで確認した問題を処理するか、buffered_inserts=n を指定して Q アプライ・プログラムを再始動してください。次に、startq コマンドを使用して受信キューを活動化することで、この例外を解決してください。変更は失われません。Q アプライ・プログラムは引き続き他のターゲットに変更を適用します。

ASN7690I 現行キューのパーセントはフルです。

ASN7694I *program_name* : *program_identifier* : ターゲット表 *table_owner.table_name* をロードする前に、プログラムは COLLECTION ASN のオプション CONCURRENTACCESSRESOLUTION WAIT FOR OUTCOME を使用して、DB2 EXPORT ユーティリティで必要なパッケージをバインドします。

説明: DB2 EXPORT ユーティリティによってソース・サーバーのすべてのデータを正常にエクスポートされるようにするには、Q アプライはこのオプションを使用して (@db2ubind.lst にある) このユーティリティの SQL パッケージをバインドする必要があります。このオプションを使用すると、ソース表を変更するすべての処理中のトランザクションが完了するのを DB2 EXPORT は待機してから、エクスポートを開始します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7695E *program_name* : *program_identifier* : プログラムが、DB2 EXPORT ユーティリティーに必要なパッケージをバインドできませんでした。Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) は非活動化されます。ファイル *path_filename* のパッケージ *pkg_name* で、バインドが失敗しました。
SQLSTATE *sqlstate* が戻されました。

説明: プログラムが、必要なパッケージをバインドしようとしてエラーが生じました。

ユーザーの処置: 失敗したバインド呼び出しの SQLCODE を解釈してください。問題を修正してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。ソース・データベースに接続してから、以下のコマンドを実行すると、必要なパッケージを手動でバインドできます。

```
db2 bind @db2ubind.lst CONCURRENTACCESSRESOLUTION
WAIT FOR OUTCOME COLLECTION ASN.
```

コレクション ASN でユーティリティー・パッケージを再バインドしても、他のアプリケーションによるそれらのユーティリティーの使用には影響がありません。ユーティリティー・パッケージを再バインドできない場合、Q サブスクリプションに関する別のタイプのロードを考慮することもできます。使用可能なロード・タイプのリストについては、DB2 インフォメーション・センターの『IBMQRREP_TARGETS 表』を参照してください。

ASN7697E *program_name* : *program_identifier* : Q アプリ・ブラウザー・スレッドが、フォーマットが正しくないメッセージ、または Q キャプチャー・プログラム以外のアプリケーションによって受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* に書き込まれたメッセージを検出しました。ブラウザー・スレッドはキューからの読み取りを停止しましたが、問題を診断できるようにそのメッセージをキュー上に残しています。このメッセージの WebSphere MQ メッセージ ID は *message_ID* です。キューは非アクティブ (I) 状態になっていません。

説明: 有効なレプリケーション・メッセージは、Q キャプチャー・プログラムから送信されるもので、C (コンパクト) フォーマットです。Q アプリ・ブラウザー・スレッドは有効でないレプリケーション・メッセージを読み取りました。診断の目的で、メッセージはキューに残されています。

ユーザーの処置: asnqmfmt コマンドを使用して、キュー上の最初の 50 個のメッセージをフォーマットしてから、フォーマットしたメッセージ出力を保存します。そのフォーマット済みメッセージ出力と、Q アプリ診断ログ・ファイルを IBM ソフトウェア・サポートに送ってください。asnqmfmt では次の構文を使用します。

```
asnqmfmt receive_queue_name queue_manager_name
-mqmd -hex -l 50 -o filepath
```

ここで、filepath は、asnqmfmt がフォーマット済みメッセージ出力を含むテキスト・ファイルを保存するシステム上のロケーション、およびファイル名です。

出力を確認して、指定された ID が「MsgId」フィールドに含まれているかどうかを調べます。含まれていない場合、問題の ID が出力に含まれるようになるまで、さらに多くのメッセージについて asnqmfmt 出力を取得してください。

ASN7699I *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプリ・ブラウザー・スレッドは、OLDEST_COMMIT_LSN_value (ソース表が z/OS 上にある場合) または OLDEST_COMMIT_SEQ_value (ソース表が Linux、UNIX、または Windows 上にある場合) によって示されるトランザクション・コミット・ポイントまで、すべてのトランザクションをアプリしました。

説明: ソースに関する、Q アプリ・プログラムのキャッチアップ・ポイントが、メッセージ・テキストで報告されています。Q キャプチャー maxcmtseq パラメーターに対して、ソース・オペレーティング・システムに応じた適切な値を使用して、Q キャプチャーを再始動できます。その際、Q キャプチャーの再始動情報または WebSphere MQ メッセージが失われた状況でも、ターゲット表のフル・リフレッシュは必要ありません。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7700I *program_name* : *program_identifier* : Q アプリ・プログラムは Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の非活動化サブスクリプション・メッセージを受信しました。Q サブスクリプションが非活動化されます。

説明: プログラムが、Q サブスクリプションを非活動化するメッセージを Q キャプチャー・プログラムから

受信しました。Q サブスクリプションが、ユーザーによって意図的に非活動化されたか、Q キャプチャー・プログラムによって処理中のエラーのために非活動化された可能性があります。

ユーザーの処置: これは通知メッセージです。この Q サブスクリプションの非活動化を予期していなかった場合、関連する Q キャプチャー・ログ・ファイルで非活動化の理由を調べてください。

ASN7701W *program_name* : *program_identifier* : ロード・ユーティリティー *utility_name* は、ソース・データベースで未コミットのトランザクションが完了するのを待機せずに、ソース・データの選択を開始します。理由コード: *reason_code*。

説明: プログラムは、ソース・データベースが CURRENTLY COMMITTED ロッキング・セマンティクスをデフォルトで使用しているかどうかを判別します。ロード・ユーティリティーでこの動作を使用不可にしないと、ロード・フェーズの開始時点で未完了トランザクションが進行中である場合に、データ損失が生じます。実行できる対処方法については、理由コードを参照してください。どのような状況であっても、生じる可能性のあるデータ損失を防ぐデフォルトの回避策となるのは、Q サブスクリプションが開始されてから (CAPSTART シグナルが IBMQREP_SIGNAL 表に挿入される時)、少なくともロード・フェーズが開始されるまで (IBMQREP_SUBS 表で Q サブスクリプションの状態が「L」または「A」に変更されるまで)、アプリケーションを中断することです。可能性のある理由コードは、以下のとおりです。

0

LOAD FROM CURSOR を使用可能にする DSNUTILS パッケージ (z/OS のみ) は、ソース・データベースで WAIT FOR OUTCOME セマンティクスを使用してバインドすることはできません。アプリケーションの中断が必要です。

1

LOAD FROM CURSOR (Linux、UNIX、および Windows のみ) には、WAIT FOR OUTCOME 動作を設定するオプションはありません。アプリケーションの中断を実行するか、以下のステップを実行してください。

1. 以下のコマンドを使用して、ソース・データベースで db2cli パッケージをバインドします。

```
db2 bind @db2cli.lst
      CONCURRENTACCESSRESOLUTION
      WAIT_FOR_OUTCOME COLLECTION ASN
```

2. フェデレーテッド・データベースにある db2cli.ini ファイルで、ニックネームが属するサーバー定義のオプションを宣言するスタンザの下に、以下の名前と値のペアを追加します。

```
[data_source_name]
```

```
CURRENTPACKAGESET=ASN
```

ここで、*data_source_name* は db2cli.bnd パッケージがバインドされた対象のソース・データベースです。

2

ローカル・データベースからの LOAD ユーティリティー (Linux、UNIX、および Windows のみ) には、WAIT FOR OUTCOME 動作を設定するオプションはありません。アプリケーションの中断が必要です。

ユーザーの処置: 詳細については、メッセージ・テキスト内の理由コードと関連する『説明』セクションを参照してください。

ASN7704W *program_name* : *program_identifier* : スキーマ *schema_name* を持つ Q アプライ・プログラムがフェデレーテッド・ターゲットに対して実行されています。非 DB2 ターゲット・データベースの表を参照するニックネームに対して Q アプライ・プログラムが発行する照会のパフォーマンスを最適にするために、1 つ以上のニックネーム・オプションが正しく設定されていません。詳しくは、メッセージの説明を参照してください。

説明: フェデレーテッド・ターゲットのパフォーマンスを改善するために、以下のような設定を使用します。

Oracle ターゲット

IBMQREP_DONEMSG ニックネームの RECVQ 列に関して、および IBMQREP_SPILLEDROW ニックネームと IBMQREP_SPILLQS ニックネームの SPILLQ 列に関して、VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS = Y を設定します。

Microsoft SQL Server ターゲット

IBMQREP_DONEMSG ニックネームの MQMSGID 列に関して BINARY_REP = Y を設定します。

ユーザーの処置: Q アプライ・プログラムのパフォーマンスが遅い場合には、推奨される設定に変更してください。以下のような SQL を使って設定を追加できます。

Oracle ターゲットの場合:

```
alter nickname apply_schema.IBMQREP_DONEMSG
  alter COLUMN RECVQ OPTIONS
  (ADD VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS 'Y')
alter nickname apply_schema.IBMQREP_SPILLEDROW
  alter COLUMN SPILLQ OPTIONS
  (ADD VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS 'Y')
alter nickname apply_schema.IBMQREP_SPILLQS
  alter COLUMN SPILLQ OPTIONS
  (ADD VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS 'Y')
```

Microsoft SQL Server ターゲットの場合:

```
alter nickname apply_schema.IBMQREP_DONEMSG
alter COLUMN MQMSGID OPTIONS (ADD BINARY_REP 'Y')
```

ASN7705I *program_name : program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、**applyupto** パラメーターで **NOWAIT** 修飾子が設定された状態で実行している際に、空の受信キューを検出しました。ブラウザー・スレッドは停止します。

説明: 指定されたタイム・スタンプと **NOWAIT** オプション修飾子を **applyupto** パラメーターで設定した状態で、Q アプライ・プログラムが開始されました。**NOWAIT** を指定した場合、現在処理中のどのトランザクションも指定のタイム・スタンプを超過していない場合であっても、空の受信キューを検出するとブラウザー・スレッドが停止します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7706W *program_name : program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) のブラウザー・スレッドは、サイズがゼロの **WebSphere MQ** メッセージを処理しませんでした。メッセージには内容がまったく含まれていませんでした。**WebSphere MQ** メッセージ ID は *msgid* でした。

説明: サイズがゼロであるメッセージは想定されていません。Q アプライ・ブラウザーはこのメッセージを処理せずに、通常の処理を続行します。このメッセージには内容が含まれていなかったため、Q アプライは、これがトランザクション・メッセージあるいは (ハートビー

ト・メッセージなどの) 制御メッセージのどちらであるか判別できませんでした。

ユーザーの処置: Q キャプチャーが複製または **WebSphere MQ** へのメッセージ発行を行う際に他のエラーが発生したかどうか、Q キャプチャー・ログで確認してください。

ASN7707E *program_name : program_identifier* : **DB2 pureCluster** フィーチャーのあるソース・データベースから行の変更を受け取り、Q サブスクリプション *subscription_name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) が **CCD** ターゲットを指定しました。**CCD** 表がサポートされるのは、**DB2 pureCluster** のない環境での単一方向レプリケーションのみです。Q アプライ・ブラウザー・スレッドは停止します。

説明: **CCD** 表はこの構成ではサポートされていません。

ユーザーの処置: **CCD** ターゲットをサポートする **DB2 pureCluster** を持つ **DB2** データベースのバージョンへ、ターゲットをマイグレーションします。

ASN7708W *program_name : program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、Q サブスクリプション *name* を保留中状態に置きました。エラーが発生しました。Q サブスクリプションのエラー・アクションは、エラーが解決されるまでメッセージを一時予備キューに置くことを指定していません。予備キュー *spill_queue_name* が使用されます。

説明: Q サブスクリプションに対して指定されたエラー・アクション (**IBMQREP_TARGETS** 表の **ERROR_ACTION** 列の値 B) は、SQL エラーの検出時に Q サブスクリプションのデータを予備キューに送るよう Q アプライ・プログラムに指示します。

ユーザーの処置: 以下のアクションを行ってください。

1. 発生した SQL エラーを示すメッセージを **IBMQREP_APPLYTRACE** 表または Q アプライ・ログ・ファイルから探します。
2. エラーを修正します。
3. **resumesub** コマンドを発行して、予備キューのデータを適用し、Q サブスクリプションに対する通常の処理を開始するよう Q アプライに指示します。

ASN7709E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) でエラーを検出しました。Q サブスクリプションに対して指定されたエラー・アクションは B (トランザクションを中断し、予備キューに変更を送信する) です。しかし、エラー・アクション B は、参照整合性制約を持つ表に対して許可されていません。

説明: この Q サブスクリプションに対して指定されている表に、1 つ以上の他の表との参照整合性関係があります。エラー・アクション B は、参照整合性制約を持つ表に対して許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のアクションを行ってください。

1. レプリケーション管理ツールを使用して、Q サブスクリプションに対して別のエラー・アクションを選択します。
2. Q サブスクリプションが使用不可の場合、Q サブスクリプションを再始動します。
3. 受信キューのブラウザー・スレッドが停止された場合、startq コマンドを使用して受信キュー上のメッセージ処理を再開します。

ASN7710E *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を指定する表 *table_owner.table_name* に、Q サブスクリプション *name* が既に存在しています。ただし、Q サブスクリプションは非アクティブ (I) 以外の状態です。プログラムは、キューからの読み取りを停止します。

説明: Q アプライ・プログラムは、ソースでスキーマ・レベルの Q サブスクリプションへの応答として、表に Q サブスクリプションを作成しようとしたが、その表のための Q サブスクリプションが既に存在しています。新規 Q サブスクリプションを作成するには、既存の Q サブスクリプションは、削除できるように、非アクティブ状態でなければなりません。Q アプライ・プログラムは、受信キューからの読み取りを停止します。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. 既存の Q サブスクリプションを非アクティブ化します。
2. レプリケーション管理ツールを使用して、既存の Q サブスクリプションを削除します。

3. startq コマンドを発行して、Q アプライが受信キューから読み取りを開始するように指示します。

ASN7711I *program_name* : *program_identifier* : スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* がソースで定義されていたので、Q サブスクリプション *name* は、受信キュー *queue_name* およびレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するターゲット表 *table_owner.table_name* に正常に作成されました。

説明: スキーマ・レベルの Q サブスクリプションがソースで同じ所有者を持つすべての表に対して定義されていたので、自動的に Q サブスクリプションを作成するよう、Q キャプチャー・プログラムから Q アプライ・プログラムにプロンプトが出されました。Q サブスクリプションは正常に作成されました。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7712I *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で送信された DDL 操作 *operation* は、ターゲットで正常に適用されました。SQL ステートメントは *SQL_statement* です。

説明: Q アプライ・プログラムは、指定された DDL 操作を正常に複製しました。SQL ステートメントが長すぎて印刷できない場合には、切り捨てられる可能性があります。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7713E *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で送信された DDL 操作を、正常に適用できませんでした。SQL ステートメントは *SQL_statement* です。プログラムは、キューからの読み取りを停止します。

説明: Q アプライ・プログラムは、ソースから複製された DDL 操作の実行に失敗しました。SQL エラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. SQLSTATE 情報および SQLCODE 情報に言及している前のメッセージを探します。
2. エラーを修正します。

3. 受信キューで startq コマンドを発行します。

ASN7719W *program_name* : *program_identifier* : 表 *table_owner.table_name* の列 *column_name* の変更 (Q サブスクリプション *name*、受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) により、変更された列の索引が REBUILD ペンディング状態になりました。DB2 は実行中に *sqlerrmc sqlerrmc_out* の完了コード SQL610W を発行しました。

説明: Q アプライ・プログラムは、変更された列の索引の状況を REBUILD ペンディングに変更する ALTER TABLE ALTER COLUMN SQL ステートメントを実行しました。REBUILD ペンディング状態は、対象の索引または索引パーティションが破損しており、データから再作成しなければならないことを示します。対象の表に対するこれ以降のすべての DML SQL ステートメントは、索引が REBUILD ペンディング状態から解放されるまで失敗します。

ユーザーの処置: 索引の REBUILD ペンディング状態は、次のいずれかの操作によってリセットすることができます。

- REBUILD INDEX
- REORG TABLESPACE SORTDATA
- NORBDPEND を用いた REPAIR SET INDEX
- ACCESS FORCE を用いた START DATABASE コマンド

ASN7721I *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、既にキューをアクティブに処理しています。startq コマンドは無視されます。

説明: 受信キューのブラウザー・スレッドを開始するコマンドを受け取りましたが、ブラウザー・スレッドは既にアクティブになっています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7722I *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) の Q アプライ・ブラウザー・スレッドは、既に非アクティブになっています。stopq コマンドは無視されます。

説明: 受信キューのブラウザー・スレッドを停止するコ

マンドを受け取りましたが、ブラウザー・スレッドは既に非アクティブになっています。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

ASN7723E *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に対する stopq コマンドを実行できません。理由コード: *reason_code*。

説明: 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1 IBMQREP_RECVQUEUES 表に、このキューに関する情報が含まれていません。

2 プログラムが、まだ初期化フェーズにあります。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1 このキューに関する情報について、IBMQREP_RECVQUEUES 表を調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

2 後で、コマンドを再発行してください。

ASN7727W *program_name* : *program_identifier* : Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に追加された列 *column_name* が、既にターゲット表 *table_owner.table_name* にあります。ターゲット列のデフォルト値が、ソース列のデフォルト値と一致しません。

説明: Q アプライ・プログラムはターゲット表を変更して新しい列を追加しようとしたのですが、その新しい列は既に存在しており、そのデフォルト値がソースのデフォルト値と異なっています。Q アプライはこの列を Q サブスクリプションに追加し、変更の複製を開始しました。

ユーザーの処置: ソース表とターゲット表の定義を確認し、デフォルトの列値を判別してください。不一致が意図的なものでない場合は、ソース表またはターゲット表を変更してください。

ASN7728W *program_name* : *program_identifier* : 参照される **SUBID** *subid* を持つ **Q** サブスクリプション *name* が検出されなかったか、非アクティブであるため、受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) で送信された **DDL** 操作 *operation* は、適用されません。

説明: 関連する **Q** サブスクリプションが検出されなかったか、非アクティブであるため、**Q** アプライ・プログラムは、複製された **DDL** 操作を処理しませんでした。

ユーザーの処置: **Q** サブスクリプションを削除したか、非アクティブになると想定した場合、アクションは必要ありません。そうでない場合は、以下のステップに従ってください。

1. 複製できなかった **DDL** 操作のあるターゲット表を手動で変更します。
2. 前のエラー・メッセージを探し、**Q** サブスクリプションが非アクティブになった原因を判別し、エラーを修正します。
3. レプリケーション管理ツールまたは CAPSTART シグナルを使用して、**Q** サブスクリプションをアクティブ化します。

ASN7729W *program_name* : *program_identifier* : ソース表 *table_owner.table_name* のための **Q** サブスクリプション *name* が、正常に作成されました。**Q** アプライ・プログラムは、受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) を使用するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に基づくコントロール表 *table_owner.table_name* に、この新規 **Q** サブスクリプションの項目を作成したとき、同じソース表の既存の項目を削除しました。

説明: **CREATE TABLE** 操作が、一致するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションを持つ表で検出された後、**Q** キャプチャー・プログラムは **Q** アプライ・プログラムに通知して、**IBMQREP_TARGETS** コントロール表および **IBMQREP_TRG_COLS** コントロール表に **Q** サブスクリプションの項目を自動的に作成できるようにします。**Q** サブスクリプションの項目が、これらのコントロール表のいずれか、または両方に既に存在している場合、**Q** アプライは前の **Q** サブスクリプションの項目を削除し、新規項目を作成します。

ユーザーの処置: 同じターゲット表の **Q** サブスクリプションの項目がこのコントロール表に既に存在していた

理由を判別してください。**Q** キャプチャーがログの前の時点から再開されていた場合、同じ **CREATE TABLE** 操作に対するログ・レコードを検出し、この操作の詳細がターゲットに複製されていた可能性があります。

ASN7730W *program_name* : *program_identifier* : ソース・データベースまたはサブシステムでの **CREATE TABLE** 操作への応答で、**Q** アプライ・プログラムは、受信キュー *queue_name* でレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* を使用するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプション *name* に基づいて、ソース表 *table_owner.table_name* 用の **Q** サブスクリプションの作成を試行しました。しかし、**IBMQREP_TARGETS** コントロール表への **Q** サブスクリプション情報の挿入が失敗したため、個別 **Q** サブスクリプションを作成できませんでした。**SQL** コードまたは内部レプリケーション理由コードは *sqlcode_or_reason_code* です。**Q** アプライは、この受信キュー上にある他の **Q** サブスクリプションの変更を引き続き処理します。

説明: 対応するスキーマ・レベルの **Q** サブスクリプションを使用した表に対する **CREATE TABLE** 操作が検出された後、**Q** キャプチャー・プログラムは **Q** アプライ・プログラムに通知して、**Q** アプライ・プログラムが **IBMQREP_TARGETS** 表に **Q** サブスクリプション項目を自動的に作成できるようにします。**Q** サブスクリプションの項目の挿入に失敗する場合、**Q** サブスクリプションは作成されず、レプリケーションはソース表に対して開始されません。

ユーザーの処置: このソース表を複製する場合、レプリケーション管理ツールを使用して、その表に対する **Q** サブスクリプションを作成してください。ソース表とターゲット表が存在していることを確認するか、あるいはレプリケーション・ツールでターゲット表を作成します。**SQL** コードまたは内部理由コードを確認して、**IBMQREP_TARGETS** への挿入操作が失敗した理由を見極めてください。

ASN7731W *program_name* : *program_identifier* : プログラムは、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* と受信キュー *queue_name* を使用するスキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* に基づいて、ソース表 *table_owner.table_name* の **IBMQREP_TRG_COLS** コントロール表に新規 Q サブスクリプションの作成を試行しました。しかし、Q サブスクリプション情報のコントロール表への挿入に失敗しました。SQL コードまたは内部レプリケーション理由コードは *sqlcode_or_reason_code* です。このソース表の Q サブスクリプションは非活動化されます。Q アプライは、この受信キューを使用する他の Q サブスクリプションの変更を引き続き処理します。

説明: 対応するスキーマ・レベルの Q サブスクリプションを使用した表に対する CREATE TABLE 操作が検出された後、Q アプライ・プログラムは自動的にターゲット表の列に関する Q サブスクリプション情報を **IBMQREP_TRG_COLS** コントロール表に追加します。しかし、この情報のコントロール表への挿入は失敗しました。Q サブスクリプションは **IBMQREP_TARGETS** 表内で非活動化されます。

ユーザーの処置: 以下に示す手順に従ってください。

1. SQL コードまたは内部理由コードを確認して、**IBMQREP_TRG_COLS** への挿入が失敗した理由を見極めてください。
2. レプリケーション管理ツールを使用して、表の Q サブスクリプションを削除して再作成します。ターゲット表が存在しているか確認するか、あるいはレプリケーション・ツールがターゲット表を作成するようにしてください。

ASN7732E *program_name* : *program_identifier*: Q アプライ・プログラムが、受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *qmap_name*) を使用する Q サブスクリプション *name* のスピル・キュー *spill_queue_name* を検出できませんでした。Q サブスクリプションの状態は *state* です。Q サブスクリプションが非活動化されます。

説明: Q アプライ・プログラム (自動読み込み) またはレプリケーションの外側 (手動読み込み) のいずれかで、ターゲット表にソースからのデータを読み込むように Q サブスクリプションが指定している際には、読み込み処理中のソース表からの変更を保持するためのスピ

ル・キューが存在していなければなりません。Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションに指定されている名前のスピル・キューを検出できなかったため、Q サブスクリプションを非活動化しました。この状態は、同一のキュー・マネージャーを共有する複数の Q アプライ・プログラムに同じモデル・キュー名が使用されていて、1 つの Q アプライ・プログラムがスピル・キューを使用後に削除した場合に発生することがあります。

モデル・キュー名は 2 つの方法で指定できます。

- Q サブスクリプション・レベルで指定する (名前は各 Q アプライ・プログラムの **IBMQREP_TARGETS** 表の **MODELQ** 列に保管されます)。
- *dfimodelq* 初期化パラメーターを使用して Q アプライ・インスタンス・レベルで指定する。

複数の Q アプライ・プログラムが同じキュー・マネージャーを使用する場合、これらのいずれかのメソッドによって指定されるモデル・キュー名はすべて固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 指定されているスピル・キューが削除されているかどうか確認します。複数の Q アプライ・プログラムが同じキュー・マネージャーを共有する場合は、すべてのモデル・キュー名が固有でなければなりません。スピル・キュー名の変更後に、Q サブスクリプションを活動化します。

ASN7734W *program_name* : *program_identifier* : 受信キュー *queue_name* (レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) 上で送信された DDL 操作 *operation* は、ターゲットでドロップするよう要求されたオブジェクトが検出されなかったため適用されません。SQL ステートメントは *SQL_statement* です。

説明: ドロップされることになっていたオブジェクトが見つからなかったため、Q アプライ・プログラムは複製された DDL 操作を処理しませんでした。

ユーザーの処置: 意図的にオブジェクトがドロップされたのであれば、アクションは不要です。それ以外の場合は、以前のメッセージを探してオブジェクトが欠落した原因を見極めてください。

ASN7735E *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムを開始するコマンドに、**autostop=Y** パラメーターと **term=N** パラメーターの両方が入っています。Q アプライ・プログラムは終了します。

説明: **autostop=Y** は、**term** パラメーターの値が N (No) の際には指定できません。さらに、

IBMQREP_APPLYPARMS 表の autostop の保存された値が Y の場合は、term=N を指定できません。

ユーザーの処置: autostop パラメーターまたは term=N パラメーターのどちらかを指定しているときに、Q アプライ・プログラムを再始動します。必要であれば、IBMQREP_APPLYPARMS 表の autostop の値を更新してください。

ASN7737E *program_name : program_identifier : Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) には、有効なモデル・キューが定義されていません。Q サブスクリプションが非活動化されません。理由コード: reason_code*

説明: Q サブスクリプションに関連付けられているモデル・キューが有効ではないか、または WebSphere MQ で正しく定義されていません。Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプションを活動化できませんでした。モデル・キューを IBMQREP_TARGETS 表の MODELQ 列 (Q サブスクリプション・レベル) または dftmodelq 初期化パラメーター (Q アプライ・インスタンス・レベル) で指定できます。理由コードに有効な値は次のとおりです。

0

指定されたモデル・キュー名が WebSphere MQ に存在しません。

1

モデル・キューは WebSphere MQ 上に永続ダイナミック・タイプのキューとして定義されませんでした。

ユーザーの処置: 説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

0

モデル・キューを WebSphere MQ 上に定義して、Q サブスクリプションを活動化してください。

1

WebSphere MQ 上のモデル・キュー定義に永続ダイナミック・タイプが含まれるように DEFTYPE (PERMDYN) キーワードを使用して変更してから、Q サブスクリプションを活動化してください。

ASN7740E *program_name : program_identifier : Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプション name (受信キュー queue_name、レプリケーション・キュー・マップ queue_map_name) をアクティブにできませんでした。理由コード: reason_code。*

説明: 指定された表レベルの Q サブスクリプションは、ソースのデータベースまたはサブシステムで定義されているスキーマ・レベルの Q サブスクリプションに基づいています。Q アプライ・プログラムは、この表レベル Q サブスクリプションの活動化を試行中にエラーを検出しました。この Q サブスクリプションをさらに変更しようとしても無視されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

0

IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値が I でも U でもありません。

1

ターゲットはニックネームです。Q サブスクリプションでは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプションに基づいて作成されたニックネーム・ターゲットはサポートされていません。

2

ターゲット表に Q キャプチャーおよび Q アプライによって選択されたレプリケーション・キーに対応するユニーク索引または主キーがなく、そのようなユニーク索引の作成を試行して失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コード 0 および 1 のとき、このソース表を複製する場合は、レプリケーション管理ツールを使用してソース表の新規 Q サブスクリプションを作成します。ソース表とターゲット表が存在しているか確認するか、あるいはレプリケーション・ツールがターゲット表を作成するようにしてください。理由コード 2 のときは、Q アプライ・ログ・ファイルまたは IBMQREP_APPLYTRACE 表のメッセージを見て、ユニーク索引が作成されなかった理由が説明されていないかを確認し、問題を修正してから、レプリケーション管理ツールを使用して表の新規 Q サブスクリプションを作成します。

ASN7741I *program_name* : *program_identifier* : Q アプライ・プログラムは、スキーマ・レベルの Q サブスクリプション *name* (受信キュー *queue_name*、レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name*) に基づく Q サブスクリプション *name* のターゲット表 *table_owner.table_name* 上にユニーク索引 *index_name* を正常に作成しました。Q サブスクリプションのレプリケーション・キーと一致する主キーもユニーク索引もターゲット表上になかったため、この索引が作成されました。

説明: Q アプライは、Q サブスクリプションのレプリケーション・キーに基づくユニーク索引をターゲット表に正常に作成しました。Q サブスクリプションがスキーマ・レベルの Q サブスクリプションに基づいているとき、Q キャプチャーによって選択されたレプリケーション・キーに対応するユニーク索引も主キーもターゲット表に欠落している場合には、Q アプライがレプリケーション・キーの列のユニーク索引を作成してから、Q サブスクリプションを活動化します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

第 5 部 AUD メッセージ

第 45 章 AUD0000 - AUD0499

AUD0000I 操作が成功しました。

AUD0001N 操作が失敗しました。

AUD0002N 構文エラー。 使用法:

AUD0003N *directory/filename* へのアクセス中に入出力エラーがありました。ディレクトリー・ファイルが存在し、正しい許可を持っていることを確認してください。

AUD0004N ファイル・システムがいっぱいです。
filename に書き込むことができません。

AUD0016N 無効なデータベース名です。

AUD0017N 監査構成ファイルを読み取ることができません。

AUD0018N インスタンス SQL コード *sqlcode* の監査設定の更新中にエラーが起きました。詳細については、SQL コードの意味をチェックしてください。

AUD0019N システム・エラーが起きました。コマンドを出し直しても失敗する場合、トレースをとって IBM サポートに連絡してください。

AUD0020N プルーニング中にエラーが起きました。*db2audit.log* はサイズ 0 に切り捨てられていますが、*db2audit.log* の本来の内容は *db2audit.cpy* にあります。

AUD0021N *filename* はすでに存在します。前の *db2audit* 操作によって生成されたものと思われる。必要な情報が含まれていないことを確認してから除去し、コマンドを出し直してください。

AUD0022N 監査ログ・ファイルは破壊されました。

AUD0023N 要求されたイベント、SQL コード *sqlcode* の監査中にエラーが起きました。詳細については、SQL コードの意味をチェックしてください。

AUD0026I DB2 監査機能を開始する要求が処理されています。すでにインスタンスで監査が開始されていると思われるので注意してください。

AUD0027I DB2 監査機能を停止する要求が処理されています。すでにインスタンスで監査が停止されていると思われるので注意してください。

AUD0028N 無効な ASCII 区切り文字が抽出に指定されました。この区切り文字は 1 つの文字か、または有効な 16 進文字を表す 4 バイト・ストリング (0xff など) でなければなりません。

AUD0029N アーカイブ・オプション上で NODE オプションが指定されていませんが、データベース・サーバーは実行中ではありません。アーカイブを実行するノードを指示するか、または *db2start* を発行してすべてのノード上でアーカイブが実行されるようにしてください。

AUD0035N アクティブな監査ログ *directory-or-filename* が既にアーカイブされているため、新しいイベントをそのログに記録することができません。

AUD0036N アクティブな監査ログ・ファイル *directory-or-filename* で抽出を実行できません。

第 6 部 CCA メッセージ

このセクションには、構成アシスタント・インターフェース (CCA) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

第 46 章 CCA1000 - CCA1499

CCA1001I 英数字だけを使用してください。先頭の文字を数字にすることはできません。

CCA1002I 10 進数 (0 から 9 まで) だけを使用してください。

CCA1003I ネットワーク上で DB2 システムは見つかりませんでした。

CCA1004I 選択されたシステム上で DB2 インスタンスは見つかりませんでした。

CCA1005I 選択されたインスタンス上で DB2 データベースは見つかりませんでした。

第 47 章 CCA2000 - CCA2499

CCA2001W 指定されたファイル・パターンに一致するファイルが見つかりません。

説明: 指定されたファイル・パターンに一致するファイルからの読み取りが要求されました。このパターンに一致するファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル・パターンを訂正して、操作をやり直してください。

CCA2002W TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名とポート番号を TCP/IP サービス・ファイルに追加しようとして失敗したか、またはネットワーク情報サービスが使用されているのに、ローカル・サービス・ファイルだけが更新されました。ノードをカタログするために、サービス名ではなく、ポート番号が使用されました。

ユーザーの処置: ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

CCA2003W 発見要求が 1 つ以上の DB2 システムについてデータを戻しませんでした。

説明: 発見要求が要求された 1 つ以上の DB2 システムについてデータを戻しませんでした。以下のいずれかが起きた可能性があります。

- 発見要求の送信先の Administration Server が開始されていない。
- 発見要求を実行しようとしてエラーが発生した。
- ディスカバー要求が送信された DB2 システムで、発見のための構成が行われていない。

ユーザーの処置: ディスカバー要求の送信先の DB2 システムで、発見のための構成が行われていることを確認してください。発見が有効になっている場合は、DB2 システム上の Administration Server が実行されていることを確認してください。

CCA2004W 指定された nname 値がユニークではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの他の NetBIOS アプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: 指定された nname を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。'YES' が選択された場合、既存の nname を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

CCA2005W 指定されたソケット番号がユニークでない。

説明: 指定されたソケット番号は、ワークステーションの他の DB2 インスタンスに使用されています。

ユーザーの処置: 指定されたソケットを使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。'YES' が選択された場合、既存のソケット番号を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

CCA2006W 指定されたサービス名とポート番号の項目は、TCP/IP サービス・ファイルにすでに存在します。

説明: 指定されたサービス名とポート番号の項目は、TCP/IP サービス・ファイルにすでに存在します。別のアプリケーションがこの項目を使用している可能性があります。

ユーザーの処置: 既存の項目を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。'YES' が選択された場合、既存の項目を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

CCA2007W 指定されたポート番号は、他のサービス名で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたポート番号を使用する項目がありますが、関連したサービス名が指定されたサービス名と一致しません。

ユーザーの処置: 指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。'YES' を選択すると、サービス・ファイル名に新しい項目が追加されます。既存のポート番号を持つこの項目を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

CCA2008W 指定されたサービス名は、他のポート番号で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名を使用する項目がありますが、関連したポート番号が指定されたポート番号と一致しません。

ユーザーの処置: 指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' を選択すると、このサービス名を使用する、サービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するよう更新されます。 これにより、この既存の項目を使用するアプリケーションが影響を受けます。

CCA2009W 要求がユーザーによりキャンセルされました。

説明: 要求がユーザーによりキャンセルされました。

ユーザーの処置: ありません。

CCA2010W APPC スタックを更新しようとしたのですが、失敗しました。

説明: APPC スタックにトランザクション・プログラム名を追加しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: APPC スタックは、必ず手動で更新してください。 トランザクション・プログラム名がスタックに追加されないと、サーバーへのリモート接続ができません。

CCA2011W サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。 データベース・マネージャー構成ファイルが指定されたサービス名で更新されました。

ユーザーの処置: サービス名とポート番号は、TCP/IP サービス・ファイルに必ず手動で追加してください。項目がサービス・ファイルに追加されないと、サーバーへのリモート接続ができません。

CCA2012W 発見要求が DB2 システムを検出ませんでした。

説明: ネットワークで DB2 システムを検索する要求は正常に完了しましたが、DB2 システムは見つかりませんでした。 DB2 システムが検出されなかった理由として、以下のことが考えられます。

- 検索ディスカバリーがどの DB2 システムでも有効になっていなかった (つまり、DB2 システムの Administration Server の DBM 構成ファイルに、DISCOVER = SEARCH が指定されていなかった)。
- DB2 システムが正しいディスカバリー・プロトコルを使ってセットアップされていなかったために、クライアントが検出できなかった (つまり、Administration Server 上の DISCOVER_COMM に、クライアント上の DISCOVER_COMM に指定されているプロトコルと一致するプロトコルが含まれていない)。
- DB2 システムがルーターまたはブリッジのもう一方の側にあり、ネットワーク上のルーターまたはブリッジは、ディスカバリー・パケットをフィルター操作するが、渡さないよう構成されていた。

ユーザーの処置: 以下に、ディスカバリーが DB2 システムを検出するために取ることのできるアクションをリストします。

- 検出したいすべての DB2 システム上の Administration Server の DBM 構成ファイルに DISCOVER = SEARCH を設定する。
- クライアントが発見要求に使用するプロトコルを含めるように Administration Server の DISCOVER_COMM を設定する (つまり、クライアント上の DISCOVER_COMM に指定されたプロトコルのうち少なくとも 1 つを含めるように DISCOVER_COMM を設定する)。
- (指定したプロトコルの) ディスカバリー・パケットのパススルーが許可されるよう、ネットワーク管理者にルーターまたはブリッジを再構成してもらう。

CCA2013W カタログされたりリモート・データベースは、APPC を使用していますがスタックが構成されていませんでした。

説明: データベースのカタログ要求により、APPC プロトコルを使用するノードがカタログされました。 ノードは、指定されたプロファイルから検索されたシンボリック宛先名を使用してカタログされました。 スタックを構成するのに十分な情報がプロファイルになかったか、または APPC が DB2 システムで検出されなかったため、APPC スタックは構成されませんでした。 クライアントではほかに一致するプロトコルが検出されなかったため、別のプロトコルを使用することはできません。

ユーザーの処置: APPC がクライアントにインストールされていない場合は、データベースをアンカタログし、クライアントとサーバー両方で使用できるプロトコルを使って、手動でデータベースをカタログし直してください。 APPC がインストールされている場合は、まだス

タックが構成されていないのであれば、構成してください。

CCA2014W 指定されたトランザクション・プログラム名は、ユニークでないかすでに構成されています。

説明: 指定されたトランザクション・プログラム名は、すでにこのサーバー上の他の DB2 インスタンスあるいは非 DB2 アプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: 指定されたトランザクション・プログラム名を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 "YES" を選択すると、そのトランザクション・プログラム名を並行して使用するすべてのアプリケーションに対し、APPC は最初に開始したアプリケーションでのみ操作可能になります。新しい APPC パラメーター値が指定された場合、APPC スタックはその値で更新されます。

CCA2015W 指定されたサービス名とポート番号は、サービス・ファイルの別の項目で使用されています。

説明: TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名とポート番号を使用する項目が含まれていますが、これらは同じ項目で使用されていません。

ユーザーの処置: 指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' を選択すると、このサービス名を使用する、サービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するよう更新されます。 これにより、この既存の項目を使用するアプリケーションが影響を受けます。

CCA2016W パスワードは、暗号化されないテキストとして保管されます。

説明: パスワードは、暗号化されないテキストとして db2cli.ini ファイルに保管されます。

ユーザーの処置: パスワード・セキュリティーが心配な場合は、「パスワードの保存」チェック・ボックスの選択を解除してください。

第 48 章 CCA3000 - CCA3499

CCA3000C 内部エラーが発生しました。理由コード *reason-code*

説明: 予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: トレースをオンにして、エラーが発生したステップを再現してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

CCA3001N 指定されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値 と競合します。

説明: ユーザーにより入力されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス名は別のポート番号ですでに使用されている可能性があるか、ポート番号が別のサービス名ですでに使用されている可能性、またはその両方の可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

CCA3002N 入出力エラーが発生しました。

説明: ファイル位置のオープン、読み取り、変更、またはファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名が指定された場合は、そのファイル名が有効であり、ユーザーがそのファイルへのアクセス権を持っていることを確認してください。ディスクまたはオペレーティング・システムにエラーがないかどうか確認してください。

CCA3003N ファイルのフォーマットは無効です。

説明: ファイルから読み取り中にエラーが発生しました。ファイルのフォーマットは無効です。次のようなエラーが考えられます。

- ファイルに無効なデータが含まれています。
- ファイルが予想されるデータを含んでいない。

- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイル名が指定されており、そのファイルがユーザーによって変更されている場合は、ファイルを再生成して操作を再試行してください。問題が解決されず、ファイルがユーザーによって変更されていない場合や、問題が発見要求中に発生した場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- トレース・ファイル
- エラーが発生しているファイル (ファイル名が指定されている場合)

CCA3004N メモリーを割り振ろうとして失敗しました。

説明: メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合トレースをオンにして、エラーが発生した操作を再現してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- トレース・ファイル

CCA3005N ファイルに書き込み中にエラーが発生しました。

説明: プロファイルに書き込み中にエラーを検出しました。このエラーは、ホスト・システムのパスワードの更新中にも検出された可能性があり、エラーは db2pem.log ファイルに記録されています。

ユーザーの処置: ファイルが常駐するファイル・システムがいっぱいではなく、また損傷を受けていないことを確認してください。また、オペレーティング・システムのエラーについてもチェックしてください。

CCA3006N マッチングする通信プロトコルが検出されませんでした。

説明: クライアントで使用できるどのプロトコルも、サーバーで使用できるプロトコルと一致しないため、データベースをカタログできません。

ユーザーの処置: クライアントとサーバーが、その両方で検出できる、少なくとも 1 つの一致する通信プロトコルを持っていることを確認してください。一致するプロトコルがクライアントとサーバーの両方にインストールされている場合、このプロトコルを検出できませんでした。その場合は、データベースとノードを手動でカタログしてください。

CCA3007N 指定されたデータベース別名が無効です。

説明: 指定されたデータベース別名の長さが有効でないか、別名に無効な文字が含まれています。

ユーザーの処置: 別名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

CCA3009N 指定されたアプリケーション要求者名が無効です。

説明: アプリケーションの要求者名の長さが無効であるか、名前に無効な文字が含まれています。

ユーザーの処置: アプリケーション要求者名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

CCA3010N 指定されたパラメーター値の長さが無効です。

説明: 指定されたアプリケーション要求者用のパラメーター値の長さが無効です。

ユーザーの処置: パラメーター値を訂正して、要求を再サブミットしてください。

CCA3011N 指定されたターゲット・データベース名が無効です。

説明: 指定されたターゲット・データベース名の長さが無効か、無効な文字を含んでいます。

ユーザーの処置: ターゲット・データベース名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

CCA3012N ODBC データ・ソースの追加に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースの追加の要求に失敗しました。メモリー不足、ディスクがいっぱいである、あ

るいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

ユーザーの処置: ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクがいっぱいでないこと、また損傷を受けていないことを確認します。さらに、他のアプリケーションが巨大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。

CCA3013N ODBC データ・ソースの除去に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソースの除去の要求に失敗しました。メモリー不足、あるいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

ユーザーの処置: 他のアプリケーションが巨大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクが損傷を受けていないことを確認します。

CCA3014N バインド要求は処理できません。

説明: 他のバインド操作が進行中のためバインド要求は処理できません。

ユーザーの処置: 進行中のバインドの処理を完了させる、あるいは停止させてから、バインド要求を再サブミットしてください。

CCA3015N 指定されたアダプターが無効です。

説明: 指定されたアダプターが DB2 システムで検出されませんでした。

ユーザーの処置: 使用できるアダプターを指定して要求を再サブミットしてください。

CCA3016N 指定された nname 値がユニークではありません。

説明: 指定された nname 値は、ネットワークの他の NetBIOS アプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: ユニークな nname を指定して、やり直してください。

CCA3017N ファイルに指定パスは無効です。

説明: 指定されたファイルをオープンしようと試みましたが、指定されたパスは無効か、存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたパスが有効であり、ファイルのパスが存在することを確認してください。

CCA3018N ファイルにアクセスする権限がありません。

説明: 要求されたファイルにアクセスしようとしたが、ユーザーがこのファイルへのアクセスに必要な権限を持っていません。

ユーザーの処置: ユーザーがファイルへのアクセスに必要な権限を持っていることを確認してください。

CCA3019N 指定されたファイル名は、ディレクトリーです。

説明: 指定された名前がディレクトリーのもので、ファイル名でないために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。

ユーザーの処置: 有効なファイル名を指定して、やり直してください。

CCA3020N 共有違反のために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。

説明: 共有違反のために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。別の処理がこのファイルを排他モードでオープンしている可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルは現在、別の処理により排他モードでアクセスされています。他の処理がファイルにアクセスしていないことを確認して操作をやり直すか、別のファイル名を指定してください。

CCA3021N 変数 *variable-name* を DB2 プロファイル・レジストリーに追加、検索、または除去しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 示された変数を DB2 プロファイル・レジストリーに追加、検索、または除去しようとして失敗しました。戻りコードは問題の原因を示しています。戻りコードには、以下のものがあります。

- -2 指定されたパラメーターが無効である
- -3 メモリー不足で要求を処理できない
- -4 変数がレジストリーに見つからない
- -7 DB2 プロファイル・レジストリーがこの DB2 システム上に見つからない
- -8 指定されたインスタンスのプロファイルが見つからない
- -9 指定されたノードのプロファイルが見つからない
- -10 UNIX レジストリー・ファイル・ロックがタイムアウトになった

ユーザーの処置: これらの理由コードに対して、以下のことを実行してください。

- -2 パラメーターが正しく指定されていることを確認する。
- -3 多くのメモリーを使用している別のアプリケーションを終了して、操作を再試行する。
- -4 変数が DB2 プロファイル・レジストリーに設定されていることを確認する。
- -7 DB2 プロファイル・レジストリーが作成されていることを確認する。
- -8 このインスタンスのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -9 このノードのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -10 レジストリー・ファイルが別の処理によってロックされていないことを確認する。

CCA3022C 関数 *procedure-name* のアドレスをライブラリー *library-name* から検索しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 関数のアドレスを示されたライブラリーから検索しようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 正しいバージョンのライブラリーが使用されていることを確認してください。誤ったバージョンが使用されている場合は、正しいバージョンをインストールしてください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3023C ライブラリー *library-name* をロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 示されたライブラリーをロードしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: ライブラリーが置かれているパスがライブラリー・パスに含まれていることを確認してください。また、ライブラリーをロードするのに十分なメモリーがあることを確認してください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

CCA3024C

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3024C ライブラリー *library-name* をアンロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。

説明: 示されたライブラリーをアンロードしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: トレースをオンにして、内部エラーの原因となったステップを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

CCA3025N 指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 1 つ以上の入力パラメーターが無効です。以下に、起こりうるエラーをリストします。

- fileserv、objectname、および ipx_socket パラメーターのうち 1 つ以上が NULL である。
- fileserv パラメーターまたは objectname パラメーターだけが "*" に設定されている。
- Windows と Solaris で、fileserv パラメーターと objectname パラメーター、またはそのいずれかが "*" に設定されていない。
- 指定された objectname 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。
- DB2 システムが指定されたファイル・サーバーに ATTACH できなかった。

ユーザーの処置: 次の点を確認してください。

- fileserv、objectname、および ipx_socket パラメーターが NULL でない。
- fileserv に対して指定された値が "*" の場合は、objectname の値も "*" である。
- Windows と Solaris では、fileserv と objectname の両方が "*" である。

- objectname に指定された値は、("*" でない場合は、) ファイル・サーバーに登録されたすべての DB2 インスタンスと IPX/SPX アプリケーションに対してユニークである。
- ipx_socket に指定された値は、DB2 システム上のすべての DB2 インスタンスでユニークである。
- ipx_socket に指定された値が有効な範囲内にある。
- 指定されたファイル・サーバーは存在しており、稼働中である。

エラーを訂正して、やり直してください。

CCA3026N 使用可能な NetBIOS アダプターが検出されませんでした。

説明: NetBIOS アダプターが DB2 システムで検出されませんでした。データベースはカタログできません。

ユーザーの処置: アダプターが DB2 システム上で使用できる場合は、手動でデータベースとノードをカタログしてください。

CCA3027N 指定されたポート番号は範囲外にあります。

説明: 指定された TCP/IP ポート番号は範囲外にあります。ポート番号の指定できる最大値は、65534 です。

ユーザーの処置: 最大値を超えないポート番号を指定して、操作を再試行してください。

CCA3028N DB2INSTANCE 変数は有効ではありません。

説明: DB2INSTANCE 環境変数が設定されていないか、Administration Server インスタンスに設定されています。構成アシスタントは、Administration Server インスタンス下では稼働できません。

ユーザーの処置: Administration Server インスタンス以外のインスタンスに DB2INSTANCE 変数を設定してください。

CCA3029N ODBC データ・ソース設定値の更新に失敗しました。

説明: ODBC データ・ソース設定値の更新の要求に失敗しました。メモリー不足、ディスクがいっぱいである、あるいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

ユーザーの処置: DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクがいっぱいでないこと、また損傷を受けていないことを確認します。さらに、他のアプリケーションが巨

大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。

CCA3030N APPC を構成する値が欠落しています。

説明: APPC を使ってデータベースをカタログする、または APPC のサーバー・インスタンスを構成する要求が行われました。パラメーターの指定が足りないために要求は完了できませんでした。

ユーザーの処置: 必須パラメーターがすべて指定されているか確認してから、もう一度やり直してください。

CCA3031N APPC スタックは、選択されたデータベース用に構成されていません。

説明: 選択されたデータベースは、データベース接続に APPC を使用しています。しかし、APPC スタックは、接続用に構成されていません。

ユーザーの処置: 選択されたデータベース用に APPC スタックを構成してください。

CCA3051N *protocol* プロトコル・インターフェース障害が発生し、戻りコードは *return-code* です。

説明: プロトコル・インターフェースにアクセスしようとして障害が発生しました。

ユーザーの処置: プロトコルが操作可能になっていることを確認してください。

CCA3052N 指定された項目 *item-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定した項目名が構成データの中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 項目名を正しく指定したことを確認してください。

CCA3053N 指定された ODBC DSN *DSN-name* が無効です。

説明: 指定された ODBC DSN は無効な名前です。

ユーザーの処置: ODBC DSN 名に有効な文字を使用していることを確認してください。

CCA3054N ODBC DSN は登録できませんでした。

説明: ODBC DSN は登録が失敗しました。

ユーザーの処置: ODBC が正しくインストールされており、機能していることを確認してください。

CCA3055N 指定された項目 *item-name* はすでに存在します。

説明: 指定した項目名が構成データの中にすでに存在しています。

ユーザーの処置: 項目名を正しく指定したことを確認してください。別の項目名を使用するか、古い項目を削除して要求を再サブミットしてください。

CCA3056N ホスト名 *host-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定されたホスト名をネットワーク上で解決できませんでした。

ユーザーの処置: 指定したホスト名が正しく、ネットワーク上で有効なホスト名であることを確認してください。

CCA3057N サービス名 *service-name* が見つかりませんでした。

説明: 指定されたサービス名がローカル・サービス・ファイルにありませんでした。

ユーザーの処置: 指定したサービス名が正しく、ローカル・サービス・ファイルにそのサービス名の有効な項目があることを確認してください。

CCA3058N ローカル・システム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: このローカル・システム・オブジェクトは、サーバー・インストールの場合は表示され、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCA3059N ローカル・システム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: このローカル・システム・オブジェクトは、サーバー・インストールの場合は表示され、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接変更できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCA3060N 選択したシステム・オブジェクトを変更することは許可されていません。

説明: 選択したシステムは、DB2 管理ツールでサポートされていない通信プロトコルを使用しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CCA3061N サーバーの構成が不完全です。

説明: サーバー・プロファイル内のサーバー構成情報には、要求された操作を完了するのに必要なデータがありません。詳細については、db2diag ログ・ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: システム管理者に問い合わせ、サーバーの構成が正しいかどうかを確認してください。

CCA3062N "Common" は、予約済みのデータ・ソース名です。

説明: "Common" は、DB2 CLI により予約されているデータ・ソース名です。

ユーザーの処置: 別のデータ・ソース名を入力してください。

CCA3063N 指定されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス・ファイルの既存値を上書きしますか？

説明: ユーザーにより入力されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス名は別のポート番号ですすでに使用されている可能性があるか、ポート番号が別のサービス名ですすでに使用されている可能性、またはその両方の可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルの既存値を新しい値で上書きするには「はい」をクリックしてください。

操作を取り消して、サービス・ファイルの既存値を維持するには「いいえ」をクリックしてください。

CCA3064N 指定された新しいデータ・ソース名はすでに存在します。

説明: 同じ名前のデータ・ソース項目がすでに存在しますが、その内容は新しい項目の指定内容とは一致しません。このため、再利用はできません。

ユーザーの処置: 別のデータ・ソース名を使用してください。

CCA3065N 要求された操作は、オフライン (OFFLINE) モードでは使用できません。

説明: モードがオフライン (OFFLINE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

ユーザーの処置: この操作をやり直す前に、オフライン (OFFLINE) モードから、モードを変更してください。

CCA3066N 要求された操作は、リモート (REMOTE) モードでは使用できません。

説明: モードがリモート (REMOTE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

ユーザーの処置: この操作をやり直す前に、リモート (REMOTE) モードから、モードを変更してください。

第 49 章 CCA5000 - CCA5499

CCA5000N 指定されたユーザー ID が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID が存在しません。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID を入力して、要求を再サブミットしてください。

CCA5001N 指定されたパスワードが誤りです。

説明: ユーザー ID に指定されたパスワードが誤りです。

ユーザーの処置: ユーザー ID の正しいパスワードを入力して、要求を再サブミットしてください。

CCA5002N ユーザー ID のパスワードの有効期限が切れています。

説明: ユーザー ID のパスワードの有効期限が切れていて更新できません。

ユーザーの処置: パスワードをリセットするには、システム管理者に連絡してください。

CCA5003N 指定された新規パスワードが無効です。

説明: 指定された新規パスワードが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを入力して、要求を再サブミットしてください。

CCA5004N 予期しないエラーが発生しました。

説明: 指定されたユーザー ID のパスワードを更新しようとして、予期しないエラーが発生しました。追加情報がこのインスタンス・ディレクトリーの db2pem.log ファイルに書き込まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して援助を要求し、db2pem.log ファイルの情報を提供してください。

CCA5005N 新規パスワードとパスワードの確認が一致しません。

説明: 新規パスワードとパスワードの確認が一致しません。

ユーザーの処置: 新規パスワードを両方のテキスト・ボックスに入力してください。

CCA5006N 指定されたポート番号が無効です。

説明: 指定されたポート番号は範囲外にあります。ゼロ

より大きく 65535 より小さい範囲である必要があります。

ユーザーの処置: 新規ポート番号を入力し、操作をやり直してください。

CCA5007N 指定されたパラメーター値が無効です。

説明: 指定されたパラメーター値は範囲外にあります。

ユーザーの処置: 新規パラメーター値を入力し、操作をやり直してください。

CCA5008N 指定されたアダプター番号が無効です。

説明: 指定されたアダプター番号は範囲外にあります。0 と 255 の間である必要があります。

ユーザーの処置: 新規アダプター番号を入力し、操作をやり直してください。

第 7 部 CIE メッセージ

このセクションには DB2 Text Search メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

第 50 章 CIE0000 - CIE0499

CIE0001I 操作は正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0002I **DB2 Text Search** のカタログおよびテキスト索引は、このデータベースの最新のリリース・レベルです。システムはアップグレードされませんでした。

説明: SYSIBMTS のデータベース・バージョンの値。TSDEFAULTS 管理ビューは最新のバージョンに設定されています。このデータベースは最新です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0003I 索引の更新が開始されました。

説明: UPDATE INDEX コマンドが実行されたか、このテキスト検索索引に対して指定された更新頻度に応じて自動更新が実行されたので、この索引に対する更新処理が開始されました。文書数によってはこの処理に時間がかかる可能性があります。引き続きこの索引は検索に使用できます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0004I 索引の更新が終了しました。

説明: テキスト検索索引に対する更新処理が終了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0005I **DB2 Text Search** 索引更新の統計: 処理された文書の数の合計: *number*。挿入された文書の数: *number*。更新された文書の数: *number*。削除された文書の数: *number*。正常にスキップされた空の文書の数: *number*。内部文書エラーのために索引付けされなかった文書の数: *number*。

説明: 更新は完了しました。この統計は、DB2 Text Search によって処理された文書の数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0006I **DB2 Text Search** 索引更新の統計: このコミット・サイクルで処理された文書の数: *number*。挿入された文書の数: *number*。更新された文書の数: *number*。削除された文書の数: *number*。正常にスキップされた空の文書の数: *number*。内部文書エラーのために索引付けされなかった文書の数: *number*。処理された文書の数の合計: *number*。

説明: 1 つのコミット・サイクルが完了しました。この統計は、このコミット・サイクルで処理された文書の数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0007I **DB2 Text Search** 索引更新の統計: 処理された文書の数の合計は *total-number-of-docs* です。挿入された文書の数は *number-of-inserted-docs* です。更新された文書の数は *number-of-updated-docs* です。削除された文書の数は *number-of-deleted-docs* です。正常にスキップされた空の文書の数は *number-of-empty-docs* です。内部文書エラーが原因で、索引付けを再サブミットされた文書の数は *number-of-docs-resubmitted* です。再サブミットされた文書の更新統計: 挿入された文書の数は *number-of-resubmitted-docs-inserted* です。更新された文書の数は *number-of-resubmitted-docs-updated* です。文書エラーのために索引付けされなかった文書の数は *number-of-resubmitted-docs-not-indexed* です。

説明: 更新処理は完了しました。この統計は、DB2 Text Search によって処理された文書の数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0008I 索引の再編成が開始されました。

説明: DB2 Text Search 索引の再編成が開始されました。

文書の読み取りと構文解析フェーズが終了し、Text Search 索引再編成が必要になりました。

CIE0009I

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0009I 索引の再編成が終了しました。

説明: DB2 Text Search 索引の再編成が終了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0010I Text Search 索引更新の統計: 内部文書エラーが原因で、索引付けを再サブミットされた文書の数 *number-of-docs-resubmitted* です。再サブミットされた文書の更新統計: 挿入された文書数は *number-of-resubmitted-docs-inserted* です。更新された文書数は *number-of-resubmitted-docs-updated* です。文書エラーのために索引付けされなかった文書数は *number-of-resubmitted-docs-not-indexed* です。

説明: 再サブミットされた文書の更新処理は完了しました。この統計は、DB2 Text Search によって処理された文書の数を示しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0011I 索引の構築が開始されました。

説明: DB2 Text Search 索引の更新構築が開始されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0012I 索引の構築が終了しました。

説明: DB2 Text Search 索引の構築操作が終了しました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0013I ペンディング・モードの従属テキスト保守表は見つかりませんでした。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索を管理する従属表に対して SET INTEGRITY ステートメントを実行します。そのような表は検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0016I パーティション *partition-number* のテキスト検索サーバー (ホスト *host-name* およびポート *port-number*) は開始状態です。

説明: db2ts START FOR TEXT コマンドに STATUS オプションを指定して実行すると、テキスト検索サーバーの状態を調べることができます。テキスト検索サーバ

ーへの接続を正常に確立できる場合に、このメッセージが返されます。

このデータベースでテキスト検索照会およびテキスト索引管理操作を実行することができます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0017I パーティション *partition-number* のテキスト検索サーバー (ホスト *host-name* およびポート *port-number*) は停止状態です。

説明: db2ts START FOR TEXT コマンドに STATUS オプションを指定して実行すると、テキスト検索サーバーの状態を調べることができます。テキスト検索サーバーへの接続を正常に確立できない場合に、このメッセージが返されます。

このデータベースではテキスト検索照会もテキスト索引管理操作も実行できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0018I 検索サービスはアクティブではありません。

説明: db2ts START FOR TEXT コマンドでサービス状況を検査した結果、DB2 Text Search サービスは非アクティブであることが検出されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0019I 検索サービスはアクティブです。

説明: db2ts START FOR TEXT コマンドでサービス状況を検査した結果、DB2 Text Search サービスはアクティブであることが検出されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0020I *time-in-minutes* 分間の DB2 Text Search 索引更新の統計: 処理された文書数の合計は *total-number-of-docs* です。完了した割合は *percentage-processed%* です。

説明: 統計には、この時間で処理された文書の数が表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0021I ホスト *host-name* およびポート *port-number* の DB2 Text Search サービスは正常に実行されています。

説明: 分離されたテキスト検索サーバーが検出されました。分離セットアップの場合、DB2 Text Search サービスの初期化は別のホストまたは別の環境で実行されま

この場合、db2ts START FOR TEXT コマンドは、分離されたサーバーの開始を試行しませんが、その代わりにこのサーバーの状況をチェックして結果を報告します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CIE0090W ディレクトリー *directory-name* は既に存在します。richtextTool は、既存の **Outside In Technology** ライブラリー・ファイルを再利用するために、このディレクトリーに対して *link-name* という名前のシンボリック・リンクを作成します。

説明: richtextTool は指定された名前を使用してディレクトリーの作成を試行します。そのディレクトリーが既に存在する場合、richtextTool は、代わりにそのディレクトリーへのシンボリック・リンクを作成して、既存の **Outside In Technology** ライブラリー・ファイルを再利用できるようにします。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0091I リッチ・テキスト・フィーチャーは、**DB2 Text Search** インスタンス *instance-name* 用に正常に構成されました。

説明: richtextTool が実行され、指定された **DB2 Text Search** インスタンスでリッチ・テキスト・フィーチャーが正常に有効化されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0092I **DB2 Text Search** インスタンス・サーバー *instance-server* がデフォルトに設定されました。リッチ・テキストはサポートされません。

説明: richtextTool が実行され、指定された **DB2 Text Search** インスタンスのリッチ・テキスト・サポートが正常に無効化されました。

DB2 Text Search はそのインスタンスに対して現在デフォルト・モードで実行されています。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0093I **DB2 Text Search** インスタンス *instance-name* に対してリッチ・テキスト・サポート構成が開始されました。

説明: richtextTool が呼び出されました。指定された **DB2 Text Search** インスタンスでリッチ・テキスト・サポートの構成が開始されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0094I デフォルトのサポート構成 (リッチ・テキストなし) が、**DB2 Text Search** インスタンス *instance-name* に対して開始されました。

説明: richtextTool が呼び出されました。指定された **DB2 Text Search** インスタンスでデフォルトのサポートの構成 (リッチ・テキストなし) が開始されました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0095I **Outside In Technology** 製品ライブラリー・ファイルが **DB2 Text Search** 用にセットアップされました。

説明: **Outside In Technology** 製品ライブラリー・ファイルのインストールは、richtextTool を実行する前に行う必要があります。

これは、**DB2** インストール済み環境ごとに一度だけ実行する必要があります。

ユーザーの処置: リッチ・テキスト・サポートを必要とするインスタンスごとに、インスタンス所有者としてログインし、'richtextTool enable' コマンドを実行して、そのインスタンスのリッチ・テキスト・サポートを有効にしてください。

CIE0201E テキスト検索索引 *schema-name.index-name* は既に存在します。

説明: このデータベース内には、指定されたテキスト検索索引が既に存在します。

ユーザーの処置: 指定した名前および使用しているデータベースを確認してください。SYSIBMTS.TSINDEXES ビューを使用して、既存のテキスト検索索引を確認してください。

CIE0202W インスタンス・サービスは既にアクティブになっています。

説明: db2ts start コマンドが発行されましたが、インスタンス・サービスは既に実行中です。

ユーザーの処置: これ以上の処置は不要です。

CIE0203W 既にアクティブになっているインスタンス・サービスがあります。

説明: サービスが既にアクティブになっているので、開始する必要はありません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

CIE0204E インスタンス・サービスは既に開始しています。

説明: テキスト検索インスタンス・サービスの開始が試行されましたが、テキスト検索インスタンス・サービスは既に実行されています。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスを開始しようとしただけであれば、これ以上の処置は不要です。

DB2 Text Search を使用している際にテキスト検索サービスが実行されていないことを示すエラーが生じた場合は、停止してから 'db2ts start for text' コマンドを使用して再始動してみてください。

現行システムの状況と構成を確認してください。テキスト検索サービスを開始しているにもかかわらずエラーが解決しない場合は、以下のステップの実行が必要であることがあります。

- UNIX の場合、ipcs コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や DB2 Text Search などのすべてのアプリケーションを停止します。まだリソースがリストされる場合は、ipcrm を使用してクリーンアップします。
- 同じシステム上で複数の DB2 インスタンスが実行されている場合、各インスタンスの DB2 Text Search に固有の通信ポートが構成されていることを確認します。

CIE0205E インスタンス・サービスは既に停止しています。

説明: テキスト検索インスタンス・サービスの停止が試行されましたが、テキスト検索インスタンス・サービスは実行されていません。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスを停止しようとしただけであれば、これ以上の処置は不要です。

DB2 Text Search を使用している際に、テキスト検索サービスの停止と再始動が必要であることを示すエラーが生じた場合は、以下のステップの実行が必要なことがあります。

- UNIX の場合、ipcs コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や DB2 Text Search などのすべてのアプリケーションを停止します。まだリソースがリストされる場合は、ipcrm を使用してクリーンアップします。
- 同じシステム上で複数の DB2 インスタンスが実行されている場合、各インスタンスの DB2 Text Search に固有の通信ポートが構成されていることを確認します。

CIE0206E 環境変数 *variable-name* が設定されていません。

説明: 必要な環境変数が設定されていません。

ユーザーの処置: 環境を確認してから、必要な変数を指定して、コマンドを再発行します。

CIE0207E ヘルプ情報はありません。

説明: 指定されたメッセージ ID またはコマンドに関するヘルプ情報はありません。

ユーザーの処置: 正しいメッセージ ID が指定されていることを確認してください。ID が正しい場合には、'db2ts help' コマンドまたは 'db2ts ?' コマンドで利用できるヘルプ情報はありません。詳細なヘルプとして DB2 Text Search 資料を利用してください。

CIE0208E DB2 Text Search 索引更新が完了しました。 *number* 個の文書エラーがあります。
イベント・ビュー: *schema-name.event-name*。

説明: DB2 Text Search 索引更新操作で、文書固有のエラーが発生しました。固有のエラーがない文書のみが正常に索引付けされました。文書エラーはすべてイベント表に書き込まれます。

ユーザーの処置: 文書エラーに関する詳細を、イベント・ビューで確認してください。エラーを修正し、対象の文書を更新してください。DB2 Text Search 索引更新操作を再試行してください。問題を修正した後、イベント・ログをクリーンアップしてください。場合によっては、エラーが db2diag.log に書き込まれることがあります。

CIE0209I ID が *text-search-id* の DB2 Text Search 索引は存在しません。

説明: CLEANUP FOR TEXT 操作で、矛盾する DB2 Text Search 索引情報が検出され、削除されました。

CREATE INDEX ... FOR TEXT コマンドは、DB2 Text Search 索引情報をデータベース・カタログに追加し、テキスト索引プロパティ・ファイルをコレクション・ディレクトリー内に作成します。

DB2 Text Search 索引情報は、DROP INDEX ... FOR TEXT コマンドまたは DISABLE DATABASE FOR TEXT コマンドによって、データベース・カタログおよびコレクション・ディレクトリーの両方から削除されます。

あらかじめテキスト索引をドロップすることなく、データベースをドロップして再作成するような状況では、カ

タログ情報は失われますが、コレクション・ディレクトリー内の情報は残ります。このような状況が生じた後に CLEANUP コマンドを使用すると、矛盾する DB2 Text Search 索引情報が削除されます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。このメッセージは情報を通知するためのものです。

CIE0210E DB2 Text Search 索引クリーンアップが完了しましたが、エラーが発生しました。

説明: DB2 Text Search 索引クリーンアップ操作でエラーが発生しました。特定のエラーのない索引のみが正常にクリーンアップされました。クリーンアップ・エラーはすべて db2diag.log ファイルに書き込まれます。

ユーザーの処置: クリーンアップ・エラーに関する詳細は、db2diag.log を確認してください。エラーを修正し、DB2 Text Search クリーンアップ操作を再試行してください。

CIE0211W BACKUP オプションを指定した CREATE INDEX FOR TEXT コマンドは、パーティション・データベース・セクタアップの表に対する DB2 Text Search 索引ではサポートされません。

説明: バックアップ・オプションなしの索引は正常に作成されませんでした。

ユーザーの処置: この索引の作成中に発生したエラーは、db2diag.log ファイルに書き込まれています。エラーを修正し、CREATE INDEX FOR TEXT 操作を再試行してください。

CIE0212W Text Search サーバーの有効化が不完全です。理由コード = *reason-code*。

説明: データベースはテキスト検索用に有効化されていますが、完了する必要がある構成ステップがまだあります。

1. テキスト・サーバー構成がデータベースで使用可能になっていません。
2. デフォルトのコレクション・ディレクトリーを確認してください。

ユーザーの処置: 1. テキスト・サーバー構成を SYSIBMTS.TSSERVERS 管理ビューに挿入します。

2. テキスト検索サーバーにデフォルトのコレクション・ディレクトリーが構成されていることを確認します。

CIE0302E 従属表の整合性設定に失敗しました。

説明: RESET PENDING コマンドは全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。

コマンドは正常に完了されませんでした。

ユーザーの処置: この基本表のペンディング・モードのままの従属表に対して、IMMEDIATE CHECKED オプションを有効にして SET INTEGRITY コマンドを実行してください。

CIE0304E システム関数が失敗しました。エラー番号 : *error-number*。

説明: 処理の続行が許可されないシステム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: エラー・メッセージ内の ERRNO 情報を使用すると、追加情報を取得できます。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO に関する説明は errno.h という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。

CIE0305E サポートされていないフィーチャーです。

説明: この機能は、DB2 Text Search ではサポートされていません。

ユーザーの処置: 操作を検証し、サポートされていない操作かどうかを判断します。この操作が、テキスト検索索引に関する文書化された制限に違反していた可能性がないか確認してください。

CIE0306E 表 *schema-name.table-name* に主キーがありません。

説明: 主キーのない表に、索引を作成しようとした。

ユーザーの処置: "db2 alter table" を呼び出して、主キーが存在するようにしてください。その後、索引の作成を再試行します。

CIE0307E ディレクトリー *directory-name* が存在しません。

説明: 指定されたディレクトリーは、ファイル・システム上に存在しません。

ユーザーの処置: ディレクトリーを作成してください。インスタンス所有者がそのディレクトリーにアクセスできることを確認してください。

その後で操作を再試行します。

CIE0308E オブジェクトのサイズが許可されている最大サイズを超えています。2 部構成オブジェクト名: *schema-name.object-name*。許可されている最大サイズ: *maximum-size*。オブジェクトのサイズ: *key-column-size*。

説明: キー列の内部表記が最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。より小さなキー列を使用してみてください。パフォーマンスも改善されます。

CIE0309E オブジェクト *schema-name.object-name* のキーの列数 *number* が、最大数 *maximum-number* を超えています。

説明: 指定されたキーの列数が、サポートされているキーの列数の最大値を超えています。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。

CIE0310E ファイル *file-name* が読み取り可能ではありません。

説明: 指定されたファイルを読み取ることができません。

ユーザーの処置: ファイルのアクセス権限を確認してください。ストアード・プロシージャは *fenced* ユーザー ID で実行されており、このユーザー ID にもこのファイルを扱う権限が必要となることに注意してください。

CIE0311E ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: 指定されたファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: ファイルが存在することを確認してください。また、ファイルのアクセス権限も確認してください。管理プロシージャは *fenced* ユーザー ID で実行されるため、このユーザー ID にもファイルを扱うための権限が必要となることに注意してください。

CIE0312E サポートされないタイプ *type* が、*schema-name.object-name* から戻されました。

説明: CREATE INDEX コマンドに、サポートされていないデータ・タイプを戻す列タイプ変換が指定されました。

ユーザーの処置: 別の列タイプ変換関数を選択してください。

CIE0313E 列タイプ *type* はサポートされていません。

説明: サポートされているタイプのリストにはない列タイプが指定されました。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドでは、(テキスト列、属性列、ユーザー出口列、および主キー列に対して) サポートされている列タイプだけを使用してください。コマンドを適切に変更して再試行してください。エラーが解決しない場合、トレースを開始して、*db2diag.log* も確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0314E UDF *schema-name.function-name* が存在しません。

説明: このデータベースには、指定されたユーザー定義関数が存在しません。

ユーザーの処置: このユーザー定義関数に指定した名前を確認するか、使用しているデータベースにこのユーザー定義関数を登録してください。

CIE0315E 内部ユーザー定義関数に NULL 値が渡されました。

説明: DB2 は、内部ユーザー定義関数に NULL 値を渡しました。

ユーザーの処置: まずは、指定された基本表に主キーがあることを確認してください。この問題を回避するよう、SELECT ステートメントを変更してください。トレース機能に切り替えて、戻された情報を IBM サービス担当員に提供してください。

CIE0316E テキスト検索索引 *schema-name.index-name* が存在しません。

説明: このデータベースには、指定されたテキスト検索索引が存在しません。

ユーザーの処置: 指定した名前および使用しているデータベースを確認してください。SYSIBMTS.TSINDEXES ビューを使用して、既存のテキスト検索索引を確認してください。

CIE0317E *source-codepage* から *target-codepage* へのコード・ページ変換に失敗しました。

説明: 適切なコンバーターが存在しないため、コード・ページ変換を実行できませんでした。

ユーザーの処置: エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0318E オブジェクト *schema-name.object-name* が存在しません。

説明: このデータベースには、指定された表が存在しません。

ユーザーの処置: スキーマおよび表名がこのデータベースに存在することを確認してください。

CIE0319E 列 *column-name* は、*schema-name.table-name* 内に存在しません。

説明: 指定された列は存在しません。

ユーザーの処置: 指定した列名を確認してください。

使用している表、ビュー、またはデータベースを確認してください。

CIE0320E 表スペース *table-space-name* は存在しません。

説明: このデータベースには、指定された表スペースが存在しません。

ユーザーの処置: 表スペースがこのデータベースに存在することを確認してください。

CIE0321E 表スペース *table-space-name* のタイプは **REGULAR** でも **LARGE** でもありません。

説明: 指定された表スペースのタイプは、REGULAR でも LARGE でもありません。SYSTEM TEMPORARY 表スペースまたは USER TEMPORARY 表スペースに表を作成しようとする操作は失敗します。

ユーザーの処置: REGULAR または LARGE タイプの表スペースを指定してこのコマンドを再発行してください。

CIE0322W 指定またはデフォルトのデータベースは、既にテキストに対して有効化されていません。

説明: 指定されたデータベースは、既に DB2 Text Search に対して有効化されています。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名を確認してください。

また、(暗黙接続を意味する) DB2DBDFT 変数が設定されているかどうか確かめてください。

CIE0323E 指定またはデフォルトのデータベースは、テキストに対して有効化されていません。

説明: 指定されたデータベースは、DB2 Text Search に対して有効化されていません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名および DB2DBDFT 変数の設定を確認します。データベース名が正しい場合には、ENABLE DATABASE FOR TEXT コマンドを使用してください。

CIE0324E ユーザーに **CONTROL** 権限がないため、コマンドは失敗しました。表名: *schema-name.object-name*。ユーザー: *user-id*。

説明: このコマンドの使用権限がありません。このコマンドの使用には **CONTROL** 権限が必要です。この表の所有者だけが、このコマンドを使用したり、このコマンドを使用するためのアクセス権限を付与したりできません。

ユーザーの処置: 必要な権限を付与してもらるように表の所有者に依頼してください。

CIE0325E ユーザーに **DBADM** 権限がないため、操作は失敗しました。

説明: このコマンドを使用するために必要な権限がありません。このコマンドの使用には、データベース管理 (DBADM) 権限が必要です。

このデータベースの管理者だけがこのコマンドを使用できます。

ユーザーの処置: セキュリティー管理者から必要な許可を取得してください。

CIE0326E テキスト検索索引がデータベースでアクティブになっているため、データベースの無効化に失敗しました。

説明: テキスト検索索引すべてがドロップされるまで、データベースを使用不可にはできません。

指定されたデータベースまたはデフォルトのデータベースに、少なくとも 1 つのテキスト検索が存在します。

ユーザーの処置: 既存のテキスト検索索引を SYSIBMTS.TSINDEXES ビューで確認してください。DROP INDEX コマンドを使用して既存の索引をドロップするか、DISABLE DATABASE コマンドに FORCE オプションを指定してください。

CIE0327E 指定されたコード・ページはサポートされていないため、操作は失敗しました。指定されたコード・ページ: *code-page*。

説明: 指定されたコード・ページはサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効なコード・ページを指定してください。

CIE0328E 指定された言語はサポートされていないため、操作は失敗しました。指定された言語: *language*。

説明: 指定された言語はサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な言語を指定してください。

CIE0329E 指定された形式はサポートされていないため、操作は失敗しました。指定された形式: *format*。

説明: 指定された形式はサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な形式を指定してください。

CIE0330E 無効な値 *value* がパラメーター *parameter-name* に指定されました。

説明: パラメーターに指定されている値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

CIE0331E 指定された更新頻度の形式が無効であるため、操作は失敗しました。更新頻度の値に指定されている *character* で始まる項目の数が多すぎます。

説明: 更新頻度の構文が正しくありません。索引の更新頻度に指定されている *character* で始まる項目の数が多すぎます。

ユーザーの処置: DAY、HOUR、および MINUTE パラメーターの指定は 1 回のみとしてください。

CIE0332E コマンド構文に誤りがあります。

説明: コマンドが予期せず終了しました。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認してください。必須パラメーターが指定されていることを確認してください。

CIE0333E 予期しないトークンによりコマンドが失敗しました。予期しないトークン: *token-name*。

説明: コマンド構文が正しくありません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認してから、コマンドを再実行してください。

CIE0334E 次のトークンが長すぎるためコマンドは失敗しました: *token*。

説明: トークンが長すぎます。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認し、トークンを許容最大サイズまで短くしてください。

CIE0335E 更新頻度に次のトークンが 2 回指定されているため、コマンドは失敗しました: *token*。

説明: 更新頻度に対して誤った構文が指定されました。

ユーザーの処置: DAY、HOUR、および MINUTE パラメーターの指定は 1 回のみとしてください。

CIE0336E *parameter-name* の範囲 *range* が無効です。有効な範囲: *start - finish*。

説明: 値は、許容範囲内でなければなりません。

ユーザーの処置: コマンドを更新してください。値を変更して許容範囲内の値になるようにしてください。

CIE0337E ライブラリー *library* をロードできません。

説明: ライブラリーが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: ライブラリーがライブラリー・パスにあり、利用可能であることを確認してください。DB2 の開始と停止を実行して、現行設定値が使用されるようにしてください。

CIE0338E 関数 *function-name* をライブラリー *library-name* からロードできません。

説明: ライブラリーのエントリー・ポイントをロードすることができません。

ユーザーの処置: ライブラリー・アクセスが無効のようです。ライブラリーが 1 回しか指定されていないことを確認してください。

CIE0339E 実行可能プログラム *program-name* が見つかりません。

説明: プログラム・ファイルが見つからないか、それにアクセスできません。

ユーザーの処置: プログラム・ファイルが DB2 サーバーの bin ディレクトリーまたは adm ディレクトリーにあることを確認してください。ファイルが見つからない場合、そのインストール環境は破損しています。

CIE0340E 実行可能プログラム *program-name* を開始できません。

説明: プログラムを開始できません。

ユーザーの処置: プログラムが DB2 サーバーの bin ディレクトリーまたは adm ディレクトリーにあり、適切なライブラリーがインストールされていることを確認してください。詳しい情報を得るには、手動でサーバー上のプログラムを呼び出してください。

CIE0341E 索引更新エラーです。イベント・ビュー: *schema-name.event-name*。

説明: 索引の更新操作でエラーが発生しました。文書エラーはすべてイベント表に書き込まれます。

ユーザーの処置: 文書エラーに関する詳細を、イベント・ビューで確認してください。問題を修正した後、イベント・ログをクリーンアップしてください。場合によっては、エラーが db2diag.log に書き込まれることもあります。

CIE0342E 列 *column-name* のデータ・タイプ *data-type* はサポートされていないため、テキスト索引作成に失敗しました。

説明: 表の特定の列のデータについてテキスト検索機能を使用するためには、その列に対してテキスト索引を作成する必要があります。一般的には、CREATE INDEX FOR TEXT コマンドを使用して、列に対して直接テキスト索引を作成することができます。

ユーザー定義タイプなどの一部のデータ・タイプでは、そのデータ・タイプの列に対して直接テキスト索引を作成することはサポートされていません。しかし、そのようなサポートされないデータ・タイプの列のデータも、テキスト検索に含めることができます。その場合は、テキスト索引を作成する際に追加のステップが必要となります。サポートされないデータ・タイプに対して直接テキスト索引を作成しようとする、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 指定した列のデータ・タイプを、以下のようにして変更します。
 1. ALTER TABLE ステートメントに ALTER COLUMN SET DATA TYPE 節を指定して、指定の列のデータ・タイプが、サポートされるデータ・タイプになるように表を変更します。
 2. CREATE INDEX FOR TEXT コマンドを再実行します
- 指定の列のデータ・タイプがバイナリーの場合は、その列のバイナリー・データのコード・ページを、CREATE INDEX FOR TEXT コマンドに指定します。
- 指定の列のデータ・タイプが、サポートされないデータ・タイプである場合は、以下の手順を実行します。
 1. サポートされないデータ・タイプのデータを、サポートされるデータ・タイプのデータにキャストする変換関数を作成します。
 2. その変換関数を CREATE INDEX FOR TEXT コマンドに指定します。

CIE0343E パス *path* は絶対パスではありません。

説明: 絶対パスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: パスを確認し、コマンドに絶対パスを使用してください。

CIE0344E 対応するテキスト検索索引が見つかりません。

説明: テキスト検索索引を持たない列を検索しようとしてしました。

ユーザーの処置: 検索対象の列を確認するか、またはこの列に対してテキスト検索索引を作成してください。

CIE0345N 表 *table-name* の列 *column-name* にはテキスト検索索引がありません。

説明: 有効でアクティブなテキスト検索索引がないため、表列に対するテキスト検索照会が失敗しました。

ユーザーの処置: 検索対象の列を確認するか、またはこの列に対してテキスト検索索引を作成してください。無効なテキスト検索索引が表列に存在する場合、そのテキスト索引をドロップして、新しいものを作成してください。

例えば、基礎となる基本表がドロップされてから再作成されると、テキスト検索索引は無効になります。

CIE0346E コマンド・オプションが指定されていないため、ALTER INDEX コマンドは失敗しました。

説明: ALTER INDEX コマンドは、更新頻度オプションなどの索引の特性を変更します。変更対象の特性が指定されませんでした。

ユーザーの処置: コマンド・オプションを少なくとも 1 つ指定してください。指定可能な全オプションについては、コマンド構文を参照してください。

CIE0347E 同じ列に対する既存のテキスト検索索引と競合します。

説明: 同じ列に対して定義されたテキスト検索索引が既に存在します。1 つの列に対して複数のテキスト検索索引を作成することはサポートされていません。

ユーザーの処置: 指定された列に対する既存のテキスト検索索引が不要である場合は、DROP INDEX コマンドを使ってドロップしてください。その後、コマンドを再発行してください。

CIE0348E 属性名がありません。

説明: 属性式で列式を使用する場合は、必ず属性名を指定する必要があります。例えば:

```
(C1+C2 AS myname)
```

ユーザーの処置: 属性式に "AS <attribute-name>" を追加してください。

CIE0349E ユーザー出口列が存在しないため、CREATE INDEX コマンドは失敗しました。

説明: 索引を作成する表に、指定されたユーザー出口列が 1 つ以上存在しません。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドを修正してください。

CIE0350E ATTRIBUTE 式が無効です。

説明: 属性式の列リストが無効です。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドの属性列リストを修正してください。指定した表にそれらの列が存在することを確認してください。列に対して関数を適用する場合は、それが正しく使用されていることを確認してください。

CIE0351E 列 *column-name* の属性 *attribute* はサポートされていません。

説明: 属性列に関してサポートされているデータ・タイプは DOUBLE だけです。

ユーザーの処置: 索引付けされるテキスト列について、表の属性列のタイプが DOUBLE となるようにしてください。

属性列式ではキャスト演算子を使用することができません。どのデータ・タイプを DOUBLE にキャストできるかについては、「SQL リファレンス」を参照してください。

CIE0352E 索引構成パラメーター *parameter-name* に、無効な値 *value* が指定されました。有効な値は *value* です。

説明: 構成パラメーターに指定された値に誤りがあります。パラメーターの有効な値については、コマンド構文を参照してください。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドの索引構成パラメーターの値を修正してください。

CIE0353E パラメーター *parameter-name* は、有効な索引構成パラメーターではありません。

説明: 索引構成オプションが不明です。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンド構文を確認してください。有効な索引構成オプションには、COMMENT などがあります。

例えば:

```
index configuration(COMMENT 'my comment')
```

CIE0354E 関数 *function-name* が失敗しました。エラー *error*。

説明: 示されたエラー・コードで Windows 関数が失敗したため、処理を続けることができません。

ユーザーの処置: ここに示された Windows システム・エラー・コードを使用して、詳細なエラー情報を入手してください。

CIE0355E 指定された更新頻度 *frequency* に誤りがあります。

説明: 更新頻度ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: 構文の仕様に従って更新頻度ステートメントを修正してください。

CIE0356E 表スペース *table-space-name* には複数のパーティションがあります。これは、このテキスト検索索引では許可されません。

説明: ニックネームに対する索引の場合、管理表の表スペースは単一パーティションで構成されていなければなりません。

ユーザーの処置: 単一パーティションのデータベース・パーティション・グループの表スペースを、管理表に指定してください。

CIE0357E 進行中の管理操作と競合します。

説明: 別の管理コマンドがまだ実行中であるか、コマンド・ロックを解除せずに異常終了しています。

ユーザーの処置: 実行中の管理コマンド (このテキスト検索索引に対するもの) が他に存在しない場合は、CLEAR COMMAND LOCKS を使用してロックを手動で解除してください。ロックを保持する管理コマンドを実行しているユーザーが他に存在する可能性があるため注意してください。後でコマンドを再実行してください。

CIE0358E FORCE オプションを指定しないと、管理操作と競合します。

説明: 別の管理コマンドがまだ実行中であるか、コマンド・ロックを解除せずに異常終了しています。

ユーザーの処置: 実行中の管理コマンドが他に存在しない場合は、CLEAR COMMAND LOCKS を使用してロックを手動で解除してください。ロックを保持する管理コマンドを実行しているユーザーが他に存在する可能性があるため注意してください。後でコマンドを再実行してください。DISABLE DATABASE コマンドには FORCE オプションを指定できます。このオプションは、データベース上の他のすべてのコマンドを停止させます。

CIE0359E プロシージャ *schema-name.procedure-name* のコマンド・テキストが空です。

説明: 示されている管理プロシージャは、無効なコマンド・テキスト・パラメーターを使って呼び出されました。

ユーザーの処置: 管理プロシージャのコマンド・テキスト・パラメーター値を修正してください。有効なコマンドについては、DB2 Text Search の資料を参照してください。

CIE0360E 実行可能プログラム *program-name* が異常終了しました。

説明: DB2 Text Search コマンドの実行時に実行可能プログラムが呼び出されましたが、異常終了しました。

ユーザーの処置: 実行可能プログラムがユーザー対話 (シグナル) によって明示的に終了されたのではないことを確認してください。明示的に終了されたのであれば、トレースを開始し、コマンドを再実行して、IBM サービス担当員にエラーを報告してください。

CIE0361E パラメーター *parameter-name* が欠落しています。

説明: 内部エラー - DB2 Text Search コマンドの実行時に管理実行可能プログラムが呼び出されましたが、パラメーターが欠落していました。

ユーザーの処置: この問題を回避するには、DB2 Text Search コマンドのパラメーターを変更してみてください。エラーが解決しない場合は、トレース機能をオンにし、エラーを IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0362E 照会が失敗しました。よりシンプルな属性式を使用してください。

説明: DB2 Text Search は、索引付けのデータをデータベースから選択するために、コマンドの式に基づいて照会を作成します。照会は複雑すぎるために失敗しました。

ユーザーの処置: 属性式をよりシンプルにしてください。

CIE0363E UPDATE MINIMUM は *schema-name.index-name* テキスト検索索引には指定できません。

説明: このテキスト検索索引は、RECREATE INDEX ON UPDATE オプションを指定して作成されています。このコンテキストでは UPDATE MINIMUM を指定できません。UPDATE MINIMUM は、索引がインクリメンタル更新される場合にのみ有効です。

ユーザーの処置: 更新を実行するたびに索引を再作成する場合は、UPDATE MINIMUM の設定を解除してください。UPDATE MINIMUM を使用する場合は、RECREATE INDEX ON UPDATE を指定しないでください。

CIE0364E 指定またはデフォルトのデータベースに矛盾したオブジェクトがあります。

説明: DB2 Text Search オブジェクトが少なくとも 1 つ欠落しているか破損しています。これは、スキーマ SYSIBMTS の DB2 Text Search データベース・オブジェクトが手動で変更された場合に起こり得ます。

ユーザーの処置: FORCE オプションを使用して DISABLE DATABASE コマンドを発行してください。その後、ENABLE DATABASE コマンドを使用することにより、再びデータベースをテキスト用に有効化することができます。これを行うと、テキスト検索索引はすべて失われます。

CIE0365E ユーザー出口関数 (*calltype=call-type*) は、コード=*error-code*、理由コード=*reason-code* を戻しました。

説明: ユーザー出口関数から問題が示されました。戻りコードによって、索引の更新が終了した (SQL_ERROR の場合) か、続行されたかが分かります。

ユーザーの処置: ユーザー出口関数に渡された文書とユーザー出口関数そのものを確認してください。

CIE0366E ユーザー出口ライブラリー *library-name* をロードできません。理由コード=*reason-code*。

説明: ユーザー出口ライブラリーをロードできませんでした。

ユーザーの処置: ライブラリーを動的にロードできるようにしてください。

CIE0367E ユーザー出口関数 *function-name* が、ライブラリー *library-name* に見つかりません。理由コード=*reason-code*。

説明: ユーザー出口ライブラリーをロードできましたが、指定された関数が含まれていません。

ユーザーの処置: ユーザー出口ライブラリーに指定の関数が含まれていることを確認してください。C++ インプリメンテーションの場合、関数が `extern "C"` として定義されていることを確認してください。

CIE0368E ユーザー出口関数が *name* に無効なデータを戻しました。無効な値=*value*、コンテキスト情報:*context-info-1*、*context-info-2*。

説明: 文書に対してユーザー出口関数が呼び出されましたが、出力構造に無効なデータが戻されました。

ユーザーの処置: 有効なデータが戻されるようにしてく

ださい (戻りコードが SQL_SUCCESS の場合)。ユーザー出口関数のインプリメンテーションを確認してください。

CIE0369E 索引が作成される表にユーザー出口列 *column-name* が存在しません。

説明: CREATE INDEX コマンドに指定するユーザー出口列は、その索引が作成される表の列でなければなりません。式は許可されません。

ユーザーの処置: 修正した CREATE INDEX コマンドを再実行してください。

CIE0370E ユーザー出口関数 (*calltype=call-type*) が例外をスローしました。

説明: ユーザー出口関数が C++ 例外をスローしました。索引の更新が停止されました。

ユーザーの処置: ユーザー出口関数のインプリメンテーションを修正してください。

CIE0371E ソース表 *schema-name.table-name* およびキャプチャー変更表 *schema-name.table-name* に対する行が、*name."IBMSNAP_REGISTER"* に見つかりません。

説明: CREATE INDEX コマンドに指定されたレプリケーション・キャプチャー表特性に対する有効なエントリーが、IBMSNAP_REGISTER 表に見つかりませんでした。有効なエントリーでは、SOURCE_OWNER 列と SOURCE_NAME 列に索引に指定されたソース表が含まれており (SOURCE_VIEW_QUAL=0)、PHYS_CHANGE_OWNER 列と PHYS_CHANGE_TABLE 列に指定されたレプリケーション・キャプチャー表が含まれていなければなりません。

可能性のある理由は、以下のとおりです。

指定されたソース表が、レプリケーション・キャプチャー表のレプリケーション・ソースとして登録されていません。

ユーザーの処置: ソース表を DB2 レプリケーション用に正しく登録するか、またはそのソース表の正しいレプリケーション・キャプチャー表を指定してください。

CIE0372E ソース表 *schema-name.table-name* およびキャプチャー変更表 *schema-name.table-name* に対する、*name."IBMSNAP_REGISTER"* の *replication-setting* の値 *value* が無効です。

説明: IBMSNAP_REGISTER 表に見つかったレプリケーション設定は許可されません。

可能性のある理由は、以下のとおりです。

1. 列 CHG_UPD_TO_DEL_INS に値 'Y' が入っていない。
2. 列 CCD_CONDENSED に値 'Y' が入っている。

ユーザーの処置: DB2 レプリケーションにソース表を登録するときに、更新操作を、削除操作と挿入操作の対に変換するようにしてください。加えて、コンデンス・レプリケーション・キャプチャー表は使用しないようにしてください。

CIE0373E ソース表 *schema-name.table-name* およびキャプチャー変更表 *schema-name.table-name* が、異なるサーバー (*source-table-server* および *capture-change-table-server*) 上にありません。

説明: 指定するソース表とレプリケーション・キャプチャー表は、同じサーバーになければなりません。

ユーザーの処置: この操作は、現在はサポートされていません。

CIE0374E 指定された形式は XML 列では許可されません。

説明: XML タイプの列には、'XML' 形式のみが許可されません。

ユーザーの処置: 形式 'XML' を指定するか、何も指定しないでください。

CIE0375E 別名 *schema-name.alias-name* は、レプリケーション節では許可されません。

説明: レプリケーション節では、ニックネームに対する別名を指定することは許可されていません。

ユーザーの処置: 別名ではなくニックネームを指定するか、またはそのリモート表に新しいニックネームを作成します。

CIE0376E レプリケーション節の表をビューにすることはできません。

説明: レプリケーション節ではビューを指定できません。

ユーザーの処置: この操作は、現在はサポートされていません。

CIE0377E このコマンドを使用できるのはインスタンス所有者 *user-id* のみです。

説明: このコマンドを使用するための必要な権限がありません。

UNIX システムの場合: DB2 インスタンス所有者は、db2icrt コマンドで指定された許可名です。

Windows の場合: DB2 インスタンス所有者は、DB2 インスタンス・サービスを実行している許可名です。インスタンス名である必要はありません。

ユーザーの処置: UNIX の場合、DB2 インスタンス環境変数 DB2INSTANCE が正しく設定されていることを確認するか、またはインスタンス所有者としてログインしてください。

Windows の場合、現行のインスタンスに関連付けられている DB2 インスタンス・サービス、DB2 - <install-copy> - <instance-name> が、ご使用のアカウントとパスワードで実行されていることを確認してください。

CIE0378E オプション *option* は現行接続では許可されません。

説明: このオプションを使用できるのは、DB2 z/OS システムに接続する場合のみです。

ユーザーの処置: 接続オプションが DB2 z/OS システムと関連していることを確認するか、またはオプションを指定せずに現行のコマンドを再発行してください。

CIE0379E 指定された列にはアクティブな索引が既に存在するため、ALTER INDEX SET ACTIVE 操作は失敗しました。

説明: db2ts ALTER INDEX コマンドまたは SYSPROC.SYSTS_ALTER プロシージャに SET ACTIVE 節を指定して実行し、テキスト検索索引をアクティブ化することができます。特定の列に対して、複数のテキスト検索索引が同時に存在することができます。ただし、一度にアクティブにできるテキスト検索索引は、1 つの列に対して 1 つのみです。

ユーザーの処置:

CIE0380E

- テキスト索引の間でアクティブ化の状況を切り替えるには、ALTER INDEX コマンドを使用します。その際、SET ACTIVE を有効にしますが、UNILATERAL オプションは指定しません。
- 他のアクティブなテキスト索引が不要になった場合は、DROP INDEX コマンドを発行してそれらを削除します。その後、コマンドを再発行します。

CIE0380E 非バイナリー・テキスト列に対するコード・ページ *codepage* は無効です。

説明: テキスト列のデータ・タイプがバイナリーでない(つまり、BLOB でもストリング・タイプの FOR BIT DATA でもない) 場合、DB2 は常にデータベースのコード・ページにデータを格納します。

ユーザーの処置: コード・ページ節を省略してください。

CIE0381E 最小更新頻度 *minimum-frequency* が、*allowed-frequency* の制限 (分) より小さくなっています。

説明: 更新頻度に定義している自動索引更新の最小時間間隔が、許容値よりも小さくなっています。

ユーザーの処置: 示されている制限に沿うように、更新頻度の指定を変更してください。

日付 6 の最新の項目と日付 0 の最も古い項目の間の時間間隔も考慮に入れる必要があることに注意してください。

CIE0382E *NumberOfMatches* はサポートされていません。

説明: DB2 Text Search はこの関数をサポートしていません。

ユーザーの処置: DB2 Net Search Extender を使用するか、または SQL 照会を変更して、*NumberOfMatches* 関数なしで実行できるようにしてください。

CIE0383E 操作にかかった時間が *limit* の制限 (秒) を超えています。

説明: 制限時間内に管理操作が成功しませんでした。これが起きた理由として、テキスト検索インスタンス・サービスの使用中にワークロードの問題が発生したことが考えられます。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスが稼働中であることを確認してください。

詳細については *db2diag.log* を参照してください。

CIE0384E *schema-name.table-name* は基本表ではないため、この表にテキスト検索索引は作成されませんでした。

説明: テキスト検索索引は基本表にのみ作成できます。基本表以外 (ビューまたは MQT など) にテキスト検索索引を作成することはサポートされていません。

ユーザーの処置: 列が基本表に属しているかどうかを確認してください。テキスト検索索引は基本表の列に作成してください。

CIE0385E テキスト検索索引を指定された表に作成できませんでした。この表は範囲パーティション表です。表: *schema-name.table-name*。

説明: テキスト検索索引を範囲パーティション表に作成することはできません。

ユーザーの処置: 表が範囲パーティション表かどうか確認してください。テキスト検索索引を範囲パーティション表以外の表のみに作成してください。

CIE0386E データベースは既に DB2 Net Search Extender 用に有効化されています。

説明: 指定またはデフォルトのデータベースは既に、別のタイプのテキスト検索索引用に有効化されています。データベースと関連付けることのできるテキスト検索コンポーネントは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 Net Search Extender を使用しない場合は、DB2TEXT DISABLE DATABASE コマンドを使用してデータベースを使用不可にしてください。データベースを DB2 Net Search Extender に対して使用不可にした後に、DB2 Text Search コマンドを再発行してください。

CIE0387E 必須パラメーターに NULL 値は指定できません。

説明: オプションでない DB2 Text Search 管理プロシージャ引数が、指定値として NULL を受け取りました。NULL はオプションの引数でのみ使用できます。

ユーザーの処置: プロシージャ呼び出しに指定する引数を修正してください。

CIE0388E 未定義のクライアント・エラーです。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

このエラーに関する詳細情報はありません。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを

開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0389E 内部関数処理エラーが発生しました。

説明: メソッドがインプリメントされていないか、指定されたパラメーターによって実行できないようにされているため、メソッドを完了することができませんでした。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0390E 無効なオブジェクトが参照されました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。無効なオブジェクトまたは初期化されていないオブジェクトが使用されたか、参照されました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0391E コード・ページ *source-codepage* から *target-codepage* への変換でエラーが発生しました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。渡されたデータをソース・コード・ページからターゲット・コード・ページに変換することができませんでした。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0392E 次のストリングはデータ・タイプが *data-type* でなければなりません。ストリング: *string*。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0393E 必須プロパティ *property* が欠落しています。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーにつ

いて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0394E プロパティ *=property* 値 *=value* は、タイプ *=type* であるため失敗しました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0395E db2ts start コマンドが発行されていません。

説明: テキスト検索インスタンス・サービスを必要とするコマンドが呼び出されました。

ユーザーの処置: db2ts start コマンドを使用してテキスト検索インスタンス・サービスを開始してください。

CIE0396E DB2 Text Search インスタンス・サービスがリッチ・テキストをサポートするように構成されていません。

説明: DB2 Text Search でのリッチ・テキスト・サポートを必要とするコマンドが呼び出されました。

リッチ・テキストはまだ DB2 Text Search インスタンスに対して構成されていません。

ユーザーの処置: richtextTool を使用して、DB2 Text Search でリッチ・テキスト・サポートを使用できるように構成してください。

CIE0397E 表列 *schema-name.table-name* には有効なテキスト検索索引がありません。

説明: 有効でアクティブなテキスト検索索引がないため、表列に対するテキスト検索照会が失敗しました。

ユーザーの処置: テキスト検索照会を実行する前に、有効でアクティブなテキスト検索索引が表列にあることを確認してください。無効なテキスト検索索引が表列に存在する場合、そのテキスト索引をドロップして、新しいものを作成してください。

例えば、基礎となる基本表がドロップされてから再作成されると、テキスト検索索引は無効になります。

CIE0398N テキスト検索索引 *schema-name.index-name* は無効で使用できません。

説明: テキスト索引は無効であるため、更新も使用もできません。

ユーザーの処置: 無効なテキスト検索索引をドロップしてから再作成してください。

CIE0399E 次の表に対する SET INTEGRITY に失敗しました: *schema-name.table-name*。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。

コマンドは正常に完了されませんでした。

ユーザーの処置: IMMEDIATE CHECKED オプションを有効にして、失敗した表に対して SET INTEGRITY コマンドを実行してください。

CIE0401E 検索のシステム操作が失敗しました。メッセージ ID: *message-id*。例外 **es::exception-part1: exception-part2** がファイル *file-name* 行 *line-number* によってスローされました。

ユーザーの処置:

CIE0402E 従属表の整合性設定に失敗しました。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。コマンドは正常に完了されませんでした。

ユーザーの処置: この基本表のペンディング・モードのままの全従属表に対して、IMMEDIATE CHECKED を有効にして SET INTEGRITY コマンドを実行してください。

CIE0403E 列 *column-name* のデータ・タイプは、このデータベースのテキスト検索索引ではサポートされません。

説明: 表の特定の列のデータについてテキスト検索機能を使用するためには、その列に対してテキスト索引を作成する必要があります。一般的には、CREATE INDEX FOR TEXT コマンドを使用して、列に対してテキスト索引を作成することができます。

このテキスト検索機能の動作は、DB2_COMPATIBILITY_VECTOR レジストリー変数の値によって影響を受けます。具体的には、DATE データ・タイプを、日付と時刻を結合した値の TIMESTAMP(0) として使用できるように、DB2_COMPATIBILITY_VECTOR レジストリー変数が 40 に設定されている場合、タイプが DATE または TIMESTAMP(0) の列に対するテキスト索引の作成はサポートされません。

DB2_COMPATIBILITY_VECTOR レジストリー変数が 40 に設定されている場合に、タイプ DATE または TIMESTAMP(0) の列に対してテキスト索引を作成しよ

うとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 指定した列のデータ・タイプを、以下のようにして変更します。
 1. 可能であれば、指定の列のデータ・タイプが DATE でも TIMESTAMP(0) でもないデータ・タイプになるように表を変更します。
 2. CREATE INDEX FOR TEXT コマンドを再実行します。
- 互換フィーチャーを以下のようにして無効にします。
 1. DB2_COMPATIBILITY_VECTOR レジストリー変数を NULL に設定して、索引の作成を妨げている互換フィーチャーを無効にします。
 2. CREATE INDEX FOR TEXT コマンドを再実行します。

CIE0404E 形式 *format-type* は、列タイプ *column-type* では許可されません。

説明: 指定する索引の形式タイプは、示されている列タイプでサポートされているものでなければなりません。例えば、INSO 形式は BLOB 列でのみサポートされ、XML 形式は XML 列でのみサポートされます。

ユーザーの処置: 指定する索引の形式タイプが、示されている列タイプでサポートされているかどうかを確認してください。

CIE0405E 言語 *language-name* に対する CJKSegmentation はサポートされません。

説明: CJKSEGMENTATION がサポートされるのは、中国語、日本語、および韓国語の文字セットのみです。

ユーザーの処置: CREATE INDEX コマンドから CJKSEGMENTATION を除去してください。

CIE0406E 索引構成にトークン CJKSEGMENTATION が 2 回指定されています。

説明: CJKSEGMENTATION に関して誤った構文が指定されました。

ユーザーの処置: CJKSEGMENTATION パラメーターは 1 回のみ指定するようにしてください。

CIE0408E DB2 Text Search アップグレードを実行するための DATAACCESS 権限が、ユーザー *user-name* にはありません。

説明: アップグレードを実行するには、このテキスト検索ユーザーに DATAACCESS 権限がなければなりません。

ユーザーの処置: ユーザーに DATAACCESS 特権を付与してください。

CIE0409E DB2 Text Search カタログが現行バージョンにアップグレードされていません。

説明: DB2 Text Search 索引をアップグレードする前に、テキスト検索に関連付けられているカタログ表またはカタログ・ビューのすべてを、最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

ユーザーの処置:

1. データベースに接続します。
2. 次の順序でアップグレード・プロシーチャーを呼び出します。
 - a. SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_CATALOG
 - b. SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_INDEX.

CIE0410E 使用法に誤りがあります。パラメーターが欠落しているか、間違ったパラメーターが指定されています。

CIE0411C インスタンスが 32 ビットか 64 ビットかを検出する db2level コマンドが見つかりません。

説明: DB2 Text Search は、db2level コマンドを見つけることができませんでした。DB2 Text Search は、このコマンドを使用して、DB2 インスタンスが 32 ビットか 64 ビットかを判別します。

ユーザーの処置: db2level コマンドのバイナリーがこの DB2 インストール済み環境にないか、実行可能ファイルの検索パスを介して見つかりません。DB2 インストール済み環境または実行可能ファイル検索パスの問題を解決してから、この操作を再試行してください。

CIE0412E DB2INSTANCE 環境変数が設定されていません。

説明: DB2 Text Search でリッチ・テキスト・サポートを構成するためには、DB2INSTANCE 環境変数が設定されている必要があります。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 変数を設定して、richtextTool コマンドを再試行してください。

CIE0413E DB2 Text Search ディレクトリ *directory-name* が存在しません。

説明: DB2 Text Search が正しく構成されていません。

ユーザーの処置: DB2 Text Search が正しく構成されていることを確認してください。

CIE0414E ユーザー *user-name* には、ディレクトリ *directory-name* への書き込み権限がありません。

説明: richtextTool が、unzip されたファイルを保管するためのディレクトリを作成できません。

ユーザーの処置: このツールの実行に必要なユーザー権限に関する資料を参照してください。

CIE0415C DB2 Text Search は DB2 インストール済み環境を検出できません。

説明: richtextTool が、DB2 インストール済み環境を見つけることができません。

ユーザーの処置: DB2 インストール済み環境の問題を解決してから、この操作を再試行してください。

CIE0416E DB2 Text Search が実行中のため、リッチ・テキスト・サポートを構成できません。

説明: DB2 Text Search サーバーの実行中は、リッチ・テキスト・サポートで構成ファイルを更新することはできません。

ユーザーの処置: コマンド db2ts stop for text を発行して、DB2 Text Search サーバーを停止してください。

その後、リッチ・テキスト・サポートの構成を再試行してください。

CIE0417E ディレクトリ *directory-name* にアクセスできないため、**Outside In Technology** 製品 zip ファイルを見つけることができません。

説明: richtextTool が、ユーザー指定のディレクトリにアクセスできません。

ユーザーの処置: ディレクトリが存在することと、そのディレクトリに対する読み取り権限があることを確認してください。

CIE0418E richtextTool が zip ファイル *compressed-file-name* からのファイルの抽出に失敗しました。

説明: richtextTool は、ファイルを抽出してリッチ・テキスト・サポートの構成を完了することができません。

ユーザーの処置: ファイルの unzip 操作から戻されたエラー・メッセージを調べ、問題を修正してください。

その後、richtextTool を再度実行してください。

CIE0419E ファイルの抽出が失敗しました。ファイル *file-name* が **Outside In Technology** 製品ディレクトリーに見つかりません。

説明: richtextTool は、必要なファイルを Outside In Technology 製品ディレクトリー内で見つけることができません。

ユーザーの処置: ファイル抽出操作の出力を確認して、unzip の失敗の原因になった可能性のある問題を修正してください。

リッチ・テキストがこの DB2 コピーに対して構成されていない場合は、db2tss ディレクトリーの下にある stellent というディレクトリーを削除してから、richtextTool の実行を再試行してください。

CIE0420E ディレクトリー *directory-name* にファイルがありません。

説明: 指定されたディレクトリー内にファイルがありません。構成ツールの実行中に障害があった可能性があります。システム構成が不整合な状態になっている可能性があります。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーを手動で削除してください。その後、richtextTool を再実行して、リッチ・テキスト・サポートを構成してください。

CIE0421E バージョン *version* の **Outside In Technology** 製品の **HTML Export zip** ファイル *compressed-file-name* が見つかりません。

説明: 適切なバージョンの Outside In Technology 製品の zip ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: エラー・メッセージを参照して、どのファイルが欠落しているのかを確認してください。

なかったファイルを手入れしてから、richtextTool の実行を再試行してください。

CIE0422E バージョン *version* の **Outside In Technology** 製品の **Search Export zip** ファイル *compressed-file-name* が見つかりません。

説明: 適切なバージョンの Outside In Technology 製品の zip ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: エラー・メッセージを参照して、どのファイルが欠落しているのかを確認してください。

なかったファイルを手入れしてから、richtextTool の実行を再試行してください。

CIE0423E richtextTool はファイル *file-name* にアクセスできません。

説明: richtextTool が、このエラーに示されているファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: ファイルが存在することを確認し、そのファイルに対するアクセス権限の問題を修正してください。

CIE0424E DB2 インスタンス *instance-name* の **DB2 Text Search** 構成ディレクトリー *directory-name* が存在しません。

説明: DB2 Text Search が正しく構成されていないか、損傷を受けています。

ユーザーの処置: richtextTool を実行してリッチ・テキスト・サポートの構成を再試行してください。

CIE0425E **DB2 Text Search** は、ディレクトリー *directory-name* にあるファイルに対して必要なアクセス許可を設定できません。

説明: リッチ・テキスト・サポート・プログラムが正常に起動するためには、正しいファイル許可が必要です。

richtextTool は、そのままでは抽出されたファイルに対する正しい読み取り許可および実行許可を設定できません。

ユーザーの処置: chmod コマンドから戻されたエラー・メッセージを調べ、問題を修正してください。

この DB2 コピーに対してリッチ・テキストを構成したことがない場合は、db2tss ディレクトリーの下にある stellent というディレクトリーを削除してから、richtextTool の実行を再試行してください。

CIE0426E DB2 Text Search は、構成対象のインスタンスの DB2COPY 名を検出できません。

説明: richtextTool は、DB2 インスタンス名から DB2COPY 名を派生させることができません。DB2 が正しくセットアップされていない可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 セットアップの問題を修正してから、リッチ・テキスト・サポートを構成してください。

CIE0427E richtextTool は、既存のコピーから構成ファイル *file-name* をリストアできません。

説明: richtextTool は、DB2 Text Search 構成ファイルの既存のコピーをリストアしようとしてエラーを受け取りました。

ユーザーの処置: システム構成が不整合な状態になっている可能性があります。

システムでディスク・スペースを使い果たしていないかどうかを確認してください。問題を修正し、richtextTool を再実行してください。

CIE0428E DB2 コマンド行環境が設定されていません。

説明: richtextTool は、リッチ・テキスト・サポートを構成するときに DB2 環境を検出し、DB2 ユーティリティーを実行するために DB2 コマンド行環境を必要とします。

richtextTool は、DB2 コマンド行環境がセットアップされていないと、DB2 Text Search リッチ・テキスト・サポートを構成できません。

ユーザーの処置: richtextTool を DB2 コマンド・ウィンドウで実行してください。

CIE0429E DB2 インスタンス *instance-name* のホーム・ディレクトリが存在しません。ホーム・ディレクトリの名前は *directory-name* です。

説明: DB2 インスタンスのセットアップに誤りがあります。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスのセットアップの問題を修正してから、richtextTool を実行してください。

CIE0430E ファイル *file-name* の内容が正しくないため、richtextTool を実行できません。

説明: 参照されたファイルの内容が正しくありません。システム構成が不整合な状態になっている可能性があります。

ユーザーの処置: システム・リソースを確認してください。システムがディスク・スペースを使い果たしていないかどうかを確認してください。

問題を修正し、richtextTool を再実行してください。

CIE0431E 主キー列の順序が基本表と同じではないため、テキスト検索索引を作成できません。

説明: 主キー列の順序は基本表と同じでなければなりません。そうでない場合、テキスト検索索引は作成できません。

ユーザーの処置: 複合主キー内の列の順序が、基本表の列の順序と一致するようにしてください。

CIE0432E データベース・ディレクトリが、ローカル・ファイル・システム上に見つかりません。

説明: テキスト検索管理操作で、ローカル・データベース・ディレクトリの検出に失敗しました。

ユーザーの処置: 'db2 list database directory' コマンドを発行して、ローカル・データベース・ディレクトリが存在することを確認してください。その後、操作を再試行してください。

CIE0440E ユーザー *user-id* には、表 *schema-name.table-name* にテキスト検索索引を作成する権限がありません。

説明: "CREATE INDEX .. FOR TEXT" を実行するには、以下のいずれかが必要です。

- DBADM 権限
- 表に対する CONTROL 特権
- 表に対する INDEX 特権があり、さらにデータベースに対する IMPLICIT_SCHEMA 特権か、索引スキーマに対する CREATEIN 特権がある。

DB2 Text Search の索引作成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『DB2 Text Search CREATE INDEX コマンド』を参照してください。

ユーザーの処置: テキスト索引の作成操作を行うために必要な権限がユーザーにあることを確認してください。

CIE0441E データベース *database-name* を DB2 Text Search 用に有効化するための権限が、ユーザー *user-id* にはありません。

説明: データベースのテキスト検索を可能にするには、DBADM 権限が必要です。

DB2 Text Search を使用可能にする方法について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『ENABLE DATABASE FOR TEXT テキスト検索コマンド』を参照してください。

ユーザーの処置: ENABLE 操作を実行するために必要な権限がユーザーにあることを確認してください。

CIE0442E データベース *database-name* でテキスト索引コマンドを実行するための権限が、このインスタンス所有者にはありません。

説明: インスタンス所有者に適切な権限がない状態で、テキスト索引コマンドを実行しようとした。

DB2 Text Search 索引コマンドごとに、必要なデータベース権限のレベルが異なります。各 DB2 Text Search 索引コマンドに必要な権限のリストについては、DB2 インフォメーション・センターのトピック『DB2 Text Search 索引コマンドの権限要件』を参照してください。

ユーザーの処置: テキスト索引操作を実行できるようにするには、インスタンス所有者が DATAACCESS 権限付きの DBADM 権限を持つようにしてください。

CIE0443E *index-schema-name.index-name* という名前の DB2 Text Search 索引を更新するための権限が、ユーザー *user-id* にはありません。

説明: テキスト索引の更新には、以下のいずれかが必要です。

- DATAACCESS 権限
- 表に対する CONTROL 特権

DB2 Text Search の更新について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『DB2 Text Search UPDATE INDEX コマンド』を参照してください。

ユーザーの処置: テキスト索引の更新操作を行うために必要な権限がユーザーにあることを確認してください。

CIE0444E DB2 Text Search 索引コマンドを実行するための DATAACCESS 権限が、ユーザー *user-id* にはありません。

説明: DB2 Text Search 索引コマンドの実行には DATAACCESS 権限が必要です。

DB2 Text Search 索引コマンドごとに、必要なデータベース権限のレベルが異なります。各 DB2 Text Search 索引コマンドに必要な権限のリストについては、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 Text Search index command authority requirements』を参照してください。

ユーザーの処置: SECADM によってユーザーに DATAACCESS 権限を付与してください。

CIE0445N 要求された操作は実行できません。REBIND コマンドをパッケージ *package-list* に対して実行してください。

説明: パッケージのリストが無効です。REBIND コマンドを実行する必要があります。

ユーザーの処置: パッケージに対して REBIND コマンドを実行してから、このテキスト索引コマンドを実行してください。

CIE0446E 文書が最大サイズ制限の *max-size* バイトを超えています。

説明: DB2 Text Search が索引付けできる文書には、最大サイズの制限があります。現在の文書はその制限を超えているため、索引付けされません。

ユーザーの処置:

1. 文書のサイズを小さくします。
2. 変更後の文書をサブミットします。

CIE0447N *schema-name.object-name* のテキスト保守従属表の検索に失敗しました。

説明: このコマンドは、テキスト索引の管理表から情報を検索する照会を実行します。テキスト索引の情報の照会に失敗しました。

ユーザーの処置: テキスト索引の管理表へのアクセスが可能であることを確認してください。詳しくは、db2diag.log を参照してください。

CIE0448N バックアップ構成は不整合な状態になっています。

説明: バックアップ・インフラストラクチャーがこのテキスト索引に対して有効にされましたが、そのバックアップ構成は使用できないか、不整合な状態になっていません。

ユーザーの処置: Text Search 索引のバックアップ・オプションに関する資料に沿って、バックアップ構成を見直し、更新してください。

CIE0449N テキスト検索索引 *schema-name.index-name* のバックアップは有効になっていません。

説明: テキスト検索索引をバックアップできるのは、バックアップ・モードが指定されている場合のみです。

ユーザーの処置: テキスト検索索引のバックアップを有効にするには、ALTER INDEX FOR TEXT 操作を使用して、テキスト検索索引のバックアップ・モードを IMMEDIATE または DEFERRED に設定してください。

CIE0450N テキスト検索索引のバックアップ構成が無効です。

説明: バックアップ構成が Text Search サーバーのバックアップ・モードを参照しています。この構成は、サポートされるバックアップ・モードと一致していません。

ユーザーの処置: バックアップ構成を、Text Search サーバーでサポートされるバックアップ・モードと一致するように更新してください。サポートされるモードについては、Text Search サーバー資料を参照してください。

CIE0451E テキスト検索索引 *schema-name.index-name* に対するロックを解除できません。

説明: テキスト索引がデータベース・レベルの操作用にロックされています。

ユーザーの処置: テキスト検索索引名を指定せずに CLEAR COMMANDLOCKS 操作を繰り返してください。

CIE0452E ユーザー *user-name* には、テキスト検索索引 *schema-name.index-name* を変更する権限がありません。

説明: テキスト検索索引を変更するには、許可 ID に以下のいずれかが必要です。

- データベースに対する DBADM ロール
- 表に対する CONTROL ロール
- 索引に対する ALTERIN 特権

ユーザーの処置: SECADM によって適切な特権が割り当てられていることを確認してください。

CIE0453E ユーザー *user-name* には、テキスト検索索引 *schema-name.index-name* をドロップする権限がありません。

説明: テキスト検索索引をドロップするには、許可 ID に以下のいずれかのロールまたは特権が必要です。

- データベースに対する DBADM 権限
- 表に対する CONTROL 特権
- スキーマに対する DROPIN 特権

ユーザーの処置: SECADM によって適切な特権が割り当てられていることを確認してください。

CIE0454E この操作を行うためには、ユーザー *user-name* にロール *role-name* が必要です。

説明: テキスト検索索引に対する操作を行うには、適切な SYSTS_ADM ロール、SYSTS_MGR ロール、または SYSTS_USR ロールが必要です。

ユーザーの処置: SECADM によって適切なロールが割り当てられていることを確認してください。

CIE0456E 分離された DB2 Text Search のセットアップの開始操作は、個別に実行する必要があります。

説明: 分離されたテキスト検索サーバーのセットアップを使用している場合、サーバー開始などの操作は、開始スクリプトを使用して、スタンドアロンのテキスト検索サーバー環境で実行する必要があります。この DB2 インスタンス環境から db2ts ユーティリティを使用し、分離されたテキスト検索サーバーを開始することはできません。

db2ts ユーティリティを使用してテキスト検索サーバーの状況をチェックすることはできます。テキスト検索を有効にしたデータベースに対して SYSTS_CONFIGURE を実行することによって、DB2 インスタンスのテキスト検索サーバーが登録されるようにしてください。

ユーザーの処置: テキスト検索サーバーを正常に開始するには、以下のスクリプトを実行します。

- /bin/startup.sh (Linux または Unix プラットフォーム)
- %bin%startup.bat (Windows プラットフォーム)

CIE0457E DB2 Text Search のデフォルト値として予期される値が見つかりません。

説明: テキスト検索のデフォルト値は SYSIBMTS.TSDEFAULTS ビューにセットアップされません。一般的には、これらの値は、データベースをテキスト検索用に有効化するときや、後続の構成ステップ (SYSTS_CONFIGURE プロシージャの実行など) で追加されます。

ユーザーの処置: テキスト検索用のデータベース・レベルのデフォルト値が、正しくセットアップされるようにしてください。このためには、テキスト検索が有効なデ

CIE0458E

ータベースに対して、ENABLE 操作および SYSTS_CONFIGURE プロシーチャーを正常に実行します。

CIE0458E 指定した管理オプション *option* は、このセットアップでは使用できません。

説明: 管理操作のオプションには、特定の製品環境でしかサポートされないものがあります。

ユーザーの処置: インスタンス・タイプまたはデータベースでサポートされるオプションのみが、コマンドに指定されていることを確認してください。

DB2 インスタンス・タイプを確認し、使用しているオプションがそのインスタンス・タイプに適用されることを確認してください。

セットアップに適用されるように、オプションを除去または変更してから、操作を再試行してください。

CIE0459E データ準備コンストラクター *constructor-name* が無効です。

説明: この名前で構成されているコンストラクターが存在しないか、または、値が割り当てられていません。

ユーザーの処置: データ準備用の構成が SYSIBMTS.TSDEFAULTS で有効になっていることを確認してください。DATAPREP: 接頭部を使用して、コンストラクターを定義してください。

CIE0460E 並列索引更新時に、複数のデータベース・パーティションでエラーが発生しました。

説明: パーティション・データベース環境でテキスト検索索引を更新すると、関係する各データベース・パーティション上で索引更新操作が並列して実行されます。1つ以上のデータベース・パーティションでエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. 必ず DB2 インスタンス開始後に、データベースが活動化されていることを確認してください。
2. エラーの詳細について、イベント・ビューと db2diag.log ファイルを調べてください。CLEAR COMMAND LOCKS コマンドを使用して、テキスト検索索引の残りのロックをクリーンアップすることが必要な場合があります。
3. エラーを修正し、DB2 Text Search 索引更新操作を再試行してください。

CIE0462I テキスト検索カタログが現行バージョンにアップグレードされています。

説明: テキスト検索を使用できるようにするには、テキスト検索索引も更新する必要があります。

ユーザーの処置:

"SYSPROC.SYSTS_UPGRADE_INDEX" を呼び出して、テキスト検索索引を更新してください。

CIE0463E DB2 Text Search カタログが現行バージョンにアップグレードされていません。

説明: テキスト検索カタログを現行バージョンにアップグレードする必要があります。

ユーザーの処置: テキスト検索カタログを現行バージョンに更新してください。

第 51 章 CIE0500 - CIE0999

CIE0701E 内部エラーロケーション: *location-1*、*location-2*。

説明: 内部処理エラーが発生し、これにより処理の続行が不可能になりました。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスと DB2 を開始して停止してみてください。エラーが解決しない場合、トレースを開始して、db2diag.log も確認してください。

CIE0702E メモリー割り振りエラー。

説明: システムでメモリー不足が発生しました。

ユーザーの処置: ユーザーの使用可能メモリーのサイズを増やすか、または同時に実行されている他のプロセスを停止してください。

CIE0703E 共有システム・リソースの使用に関するエラーです。

説明: システム・リソース (共有メモリーやセマフォールなど) を共有するか、それにアクセスするための要求を満たすことができません。

ユーザーの処置: 現行システムの状況と構成を確認してください。UNIX の場合、ipcs コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や DB2 Text Search などのすべてのアプリケーションを停止します。まだリソースがリストされる場合は、ipcrm を使用してクリーンアップします。

CIE0705E インスタンス・サービス・エラーです。

説明: インスタンス・サービス・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: db2diag.log で詳細を確認するか、共有リソースをクリーンアップします。CIE00703 も参照してください。

CIE0706E インスタンス・サービスを停止できませんでした。

説明: db2ts stop コマンドでインスタンス・サービスが停止されなかったため、実行中のプロセスが残っています。

ユーザーの処置: このエラー状態からリカバリーするには、バックグラウンドで実行されているすべてのテキス

ト検索管理操作が完了した後に、stop コマンドを再発行してください。

管理コマンドが異常終了した場合 (または管理コマンドを停止する場合)、CLEAR COMMAND LOCKS を使用してロックを手動で解除してください。

他の管理操作が実行されている様子がない場合、または stop コマンドが一向に機能しない場合は、インスタンス・サービスの再開を試みた後、stop コマンドを発行してください。それでもうまくいかない場合は、最後の手段として、DB2 とすべてのアプリケーションを停止し、その後システム・リソースをクリーンアップしてください。

CIE0707E インスタンス・サービスとの通信がタイムアウトになりました。

説明: テキスト検索サービスとの通信中にタイムアウトになりました。次のような理由が考えられます。

1. DB2 Text Search インスタンスが正しく構成されていない。
2. リッチ・テキスト・フィーチャーがアップグレード前に無効化されていなかった。
3. ネットワークの問題。

ユーザーの処置:

1. DB2 Text Search が正しく構成されていることを確認します。
2. リッチ・テキスト・サポートが正しく構成されていることを確認します。
3. ネットワーク通信が動作していることを確認します。

CIE0708E 次の Windows サービスの開始中にエラーが発生しました: *service-name*。戻されたエラー: *error*。

説明: 指定されたサービスが、Windows システムにありません。

ユーザーの処置: 指定されたサービスが Windows システムにインストールされていることを確認してください。ここに示された Windows システム・エラー・コードを使用して、詳細なエラー情報を入手してください。

CIE0709E DB2 インスタンス・プロファイル・パスが見つかりません。

CIE0710E

説明: DB2 インスタンス・プロファイル・パスを取得する関数が失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス構成を確認してください。

Windows の場合、インスタンス・プロファイル・パス情報を指定せずに DB2 インスタンスの作成を試みた後、コマンドを再実行してください。

CIE0710E 管理表スペース *text-index-table-space* が、*schema-name.object-name* の表スペースと同じデータベース・パーティション・グループに定義されていません。データベース・パーティション・グループ:
database-partition-group。

説明: 管理表の表スペースは、索引付けするテキスト列を含む表とまったく同じように各パーティションに分散されなければなりません。

指定された表スペースが同じデータベース・パーティション・グループに定義されているかどうかをシステムは検査します。

ユーザーの処置: 索引付けするテキスト列を含む表と同じパーティション・グループに定義された表スペースを指定してください。

CIE0711E ログ表 *schema-name.table-name* に対して無効な操作が行われました。操作:
operation。

説明: ログ表は、索引付けされたテキスト列を含む表に対して実行された操作を記録します。この表を手動で変更したために、表に無効な値が含まれています。

ユーザーの処置: ログ表を確認し、無効な項目を削除または修正してください。

CIE0712E 表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* に、誤った構文式が含まれています。

説明: 指定されたテキスト列の式リストにエラーがあります。

ユーザーの処置: 区切り文字 Begin と End の対を確認してください。

CIE0713E 索引プロパティの長さ *length* が、最大長 *maximum-allowed-length* を超過しています。

説明: 索引プロパティの合計長が最大サイズを超過しています。

ユーザーの処置: エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0714E 環境変数 *environment-variable* の設定に失敗しました。

説明: 指定した環境変数の設定に失敗しました。

ユーザーの処置: エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0715E *function-name* の呼び出し:
rc=return-code、*SQLCODE=sqlcode*。

説明: 内部関数の呼び出し時に、内部処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して *db2diag.log* を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0716E 共有メモリーの作成時にエラーが発生しました。

説明: 以前のエラーまたは許可の問題が原因で、共有メモリー・リソースを作成できませんでした。

ユーザーの処置: *db2diag.log* で詳細を確認するか、共有リソースをクリーンアップします。エラー CIE00703 も参照してください。

CIE0717E パラメーター *parameter-name* の値が長すぎます。

説明: 値が許容最大サイズを超過しています。

ユーザーの処置: 最大サイズを確認してください。制限内に収まるようにパラメーターを修正してください。

CIE0718E ログ表 *schema-name.table-name* は次回の UPDATE で変更されます。

説明: インクリメンタル索引更新を開始すると、タイム・スタンプが作成されます。これは変更レコードの処理においてしきい値の役目を果たします。変更がインクリメンタル更新と同時に発生した場合、その変更は次回の更新時に処理されます。

索引更新の開始時にはコミットされていなかったトランザクション内の変更が、索引更新の実行中にコミットされるような場合、不整合な状態が生じる可能性があります。

このような不整合な状態を回避するために、しきい値タイム・スタンプより前の変更レコードはログ表から削除されません。それらのレコードが部分的に処理されている場合でも同様です。

それらの変更は、次のインクリメンタル更新時に索引に対して再び適用されます。削除操作でこれが発生すると、文書が既に削除されていることを示す警告メッセージがログ表に書き込まれる可能性があります。

ユーザーの処置: CIE00718 エラーが頻繁に発生する場合は、索引をドロップして再作成し、インクリメンタル索引更新のタイム・スタンプしきい値を変更することを検討してください。

例えば:

```
CREATE INDEX ...
INDEX CONFIGURATION(UPDATEDELAY 30)
```

これは、インクリメンタル更新時の処理において 30 秒より前のレコードのみが変更され、30 秒未満の並行変更トランザクションは干渉されないことを意味します。

CIE0719E ターゲット・データベース・システム *database-system-name* はサポートされません。

説明: DB2 Text Search によってサポートされていないデータベース・システムに接続してコマンドを実行しようとした。

ユーザーの処置: 環境を確認し、サポートされているデータベースに対して DB2 Text Search を使用するようしてください。

CIE0720E サーバー *server-name* のタイプ情報またはバージョン情報が見つかりません。

説明: サーバーのタイプ情報およびバージョン情報が、DB2 カタログ・ビュー 'SERVERS' に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 フェデレーテッド環境が正しくセットアップされていることを確認してください。

CIE0721E シグナル *signal* がキャッチされました。

説明: プログラムがシグナルを受け取りました。

ユーザーの処置: ユーザーがプログラムを中断したのではない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

CIE0722E インスタンス・サービスの入力ファイル *file-name* が破損しています。

説明: 索引情報を含むファイルが破損しています。

ユーザーの処置: 明らかにファイルを手動で編集したことが原因で発生した問題の場合は、システム・エディターを使用し、問題の修正を試みてください。項目が切り

捨てられたり、行末文字が削除されたりした可能性があります。

修正してもファイルの内容をリストアできない場合は、以下のようにしてください。

- コマンド 'db2ts stop for text' を呼び出して、インスタンス・サービスを停止します。
- 破損したファイルを削除するか、ファイル名を変更します。
- コマンド 'db2ts start for text' を呼び出して、サービスを再始動します。
- コマンド 'db2ts cleanup for text' を使用して、DB2 インスタンスの全データベースのカタログ情報を基にファイルを再作成します。

CIE0723E Windows 例外 *exception* がキャッチされました。

説明: プログラムが Windows 例外を受け取りました。

ユーザーの処置: ユーザーがプログラムを中断したのではない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

CIE0724E 例外 *exception*、アドレス=*address*、フラグ=*flag*。

説明: プログラムが Windows 例外を受け取りました。

ユーザーの処置: ユーザーがプログラムを中断したのではない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

CIE0725E DB2 Text Search は複数パーティション・データベース環境ではサポートされません。

説明: テキスト検索索引は、単一パーティションを持つ DB2 構成でのみ作成できます。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスに複数のデータベース・パーティションが構成されていないことを確認してください。

CIE0726E JDK_PATH 設定に誤りがあります。

説明: DB2 Text Search では、DB2 インストール済み環境の一部である Java ランタイム環境 (JRE) を使用する必要があります。

JDK_PATH 値の問題が原因で、JRE の検出時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 が正常にインストールされていることを確認してください。

CIE0727E

JDK_PATH の値が JRE のインストール先ディレクトリーを指しており、JRE がアクセス可能であることを確認してください。

コマンド 'db2 get dbm cfg' を使用して JDK_PATH 設定を確認することができます。

CIE0727E Java クラスパスが見つかりません。

説明: DB2 Text Search をサポートする Java クラスパスにディレクトリーが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 インストール済み環境を確認してください。DB2 Text Search オプションが選択されており、インストールが正常に完了していることを確認します。

CIE0728E ファイル *file-name* をクローズできません。

説明: 指定されたファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: ファイルにアクセスできるかどうか確認してください。

システムに十分なフリー・スペースがあることも確認してください。

CIE0729E ファイル *file-name-1* を *file-name-2* にコピーできません。

説明: 最初のファイルを 2 番目のファイルにコピーできません。

ユーザーの処置: 2 番目のファイルが既に存在しており、書き込み可能であることを確認してください。

システムに十分なフリー・スペースがあることも確認してください。

CIE0730E ファイル *file-name* を削除できません。

説明: 指定されたファイルをシステムから削除できません。

ユーザーの処置: ファイルにアクセスできるかどうか確認してください。

CIE0731E ファイル *file-name* への書き込みに失敗しました。

説明: 指定されたファイルが書き込み可能ではありません。

ユーザーの処置: ファイルにアクセスできるかどうか確認してください。

システムに十分なフリー・スペースがあることも確認してください。

CIE0732E 行 *line* のデーモン索引エントリーの構文解析でエラーが発生しました。

説明: デーモン・ファイル *ciudem.dat* が破損しています。

誤りのある行が示されています。

ユーザーの処置:

- このファイルの名前を変更します (インスタンス・ディレクトリーにファイル *ciudem.dat* が存在しないようにします。)
- 次のコマンドを使用して、インスタンス・サービスを停止します。
`db2ts stop for text`
- 次のコマンドを使用して、インスタンス・サービスを開始します。
`db2ts start for text`
- 次のようにして、デーモン・ファイルを再作成します: `db2ts cleanup for text` (これは、全データベースを検索して索引の情報を得るため、時間がかかる場合があります。) 問題が発生した場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

CIE0733E *ciudem.dat* に次のエラーがありました: データベース・パーティション *database-partition* が無効です。

説明: デーモン・ファイル *ciudem.dat* が破損しています。

DB2 パーティションの値が数値ではありません。

ユーザーの処置:

- このファイルの名前を変更します (インスタンス・ディレクトリーにファイル *ciudem.dat* が存在しないようにします。)
- 次のコマンドを使用して、インスタンス・サービスを停止します。
`db2ts stop for text`
- 次のコマンドを使用して、インスタンス・サービスを開始します。
`db2ts start for text`
- 次のコマンドを使用して、デーモン・ファイルを再作成します。
`db2ts cleanup for text`

(これは、全データベースを検索して索引の情報を得るため、時間がかかる場合があります。)問題が発生した場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。

CIE0734E *number* 個の索引クリーンアップ・エラーが発生しました。

説明: クリーンアップ処理中に、示された数のエラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. db2diag.log を検査し、どのようなエラーが発生したのか調べます。
2. エラーの原因を修正してから、コマンドを再実行します。

CIE0735E この操作では、*number* 個中 *number* 個のコレクションを削除できませんでした。

説明: DROP コマンドまたは DISABLE コマンドの実行の際、テキスト検索エンジンの一部のコレクションをドロップできませんでした。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスが稼働中であることを確認します。

パーティション・データベースで作業している場合、すべてのサーバーについて確認する必要があります。それらのサーバーが実行中の場合、サーバーの停止および再始動を試行してください。db2diag.log で詳細を確認します。

CIE0736E コレクション *collection-name* を、テキスト検索索引 *schema-name.index-name* から削除できません。

CIE0737E ファイル *file-name* をオープンできません。理由コード: *reason-code*

説明: DB2 Text Search は指定のファイルをオープンできませんでした。

理由コード:

11

ファイルを読み取りアクセス用にオープンできませんでした。

12

ファイルを書き込みアクセス用にオープンできませんでした。ファイルは存在していると考えられます。

22

ファイルを書き込みアクセス用にオープンできませんでした。ファイルは存在していないと考えられます。

32

ファイルを書き込みアクセス用にオープンできませんでした。または、削除できませんでした。

ユーザーの処置: 指定のファイルのパスが存在することを確認してください。

パスおよびファイルのアクセス許可を調べて、示された理由コードに応じた、ファイルをオープンするために必要な設定になっていることを確認してください。

CIE0738E ノード構成ファイル *file-name* を読み取れません。

説明: 指定されたファイルは読み取れません。破損している可能性があります。

ユーザーの処置: ファイルの内容がノード構成ファイルの形式に準拠していることを確認してください。準拠していない場合、ファイルを適切に修正します。

CIE0739E ノード構成ファイル *file-name* にエラーがあります。理由コード: *reason-code*

説明: 指定のファイルの内容に整合性がありません。

理由コードは以下に示すように解釈されます。

1

インスタンス・サービスが実行されるノードを指定する必須ファイル項目が欠落しています。

2

ファイルに、インスタンス・サービスが実行されるノードを指定するファイル項目が複数あります。1 つだけでなければなりません。

ユーザーの処置: ファイル内容を確認し、理由コードに従ってファイルを修正してください。

CIE0740E ノード構成ファイル *file-name* には、ノード *database-partition* に関する項目が必要です。

説明: 指定のファイルには整合性がありません。少なくとも 1 つのノード項目が欠落しています。

ユーザーの処置: ノード構成ファイルを調整して、それが db2nodes.cfg ファイルと同期していることを確認してください。

CIE0741E コマンド *command-name* とプロシージャ *schema-name.procedure-name* の併用はサポートされません。

説明: 指定のコマンドを管理プロシージャと組み合わせることはサポートされていません。

CIE0742E

ユーザーの処置: このコマンドを実行するには、db2ts 実行可能プログラムを使用してください。

CIE0742E ノード・グループ情報がありません: 表スペース *table-space*、表スキーマ *schema-name*、表名 *table-name*、ノード・グループ名: *database-partition-group-name*。

CIE0743E インスタンス *instance* の DB2 インストール・コピーが見つかりませんでした。

説明: 指定のインスタンスが属する DB2 インストール・コピーが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 インストール済み環境を確認してください。以下について確認します。

1. DB2 Text Search オプションが選択されており、インストールが正常に完了している。
2. DB2 のインストール・コピーごとに DB2 CLP ウィンドウを開き、'DB2ILIST.EXE' コマンドを実行して、インスタンスが存在しているかどうかを確認してください。インスタンスが存在する場合、いずれかの DB2 CLP ウィンドウに表示されます。

CIE0744E テキスト検索インスタンス・サービスをシャットダウンできません。

説明: テキスト検索インスタンス・サービスを停止しようとしたが、停止できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Text Search を使用している際に、テキスト検索サービスの停止と再始動が必要であることを示すエラーが生じた場合は、以下のステップの実行が必要なことがあります。

- UNIX の場合、`ipcs` コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や DB2 Text Search などのすべてのアプリケーションを停止します。まだリソースがリストされる場合は、`ipcrm` を使用してクリーンアップします。
- 同じシステム上で複数の DB2 インスタンスが実行されている場合、各インスタンスの DB2 Text Search に固有の通信ポートが構成されていることを確認します。

CIE0745E ファイル・パス *path* が見つかりません。

説明: DB2 Text Search インストール・パスにファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 インストール済み環境を確認してください。DB2 Text Search オプションが選択されて

おり、インストールが正常に完了していることを確認します。

CIE0746E 認証エラーです。理由コード: *reason-code*

説明: テキスト検索の管理操作またはテキスト検索の照会の際に認証障害が発生しました。理由コードから、障害の原因に関する詳細情報が得られます。

理由コード:

- 1 トークンが無効です
- 2 ファイルが見つからないか、予期しないファイル許可になっています
- 3 プロセスを実行するためのシステム呼び出しが失敗しました
- 4 ファイル・システム呼び出しが失敗しました
- 5 ファイル・システム呼び出しが失敗しました
- 6 プロセスの作成に失敗しました
- 7 メモリー割り振りに失敗しました

ユーザーの処置: DB2 インストール済み環境を確認してください。DB2 Text Search オプションが選択されており、インストールが正常に完了していることを確認します。

DB2 インスタンスは、他の DB2 インスタンスからはアクセスできない特定のテキスト検索インスタンス・サービスに関連付けられています。正しいテキスト検索インスタンス・サービスにアクセスしていることを確認してください。

DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止して再始動してください。認証トークンを生成するためのツールを許可ユーザーとして実行することを検討してください。

CIE0747E テキスト検索サーバーの開始がタイムアウトになりました。

説明: テキスト検索インスタンス・サービスの開始に通常よりも長い時間がかかりました。

ユーザーの処置: DB2 Text Search を使用している際

に、テキスト検索サービスの停止と再始動が必要であることを示すエラーが生じた場合は、以下のステップの実行が必要なことがあります。

- UNIX の場合、`ipcs` コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や DB2 Text Search などのすべてのアプリケーションを停止します。まだリソースがリストされる場合は、`ipcrm` を使用してクリーンアップします。
- DB2 Text Search の構成を確認します。

CIE0748E 共有メモリーが使用不可です。

説明: 以前のエラーまたは許可の問題が原因で、共有メモリー・リソースにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: テキスト検索インスタンス・サービスが正常に開始されているか確認します。`db2diag.log` で詳細を確認するか、共有リソースをクリーンアップします。

テキスト検索インスタンス・サービスを停止して再始動します。

CIE0749E コレクション・ディレクトリーを削除できませんでした。

説明: `DISABLE` コマンドの実行中に、テキスト検索索引のコレクション・ディレクトリーを削除できませんでした。

ユーザーの処置: デフォルトでは、サブディレクトリーの名前はシステムによって生成され、データベース用のデータベース・パス `DBPATH` の `db2collections` サブディレクトリー下にあります。`db2collections` ディレクトリーは、`ENABLE` コマンドの実行時に作成され、データベースのテキスト検索が使用不可にされたときに削除されます。

CIE0750E コマンドは失敗しました。データベースは同時に NSE に関連付けられています。

説明: 1 つのデータベースに関連付けることができるのは、常に 1 種類のテキスト検索索引だけです。データベースではテキスト検索索引として DB2 Text Search または DB2 Net Search Extender のどちらかを使用できますが、同時に両方を使用することはできません。

ユーザーの処置: DB2 Net Search Extender を使用しない場合は、`DB2TEXT DISABLE DATABASE` コマンドを使用してデータベースを使用不可にしてください。逆に、DB2 Net Search Extender を使用する場合は、DB2 Text Search についてデータベースを使用不可にしてから、このコマンドを再試行してください。

CIE0751E 予期しない状態が検出されました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。予期しない状態が検出されました。操作を完了できませんでした。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して `db2diag.log` を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0752E Mutex エラーです。詳細: details。

説明: Mutex 関数の呼び出し時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースをオンにして詳細なエラー調査を行ってください。

CIE0753E 条件変数のエラーです。詳細: details。

説明: 条件変数の呼び出し時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースをオンにして詳細なエラー調査を行ってください。

CIE0754E スレッド・エラーです。詳細: details。

説明: スレッド関数の呼び出し時にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースをオンにして詳細なエラー調査を行ってください。

CIE0755E 通信障害です。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。通信層が例外をスローせずに障害を報告しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して `db2diag.log` を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0756E ホスト *host-name* のポート *port-number* に対する接続に失敗しました。

説明: Text Search サーバーへの接続は、いろいろな理由で失敗する可能性があります。最も一般的な理由は以下のとおりです。

1. DB2 Text Search サーバーが開始されていません。
2. DB2 インスタンスと、この操作が実行されるデータベースにおいて、DB2 Text Search 構成に不一致があります。
3. この DB2 インスタンスに DB2 Text Search サーバーが構成されていないか、または構成に誤りがあります。

CIE0757E

4. ポートの競合またはネットワーク通信の問題があります。

ユーザーの処置: 1. DB2 Text Search インスタンス・サービスを開始します。

2. テキスト検索を有効にしたデータベースのテキスト検索構成が、DB2 インスタンスの構成と一致するようにします。物理データベース・パーティション環境の場合は、必ず SYSIBMTS.TSSERVERS 管理ビューに実ホスト名が含まれていなければなりません。

1. SYSIBMTS.TSSERVERS ビューを、Text Search サーバー構成データを使用して更新します。

2. SYSPROC.SYSTS_CONFIGURE プロシージャを呼び出します。

3. FLUSH PACKAGE CACHE DYNAMIC コマンドを実行して、古いデータをデータベース・キャッシュから削除します。

3. configTool を使用して、統合または分離された DB2 Text Search サーバーが DB2 インスタンスに正しく構成されていることを確認します。

4. 正しい通信ポートが指定されていること、また、同じシステム上で複数の DB2 インスタンスが実行されている場合は、各インスタンスの Text Search サーバーが固有の通信ポートを使用するように構成されていることを確認します。ネットワーク接続が正常に機能していることを確認します。

CIE0757E ホスト *host-name* のポート *port-number* で受信に失敗しました。

説明: DB2 Text Search インスタンス・サービスが、1 つ以上の通信エラーを検出しました。

指定のホストのポート上で要求に対して応答中に、受信エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 Text Search の構成を確認してください。

指定の通信ポートが正しいことを確認してください。

エラーが解決しない場合、DB2 トレースを開始して db2diag.log を確認してください。さらに支援が必要な場合は IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CIE0758E ホスト *host-machine-name* のポート *port-number* で送信に失敗しました。

説明: DB2 Text Search インスタンス・サービスが、1 つ以上の通信エラーを検出しました。

指定のホストのポートに対して検索要求を送信中に、送信エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 Text Search の構成を確認してください。

指定の通信ポートが正しいことを確認してください。

エラーが解決しない場合、DB2 トレースを開始して db2diag.log を確認してください。さらに支援が必要な場合は IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CIE0759E ホスト *host-machine-name* のポート *port-number* で通信がタイムアウトになりました。

説明: DB2 Text Search インスタンス・サービスが、1 つ以上の通信エラーを検出しました。

指定のホストのポート上で、要求がタイムアウトになりました。

ユーザーの処置: DB2 Text Search の構成を確認してください。

指定の通信ポートが正しいことを確認してください。

エラーが解決しない場合、DB2 トレースを開始して db2diag.log を確認してください。さらに支援が必要な場合は IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CIE0760E プロトコル・エラーです。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。テキスト検索管理操作またはテキスト検索照会の処理中にプロトコル・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0761E 認証に失敗しました。

説明: テキスト検索の管理操作またはテキスト検索の照会の際に、認証に失敗しました。

ユーザーの処置: 構成が正しいこと、さらに DB2 に関連付けられたテキスト検索インスタンス・サービスを使用して操作が要求されたことを確認してください。

エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0762E アプリケーション・エラーです。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。テキスト検索の管理操作またはテキスト検索の照会の処理中にサーバー・アプリケーション・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0763E ホスト *host-name* のポート *port-number* で構文解析エラーが発生しました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。指定のホストのポート上で、要求に対する応答の処理中に構文解析エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0765E 不明な通信エラーです。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0766E 検索クライアントの状態が無効です。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0767E データ *data* が無効です。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。Base64 エンコード・ストリングに無効なデータが含まれています。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0768E ストリング *string* が位置合わせされていません。

説明: Base64 エンコード・ストリングが 4 文字境界で位置合わせされていないか、埋め込みが正しく行われていません。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0769E バッファ・サイズ *size* が小さすぎます。

説明: バッファ・サイズが小さすぎるために、内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0770E *method-name* のメモリー割り振りに失敗しました。

説明: 内部関数の呼び出し時に処理エラーが発生しました。指定したメソッドにメモリーを割り振ることができません。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーについて IBM サービス担当員に報告してください。

CIE0771E DB2 Text Search サービスがアクティブになっていない可能性があります。

説明: DB2 Text Search サービスにアクセスできません。最も可能性が高い理由として、サービスがまだ開始されていないことが考えられます。

ユーザーの処置: DB2 Text Search サービスを開始するために、次のコマンドを実行してください。

```
db2ts start for text
```

CIE0772E DB2 Text Search サービスが不整合な状態になっているため、再始動する必要があります。

説明: DB2 Text Search サービスが不整合な状態になっているため、サービスを再始動する必要があります。

ユーザーの処置: DB2 Text Search サービスを整合性のある状態にするため、次のコマンドを実行してください。

```
db2ts stop for text
db2ts start for text
```

CIE0773E テキスト検索の認証トークンが有効ではありません。

説明: DB2 Text Search 認証トークンが無効になっており、再生成が必要です。

ユーザーの処置: 有効な認証トークンを生成するため

CIE0774E • CIE0779E

に、次のコマンドを実行してください。

```
configTool generateToken
```

CIE0774E DB2 Text Search 構成が見つかりませんでした。より詳細な診断情報は db2diag ログ・ファイルにあります。

説明: DB2 Text Search 構成パラメーターへのアクセスを試行中に障害が発生しました。

ユーザーの処置: このエラーに対しては、以下の 1 つ以上の方法で対処してください。

- db2diag ログ・ファイルを参照して、このエラーに関する詳細情報を確認します。
- DB2 Text Search 構成パラメーターを表示するために、次のコマンドを実行します。

```
configTool printAll
```

CIE0775E DB2 Text Search 構成パラメーターを構成ファイルから読み取れませんでした。より詳細な診断情報は db2diag ログ・ファイルにあります。

説明: DB2 Text Search 構成パラメーターの読み取りを試行中に障害が発生しました。

ユーザーの処置: このエラーに対しては、以下の 1 つ以上の方法で対処してください。

- db2diag ログ・ファイルを参照して、このエラーに関する詳細情報を確認します。
- DB2 インスタンス・ディレクトリー内の tmp サブディレクトリーが使用可能で、インスタンス所有者に対して読み取りおよび書き込みが許可されていることを確認してください。

CIE0776E テキスト検索索引 *schema-name.index-name* のリストアに失敗しました。

説明: DB2 Text Search 索引のリストアを試行中に障害が発生しました。

最も一般的な理由は次のとおりです。

1. テキスト検索索引がバックアップ用に構成されていない。
2. テキスト検索のバックアップ構成のリストア設定が、Text Search サーバーでサポートされているリストア・モードと一致していない。

ユーザーの処置: このエラーについての詳細は、db2diag.log を参照してください。

1. テキスト検索索引がバックアップ用に構成されていない場合は、ALTER INDEX FOR TEXT 操作によ

てバックアップ・モードを有効にして、後続のリストアを実行できるようにしてください。

2. テキスト検索のバックアップ構成のリストア設定が無効な場合は、Text Search サーバーでサポートされているリストア・モードと一致するように、その構成を更新してください。

CIE0777E テキスト検索タスクのスケジューリングに失敗しました。DB2 管理タスク・スケジューラーが正しくセットアップされていることを確認してください。

説明: Text Search タスクの DB2 スケジューラーへの追加を試行中に障害が発生しました。

ユーザーの処置: 次の指示に従って、DB2 スケジューラーのセットアップを検証してください。以下のことを確認してください。

- DB2_ATS_ENABLE レジストリー変数が有効になっている
- データベースの SYSTOOLSPACE 表スペースが使用可能である
- データベースがアクティブになっている

テキスト検索索引操作を再実行して、タスクをスケジューラーに追加してください。

CIE0778E タスク名 *task-name* のスケジュールは既に存在します。

説明: このタスク名のスケジューラー・タスクは既に存在します。テキスト索引用のスケジュールのタスク名は、固有なテキスト索引 ID を使用して生成されますが、個別に作成された手動スケジュールのタスク名と競合する可能性があります。

ユーザーの処置: 操作を再実行してください。これによって索引 ID が新しくなり、その結果スケジュールのタスク名も新しくなります。エラーが解決しない場合は、TSSCHED_ 接頭部がシステム生成のテキスト索引スケジュール・タスクの名前用に予約されていることを確認してください。

CIE0779E DB2 Text Search サーバー構成を処理中にエラーが発生しました。

説明: DB2 Text Search 構成パラメーターの処理を試行中に障害が発生しました。

ユーザーの処置: テキスト検索用にデータベースを使用可能にした時、またはその後 SYSIBMTS.TSSERVERS 管理ビューに追加された情報 (ホスト、ポート、トークンなど) の妥当性を確認してください。

SYSTS_CONFIGURE プロシージャを実行して、無効と考えられるパラメーターを更新してください。

CIE0780E テキスト検索索引 *schema-name.index-name* に対するコレクション *collection-name* を作成できません。

説明: テキスト検索索引に対するコレクションを作成中にエラーが発生しました。パーティション・データベース環境で索引を作成すると、複数のコレクションが作成される可能性があります。

CREATE INDEX 操作が成功するためには、すべてのコレクションが正常に作成されなければなりません。

ユーザーの処置: コレクションが作成されるディレクトリーの読み取り許可および書き込み許可を確認します。次の点を確認してください。

- defaultDataDirectory パラメーターが configTool によって表示されること。これが、テキスト検索サーバーを開始したユーザーからアクセス可能であることを確認してください。
- 作成する索引に十分なディスク・スペースがあることを確認してください。

このエラーについての詳細は、db2diag.log を参照してください。

CIE0781E DB2 pureCluster 環境では DB2 Text Search はサポートされていません。

説明: DB2 pureCluster 環境では DB2 Text Search はサポートされていません。

ユーザーの処置: DB2 Text Search を再構成してください。

CIE0782E アクティブな DB2 Text Search サーバーの数の誤りがあります。

説明: SYSIBMTS.TSSERVERS ビューに次の不整合があったために、このエラーを受け取っています。

- SYSIBMTS.TSSERVERS ビューに行がない。
- 複数の行の SERVERSTATUS が、1 つのアクティブなサーバーを指すように設定されている。

ユーザーの処置: SYSIBMTS.TSSERVERS ビューで、1 つのアクティブなテキスト検索サーバーに対するエントリーが 1 つのみになるようにしてください。

第 8 部 CLI メッセージ

この項では、コール・レベル・インターフェース (CLI) メッセージについて説明されています。メッセージは番号順にリストされています。

第 52 章 CLI0000 - CLI0499

CLI0001W 切断エラーです。

説明: 切断中にエラーが発生しました。ただし、切断は成功しました。

ユーザーの処置: クライアントとサーバー間の通信がまだアクティブであるか調べてください。

CLI0002W データが切り捨てられました。

説明: 指定された出力バッファーには、データを入れるために十分な大きさがありません。

ユーザーの処置: 出力バッファーのサイズを増やしてください。

CLI0003W 権限が取り消されませんでした。

説明: ステートメントが REVOKE ステートメントで、ユーザーは指定された権限を持っていませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CLI0004W 接続ストリング属性が無効です。

説明: 接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ただし、ドライバーはデータ・ソースに接続可能でした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CLI0005W オプション値が変更されました。

説明: ドライバーは指定されたオプションの値をサポートしていないので、類似した値が代用されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CLI0006W SQLCancel をクローズと同様に扱いました。

説明: SQLCancel 呼び出しが、SQL_CLOSE オプションによる SQLFreeStmt 呼び出しのように処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CLI0008I キャプチャー・モードが終了しました。

説明: キャプチャー・モードまたは一致モードのいずれかで実行中の接続時間にメッセージを受け取ると、SQL ステートメントはキャプチャー・ファイルにキャプチャ

一されないか、またはキャプチャー・ファイルと一致しません。これは、必須の db2cli.ini キーワードが正しく構成されていないことが原因の可能性があります。メッセージを切断時間に受け取ると、これは正常な処理と見なされます。

ユーザーの処置: 必須の静的キャプチャーまたは静的一致 db2cli.ini キーワード (StaticMode、StaticPackage、StaticCapFile) が資料で指定されておりに正しく構成されていることを確認してください。

CLI0100E パラメーターの数が正しくありません。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter に指定されたパラメーター数が、SQL ステートメントにあるパラメーター数よりも小さくなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、SQLSetParam または SQLBindParameter を使用してパラメーター数を増やしてください。

CLI0101E ステートメントが結果セットを返しませんでした。

説明: 前のステートメントによって結果セットが返されていません。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0102E 無効な変換です。

説明: アプリケーションのデータ・タイプと SQL データ・タイプ間の変換は、ドライバーによってサポートされていません。

ユーザーの処置: ドライバーによってサポートされているデータ変換を再指定してください。

CLI0103E 列が多すぎます。

説明: SQLBindCol に指定された列数が、現在の結果セットの列数よりも多くなっています。

ユーザーの処置: SQL ステートメントを再指定するか、または SQLBindCol にあるバインド済み列情報をリセットしてください。

CLI0104E データ・ソースに接続できませんでした。

説明: ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

CLI0105E

ユーザーの処置: サーバーが始動しており、クライアントとサーバーの間の通信が正しいことを確認してください。

CLI0105E 接続が使用中です。

説明: 指定された接続ハンドルはすでに使用されており、接続はまだオープンされています。

ユーザーの処置: SQLAllocConnect を使用して新しい接続を割り振り、接続を再試行するか、または既存の接続を終了してください。

CLI0106E 接続がクローズされています。

説明: 接続ハンドルによって指定された接続が、アクティブではありません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0107E トランザクション中に、接続に障害が発生しました。

説明: 関数の実行中に接続に障害が発生し、障害の前に COMMIT または ROLLBACK が実行されたかどうか判別できません。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0108E 通信リンクに障害が発生しました。

説明: この関数の実行中に、ドライバーとデータ・ソース間の接続に障害が発生しました。

ユーザーの処置: 新しい接続を確立してください。

CLI0109E スtring・データの右側が切り捨てられました。

説明: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して指定されたデータが、パラメーター・マーカの使用に対して許可された最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0110E 無効な出力または標識バッファが指定されました。

説明: 返されたデータが NULL でしたが、指定された出力または標識バッファは NULL バッファでした。

ユーザーの処置: 非 NULL バッファを与えて出力または標識バッファを再指定し、操作をやり直してください。

CLI0111E 数値が範囲外です。

説明: 数値データが返されると、数値の整数部分が切り捨てられる可能性があります。

SQLPutData がパラメーターに対して複数呼び出され、入力データは文字または バイナリー数のタイプではありませんでした。

ユーザーの処置: 数値データが切り捨てられないようにするために、SQLBindCol または SQLGetData のいずれかを使用して、出力バインドを再指定してください。

SQLSetParam または SQLBindParameter によってそのパラメーターに指定されたアプリケーションのデータ・タイプが SQL_C_CHAR または SQL_C_BINARY ではない場合は、パラメーターに対して SQLPutData を呼び出さないでください。

CLI0112E 割り当てにエラーがありました。

説明: パラメーターまたは列について送信されたデータが、関連する表の列のデータ・タイプと一致しません。

ユーザーの処置: SQLBindCol または SQLGetData を使用して出力バインドを、あるいは SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して入力バインドを再指定してください。

CLI0113E 無効な日付/時刻形式です。

説明: 日付/時刻フィールドについて送信されたデータが無効です。無効な日時フォーマットが検出されました。つまり、無効なストリング表現または値が指定されました。

ユーザーの処置: 日付データを再指定してください。

CLI0114E 日時フィールドがオーバーフローしました。

説明: 日付、時刻、またはタイム・スタンプ・パラメーター、あるいは列について送信したデータが無効です。

ユーザーの処置: 日付、時刻、またはタイム・スタンプのデータを再指定してください。

CLI0115E カーソル状態が無効。

説明: ステートメントが行に位置付けられていません。

ユーザーの処置: SQLFetch または SQLExtendedFetch を呼び出して、ステートメントを行に位置付け、操作をやり直してください。

CLI0116E トランザクション状態が無効。

説明: SQLDisconnect が呼び出されたとき、実行中のトランザクションがありました。

ユーザーの処置: SQLDisconnect を呼び出す前に、SQLTransact を呼び出してください。

CLI0117E カーソル名が無効。

説明: 無効な、または重複したカーソル名が SQLSetCursorName に指定されました。

ユーザーの処置: SQLSetCursorName を使用して、有効なカーソル名を再指定してください。

CLI0118E SQL 構文が無効です。

説明: 無効な、または誤った SQL ステートメントが指定されました。

ユーザーの処置: 有効な SQL ステートメントを再指定してください。

CLI0119E 予期しないシステム障害です。

説明: 関数の処理中に予期しないシステム障害が発生しました。

ユーザーの処置: アプリケーションを再始動して、もう一度やり直してください。

CLI0120E メモリーの割り振りが失敗しました。

説明: ドライバーは、関数の実行または完了をサポートするために必要なメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: 要求された操作を完了するために十分なメモリーがシステムにあるか確認してください。

CLI0121E 無効な列数です。

説明: iCol で指定された値が 0 より小さいか、結果セットにある列数より大きい、または結果セットで許可されている列の最大数を超過しています。

ユーザーの処置: iCol に有効な値を再指定してください。

CLI0122E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: fCType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fCType に有効な値を再指定してください。

CLI0123E SQL データ・タイプが範囲外です。

説明: fSQLType に指定された値が無効です。

ユーザーの処置: fSQLType に有効な値を再指定してください。

CLI0124E 引数の値が無効です。

説明: 引数に指定された値が無効です。NULL ポインター、無効な長さ、無効なオプションなどが原因として考えられます。

ユーザーの処置: 関数に渡された引数をもう一度調べて、無効な引数を判別してください。

CLI0125E 関数のシーケンス・エラーです。

説明: この関数が誤った順序で呼び出されました。

ユーザーの処置: アプリケーションでの順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0126E この時点で無効な操作です。

説明: システムが実行しようとした操作は、この時点では無効です。

ユーザーの処置: 操作の順序を訂正して、操作をやり直してください。

CLI0127E トランザクション・コードが無効です。

説明: SQLTransact に指定されたトランザクション・オプションが、SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK ではありませんでした。

ユーザーの処置: SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK のどちらかを指定して、操作をやり直してください。

CLI0128E 予期しない、メモリーのハンドル・エラーです。

説明: メモリー・ハンドル・エラーです。

ユーザーの処置: 内部メモリー・バッファを処理中に、ドライバーで予期しないエラーが発生しました。アプリケーションを再始動してください。

CLI0129E ハンドルの割り振りに失敗しました。これ以上割り振り可能なハンドルがありません。

説明: CLI ハンドルはデータ・オブジェクトを参照する変数であり、DB2 CLI によって割り振りおよび管理

CLI0130E

されます。CLI のハンドルには 4 つのタイプがあります。

- 環境ハンドル
- 接続ハンドル
- ステートメント・ハンドル
- 記述子ハンドル

このメッセージは、割り振り可能なすべてのハンドルが割り振られてから、以下の関数の 1 つを使用してハンドルの割り振りを行おうとした場合に返されます。

- SQLAllocEnv
- SQLAllocConnect
- SQLAllocStmnt
- SQLAllocHandle
- SQLExecute
- SQLExecDirect

ユーザーの処置: 現在アプリケーションが使用していないハンドルを解放するため、SQLFreeEnv、SQLFreeConnect、SQLFreeStmnt のいずれか、または SQLFreeHandle を呼び出します。

このエラーの発生を減少させるため、以下のアクションのいずれかまたは両方を実行してください。

- より頻繁にハンドルを解放するようアプリケーションを変更します。
- BIND コマンドを使用して CLIPkg CLI/ODBC 構成パラメーターを増加させることにより、割り振り可能なステートメント・ハンドルの数を増加させます。

CLI0130E 使用できるカーソル名がありません。

説明: ステートメント上にオープン・カーソルがなく、カーソルが SQLSetCursorName で設定されていません。

ユーザーの処置: SQLSetCursorName を使用して、カーソル名を指定してください。

CLI0131E スtringまたはバッファの長さが無効です。

説明: 指定されたバッファの長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なバッファ長を指定してください。

CLI0132E 記述子タイプが範囲外です。

説明: 指定された記述子タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な記述子タイプを指定してください。

CLI0133E オプション・タイプが範囲外です。

説明: 指定されたオプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なオプション・タイプを指定してください。

CLI0134E 無効なパラメーター数です。

説明: パラメーター番号に指定された番号が 0 より小さいか、またはデータ・ソースによってサポートされているパラメーターの最大値を超えています。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター番号を指定してください。

CLI0135E 位取りの値が無効です。

説明: 指定された位取りの値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な位取り値を指定してください。

CLI0136E 関数タイプが範囲外です。

説明: 関数タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な関数タイプの値を指定してください。

CLI0137E 情報タイプが範囲外です。

説明: 情報タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な情報タイプの値を指定してください。

CLI0138E 列タイプが範囲外です。

説明: 列タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な列タイプの値を指定してください。

CLI0139E 有効範囲のタイプが範囲外です。

説明: 有効範囲のタイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な有効範囲タイプの値を指定してください。

CLI0140E Uniqueness オプション・タイプが範囲外です。

説明: uniqueness オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な uniqueness オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0141E Accuracy オプション・タイプが範囲外です。

説明: accuracy オプション・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効な accuracy オプション・タイプの値を指定してください。

CLI0142E Direction オプションが範囲外です。

説明: direction オプションが無効です。

ユーザーの処置: 有効な direction オプションの値を指定してください。

CLI0143E 精度の値が無効です。

説明: 精度の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な精度の値を指定してください。

CLI0144E パラメーター・タイプが無効です。

説明: パラメーター・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なパラメーター・タイプの値を指定してください。

CLI0145E フェッチ・タイプが範囲外です。

説明: フェッチ・タイプが無効です。

ユーザーの処置: 有効なフェッチ・タイプの値を指定してください。

CLI0146E 行の値が範囲外です。

説明: 行の値が無効です。

ユーザーの処置: 有効な行の値を指定してください。

CLI0147E Concurrency オプションが範囲外です。

説明: concurrency オプションは無効です。

ユーザーの処置: 有効な concurrency オプションの値を指定してください。

CLI0148E カーソルの位置が無効です。

説明: カーソルの位置が無効です。

ユーザーの処置: 有効なカーソルの位置の値を指定してください。

CLI0149E ドライバーの完了が無効です。

説明: ドライバーの完了が無効です。

ユーザーの処置: 有効なドライバー完了値を指定してください。

CLI0150E ドライバーが使用できません。

説明: この操作は有効ですが、ドライバーまたはデータ・ソースによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な操作を指定してください。

CLI0151E ペンディングのデータはありません。

説明: SQLParamData または SQLPutData が呼び出されましたが、このステートメントで実行をペンディングのデータがありません。

ユーザーの処置: SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

CLI0152E スtring値ではありません。

説明: 関数は、String引数が指定されることを予期しています。

ユーザーの処置: 関数に渡す引数を再指定してください。

CLI0153E ファイル名の長さが無効です。

説明: ファイル名に指定された長さが無効です。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0154E 接続状態が無効です。

説明: 接続タイプを変更しようとしたますが、接続または他の接続 (分散作業単位の場合) がすでにオープンされています。

ユーザーの処置: 接続がオープンされてから、接続タイプを変更しないでください。

CLI0155E ファイル名が長すぎます。

説明: ファイル名に与えられた長さが、サポートされている長さを超えています。

ユーザーの処置: 有効なファイル名の長さを指定してください。

CLI0156E

CLI0156E ファイルのクローズ・エラーです。

説明: ファイルをクローズ中に予期しない状態が発生しました。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。

CLI0157E ファイルのオープン・エラーです。

説明: ファイルをオープン中に予期しない状態が発生しました。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。

CLI0158E ファイルの書き込みエラーです。

説明: ファイルの書き込み中に予期しない状態が発生しました。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。

CLI0159E ファイルの削除エラーです。

説明: ファイルを削除中に予期しない状態が発生しました。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。

CLI0164E NULL タイプが範囲外です。

説明: 無効な NULL の値が指定されました。

ユーザーの処置: NULL 値を再指定してください。

CLI0165E 行にエラーがあります。

説明: 1 つ以上の行をフェッチ中にエラーが発生しました。(関数は SQL_SUCCESS_WITH_INFO を返しました。)

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。

CLI0166E PARMLIST 構文エラーです。

説明: ストアード・プロシージャのカタログ表の PARMLIST の値に、構文エラーがあります。

ユーザーの処置: このストアード・プロシージャの行を再指定してください。

CLI0167E 操作が取り消されました。

説明: SQLCancel がステートメントで呼び出されました。

ユーザーの処置: 操作を再サブミットしてください。

CLI0171E データベースが接続できませんでした。理由: *reason-text*

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みてください。

CLI0172E データベースが接続できませんでした。構成を続けますか? 理由: *reason-text*

説明: データベース接続が失敗しました。「理由:」は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

ユーザーの処置: 問題を修正し、もう一度接続を試みるか、または構成を続けてください。

CLI0175E ODBC Driver Manager が見つかりません。ODBCINST.INI ファイルをオープンできません。

説明: Visigenic または Intersolv のいずれかの ODBC Driver Manager がインストールされていません。ODBC Driver Manager は、関連した ODBCINST.INI ファイルに DB2 ODBC ドライバーを登録する前に存在していなければなりません。

ユーザーの処置: ODBC Driver Manager をインストールして、このコマンドの実行をやり直してください。

CLI0176E ODBCINST.INI ファイルに書き込みできません。

説明: ODBC Driver Manager で使用される ODBCINST.INI ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。これは、オリジナルの ODBCINST.INI ファイルの形式が正しくないために発生することがあります。

ユーザーの処置: 既存の ODBCINST.INI ファイルを他の名前に変更して、このコマンドの実行をやり直してください。このエラーが続く場合には、技術サービス担当者に連絡してください。

CLI0177E IBM データ・サーバー・クライアントがインストールされている場所を判別することができません。

説明: IBM データ・サーバー・クライアントのインストール場所を見つけようとしている時にエラーが起きました。

ユーザーの処置: IBM データ・サーバー・クライアント

トが正しくインストールされていることをチェックしてください。

CLI0178I DB2 ODBC ドライバーが正常に登録されました。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、インストール済みの ODBC Driver Manager に登録されました。

ユーザーの処置: ユーザーはこの時点で、ODBC Driver Manager ベンダーによる適切な ODBC 管理者ツールを使用し、ODBC データ・ソースを構成することができます。

CLI0179E ダイアログ・ボックスを表示できません。

説明: DB2 ODBC ドライバーは、アプリケーションによって用意されたウィンドウ・ハンドルでダイアログ・ボックスをオープンすることができません。

ユーザーの処置: アプリケーションは正しいウィンドウ・ハンドルを渡さなければなりません。

CLI0180E ブックマークの値が無効です。

説明: 引数 fFetchOrientation は SQL_FETCH_BOOKMARK であり、SQL_ATTR_FETCH_BOOKMARK_PTR ステートメント属性の値が指すブックマークは正しくありません。

ユーザーの処置: 正しいブックマークの値を再指定してください。

CLI0181E 記述子索引が無効です。

説明: 列番号の引数として指定した値が無効です。

ユーザーの処置: 正しい列番号を再指定してください。

CLI0182W 小数点以下切り捨てです。

説明: ある列のデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0183E 関連ステートメントが準備されていません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、関連ステートメント・ハンドルが準備状態にありません。

ユーザーの処置: 記述子と関連のあるステートメントを準備してください。

CLI0184E インプリメンテーション行の記述子を修正できません。

説明: 記述子ハンドルは IRD と関連があり、IRD レコード・フィールドを更新できません。

ユーザーの処置: 正しい記述子およびフィールドを指定してください。

CLI0185E 自動割り振りの記述子ハンドルについて無効な使用です。

説明: SQLAllocHandle 関数を使用して割り振られた明示記述子のみ、この方法で使用することができます。

ユーザーの処置: 明示的に割り振った記述子を使用してください。

CLI0186E サーバーは取り消し要求を拒否しました。

説明: 通信エラーのため、サーバーが取り消し要求を拒否しました。

ユーザーの処置: 特になし。

CLI0187E 文字またはバイナリー数のいずれでもないデータが別々に送信されました。

説明: SQLPutData が、文字でもバイナリーでもない列に対して複数回呼び出されました。

ユーザーの処置: 文字またはバイナリー数のいずれでもないデータに対して、SQLPutData を 1 回だけ呼び出してください。

CLI0188E null 値の連結を試行します。

説明: このパラメーターに対する SQLPutData の直前の呼び出しによって、長さが SQL_NULL_DATA の入力バッファが指定されました。

ユーザーの処置: 正しい入力バッファの長さで SQLPutData を呼び出すか、または SQLPutData を正確な回数で呼び出していることを確認してください。

CLI0189E 記述子情報が矛盾します。

説明: 関連する記述子が、整合性チェックで失敗しました。

ユーザーの処置: 記述子フィールドが正しいか、また互いに依存しているフィールドがすべて正しく設定されているかを確認してください。

CLI0190E 間接的な参照では無効な記述子です。

説明: 記述子ハンドルが無効であるか、または ARD の TYPE、OCTECT_LENGTH、DATA_PTR、INDICATOR_PTR、OCTECT_LENGTH_PTR フィールドに無効な値が入っています。

ユーザーの処置: 間接記述子ハンドルが正しいか、また据え置きフィールドが正しく設定されているかどうか確認してください。

CLI0191E 属性の値が無効です。

説明: 与えられた値は、指定した属性について正しくありません。

ユーザーの処置: 指定した属性に正しい値を使用してください。

CLI0192E 無効なデータベース別名が指定されました。

説明: DB2CAP コマンドの -d パラメーターに無効な、または存在しないデータベース別名を指定しました。

ユーザーの処置: 存在するデータベース別名を指定してください。現在カタログされているデータベースを判別するには、LIST DATABASE DIRECTORY コマンドを使用してください。

CLI0193E キャプチャー・ファイル *capture-file-name* が見つからないか、または使用中です。

説明: DB2CAP は、BIND パラメーター値として指定されたファイル <capture-file-name> をオープンすることができません。ファイルが存在しないか、または別の処理が独占して使用しています。

ユーザーの処置: 存在するキャプチャー・ファイルの名前を指定するか、またはファイルが別のプロセスから解放されるまで待機してください。

CLI0194E コマンド構文エラーです。正しい構文:
db2cap [-h | -?] bind capture-file -d
db-alias [-u userid [-p password]]

説明: コマンド名と同様、DB2CAP コマンドのパラメーターは、指定の構文図に示されているとおりに入力しなければなりません。UNIX プラットフォームでは大文字と小文字が区別されますが、Intel プラットフォームでは区別されません。パラメーターとその値の間には、スペースを少なくとも 1 つ入れなければなりません。例: -u userid は正しい形式ですが、-userid は正しくありません。

構文図において、大括弧 ([]) はオプション・パラメーターを表しています。userid を指定しても password を省略した場合、パスワードを入力するよう要求されません。(パスワードを入力するとき、画面には表示されません。)

-h または -? パラメーターを指定すると、コマンドは構文ヘルプを表示し、その他のパラメーターは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドの構文がダイアグラムで説明されている形式になっているかどうか確認してください。

CLI0195E 無効なキャプチャー・ファイル: 有効なステートメント・グループを含んでいません。

説明: キャプチャー・ファイルには、有効なステートメント・グループが少なくとも 1 つ入っていなければなりません。

ユーザーの処置: 同じキャプチャー・ファイルを使用してアプリケーションを再キャプチャーし、SQL ステートメントが少なくとも 1 つキャプチャーされたかどうかを確認するか、あるいはキャプチャー・ファイルを編集して、ステートメント・グループを手操作で追加してください。ステートメント・グループを手操作で追加する場合、追加する SQL ステートメントのタイプに必須のキーワードをすべて指定してください。その後、要求をもう一度サブミットしてください。

CLI0196E ユーザー切り替え操作は、この時点では無効な操作です。

説明: アプリケーションは、作業単位内でユーザーを切り替えることはできません。

ユーザーの処置: 操作の順序を訂正してください。アプリケーションは、作業単位が始まる前に、ユーザーを切り替える必要があります。

CLI0197E この接続ではトラステッド・コンテキストが有効ではありません。属性の値が無効です。

説明: 初期トラステッド接続が確立される前に、属性 SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID または SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD を設定してトラステッド接続を再利用することはできません。

ユーザーの処置:

SQL_ATTR_USE_TRUSTED_CONTEXT が設定されていて、トラステッド・コンテキストが有効になっていること、およびトラステッド接続が確立されていることを確認してください。

CLI0198E トラストド・コンテキスト・ユーザー ID が欠落しています。

説明: 必須属性

SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID を指定せずに、属性

SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD が設定されました。

ユーザーの処置: 属性

SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD を設定する際には、SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID 属性も設定されていることを確認してください。

CLI0199E 接続ストリング属性が無効です。

説明: 接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: 有効な接続ストリング属性を指定して、やり直してください。

CLI0200E DSN 値が無効です。

説明: 接続ストリングまたは接続 API 内で DSN に使用しようとしている値が無効です。

ドライバーが、データ・ソースとの接続を試行しませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DSN を指定して、再試行してください。

CLI0201E データベース値が無効です。

説明: 接続ストリングまたは接続 API 内のデータベース名またはデータベース別名が無効です。

ドライバーが、データ・ソースとの接続を試行しませんでした。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を指定して、再試行してください。

CLI0202E CLI Client Optimization フィーチャーのキャプチャー・ファイルのオープン・エラーです。

説明: CLI Client Optimization フィーチャーは、pureQueryXML CLI パラメーター値で指定されたファイルを開くことができません。ファイルに正しい許可がないか、または別の処理がファイルを独占して使用しています。

CLI Client Optimization フィーチャーは、CLI キーワード "captureMode" または "executionMode" のいずれかが

指定されると使用可能になります。

pureQueryXML CLI キーワードは、CLI アプリケーションが実行されているディレクトリー・ロケーションの絶対パスまたは相対パスのいずれかを使ってキャプチャー・ファイルのロケーションを指定します。

Client Optimization フィーチャーのキャプチャー・フェーズでは、指定されたロケーションにキャプチャー・ファイルは、存在していても、存在していなくてもかまいません。ファイルが存在する場合、Client Optimization フィーチャーは、キャプチャー・ファイルに対する読み取り許可および書き込み許可を必要とします。ファイルが存在しない場合、Client Optimization フィーチャーは、ファイルを作成するためにディレクトリーに対する書き込み許可を必要とします。

Client Optimization フィーチャーの突き合わせフェーズでは、キャプチャー・ファイルは存在していなければならない。Client Optimization フィーチャーは、指定されたファイルに対する読み取り許可を必要とします。

これらのいずれかの許可を使用できない場合、CLI はエラーを返します。

ユーザーの処置: pureQueryXML CLI キーワードに対して適切な許可を使用してキャプチャー・ファイルの名前を指定するか、Client Optimization フィーチャーを使用不可にしてください。

CLI0203E DB2 CLI ドライバーの静的プロファイルが使用可能になっているときに Client Optimization フィーチャーがサポートされません。

説明: DB2 CLI ドライバーの静的プロファイル機能を Client Optimization フィーチャーと一緒に使用することができません。CLI では、特定のデータベース接続において、Client Optimization と静的プロファイル機能の両方を同時に使用可能にすることができません。

ユーザーの処置: Client Optimization フィーチャーか、DB2 CLI ドライバーの静的プロファイル機能のいずれかを使用してください。Client Optimization は、CLI キーワード captureMode および executionMode を除去することによって使用不可にすることができます。DB2 CLI ドライバーの静的プロファイルは、StaticMode CLI キーワードを除去することによって使用不可にすることができます。

CLI0204E SQL ステートメントの動的実行が許可されていません。

説明: executionMode CLI キーワードが STATIC に設定され、allowDynamicSQL CLI キーワード値が FALSE に設定されているときに、Client Optimization フィーチャー

CLI0205E

ャーは、一致する SQL ステートメントを pureQueryXml キャプチャー・ファイル内で見つけることができませんでした。この構成で、動的実行が許可されていません。

CLI アプリケーションによって動的に実行することを期待されている SQL ステートメントがある場合、allowDynamicSQL に値 TRUE を指定することで、一致するステートメントが pureQueryXml キャプチャー・ファイル内で見つからない場合に SQL ステートメントを動的に実行することができます。

あるいは、増分キャプチャー・フェーズを使用して、欠落している SQL ステートメントがあればそれが含まれるように pureQueryXml キャプチャー・ファイルをリフレッシュすることもできます。このキャプチャー・フェーズの後に、Client Optimization フィーチャーの構成フェーズおよび StaticBinder フェーズが続かなければなりません。その後、executionMode の値が STATIC に設定されたアプリケーションを実行できるようになります。

ユーザーの処置: allowDynamicSQL キーワードに値 TRUE を指定するか、SQL ステートメントが含まれるように pureQueryXml キャプチャー・ファイルをリフレッシュしてください。

CLI0205E ライブラリー db2clixml4c が見つかりません。

説明: db2clixml4c がライブラリー・パスで見つかりません。

ライブラリー・パスは以下のオペレーティング・システムで環境変数によって定義されます。

AIX (Java 1.1)

LD_LIBRARY_PATH

AIX (Java 1.2 以降)

LIBPATH

HP-UX

SHLIB_PATH

Linux

LD_LIBRARY_PATH

Silicon Graphics IRIX

LD_LIBRARY_PATH

Solaris オペレーティング環境

LD_LIBRARY_PATH

Windows オペレーティング・システム

PATH

db2clixml4c ライブラリーは、CLI アプリケーションが Client Optimization フィーチャーの使用を要求した場合に、動的にロードされます。CLI は、このライブラリーを求めてライブラリー・パスを探します。DB2 CLI ドライバーはインストール時に、このライブラリーをデフォルトのライブラリー・パスに組み込みます。

db2clixml4c ライブラリーが見つからない場合は、CLI キーワード captureMode および executionMode を除去することにより Client Optimization フィーチャーを使用不可にすることができます。

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を使用するのに正しく構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。

CLI0206E pureQueryXml キャプチャー・ファイルのエレメントを読み取ることができません。

説明: Client Optimization フィーチャーは pureQueryXml キャプチャー・ファイルを読み取りません。このファイル内の 1 つ以上の項目が破損しているか無効な場合、Client Optimization フィーチャーを続行できません。

pureQueryXml キャプチャー・ファイルを手動で変更した場合に、このエラーが発生することがあります。ファイルが変更されておらず、それが CLI ドライバーまたは構成ツールによってまったく問題なく生成されていた場合は、IBM 技術サポートに連絡し、支援を求めてください。

ユーザーの処置: pureQueryXml キャプチャー・ファイルが正しいものであることを確認するか、pureQueryXml キャプチャー・ファイルを再キャプチャーしてください。

CLI0207E pureQueryXml キャプチャー・ファイルのファイル拡張子が無効です。

説明: pureQueryXml キャプチャー・ファイルのファイル拡張子は "xml" または "pdqxml" でなければなりません。

ユーザーの処置: サポートされているファイル拡張子を持つファイルを pureQueryXml CLI キーワードで指定してください。

CLI0208E この接続は XA 環境の一部であるため、接続に対してコード・ページを設定できませんでした。

説明: XA 環境では、接続レベルでのコード・ページの

設定はサポートされていません。

このメッセージが戻されるのは、`xa_open` に対する呼び出しが行われてから、接続属性 `SQL_ATTR_CLIENT_CODEPAGE` をアプリケーションが設定しようとした場合です。

コード・ページは変更されませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージに対しては、以下のいずれかの方法で応答してください。コード・ページを変更しないで接続をオープンする場合には、`SQL_ATTR_CLIENT_CODEPAGE` 接続属性を指定しないで接続を再オープンしてください。コード・ページを変更する場合には、`DB2CODEPAGE` 環境変数を使用します。

CLI0209E アプリケーションは照会を実行できませんでした。原因は、`capturedOnly` キーワードが `TRUE` に設定されているものの、クライアントの最適化では、`pureQueryXML` キャプチャー・ファイルに一致するステートメントが見つからなかったためです。

説明: SQL ステートメントと XQuery ステートメントを `pureQueryXML` キャプチャー・ファイルに収集すると、SQL と XQuery のパフォーマンスを良くすることができます。

`pureQueryXML` ファイルにある一致するステートメントだけを実行する場合には、`capturedOnly` キーワードを `TRUE` に設定します。`capturedOnly` キーワードが `TRUE` に設定されていると、`pureQueryXML` ファイル内にはない SQL ステートメントは実行されません。

このメッセージが戻されるのは、`capturedOnly` キーワードが `TRUE` に設定されているものの、`pureQueryXML` ファイルには一致するステートメントが存在しない場合です。

ユーザーの処置: `pureQueryXML` ファイルでクライアントの最適化を使用するには、以下の手順を実行します。

- SQL ステートメントと XQuery ステートメントを `pureQueryXML` ファイルにキャプチャーするために、以下の手順を実行します。
 - `captureMode` プロパティを `ON` に設定して、キャプチャー・モードを開始します。
 - キャプチャーする SQL ステートメントまたは XQuery ステートメントが含まれるすべての論理パスを実行します。
 - `captureMode` プロパティを `OFF` に設定して、キャプチャー・モードを終了します。
- アプリケーションを再実行します。

CLI0210E パラメーター・マーカーまたは結果セット列のコード・ページが `SQL_ATTR_OVERRIDE_CHARACTER_CODEPAGE` 接続属性で現在指定されているコード・ページと一致しないため、ステートメントは実行できませんでした。

説明: 一般に、クライアント・アプリケーションのコード・ページが、アプリケーションの接続先のデータベース・サーバーのコード・ページと異なる場合、データが挿入または取得されるときに文字変換が自動的に行われます。

パラメーター化された挿入操作と更新操作、および照会結果のフェッチについては、接続属性

`SQL_ATTR_OVERRIDE_CHARACTER_CODEPAGE` を使用してこの自動の動作をオーバーライドできます。ステートメントのパラメーター・マーカーと結果セット列のうちのどちらかのコード・ページが

`SQL_ATTR_OVERRIDE_CHARACTER_CODEPAGE` の値と一致する場合、ステートメント実行時に文字変換は発生しません。

このメッセージは、ステートメントのパラメーター・マーカーまたは結果セット列の記述情報が、接続属性 `SQL_ATTR_OVERRIDE_CHARACTER_CODEPAGE` で設定されたコード・ページと一致しない場合に、そのステートメントを実行しようとしたときに戻されます。

ユーザーの処置: 文字変換を行わずにデータを挿入または取得するには、以下のステップを実行してください。

- 現行ステートメントのパラメーター・マーカーまたは結果セット列の記述情報によって示されているコード・ページを判別します。
- 現行接続に関連したステートメント・ハンドルがある場合はすべて解放します。
- 接続属性 `SQL_ATTR_OVERRIDE_CHARACTER_CODEPAGE` を、現行ステートメントのパラメーター・マーカーまたは結果セット列の記述情報によって示されているコード・ページと同じコード・ページに設定します。
- 現行ステートメント・ハンドルを再び割り振ります。
- ステートメントを再び実行します。

CLI0211E 指定された値が既存のプロパティ設定と両立しないため、指定されたプロパティの構成に失敗しました。

説明: `pureQuery` クライアント最適化を使用することにより、データベース・アプリケーションのパフォーマンス

スを改善できます。例えば、pureQuery クライアント最適化を使用すると、アプリケーションを書き換えずに、実行の遅い SQL ステートメントを非常に高速に実行される SQL ステートメントに置換することができます。

pureQuery クライアント最適化フィーチャーの動作は、プロパティのコレクションにより制御されます。例えば、SQL ステートメントの置換を有効にするため、enableDynamicSQLReplacement プロパティを TRUE に設定できます。このメッセージは、このようなプロパティの 1 つに設定しようとした値が既存の他のプロパティ値と両立しない場合に返されます。

以下の両立しない組み合わせのうちの 1 つを使用して pureQuery クライアント最適化を構成しようとすると、このメッセージが返されます。

- 動的 SQL 置換とキャプチャー・モードの両方を有効にしようとした。

動的 SQL 置換は、pureQuery がキャプチャー・モードであるときはサポートされません。具体的には、captureMode が ON に設定されている場合は enableDynamicSQLReplacement を TRUE に設定することはできず、enableDynamicSQLReplacement が TRUE に設定されている場合は captureMode を ON に設定することはできません。

- 静的実行モードとキャプチャー・モードの両方を有効にしようとした。

静的実行モードは、pureQuery がキャプチャー・モードであるときはサポートされません。具体的には、captureMode が ON に設定されている場合は executionMode を STATIC に設定することはできず、executionMode が STATIC に設定されている場合は captureMode を ON に設定することはできません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- pureQuery クライアント最適化フィーチャーを使用する必要がない場合は、以下の構成を設定することにより、このフィーチャーを無効にします。

```
captureMode=OFF
[または設定しないままにしておく]
executionMode=DYNAMIC
[または設定しないままにしておく]
```

- pureQuery クライアント最適化フィーチャーを使用するには、pureQuery クライアント最適化フィーチャー・プロパティを両立する適切な組み合わせで使用します。

- 動的 SQL 置換とキャプチャー・モードのどちらかを有効にします。両方有効にはできません。
 - 動的 SQL 置換を有効にするには次のプロパティを設定します。

```
enableDynamicSQLReplacement=TRUE
captureMode=OFF
[または設定しないままにしておく]
```

- キャプチャー・モードを有効にするには次のプロパティを設定します。

```
captureMode=ON
enableDynamicSQLReplacement=FALSE
```

[または enableDynamicSQLReplacement を設定しないままにしておく]

- キャプチャー・モードを有効にするか、または静的実行モードを使用します。両方を使用可能にはできません。

- キャプチャー・モードを有効にするには次のプロパティを設定します。

```
captureMode=ON
executionMode=DYNAMIC
[または設定しないままにしておく]
```

- 静的実行モードを使用するには次のプロパティを設定します。

```
captureMode=OFF
[または設定しないままにしておく]
executionMode=STATIC
```

CLI0212W 実行要求中にシームレス・フェイルオーバーが発生しました。

説明: メンバーからメンバーへ、またはグループからグループへの実行要求中に、シームレス・フェイルオーバーが発生しました。ただし、実行要求は正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CLI0213E リポジトリからの pureQueryXML ファイルの取り出しが失敗しました。

説明: pureQuery ランタイムは、ランタイム・グループ ID と接続情報を使用して、pureQueryXML ファイルの取り出し元のリポジトリを判別します。

以下のいずれかの理由で、pureQueryXmlRepository プロパティまたは propertiesGroupId プロパティを使用して示された pureQueryXML ファイルをリポジトリから取り出せません。

- pureQueryXmlRepository プロパティで示されたリポジトリが無効であるかアクセスできない。
- propertiesGroupId プロパティで指定されたランタイム・グループ ID が無効であるかアクティブ化されていない。

ユーザーの処置: 以下のうち現在の事例に該当するアクションをすべて実行してください。

- pureQueryXmlRepository プロパティーで指定したリポジトリへのアクセス権があることを確認します。
- propertiesGroupId プロパティーで指定したランタイム・グループ ID がアクティブ化されていることを確認します。
- 必要な場合は、pureQueryXmlRepository プロパティーまたは propertiesGroupId プロパティーの値を調整し、このリポジトリから pureQueryXML ファイルにアクセスできるようにします。

CLI0214E 構成ファイル内で **propertiesGroupId** プロパティーが指定されていませんでした。

説明: propertiesGroupId プロパティーが、pureQueryXML ファイルのリポジトリで定義されているランタイム・グループ ID に設定されていませんでした。

pureQuery ランタイムは、ランタイム・グループ ID と接続情報を使用して、pureQueryXML ファイルの取り出し元のリポジトリを判別します。propertiesGroupId が指定されていない場合は、リポジトリから pureQueryXML ファイルを取り出せません。

ユーザーの処置: propertiesGroupId プロパティーを、pureQueryXML ファイルの保管場所のリポジトリで定義されているランタイム・グループ ID に設定します。

CLI0215E captureMode 接続キーワードが「ON」に指定されており、pureQueryXML キーワードが指定されなかったため、接続が失敗しました。

説明: pureQuery クライアント最適化を使用することにより、データベース・アプリケーションのパフォーマンスを改善できます。例えば、SQL ステートメントが実行されるつど、そのステートメントに関する情報を pureQueryXML キャプチャー・ファイルにキャプチャーできます。その後キャプチャー・ファイルを使用して、同じ SQL ステートメントを改善されたパフォーマンスで実行できます。

captureMode 接続キーワードを「ON」に設定すると、SQL ステートメント情報のキャプチャーが開始されます。キャプチャー・ファイル (pureQueryXML ファイルとも呼ばれる) の場所を指定するには、pureQueryXML 接続キーワードに有効なファイル名を設定します。キャプチャー・ファイルの場所を指定しないと、キャプチャー・モードをオンにすることはできません。

このメッセージは、pureQueryXML キャプチャー・ファイルの場所が指定されていないときに pureQuery キャプチャー・モードをオンにしようとすると返されます。

ユーザーの処置: pureQueryXML 接続キーワードを使用

してキャプチャー・ファイルの場所を指定し、再び接続してください。

CLI0217E pureQuery クライアント最適化機能は、キャプチャー・ファイルのバージョンが CLI によってサポートされていないため、指定された pureQueryXML キャプチャー・ファイルを使用できませんでした。

説明: SQL ステートメントと XQuery ステートメントに関する情報を pureQueryXML キャプチャー・ファイルに収集すると、SQL と XQuery のパフォーマンスを良くすることができます。キャプチャー・ファイルの生成に使用した方式で、pureQueryXML キャプチャー・ファイルのバージョンが決まります。pureQueryXML キャプチャー・ファイルを生成する方法の例を以下に示します。

- db2cap コマンドを使用
- GeneratePureQueryXml と呼ばれる pureQuery ユーティリティーを使用

DB2 for Linux, UNIX, and Windows のコール・レベル・インターフェース (CLI) は、GeneratePureQueryXml ユーティリティーによって生成される pureQueryXML キャプチャー・ファイルをサポートしません。

GeneratePureQueryXml ユーティリティーで生成された pureQueryXML キャプチャー・ファイルを使用した pureQuery クライアント最適化を DB2 CLI アプリケーションが使用しようとする、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: GeneratePureQueryXml ユーティリティー以外の方式を使用して pureQueryXML キャプチャー・ファイルを再生成してください。

CLI0219E DB2 クライアントまたはデータ・サーバー・ドライバーは証明書ベースの認証を使用するよう構成されていますが、接続にパスワードも指定されていたため、証明書ベースの認証に失敗しました。

説明: 証明書ベースの認証を使用する DB2 データベース・サーバーに対して、ユーザー ID のみに基づく SSL クライアント認証を行うことができます。証明書ベースの認証を使用すると、SSL クライアント認証を使用する際に、データベース・クライアントにデータベース・パスワードを保管したり保守したりする必要がなくなります。

証明書ベースの認証を使用するには、CLI 構成ファイル db2cli.ini で、あるいはデータ・サーバー・ドライバー構成ファイル db2dsdriver.cfg で SSLClientKeystash または

CLI0220E

SSLClientKeystoreDBPassword などの構成パラメーターを指定します。

証明書ベースの認証は、認証情報を提供するように構成されている場合、パスワードを他の方法 (db2dsdriver.cfg 構成ファイル、db2cli.ini 構成ファイル、あるいは接続ストリングなど) で指定することはできません。認証情報を提供するように証明書ベースの認証を構成し、別の方法でパスワードも指定すると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 証明書ベースの認証を使用して認証するには、以下の手順に従います。

1. CLI 構成ファイルまたはデータ・サーバー・ドライバ構成ファイル内で SSLClientKeystash か SSLClientKeystoreDBPassword を指定します。
2. db2dsdriver.cfg 構成ファイル、db2cli.ini 構成ファイル、または接続ストリングでパスワードが指定されていないことを確認します。

CLI0220E 相互に排他的な 2 つの構成パラメーターが両方とも指定されていたため、証明書ベースの認証に失敗しました。

説明: 証明書ベースの認証を使用するには、CLI 構成ファイル db2cli.ini、データ・サーバー・ドライバ構成ファイル db2dsdriver.cfg、あるいは接続ストリングで、SSLClientKeystash 構成パラメーターまたは SSLClientKeystoreDBPassword 構成パラメーターのいずれかを指定します。

構成パラメーター SSLClientKeystash および SSLClientKeystoreDBPassword は相互に排他的です。このメッセージは、SSLClientKeystash 構成パラメーターおよび SSLClientKeystoreDBPassword 構成パラメーターが両方とも、CLI 構成ファイルまたはデータ・サーバー・ドライバ構成ファイルで指定されている場合に戻されます。

ユーザーの処置: 証明書ベースの認証を使用して認証を行うには、CLI 構成ファイル db2cli.ini、データ・サーバー・ドライバ構成ファイル db2dsdriver.cfg、あるいは接続ストリングで、SSLClientKeystash 構成パラメーターまたは SSLClientKeystoreDBPassword 構成パラメーターのいずれかを指定します。

CLI0221E DB2 クライアントまたはデータ・サーバー・ドライバは証明書ベースの認証を使用するよう構成されていますが、SSLClientLabel パラメーターが指定されていなかったため、証明書ベースの認証に失敗しました。

説明: 証明書ベースの認証を使用するには、CLI 構成

ファイル db2cli.ini、データ・サーバー・ドライバ構成ファイル db2dsdriver.cfg、あるいは接続ストリングで SSLClientLabel パラメーターを指定します。

証明書ベースの認証が認証情報を提供するように構成されている場合、SSLClientLabel パラメーターが db2dsdriver.cfg 構成ファイル、db2cli.ini 構成ファイル、あるいは接続ストリングで指定されている必要があります。認証情報を提供するように証明書ベースの認証を構成したのに、SSLClientLabel パラメーターがないか無効になっていると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 証明書ベースの認証を使用して認証を行うには、CLI 構成ファイル、データ・サーバー・ドライバ構成ファイル、あるいは接続ストリングで SSLClientLabel パラメーターを指定します。

CLI0222E SSLClientLabel パラメーターが指定されましたが、DB2 クライアントまたはデータ・サーバー・ドライバが証明書ベースの認証を使用するように構成されていなかったため、認証に失敗しました。

説明: 証明書ベースの認証を使用するには、接続ストリング、CLI 構成ファイル db2cli.ini、あるいはデータ・サーバー・ドライバ構成ファイル db2dsdriver.cfg で、認証パラメーターを CERTIFICATE に指定します。

認証情報を提供するように証明書ベースの認証を構成しない場合は、SSLClientLabel パラメーターを指定することはできません。このメッセージは、認証情報を提供するように証明書ベースの認証が構成されておらず、接続ストリング、db2cli.ini 構成ファイル、あるいは db2dsdriver.cfg 構成ファイルで SSLClientLabel パラメーターが設定されている場合に戻されます。

ユーザーの処置: 証明書ベースの認証を使用して認証するには、以下の手順に従います。

1. 認証パラメーターを CERTIFICATE に設定します。
2. CLI 構成ファイルまたはデータ・サーバー・ドライバ構成ファイル内で SSLClientLabel を指定します。

証明書ベースの認証以外の認証方式を使用するには、接続ストリング、db2cli.ini 構成ファイル、および db2dsdriver.cfg 構成ファイルから SSLClientLabel パラメーターを削除します。

第 53 章 CLI0500 - CLI0999

CLI0600E 無効な接続ハンドルか、または接続がクローズされています。

説明: 操作よりも前に接続がクローズされました。

ユーザーの処置: 操作よりも前に接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

CLI0601E 無効なステートメント・ハンドルか、またはステートメントがクローズされていません。

説明: 操作よりも前にステートメントがクローズされました。

ユーザーの処置: 操作の前にステートメント・クローズおよびステートメント接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

CLI0602E サーバー上のメモリー割り振りエラー。

説明: サーバー上でメモリーを割り振ることができません。

ユーザーの処置: 詳細については、データベース管理者に DB2 JDBC ログ・ファイルの確認を依頼してください。プログラムを再実行してください。

CLI0603E CallableStatement get*** メソッドが registerOutParameter なしで呼ばれました。

説明: Get*** メソッドは registerOutParameter を使用して登録されなかったパラメーター上で呼ばれました。

ユーザーの処置: パラメーターに registerOutParameter 呼び出しを追加してください。

CLI0604E CallableStatement get*** メソッドは呼び出しの実行をされずに呼ばれました。

説明: CallableStatement get*** メソッドは呼び出し中の CallableStatement の実行よりも前に呼ばれました。

ユーザーの処置: どの CallableStatement get*** メソッドよりも前に CallableStatement の実行が呼ばれるようにしてください。

CLI0605E CallableStatement get*** メソッドは registerOutParameter で使用されたタイプと一致しませんでした。

説明: CallableStatement get*** メソッドは、このパラメーターの registerOutParameter で使用されたタイプと一致するものではありません。

ユーザーの処置: このパラメーターの registerOutParameter で使用されるタイプに一致する get*** メソッドに変更してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0606E 列が返した値は、get*** メソッドに対応するデータ・タイプと互換性がありません。

説明: CHAR/VARCHAR/LONGVARCHAR 列内の値は無効な数値です。

ユーザーの処置: 数値を返すメソッド以外の適切な get メソッドを使用してください。

CLI0607E 無効な日付時刻形式です。

説明:

CHAR、VARCHAR、LONGVARCHAR、GRAPHIC、または VARGRAPHIC 列にある日付/時刻/タイム・スタンプの値は無効です。

ユーザーの処置: getDate/getTime/getTimestamp 以外の適切な get*** メソッドを使用してください。

CLI0608E 無効な変換です。

説明: get*** メソッドはこの列タイプでは無効です。

ユーザーの処置: この列からデータを検索する有効な get*** メソッドを使用してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0609E 数値が範囲外です。

説明: この列の値は short または int 値として大きすぎるか、小さすぎ、変換によってデータが失われる原因となります。

ユーザーの処置: 値を調節できる get メソッドを使用してください。

CLI0610E 無効な列数です。

説明: 列数は 1 より小さいか ResultSet の総列数より大きい数です。

ユーザーの処置: 列数が 1 より小さくなく、総列数よ

CLI0611E

り大きくならないようにしてください。

CLI0611E 無効な列名。

説明: 指定された列名は ResultSet に見つかりません。

ユーザーの処置: 列名が正しいか確認してください。

CLI0612E 無効なパラメーター数です。

説明: 指定されたパラメーター数が 1 より小さく、総パラメーター数より大きい数です。

ユーザーの処置: パラメーター数が 1 以上、かつ総パラメーター数以下になるようにしてください。

CLI0613E プログラム・タイプが範囲外です。

説明: PreparedStatement/CallableStatement で指定されたオブジェクトは有効なオブジェクト・タイプではありません。

ユーザーの処置: 設定されるオブジェクトが setObject で許可されているオブジェクト・タイプの 1 つであることを確認してください。(JDBC 仕様を参照)

CLI0614E ソケットへの送信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーへデータを送信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0615E ソケットからの受信エラー、サーバーは応答しません。

説明: サーバーからデータを受信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0616E ソケットのオープン・エラー。

説明: サーバーへのソケットをオープンできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

CLI0617E ソケットのクローズ・エラー。

説明: サーバーへのソケットをクローズできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

ユーザーの処置: JDBC サーバーの稼働を確認し、プロ

グラムを再実行してください。

CLI0618E ユーザー ID またはパスワード (あるいは両方) が無効です。

説明: 指定されたユーザー ID/パスワードが無効です。

ユーザーの処置: ユーザー ID/パスワードが正しいことを確認して、プログラムを再実行してください。

CLI0619E 無効な UTF8 データ形式です。

説明: getUnicodeStream が DBCS 列でない列で呼ばれる場合、UTF8 形式からのデコードが行われますが、データは正しくデコードできません。

ユーザーの処置: getString、getBytes、getAsciiStream、または getBinaryStream を使用してください。

CLI0620E IOException、入力ストリームからの読み取りエラーです。

説明: 入力ストリームから入るデータを読み取り中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイル長が正しく指定されているか確認してください。

CLI0621E サポートされていない JDBC サーバー構成です。

説明: ターゲット JDBC サーバー構成はサポートされていません。コントロール・センターを実行している場合、ターゲット JDBC サーバーはスタンドアロンの db2jd 処理 (db2jstrt によって開始されたもの) でなければならず、2 階層のネイティブ JDBC サーバーである必要があります。

ユーザーの処置: コントロール・センターのターゲットとなるポートに対して db2jstrt を使うことによって、JDBC サーバーを再構成してください。

CLI0622E JDBC 管理サービス拡張機能へのアクセス・エラー。

説明: コントロール・センターは、JDBC サーバーとともに実行する管理サポート・サービスに依存しています。コントロール・センターは、それらの管理サービスを見つかることができずアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コントロール・センターの管理サービスが JDBC サーバーと共にインストールされていることを確認してください。

CLI0623E コード・ページ変換表がありません。

説明: コード・ページ変換表が見つかりません。

ユーザーの処置: 変換表 (ローカル・コード・ページから Unicode への変換と Unicode からローカル・コード・ページへの変換) がインストールされているかどうか、確認してください。

CLI0624E コード・ページ変換表がロードされていません。

説明: コード・ページ変換表をロードできません。

ユーザーの処置: JDBC アプリケーションに、コード・ページ表へのアクセスがあり、表が破壊されていないかどうか、確認してください。

CLI0625E JDBC 1.22 の振る舞いを指定しました。JDBC 2.0 関数は使用できません。

説明: 呼び出そうとしている関数は、JDBC 2.0 で定義された新規の関数ですが、JDBC 1.22 の振る舞いが必要であると指定しました。

ユーザーの処置: JDBC 2.0 関数を使用する場合には、JDBCVERSION キーワードを "122" に設定しないでください。設定をしないか、または "200" に設定します。

CLI0626E *function-name* は、DB2 JDBC 2.0 ドライバのこのバージョンではサポートされません。

説明: このフィーチャーは、DB2 JDBC 2.0 ドライバのこのバージョンではサポートされません。

ユーザーの処置: このフィーチャーを使用しないでください。

CLI0627E 結果セットはスクロールできません。

説明: 結果セットはスクロールできません。

ユーザーの処置: ステートメント / 結果属性設定を SCROLLABLE に設定しているか、確認してください。

CLI0628E パラメーター・セット *parameter-number* 番の *set-number* 番パラメーター・マーカーが設定されていません。

説明: この入力パラメーターに対して、set<data-type> メソッドが呼び出されていません。

ユーザーの処置: set<data-type> メソッドを呼び出して、この入力パラメーターの入力値のデータ・タイプを指定してください。

CLI0629E *function-name* はこの列でサポートされません。

説明: この操作は、この列では呼び出されません。

ユーザーの処置: 別のメソッドに変更してください。

CLI0630E 識別されない結果セット・タイプ / 並列性 *number* です。

説明: 結果セット・タイプまたは並列性に対して、無効な値が指定されました。

ユーザーの処置: 仕様で示されている正しい値に変更してください。

CLI0631E 混合文字 / clob 列のランダム・アクセスがありません。

説明: ランダム・アクセスは、この混合文字列ではサポートされていません。

ユーザーの処置: データを順番に検索してください。

CLI0632E 無効なフェッチ・サイズです。0 から *maxRows* の間の値である必要があります。

説明: フェッチ・サイズは、0 以上で、*maxRows* 以下である必要があります。

ユーザーの処置: 値を修正してください。

CLI0633E 現在行がないときには *relative()* を呼び出すことができません。

説明: カーソルが有効行にない時に、相対メソッドが呼び出されました。

ユーザーの処置: まず、カーソルを有効行に移動し、(absolute, next, など)、次に *relative* を呼び出します。

CLI0634E CLI 環境ハンドルの割り振りでエラーが発生しました。

説明: 初期化中に SQLAllocEnv が失敗しました。

ユーザーの処置: DB2INSTANCE 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

CLI0635E *function-name* はアプレットでサポートされていません。

説明: <function-name> はアプレットでサポートされていません。

ユーザーの処置: アプレットで <function-name> を使用しないでください。

CLI0636E プロパティ *property-name* が Context オブジェクトに指定されていません。

説明: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ *property-name* が指定されていません。

ユーザーの処置: Java アプリケーション中で、Context オブジェクトのプロパティ *property-name* が指定されているか確認してください。

CLI0637E *object* が見つかりません。

説明: <object> が存在しません。

ユーザーの処置: <object> が存在するかどうか確認してください。

CLI0638E *object* はすでに存在します。

説明: すでに存在するため、<object> を作成することができません。

ユーザーの処置: 操作が正しいかどうか確認してください。

CLI0639E スtringが空です。

説明: 空のStringは許可されていません。

ユーザーの処置: 指定されているStringを訂正してください。

CLI0640E *object* をリストできません。

説明: <object> をリストできません。

ユーザーの処置: <object> をリストできるかどうか確認してください。

CLI0641E バッチに SELECT ステートメントがあります。

説明: SELECT ステートメントはバッチでは許可されていません。

ユーザーの処置: バッチから SELECT ステートメントを除去してください。

CLI0642E フェッチ指示が無効です。

説明: 指定されたフェッチ指示はサポートされていません。

ユーザーの処置: フェッチ指示を訂正してください。

CLI0643E バッチにステートメントがありません。

説明: バッチの中にステートメントがありません。

ユーザーの処置: ステートメントをバッチに追加してください。

CLI0644E absolute() 呼び出しへの行の値が無効です。

説明: absolute() 呼び出しに指定されている行の値は無効です。

ユーザーの処置: 行の値を訂正してください。

CLI0645E ドライバー *class-name* の登録エラー。メッセージ: *message*。SQLSTATE: *sqlstate*。SQLCODE: *sqlcode*。

説明: DriverManager が DB2 JDBC ドライバーを登録できません。

ユーザーの処置: 返されたメッセージ、SQLSTATE、および SQLCODE に従って問題を訂正し、プログラムをもう一度実行してください。

CLI0646E ライブラリー *library-name* が見つかりません。

説明: *library-name* は、ライブラリー・パスにあります。ライブラリー・パスは以下のオペレーティング・システムで環境変数によって定義されます。

AIX (Java 1.1)

LD_LIBRARY_PATH

AIX (Java 1.2 以降)

LIBPATH

HP-UX SHLIB_PATH

Linux LD_LIBRARY_PATH

Silicon Graphics IRIX

LD_LIBRARY_PATH

Solaris オペレーティング環境

LD_LIBRARY_PATH

Windows オペレーティング・システム

PATH

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を使用するのに正しく構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。

CLI0647E DB2 環境ハンドルの割り振りでエラーが発生しました。戻りコード = *return-code*。

説明: DB2 CLI 環境を確立できませんでした。

ユーザーの処置: アプリケーション環境が DB2 を使用するのに正しく構成されていることを確認してください。UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために `sqllib/db2profile` スクリプトが実行されていることを確かめてください。戻りコードの解説については、「コール・レベル・インターフェースのガイドおよびリファレンス」の `SQLAllocHandle()` の項を参照してください。

CLI0648N **ResultSet** はクローズされました。

説明: 操作よりも前に `ResultSet` がクローズされました。

ユーザーの処置: 操作よりも前に `ResultSet.close()` が呼ばれていないことを確認してください。

`getMoreResults()` を使って複数の `ResultSet` を処理する場合は、必ず新しい `ResultSet` にアクセスする前に `getResultSet()` を呼び出してください。

CLI0649N `executeQuery` は、**ResultSet** を戻すステートメントにのみ許可されます。

説明: `executeQuery` は、`ResultSet` を戻すステートメントにのみ許可されます。このような SQL ステートメントには、`SELECT`、`VALUES`、`WITH`、および `CALL` ステートメントなどがあります。

ユーザーの処置: `executeUpdate()` または `execute()` を使用します。

CLI0650N 照会は `executeUpdate()` では許可されません。

説明: `executeUpdate()` を使って照会を発行することはできません。

ユーザーの処置: `executeQuery()` または `execute()` を使用します。

CLI0651N ストリームに、指定されたより多いか少ないデータが含まれています。

説明: ストリームのバイト数または文字数が指定された長さと等しくありません。

ユーザーの処置: 正しい長さを指定してください。

CLI0652W このデータベース・サーバーは非挿入の照会についてアトミック操作をサポートしないので、この照会の実行はアトミックになりません。

説明: `SQL_ATTR_PARAMOPT_ATOMIC` ステートメント属性を使用して、複数のパラメーター・マーカの処理を一括して 1 つの操作として行う (アトミック) か、複数の操作として行う (アトミックでない) かを指定できます。例えば、値 `SQL_ATOMIC_YES` を指定すると、照会の基になる処理をアトミック操作として実行することになります。

このメッセージは、ある 1 つの照会について以下の条件がすべて成り立つ場合に戻されます。

- その照会で `SQL_ATTR_PARAMOPT_ATOMIC` 属性が `SQL_ATOMIC_YES` に設定されている。
- その照会が挿入操作ではない。
- その照会が DB2 for z/OS データベース・サーバー (非挿入の照会のアトミック処理をサポートしない) に対して実行されている。

ユーザーの処置: この警告に応答する必要はありません。DB2 for z/OS データベース・サーバーに対して、非挿入の照会がアトミックに実行されるように強制する方法はありません。

第 9 部 Net Search Extender のメッセージ

検索関数から戻される SQL 状態は 38600 に CTE エラー番号をプラスしたものであることに注意してください。

第 54 章 CTE0000 - CTE0499

CTE0015W リセットする必要があるテキスト保守の従属表は見つかりませんでした。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。指定された表の基準と一致する従属表は見つかりませんでした。

CTE0016W *schema-name.table-name* の保全性の設定に失敗しました。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。コマンドは正常に完了されませんでした。

詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『RESET PENDING』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 失敗した表に対し "Set Integrity for <schema>.<table> IMMEDIATE CHECKED" を実行してください。

CTE0017W 従属表の整合性設定に失敗しました。

説明: RESET PENDING コマンドは、全文検索の管理に使用される従属表に対して、SET INTEGRITY ステートメントを実行します。コマンドは正常に完了されませんでした。

詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『RESET PENDING』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 基本表の従属表のうち、まだ保留モードであるものに対して、"Set integrity for <dependent-table> immediate checked" を実行してください。

CTE0100E DB2 操作が失敗しました。DB2 情報: %2 %4。

説明: これ以上の処理ができない DB2 エラーが起きました。

ユーザーの処置: この DB2 エラーに関する詳細情報を得るには、コマンド db2 ? SQLxxx を使用してください。

CTE0101E 検索エンジン操作が失敗しました。理由コ

ード: %2、%3、%4、%5、%6。

説明: これ以上の処理ができない検索エンジン・エラーが起きました。

ユーザーの処置: 詳細情報を得るには、検索エンジンの理由コードの説明を参照してください。

CTE0102E 一般システム機能が失敗しました。エラー: %2。

説明: 処理の続行が許可されないシステム・エラーが起きました。

ユーザーの処置: 追加情報が UNIX の errno.h ヘッダー・ファイルにあります。

CTE0103E 内部エラーが発生しました。ロケーション: %1、%2。

説明: これ以上の処理ができない内部処理エラーが起きました。DB2 同様に、更新サービス、ロック・サービスを開始して、次に停止してみてください。

ユーザーの処置: エラーが続く場合は、トレースを開始し、さらに db2diag.log もチェックしてください。

CTE0104E メモリー割り振りエラー (検索エンジン) です。

説明: システムでメモリー不足が発生しました。

ユーザーの処置: インスタンス所有者の使用可能メモリー・サイズを増やすか、並行して実行中の他のプロセスを停止してください。

CTE0105E メモリー割り振りエラー。

説明: システムでメモリー不足が発生しました。

ユーザーの処置: ユーザーの使用可能メモリー・サイズを増やすか、並行して実行中の他のプロセスを停止してください。

CTE0106E 表 %1.%2 には主キーがありません。

説明: 主キーがない表に索引を作成しようとしてしました。

ユーザーの処置: db2 alter table を呼び出して、主キーが存在することを確認してください。その後、索引の作成を再試行します。

CTE0107E ディレクトリー %1 は存在しません。

説明: 存在しないディレクトリーを指定しました。

ユーザーの処置: ディレクトリーを作成し、インスタンス所有者のアクセス可能性を確認してください。その後、そのディレクトリーを再び指定します。分散 DB2 環境では、各物理ノードにこのディレクトリーが存在している必要があります。

CTE0108E オブジェクト %1.%2 のキー列の内部サイズ %4 が、可能な最大サイズ %3 よりも大きなサイズです。

説明: キー列の内部表記が最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。小さなキー列の使用もまた、パフォーマンスを向上させます。

CTE0109E オブジェクト %1.%2 のキー列の数 %3 が、可能な最大サイズ %4 よりも大きなサイズです。

説明: サポートされるキー列の最大数は、14 です。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。

CTE0110E オブジェクト %1.%2 の主キーが、許可された範囲を超えています。

説明: 主キーの長さが最大サイズを超えています。主キーの長さ制限は、表で使用される表スペースのページ・サイズに基づきます。

キーの最大長	ページ・サイズ
1007	4K
2031	8K
4079	16K
4094	32K

主キーが複数の列で構成されている場合、追加の列ごとに、ここで示した制限から 2 バイトずつ減少させる必要があります。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。小さなキー列の使用もまた、パフォーマンスを向上させます。

CTE0111E ファイル %1 を読み取れません。

説明: 指定されたファイルを読み取ることができません。

ユーザーの処置: ファイルのアクセス権限を確認してください。ストアード・プロシージャが、このファイルで作業する権限も必要な分離ユーザー ID として稼働することを考慮してください。

CTE0112E ファイル %1 がオープンできません。

説明: 指定されたファイルをオープンできません。

ユーザーの処置: ファイルが正しく指定されているか確認してください。

CTE0113E UTF8 エンコードへのモデル・ファイル %1 の変換エラー。

説明: 指定した CCSID またはデフォルト・データベースの CCSID が、モデル・ファイルの CCSID に一致しません。

ユーザーの処置: モデル・ファイルの CCSID の正しい仕様を確認してください。

CTE0114E ファイル %2 の文書モデル %1 を登録できません。

説明: モデル・ファイルを使用できませんでした。

ユーザーの処置: モデル・ファイル構文が正しく指定されているか確認してください。

CTE0115E ロックの問題が発生しました。ロック・マネージャー情報: %1 %2。

説明: 内部ロック問題が発生しました。

ユーザーの処置: db2text control コマンドを使用して、現行ロックを確認してください。同じコマンドを使用して、ベンディング・ロックをクリーンアップしてください。このアクションでも修正されない場合は、ロックおよび更新サービスを停止してから再始動してください。

CTE0116E 操作が既存のロックと矛盾します。

説明: 別のコマンドがこの索引で実行中であるため、現在許可されていないコマンドを使用しようとしてしました。

ユーザーの処置: この索引で保留中のロックを調べて、現在実行中のコマンドを確認してください。他のコマンドが完了するまで待機します。操作はこれ以上稼働しないけれども、ロックが依然としてアクティブである場

合、索引のロックをクリーンアップしてからやり直してください。

CTE0117E データベースに使用可能なロック・スペースがすべて使用されます。構成を変更してください。

説明: ロック・ファイルに構成されているより多くのデータベースで作業しようとした。

ユーザーの処置: ロック構成 db2extlm.cfg で並列して処理したいデータベースの数を変更してください。db2text stop と db2text start コマンドを使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0118E データベースの索引に使用可能なロック・スペースがすべて使用されます。構成を変更してください。

説明: 1 つのデータベースに対して、ロック・ファイルで構成されているより多くの索引で作業しようとした。

ユーザーの処置: ロック構成ファイル db2extlm.cfg で並列して処理したい索引の数を変更してください。db2text stop と db2text start コマンドを使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0119E 索引のロックに使用可能なスペースがすべて使用されます。

説明: 実行している操作は、ロック構成ファイルで構成されているより多くのロックを 1 つの索引に対して必要とします。

ユーザーの処置: ロック構成 db2extlm.cfg で並列して処理したいロックの数を変更してください。db2text stop と db2text start コマンドを使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0120E 更新およびロック・サービス構成ファイル・エラーです。

説明: 構成ファイル db2extlm.cfg にエラーがありません。

ユーザーの処置: db2extlm.cfg ファイルを確認して、エラーを訂正してください。db2text start コマンドを使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0121E 更新およびロック・サービス構成ファイルを開くことができません。

説明: ファイル db2extlm.cfg をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが存在して、アクセス可能であるか確認してください。ファイルにアクセスできない場合は、db2iupdt を使用して DB2 インスタンスの更新を試みてください。

CTE0122E 更新およびロック・サービス構成ファイル・エラーで構文エラーがあります。

説明: 更新およびロック・サービス構成ファイル・エラーで構文エラーがあります。

ユーザーの処置: エラーに対して、更新およびロック・サービス構成ファイルを確認してください。

CTE0126E 更新およびロック・サービス、入力ファイル %1 が壊れています。

説明: 更新およびロック・サービスに必要なファイルが壊れています。

ユーザーの処置: ファイルが存在して、アクセス可能であるか確認してください。ファイルにアクセスできる場合は、そのファイルの名前を変更して、更新およびロック・サービスを再始動してください。ファイルが再作成されます。ただし、このファイルは create index (索引作成) に指定された更新頻度をすべて除去します。

CTE0127E 更新およびロック・サービス構成ファイル・エラーが発生しました。理由コード: %1。

説明: 更新およびロック・サービス・エリアで内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 および Net Search Extender を停止して、共有リソースをクリーンアップしてください。DB2 および Net Search Extender を再始動してください。それでもエラーが発生する場合は、問題を IBM 担当者に報告してください。

CTE0129E NULL 値をパラメーターとして渡すことができません。

説明: DB2 は、内部ユーザー定義関数に NULL 値を渡しました。

ユーザーの処置: まずは、指定された基本表に主キーがあることを確認してください。この問題を回避するよう、SELECT ステートメントを変更してください。トレ

CTE0130E

ース機能をオンに切り替えて、リターン情報を IBM サービスに渡してください。

CTE0130E 指定された検索指数が最大長を超えています。現在の検索指数の長さは %1 で、サポートされる最大長は %2 です。

説明: 指定された検索指数の長さは %1 です。最大長が %2 を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 検索指数の長さを %2 に減らしてください。

CTE0131E ユーザー定義関数 %1.%2 が存在しません。

説明: このデータベースには、指定されたユーザー定義関数が存在しません。

ユーザーの処置: このユーザー定義関数に指定した名前を確認するか、使用しているデータベースにこのユーザー定義関数を登録してください。

CTE0132E テキスト索引 %1.%2 が存在しません。

説明: 指定したテキスト索引は、このデータベースには存在しません。

ユーザーの処置: 指定した名前および使用しているデータベースを確認してください。既存のテキスト索引を表示するには、db2ext.text 列ビューを使用してください。

CTE0133E テキスト索引 %1.%2 は既に存在します。

説明: 指定したテキスト索引は、このデータベースに既に存在しています。

ユーザーの処置: 指定した名前および使用しているデータベースを確認してください。既存のテキスト索引を表示するには、db2ext.text 列ビューを使用してください。

CTE0135E オブジェクト %1.%2 は存在しません。

説明: このデータベースには、指定されたオブジェクト名が存在しません。

ユーザーの処置: 指定したオブジェクト名および使用しているデータベースを確認してください。

CTE0136E 列 %1 が、%2.%3 に存在しません。

説明: 指定された列は存在しません。

処置

指定した列名を確認してください。使用している表、ビュー、またはデータベースを確認してください。

CTE0137E 表スペース %1 は存在しません。

説明: このデータベースには、指定された表スペースが存在しません。

ユーザーの処置: 指定した名前および使用しているデータベースを確認してください。

CTE0138E %1 は REGULAR 表スペースではありません。

説明: 指定した表スペースは、REGULAR ではありません。イベント表は、REGULAR 表スペースでのみ作成可能です。

ユーザーの処置: REGULAR 表スペースで、このコマンドを再度使用してください。

CTE0139E 環境変数 %1 が設定されていません。

説明: 必要な環境変数が設定されていません。

ユーザーの処置: 環境を確認して、必要な値を指定してから、このコマンドを再度使用してください。

CTE0140E データベース %1 が、既にテキストで使用可能になっています。

説明: 指定したデータベースが、既にテキストで使用可能になっています。

ユーザーの処置: 指定した名前を確認してください。暗黙接続を暗黙指定する DB2DBDFT 変数も確認してください。

CTE0141E データベース %1 が、テキストで使用可能になっていません。

説明: 指定したデータベースが、テキストで使用可能になっていません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名と DB2DBDFT 変数を確認してください。データベース名が正しい場合、db2text enable database for text コマンドを使用してください。

CTE0142E コマンドが、ユーザー %3 に付与された %1.%2 に対するコントロール権限を必要とします。

説明: このコマンドを使用する権限がありません。

ユーザーの処置: この表の所有者だけが、このコマンドを使用できるか、または必要な許可を授与することができます。

CTE0143E このコマンドには、ユーザー %1 のデータベース管理者権限が必要です。

説明: このコマンドを使用するための必要な権限がありません。

ユーザーの処置: このデータベースの所有者だけが、このコマンドを使用できるか、または必要な許可を授与することができます。

CTE0144E データベース %1 に、少なくとも 1 つのアクティブなテキスト索引があります。

説明: すべてのテキスト索引がドロップされてから、データベースを使用不可にすることができます。

ユーザーの処置: 既存の索引については、db2ext.text 列ビューを参照してください。DROP INDEX コマンドを使用して既存の索引をドロップするか、DISABLE DATABASE コマンドに FORCE オプションを指定してください。

CTE0145E CCSID %1 はサポートされていません。

説明: 指定した CCSID は、サポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な CCSID を指定してください。

CTE0146E 言語 %1 がサポートされていません。

説明: 指定された言語はサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な言語を指定してください。

CTE0147E 形式 %1 はサポートされていません。

説明: 指定された形式はサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効な形式を指定してください。

CTE0148E 指定されたフォーマット %1 ではモデル・ファイルを使用できません。

説明: フォーマット %1 は、モデル・ファイルをサポートしません。

ユーザーの処置: モデル・ファイルを受け入れるフォーマットを使用するか、コマンドからモデル・ファイルを除去してください。

CTE0149E 索引更新頻度に指定された条件 (先頭が %1) が多すぎます。

説明: 更新頻度の構文が正しくありません。

ユーザーの処置: DAY、HOUR、および MINUTE パラメーターの指定は 1 回のみとしてください。

CTE0150E コマンドが予期せずに終了しました。コマンド構文を確認してください。

説明: コマンド構文が正しくないか、範囲パーティション表に索引を作成する際に ADMINISTRATION TABLES IN 節が省略されています。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認してください。必須パラメーターが指定されていることを確認してください。範囲パーティション表に対して索引を作成している場合は、ADMINISTRATION TABLES IN 節を指定してください。

CTE0151E トークン %1 は予期されていません。コマンド構文を確認してください。

説明: このコマンドの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認し、使用しているトークンが特定のコマンドで許可されていることを確認してください。

CTE0152E トークン %1 が長すぎます。

説明: トークンが長すぎます。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認し、トークンを許容最大サイズまで短くしてください。

CTE0153E 更新頻度にトークン %1 が 2 つありません。

説明: 更新頻度に対して誤った構文が指定されました。

ユーザーの処置: DAY、HOUR、および MINUTE パラメーターの指定は 1 回のみとしてください。

CTE0154E %2 の値 %1 は範囲外です。有効な範囲は %3 - %4 です。

説明: 不正な値が指定されました。値は、許容範囲内であればなりません。

ユーザーの処置: コマンドを更新してください。値を変更して許容範囲内の値になるようにしてください。

CTE0155E 検索ストリングが空です。

説明: 空の検索ストリングを指定しました。

ユーザーの処置: 検索ストリングに有効な英数字が含まれているか確認してください。

CTE0157E %1 の前後に構文エラーがあります。

説明: 誤った検索ストリングを指定しました。

ユーザーの処置: %1 の前後の構文を調べて、訂正してからやり直してください。

CTE0158E フリー・テキスト検索ストリングがありません。

説明: フリー・テキスト・ストリングを指定してください。

ユーザーの処置: "is about" の後ろの検索ストリングに、有効な英数字が含まれているかどうかをチェックしてください。

CTE0159E 検索ストリングが許可される長さ %1 を超えています。

説明: 検索ストリングが長すぎます。

ユーザーの処置: 検索ストリングのサイズを減らしてからやり直してください。

CTE0160E 検索ストリングにセクション名が指定されていません。

説明: 有効なセクション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なセクション名を追加してから指定をやり直してください。

CTE0162E ESCAPE コマンドを処理できませんでした。

説明: 検索ストリングにはマスク文字として使用される特殊文字が含まれすぎています。

ユーザーの処置: 検索語の特殊文字数を減らすか、escape コマンドを使用しないでください。特殊文字として使用できるのは次のとおりです。 ! * + , _ . : ; { } ~ | ? [] ` = ¥

CTE0163E シソーラス文節にシソーラス名が指定されていません。

説明: シソーラス名なしで、シソーラス検索が要求されています。

ユーザーの処置: 検索指数にシソーラス名を指定してください。

CTE0164E シソーラス関係 %1 に構文エラーがありません。

説明: シソーラス関係に指定された構文が正しくありません。

ユーザーの処置: シソーラス関係を構文の仕様に従って更新してください。

CTE0166E 検索照会では、フリー・テキストは最後のステートメントでなければなりません。

説明: "is about" トークンの後に、さらにオペレーターを置くことはできません。

ユーザーの処置: 照会ストリングを書き直してください。最後のオペレーターは "is about" でなければなりません。

CTE0167E フリー・テキスト照会 %1 に構文エラーがあります。

説明: フリー・テキスト・ストリングの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: フリー・テキスト・ストリングを構文の仕様に従って更新してください。

CTE0168E セクション・ステートメントの左括弧がありません。

説明: セクション・ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: セクション・ステートメントを構文の仕様に従って更新してください。

CTE0169E セクション・ステートメントのコンマまたは右括弧がありません。

説明: セクション・ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: セクション・ステートメントを構文の仕様に従って更新してください。

CTE0170E 右二重引用符がありません。

説明: 検索語に指定された構文が正しくありません。

ユーザーの処置: 検索語を構文の仕様に従って更新してください。

CTE0171E セクション名の左二重引用符がありません。

説明: セクション・ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: セクション・ステートメントを構文の仕様に従って更新してください。

CTE0172E セクション名の右二重引用符がありません。

説明: セクション・ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: セクション・ステートメントを構文の仕様に従って更新してください。

CTE0173E エスケープ文節には 1 つのエスケープ文字を定義する必要があります。

説明: エスケープ文節に複数の文字は認められていません。

ユーザーの処置: エスケープ文節の追加文字を除去してください。

CTE0174E ブランク文字はエスケープ文字として許可されません。

説明: エスケープ文節で、ブランク文字は認められていません。

ユーザーの処置: エスケープ文節を有効な文字を使用した文節に変更してください。

CTE0175E エスケープ文節が定義されていますが、検索句にマスク文字がありません。

説明: マスク文字を使用せずに、エスケープ文節が指定されました。

ユーザーの処置: エスケープ文節を除去してください。

CTE0176E 句でエスケープ文字に続く文字が、同じ文字、マスク文字のいずれでもありません。

説明: エスケープ文字の後の文字は、マスク文字、またはエスケープ文字自身である必要があります。

ユーザーの処置: 検索ストリングをエスケープ文字に正しく変更してください。

CTE0177E 数値 %1 が無効です。

説明: 検索指数に指定された数が無効です。

ユーザーの処置: 有効範囲に関する文書を参照してください。検索指数の値を更新してください。

CTE0178E ファジー句のマスク文字の前にはエスケープ文字が必要です。

説明: ファジー検索とマスクングを同時に行うことはできません。

ユーザーの処置: 検索ストリングをエスケープ文字で更新してください。

CTE0179E シソーラス名 %1 が許可される長さの %2 を超えています。

説明: 60 バイトを超える主キーはサポートされていません。

ユーザーの処置: 表のレイアウトを変更してから、再度、索引を作成してください。

CTE0180E シソーラス %1 が見つかりません。

説明: 指定されたシソーラスが見つかりません。

ユーザーの処置: シソーラス・ファイルがシソーラス・ディレクトリーまたは完全修飾ディレクトリーにあるかどうかチェックしてください。

CTE0181E ライブラリー %1 をロードできません。

説明: ライブラリーが見つかりません。

ユーザーの処置: ライブラリーがライブラリー・パスにあり、利用可能であることを確認してください。DB2 の開始と停止を実行して、現行設定値が使用されるようにしてください。

CTE0182E 関数 %1 をライブラリー %2 からロードできません。

説明: ライブラリーのエントリー・ポイントをロードすることができません。

ユーザーの処置: アクセスされたライブラリーが無効のようです。ライブラリーが一度しか指定されていないかチェックしてください。

CTE0183E 共有システム・リソースの使用でエラーが発生しました。

説明: 共有メモリーまたはセマフォのような、共有システム・リソースへの要求を履行できません。

ユーザーの処置: 現行システムの状況と構成を確認してください。UNIX の場合、ipcs コマンドを使用してリソースを確認します。DB2 や Net Search Extender などの、すべてのアプリケーションを停止してください。まだリソースがリストされる場合は、ipcrm を使用してクリーンアップします。

CTE0184N DB2TEXT START コマンドが発行されていません。

説明: Net Search Extender (NSE) コマンドが呼び出されましたが、これを呼び出すには、NSE インスタンス・サービスが開始している必要があります。サービスが開始されていない場合、このメッセージが表示される可能性があります。

複数パーティション・データベース環境の場合:

- すべてのデータベース・パーティションにおいて NSE インスタンス・サービスが開始している必要があります。
- 複数パーティション・データベース環境での NSE インスタンス・サービスの開始については、『複数パーティション・データベース環境での Net Search Extender (NSE) インスタンス・サービスの開始 (Starting Net Search Extender (NSE) instance services in a multiple partitioned database environment)』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: DB2TEXT START コマンドを使用して NSE インスタンス・サービスを開始してください。

CTE0185E Net Search Extender (NSE) インスタンス・サービスは既にアクティブになっています。

説明: 更新およびロック・サービスがすでに実行されているときに db2text start コマンドを呼び出すと、このメッセージが返される可能性があります。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

CTE0186E 更新およびロック・サービス・エラーが発生しました。詳細は db2diag ログ・ファイルを確認してください。

説明: 更新およびロック・サービス構成ファイル・エラーが発生しました。

処置

db2diag ログ・ファイルで詳細を確認するか、共有リソースをクリーンアップします。CTE0183E も参照してください。

CTE0187E 更新およびロック・サービスがまだアクティブになっています。FORCE オプションを使用してサービスを停止してください。

説明: "db2text stop" コマンドはロック・サービスを停止していません。まだ処理が実行中です。

ユーザーの処置: db2text control で、どの処理が実行中であるか確認し、この処理の終了を待機してください。停止する必要がある場合には FORCE オプションを使用してください。

CTE0188E 更新およびロック・サービスの使用で一時的な問題が発生しました。やり直してください。

説明: "db2text stop" コマンドはロック・サービスを停止していません。プログラムがまだ実行中であるか、矛盾する状態が見つかりました。

ユーザーの処置: db2text control で、どの処理が実行中であるか確認し、この処理の終了を待機してください。停止するには、FORCE オプションを使用してください。

CTE0189E 実行可能プログラム %1 が見つかりません。

説明: プログラム・ファイルが見つからないか、それにアクセスできません。

ユーザーの処置: プログラム・ファイルが DB2 サーバーの bin または adm ディレクトリーにあるかどうか確認してください。ファイルが見つからない場合、そのインストール環境は破損しています。

CTE0190E 実行可能プログラム %1 を開始できません。

説明: プログラムを開始できません。

ユーザーの処置: プログラムが DB2 サーバーの bin または adm ディレクトリーにあるかどうか、また適切なライブラリーがインストールされているかどうか確認してください。詳しい情報を得るには、手動でサーバー上のプログラムを呼び出してください。

CTE0191E 索引のドロップ操作が完了していません。詳細については db2diag ログ・ファイルを調べてください。

説明: 索引のドロップ操作が完了していません。これはおそらく、force オプションが原因です。

ユーザーの処置: FORCE オプションを使用すると、エラーの発生に関係なくすべてをドロップします。保留フ

ファイルの索引ディレクトリーをチェックして、手動で除去してください。

CTE0192E 索引の更新操作でエラーが発生しました。詳しくは、イベント表 %1.%2 と db2diag ログ・ファイルを確認してください。

説明: 索引の更新処理中に、文書エラーがイベント表に書き込まれました。

ユーザーの処置: 文書エラーについての詳細は、イベント表をチェックしてください。問題が修正された後、イベント・ログをクリーンアップしてください。

CTE0194E 列 %2 のタイプ %1 はサポートされていません。

説明: サポートされている列のリストにない列を使用しました。

ユーザーの処置: キーおよび索引付けで有効な列のリストについて CREATE INDEX を確認してください。コマンドに該当する変更を行って、やり直してください。

CTE0195E %1 は絶対パスではありません。

説明: サーバー上の絶対パスが必要です。

ユーザーの処置: パスをチェックして、コマンドに絶対パスを書き込んでください。

CTE0198E 対応するテキスト索引がありません。

説明: 列にテキスト索引がありません。

ユーザーの処置: テキスト索引が存在しているかどうかを確認してください。

CTE0199E 表 table-name の列 column-number に対応するテキスト索引がありません。

説明: 有効でアクティブなテキスト検索索引がないため、表列に対するテキスト検索照会が失敗しました。

ユーザーの処置: 検索している列をチェックするか、列にテキスト索引を作成してください。無効なテキスト検索索引が表列に存在する場合、そのテキスト索引をドロップして、新しいものを作成してください。

例えば、基礎となる基本表がドロップされてから再作成されると、テキスト検索索引は無効になります。

CTE0200E 最低 1 つのコマンド・オプションを指定する必要があります。

説明: ALTER INDEX コマンドは、update および storage オプションのような索引の特性を変更します。

変更される特性が指定されていません。

ユーザーの処置: コマンド・オプションを少なくとも 1 つ指定してください。指定可能な全オプションについては、コマンド構文を参照してください。

CTE0201E 同じ列に、既存のテキスト索引で競合があります。

説明: 同じ列に定義されたテキスト索引が、この create index コマンドと違うパラメーターで作成されました。

ユーザーの処置: create index コマンド内のパラメーター値を訂正してください。次のパラメーターに、既存の索引および作成される索引と同じ値があることを、確認してください。ccsid、language、format、document model、index configuration、column function および attributes。

CTE0202E オブジェクト %1.%2 は、キー列が指定されている場合、ビューである必要がありません。

説明: 指定したオブジェクトがビューではありません。KEY COLUMNS FOR INDEX ON VIEW 文節は、ビューの列に索引付けする場合にのみ使用できます。

ユーザーの処置: KEY COLUMNS FOR INDEX ON VIEW(SQL-columnname-list) 文節を除去してください。

CTE0203E テキスト索引 %1.%2 が CACHE TABLE オプションで作成されませんでした。これはコマンドの実行に必須です。

説明: このコマンドは、指定した索引が CACHE TABLE オプションで作成された場合にのみ実行されます。

ユーザーの処置: 索引を CACHE TABLE オプションで作成してください。コマンド構文については、資料を参照してください。

CTE0204E 属性名がありません。属性式に "AS <attribute name>" を追加してください。

説明: 属性式で列式を使用する場合は、必ず属性名を指定する必要があります。例: (C1+C2 AS myname)

ユーザーの処置: 属性式に "AS <attribute name>" を追加してください。

CTE0205E CACHE TABLE 式が無効です。

説明: キャッシュ表式内の列リストが無効です。

ユーザーの処置: create index コマンドのキャッシュ表列を訂正してください。指定した表にそれらの列が存在

CTE0206E

することを確認してください。列に対して関数を適用する場合は、それが正しく使用されていることを確認してください。

CTE0206E ATTRIBUTE 式が無効です。

説明: 属性式の列リストが無効です。

ユーザーの処置: create index コマンド内の attribute 列リストを訂正してください。指定した表にそれらの列が存在することを確認してください。列に対して関数を適用する場合は、それが正しく使用されていることを確認してください。

CTE0207E KEY COLUMNS FOR INDEX ON VIEW がビュー %1.%2 の索引に指定されていません。

説明: ビューに索引が作成されている場合、KEY COLUMNS FOR INDEX ON VIEW(SQL-columnname-list) 文節を指定しなければなりません。列名のリストは、ビューの行を一意的に識別する列を指定します。

ユーザーの処置: create index コマンドに KEY COLUMNS FOR INDEX ON VIEW(SQL-columnname-list) 文節を組み込んでください。

CTE0208E INITIAL SEARCH RESULT ORDER 列が無効です。

説明: INITIAL SEARCH RESULT ORDER(SQL-order-by list) 式の列リストが無効です。

ユーザーの処置: create index コマンドの order by 列リストを訂正してください。構文が正しいかどうか、指定した表に列が存在しているかどうかを確認してください。列に対して関数を適用する場合は、それが正しく使用されていることを確認してください。

CTE0209E 属性列 %2 のタイプ %1 はサポートされていません。タイプ DOUBLE が必要です。

説明: 属性列に関してサポートされているデータ・タイプは DOUBLE だけです。

ユーザーの処置: 索引付けされるテキスト列を持つ表の属性列が、タイプ DOUBLE であることを確認してください。属性列式に cast 演算子を使用できる場合があります。DOUBLE にキャスト可能なデータ・タイプについては、「SQL リファレンス」を参照してください。

CTE0210E 索引構成パラメーター %2 の値 %1 は無効です。有効な値は %3 です。

説明: 構成パラメーターに指定された値に誤りがあります。有効なパラメーター値については、コマンド構文を参照してください。

ユーザーの処置: create index コマンド内の索引構成パラメーター値を訂正してください。

CTE0211E %1 は無効な索引構成パラメーターです。

説明: 索引構成オプションが不明です。

ユーザーの処置: create index コマンド構文を確認してください。有効な構成オプションは、TreatNumbersAsWords および IndexStopWords です。これらは、例えば index configuration(treatnumberaswords 1, indexstopwords 1) のようにコンマで区切られていなければなりません。

CTE0212E 内部索引構成ファイル %1 を保管できませんでした。

説明: 索引の内部構成ファイルを保管できませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス所有者が、ファイルが保管されるディレクトリーへの書き込み権限を持っていることを確認してください。その名前のファイルが存在する場合は、そのファイルに対して、インスタンス所有者が書き込み可能かどうかを確認してください。

CTE0213E 内部索引構成ファイル・テンプレート %1 をロードできませんでした。

説明: 内部索引構成ファイル・テンプレートを読み取れませんでした。

ユーザーの処置: ファイルが正しいロケーションに存在し、読み取り可能であることを確認してください。

CTE0214E 索引構成ファイルに新規項目 [%1],%2=%3 を設定しようとして内部エラーが発生しました。

説明: 索引に対する内部構成ファイルの書き込み中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在する場合は、インスタンス所有者に対して読み取り / 書き込み可能かどうかを確認してください。ファイルの所在地の装置に、十分なスペースがあるかどうかを確認してください。

CTE0215E 別名 %1.%2 での索引作成はサポートされていません。基本表 %3.%4 を使用してください。

説明: 別名に索引を作成することはできません。

ユーザーの処置: 基本表と共に、create index コマンドを入力してください。

CTE0217E スケジュール・サービスは既にアクティブです。

説明: サービスは既にアクティブです。開始する必要はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

CTE0218E 関数 *function-name* がエラー・コード *error-code* で失敗しました。

説明: 指定されたエラー・コードで Windows オペレーティング・システム関数が失敗し、処理を続行できません。

ユーザーの処置: ここに示された Windows システム・エラー・コードを使用して、詳細なエラー情報を入手してください。

CTE0219E サービス *service-name* をオープンできませんでした。エラー・コード *error-code*

説明: 指定したサービスが Windows オペレーティング・システム上に見つかりません。

このメッセージは、データベース・マネージャーが DB2TEXT START コマンドに応答して Net Search Extender (NSE) サービスを開始しようとしたものの、1 つ以上のデータベース・パーティション上でこのサービスを開始できなかった場合に返されます。

例えば、データベース・パーティションが配置されている 1 つ以上のコンピューター上に Net Search Extender (NSE) がインストールされていない場合、データベース・マネージャーは Net Search Extender (NSE) インスタンス・サービスを正常に開始することができません。

ユーザーの処置: 指定されたサービスが Windows システムにインストールされていることを確認してください。ここに示された Windows システム・エラー・コードを使用して、詳細なエラー情報を入手してください。

CTE0220E DB2 インスタンス・プロファイルのパスが見つかりませんでした。

説明: DB2 インスタンス・プロファイル・パスを取得するための、内部 DB2 関数が失敗しました。

ユーザーの処置: インスタンス・プロファイル・パスの指定のない DB2 インスタンスを作成して、コマンドをやり直してください。

CTE0221E UpdateFrequency %1 は誤って指定されています。

説明: 更新頻度ステートメントの構文が正しくありません。

ユーザーの処置: 構文の仕様に従って更新頻度ステートメントを修正してください。

CTE0222E スケジュール・サービス入力ファイル %1 が壊れています。

説明: 索引更新情報を含むスケジューラー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: システム・エディターを使用して、問題を訂正してください。項目が切り捨てられているか、または最後の改行文字が削除されている可能性があります。これで、ファイルの内容をリストアできない場合は、次のことを行ってみてください。コマンド db2text stop を呼び出し、スケジューラーを停止する。スケジューラー・サービス・ファイルを削除する。コマンド db2text start を呼び出し、スケジューラーを開始する。コマンド db2text alter index ... を使用して、すべての関係する索引に対する、更新頻度項目を再作成する。

CTE0223E ファイル %1 をクローズできませんでした。

説明: 指定されたファイルをクローズできません。

ユーザーの処置: ファイルが正しく指定されているか確認してください。

CTE0224E ファイル %1 を %2 にコピーできませんでした。

説明: 最初のファイルを 2 番目のファイルにコピーできません。

ユーザーの処置: ファイルが正しく指定されているかどうかを確認してください。2 番目のファイルが存在し、読み取り専用であるか確認してください。システムに十分なフリー・スペースがあることも確認してください。

CTE0225E ファイル %1 を除去できませんでした。

説明: 指定されたファイルをシステムから除去できません。

ユーザーの処置: ファイルが正しく指定されているかど

CTE0227E

うかを確認し、ファイルのアクセス権限を確認してください。

CTE0227E ファイル %1 への書き込み操作が失敗しました。

説明: 指定されたファイルが書き込み可能ではありません。

ユーザーの処置: ファイルが正しく指定されているかどうかを確認し、ファイルのアクセス権限を確認してください。システムに十分なフリー・スペースがあることも確認してください。

CTE0228E ユーザーにオペレーティング・システム・レベルでの十分なアクセス権限がありません。

説明: そのコマンドには、オペレーティング・システム・レベルでの管理者権限が必要です。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムの管理者権限があることを確認してください。管理者グループのメンバーであるかどうかを確認してください。

CTE0231E %1 は %2.%3 の表スペースと同じノード・グループ (%4) に定義されていません。

説明: 管理表の表スペースは、索引付けされるテキスト列を含む表と正確に同じ方法で、別のノードに分散されている必要があります。これを強制するには、指定した表スペースが同じノード・グループに定義されているかどうかをチェックされます。

ユーザーの処置: 索引付けされるテキスト列を含む表と同じノード・グループに定義されている表スペースを指定してください。

CTE0232E 指定またはデフォルトの表スペース %1 は単一ノードではありません。これは、ビューの索引に対して、または **CACHE TABLE** オプションが指定された場合に必要です。

説明: **CACHE TABLE** オプションが使用可能になっている索引またはビューは、単一ノード上の表でのみサポートされています。

ユーザーの処置: デフォルトの表スペースがこのエラーの原因の場合は、表を単一ノードの表スペースに置いてください。複数ノードの表スペースを指定した場合は、代わりに他の単一ノードの表スペースを指定してください。

CTE0233E 実行中の管理コマンドに競合があります。このコマンドをあとからやり直してください。

説明: 別の管理コマンドがまだ実行中であるか、コマンド・ロックを解除せずに異常終了しています。

ユーザーの処置: ロックしている **CONTROL LIST** がまだアクティブかどうかを確認してください。アクティブなロックがあるが、コマンドが実行中でない場合は、**CONTROL CLEAR** コマンドを使用して、手動でロックをクリアしてください。他の人が、ロックを保持する管理コマンドを実行している場合があるので、注意してください。

CTE0234E テキスト索引で実行中の管理コマンドに競合があります。このコマンドをあとでやり直すか、または **DISABLE DATABASE** コマンドの **FORCE** オプションを指定してください。

説明: 別の管理コマンドがまだ実行中であるか、コマンド・ロックを解除せずに異常終了しています。

ユーザーの処置: ロックしている **CONTROL LIST** がまだアクティブかどうかを確認してください。アクティブなロックがあるが、コマンドが実行中でない場合は、**CONTROL CLEAR** コマンドを使用して、手動でロックをクリアしてください。ロックを保持する管理コマンドを実行しているユーザーが他にいる可能性があるので注意してください。**DISABLE DATABASE** コマンドには、データベース上のすべてのその他のコマンドを停止する **FORCE** オプションを指定できます。

CTE0235E **DB2 Net Search Extender** には有効なライセンスがありません。

説明: **DB2 Net Search Extender** には有効なライセンスがありません。

ユーザーの処置: ライセンスが **db2lic** で正しくインストールされていることを確認してください。既存のインスタンスが、製品のインストール後に更新されることを確認してください。

CTE0236E **MPP** インスタンスでは、**Node0** のみがサポートされています。

説明: 索引付けされるテキスト列と表が、**Node0** のみ存在する場合、テキスト索引は **MPP** インスタンス上でのみ作成できます。

ユーザーの処置: 表が定義されている表スペースのノード・グループを確認してください。

CTE0237E 内部エラー: ログ表 %1.%2 には無効な操作 %3 が含まれています。

説明: ログ表は、索引付けされたテキスト列を含む表に対して実行された操作を記録します。この表に、Net Search Extender が書き込んだものではない項目が含まれているため、壊れている可能性があります。

ユーザーの処置: ログ表を確認して、壊れた項目を削除してください。

CTE0238E 内部エラー: 表 %1.%2 の列 %3 に、正しくない構文の式が含まれています。

説明: 指定されたテキスト列の式リストにエラーがあります。

ユーザーの処置: 区切り文字 Begin と End の対を確認してください。

CTE0239E 内部エラー: 索引プロパティー %1 の全長が最大長の %2 を超えています。

説明: 索引プロパティーの最大サイズ (1016 バイト) を超えています。プロパティーには、その他の情報同様に、インスタンス、索引、および作業ディレクトリーが含まれています。

ユーザーの処置: これらのパス名が長すぎないことを確認してください。

CTE0240E 内部エラー: 環境変数 %1 の設定に失敗しました。

説明: 指定された環境変数の設定に失敗しました。環境のセットアップに問題がある可能性があります。

ユーザーの処置: OS 特定のガイドラインを確認してください。

CTE0242E パラメーター %2 の値 %1 が無効です。

説明: ストアード・プロシージャの検索または、table valued 関数 DB2EXT.TEXTSEARCH が、無効なパラメーターで呼び出されました。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャの検索または table valued 関数のパラメーター値を訂正してください。有効なパラメーターについては、該当する資料を参照してください。

CTE0243E テキスト索引 %1.%2 のキャッシュがアクティブになっていません。

説明: Net Search Extender の操作には、アクティブ化されたキャッシュが必要です。キャッシュは現在アクテ

ィブ化されていません。可能な原因は次のとおりです。最後の DB2TEXT START コマンド後に、キャッシュが一度もアクティブ化されていない。キャッシュが、DB2TEXT DEACTIVATE CACHE コマンドで明示的に非アクティブ化された。

ユーザーの処置: 索引に DB2TEXT ACTIVATE CACHE コマンドを実行し、Net Search Extender の操作を再実行してください。

CTE0244E 内部エラー: %1 の呼び出しで rc=%2、SQLCODE=%3 が戻りました。

説明: 内部関数の呼び出し時に、内部処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: エラーが解決しない場合、トレースを開始して db2diag.log を確認してください。エラーを報告してください。

CTE0245E 要求されたキャッシュ・サイズは使用可能なキャッシュ・サイズを超えています。最大キャッシュ・サイズを値 %1 より大きくするか、pctfree 値を減らしてください。

説明: すべてのデータをロードするのに必要なキャッシュ・サイズが、索引の MAXIMUM CACHE SIZE 値を超えています。これは、キャッシュのアクティブ化中 (DB2TEXT ACTIVATE コマンド)、またはキャッシュのアクティブ化中の索引更新操作で検出されます。

ユーザーの処置: エラーが DB2EXT ACTIVATE コマンドで報告された場合、DB2EXT.MAXIMUM_CACHE_SIZE 関数を使用して、キャッシュの最大値を再計算し、索引の MAXIMUM CACHE SIZE 設定を変更してください。最後に、PCTFREE 値を減らしてください。増分更新中に、文書の最大数が超過した場合、コマンド db2 deactivate cache および db2text activate cache recreate を使用してキャッシュを再作成してください。

CTE0246E ファイル %1 が空です。

説明: コマンドに指定された文書モデル・ファイルが空のため、A DB2TEXT CREATE INDEX が失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドに有効な文書モデル・ファイルを指定してください。

CTE0247E DB2 Net Search Extender のストアード・プロシージャを作成できませんでした。

説明: DB2TEXT ENABLE DATABASE コマンドが、内部ストアード・プロシージャ DB2EXT.CTESRVSP の作成に失敗しました。

ユーザーの処置: 詳細については、CREATE PROCEDURE に関連する、DB2 エラー・メッセージを確認してください。同じ名前の既存のストアード・プロシージャを除去しても、エラーを訂正できない場合は、トレースを開始して、エラーを報告してください。

CTE0248E 生成された検索ストリングが長すぎます。検索照会の複雑さを削減してください。

説明: Net Search Extender 照会が、基本検索エンジンが処理するには長すぎるか、または複雑すぎます。複雑さは、シソーラス拡張、FUZZY FORM OF 式およびマスク文字の使用によって影響されます。

ユーザーの処置: 照会の複雑さまたは長さを削減してください。

CTE0249E 実行可能プログラム *program-name* は異常終了しました。

説明: データベース・マネージャーが、Net Search Extender (NSE) コマンドを実行中に、指定された実行可能プログラムを実行したところ、そのプログラムが異常終了しました。

ユーザーの処置:

1. 実行可能プログラムが、ユーザーの対話で明示的に終了されていないことを確認してください。
2. ユーザーがそのプログラムを終了していない場合は、失敗したそのコマンドを再実行してください。
3. 問題が続く場合は、次のようにしてください。
 - 診断情報を収集するために DB2 トレース・ユーティリティーをオンにします。
 - 失敗したコマンドを再実行します。
 - コマンドが再び失敗する場合は、DB2 サポートに連絡して、収集した診断情報を提示します。

CTE0250E 列タイプ・トランスフォーメーション機能 %2.%3 のリターン・タイプ %1 はサポートされていません。

説明: DB2TEXT CREATE INDEX コマンドで、列タイプ・トランスフォーメーションが、サポートされないデータ・タイプをリターンするように指定されていました。サポートされるデータ・タイプは、次のとおりで

す。CHARACTER、VARCHAR、LONG VARCHAR (非推奨)、CLOB、GRAPHIC、VARGRAPHIC、LONG VARGRAPHIC (非推奨)、DBCLOB、BLOB、XML。

ユーザーの処置: 別の列タイプ変換関数を選択してください。

CTE0251E 内部エラー: 列タイプ %1 はサポートされていません。

説明: サポートされているタイプのリストにない列タイプを使用しました。

ユーザーの処置: キーおよび索引付けで有効な列のリストに対して create index を確認してください。コマンドを適切に変更して再試行してください。エラーが続く場合は、トレースを開始し、さらに db2diag.log もチェックしてください。エラーを IBM サービスに報告してください。

CTE0252E パラメーター %1 がありません。

説明: 内部エラー - Net Search Extender コマンドの実行時に、管理実行可能プログラムが、パラメーター "%1" なしで呼び出されました。

ユーザーの処置: 問題を避けるためには、Net Search Extender パラメーター・コマンドを変更してください。エラーが継続する場合は、トレース機能のスイッチをオンにし、エラーを IBM サービスに報告してください。

CTE0253E ログ・ビューにリストされた文書が見つかりません。

説明: ログ・ビューにリストされたテキスト文書の内容が変更され、アクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 文書が存在し、索引に組み込まれるテキスト文書の読み取りおよびアクセス権限を確認してください。

CTE0254E 索引 %1 のキャッシュは、既にアクティブ化されています。

説明: 索引は既に、ACTIVATE CACHE コマンドでアクティブ化されています。

ユーザーの処置: 指定した索引名および、使用しているデータベースを確認してください。

CTE0255E キャッシュ結果列式の列名がありません。式に "AS <キャッシュ列名>" を追加してください。

説明: キャッシュ結果列式には、名前を付けなければなりません。例: 'C1+C2 AS myresult'

ユーザーの処置: 式に "AS <キャッシュ列名>" を追加してください。

CTE0256E 索引付け用のデータの選択に必要な照会が失敗しました。属性、キャッシュ表、または初期検索結果順序式の複雑さを削減してください。

説明: Net Search Extender は、データベースから索引付け用のデータを選択するために、コマンドの式から照会を作成します。照会は複雑すぎるために失敗しました。

ユーザーの処置: 属性、キャッシュ表または初期検索結果順序式の複雑さを削減してください。

CTE0257E 共有メモリーの作成時にエラーが発生しました。

説明: 直前のエラーまたはアクセス権の問題のため、共有メモリー・リソースを作成できませんでした。

ユーザーの処置: db2diag.log で詳細を確認するか、共有リソースをクリーンアップします。エラー CTE0183E も参照してください。

CTE0258E 共有メモリーのバージョン・エラーです。

説明: 共有メモリー・リソースには、壊れているか、バージョン競合があるため、アクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは、db2diag.log を参照してください。データベースを使用不可にしてから、再び使用可能にして、やり直してください。

CTE0259E グローバル共有メモリーに項目を挿入できません。項目は既に存在します。

説明: グローバル共有メモリーの挿入される項目は、直前のエラーのため、既に存在しています。

ユーザーの処置: 詳しくは、db2diag.log を参照してください。db2text stop と db2text start コマンドを使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0260E グローバル共有メモリーの項目にアクセスできません。項目が見つかりません。

説明: グローバル共有メモリーから除去される項目は、直前のエラーのため、存在してきません。

ユーザーの処置: 詳しくは、db2diag.log を参照してください。コマンド db2text stop および db2text start を使用して、更新およびロック・サービスを再始動してください。

CTE0261E このインスタンスに、テキスト索引に対してアクティブ化されたキャッシュが、少なくとも 1 つあります。DEACTIVATE CACHE コマンドを使用してアクティブ化された索引のキャッシュを非アクティブ化するか、FORCE オプションを使用して停止してください。

説明: db2text stop コマンドは、ACTIVATE CACHE コマンドでアクティブ化されたすべてのテキスト索引に対して、DEACTIVATE CACHE コマンドを実行する場合にのみ使用できます。

ユーザーの処置: DEACTIVATE CACHE コマンドを使用してアクティブ化された索引のキャッシュを非アクティブ化するか、FORCE オプションを使用して停止してください。

CTE0262E パラメーター %1 の値が長すぎます。

説明: 値が、許可されている最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: 最大サイズを確認してください。

CTE0263E テキスト索引 %1.%2 は RECREATE INDEX ON UPDATE オプションで作成されました。このコンテキストでは、UPDATE MINIMUM または COMMITCOUNT FOR UPDATE を指定することはできません。

説明: 更新最小値および更新のコミット・カウントは、索引が増加するように更新された場合にのみ、有効です。

ユーザーの処置: 更新の実行するたびに、索引を再作成したい場合は、UPDATE MINIMUM および COMMITCOUNT FOR UPDATE 設定値を除去してください。UPDATE MINIMUM および COMMITCOUNT FOR UPDATE を使用したい場合は、RECREATE INDEX ON UPDATE は指定しないでください。

CTE0264E 索引のアクティブ化操作でエラーが発生しました。詳しくは、イベント・ビュー %1.%2 と db2diag.log を確認してください。

説明: 索引のアクティブ化処理中は、エラーはイベント表および db2diag.log ファイルに書き込まれます。

ユーザーの処置: 文書エラーについての詳細は、イベント表をチェックしてください。問題が修正された後、イベント・ログをクリーンアップしてください。

CTE0265E ユーザー表の表スペースまたは管理表スペース (%1) が、ノード 0 以外にも定義されています。

説明: テキスト索引が MPP インスタンス上に作成された場合、ユーザー表の表スペースは、Node0 上にもみ常駐しなくてはなりません。

ユーザーの処置: 表スペースが Node0 上に常駐する表を使用してください。

CTE0266E ValueFrom %1 は ValueTo %2 よりも小さくなければなりません。

説明: 属性検索に指定された値が無効です。検索構文が 'BETWEEN ValueFrom AND ValueTo' の場合、下の境界 (ValueFrom) は、上の境界 (ValueTo) よりも小さくなければなりません。

ユーザーの処置: 'BETWEEN ValueFrom AND ValueTo' 文節の境界を変更してください。

CTE0267E データベース %1 内の Net Search Extender データベース・オブジェクトは、矛盾する状態にあります。

説明: 少なくとも 1 つの Net Search Extender オブジェクトが欠落しているか、または壊れています。Net Search Extender 製品の新規バージョンのインストール後にデータベースが移行されていない、またはデータベース・ユーザーが Net Search Extender の内部オブジェクト (複数の場合あり) を変更またはドロップしました。この場合、すべてのテキスト索引は失われるので、データベースはテキストでの使用を不可にする必要があります。

ユーザーの処置: 現行バージョンへのデータベースの移行については、Net Search Extender 文書にある移行の説明に従ってください。または、FORCE オプションを使用して DB2TEXT DISABLE DATABASE コマンドを執行してください。その後、DB2TEXT ENABLE DATABASE コマンドを使用することにより、テキストのデータベースを再び使用可能にすることができます。

CTE0270E ログ表 %1.%2 は、増分更新後に変更できませんでした。項目は次の UPDATE で処理されます。

説明: インクリメンタル索引更新を開始すると、タイム・スタンプが作成されます。これは、処理予定の変更レコードのしきい値の役割を果たします。増分更新に対して同時に発生する変更は、その後、次の更新で処理されます。ある特定の状態では、更新の開始時には非コミットされるが、索引の更新の実行中にはコミットされるトランザクションには変更がある場合があります。

これは、潜在的に矛盾につながる可能性があります。

このような矛盾する状態を避けるために、しきい値のタイム・スタンプより前の変更レコードは、部分的に処理されていても、ログ表から削除されません。次の増分更新で、変更は索引に再度適用されます。

ユーザーの処置: 次の索引更新で、変更は索引に再度適用されます。削除操作の場合は、これによって以下のエラーが発生する場合があります。

CTE0101E:ItlEnReasonCode_Docmap_docid_not_found.

この文書は既に削除されているので、このエラーは無視してかまいません。CTE0270E エラーが頻繁に発生する場合は、索引の増分更新で変更されたタイム・スタンプしきい値のある索引をドロップして再作成することを検討してください。例: db2text "CREATE INDEX ... INDEX CONFIGURATION(UPDATEDDELAY 30)"

これは、増分更新中の処理は、30 秒より古い変更レコードのみを実行し、30 秒未満の並行する変更トランザクションによる妨害を回避します。

CTE0271E キャッシュは使用可能ではありません。DEACTIVATE および ACTIVATE RECREATE が必要です。

説明: 最大キャッシュ・サイズに達したため、キャッシュは矛盾した状態にあります。

ユーザーの処置: 最大キャッシュ・サイズにまだ余裕があることを確認してください。その後、db2text コマンド DEACTIVATE CACHE および ACTIVATE CACHE RECREATE を呼び出してください。

CTE0272E 不適当なキャッシュ・サイズです。PCTFREE 値を大きくするか、DEACTIVATE および ACTIVATE [RECREATE] を使用してキャッシュを再作成してください。

説明: キャッシュ用に予約済みのすべてのメモリーが使用されました。

ユーザーの処置: db2text コマンドを DEACTIVATE CACHE、ALTER INDEX MAXIMUM CACHE SIZE、ACTIVATE CACHE RECREATE の順序で使用して、キャッシュを再作成します。

CTE0273E 索引 %1.%2 のキャッシュは既にアクティブ化されています。

説明: 索引は既に、ACTIVATE CACHE コマンドでアクティブ化されています。

ユーザーの処置: 指定した索引名および、使用しているデータベースを確認してください。

CTE0274E この接続のターゲット・データベース・システム %1 はサポートされていません。

説明: Net Search Extender がサポートしていないデータベース・システムへの接続で、DB2TEXT コマンドを実行しようとしてしました。

CTE0275E サーバー %2 のタイプおよびバージョン情報が見つかりませんでした。

説明: サーバーのタイプ情報およびバージョン情報が、DB2 カタログ・ビュー 'SERVERS' に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 フェデレーテッド環境が正しくセットアップされていることを確認してください。

CTE0277E キャッシュ・メモリー・セグメントがアタッチできませんでした。

説明: システムが、ラージ・キャッシュ・セグメントのロードに十分なメモリーを割り振れません。またはキャッシュ・セグメントが事前に削除されているためにオープンできません。

ユーザーの処置: システム設定を確認して、ページング・スペースの量を増やし、メモリーを解放してください。キャッシュ・サイズが大きい場合は、システムの準備が必要な場合があります。Net Search Extender 文書を参照してください。キャッシュを再作成するには、DEACTIVATE コマンドおよび ACTIVATE [RECREATE] コマンドを使用してください。問題が解決しない場合は、db2diag.log の追加情報を確認してください。

CTE0278E AIX の 32 ビット・システムでは、MAXDATA 設定を変更してから、ラージ・キャッシュをアクティブ化してください。

説明: AIX 32 ビット・システム上でストアード・プロシージャの検索を使用する場合は、db2fmp 実行可能ファイルの MAXDATA 設定を変更する必要がある場合があります。

ユーザーの処置: MAXDATA 設定の変更についての詳細は、Net Search Extender 文書を参照してください。

CTE0279E キャッシュ・データのサイズが、システムしきい値に達しました。

説明: PCTFREE 値を減らすことにより、キャッシュのアクティブ化中のデータの最大サイズを増やすことができます。これにより、システムは、キャッシュ内のフリー・スペースの予約を減らすことができます。

ユーザーの処置: より低い PCTFREE 値を使用するか、または、キャッシュされるテキスト・データの量を削減してください。キャッシュを再作成するには、DEACTIVATE コマンドおよび ACTIVATE [RECREATE] コマンドを使用してください。

CTE0280E 永続キャッシュ・ファイルを書き込むためのディスク・スペースが不足しています。

説明: システムは、キャッシュ・ディレクトリーに、永続キャッシュに十分な大きさのファイルを書き込めません。

ユーザーの処置: ALTER INDEX コマンドを使用して、永続キャッシュのディレクトリーを空のファイル・システムに変更してください。あるいは、PCTFREE 値または MAXIMUM CACHE SIZE 値を減らすか、一時キャッシュを使用して、キャッシュ・サイズを削減してください。

CTE0281E 永続キャッシュ・ファイル %1 の削除に失敗しました。

説明: 当該ファイルが存在しないか、またはアクセスできません。

ユーザーの処置: このファイルがまだ存在するかどうかを確認して、手動で削除してください。

CTE0282E キャッシュ内の文書の数が、システムしきい値に達しました。

説明: PCTFREE 値を減らすことにより、キャッシュのアクティブ化中にキャッシュされる文書項目の最大数を増やすことができます。これにより、システムは、キャッシュ内のフリー・スペースの予約を減らすことができます。

ユーザーの処置: より低い PCTFREE 値を使用するか、または、キャッシュ内の文書項目の量を削減してください。キャッシュを再作成するには、DEACTIVATE コマンドおよび ACTIVATE [RECREATE] コマンドを使用してください。

CTE0283E キャッシュ・メモリー・セグメントを作成できませんでした。

説明: システムは、ラージ・キャッシュ・セグメントをメモリー内にロードするのに十分なメモリーを割り振れません。PCTFREE 値を減らすことにより、キャッシュ・セグメントのサイズをさらに小さくすることができます。

ユーザーの処置: システム設定を確認して、ページング・スペースの量を増やし、メモリーを解放してください。

い。より低い PCTREE 値を使用することにより、キャッシュ・サイズを減らすこともできます。キャッシュ・サイズが大きい場合は、システムの準備が必要な場合があります。Net Search Extender 文書を参照してください。キャッシュを再作成するには、DEACTIVATE コマンドおよび ACTIVATE [RECREATE] コマンドを使用してください。問題が解決しない場合は、db2diag.log の追加情報を確認してください。

CTE0284E テキスト索引はノード %1 上にありますが、検索関数はノード %2 上で呼び出されました。

説明: ストアード・プロシージャの検索または table valued 関数 DB2EXT.TEXTSEARCH が、索引が配置されているノード上で呼び出されませんでした。この検索関数は、正しいノードへ自動的に配布されません。

ユーザーの処置: データベースに接続する前に、索引が接続されているノードに DB2NODE 環境変数を設定してください。

CTE0285E 複数のノードに分散しているテキスト索引に対しては、検索関数は許可されません。

説明: table valued 関数 DB2EXT.TEXTSEARCH は、正しいノードに自動的に配布されず、コーディネーター・ノード上で実行されるため、複数のノードに分散している索引については呼び出してはなりません。

ユーザーの処置: 複数ノード環境では CONTAINS、SCORE、または NUMBEROFMATCHES 関数を使用してください。

CTE0286E ソース表 %2.%3 とキャプチャー変更表 %4.%5 の %1."IBMSNAP_REGISTER" には行がありません。

説明: DB2TEXT CREATE INDEX コマンドで指定されたレプリケーション・キャプチャー表の特性について、IBMSNAP_REGISTER 表に有効な項目が見つかりませんでした。有効な項目には、索引列 SOURCE_OWNER および SOURCE_NAME (SOURCE_VIEW_QUAL=0) に指定されたソース表と、列 PHYS_CHANGE_OWNER および PHYS_CHANGE_TABLE に指定されたレプリケーション・キャプチャー表が含まれていなければなりません。

指定されたソース表が、レプリケーション・キャプチャー表のレプリケーション・ソースとして登録されていません。

ユーザーの処置: ソース表を DB2 レプリケーション用に正しく登録するか、またはそのソース表の正しいレプリケーション・キャプチャー表を指定してください。

CTE0287E ソース表 %4.%5 およびキャプチャー変更表 %6.%7 について、"%3"."IBMSNAP_REGISTER" の %2 の値 %1 が無効です。

説明: IBMSNAP_REGISTER 表にあるレプリケーション設定は許可されていません。考えられる原因: 1.列 CHG_UPD_TO_DEL_INS は、値 'Y' を含んでいない。2.列 CCD_CONDENSED は値 'Y' を含んでいる。

ユーザーの処置: DB2 レプリケーションにソース表を登録するときに、更新操作を、削除操作と挿入操作の対に変換するようにしてください。加えて、コンデンス・レプリケーション・キャプチャー表は使用しないようにしてください。

CTE0288E ソース表 %1.%2 とキャプチャー変更表 %3.%4 が、別のサーバー (%5 と %6) 上にあります。

説明: 指定するソース表とレプリケーション・キャプチャー表は、同じサーバーになければなりません。

CTE0289E ラッパー %1 はサポートされていません。

説明: そのラッパーはサポートされていません。サポートされるラッパーのリストについては、Net Search Extender の文書を参照してください。

CTE0290E 別名 %1.%2 は、レプリケーション文節では許可されません。

説明: レプリケーション節では、ニックネームに対する別名を指定することは許可されていません。

ユーザーの処置: 別名ではなくニックネームを指定するか、またはそのリモート表に新しいニックネームを作成します。

CTE0291E 指定されたフォーマットは、タイプ XML の列に対して使用できません。

説明: タイプ XML の列には、「XML」フォーマットのみ許可されます。

ユーザーの処置: 形式 'XML' を指定するか、何も指定しないでください。

CTE0292E Windows 例外 %1 がキャッチされました。アドレス %2、フラグ %3。

説明: Windows 例外が発生しました。例外名、アドレス、およびフラグが示されます。

CTE0293E Windows 例外 %1 がキャッチされました。

説明: Windows 例外が発生しました。

CTE0294E 検索指数の処理上の問題です。

説明: 誤った環境のセットアップにより、検索指数の処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: locale charmap の値が DB2 コード・ページと一致しており、システム上で使用可能であることを確認してください。

CTE0295E 無効な CCSID %1 が非バイナリー・テキスト列に対して指定されました。

説明: 非バイナリー・データ・タイプのテキスト列では、DB2 は常にデータベースの CCSID でエンコードされたデータを保管します。データベース CCSID のみ、非バイナリー・テキスト列に有効です。

ユーザーの処置: CCSID 文節を省略するか、有効な CCSID を指定してください。

CTE0296E ライブラリー %1 が %2 で見つかりません。Net Search Extender のインストール済み環境を確認してください。

説明: DB2 コントロール・センターを使用して、Net Search Extender コマンドを実行しようとした。Net Search Extender がターゲット・システムに正しくインストールされていません。

ユーザーの処置: Net Search Extender がターゲット・システムに正しくインストールされているかどうか確認してください。

CTE0297E データベース %1 は DB2 Text Search に関連付けられています。

説明: 1 つのデータベースを複数のテキスト検索コンポーネントに関連付けることは許可されていません。

ユーザーの処置: データベースで DB2 Text Search を引き続き使用する場合、アクションは必要ありません。DB2 Net Search Extender を使用する場合は、データベースを DB2 Text Search について使用不可にしたら、このコマンドを再試行してください。

CTE0298E データベース %1 は既に DB2 Text Search に関連付けられています。このコマンドは実行できません。

説明: 1 つのデータベースを複数のテキスト検索コンポーネントに関連付けることは許可されていません。

ユーザーの処置: DB2 Net Search Extender を使用しない場合は、DB2TEXT DISABLE DATABASE コマンドを使用してデータベースを使用不可にしてください。DB2 Net Search Extender を使用する場合は、データベースを DB2 Text Search について使用不可にしたら、このコマンドを再試行してください。

CTE0300N 表 *schema-name.table-name* にテキスト索引を作成する権限がユーザー *user-id* ありません。

説明: "CREATE INDEX .. FOR TEXT" には、以下のいずれかが必要です。

- DBADM 権限
- 表に対する CONTROL 特権
- 表に対する INDEX 特権があり、さらにデータベースに対する IMPLICIT_SCHEMA 特権か、索引スキーマに対する CREATEIN 特権がある。

DB2 Net Search Extender の CREATE INDEX について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『Net Search Extender CREATE INDEX コマンド (Net Search Extender CREATE INDEX command)』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: ユーザーにテキスト索引の作成操作を行うための権限があることを確認してください。

CTE0301E Net Search Extender コマンドを実行するための権限がインスタンス所有者にありません。

説明: ユーザーが、適切な権限を持つインスタンス所有者 ID を使用せずにテキスト索引コマンドを実行しようとした。

DB2 Text Search 索引コマンドごとに、必要なデータベース権限のレベルが異なります。DB2 Net Search Extender コマンドを実行するために必要な権限のリストについては、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 Net Search Extender コマンドの権限要件 (DB2 Net Search Extender command authority requirements)』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: ユーザーが Net Search Extender 操作を行えるように、インスタンス所有者に DBADM 権限と DATAACCESS 権限があることを確認してください。

CTE0302E *index-schema-name.index-name* という名前の DB2 Net Search Extender 索引を更新するための権限がユーザー *user-id* ありません。

説明: テキスト索引の更新には、以下のいずれかが必要です。

- DATAACCESS 権限
- 表に対する CONTROL 特権

DB2 Net Search Extender の UPDATE について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『Net Search Extender UPDATE INDEX コマンド (Net Search Extender UPDATE INDEX command)』というトピックを参照してください。

ユーザーの処置: ユーザーに索引の更新操作を行う許可が与えられていることを確認してください。

CTE00303N 表列 *column-name.table-name* には有効でアクティブなテキスト索引がありません。

説明: 有効でアクティブなテキスト索引がないため、表列に対するテキスト検索照会が失敗しました。

ユーザーの処置: テキスト検索照会を実行する前に、表列に有効でアクティブなテキスト索引があることを確認してください。

表列に無効なテキスト索引がある場合、それをドロップして新規の索引を作成してください。

例えば、基礎となる基本表がドロップされてから再作成されると、テキスト索引は無効になります。

CTE0304N 索引 *schema-name.index-name* は無効であり、使用できません。

説明: テキスト索引は無効であり、更新も使用することもできません。

ユーザーの処置: 無効なテキスト索引をドロップしてから再作成してください。

CTE0305E *schema-name.table-name* のテキスト保守の従属表の検索に失敗しました。

説明: コマンドは、テキスト索引の管理表から情報を検索する照会を実行します。テキスト索引の情報の照会に失敗しました。

ユーザーの処置: テキスト索引の管理表へのアクセスが可能であることを確認してください。詳しくは、db2diag.log を参照してください。

CTE0306N REPLICATION CAPTURE TABLE オプションを使用して作成されたテキスト索引に対して、COMMITCOUNT 値の指定は許可されていません。

説明: REPLICATION CAPTURE TABLE オプションが

指定されている場合、索引に対して COMMITCOUNT 値を指定することはできません。

ユーザーの処置: REPLICATION CAPTURE TABLE オプションが使用されているため、索引に対して COMMITCOUNT オプションを使用しないでコマンドを再試行してください。

CTE0307N レプリケーション節で指定された表は、ビューであってはなりません。

説明: 表名ではなくビュー名がレプリケーション節で指定されました。

ユーザーの処置: レプリケーション節についてビュー名を表名に置き換えてコマンドを再試行してください。

CTE0308N ビューに対するテキスト索引は、REPLICATION CAPTURE TABLE オプションを使用して作成することはできません。

説明: 表名ではなくビュー名がレプリケーション節で指定されました。

ユーザーの処置: レプリケーション節についてビュー名を表名に置き換えてコマンドを再試行してください。

CTE0309W マスク制限によって検索結果が切り捨てられました。

説明: 検索の結果セットは、マスク解決の制限のために切り捨てられました。

ユーザーの処置: 検索照会の結果の完全なセットを取得するには、マスク解決の上限を引き上げてから検索照会を再度実行してください。

CTE0310N データベース *database-name* 内の索引 *schema-name.index-name* 用のディスク・スペースが足りないため、Net Search Extender の索引の更新が失敗しました。 必要なディスク・スペース: *required-disk-space* KB。使用可能なディスク・スペース: *available-disk-space* KB。

説明: 索引の更新のために使用可能なスペースが、必要な見積もりディスク・スペースより小さくなっています。

ユーザーの処置: 索引および索引の作業ディレクトリを保持しているファイル・システム上で、使用可能なフリー・スペースを確認してください。

ファイル・システム上で使用可能なスペースを増やしてから、索引の更新を再試行してください。

CTE0311E CREATE INDEX コマンドに、範囲がパーティション化された表に対する ADMINISTRATION TABLES IN 節がありません。

説明: コマンド構文が正しくありません。

ユーザーの処置: コマンド構文を確認してください。CREATE INDEX コマンドに、範囲がパーティション化された表に対する ADMINISTRATION TABLE IN 節を指定したことを確認してください。

CTE0312E fenced ユーザーおよびインスタンス所有者に対する共通 2 次グループが存在しません。

説明: fenced ユーザーおよびインスタンス所有者には共通 2 次グループが必須です。

ユーザーの処置: fenced ユーザーおよびインスタンス所有者に対して共通 2 次グループを追加してください。

CTE0360E ディスク・スペースが不足しているため、索引の更新は許可されません。

説明: 索引の更新のために使用可能なスペースが、必要な見積もりディスク・スペースより小さいため、索引を更新しないでください。

ユーザーの処置: 索引および索引の作業ディレクトリーを含んでいるファイル・システムについて、使用可能なフリー・スペースを確認してください。ファイル・システム上で使用可能なスペースを増やしてから、索引の更新を再試行してください。

CTE0451E 指定された文書フォーマット %1 は、強調表示 UDF ではサポートされていません。

説明: 文書フォーマット %1 は、強調表示をサポートしていません。

ユーザーの処置: 強調表示 UDF がサポートしている文書フォーマットを使用してください。

CTE0452E 強調表示 UDF のオプション %1 の前後に構文エラーがあります。

説明: 指定されたオプションの前後に誤った構文を指定しました。

ユーザーの処置: オプション %1 の前後の構文を調べて、訂正してからやり直してください。

CTE0453E 強調表示 UDF の戻りサイズが小さすぎます。

説明: 強調表示されている文書の要求された部分が、強調表示 UDF の戻りパラメーターに適合しません。

ユーザーの処置: ウィンドウ数、ウィンドウ・サイズ、および/またはヒットを表示するはずのセクション数を減らしてください。これにより、ユーザーに戻される文書の部分が削減されます。

CTE0454E コード・ページ %1 からコード・ページ UTF8 への強調表示 UDF のパラメーターの変換エラー。

説明: 指定された CCSID (これはデフォルトのデータベース CCSID の場合があります) 内の強調表示 UDF のパラメーターを UTF8 に変換できません。

ユーザーの処置: CCSID の正しい指定を確認してください。

CTE0455E データベースのコード・ページ %1 は、強調表示 UDF ではサポートされていません。

説明: そのデータベースには、強調表示 UDF でサポートされていないコード・ページが含まれています。

CTE0456E 強調表示 UDF は、コード・ページ UTF8 の文書のみをサポートしています。

説明: コード・ページ UTF8 の文書のみが強調表示 UDF をサポートしています。

CTE0457E パラメーター %2 の値 %1 は、強調表示 UDF では無効です。

説明: 強調表示されているパラメーターの値が無効です。

ユーザーの処置: パラメーターの値を調べて、その値がデータ範囲で許可されていることを確認してください。

CTE0458E 使用法: db2exthl <new size in kilo bytes>

説明: db2exthl ユーティリティのパラメーターが正しくありません。

ユーザーの処置: 1 から 1048576 の間の値を指定してください。

第 55 章 CTE0500 - CTE0999

CTE0841E コマンド・オプション *%1* がありません。

説明: 必要なコマンド・オプションが指定されませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたパラメーターを調べて、欠落しているパラメーターを追加してください。

CTE0842E コマンド・オプション *%1* の値が指定されていません。

説明: コマンド・オプションに必要な値が指定されませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたパラメーターを調べて、欠落しているオプションを追加してください。

CTE0843E コマンド・オプション *%1* に数値が指定されていません。

説明: 数値ではなくストリングが指定されています。

ユーザーの処置: 指定されたパラメーターを調べて、ストリングを正しい数値に変更してください。

CTE0844E 定義ファイル・パス *%1* が長すぎます。

説明: 指定されたパスが長すぎて、処理できませんでした。

ユーザーの処置: パスを短くして、やり直してください。

CTE0845E 定義ファイルが指定されていません。

説明: 定義ファイルを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な定義ファイルを追加して、呼び出しをやり直してください。

CTE0846E 定義ファイル名 *%1* が長すぎます。

説明: 指定された定義ファイル名が長すぎます。

ユーザーの処置: 定義ファイル名の長さを許可された長さまで削減してください。

CTE0847E 定義ファイル *%1* が存在しません。

説明: 指定された定義ファイルが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 定義ファイルが正しいパスにあり、現行ユーザーがアクセス可能であることを確認してください。

CTE0849E ディクショナリー・ファイル *%1* をロックできませんでした。

説明: 処理は、ディクショナリー・ファイルをロックできませんでした。ユーザーに書き込みアクセス権限がないか、または別の処理が、書き込みのためにそのファイルをオープンしています。

ユーザーの処置: 実行中の処理を調べて、ディクショナリー・ファイルをロックしている処理がないことを確認し、ユーザーのアクセス権限を確認してください。

CTE0850E 出力ファイル *%1* は既に存在します。

説明: 指定された出力ファイルを上書きできませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーにシソーラスを作成できることを確認してください。

CTE0851E ディクショナリー・ファイル *%1* の健全性が失われました。

説明: シソーラス・ディクショナリー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: ディレクトリーをクリーンアップし、定義ファイルをもう一度コンパイルしてください。

CTE0852E ディクショナリー・ファイル *%1* のバージョン・エラーです。

説明: ディクショナリー・ファイルが、旧バージョンのシソーラス・コンパイラーで生成されました。

ユーザーの処置: 現行バージョンのシソーラス・コンパイラーを使用して定義ファイルを再度コンパイルしてください。

CTE0853E 既存のディクショナリー *%1* を上書きできません。

説明: 既存のディクショナリーを上書きできません。

ユーザーの処置: 当該ディクショナリー・ファイル、そのディレクトリー・ロケーション、およびサブディレクトリー・ロケーションに関する書き込みアクセス権限を確認してください。

CTE0855E シソーラス用語が誤って指定されています。

説明: 定義ファイルに構文エラーがあります。

ユーザーの処置: シソーラス定義ファイルとシソーラス・サポートの作成については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0856E 定義ファイル %1 が空です。

説明: 空の定義ファイルは許可されていません。

ユーザーの処置: シソーラス定義ファイルとシソーラス・サポートの作成については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0857E ファイル *file-name* の行 *line-number* に、ブロック開始行が見つかりません。

説明: シソーラス定義ファイルに構文エラーがあります。

ユーザーの処置: ブロックは、'WORDS' で始まる必要があります。シソーラスの概念については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0858E ファイル %1 の行 %2 に、無効なリレーションシップが指定されています。

説明: 定義ファイルに構文エラーがあります。

ユーザーの処置: 「associated-term-definition」を調べる必要があります。シソーラス定義ファイルの作成については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0859E ファイル %1 の行 %2 のリレーションシップ番号が範囲外です。

説明: ユーザー定義の関係は、すべて、連想タイプに基づいています。これらは、1 から 128 までの間の固有の数で識別されます。

ユーザーの処置: リレーションシップ番号を確認してください。

CTE0860E ファイル %1 の行 %2 に用語が定義されていません。

説明: 必要な用語が指定されていません。

ユーザーの処置: シソーラス定義ファイルの作成については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0861E ファイル %1 の行 %2 のシソーラス用語が長すぎます。

説明: シソーラス用語の長さは、64 バイトに制限されています。

ユーザーの処置: シソーラス用語の長さを変更して、やり直してください。

CTE0862E ファイル %1 の行 %2 の強さが誤って指定されています。

説明: 定義ファイルに構文エラーがあります。

ユーザーの処置: シソーラス定義ファイルとシソーラス・サポートの作成については、Net Search Extender 文書を調べてください。

CTE0863E ファイル %1 の行 %2 の強さが範囲外です。

説明: 強さの値は、1 から 100 までの間で指定する必要があります。

ユーザーの処置: 強さの値を、1 から 100 までの数値となるように変更してください。

CTE0864E 内部エラー: シソーラス・コンパイラーが理由コード %1 で失敗しました。

説明: これ以上の処理ができない内部処理エラーが発生しました。DB2 同様に、更新サービス、ロック・サービスを開始して、次に停止してみてください。

ユーザーの処置: エラーが続く場合は、トレースを開始し、さらに db2diag.log もチェックしてください。

CTE0865E ディレクトリー %1 を作成できませんでした。

説明: 指定されたディレクトリーを作成できませんでした。

ユーザーの処置: そのディレクトリーが既に存在するかどうか、およびそのディレクトリーのアクセス権を確認してください。

CTE0866E ディレクトリー %1 を除去できませんでした。

説明: 当該ディレクトリーを除去できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーの書き込み権限を持っていることを確認してください。

第 10 部 DB2 メッセージ

このセクションには、コマンド行プロセッサが生成するメッセージが記載されています。コマンド行プロセッサは DB2 および SQL メッセージを返します。メッセージは番号順にリストされています。

第 56 章 DB20000 - DB20499

DB20000I *command* コマンドが正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 57 章 DB21000 - DB21499

DB21001E 'DB2' コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された *option-letter* オプションが正しくありません。

説明: 示されたオプションはサポートされていません。サポートされているオプションは以下のとおりです。

オプション	説明
-a	SQLCA を表示する
-c	自動コミット
-e	SQLCODE/SQLSTATE を表示する
-f	入力ファイルから読み込む
-l	履歴ファイルにコマンドのログをとる
-n	改行文字を除去する
-o	出力を表示する
-p	対話式プロンプトを表示する
-r	出力レポートをファイルに保管する
-s	cmd エラーで実行を停止する
-t	ステートメント終了文字を設定する
-v	現在のコマンドを繰り返す
-w	FETCH/SELECT 警告を表示する
-x	列見出しの印刷を抑制する
-z	すべての出力をファイルに保管する

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なオプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21002E 'db2'コマンドの後ろ、または **DB2OPTIONS** 変数に指定された *option-letter* オプションのパラメーターがないか、または正しくありません。

説明: パラメーターを持つオプションのリストは以下のとおりです。

オプション	説明
-ec	SQLCODE を表示する
-es	SQLSTATE を表示する
-f<filename>	入力ファイル <filename> から読み取る
-l<filename>	履歴ファイル <filename> に コマンドを記録する
-r<filename>	出力レポートをファイル <filename> に保存する
-td<x>	終了文字を 'x' に設定する
-z<filename>	すべての出力をファイル <filename> に保存する

ユーザーの処置: 有効なオプションとパラメーターを使

用して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21003E *environment-variable* の値 *value* が無効です。

説明: DB2BQTRY の値は 0 から 4294967295 でなければなりません。DB2BQTIME、DB2RQTIME または DB2IQTIME の値は 1 から 4294967295 でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい値で環境変数を設定し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21004E コマンド行プロセッサの呼び出しで、入力ファイルとコマンドの両方を指定することはできません。

説明: コマンド行プロセッサを呼び出す場合、-f オプションとコマンド行コマンドの両方は指定できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

DB21005E ファイル *filename* にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: 以下が原因で、エラーが発生したと考えられます。

- ファイル許可がファイル・アクセスを許可しません
- ファイルが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正し、やり直してください。

DB21006E 入力コマンドが長すぎます。最大長は *length* です。

説明: 入力コマンドは、示されている長さを超えることはできません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21007E コマンド読み取り中に、ファイルの終わりに達しました。

説明: ファイルの終わりに達したため、最後のコマンドが実行されませんでした。-t オプションを使用している場合、最後のコマンドを ';' (または定義済みの終了文

DB21008E

字) で終了させます。 +h オプションを使用している場合は、コマンドの最後の行から ♪ を取り除きます。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21008E コマンドは、コマンド行プロセッサの対話モードか、ファイル入力モードでのみ入力できます。

説明: コマンド行プロセッサ・コマンドを DOS プロンプトから入力しようとした。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサの対話型モード、またはファイル入力モードを使用してください。

DB21009E このコマンドは、完全な管理特権で実行しているコマンド・ウィンドウから立ち上げなければなりません。

説明: 限定された特権セットで実行しているコマンド・ウィンドウからこのコマンドを実行することはできません。 DB2 インストール済み環境には「コマンド・ウィンドウ - 管理者」ショートカットが提供されており、このショートカットにはこのコマンドの該当する実行権があります。

ユーザーの処置: 「コマンド・ウィンドウ - 管理者」ショートカットを立ち上げて、コマンドを再実行してください。

DB21010I *help-command-phrase* のヘルプです。

説明: このメッセージは、-I オプションで指定された履歴ファイルにのみ書き込まれます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB21011I パーティション・データベース・サーバー環境において、現行ノード上の表スペースのみリストされます。

説明: 現行ノード上の表スペースのみが LIST TABLESPACES コマンドで見ることができます。

ユーザーの処置: 別のノード上にある表スペースをリストするには、そのノードで LIST TABLESPACES コマンドを出さなければなりません。

DB21015E コマンド行プロセッサのバックエンド処理の要求キューまたは入力キューが、タイムアウト時間内に作成されませんでした。

説明: DB2BQTRY および DB2BQTIME 環境変数の値を増やす必要があるか、またはコマンド行プロセッサのバックエンド・プログラム "db2bp" が始動できないかの

のいずれかです。 "db2bp" プログラムは、正しいデータベース・マネージャー・インストール・パスに存在していなければならない、ユーザーはそのファイルの実行許可を持っている必要があります。

Linux および UNIX プラットフォームで、ファイル・システムに十分なファイル・ブロックと i ノードがあるか確認してください。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21016E バックエンド処理にコマンドを送信中に、コマンド行プロセッサでシステム・エラーが発生しました。

説明: 以下のいずれかが発生した可能性があります。

- バックエンド処理が異常終了しました。
- バックエンド処理キューとの間の読み取りまたは書き込み中に、システム・エラーが発生しました。
- フロントエンド処理の出力キューからの読み取り中に、システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21017E コマンド行プロセッサのフロントエンド処理の出力キューで、システム・エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: フロントエンド処理の出力キューの作成または読み取り中に、システム・エラーが発生しました。

理由コードが -2499 の場合、コマンド行プロセッサの出力キューが既存のキューと矛盾しています。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、メッセージ番号と理由コードを記録して、システム管理者に報告してください。

DB21018E システム・エラーが発生しました。コマンド行プロセッサは処理を続行できませんでした。

説明: 以下のいずれかがシステム・エラーの原因です。

- スクリーンに出力されるデータが多すぎます。処理の完了時に表示できるファイルに、出力をパイプ接続してください。
- コマンド行プロセッサが、割り込みシグナル・ハンドラーのインストールに失敗しました。

- コマンド行プロセッサが、バックエンド処理キューのオープンに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、バックエンド処理の始動に失敗しました。
- バックエンド処理が異常終了しました。
- フロントエンド処理が、メモリーの割り振りまたは解放に失敗しました。
- フロントエンドまたはバックエンド、あるいはその両方の処理が、動的にライブラリーをロードするのに失敗しました。
- コマンド行プロセッサが、以下のいずれかのプログラム終了シグナルを受け取りました。
 - SIGILL
 - SIGTRAP
 - SIGEMT
 - SIGBUS
 - SIGSEGV
 - SIGSYS

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合、DB2 メッセージ番号を記録しておいてください。トレースがアクティブであった場合は、トレース情報を保管し、技術サポートに次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- DB2 メッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

DB21019E ディレクトリー *directory* にアクセス中に、エラーが発生しました。

説明: 以下が原因で、エラーが発生したと考えられません。

- ディレクトリー許可がアクセスを許可しません
- ディレクトリーが存在しません

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21020E デフォルトのメッセージ・ファイル *file* を作成できません。

説明: このコマンドを適切に処理するため、メッセージをコンソールに表示する前に、処理の保管中にそのメッセージを発行したファイルが CLP に必要となります。このような目的で通常使用されているディレクトリー (UNIX プラットフォームの /tmp) に、そのファイルを作成しようとしたが、そのディレクトリーが存在しないため失敗しました。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21021E Admin Server のインスタンスが定義されていません。コマンドは失敗しました。

説明: Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しましたが、そのインスタンスは定義されていません。

ユーザーの処置: Administration Server インスタンスを定義してコマンドを再サブミットしてください。

DB21022E Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えられません。

説明: Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しました。コマンド行プロセッサが Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えようとしたが、失敗しました。以下の理由が考えられます。

- Administration Server のインスタンスが正しく設定されていない。
- コマンド行プロセッサがすでに DB2 インスタンスにアタッチされている。
- コマンド行プロセッサがデータベースに接続している。

ユーザーの処置: このコマンドを使用する前に、有効な Administration Server インスタンスが設定されているかどうかチェックしてください。また要求を試みる前に、DETACH、CONNECT RESET、あるいは TERMINATE コマンドを発行するようお勧めします。

DB21023E Administration Server から実行される場合、コマンドは無効です。

説明: GET DBM CONFIGURATION、RESET DBM CONFIGURATION、あるいは UPDATE DBM CONFIGURATION のいずれかのコマンドを出しましたが、これらのコマンドは Administration Server から実行できません。

ユーザーの処置: Administration Server で有効なコマンドのいずれかを発行してください。GET ADMIN CONFIGURATION、RESET ADMIN CONFIGURATION、あるいは UPDATE ADMIN CONFIGURATION。

DB21024I このコマンドは非同期であり、即時に有効にならない場合もあります。

説明: このメッセージは、ASYNC 節を持つ FORCE

DB21025I

コマンドか、INPLACE 節を持つ REORG TABLE コマンドの後に表示されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB21025I 即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。クライアントの変更は、次のアプリケーション始動時、または TERMINATE コマンドが発行されるまで有効になりません。次の DB2START コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。

説明: データベース・マネージャーの構成変更のうちいくつかの変更を即時に適用することができませんでした。これらのパラメーターについては、DB2 の開始後に変更が適用されます。通常これは、サーバーでの DB2START の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に発生します。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース・マネージャー構成パラメーターを検索し、詳細を表示してください。

```
DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL
```

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合のみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下の 1 つ以上を行ってください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: TERMINATE および再接続
- サーバー: DB2STOP および DB2START の発行

DB21026I 即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。これらの構成パラメーターでは、変更を有効にする前にすべてのアプリケーションをこのデータベースから切断する必要があります。

説明: データベース構成コマンドは正常に処理されました。しかし、いくつかの変更は即座に処理されませんでした。

アプリケーションがデータベースから切断された後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

```
DB2 GET DB CFG FOR  
<database-alias> SHOW DETAIL
```

データベースに接続している場合のみ、データベース構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下の 1 つ以上を行ってください。

- すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認し、db2 接続コマンドを発行する。
- バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする。
- FLUSH PACKAGE CACHE コマンドを使用して、SQL キャッシュ内の動的ステートメントを無効にする。

DB21027E データベースに接続中は、分離レベルは変更できません。

説明: データベースに接続されている間に、分離レベルを変更しようとしていました。コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: 分離レベルの変更が必要な場合、現在のデータベースから切断した後で分離レベルを設定し、そのデータベースに再接続してください。

DB21028E カーソル *cursor-name* が宣言されていません。

説明: OPEN、FETCH、または CLOSE SQL ステートメントを発行する前に、示されているカーソルを宣言する必要があります。

ユーザーの処置: カーソルを宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21029E カーソル *cursor-name* は、すでに宣言されオープンされています。

説明: オープンされているカーソルを宣言しようとした。

ユーザーの処置: カーソルをクローズして、オープン・コマンドを再サブミットしてください。

DB21030E カーソル *cursor-name* がオープンされていません。

説明: 示されたカーソルをオープンする必要があります。

ユーザーの処置: カーソルをオープンして、コマンドを再サブミットしてください。

DB21031E カーソル *cursor-name (internal-cursor)* を使用している SQL ステートメントが戻されました。

説明: このメッセージは、ユーザー定義カーソルの内部カーソル名を表示します。いくつかの SQL エラー・メッセージが、内部カーソル名を示す場合があります。このメッセージは、SQL メッセージの前に表示されません。

ユーザーの処置: SQL エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21032E すでに、最大数のカーソルが宣言されています。

説明: コマンド行プロセッサは、WITH HOLD 属性で宣言された 100 のカーソル、および WITH HOLD 属性なしで宣言された 100 のカーソルをサポートしています。

ユーザーの処置: 既存のカーソルのいずれかを再宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21033E この DB2データベース・サーバーについて無効なコマンドです。

説明: 以下のコマンドは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows データベース・サーバーへのアクセス時のみサポートされます。

- LIST TABLES
- LIST PACKAGES
- REORGCHK
- INGEST

ユーザーの処置: このデータベースに対してコマンドを発行しないでください。

DB21034E コマンドが、有効なコマンド行プロセッサ・コマンドでないため、SQL ステートメントとして処理されました。SQL 処理中に、次のエラーが返されました。

説明: DB2 コマンド行プロセッサ (CLP) を使用して、データベース・ユーティリティ、SQL ステートメント、およびオンライン・ヘルプを実行できます。対話モード、コマンド・モード (この場合は各コマンドに "db2" 接頭部を付ける必要があります)、またはバッチ・モードのいずれかで、CLP を使用することができます。

このメッセージは、以下のシナリオで表示されます。

1. テキストが CLP に渡されたが、有効な CLP コマンドではない。
2. SQL ステートメントとして処理するために CLP がデータベース・マネージャーにテキストを渡したときにエラーが発生した。このシナリオが発生した場合には、このメッセージが返された後に、データベース・マネージャーが返すエラー・メッセージが続きます。

このエラーは、指定されたコマンドまたは SQL ステートメントにおける、次のような種類の問題が原因となって発生します。

- コマンド・モードまたはバッチ・モードでテキストが CLP に渡されたが、エスケープ文字によって識別されない特殊文字 (引用符など) がテキスト内に存在する。
- 構文エラーがある。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- コマンド内に引用符などの特殊文字がある場合には、円記号 (¥) などのエスケープ文字を使用して、オペレーティング・システム・シェルにそれらの特殊文字を無視させます。
- 以下のステップを実行することにより、構文エラーを修正します。
 1. データベース・マネージャーから返されたエラーの全文を検討して、そのエラーの原因を判別します。
 2. コマンドを変更して、問題の原因を修正します。
 3. コマンドを再サブミットしてください。

DB21035E *list-name* リストの項目の最大数を超えました。最大数は *number* です。

説明: リストの項目数は、示されている最大数を超えることはできません。このエラーは、無効な範囲指定によって発生した可能性があります。

DB21036E

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21036E *command* コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: トレースをアクティブにして、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、技術サポートに次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- DB2 メッセージ番号
- トレース・ファイル

DB21037W データ・ソースが見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したタイプ (USER あるいは SYSTEM) の ODBC データ・ソースが見つかりませんでした。他のタイプ (SYSTEM あるいは USER) を指定して、コマンドを再試行してください。

DB21040E *number* は、有効な未確定トランザクション番号ではありません。

説明: *number* が、リストされている未確定のトランザクション番号のいずれでもありません。

ユーザーの処置: リストされているトランザクション番号のいずれかを選択して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21041W *number* 個の未確定トランザクションが表示されていません。

説明: コマンド行プロセッサが、すべての未確定トランザクションを表示できませんでした。表示されなかったトランザクションの数は *number* です。

ユーザーの処置: システムの未確定トランザクションの合計数を減らすためには、未確定トランザクションの現在のリストの処理を完了してください。次に、未確定トランザクションのリスト・コマンドを再発行してください。

DB21042E トランザクション番号を指定しなければなりません。

説明: トランザクション番号は、commit (c)、rollback (r)、または forget (f) の未確定トランザクション・サブコマンドを使って指定してください。

ユーザーの処置: 適切なトランザクション番号を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21043E *subcommand* は有効な要求ではありません。

説明: 示された未確定トランザクション・サブコマンドが無効です。有効なサブコマンドは、以下のとおりです。

サブコマンド 説明

c <number> 未確定トランザクション
<number> をヒューリス
ティックにコミット
r <number> 未確定トランザクション
<number> をヒューリス
ティックにロールバック
f <number> 未確定トランザクション
<number> をヒューリス
ティックに取り消し
l <number> 未確定トランザクション
すべて、または未確定トランザ
クション <number> をリ
スト
q LIST INDOUBT TRANSACTION
プロンプトを終了

注: *number* コマンドは、DB2 Extended Enterprise Edition では使用できません。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21044E トランザクション番号 *number* の COMMIT を行うことができません。

説明: commit (c) サブコマンドを発行するときは、トランザクションが準備状態 (i) でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21045E トランザクション番号 *number* の ROLLBACK を行うことができません。

説明: トランザクションは準備済み (i) またはアイドル (e) 状態である必要があります。ロールバック (r) サブコマンドを発行する際に、

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21046E トランザクション番号 *number* の FORGET を行うことができません。

説明: forget (f) コマンドを発行するときは、トランザクションがヒューリスティックにコミット済み (c) またはヒューリスティックにロールバック済み (f) の状態でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のコマンドを発行してください。

DB21050E *state* は有効な **SQLSTATE** ではありません。

説明: 示されている *sqlstate* が有効でないか、または見つかりませんでした。有効な状態は、2 から 5 桁の数値です。

ユーザーの処置: 別の状態を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21051E この環境ではサポートされないコマンドです。

説明: 要求されたコマンドは、現在の環境ではコマンド行プロセッサによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 別のプラットフォーム、または別の環境でコマンドを再サブミットしてください。

DB21052I *command* が実行のためにサブミットされました。

説明: コマンド行プロセッサが、示されているコマンドを実行しようとしています。コマンドが正常に完了したかどうかは判別できません。

ユーザーの処置: コマンドが明らかに失敗した場合、そのコマンドをコマンド行プロセッサ外からサブミットしてください。

DB21053W *isolation-level* をサポートしないデータベースに接続すると、自動エスカレーションが行われます。

説明: 分離レベルはデータベースによって異なります。NC などの一部だけが、特定のデータベースにサポートされています。接続しているデータベースによってサポートされていない分離レベルを選択すると、サポートされているレベルに自動的にエスカレートされます。

ユーザーの処置: 選択した分離レベルをサポートするデータベースに接続するか、または別の分離レベルを選択してください。

DB21054E コマンド行プロセッサが、*command* コマンドでシステム・エラーを検出しました。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードで示されているコマンドの部分の処理中に、コマンド行プロセッサが十分なメモリーを取得できませんでした。

Reason

code	Description	Syntax
1	Data file	LOAD FROM file/pipe/dev...

2	Lob data	LOBS FROM lob-path...
3	Directory	USING directory...
4	Source	FROM dir/dev...
5	Target	TO dir/dev...
6	Tablespace	TABLESPACE tblspace-name...
7	Tblspace-def	MANAGED BY...
8	Container data	USING (PATH..., PATH...) or USING ({FILE DEVICE}..., {FILE DEVICE}...)
9	Log path	log-directory ..., log-directory ...
10	Node list	node-number ..., node-number ...
11	Partitioned load option	[PARTITIONED DB CONFIG] partitioned-db-option [partitioned-db-option]...
12	Storage path	ON drive/path, drive/path...
17	Ingest field definition	(<\$name> <type>, ...)
18	SQL statement on the INGEST command	INSERT ..., UPDATE ..., MERGE..., or DELETE ...
19	Column name in the SQL statement on the INGEST command	Any column in the statement
20	Field name in the SQL statement on the INGEST command	Any field in the statement

ユーザーの処置: 以下のいずれの方法で、このエラーを回避できる可能性があります。

- ヒープ・サイズまたはメモリー・サイズを制御するいずれかのデータベース・マネージャー構成パラメータの指定値を大きくします。
- 理由コードで示されているコマンドの部分を変更し、含まれるエレメントを減らします。例えば、理由コードが 17 である場合は、INGEST コマンドからフィールド定義の一部を削除します。

DB21055W コマンドはタイプ 2 接続には無効です。

説明: タイプ 2 接続には適用されない GET CONNECTION STATE コマンドから情報が返されました。

ユーザーの処置: QUERY CLIENT を発行して、CONNECT = 1 を確認してください。

DB21056W ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。

説明: ディレクトリー・キャッシュ (DBM CFG dir_cache) が有効なら、データベース、ノード、および DCS ディレクトリー・ファイルがメモリーにキャッシュされます。ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。ディレクトリー・キャッシュの記述については、「管理ガイド」で dir_cache 構成パラメーターを参照してください。

ユーザーの処置: CLP のディレクトリー・キャッシュをリフレッシュするには、db2 TERMINATE を発行してください。他のアプリケーションのディレクトリー情報をリフレッシュするには、そのアプリケーションの停止と再始動を行ってください。データベースのディレクトリー情報をリフレッシュするには、データベースの停止 (db2stop) と再始動 (db2start) を行ってください。

DB21057E 無効なテープ装置が指定されました。

説明: オペレーティング・システムに渡されたテープ装置は受け入れられていません。Windows NT では、これは形式 "¥¥.¥TAPEx" でなければなりません。ここで x はドライブ番号 (0 が最初) を表します。

ユーザーの処置: 有効なテープ装置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21058E 無効なテープ位置が指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク位置が無効です。Windows NT では、バックアップが記録される最初のテープ位置は 1 です。後続のバックアップ・イメージはテープ・マーク 2 で開始されます。

ユーザーの処置: 有効なテープ位置を指定して、コマンドを再発行してください。

DB21059E 無効なテープ・ブロック・サイズが指定されました。

説明: 指定されたテープ・マーク・ブロック・サイズがテープ装置でサポートされる範囲内になっていません。さらに、作業のためのバックアップ/リストアでは、これは係数または 4096 の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なテープ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

DB21060E 一般的なテープの障害。

説明: テープ操作から予期しない戻りコードが戻されました。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

DB21061E コマンド行環境が初期化されていません。

説明: db2cmd.exe によって開始されていないコマンド・ウィンドウから、コマンド行プロセッサを呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: DB2CMD を出して、コマンド行プロセッサ環境が初期化されているコマンド・ウィンドウを開始してください。

DB21070W 1 つ以上の構成パラメーターが、AUTOMATIC をサポートしていないのに AUTOMATIC に設定されました。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、どのパラメーターの変更が成功したか調べるために、変更を個々に再サブミットしてください。

1 つのパラメーターがサブミットされただけである場合は、このメッセージは、値 AUTOMATIC がこのパラメーターでサポートされていないことを示します。

どの構成パラメーターが AUTOMATIC 値をサポートするかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

DB21071W 構成パラメーター値がすべてのノードで変更されましたが、値の変更が動的に変更されなかったノードがあります。

ユーザーの処置: パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、詳細情報を得るために、更新コマンドを個々に発行してください。

成功しなかったノードを次回再始動するときに、新しい値が有効になります。

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合にのみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

動的アプリケーションで失敗したノードを識別するには、各ノードでインスタンスをアタッチし、次のコマンドを発行してください。

DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL

DB21080E このデータベース別名に対して事前に発行した、**REDIRECT** オプション付きの **RESTORE DATABASE** コマンドがないか、またはそのコマンドに関する情報が失われています。

説明: **CONTINUE** または **ABORT** オプションで、**RESTORE DATABASE** コマンドを実行しようとした。しかし、前に **REDIRECT** オプションで **RESTORE DATABASE** コマンドを発行していないか、または失敗コマンド上で指定されたのは別のデータベース別名以外に対してそのようなコマンドを発行しました。このメッセージが出された別の原因として、前に正しく発行された **RESTORE DATABASE ... REDIRECT** コマンドの情報が消失したことが考えられます。これは、CLP バックエンド処理が異常終了した場合か、または **TERMINATE** コマンドを発行した場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: **RESTORE DATABASE ... REDIRECT** コマンドおよび **SET TABLESPACE CONTAINERS** コマンドを再発行して、フル・リダイレクトされたリストア処理を再開してください。次に、**RESTORE DATABASE ... CONTINUE** コマンドを発行してください。

DB21081E **db2cli.ini** ファイルにはセクションがありません。

説明: **GET CLI CONFIGURATION** コマンドを使用することによって、**db2cli.ini** ファイルの CLI パラメータをリストしようとしたましたが、ファイルが空です。ファイルにはセクションがありません。

ユーザーの処置: **db2cli.ini** ファイルを更新するには、**UPDATE CLI CONFIGURATION** コマンドを使用してください。

DB21082E **UPDATE CLI CONFIGURATION** コマンドを実行する権限がありません。

説明: このコマンドを実行するには、**SYSADM** 権限が必要です。

ユーザーの処置: データベース管理者から必要な権限を与えてもらってから、コマンドを再発行してください。

DB21083E セクション *section* がありません。

説明: セクション *<section>* が **db2cli.ini** ファイルがありません。

ユーザーの処置: 既存のセクションを指定して、コマン

ドを再度発行してください。

DB21084E 新規パスワードと確認パスワードが一致しません。

説明: **ATTACH** または **CONNECT** コマンドを使用していて、パスワードの変更を指定しました。新規パスワードは、**NEW** および **CONFIRM** 節を使用して、あるいはプロンプトに応答して 2 回指定する必要があります。新規パスワードとして指定した 2 つのパスワードは、別々のものです。

ユーザーの処置: 同じパスワードを 2 回指定してください。

DB21085I インスタンス *instance-name* は、32 または 64 ビットおよび **DB2** コード・リリース *ver-rel-mod* をレベル **ID** *level-id* で使用します。

説明: このメッセージは、**db2level** コマンドの出力で、指定の **DB2** インスタンスのコード・レベルに関する詳細情報を提供します。この情報は、**DB2** サービス担当者が問題を解決するために要求することがあります。

ユーザーの処置: **DB2** サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2level 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。**DB2** インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

お客様ご自身が **DB2** サービス担当者からプライベート・テスト修正プログラムを受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルの上にこれをインストールした場合、**db2level** 実行プログラムは、そのプライベート・テスト修正プログラムに関するすべての情報を表示するとは限りません。

DB21086I このバックアップ・イメージの増分 **RESTORE** 操作が正常に完了しましたが、増分 **RESTORE** 操作全体を完了するためにリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

説明: 増分 **RESTORE** 操作を完了するには、そのリストア・チェーン内の増分バックアップ・イメージがそれぞれリストアされていなければなりません。現在の操作は正常に終了しますが、**RESTORE** 操作全体が完了するためにはリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

ユーザーの処置: 次のバックアップ・イメージをリストアします。

DB21089I DB2 Administration Server *server-name* は、DB2 コード・リリース *ver-rel-mod*、レベル ID *level-id* を使用します。情報トークンは、*build-id1*、*build-id2*、およびフィックス・パック *FixPak-number* です。製品は *install-path* にインストールされます。

説明: このメッセージは、db2daslevel コマンドの出力で、指定の DB2 Administration Server のコード・レベルに関する詳細情報を提供します。この情報は、DB2 サービス担当者が問題を解決するために要求することがあります。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2daslevel 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。DB2 インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

お客様ご自身が DB2 サービス担当者からプライベート・テスト修正プログラムを受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルの上にこれをインストールした場合、db2daslevel 実行プログラムは、そのプライベート・テスト修正プログラムに関するすべての情報を表示するとは限りません。

DB21100E ストアド・プロシージャ *procedure-name* が複数のスキーマに存在します。

説明: 示されているプロシージャ名が複数のスキーマに見つかりました。

ユーザーの処置: 完全修飾プロシージャ名 (*schema.procedure-name*) を指定して、CALL コマンドを再発行してください。

DB21101E ストアド・プロシージャ "*procedure-name*" に指定されたパラメーターが少なすぎます (予想 *quantity*)。

説明: このストアド・プロシージャの定義には、CALL コマンドに指定されたより多くのパラメーターが含まれています。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャのパラメーターの数を確認して、コマンドを再発行してください。

DB21102E ストアド・プロシージャ "*procedure-name*" に指定されたパラメーターが多すぎます (予想 *quantity*)。

説明: このストアド・プロシージャの定義には、CALL コマンドに指定されたより少ないパラメーターが含まれています。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャのパラメーターの数を確認してください。

DB21103E パラメーター パラメーター番号 のデータ・タイプは CLP の CALL コマンドではサポートされていません。

説明: CLP にいる場合、データ・タイプがパラメーター *parameter-number* のデータ・タイプであるパラメーターを使ってストアド・プロシージャを呼び出すことはできません。

ユーザーの処置: このストアド・プロシージャを CLP から呼び出さないでください。

DB21104E ストアド・プロシージャ "*procedure-name*" のパラメーター *parameter-number* は、INPUT パラメーターでなければなりません。

説明: パラメーター *parameter-number* は、INPUT または INPUT/OUTPUT パラメーターとして定義されています。ただし、このパラメーターには "?" が指定されています。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter-number* の "?" を、このパラメーターの入力値で置換し、再度 CALL コマンドを発行してください。

DB21105E ストアド・プロシージャ "*procedure-name*" のパラメーター *parameter-number* は、OUTPUT パラメーターでなければなりません。

説明: パラメーター *parameter-number* は、OUTPUT パラメーターとして定義されています。ただし、このパラメーターには入力値が指定されています。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter-number* の入力値を "?" で置換して、再度 CALL コマンドを発行してください。

DB21106E ストアド・プロシージャ "*procedure-name*" が未定義です。

説明: ストアド・プロシージャが定義されていないか、システム・カタログに入っていません。

ユーザーの処置: ストアード・プロシージャがシステム・カタログに存在することを確認してください。ストアード・プロシージャをドロップし、再作成を試みてください。次に、CALL コマンドを再発行してください。

DB21107E ファイル *file-name* にアクセス中にエラーが発生しました。理由コード: *reason-code*

説明: CLP コマンド REGISTER XMLSCHEMA、REGISTER XSROBJECT、ADD XMLSCHEMA DOCUMENT、COMPLETE XMLSCHEMA、またはDECOMPOSE XML DOCUMENT の場合、理由コードには以下のものがあります。

- 1
ファイル・サイズが 0 です。
- 2
ファイルが見つかりません。
- 3
ファイルへのアクセスが拒否されました。ユーザーが、ファイルを開くための許可を持っていません。
- 4
ファイルの読み取り中、予期しないファイルの終了が見つかりました。
- 5
ファイルへのアクセスが拒否されました。ファイルが使用中です。
- 6
ファイルのアクセス中に、メディア・エラーが発生しました。
- 7
文書のサイズが、コマンドによってサポートされている最大サイズを超えています。

ユーザーの処置: すべてのエラーを修正して、アプリケーションを再実行してください。

DB21108E DB2 サーバーのバージョンがこの機能をサポートしていないため、この要求を実行できません。

説明: 新しい機能の一部は、古い DB2 サーバーのバージョンに対してサポートされていません。

ユーザーの処置: 最新バージョンの DB2 サーバーがインストールされている、またはサーバーが最新バージョンの DB2 サーバーにアップグレードされている DB2

サーバーに対して、要求を実行してください。

DB21109E *directive* ディレクティブの構文が正しくありません。理由コード: *reason-code*。

説明: ディレクティブ内の --#SET TERMINATOR 構文フラグメントに問題があるため、新規終止符を設定できません。終止符は変更されていません。以下のいずれかの理由コードが適用されます。

理由コード:

- 1 無効な終止符が指定されました。有効な終止符には 1 文字または 2 文字が含まれますが、スペースやタブを含めることはできません。
- 2 ディレクティブに新規終止符が含まれていません。
- 3 --#SET TERMINATOR のワードの後にスペースが必要です。

ユーザーの処置: ディレクティブの構文を訂正してから、ディレクティブを再発行してください。

第 58 章 DB21500 - DB21999

DB21500I DB2MSCS コマンドが正常に完了しました。

説明: ユーザー要求は正常に処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB21501E 次の無効なオプションが指定されていたために、db2mscs コマンドが失敗しました:
option-name

説明: db2mscs ユーティリティを使用して、Microsoft Cluster Server (MSCS) で DB2 フェイルオーバー・サポートのためのインフラストラクチャーを作成できます。

db2mscs コマンドの有効な引数は以下のとおりです。

- -f InputFileName は、MSCS ユーティリティが使用する DB2MSCS.CFG 入力ファイルを指定します。このパラメーターが指定されない場合、DB2MSCS ユーティリティは、現行ディレクトリーの DB2MSCS.CFG ファイルを読み取ります。
- -d TraceFileName は、デバッグ・トレースをオンにし、トレース出力ファイルの名前を指定します。
- -u InstanceName は、インスタンスの DB2MSCS 操作を取り消します。
- -l Username。DB2 サービス用ドメイン・アカウントのユーザー名を指定します (domain¥user のように指定)。
- -p Password は、DB2 サービスのドメイン・アカウントのパスワードを指定します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを指定してコマンドを再入力してください。

DB21502E 構成ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: 構成ファイルをオープンできませんでした。メッセージ・テキスト内のファイル名によって、このエラーは次のように説明できます。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、入力ファイルを見つけることができなかった。
- ファイル名が "db2system" である場合、ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルが欠落している。

- ファイル名が "db2mscs.bak" である場合、バックアップ構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーに作成することができなかった。

- ファイル名が "db2mscs.bak" であり、取り消し操作が行われた場合、取り消し操作を行う際に、インスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンすることができなかった。

ユーザーの処置: エラーが発生したファイルによって、問題は次のように訂正できる場合があります。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、ファイルが現行ディレクトリーに存在するか、あるいは完全修飾ファイル名がコマンドで指定されたかどうかを確認する。
- ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルがない場合、インスタンスをドロップおよび再作成する。
- バックアップ構成ファイルがインスタンス・ディレクトリーで作成できなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーが存在し、現行ログオン・アカウントがそのディレクトリーに書き込みアクセスできることを確認する。
- 取り消し操作を行う際にインスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンできなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーを含む MSCS ディスクが現行マシン上にオンラインで存在することを確認し、操作を再試行する。

DB21503E このコマンドを処理するのに十分なメモリーがありません。

説明: コマンドを処理するのに必要なメモリーが足りなくなりました。

ユーザーの処置: システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。使用中でないすべてのアプリケーションをクローズし、システムに追加のメモリーを解放してください。

DB21504E パラメーター *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* のパラメーターの最大長を超えました。パラメーターの最大長は *length* バイトです。

説明: キーワード *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* が、そのパラメーターで許可されている最大限度を超えました。

DB21505E

ユーザーの処置: 長さの制限を満たす値を指定します。

DB21505E パラメーター *parameter-name1* は、**DB2MSCS** 構成ファイル *file-name* で、パラメーター *parameter-name2* よりも前に指定される必要があります。

説明: DB2MSCS 構成ファイルで指定されたパラメーターの順序が無効です。グループ名は他のリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。それぞれのリソースごとに、リソース名パラメーターはリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。

ユーザーの処置: DB2MSCS 構成ファイルを変更して、パラメーターの順序を訂正してください。

DB21506E クラスタ *cluster-name* にアクセスできません。クラスタ名が正しいこと、および現行マシン上でクラスタ・サービスが開始されていることを確認してください。

説明: クラスタ名が正しくないか、現行マシンでクラスタ・サービスが開始されていないかのいずれかのため、DB2MSCS ユーティリティはクラスタ名をオープンできませんでした。

ユーザーの処置: クラスタ・サービスが現行マシンで開始されていない場合は、"net start clussvc" コマンドを実行してクラスタ・サービスを開始するか、「サービス」ダイアログから "Cluster" コマンドを開始させてください。クラスタ名が DB2MSCS 構成ファイルで間違っ指定された場合は、クラスタ名を変更して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21507E インスタンス名 *instance-name* が無効です。

説明: DB2MSCS 構成ファイルで指定されたインスタンス名が無効であるか、あるいは DB2INSTANCE 環境変数が有効なインスタンス名に設定されていません。

ユーザーの処置: インスタンス名が DB2MSCS 構成ファイルで指定されている場合は、インスタンス名が有効であることを確認し、コマンドを再サブミットしてください。インスタンス名が構成ファイルで指定されていない場合は、DB2INSTANCE 環境変数が有効な DB2 インスタンスの名前に設定されていることを確認してください。

DB21509E 構成ファイル *file-name* に指定されたキーワード *keyword* は、パーティション・データベース・インスタンスでのみ有効です。

説明: ターゲット・インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスの場合にのみ、指定されたキーワードが有効です。たとえば、DB2_NODE キーワードはパーティション・データベース・インスタンスにのみ指定できます。

ユーザーの処置: 構成ファイルの無効なキーワードをコメント化し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21510E 構成ファイル *file-name* で指定された IP アドレス *internet-address* が無効です。

説明: IP アドレスまたはサブネット・マスクのいずれかに指定された値が IP アドレスのフォーマットに準拠していません。有効な IP アドレスは、次のようなフォーマットです: "nnn.nnn.nnn.nnn"ここで、nnn は 0 から 255 の数値です。

ユーザーの処置: 構成ファイルの無効なアドレスを訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

DB21511E ノード *node-number* が存在しません。

説明: DB2_NODE キーワードに指定されたノード番号が、有効なデータベース・パーティション番号に対応していません。

ユーザーの処置: 既存のノード番号を指定するように DB2_NODE パラメーターを訂正してください。

DB21512E キーワード *keyword* は有効な DB2MSCS キーワードではありません。

説明: 指定されたキーワードは有効な DB2MSCS キーワードではありませんでした。

ユーザーの処置: 有効な DB2MSCS キーワードを使用してください。キーワードに関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

DB21513E システム・エラー *error-msg* のために、DB2MSCS ユーティリティが MSCS グループ *group-name* を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21514E システム・エラー *error-msg* のために、**DB2MSCS** ユーティリティーを完了できませんでした。

説明: Windows システム・エラーのために、DB2MSCS ユーティリティーを完了できませんでした。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21515E キーワード *keyword-name* で指定された必須リソース・プロパティが、リソース *resource-name* で欠落しています。

説明: 必須パラメーターの 1 つが指定されなかったため、リソースを作成することができませんでした。たとえば、IP アドレス・リソース、IP アドレスおよびサブネット・マスクを指定する必要があります。ネットワーク名リソースの場合、ネットワーク名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 必須パラメーターが指定されていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

DB21516E **DB2MSCS** はリソース *resource-name* をオンラインにすることができません。リソースのプロパティが正しく設定されていることを確認してください。

説明: リソースが作成されたら、DB2MSCS ユーティリティーはリソースをオンラインにすることにより、リソースの妥当性検査を行います。リソースをオンラインにするのに失敗した場合、リソース・プロパティが正しく指定されていないか、クラスター・ネットワークが正しく機能していないかのいずれかであることを示します。

ユーザーの処置:

- ディスク・リソースがエラーの場合は、ディスク・サブシステムおよびディスク装置ドライバーが正しく機能していることを確認してください。ディスク装置ドライバーの問題がイベント・ログに記録された場合は、イベント・ビューアーを使用して調べる必要があります。
- IP アドレス・リソースがエラーの場合、IP パラメーターが正しいこと、および IP アドレスが存在するネットワークが正しく機能していることを確認します。また、DB2 用に指定されている IP アドレスを、ネットワーク上の他のマシンで使用することはできません。IP アドレス用に使用するパラメーターがよくわからない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
- ネットワーク名リソースがエラーの場合、ネットワークが正しく機能していること、および Netname パラ

メーターに指定された値がネットワーク上の任意のマシンで使用されていないことを確認してください。ネットワーク名パラメーターは必要ないことに注意してください。回避策としては、ネットワーク名パラメーターをコメント化して続けることができます。

- DB2 リソースがエラーの場合は、db2diag.log で DB2 エラーを調べてください。

DB21517E **MSCS** ネットワーク *network-name* がアクティブではありません。

説明: IP アドレスに指定されたネットワーク・パラメーターがアクティブではありません。

ユーザーの処置: クラスター管理ビューから、ターゲット・ネットワークをアクティブ化するが有効にし、コマンドを再サブミットしてください。

DB21518E アクティブな **MSCS** ネットワークがありません。

説明: ネットワーク・パラメーターが IP アドレスに指定されず、使用できるネットワークがありませんでした。

ユーザーの処置: 有効な **MSCS** ネットワークを構成する必要があります。MSCS ネットワークを追加、構成するには、クラスターの資料を参照してください。

DB21519E **DB2MSCS** はリソース *resource-name* をオフラインにすることができません。リソースのプロパティが正しく設定されていることを確認してください。

説明: DB2MSCS はリソースをオフラインにすることができませんでした。リソースはクラスター・ソフトウェアで使用されている可能性があります。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、トレース・オプションを指定して実行し、IBM サービス担当者にご連絡ください。

DB21520E **DB2PATH** プロファイル変数が定義されていません。

説明: DB2PATH レジストリー・プロファイル変数が現行マシンで定義されていません。DB2 をインストールしているパスに DB2PATH を設定する必要があります。

ユーザーの処置: db2set コマンドを使用して、DB2 がインストールされているディレクトリーに DB2PATH を設定してください。たとえば、db2set -g DB2PATH=D:\\$SQLLIB とします。

DB21521E DB2MSCS はファイル *file-name* から読み取れません。

説明: DB2MSCS ユーティリティーは指定されたファイルからデータを読み取ることができません。

ユーザーの処置: ファイルがロックされていないこと、および現行ログオン・ユーザーにファイルの読み取り権限を持っていることを確認してください。

DB21522E マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でオープンできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: DB2MSCS は読み取りおよび書き込みアクセスのためにリモート・マシンのレジストリーをオープンすることができませんでした。デフォルトで、そのマシンのローカル管理者グループに属するユーザーのみが、マシン・レジストリーへの読み取り、書き込みアクセスを持っています。このエラーは、リモート・マシンがアクティブでない場合にも返されます。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンがアクティブであることを確認し、ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンしてから、コマンドを再サブミットしてください。

DB21523E マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でクローズできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: リモート・レジストリーをオープンした後、DB2MSCS ユーティリティーは内部エラーのために、リモート・レジストリーへのハンドルのクローズに失敗しました。

ユーザーの処置: トレース・オプションを指定して実行し、IBM サービス担当者にご連絡ください。

DB21524E リソース *resource-name* の作成に失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースの作成のコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21525E 従属関係をリソース *resource-name* に追加するのに失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースに従属関係を追加するコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21526E リソース *resource-name* の移動に失敗しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: Windows システム・エラーのために、リソースの移動を追加するコマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

DB21527E ディスク・リソースがグループ *group-name* に指定されていません。

説明: グループごとに少なくとも 1 つのディスク・リソースを指定する必要があります。

ユーザーの処置: エラー・メッセージに示されたグループに、1 つ以上のディスク・リソースを割り当ててください。

DB21528E INSTPROF_DISK に指定された値 *keyword-value* が、同じグループ内のどのディスクとも一致していません。

説明: インスタンス・プロファイル・ディレクトリーの内容をコピーするロケーションを指定するのに INSTPROF_DISK キーワードが使用されました。INSTPROF_DISK キーワードの値が、同じグループ内のディスク・リソースの名前と一致しません。

ユーザーの処置: INSTPROF_DISK を、同じグループ内のディスク・リソースのいずれかの名前に設定してください。

DB21529E DB2MSCS ユーティリティーはマシン *machine-name* のレジストリーにアクセスできません。マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。

説明: DB2MSCS ユーティリティーはターゲット・マシンのレジストリーにアクセスできません。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンして

から、コマンドを再サブミットしてください。

DB21530E DB2MSCS ユーティリティはクラスタ
ー cluster-name のクラスタ・レジス
トリーにアクセスできません。クラスタ
がアクティブであり、現行ログオン・アカ
ウントがローカル管理者権限を持っている
ことを確認してください。

説明: クラスタを管理するには、両方のノードの管理許可か、あるいはクラスタを管理する特定の許可のいずれかを持つ必要があります。デフォルトで、両方のノードのローカル管理者グループは、クラスタを管理する許可を持っています。

ユーザーの処置: クラスタへのアクセスを行えるアカウントにログオンしてください。両方のノードでユーザー管理許可を与えることなくクラスタの管理許可をユーザーに与えるには、次のようにします。クラスタ管理 GUI を実行する。クラスタ名を右クリックし、プロパティをクリックする。セキュリティ（または許可）をクリックする。クラスタを管理するユーザーおよびグループを指定する。

DB21531E MSCS ディスクのプロパティを取得
できません。システム・エラー: error-msg

説明: DB2MSCS ユーティリティは MSCS ディスク・リソースからドライブ名を取得することができません。この問題は通常、INSTPROF_DISK キーワードで指定されたディスク・リソースが IBM Netfinity ディスク・リソース "IPSHA Disk" である場合に発生します。

ユーザーの処置: INSTPROF_DISK キーワードを使用しないでください。代わりに INSTPROF_PATH キーワードを使用して、インスタンス・プロファイル・ディレクトリをコピーするターゲット・ロケーションを明示的に指定してください。

DB21532E 内部エラーが発生しました。ファイル:
file-name、行 line-number。IBM サービス
担当者に連絡してください。

説明: 内部エラーのために DB2MSCS が失敗しました。

ユーザーの処置: トレース・オプションを指定して実行し、IBM サービス担当者にご連絡ください。

DB21533E DB2 インスタンスのマイグレーション中
にエラーが発生しました。rc =
error-code

説明: 必要なすべての MSCS リソースが作成された後に、DB2MSCS ユーティリティが内部エラーのため

に、クラスタ環境で実行する DB2 インスタンスのマイグレーションに失敗しました。インスタンスのマイグレーション中に、ユーティリティは以下のステップを実行します。

- インスタンス・ディレクトリを INSTPROF_DISK または INSTPROF_PATH キーワードで指定されたロケーションにコピーする。
- DB2 レジストリー・プロファイル変数をマシン・レジストリーからクラスタ・レジストリーに移動する。
- DB2INSTPROF レジストリー変数を新規インスタンス・プロファイル・ロケーションへのポイントに設定する。
- DB2CLUSTERLIST を現行マシンの名前に設定する。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティを実行する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。
- 別のクラスタ・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスタ・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでローカル・マシン・レジストリーおよびクラスタ・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス担当者に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

DB21534E DB2 インスタンスに MSCS ノードを追
加する際にエラーが発生しました。rc =
error-code

説明: ユーティリティが、他の MSCS ノードを DB2 インスタンスに追加するのに失敗しました。この操作中に、ユーティリティは以下を行います。

- ターゲット・マシンの名前を DB2CLUSTERLIST レジストリー変数に追加して、DB2 クラスタ・マシン・リストを更新する。
- DB2 サービスおよびレジストリー・インスタンス・プロファイルを、ターゲット・ノードの現行 DB2 インスタンス用に作成する。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティを実行する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。

DB21535E

- 別のクラスター・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスター・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでターゲット・マシン・レジストリーおよびクラスター・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス担当者に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

DB21535E インスタンス所有のデータベース・パーティション・サーバーが現行マシンにありません。

説明: パーティション・データベース・インスタンスをマイグレーションする際、DB2MSCS ユーティリティーをインスタンス所有マシンで実行する必要があります。

ユーザーの処置: DB2MSCS ユーティリティーをインスタンス所有マシンから実行してください。

DB21536E ユーザー名 *userid* が無効です。

説明: 指定されたユーザー名が無効です。

ユーザーの処置: 有効なユーザー名を指定してください。

DB21537E パスワード *password* が無効です。

説明: 指定されたパスワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを指定してください。

DB21538E アカウント *account-name* のパスワードの有効期限が切れています。

説明: ターゲット・アカウントのパスワードの有効期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードをリセットし、コマンドを再サブミットしてください。

DB21540E グループ *group-name* で、少なくとも 1 つのネットワーク名リソースが必要です。

説明: パーティション・データベース・インスタンスをマイグレーションする際、ネットワーク名リソースを、インスタンス所有ノードを含むグループで作成する必要があります。

ユーザーの処置: 指定されたグループにネットワーク名

リソースを作成するよう指定してください。

DB21541E DB2 インスタンスから MSCS ノードを除去する際にエラーが発生しました。 **rc = error-code**

説明: "undo" 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティーが MSCS ノードを DB2 インスタンスから除去するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。

- DB2 インスタンスを停止およびドロップする。
- すべての DB2 リソースおよびそれらの従属リソースを「クラスター管理」ウィンドウから除去する。

DB21542E インスタンスのフェイルオーバー・サポートを除去中に、エラーが発生しました。フェイルオーバー・サポートはこのインスタンスでまだアクティブです。 **rc = error-code**

説明: "undo" 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティーが DB2 インスタンスを非クラスタリングするのに失敗しました。

ユーザーの処置: 手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。インスタンスを停止およびドロップする。すべての DB2 リソースおよびそれらの従属リソースを「クラスター管理」ウィンドウから除去する。

DB21543E リソース名 *resource-name* が同じグループ内のどの IP リソースにも一致しません。

説明: ネットワーク名・リソースを、同じリソース・グループ内の IP アドレス・リソースに基づいて構成する必要があります。

ユーザーの処置: 同じリソース内にある IP アドレス・リソースに、ネットワーク名リソースに従属する名前を指定してください。

DB21544E MSCS リソース *resource-name* はすでに存在します。

説明: 指定されたリソース名はすでにクラスター内に存在しています。

ユーザーの処置: 別のリソース名を指定してください。

DB21545E モジュール *file-name* がロードされましたが、関数 *function-name* が見つかりません。MCS をサポートしている DB2 バージョンで実行していることを確認してください。

説明: DB2 のバージョンが DB2MCS ユーティリティのバージョンと互換性がないため、ユーティリティが要求された関数のアドレスを取得するのに失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 製品と共に配布されたバージョンの DB2MCS ユーティリティを使用してください。

DB21546E モジュール *file-name* をロードできませんでした。

説明: ユーティリティが要求された DLL をロードするのに失敗しました。

ユーザーの処置: DB2 製品を再インストールしてください。

DB21547E グループ *group-name* をノード *node-number* に移動中にエラーが発生しました。システム・エラー: *error-msg*

説明: 1 つ以上のリソースを移動できないため、ユーティリティがグループをターゲット・ノードに移動するのに失敗しました。

ユーザーの処置: すべてのクラスター・ノードがアクティブであり、すべてのディスク・リソースをクラスター・ノード間で相互に移動できることを確認してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB21548E DB2 サービスのログオン・アカウントをパーティション・データベース・システムに指定する必要があります。
DB2_LOGON_USERNAME と
DB2_LOGON_PASSWORD キーワードを使用して、有効なログオン・アカウントを指定してください。

説明: パーティション・データベース・システムの DB2 サービスを、有効なドメイン・アカウントの下で実行するよう構成する必要があります。

ユーザーの処置: **DB2_LOGON_USERNAME** および **DB2_LOGON_PASSWORD** キーワードを使用して、有効なドメイン・アカウントを指定してください。

DB21549N ノード *node-number* に指定されたネットワーク名 *network-name* が無効です。

説明: 指定されたネットワーク名を解決できませんでした。

ユーザーの処置: ネットワーク名が DNS サーバーまたはローカル *etc/hosts* ファイルに登録されていることを確認してください。

DB21600N *command* コマンドが正常に完了しませんでした。

説明: このコマンドの実行中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: サービス担当者に連絡してください。db2diag.log ファイルの情報によって、サービス担当者が失敗の原因について、判断することができます。

第 59 章 DB22000 - DB22499

DB22000E エラー: DB2LSWTCH コマンドの構文に誤りがあります。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーをプロモートまたはデモートします。

- db2lswtch.exe -db2 -promote
- db2lswtch.exe -client -promote
- db2lswtch.exe -all -promote
- db2lswtch.exe -db2 -demote
- db2lswtch.exe -client -demote
- db2lswtch.exe -all -demote

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- -db2 -promote は、現在のコピーをデフォルト DB2 コピーにプロモートします。
- -client -promote は、現在のコピーをデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーにプロモートします。
- -all -promote は、現在のコピーをデフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーにプロモートします。
- -db2 -demote は、現在のデフォルト DB2 コピーをデモートします。
- -client -demote は、現在のデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートします。
- -all -demote は、現在のデフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートします。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DB22001E ローカル・スイッチャー環境の初期化中にエラーが発生しました。システム上のコピーには変更が加えられませんでした。

説明: ローカル・スイッチャーが Windows システム・レジストリー内の情報を検索しようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22002E コピー *name* のプロモーション中に、エラーが発生しました。プロモーションは継続され、システムのデフォルトとしてこのコピーが割り当てられます。

説明: ローカル・スイッチャーがそのインストール先コピーをプロモートしてシステムのデフォルト・コピーにするために実行するタスクのいずれかにおいて、エラーが発生しました。ローカル・スイッチャーは、残りのタスクを継続し、プロモーションを完了するよう試みます。このコピーは、引き続きシステムのデフォルトとして割り当てられます。

ユーザーの処置: コピーのプロモーションの際に失敗したタスクを完了するには、手操作による介入が必要です。

DB22003E DB2 コピー *name* のデモーション中にエラーが発生しました。デモーションは打ち切れ、このコピーが引き続きシステムのデフォルトとなります。

説明: ローカル・スイッチャーがそのインストール先コピーをデモートしてシステムのデフォルトから降格するためのタスクのいずれかにおいて、エラーが発生しました。デモーションは打ち切れ、同じコピーをプロモートするためにローカル・スイッチャーが呼び出され、完了済みのタスクのロールバックが可能になります。

ユーザーの処置: このエラーの原因となった問題を手動で訂正してから、同じ操作を再実行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22004I コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 コピーではなくなりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22005I コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 コピーになりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22006E グローバル・システム環境変数の中にコピー *name* の環境変数を含めるための更新処理において、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、PATH、INCLUDE、LIB および CLASSPATH などのグローバル・システム環境変数を変更して、そのコピーのパスを指す値を変数に追加します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: グローバル・システム環境を調べて、変更する必要がある環境変数の値の中に、プロモートされたコピーのパスを指す値が正しく含まれていることを確認してください。

DB22007E グローバル・システム環境変数からコピー *name* の環境変数を除去する更新処理においてエラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、PATH、INCLUDE、LIB および CLASSPATH などのグローバル・システム環境変数からそのコピーのパスを指す値を削除します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: グローバル・システム環境を調べて、変更する必要がある環境変数の値の中に、デモートされたコピーのパスを指す値が含まれていないことを確認してください。

DB22008E コピー *name* の IBM ODBC ドライバーをシステムのデフォルト・ドライバーとして登録する際に、エラーが発生しました。

説明: そのコピーのプロモーションの際、ローカル・スイッチャーはデフォルトの IBM DB2 ODBC ドライバーを登録し、そのドライバーがデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーのパスを指すようにします。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22009E コピー *name* の IBM ODBC ドライバーについて、システムのデフォルト・ドライバーとしての登録を抹消する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、デフォルトの IBM DB2

ODBC ドライバーの登録を抹消し、デモートするコピーのパスがドライバーから参照されることがないようにします。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22010E コピー *name* のための IBM .NET Data Provider をグローバル・アセンブリー・キャッシュに登録しようとして、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのプロモーション中に、そのコピーの IBM .NET Provider を、Windows オペレーティング・システムのグローバル・アセンブリー・キャッシュにコピーします。この処理は、特別な Windows API を使用して実行されます。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22011E グローバル・アセンブリー・キャッシュから、コピー *name* のための IBM .NET Data Provider の登録を抹消しようとして、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、そのコピーの IBM .NET Provider を、Windows オペレーティング・システムのグローバル・アセンブリー・キャッシュから削除します。この処理は、特別な Windows API を使用して実行されます。

その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22012E コピー *name* の IBM OLEDB Provider を、システムのデフォルト・プロバイダーとして登録する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、デフォルト IBM OLEDB Provider を登録し、そのデフォルト IBM OLEDB Provider がこのコピーのプロバイダーを指すようにします。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22013E コピー *name* の IBM OLEDB Provider について、システムのデフォルト・プロバイダーとしての登録を抹消する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、デフォルト IBM OLEDB Provider の登録を抹消し、そのデフォルト IBM OLEDB Provider がこのコピーのプロバイダーを指さないようにします。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22014E ODBC システム DSN *name* の更新中にエラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、システムのデータ・ソース名を変更して、それらが引き続き機能するようにします。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22015E オペレーティング・システムが *func_name* を呼び出そうとして、エラーが発生しました。オペレーティング・システム・メッセージは *msg*、戻りコードは *return_code* です。

説明: オペレーティング・システムの機能呼び出しが失敗しました。オペレーティング・システムのエラー・メッセージおよび戻りコードに、この失敗の理由に関する詳細情報が含まれています。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22016E コピー *name* の IBM アドインを VisualStudio 2003 に登録する際に、エラーが発生しました。

説明: コピーのプロモーションの際、ローカル・スイッチャーは IBM Visual Studio 2003 アドインを Visual Studio のインストール済みコピーに登録します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22017E VisualStudio 2003 からコピー *name* の IBM アドインの登録を抹消する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、Visual Studio のインストール済みコピーから IBM Visual Studio 2003 アドインの登録を抹消します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22018E コピー *name* の DB2 管理サービスを開始しようとして、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーに属する DB2 管理サービスを開始します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22019E コピー *name* の DB2 管理サービスを停止しようとして、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、このコピーに属する DB2 管理サービスを停止します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22020E コピー *name* はデフォルトの DB2 コピーではないので、デモートできません。

説明: ローカル・スイッチャーが、別のコピーから -db2 -demote スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト DB2 コピーだけです。

ユーザーの処置: デフォルト DB2 コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト DB2 コピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

DB22021E 別のコピー *name* がシステムのデフォルト DB2 コピーとして定義されています。現行のデフォルト・コピーをデモートしない限り、別のコピーのプロモーションを実行することはできません。

説明: システムのデフォルト DB2 コピーとして既に割り当てられているコピーがあるにもかかわらず、ローカ

DB22022E

ル・スイッチャーを呼び出して DB2 の別のコピーをプロモートしようとした。

ユーザーの処置: 別のコピーをプロモートする前に、現在のデフォルト DB2 コピーをデモートしてください。

DB22022E レジストリー・キー
HKLM\Software\IBM\InstalledCopied の下の **default** の値に、コピー *name* の名前を設定しようとして、エラーが発生しました。

説明: キー **HKLM\Software\IBM\InstalledCopied** の下の値 **default** の内容は、現在のデフォルト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、プロモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22023E レジストリー・キー
HKLM\Software\IBM\InstalledCopied の下の **default** の値を更新して、コピー *name* の名前を除去する際に、エラーが発生しました。

説明: キー **HKLM\Software\IBM\InstalledCopied** の下の値 **default** の内容は、現在のデフォルト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、デモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22024E COM サーバー *name* の登録中に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、そのコピーの一部である COM サーバーをオペレーティング・システムに登録します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22025E COM サーバー *name* の登録抹消中に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、オペレーティング・システムからそのコピーの一部である COM サーバーの

登録を抹消します。その操作において問題が検出されました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22026E エラー: **db2swtch** コマンドの構文に誤りがあります。

説明: **db2swtch** ユーティリティは、システムにインストールされている DB2 コピーまたは IBM Data Server Driver コピーを表示したり、デフォルト DB2 コピーまたはデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーを設定したりできます。また、このユーティリティを使用して、一般的な IDS .NET Data Provider と SQLI IDS .NET Data Provider との間で、**machine.config** にある参照をリダイレクトすることもできます。

```
db2swtch [-db2l-client]
           [-d {name of DB2 copy or IBM data
              server driver copy}]
           [-l]
           [-IDS common|SQLI]
           [-hl-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

(引数なし)

ユーティリティをグラフィック・モードで起動します

-d {name of DB2 copy}

指定した名前をデフォルトの DB2 とデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして設定します

-db2 -d {name of DB2 copy}

指定した名前をデフォルト DB2 コピーとして設定します

-client -d {name of DB2 copy or IBM data server driver copy}

指定した名前をデフォルトのデータベース・クライアント・インターフェース・コピーとして設定します

-l システム上の DB2 コピーおよび IBM Data Server Driver コピーのリストを表示します

-IDS common

machine.config にある IDS .NET Data Provider の参照を、一般的な IDS .NET Data Provider にリダイレクトします

-IDS SQLI

machine.config にある IDS .NET Data Provider の参照を、SQLI IDS .NET Data Provider にリダイレクトします

-hl-? ヘルプを表示します

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DB22027E コピー *name* のパフォーマンス・カウンターを登録する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーの DB2 パフォーマンス・カウンターを登録します。その操作において問題が検出されました。DB2 パフォーマンス・カウンターを使用するのではないかぎり、通常これは重大な問題とはなりません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22028E コピー *name* のパフォーマンス・カウンターを登録解除する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、このコピーの DB2 パフォーマンス・カウンターを登録解除します。その操作において問題が検出されました。DB2 パフォーマンス・カウンターを使用するのではないかぎり、通常これは重大な問題とはなりません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22029E コピー *name* のデフォルト・インスタンス用の DB2 システム・トレイを登録する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーのデフォルト・インスタンス用の DB2 システム・トレイを登録します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22030E コピー *name* の DB2 システム・トレイを登録解除する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先

DB2 コピーのデモーション中に、このコピーの DB2 システム・トレイを登録解除します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22031E コピー *name* のショートカット・グループの表示名を変更する際に、エラーが発生しました。

説明: ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーションまたはデモーション中に、このコピーがデフォルトの DB2 コピーであるかどうかを示すために、このコピーのショートカット・グループの表示名を変更します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22032I コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではなくなりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22033I コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではなくなりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22034I コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーになりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22035I コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーになりました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB22036E コピー *name* はデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではないので、デモートできません。

説明: ローカル・スイッチャーが、別のコピーから `-client -demote` スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーだけです。

ユーザーの処置: デフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト・クライアント・インターフェース・コピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

DB22037E コピー *name* はデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではないので、デモートできません。

説明: ローカル・スイッチャーが、別のコピーから `-all -demote` スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト DB2 コピーおよびデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーの両方のコピーだけです。

ユーザーの処置: デフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト DB2 コピーおよびデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーの両方のコピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

DB22038E 別のコピー *name* がシステムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして定義されています。現行のデフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートしない限り、別のコピーのプロモーションを実行することはできません。

説明: システムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして既に割り当てられているコピーがあるにもかかわらず、ローカル・スイッチャーを呼び出してデータベース・クライアント・インターフェースの別のコピーをプロモートしようとしました。

ユーザーの処置: 別のコピーをプロモートする前に、現行のデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートしてください。

DB22039E レジストリー・キー `HKLM\Software\IBM\InstalledCopied` の下の `defaultClientInterfaceCopy` の値に、コピー *name* の名前を設定しようとして、エラーが発生しました。

説明: キー `HKLM\Software\IBM\InstalledCopied` の下の値 `defaultClientInterfaceCopy` の内容は、現行のデフォルト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、プロモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22040E レジストリー・キー `HKLM\Software\IBM\InstalledCopied` の下の `defaultClientInterfaceCopy` の値を更新して、コピー *name* の名前を除去する際に、エラーが発生しました。

説明: キー `HKLM\Software\IBM\InstalledCopied` の下の値 `defaultClientInterfaceCopy` の内容は、現行のデフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、デモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22041E DB2 コピー *name* が存在しません。

説明: 指定された DB2 コピーが存在しません。

ユーザーの処置: 既存の DB2 コピーを指定して、再度コマンドを発行してください。

ディレクトリーに対する書き込み権限があることを確認してください。

DB22042E コピー *name* 内で IBM Tivoli Monitoring for Databases: DB2 Agent の DB2 インスタンス構成をセットアップ中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 コピーのプロモーション中に、ローカル・スイッチャーは、このコピー内で Monitoring Agent for DB2 の DB2 インスタンス構成をセットアップしようとしてしました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22043E コピー *name* 内で IBM Tivoli Monitoring for Databases: DB2 Agent の DB2 インスタンス構成を除去中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 コピーのデモーション中に、ローカル・スイッチャーは、このコピー内で Monitoring Agent for DB2 の DB2 インスタンス構成を除去しようとしてしました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DB22044E デフォルト・コピーのインストール・ディレクトリー内で IBM Tivoli Monitoring for Databases: DB2 Agent の構成ファイルを作成中に、エラーが発生しました。

説明: デフォルト・コピーのインストール・ディレクトリー内で Monitoring Agent for DB2 の構成ファイルを作成中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: デフォルト・コピーのインストール・ディレクトリーに対する書き込み権限があることを確認してください。

DB22045E デフォルト・コピーのインストール・ディレクトリー内で IBM Tivoli Monitoring for Databases: DB2 Agent の構成ファイルを除去中に、エラーが発生しました。

説明: デフォルト・コピーのインストール・ディレクトリー内で Monitoring Agent for DB2 の構成ファイルを除去中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: デフォルト・コピーのインストール・

第 60 章 DB29000 - DB29499

DB29320W 出力が切り捨てられました。

説明: 全照会結果が提供されているようにフェッチされません。

ユーザーの処置: CLP 照会はさらに短いストリングをフェッチするように再作成されます。DB2 に対して、別のインターフェースを使用しても、CLP の制限を克服することができます。

第 61 章 DB29500 - DB29999

DB29501E DB2 は不整合な環境を検出しました。次を調査してください: *error*

説明: 操作環境内でエラーが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーは、不整合な DB2 環境またはオペレーティング・システム環境が原因で発生する場合があります。エラー・メッセージに示されている問題を訂正して、コマンドを再発行してください。

DB29502E 非互換 Java ランタイム環境が検出されました。Java ランタイム環境に必要なレベルがインストールされているかどうかを確認してください。Java アプリケーションが DB2 と共にインストールされた Java ランタイムを使用して起動されている可能性があります。

説明: インストールされた Java ランタイムが、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: インストールした DB2 Java ランタイムは、DB2 Java アプリケーションを立ち上げるために使用されます。インストールした Java ランタイムを使用する他の Java アプリケーションを先に終了してから、DB2 Java アプリケーションを実行し、正しく動作しているかを確認してください。

DB29503E 複数のデータベースへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のデータベースには接続できません。

ユーザーの処置: 1 つのデータベースにだけ接続してください。

DB29504E 複数のユーザーへの接続はサポートされていません。

説明: 複数のユーザーに接続することはできません。

ユーザーの処置: 1 つのユーザーにのみ接続してください。

DB29523W 照会を取り消していいですか。

DB29524E LogSQLError() が失敗しました

DB29525E LogSQLError() *param-1 param-2*

DB29526E この表をドロップできません; 存在しません。結果を持っているジョブを選択して再試行するか、またはスケジュールされている繰り返し実行するジョブを選択して再試行してください。

説明: 関連する結果表をもたないジョブに対して、結果表をドロップする要求が出ました。

ユーザーの処置: 結果が出ているジョブを選択するか、スケジュールする繰り返し実行するジョブを選択してから、再試行してください。

DB29527W ジョブ #*param-1* を取り消しますか。

DB29528W 本当にジョブ #*param-1* を表示しませんか。

警告: このオプションを選択すると、このジョブは二度と表示されません。

DB29530W このオプションは、「キャンセル」や「隠蔽」のようなアクションから、確認メッセージを除去します。よろしいですか?

DB29537E 不明なタイプ: *param-1*

DB29542E 接続 SQL エラー: *param-1*
エラー番号: *param-2*
エラー・メッセージ: *param-3*

DB29543E リソース DLL *rqres.dll* が見つかりません。

説明: リソース DLL *rqres.dll* を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller 回帰照会スケジューラーの初期化中にリソース DLL *rqres.dll* が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

DB29544E リソース DLL *qeres.dll* が見つかりません。

DB29545E

説明: リソース DLL qeres.dll を正常にロードできませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller QueryEnabler の初期化中に、リソース DLL qeres.dll が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

DB29545E 無効な名前: 照会名は 20 文字以内にして
ください。名前を変更して再試行してください。

説明: 20 文字を超える照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 最大 20 文字で照会名を指定してください。

DB29546E 無効な名前: 照会名には英数字とスペース
しか使用できません...(
"a..z"、"A..Z"、"0..9")。名前を変更し
て再試行してください。

説明: 英数字以外の文字の入った照会名が指定されました。

ユーザーの処置: 照会名を英数字のみで指定してください。

第 62 章 DB210000 - DB210499

DB210200I 変更を有効にするには、データベースからすべてのアプリケーションを切断する必要があります。

説明: ADD または DROP DATALINKS MANAGER コマンドは正常に処理されました。ただし、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、変更は有効になりません。アプリケーションがデータベースから切断された後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認して、CONNECT ステートメントを発行してください。

DB210201I 調整ユーティリティを、DB2 Data Links Manager のファイルへのリンクの入ったデータベース表で実行する必要があります。DB2 Data Links Manager はこれらのファイルのリンク解除処理を行います。

説明: DROP DATALINKS MANAGER コマンドは正常に処理されました。DB2 Data Links Manager をドロップする前に、DB2 Data Links Manager 上のファイルへのリンクの入ったデータベース表がないことを確認してください。このようなリンクがある場合は、調整ユーティリティを使用してデータベース表から除去する必要があります。ファイル自体はファイル・システムにリンク状態で残ることに注意してください。詳細については、「コマンド・リファレンス」にある DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

DB210202E *number* MB より小さいメモリーがサーバーに占有されます。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致していません。

説明: サーバー専用のメモリー量が少ないため、パフォーマンス構成ウィザードは推奨値を実施することができません。構成パラメーターは変更されません。

ユーザーの処置: サーバー専用のメモリーが増加可能な場合、MEM_PERCENT オプションからより大きな値でコマンドを再実行してください。

DB210203I AUTOCONFIGURE が正常に完了しました。変更の適用を選択した場合は、データベース・マネージャーまたはデータベース構成値が変更されている可能性があります。この種の適用した変更を有効にするには、インスタンスを再始動する必要があります。また、新しい構成パラメーターを有効にした後は、新しい値が使用されるように、パッケージを再バインドすることができます。

説明: 構成アドバイザーは推奨値を生成し、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが再開するまで変更は有効になりません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを利用するには、それらが効力を持った後で再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができれば、インスタンスを停止して再始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210204E 構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを続行できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DB210205W 構成アドバイザーは、応答により決定された他のメモリー要件のため、バッファー・プールのサイズを増やせません。バッファー・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定を使用すると、サーバーのページングを引き起こす可能性があります。

説明: これは、指定されたワークロードを実行するのにサーバーには十分なメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

ユーザーの処置: このコマンドの入力を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、サーバーにメモリーを追加してください。

DB210206W 入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍を超えています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。

説明: 構成アドバイザーは、トランザクション・レートが妥当かどうかをチェックします。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが高くなりすぎる可能性があります。

ユーザーの処置: トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、一分ごとにトランザクションの低い数値を使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

DB210207E *database-name* を自動構成できません。データベース *database-name* の作成に失敗しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを継続できません。また、作成しようとしていたデータベースは失敗しました。

ユーザーの処置: AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

DB210208E データベースを EEE システムで自動構成できません。データベース *database-name* の作成に失敗しました。

説明: AUTOCONFIGURE オプションは EEE では使用できません。データベースは作成できませんでした。

ユーザーの処置: AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

DB210209I データベースは正常に作成されました。構成の変更を有効にするために、インスタンスを再始動してください。

説明: 構成アドバイザーは、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファ・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は有効になりません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされまし

た。新規パラメーターを利用するには、それらが効力を持った後で再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができれば、インスタンスを停止して再始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210210E APPLY のパラメーターは、このサーバー・リリースの構成アドバイザーでサポートされていません。

説明: このサーバー・リリースの構成アドバイザーでは、APPLY DB OR DBM か APPLY NONE だけが有効パラメーターです。

ユーザーの処置: APPLY DB OR DBM または APPLY NONE を使ってコマンドを再発行してください。

DB210211W AUTOCONFIGURE が正常に完了しましたが、現在のデータベース・パーティションの推奨値を計算しただけです。すべてのデータベース・パーティションに対して AUTOCONFIGURE を実行したり、これらの推奨値をシステム上のすべてのデータベース・パーティションに伝搬することができます。

説明: 構成アドバイザーは、推奨値を生成し、現在のデータベース・パーティションに対してのみ、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファ・プール・サイズを更新しました。

変更は、サーバーでインスタンスを再始動するまで有効になりませんが、各データベース・パーティションに対して AUTOCONFIGURE を実行するか、別々のユーザー・アクションを実行して、このシステム上の他のデータベース・パーティションにその変更を伝搬する必要があります。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを利用するには、それらが効力を持った後で再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができれば、インスタンスを停止して再始動してください。必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DB210212W 構成アドバイザーの推奨値には、指定されたよりも多くのパーセンテージのメモリーが必要です。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。

説明: 構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: より大きなパーセンテージのメモリーを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

DB210213W 指定された入力に対して推奨されているディスク数が、使用できる数を超過しています。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。

説明: パフォーマンス構成ウィザードによる推奨値を満たすのに十分な数のディスクがありません。

ユーザーの処置: 使用できるディスクの数が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

DB210214W 指定された入力に対して推奨されているメモリー量が、使用できるメモリー量を超過しています。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。

説明: 構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: 別の入力値を指定するか、使用できるメモリー量が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

DB210215W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファーク・プールの最小メモリーを割り当てることができませんでした。

説明: 構成アドバイザーは、指定されたメモリー・リソースで指定されたデータベース要件に基づく一連の推奨値を提供できません。

ユーザーの処置: 利用できるメモリー・リソースがまだあるなら、割り振る物理メモリーのパーセンテージをもっと大きくしてください。そうでない場合は、サーバーの物理メモリーを増設してください。

DB210220E 指定されたコマンド番号が無効です。

説明: EDIT または RUNCMD コマンドに対して、無効なコマンド番号が指定されました。このコマンドは、現在の CLP 対話モード・コマンド履歴に存在しません。

ユーザーの処置: HISTORY コマンドを実行して、有効なコマンド番号のリストを確認し、有効なコマンド番号を指定して、EDIT または RUNCMD コマンドを再サブミットしてください。

DB210221E エディター *editor* を起動できませんでした。

説明: 無効なエディターが EDIT コマンドに対して指定されました。このエディターが存在しないか、または PATH に含まれていません。

ユーザーの処置: EDIT コマンドで使用されるエディターは、次の順に決定されます。

- EDIT コマンド の EDITOR パラメーターの値を使用して (パラメーターが指定されている場合)
- DB2_CLP_EDITOR レジストリー変数の値を使用して (レジストリー変数が設定されている場合)
- VISUAL 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)
- EDITOR 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)

EDIT コマンドの EDITOR パラメーターの PATH か、適切なレジストリー/環境変数に含まれている有効なエディターを指定してください。

DB210222E *parameter* で指定された値が、*number* と *number* の有効範囲内にありません。

説明: 無効な値が *parameter* で指定されました。この値は、*number* と *number* の有効範囲内に含まれていません。

ユーザーの処置: *parameter* の有効範囲について、該当する資料を参照し、有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

DB210223E コマンド *command* は CLP の対話モードでのみ実行することができます。

説明: DB2 コマンドを CLP のコマンドまたはバッチ・モードで実行しようとしたましたが、このコマンドは CLP の対話モードでしか実行できません。

ユーザーの処置: 同じコマンドを CLP の対話モードで再実行してください。

第 63 章 DB216000 - DB216499

DB216001I DECOMPOSE XML DOCUMENTS コマンドにより、すべての文書が正常に分解されました。要求された文書の数は *number-requested* です。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB216002W 1 つ以上の文書を分解することができませんでした。正常に分解された文書の数は *number-successful* です。分解が試行された文書の数は *number-attempted* です。

説明: エラー状態のため、1 つ以上の文書が分解されませんでした。各文書の状況について詳しくは、MESSAGES パラメーターで指定されたメッセージ・ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 正常に分解されなかった XML 文書を分解するには、以下を行います。

1. MESSAGES パラメーターで指定されたファイル内のエラー・メッセージ情報を調べます。必要に応じて、db2diag ログ・ファイルで各エラーの詳細情報を調べます。db2diag ログ・ファイル内の該当する項目は、文書 ID によって識別されます。
2. エラー・メッセージ・ファイルに記述されたエラーを修正します。
3. 次のようにして、再度 DECOMPOSE XML DOCUMENTS コマンドを発行します。
 - 正の COMMITCOUNT 値を指定した場合は、正常に分解されなかった文書に対してのみコマンドを再発行します。
 - COMMITCOUNT 値として 0 を指定した場合は、以下のいずれかの方法を選択してください。
 - ロールバックを実行してから、すべての文書に対してコマンドを再発行します。
 - 変更内容をコミットしてから、正常に分解されなかった文書に対してのみコマンドを再発行します。

第 64 章 DB250000 - DB250499

DB250000I コマンドは正常に完了しました。

説明: Command Line Processor Plus コマンドが正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DB250001I CLPPlus は、*configuration-file-name* という名前の構成ファイルを正常に読み取りました。

説明: DB2DSDRIVER_CFG_PATH 環境変数が設定されている場合、または構成ファイルへのパスが Command Line Processor Plus (CLPPlus) によって自動的に検出される場合、CLPPlus は、接続試行時に構成ファイルを読み取ります。このメッセージが表示されるのは、CLPPLUS コマンドの使用時に *verbose* がオンに設定されている場合のみです。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB250002E CLPPlus は、*directory* という名前のディレクトリーにある *configuration-file-name* という名前の構成ファイルを読み取れませんでした。

説明: Command Line Processor Plus (CLPPlus) は、接続試行時に、DB2DSDRIVER_CFG_PATH 環境変数によって指定されている構成ファイルを読み取れませんでした。

ユーザーの処置: 以下の手順を実行して、構成ファイル内の情報が正しいことを確認してください。

- 構成ファイルに対するパスが、DB2DSDRIVER_CFG_PATH 環境変数で指定されている内容と一致することを確認します。
 - 構成ファイルの名前が、DB2DSDRIVER_CFG_PATH 環境変数で指定されている内容と一致することを確認します。
-

DB250003E 構成ファイル *configuration-file-name* には、*dsn-alias-name* という名前の DSN 別名がありませんでした。*dsn-alias-name* は、この後の対話式による接続試行でデータベース名として使用されます。

説明: 接続試行時に指定された DSN 別名が、CLPPlus によって読み取られる構成ファイルに見つからないと、その後の対話式による CLPPlus 接続試行時にこの DSN

別名はデータベース名として使用されます。ユーザーは、接続に関するその他すべての値を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 対話式接続を続行してください。また、構成ファイルの内容を確認し、既存の DSN 別名を使用するか、今後使用するために新たに別名を作成することができます。

DB250004E データベース名の値に空ストリングが指定されたので、接続に失敗しました。

説明: Command Line Processor Plus (CLPPlus) によってプロンプトが出され、有効なデータベース名が求められます。データベース名に空ストリングを入力することはできません。

ユーザーの処置: 接続を再試行するためのプロンプトが出されたなら、有効なデータベース名を指定してください。

DB250005E このコマンドは *spawn* されたコンソール・ウィンドウにのみ適用できるので、失敗しました。

説明: *spawn* されたコンソール・ウィンドウでのみ使用する目的の特定のコマンドが現在のコンソール・ウィンドウで発行されました。

ユーザーの処置: 現在のコンソール・ウィンドウでサポートされている Command Line Processor Plus (CLPPlus) コマンドのみを使用してください。

DB250006E Command Line Processor Plus (CLPPlus) を開始できませんでした。

説明: デフォルトでは、Linux および Unix における CLPPlus の起動には、XServer がデスクトップで実行されている必要があります。

ユーザーの処置: DISPLAY 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。または、CLPPLUS コマンドに *-nw* オプションを指定して、コマンド行バージョンの CLPPlus を開始することもできます。

DB250008E *variable-name* という名前のシェルまたは環境変数が見つからなかったため、CLPPlus コマンドが失敗しました。

説明: CLPPlus コマンドには、シェルまたは環境変数を組み込むことができます。CLPPlus コマンドに組み

DB250009E

込まれた変数がオペレーティング・システムに定義されていない場合、コマンドは失敗します。

ユーザーの処置: 以下のことを行えます。

- 変数の参照を除去して、コマンドを発行します。
- 変数を定義して、コマンドを発行します。

DB250009E SKIPCOUNT 値 n が、インポート・ファイル内の総行数より大きいため、IMPORT CLPPlus コマンドが失敗しました。

説明: SKIPCOUNT オプションが指定されて、IMPORT CLPPlus コマンドが実行されました。SKIPCOUNT に指定された値は、読み取られたインポート・ファイル内の行数を上回ります。行はインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 以下のことを行えます。

- SET CLPPlus コマンドを使用して、インポート・ファイル内の行数より小さい値に SKIPCOUNT を再設定してから、IMPORT を再試行します。
- SKIPCOUNT オプションを解除してから、IMPORT を再試行します。

DB250010E データベース・サーバーでのエラーが原因で、Explain 機能が失敗しました。

説明: CLPPlus で AUTOTRACE が ON に設定されているときに、select ステートメントが Informix データベース・サーバーで実行されると、CLPPlus は Explain をオンに設定するよう暗黙的に試みます。SET EXPLAIN ON が Informix データベース・サーバーで失敗し、ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: Informix データベース管理者に問い合わせ、SET EXPLAIN ON が失敗した理由を調べてください。エラーを解決した後に、再試行します。

DB250011E Explain は、発行されたステートメントではデータを生成できませんでした。

説明: CLPPlus で AUTOTRACE が ON に設定されているときに、SQL ステートメントが Informix データベース・サーバーで実行された際は、SELECT ステートメントの場合に限り Explain プランが生成されます。SELECT ステートメント以外のステートメントが発行されました。

ユーザーの処置: 有効な SELECT ステートメントを使用して、再試行してください。

DB250012E CLPPlus は Explain データを処理できませんでした。

説明: CLPPlus で AUTOTRACE が ON に設定されていて、SQL ステートメントが Informix データベース・サーバーで実行されたときに、CLPPlus が XML 形式で生成された Explain プラン・データを解析できません。

ユーザーの処置: なし

DB250013E CLPPlus 接続が失敗しました。これは、db2dsdriver.cfg ファイル内の DSN 別名 dsn-alias に指定されたセキュリティー・メカニズム security-mechanism が、CLPPlus でサポートされていないためです。

説明: db2dsdriver.cfg ファイルにある DSN 別名に指定されたセキュリティー・メカニズムは、CLPPlus でサポートされていません。この DSN 別名を使用した接続の試みはすべて失敗し、終了します。

ユーザーの処置: 以下のことを行えます。

- 該当する DSN 別名のために、有効な CLPPlus セキュリティー・メカニズムを db2dsdriver.cfg ファイル内で指定してから、再試行します。
- 該当する DSN 別名に対するセキュリティー・メカニズム・パラメーターを db2dsdriver.cfg ファイルから削除してから、再試行します。

DB250014I DSN 別名 dsn-alias が、config-file という名前の構成ファイルにありません。

説明: 接続の試行中に指定された DSN 別名は、CLPPlus によって読み取られた dsdriver 構成ファイルにありません。CLPPlus は、その DSN 別名を見つけるために、ユーザーによって構成された LDAP ディレクトリー・サーバーでの検索を続けます。

ユーザーの処置: 必要ありません。CLPPlus は、dsn-alias という名前の項目を見つけるために、LDAP ディレクトリー・サーバーでの検索を続けます。

DB250015I CLPPlus は、LDAP ディレクトリー・サーバー LDAP-server との接続を正常に確立しました。

説明: CLPPlus の接続の試行中に、LDAP ディレクトリー・サーバーに関する接続情報が dsdriver 構成ファイルで検出され、その LDAP サーバーとの接続が正常に確立されました。

ユーザーの処置: なし

DB250016E DSN 別名 *dsn_alias* が、LDAP ディレクトリー・サーバー *LDAP-server* にありませんでした。*dsn_alias* は、この後の対話式による CLPPlus の接続試行でデータベース名として使用されます。

説明: CLPPlus の接続試行中に指定された DSN 別名が、LDAP ディレクトリー・サーバーにありません。DSN 別名は、この後の対話式による接続試行でデータベース名として扱われます。接続に必要な他の値はすべて、対話式で指定する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のことを行えます。

- 対話式の接続試行で続行します。
- 既存の DSN 別名を使用し、接続を再試行します。
- 見つからなかった DSN 別名を作成し、接続を再試行します。

DB250017E CLPPlus は、以下の LDAP ディレクトリー・サーバーとの接続を確立できませんでした: *LDAP-server*。以下の別名が、対話式による接続の試行でデータベース名として使用されました: *dsn-alias*。

説明: CLPPlus は、LDAP ディレクトリー・サーバーとの接続を確立できませんでした。初回の接続試行中に使用された DSN 別名は、この後の対話式による接続試行でデータベース名として扱われます。接続に必要な他の値はすべて、対話式で指定されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- 対話式接続を続行してください。
- *db2dsdriver.cfg* ファイル内の LDAP ディレクトリー・サーバー構成を確認および修正し、接続を再試行します。
- LDAP 管理者に問い合わせ、LDAP ディレクトリー・サーバー稼働していることを確認してから、接続を再試行します。

DB250100E コマンド *text* は、有効な CLPPlus コマンドではありません。

説明: 入力されたテキストは、有効な Command Line Processor Plus (CLPPlus) コマンドではありません。

ユーザーの処置: 有効なコマンドを指定してください。有効なコマンドのリストについては、必要に応じて該当する資料を参照してください。

DB250101E コマンド構文が無効です。*text* に続いて予期しないトークン *token* が見つかりました。予期された値に *token-list* が含まれています。

説明: コマンド・ストリングの構文エラーが、テキスト *text* の後の示されたトークンに見つかりました。

「*text*」フィールドは、無効なトークンの前にある 20 文字の入力コマンド・ストリングを示しています。

解決の手掛かりとして、可能な場合には、有効なトークンのリストの一部が *token-list* に示されます。このリストは、その時点までのステートメントが正しいと想定しています。有効な値が不明なユーザー入力である場合は、*token-list* に何も表示されないことがあります。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 有効なコマンド構文を確認するには、コマンドの資料を参照してください。

示されたトークンの領域内のコマンドを調べて、修正してください。コマンドをもう一度発行してください。

DB250102E コマンド構文が無効です。タイプ *type* におけるコマンド・パラメーター *parameter-name* の値が無効です。有効な値に *token-list* が含まれています。

説明: コマンド構文が無効です。コマンド・パラメーター *parameter-name* のデータ・タイプは無効です。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 示されたトークンの領域内のパラメーター値を調べて、修正してください。コマンドをもう一度発行してください。

DB250103E コマンド構文が無効です。コマンド・パラメーター *parameter-name* の値が範囲外です。有効範囲は下限から上限 (両方の値を含む) です。

説明: このメッセージは、パラメーターに指定されている値が、そのパラメーターの範囲外である場合に戻されます。トークン *parameter-name* は、範囲外の値が指定されたパラメーターを示します。

ユーザーの処置: 指定されたパラメーターに対し、範囲内の値を指定してコマンドを再発行してください。

DB250104E このコマンドは、*database-server* データ・サーバーでサポートされていません。

説明: このコマンドは、指定されたデータ・サーバーでサポートされていません。コマンドは失敗しました。

コマンドは処理されません。

DB250200E

ユーザーの処置: 現行のデータ・サーバーでサポートされているコマンドについては、該当する資料を参照してください。

DB250200E フィーチャー *feature-name* は、現在のインストール済み環境に存在しないフィーチャーであるため、有効にすることはできません。

説明: フィーチャー名 *feature-name* が無効です。有効なフィーチャー名については、DB2 のドキュメンテーションを参照してください。

ユーザーの処置: 有効なフィーチャー名を指定して、要求を再試行してください。

DB250201E データベース接続が存在しませんが、データベース接続が必要です。

説明: コマンドを発行するために、データベース接続が必要です。データベース接続がありません。

ユーザーの処置: clplplus コマンドを使用してデータベース接続を確立し、再試行してください。

DB250202E タイプ *database-type* のデータベースへの接続は、このフィーチャーではサポートされません。

説明: データベース・タイプが無効です。有効なデータベース・タイプについては、該当する資料を参照してください。

ユーザーの処置: 有効なデータベース・タイプのデータベース名を指定し、要求を再試行してください。

DB250203E 接続を確立できませんでした。

説明: データベース接続を確立しようとして失敗しました。データベース接続が存在しません。

次のような理由が考えられます。

- 無効なユーザー名
- 無効なパスワード
- 無効なホスト名
- 無効なデータベース名
- 無効なポート番号

ユーザーの処置: データベースに明示的に接続するのであれば、コマンド構文を検査および修正し、再試行します。そうでなければ、再試行し、依然として接続を確立できない場合は、データベース管理者にお問い合わせください。

DB250204E ファイル *filename* を見つけようとしたましたが、失敗しました。コマンドは処理されません。

説明: 必要なファイル *filename* が見つかりませんでした。次のような理由が考えられます。

- ファイル名が無効
- ファイル・パスが無効
- ファイル・パスにファイルがない
- ファイルまたはパスに対するファイルの読み取りアクセスが許可されていない

ユーザーの処置:

- ファイル名が正しく、指定したロケーションにファイルが存在することを確認してください。
- ファイル・パスおよびファイルに対するファイルの読み取りアクセスが許可されていることを確認してください。

DB250205E ファイル *file-name* を読み取ろうとしたますが、失敗しました。

説明: ファイル・パラメーター *file-name* を読み取ろうとしたますが、失敗しました。次のような理由が考えられます。

- ファイル・システムで無効なアクセス権

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ファイルがユーザー定義ファイルである場合、ファイル許可の設定がファイルの読み取りを許可していることを確認してください。

DB250206E *env-variable-name* は定義済みの環境変数ではありません。

説明: 名前 *env-variable-name* が定義済みの Command Line Processor Plus (CLPPlus) 環境変数名ではないか、あるいは、その変数が必要な値に設定されていません。

ユーザーの処置: コマンド構文を検査および修正し、有効な環境変数名を指定してから、コマンドを再発行します。または、以下の CLPPlus 環境変数が必要な値に設定されているか検査し、必要に応じて設定を行います。

Windows オペレーティング・システムの場合:

変数: CLPPLUS_HELP
値: sqllib/bin/clppplus.bat

UNIX オペレーティング・システムの場合:

変数: CLPPLUS_HELP
値: sqllib/bin/clppplus.sh

DB250207E ファイル *filename* を作成しようとしたが、失敗しました。

説明: 必要なファイル *filename* を作成できませんでした。次のような理由が考えられます。

- ファイルがすでに存在する
- 無効なファイル名
- ファイル・パスが無効
- ファイル・システムで無効なアクセス権
- ファイル・システムでのメモリーが不十分

ユーザーの処置: ファイルがユーザー定義ファイルである場合、ファイル名またはファイル・パスの検査および修正、パスが有効であることの確認、パスへのファイル書き込みが可能であること、および十分なメモリーがあることを確認を行います。ファイルがシステム生成ファイルである場合、コマンドを再発行してください。依然としてコマンドが失敗する場合は、データベース管理者にお問い合わせください。

DB250208E 無効なコマンド順序です。このコマンドの前に、前提条件コマンドを発行しなければなりません。前提条件コマンドとして *prereq-command* が考えられます。

説明: CLPPlus コマンドによっては、最初に他の CLPPlus コマンドを 1 つ以上発行することが前提条件となります。前提条件コマンドが発行されないと、現行のコマンドを発行できません。

コマンドは処理されませんでした。

ユーザーの処置: 推奨されている前提条件コマンドを発行してから、現行のコマンドを再発行します。コマンドについての詳細は、CLPPlus の資料を参照してください。

DB250209I 接続が確立されました。データベース・タイプ: *product-name*。データベース・バージョン: *version*。ホスト名: *hostname*。ポート: *port-number*。データベース名: *database-name*。ユーザー: *auth-id*。

説明: データベース接続が確立されたデータベースは、タイプ *product-name* のバージョン *version* です。データベース・サーバーのホスト名は *hostname* です。ポート番号は *port-number* です。データベース名は *database-name* です。ユーザーの許可 ID は *auth-id* です。

このデータベースに対して、データベース・コマンドを発行できるようになります。

このデータベースに対して、照会およびデータベース操

作を実行できるようになります。

接続がクローズまたはリセットされるまで、接続を必要とする Command Line Processor Plus (CLPPlus) コマンドを実行できます。

ユーザーの処置: 引き続き CLPPlus を使用してください。CLPPlus コマンドや、データベース照会および操作を発行します。

DB250210I データベース *database-name* への接続がクローズされました。

説明: データベース *database-name* への接続がクローズされました。現時点では、データベース通信を行うことができません。

ユーザーの処置: データベース操作を実行、またはデータベース接続を要するコマンドを発行するには、CLPPLUS コマンドを発行してデータベース接続を再確立します。

DB250211E データベースに *object-name* という名前のデータベース・オブジェクトが見つかりません。

説明: LIST PACKAGES コマンドまたは LIST TABLES コマンドを発行して、データベースの現行ユーザーが作成したパッケージまたは表をリスト表示できます。

DESCRIBE コマンドを発行して、データベース・オブジェクトの名前を指定することで、表、ビュー、関数などのデータベース・オブジェクトに関するメタデータ情報を検索できます。

このメッセージは、特定のデータベース・オブジェクトに対して LIST コマンドまたは DESCRIBE コマンドが発行されており、そのオブジェクトがデータベース内で見つからない場合に返されます。

LIST コマンドを発行したときにこのメッセージが戻された場合、検索対象のデータベース・オブジェクトが現行ユーザー以外のユーザーによって作成された可能性があります。デフォルトでは、LIST コマンドは現行ユーザーが作成したデータベース・オブジェクトのみをリスト表示します。

ユーザーの処置: データベース・オブジェクトが存在し、現行ユーザーによって作成されたことを確認してください。

DB250300E データベースからの切断中に予期しない SQL エラーが発生しました。

説明: データのコミットまたはデータベース接続のクローズ中に SQL エラーが発生しましたが、このエラーに

DB250301E

関する詳細情報はありません。

ユーザーの処置: 必要に応じて、データベースへの接続を再確立した後、続きのデータベース操作を実行してください。

DB250301E Command Line Processor Plus コマンドの処理中に予期しない SQL エラーが発生しました。

説明: SQL 関連の予期しないエラーが、データ・サーバーで発生しました。これにより、Command Line Processor Plus コマンドの処理が中断されました。コマンド実行は完了していません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DB250302E データ・サーバーにおけるプロセス ID (PID) *process-id* のプロセスより受信した、非同期通知 *notification-name*。

説明: 名前 *notification-name* およびプロセス ID *process-id* で出されたデータ・サーバーからの非同期通知は、緊急な対処を要する可能性があるものです。

ユーザーの処置: プロセス ID の値を使用して、そのプロセスおよび関連した通知を参照してください。必要に応じて、緊急な要求事項に対応してください。Command Line Processor Plus は、引き続きアクティブです。

DB250303E Command Line Processor Plus の行バッファー・サイズが、列 *column-name* のサイズより小さいです。

説明: 列値を表示できません。なぜなら、Command Line Processor Plus の行バッファー・サイズが、列 *column-name* のサイズより小さいからです。列値が切り捨てられるおそれがあります。

ユーザーの処置: 列幅より大きい行バッファー幅を指定した後、コマンドを再発行するか、SQL バッファーを再実行します。

DB250400E バッファー行番号が無効です。有効値は *min-value* から *max-value* までです。

説明: コマンドによりバッファー内の行を操作しようとしたが、使用されたバッファー行番号は無効です。行番号が誤っている理由として、バッファー内に行が存在しないこと、あるいはバッファーの行番号が範囲外であることが考えられます。「*min-value*」より小さいか、「*max-value*」より大きいです。

ユーザーの処置: 有効な行番号を使用して、コマンドを再実行依頼します。

DB250401E すでにオフであるため、スプーリングをオフにすることができません。

説明: SPOOLING OFF コマンドは、すでに処理されています。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドはすでに処理されているので、これ以上のアクションは不要です。

DB250402E コマンドまたはステートメント終止符の値が無効です。

説明: SQL 終止符の長さは、ちょうど 1 文字でなければなりません。

ユーザーの処置: 終止符を単一文字の値に設定してください。

DB250403E CHANGE コマンドで指定された入力ストリング *string* が、SQL バッファー内で見つかりませんでした。

説明: CHANGE コマンドを正常に発行するには、入力ストリングが SQL バッファー内に存在しなければなりません。入力ストリング *string* が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 有効な引数でコマンドを再サブミットしてください。

DB250405E DESCRIBE コマンドでは、タイプ *object-type* のオブジェクトはサポートされません。有効なタイプに *token-list* が含まれます。

説明: DESCRIBE コマンドは、データベースにおけるデータベース・オブジェクト・タイプのサブセットの定義にアクセスするのに使用します。オブジェクト・タイプ *object-type* はサポートされません。有効なオブジェクトには、*token-list* 内のオブジェクトが含まれます。

ユーザーの処置: 有効なデータベース・オブジェクト・タイプのリストについては、DESCRIBE コマンドの資料を参照してください。サポートされるデータベース・オブジェクトの名前を指定し、再試行してください。

DB250406E タイプ *object* のデータベース・オブジェクト *name* には、列がありません。

説明: 発行されるコマンドでは、列を含むデータベース・オブジェクトを指定しなければなりません。有効なオブジェクトとして以下が挙げられます。

- 表
- ビュー
- カタログ表

- カタログ・ビュー

指定されたオブジェクトには、列がありません。

ユーザーの処置: 列を含むデータベース・オブジェクトの名前を指定してください。

DB250407E 区切り文字 *character* は無効です。

説明: 区切り文字として指定された文字 *character* は、無効です。これを使用すると、コマンド構文内における引用符文字の使用と両立しません。

ユーザーの処置: 以下のことを実行してください。

1. 別の区切り文字または終了文字を指定してください。
2. コマンド構文を検査し、訂正します。
3. コマンドを再発行してください。

DB250408E ユーザー置換変数が定義されていません。

説明: ユーザー置換変数が参照されましたが、ユーザー置換変数が定義されていません。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: ユーザー置換変数を定義し、再試行してください。

DB250409E SQL バッファが空の場合、コマンドを実行できません。

説明: SQL バッファにデータがない場合、コマンドを発行できません。

ユーザーの処置: SQL バッファにステートメントを追加し、コマンドを再実行依頼してください。

DB250410I 一時停止値が *pause-text* に設定されて、**Command Line Processor Plus** は現在一時停止中です。

説明: 一時停止テキスト *pause-text* で PAUSE コマンドが発行済みです。PAUSE コマンドによって開始された一時停止状態を終了するには、Enter キーを押します。

ユーザーの処置: Enter キーを押して、一時停止状態を終了してください。

DB250411E 列 *column-name* のデータ・タイプ *type* が、この計算関数ではサポートされていません。

説明: 指定された列のデータ・タイプが、COMPUTE コマンドで指定された計算関数ではサポートされていません。

以下の数値データ・タイプが有効です。

- SMALLINT
- LONG
- DOUBLE
- FLOAT
- DECIMAL
- INTEGER

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプの列を、関数に引数として指定してください。

DB250412E 表示する計算が定義されていません。

説明: COMPUTE コマンドを使用して定義された計算がありません。

ユーザーの処置: 計算を実行して計算情報を表示するには、少なくとも 1 回 COMPUTE コマンドを実行してから SHOW COMPUTE コマンドを発行してください。

DB250413E ラベル *label* を使用した計算は、すでに定義されています。

説明: 名前 *label* を使用した計算は、列に対して既に定義されています。

ユーザーの処置: 別の名前を使用して計算を定義するか、別の列を指定するように計算を変更してください。

DB250414I 定義された列がありません。

説明: SHOW COLUMN コマンドを発行するか、パラメーターなしで COLUMN コマンドを発行することで定義された列をリスト表示できます。

このメッセージは、SHOW COLUMN コマンドが発行されるか、パラメーターなしで COLUMN コマンドが発行されており、表示する列がない場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250415W 指定された列にブレイクポイントが定義されていなかったため、ブレイクポイントがクリアされませんでした。

説明: 列名を指定した CLEAR BREAK コマンドを発行することで、列に対して定義された任意のブレイクポイントをクリアできます。

このメッセージは、CLEAR BREAK コマンドが指定された列で発行されたが、その列にブレイクポイントが定義されていない場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250416W 列 *column-name* に対して、クリアする計算アクションが定義されていませんでした。

説明: 計算アクションをクリアする列を指定した CLEAR COMPUTES コマンドを発行することで、列に対して定義された計算アクションをすべてクリアできません。

指定された列に対して計算アクションが定義されていなかった場合に、このメッセージが戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250417E COMPUTE コマンドで指定された次の関数は、計算アクションがサポートする関数ではありません: *function*。

説明: COMPUTE コマンドを使用することで、特定の列のブレイクポイントに到達した場合に実行する計算アクションを定義できます。

COMPUTE コマンドの構文は以下のとおりです。

```
COMPUTE <function-1> LABEL <label-1>
      OF <column-1>
      [{, <function-2> LABEL <label-2>
      OF <column-2>} ...]
      ON <column-n>
```

ここで <function> は以下のいずれかになります。

[SUM | MAX | MIN | AVG | COUNT | NUM]

このメッセージは、<function> に無効値が指定された場合に戻されます。

ユーザーの処置: 有効な関数を指定して COMPUTE コマンドを再発行してください。

DB250418W 指定された計算アクションは以前に定義されていました。

説明: COMPUTE コマンドは BREAK コマンドとともに使用されます。BREAK コマンドを発行することによって指定された列にブレイクポイントを定義できます。COMPUTE コマンドを使用することで、SQL ステートメントの実行時に列のブレイクポイントに到達した場合、その列に対して適用する計算アクションを定義できます。計算アクションとは、列のすべての要素に適用される、SUM、COUNT、または MAX などの関数です。

このメッセージは、COMPUTE コマンドを発行して、特定の列に以前定義された計算アクションと同一の計算アクションを定義する場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250419W SQL バッファークが空です。

説明: COMPUTE および BREAK などの CLPPlus コマンドを発行した結果生じたオブジェクトおよびアクションは、SQL バッファークに保管されます。

SQL バッファークで実行できるアクションの一部を以下にリストします。

- EDIT コマンドを発行することで SQL バッファークの内容を編集できます。
- APPEND コマンドを発行することで SQL バッファークの内容に付加できます。
- CLEAR コマンドを発行することで SQL バッファークの内容をクリアできます。

SQL ステートメントが実行されると、その SQL バッファークの内容は実行に影響します。例えば、列に対してブレイクポイントは計算アクションが定義された場合、それらは SQL ステートメントの実行時に有効になりません。

このメッセージは、SQL バッファークに対して操作を実行しようとしたものの、SQL バッファークが空である場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250420E 新しいバインド変数の作成は、指定された名前のバインド変数がすでに存在しているため失敗しました。

説明: 値を含むバインド変数を作成して、それらのバインド変数を SQL ステートメントで使用できます。

バインド変数の有効範囲はデータベース・セッションです。データベースに接続してから、そのデータベース・セッションの期間でバインド変数を作成して使用できます。データベースから切断すると、それらのバインド変数は存在しなくなります。

次に示す構文を使用してバインド変数を作成できます。

```
VARIABLE <bind-variable-name> <data-type>
```

このメッセージは、新規のバインド変数の作成時に、すでに存在しているバインド変数の名前と同じ名前を指定すると戻されます。

ユーザーの処置: 新規のバインド変数を作成するには、すでに存在している他のバインド変数の名前とは異なる名前を指定して、再び VARIABLE コマンドを発行します。

DB250421I 定義されたブレイクポイントがありません。

説明: パラメーターなしで BREAK コマンドを発行することによって、定義されたブレイクポイントをリスト表示できます。

このメッセージは、パラメーターなしで BREAK コマンドが発行されており、表示するブレイクポイントがない場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250422W 定義された列がないので、クリアされた列はありません。

説明: CLEAR COLUMN コマンドを発行することによって、定義された任意の列をクリアできます。

このメッセージは、CLEAR COLUMN コマンドが発行されたが、定義された列がなかった場合に戻されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

第 65 章 DB250500 - DB250999

DB250500W CLPPlus 端末の初期化中にエラーが発生しました。ただし、処理の続行は可能です。

説明: このメッセージは、CLPPlus 端末が初期化されている間に内部エラーが発生すると戻されます。初期化は失敗していません。CLPPlus コマンドを続けることができます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DB250501E 名前が *column-name* の列は定義されていません。

説明: 指定された列 *column-name* は定義されていません。

ユーザーの処置: 列を定義してコマンドを再試行するか、すでに定義された列を使用してコマンドを再試行してください。

DB250502E 名前 *name* が長すぎます。最大長は *maximum-length* です。

説明: 指定された名前の長さが長すぎます。

ユーザーの処置: 指定された最大長より短い名前を使用してコマンドを再試行してください。

DB250503E 列 *column-name* のフォーマット属性および表示属性が見つかりませんでした。

説明: 指定された列のフォーマット属性と表示属性が設定されていません。

ユーザーの処置: COLUMN コマンドを使用して、列の必須のフォーマット属性および表示属性を定義し、コマンドを再試行してください。

DB250504E ACCEPT コマンドは、3 回連続して入力値フォーマット・エラーが発生し、置換変数 *substitution-variable* の値を受け入れることに失敗しました。

説明: 置換変数の値は ACCEPT コマンドで指定されているフォーマットに準拠していません。適切な置換変数でコマンドを再試行するというプロンプトが出されます。再試行は 3 回連続して試行が失敗するまで可能です。ACCEPT コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 置換変数の値が ACCEPT コマンドで指定されているフォーマットに準拠する値になるようにしてから、ACCEPT コマンドを再試行してください。

DB250505E サーバーの出力メッセージの取得時にエラーが発生しました。

説明: サーバー・サイド・プロシージャに出力メッセージが含まれている場合があります。'set serveroutput on' コマンドを使用してその出力メッセージをクライアント・コンソールにプリントするように求める場合、CLPPlus はプロシージャが実行された後に、サーバーからサーバーの出力メッセージの取得を試行します。

これらのサーバー出力メッセージの取得中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 関連するエラーについては、サーバー・サイドの db2diag.log をチェックしてください。

DB250506E 別名 *column-alias* の列は、すでに定義されています。

説明: 別名 *column-alias* は列にすでに存在しています。

ユーザー応答

固有の別名を使用して、コマンドを再試行してください。

DB250507I エラーは見つかりませんでした。

説明: Command Line Processor Plus (CLPPlus) コマンド SHOW ERRORS は正常に戻され、エラーは見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB250508I *procedure-name* に関してエラーは見つかりませんでした。

説明: Command Line Processor Plus (CLPPlus) コマンド SHOW ERROR は、プロシージャ *procedure-name* に関してエラーを戻しませんでした。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB250601E 次のバインド変数が SQL ステートメントで使用されていますが、存在しないため、SQL ステートメントを実行できませんでした: *bind-variable-name*。

DB250601E

説明: 値を含むようにバインド変数を作成し、そのバインド変数を SQL ステートメントで使用することができます。

バインド変数の有効範囲はデータベース・セッションです。データベースに接続した後、そのデータベース・セッションの間にバインド変数を作成して使用することができます。データベースから切断すると、それらのバインド変数は存在しなくなります。

以下の構文を使用して、バインド変数を作成することができます。

```
VARIABLE <bind-variable-name> <data-type>
```

以下のように、SQL ステートメントでバインド変数を使用することができます。

```
DELETE employee WHERE empno = :id;
```

ここで、「:id」がバインド変数です。

定義されていないバインド変数を含む SQL ステートメントを実行しようとする、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- SQL ステートメントで使用されていた変数を定義し、再度 SQL ステートメントの実行を試行してください。
- 定義されているバインド変数を指定し、再度 SQL ステートメントの実行を試行してください。

第 66 章 DB255000 - DB255499

DB255000I RDF ユーティリティーが RDF トリプルをソートできませんでした。

説明:

- Linux および UNIX オペレーティング・システムの場合は、SORT コマンドへのアクセス権が必要です。
- Windows オペレーティング・システムの場合は、Cygwin プログラムをインストールしておく必要があります。

ユーザーの処置: ご使用のオペレーティング・システムにおいて、適切な許可の設定またはアプリケーションのインストールを行っていることを確認します。その後で操作を再試行します。

DB255001E 照会の処理中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、SPARQL 照会に失敗しました。照会: *query-details*。
SQLCODE: *sqlcode*。 **SQLSTATE:** *sqlstate*。

説明: createRdfStore などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会しようとしたものの、照会の処理中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は db2diag 診断ログ・ファイル内にあります。sqlstate が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. db2diag ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. SPARQL 照会を再び実行します。

DB255002E 基礎となるデータベース・オブジェクトの作成中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストアの作成に失敗しました。**SQLCODE:** *sqlcode*。
SQLSTATE: *sqlstate*。

説明: createrdfstore などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、新しい RDF データ・ストアを作成しようとしたものの、ストアの作成中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は db2diag 診断ログ・ファイル内にあります。sqlstate が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. db2diag ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. RDF コマンドを再び実行して、新しい RDF ストアを作成します。

DB255003E 基礎となるデータベース・オブジェクトの削除中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストアのドロップに失敗しました。**SQLCODE:** *sqlcode*。
SQLSTATE: *sqlstate*。

説明: createrdfstore などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、DB2 データベースから既存の RDF

ストアをドロップしようとしたものの、基礎表およびその他のデータベース・オブジェクトをドロップしてクリーンアップする作業中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は *db2diag* 診断ログ・ファイル内にあります。sqlstate が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. *db2diag* ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. *droprdfstore* コマンドを呼び出して、RDF ストアをドロップします。

DB255004E 操作中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストアの統計の更新に失敗しました。**SQLCODE:** *sqlcode*。
SQLSTATE: *sqlstate*。

説明: *createrdfstore* などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、DB2 データベース内の RDF ストアの統計を更新しようとしたものの、基礎となるデータベース・オブジェクトの統計の更新中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は *db2diag* 診断ログ・ファイル内にあります。sqlstate が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. *db2diag* ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。

3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. RDF 統計更新操作を再び実行します。

DB255005E 操作中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストアの再編成に失敗しました。**SQLCODE:** *sqlcode*。
SQLSTATE: *sqlstate*。理由コード:
reason-code

説明: *createrdfstore* などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

RDF ストア用に最適化された表を作成するため、RDF ストアを再編成できます。RDF ストアの再編成には 3 つのステップが関係しており、このメッセージはこれらの 3 つのステップのいずれかで再編成操作が失敗すると返されます。ランタイム・トークン *reason-code* に、再編成操作が失敗したステップが示されます。

1

reorgcheckrdfstore コマンドを使用して、RDF ストアを再編成する必要があるかどうかを識別します。

2

reorgrdfstore コマンドを使用して、表とスクリプトを作成し、RDF データの再編成の準備を行います。

3

reorgcomplete コマンドを使用して、RDF データを最適化された新しい表に転送します。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は *db2diag* 診断ログ・ファイル内にあります。sqlstate が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. *db2diag* ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. 再編成操作を再び実行します。

DB255006E 操作中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストア内のデータの更新に失敗しました。SQLCODE: *sqlcode*。SQLSTATE: *sqlstate*。

説明: `createrdfstore` などの DB2 データベース RDF ユーティリティー・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、DB2 データベース内の RDF ストアのデータを更新しようとしたものの、この操作の処理中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は `db2diag` 診断ログ・ファイル内にあります。*sqlstate* が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. `db2diag` ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. RDF コマンドを再び実行します。

DB255007E 現行ユーザー ID に、指定されたスキーマで表を作成するために必要な権限または特権がないため、RDF ストアの作成に失敗しました。スキーマ名: *schema-name*。

説明: 特定のスキーマで表を作成するには、`CREATETAB` 許可が必要です。

ユーザーの処置: 適切な特権をユーザーに割り当てます。その後、再びコマンドを発行します。

DB255008E 指定されたスキーマにおける表スペースのページ・サイズが小さすぎるため、RDF ストアの作成に失敗しました。

説明: すべての列を正常に作成するためには、RDF ストアに 32 KB のページ・サイズの表スペースが必要です。

ユーザーの処置: ページ・サイズが 32 KB の表スペースを作成します。その後、この表スペースを使用して RDF ストアを作成します。

DB255009E 指定された名前の RDF ストアが、指定されたスキーマに既に存在するため、RDF ストアの作成に失敗しました。指定された RDF ストア名: *store-name*。スキーマ名: *schema-name*。

説明: 作成しようとしている RDF ストアの名前が競合しています。

ユーザーの処置: 別の名前を使用して RDF ストアを作成します。

DB255010E 現行ユーザー ID に、必要な RDF ストア表に対する `SELECT` 特権がないため、RDF 操作に失敗しました。RDF ストア名: *store-name*。表名: *table-name*。

説明: RDF ストア・メタデータ表に対する必要な読み取り許可がありません。

ユーザーの処置: RDF ストアに対する `CONNECT` 権限と `READ` 権限がユーザーにあることを確認します。

DB255011E RDF ストアの作成に失敗しました。スキーマ内に同じ名前の表が既に存在するため、RDF ユーティリティーが新しい RDF ストアで必要な表を作成できませんでした。表名: *table-name*。スキーマ名: *schema-name*。

説明: 名前が競合しているために、1 つ以上の表を正常に作成できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 競合している既存の表を名前変更します。
2. `objectnames` ファイルを編集し、競合している表に別の物理名を付けます。

DB255012E 指定されたスキーマ内に指定 RDF ストアがないため、RDF コマンドが失敗しました。指定された RDF ストア名: *store-name*。指定されたスキーマ: *schema-name*。

説明: 接続試行先の RDF ストアが存在しません。

ユーザーの処置:

1. 接続先の RDF ストアの名前を確認し、コマンドを再発行します。
2. RDF ストアを作成してからそこに接続します。

DB255013E 現行ユーザー ID に、RDF ストア内の表をドロップするために必要な権限または特権がないため、`droprdfstore` コマンドが失敗しました。表名: *table-name*。スキーマ名: *schema-name*。

説明: RDF ストア表をドロップするための適切な権限がユーザーにありません。

ユーザーの処置: このデータベースに対する `DROP TABLE` 特権がユーザーにあることを確認します。

その後、再びコマンドを発行します。

DB255014E 現行ユーザー ID に、RDF ストアのデータ表に対する `SELECT` 特権がないため、RDF 操作に失敗しました。RDF ストア名: *store-name*。スキーマ名: *schema-name*。

説明: RDF コマンドまたは API を使用してアクセスするデータ表を読み取るための適切な権限がユーザーにありません。

ユーザーの処置: これらの表に対する `READ` 許可がユーザーに付与されていることを確認します。

その後、再びコマンドまたは API を発行します。

DB255015E 必須パラメーターが指定されていないために、RDF コマンドが失敗しました。パラメーター名: *parameter-name*。コマンド名: *command-name*。

説明: これは、このコマンド行ツールの必須パラメーターです。

ユーザーの処置: コマンドを調べて、そこにこの必須パラメーターが含まれることを確認します。

その後、再びコマンドを発行します。

DB255016E 指定された RDF ストア名が長すぎるため、RDF コマンドが失敗しました。指定された RDF ストア名: *store-name*。

説明: ストア名の最大長は 128 です。

ユーザーの処置: ストア名が最大文字数未満であることを確認します。その後、再びコマンドを発行します。

DB255017E 現行ユーザー ID に、RDF ストア内の表に対する必要な権限または特権がないため、RDF ストアの統計の収集に失敗しました。表名: *table-name*。スキーマ名: *schema-name*。

説明: 最新の統計を収集するための適切な権限がユーザーにありません。

ユーザーの処置:

- このデータベースのすべての表に対する `READ` 特権がユーザーにあることを確認します。
- すべての統計表に対する `UPDATE` 特権がユーザーにあることを確認します。

その後、再びコマンドを発行します。

DB255018E 指定されたグラフ名「DEF」が無効であるため、新しい RDF グラフの作成に失敗しました。

説明: DEF は IBM が使用するために予約済みです。ユーザーが作成するグラフの名前としては使用できません。

ユーザーの処置: グラフを名前変更します。DEF を名前として使用しないようにします。

DB255019E 指定された RDF クワッドに含まれる URI が長すぎるため、RDF 操作が失敗しました。グラフ: *graph*。サブジェクト: *subject*。述部: *predicate*。オブジェクト: *object*。

説明: クワッド内の URI が、最大長の 2048 文字を超えています。

ユーザーの処置: クワッドを調べ、問題となっている URI の長さを 2048 文字未満に減らします。

DB255020E SPARQL 照会の構文解析に失敗しました。指定された SPARQL 照会: *query*。照会で問題となっている行番号: *line-number*。照会で問題となっている列番号: *column-number*。

説明: 指定された場所にある SPARQL 照会を確認します。

ユーザーの処置: エラーを解決して、照会を再発行します。

DB255021E SPARQL フィーチャー *feature-name* はサポートされません。

説明: IBM API はこのフィーチャーをサポートしていません。

ユーザーの処置: サポートされていないフィーチャーを使用しないように照会を編集します。

DB255022E 以下のパラメーターが無効であるため、**RDF** コマンドが失敗しました:
parameter-name。

説明:

1. パラメーターを省略形にすることはできません。
2. パラメーターで発行できるのは、小文字のみです。

ユーザーの処置:

1. パラメーターのスペルをチェックしてください。
2. パラメーターが小文字であることを確認してください。

コマンドをもう一度発行してください。

DB255023E **RDF** ユーティリティが、**-storeloadfile** パラメーターで指定されたファイルを作成できなかったか、**-storeschemafile** パラメーターで指定されたファイルを作成できなかったため、**createrdfstoreandloader** コマンドが失敗しました。

説明: ユーザー指定のディレクトリーをファイル・システム上に作成できません。

ユーザーの処置: ファイル・システムにこのディレクトリー構造が既に存在することを確認します。その後、再びコマンドを発行します。

DB255024E 現行ユーザー ID に、**RDF** ストアのデータ表に対する **INSERT** 特権および **UPDATE** 特権がないため、**RDF** コマンドが失敗しました。**RDF** ストア名:
store-name。スキーマ名: *schema-name*。

説明: **RDF** コマンドまたは **API** を使用してアクセスするデータ表に書き込むための適切な権限がユーザーにありません。

ユーザーの処置: これらの表に対する **WRITE** 許可がユーザーに付与されていることを確認します。

その後、再びコマンドまたは **API** を発行します。

DB255025E 指定された **RDF** ストア名が **DB2** データベース表の命名規則に適合していないため、**RDF** コマンドが失敗しました。指定された **RDF** ストア名: *store-name*。

説明: 名前が表オブジェクトの命名規則に適合している必要があります。特に、名前にはスペース文字を含めてはなりません。

ユーザーの処置: ストア名に無効文字が含まれていない

ことを確認します。その後、再びコマンドを発行します。

DB255026E 指定されたスキーマ名が **DB2** データベース・スキーマの命名規則に適合していないため、**RDF** コマンドが失敗しました。指定されたスキーマ名: *schema-name*。

説明: *schemaName* が **DB2** スキーマ名の規則に従っていません。

ユーザーの処置: *schemaName* の規則に違反していないことを確認します。その後、再びコマンドを発行します。

DB255027E 指定された **RDF** クワッドに含まれるリテラル・ストリングが長すぎるため、**RDF** 操作が失敗しました。グラフ:
graph。サブジェクト: *subject*。述部:
predicate。オブジェクト: *object*。指定されたストリング・リテラルの文字数:
num-chars。

説明: クワッド内のリテラルが、構成されているストアの最大文字長の限度を超えています。

ユーザーの処置:

- クワッドを調べ、問題となっている項目の長さを、構成されているストア長未満に短くします。
- 構成されているストアのリテラル長を長くします。

その後、再び照会を発行します。

DB255028E **SPARQL** 照会の形式が、この照会の実行に使用される方式と一致しないため、この照会は処理されませんでした。必要な照会の形式: *query-form*。

説明: **SPARQL** は以下の 4 つのタイプの照会をサポートしています。

- Describe
- Ask
- Select
- Construct

照会タイプがユーザー操作と一致していません。例えば、*execDescribe*、*execSelect*、*execConstruct* などです。

ユーザーの処置: 照会が、サポートされている照会タイプのいずれかと一致するようにします。

DB255029E 必須の表名のうち指定されていないものがあるため、RDF コマンドが失敗しました。RDF コマンド名: *command-name*。指定されていない表名: *table-name-list*。

説明: `createrdfstore` または `createrdfstoreandloader` いずれかのコマンドの発行時に表名を指定することを選択した場合は、すべての表の名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: すべての表名を指定します。その後、再びコマンドを発行します。

DB255030E 操作中に、予期しないデータベース・エラーが起きました。操作名: *operation-name*。照会: *query-details*。
SQLCODE: *sqlcode*。**SQLSTATE:** *sqlstate*。

説明: `createRdfStore` などの DB2 データベース RDF ユーティリティ・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、以下の 2 つのシナリオで返されません。

- RDF ユーティリティ操作の実行中に、DB2 データベース RDF ユーティリティ・コマンドでデータベース・エラーが検出された。
- DB2 データベースに保管されている RDF データを照会しようとしたものの、照会の処理中にエラーが発生した。

照会が失敗したためにこのメッセージが返された場合は、その照会の詳細が *query-details* ランタイム・トークン中に示されます。RDF ユーティリティ・コマンドが失敗したためにこのメッセージが返された場合は、*query-details* ランタイム・トークンにはプレースホルダー「*」が含まれます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は `db2diag` 診断ログ・ファイル内にあります。*sqlstate* が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. `db2diag` ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。

2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. RDF 操作を再び実行します。

DB255031E RDF ユーティリティが Cygwin ライブラリーを検出できなかったため、RDF 操作が失敗しました。

説明: Windows オペレーティング・システム上でプログラムを実行している場合は、パス上に Cygwin アプリケーションが必要です。

ユーザーの処置: Windows のパスに Cygwin アプリケーションが追加されていることを確認します。

DB255032E RDF ストアの再編成済みの表が使用不可になっているため、`reorgswitchrdfstore` コマンドが失敗しました。

説明: `reorgswitchrdfstore` コマンドは RDF ストアを新しい表に転送します。このストアでは、新しく再編成された表で現在使用できるものはありません。

ユーザーの処置: まず `reorgrdfstore` コマンドを発行します。正常完了後に、`reorgswitchrdfstore` コマンドを発行します。

DB255033E 以下の RDF コマンドは、リモート側で発行されているため、失敗しました。コマンド名: *command-name*。

説明: このコマンドは、DB2 データベース・サーバー上でローカルに実行する場合のみ実行できます。

ユーザーの処置: コマンド *command-name* を DB2 データベース・サーバー上でローカルに実行する必要があります。

DB255034I RDF データの再編成が完了しました。

説明: 表データの新しい表への再編成が正常に行われました。

ユーザーの処置: `reorgswitchrdfstore` コマンドを実行して、再編成された表の使用を開始してください。

DB255035E 操作中に予期しないデータベース・エラーが発生したため、RDF ストアへの接続に失敗しました。**SQLCODE:** *sqlcode*。
SQLSTATE: *sqlstate*。

説明: `createrdfstore` などの DB2 データベース RDF ユーティリティ・コマンドを使用して、DB2 データベースにおける Resource Description Framework (RDF) の

利点を活用できます。SPARQL 照会言語を使用して、DB2 データベースに保管されている RDF データを照会できます。

このメッセージは、DB2 データベース内の RDF ストアに接続しようとしたものの、接続の処理中にエラーが発生した場合に返されます。

トラブルシューティングに役立つように、背後にあるデータベース・エラー・コードがランタイム・トークン *sqlcode* 内に設定されます。詳細な診断情報は *db2diag* 診断ログ・ファイル内にあります。*sqlstate* が関連付けられない SQL エラーもあるため、ランタイム・トークン *sqlstate* が空になっていることも時折あります。

ユーザーの処置: 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

1. *db2diag* ログ・ファイル内で、ランタイム・トークン *sqlcode* および *sqlstate* で示されている *sqlcode* と *sqlstate* を検索します。
2. DB2 データベースによって返される背後にあるデータベース・エラー・メッセージを調べます。
3. 修正アクションを取って、エラーを修正します。
4. RDF 操作を再び実行します。

DB255036I reorgrdfstore コマンドが正常に完了しました。

説明: *reorgrdfstore* コマンドを使用して、RDF ストアに対応する、列の数と長さが最適な表を作成できます。

このメッセージは、コマンドが正常に完了した場合に返されます。

ユーザーの処置: 新しく再編成された表を使用するように RDF ストアを切り替えるには、*reorgswitchrdfstore* コマンドを使用します。

DB255037I 再編成が必要な RDF ストア表はありません。

説明: 大量のデータが RDF ストアに挿入された場合、ストア内のさまざまな表に含まれる列の数と長さは、データにとって最適なものでなくなっている場合があります。これは、RDF ストアに対する照会と挿入のパフォーマンスに影響する可能性があります。

reorgcheckrdfstore コマンドを使用して、RDF ストアの一部またはすべての表が再編成を必要としているかどうかを判別できます。

このメッセージは、*reorgcheckrdfstore* ユーティリティーが、再編成の必要な RDF ストア表はないと判別した場合に返されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DB255038E *-table* パラメーターに無効な値が指定されたため、*reorgrdfstore* コマンドは失敗しました。指定された表名:
specified-table-name。

説明: *reorgrdfstore* コマンドを使用して、RDF ストアに対応する、列の数と長さが最適な表を作成できます。

reorgrdfstore コマンドに *-table* パラメーターを指定すると、どの RDF ストア表に再編成が必要かを指定することができます。このメッセージは、*-table* パラメーターに指定された値が RDF ストア表の有効な名前でない場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な RDF ストア表の名前を *-table* パラメーターに指定して、*reorgrdfstore* コマンドを再度呼び出してください。

第 11 部 DBA メッセージ

このセクションには、データベース管理 (DBA) ツールによって生成されるメッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

第 67 章 DBA0000 - DBA0499

DBA0000I 関数の処理が正常に完了しました。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA0001E メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。

説明: メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: いくつかのアプリケーションをクローズしてメモリーを解放してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBA0002E 内部エラーが発生しました。予期しない入力を要求から受け取りました。

説明: 予期しない入力値を要求から受け取りました。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0003E 変更要求を処理中に、表定義の不整合が検出されました。

説明: 表の変更要求を処理しているときに、最新の既知の表定義とデータベースからフェッチされた表定義との間で不整合が検出されました。表定義は、管理ツールのコンテキストの外で変更する場合があります。表は変更できません。要求を終了します。

ユーザーの処置: 「表」のポップアップ・メニューで「リフレッシュ」を選択し、データベースから更新された表のリストを入手します。表の変更を再度行ってください。

DBA0004E データベースへの接続の妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。サーバーがダウンしていて現在保留中の接続が有効でなく、新規接続を取得できない場合に問題が発生します。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

DBA0005E インスタンスへのアタッチの妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0006E 持続データベース接続またはインスタンス・アタッチのハンドルを妥当性検査中にエラーが発生しました。

説明: 無効な接続を検出しました。データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。要求を終了します。

ユーザーの処置: サーバーが開始しているか確認してください。接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。IBM サービスに連絡してください。

DBA0007E 接続のコンテキスト・タイプを設定中に内部エラーが発生しました。

説明: アプリケーションで確立された接続に対するコン

DBA0008E

テキスト・タイプを設定中にエラーが発生しました。
アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0008E 内部エラーが発生しました。予期しないリスト・タイプが要求されました。

説明: リストされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0009E 内部エラーが発生しました。予期しない要求タイプを受け取りました。

説明: 実行される要求のタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0010E 内部エラーが発生しました。予期しないオブジェクト・タイプを検出しました。

説明: 処理されるオブジェクトのタイプはアプリケーションの有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0011E オープン接続が多すぎます。

説明: オープンできるデータベース接続の最大数に達しました。要求を終了します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- 他のデータベースから接続を切断して必要なデータベースに接続してください。切断するデータベースのポップアップ・メニューから「切断」を選択します。接続するデータベースのポップアップ・メニューから「接続」を選択します。
- 構成パラメーターを更新して接続できる数を増やします。

DBA0012E 接続ハンドルを割り振ることができません。

説明: 接続ハンドルを割り振るときにエラーが発生しました。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0013W リスト可能なオブジェクトの最大数に達しました。

説明: アプリケーションでリスト可能なオブジェクトの最大数に達しています。最大数は 20,000 です。

ユーザーの処置: なし

DBA0014E 内部エラーが発生しました。予期しないドロップ・タイプが要求されました。

説明: ドロップされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0015E 内部エラーが発生しました。ラッチ要求が失敗しました。

説明: ラッチ要求が失敗しました。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0016E 内部エラーが発生しました。アンラッチ要求が失敗しました。

説明: アンラッチ要求が失敗しました。アプリケーションは終了します。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0017E 使用可能なエラー情報がありません。管理ツールのログを参照してください。

説明: 表示できるエラー情報がありません。

ユーザーの処置: エラー情報については管理ツールのログを参照してください。

DBA0018E Administration Server が開始されていません。Administration Server を開始し、このアクションを再度試行してください。

説明: Administration Server が開始されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで DB2ADMIN START コマンドを使用して Administration Server を開始してアクションを再度行ってください。

DBA0019E オブジェクト *object-name* が使用中です。後でこのアクションを再度試行してください。

説明: アクションが要求されたオブジェクトあるいは関連オブジェクトは、すでに別のアクションで使用されて

います。オブジェクトあるいは関連オブジェクトに対する修正が進行中である可能性があります。

要求されたアクションが現行のアクションと同時に実行できません。

例:

- 表が変更されている場合、同じ表の名前変更要求は「変更」ウィンドウでの作業が完了するまで許可されません。ただし、その表の内容をサンプルする要求は許可されます。
- オブジェクト (表など) をドロップする要求は、他のアクションが関連オブジェクト (データベース、ビュー、トリガーなど) でペンディングの場合、許可されません。

アクションは実行されません。

ユーザーの処置: オブジェクトが使用可能なときに、後でアクションを再度試行してください。

DBA0020E 管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0021E 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0022W 管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。処理を続行します。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0023W 管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。処理を続行します。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0024W 管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み試行中にエラーが発生しました。処理を続行します。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されていて書き込みが可能であるか確認してください。

DBA0025W 管理ツール・ログ・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。

説明: 管理ツール・ログ・ファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。処理を続行します。

ユーザーの処置: 管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

DBA0026E 内部管理ツール・エラーが発生しました。

説明: リカバリー不能エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0027E 内部エラーが発生しました。管理ツールでロックの競合が発生しました。

説明: 管理ツールでロックの競合が発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0028I 現行管理ツール・セッションは、リカバリー不能エラーのために終了します。

説明: 重大な内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA0029C アプリケーション・プログラミング・インターフェース *program* は理由コード *name* を伴うオブジェクト *name* のために正常終了しませんでした。再度やり直すか、またはサポート担当者に連絡してください。

説明: アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

ユーザーの処置: 操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0030E データベース *name* に接続を試行中にエラーが発生しました。

説明: 要求された操作はデータベース *name* への接続

DBA0031E

を必要とするため、完了できませんでした。接続は成功しませんでした。

ユーザーの処置: データベースがアクセス可能なことを確認してください。データベース・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用してデータベースへの接続を明示的に試行してください。接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0031E インスタンス *name* にアタッチを試行中にエラーが発生しました。

説明: 要求された操作はインスタンス *name* へのアタッチメントを必要とするため、完了できませんでした。アタッチメントは正常に終了しませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがアクセス可能なことを確認してください。インスタンス・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用して明示的にインスタンスの接続を試行してください。接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

DBA0032C DLL *name* のロードを試行中にエラーが発生しました。

説明: ダイナミック・リンク・ライブラリー *name* が検出されなかったか、またはファイルの読み取り中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: DLL がインストールされて、壊されることなく、そのロケーションが CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH パラメーターに指定されていることを確認してください。

DBA0033C *name* は、現在管理ツールによって使用されているためドロップできません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: ドロップするために選択したオブジェクト *name* またはドロップするために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。たとえば、ドロップしようとしているデータベースに対して「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースをドロップできません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用している

すべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0034C *name* は、現在管理ツールによって使用されているため除去できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: 除去するために選択したオブジェクト *name* または除去するために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。たとえば、除去しようとしているデータベースに対して、「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースを除去できません。

ユーザーの処置: 選択したオブジェクトを使用しているすべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

DBA0035C *operation* 操作は、オブジェクト *name* が現在管理ツールによって使用されているため実行できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。

説明: この操作 *operation* では、*name* が *name* 状態にあることが必要です。

ユーザーの処置: 選択されたオブジェクトでペンディングになっている他のすべての操作が完了したことを確認して、コマンドを再試行してください。

DBA0036I データベース構成は正常に更新されました。変更が反映される前にデータベース *name* からすべてのアプリケーションを切断してください。すでにバックアップが行われている場合には、新しい構成値を選択するために、データベースのバックアップをもう一度行うことをお勧めします。

説明: データベース構成の更新は成功しましたが、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、アクティブなデータベース構成は変更できません。すべてのアプリケーションが切断されると、データベースへの最初の接続時に、変更が反映されます。

ユーザーの処置: すべてのアプリケーションがデータベースから切断された後で、そのデータベースに再接続されたことを確認してください。

DBA0037I インスタンス構成は正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス *name* を停止してください。

説明: インスタンス構成は正常に更新されました。

構成パラメーター "dftdbpath" に対する変更は、即時に反映されます。

残りの構成パラメーターについては、すべてのアプリケーションがデータベースから切断され、インスタンスの停止と始動が再度成功するまで、変更は反映されません。

ユーザーの処置: すべての変更を有効にするためには、すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、インスタンスを停止して再始動してください。

db2stop コマンドを発行することにより、インスタンスを停止できます。その後、db2start コマンドを発行することにより、インスタンスを開始できます。

DBA0039W 現在データベース・オブジェクトがロックされているか、あるいはデータベース接続が使用されています。シャットダウンを続行しますか？

説明: コントロール・センターのデータベース・オブジェクトは、表の変更などのアクションが行われたときにロックされます。他のアクションは、タスクを完了するために必要なデータベースへの接続を保守します。

ユーザーの処置: 「シャットダウンして続行」を選択すると、すべてのロックおよび接続が強制され、ツールがシャットダウンします。ただしこれを行うのは危険です。いくつかのアクション (データベース・リストアなど) を、タスクを介して不十分に実行すると、データベースが破壊された状態のままになるためです。

最も安全な方法は、まず DB2 ツールに戻り、未解決のデータベース操作がないか確認することです。

DBA0040W シャットダウンによってスナップショット・モニターが停止します。シャットダウンを続行しますか？

説明: スナップショット・モニターが 1 つまたは複数のデータベース・オブジェクトで開始しています。モニターを続行するには、DB2 ツールが実行中である必要があります。

ユーザーの処置: スナップショット・モニターがこれ以上必要ない場合にのみ、シャットダウンを続行します。

DBA0041I 要求された操作は、DB2 管理ツールが未承認アプレットであるため、実行できませんでした。

説明: ネットワークを経由してロードされたアプレットは、通常、未承認とされます。別の Web ブラウザーおよびアプレット・ビューアーを使用すると、多くのローカルなシステム操作 (たとえば、ファイルの読み取り、ファイルの書き込み、およびファイルの印刷) を含む、未承認のアプレットに関して、別の制限がつく可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に問い合わせ、この制限が緩和あるいはカスタマイズできるかどうか調べてください。

DBA0042I このデータベースへの接続に使用されたユーザー ID およびパスワードの設定をクリアしますか。

説明: この設定のクリアを選択した場合、ご使用のワークステーションからの本データベースへの無許可アクセスを防ぐことができます。ただし、本データベースに次回接続するときには、正しいユーザー ID とパスワードを入力するよう要求されます。

ユーザーの処置: ユーザー ID およびパスワード設定をクリアするには、「はい」をクリックしてください。コントロール・センターを終了するまで、ユーザー ID とパスワードを保管するには、「いいえ」をクリックしてください。

DBA0043I コマンドが実行されていません。

説明: 操作は発生せず、中断されています。

ユーザーの処置: コマンドを再サブミットしてください。

DBA0044N Java VM ヒープ・サイズは、ユーザーの要求を処理するのに十分な大きさではありません。

説明: 大容量のデータにアクセスする要求の場合には、これは想定内の反応と考えられます。

大容量のデータにアクセスする要求以外の場合には、メモリーの問題を示す反応である可能性があることに注意してください。

ユーザーの処置: Java 仮想マシン・ヒープのサイズを増加してから、アプリケーションを再始動してください。Java VM ヒープ・サイズを増加するには、アプリケーションを呼び出す時に `-Xmx<size>` オプションを付けます。ただし、`<size>` は、バイト単位の最大サイズです。必要があれば、キロバイトを示す文字 `k` または

K、またはメガバイトを示す m または M を付加して、別の単位を指定してください。

たとえば、128 メガバイトの Java VM ヒープ・サイズを使ってコントロール・センターを開始するには、db2cc -Xmx128m と入力します。

DBA0045N 「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログ内の少なくとも 1 つの必須フィールドが未完了です。

説明: 「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログで XSR オブジェクト登録プロセスを完了するには、すべての必須フィールドへの入力がかじり完了してなければなりません。

ユーザーの処置: 「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログのすべての必須フィールドが完了していることを検証してから、やり直してください。

DBA0046N XSR オブジェクトの登録に必要なファイルが見つかりません。

説明: 「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログを使って XSR オブジェクトを追加する場合、参照するファイルは、登録プロセス中にそろっていないか確認してください。少なくとも 1 つのファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: XSR オブジェクトの登録プロセスで参照するファイルがすべてそろっているかどうかを確認してから、やり直してください。

DBA0047N 要求したネイティブの XML データ・ストア機能は、このデータベースでは使用可能ではありません。

説明: ネイティブの XML データ・ストアをサポートしないデータベースに対して、ネイティブの XML データ・ストア管理ツールでサポートされている XML 機能を使用しようとした場合には、このメッセージは想定どおりの反応です。XML Extender は、ネイティブの XML データ・ストアの一角をなしていないことに注意してください。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスがネイティブの XML データ・ストア機能をサポートしていない場合、ユーザー応答は必要ありません。そのようなデータベースに対して、ネイティブの XML データ・ストア管理ツールでサポートされている XML 機能を使用することはできません。

サポートされているネイティブ XML データ・ストア機能の使用の詳細は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/index.jsp> の DB2 インフォメーション・センターにアクセスし、「ネイティブ XML データ・ストア」および「概要」を検索してください。

DBA0048N 自動ストレージをこのデータベースに追加できません。

説明: 自動ではないストレージ・データベースで、「自動ストレージの追加」ウィンドウにアクセスしようとしてしました。

ユーザーの処置: 自動ではないストレージ・データベース用のストレージを追加するには、「表スペース」フォルダーに一覧で示されている表スペースを選択します。表スペース名を右マウス・ボタンでクリックし、「変更...」を選択します。「表スペースの変更」ノートブックがオープンします。「コンテナー」タブを選択して、データベース用のストレージを追加します。

DBA0049N 選択したファイルの読み取りまたは処理でエラーが生じたため、XML スキーマ・リポジトリ (XSR) への登録は失敗しました。

説明: XSR へのオブジェクトの追加時に、「XSR の登録 (Register XSR)」ノートブックは、特定のファイル拡張子のみをサポートします。サポートされている拡張子を使用している場合、ファイルの処理中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: サポートされている拡張子は、.dtd (XML DTD)、.mod (XML DTD モジュール)、.ent (外部エンティティ)、および .XML スキーマ) です。サポートされている拡張子を使用している場合、XML エディターを使用して、ファイル内容の検証を試みてください。エラーがない場合、オブジェクトの登録をもう一度やり直してください。登録が引き続き失敗する場合、IBM サービスにお問い合わせください。

DBA0099N Java VM ヒープ・サイズは、ユーザーの要求を処理するのに十分な大きさではありません。

説明: 大容量のデータにアクセスする要求の場合には、これは正常な応答です。しかし、大容量のデータにアクセスする要求以外の場合には、メモリーに問題がある可能性があります。

ユーザーの処置: プログラムを呼び出す時に、Java 仮想マシンのヒープ・サイズの最大値を -Xmx<size> オプションを使用して変更してください。最大サイズをバイトで指定してください。キロバイトを示す場合には、文字 k または K を、またメガバイトを示す場合には m または M を付加してください。

たとえば、db2cc -Xmx128m です。

問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBA0100I コントロール・センターは、インスタンス *instance* のノード・ディレクトリー情報を更新しています。誤った情報は訂正されています。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出し新規の情報に基づいてインスタンスを再カタログしました。インスタンスのノード・タイプ値に応じて、コントロール・センターからのアクションが異なります。

ユーザーの処置: 要求の実行可能であれば、要求を再試行してください。

DBA0101W 例外リストで指定された項目は使用されません。続行しますか?

説明: 「例外が含まれるノード」チェック・ボックスの選択を解除しますが例外コンテナは「例外リスト」ダイアログで指定されます。

ユーザーの処置: 例外コンテナ・リストをクリアするには「はい」を「例外が含まれるノード」チェック・ボックスを再度選択するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA0102W インスタンス - *instance* に対するノード・タイプが検出できません。理由コード : *reason-code*

説明: Nodetype はインスタンスが単一データベース・パーティション・サーバーで構成されるか、または複数のデータベース・パーティション・サーバーで構成されるかを識別するデータベース・マネージャー構成パラメータです。

ディスクバリー機能によって nodetype 値の解決を試行します。このインスタンス間の区別はコントロール・センターでのアクションが単一データベース・パーティション・サーバー環境と複数データベース・パーティション・サーバー環境との間で違うため、必要です。

理由コードが -1 の場合、ディスクバリーは有効な DB2 インスタンスに対してカタログ済みのインスタンスをマップできません。

他のすべての理由コードは有効な SQL メッセージにマップを行います。対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

ユーザーの処置: ディスクバリーには次の要件がありません。

1. DB2 Administration Server が、カタログまたはアクセスするリモート・インスタンスでセットアップおよび実行されている必要があります。

2. インスタンスがレジストリーでリストされているかを確認してください。カタログしているホストから db2set -l を発行してください。

3. 次のグローバル DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2SYSTEM
- DB2ADMINSERVER

4. 次のインスタンス DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。

- DB2COMM

5. 次の Administration Server 構成パラメーターが設定されている必要があります。

- DISCOVER = KNOWN and DISCOVER_COMM = null

または

- DISCOVER = SEARCH and DISCOVER_COMM = protocol (たとえば、TCPIP)

以上のレジストリー値の設定について db2set -all を入力して検証してください。

DBA0103W 構成パラメーター値に対して行った変更は使用されません。続行しますか?

説明: 別のデータベース・パーティションが選択されましたが、構成パラメーターに対する変更は直前に選択されたデータベース・パーティションに適用します。

ユーザーの処置: 「はい」をクリックして次のデータベース・パーティションに対する構成パラメーターの値を取得し、直前に選択したデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄してください。

DBA0113E 例外コンテナが指定されましたが、データベース・パーティション・グループの一部のノードが含まれていません。次のノードに対して指定されたコンテナがありません : *node-list*

説明: 指定の例外コンテナには共通コンテナがありません。共通コンテナが指定されていないため、例外コンテナがデータベース・パーティション・グループのすべてのノードで定義される必要があります。

ユーザーの処置: 指定のノードにコンテナを追加するには「OK」をクリックしてください。

DBA0114W コントロール・センターは、インスタンス - *instance* に対する誤ったノード・ディレクトリー情報を検出しました。誤った情報は訂正されています。コントロール・センターを終了して再始動してください。現行要求は実行できません。

説明: コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出しました。

ユーザーの処置: コントロール・センターを終了して再始動してください。

DBA0115I ノード・ディレクトリー情報がこのインスタンスに対して訂正されました。インスタンス *instance* をリフレッシュしてください。

説明: インスタンスに対してカタログされた情報が更新されているため、表示されたオブジェクトとアクションが正しくない可能性があります。

ユーザーの処置: インスタンス・ポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してコントロール・センターを更新して要求を再度試行してください。

DBA0116I JDBC サーバーで処理できる操作はありません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、既存の操作で現在使用されており、ユーザーの操作を実行することができません。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが既存の操作を完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA0117W データベース・パーティション情報を検索できませんでした。理由コード = *reason-code*、オブジェクト = *object*。

説明: データベース・パーティション情報の正常な検索に依存する機能は使用不可であるか除去されます。これには、実際のダイアログ機能と同様、メニュー項目も含まれる場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクトが存在するサーバーで DAS が開始されていることを確認してください。DAS が開始されている場合は、戻りコードを DAS エラーとして扱い、トラブルシューティングを継続してください。

DBA0200E ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: Database Administration Server (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

ユーザーの処置: DAS が実行されていることと、ファイルが存在しており、この DAS と関連したユーザー ID に対する読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス担当員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0201E ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: Database Administration Server (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

ユーザーの処置: DAS が実行されていることと、ファイル・システムがいっぱいではなく、この DAS と関連したユーザー ID に対する書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス担当員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0202E ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

ユーザーの処置: このファイルが存在しており、適切な読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス担当員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

DBA0203N ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。

説明: ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムがいっぱいではな

く、適切な書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス担当員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

第 68 章 DBA0500 - DBA0999

DBA0900N パス *path-name* はすでに存在します。

説明: 存在しないパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 存在しないパスを指定してください。

DBA0901N パス *path-name* は存在しません。

説明: 存在しているパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスは存在しないか、またはアクセス不能です。

ユーザーの処置: 既存のアクセス可能なパスを指定してください。

DBA0902E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは読み取り専用です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更しようとしたのですが、これは現在読み取り専用です。

ユーザーの処置: 読み取り専用ではないファイルまたはディレクトリーを指定してください。

DBA0903E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現在別のアプリケーションが使用中です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更または削除しようとしたのですが、これは現在別のアプリケーションが使用中です。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーにアクセス中のアプリケーションをすべてクローズしてから、操作をやり直してください。

DBA0904E パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーはアクセス不能です。

説明: パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現行ユーザーからアクセス不能です。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーの許可セットが現行ユーザーにアクセスを許可していることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0905E パスまたは装置 *name* は使用不可です。

説明: パスまたは装置 *name* は、現時点では使用不可です。

ユーザーの処置: パスまたは装置が依然として使用可能であることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0906E ディレクトリー *directory-name* は空ではありません。

説明: 空のディレクトリーを指定するコンテキストでディレクトリー *directory-name* が指定されましたが、このディレクトリーは空ではありません。

ユーザーの処置: ディレクトリーが空であることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0907E パス *path-name* はディレクトリーを指していません。

説明: ディレクトリーを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはディレクトリーを指していません。

ユーザーの処置: パスが有効なディレクトリーを指していることを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0908E パス *path-name* は無効です。

説明: パス *path-name* は有効なパスを指していません。

ユーザーの処置: 有効なパスを指定してから、操作をやり直してください。

DBA0909E パス *path-name* は長すぎます。

説明: パス *path-name* の長さは、オペレーティング・システムで許可されている最大値を超えています。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムで許可されている最大値に収まる長さのパスを指定してから、操作をやり直してください。

DBA0910E ファイル・システム上で使用できるスペースがもうありません。

説明: ファイル・システムにはこれ以上使用可能なスペースがないため、操作を正常に完了することができません。

ユーザーの処置: 操作を完了するのに必要なスペースが

DBA0911E

ファイル・システムにあることを確認してから、操作をやり直してください。

DBA0911E 開くことができるファイルの最大数に達しました。

説明: オペレーティング・システムで開くことが許可されているファイルの最大数に達しました。

ユーザーの処置: 1 つ以上のファイルをクローズしてから、操作をやり直してください。

DBA0912E ファイル *file-name* の終わりに達しました。

説明: ファイル *file-name* の終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしてしました。

ユーザーの処置: ファイルの終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしていないことを検査してから、操作をやり直してください。

DBA0913E 物理的入出力エラーが発生しました。

説明: ファイル・システムのアクセス中の、未解決の物理入出力エラー。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

第 69 章 DBA1000 - DBA1499

DBA1005W このアクションによりローカル・データベースとゲートウェイ・アプリケーションの両方が強制終了されます。続行しますか？

説明: インスタンス上のすべてのアプリケーションの強制終了を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA1006E 無効なプラグイン拡張子がコントロール・センターにより検出されました。

説明: ファイル "db2plug.zip" が壊れているか、または正しくセットアップされていません。

ユーザーの処置: "db2plug.zip" ファイルは、sqllib ディレクトリーの下に tool ディレクトリーに組み込まれている必要があります。

"db2plug.zip" ファイルの定義に関する説明について資料を参照し、"db2plug.zip" ファイルを再作成してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して支援を求めるか、またはコントロール・センターのトレース・コマンドを使用してプラグイン・クラスがロードされているかどうか判別してください。コマンド "db2cc -tf <filename>" により、コントロール・センターのトレース情報を指定したファイル名に置くことができます。ファイル名を指定する場合、ファイルへの絶対パスを指定する必要があります。プラグイン・クラスがロードされているかどうか判別するには、テキスト

"PluginLoader" が含まれる行について、ファイルを検索してください。

DBA1007W 無効なオブジェクト名またはパラメーターが入力されました。コントロール・センターはシステム・フォルダーをナビゲーター・ツリーのルートとして開始します。

説明: オブジェクト名が無効であるという場合は、入力されたシステム、インスタンス、サブシステム、またはデータベース名が存在しないか入力された名前の組み合わせが無効であるために検出できないことを示します。たとえば入力されたデータベース名が存在していても、指定されたシステム名内にはない場合もあります。パラメーターが無効であるという場合は、-h、-i、-sub、または -d 以外のパラメーターが入力されたことを示します。

ユーザーの処置: 有効なオブジェクト名およびパラメーターを使用していることを確認してから、再試行してください。

DBA1100W *number* MB より小さいメモリーがサーバーに占有されます。推奨値は実施されていません。結果ページの現行値は推奨値と一致しています。

説明: サーバー専用のメモリーの量が少ないため、構成アドバイザーはこの値を推奨できません。

「結果ページ」の推奨値は現行値と同じです。

ユーザーの処置: サーバー専用のメモリーが増加可能な場合、「サーバー・ページ」に移って、メモリーを増やしてから再試行してください。それ以外の場合は、「キャンセル」をクリックして構成アドバイザーをクローズしてください。

DBA1101I 表スペース・コンテナに関するストライプ・セット情報を取得できませんでした。ストライプ・セットは表示されません。

説明: 接続ユーザーにストライプ・セット情報を取得するための十分な権限がない可能性があります。

ユーザーの処置: ストライプ・セット情報を取得するには SYSADM 権限が必要です。

DBA1102E 構成アドバイザーがシステム・ファイルに推奨値を保管しようとしたときに、エラーが発生しました。

説明: 構成アドバイザーが、インスタンス・ディレクトリーの下に CFG サブディレクトリーを作成できなかったか、または、推奨値を含むシステム・ファイルをインスタンス・ディレクトリーの CFG サブディレクトリーに保管できませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーを含むディスクがいっぱいではなく、このディスクに対する書き込みアクセスがあることを確認してください。その後、「完了」をクリックして再試行してください。

DBA1103W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファ・プールの最小メモリーを割り当てることができませんでした。

説明: 構成アドバイザーは、指定されたメモリー・リソ

DBA1104I

ースで指定されたデータベース要件に基づく一連の推奨値を提供できません。

ユーザーの処置: 追加のメモリー・リソースが使用可能な場合、割り振られた物理メモリーの割合を増やします。そうでない場合は、サーバーの物理メモリーを増設してください。

DBA1104I インスタンスおよびデータベース構成パラメーターは正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス *name* を停止してください。バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする場合があります。

説明: 構成アドバイザーが、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新規構成パラメーターを使用する準備ができれば、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1107E 構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときにエラーが発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを続行できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA1108W 構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファー・プールのサイズを増やすことができませんでした。バッファー・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定を使用すると、サーバーのページングを引き起こす可能性があります。

説明: これは、指定されたワークロードを実行するのにサーバーには十分なメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

ユーザーの処置: 構成アドバイザーの前のページの選択

項目を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、またはサーバーにメモリーを追加してください。

DBA1109W 入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍を超えています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。

説明: 構成アドバイザーはトランザクション・レートが妥当であるかどうかを検査します。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが必要以上に高くなる可能性があります。

ユーザーの処置: トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、1 分あたりのトランザクション数が少ないものを使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

DBA1110I システム・データベース・ディレクトリーに項目がありません。

説明: 現在、このデータベース・ディレクトリーで記入項目がありませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1111E データベース別名 *name* は別のデータベースに存在しています。

説明: 新しいデータベースへのバックアップ・リカバリーを要求しましたが、指定されたデータベース名は、既存のデータベースの別名としてすでに使用されています。

データベースを作成すると、そのデータベースは、データベース名を別名として使用して、システム・データベース・ディレクトリーにカタログされますが、この別名はユニークでなければなりません。

ユーザーの処置: 別名として使用されていないデータベース名を指定するか、またはバックアップを既存のデータベースにリカバリーすることを要求してください。

DBA1112E データベース別名 *name* がシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりませんでした。

説明: バックアップの既存のデータベースへのリカバリーを要求しましたが、この別名を持つデータベースは存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベースを選択するか、ま

たはバックアップを新しいデータベースにリカバリーすることを要求してください。

DBA1113E データベースに対し未確定なトランザクションが存在しているため再始動は失敗し、データベースの接続がドロップされました。

説明: 再始動操作で未確定トランザクションが見つかりました。これにより、データベースが不整合状態になりました。DBA ユーティリティーが、データベースへの接続をドロップしました。

ユーザーの処置: 未確定トランザクションを解決してください。解決できない場合は、データベースが必要になるたびに、アプリケーションがデータベースを再始動する必要があります。

XA/DTP 環境にある場合、およびデータベースを使用していたトランザクション・マネージャーが使用可能である場合はこれを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

その他の場合は、コマンド行プロセッサを使用して、各未確定トランザクションを手動で完了してください。

DBA1114E データベース *name* はバックアップ・ペンディング状態にあります。データベースが使用される前に全バックアップを終了してください。

説明: この状態ではデータベースを更新できません。更新が行われる前に、データベースをバックアップする必要があります。

ユーザーの処置: データベースをバックアップしてください。

DBA1115E *name* の値を入力してください。

説明: 値が必要です。

ユーザーの処置: 値を指定して、要求を再試行してください。

DBA1116E *parameter* 値は *minimum* と *maximum* の間である必要があります。

説明: 値は指定された範囲内である必要があります。

ユーザーの処置: 指定された範囲の値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1117E *name* の値が無効です。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1118E *name* 値は *maximum* を超えてはいけません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1119E *name* 値を *minimum* より小さい値にすることはできません。

説明: 入力した値は無効です。

ユーザーの処置: 値を訂正して、要求を再試行してください。

DBA1121I システム *system* の要求 *description* のためにジョブが作成されました。ジョブ番号は *number* です。ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

説明: ジョブが正常に始動しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

DBA1122I システム *system* の要求 *description* のためにジョブが完了しました。ジョブの状況および出力については、ジャーナルの「ジョブ」ページにあるジョブ *number* をご覧ください。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

DBA1123I ジョブ *description* を終了します。

説明: ユーザーの要求でジョブが取り消されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1126I データベースに表スペースがありません。

説明: データベースに表スペースがありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1127I 表スペースにコンテナがありません。

説明: 表スペースにコンテナがありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1128E コンテナが指定されていません。コンテナを作成するには「追加」を選択してください。

説明: 現在のリストには、新しいコンテナが含まれていません。

ユーザーの処置: 「追加」を選択して必須フィールドに入力し、コンテナをリストに追加してください。

DBA1129E *name* の値を提供してください。

説明: 要求した操作は、*name* の値を入力した時のみ、実行されます。

ユーザーの処置: 値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1130E *name* 項目は *maximum* 文字を超えてはいけません。

説明: 入力された値は最大文字数を超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1131E *device* は無効な磁気テープ装置です。

説明: オペレーティング・システムは、指定された磁気テープ装置を受け入れませんでした。ローカルの磁気テープ装置は "¥¥¥TAPEn" の形式で、*n* はドライブ番号 (0 が最初) を示します。

ユーザーの処置: 磁気テープ装置の有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA1132E 磁気テープ装置 *device* は *blocksize* のテープ・マーク・ブロック・サイズをサポートしません。

説明: コントロール・センターは、指定された磁気テープ装置がサポートしていないテープ・マーク・ブロック・サイズを使用します。

ユーザーの処置: コマンド行プロセッサを使用して、要求をサブミットしてください。サポートされているブ

ロック・サイズを、DB2 INITIALIZE TAPE コマンドで指定してください。

DBA1133E 磁気テープ装置 *device* を処理中にエラーが発生しました。

説明: 指定された磁気テープ装置の操作中に、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 要求を再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA1134I 要求 *description* のためにジョブが作成されました。ただし、Database Administration Server (DAS) インスタンスにアクセスできなかったため、ジョブに関連した項目をジャーナル内で作成できません。

説明: ジョブは正常に始動しましたが、ジョブの状況および出力はジャーナルに記録されません。これは DAS インスタンスを開始していない場合に起こります。

ユーザーの処置: ジャーナルでジョブの状況および出力を記録するため、バックアップ操作を開始する前に、最初に DAS インスタンスを開始してください。

DBA1135I 要求 *description* に応じてジョブが終了しました。

説明: ジョブが完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1136E データベース *db* はロールフォワード・リカバリー用に有効になっていないため、表スペース・レベルでバックアップを実行することはできません。

説明: あらかじめデータベースをロールフォワード・リカバリー用に有効にしておかないと、データベースを表スペース・レベルでバックアップすることはできません。

ユーザーの処置: データベースをロールフォワード・リカバリー用に有効にするには、次のいずれかを実行します。

- データベース・ロギング・ウィザードを使用して、ロギング・タイプを ARCHIVE ロギングに変更する。
- **logarchmeth1** または **logarchmeth2** のいずれかのデータベース構成パラメーターに OFF 以外の値を設定し、データベースから既存のアプリケーションをすべて切断して、データベースのオフライン・バックアップを実行する。

DBA1137E *name* 値を *minimum units* より小さい値にすることはできません。

説明: 入力された値は、最小 *minimum units* より小さいです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1138E *name* 値は *maximum units* を超えてはいけません。

説明: 入力された値は *unit* にある *maximum* の最大数を超えています。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1139E システム・カタログに少なくとも *pages* を割り振る必要があります。

説明: 各表スペース・コンテナでは *pages* を超えてはいけません。データの各ページには 4 KB 必要です。したがって、1 MB のストレージは、これら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1140E 単一コンテナに *pages* より多くのページを割り振ることはできません。

説明: データの各ページには 4 KB 必要です。したがって、1 MB のストレージは、これら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1141E コンテナごとに少なくとも *pages* ページを割り振る必要があります。

説明: 表スペース・コンテナの最小ページ数は表スペースのエクステント・サイズに関連します。エクステント・サイズの 5 倍 プラス 1 ページです。したがって、エクステント・サイズ 32 ページ (デフォルトの値) の表スペースに対して、単一コンテナの最小サイズは 161 ページです。

ユーザーの処置: 有効な値を入力して、要求を再試行してください。

DBA1142W LOGARCHIVE データベース構成パラメーターはデータベース *name* に対して現在 ON に設定されています。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるとすぐに、データベースはバックアップ・ペンディング状態になります。この状態はデータベースの更新を防ぎます。データベースは追加の更新を行う前にバックアップする必要があります。

説明: データベース・マネージャーは、データベースで各トランザクションのロギングを開始する前に、開始点として使用するためのフル・オフライン・データベース・バックアップを持っている必要があります。

ユーザーの処置: すぐにフル・オフライン・データベースのバックアップを作成してください。不可能である場合は、LOGARCHIVE パラメーターを OFF に設定してください。

DBA1143E 少なくとも 1 つのアプリケーションがまだデータベースに接続されているため、即座にオフライン・バックアップを実行できません。あとで再試行するか、またはインスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから強制を選択してデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを即時に切断してください。

説明: オフライン・バックアップは選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションが停止するまで、実行されません。アプリケーション自体が切断するのを待機するか、または接続されているアプリケーションを即座に強制クローズしてください。

ユーザーの処置: このアクションをあとで再試行するか、または選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを即時に強制クローズするには、インスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから「強制」を選択してください。

DBA1144E コンテナ *container-name* はすでに存在します。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークである必要があります。

ユーザーの処置: システムに現存していないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

DBA1145E コンテナ *container-name* が複数回指定されています。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークである必要があります。

ユーザーの処置: 新規コンテナ・リストに現存しないファイル名あるいはディレクトリを指定してください。

DBA1146E コンテナ *container-name* がユーザーおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークである必要があります。

ユーザーの処置: ユーザーまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリを変更してください。

DBA1147E コンテナ *container-name* はカタログおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークである必要があります。

ユーザーの処置: カタログまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリを変更してください。

DBA1148E コンテナ *container-name* はユーザーおよびカタログ・ストレージ・スペースの両方に含まれます。

説明: 各表スペース・コンテナはユニークである必要があります。

ユーザーの処置: ユーザーまたはカタログ表スペースのいずれかで、コンテナのファイル名またはディレクトリを変更してください。

DBA1149E *param-1* には指定したコンテナに対する十分なフリー・スペースがありません。

説明: DMS コンテナが作成されると、割り振ったスペースの全量を消費します。

ユーザーの処置: より多くのストレージがあるエリアにコンテナのロケーションを変更するか、またはコンテナの現在のロケーションで使用可能なストレージを増やしてください。

DBA1150E 同じ名前の列がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ列がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の列名を指定してください。

DBA1151W 要求された操作は、列または制約に対して実行されませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: 表の作成または変更中に、列または制約の追加、変更、または除去を試みました。与えられた理由コードは、以下のような実規則違反を示します。

- 1 同じ名前を持つ列または制約がすでに存在します。
- 2 列が主キーまたは分散キーと関係しているため、除去できません。
- 3 列がユニーク・キーと関係しているため、除去できません。
- 4 列が外部キーと関係しているため、除去できません。
- 5 列が表ディメンションと関係しているため、除去できません。
- 6 列が表チェック制約と関係している可能性があります。操作は許可されました。
- 7 主キーおよびユニーク・キーをすべてのディメンション列のサブセットとして定義することはできません。
- 8 主キーまたはユニーク・キーがすべてのディメンション列のサブセットとなるようにディメンションを定義することはできません。
- 9 主キーおよびユニーク・キーを分散キーのスーパーセットとして定義する必要があります。
- 10 分散キーをすべての既存の主キーおよびユニーク・キーのサブセットとして定義する必要があります。
- 11 該当の列セットを持つオブジェクトがすでに存在します。
- 12 列がパーティション列として関係しているため、除去できません。
- 13 列がパーティション列およびそのデータ・タイプとして関係しているため、変更できません。
- 14 XML データ・タイプの列は、範囲でパーティション化されている表でサポートされません。

ユーザーの処置: 操作が失敗する原因となる状態を訂正

して、操作を再試行してください。

DBA1152E 同じ名前を持つ制約がすでに存在します。

説明: 同じ名前を持つ制約がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

ユーザーの処置: 別の制約名を指定してください。

DBA1153E このオブジェクトはリストにすでに存在します。

説明: 指定オブジェクトはリストにすでに存在します。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 別のオブジェクトを指定するか、またはウィンドウをクローズしてください。

DBA1154E 指定されたシステム、インスタンスおよびデータベースは、認識データベースを識別しません。

説明: システム、インスタンス、およびデータベース指定はアプリケーションで認められたデータベースを識別しません。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: システム、インスタンス、およびデータベース名が正しいか確認してください。あるいは、アプリケーションにアクセスするシステム、インスタンス、およびデータベースを追加してください。

DBA1155E オブジェクト *object-name* はデータベースに存在しません。要求を実行できません。

説明: 指定オブジェクトはデータベースに存在せず、操作できません。要求を終了します。

ユーザーの処置: オブジェクトの更新リストを入手するために、オブジェクト・フォルダーのポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してください。

DBA1156W この要求は警告を伴い終了しました。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しましたが、1 つ以上の警告メッセージが出されました。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1157E *user-name* の *object-name* で権限または特権は、付与、または取り消されていません。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 要求されたアクションは完了しました。指定の

オブジェクトでの指定のユーザーまたはグループの権限または特権に対するアクションは行われませんでした。

ユーザーの処置: なし

DBA1158I ロード中に読み取られたレコード数は *count* です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にロードされる行数は *count* です。ロードできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行の数は *count* です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1159I エクスポートが完了しました。
item-description = count.

説明: エクスポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1160I インポートが完了しました。インポート中に読み取られたレコード数は *count* です。インポートが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にインポートされた行数は *count* です。インポートできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行の数は *count* です。正常にインポートされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: インポート・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1161I *item-description = count.*

説明: インポートあるいはエクスポートは指定された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1162I ロードが完了しました。ロード中に読み取られたレコード数は *count* です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にロードされる行数は *count* です。ロードできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行の数は *count* です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。

説明: ロード・アクションは示された結果で完了しました。

ユーザーの処置: なし

DBA1163E 表はコピーされませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。

説明: 表のコピー中に 1 つまたは複数の警告あるいはエラーが発生しました。表はコピーされませんでした。

ユーザーの処置: 詳しくは管理ツールのログを参照してください。

DBA1164E 指定したターゲット表はすでに存在します。ソース表はコピーされませんでした。

説明: 表のコピー・アクションはターゲット表がすでに存在しているため、失敗しました。

ユーザーの処置: 新規のターゲット表を指定するか、あるいはすでに存在するターゲット表を削除してアクションを再試行してください。

DBA1165E *user-name* の特権が付与または取り消されませんでした。

説明: 特権が変更されていないため、指定されたユーザーまたはグループに対して特権が認可されなかったか、または取り消されました。

ユーザーの処置: 現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1166E ID *identifier-name* の引用符が対になっていません。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 示された ID に、対になっていない単一あるいは二重引用符があります。命名規則は引用符が対になっていることを必要とします。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ID を訂正し、アクションを再試行してください。

DBA1167E ID *identifier-name* にはブランクが含まれています。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID にはブランク文字が含まれていません。これは通常 ID の命名規則に違反しています。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: ブランクを除去するか、または ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1168E ID *identifier-name* の最初の文字が無効です。ID を訂正し、アクションを再試行してください。

説明: 指定の ID の先頭文字が無効です。通常 ID の命名規則に従ってください。アクションは実行されません。

ユーザーの処置: 先頭文字を有効な文字に置換するか、または ID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

DBA1169I インスタンスおよびデータベース構成パラメーターの更新が可能なコマンド・スクリプトが正常に作成されました。スクリプト・センターを使用してスクリプトの実行あるいはスケジュールを行ってください。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。スクリプト・センターをオープンして新規コマンド・スクリプトを表示、実行あるいはスケジュールしてください。

スクリプトの実行後、変更はインスタンスがサーバー上で停止するまで反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示、実行またはスケジュールについては、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターをオープンしてください。

スクリプトの実行後、新規構成パラメーターを使用する準備ができたなら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

DBA1170E 表スペースのページ・サイズとバッファーク・プール *buffer-pool* のページ・サイズは、同じでなければなりません。

説明: 作成する表スペースと一致するページ・サイズの、既存のバッファーク・プールを選択してください。デフォルトのバッファーク・プールのデフォルトのページ・サイズは 4K です。表スペースに他のページ・サイズが必要な場合、一致するページ・サイズのバッファーク・プールがなければなりません。

ユーザーの処置: 「詳細表スペース」ウィンドウで表スペースのページ・サイズを変更してバッファーク・プールのページ・サイズに合わせるか、または表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズのバッファーク・プールに変更します。必要なページ・サイズのバッファーク・プールがなければ、「バッファーク・プールの作成」ウィンドウで作成できます。

DBA1171N 指定した **TEMPORARY** 表スペース *tablespace* をこのユーティリティー操作で使用することはできません。

説明: バックアップおよびリストア・コマンドを **TEMPORARY** 表スペースで実行することはできません。

ユーザーの処置: **TEMPORARY** 表スペースではない、有効な表スペースのみを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1172W データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、オフライン・データベース・バックアップを実行する必要があります。バックアップするデータベースは事前に選択されています。すでに使用できない他のオプションは、使用不可になっています。

説明: バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取るだけです。これらのオプションが選択されていることをウィザードが確認しました。使用可能でない他のオプションもウィザードで使用不可となりました。

ユーザーの処置: ウィザードを完了してコマンドを実行してください。データベースのフル・バックアップを取ることをお勧めします。

DBA1173N データベース *database* はロールフォワード・リカバリー用に有効になっていないため、表スペース・レベルでリストアを実行することはできません。

説明: データベースをロールフォワード・リカバリー用に有効にしておかないと、表スペース・レベルでデータベースをリストアすることはできません。

ユーザーの処置: データベースをロールフォワード・リカバリー用に有効にするには、**logarchmeth1** または **logarchmeth2** のいずれかのデータベース構成パラメーターに **OFF** 以外の値を設定します。そして、データベースから既存のアプリケーションをすべて切断し、データベースのオフライン・バックアップを実行します。

DBA1174I 同じデータベース・パーティションに対して複数のイメージを選択しました。ほとんどの場合、これを行うことを推奨しません。

説明: ほとんどの場合、リストアするのに複数のバックアップ・イメージを選択することは有益ではなく、実際、リストアを完了するための合計時間が長くなります。

ユーザーの処置: データベース・パーティションごとにイメージを 1 つだけ選択するようにします。

DBA1175W この機能には、それぞれのデータベース・パーティションにイメージが必要です。

説明: ポイント・イン・タイムへのロールフォワードでは、それぞれのデータベース・パーティションにイメージが必要です。「選択可能イメージ」ページですべてのデータベース・パーティションを選択していないため、このオプションを使用することはできません。

ユーザーの処置: 「選択可能イメージ」ページに戻って、データベースのそれぞれのデータベース・パーティションにイメージを 1 つ選択してください。

DBA1176N コントロール・センターで、システム *system-name* のツール・カタログ・データベース *database-name* を自動的にカタログするのに失敗しました。

説明: 説明は以下のとおりです。

- システム *system-name* の DB2 Administration Server で指定されたデータベースが正しくありません。
- データベースを含むデータベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

DBA1177N

- DB2 Administration Server 構成パラメーターが正しく指定されていることを検査してください。
- データベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていることを検査してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1177N ツール・カタログ・データベース *database-name* へのデータベース接続を行うことができません。 **SQLCODE** は *sqlcode* です。

説明: DB2 Administration Server 構成パラメーターで定義されているツール・カタログ・データベース *database-name* への接続を行うことができません。

このメッセージは、以下のいずれかの条件のもとで表示されます。

1. ツール・カタログ・データベースは作成されませんでした。
2. ツール・カタログ・データベースは作成されましたが、DB2 Administration Server 構成パラメーターが更新されていません。
3. ツール・カタログ・データベースの構成は正しく行われていますが、接続に失敗しました。

ユーザーの処置: 上記 3 つの条件それぞれに対して、以下の提案があります。

1. CLP から CREATE TOOLS CATALOG コマンドを発行することにより、ツール・カタログ・データベースを作成します。
2. DB2 Administration Server 構成パラメーターを更新して、ツール・カタログ・データベースを定義します。 UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用して次の 4 つのパラメーターを更新する必要があります。
 - SCHED_ENABLE
 - TOOLSCAT_INST
 - TOOLSCAT_DB
 - TOOLSCAT_SCHEMA
3. 接続操作から戻された **SQLCODE** のユーザー応答を参照してください。

DBA1178W タスク *task-name* がより新しいバージョンのコントロール・センターで作成されました。

説明: 選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。タスクの機能のいくつかはローカル・マシンのコントロー

ル・センターではサポートされません。

ユーザーの処置: タスクを進めて編集するよう選択することができます。次のようにしてタスクを保管することができます。

- 変更を既存のタスクに保管する。これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。
- 新規タスクを作成して変更を保管する。これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

DBA1179W より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されたタスク *task-name* が上書きされます。

説明: 元々、より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されていたタスクは上書きされます。この操作を進めると、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。

ユーザーの処置: 以下を選択できます。

- 変更を既存のタスクに保管する。これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。
- 新規タスクを作成して変更を保管する。これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

DBA1180W 表示できる **SQL** がありません。

説明: 「SQL を表示」では、現行の特権を変更する SQL ステートメントのみが表示されます。特権が変更されていない場合、SQL ステートメントは生成されません。

ユーザーの処置: 現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

DBA1181W 他のデータベース・パーティションがオフラインでバックアップされているときに、カタログ・パーティションを同時にバックアップすることはできません。

説明: オフライン・バックアップでは、他のデータベース・パーティションと同時に、カタログ・パーティションをバックアップすることはできません。継続すると、バックアップは失敗します。

ユーザーの処置: カatalog・パーティションが、このウィザードの「パーティション」ページで他のデータベース・パーティションと一緒にグループ化されていないことを確認してください。

DBA1183N タスク *task-name* を編集できません。

説明: 選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。このバージョンのコントロール・センターでは、このタイプのタスクと関連したエディターがありません。

ユーザーの処置: このタスクを編集するには、新しいバージョンのコントロール・センターを使用してください。

DBA1184W データベースが即時にオフラインになって、データベースの完全なバックアップが実行されます。

説明: これから、このウィザードの実行の一環として、オフラインでデータベースの完全なバックアップが実行されます。この操作に伴い、すべての現行ユーザーがシステムから除去され、バックアップ期間中、データベースは利用不可になります。この操作は長時間実行される可能性があります。

ユーザーの処置: 続行する場合は「OK」をクリックし、ウィザードに戻る場合は「キャンセル」をクリックします。

DBA1185W このデータベースは自動保守が使用可能です。

説明: このデータベースは自動保守を行うよう構成されており、データベース自動バックアップを実行します。「バックアップ」ウィザードで手動のデータベースのバックアップを実行する代わりに、自動バックアップ設定を変更することができます。これは、「自動保守の構成」ウィザードを使って実行します。

ユーザーの処置: 「自動保守の構成」ウィザードを起動してデータベース自動バックアップ設定を構成するか、「バックアップ」ウィザードを使用して手動でバックアップを続行します。

DBA1186W 操作は正常に完了しましたが、必要なデータベースのバックアップだけが済んでいません。現在、データベースはバックアップ・ペンディング状態です。

説明: バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取るだけです。オフライン・バックアップは「バックアップ」ウィザードから実行できます。

ユーザーの処置: 「バックアップ」ウィザードを起動するか、または「キャンセル」を押して戻ります。

DBA1187N 入力した日付は無効です。

説明: 保守ウィンドウの指定に際して、これを特定の日付にだけ適用するよう選択しました。入力した日付または日付の範囲に無効文字が含まれているか、または日付の範囲が無効です (あるいはその両方)。

ユーザーの処置: 有効な日付のリストおよび日付の範囲を入力してから、「OK」を押してください。

DBA1188E 保守設定の更新または検索ができませんでした。

説明: 自動保守の設定は、データベースの表に保管されています。表にアクセスできなかったか、または表に補完されている設定に無効なデータが含まれていたかのどちらかです。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1189I このデータベースの自動保守設定の構成の中に、認識されない設定があります。

説明: 認識されない設定は無視されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1350I 設計アドバイザーは、索引を推奨できませんでした。「計算」ページでより長い時間制限を設定し、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。

説明: 最大検索時間が短すぎるため、設計アドバイザーは索引を推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 設計アドバイザーの「計算」ページで、もっと長い時間制限を設定するか、または制限をまったく設定しないでください。
2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

DBA1351I 設計アドバイザーは、オブジェクトを推奨できませんでした。「制限」ページでより大きなサイズを設定して、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。

説明: すべてのオブジェクトの最大論理サイズが小さすぎるため、設計アドバイザーはオブジェクトを推奨できませんでした。

ユーザーの処置:

1. 設計アドバイザーの「制限」ページで、もっと大きな最大論理サイズを設定するか、または制限をまったく設定しないでください。

2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

DBA1352I 設計アドバイザーは、ユーザーのワークロードのパフォーマンスを改善するオブジェクトを推奨できませんでした。

DBA1353W ワークロードに 1 つの SQL ステートメントのみを指定しました。データベースで他の活動が行われている可能性があります。ほかの理由によりそのオブジェクトが必要でないと確信できない限り、オブジェクトをドロップしないでください。

説明: ワークロードに 1 つの SQL ステートメントしか指定しなかったため、データベースに対する活動のすべてを表現していない可能性があります。

デザイン・アドバイザーの「ドロップ」ページには、この 1 つの SQL ステートメントに対して推奨されなかった、既存のオブジェクトがすべてリストされています。

ユーザーの処置: ほかの理由によりそのオブジェクトが必要でないと確信できない限り、オブジェクトをドロップしないでください。

DBA1354E 指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に、エラーを検出しました。

説明: 設計アドバイザーは、指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に問題を検出しました。1 つ以上のステートメントに SQL 構文エラーがある可能性があります。そのようなステートメントはアドバイザーの分析から除外されます。

ユーザーの処置: 「ワークロード詳細ダイアログ」を開き、エラーがあるステートメントを表示します。「ワークロード」ページから、ワークロード内のステートメントを編集して、必要な修正を加えてください。修正したら、「推奨」ページを選択して、分析を開始してください。

DBA1355E ADVISE 表と EXPLAIN 表が一致しません。

説明: ADVISE 表と EXPLAIN 表が、現行バージョンの IBM DB2 と一致しません。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1356E 推奨アドバイザーが *alert* に関する推奨事項を検索しようとして、重大でないエラーを検出しました。

説明: 推奨アドバイザーがヘルス・インディケーターのアラートを解決するための情報を検索しているときに、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1357E *GUI-tool* の起動を試みている間にエラーが発生しました。

説明: 指定されたツールを起動しようとして、予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 代わりに方法でツールを起動してみてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA1358E 設計アドバイザーが予期しないエラーを検出しました。戻りコード = *return-code*。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

第 70 章 DBA1500 - DBA1999

DBA1500E ローカル・システム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1501E ローカル・システム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接変更できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1502E 不明なシステム・オブジェクトは除去が許可されていません。

説明: 不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属すると認識されていない孤立したインスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要時に応じて自動的に表示されるため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし、オブジェクトをツリーで表示するため必要性を除去する時は、次のステップに従ってください。

- 不明なシステム・オブジェクトを展開して、すべての孤立したインスタンスを表示してください。
- 必要に応じて、孤立したインスタンスを含むコントロール・センターに新規システム・オブジェクトを追加してください。
- 必要に応じて、変更アクションを使用して、残りの任意の孤立したインスタンス上でシステム名を更新してください。
- 不明なインスタンス・オブジェクトも表示される場合、既存のインスタンスに属すると認識されていない孤立したデータベースも存在します。孤立が表示され

なくなるまでインスタンスを追加するか、またはデータベースを変更することでオブジェクト表示の要求を除去してください。

DBA1503E 不明なシステム・オブジェクトは変更が許可されていません。

説明: 不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属すると認識されていない孤立したインスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要に応じて自動的に表示されるため、また変更できない特定のプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1510E システム名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、システム名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1511E 指定したシステム名はすでに使用されています。ユニークなシステム名を指定してください。

説明: 指定されたシステム名は、ツリーの別のシステム・オブジェクトに使用された名前と一致しています。システム名はコントロール・センター内でユニークでなければなりません。また、それらは大文字と小文字の区別を必要とします。「ローカル」または「不明」をシステム名として使用することはできません。それは、この2つは、ローカルおよび不明のシステム・オブジェクトで使用するため、予約されているためです。混乱を避けるため、ツールでは使用することができますが、既存のインスタンス名またはデータベース名をシステム名として使用しないようにしてください。

ユーザーの処置: ユニークなシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1520W このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムは *newos* であると検出されますが、ローカル情報では *oldos* であると表示されます。即時にローカル情報を更新し、正しいオペレーティング・システムのタイプを反映しますか?

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。その後、実際の接続がリモート・システムに対して実行されたとき、真のオペレーティング・システム・タイプが報告し直されます。オリジナルのオペレーティング・システム・タイプが不正に設定されたため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1521W このシステム・オブジェクトのバージョン・タイプは *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldtyp* であると表示します。即時にローカル情報を更新し、正しいバージョン・タイプを反映しますか？

説明: 新規のシステム・オブジェクトを追加するとき、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際の接続がリモート・システムに対して行われたとき、(DB2 V2 のような前のリリースの可能性がある) 真のサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1522W このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムとサーバー・バージョン・タイプは、それぞれ *newos* および *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldos* および *oldtyp* であると表示されています。即時にローカル情報を更新し、これらの正しい値の設定を反映しますか？

説明: 新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。また、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際接続がリモート・システムに対して行われたとき、真のオペレーティング・システム・タイプおよびサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この情報のオリジナル設定が不正のため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・シ

ステムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

ユーザーの処置: ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

DBA1530E 指定されたシステムは、ご使用になっているローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。

説明: 指定したシステムはネットワーク上にありますが、このリモート・システムの Administration Server は、ご使用のローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。

ユーザーの処置: DB2COMM パラメーターも含めて、リモート・システムの Administration Server で通信を構成しないと、正常にアクセスすることはできません。

DBA1533E サーバー・プロファイルをエクスポートできません。

説明: ターゲット・ファイル・システムに、エクスポート操作を完了するための十分なディスク・スペースがない可能性があります。

ユーザーの処置: ターゲット・ファイル・システムのディスク・スペースを解放して、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、DB2 システム管理者に問い合わせてください。

DBA1534W 有効なメール・サーバーが構成されていません。

説明: SMTP_SERVER DB2 Administration Server 構成パラメーターの現行値が無効です。

ユーザーの処置: 「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング」ウィザードを使って、有効なメール・サーバーを識別してください。

DBA1540E アクティブなローカル・インスタンスは除去が許可されていません。

説明: アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特別なプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1541E アクティブなローカル・インスタンスは変更が許可されていません。

説明: アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特別なプロパティを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接変更できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1550E インスタンス名を指定してください。

説明: 新規システム・オブジェクトを追加する前に、インスタンス名を指定する 必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1551E 指定したインスタンス名はすでに使用されています。ユニークなインスタンス名を指定する必要があります。あるいは、インスタンス名を指定しないと、自動的に生成されます。

説明: 指定されたインスタンス名は、ツリーの別のインスタンス・オブジェクトに使用された名前と一致しているか、またはツリーのシステム・オブジェクトによって使用されています。インスタンス名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。さらに、システム・オブジェクトは、(選択されたシステム名の短形式のインスタンス名) 自動的に生成されたインスタンス名を使用してプロトコル情報を保管します。インスタンス名に対して、'LOCAL'の名前または現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を使用できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1552E リモート・インスタンスを指定してください。

説明: 新規インスタンス・オブジェクトを追加する前に、リモート・インスタンスを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでリモート・インスタンスを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1560E 宛先名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルの宛先名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドで宛先名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1561E ファイル・サーバーを指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのファイル・サーバーを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでファイル・サーバーを指定して、アクションを再試行してください。

DBA1562E ワークステーション名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのワークステーション名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでワークステーション名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1563E ホスト名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのホスト名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでホスト名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1564E サービス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでサービス名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1565E コンピューター名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのコンピューター名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでコンピューター名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1566E インスタンス名を指定してください。

説明: 新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのインスタンス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再実行してください。

DBA1567E このアクションまたは機能は、このインスタンス・タイプまたは関連するシステムでは選択可能ではありません。

説明: 選択されたアクションまたは関連機能は現在、そのアクションまたは機能が開始されたインスタンスのタイプについてはサポートされていません。ただし、Satellite Edition など、インスタンス・タイプの全機能がサポートされないわけではありません。

ユーザーの処置: このインスタンス・タイプで使用できる機能について説明されている資料を参照してください。

DBA1568W データベース接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を確立しませんでした。

説明: 同期点 2 フェーズ接続タイプを使用して、データベースへの接続が試みられました。接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を作成できませんでした。このデータベース接続が関連する複数サイトの更新は成功しません。

ユーザーの処置: 複数サイトの更新のシナリオが、ご使用の環境用に正しく構成されているか、および調整インスタンスが、構成の完了後に再始動しているかどうか、チェックしてください。DB2 の同期点マネージャーが使用されている場合、これが正常に開始されているかどうか調べるには、db2diag ログ・ファイルをチェックしてください。

DBA1569E リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。

説明: リモート・インスタンス名はオプション・パラメーターで、指定されていませんでした。このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

ユーザーの処置: 「インスタンス変更」ウィンドウを呼び出して、リモート・インスタンスの名前を指定します。

DBA1570E このシステムの DB2 Administration Server が定義されていません。

説明: この操作ではシステムの Administration Server にアタッチする必要がありますが、そのインスタンス名が指定されていません。

ユーザーの処置: ターゲット・システムで変更アクションを呼び出して、インスタンス名、オペレーティング・システム、およびその他のプロトコル・パラメーターを指定します。

DBA1571W ローカル・システムの名前が DB2SYSTEM 環境変数と一致しません。

説明: ローカル管理ノードのシステム名が DB2SYSTEM 環境変数の値と異なります。

ユーザーの処置: 次の 3 つのオプションがあります。

- DB2SYSTEM 環境変数の値を、ローカル管理ノードのシステム名と一致するように変更する。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、DB2SYSTEM 環境変数の値と一致するシステム名で再カタログする。

DBA1572E 指定されたインスタンス名 *instance-name* が無効です。

説明: 指定されたインスタンス名が無効です。インスタンス名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。また、インスタンス名はその他のカタログ・インスタンスの名前と一致しないものにしてください。

ユーザーの処置: インスタンス名に異なる値を指定します。

DBA1573E このアクションは選択されたシステムでは使用できません。

説明: コントロール・センター・アクションの中には、ターゲット・システムで Administration Server が使用可能であることが前提となっているものもあります。選択されたシステムには Administration Server がありません。要求されたアクションは、このシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1580E 新規データベース・オブジェクトは不明システムへの追加が許可されていません。

説明: 不明なインスタンス・オブジェクトは、既存のインスタンスに属すると認識されていない孤立したデータ

ベースが検出される場合にのみツリーに表示されます。ツールは新たに孤立が起きることを可能な限り妨げるため、不明なインスタンスに対して新規に追加することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA1581E データベース名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、データベース名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドでデータベース名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1582E 別名を指定してください。

説明: 新規データベース・オブジェクトを追加する前に、別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する入力フィールドで別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1583E 指定された別名はすでに使用されていません。

説明: 指定した別名は、ツリーの別のデータベース・オブジェクトに使用された別名と一致しています。データベース別名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。

ユーザーの処置: ユニークな別名を指定して、アクションを再試行してください。

DBA1590W *dbase* データベースは DB2 V5 よりも前の DB2 のバージョンを使用して作成されました。このデータベースがマイグレーションされるまで、限られた機能のみが許可されます。

説明: DB2 V5 タイプ・システム・オブジェクトの下で見つかったすべてのデータベースは、まず初めに DB2 V5 データベースであると想定されます。このデータベースは実際に、まだ DB2 V5 にマイグレーションしていないバックレベル・データベースだと分かりました。このデータベースにアクセスはできますが、実際にマイグレーションするまでに、限られた機能のバックレベルだけが使用可能です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 71 章 DBA2000 - DBA2499

DBA2000E ジョブ記述が指定されていません。

説明: ジョブの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにジョブ記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2001E 選択内容の時間数が指定されていません。

説明: 選択に対する時間数は必須情報です。

ユーザーの処置: 時間入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2002E 選択内容に対して少なくとも週の 1 日を選択してください。

説明: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

DBA2003E 無効な日付を指定しました。

説明: 指定された日付が無効です。指定された日付が過ぎた可能性があります。

ユーザーの処置: 有効な日付を入力してください。

DBA2004E 指定された日付または時刻、またはそれら日時の組み合わせが無効です。

説明: 次の実行日時を計算できないため、ジョブがスケジュールされません。可能なエラーとしては、実行されるジョブに対して指定された時刻が過ぎた時刻だったことです。スケジュールされたジョブを実行する管理ホストでの日時の組み合わせが有効でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な日時組み合わせを入力してください。

DBA2005E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイル名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2006E コメントが指定されていません。

説明: ジョブ完了後にコメントを記録する指示があったが、コメント入力フィールドが空です。

ユーザーの処置: コメントを入力するか、または「コメントを結果とともに表示」チェック・マークを外してください。

DBA2007E 無効なスクリプト名を指定しました。

説明: コマンド・スクリプトはファイル・システムでファイルとして保管されています。スクリプト・パスは最大 255 バイトまでです。スクリプト名のファイル名部分は最長 8 バイトです。拡張子を指定する場合は 3 バイトまでです。スクリプト名にはブランクを含んではなりません。たとえば、有効なスクリプト名は次の通りです。 `j:\script\new.cmd c:\data\test\crtdb.bat`

ユーザーの処置: 有効なスクリプト名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2008I ジョブ *job-id* は正常に作成されました。

説明: 新規ジョブが正常にスケジュールされました。新しく作成されたジョブの表示については、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

ユーザーの処置: 新しく作成されたジョブの表示については、アイコン・バーのジャーナル・アイコンを選択して、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

DBA2009E システム・エラーが発生しました。スケジューラー **InfoBase** 呼び出しが失敗しました。 **RC = return-code Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2010E スケジューラー・サービスは稼働中ではありません。 **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: ジョブ・スケジューラーまたはスクリプト・セン

DBA2011E

ターに関連する任意のアクションを行うには、スケジューラー・サービスが稼働中でなければなりません。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

DBA2011E システム・エラーが発生しました。スケジューリング・タイプ (DBA または PGM) が無効です。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2012E システム・エラーが発生しました。OS エラーを検出しました。RC = *return-code* Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2013E ジョブ ID が見つかりませんでした。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2014E システム・エラーが発生しました。ジョブの状況を変更できません。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2015E システム・エラーが発生しました。クライアントでのメモリー割り振りに異常がありました。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2016E システム・エラーが発生しました。スキャン・ハンドルが無効です。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2017I 選択したジョブを本当に除去しますか?

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。選択したジョブを除去して継続するか、あるいは要求を取り消すかを今再確認できます。

ユーザーの処置: 選択したジョブを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2018I 選択した保管スクリプトを本当に除去しますか?

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去して、そのあと要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択したスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2019E 選択内容の日数が指定されていません。

説明: 選択に対する日数は必須情報です。

ユーザーの処置: 日数入力フィールドで数値を入力してください。

DBA2020E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプを判別できません。コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2021I 本当に、変更を廃棄してもいいですか？

説明: 変更がスクリプト・センターで保管されないように指定しました。変更の廃棄を継続するか、または要求を取り消して編集を再開することができます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄するには「はい」を選択してください。コマンド・スクリプトの編集を再開するには「いいえ」を選択してください。

DBA2022I コマンド・スクリプト *script-id* が正常に作成されました。

説明: 新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。新規コマンド・スクリプトを表示するには、スクリプト・センターを参照してください。

ユーザーの処置: 新しく保管されたスクリプトの表示については、アイコン・バーのスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターを参照してください。

DBA2023E インスタンス *instance-name* が存在しません。コマンド・スクリプトが実行されていません。

説明: スクリプト・ファイルに関連するインスタンス名が存在しません。

ユーザーの処置: スクリプト・センターから「編集」を選択して、インスタンス名を既存のインスタンスへ更新してください。

DBA2024E コマンド・スクリプト *script-id* が存在しません。

説明: ジョブに関連するスクリプト・ファイルが存在しないため、スケジュールされたジョブを実行できません。

ユーザーの処置:

DBA2025E システム・エラーが発生しました。この問題は、クライアントのメモリー割り振りに関連している可能性があります。
Administration Server を再始動してからコマンドを再実行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再実行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2026I 選択したジョブを本当に除去しますか？

説明: 選択したジョブの除去を指定しました。選択したジョブを除去し、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたジョブを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2027I 選択した保管スクリプトを除去しますか？

説明: 現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

DBA2028E 選択内容の週数が指定されていません。

説明: 選択に対する週数は必須情報です。

ユーザーの処置: 週入力フィールドに数値を入力してください。

DBA2029E システム・エラーが発生しました。スケジューラー・キーが見つかりません。
Administration Server を再始動してからコマンドを再実行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再実行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2030E システム名を指定していません。リストより選択してください。

説明: アクションを処理するには、システム名が必須情報になります。

ユーザーの処置: ドロップダウン・リストからシステム名を選択してください。

DBA2031I ジョブ *job-id* は正常に再スケジュールされました。

説明: 要求されたジョブが正常に再スケジュールされました。

ユーザーの処置:

DBA2032E スクリプト名が指定されていません。

説明: スクリプト名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにスクリプト名を入力して「OK」をクリックしてください。

DBA2033E コマンド・スクリプトが入力されていません。

説明: コマンド・スクリプトが空です。

ユーザーの処置: コマンド・スクリプトの内容を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2034I コマンド・スクリプト *script-id* が正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2035E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を検索できませんでした。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2036E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプトを作成できませんでした。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2037E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を置換できません。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2038E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* をコピーできませんでした。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2039E 選択内容の月数が指定されていません。

説明: 選択に対する月数は必須情報です。

ユーザーの処置: 月入力フィールドに数値を入力してください。

DBA2040E 選択に対し、少なくとも月の 1 日を選択する必要があります。

説明: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

ユーザーの処置: 繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

DBA2041E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を移動できません。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2042E システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を実行できません。Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2043I ジョブ *job-id* はコマンド・スクリプト *script-id* の実行用に正常に作成されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2044E スクリプト記述が指定されていません。

説明: スクリプト・ファイルの記述は必須情報です。

ユーザーの処置: スクリプト・ファイルの記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2046E コマンド・スクリプト *script-id* はシステムにより生成されます。内容の編集はできません。

説明: バックアップまたは再編成表アクションに関連するスクリプトは、読み取り可能フォーマットではありません。

ユーザーの処置: 編集するには、別のコマンド・スクリプト・ファイルを選択してください。

DBA2047E システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプが不明です。
Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2048E 指定したファイル名はすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: 各スクリプト・ファイル名がユニークである必要があります。指定されたファイル名はすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2049E システム・エラーが発生しました。ファイル・アクセスが拒否されました。

説明: アプリケーションはファイル・システムのファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2050E システム・エラーが発生しました。ディスクがいっぱいです。

説明: ディスクにスペースがありません。処理を継続できません。

ユーザーの処置: ファイル・システムから不要なファイルを削除してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2051E システム・エラーが発生しました。ハード・ディスク・エラーが発生しました。

説明: ハード・ディスクに関連する内部エラーが発生しました。アプリケーションはファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2052E ログオンの失敗が原因でジョブを実行できません。ユーザー ID = *user-id*。

説明: パスワードが与えられたユーザー ID に対して無効、またはユーザー ID が無効です。

ユーザーの処置: プロンプトが出されるときに有効なユーザー ID およびパスワードを入力します。

DBA2053E システム・エラーが発生しました。ジョブ履歴項目を除去できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2054E システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* を実行できません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: **Administration Server** を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2055E コマンド・スクリプト *script-id* がスクリプト・センターから除去されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2056I コマンド・スクリプト *script-id* が変更されませんでした。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2057E システム・エラーが発生しました。パスが有効ではありませんでした。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2058E ファイルの行は *number* バイトより大きいです。

説明: 行の最大バイト数を超過しています。

ユーザーの処置: 制限を超えずに、長い行を分離して再書き込みしてください。

DBA2059E システム・エラーが発生しました。共有違反がありました。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2060E システム・エラーが発生しました。スクリプト *script-id* をコピーできません。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2061I スクリプト *script-name* が正常に作成されました。

説明: 名前 *script name* の新規スクリプト・ファイルが正常に作成されました。

ユーザーの処置: 新しく作成されたスクリプトを表示するには、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択してスクリプト・センターを参照してください。

DBA2062E システム・エラーが発生しました。新規スクリプトを作成できません。

Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2063E システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* の結果を検索できません。

Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。

説明: 内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: Administration Server を再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA2064E このスクリプト・ファイル名のスクリプト・センター・レコードはすでに存在しません。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。

説明: 各スクリプト・ファイル名がスクリプト・センター内でユニークである必要があります。指定されたファイル名はすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

DBA2065E システム・エラーが発生しました。スクリプト・ファイルがファイル・システムに存在しません。

説明: スクリプト・ファイルがファイル・システムで見つかりませんでした。ファイルが消去された可能性があります。

ユーザーの処置: スクリプト項目を除去して再度作成してください。

DBA2067I REORG TABLE コマンドは正常に完了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2068E インスタンス名が入力されていません。

説明: インスタンス名は必須情報です。

ユーザーの処置: 入力フィールドにインスタンス名を入力して、「OK」をクリックしてください。

DBA2069W ジョブの最大数 *number* が作成されました。古くなったジョブを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 他の新規ジョブを作成する前に、不要になったジョブを除去してください。

DBA2070W スクリプトの最大数 *number* が作成されました。古くなったスクリプトを除去してください。

説明:

ユーザーの処置: 別の新規スクリプトを作成する前に、不要になったスクリプトを除去してください。

DBA2071W バイトの最大数 *number* に達しました。表示されるデータは切り捨てられます。完全なファイル *file-name* がサーバーにあります。

説明: エディターは、現行のファイルが大きすぎるためハンドルできません。表示されたデータが切り捨てられました。

ユーザーの処置: ファイル全体が、指示されたロケーションのサーバーで表示されます。

DBA2072E ジョブ *job-id* に関連するスクリプトはスクリプト・センターから除去されました。

説明: スクリプト・ファイルは存在しません。

ユーザーの処置:

DBA2073E ユーザー ID およびパスワードを指定していません。

説明: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードが必要です。

ユーザーの処置: ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

DBA2074E システム・エラーが発生しました。作業ディレクトリー・パスが無効でした。

説明: 指定の作業ディレクトリーは、スクリプトの実行に使用されないため、存在しません。

ユーザーの処置: 有効な作業ディレクトリー・パスを選択するには、「参照...」ボタンを使用してください。

DBA2075I ジョブ *job-id* がサブミットされました。結果を見るにはジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2076E ジョブが異常終了しました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2077E ファイル名 *file-name* はすでにファイル・システムにあります。

説明: ファイル名はユニークである必要があります。

ユーザーの処置: 別のファイル名を指定してください。

DBA2078E 予期しないエラーが発生しました。ジョブの出力がありません。

説明: ジョブの実行からのジョブ出力がありません。

ユーザーの処置: 無効なファイル拡張子がオペレーティング・システムで使用されている可能性があります。有効な拡張子でスクリプトを再作成してください。

DBA2081W ファイル *file-name* がスクリプト・センターの最大バイト数 (*maximum-bytes*) を超えています。ファイルを表示または編集するには、外部エディターを使用する必要があります。

説明: ファイルのサイズが、スクリプト・センターで表示できる最大サイズを上回っています。

ユーザーの処置: 外部エディターを使用して、ファイルを表示または編集してください。

DBA2082W このスクリプト用のファイル許可では、スクリプト・センターは現在のユーザー ID でスクリプトを読み取ることはできません。

説明: このスクリプト用のファイル許可では、スクリプ

ト・センターは現在のユーザー ID でスクリプトを読み取ることはできません。

ユーザーの処置: スクリプトについてのファイル許可が適切に設定されていることを確認してください。

DBA2083I タスク・ベースのダイアログを編集しようとしています。編集すると、そのダイアログを使用してタスクを編集できなくなります。続行しますか?

説明: 編集しようとしているタスクは、DBA ツール・ダイアログまたはウィザードによって作成されたものです。手動で編集せず、「ダイアログによる編集」アクションを使用することをお勧めします。このタスクを手動で編集する選択をすると、「ダイアログによる編集」の機能を将来失うこととなります。「進行の表示」などの他の機能も失われます。

ユーザーの処置: ダイアログを基にしたタスク・フォーマットでタスクを保持するには「いいえ」を選択します。タスクを単純なタスクへ変換して、手動での編集を続行するには、「はい」を選択します。

DBA2151E スクリプトが保管されていないため、スケジュールできません。

説明: 保管アクションを取り消したため、スクリプトがスケジュールされません。そのため、スクリプトがスクリプト・センターに保管されませんでした。

ユーザーの処置: スクリプトを保管してスケジューリングを再試行してください。

DBA2152I スケジュールされる前に、スクリプトはスクリプト・センターに保管される必要があります。

説明: スクリプト・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

ユーザーの処置: スクリプト・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2153I ファイル *file-name* は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2154I スクリプト *script-name* は正常にオープンしました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2155I ファイル *file-name* に上書きしますか?

説明: ファイル *file name* は現在ファイル・システムに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

ユーザーの処置: ファイル内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2156I スクリプト *script-name* に上書きしますか?

説明: スクリプト *script name* は現在スクリプト・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

ユーザーの処置: スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2157I ファイル *file-name* は正常に更新されました。

説明:

ユーザーの処置:

DBA2158I ファイル *file-name* は正常に作成されました。

説明: 名前 *file name* の新規ファイルはファイル・システムに正常に作成されました。

ユーザーの処置:

DBA2160I スケジュールされる前に、スクリプトはタスク・センターに保管される必要があります。

説明: タスク・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

ユーザーの処置: タスク・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2161I スクリプト *script-name* に上書きしますか？

説明: スクリプト *script name* は現在タスク・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされません。

ユーザーの処置: スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

DBA2171I スクリプトに対するすべての変更を廃棄してコマンド・センターを終了しますか？

説明: コマンド・センターの終了を選択しましたが、現行スクリプトに対する変更はまだ保管されていません。終了要求を取り消さないかぎり、変更内容は失われます。

ユーザーの処置: 変更を廃棄してコマンド・センターを終了する場合は「はい」を、終了要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

DBA2172I 現行スクリプトに対するすべての変更を廃棄して新規のスクリプトを作成しますか？

ユーザーの処置: 変更を廃棄して新規スクリプトを作成する場合は「はい」を、要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

DBA2173I コマンド・センターがまだコマンドを処理しています。後で再試行してください。

説明: スクリプトの実行あるいはコマンド・セットの発行を試行しましたが、コマンド・センターは、現行コマンドの処理を完了しないかぎりコマンドを処理できません。

ユーザーの処置: 後ほど再試行してください。現行コマンドを停止するには、ツールバーのギア変更アイコンをクリックするか、または「結果」ページの結果メニューから「終了」を選択します。

DBA2174E コマンド行で指定されたファイル *file-name* をオープンできません。ファイルの存在とファイルへの読み取りアクセス権があることを確認して、再度試行してください。

説明: インポートするスクリプトを含むファイルの名前を指定しましたが、コマンド・センターが該当するファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: コマンド行でファイル名を正しく入力したこと、ファイルが存在すること、およびユーザー

ID に該当ファイルへの読み取りアクセスがあることを確認してください。

DBA2175E 「コマンド・センター」ウィンドウを作成するためのメモリーが不足しています。アプリケーションを続行できません。

説明: 「コマンド・センター」ウィンドウの作成を試行する際に、メモリー割り振りの問題がシステムに発生しました。

ユーザーの処置: コマンド・センターを実行するための十分なメモリーがシステムにあることを確認して再試行してください。

DBA2176E システム環境が初期設定されませんでした。アプリケーションを続行できません。データベース・マネージャーを再始動して再度試行するか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。

説明: コマンド・プロセッサ環境が正しく初期設定されませんでした。

ユーザーの処置: ディスク・スペースが十分あることを確認し、再試行してください。

DBA2177E Visual Explain に関連した問題が起きたため、システムはアクセス・プランを作成できませんでした。

説明: コマンド・センターで、アクセス・プランを作成中に問題が発生しました。

ユーザーの処置: 直前のメッセージからヘルプを参照してください。

DBA2178E アクセス・プランを作成するにはデータベース接続が必要です。「接続」ステートメントを使用してデータベースに接続し、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: まず「接続」を使用してデータベース接続を確立し、次にそのデータベースのアクセス・プランを作成します。使用可能なデータベースのリストを見るには、「データベース・ディレクトリーのリスト」コマンドを発行してください。

DBA2179E 使用したステートメントが正しいフォーマットでないか、または照会でないためアクセス・プランが作成されません。

説明: アクセス・プランを作成するために使用したステートメントは正しい照会のフォーマットではないか、または照会ではありません。

ユーザーの処置: 照会フォーマット中にエラーがないかステートメントをチェックして、必要な変更を行い、ステートメントを再実行してください。有効な照会形式については、Visual Explain の資料を参照してください。

DBA2180I ステートメントの前のプログラム名 "db2" は必要ないため無視されます。

説明: コマンド・センターでは、ステートメントの前に "db2" を入力する必要はありません。入力が必要なのは、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトの場合です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA2181I コマンド・センターは現在使用できません。しばらくしてからやり直してください。

説明: JDBC サーバーは、複数の WEBCC コマンド・センター・セッションをサポートしていません。JDBC サーバーは、既存のコマンド・センター・セッションですでに使用されています。

ユーザーの処置: 現在のコマンド・センター・セッションが完了するまで待機し、操作をやり直してください。

DBA2182N パターン *script-name-pattern* に従ったスクリプト名は、同じパターンに従った名前のスクリプトがスクリプト・センターにすでに多く含まれているために保管できません。スクリプト・センターからこのパターンに従う古いスクリプトを除去して、*tool-name* を再び呼び出してください。

説明: *script_name_pattern* のような名前を持つ、自動的に生成されたスクリプトが多すぎます。

ユーザーの処置: スクリプト・センターで、*script_name_pattern* のような名前を持つスクリプトを少なくとも 1 つ除去し、*tool_name* を再度呼び出してください。

DBA2192E データベース接続が失敗しました。

説明: データベースへの JDBC 接続が失敗しました。JDBC 接続が機能していないと、SQL Assist は使用できません。

説明: JDBC ドライバーが実行中であることを確認してください。データベースに再接続し、SQL Assist を再び起動してみてください。

JDBC ドライバーが実行中なのに問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DBA2193W *window-name* は *program-name* がなければ実行できません。データベース・ツールサブコンポーネントがインストールされていることを確認してください。

説明: *window-name* を呼び出すには、*program-name* のアプリケーションがサーバーにインストールされていなければなりません。デフォルトでは、管理および構成ツール・コンポーネントのデータベース・ツール・サブコンポーネントは、インストール時に選択されます。

program-name のアプリケーションをインストールするには、インストール時にデータベース・ツール・サブコンポーネントを選択してください。

ユーザーの処置: データベース・ツール・サブコンポーネントがインストールされていることを確認してください。データベース・サーバーのインストール時にデータベース・ツールを選択しなかった場合は、DB2 セットアップをもう一度実行する必要があります。

- 1 すべての DB2 サービスを停止します。
- 2 DB2 セットアップを実行します。
- 3 「カスタム・インストール」を選択します。
- 4 「管理および構成ツール」を除くすべてのコンポーネントのチェックをはずします。
- 5 「管理および構成ツール」の詳細で、「データベース・ツール」を選択します。
- 6 インストールを完了します。
- 7 すべての DB2 サービスを再始動します。
- 8 *window-name* を使用します。

DBA2194E XQuery Assist コンポーネントがオープンできませんでした。

説明: XQuery Assist コンポーネントは、IBM Data Studio の一部を成しますが、後者は正しくインストールされていない可能性があります。

ユーザーの処置: IBM Data Studio を再インストールしてください。

第 72 章 DBA3000 - DBA3499

DBA3007W EXPLAIN された ステートメントを削除してもいいですか?

説明: EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3008W EXPLAIN されたステートメントを削除してもいいですか?

説明: EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

ユーザーの処置: EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

DBA3009E システム・エラーが発生しました。 Visual Explain ツールが、処理を続行できませんでした。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA3010E Explain スナップショットが削除されています。 要求を完了できません。

説明: この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から削除されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成してください。

DBA3011E この Explain スナップショットは Visual Explain Tool のデータベース・マネージャーの別のバージョンを使用して作成されました。 要求を完了できません。

説明: この Explain スナップショットは Visual Explain ツールのデータベース・マネージャーの新規バージョンまたは前のバージョンを使用して作成されました。 アクセス・プランのグラフは、このツールでは構成できません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーの同じバージョンを Visual Explain ツールとして使用して Explain スナップショットをグラフ表示します。

DBA3012I スtringがありません。

説明: 検索ストリングが、表示されているテキストに見つかりません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3013E テキストがありません。 検索するテキスト・ストリングを指定する必要があります。

説明: 検索文字列が指定されませんでした。

ユーザーの処置: 検索文字列を指定してください。

DBA3014E リスト内で選択が行われていません。 リストの項目を少なくとも 1 つは選択しなくてはなりません。

説明: リストで選択されませんでした。

ユーザーの処置: リストで少なくとも 1 つの項目を選択してください。

DBA3015I このアクセス・プランに関連して参照された列はありません。

説明: 参照表に対する照会で、参照された列はありませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3016I この索引に関連するページ・フェッチ・ペア統計がありません。

説明: この索引について、カタログ表に格納されているページ・フェッチ・ペア統計がありません。 詳細情報については、管理ガイドの「システム・カタログ統計」セクションを参照してください。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3017I このアクセス・プランに関連して参照された機能はありません。

説明: このアクセス・プランでは、機能を使用する必要がありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3018I この列に関連する列分布統計がありません。

説明: この列について、カタログ表に格納されている列分布統計はありません。詳細情報については、管理ガイドの「システム・カタログ統計」セクションを参照してください。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3019I この表に関連する索引はありません。

説明: EXPLAIN 時に参照された表に定義された索引および表に現在定義されている索引はありません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3020E データベースに対する COMMIT を試行中にエラーが発生し、SQLCODE が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3021E データベースに対する ROLLBACK を試行中にエラーが発生し、SQLCODE が返りませんでした。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3022E データベース・マネージャー構成取得 API からゼロでない戻りコードが戻されました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3023E データベース構成取得 API からゼロでない戻りコードが戻されました。

説明: 操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA3024E ファイル *file* への保管中に、エラーが発生しました。

説明: 考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが、書き込み用にオープンできませんでした。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル属性を、読み書きに変更してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

DBA3025E ファイル *file* からの取り出し中に、エラーが発生しました。

説明: 考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが読み取り可能ではありません。
- ファイルが存在しません。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を指定してください。

DBA3026E プリンターがインストールされていません。

説明: マシンにインストールされているプリンターがありません。

ユーザーの処置: マシンにプリンターをインストールしてください。

DBA3033I 参照された表スペースの中で、このアクセス・プランと関連付けられたものはありません。

説明: このアクセス・プランは、表スペースに含まれているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3034W スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。スナップショットが大きすぎるため、コード・ページの変換に失敗しました。アクセス・プラン・グ

ラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用した同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

DBA3035W スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。データベース・マネージャー構成パラメーター *ASLHEAPSZ* の値が小さすぎます。

説明: グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。コード・ページ間変換に使用されるユーザー定義関数が実行するための十分なメモリーがないため、コード・ページ変換を正常に行えません。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- サーバーのデータベース・マネージャー構成パラメーター *ASLHEAPSZ* を 512 に変更して、再びアクセス・プラン・グラフを表示してください。構成パラメーターは、サーバーで次の *db2start* を行うまで反映されないことに注意してください。
- Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用した同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

DBA3036I ユーザーの動的 EXPLAIN 要求を処理するため、EXPLAIN 表が作成されました。

説明: 現行のユーザー ID 下で 1 つまたは複数の EXPLAIN 表が作成されました。これらの表は、ユーザーの動的 EXPLAIN 表が必要とする情報を保管するために使用されます。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3037E Explain スナップショットが破壊されています。要求を完了できません。

説明: この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から破壊されています。

ユーザーの処置: スナップショットを再生成してください。

DBA3038I このアクセス・プランに関連して参照されたバッファー・プールはありません。

説明: このアクセス・プランは、バッファー・プールに含まれているデータベース・オブジェクトを参照していませんでした。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3039E EXPLAIN 表が見つかりません。

説明: EXPLAIN 表が存在しません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、EXPLAIN 表を作成してください。

- EXPLAIN.DDL サンプル・コマンド・ファイルを実行します。このファイルは、*sqllib¥misc* ディレクトリーにあります。コマンド・ファイルを実行するには、このディレクトリーに移って、**db2 -tf EXPLAIN.DDL** コマンドを発行してください。
- *SYSPROC.SYSINSTALLOBJECTS* プロシージャを呼び出します。

DBA3040E コマンドが正しく指定されていません。

説明: コマンドに、無効な構文があります。

ユーザーの処置: コマンドを *-h* オプションとともに発行して、正しい構文を参照してください。

DBA3041E データベースの名前は、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。

説明: 指定されたデータベース名が空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3042E EXPLAIN 可能ステートメント・テキストは、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。

説明: 指定された EXPLAIN 可能ステートメント・テキストが空か、または長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な EXPLAIN 可能ステートメント・テキストを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3043E 照会タグには、*maximum* 文字より多くの文字は使用できません。

説明: 指定された照会タグは長すぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会タグを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3044E ユーザー ID の文字数は、*maximum* を超えてはいけません。

説明: 指定されたユーザー ID が長すぎます。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3045E 照会番号の有効な範囲は 0 から *maximum* までです。

説明: 指定された照会番号が小さすぎるか、または大きすぎます。

ユーザーの処置: 有効な照会番号を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3046E 最適化クラスに有効な値は 0、1、2、3、5、7 および 9 です。

説明: 指定された最適化クラスが、有効な値のいずれでもありません。

ユーザーの処置: 有効な最適化クラスを使用して、コマンドを再発行してください。

DBA3047E データベース *name* が見つかりません。

説明: コマンドに指定されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在しません。

ユーザーの処置: 既存のデータベース名を使用して、コマンドを再発行するか、またはデータベースをシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。

DBA3059I 選択した演算子 *operator* に関連する詳細情報がありません。

説明: 選択した演算子の詳細情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3060I 選択した演算子 *operator* に関連するヘルプ情報がありません。

説明: 選択した演算子のヘルプ情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA3061I この表に関連する列グループはありません。

説明: EXPLAIN 時に参照された表に定義された列グループがなく、表に現在定義されている列グループもありません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBA3062N DDL の生成をシステム表で実行することはできません。

説明: スキーマ SYSIBM、SYSCAT、または SYSSTAT を持つ表は、システム表です。

ユーザーの処置: DDL の生成をシステム表以外で実行してください。

DBA3063N 1 つ以上のシステム表が DDL の生成に選択されました。DDL は選択されたユーザー表にのみ生成されます。続行しますか?

ユーザーの処置: スキーマ SYSTEM、SYSCAT、および SYSSTAT を持つ表はシステム表です。

ユーザーの処置: システム表以外の表のみに DDL を生成するには「はい」をクリックしてください。DDL の生成操作を打ち切るには「いいえ」をクリックしてください。

DBA3064N 最初の *number* 表のみが db2look によって処理されます。

説明: db2look -t オプションは *number* 表のみを処理します。

ユーザーの処置: 選択された表のリストを選択可能な表のリストに移動してください。

DBA3065E CLI エラーのため、スナップショットを処理できません。

説明: スナップショット処理中に CLI エラーが発生しました。アクセス・プランを表示できません。

ユーザーの処置: 次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。

```
db2 get cli cfg
for section <db-name>
```

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。

```
catalog db <db-name> as <db-alias-name>
```

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定

してください。

```
db2 update cli cfg for section <db-alias-name> using
longdatacompat 0
```

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていないか、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA3066E スナップショットのためのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。

説明: EXPLAIN レコードのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。EXPLAIN されたステートメント履歴は、正常に検索されません。

ユーザーの処置: 次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。

```
db2 get cli cfg
for section <db-name>
```

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。

```
catalog db <db-name>
as <db-alias-name>
```

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定してください。

```
db2 update cli cfg
for section <db-alias-name> using
longdatacompat 0
```

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていないか、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

第 73 章 DBA4000 - DBA4499

DBA4000W 本当に、モニターを停止して、スナップショット・モニターを終了してもいいですか？

説明: 現在モニター中のすべてのデータベース・オブジェクトのモニターを停止し、パフォーマンス・モニターを終了することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4001I 選択した項目についてのモニター・サマリーが存在しません。

説明: 何もモニターされていないオブジェクトのレベルでのモニター活動を表示するよう要求しました。表示するサマリー活動が存在しません。

ユーザーの処置: 選択したレベルに対応するオブジェクトについてモニターを開始したときに、アクションを再試行してください。

DBA4002W *name* のモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中のオブジェクトのモニター停止を要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4003I IBM 提供のモニターでデフォルト・レベルのみが変更されました。

説明: IBM 提供のモニターの場合、変更可能な属性はこのモニターがデフォルトとして指定されているレベルのみです。

ユーザーの処置:

DBA4004E 「除去」アクションにのみ複数の選択が許可されています。

説明: モニターのリストから複数のモニターを選択しました。複数のオブジェクトに対して実行できるアクションは「除去」のみです。

ユーザーの処置: リストから 1 つのモニターを除くすべてのモニターを選択解除して、アクションをやり直してください。

DBA4005W 選択したモニターを除去しますか？

説明: 選択されたモニターをリストから除去するよう要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4006W カウンターをリセットしますか？

説明: データベース・カウンターのリセットを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4007W このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中の、このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4008W このオブジェクト内のすべてのデータベース・パーティションのモニターを停止しますか？

説明: 現在モニター中の、このオブジェクト内のすべてのデータベース・パーティションのモニターを停止することを要求しました。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4009I IBM 提供のモニターを作成中です。

説明: IBM 提供のモニターを作成中です。しばらくお待ちください。

ユーザーの処置:

DBA4010E パフォーマンス・モニターが問題を検出したため、続行できません。アクションを再試行してください。問題が解決しない場合、クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポートに連絡してください。

DBA4011E プログラム *name* は有効な名前ではありません。プログラムを実行できません。名前を確認して、アクションをやり直してください。

説明: 無効なプログラム名を指定しました。

ユーザーの処置: 有効なプログラム名を指定して、アクションをやり直してください。

DBA4012E プログラム *name* を実行できません。現在実行中のスレッドは指定されたプログラムを実行することを許可されていません。

説明: 指定されたプログラムの実行時にセキュリティ例外が発生しました。実行コマンドはアプリケーション・モードでのみ有効です。

ユーザーの処置: コントロール・センターをアプリケーションとして実行するときに、アクションをやり直してください。

DBA4013I データベース・マネージャー・ノード *name* がダウンしています。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードのダウン時にその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置: 処理を続行するには、データベース・マネージャー・ノードを再始動してください。

DBA4014I データベース・マネージャー・ノード *name* の状態が不明です。

説明: ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードの状態が不明のときにその状況を通知するよう選択しました。

ユーザーの処置:

DBA4015E *name* には無効入力が含まれています。項目を再入力してください。

説明: 項目に無効な文字が含まれています。

ユーザーの処置: 新しい項目でアクションをやり直してください。

DBA4016E 新しいモニターを作成できません。モニターの最大数は *number* です。

説明: 作成、別名保存、またはコピー要求が失敗しました。モニターの最大数に達しています。

ユーザーの処置: 未使用のモニターを除去して、アクションをやり直してください。

DBA4017E モニター接続を確立できません。モニター接続の最大数は *number* です。

説明: モニター接続の最大数に達しています。

ユーザーの処置: 後でアクションをやり直すか、またはマシンで実行されているモニター・セッションを停止してください。

DBA4018W *name* の入力が長すぎます。文字の最大数は *number* です。項目は切り捨てられます。

説明: 項目が制限を超えています。

ユーザーの処置:

DBA4019E *name* の入力が長すぎます。文字の最大数は *number* です。有効な入力でアクションを再試行してください。

説明: 項目が制限を超えています。

ユーザーの処置: 有効な入力でアクションを再試行してください。

DBA4020W パフォーマンス・モニター *name* を変更しました。変更を保管しますか?

説明: 保管しないままパフォーマンス・モニターに対して 1 つまたは複数の変更を行い、「モニターの表示」ウィンドウを終了、または実行モニターに別のモニターを設定するよう要求しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4021W *name* のパフォーマンス変数設定に変更を加えました。変更を次のスナップショットに適用しますか?

説明: パフォーマンス変数設定に対して 1 つまたは複数の変更を行いました。まだ保管されておらず、別のパフォーマンス変数の操作を選択しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

ユーザーの処置: 次のスナップショットに変更を適用するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

DBA4023E パフォーマンス変数 *name* に、無効なアラームしきい値と警告しきい値の組み合わせが入力されました。1 つまたは複数のしきい値を変更して、再試行してください。

説明: 上限アラームしきい値は、上限警告しきい値よりも大きい必要があります。つまり、「上限アラームしきい値 > 上限警告しきい値 > 下限警告しきい値 > 下限アラームしきい値」である必要があります。しきい値は、9 桁を超えない浮動値です。

ユーザーの処置: しきい値を確認して、操作をやり直してください。

DBA4024W 「サマリー」ページは、*number* 列を超えて表示することはできません。「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

説明: 「サマリー」ページには現在、収容可能な列数が表示されていますが、いくつかのパフォーマンス変数が示されていません。

ユーザーの処置: 「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

DBA4025W *type* ビューは、*number* のパフォーマンス変数を超えて表示することはできません。

説明: パフォーマンス変数の最大数が表示されています。

ユーザーの処置: パフォーマンス変数を追加する前に、1 つまたは複数のパフォーマンス変数を *type* ビューから除去してください。

DBA4026E 適用外モニターがこのレベルのデフォルトとして設定されました。

説明: モニターにはこのレベルのパフォーマンス変数が少なくとも 1 つは組み込まれていなければなりません。

ユーザーの処置: モニターを変更して、このレベルのパフォーマンス変数を少なくとも 1 つは組み込むようにします。

DBA4027I モニターするものがないので、モニターはまだ開始されていません。

説明: 現在このインスタンスでモニターされるデータベースまたはゲートウェイ接続はありません。

ユーザーの処置: モニターを開始するデータベースまたはゲートウェイ接続をカタログします。

DBA4060E パフォーマンス・モニターは現在、このインスタンスの別のモニターでアクティブです。

説明: インスタンスごとに一度にアクティブにできるモ

ニターは 1 つだけです。たとえば、データベース用のデフォルト・モニターと接続用のデフォルト・モニターが異なる場合、データベースのモニターと接続のモニター (またはリスト) を同時に行うことはできません。

ユーザーの処置: 「モニターのリスト」ウィンドウでは、以下を行うことができます。

1. どのモニターが実行中かを調べ、別のモニターを指定できるようにそのモニターを停止します。
2. どのモニターが実行中かを調べ、次のモニター・アクションにそのモニターを指定します。
3. すべてのレベルについてパフォーマンス変数を持つモニターを作成し、そのモニターを各レベルのデフォルト・モニターとして選択します。

DBA4065E しきい値をブランクにしたり、9 文字より多くすることはできません。有効なしきい値を入力してください。

説明: 無効なしきい値が入力されたか、または値が内部で変更されています。たとえば 123456789 は 123,456,789.0 と変更されますが、この場合しきい値に許容される文字数を超えてしまいます。

ユーザーの処置: しきい値を再入力して、アクションをやり直してください。

DBA4070E JDBC サーバーが問題を検出しました。パフォーマンス・モニターのリストを処理できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

DBA4071W モニターのいくつかは現在ローカルで使用中です。リフレッシュされたリストには、ローカル・モニターのみが表示されません。

説明: モニターのリストは、ローカル・モニターでのみリフレッシュされます。

ユーザーの処置: 全リストを表示するには、アクティブ・モニターを停止して操作をやり直してください。

DBA4072E このモニター名はすでに存在しています。ユニーク名を指定してください。

説明: JDBC サーバーのパフォーマンス・モニター名は、モニターの作成者に関係なくユニークでなければなりません。

DBA4074E

ユーザーの処置: ユニークなモニター名を指定してください。

DBA4074E JDBC サーバーが問題を検出しました。
操作を実行できませんでした。

説明: 予期しない問題が見つかりました。

ユーザーの処置: JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

DBA4075E このパフォーマンス・モニターが空であるため、保管できません。少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作を再試行してください。

説明: モニターは、有効にするために少なくとも 1 つのパフォーマンス変数を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作を再試行してください。

DBA4076E モニターの作成者でないため、アクションを実行できません。

説明: モニターの変更、名前変更、または除去を行うには、そのモニターを所有していなければなりません。

ユーザーの処置: モニターを変更する場合、そのモニターを別の名前の下にコピーしてから変更してください。

DBA4079E このモニターは現在、ローカルで使用中です。モニターを停止してから、除去または名前変更を行ってください。

説明: アクティブなモニターを除去または名前変更することはできません。

ユーザーの処置: 除去または名前変更を行う前に、モニターを停止してください。

DBA4080E このモニターは現在、リモートで使用中です。モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。

説明: アクティブなモニターを除去または名前変更することはできません。

ユーザーの処置: モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。

DBA4083E このモニターが見つかりませんでした。他のユーザーがモニターを除去した可能性があります。すべてのモニターを停止してから、モニターのリストをリフレッシュしてください。

説明: あなたが使用しているモニターを他のユーザーが除去した可能性があります。

ユーザーの処置: すべてのモニターを停止して、モニターのリストをリフレッシュしてください。

DBA4090E JDBC サーバーへの接続が異常終了しました。コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

DBA4095I この機能はこのオブジェクトでは実装されていません。

説明: この機能は将来のリリース用のもので、現在このオブジェクトでは実装されていません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4220I 全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

説明: 全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4221I 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

説明: 表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4222I データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、表スペースを選択できません。

説明: データベースがバックアップ・ペンディング状態

にあるため、表スペースを選択できません。

ユーザーの処置: ありません。

DBA4223I バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

説明: バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

ユーザーの処置: ありません。

第 74 章 DBA4500 - DBA4999

DBA4730E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。モニターを続行できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4731E リソース問題がモニター・サーバーで発生しました。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: サーバー・リソースを解放して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4732E データベース・インスタンスへの ATTACH を試みたときに問題が発生しました。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4733W モニターしたデータベース・インスタンスが停止しました。インスタンスを再始動してください。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4734E モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 操作を再試行してください。問題が解

決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4735E データベース・インスタンスへの ATTACH を試みたときに問題が発生しました。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

DBA4736E クライアントで使用中の現行 Territories・コードあるいは現行コード・ページを判別できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: 正しいコード・ページでデータが戻されるように、クライアントの Territories・コードとコード・ページをサーバーに送信する必要があります。モニター・サーバーが、有効な Territories・コードまたはコード・ページを判別できませんでした。

ユーザーの処置: システムの Territories・コードおよび有効なコード・ページの設定方法を判別するためにオペレーティング・システムの資料を参照してください。 Territories・コードおよびコード・ページを設定してから操作を再試行してください。

DBA4737E サーバー上に現行クライアントの Territories・コードあるいは現行コード・ページを設定できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: 正しいコード・ページでデータが戻されるように、クライアントの Territories・コードとコード・ページをサーバーに送信する必要があります。モニター・サーバーが、クライアントの有効な Territories・コードまたはコード・ページをサーバー上に設定できませんでした。

ユーザーの処置: サーバー・システムでクライアントの Territories・コードとコード・ページをアクティブ化する方法について判別するにはオペレーティング・システムの資料を参照してください。 Territories・コードおよびコード・ページを活動化してから操作を再試行してください。

DBA4738E システム *name* の Administration Server が始動していません。 **smcode:** *Error-code*

DBA4739E

説明: システム *name* でリストされた Administration Server が始動していません。

ユーザーの処置: Administration Server を始動して、操作をやり直してください。

DBA4739E クライアント・システムのコード・ページを判別できませんでした。クライアント・システムが正しくセットアップされていない可能性があります。 **smcode:** *Error-code*

説明: これはクライアント・システム上のセットアップの問題です。

ユーザーの処置: IBM サービスに連絡してください。

DBA4740E クライアント・コード・ページ *name* は、インスタンス *name* で使用できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス *name* にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name* にインストールする必要があります。

DBA4741E クライアント・コード・ページ *name* がインスタンス *name*、ノード *name* で使用できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: リストされたコード・ページが、インスタンス *name*、ノード *name* にインストールされていません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name*、ノード *name* にインストールする必要があります。

DBA4742E Administration Server *name* が見つかりません。 **smcode:** *Error-code*

説明: この問題が発生すると考えられる理由は、1) リモート・インスタンス名が無効である、2) ホスト名が無効である、のいずれかです。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4743E Administration Server *name* が問題を検出しました。 **sqlcode:** *Error-code*, **smcode:** *Error-code*

説明: Administration Server *name* に内部エラーがあります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4744E コントロール・センターがノード *name* のインスタンス *name* で並列ツールと通信できませんでした。通信を開始してみてください。 **smcode:** *Error-code*

説明: 通信が始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4745E コントロール・センターとノード *name* インスタンス *name* のリスナー (**db2ccclst**) との間で TCP/IP ポート構成が間違っています。 **smcode:** *Error-code*

説明: ノード *name* にある */etc/services* ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は *db2ccmsrv* のポート名がノード *name* の */etc/services* ファイルに正しく入力されているか、チェックする必要があります。

DBA4746E インスタンス・ノード・ホスト名 *name* はインスタンス *name* では無効です。 **smcode:** *Error-code*

説明: インスタンス *name* に対する *db2nodes.cfg* ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者はインスタンス *name* に対する *db2nodes.cfg* ファイルで見つかるホスト名の妥当性検査をする必要があります。

DBA4747E パフォーマンス・モニターが、スナップショット・キャプチャー・インターバル内にノード *name* から応答を受け取りませんでした。 **smcode:** *Error-code*

説明: リストされたノードのパフォーマンス上あるいはは通信上の問題により、応答が送信されません。あるいはスナップショット・キャプチャー・インターバルが不十分なため、各ノードの時間が足りず、要求に応答できません。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。管理者は次のいずれかを行ってください。1) リストされたノードでのパフォーマンスの妥当性検査を行う。2) スナップショット・キャプチャー・インターバルを大きくして、スナップショット要求に対応するノードに対してさらに多くの時間を使用できるようにする。

DBA4748E インスタンス *name* の論理ノード *name* は無効です。 **smcode:** *Error-code*

説明: インスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡してください。

DBA4749E インスタンス *name* のモニター・サーバーが、ノード *name* との通信を確立できません。 **smcode:** *Error-code*

説明: 通信サブシステムが始動していない可能性があります。

ユーザーの処置: 指定したノードで db2cclst 処理を開始します。それでも問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

DBA4750E 切り替えられるインスタンスがありません。 **smcode:** *Error-code*

説明: 詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に smcode を報告してください。

第 75 章 DBA5000 - DBA5499

DBA5006E *evname* は Named PIPE に書き込むイベント・モニターです。イベント・アナライザーは PIPE イベント・モニターをサポートしません。

説明: イベント・アナライザーだけが、FILE イベント・モニターが作成したトレースを処理できます。

ユーザーの処置: FILE イベント・モニターを使用してください。

DBA5007E イベント・モニター *event-monitor* が存在しません。

説明: -evm オプションで指定されたイベント・モニターが、-db オプションで指定されたデータベースのカタログに見つかりませんでした。イベント・モニターがドロップされているか、または間違ったデータベースに接続しようとしています。

ユーザーの処置: -db で指定されているデータベース別名が正しくカタログされており、イベント・モニターがドロップされていないことを確認してください。後者の場合は、イベント・モニターを再作成してください。

DBA5250I 検索したレコード数がウィンドウの限界を超えました。リストの一部が表示されません。

説明: 取り出されたオブジェクトの表示に必要なウィンドウの高さが、システム制限を超えています。

ユーザーの処置: 以下を行うことにより、ウィンドウに表示されるオブジェクトの数を減らすことができます。

- “組み込み”項目が“表示”メニューで使用可能な場合は、ウィンドウに表示するオブジェクトのサブセットを指定できます。“組み込み”を選択すると、ウィンドウが表示され、基準のサブセットの入力を要求するプロンプトが表示されます。

DBA5300E イベント・アナライザーの呼び出しエラー。

使用法:

```
db2eva [ - db database-alias
          -evm evmon-name ]
```

説明: db2eva のコマンド・パラメーターは以下のとおりです。

-db database-alias

トレースを解析したマシンでカタログするときに、イベント・モニターが定義されたデータベースを指定します。

-evm evmon-name

解析するイベント・モニター・トレース表。イベント・モニターは、データベースで -db パラメーターを指定して定義する必要があります。

データベースおよびイベント・モニター名を指定すると、db2eva はデータベースに接続し、'select target from sysibm.syseventmonitors' を発行して、イベント・モニターがトレースを書き込んだ表を探索します。このモードを使用中は、イベント・モニターおよび関連する表をドロップしないでください。

パラメーターを指定しない場合はダイアログ・ボックスがオープンし、データベース別名と解析するイベント・モニター名を促すプロンプトが出されます。

ユーザーの処置: 有効な引数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5311E イベント・モニターの呼び出しエラー。

使用法: db2emcrt database-alias

説明: db2emcrt コマンドのコマンド・パラメーターは次のとおりです。

database-alias

db2emcrt コマンドが呼び出されるマシンにカタログされているとおりに、イベント・モニターを作成または解析するデータベースを指定します。database-alias は、トレースで指定したデータベース名をオーバーライドします。

ユーザーの処置: 有効な引数を使用して、コマンドを再発行してください。

DBA5350E ファイル *file-name* のオープン中にエラーが発生しました。

説明: 不明な原因により、指定されたファイルが読み取り専用でオープンできませんでした。

ユーザーの処置: -path オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびこのディレクトリーが空ではなく、00000000.evt という名前の読み取り可能なトレース・ファイルを含んでいることをチェックしてください。

DBA5351E

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

DBA5351E ファイル *file-name* が見つかりません。

説明: `-path` で指定されたディレクトリーに 00000000.evt ファイルがありません。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル 00000000.evt を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

DBA5352E パス *path-name* が見つかりません。

説明: `-path` オプションが、存在しないディレクトリーを指定しています。

ユーザーの処置: `-path` オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル 00000000.evt を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

DBA5353E *param-1* へのアクセスが拒否されました。

説明: 指定されたファイルが、読み取り専用でオープンできませんでした。`-path` オプションが、あなたが十分なアクセス権限を持っていないディレクトリーを指定している可能性があります。

ユーザーの処置:

- `-path` オプションで指定されているディレクトリーに対するアクセス権限をチェックしてください。
- 指定されたファイルが、排他モードでロックされていないことを確認してください。

DBA5354E *file-name* から、データが読み取れません。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれているか、またはアクセスできません。

トレース・ファイルが伝送中に壊れた可能性があるか、または除去されています。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを送信してください。トレース・ファイルをリモ

ート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

DBA5355E イベント・モニター・ログ・ヘッダーが、*file-name* が見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターによって書き込まれる最初のファイル名は 00000000.evt で、このファイルには、トレースの特性を識別するデータ構造が含まれています。このデータ構造が読み取れませんでした。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- トレース・ファイルが破壊されました。
- トレース・ファイルが空です。これは、イベント・モニターがアクティブになっていてもバッファをフラッシュしていない場合に起こる可能性があります。

ユーザーの処置:

- トレースがリモート・サーバーから伝送された場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されることを確認して、再伝送してください。
- トレース・ファイルが空の場合は、イベント・モニターをオフにして、強制的にバッファをフラッシュしてください。

DBA5356E *file-name* でバイト・オーダーが無効です。

説明: イベント・モニターのログ・ヘッダー (新しいトレースに最初に書き込まれるレコード) が、トレースに含まれているのが、little-endian なのか、big-endian (たとえば、AIX) なのかを示します。指定されたトレース・ファイルに存在する値が、サポートされる 2 つのタイプのデータのいずれでもありません。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: もう一度、サーバーからトレース・ファイルを送信してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

DBA5357E ファイル *file-name* のオフセット *offset-value* で予期しないデータが検出されました。

説明: イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれています。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

ユーザーの処置: 伝送がバイナリー・モードで実行されることを確認して、トレース・ファイルをサーバーから再伝送してください。

DBA5358I アクティブなローカル Administration Server がないと、ローカル・ファイル・システムを参照できません。

説明: ファイル・ブラウザーには、ファイル・システムを参照するために、Database Administration Server (DAS) インスタンスが必要です。これがクライアント・インストールの場合、DAS インスタンスは存在せず、ローカル・ファイルの参照もできません。

ユーザーの処置: サーバーのインストールの場合、DAS インスタンスが開始されていることを確認して操作を再試行してください。

第 76 章 DBA5500 - DBA5999

DBA5500E システム・エラーが発生しました。イベント・アナライザー・ツールが処理を続行できませんでした。

説明: アプリケーション環境の初期化を試行中に、不明な理由によりシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBA5501W 除去するイベント・モニター *evname* に関連するイベント・ファイルを削除しますか?

説明:

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、「OK」をクリックしてください。 イベント・ファイルを削除しないで、イベント・モニターを除去する時は「いいえ」をクリックしてください。

DBA5502E イベント・タイプ・リストからなにも選択されていません。 リストから 1 つまたは複数のタイプを選択する必要があります。

説明: イベント・モニターを作成するときは、少なくとも 1 つのイベント・タイプを選択する必要があります。

ユーザーの処置: 作成イベント・モニター・ウィンドウから 1 つまたは複数のイベント・タイプ・チェック・ボックスを選択してください。

DBA5503I イベント・モニター *evname* が正常に作成されました。

説明: イベント・モニターが正常に作成され、イベント・モニターのデータベースのリストに追加されました。

ユーザーの処置: OK をクリックしてメッセージを除去してください。

DBA5504W イベント・ファイルを削除できなかったため、いくつかのイベント・モニターが除去されませんでした。 除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。

説明: 選択されたいくつかのイベント・モニターが正常

に除去されましたが、その他は、関連のイベント・トレース・ファイルを削除できなかったため、除去されませんでした。

これは、イベント・ファイルが読み取り専用のときまたは別のアクティブ処理によって使用される場合に発生します。

ユーザーの処置: 除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。 ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。 その後、イベント・モニターのリストからイベント・モニターを選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5505E 最大ファイル・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページの最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大サイズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでの最大ファイル・サイズを入力するか、または最大オプションなしを選択できます。 最大オプションなしを選択した場合は、イベント・ファイルの最大数が 1 です。

DBA5506E ファイルの最大数が指定されていません。

説明: 最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大数を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 までのイベント・ファイルの最大数を入力するか、または最大オプションなしを選択できます。

DBA5507E バッファー・サイズが指定されていません。

説明: 4K ページのイベント・モニター・バッファー・サイズを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 1 から 2,147,483,647 4K ページまでのイベント・モニター・バッファー・サイズを入力する必要があります。

DBA5508W 除去するイベント・モニター関連のイベン

ト・ファイルを削除しますか?

ユーザーの処置: 選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、OK をクリックしてください。 イベント・ファイルを削除せずにイベント・モニターを除去する時は「いいえ」をクリックしてください。 選択されたイベント・モニターを除去しない場合、またはイベント・ファイルを削除しない場合には、「キャンセル」をクリックしてください。

DBA5509E イベント・モニターに対して入力された名前は無効です。

説明: イベント・モニター・フィールドに入力された名前は、1 つまたは複数の許可されない文字を含んでいます。 イベント・モニターは英数字を含めますが、文字で始める必要があります。

ユーザーの処置: 英数字以外のを名前から除去して、名前は文字で始めてください。

DBA5510E モニターを活動化するとき、データ・ファイルのディレクトリーが見つかりませんでした。

説明: イベント・モニターを活動化するとき、イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーが存在しなければなりません。 バッファーをフラッシュするには、イベント・モニターは既存のファイルおよびパスを必要とします。

ユーザーの処置: イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーを作成してください。 イベント・モニターを再び活動化してください。

DBA5511E 入力 *name* は許容範囲外の値であるため、無効です。

説明: イベント・モニター最大ファイル・サイズの値、ファイルの最大数、およびバッファー・サイズが 1 から 2,147,483,647 まででなければなりません。

ユーザーの処置: 入力フィールドに、与えられた範囲内の値を入力してください。

DBA5512E イベント・モニターに対して入力された *character* 文字は許可されません。

説明: イベント・モニター名入力フィールドで入力された文字はイベント・モニター名に対して無効な文字です。

ユーザーの処置: イベント・モニター名から英数字以外を除去して、名前は文字で始めてください。

DBA5513E ダイナミック・リンク・ライブラリー “DB2EVA.DLL” を正常にロードできませんでした。

説明: イベント・アナライザーの初期化中に、dll が削除または除去されたためロードされません。

ユーザーの処置: インストール処理中にパフォーマンス・モニターを選択してイベント・アナライザーを再インストールしてください。

DBA5514I イベント・モニター *evname* のイベント・ファイルを削除できませんでした。

説明: イベント・モニターのイベント・ファイルを、ファイルがアクティブ処理によって使用中か、または読み取り専用のため削除できませんでした。

ユーザーの処置: ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。 イベント・モニターを再選択してメニューから除去を選択してください。

DBA5515E データベース別名またはデータベース名 *dbname* が見つかりません。

説明: コマンド行で入力された別名はこのマシンではカタログされていません。

ユーザーの処置: このマシンの別名をカタログしてコマンドを再入力するか、または有効な別名でコマンドを再発行してください。

DBA5516W このイベント・モニターのトレースの表示には時間がかかります。 処理を継続しますか?

説明: ユーザーはイベント・モニターの大きなトレースの表示を要求しました。 読み取りファイルを完了するには時間がかかります。

ユーザーの処置: トレース処理を継続する場合は、OK をクリックしてください。 トレース・ファイル処理を継続しない場合はいいえ をクリックしてください。

DBA5517E 理由コード *reason-code* のため、イベント・モニターを開始できません。

説明: *reason-code:* によって示されている以下の理由のため、イベント・モニターを開始できませんでした。

1. イベント・モニター・パスが無効です。
2. イベント・モニターが開始される装置が作動不能です。
3. Administration Server とのアタッチメントが失敗しました。

ユーザーの処置: イベント・モニターを開始するには、イベント・モニター・パスが有効であること、Administration Server が開始したこと、および装置の正確な権限が存在していることを確認してください。「OK」をクリックします。

問題が継続する場合、装置にイベント・モニターのディレクトリーを手動で作成して「OK」をクリックしてください。

イベント・モニターを開始せずに作成する場合、「今開始する」チェック・ボックスを選択解除して、「OK」をクリックしてください。

DBA5518E イベント・モニターの出力ディレクトリーが作成されないため開始できません。

説明: 以下のいずれかの理由で、ディレクトリーが作成できません。

1. 要求ファイル・システムにディレクトリーを作成するために適切な権限がない。
2. イベント・モニターの作成が Intel 以外のプラットフォーム上のディレクトリーの作成をサポートしていない。
3. FAT ファイル・システムで 8 文字より大きいディレクトリーを作成できない。

ユーザーの処置: ディレクトリー作成に適切な権限があるかを確認してください。

Intel 以外のプラットフォームでイベント・モニター出力・ディレクトリーを手操作で作成してください。

DBA5519I イベント・モニター表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。

説明: イベント・モニター・レコードを保留しているイベント・モニター表が指定されたソース・データベースで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: イベント・モニター表がソース・データベースに存在していて、表名が SYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

DBA5520E イベント・モニター・コントロール表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。

説明: イベント・モニター・コントロール表をオープンできません。

ユーザーの処置: イベント・モニター・コントロール表がソース・データベースに存在していて、表名が

SYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

DBA5521I データベースへの接続が確立されていません。イベント・モニター・リストを検索できません。

説明: データベースへの接続が確立されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー・コマンドが発行されていることを確認してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

第 77 章 DBA6000 - DBA6499

DBA6001I レプリケーション・サブスクリプション設定 *subscription-set* は使用されています。しばらくしてから再試行してください。

説明: アプライ・プログラムは現在レプリケーション・サブスクリプションを処理中のため、このアクションを非活動にできません。アプライ・プログラムが処理を完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6002I レプリケーション・ソース *source-name-1.source-name-2* は正常に定義されました。レプリケーション・ソースに変更を収集するには、コマンド行からキャプチャー・プログラムを開始してください。

説明: キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6003I レプリケーション・サブスクリプションは正常に定義されました。サブスクリプション設定の複製を始めるには、コマンド行からアプライ・プログラムが開始済みであるか確認してください。

説明: アプライ・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: アプライ・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6004I レプリケーション・サブスクリプションは正常に変更されました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6005I レプリケーション・ソースは正常に除去されました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6006I レプリケーション・ソース *source-name* を除去できませんでした。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6007I レプリケーション・サブスクリプション *subscription-name* を除去できませんでした。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6008I レプリケーション・サブスクリプションは正常に除去されました。

説明: これは情報メッセージです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6009I *file-name* は別のアクションによりロックされています。

説明: 現在ファイルは別のアクションによって使用中です。

ユーザーの処置: アクションが完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

DBA6010I 結合は正常に定義されました。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6012I レプリケーション・ソースは正常に定義されました。レプリケーション・ソースへの変更の収集を開始するにはコマンド行からキャプチャー・プログラムが開始済みであることを確認してください。

説明: キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

ユーザーの処置: キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

DBA6013I レプリケーション・サブスクリプションは正常に更新されました。

説明: このメッセージは通知用です。

DBA6014I

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6014I レプリケーション・サブスクリプションは正常にクローンされました。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6015I このアクションの SQL ステートメントはこれからの編集および実行のためにファイルに保管されています。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6016I SQL スクリプト・ファイルは正常に実行されています。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6100I アプライ・プログラムは、このセットへのフル・リフレッシュ・コピーのみを行います。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6101E 表 *table-name-1.table-name-2* を検索できません。

説明: 指定されたコントロール表はデータベースで見つからないか、または誤ってドロップされました。

ユーザーの処置: コントロール表を作成してください。詳細については「表」の章を参照してください。

DBA6102I このアクションは、終了までしばらく時間がかかります。お待ちください...

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6103E SQL ファイル *file-name* を実行できません。

説明: ユーザーは、レプリケーション・ソースの定義のようなレプリケーション・アクションに対して SQL ステートメントを編集した可能性があるため、SQL ステートメント・ファイルでエラーが起きました。

ユーザーの処置: SQL ステートメント・ファイルのエラーを訂正して、ファイルを再実行してください。

DBA6104W ユニークな接頭部文字が見つかりませんでした。接頭部文字は NULL に設定されました。

説明: 接頭部文字は、ソース表で変更前イメージ列を識別するために使用される英字文字または数値文字です。すべての可能な接頭部文字がすでに使用中のため、接頭部文字が割り当てられない場合は、この警告が出されません。変更データ表は作成されません。

ユーザーの処置: 変更前イメージ列をチェック解除してアクションをやり直してください。

DBA6105E フィールド *field-name* には入力が必要です。

説明: ユーザーは必須フィールドに記入していません。

ユーザーの処置: パラメーターを指定して、OK を選択してください。

DBA6106E レプリケーション・アクションは現在このデータベース・システムをサポートしていません。

説明: レプリケーション・アクションは、実行するためにデータベース・システムをサポートする必要があります。

ユーザーの処置: IBM サービス担当員に連絡してください。

DBA6107E フィールド *field-name* に対して別の値を入力してください。

説明: レプリケーション・サブスクリプションをクローンするとき、ターゲット・サーバーおよびアプライ修飾子フィールドがオリジナルのターゲット・サーバーおよびアプライ修飾子フィールドと異なる必要があります。

ユーザーの処置: 別のターゲット・サーバー名を入力するか、または修飾子を適用して「OK」を選択してください。

DBA6108E 構文エラーのためアクションを完了できません。

説明: SQL ステートメントには構文エラーが含まれます。

ユーザーの処置: 正しい構文については、「SQL リファレンス」をチェックしてください。サブスクリプション・アクションについては、WHERE 節、行ページ、あるいは CREATE 列をチェックしてください。define-join アクションについては、CREATE VIEW ステートメントをチェックしてください。

DBA6109E SHOW COLUMNS アクションを完了できません。

説明: SHOW COLUMNS アクションには選択された表が必要です。

ユーザーの処置: 「選択表」リスト・ボックスから表を選択して、SHOW COLUMNS キーを押してください。

DBA6110E SQL ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: SQL ファイルが存在していない、間違ったサブディレクトリーにある、あるいは別の処理で使用中的であるかのいずれかです。

ユーザーの処置: 正しいファイル名を入力していて、そのファイルが正しいサブディレクトリーにあるか確認してください。ファイルが別の処理に使用されている場合、処理を終了してファイル名を再入力します。

DBA6111E ファイル *file-name* をオープンできません。

説明: ファイルが存在しないか、あるいは間違ったサブディレクトリーにあります。

ユーザーの処置: 「ツール設定」ノートブックの「レプリケーション」ページで正しいファイル名を入力しているか、確認してください。

DBA6112I 「ツール設定」ノートブックにレプリケーション・オブジェクトを定義するためにユーザー定義の値の置換を選択しました。ファイル *file-name* にこの値を提供してください。

説明: このメッセージは通知用です。

ユーザーの処置: ファイルにすでにユーザー定義の値を提供している場合にはアクションは不要です。

DBA6113E *keyword* はファイル *file-name* で無効なキーワードです。

説明: 指定されたキーワードは無効で、タイプミスによるエラーの可能性あります。

ユーザーの処置: デフォルト・ファイル "DPREPL.DFT" で与えられたようにキーワードを使用してください。

DBA6114E キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* では見つかりません。

説明: このキーワードに対する値はこのアクションを完了するのに必要です。

ユーザーの処置: このキーワードに対する値をファイルに指定してください。

DBA6115E 列リストの項目で選択された項目はありません。このアクションを完了することができません。

説明: このアクションを完了するには、列リストの少なくとも 1 つの項目が選択される必要があります。

ユーザーの処置: 列リストから 1 つまたは複数の項目を選択して OK を押してください。

DBA6116E キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* で無効です。

説明: このキーワードに対する値が長すぎて間違ったデータ・タイプか、あるいはフォーマットが間違っているかのどちらかです。

ユーザーの処置: 値を訂正してアクションを再度呼び出してください。

DBA6117W 変更前イメージ列 *column-list* が *number* バイトに切り捨てられました。これは、オリジナル列の長さが変更前イメージ接頭部 *before-image-prefix* に付加される前にデータベース制限に達していたためです。

説明: 元のソース表からの列の長さがデータベースの制限に達しています。変更前イメージ接頭部に追加される前に、列名の終わりにある文字が、データベースの制限に適合するように、切り捨てられています。新しい変更前イメージ列名は、切り捨てられた文字にユニーク名を保証する必要があるため、ユニークとはならなくなります。

ユーザーの処置: 切り捨てられた名前がユニークでない場合には、変更前イメージ列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

DBA6118W データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。データ・タイプは SQL スクリプトで *datatype-list* に変換されます。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。ただし、同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。生成された SQL ステートメントは、サ

DBA6119W

ポートされないデータ・タイプの代わりに、変換されたデータ・タイプを使用します。

ユーザーの処置: 変換されたデータ・タイプが許可できるものである場合、アクションは不要です。許可できるものでない場合、ターゲット列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

DBA6119W データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。これらのデータ・タイプが含まれる列は、SQL スクリプトから排除されます。

説明: ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにありません。生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプが含まれる列を排除します。

ユーザーの処置: 特定のデータ・タイプを、将来名前付きデータベースでサポートしてもらいたい場合には、IBM サービスに連絡してください。

DBA6120W ソース表 *table-name* は主キーで定義されていません。ターゲット表の主キーを「ターゲット列」ページで指定してください。

説明: サブスクリプション定義アクションは、ソース表に対する修飾主キーを検出できませんでした。そのため、サブスクリプション定義はターゲット表に対する該当主キーを判別できません。

ユーザーの処置: ターゲット表の主キーを「詳細」ノートブックの「ターゲット列」ページで指定してください。

DBA6121W 非互換 Java ランタイム環境が検出されました。Java ランタイム環境に必要なレベルがインストールされているかどうかを確認してください。

説明: インストールされた Java ランタイムが、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

ユーザーの処置: 前提となる Java ランタイム環境レベルの情報については、コントロール・センターの *readme.htm* を参照してください。

DBA6123E オブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているので、要求されたアクションを実行できません。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最

長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとした。アクションを実行できません。

ユーザーの処置: スキーマ名が 128 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

DBA6124W 一部のオブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているため、選択されたそれらのオブジェクトでは要求されたアクションを実行できません。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。それよりも長いスキーマ名の一部のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとした。アクションはスキーマ名が 128 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA6125W フィールド *field* に *number* バイトを超える長さのスキーマ名があります。スキーマ名は *number* バイトで切り捨てられます。

説明: データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。フィールド内のスキーマ名は 128 バイトを超えるので、128 バイトに切り捨てられます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。ただし既存のスキーマ名を切り捨てたくない場合は、フィールドにより短いスキーマ名を入力してください。

第 78 章 DBA7000 - DBA7499

DBA7000E *product-name* のライセンスは除去できません。 RC = *return-code*

説明: ライセンスを除去できませんでした。ライセンスが *nodelock* ファイルに見つからないか、または *nodelock* ファイルを更新できませんでした。

ユーザーの処置: *nodelock* ファイルの許可をチェックして、ライセンスがあることをチェックしてください。ファイルのロケーションは、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - \$SDB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

DBA7001E ライセンスを *nodelock* ファイルに追加できませんでした。 RC = *return-code*

説明: ライセンス・ファイルの転送中またはライセンスのインストール中に、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: *nodelock* ファイルの許可をチェックしてください。ファイルのロケーションは、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - \$SDB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

またコマンド行ユーティリティの *db2licm* を使用してライセンスを追加することもできます。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7002E ライセンス証明書が無効です。有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 RC = *return-code*

説明: 指定されたファイルに含まれるライセンス証明書に有効な *db2* ライセンスがないか、または認識されていないフォーマットになっています。

ユーザーの処置: IBM 担当員または正規販売代理店から有効な *DB2* ライセンス証明書を入手してください。

DBA7003W 現在のユーザーのリストを検索できません。 RC = *return-code*

説明: ユーザーをトラックするデーモンまたはサービスが正しく機能していないか、またはまだ開始されていません。並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーを活動化してください。

ユーザーの処置: 並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーをオンにして、すべてのインスタンスを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7004E 登録済みユーザーを登録済みユーザー・リストから除去できませんでした。 RC = *return-code*

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザーが存在し、これがこの製品に対して有効なアクションであることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7005E 登録済みユーザーの追加ができませんでした。 RC=*return-code*。

説明: サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

ユーザーの処置: ユーザー名が有効で、登録済みユーザー・ポリシーがこの製品にとって有効であることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7006E ライセンス・ポリシーを更新できませんでした。 RC = *return-code*

説明: この製品のライセンス・ポリシーを更新しようとしたが、できませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスとライセンス・サーバー (コマンド *db2licd -xxx* を使用) を再始動してください。Windows オペレーティング・システムの場合も、インスタンスとライセンス・サーバー (*Services Control Manager* を使用) を再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7007E ライセンス使用法に関する統計を検索できませんでした。 **RC** = *return-code*

説明: 統計が破壊されているか、または通信エラーが発生したか、または使用できるデータがありません。データはポリシーが更新されてインスタンスが再始動された後に、接続と切断によって生成されます。

ユーザーの処置: 統計が破壊されている場合は、統計データベースを除去することができます。これにより、以前に収集されたすべての統計が除去されます。ロケーションはプラットフォームにより特定されており、また製品がどこにインストールされているかにも影響されます。

- UNIX - DB2 インストール・ディレクトリ
-/misc/db2licst
- Windows オペレーティング・システム - DB2 インストール・ディレクトリ-¥license¥db2licst.dat

DBA7008I インスタンスが開始されるまで、ライセンス・ポリシーは完全には有効にはなりません。

説明: インスタンスが再始動されると、ライセンス構成を再読み取りします。

ユーザーの処置: サーバーのインスタンスを再始動します。

DBA7009E この製品 *product* は指定されたライセンス・ポリシーをサポートしません。 **RC** = *return-code*

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品で使用することはできません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

DBA7010E ライセンス・センターは指定されたサーバーから製品のリストを検索できませんでした。 **RC** = *return-code*

説明: このサーバーの製品のリストを取得できませんでした。

ユーザーの処置: 管理インスタンスとコントロール・センターを再始動して、再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7011E 指定されたアクションを実行するための適切な権限がありません。

説明: ユーザーはこの操作をするための許可を持っていません。

ユーザーの処置: このコマンドを実行するのに適切な許可を持つユーザー ID を使ってログインしてください。

DBA7012E 指定された期間は、統計が使用できません。

説明: 指定された期間は、統計が使用できません。

ユーザーの処置: 統計のある有効な日付範囲を入力してください。

DBA7013E ライセンス証明書 *filename* が見つかりませんでした。有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 **RC** = *return-code*

説明: 指定されたファイルがないか読み取れません。

ユーザーの処置: IBM 担当員または正規販売代理店から有効な DB2 ライセンス証明書を入手してください。

DBA7014E コントロール・センターおよび管理インスタンスを再始動して、コマンドを再試行してください。

説明: コントロール・センターおよび管理インスタンスを再始動して、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置: 問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

DBA7015E DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。DB2 OLAP 処理は、現在アクティブになっています。

説明: DB2 は、DB2 OLAP Server の実行中は DB2 OLAP Server のライセンスを更新できません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、OLAP 処理をすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

DBA7016E 選択したシステムに指定されたインスタンスがありません。

説明: 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択した DB2 システムに常駐する、少なくとも 1 つの有効な DB2 インスタンスを正しくカタログしたことを確認してください。

ユーザーの処置: 選択したシステムで有効な DB2 イン

スタンスをカタログし、コントロール・センターを再始動して、コマンドを再試行してください。

DBA7017E 選択したシステムには、有効な DB2 インスタンスがありません。

説明: 選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択したシステムに、少なくとも 1 つの実行中の DB2 インスタンスがあることを確認してください。

ユーザーの処置: 選択したシステムに有効な DB2 インスタンスを作成し、コマンドを再試行してください。

DBA7018E サーバーのプロセッサ数は、この製品のプロセッサ・ライセンス数を超過しています。

説明: ご使用条件で許可されているプロセッサ数を超過しています。

ユーザーの処置: IBM 担当員または認定販売業者からプロセッサ・ライセンスをさらに購入し、db2licm コマンドを使用してライセンスを更新してください。

DBA7019E 選択したシステムには、サポートされる DB2 インスタンスがありません。

説明: 選択したシステムで、サポートされる DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択したシステムに、このバージョンの DB2 ライセンス・センターでサポートされる DB2 のインスタンスが最低 1 つあることを確認してください。

ユーザーの処置: 選択したシステムにサポートされる DB2 インスタンスを作成し、コマンドを再試行してください。

DBA7100W ファイル *file-name* がオープンできませんでした。そのファイルに対応するインフォメーション・センター内のページ *page-name* は表示されません。

説明: インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイル *file-name* が正しいディレクトリからなくなっている可能性があります。

ユーザーの処置: NDX ファイルがファイル・システムにインストール済みであるか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx

- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

DBA7101E インフォメーション・センターのどの NDX ファイルもオープンできないので、インフォメーション・センターを表示できません。

説明: DB2 情報のいずれかのリンクを表示するには、インフォメーション・センターは少なくとも 1 つの NDX ファイルを読み取る必要があります。

インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイルがファイル・システムにありません。

ユーザーの処置: NDX ファイルが、ファイル・システムにあるかどうか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

DBA7102W ファイル *file-name* が正しくフォーマットされていません。次の行は無視されます: *line-numbers*. これらの行を正しくフォーマットしてください。

説明: NDX ファイル内の各行はコンマで区切られたリストの形式になっていなければなりません。以下はその例です。

```
"IBM",1,"IBM Home Page",
http://www.ibm.com
```

リストのフォーマットは以下のとおりです。

- 1 ツリー形式で表示される項目の名前またはインフォメーション・センターの項目のリストの名前
- 2 この項目のカテゴリーを表す数
- 3 この項目が選択されたときに状況表示行に表示される記述
- 4 項目のロケーションを示す完全 Web アドレス

ユーザーの処置: このファイルを編集した場合、各行が

DBA7200E

以下のように正しくフォーマットされていることを確認してください。

- 名前および記述の最初と最後は二重引用符でなければなりません。
- 名前と記述には二重引用符を含めないでください。
- 区切り文字にはコンマを使用してください。
- ファイル内の最初項目はファイル内の項目数に対応する数です。項目を追加または除去する場合、この数を手操作で更新してください。

DBA7200E 最大 10 の列を geocoder への入力として選択できます。

説明: 10 列を超える列が geocoder への入力として選択されました。

ユーザーの処置: 選択列ボックスが 10 個以下の名前をリストするまでは、列名を選択列から使用可能列に移動します。

DBA7201E データベースを使用して Spatial Extender を実行することはできません。

説明: Spatial Extender のデータベースを使用可能にしないと、Spatial Extender の操作を実行できません。

ユーザーの処置: データベースを右クリックして、メニューから **Spatial Extender -> 使用可能** を選択します。

DBA7300W カタログされた有効なノードがないため、データベース *database-name* を表示することができません。

説明: データベース・ディレクトリーの指定されたデータベースに提供されたノード名に対応するノード・ディレクトリーの項目がありません。

ユーザーの処置: データベースがカタログされたノードに対応するノード・カタログ項目があることを確認してください。

DBA7301W ヘルス・センターで表示するインスタンスがありません。

説明: ノード・カタログに項目がなく、DB2INSTANCE が設定されていません。

ユーザーの処置: ノードをカタログするか、またはクライアントでデフォルト DB2 インスタンスを指定してください。

DBA7302E インスタンス・カタログ・パーティションがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。

説明: インスタンス・パーティションおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

ユーザーの処置: データベース・パーティションを再始動して、アクションを再試行してください。

DBA7303E インスタンスがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。

説明: インスタンスおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

ユーザーの処置: インスタンスを再始動して、アクションを再試行してください。

DBA7304W 選択されたオブジェクト *object-name* は現行トグル・フィルターには存在しません。

説明: 選択されたオブジェクトは、データの最新のリフレッシュで状態が変更しました。その結果、オブジェクトは、現行トグル・フィルター選択のナビゲーション・ビューで表示できなくなりました。

ユーザーの処置: 現行トグル・フィルター選択から別のインスタンスまたはデータベースを選択するか、または別のトグル・ボタンを選択して他の状態を表示してください。

DBA7305E 選択されたアラートは存在しません。

説明: 選択されたアラートはヘルス・モニターで存在しません。

ユーザーの処置: NOTIFYLEVEL 設定がアラート・タイプを組み込むような設定になっている場合は、管理通知ログを検討して、アラートの詳細を調べてください。

DBA7306E アラートは存在しません。「詳細」ダイアログをクローズしますか?

説明: 現行の「詳細」ダイアログでは、存在しないアラートの情報が表示されています。

ユーザーの処置: ダイアログをクローズするには「はい」を、「詳細」ダイアログをオープンしたままにするには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7307W ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース・マネージャー構成パラメーターの値が変更されました。続行しますか？

説明: この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

DBA7308W ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース構成パラメーターの値が変更されました。現行値を上書きしますか？

説明: この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

DBA7309W 一方または両方のしきい値は、ダイアログが最後にリフレッシュされた時点以降に変更されています。現行値を上書きしますか？

説明: このダイアログが最後にリフレッシュされた後に、警告またはアラーム、あるいはその両方のしきい値が変更されました。

ユーザーの処置: 変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、しきい値の現在の設定が表示されます。

DBA7310I 設定されたしきい値の構成が更新されました。

説明: 設定されたしきい値の構成が更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7311I 構成パラメーターの更新が適用されました。

説明: 構成パラメーターの更新が適用されました。変更が有効になるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7312I 構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。

説明: 構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。これらのヘルス・インディケーターの設定は、ヘルス・モニターの初期設定として製品のインストール時に使用されたものです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7313I オブジェクト *object-name* の構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。

説明: 指定されたオブジェクトの構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。これらの設定は、指定されたオブジェクトのオブジェクト・タイプのグローバル・ヘルス・インディケーターのデフォルト設定に基づいています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7314W 更新された構成設定は、既存のオブジェクトに適用できます。すべての変更を既存のオブジェクトに反映させ、これらのオブジェクトの現行設定を上書きしますか？
「いいえ」を選択すると、デフォルト設定のみが更新されます。

説明: 新規グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定を、変更されたヘルス・インディケーターのオブジェクト・タイプに基づいて影響を受けるすべての既存のオブジェクトに反映させることができます。変更を既存のオブジェクトに反映させることなく、グローバル設定を更新することができます。

ユーザーの処置: グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの更新およびこれらの変更を既存のオブジェクトに適用するには「はい」をクリックし、グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定の更新のみを適用するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7315W すべてのデータベース・パーティションで成功するアクションのために、すべてのデータベース・パーティションでアクセス可能なスクリプト・ロケーションを提供する必要があります。スクリプトの作成を継続しますか？

説明: すべてのデータベース・パーティションで成功させるには、アラート・アクションのために定義中のスクリプトをすべてのデータベース・パーティションでアクセス可能にする必要があります。

ユーザーの処置: スクリプトの作成を継続するには「はい」をクリックし、「スクリプトの詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7316E 通知ログの最大レコード番号よりも大きい開始レコード値を選択しました。レコードを戻すことはできません。

説明: 開始レコードの引数として指定した数よりも少ないレコードが通知ログにあります。レコードを表示することはできません。

ユーザーの処置: フィルター条件の開始レコード番号を減らしてください。

DBA7317W 通知ログの最大レコード番号よりも大きい終了レコード値を選択しました。続行しますか？

説明: 終了レコード・カウントとして指定したカウントよりも少ないレコードが通知ログにあります。ログ・レコードはファイルの終わりまで検索できます。

ユーザーの処置: すべてのログ・レコードをファイルの終わりまで検索するには「はい」をクリックし、フィルター条件を変更するには「いいえ」をクリックしてください。

DBA7318I ヘルス・センターに現在 *number* 個のアラートがあります。詳細については、ツールバーまたは状況表示行のピーコンからヘルス・センターを立ち上げてください。

説明: 現在ヘルス・センターで表示されるアラートがあります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7319E 最後にリフレッシュされた後に、選択されたインスタンス *instance-name* がドロップされました。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7320E 最後にリフレッシュされた後に、選択されたデータベース *database-name* がドロップされました。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7321E このアラートが生成されたオブジェクト *object-name* がドロップされました。要求されたアクションは完了できません。

説明: 選択したオブジェクトはもう存在しないため、アクションを完了することはできません。

ユーザーの処置: オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

DBA7323I 連絡先リストから連絡先を除去しても、タスク・センターまたはヘルス・モニターで構成されている通知設定は変更されません。

説明: 除去された連絡先を使用した通知アクションは更新されません。これらの通知アクションは失敗します。

ユーザーの処置: 除去された連絡先に関連する通知アクションを除去してください。

DBA7324I 通知用に選択した連絡先 *contact-name* はもう存在しません。連絡先は選択リストから除去されています。

説明: ヘルス通知に選択されたリストから無効な連絡先が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7325W ダイアログに保管されていない変更があります。変更を廃棄して詳細をリフレッシュしますか？

説明: このダイアログでリフレッシュまたはリセット・オプションを選択しました。適用されていないすべての変更が廃棄されます。

ユーザーの処置: 変更を保存する場合は「いいえ」を選択してください。保存しない場合は、「はい」を選択して適用されていない変更を廃棄してください。

DBA7326E スケジューラー・システムは見つかりませんでした。タスク・アクションを指定できません。

説明: スケジューラー・システムは管理ノード・ディレクトリーにカタログされていません。よって、「タスクの選択」ダイアログにタスクは配置されません。

ユーザーの処置: スケジューラー・システム用の DB2 Administration Server が管理ノード・ディレクトリーでカタログされていることを確認してください。

DBA7327I 構成パラメーターの更新が適用されました。グローバル・オブジェクト・タイプのデフォルトへのこれらの変更は、特定のデータベース・オブジェクトの既存の設定には影響しません。

説明: 更新された構成設定はグローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーター設定にのみ適用されます。特定のオブジェクトでヘルス・インディケーターの設定をすでに指定している場合は、それらの設定がこれらの変更により影響を受けることはありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7328I 選択されたアラートについて、ヘルス・インディケーターで評価が使用不可になっています。ヘルス・インディケーターは、ヘルス・モニターのリフレッシュで評価されません。

説明: 選択されたアラートのヘルス・インディケーターについてアラート構成が更新されており、しきい値または状況の評価が使用不可になっています。ヘルス・モニターの次のリフレッシュまで、この変更は反映されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA7329W タスク *task-name* が、タスク・メタデータで見つかりません。タスク名は **task-id-number.task-suffix-number** のように表示されます。

説明: アクションの選択ダイアログは、タスク・メタデータからタスク・アクションに対するタスク名を検索します。タスク・メタデータのタスク ID 番号と接尾部番号に一致するタスクがないため、タスク名をダイアログに表示できません。

ユーザーの処置: メタデータにタスクが存在しているかどうか確認してください。タスクが削除されている場合には、正しいタスク ID 番号と接尾部番号で、ヘル

ス・インディケーターのアクションを更新してください。

DBA7330E リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。

説明: リモート・インスタンス名はオプション・パラメーターで、指定されていませんでした。このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

ユーザーの処置: インスタンスをドロップし、REMOTE_INSTANCE パラメーターを指定して再カタログしてください。

DBA7331W インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストに、1 つ以上の孤立した連絡先があります。

説明: 孤立した連絡先とは、ヘルス通知連絡先リストにはあるものの、DB2 Administration Server の CONTACT_HOST 構成パラメーターで指定されたシステムに保管された連絡先リストには定義されていない連絡先のことです。

現在のところ、インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストには、最低 1 つの孤立した連絡先があります。

ユーザーの処置: これらの孤立した連絡先がこの先不要であるなら、削除します。それ以外の場合は、これらの連絡先がヘルス・アラート通知を受け取れるように再定義します。これらのアクションは、「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング」ウィザードを使って実行できます。

DBA7332W モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて表示できません。

説明: モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて、「アクティビティー・モニターのセットアップ」ウィザードに表示できません。結果として、「アクティビティー・モニターのセットアップ」ウィザードではフィルターの表示または変更ができません。

ユーザーの処置: フィルターを表示するには、ビュー SYSTOOLS.AM_TASKS を照会してください。フィルターを変更するには、ストアード・プロシージャ SYSPROC.AM_SAVE_TASK を呼び出してください。

第 79 章 DBA7500 - DBA7999

DBA7500N 指定されたしきい値がしきい値の範囲内にありません。

説明: 指定されたしきい値は無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効範囲内の値を指定してください。

DBA7501N 指定された構成パラメーター値が有効範囲内にありません。

説明: 指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効範囲内の値を指定してください。

DBA7502N 指定された構成パラメーター値が無効です。

説明: 指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効な構成パラメーター値を指定してください。

DBA7503N 指定されたしきい値が無効です。

説明: 指定されたしきい値は無効です。直前の値にリセットされました。

ユーザーの処置: 有効な数値を指定してください。

DBA7504N メモリー・ビジュアライザーを呼び出すには、インスタンス・アタッチメントが必要です。

説明: メモリー使用率および割り振りを表示するには、メモリー・ビジュアライザーでインスタンス・アタッチメントが必要です。

ユーザーの処置: バージョン 8.1 またはそれ以降のインスタンスを選択または指定してください。

DBA7510W このアクションは現在、このバージョンの DB2 サーバーでは使用できません。このアクションでは、DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。

説明: コントロール・センター・クライアントおよび DB2 サーバーのレベルが異なっています。要求されたアクションは現行レベルの DB2 サーバーでは使用でき

ません。DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーを要求されているレベルにアップグレードしてください。

DBA7511W このアクションは現在、このバージョンのデータベースでは使用できません。このアクションでは、データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。

説明: 要求されたアクションは現行レベルのデータベースでは使用できません。データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。

ユーザーの処置: データベースを要求されているレベルにアップグレードしてください。

DBA7512W 必要なライセンスが見つからないため、このアクションは現在、使用できません。

説明: DB2 Administration Server が開始されていないか、またはライセンスがインストールされていないため、要求されたアクションは使用できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server が開始済みで、必要なライセンスがインストールされていることを確認してください。

DBA7513W アクションは現在使用できません。

説明: アクションを使用できない原因として、以下の理由が考えられます。

1. 正しいライセンスがインストールされていない。
2. 正しい製品がインストールされていない。
3. クライアントと DB2 サーバーのレベルが異なっている。
4. DB2 Administration Server が開始されていない。

ユーザーの処置:

1. 適切なライセンスがインストールされていることを確認してください。
2. 製品がインストールされていることを確認してください。
3. クライアントと DB2 サーバーが同じレベルであることを確認してください。
4. DB2 Administration Server が開始されていることを確認してください。

DBA7514W サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* で見つかりませんでした。

説明: サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* に存在しないか、またはデータベース・ディレクトリーにカタログされていません。

ユーザーの処置: インスタンス *instance* でサテライト・コントロール・データベースを処理するには、サテライト・コントロール・データベースが作成されており、データベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。あるいは、(もし存在すれば) 別のインスタンスでサテライト・コントロール・データベースを処理することも可能です。

DBA7515W データベースが下位レベルのサーバーであるため、前のバージョンで使用できない新規オプションは除去されたかまたは使用不可となりました。

説明: 下位レベルのサーバーに接続しているため、ご使用のサーバー・バージョンで使用できない新規オプションは使用不可となったか、または選択可能ではなくなりました。

ユーザーの処置: ダイアログを完了してコマンドを実行してください。

DBA7516N メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルを検出できませんでした。

説明: 指定されたファイルが存在しないか、または無効なメモリー・ビジュアライザーのデータ・ファイルです。

ユーザーの処置: 指定されたファイル名が正しいことを確認してください。

DBA7517N メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルに書き込むことができませんでした。

説明: メモリー・ビジュアライザーはデータ・ファイルを指定されたパスおよびファイル名に保管できませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたパスが存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

DBA7604N 現行のデータベース・パーティション・グループのストレージ管理スナップショットが見つかりません。

説明: ストレージ管理スナップショットを取るには、コントロール・センターから、データベース・パーティション・グループ・オブジェクトが表示されるまでオブジェクト・ツリーを展開します。データベース・パーティション・グループ・オブジェクトを右クリックし、ポップアップ・メニューで「ストレージの管理」を選択してください。

ユーザーの処置: 「再配分ストラテジー」ページで別のオプションを選択して再配分ウィザードを続行するか、またはウィザードをクローズして、再配分操作を続ける前に、まずストレージ・スナップショットを取ってください。

DBA7608N *database-name.database-partition-group-name* の段階的な再配分設定のレジストリーを作成中にエラーが発生しました。

説明: レジストリー・レコードなしでは、段階的な再配分タスクは失敗します。

ユーザーの処置: ファイル許可を検査し、ウィザードを使用してレジストリー・レコードの再配分設定を再作成してください。

DBA7609W データベース・パーティション・グループはパーティション化されていません。

説明: 現行データベース・パーティション・グループにはデータベース・パーティションが 1 つしかありません。

ユーザーの処置: これに対して再配分ユーティリティーを実行する必要はありません。

DBA7610W 表が分散されません。

説明: データベース・パーティションが 1 つしかないデータベース・パーティション・グループに表が定義されます。

ユーザーの処置: データ分散ファイルは指定された表用に作成されません。

分散キーの変更は、表スペースが単一区画のデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

分散キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用して追加またはドロップすることができます。

設計アドバイザーを使用して単一パーティションから複数パーティション・データベースにマイグレーションす

ることもできます。インフォメーション・センターで、『設計アドバイザーを使用した、単一パーティション・データベースから複数パーティション・データベースへのマイグレーション』という表題のトピックを探してください。

DBA7611N 段階的な再配分プロパティ・タイプが無効です。

説明: 要求された段階的な再配分プロパティ項目を検索または更新できません。

ユーザーの処置: 有効なプロパティ・タイプを入力してください。

DBA7612N ファイルのアクセス時にエラーが発生しました。

説明: 考えられる理由には、以下のものがあります。

- ファイル・フォーマットのエラー
- 通信エラー
- ファイルを読み込むときのメモリー割り振りのエラー

ユーザーの処置: ファイル内のフォーマット・エラーを修正してください。db2diag ログ・ファイルで、通信またはメモリー割り振りエラーを解決するのに役立つ詳細情報をチェックしてください。アプリケーションを再実行してください。

DBA7613W データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。

説明: 再配分はログ主体のアクティビティである可能性があります。

ユーザーの処置: 再配分を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再配分にかかる時間を判別することをお勧めします。

再配分中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- ウィザードで推奨される段階的な再配分を使用する

DBA7614W 複数データベース・パーティション・グループを再配分するときに、データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。

説明: 再配分はログ主体のアクティビティである可能性があります。

ユーザーの処置: 再配分を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再配分にかかる時間を判別することをお勧めします。

再配分中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- 各データベース・パーティション・グループの再配分を異なる時間に起きようスケジュールし、使用可能なログ・スペースの競合を最小化する
- ウィザードで推奨される段階的な再配分を使用する

DBA7615N アプリケーションで要求されている 1 つ以上の表が、期待されている定義どおりに定義されていません。

説明: アプリケーションがアクセスしようとしている表が期待されている定義と一致していません。これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 表が存在しない
- 表の列定義が期待されている定義と異なる

ユーザーの処置: 表をドロップして、適切な定義で再作成する必要がある場合があります。ドロップ中にこのエラーが発生した場合は、DROP コマンドの FORCE オプションを指定して表を強制的にドロップすることができます。

DBA7616N 段階的な再配分操作のパーティションの重みが無効です。

説明: パーティションの重みの値は 0 から 32767 の間でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効範囲内の整数を入力して、再試行してください。

DBA7617N 1 つ以上の入力パラメーターが、ルーチンで期待されている有効な値を含んでいません。

説明: これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 数値パラメーターが期待されている範囲内がない
- パラメーターで参照されているオブジェクトが存在しない

ユーザーの処置: 入力パラメーターをルーチン指定と比べて検査して、再試行してください。

DBA7618W インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。

説明: データベース・パーティションをインスタンスに追加する場合、すべてのデータベースのすべての TEMPORARY 表スペースが、新しいデータベース・パーティション上の新しいコンテナを使って変更されている必要があります。データベースは、その TEMPORARY 表スペースを検出するために、「データベース・パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

ユーザーの処置: 「データベース・パーティションの追加」ウィザードの 1 ページ目で、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィザードをクローズする。
2. 「データベース・パーティションの追加」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

DBA7619W インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。

説明: インスタンスからデータベース・パーティションをドロップする場合は、すべてのデータベースのすべてのデータを、影響のあるデータベース・パーティションからドロップする必要があります。データベースは、そのデータベース・パーティション・グループを検出するために、「データベース・パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

ユーザーの処置: 「データベース・パーティション・グループからデータベース・パーティションをドロップ」ウィンドウで、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィンドウをクローズする。

2. 「データベース・パーティションのドロップ」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

DBA7620N 指定された表に対して分散キーが定義されていません。

説明: 分散キーは、データの特定行を保管するデータベース・パーティションを決定するために使用される列(または列のグループ)です。分散キーのない表は、単一パーティション・データベース・パーティション・グループでのみ使用できます。分散キーがないと、データ分散ファイルを生成できず、またデータ分散の分析を実行できません。

ユーザーの処置: 分散キーの変更は、表スペースが単一区画のデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

分散キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用して追加またはドロップすることができます。

設計アドバイザーを使用して単一パーティションから複数パーティション・データベースにマイグレーションすることもできます。インフォメーション・センターで、『設計アドバイザーを使用した、単一パーティション・データベースから複数パーティション・データベースへのマイグレーション』という表題のトピックを探してください。

DBA7621W 1 つのデータベース・パーティションから多くのデータベース・パーティションへ分散キーを再配分する前に、表にこれらのキーが必要です。1 つのパーティションから多くのデータベース・パーティションへ移動する前に、データベースの設計を検討してください。

説明: 分散キーは、データベース・パーティションのコレクションにまたがる表のデータをパーティションで区切るために必要です。

分散キーのない表は、単一パーティション・データベース・パーティション・グループでのみ使用できます。

ユーザーの処置: 「表の変更」ノートブックを使用して、パーティションに区切られるすべての表に分散キーを追加してください。

別のデータベース・パーティション・グループを作成す

ることを考慮に入れてください。通常は、小さい方の表が、小さい番号のデータベース・パーティションに置かれます (1 つしかなくてもこの状態になります)。大きい方の表は、すべてのデータベース・パーティションまたはデータベース・パーティションの大半にまたがって分散される必要があります。

分散キーの変更は、表スペースが単一区画のデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

分散キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用して追加またはドロップすることができます。

設計アドバイザーを使用して単一パーティションから複数パーティション・データベースにマイグレーションすることもできます。インフォメーション・センターで、『設計アドバイザーを使用した、単一パーティション・データベースから複数パーティション・データベースへのマイグレーション』という表題のトピックを探してください。

DBA7627N スナップショット・データをロードできません。

説明: 選択したスナップショットは、すでに存在しません。

ユーザーの処置: ストレージ管理ツールバーの現行スナップショット・リストから別のスナップショットを選択してください。

スナップショットが他に存在しない場合は、データベース、データベース・パーティション・グループ、または表スペースを右クリックし、「スナップショットのキャプチャー」メニュー・オプションを選択して、新規スナップショットをキャプチャーすることができます。

DBA7628N データベース・パーティションのドロップ・タスクは、最後のデータ再配分が完了した後に開始しなければなりません。最後の再配分タスクは start-date start-time に開始するようスケジュールされています。

説明: すべてのデータ再配分タスクは、データベース・パーティションのドロップ・タスクを実行する前に完了していなければなりません。再配分により、ドロップされるデータベース・パーティションからデータが移動します。

ユーザーの処置: データベース・パーティションのドロップ・タスクの新規開始時刻を選択するか、または単にこれをタスク・センターに保管し、すべての再配分タスクが完了した後に手動で実行してください。

DBA7630W 次のホストを見つけることができませんでした: host-names

説明: これらのホスト名がネットワークで見つからないと、データベース・パーティションの追加は失敗します。このデータベース・パーティションの追加タスクの実行がスケジュールされているときに、指定されたホスト名が既存のシステムを参照している必要があります。

ユーザーの処置: リストされているすべてのホスト名が正しいことをチェックしてください。タスクを実行するようスケジュールされているときに、指定されたホスト名が存在することを確認してください。

DBA7631W このタスクが実行されるときに、インスタンス instance-name は停止され、再始動されます。

説明: 実行されるスクリプトには、以下のコマンドが含まれています。

```
db2stop force
db2start
```

これにより、データベース・インスタンスは停止され、すべての接続アプリケーションへのアクセスが拒否されます。インスタンスの再始動時に、このインスタンスのすべてのデータベースが使用可能ではなくなります。

ユーザーの処置: スケジュールされた時刻にインスタンスを再始動したり、異なる時刻にタスクを実行するようスケジュールしたり、あるいはタスクをタスク・センターに保管して後で実行したりする場合には、このタスクを実行します。

DBA7632N データベース・パーティション database-partitions を次のデータベース・パーティション・グループ partition-groups から除去することができません。

説明: すべてのデータベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションがなければなりません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・グループを変更するときに、データベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションを保持する必要があります。データベース・パーティション・グループにデータベース・パーティションを持たせたくない場合は、データベース・パーティション・グループをドロップする必要があります。既存のデータは失われてしまいます。

DBA7633N データベース・パーティション
partition-names は 1 つまたは複数のデータベースのカタログ・パーティションであるため、ドロップできません。

説明: まず関連のデータベースをドロップしないと、カタログ・パーティションをドロップすることはできません。Windows システムでは、データベース・パーティション 0 をドロップできません。

ユーザーの処置: インスタンスからドロップする 1 つまたは複数の他のデータベース・パーティションを選択してください。またはデータベース・パーティションをドロップする前に、ドロップしようとしているカタログ・パーティションに対するデータベースをドロップしてください。

DBA7634N コンテナ名 *container-name* が無効です。

説明: コンテナ・タイプがディレクトリーかファイルである場合、コンテナ名は有効なパスである必要があります。コンテナ・タイプがロー・デバイスである場合、コンテナ名は有効なロー・デバイスである必要があります。

ユーザーの処置: コンテナ名を有効なパスまたはロー・デバイスに再定義して変更するか、または新規のコンテナを追加してから無効なコンテナを除去してください。

DBA7666W 直前に選択されたデータベース・パーティションに対して構成変更が行われました。
この変更を保管しますか?

説明: 別のデータベース・パーティションが選択されましたが、直前に選択されたデータベース・パーティションの変更が保管されていません。

ユーザーの処置: 「はい」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を保管します。

「いいえ」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄します。

「キャンセル」をクリックすると、直前に選択したデータベース・パーティションの構成パラメーター値に戻ります。

DBA7900N SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャの入力パラメーター *parameter* が無効です。

説明: 無効なパラメーター値が指定されました。

ユーザーの処置: 以下の有効なパラメーター値を指定して、ストアード・プロシージャ呼び出しを再発行してください。

- パラメーター 1 (IN)、*execModeName*。以下の 6 つの値のうちの 1 つを選択します。
「GENERATE」、「VALIDATE」、
「APPLY_CONTINUE_ON_ERROR」、
「APPLY_STOP_ON_ERROR」、「UNDO」、および「FINISH」。
- パラメーター 2 (IN)、*sqlStmt*。有効な CREATE TABLE DDL が予期されます。
- パラメーター 3 (IN/OUT)、*alterId*。先に変更プランと ID が生成されていない場合は -1 を使用し、既存のプランに従う場合は先に生成された整数 ID を使用します。
- パラメーター 4 (OUT)、*msg*。呼び出しステートメントの中で ? を使用します。

DBA7901W 列 *column-name* をソース・タイプ *source-type* からターゲット・タイプ *target-type* にトランスフォームする要求がありました。しかし、使用可能なデフォルトの *cast* 関数がありません。

説明: ストアード・プロシージャは、組み込みスカラ関数を使って、表の中の既存のデータを、ソース・タイプからターゲット・タイプにトランスフォームしようとします。要求されたデータ・タイプのトランスフォーメーションを実行できる、組み込み関数がありません。データをトランスフォームするための UDF を作成するようにします。さもないと、既存のデータを新しい表にトランスフォームすることはできません。

ユーザーの処置: データをターゲット・タイプにトランスフォームできる列関数がある場合は、次のステートメントで SYSTOOL.ALTOBJ_INFO 表を更新します。

```
UPDATE SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO V
SET SQL_STMT='編集した SELECT ステートメント'
WHERE ALTER_ID='<alterId>'
AND SQL_OPERATION='SELECT'
AND EXEC_MODE LIKE '_1____'
```

あるいは、組み込み関数をデータ・トランスフォーメーションに使用できるように、3 番目のパラメーターで指定するターゲット列タイプに変更します。それから、新しい入力を使ってストアード・プロシージャを再度呼び出します。

DBA7902N 変更される表には、**SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャのサポートしていない列データ・タイプが最低 1 つ含まれています。

説明: DATALINK タイプ、構造化タイプ UDT、および参照タイプ UDT はサポートされていません。
SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャは、未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更するために使用することができません。

ユーザーの処置: 未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更しようとししないでください。

DBA7903N 表タイプが **SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャでサポートされていません。

説明: 以下のタイプの表は **SYSPROC.ALTOBJ** を使って変更することができません。

- マテリアライズ照会表。
- タイプ表 (何らかの既存の参照列の有効範囲となっている表)。
- ニックネームで参照されるリモート表。
- 行レベルまたは列レベルのアクセス制御がアクティブになっている表。
- 行レベルの LBAC によって保護されている表。

ユーザーの処置: その表を **SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャで変更しようとししないでください。

DBA7904N ユーザーには *authority-name* 権限がありませんが、**SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャを実行するにはこの権限が必要です。

説明: **SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャを実行するには、DBADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: 必要な権限を取得してから、ストアード・プロシージャを実行してください。

DBA7905N 列のドロップのアクションを、列の追加または名前変更と同時に実行することはできません。

説明: 既存の列をドロップするときには、既存の列とその新しい定義を突き合わせるために列名が使用されません。列を追加または名前変更するときには、既存の列と新しい列を突き合わせるために列索引が使用されます。

ユーザーの処置: 列のドロップ操作は、列の追加または名前変更操作と別個に試行しなければなりません、列

の追加と名前変更を同時に実行することは可能です。変更を使用して、既存の列のシーケンスを変更することはできません。

複数のタイプの変更操作を実行することが必要な場合は、**SYSPROC.ALTOBJ** を複数回呼び出す必要があります。互換性のある変更操作グループごとに、異なる DDL を使用して 1 回ずつ呼び出します。

DBA7906N 変更プロセスのために生成された SQL ステートメントの数が、予想される限界を超過しています。

説明: これが生じる可能性があるのは、表に関係するオブジェクト (トリガー、別名、ビュー、SQL ストアード・プロシージャ、およびマテリアライズ照会表など) を多数変更する場合です。

ユーザーの処置: 指定の表を変更するために **SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャを使用することはできません。

DBA7907W 変更プロセスはエラーを出して完了しました。

説明: この警告が出される可能性があるのは、変更された列に依存する表の関連オブジェクトがある場合、既存のデータをターゲット・データ・タイプにトランスフォームできない場合、あるいは既存のデータが新しい制約に適合しない場合です。

ユーザーの処置: 関連オブジェクトを再作成できるよう、次のパラメーター入力を指定して **SYSPROC.ALTOBJ** ストアード・プロシージャを実行します。

```
CALL SYSPROC.ALTOBJ('UNDO', CAST
(NULL AS VARCHAR(2)), alterID, ?)
```

あるいは、SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO_V でエラーを調べ、実行時エラーの原因となった SQL ステートメントを更新し、APPLY モードでストアード・プロシージャを再度実行します。

DBA7908E *subsystem-name* のストアード・プロシージャのセットがインストールされていないため、一部の関数が使用不可です。ストアード・プロシージャ *stored-procedures* が欠落している可能性があります。

説明: コントロール・センターは、以下のいずれかを実行できませんでした。

- **SYSPROC.DSNUTILS** を呼び出して、インストール済みのユーティリティを判別する。
- **SYSPROC.DSNWZP** を呼び出して、サブシステムのパラメーターを検索する。

- OS/390 Enablement ストアード・プロシージャのうち最低 1 つを見つける。

ユーザーの処置: OS/390 Enablement ストアード・プロシージャ、および DB2 ストアード・プロシージャ DSNWZP と DSNUTILS をインストールし、活動化のステップが実行されたことを確認してください。詳しくは「DB2 management Clients Program Directory」を参照してください。

第 80 章 DBA8000 - DBA8499

DBA8000E 許容される接尾部 ID の最大数に達したため、新しいポリシー ID を生成することができません。

説明: 各ポリシーには内部生成された ID があります。ID は接頭部と接尾部からなります。接頭部はサブシステムの ID で、接尾部は 000 から 999 までの数字です。許容される接尾部 ID の最大数に達したため、「オブジェクト保守」ウィザードは新しいポリシー ID の生成に失敗しました。

ユーザーの処置: 「ポリシーのリスト」ダイアログを開いて、不要になったポリシーを除去してから、新しいポリシーを再度作成してみてください。

DBA8001E ウィザードの初期化中にエラーが検出されました。

説明: データ・セットを読み取るようにとの DB2 Administration Server 要求の実行中にエラーが検出されたため、ウィザードの一部のページは初期化されませんでした。

ユーザーの処置: 追加情報については DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

DBA8002E この作業セットの選択基準を変更することを選択しました。この変更によって、この作業セットに関連した、現行の選択基準を使用して識別されるアラート・オブジェクトはすべてヘルス・モニターの保守表から削除されます。

説明: 選択基準を変更すると、ヘルス・モニターによって評価されるオブジェクトのセットが変更されます。これによって、この作業セットの最後のヘルス・モニターの評価によって識別された保守表のアラート・オブジェクトは無効にされ、それらはヘルス・モニターの保守表から削除されます。

ユーザーの処置: この作業セットの選択基準を変更し、この作業セットに現在関連付けられているすべてのアラート・オブジェクトをヘルス・モニターの保守表から削除する場合は「はい」をクリックしてください。

この作業セットの現在の選択基準を維持する場合は「いいえ」をクリックしてください。

DBA8010N XML 文書のツリー・ビューを作成できません。

説明: 文書が破壊されている可能性があります。

ユーザーの処置: 文書の形式が正しいか、また文字エンコードの設定が正しいか確認してください。

DBA8011N 内部エラーのため XML 文書のソース・ビューを作成できません。

ユーザーの処置: IBM に連絡してください。

DBA8012I XML 文書が空です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA8013I インスタンス・アタッチは正常終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBA8015N 入出力エラーが発生しました。

説明: ファイルをオープンまたはクローズしようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル名が有効で、ユーザーにファイルへのアクセス権があるかどうか確認してください。ディスクまたはオペレーティング・システムにエラーがないかどうか確認してください。

DBA8016N 入出力エラーが発生しました。

説明: 結果セットを読み取ろうとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: データ・ソースが使用可能かどうか確認してください。データ・ソースがネットワーク上にある場合、ネットワークが正しく機能しているかどうか確認してください。

第 12 部 DBI メッセージ

このセクションでは、DB2 製品のインストールおよび構成時に生成される可能性のあるエラー・メッセージについて説明します。メッセージは番号順にリストされています。

第 81 章 DBI1000 - DBI1499

DBI1001I db2icrt コマンドに無効な引数が入力されました。

説明: DB2 インスタンスの作成に使用されるユーザー ID およびグループ名が有効でなければなりません。

db2icrt コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2icrt [-h|-?]  
        [-d]  
        [-a AuthType]  
        [-p PortName]  
        [-m MemberHostName:NetName]  
        [-mnet MemberNetName]  
        [-cf CFHostName:NetNames]  
        [-cfnet CFNetName]  
        [-instance_shared_dir Dir ]  
        [-instance_shared_mount Dir ]  
        [-instance_shared_dev Shared_Dev]  
        [-tbdev Shared_device_tiebreaker]  
        [-s InstType]  
        [-j "TEXT_SEARCH" |  
         -j "TEXT_SEARCH,servicename" |  
         -j "TEXT_SEARCH,servicename,portnum" |  
         -j "TEXT_SEARCH,portnum"]  
        -u FencedID  
        InstName
```

db2icrt コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスの作成に使用されるユーザー ID およびグループ名が有効であることを確認してください。

有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1002I 使用法:
db2uit [-d] [-Q] [-D]
 [-q <field>]
 [-i <id>]
 [-a <action>]
 [-r <runlevels>]
 [-p <process>]

説明: 無効な引数が db2uit コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-d デバッグ・モードをオンにする
-q

検索パラメーターを指定してフィールドを照会する。-q が指定されていない場合、(-i ID がすでに指定されている場合には) 更新、または挿入になります。有効フィールド: i、r、a、p

-i 項目の ID
-r 実行レベル
-a 実行するアクション
-p 起動するプロセス
-Q 静止: 出力なし
-D レコードの削除
FileName 変更するファイル

戻りコード:

-q 一致するフィールドがない場合は非ゼロ。それ以外はゼロ

update/insert

ファイルを更新できなかった場合は非ゼロ。それ以外はゼロ

ユーザーの処置: 有効な引数を使用してコマンドを再実行してください。

DBI1003I 使用法:
dlfmcr [-b BackupDir]
 -p PortName
 -g DLFMGid
 DLFMAdmin

説明: 無効な引数が dlfmcr コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

- p PortName は、このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号です。
- b BackupDir は、dlfm データベースのバックアップを作成するために使用されるディレクトリーです。

-g DLFMGid

DLFM 管理グループ (このグループは DLFMAdmin の 2 次グループでなければなりません)

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmrcrt -p PortNum -g DLFMGid DLFMAdmin
```

DBI1004W *libdb2-link* が検出されました。この DB2 コピーで、ライブラリーのロードの際に問題が発生した可能性があります。

説明: db2ln コマンドが、*/usr/lib* 内にシンボリック・リンクを作成する別の DB2 コピーから実行されました。こうしたシンボリック・リンクは、DB2 コピー間でバージョンが同じでフィックスパックが異なる場合でも、バージョンが異なる場合でも、同一のシステム上で複数の DB2 コピーを実行するのに妨げとなります。

ユーザーの処置: db2ln コマンドが実行されたインストール・パスから、db2rmln コマンドを実行してこうしたリンクを除去してください。

DBI1006I **db2idrop** コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2idrop コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2idrop [-h|-?]  
          [-d]  
          [-g]  
          [-f]  
          InstName
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-h|-?

使用情報を表示します。

-d

デバッグ・モードをオンにします。

-g

このパラメーターは、DB2 pureCluster インスタンスで db2idrop を使用する場合に必須です。すべてのホストで DB2 pureCluster インスタンスをドロップすることを指定します。この

パラメーターを使用する場合、DB2 pureCluster インスタンス内のすべてのホストで、すべての DB2 メンバーとすべてのクラスター・キャッシング・ファシリティ (CF) を停止することが必要です。

-f

このパラメーターは推奨されていません。このパラメーターでは、アプリケーションにフラグが立てられます。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。DB2 pureCluster 環境では、このパラメーターはサポートされていません。

InstName

インスタンスの名前を指定します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1007I **使用法:**
dlfmdrop DLFMAdmin

説明: 無効な引数が dlfmdrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-h|-? 使用情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmdrop DLFMAdmin
```

DBI1008E インストールのメディアと AIX バージョンがミスマッチです。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 5 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 4 用の DB2 CD からインストールしています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 5 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1009E インストールのメディアと AIX バージョンがミスマッチです。

説明: AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 4 を実行していることを検出しましたが、AIX バージョン 5 用の DB2 CD からインストールしています。

ユーザーの処置: AIX バージョン 4 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

DBI1010E ホスト *host-name* がオフラインではありません。コマンド: *command-name*。

説明: ホストが GPFS クラスター内で依然としてアクティブです。GPFS レベルを更新する前に、ホストをオフラインにする必要があります。

ユーザーの処置: 指定されたコマンドを実行することにより、指定されたホスト上で GPFS クラスターをシャットダウンしてください。例えば、`/usr/lpp/mmf/bin/mmsshutdown` です。

DBI1011I 無効な引数が `db2iupdt` コマンドに対して入力されました。

説明: `db2iupdt` コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2iupdt [-h | -?] [-d] [-k] [-D]
[-f level]
[-add -m MemberHostName:Netname] |
[-add -cf CFHostName:Netnames]
[-add -mnet MemberNetName ] |
[-add -cfnet CFNetNames]
[-drop -m MemberHostName] |
[-drop -cf CFHostName]
[-update -cf hostname -cfnet CFNetNames]
[-instance_shared_dir Shared_Dir |
-instance_shared_dev Shared_Dev]
[-instance_shared_mount Shared_Mounting_Dir]
[-tbdev Shared_device_tiebreaker]
[-a AuthType]
[-u FencedID]
[-fixtopology]
[-j "TEXT_SEARCH" |
-j "TEXT_SEARCH, servicename" |
-j "TEXT_SEARCH, servicename, portnumber" |
-j "TEXT_SEARCH, portnumber"]
{InstName}
```

`db2iupdt` コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1013I 使用法:
`dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin`

説明: 無効な引数が `dlfmupdt` コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

DLFMAdmin

DB2 Data Links Manager 管理者の名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmupdt [-hl-?] DLFMAdmin
```

DBI1014E 32 ビットへのインスタンス・アップグレードはサポートされていません。

説明: 64 ビットから 32 ビットへのアップグレードは、このバージョンではサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1015I `db2iupgrade` コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: `db2iupgrade` コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2iupgrade
[-d]
[-j "TEXT_SEARCH" |
-j "TEXT_SEARCH, servicename" |
-j "TEXT_SEARCH, servicename, portnumber" |
-j "TEXT_SEARCH, portnumber"]
[-a <AuthType>]
[-u <FencedID>]
[-k]
<InstName>
```

`db2iupgrade` コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iupgrade [-a <AuthType>] -u <FencedID>
<InstName>
```

DBI1016I プログラム *program-name* がアンインストールを実行中です。お待ちください。

DBI1017I `installFixPack` は、*location* の位置にインストールされた DB2 製品を更新中です。

DBI1019E DB2 Administration Server *DAS* が更新できません。

説明: DB2 Administration Server を更新しようとして、以下の理由により、*DAS* が障害を起しました。

- このバージョンの `dasupdt` コマンドが、DB2 Administration Server を更新するために使用できない。

DBI1020I • DBI1022I

- DB2 Administration Server でこのレベルのコードを使用するには、(更新ではなく) アップグレードが必要です。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server をこのコード・レベルまで引き上げるには、<現行の DB2 インストール・パス>/instance ディレクトリーから dasmgr コマンドを発行して、DB2 Administration Server をアップグレードします。

DBI1020I db2setup コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2setup コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2setup [-h|-?]  
          [-t <TrcFile>]  
          [-r <RspFile>]  
          [-c]  
          [-l <LogFile>]  
          [-i <Lang>]  
          [-f <nobackup>]
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-?

ヘルプ情報を表示します。

-t

デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

-r

名前を指定したファイルを使用して、応答ファイル・インストールを実行します。このパラメーターは、-c を指定する場合には必須です。

-c

-r パラメーターで指定される応答ファイルの内容を妥当性検査します。指定する場合、-r パラメーターも指定する必要があります。

-l

名前を指定したファイルにログを書き込みます。ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2setup.log です。非ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2setup_<userID>.log です。<userID> は、非ルート・インストールを所有するユーザー ID を表します。db2setup を使用して IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) をインストールする場合、SA MP のインストール・ログ・ファイルは DB2 ログ・ファイルと同じディレクトリーに入れられます。

-i

db2setup ユーティリティーを指定された言語で表示します。

-f

非 root アップグレードにのみ適用されます。コンポーネントの更新時に、db2setup によるインストール・ファイルのバックアップを強制的に禁止します。これらのファイルをバックアップしない場合、インストール・ディレクトリーのスペース所要量が削減されます。しかしファイルをバックアップしないなら、エラー発生時に、DB2 インストーラーによるロールバック操作は不可能となります。この場合、ファイルを手動でクリーンアップし、製品を再インストールする必要があります。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1021I 使用法:

**db2imigrev [-hl-?] [-m Version]
InstName**

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-m DB2 のバージョンを指定する

Version 逆方向へマイグレーションされるインスタンスのバージョン。

InstName

DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2imigrev [-hl-?] InstName

DBI1022I 使用法:

**db2imigrev [-hl-?]
[-f] InstName**

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-f 強制アプリケーション・フラグ。このフラグが

指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

InstName

DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2imigrev [-hl-?] [-f] InstName
```

DBI1023I 使用法:

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
```

```
[-c InstName
```

```
[-a AuthType]
```

```
[-u FencedID]]
```

```
OutputDir
```

説明: db2ginfo コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用法を表示する

-y スクリプト表示 (警告を表示するのみ)。

-c InstName

テストするインスタンスの指定。

-a AuthType

認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT) を指定。

-u fencedID

fenced ユーザー ID を指定する

OutputDir

出力ファイル dbginfo.txt が置かれるディレクトリー。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ginfo [-hl-?] [-y]
```

```
[-c InstName [-a AuthType]
```

```
[-u FencedID]] OutputDir
```

DBI1024I 使用法:

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off
```

```
InstName
```

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-onl-off インスタンスの自動開始を有効/無効にする

InstName

インスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iauto [-hl-?] -onl-off InstName
```

DBI1025I 使用法:

```
dasprt [-d] -u ASUser
```

説明: dasprt コマンドに対して無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-d

DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

-u ASUser

DAS の実行に使用するユーザー

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dasprt -u ASUser
```

DB2 インスタンスの作成に使用されるユーザー ID およびグループ名が有効であることを確認してください。

DBI1026I 使用法:

```
dlfmsmd [-hl-?] [-j] dlfsMntPt
```

説明: dlfmsmd コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

-j 名前付きファイル・システムを dlfs から jfs (AIX) または ufs (Solaris オペレーティング環境) に変更する

dlfsMntPt

Data Links Manager フィルターのファイル・システム用マウント・ポイント (スラッシュ:/ が含まれる)。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmsmd dlfsMntPt
```

DBI1027I 使用法:

```
command-name [-d]
```

説明: コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-d

DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

ユーザーの処置: コマンド構文を確認してから、コマンドを再実行してください。

DBI1028I 使用方法:
dasupdt [-d] [-D] [-hl-?]

説明: dasupdt コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-d

DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

-D

DAS を、あるパスの高位コード・レベルから別のパスにインストールされた低位コード・レベルに移動します。

-hl-?

使用方法を表示します。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

dasupdt

DBI1029I 使用方法:
db2nqadm [start|stop]

説明: 無効な引数が db2nqadm コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

start (すべての NetQ サービスおよびデーモンを開始)

stop (すべての NetQ サービスおよびデーモンを停止)

いずれかの引数を指定してください。

ユーザーの処置: 正しい引数で、コマンドを再入力してください。

DBI1030E カーネル・パラメーター *name* は *value* に設定してください。

説明: DB2 ではある特定のカーネル・パラメーターを更新する必要があります。

ユーザーの処置:

- 必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新してください。
- システムをリブートします。
- コマンドを再実行してください。

DBI1031E 選択した製品をインストールするには、まず DB2 Workgroup Server Edition または DB2 Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 Workgroup Server Edition または DB2 Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1032E 選択した製品は、バージョン 4.3 より前の AIX にはインストールできません。

説明: 選択した DB2 製品には、バージョン 4.3 以上の AIX が必要です。

DBI1033E 選択した製品には、DB2 Enterprise Server Edition を最初にインストールする必要があります。

ユーザーの処置:

- いずれかの DB2 Enterprise Server Edition をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1034W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ: <pkg-name> のいずれかをインストールしよう選択しましたが、インストールされている <pkg-name> ファイル・セットのレベルが <name> よりも低くなっているか、またはこれを検出できません。

ユーザーの処置: <pkg-name> ファイル・セットのバージョンが <name> またはそれ以上であることを確認してください。

<pkg-name> のレベルは DB2 のインストールに影響を与えません。

DBI1035E ファイル・システム *File-System* のマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをマウントしようとしたますが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムが定義されていることを確認してください。マウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1036E ファイル・システム *File-System* のアンマウントに失敗しました。

説明: 示されているファイル・システムをアンマウントしようとしたますが、失敗しました。

ユーザーの処置: アンマウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

DBI1037E ファイル・システム *File-System* は存在しません。

説明: 示されているファイル・システムは、このワークステーションに定義されていません。

ユーザーの処置: ワークステーションにファイル・システムを定義して、やり直してください。

DBI1038E ファイル・システム *File-System* を変更できません。

ユーザーの処置: ファイル・システム定義を含むシステム・ファイルへの書き込み許可があるかどうか確認して、やり直してください。

DBI1039W 前提条件パッケージが見つかりません。

説明: パッケージ“<name>”のいずれかをインストールするよう選択しましたが、“<name>”ファイル・セットのレベルが“<name>”よりも低くなっています。

ユーザーの処置: CD で提供されている“<name>”ファイル・セット・バージョン“<name>”をインストールしてください。

DBI1040I 次のメッセージの変換バージョンはこのシステムでは使用できません。

ユーザーの処置: 次のメッセージの変換バージョンはこのシステムでは使用できません。PRODDIR/Readme/LOCALE ディレクトリーの「インストール・ノート」ファイルを参照してください。PRODDIR は製品のディレクトリーで LOCALE はロケール名です。例えば、製品ディレクトリーは次のものがあります。

/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、
n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、
n はフィックスパックの番号)

DBI1041E ファイル・システム *inputMntPt* を *dlfs* に変換できません。

説明: ファイル・システム *"/", "/var", "/usr", and "/tmp"* は、*dlfs* ファイル・システムに変換できません。これは、*dlfs* ファイル・システムを作成すると発生する可能性のあるブート問題が発生しないようにするための措置です。

ユーザーの処置: 別のファイル・システムを指定してコマンドをもう一度実行してください。

DBI1042E 基本ファイル・システム *BaseFS* を *dlfs* に変更できません。

説明: Aix では、*vfs* が *fsm* または *jfs* の場合にのみ、ファイル・システムを *dlfs* に変更できます。他の *vfs* では *dlfs* はサポートされてません。

ユーザーの処置: *jfs* または *fsm* ファイル・システムでコマンドをもう一度実行してください。

DBI1043E 選択した製品はまず、**DB2 Administration Client** のインストールを要求していません。

ユーザーの処置:

- DB2 Administration Client をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

DBI1044E 前提条件である **DB2** 製品がインストール・ロケーション *install-path* にインストールされていないので、**DB2** 各国語パッケージのインストールを開始できません。

説明: DB2 各国語パッケージは、以下を含むインストール済みの DB2 製品に各国語サポートを追加するためにのみ使用できます。

DBI1045I *db2_install* コマンドに無効な引数が入力されました。

説明: *db2_install* コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2_install [-b <installpath>]
             [-p <db2producttobeinstalled>]
             [-c <imagelocation>]
             [-l <logfile>]
             [-f NOTSAMP]
             [-f PURECLUSTER]
             [-f nobackup]
             [-f ignoreType1]
             [-t <trcFile>]
             [-n]
             [-m]
             [-L <language>]
             [-h|-?]
```

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1046I 使用法:
doce_install [-b <installpath>] [-p
 <db2producttobeinstalled>]
 [-c <imagelocation>] [-l <logfile>] [-t
 <trcFile>]
 [-n] [-L <language>] [-h|-?]

DBI1047I

説明:

-b DB2 製品がインストールされるパスを指定します。**-n** を指定する場合には必須です。パスは絶対パス名で、長さは 128 文字に限定されます。

-p インストールする DB2 製品を指定します。**-n** を指定する場合には必須です。

-c 関連する DB2 各国語パック (NLPACK) のロケーションを指定します。このパラメーターは、**-n** を指定する場合には必須です。

以下のすべての条件に適合する場合、DB2 NLPACK ロケーションを明示的に指定する必要があります。

- **-n** オプションが指定されている
- 現在のインストール済み環境が各国語 (非英語) 言語サポートのインストールを必要とする
- DB2 NLPACK が DB2 DVD 上にもインストール中の DB2 製品と同じサブディレクトリー内にもない

-l ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/doce_install.log\$\$ で、\$\$ はプロセス ID です。

-t デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

-n 非対話式モードを指定します。指定する場合、**-b**、**-p**、および **-c** も指定する必要があります。

-L 各国語サポートを指定します。同時に複数の言語をインストールするため、このパラメーターを複数回指定できます。

たとえば、英語とドイツ語の両方をインストールするには、**-L EN -L DE** を指定します。

-hl-? ヘルプ情報を表示します。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

DBI1047I db2_deinstall コマンドに無効な引数が入力されました。

説明: db2_deinstall コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2_deinstall -F <featureName> | -a | -r <RspFile>
               [-l <logFile>]
               [-b <installPath>]
               [-t <trcFile>]
```

```
[-s GPFS]
[-s TSAMP]
[-f sqllib]
[-h|-?]
```

db2_install コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1048I 使用法:

```
doce_deinstall -a
                [-l <logFile>]
                [-b <installPath>]
                [-t <trcFile>]
                [-r <response_file>]
                [-hl-?]
```

説明:

-a

現行のロケーションにインストールされている DB2 製品すべてを除去します。

-b <installPath>

このオプションは、コマンドが DB2 メディアから実行される場合に有効になります。アンインストールする DB2 製品がインストールされている場所の絶対パスを指定します。このオプションを指定しないと、コマンドによりパスを入力するよう促されます。

-l <logFile>

ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/doce_deinstall.log\$\$ で、\$\$ はプロセス ID です。

-t <trcFile>

デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

-r <response_file>

応答ファイルを使用して、インフォメーション・センターを除去します。例えば、doce_deinstall -r db2un.rsp とします。**-a** パラメーターと結合させることはできません。

-hl-?

ヘルプ情報を表示します。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

DBI1049I **使用法:**
db2ls [-q] [-b <baseInstallPathOfDB2>]
[-c] [-f <feature rsp file ID>]
[-l <logfile>]
[-p] [-a]

説明:**-q**

これがローカル・コンポーネントの照会であることを指定します。-a を指定しない限り、デフォルトでは、表示可能なコンポーネント (フィーチャー) のみが表示されます。-p を指定する場合には必須です。

-b

-q を指定して、グローバル db2ls コマンドを実行中の場合には必須です。

-c

項目を列ベースではなく、コロンで区切られたリストとして出力を印刷します。シェル・スクリプトを使用して、この情報を正確に処理できるようにします。

例: #FEATURE:NAME:VRMF:FIXPACK:
 SPECIALINSTALL:PREREQS

-f

特定のフィーチャーがインストールされているかどうかを確認するために照会します。フィーチャーがインストールされている場合、戻りコードはゼロになります。フィーチャーがインストールされていない場合、戻りコードはゼロ以外になります。

-l

ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2ls.log です。

-p

インストール済み DB2 製品をリストします。-f または -a と結合させることはできません。

-a

すべての非表示コンポーネントおよび表示可能なフィーチャーをリストします。デフォルトでは、表示可能なフィーチャーのみをリストします。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

DBI1050E サポートされていないオペレーティング・システム - OS-name、バージョンOS-ver。

説明: 現行のオペレーティング・システムがサポートされていないか、あるいはオペレーティング・システムのこのバージョンがサポートされていません。

DBI1051E このプログラムを root で実行することはできません。

説明: このプログラムは root 以外のユーザー ID のみ実行できます。

ユーザーの処置: root 以外のユーザー ID でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1052E このプログラムを実行するには root である必要があります。

説明: このプログラムは root ユーザー ID のみ実行できます。このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

ユーザーの処置: root でログインしてから、コマンドを再発行してください。

DBI1053E *fsys-type* のファイル・システム・タイプはサポートされていません。

説明: このタイプのファイル・システム上にインスタンスのホーム・ディレクトリーを作成することはサポートされていません。インスタンスのホーム・ディレクトリーは、ローカル・ファイル・システムあるいは NFS が取り付けられたファイル・システムに存在する必要があります。

ユーザーの処置: サポートされているファイル・システムにホーム・ディレクトリーを変更してインスタンスの再作成をしてください。

DBI1054I **installFixPack** コマンドに無効な引数が入力されました。

説明: installFixPack コマンドの構文は以下のとおりです。

```
installFixPack
  [-b <baseInstallPath>]
  [-c <imageLocation>]
  [-f level]
  [-f db2lib]
  [-f install|update|ha_standby_ignore]
  [-f NOTSAMP]
  [-f noWPAR]
  [-f nobackup]
  [-l <logFile>]
  [-t <traceFile>]
  [-n]
```

```
[-L]
[-H <hostListFile>]
[-p <FPPath>]
[-h|-?]
```

installFixPack コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1055E メッセージ・ファイル *file-name* が見つかりません。

説明: インスタンス・コマンドが必要とするメッセージ・ファイルが、システムから失われていますが、これが削除されているか、またはデータベース製品が正しくインストールされていない可能性があります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを備えた製品オプションが正しくインストールされているかを調べてください。検証エラーがある場合は、製品オプションを再インストールしてください。

DBI1056I 使用法:
db2chgpath [-d] [-f <relativePath/
FileName>]

説明:

-d デバッグ・モードをオンにする

-f 特定のファイル名を指定して、ランタイム・パスを更新します。指定のファイル名は、現在の DB2 インストール・ロケーションのベースに対して相対的なパス名を持っていない限りなりません。ルート権限が必要で、このコマンドは DB2DIR/install ディレクトリーから直接実行しなければなりません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

DBI1057E 必須ロケール *locale* が無効です。

説明: 必須ロケールのディレクトリー、/usr/lib/locale/LANG/LC_MESSAGES が存在しません。ここで LANG は現行ロケール名です。

ユーザーの処置: 指定されたロケールが正しくインストールされたかどうか確認してください。さらに、読み取りと実行の許可がそのディレクトリーに正しく設定されているかチェックしてください。

DBI1058E gunzip コマンドが見つかりません。

説明: gunzip ユーティリティーは、DB2 製品をインストールまたは更新するためにシステムで使用する必要があります。

ユーザーの処置: gunzip ユーティリティーが PATH 環境変数でインストールされていることを確認してください。コマンドを再入力してください。

DBI1059E DB2 Suite ファイル・セットを完全にアンインストールする予定の現行のインストール・ディレクトリーに関連した DB2 インスタンスが依然として存在しています。そのため、アンインストール処理を続行できません。

ユーザーの処置:

1. アンインストールが現行の DB2 インストールの DB2 レベルの上昇または下降のためである場合には、意図した DB2 レベルの DB2 イメージ内の installFixPack を使用して、現行の DB2 インストールを更新する必要があります。
2. DB2 をアンインストールしてから、同じ位置に再インストールすることが目的である場合、-f オプションを指定して installFixpack を使用してください。
3. 現在のロケーションの DB2 を単にアンインストールすることが目的の場合、不必要であるならば、インストール・ディレクトリーに関連した DB2 インスタンスをドロップしなければなりません。または、同じバージョンの DB2 の別の DB2 インストール・ロケーションに DB2 インスタンスを更新してから、db2_deinstall を再始動する必要があります。

DBI1060E 無効なパッケージ名 *pkg-name*。

説明: 間違った名前が入力されました。そのパッケージは存在しないか、または名前が間違えて入力されました。

ユーザーの処置: 指定されたパッケージ名が分散メディアに存在するか確認してください。存在する場合、名前につづりの誤りがないか調べてください。

DBI1061E ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。

説明: ソフトウェアの前提条件を検証中にエラーが発生しました。このコマンドを使用する前に、示されているファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 与えられたパッケージの名前がシステ

ムにインストールされているかどうか確認してください。

DBI1062E ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。

説明: このコマンドを使用する前に、示されているファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: ファイル・セットまたはパッケージをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1063E PTF またはパッチ *patch-name* がありません。

説明: このコマンドを使用する前に、示されている PTF またはパッチをインストールする必要があります。このコマンドを正常に実行完了するには、この PTF またはパッチが必要です。

ユーザーの処置: 必要な PTF またはパッチをインストールして、コマンドを再発行してください。

DBI1064E ユーザー *user* が DB2 インスタンスによって使用されているため、DB2 Administration Server の作成に使用できません。

説明: DB2 Administration Server の作成に使用しようとしているユーザーが DB2 インスタンスによって使用されています。このユーザーで DB2 Administration Server を作成しないでください。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を作成するには、DB2 インスタンスによって使用されていない別のユーザー名を使用してください。

DBI1065E プログラム *program-name* が異常終了しました。

説明: 実行中にエラーが発生し、このプログラムが異常終了しました。

ユーザーの処置: 問題を訂正してコマンドを再試行してください。

DBI1066E プログラム *program-name* は要求によって終了されました。

説明: このプログラムはユーザーによって終了されました。

ユーザーの処置: 同じコマンドを発行しプログラムを再始動してください。

DBI1067E ロケール *locale-name* の DB2 製品ライブラリーはインストールされていません。

説明: DB2DIR/doc/“<locale-name>”/html ディレクトリに、tar 圧縮された HTML ファイルがありません。

ここで、
DB2DIR =
/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、
n はフィックスパック番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、
n はフィックスパック番号)

ユーザーの処置: 必要なロケールの DB2 製品ライブラリーをインストールして、このコマンドを再発行してください。

DBI1068E ディレクトリー *dir-name* に HTML ファイルのすべてを圧縮解除および un-tar するのに十分なスペースがありません。

説明: ファイル・システムがフルのため、圧縮解除および un-tar を行った後で、示されているディレクトリーに HTML ファイルをすべて保存できません。

ユーザーの処置: ファイル・システムのサイズを増やすか、またはファイル・システムで十分なディスク・スペースを解放してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1069E 予期しないエラー。関数 = *fname*、戻りコード = *return-code*。

説明: このプログラムの実行中、想定外のエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 関数名
- 戻りコード
- 問題の説明

DBI1070I プログラム *program-name* は正常に完了しました。

DBI1072I db2licm が nodelock ファイルを更新できませんでした。詳細情報については、ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: db2licm が nodelock ファイルにライセンスを追加できなかったため、DB2 は製品ライセンスがインストールされるまで試供版のライセンスで実行されます。

DBI1073E

ユーザーの処置: コマンドを再試行しても失敗が継続する場合には、`nodelock` ファイルにライセンス・キーを手動で追加してください。

DBI1073E パラメーター `parameter_name` がありません。このパラメーターは、`installer_name` コマンドに必須です。

DBI1074E Administration server が存在しません。

説明: Administration server を更新またはアップグレードしようとした。Administration server が存在しません。

ユーザーの処置: `dasrcrt` コマンドを使用して Administration server を作成します。

DBI1075E Administration server をマイグレーションできません。

説明: Administration server をマイグレーションできません。Administration server は、サポートされる DB2 マイグレーション・レベルではないレベルで実行しています。

ユーザーの処置:

- Administration server が DB2 と同じバージョンで実行している場合、`dasupdt` を使用して Administration server を更新します。
- Administration server がサポートされないマイグレーション・レベルで実行している場合、`dasdrop` コマンドを使用して Administration server を除去し、現行の DB2 レベルで `dasrcrt` コマンドを使用して Administration server を再作成します。

DBI1076E サポートされている RDMA 対応ネットワーク・アダプターが見つからなかったため、DB2 pureCluster のインストールが失敗しました。

説明: DB2 pureCluster Feature では、待ち時間の少ないクラスター相互接続を提供するために、RDMA (Remote Direct Memory Access) 対応のネットワーク・アダプターを使用する必要があります。サポートされている RDMA アダプターが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster のインストールに関する資料で、インストール前提条件におけるネットワークの考慮事項に関する情報を参照してください。

DBI1077E ユーザー `user` が DB2 Administration Server によって使用されているため、DB2 インスタンスの作成に使用できません。

説明: DB2 インスタンスの作成に使用しようとしているユーザーが DB2 Administration Server によって使用されています。このユーザーで DB2 インスタンスを作成しないでください。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスを作成するには、DB2 Administration Server によって使用されていない別のユーザー名を使用してください。

DBI1078E IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の更新に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル `log-file-name` を参照してください。(TSAMP_RC=TSAMP_RC)。

説明: DB2 インストーラーは、installSAM ユーティリティを使用して、SA MP を更新します。installSAM ユーティリティからエラーが戻されました。installSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は installSAM ユーティリティからの戻りコードです。

DB2 インストーラーを使用して SA MP を更新するには、root 権限がなければならぬことに注意してください。

SA MP は更新されませんでした。

ユーザーの処置: 詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP を手動で更新するには、installSAM コマンドを使用してください。

installSAM コマンドについての詳細は、SA MP Base Component 資料を参照してください。

DBI1079I 出力はログ・ファイル `log-name` に保存されています。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1080E ディスクがいっぱいです。 *dir-name* には **KB KB** 最低限必要ですが、使用できるスペースは **KB KB** しかありません。

説明: ファイル・システムあるいはディレクトリーに十分なフリー・スペースがありません。

ユーザーの処置: ディスク・スペースを開放してコマンドを再実行してください。

DBI1081E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がありません。

説明: このコマンドの処理に必要なファイルまたはディレクトリーがありません。

ユーザーの処置: ファイルがいずれかのデータベース製品に属するものである場合は、その製品が正しくインストールされているかどうかを調べて、必要であればその製品を再インストールしてください。ファイルがインスタンスに属するものである場合は、そのインスタンスがすでに除去されているか、または壊れている可能性があります。

与えられたディレクトリーの名前がファイル・システムに存在しているかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの誤りがないか調べてください。

UNIX のどのファイルおよびディレクトリー名でも、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

DBI1082E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。前にコマンドが正常に完了した結果としてファイルまたはディレクトリーが存在する場合は、アクションは不要です。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

DBI1083E *file-name* を除去しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの削除中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適當である可能性があります。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーのファイル許可または所有権を調整して、コマンドを再発行してください。

DBI1084E *file-name* を作成しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの作成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイル・システムに十分なスペースがあること、また必要なディレクトリーに対して書き込み許可があることを確かめてください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1085E ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へ移動しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの再配置中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーが移動できなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1086E ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へコピーしようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの複製中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーがコピーできなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

DBI1087E リンク *filename* を作成しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたリンクを作成できません。親ディレクトリーの書き込み許可がオフになっているか、あるいはこのファイルまたはディレクトリーと同一の名前がすでに存在していることが考えられます。

ユーザーの処置: ファイルの親ディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1088E ディレクトリー *directory* で無効なアクセス許可が検出されました。

説明: このエラーが発生する場合、いくつかの理由が考えられます。以下の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられた名前がディレクトリー名でない、あるいは読み取りおよび実行許可がない。

DBI1089E

- 与えられたディレクトリーは作成できるがアクセスできない。
- このパスにある親ディレクトリーのいずれかの許可が、正しく設定されていません。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1089E *backup-dir* ディレクトリーに現行インスタンス関連情報を保管中のエラーです。

説明: このエラーが発生する場合、いくつかの理由が考えられます。以下の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたディレクトリーに十分な許可がないか、あるいは書き込み許可がありません。
- ファイル・システムに残っているスペースがありません。

ユーザーの処置: 適切な訂正アクションを行なって、コマンドを再発行してください。

DBI1090E *file-name* の *parameter* を更新しようとしたが、失敗しました、

説明: 提供されたファイルの更新でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: <file-name> 中にあるすべての <parameter> が <value> に設定されていることを確認してください。

DBI1091E *directory* に対する許可を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 指定されたファイルまたはディレクトリーの許可の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの許可および所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は `u=rwx,go=rx` です。

DBI1092E *directory* に対する所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権を

チェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1093E *directory* に対するグループ所有権を変更しようとしたが、失敗しました。

説明: 与えられたファイルまたはディレクトリーのグループ所有権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

ユーザーの処置: 与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

DBI1094E ディレクトリー・アクセス・エラーです。

説明: ツールが、ディレクトリー・サーバーでの入出力操作中にアクセス・エラーを見つけました。

ユーザーの処置: ディレクトリー・サーバーがオンラインで、LAN でアクセス可能であることを確認してください。

DBI1095W ファイルまたはディレクトリー *name* が見つかりません。

ユーザーの処置: ファイル/ディレクトリーを提供するファイル・セット/パッケージがインストールされていることを確認してください。

DBI1096E ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。

説明: コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

ユーザーの処置: 示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。このファイルまたはディレクトリーが必要でない場合、除去してコマンドを再実行してください。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

DBI1097E ファイルまたはディレクトリー *file-name* が存在しません。

説明: コマンドが必要なファイルまたはディレクトリーが存在しません。

ユーザーの処置: ファイルまたはディレクトリーが存在しない場合、ファイルまたはディレクトリーを提供するソフトウェアをインストールする必要がある場合があります。ファイルまたはディレクトリーが存在する場合、PATH 変数が正しく設定されているかどうか、チェックしてください。ファイルまたはディレクトリーが PATH に設定されたら、コマンドを再試行してください。

DBI1098I **使用方法:**
db2cptsa [-hl-?]
 [-c]
 [-f]
 [-r]

説明: このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-?

ヘルプ情報を表示します。

-c

DB2 高可用性 (HA) スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中に存在し、レベルが適切であることを確認します。

-f

/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中への DB2 HA スクリプトの再インストールを強制します。この引数を指定しない場合、既にインストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンが、インストールしようとしているスクリプトのバージョンと同じか、またはそれ以上である場合、インストール済みのスクリプトは上書きされません。

-r

ディレクトリー /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 を除去します。このディレクトリーには、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 HA スクリプトがあります。これらのスクリプトとこのディレクトリーは、SA MP がインストールされていない場合のみ除去されます。

このユーティリティーは、/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中で DB2 HA スクリプトをインストールするか更新します。IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) と DB2 HA フィーチャーを併用するには、これらの DB2 HA スクリプトが必要です。

デフォルトではこのユーティリティーは、DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にまだインストールされていない場合か、すでにインストール済みのスクリプトのバージョンがインストールしようとしているスクリプトのバージョンより古い場合に、このスクリプトをこの場所にインストールします。このユーティリティーは、SA MP が既にインストール済みの場合に限り、DB2 HA スクリプトのインストールか更新を行います。

このコマンドは root 権限で実行しなければなりません。

このコマンドは、DB2 インストール・メディア上の以下のディレクトリー中にあります。

- db2/<plat>/tsamp

<plat> は以下のとおりです。

- DB2 for AIX の場合は aix
- 32 ビット AMD および Intel システム (x86) 上の DB2 for Linux の場合は linux
- AMD64 および Intel EM64T システム (x86-64) 上の DB2 for Linux の場合は linuxamd64
- POWER (System i(TM) および System p) システム上の DB2 for Linux の場合は linuxppc
- System z9 および zSeries 上の DB2 for Linux の場合は linux390

このコマンドは <DB2DIR>/install/tsamp ディレクトリーでも使用できます。<DB2DIR> は DB2 データベースのインストール・パスです。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。

DBI1099I **IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトは、/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 に正常にインストールされました。**

説明: IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms と DB2 HA フィーチャーを併用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトを正常にインストールしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1100E **インスタンス・ロックが検出されました。別のインスタンス管理コマンドが実行中です。**

説明: 別のインスタンス管理コマンド (例えば、db2icrt、db2idrop、または db2iupdt) が実行中であるため、このコマンドが失敗しました。インスタンス管理コマンドは、排他ロックを取得しているため、同一インスタンスに対して同時にコマンドを実行することができません。

ユーザーの処置: コマンドを再発行する前に、インスタンス・コマンドの他のすべてのオカレンスの実行が完了するのを待ってください。他のインスタンス・コマンド

DBI1101E • DBI1108E

が実行されていない場合、以下のいずれかのディレクトリでファイル "instance.lock" を削除します。

/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、
n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、
n はフィックスパックの番号)

DBI1101E ユーザー名 *user-name* が無効です。

説明: 指定されたユーザー名は既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下のようにすることはできません。

1. 8 文字より長い名前。
2. "sql"、"ibm"または"sys"で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a-z、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 詳しくは、「DB2 管理ガイド」中の『ユーザー、ユーザー ID、およびグループの命名規則』を参照してください。

有効なユーザー名を使用して、コマンドを再試行してください。

DBI1102E DAS 名が無効です。

説明: DAS 名は既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下のようにすることはできません。

- 8 文字より長い名前。
- "SYS"、"sys"、"IBM"、"ibm"、"SQL"、または "sql" で始まっている。
- 数字で始まる名前、または a-z、\$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効な DAS 名を使用して、コマンドを発行してください。

DBI1103E Administration Server はすでに存在しています。

説明: Administration Server がすでにご使用のシステムに作成されていることを検出しました。1 つのシステムに Administration Server は 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: Administration Server を再作成する場合、先に Administration Server をドロップしないと再作成できません。

DBI1104E Administration Server はドロップできません。

説明: Administration Server をドロップ (ドロップ) しようとして、失敗しました。システムは、

Administration Server が存在しないことを検出しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1105E DB2 Data Links Manager 管理者はすでに存在します。

説明: システムが、DB2 Data Links Manager 管理者がシステムにすでに作成されていることを検出しました。DB2 Data Links Manager 管理者は、システムごとに 1 つしか作成できません。

ユーザーの処置: DB2 Data Links Manager 管理者を再作成する場合、その前に DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしなければなりません。

DBI1106E DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとしたが、失敗しました。システムが、DB2 Data Links Manager 管理者が存在しないか、または別のユーザー ID で作成されていることを検出しました。

ユーザーの処置: "dfmlist"コマンドで報告されている DB2 Data Links Manager 管理者の名前が正しいことを確認して、やり直してください。

DBI1108E DLFM ユーザー *user* に対して有効なグループ名または数値 *group-name* が指定されていません。

説明: dlfm インスタンスを作成している場合、または DB2 V7 以前から dlfm インスタンスをマイグレーションしている場合、-g DLFMGid を指定する必要があります。

DLFMGid には、数値のグループ ID かグループ名を指定することができます。指定するグループは、指定の DLFM ユーザーの 2 次グループ・リストに含まれていなければなりません。

V8 またはそれ以降の dlfm インスタンスをマイグレーションするときに、そのインスタンスにすでにセットアップされている DLFMGid と同じでない -g DLFMGid が指定された場合は、指定されたパラメーターは無視されて、古い Gid が使用されます。

ユーザーの処置: グループを DLFM ユーザーの 2 次グループ・リストに設定してから、コマンドを再発行してください。

DBI1109E カーネル・パラメーターはこのコマンドを使用する前に更新される必要があります。

説明: 正しく構成されていないカーネル・パラメーターがあります。

ユーザーの処置:

- 必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新してください。
- システムをリブートします。
- コマンドを再実行してください。

DBI1110I IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトは、`/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2` で正常に更新されました。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは `/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2` にあります。DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトを正常に更新しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1111E `fencedID` パラメーターはこのコマンドでは `-u flag` を使用して指定する必要があります。

説明: `fencedID` パラメーターはこのコマンドを使用して指定する必要があります。`fencedID` パラメーターは `fenced` ユーザー定義関数 (UDF) および `fenced` ストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前に設定されます。

ユーザーの処置: 引数“-u FencedID”を追加してコマンドを再入力してください。ここで `fencedID` は `fenced` UDF あるいは `fenced` ストアード・プロシージャが動作するユーザーの名前です。

セキュリティ上の理由から、`fencedID` としてインスタンス名を使用しないことをお勧めします。ただし、ユーザー定義関数 (UDF) あるいはストアード・プロシージャを使用する予定のない場合に、`fencedID` をインスタンス名に設定すると、`fencedID` に別のユーザーを作成する手間が省けます。

DBI1112E `fencedID` パラメーター `fenced-id` は無効です。

説明: `fenced` ユーザー定義関数および `fenced` ストアード・プロシージャが実行されるユーザー名を指定する `fencedID` パラメーターの条件は以下のとおりです。

- 既存ユーザーのログイン名。
- `root` または `bin` ユーザーの設定は不可。

ユーザーの処置: 有効な `fencedID` パラメーターでこのコマンドを再度試行してください。

DBI1113W `fencedID` パラメーターの前の値 `old-value` が異なっています。新規の値 `new-value` が無視されます。

説明: コマンド行で入力された `fencedID` パラメーターはこのユーザー ID の前に使用されたパラメーターと異なります。このパラメーターの新規の値は無視されません。

DBI1114W IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトは、`/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2` にありませんでした。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

`db2cpts` ユーティリティは、これらのスクリプトと、`spec` という名前のファイルが `/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2` 中にあると予期します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトか `spec` ファイルを検出できませんでした。

ユーザーの処置: `root` 権限で `db2cpts` ユーティリティを実行し、DB2 HA スクリプトを手動でインストールしてください。

DBI1115E 無効な `AuthType` パラメーター `auth-type` が `-a` フラグを付けて指定されました。

説明: インスタンスに使用される認証タイプを指定する `AuthType` パラメーターが無効です。有効な認証タイプは以下のとおりです。

- `SERVER`
- `CLIENT`
- `SERVER_ENCRYPT`

ユーザーの処置: 有効な `AuthType` パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1116W /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にある同じスクリプトのバージョンより古いバージョンです。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトのバージョン以降のバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトより古いバージョンです。

ユーザーの処置: root 権限で db2cptsa ユーティリティを実行し、DB2 HA スクリプトを手動で更新してください。

DBI1117I /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にある同じスクリプトのバージョンより新しいバージョンです。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトのバージョン以降のバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトより新しいバージョンです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1118W DB2 は、ユーザー *name* (インスタンス所有者または DAS) のホーム・ディレクトリの下に .profile ファイルを作成し、そのファイルにはデフォルト環境 (インスタンスまたは DAS) をセットアップする項目が含まれます。

説明: インスタンスまたは DAS *name* のユーザー ID は Korn シェルを使用していますが、ホーム・ディレクトリの下に .profile ファイルがありません。DB2 イン

ストール・スクリプトはユーザー ID 用の .profile ファイルを作成し、そのファイルにデフォルト・インスタンスまたは DAS 環境の設定に必要な項目を取り込みました。これにより、ユーザーのログイン時に、ユーザーは自動的にインスタンスまたは DAS 環境を獲得できません。

ユーザーの処置: Korn シェルを使用していて、インスタンスまたは DAS *name* の環境を手動でセットアップする場合には、DB2 スクリプトが作成した .profile を除去して、インスタンスまたは DAS 環境を手動でセットアップできます。

DBI1119I /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトのバージョンと同じバージョンです。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトのバージョン以降のバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトと同じバージョンです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1120E インスタンス *inst-name* をドロップすることができません。

説明: まだアクティブである可能性のあるインスタンスをドロップしようとしてしました。

DBI1121E “db2idrop”を使用して Administration Server をドロップできません。

説明: “db2idrop”を使用して Administration Server のドロップをしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasidrop”コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

DBI1122E インスタンス *inst-name* を更新またはアップグレードすることができません。

説明: インスタンスを更新またはアップグレードしようとしてしました。このインスタンスは以下の理由から更新ま

たはアップグレードできません。

- このインスタンスを更新またはアップグレードするのに、以下のコマンドのいずれか 1 つを使用できません。db2iupdt、db2iupgrade、または db2nrupdt。
- インスタンスがまだアクティブである。

ユーザーの処置: 以下のコマンドのいずれか 1 つにおいて、適切なバージョンを使用していることを確認してください。db2iupdt、db2iupgrade、または db2nrupdt。また、インスタンスで実行中の DB2 プロセスがないことも確認してください。コマンドを再実行してください。

DBI1123E “db2iupdt”を使用して Administration Server を更新できません。

説明: “db2iupdt”を使用して Administration Server の更新をしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt”コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

DBI1124E インスタンス *inst-name* をアップグレードすることができません。

説明: インスタンスをアップグレードしようとしてしました。このインスタンスは以下の理由からアップグレードできません。

- インスタンスがまだアクティブである。
- このインスタンスのアップグレードがサポートされていない。
- このバージョンの db2iupgrade コマンドが、このインスタンスをアップグレードするためには使用できない。

ユーザーの処置: インスタンスが、アップグレードに使用できて、適切なバージョンの db2iupgrade コマンドを使用しているかを確認してください。インスタンスのアップグレードの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1125E “db2idrop”では DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。

説明: “db2idrop”を使用して DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとしてしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dlfmdrop”コマンドを使用して、DB2 Data Links Manager 管理者を除去してください。

DBI1126W データベース内で定義された 1 つ以上のビューが、データベースのアップグレードに影響を及ぼすおそれがあるため、インスタンスのアップグレードが失敗しました。

説明: db2iupgrade コマンドは db2ckupgrade コマンドを呼び出します。db2ckupgrade コマンドが何らかのエラーを返すと、インスタンスのアップグレードは失敗します。

変更されたデータベース・エンティティーに依存する 1 つ以上のビューが、db2ckupgrade コマンドによって特定されました。このため、UPGRADE DATABASE コマンドが失敗するおそれがあります。

特定されたビューは、db2ckupgrade ログ・ファイル内にリストされています。

ユーザーの処置: 特定されたビューの問題を解決するか、このビューをドロップして、db2iupgrade コマンドを再発行します。データベースをアップグレードした後、ドロップしたビューを再作成してください。

あるいは、UPGRADE DATABASE コマンドが失敗するかどうかを確認するために、特定されたビューを含むテスト・データベースをテスト環境でアップグレードすることもできます。データベース・アップグレードが成功するようなら、-F パラメーターを指定して db2iupgrade コマンドを再発行し、強制的にアップグレードを行います。

DBI1127E SA MP が依然としてインストール済みだったので、/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトは除去されませんでした。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

SA MP が依然としてインストール済みの間は、これらのスクリプトをアンインストールできません。その理由は、スクリプトがインストールされていない状態で SA MP と DB2 HA フィーチャーを併用した結果、予期しない動作が発生しないようにするためです。

DB2 HA スクリプトはアンインストールされませんでした。

ユーザーの処置:

- SA MP と DB2 HA スクリプトを手動でアンインストールするつもりの場合は、最初に uninstallSAM ユーティリティーを使用して SA MP をアンインストールしてください。

DBI1128E

- 別の方法としては、`-a` および `-F TSAMP` 引数を指定して `db2_deinstall` を使用し、`SA MP` と `DB2 HA` スクリプトをアンインストールしてください。なぜなら、`db2_deinstall` はこれらのものを正しい順序でアンインストールするからです。

DBI1128E “dlfmdrop”を使用して Administration Server をドロップできません。

説明: “dlfmdrop”を使用して Administration Server のドロップをしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasidrop”コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

DBI1129E “dlfmupdt”を使用して Administration Server を更新できません。

説明: “dlfmupdt”を使用して Administration Server の更新をしようとした。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

ユーザーの処置: “dasiupdt”コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

DBI1130E システム前提条件が満たされていなかったため、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のインストールまたは更新を行えませんでした。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

説明: SA MP のインストールまたは更新に関するシステム前提条件があります。これらの前提条件が満たされていません。

示されているログ・ファイルには、満たされていない前提条件に関する詳細情報が含まれています。

SA MP Base Component のシステム前提条件に関する詳細情報を見つけるには、SA MP Base Component 資料の「インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

SA MP をインストールまたは更新できません。

ユーザーの処置: 前提条件を満たすようにシステムに変更を加えてください。さらに `installSAM` ユーティリティーを使用して、SA MP を手動でインストールしてください。

DBI1131E ユーザー ID *user-id* が無効です。

説明: 与えられたユーザー ID にアクセスしようとして失敗しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- このユーザー ID がシステムにない。
- このユーザーのホーム・ディレクトリーが正しく設定されていない。
- DB2 で必要なユーザー属性のいずれかが設定されていない。
- このユーザーの UID が 0 である。

ユーザーの処置: 有効なホーム・ディレクトリーの有効なユーザー ID、シェル、1 次グループ、および 2 次グループが使用されているかを確認してください。必要なら、ユーザーを新規作成してください。

DBI1132E DB2 インストーラーは IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のインストールまたは更新のための正しいライセンスを検出できませんでした。DB2 インストーラーは、ライセンス・ファイルが DB2 インストール・メディア上の *directory-name* にあると予想していました。

説明: SA MP の正規ライセンスの名前は `sam31.lic` で、試用版ライセンスの名前は `sam31tb.lic` です。DB2 インストーラーが SA MP のインストールまたは更新を実行するには、DB2 インストール・メディア上の指定されたディレクトリーに、これらのファイルの一方だけが存在していなければなりません (両方は不可)。

適切なライセンスがないと、SA MP をインストールできません。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーに該当するライセンス・ファイルがあることを確認し、コマンドを再発行してください。

DBI1133E コマンドは失敗しました。現在のホストは GPFS クラスタの一部です。

説明: 現在のホストは IBM GPFS (General Parallel File System) クラスタの一部です。コマンドを実行したホストから GPFS クラスタを削除することはできません。さらに、`uninstallGPFS` コマンドはサポートされていないコマンドではありません。

ユーザーの処置: 残っているホスト上の GPFS ファイル・システムとクラスタを削除するには、`db2cluster` コマンドを実行してください。クラスタ化されたファイル・システムを手動で削除するステップについて詳し

くは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1134W SA MP がインストールされなかったの
で、IBM Tivoli System Automation for
Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性
(HA) スクリプトはインストールされ
ませんでした。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。SA MP を使用しない場合は、これらのスクリプトは不要です。

DB2 HA スクリプトはインストールされませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1135E ユーザー ID test-user の 1 次グループ
users が無効です。

説明: インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループ名の条件を以下に示します。

1. "guests"、"admins"、"users" または "local" にすることができません。
2. "sql" または "ibm" で始めることはできません。
3. 数字で始めることはできません。
4. 小文字 (a-z)、数値 (0-9)、および下線文字 (_) のみを含めることができます。

ユーザーの処置: root 特権を持つユーザーに、インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループを、このメッセージの説明の条件を満たす有効なグループに変更してもらってから、コマンドを再発行します。

DBI1136W OLAP Start Kit がインストールされてい
ません。

説明: マイグレーションしているインスタンスは OLAP の機能を持っています。OLAP Starter Kit は、このバージョンの DB2 では利用不能です。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合のみマイグレーションされます。

ユーザーの処置: プログラムが打ち切られた場合は、マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。OLAP の機能はなくなります。

DBI1137W サーバー製品がインストールされていま
せん。

説明: アップグレードしているインスタンスはサーバー・インスタンスです。DB2 サーバー製品が検出されていません。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合のみアップグレードされます。

ユーザーの処置: db2iupgrade コマンドが失敗する場合、アップグレードを強制するための -F パラメーターを指定して、このコマンドを再発行してください。インスタンスには DB2 サーバーの機能が備わりません。インスタンスで DB2 サーバーの機能を再び有効にするには、DB2 サーバー製品をインストールし、db2iupdt コマンドを発行してインスタンスを更新します。

DBI1138W Query Patroller がインストールされてい
ません。

説明: アップグレードしているインスタンスは Query Patroller の機能を持っています。インストールされている DB2 製品で、Query Patroller が検出されませんでした。

ユーザーの処置: db2iupgrade コマンドが失敗する場合、このコマンドを再発行して強制的にアップグレードを実行してください。インスタンスには Query Patroller の機能が備わりません。インスタンスで Query Patroller の機能を再び有効にするには、Query Patroller をインストールし、db2iupdt コマンドを発行してインスタンスを更新します。

DBI1139E データ・リンク・ファイル・マネージャー
がインストールされていません。

説明: アップグレードしているインスタンスにはデータ・リンクの機能があります。データ・リンク・ファイル・マネージャーは、アップグレードしようとしている DB2 製品のバージョンではサポートされていません。

DBI1140W コマンドが強制されています。以前の警告
で示された障害のポイントをを超えてから、
発行されたコマンドを強制するための -F
フラグが指定されています。

ユーザーの処置:

DBI1141E Visual Warehouse 3.1 のインスタンスが
検出されました。 Visual Warehouse 3.1
のインスタンスを V8 にマイグレーション
することはサポートされていません。
Visual Warehouse 5.2 またはそれ以上だ
けを V8 にマイグレーションできます。

DBI1142W Visual Warehouse 5.2 のインスタンスが
検出されました。インスタンスはマイグ
レーションされますが、ウェアハウスのメタ
データはマイグレーションされません。

DBI1143W Relational Connect がインストールされていません。

説明: マイグレーション先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでした。DB2 および非 DB2 データ・ソース、またはそのいずれかのデータ・ソースの設定ファイルが、マイグレーションしているインスタンスで検出されました。この構成はマイグレーションされますが、これらの構成パラメーターを使用するには、Relational Connect for DB2 をインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 構成パラメーターを使用するために、Relational Connect for DB2 をインストールしてください。

DBI1144E Relational Connect がインストールされていません。

説明: マイグレーション先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでした。非 DB2 データ・ソースを持っていることを示す環境変数が検出されました。Relational Connect がインストールされていないと、このインスタンスはマイグレーションできません。

ユーザーの処置: Relational Connect をインストールして、コマンドをやり直してください。

DBI1146E DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードはインストールされていません。

説明: db2isetup スクリプトは、応答ファイルを使用して構成およびインスタンスのセットアップ作業を実行できます。または、DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードを起動し、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用してこれらの作業を実行できます。現在、応答ファイル・サポート・モードのみインストールされます。グラフィカル・モードを使用するには、DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザード機能をインストールする必要があります。

ユーザーの処置:

- DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードをインストールします。それには、DB2 セットアップ・ウィザードを CD (Runtime Client の一部として使用不可)から起動します。
- 応答ファイルを作成し、コマンドを `db2isetup -r <responsefile>` として再発行します。

DBI1147E db2iupdt はユーザー ID userid を更新できませんでした。

説明: 指定されたユーザー ID が DB2 インスタンスではありません。

DBI1148E dasupdt はユーザー ID userid を更新できませんでした。

説明: 指定されたユーザー ID が Administration Server ではありません。

DBI1149E このプログラムを実行するには、インストールされているコピーの所有者でなければなりません。

説明: 現在の DB2 コピーは、プログラムを実行しようとしているユーザーがインストールしたものではありません。

ユーザーの処置: DB2 の現在のコピーをインストールしたユーザーとしてログインし、コマンドを再実行してください。

DBI1150W db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。

説明: 64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれにアップグレードすることはできません。64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいはアップグレードされたインスタンスを継続して使用することができます。64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1151E db2icrt/db2iupgrade が 64 ビット非サーバー・インスタンスを作成しました。

説明: 64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれにアップグレードすることはできません。64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいはアップグレードされたインスタンスを継続して使用することができます。64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1152E このプログラムを実行するには、root ユーザー以外でなければなりません。

説明: root 権限のあるユーザーは *tool-name* を実行できません。

ユーザーの処置: 非 root ユーザーとしてコマンドを再実行してください。

DBI1153E AIO は使用できません。

説明: DB2 を実行するには、システム上で AIO を有効にする必要があります。

ユーザーの処置: root 特権を付与されたユーザーに AIO を有効にするよう要請し、コマンドを再実行してください。

DBI1154E *instance-name* は、非 root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーに属するインスタンスです。このインスタンスは、root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーからは更新できません。インスタンスを更新する場合は、非 root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーから *db2nrupdt* を実行してください。

DBI1155E DB2 非ルート・インスタンス *instance-name* でコマンドが失敗しました。

説明: サポートされていない、以下のアクションのいずれかを試行したため、コマンドが失敗しました。

1. DB2 非ルート・インスタンスが DB2 ルート・インスタンスになるように更新する
2. DB2 非ルート・インスタンスが DB2 ルート・インスタンスになるようにアップグレードする
3. DB2 ルートのインストール・ロケーションから *db2idrop* コマンドを実行して、DB2 非ルート・インスタンスをドロップする

ユーザーの処置:

1. DB2 非ルート・インスタンスを更新するには、*\$HOME/sql/lib/instance/* ディレクトリで *db2nrupdt* コマンドを実行します。*\$HOME* は、DB2 非ルート・インスタンスをインストールしたユーザー ID のホーム・ディレクトリです。
2. DB2 非ルート・インスタンスでは、DB2 ルート・インスタンスへのアップグレードはサポートされていません。DB2 ルート・インスタンスから非ルート・インスタンスにデータベースをアップグレードする

方法について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

3. DB2 非ルート・インスタンスをドロップするには、*\$HOME/sql/lib/install/* ディレクトリで *db2_deinstall* コマンドを実行して、DB2 非ルート・インストールをアンインストールします。*\$HOME* は、DB2 製品をインストールしたユーザー ID のホーム・ディレクトリです。

DBI1156I 非 root ユーザーとしてインストールする際には、システム前提条件を完全にはチェックできません。

説明: root 権限が必須なので、完全なシステム・チェックを実行できません。

ユーザーの処置: 非 root ユーザーは、DB2 ドキュメンテーションからシステム前提条件をチェックしなければなりません。システム管理者は、現在の DB2 レベルをインストールして使用するためのすべての要件をシステムが満たしていることを確認しなければなりません。

DBI1157E 値が無効です。

説明: インストーラー・コマンド *cmd* に渡された *parameter-or-value* が無効です。

ユーザーの処置: エラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

DBI1158I DB2 は *installpath* にインストールされません。

DBI1159E *db2iupdt* では、インスタンスを非 root インストールの使用から root インストールの使用に更新したり、その逆に更新したりできません。

DBI1160I 非 root インストールが実行中です。

DBI1161I 使用法:
db2rfe [-hl-?]
[-d]
[-l logfile_name]
[-q]
-f <db2rfe_configuration_file>

説明:

- hl-? 使用情報を表示する
- d デバッグ・モードをオンにする
- l logfile_name ログ・ファイルを指定したユーザー

-q インストールされたルート機能が使用可能または使用不可になっているか、あるいは構成されたサービス・ポートが予約済みかまたは予約されていないかについての照会。 **-q** オプションは **-f** オプションと一緒に使用しないでください。

-f 必須オプション。db2rfe_configuration_file は、db2rfe の構成ファイルの絶対パス名です。

注: このコマンドは \$DB2DIR/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。db2rfe コマンドが、使用可能になっているルート機能、あるいは DB2 インスタンスによって予約および使用されているポート番号を検出した場合、要約報告書には以下の情報が表示されます。

- 使用可能にされた (または使用可能にされていない)、インストールされたルート機能
- システムのサービス・ファイルで予約された (または予約されていない)、DB2 インスタンスによって使用される DB2 サービス・ポート。

DBI1162I 使用法:
db2nrcfg [-hl-?]
[-d]
[-a AuthType]
[-p PortName]
[-s InstType]

説明:

-hl-?

使用情報を表示する

-d

デバッグ・モードをオンにする

-a AuthType

インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT) を指定します。

-p PortName

このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号を指定します。

-s InstType

作成されるインスタンスのタイプ (ese、wse、standalone、あるいは client) を指定します。

ese

パーティション・データベースがサポートされているローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成します。このタイプは、DB2 Enterprise Server Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

wse

ローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成します。このタイプは、DB2 Workgroup Edition、DB2 Express または Express-C Edition、および DB2 Connect Enterprise Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

standalone

ローカル・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成します。このタイプは、DB2 Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

client

IBM データ・サーバー・クライアントのインスタンスを作成します。このタイプは、IBM データ・サーバー・クライアント製品および DB2 Connect Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

上記のインスタンス・タイプは、最高位の 'ese' から最低位の 'client' の順序にリストされています。DB2 製品では、デフォルトのインスタンス・タイプ、およびデフォルトより低位のインスタンス・タイプがサポートされています。例えば、DB2 Enterprise Edition では 'ese'、'wse'、'standalone'、および 'client' のインスタンス・タイプがサポートされています。

注:

このコマンドは \$DB2DIR/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。

sqllib ディレクトリー中で db2profile または db2cshrc を入手するか、またはログアウトして再ログインしてから DB2 を使い始めるようにしてください。

ユーザーの処置:

DBI1163I db2nrupdt コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2nrupdt コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2nrupdt [-a AuthType]
           [-d]
           [-k ]
           [-j "TEXT_SEARCH" |
            -j "TEXT_SEARCH,portnumber"]
           [-h|-?]
```

db2nrupdt コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

このコマンドは \$HOME/sql/lib/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。\$HOME は、非ルート DB2 インスタンス ID のホーム・ディレクトリーです。このコマンドは、\$HOME/sql/lib での非ルート DB2 インストールを所有する、非ルート DB2 インスタンスとしてのみ実行することができます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力するか、正しいディレクトリーからコマンドを実行します。

DBI1164E entry-name には値が必要です。

説明: リモート接続を有効にするには、構成ファイル中の entry-name の値を指定してください。

DBI1165E インスタンス instance-name は、以下のデータベース・パーティション上でアクセス不能です。database-partitions-list

DBI1166E ファイル・セットのバージョン・ストリングに無効な文字が含まれています。バージョン・ストリング: version。ファイル・セット: fileset。

説明: 指定されたファイル・セットのファイル名が変更されている、または壊れています。

ユーザーの処置: フィックスバック・インストール・パッケージをもう一度ダウンロードし、コマンドを再実行してください。

DBI1167I 無効な引数が db2ckgpf コマンドに対して入力されました。

説明: db2ckgpf コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2ckgpf [-d]
          [-l <logFile>]
          [-v install | media]
```

```
[-s install | media]
[-c]
[-n <cluster-name>]
[-h|-?]
```

db2ckgpf コマンドのパラメーターについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1168W 64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、bos.rte.libc のインストール・レベルが 64 ビットのインスタンスの最小要件よりも低いことが検出されました。

説明: bos.rte.libc のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.1.0.28 より低くなっています。

ユーザーの処置: 処理を進める前に、APAR IY32466 をダウンロードしてご使用のシステムを更新してください。

APAR のダウンロードに関する情報は <http://www.ibm.com/aix> から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1169E DB2 HTML ドキュメンテーションがインストールされていません。

説明: DB2 HTML ドキュメンテーションがインストールされていないか、または検出できません。

DB2 HTML ドキュメンテーションをこのフィックスバックに更新するには、DB2 HTML ドキュメンテーションをインストール済みである必要があります。

ユーザーの処置: DB2 HTML ドキュメンテーションをインストールして、コマンドを再試行してください。

DBI1170I 無効な引数が db2cktsa コマンドに対して入力されました。

説明: db2cktsa コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2cktsa [-d]
          [-l <logFile>]
          [-v install | media]
          [-i install | media]
          [-c]
          [-n <cluster-name>]
          [-h|-?]
```

DBI1171E

db2cktsa コマンドのパラメーターについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1171E DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。

説明: 64 ビット・インスタンスはこのプラットフォームでサポートされていないか、または暗黙指定になっています。

ユーザーの処置:

- Linux IA64 の場合、64 ビット・インスタンスを作成するために、-w オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。
- その他のプラットフォームでは、32 ビット・インスタンスを作成するために、-w 64 オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。

DBI1172W 64 ビットのインスタンスを作成または更新しようとしている時に、bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが、64 ビットのインスタンスに必要な最低要件より低いことがわかりました。

説明: bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが 4.3.3.50 より低くなっています。このレベルは 64 ビットのインスタンスをサポートするために必要な最低限の要件です。

ユーザーの処置: 処理を進める前に、次の PTF のいずれかまたは両方をダウンロードしてシステムを更新してください。

- bos.rte.libc の場合、PTF は U473728.bff です。
- bos.adt.prof の場合、PTF は U473581.bff です。

PTF のダウンロードに関する情報は <http://www.ibm.com/aix> から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1173W db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。

説明: Enterprise Server Edition がインストール済みの場合、32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスを

64 ビットのサーバー・インスタンスにのみ更新することができます。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンスに更新したくない場合は、更新されたインスタンスを継続して使用することができます。このインスタンスを 32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスに戻したい場合は、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 32 <instance-name>
```

64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 バージョン 8 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

DBI1174E インストールされている GPFS のバージョンが低すぎます。インストールされているバージョン: *installed-version*。メディアのバージョン: *media-version*。

説明: システムにインストールされている IBM GPFS (General Parallel File System) のバージョン・レベルが、インストール・メディアの GPFS のバージョン・レベルより下です。GPFS を自動的にアップグレードすることはできません。さらに、installGPFS コマンドはサポートされているコマンドではありません。

ユーザーの処置: GPFS ファイル・システムとクラスタを手動で削除し、GPFS をアンインストールしてから、installFixPack コマンドを使ってフィックスパックをインストールしてください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1175W 64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルが 64 ビットの最小要件よりも低いことが検出されました。

説明: Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.7 より低くなっています。

ユーザーの処置: 先に進む前に、ご使用のシステムを Solaris オペレーティング環境のを最小必須レベルに更新してください。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

DBI1176I 使用法:
installAltFixPak [-h] [-s] [-y]

説明:

- h** 使用情報を表示する
- s** /usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 にインストールされているのとまったく同じファイル・セット/パッケージを、(サポートされている製品の) 代替パスにインストールする
- installAltFixPak が、 /usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 に DB2 がインストールされていないことを検出すると、 -s オプションは使用されません。 この場合は、db2_install ユーティリティを呼び出します。
- y** このシステムのすべての DB2 バージョン 8 製品について、ディレクトリー db2/license にあるライセンス条項が検討され、了解されました。

インストール済み製品について、ディレクトリー db2/license にあるライセンス条項が検討されているかどうか確認してください。ライセンス条項を承諾する場合は、-y オプションを指定して FixPak インストールを再始動してください。

-y オプションの指定で、この製品に規定されたライセンス条項への合意が表明されます。

DBI1177W インスタンスが現在使用しているレベルより低いコード・レベルにインスタンスを更新します。

説明: 現在インスタンスが使用しているレベルより低いコード・レベルに、インスタンスを更新しようとした。

ユーザーの処置: 現在のレベルよりも低いコード・レベルにインスタンスを更新するには、次のように -f レベルのオプションを指定して db2iupdt コマンドを発行してください。

```
db2iupdt -f level
         <instance-name>
```

DBI1178W DAS が現在使用しているレベルより低いコード・レベルに DAS を更新します。

説明: 現在 DAS が使用しているレベルより低いコード・レベルに、DAS を更新しようとした。

ユーザーの処置: 現在のレベルよりも低いコード・レベルに DAS を更新するには、次のように -D オプションを指定して dasupdt コマンドを発行してください。

```
dasupdt -D
```

DBI1179E Portname パラメーターを指定した場合、db2icrt コマンドを使ってクライアント・インスタンスを作成することはできません。

説明: PortName パラメーターは、インバウンド TCP/IP 接続に使用するパラメーターであって、クライアント・インスタンスに用いることはできません。

ユーザーの処置: PortName パラメーターを指定しないで db2icrt コマンドを再発行してください。

DBI1180E 32 ビット・サーバー・インスタンスはサポートされていません。

説明: 現在のプラットフォームでは、32 ビット・サーバー・インスタンスがサポートされていません。

ユーザーの処置: インスタンスの作成/アップグレード時には、インスタンスのビット・サイズは指定できません。新しいインスタンスのビット・サイズは、DB2 データベースのインストール先のオペレーティング・システムによって決定されます。

DBI1181E DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。

説明: 64 ビット・インスタンスはこのプラットフォームではサポートされていません。

ユーザーの処置: 先に進む前に、以下のいずれかを行ってください。

- ご使用のシステムを 64 ビット DB2 を実行する最小必須レベルに更新し、コマンドを再発行します。
- アップグレード中または更新中のインスタンスをドロップし、32 ビット・インスタンスとして再作成します。

DBI1182W このリリースにおけるアップグレードでは、DB2 Warehouse Manager または DB2 Warehouse Manager Connectors、あるいはその両方は、サポートされません。

説明: アップグレードしようとしているインスタンスは、Warehouse Manager または Warehouse Manager Connectors の機能を持っています。Warehouse Manager および Warehouse Manager Connectors は、アップグレードしようとしている製品リリースではサポートされません。アップグレードが正常に行われると、アップグレードされたインスタンスにこれらの機能は含まれません。この結果で構わないのであれば、db2iupgrade コマンドを再発行することができます。

DBI1183W

ユーザーの処置: db2iupgrade コマンドを再発行して、強制的にアップグレードを実行してください。アップグレードが完了すると、Warehouse Manager または Warehouse Manager Connectors、あるいはその両方は使用できなくなります。

DBI1183W Spatial Extender がインストールされていません。

説明: アップグレードしているインスタンスは Spatial Extender の機能を持っています。インストールされている DB2 製品で、Spatial Extender が検出されませんでした。

ユーザーの処置: db2iupgrade コマンドが失敗する場合、このコマンドを再発行して強制的にアップグレードを実行してください。インスタンスは Spatial Extender の機能を持ちません。インスタンスで Spatial Extender の機能を再び有効にするには、Spatial Extender をインストールし、db2iupdt コマンドを発行してインスタンスを更新します。

DBI1184W Life Sciences Data Connect がインストールされていません。

説明: マイグレーションしているインスタンスは Life Sciences Data Connect の機能を持っています。インストールされている DB2 製品で、Life Sciences Data Connect が検出されませんでした。

ユーザーの処置: db2iupgrade コマンドを再実行して、強制的にマイグレーションを実行してください。Life Sciences Data Connect はなくなります。Life Sciences Data Connect の機能を再び有効にするには、Life Sciences Data Connect をインストールし、マイグレーションしているインスタンスで db2iupdt を手動で実行する必要があります。

DBI1185I サーバー・プロトコル *protocol* は、すでにサポートされていません。DB2COMM から除去されました。

DBI1186I 使用法: db2cdbcr [-d] -n CDBName

説明: 間違った引数が db2cdbcr コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl? 使用情報を表示する

-d デバッグ・モードをオンにする

-n CDBName

CDBName は、作成するウェアハウス・コントロール・データベースの名前。

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2cdbcr -n CDBName
```

DBI1187E DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースのセットアップを完了できません。

説明: DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースを作成しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・グループ (データベース・パーティション 0 に作成) と表スペース (どちらも FLG32K と呼ばれる) も同様に作成しなければなりません。詳細については DB2 DataWarehouse の資料を参照してください。

DBI1188E マイグレーションは失敗しました。グループ *group-name* が DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストにありません。

ユーザーの処置: グループ *group-name* を DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストに設定し、コマンドを再発行してください。

DBI1189E db2_deinstall の実行場所である現在のプラットフォーム *platform* とは異なるプラットフォームのためのイメージに対して、それを使用しようとした。

説明: 可能性のある理由は、以下のとおりです。

- この DB2 インストール・イメージが現在のプラットフォームに対して有効なものではない。
- 現在のプラットフォームが DB2 でサポートされていない。

ユーザーの処置: 現在のプラットフォーム *platform* に対応する DB2 インストール・イメージを使用して、DB2 をインストールしてください。

DBI1190I db2setup が DB2 セットアップ・ウィザードを準備中です。このウィザードがプログラムのセットアップ操作を案内します。お待ちください。

DBI1191I 提供された応答ファイルに従って、db2setup が DB2 をインストールおよび構成しています。お待ちください。

DBI1192I DB2 のインストールが正常に完了しました。 *location* にインストール・ログ *db2setup.log* および *db2setup.err* があります。

DBI1193W DB2 のインストールが完了しましたが、警告が出されました。このコンピューターへのインストール中に小さいエラーが発生しました。一部のフィーチャーが正常に機能しない可能性があります。 *location* にインストール・ログ *db2setup.log* および *db2setup.err* があります。

DBI1194E このコンピューターへの DB2 インストール中にエラーが発生しました。インストール作業を続行できません。 *location* にインストール・ログ *db2setup.log* および *db2setup.err* があります。

DBI1195E *db2nruptd* は、ユーザー *user-name* の更新に失敗しました。

説明: インスタンスが依然としてアクティブなので更新できません。

ユーザーの処置: インスタンスが停止していることを確認してください。次にコマンドを再実行してください。

DBI1196E DB2 インストーラーは、ホスト *host-name* 上のオペレーティング・システムを検出できません。使用されたシステム・コマンド: *system-command*。

説明: DB2 インストーラーを続行できません。サポートされないオペレーティング・システム上でシステム・コマンドが実行されたか、指定されたシステム・コマンドに問題があるかのいずれかです。

ユーザーの処置: サポートされているオペレーティング・システム上で実行していることを確認してください。サポートされているオペレーティング・システムのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

指定されたコマンドを、サポートされているオペレーティング・システムで実行している場合は、コマンドが正しく機能していることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

DBI1197E ホスト *host-name* のプロセッサ・タイプ情報を取得しているときにエラーが発生しました。使用されたシステム・コマンド: *system-command*。

説明: DB2 インストーラーを続行できません。サポートされないプロセッサ・タイプ上でシステム・コマンドが実行されたか、指定されたシステム・コマンドに問題があるかのいずれかです。

ユーザーの処置: サポートされているプロセッサ・タイプ上で実行していることを確認してください。サポートされているプロセッサ・タイプのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

指定されたコマンドを、サポートされているオペレーティング・システムで実行している場合は、コマンドが正しく機能していることを確認してください。システム管理者に連絡してください。

DBI1198E ホスト *host-name* の Linux ディストリビューションを取得しているときにエラーが発生しました。

説明: DB2 インストーラーは、指定されたホストの Linux ディストリビューションを判別できませんでした。これは、Linux の *release* ファイルに問題がある場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: */etc/issue/release* ファイルまたは */etc/*release* ファイルの一方または両方が正しくインストールされていることを確認します。サポートされている Linux ディストリビューションのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1199I DB2IDROP が正常に完了しました。DB2INSTDEF レジストリー変数が、ドロップされたインスタンスに設定されています。この変数はクリアされています。このレジストリー変数を、別の有効なインスタンス名に明示的に設定する必要があります。

DBI1200E ディレクトリー *directory-name* が、バージョン *version-number* インスタンスではありません。

説明: 示されたディレクトリーが、データベース製品の必要なバージョンを指していないために、コマンドが処理できません。

ユーザーの処置: 示されたインスタンスでは、コマンドを実行できません。

DBI1201E 指定されている各ホストが同じタイプのオペレーティング・システム上で稼働していません。ホスト: *host-name1*。オペレーティング・システム: *operating-system1*。インストール開始ホスト: *host-name2*。オペレーティング・システム: *operating_system2*。

説明: 同じクラスター内のすべてのホストは、同じタイプのオペレーティング・システムで稼働していなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのホストを同じオペレーティング・システムで作成するようにしてください。サポートされているオペレーティング・システムのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1202E インスタンス *inst-name* のアップグレードがサポートされていません。

説明: インスタンスは以下の理由により、アップグレードできません。

1. このバージョンのインスタンスからのアップグレードがサポートされていない。
2. インスタンスがすでに製品の現行バージョンを使用していてアップグレードが必要ない。

ユーザーの処置: `db2level` コマンドにより、インストール済みの DB2 製品の現行バージョンおよびサービス・レベルが示されます。`db2ls` コマンドにより、DB2 製品がシステム上でインストールされた場所、および DB2 製品のレベルがリストされます。

このインスタンスがアップグレードに対して有効であるか確認して有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再実行します。

DBI1203I IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトは、正常にアンインストールされました。

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらのスクリプトが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1204E キーワード *keyword* に無効値がありません。サンプル構成ファイル名: *file_name*

説明: サンプル構成ファイルには、このキーワードの有効値の例があります。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、コマンドを再実行してください。

DBI1205E このコマンドを実行中のバージョンに、1 つ以上のローカル・データベースをアップグレードできません。エラー・リストのログファイル *logfile-name* を調べてください。

説明: 以下のリストに、データベースをアップグレードできない理由、および対処方法を示します。

- データベースはバックアップ・ペンディング状態です。データベースをバックアップしてください。
- データベースはロールフォワード・ペンディング状態です。ログの終わりまでデータベースをロールフォワードし、停止してください。
- データベースはリストア・ペンディング状態です。データベースのリストアを実行してください。
- データベースは不整合です。一致した状態に戻すようにデータベースを再始動してください。
- 正常な状態でない 1 つ以上の表スペースがデータベースにあります。データベースのロールフォワードを実行してください。
- SYSCAT、SYSFUN、SYSIBM、SYSPUBLIC、または SYSSTAT というスキーマ名のデータベース・オブジェクトがデータベースに入っています。オブジェクトをドロップし、正しいスキーマ名 (修飾子) でオブジェクトを再作成してください。オブジェクトが表の場合、最初にそのデータをエクスポートし、表をドロップし、正しいスキーマ名で表を再作成してから、新しい表にデータをインポートまたはロードしてください。
- SYSFUN.DIFFERENCES 関数に依存しているデータベース・オブジェクトがデータベースに入っています。考えられる違反オブジェクトと、違反を訂正する関連アクションは以下のとおりです。
 - 制約 - 制約をドロップするように表を変更してください。
 - 関数 - 関数をドロップしてください。
 - トリガー - トリガーをドロップしてください。
 - ビュー - ビューをドロップしてください。
- 新しいバージョンで予約されているユーザー定義のデータ・タイプが、データベースに入っています。データ・タイプを名前変更してください。
- システム・カタログ表中の孤立行がデータベースに入っています。IBM サービス担当者に連絡してください。
- カタログされているデータベースが存在しません。カタログされているデータベースを作成してください。

- SYSCATSPACE が DMS 表スペースで、AUTORESIZE が有効でない場合、SYSCATSPACE に少なくとも 50% の空きページがありません。SYSCATSPACE 表スペースのうち使用できるスペースを増やしてください。
- データベースが HADR 1 次データベースとして正常に接続できません。1 次データベース上で HADR を停止してください。
- データベースに HADR スタンバイ役割が与えられています。スタンバイ・データベース上で HADR を停止し、スタンバイ・データベースをドロップしてください。HADR 1 次データベースをアップグレードしてください。restore または db2inidb を使用して、アップグレードした 1 次データベースのコピーからスタンバイ・データベースを再初期化してください。

ユーザーの処置: データベースをアップグレードできない理由を突き止め、上記の該当する操作を行ってください。

DBI1206E root フィーチャー *feature-name* の使用可能化に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

DBI1207E *feature-name* に関するサービスの予約に失敗しました。

説明: サービス・ファイル中でサービスを予約できません。次のような理由が考えられます。

- サービス名とポート番号が、サービス・ファイル中で使用されています。
- サービス名あるいはポート番号が無効値です。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、コマンドを再実行してください。

DBI1208E *feature-name* に関するサービスの予約に失敗しました。

DBI1209E 構成ファイル中に *keyword* がありません。

説明: root フィーチャー *feature-name* を有効にするには、構成ファイル中に *keyword* が必要です。

ユーザーの処置: *keyword* の有効値を指定してコマンドをやり直してください。

DBI1210E 不明なシステム・エラーです。

DBI1211E *directory-name* のアップグレードが失敗しました。

説明: ディスク・スペースまたはメモリーの不足などのシステム・エラーが、ディレクトリーのアップグレード中に見つかりました。インスタンスのアップグレードは失敗しました。

ユーザーの処置: このコマンドを再発行する前に、十分なディスク・スペースとメモリーがあることを確認してください。

DBI1212W *path* にあるローカル・データベースのアップグレードが失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ローカル・データベース・ディレクトリーのアップグレード処理は完了しません。ローカル・データベース・ディレクトリーがない場合、ローカル・データベース・ディレクトリーにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

1. ローカル・データベース・ディレクトリーを除去し、データベースを再カタログしてください。
2. ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、*path* ディレクトリーで作成された db2mgdbd.err エラー・ファイルと sqldbdir/sqlddir.bak ローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ・ファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。

DBI1213I root フィーチャー *feature-name* を有効にする処理が正常に実行されました。

DBI1214I *feature-name* に関するサービスが正常に予約されました。

DBI1215I *feature-name* に関するサービスが正常に予約されました。

DBI1216E 予期されたディレクトリー: *directory* にコマンド `uninstallSAM` がなかったので、**IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のアンインストールに失敗しました。**

説明: db2_deinstall は、uninstallSAM ユーティリティーを使用して、SA MP をアンインストールします。

DBI1217E

db2_deinstall は、指定されたディレクトリー中に uninstallSAM ユーティリティーがあると予期しますが、今回は検出できませんでした。SA MP の現在のバージョンがバージョン 2.2 より前であることが理由である可能性があります。db2_deinstall コマンドを使用して SA MP をアンインストールするオプションは、SA MP バージョン 2.2 以降に限りサポートされています。

SA MP はアンインストールされませんでした。

ユーザーの処置: SA MP を手動でアンインストールするには、uninstallSAM コマンドを使用します。

uninstallSAM コマンドについての詳細は、SA MP Base Component 資料を参照してください。

DBI1217E 有効なインストール ID が検出されません。

説明: すべての有効な ID がイメージから除去されました。インストーラーは、イメージ上で使用できる有効な製品を判別できないため、インストール選択を表示することができません。

ユーザーの処置: 製品イメージが変更されたため、インストーラーが選択可能なオプションを表示するための有効な ID がありません。元の DB2 製品イメージを使用してインストールしてください。

DBI1218I IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のライセンス証明書 license-certificate-file-name は正常にインストールされました。

説明: SA MP を DB2 高可用性 (HA) フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書のインストールまたは更新は正常に行われました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBI1219E IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のライセンス証明書 license-certificate-file-name は正常にインストールされませんでした。

説明: SA MP を DB2 高可用性 (HA) フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書は正常にインストールまたは更新されませんでした。

DB2 インストーラーを使用してこのライセンス証明書のインストールまたは更新を実行した場合は、DB2 インストール・ログ・ファイル中に、インストールまたは更新が失敗した理由に関する詳細情報が含まれていません。

ユーザーの処置: SA MP Base Component に関するこのライセンス証明書のインストールまたは更新を手動で実行するには、以下のコマンドを発行してください。

• **samlicm -i license-certificate-file-name**

samlicm コマンドについての詳細は、SA MP Base Component 資料を参照してください。

DBI1220W path 上のノード・ディレクトリーのアップグレードは失敗しました。

説明: 想定外のエラーが発生したため、ノード・ディレクトリーのアップグレードの処理が完了しませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

1. ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。
2. ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、path ディレクトリーで作成された db2ugndd.err エラー・ファイルと sqlnodir/sqlnddir.bak ノード・ディレクトリーのバックアップ・ファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。

DBI1221W ノード・ディレクトリーが壊れているので、アップグレードできません。

説明: ノード・ディレクトリー・ファイルが同じでないか、またはノード・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。

DBI1222W システム・データベース・ディレクトリーが壊れているので、アップグレードできません。

説明: プライマリーおよびバックアップ・システム・データベース・ディレクトリー・ファイルが同一でないか、あるいはシステム・データベース・ディレクトリーが壊れています。

ユーザーの処置: システム・データベース・ディレクトリーを除去し、すべてのデータベース項目を再カタログしてください。

DBI1223W ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルが壊れているので、アップグレードできません。

説明: プライマリーおよびバックアップ・データベー

ス・ディレクトリー・ファイルが同一でないか、あるいはローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

ユーザーの処置: エラー・ファイル db2mgdbd.err およびローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ sqlbdir/sqlddir.bak が、示されたディレクトリー・パスに作成されます。

ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、2 つのファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。ローカル・データベース・ディレクトリーがない場合、ローカル・データベース・ディレクトリーにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

DBI1224E ターゲット・ホストがソース・ホストと同じプロセッサ・タイプで稼働していません。ソース・ホスト: *source-host*、プロセッサ・タイプ: *source-processor-type*。ターゲット・ホスト: *target-host*、プロセッサ・タイプ: *target-processor-type*。

説明: ソース・ホストとターゲット・ホストは同じプロセッサ・タイプで稼働しなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのホストが同じプロセッサ・タイプになるようにします。サポートされているプロセッサのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1225W 1 つ以上のカタログ済みローカル・データベースにおける認証タイプが変更されました。

説明: 検出された 1 つ以上のカタログ済みデータベース項目において、これらのデータベースを所有するインスタンスの認証タイプとは異なる認証タイプが設定されています。何もアクションを取らないと、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目は、このインスタンスの認証タイプを継承します。

ユーザーの処置: db2ckupgrade コマンドのログ・ファイルを確認して、インスタンスとは異なる認証タイプが設定された、カタログ済みローカル・データベース項目のリストを参照します。データベースに前の認証タイプを維持させたい場合は、インスタンスの認証タイプを変更するか、またはデータベースを必要な認証タイプを持つ別のインスタンスに移動することができます。ただし、インスタンスの認証タイプを変更する前に、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目に、新しい認証タイプを持たせることを確認する必要があります。

DBI1226E ターゲット・ホストがソース・ホストと同じ Linux ディストリビューションで稼働していません。ソース・ホスト: *source-host*、ディストリビューション: *source-host-distribution*。ターゲット・ホスト: *target-host*、ディストリビューション: *target-host-distribution*。

説明: ホストは同じ Linux ディストリビューションで実行されていなければなりません。ターゲット・ホストの Linux ディストリビューションはソース・ホストと同じでなければなりません。

ユーザーの処置: すべてのホストを同じ Linux ディストリビューションで作成するようにしてください。サポートされている Linux ディストリビューションのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1227E *product-name* は、非ルート・インストール用にサポートされている DB2 製品ではありません。

DBI1228E インスタンス *inst-name* はサーバー・インスタンスではありません。

説明: 一部の構成タスクは DB2 サーバー・インスタンスのみに対して実行できます。この種の構成タスクには、リモート接続や DB2 テキスト検索が含まれます。

ユーザーの処置: 指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt または db2nrupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。その後、構成タスクを再実行してください。

DBI1229E ロケーション *installation-location* にインストールされている IBM Data Server Runtime Client、DB2 Thin Client、または IBM Data Server Driver Package で、Windows 上での DB2 コピーのアップグレードがサポートされていません。

説明: 以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- アップグレード対象として選択された DB2 コピーが、DB2 Run-Time、DB2 Run-Time Client Lite、DB2 Runtime Client、または Data Server Runtime Client の旧リリースをインストールしたものである。
- インストールされる DB2 製品が、IBM Data Server Runtime または IBM Data Server Driver Package である。

DB2 Run-Time、DB2 Run-Time Client Lite、DB2 Runtime Client、または Data Server Runtime Client の旧リリースから、DB2 コピーをアップグレードすることはサポートされていません。さらに、IBM Data Server Runtime または IBM Data Server Driver Package に、DB2 コピーをアップグレードすることはサポートされていません。

ユーザーの処置: 「新規インストール」を選択して、新しいロケーションに IBM Data Server Runtime Client または IBM Data Server Driver Package をインストールします。また、IBM Data Server Runtime Client の場合は、db2iupgrade コマンドを使用して既存のクライアント・インスタンスを新しい DB2 コピーにアップグレードします。

DBI1230E *installation-location* にインストールされている、選択された DB2 コピーの DB2 コピー・アップグレードはサポートされていません。

説明: 以下の一方または両方の理由で、選択された DB2 コピーの DB2 コピー・アップグレードはサポートされていません。

- 1 つ以上の DB2 インスタンスにおけるインスタンス・タイプが、インストールする DB2 データベース製品でサポートされていない。Windows オペレーティング・システム上では、下位の DB2 インスタンス・タイプにアップグレードすることはサポートされていません。
- DB2 DAS は DB2 コピー・アップグレードの要求元の DB2 インストール・ロケーションに関連しているが、インストールしようとしている DB2 製品はこの DB2 DAS をサポートしていない。

ユーザーの処置: すべてのインスタンスをサポートしている DB2 製品か、またはアップグレードされる DB2 コピーに関連した DAS を選択してください。

DBI1231E DB2 インスタンスのアップグレードは、インスタンス *instance-name* においてサポートされていません。(元のインスタンス・タイプは、*original-instance-type* です。アップグレード先のインスタンス・タイプは *upgraded-instance-type* です。)

説明: 指定された DB2 インスタンスを、現在の DB2 コピーにアップグレードできません。Windows オペレーティング・システム上では、下位の DB2 インスタンス・タイプにアップグレードすることはサポートされていません。

ユーザーの処置: このインスタンス・タイプをサポートしている DB2 製品をインストールし、db2iupgrade コ

マンドを再実行してください。

DBI1232E アンインストールを続行できません。

説明: 以下の理由が考えられます。

1. インスタンス *inst-name* に関するデータベース・マネージャーがまだアクティブである。
2. DB2 Text Search インスタンス・サービスがまだアクティブである。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーと DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止してから、コマンドを再実行してください。

DBI1233E インスタンス *inst-name* をドロップすることができません。

説明: DB2 Text Search インスタンス・サービスがアクティブの場合、インスタンスをドロップできません。

ユーザーの処置: DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止してから、コマンドを再実行してください。

DBI1234E インスタンス *instance-name* の DB2 インスタンス更新はサポートされていません。(元のインスタンス・タイプは、*original-instance-type* です。更新先のインスタンス・タイプは *updated-instance-type* です。)

説明: 指定された DB2 インスタンスは更新できません。DB2 インスタンス・タイプのダウングレードはサポートされていません。

ユーザーの処置: このインスタンス・タイプをサポートしている DB2 製品をインストールし、db2iupdt コマンドを再実行してください。

DBI1235E 一度にインストールできる製品は 1 つだけです。

説明: DB2 インストーラーは、一度に 1 つの製品のインストールのみサポートしています。

ユーザーの処置: 製品を 1 つのみ指定して、コマンドを再実行してください。

DBI1236E 複数パーティション・インスタンス *instance-name* から非複数パーティション・インスタンスへのアップグレードまたは更新を行うことはできません。

説明: アップグレードまたは更新を行おうとしているインスタンスは、複数パーティション・インスタンスです。インスタンスのアップグレードまたは更新先の現在

の DB2 コピーは、複数パーティション・インスタンスをサポートしていません。

ユーザーの処置: DB2 インスタンスにパーティション・ローカル・データベースがない場合に、複数パーティションでない DB2 インスタンスを使用するには、パーティションが 1 つだけ含まれるように現在の db2nodes.cfg を更新してから、コマンドを再実行してください。

パーティション・ローカル DB2 データベースと DB2 インスタンスが存在する場合、複数パーティション・インスタンスをサポートする DB2 コピーへのアップグレードまたは更新を実行する必要があります。DB2 Enterprise Server Edition は複数パーティション・インスタンスをサポートしています。

DBI1237E 現在の DB2 インストールに関連したすべてのインスタンス上で DB2 データベース・マネージャーが停止していないので、指定されたコンポーネント *component-name* をアンインストールできません。

説明: アンインストールするよう要求されたコンポーネントは、DB2 データベース・マネージャーに関連しています。指定されたコンポーネントをドロップするには、その前に現在の DB2 コピーに関連したすべてのインスタンス上で DB2 データベース・マネージャーを停止する必要があります。

ユーザーの処置: DB2 の現在のインストールに関連したすべての DB2 インスタンス上で DB2 データベース・マネージャーを停止し、コマンドを再実行してください。

DBI1238E 以下の無効なパラメーターが指定されていたために、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました: *invalid-parameter*。

説明: db2cluster_prepare ユーティリティを使用し、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

このメッセージは、無効なパラメーターを指定して db2cluster_prepare コマンドを呼び出した場合に返されます。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターだけを指定して、db2cluster_prepare コマンドを再び実行します。

DBI1239I DB2 インフォメーション・センターは、ポート *port-number* に関する要求を listen しています。

DBI1240E データベース・マネージャーが始動できませんでした。

説明: カタログ済みローカル・データベースがアップグレード可能かどうかをチェックしようとしたときに、データベース・マネージャーが始動できませんでした。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーが始動できなかった理由を解決して、コマンドを再発行してください。

DBI1241I インフォメーション・センター・デーモンは既にアクティブです。

説明: DB2 インフォメーション・センターを開始するコマンドは既に処理されています。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: アプリケーションは既に listen 中です。

DBI1242I DB2 インフォメーション・センターを停止する STOP コマンドが正常に完了しました。

DBI1243I DB2 インフォメーション・センターを開始する START コマンドが正常に完了しました。

DBI1244I DB2 の非 root インストールに関するディレクトリー - *directory*

DBI1245E 指定された DB2 インストール・パス *install-path* に 1 つ以上のスペース文字が見つかりましたが、これはサポートされていません。

説明: 指定された DB2 のインストール・パスに 1 つ以上のスペース文字が含まれていますが、これは UNIX および Linux プラットフォーム上の DB2 インストールの場合はサポートされていません。

ユーザーの処置: スペース文字のないインストール・パスを指定し、コマンドを再実行してください。

DBI1246I db2_deinstall コマンドは DB2 インストール・ディレクトリーからのみ実行することができます。

説明: DB2 9 以降、db2_deinstall コマンドを実行できるのは DB2 インストール・パスからに限られます。このパスは DB2DIR/install の下にあります。DB2DIR は DB2 製品のインストール場所のディレクトリーです。

ユーザーの処置: DB2DIR/install ディレクトリーからコマンドを再入力してください。

DBI1247W root フィーチャー *feature-name* は、現在のインストール済み環境に存在しないフィーチャーであるため、有効にすることはできません。

DBI1248E このバージョンの db2_deinstall コマンドは、DB2 バージョン *version* 製品のアンインストールにのみ使用できます。

説明: DB2 製品をアンインストールするには、同じバージョン・レベルの db2_deinstall コマンドを使用する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する DB2 メディアを探してコマンドを再実行するか、<DB2DIR>/install ディレクトリーから db2_deinstall コマンドを再実行します。<DB2DIR> は、除去する DB2 製品のインストール・パスを表します。

DBI1249E このバージョンの doce_deinstall コマンドは、DB2 インフォメーション・センター・バージョン *version* のアンインストールにのみ使用できます。

説明: DB2 インフォメーション・センターをアンインストールするには、同じバージョン・レベルの doce_deinstall コマンドを使用する必要があります。

ユーザーの処置: 該当する DB2 インフォメーション・センター・メディアを探して、コマンドを再実行するか、<DB2DIR>/install ディレクトリーから doce_deinstall コマンドを実行します。<DB2DIR> は、除去する DB2 インフォメーション・センターのインストール・パスを表します。

DBI1250E アプリケーションは、インスタンス *instance-name* をまだ使用中です。

説明: 指定されたインスタンスを使用している実行中のアプリケーションが、まだ存在します。コマンドを正常に完了させるには、このインスタンスを使用しているすべてのアプリケーションを終了する必要があります。

次のコマンドを発行すると、現在インスタンスを使用中のアプリケーションのリストを取得できます。

```
db2 list applications
```

ユーザーの処置: アプリケーションが終了するのを待つか、またはアプリケーションを明示的に強制終了させることができます。インスタンス所有者としてログオンし、次のコマンドを実行することもできます。

```
db2 force application all
```

示されたコマンドを使用して終了したときに、想定外の動作をするアプリケーションが存在する可能性があることに注意してください。すべてのアプリケーションが停止してから、「db2stop」コマンドを使用してデータベース・マネージャーを停止してください。

DBI1251N このインスタンスのクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。

説明: db2iupgrade コマンドはクラスター・サービスを初期設定できないか、またはアップグレードする既存の DB2 リソースを見つけられません。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびアップグレードする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス担当者にご連絡ください。

DBI1252N クラスター・サービスで DB2 サーバー・リソース・タイプの登録中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 は、リソース・タイプがクラスター・サービスで使用可能になっていることを必要としますが、リソース・タイプを登録するためのコマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

ユーティリティ "db2wolfi.exe i" を使用して、リソース・タイプを手動で登録してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス担当者にご連絡ください。

DBI1253N このインスタンスのクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。システムは元の設定に復帰できません。

説明: このインスタンスに必要なクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。このインスタンスの既存のクラスター・リソースが削除され、リストアできませんでした。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびアップグレードする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

管理ツール・コントロール・パネル・アプレットで使用可能な「クラスター管理」を使用して、インスタンスのリソースを再作成してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス担当者にご連絡ください。

DBI1254N 既存のリソースを除去できないため、このインスタンスのクラスター・リソースのアップグレード中に、エラーが発生しました。

説明: インスタンスをアップグレードするには、クラスター・リソースを除去し、DB2 サーバー・タイプを使用して新規のクラスター・リソースを作成する必要があります。コマンドでは既存のクラスター・リソースを除去できなかったため、このインスタンスをアップグレードできません。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびアップグレードする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス担当者にご連絡ください。

DBI1255E 指定されたインスタンス・タイプを作成するのに必要な構成ファイル *filename* が見つかりません。

説明: 指定されたインスタンス・タイプを作成するための必須の構成ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: DB2 の現在のインストールでサポー

トされているインスタンス・タイプを指定し、コマンドを再実行してください。

DBI1256E `-instance_shared_dev` パラメーターが指定されていないために、`db2cluster_prepare` コマンドが失敗しました。

説明: `db2cluster_prepare` ユーティリティーを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

必須の `-instance_shared_dev` パラメーターを使用して、GPFS ファイル・システムが作成される共有装置への絶対パスを指定する必要があります。

このメッセージは、`-instance_shared_dev` パラメーターを指定しないで `db2cluster_prepare` コマンドを呼び出した場合に返されます。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: `-instance_shared_dev` パラメーターに有効な値を指定して、`db2cluster_prepare` コマンドを再び実行します。

DBI1257I DB2 インフォメーション・センターは、要求を `listen` していません。

DBI1258E DB2 インフォメーション・センターを開始できません。

説明: DB2 インフォメーション・センターを開始するコマンドは正常に実行されませんでした。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターのインストール・パスからログ・ファイル `doc/eclipse/workspace/.metadata/.log` 中にメッセージが書き込まれます。

DBI1259I 使用可能なルート・フィーチャー:

DBI1260E 応答ファイルから読み取ることができません。

説明: 指定された応答ファイルからの読み取りに失敗しました。応答ファイルに読み取りアクセスがあり、応答ファイルへの指定パスが正しいことを確認してください。

ユーザーの処置: アクセス許可および応答ファイルのロケーションを訂正して、再試行してください。

DBI1261E 値は、キーワードでは無効です。

説明: 応答ファイルで指定された値は、応答キーワードとして無効です。有効な入力については、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1262E 応答ファイルに不明のキーワードがありません。

説明: 応答ファイルで指定されたキーワードは無効です。有効なキーワードについては、サンプル応答ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1263I 使用可能でないルート・フィーチャー:

DBI1264E *program-name* 実行中にエラーが発生しました。詳細情報については、インストール・ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1265I 予約済みサービス項目:

DBI1266I 詳細情報については、ログ・ファイル *log-name* を参照してください。

説明: 処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

ユーザーの処置: ログ・ファイルは修正しないでください。このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

DBI1267I 予約されていないサービス項目:

DBI1268E ファイル・セット *fileset* はインストール・メディアでは使用できません。

説明: インストールされるファイル・セットのいずれかが、インストール・メディアで見つかりません。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、インストールができません。

ユーザーの処置: ファイル・セットがインストール・メディアにあるかどうかを確認してください。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、このファイル・セットの選択を取り消し、再試行してください。

DBI1269I サマリー:

DBI1270E 応答ファイルにエラーがあります。

説明: 応答ファイルの処理中にエラーを検出しました。問題が訂正されない限り、インストールは続行できません。

ユーザーの処置: 応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1271E 構成ファイル *configuration-file* が無効です。

DBI1272I DB2 インスタンス *instance-name* を使用するには、*db2profile* または *db2cshrc* を *sqllib* ディレクトリに提供して DB2 インスタンス環境をセットアップする必要があります。あるいは、DB2 インスタンス・ユーザーのログイン・ウィンドウを新しくオープンすることもできます。

説明: DB2 インスタンスは、*db2profile* (Bourne または Korn シェル・ユーザーの場合) または *db2cshrc* (C シェル・ユーザーの場合) を提供した後に使用できます。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス環境をセットアップするには、DB2 インスタンスを所有する ID で新規のログイン・ウィンドウをオープンするか、あるいは DB2 インスタンスを所有する ID で該当する以下のコマンドを実行することによって DB2 インスタンス環境を提供します。

. \$HOME/sqllib/db2profile

ソースの \$HOME/sqllib/db2cshrc

\$HOME は、DB2 インスタンスを所有するユーザー ID のホーム・ディレクトリを表します。

DBI1273W インスタンス用の DB2 Text Search インスタンス・サービスを構成できませんでした。理由コード: *reason-code*

説明: DB2 Text Search のインスタンスを構成しようとして失敗しました。次のような理由が考えられます。

1

- DB2 Text Search がインストールされていません。インストール・メディアから DB2 Text Search をインストールしてから、再度試行してください。
- 2 指定されたサービス名またはポート番号が無効です。有効なサービス名の長さは 14 文字を超えてはならず、有効なポート番号は 1024 から 65535 の範囲でなければなりません。
- 3 指定されたポート番号は、別のアプリケーションによって使用されています。システムで使用可能なポート番号を選択してください。
- 4 指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を指定してください。
- 5 TCP/IP サービス・ファイルにアクセスできませんでした。サービス・ファイルの読み取りおよび書き込みを行う権限があるかどうかを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、項目の重複がないことも確認してください。
- 6 デフォルトのサービス名が、指定されたポート番号とは異なるポート番号に予約されています。TCP/IP サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。
- 7 デフォルトのサービス名が、別のアプリケーションによって使用されているポート番号に予約されています。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を選択してください。
- 8 指定されたサービス名は、別のアプリケーションによって使用されているポート番号に予約されています。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を選択してください。
- 9 インスタンス・ディレクトリーに DB2 Text Search ディレクトリーまたはファイルを作成あるいはコピーしようとして失敗しました。
- 10 インスタンス・ディレクトリーで DB2 Text Search ファイルの読み取りあるいは書き込みを行おうとして失敗しました。
- 11 DB2 Text Search インスタンス・サービス Windows サービスを作成しようとして失敗しました。
- 12 予期しない内部エラーが発生しました。
- ユーザーの処置:** 理由コードと関連する提案されたアクションを行っても問題が解決しなかった場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。
-
- DBI1274N** インスタンス用の DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止できませんでした。
- 説明:** DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止しようとして失敗しました。Windows サービスを停止できませんでした。
- ユーザーの処置:** インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを停止し、コマンドを再試行してください。
-
- DBI1275E** インスタンス用の DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止できませんでした。
- 説明:** DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止しようとして失敗しました。
- ユーザーの処置:** インスタンス用の DB2 Text Search インスタンス・サービスを停止し、コマンドを再試行してください。
-
- DBI1276E** インストールを実行したユーザー ID でログイン中に *install-path* での DB2 インストールを更新する必要があります。
- 説明:** DB2 インストールを更新できるのは、DB2 インストールを実行したユーザー ID で *installFixPack* コマンドを実行する場合のみです。
- DB2 ルート・インストールを更新するには、root 権限を持つユーザーとして *installFixPack* コマンドを実行する必要があります。
- ユーザーの処置:** 該当するユーザー ID を使用してコマンドを再実行してください。
-

DBI1277E インストール・パスとランタイム・パスとが一致しません。

説明: db2chgpath を使用してランタイム・パスを設定する際に、DB2 の実行元である現行パスとは一致しないパスが指定されました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- インストール・パスをランタイム・パスと一致するように移動する。
- db2chgpath に現在のインストール・パスと一致する正しいランタイム・パスを指定して実行する。

DBI1278W 応答ファイルから警告が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に警告を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: 必要であれば、応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

DBI1279I 応答ファイルから注意が出されました。

説明: 応答ファイルの処理中に注意を検出しました。DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

DBI1280E 1 つ以上のパラメーターが複数回指定されていたため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。

説明: db2cluster_prepare ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

このメッセージは、重複パラメーターを指定して db2cluster_prepare コマンドを呼び出した場合に返されません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 各パラメーターを 1 回だけ指定して、db2cluster_prepare コマンドを再び実行します。

DBI1281E データベース・マネージャー構成ファイルが初期化できませんでした。

説明: データベース・マネージャー構成ファイルの初期化中にエラーが発生しました。DB2 インスタンスを作成またはアップグレードできませんでした。

ユーザーの処置: トラブルシューティングについては、ログ・ファイルを参照してください。問題を解決してコマンドを再試行してください。問題が続く場合、IBM

サービス担当者に連絡してください。

DBI1282W データベース・マネージャー構成ファイルがマージできませんでした。元の構成ファイルは、dbm-cfg-file-name として保管されました。(元のインスタンス・タイプは、original-instance-type です。アップグレードまたは更新されるインスタンス・タイプは、instance-type-upgraded です。)

説明: 2 つのデータベース・マネージャー構成ファイルのマージ中に、エラーが検出されました。前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、新しいデータベース・マネージャー構成ファイルとマージできませんでした。このエラーは、インスタンスが高位のインスタンス・タイプから低位のインスタンス・タイプにアップグレードまたは更新される場合に生じることがあります。

インスタンスの更新またはアップグレードが成功した場合、instance-type-upgrade のデフォルト構成設定値を使用して、新しいインスタンスが作成されます。

このエラーは、インスタンスが高位のインスタンス・タイプから低位のインスタンス・タイプにアップグレードまたは更新される場合に生じることがあります。更新またはアップグレードが成功した場合、新しいインスタンスは新しいインスタンス・タイプ用のデフォルトの構成設定を使用します。

ユーザーの処置: 新しいデータベース・マネージャー構成ファイル内の値を確認し、元の構成ファイルである dbm-cfg-file-name を使用して、必要に応じてパラメーターの更新を行います。

DBI1283E instance に対する通信情報を更新できません。

説明: SVCENAME パラメーターまたは DB2COMM レジストリー値、あるいはその両方を、インスタンス作成中に更新できませんでした。

ユーザーの処置: SVCENAME パラメーターがデータベース・マネージャー構成ファイルで“<profile-name>”に設定されていて、次の例を使用して更新されることを確認してください。

```
db2 update dbm cfg using
SVCENAME "<profile-name>"
また、DB2COMM 変数は、次のコマンドを実行して
tcpip に更新されることを確認してください。
db2set DB2COMM=tcpip
```


DBI1284I *feature-name* が正常に設定されました。

DBI1285E *feature-name* の設定が失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

DBI1286E ユーティリティ *utility-name* が見つかりませんでした。

説明: ユーティリティは、DB2 製品をインストールまたは更新するためにシステムで使用する必要がありません。

ユーザーの処置: ユーティリティがインストールされており、そのロケーションが PATH 環境変数内であることを確認してください。

コマンドを再入力してください。

DBI1287E *db2_deinstall* の実行場所である現在のプラットフォーム *platform* とは異なるプラットフォームのためのイメージに対して、それを使用しようとしていました。

説明: 可能性のある理由は、以下のとおりです。

- この DB2 インストール・イメージが現在のプラットフォームに対して有効なものではない。
- 現在のプラットフォームが DB2 でサポートされていない。

ユーザーの処置: 現在のプラットフォーム *platform* に対応する DB2 インストール・イメージを使用して、DB2 を除去するか、またはコマンド *db2_deinstall* をディレクトリー '*DB2DIR/install*' から直接実行してください。ここで、*DB2DIR* は DB2 インストール・パスです。

DBI1288E プログラム *program-name* の実行が失敗しました。このプログラムが失敗したのは、ディレクトリーまたはファイル *directory-or-file-name* に対する書き込み許可がないためです。

説明: このエラーの理由には、以下が含まれます。

- 指定のディレクトリーまたはファイルは現在のマシンのローカル・ファイル・システム上にありますが、プログラムを実行中のユーザー ID にはそのディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。
- 指定のディレクトリーまたはファイルは現在のマシンにマウントされた NFS マウント・ファイル・システム上にありますが、現在のユーザー ID にはそのディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。

上にありますが、現在のユーザー ID にはそのディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。

- 現在のユーザー ID には、ターゲット・パーティションに存在する指定のディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。これは、現在のマシンのオペレーティング・システムが IBM AIX パーティション 6.1 以降であり、Workload Partition の root ユーザー ID が Global Partition に書き込もうとしている場合に発生することがあります。
- 現在のユーザー ID には、ターゲット・ゾーンに存在するディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。これは、現在のマシンのオペレーティング・システムが Sun Solaris 10 以降であり、ローカル・ゾーンの root ユーザー ID がグローバル・ゾーンに書き込もうとしている場合に発生することがあります。
- 現在のマシンは Sun Solaris Operating System を、グローバル・ゾーンに存在するディレクトリーまたはファイルに対して書き込み許可を持たないローカル・ゾーンで実行しています。

ユーザーの処置: このメッセージに応答するには、以下に示すいくつかの方法があります。

- 指定のディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可を持つユーザー ID を使用してプログラムを実行します。
- ディレクトリーまたはファイルの許可を変更して、ユーザー ID がそのディレクトリーまたはファイルに書き込むことができるようにしてから、プログラムを再実行します。
- ユーザー ID の権限を変更して、そのユーザー ID が指定のディレクトリーまたはファイルに書き込むことができるようにしてから、プログラムを再実行します。

DBI1289W DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティ *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) に関連するファイルのファイル許可および所有権プロパティの構成に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

説明: DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティは、DB2 インスタンス・ホーム・ディレクトリーの下で *sqlib/acs* ディレクトリーにある DB2 ACS ファイルの許可および所有権を構成しようとしていました。指定されたログ・ファイルには、DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティが失敗した理由についての情報が含まれます。

DBI1290E

DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーがこれらのファイルの許可および所有権の構成に失敗したので、DB2 ACS は使用できない可能性があります。

ユーザーの処置: DB2 ACS を使用しない場合は、IBM データ・サーバーを再インストールしたり、DB2 インスタンスを再作成したりする必要はありません。

DB2 ACS を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正し、ログ・ファイルが推奨する処置を取る。

DB2 ACS の構成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスの構成』を参照してください。

DBI1290E プロファイル・レジストリー *profile-name* を作成しようとしたますが、失敗しました。

説明: プロファイル・レジストリーの作成中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーにおけるアクセス許可に誤りがある。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

ユーザーの処置: 現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーにおけるディレクトリー許可を確認してください。

DBI1291E インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: “db2ilist”コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいことを確認してください。有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1292E インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成またはアップグレード中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドで報告されているインスタンス・リストの一部でない別のインスタンス名を使用してください。

DBI1293E このシステムには DB2 Query Patroller サーバーがセットアップされていません。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーによって DB2 Query Patroller がインストールされていない場合、このインストーラーを使用して DB2 Query Patroller サーバーで使用するインスタンスを正しくセットアップします。インスタンスがセットアップされている場合は、それが default.env ファイルに記録されていて、そのファイルが全ユーザー読み取り可能であることを確認してください。default.env ファイルは以下のいずれかにありません。

/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、

n はフィックスバック番号)

または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、

n はフィックスバック番号)

DBI1294W DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) の開始に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

説明: DB2 ACS を使用する前に、このサービスを開始する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを開始しようとしたますが、失敗しました。

DB2 インスタンスは使用できますが、DB2 ACS はこのサービスが開始するまでは使用できません。

ユーザーの処置: DB2 ACS を開始するには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で開始する。

DB2 ACS の手動開始について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスの開始』を参照してください。

DBI1295E インスタンス・リストを更新できませんでした。

説明: インスタンスをインスタンス・リストへ追加できなかったか、またはインスタンス・リストから除去できませんでした。インスタンス・リストからインスタンスを追加または削除しているときにエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- レジストリー・プロファイルに誤ったアクセス許可がある。

- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

ユーザーの処置: 現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリー下のインスタンス・リスト・プロファイルにおけるファイル許可を確認してください。

DBI1296E DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) の停止に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

説明: DB2 インスタンスを更新またはアップグレードする前に、DB2 ACS を停止する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを停止しようとしたが、失敗しました。

DB2 インスタンスの更新またはアップグレードは、DB2 ACS が停止するまでは行うことができません。

ユーザーの処置: DB2 ACS を停止するには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で停止する。

DB2 拡張コピー・サービス (ACS) の手動停止について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1297E インスタンス・プロファイル *profile-name* を更新できませんでした。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーの更新中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンス・プロファイル・レジストリーに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

ユーザーの処置: 現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリー下のインスタンス・リスト・プロファイルにおけるファイル許可を確認してください。

DBI1298E DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) を使用不可にできませんでした。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。

説明: DB2 インスタンスをドロップする、あるいは IBM Data Server の非ルート・インストールを除去する前に、DB2 ACS を停止する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを使用不可にしようとしたが、失敗しました。

DB2 インスタンスのドロップまたは IBM データ・サーバーの非ルート・インストールの除去は、DB2 ACS が使用不可にされるまでは行えません。

ユーザーの処置: DB2 ACS を使用不可にするには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で使用不可にする。

DB2 ACS を手動で使用不可にすることに関して詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスを使用不可にする』を参照してください。

DBI1299E 集約セットのメンバーであるため、DB2 プロファイル・レジストリー変数 *variable-name* が無効になりませんでした。

説明: 複数の DB2 プロファイル・レジストリー変数をグループ化して、1 つの集約 DB2 プロファイル・レジストリー変数として設定できます。集約 DB2 プロファイル・レジストリー変数を構成すると、そのセットのメンバーである DB2 プロファイル・レジストリー変数は、事前定義値に自動的に構成されます。

集約セットのメンバーである DB2 プロファイル・レジストリー変数を、以下の `db2set` コマンド構文を使用して無効にすることはできません。

```
db2set variable-name=
```

変数は無効になりませんでした。

ユーザーの処置: 集約セットのメンバーである DB2 プロファイル・レジストリー変数を無効にするには、以下の `db2set` コマンド構文を使用して変数を NULL に設定します。

```
db2set -null variable-name
```

DBI1300N db2set は DB2 プロファイル変数を表示、設定、あるいは取り除きます。

```
db2set [variable=[value]]
      [-gl-i instance [member-number]]
      [-all]
      [-null]
      [-r [instance] [member-number]]
      [-iml-immediate]
      [-info]
      [-n DAS node[-u user[-p password]]]
      [-ll-lr]
      [-v]
      [-ull-ur]
      [-?!-h]
```

説明: コマンド・オプションは以下のとおりです。

-g
グローバル・プロファイル変数にアクセスする

-i
現行あるいはデフォルト値の代わりに使用するインスタンス・プロファイルを指定する

-n
リモート DB2 Administration Server ノード名を指定する

-u
Administration Server アタッチで使用するユーザー ID を指定する

-ul
ユーザー・プロファイル変数にアクセスする

-ur
ユーザー・プロファイル変数をリフレッシュする

-p
Admin Server アタッチで使用するパスワードを指定する

-r
与えられたインスタンスに対するプロファイル・レジストリーをリセットする。何も指定されない場合、デフォルトまたは現行のインスタンスが使用されます

-im | -immediate

このフィーチャーをサポートするレジストリー変数に対して次回 SQL ステートメントがコンパイルされたときに、更新が有効になることを指定する。

-info

指定された変数のプロパティを返す。プロパティは、即時の変更が変数によってサポートされているか、および変更がデフォルトで即時かどうかを示します

-l

すべてのインスタンス・プロファイルをリストする

-lr

サポートされたすべてのレジストリー変数をリストする

-v

Verbose モード

-?

コマンド・ヘルプ・メッセージを表示する

-h

-? オプションと同じ

-all

次のように定義されているローカル環境変数のすべてのオカレンスを表示する

- 環境は、[e] で示されます。
- ユーザー・レベル・レジストリーは、[u] で示されます。
- ノード・レベル・レジストリーは、[n] で示されます。
- インスタンス・レベル・レジストリーは、[i] で示されます。
- グローバル・レベル・レジストリーは、[g] で示されます。

-null

指定されたレジストリー・レベルで変数の値を null に設定し、変数値の検索順序で定義されている次のレジストリー・レベルの変数を参照できないようにする。

注:

- 変数名なしの db2set では定義されている変数をすべて表示します。
- db2set <variable> では <variable> の値を表示します。
- db2set <variable>= (nothing) では <variable> を削除します。
- db2set <variable>=<value> では <variable> の値を修正します。

- db2set <variable> -null では <variable> の値を NULL に設定します。
- db2set <variable> -all では定義されているすべての <variable> の値を表示します。
- db2set -ur では現行ユーザー・プロファイルをリフレッシュします。
- db2set <variable> -ul ではユーザー・レベルで定義された <variables> を表示します。
- db2set -all では、すべてのレジストリー・レベルで定義されているすべての変数を表示します。

ユーザーの処置:**DBI1301E 値が無効です。**

説明: レジストリー変数に指定した値は無効です。

ユーザーの処置: DB2 インフォメーション・センターを参照して、レジストリー変数の有効な値を確かめてください。

DBI1302E 無効なパラメーターを検出しました。

説明: 無効なパラメーターが使用されました。

ユーザーの処置: 使用法のヘルプ・メッセージを調べるには、-? を使ってください。

DBI1303W 変数が設定されていません。

説明: 変数がプロファイル・レジストリーに設定されていません。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBI1304E 予期しないエラー。

説明: ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

DBI1305E プロファイル・レジストリーが見つかりません。

説明: ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

ユーザーの処置: DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

DBI1306N インスタンス・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンスがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 既存のインスタンス名を指定するか、あるいは必要なインスタンスを作成してください。

DBI1307N インスタンス・ノード・プロファイルが定義されていません。

説明: インスタンス・ノードがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

ユーザーの処置: 必要な DB2 製品パーツをインストールしてレジストリーを作成してください。

DBI1308E メモリー不足状態が発生しました。

説明: ツールで「メモリー・リソース不足」エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システムのメモリー・リソースが少なくなっています。不要なアプリケーションを終了するか、またはあとで再試行してください。

DBI1309E システム・エラー。

説明: ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。レジストリーがある場所のファイル・システムにメモリーが十分あるか、およびレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

DBI1310E リモート・レジストリー・アクセスがサポートされていません。

説明: ツールではリモート・レジストリー・オプションをサポートしていません。

ユーザーの処置: レジストリーにリモート・アクセスする方法についてはコマンド・リファレンスを参照してください。

DBI1311I レジストリー・インスタンス・プロファイルをリスト中...**DBI1312I 定義済みグローバル変数をリスト中...**

DBI1313I 定義済みインスタンス変数をリスト中...

DBI1314I サポートされているすべてのレジストリー変数をリスト中...

DBI1315E 指定された変数は集約タイプのレジストリー変数ではありません。

説明: グループ定義を表示するには、レジストリー変数が集約タイプのレジストリー変数でなければなりません。

ユーザーの処置: -gd オプションを指定しないでください。-gd オプションを使用する場合は有効な集約変数名を指定してください。

DBI1316E インスタンスが MPP ではありません。

説明: ターゲット・インスタンスが DB2 MPP インスタンスではありません。

ユーザーの処置: MPP インスタンスを選択してください。

DBI1317E インスタンス・ノードがすでにあります。

説明: インスタンス・ノードが重複して存在しています。

ユーザーの処置: 別のインスタンス・ノードを選択してください。

DBI1318E レジストリー変数に指定した値は長すぎます。

説明: レジストリー変数に指定した値は、上限を超えています。レジストリー変数値の上限の長さは 255 バイトです。

ユーザーの処置: それより短い値をレジストリー変数に指定してください。

DBI1319W 変数 *variable-name* は明示的に設定され、集約変数 *aggregate-var-name* の構成によって影響を受けません。

説明: 集約レジストリー変数は、グループ定義に明示的に構成された変数の設定が含まれる値に構成されました。明示的に構成された値は保存されます。

ユーザーの処置: 必要であれば、明示的に変数を構成してください。

DBI1320W 警告:

説明: このスクリプトは、ユーザーに起こりうる問題のデバッグのために IBM サポートが有益な情報を収集するために使用されます。この情報は、機密情報場合があります。出力ファイル db2ginfo.txt は IBM サポートに送信する前に編集することができます。

ユーザーの処置: この警告を認識して承諾したことを通知するため、このスクリプトに -y フラグを指定して実行します。

DBI1321W DB2 インスタンス *instance-name* の ulimit 設定は、現在のプラットフォーム上の DB2 のための推奨値を遵守していません。

説明: 現在の root 以外の DB2 インスタンスに対する ulimit 設定では、「data」および「nofiles」の値が現在のプラットフォーム用に DB2 が推奨する値よりも小さくなっています。「data」を「unlimited」に設定し、「nofiles」を「65536」またはシステムで許可される最大値に設定します。「data」を「unlimited」に設定できない場合、以下の公式を参照として使用して、現在のプラットフォーム用に DB2 が必要とする「data」の推奨値をキロバイト単位で判別できます。

$$\text{default_data_ulimit} + ((20 * \text{max_concurrent_active_databases}) + \text{estimated_max_connections}) * \text{max_querydegree} * 8192$$

説明:

1. default_data_ulimit は、システム上のユーザーに対する ulimit の「data」のデフォルト値です。例えば、IBM AIX システムでのデフォルト値は 262144 です。
2. max_concurrent_active_databases は、DB2 インスタンス用に並行してアクティブなデータベースの最大数です。
3. estimated_max_connections は、DB2 インスタンス用のデータベース接続の推定最大数です。
4. max_querydegree は、INTRA_PARALLEL が DB2 データベース・マネージャー構成で有効な場合に、DB2 データベース・マネージャー構成のパラメーター "MAX_QUERYDEGREE" の値です。INTRA_PARALLEL が有効でない場合、max_querydegree の値は 1 です。

ユーザーの処置: root 特権を付与されているシステム管理者に、現在の DB2 インスタンス用に ulimit 設定の更新を依頼してください。

DBI1322I 使用方法:

```
db2iprun -r input_file_path
          -o destination_dir_path | -c
          [-t trace_file]
          [-l log_filename]
          [-hl-?]
```

説明: 間違った引数が db2iprun コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-r input_file_path

使用される入力ファイルへの絶対パスを指定します。入力ファイルである .prn file には、除去可能なコンポーネントの完全なリストが収められています。このファイルを使用して、インストール・イメージから除去したい製品、コンポーネント、および言語を示します。

-o destination_directory_path

整理された新規 DB2 イメージがコピーされる場所への絶対パスを指定します。このディレクトリへの書き込み権限があることを確認してください。

-c

ソース・インストール・イメージを直接整理するよう指定します。ソース・インストール・イメージのディレクトリが書き込み可能であることを確認してください。

-t trace_file

(Linux および UNIX オペレーティング・システム上のみ) デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

-l log_filename

エラー・ロギングを使用可能に設定します。Linux および UNIX オペレーティング・システム上で、-l オプションを指定しない場合、デフォルトのログ・ファイル名は tmpdir/db2iprun_username.log です。Windows オペレーティング・システム上では、ログ・ファイル db2iprun.log は宛先ディレクトリに書き込まれます。

-hl-?

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターで db2iprun コマンドの例および使用上の注意を参照してください。

DBI1323I 使用方法:

```
db2rspgn -d output_directory
          [-i instance]
          [-t trace-file]
          [-hl-?]
```

説明: 間違った引数が db2rspgn コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-d

生成ファイルの出力ディレクトリへの絶対パスを指定します。指定された出力ディレクトリが既存のディレクトリである場合、そのディレクトリは空で書き込み可能でなければなりません。指定された出力ディレクトリが存在しない場合、そのロケーションが書き込み可能であれば、新しくディレクトリが作成されます。このパラメーターは必須です。

-i instance

指定されたインスタンス構成を生成し、この情報を、生成された応答ファイルおよびインスタンス構成プロファイルに保存します。このパラメーターはオプションです。デフォルトでは、すべてのインスタンスが選択されます。複数インスタンスを指定するには、複数回このパラメーターを指定します。例えば -i db2inst1 -i db2inst3 とします。

-t trace-file

Linux および UNIX オペレーティング・システムのみです。デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、trace-file として名前を指定したファイルに書き込まれます。

-hl-?

ヘルプ情報を表示します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1324W *command-name* コマンドのサポートは推奨されていません。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1325E *command-name* コマンドが失敗しました。

説明: 少なくとも 1 つのインスタンスが、依然として DB2 Text Search インスタンス・サービスを実行しています。

ユーザーの処置: DB2 テキスト検索インスタンス・サービスを停止して、コマンドを再実行してください。

DBI1326W Text Search インスタンス・サービスの再始動に失敗しました。

説明: DB2 インスタンス・コマンドの実行前に、Text Search インスタンス・サービスが停止されていませんでした。DB2 プロセスによって Text Search インスタンス・サービスが停止されました。しかし、DB2 プロセスで Text Search インスタンス・サービスを再始動できません。

ユーザーの処置: Text Search インスタンス・サービスを手動で再始動してください。

DBI1327E インスタンス所有者のホーム・ディレクトリが、DB2 製品がインストールされているディレクトリの下サブディレクトリであるため、db2icrt コマンドは失敗しました。

説明: インスタンス所有者のホーム・ディレクトリを、DB2 製品がインストールされているディレクトリの下サブディレクトリにすることはできません。

例えば、DB2 製品が /opt/db2v97 という名前のディレクトリにインストールされている場合、インスタンス所有者となるユーザーのホーム・ディレクトリは、/opt/db2v97 の下のどのディレクトリにすることもできません。

このメッセージは、以下のシナリオで返されます。

- Linux および UNIX オペレーティング・システムの場合: インスタンス所有者のホーム・ディレクトリが、DB2 製品がインストールされているディレクトリの下サブディレクトリです。

DB2 インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置:

1. インスタンス所有者のホーム・ディレクトリが、DB2 製品がインストールされているディレクトリの下サブディレクトリにならないように、ユーザー環境とディレクトリ構造を構成します。
2. db2icrt コマンドを再び実行します。

DBI1328E -instance_shared_dev パラメーターに値が指定されていなかったため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。

説明: db2cluster_prepare ユーティリティを使用し、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

必須の -instance_shared_dev パラメーターを使用して、GPFS ファイル・システムが作成される共有装置への絶

対パスを指定する必要があります。db2cluster_prepare ユーティリティは、指定された場所に GPFS ファイル・システムを作成します。

このメッセージは、-instance_shared_dev パラメーターに値を指定しないで db2cluster_prepare コマンドを呼び出した場合に返されます。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: -instance_shared_dev パラメーターに値を指定して、db2cluster_prepare コマンドを再び実行します。

DBI1329I 使用法:
db2val [-hl-?]
 [-o]
 [-i inst_name1] | [-a]
 [-b db_name]
 [-t trace_file]
 [-d]
 [-s]
 [-l log_file]

説明: db2val コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-o

インストール・ファイルのみを妥当性検査するよう指定します。インスタンス、データベース、および拡張セキュリティの妥当性検査は実行されません。このパラメーターを指定すると、-i、-a、-b、および -s パラメーターは無視されます。

-i inst_name

インスタンスの名前を妥当性検査するよう指定します。複数インスタンスの妥当性検査を指定するには、複数回このパラメーターを指定します。例えば -i inst1 -i inst2 とします。

- Windows オペレーティング・システム上では、このパラメーターを指定しないと、現在のインスタンスがデフォルト値として使用されます。

- Linux および UNIX オペレーティング・システム上では、このパラメーターは、DB2 コピーの root インストールで root ユーザーによってのみ使用されます。

-a

DB2 コピー内のインスタンスすべてを妥当性検査します。Linux および UNIX オペレーティング・システム上では、このパラメーターは、DB2 コピーの root インストールで root

ユーザーによってのみ使用されます。このオプションは `-i` オプションをオーバーライドします。

-b db_name

指定のデータベース名により、ローカル・データベースの作成および接続を妥当性検査します。このパラメーターは、以下のシナリオで無視されます。

- 妥当性検査の対象となるインスタンスが、クライアント・インスタンスである。
- root ユーザーによる `db2val` の実行時に、`-a` および `-i` が指定されない (Linux および UNIX 上のみ)。

-t trace_file

`trace_file` で指定されるトレース・ファイルの絶対パスと名前を指定します。

-d

このパラメーターは推奨されていません。これは、将来のリリースで廃止される可能性があります。代わりに `-t` パラメーターを使用してください。Linux および UNIX オペレーティング・システムでのみ有効です。このパラメーターは、DB2 サポートから指示された場合のみ使用してください。デバッグ・モードをオンにします。

-s

パーティション・データベース環境の一部である、指定されたインスタンスの DB2 データベース・マネージャーを開始します。

-l log_file

名前を指定したファイルにログを書き込みます。 `-l` パラメーターを指定しない場合、デフォルトのログ・パスは以下のとおりです。

- Linux および Unix 上では、`/tmp/db2valxx.log`
- Windows 上では、`My Documents¥DB2LOG¥db2valxx.log`

ここで、`xx` は生成された値です。

-hl-?

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1330W アクションが別のインスタンスに影響する可能性があります。

説明: ファイル `IWH.environment` には、すべてのインスタンスのグローバル情報が入っています。このファイルを更新すると、すべてのインスタンスに影響する可能性があります。続行しますか?

DBI1331E DB2 コピー `copy_name` のインストール・ファイル妥当性検査が失敗しました。

説明: 欠落ファイルを含むフィーチャーまたはコンポーネント、あるいはサイズが正しくないフィーチャーまたはコンポーネントがあります。

ユーザーの処置: DB2 インストールを修復するには、「プログラムの追加と削除」ツールから、DB2 コピーの「変更」を選択し、「修復」オプションを選択します。`db2val` コマンドを再実行してください。

DBI1332E `IWH.environment` のテンプレート・ファイルが見つかりません。

説明: `IWH.environment` のテンプレート・ファイルが必要です。

DBI1333I DB2 コピー `copy_name` のインストール・ファイル妥当性検査が成功しました。

DBI1334E `installation_location` にインストールされた DB2 コピーのインストール・ファイル妥当性検査が失敗しました。理由コード = `reason_code`。

説明:

1. 欠落ファイルあるいはサイズが正しくないファイルを含む、フィーチャーまたはコンポーネントがあります。
2. インストール・パス内のインストール・イメージには、欠落ファイルがあります。
3. DB2 ライブラリーまたは実行可能ファイルの中に、組み込まれたランタイム・パスが正しく設定されていないものがあります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

1. DB2 コピーに DB2 pureCluster Feature がインストールされている場合は、インストール・メディアから `installFixPack` コマンドを実行することで (`installFixPack -f level -p <new_path>`) DB2 コピーを新しいパスに再インストールし、`db2iupdt` コマンドを使用してインスタンスを新規コピーに更新し、続いて `db2val` コマンドを再実行する必要があります。

DBI1335I

DB2 コピーに DB2 pureCluster がインストールされていない場合は、installFixPack コマンドに -f パラメーターを指定して実行することで (installFixPack -f level) DB2 コピーを同じパスに再インストールし、続いて db2val コマンドを再実行します。

2. インストール・イメージを <DB2-installation-path>/sd ディレクトリーにコピーします。
3. root インストールの場合は、<DB2-installation-path>/install/db2chgpath を root として実行します。非 root インストールの場合は、<DB2-installation-path>/install/db2chgpath をコピー所有者として実行します。db2val コマンドを再実行してください。

DBI1335I *installation_location* にインストールされた DB2 コピーのインストール・ファイル妥当性検査が成功しました。

DBI1336E インスタンス *instance_name* におけるパーティション・データベース環境の妥当性検査が失敗しました。理由コード = *reason_code*。

説明:

1. DB2 ノード構成ファイル (db2nodes.cfg) のフォーマットが正しくありません。
2. 他のデータベース・パーティション・サーバーがアクセス不能です。
3. 高速コミュニケーション・マネージャー (FCM) 用のスタート・ポートおよびエンド・ポートが正しく予約されていないデータベース・パーティション・サーバーがあります。
4. インスタンス・プロファイル・ディレクトリーにアクセスできないデータベース・パーティション・サーバーがあります。
5. インスタンス・サービスが、非ドメイン・アカウント下で実行されています。このため、DB2 インスタンスを開始できなくなります。
6. インスタンスのインストール・ディレクトリーにアクセスできないデータベース・パーティション・サーバーがあります。
7. 各データベース・パーティション・サーバー間でコード・レベルの整合性が取れていません。
8. Windows オペレーティング・システム上では、db2val コマンドを実行して複数パーティション・インスタンスを妥当性検査する場合、ドメイン・ユーザー・アカウント権限が必要です。
9. 予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. db2nodes.cfg のフォーマットが DB2 規格に準拠していることを確認します。
2. すべてのパーティション上で .rhosts ファイルが構成されていることを確認します。DB2RSHCMD レジストリー変数を ssh に設定している場合、ssh リモート・シェル・ユーティリティーが使用可能であることを確認してください。
3. パーティション・データベース環境で使用する各コンピューター上で、FCM 用のスタート・ポートおよびエンド・ポートが空いており、予約されていることを確認します。使用する各コンピューター上でスタート・ポートを同一にしてください。
4. インスタンスを所有するマシン上のインスタンス・プロファイル・ディレクトリーが、すべてのデータベース・パーティション・サーバー間で共有されていることを確認します。インスタンス・プロファイル・ディレクトリーは、UNC 形式にしてください。
5. すべてのデータベース・パーティション・サーバー上で、インスタンス・サービスのためにドメイン・アカウントを使用します。
6. インストール・ディレクトリーが、すべてのデータベース・パーティション・サーバーからアクセス可能であることを確認します。
7. パーティション・データベース環境で使用するコンピューターのすべてに、同じコード・レベルがインストールされていることを確認します。
8. ドメイン・ユーザー・アカウント権限を持つユーザーとしてログオンし、コマンドを再実行します。
9. db2val コマンドを再実行してください。このエラーが続く場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1337I インスタンス *instance_name* のパーティション・データベース環境の妥当性検査が成功しました。

DBI1338E インスタンス *instance_name* の妥当性検査が失敗しました。理由コード = *reason_code*

説明:

1. デフォルト・インスタンスが設定されていません。
2. インスタンス・ディレクトリー内のいくつかのファイルが損傷しています。ファイルのシンボリック・リンクは現在の DB2 コピーのインストール・パスを指していません。ファイル許可および所有権が変更された可能性があります。
3. 現在のユーザーは DB2 Extended Security セットアップでインスタンスを開始することを許可されてい

ません。Extended Security が有効な場合、ユーザーは DB2ADMNS グループに属している必要があります。

4. インスタンスを開始するには /etc/services ファイルに対する読み取り許可が必要です。
5. このインスタンスを妥当性検査するには適切な権限が必要です。
6. パーティション・データベース環境の設定が正しくありません。
7. システム・エラーのために、インスタンスの開始が失敗しました。
8. 予期しない内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. DB2INSTDEF プロファイル・レジストリー変数を DB2 コピーのインスタンスに設定してください。
2. インスタンスに対して -k オプションを使用して db2iupdt または db2nrupdt コマンドを実行します。
3. 現在のユーザーを DB2ADMNS グループに追加して、コマンドを再実行します。
4. /etc/services ファイルに対する読み取り許可があることを確認してください。
5. 許可の詳細は、DB2 インフォメーション・センターの db2val コマンドを参照してください。その後、適切な権限を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再実行してください。
6. 詳細については、パーティション・データベース環境の妥当性検査ログ・ファイルを調べてください。
7. 詳細については、ログ・ファイルを調べてください。
8. db2val コマンドを再実行してください。このエラーが続く場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1339I インスタンス *instance_name* に対するインスタンス妥当性検査が成功しました。

DBI1340I インスタンス *instance_name* に対するデータベース妥当性検査が成功しました。

DBI1341E ID には要求されたコマンドを実行する権限がありません。

説明: コマンドを実行するには、適切な権限が必要です。許可の詳細は、DB2 インフォメーション・センターの db2val コマンドを参照してください。

ユーザーの処置: 適切な権限を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再実行してください。

DBI1342E インスタンス *instance_name* は、現在の DB2 コピーの中に存在しません。

説明: 指定されたインスタンスは現在の DB2 コピーの中に存在しないため、妥当性検査されません。

ユーザーの処置: 現在の DB2 コピーに関する db2iilist コマンドでリストされるいずれかのインスタンスを指定して、db2val コマンドを再実行してください。

DBI1343I db2val コマンドが正常に完了しました。詳細については、ログ・ファイル *log_path* を参照してください。

DBI1344E db2val コマンドの妥当性検査タスクが失敗しました。詳細については、ログ・ファイル *log_path* を参照してください。

DBI1345W /etc/services ファイルに対する読み取り許可は、すべてのユーザーに付与されるわけではありません。この許可がない場合、インスタンスの作成が失敗する可能性があります。

説明: インスタンスを作成する際には、インスタンスを管理するユーザーが /etc/services ファイルに対する読み取り許可を持っている必要があります。

ユーザーの処置: ユーザーが /etc/services ファイルに対する読み取り許可を持っていることを確認してください。

DBI1346W データベース・マネージャー構成変数 DFTDBPATH で定義されたパス *path* は、現在のデータベース・パーティション・サーバーでアクセスできません。これが原因で、データベースの作成が失敗する可能性があります。

DBI1347W db2val コマンドが完了しましたが、警告が出されました。詳細については、ログ・ファイル *log_path* を参照してください。

DBI1348W インストール・ディレクトリーに対する読み取りと実行の許可は、すべてのユーザーに付与されるわけではありません。この許可がない場合、DB2 製品を使用する際に問題が発生する可能性があります。

DBI1349W *installation_location* にインストールされた DB2 コピーに対するインストール・ファイル妥当性検査が完了しましたが、警告が出されました。詳細については、ログ・ファイル *log_path* を参照してください。

DBI1350E インスタンス *instance_name* に対するデータベース妥当性検査が失敗しました。理由コード *=reason_code*

説明: 以下のいずれかの理由により、データベースの妥当性検査が失敗しました。

1. システムのエラーにより、データベース作成が失敗した。
2. システムのエラーにより、データベース接続が失敗した。
3. 予期しない内部エラーが発生した。

ユーザーの処置: ログ・ファイルで詳細を調べるか、*db2val* コマンドを再実行してください。このエラーが続く場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1351E このコマンドを実行するには、インスタンス所有者でなければなりません。

説明: このコマンドを実行するには、DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者でなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスがファイル *default.env* に正しく記録されていることを確認します。DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者としてログインし、このコマンドを再発行してください。*default.env* は、現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーの下にあります。

DBI1352E インスタンス *instance-name* は ESE インスタンスではありません。

説明: DB2 Query Patroller サーバー/エージェントは、ESE インスタンスに作成する必要があります。

ユーザーの処置: 有効な ESE インスタンス名を使ってこのコマンドを再実行するか、またはこのコマンドを再実行する前に、新しい ESE インスタンスを作成してセットアップしてください。

DBI1353E DB2 Query Patroller サーバーはすでにインスタンスにセットアップされています。

説明: DB2 Query Patroller サーバーは 1 つの DB2 インスタンスにのみセットアップできます。

ユーザーの処置: コマンド *dqplist* を実行して、DB2

Query Patroller サーバーとして使用されているインスタンスの名前を見つけます。インスタンス名が正しい場合には、サーバーのセットアップに *dqpcrt* を実行する必要はありません。エージェントをセットアップする場合は、正しいインスタンス名を使用する必要があります。このインスタンスがエージェントをセットアップする目的で使用されない場合、次のコマンドを実行して除去します。

dqpdrop inst_name

次に、*dqpcrt* コマンドを再実行してください。

DBI1354E インスタンス *instance-name* が DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスではありません。

ユーザーの処置: *dqplist* で正しいサーバー・インスタンス名を探して、コマンドを再実行してください。

DBI1355I 使用法:
**dqpcrt [-hl-?] -sl-a
-p PortName InstName**

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

PortName

DB2 Query Patroller サーバー/エージェントで使用するポート名

InstaName

DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスとして指定するインスタンスの名前

-s 指定のインスタンスに DB2 Query Patroller サーバーを作成する

-a 指定のインスタンスに DB2 Query Patroller エージェントを作成する

-hl-? 使用情報を表示する

-a オプションは、複数パーティションのデータベース・インスタンスにのみ有効です。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1356I 使用法:
dqplist [-hl-?]

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-hl-? 使用情報を表示する

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1357I 使用方法:
dqpdrop [-hl-?] InstName

説明: 間違った引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

InstName

DB2 Query Patroller サーバーを除去したいインスタンスの名前

-hl-? 使用情報を表示する

このコマンドは、DB2 Query Patroller サーバーが作成されたノードでのみ発行できます。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1358W DB2 Query Patroller プロファイル・ファイルを変更できませんでした。

説明: dqpprofile ファイルか dqpcshrc ファイルのいずれか、またはその両方を更新しようとしたが、失敗しました。可能性のある原因は、以下のとおりです。

- これらのファイルがインスタンス・ホーム・ディレクトリの下に sqllib ディレクトリに存在しない。
- これらのファイルへの書き込み許可がない。
- /tmp ディレクトリに一時ファイルを作成できなかった。

ユーザーの処置: これらのファイルが存在しているか、またファイルの許可について調べます。/tmp への書き込みが可能であることを確認してください。コマンドをもう一度発行してください。

DBI1359E DB2 Query Patroller サーバーをインスタンス instance-name から除去できません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーを指定のインスタンスから除去しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル sqllib/cfg/dqplevel を手操作でインスタンス所有者のホーム・ディレクトリから除去してください。また、ファイル default.env を編集して、DQPSEVER 行をこのファイルから除去します。default.env は、現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリの下にあります。

DBI1360E DB2 Query Patroller のセットアップを完了できません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーをセットアップしようとしたが、失敗しました。考えられる原因は、以下のとおりです。

- DB2 Query Patroller サーバーのデータベースを作成できなかった。
- 指定のノードにデータベース・パーティション・グループを作成できなかった。
- ノード・グループに表スペースを作成できなかった。

ユーザーの処置: データベースまたはデータベース・パーティション・グループの作成が失敗した場合、これらを手操作で作成してコマンドを再実行してください。

表スペースの作成が失敗した場合は、指定したパスへの書き込み許可を持っていることを確認します。表スペースを手操作で作成してみてください。

DBI1361E DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていません。

説明: DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていないため、現行操作の完了が要求されました。

ユーザーの処置: DB2 Query Patroller サーバー・コードをインストールして、コマンドを再試行してください。

DBI1362W IWM スキーマ・オブジェクトが検出されました。

説明: DB2 が IWM スキーマ・オブジェクトを検出しましたが、これは以前の IWM のインストールによって作成された可能性があります。

ユーザーの処置: 既存の IWM スキーマ・オブジェクトを保持したい場合、何もする必要はありません。既存のオブジェクトを除去して新しいオブジェクトを再作成したい場合は、dqpssetup コマンドを -o フラグ付きで再発行してください。

DBI1363E IWM スキーマ・オブジェクトを作成できませんでした。

説明: IWM スキーマ・オブジェクトを作成しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル db2_qp_schema および iwm_schema.sql が両方ともディレクトリ /usr/opt/db2_08_xx/bin にあることを確認します。ここで xx は 01 または FPn、ここで n はフィックスパック番号です。

両方のファイルが存在する場合、IWM スキーマ作成プログラムの出力が /tmp/iwmschcr.log にあります。エラーを訂正して、dqpssetup コマンドを再実行してください。

DBI1364E 前の DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。

説明: マイグレーションすべき前の DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。

ユーザーの処置: 正しい構文で `dqpsetup` を再実行してください。正しい構文を調べるには '`dqpsetup -h`' を使用してください。

DBI1365E ノード番号が定義されていません。

説明: ノード番号が `db2nodes.cfg` に定義されていません。

ユーザーの処置: `db2nodes.cfg` ファイルを調べて、必要な項目が存在することを確認します。`db2nodes.cfg` ファイルに記録されているものと正確に同じノード番号を使用して、コマンドを再入力してください。

DBI1366E コンテナ `sms-path` はすでに使用中です。

説明: 表スペースのコンテナとして指定されたディレクトリはすでに存在します。

ユーザーの処置: 表スペースのコンテナに別のパスを使用して、コマンドを再実行してください。

DBI1367E `bind-list` にリストされているファイルをバインドできませんでした。

説明: 指定のファイルにリストされたバインド・ファイルのバインドで問題が発生しました。

ユーザーの処置: バインドを手操作で行ってください。

DBI1368E DQP データベース `db2dbdfit` に接続できませんでした。

説明: データベースが存在しない可能性があります。

ユーザーの処置: `dqpsetup` に必要なパラメーターをすべて使用して、新しい DQP インスタンスをセットアップするよう指定してください。このインスタンスをアップグレードすることはできません。

DBI1369W インスタンス `instance_name` のパーティション・データベース環境の妥当性検査が完了しましたが、警告が出されました。**DBI1370W** ユーザー `inst-name` の `.profile` あるいは `.login` ファイルの修正はできません。

説明: DB2 は、このユーザーの `.profile` ファイルまたは `.login` ファイルを修正することができません。これ

らのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。変更を行わないと、DB2 Query Patroller を使用するためにこのユーザーでログインするたびに、手操作で環境を設定しなければなりません。

ユーザーの処置: アプリケーション開発環境をセットアップしてください。

DBI1371E Query Patroller サーバーをセットアップするための引数が見つかりません。

説明: DB2 Query Patroller サーバーがインストールされている場合、Query Patroller インスタンスをサーバーとしてセットアップする必要があります。そのため、以下の引数を与えなければなりません。

1. ノード・グループ
2. ノード番号
3. データベース名
4. 表スペース
5. 結果表スペース。
6. 表スペース・パス

オプション:

DMS 表スペース・サイズ。

ユーザーの処置: 応答ファイルに必須またはオプション引数、あるいは両方の引数を指定してください。

DBI1372E Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップできません。

説明: Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップするには、DB2 Query Patroller サーバーがインストールされていなければなりません。

ユーザーの処置:

- DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。
- Query Patroller エージェントをセットアップしたい場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの引数を取り除いてください。

DBI1373E 新しい ESE インスタンスの作成中は、Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップできません。

ユーザーの処置: ESE インスタンスを作成し、別々のステップでインスタンスを Query Patroller サーバーとしてセットアップしてください。

DBI1374W インスタンス *instance_name* の妥当性検査が完了しましたが、警告が出されました。

DBI1375E ESE をインストールせずに、Query Patroller インスタンスをセットアップすることはできません。

ユーザーの処置: ESE と DB2 Query Patroller エージェント/サーバーをインストールしてください。

DBI1376E Query Patroller インスタンスをセットアップするには、IWM ユーザーのサービス名およびポート番号を与える必要があります。

ユーザーの処置:

- Query Patroller インスタンスをセットアップしたい場合、IWM ユーザーのサービス名およびポート番号を入力してください。
 - Query Patroller インスタンスをセットアップしたくない場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの指定を応答ファイルから取り除いてください。
-

DBI1377N **db2isetup** は、ご使用のコンピューターで適切な Java ランタイム環境を見つけれませんでした。Java ランタイム環境 *jre-version* が存在する場合は、**JAVA_HOME** 環境変数を設定して、再度コマンドを実行してください。それ以外の場合は、DB2 インストール要件を調べて、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている Java 環境の情報を確認してください。独自の JRE を使用する必要がある場合には、**DB2USELOCALJRE=true** を設定します。

DBI1378N **db2setup** は、ご使用のコンピューターで適切な Java ランタイム環境を見つけれませんでした。Java ランタイム環境 *jre-version* が存在する場合は、**JAVA_HOME** 環境変数を設定して、再度コマンドを実行してください。それ以外の場合は、DB2 のインストールの手引きで、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている Java 環境に関する情報を確認してください。適切な Java ランタイム環境が得られない場合は、**doc_install** スクリプトを使用するコマンドからインストールすることができます。このスクリプトの使用方法を表示するには、パラメーターを指定せずにこのスクリプトを実行してください。独自の JRE を使用する必要がある場合には、**DB2USELOCALJRE=true** を設定します。

DBI1379I **db2val** コマンドが実行中です。これには数分かかる可能性があります。

DBI1380W データベース *db_name* を除去できません。

説明: 他のアプリケーションによってデータベースが使用されている可能性があります。

ユーザーの処置: 手動でデータベースをドロップするには、次のコマンドを実行します: **db2 drop db *db_name***

DBI1381W インスタンス *instance_name* に対するデータベース妥当性検査が完了しましたが、警告が出されました。

DBI1382W インスタンス *instance_name* のデータベース・マネージャーを停止できません。

説明: データベースがまだ使用中である可能性があります。

ユーザーの処置: データベース・マネージャーを停止するには、**db2stop** コマンドを実行します。

DBI1383I **db2iset** コマンドを使用して、現在のインスタンスに関する DB2 レジストリーを手動で更新する必要があります。その際、**db2iset** コマンドの絶対パスを含めてください。例: **/opt/ibm/db2/<release>/instance/db2iset -d *instance-name***

ユーザーの処置:

DBI1384E インスタンス *instance-name* を作成できません。

説明: DB2 Text Search 構成は、サーバー・インスタンス上でのみ実行できます。

ユーザーの処置: サーバー・インスタンス上で DB2 Text Search フィーチャーを構成してください。

DBI1385W DB2 Text Search フィーチャーではパーティション化されたインスタンスはサポートされません。

説明: DB2 Text Search フィーチャーをこのインスタンス用に構成することはできません。

ユーザーの処置: 単一パーティション・インスタンスを構成して DB2 Text Search フィーチャーを使用してください。

DBI1386N アカウント *user-name* がロックされています。

説明: ユーザーのアカウントが、オペレーティング・システムによってロックされています。

ユーザーの処置: このユーザーのアカウントをアンロックするには、システム管理者に連絡してください。

DBI1387I **db2isetaup** コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2isetaup コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2isetaup [-h|-?]
            [-i <language_code>]
            [-r <response_file>]
            [-t <trace_file>]
            [-l <log_file>]
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-i language-code

インストールの実行で使用する言語を表す 2 文字のコードを指定します。このパラメーターを指定しない場合、デフォルトとして、現在のユーザーのロケールに設定されます。言語 ID のリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

-r response_file

使用する応答ファイルの絶対パスとファイル名を指定します。

-t tracefile

tracefile で指定されるトレース・ファイルの絶対パスと名前を指定します。

-l logfile

指定された名前のファイルにログを書き込みます。root インストールの場合、デフォルトのパスおよびファイル名は /tmp/db2isetaup.log です。非 root インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2isetaup_userID.log です (userID は非 root インストールを所有するユーザー ID を表します)。

-h|-?

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1388I **db2nrupgrade** コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2nrupgrade コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2nrupgrade [-d]
              [-a auth_type]
              [-b backup_dir]
              [-j "TEXT_SEARCH" |
               -j "TEXT_SEARCH,portnumber"]
              [-h|-?]
```

db2nrupgrade コマンドのパラメーターについて詳しくは、Linux、UNIX、および Windows 版の DB2 資料を参照してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1389I **使用法: db2ckupgrade (**
<database_name> | -e) [-l <logfile>] [-u
<userid>] [-p <password>] [-h|-?]

説明:

database_name

スキャンされるデータベースの名前を指定します。

-e

すべてのローカル・カタログ済みデータベースをスキャンすることを指定します。

-l logfile

必須パラメーター。スキャン対象データベースに関して生成されたエラーと警告のリストを保持するためのログ・ファイルを指定します。

-u userid

インスタンス所有者のユーザー ID を指定します。

-p password

インスタンス所有者のパスワードを指定します。

-hl?

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1390E 現在のインスタンスをアップグレードすることはできません。

説明: インスタンスをアップグレードしようとした。このインスタンスは以下のいずれかの理由からアップグレードできません。

- db2nrupgrade コマンドを実行している DB2 バージョンは、現在のインスタンスのアップグレードでサポートされているバージョンではありません。
- インスタンスがまだアクティブである

ユーザーの処置: サポートされるバージョンについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。また、インスタンスで実行中の DB2 プロセスがないことも確認してください。エラーを修正した後、インスタンスを新しい DB2 コピー・バージョンにアップグレードするには db2nrupgrade コマンドを再実行します。例えば、db2nrupgrade -b *backupDir* とします。

DBI1391E *directory-name* は有効なパスではありません。

説明: ディレクトリーにアクセスできません。

ユーザーの処置: 有効なパスを入力して、コマンドを再実行してください。

DBI1392W *deprecated-command-name* コマンドは推奨されていません。この推奨されないコマンドは、新しいコマンド *new-command-name* に置き換われました。

説明: 推奨されなくなったコマンドは、将来のリリースでは除去される予定です。

ユーザーの処置: 推奨されないコマンドを使用しているすべてのスクリプトまたはアプリケーションで、これを新しいコマンドに置き換えてください。

DBI1393W -j "TEXT_SEARCH" オプションは、サーバー・インスタンス *ese*、*wse*、および *standalone* でのみサポートされています。

説明: 現行のインスタンスのタイプは *client* または *DB2 pureCluster* です。コマンドは完了しましたが、-j "TEXT_SEARCH" オプションは無視されました。

ユーザーの処置: DB2 Text Search を使用するには、サーバー・インスタンスを指定してください。

DBI1394E *db2cluster_prepare* ユーティリティが以下のトレース・ファイル・パスに書き込めないため、*db2cluster_prepare* コマンドが失敗しました: *trace-file-path*。

説明: *db2cluster_prepare* ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

-t パラメーターを使ってトレース・ファイルの絶対パスを指定することにより、*db2cluster_prepare* ユーティリティにトレース・ファイルを生成させることができます。*db2cluster_prepare* ユーティリティは、指定された場所にトレース・ファイルを作成します。このトレース・ファイルを使って、GPFS クラスターの作成中に発生したエラーを調べることができます。

このメッセージは、-t パラメーターでトレース・ファイルの場所を指定して *db2cluster_prepare* コマンドを呼び出したものの、指定されたトレース・パスに *db2cluster_prepare* ユーティリティがアクセスできない場合に返されます。

db2cluster_prepare ユーティリティは、*db2cluster_prepare* コマンドを実行するユーザーと同じ権限で実行されます。つまり、*db2cluster_prepare* コマンドを実行するユーザーが、パラメーターに指定するパスにアクセスできなければなりません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 自分がアクセスできるトレース・ファイル・パスを指定して、*db2cluster_prepare* コマンドを再び実行します。

DBI1395E *db2cluster_prepare* ユーティリティが以下のログ・ファイル・パスに書き込めないため、*db2cluster_prepare* コマンドが失敗しました: *log-file-path*。

説明: *db2cluster_prepare* ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

db2cluster_prepare ユーティリティは、GPFS クラスター

一の作成中に発生したエラーの調査に使用できるログ・ファイルを生成します。`-log_file_path` パラメーターを使用してログ・ファイルの絶対パスを指定することにより、ログ・ファイルの場所を設定できます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、指定された場所にログ・ファイルを作成します。

このメッセージは、`-log_file_path` パラメーターでログ・ファイルの場所を指定して `db2cluster_prepare` コマンドを呼び出したものの、指定されたログ・パスに `db2cluster_prepare` ユーティリティがアクセスできない場合に返されます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、`db2cluster_prepare` コマンドを実行するユーザーと同じ権限で実行されます。つまり、`db2cluster_prepare` コマンドを実行するユーザーが、`-log_file_path` パラメーターに指定するパスにアクセスできなければなりません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 自分がアクセスできるログ・ファイル・パスを指定して、`db2cluster_prepare` コマンドを再び実行します。

DBI1396E ユーティリティが必要な一時ファイルを以下のパスに作成できないため、`db2cluster_prepare` コマンドが失敗しました: `path`。

説明: `db2cluster_prepare` ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、内部使用のためにいくつかの一時ファイルを生成します。このメッセージは、`db2cluster_prepare` コマンドがこれらの内部的な一時ファイルを作成できない場合に返されます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、`db2cluster_prepare` コマンドを実行するユーザーと同じ権限で実行されます。つまり、`db2cluster_prepare` コマンドを実行するには、指定したパスに自分がアクセスできなければなりません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置:

1. 示されたパスへのアクセス許可を持つようにします。
2. 一時ファイルを作成するのに十分なディスク・スペースを確保します。
3. `db2cluster_prepare` コマンドを再び実行します。

DBI1397W `db2set` コマンドは、データベース・マネージャー構成パラメーター `DB2_ATS_ENABLE` の値を YES に設定できませんでした。

説明: 管理用タスク・スケジューラー (ATS) を使用可能にすることができませんでした。ATS を使用可能にしておくことが DB2 Text Search の使用の前提条件です。

ユーザーの処置: DB2 Text Search を使用するには、管理用タスク・スケジューラーを使用可能にする必要があります。

DBI1398E `db2cluster_prepare` ユーティリティが以下のディレクトリーにアクセスできないために、`db2cluster_prepare` コマンドが失敗しました: `/tmp`。

説明: `db2cluster_prepare` ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に IBM GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、GPFS クラスターの作成中に発生したエラーの調査に使用できるログ・ファイルを生成します。`-log_file_path` パラメーターで絶対パスを指定することにより、ログ・ファイルの場所を設定できます。`-log_file_path` パラメーターを使用しない場合、`db2cluster_prepare` ユーティリティは、`db2prepare_cluster.log` という名前のログ・ファイルを、デフォルトのディレクトリー位置 `/tmp` に作成しようとしています。

このメッセージは、`-log_file_path` パラメーターにログ・ファイルの場所を指定せずに `db2cluster_prepare` コマンドを呼び出し、`db2cluster_prepare` ユーティリティが `/tmp` というディレクトリーにアクセスできない場合に返されます。

`db2cluster_prepare` ユーティリティは、`db2cluster_prepare` コマンドを実行するユーザーと同じ権限で実行されます。つまり、`-log_file_path` パラメーターを指定せずに `db2cluster_prepare` コマンドを呼び出すには、`/tmp` というディレクトリーに自分がアクセスできなければなりません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 自分がアクセスできるログ・ファイル・パスを `-log_file_path` パラメーターに指定して、`db2cluster_prepare` コマンドを再び実行します。

- 次の 2 つのステップを実行することにより、
db2cluster_prepare ユーティリティーがデフォルトの場
所にログ・ファイルを作成できるようにします。
 1. /tmp ディレクトリーの許可を構成して、自分がこ
のディレクトリーにアクセスできるようにしま
す。
 2. -log_file_path パラメーターを使用せずに、
db2cluster_prepare コマンドを再び実行します。

**DBI1399I db2cluster_prepare ユーティリティーを使用
して、DB2 pureCluster 環境用に DB2
管理の GPFS (General Parallel File
System) を作成できます。**

説明: DB2 pureCluster 環境では、すべてのデータとロ
グが General Parallel File System 上になければなりませ
ん。DB2 pureCluster 環境へアップグレードする前に、
GPFS 上にない既存のデータとログを GPFS に移動しな
ければなりません。DB2 pureCluster 環境へのアップグ
レードに備えて、db2cluster_prepare ユーティリティーを
使用し、DB2 管理の GPFS クラスタおよびファイ
ル・システムをセットアップして、そこにデータとログ
を移動できるようにすることができます。

db2cluster_prepare コマンド構文は、以下のとおりです。

```
db2cluster_prepare
  -instance_shared_dev Path
  [-instance_shared_mount Dir]
  [-cfs_takeover]
  [-t trace-file-path]
  [-l log-file-path]
```

db2cluster_prepare コマンド・パラメーターは、以下のと
おりです。

-instance_shared_dev shared-device-path

インスタンス共有ファイルとデフォルト・デー
タベース・パスとを保持するために使用され
る、共有ロー・ディスク装置を指定します。

-instance_shared_mount Shared_Mounting_Dir

新しい General Parallel File System (GPFS) 用
のマウント・ポイントを指定します。指定する
パスは、既存の GPFS ファイル・システム内
にネストされていない、新しい空のパスでなけ
ればなりません。

-cfs_takeover

DB2 がクラスタを管理するよう指定しま
す。

-t trace-file-path

トレース・ファイルの絶対パスと名前。

-l log-file-path

ログ・ファイルの絶対パスと名前。

-h または -?

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。このメッセ
ージは通知用です。

**DBI1400N db2licm コマンドの構文に誤りがありま
す。**

説明: db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行しま
す。これで、ローカル・システムにインストールされた
ライセンスが追加、除去、リスト、および変更されま
す。-l パラメーターを指定して db2licm ツールを実行
することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてくだ
さい。

```
db2licm [-a filename]
  [-e product-identifier HARD | SOFT]
  [-p product-identifier
  REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
  [-r product-identifier]
  [-u product-identifier num-users]
  [-c product-identifier num-connectors]
  [-l]
  [-v]
  [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-a

製品のライセンスを追加します。有効なライセ
ンス情報の入ったファイル名を指定します。こ
れはライセンス製品 CD に収められています
が、お持ちでない場合は、IBM 担当員または
販売代理店に連絡してください。

-e

システムの制約ポリシーを更新します。有効な
値は HARD および SOFT です。HARD は非
ライセンス要求が許可されないことを指定しま
す。SOFT は非ライセンス要求が制限なしで
ログに記録されることを指定します。

-p

システムで使用するライセンス・ポリシー・タ
イプを更新します。キーワード
CONCURRENT、REGISTERED、または
CONCURRENT REGISTERED を指定できま
す。「OFF」を指定して、すべてのポリシーを
オフにします。

-r

DBI1401I

製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。

-u

購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

-c

購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクタの数を指定してください。

-l

使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

-v

バージョン情報を表示します。

-?

ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャ

説明: db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

使用している製品の製品 ID を調べるには、db2licm -l コマンドを使用します。

db2licm [-a filename]

[-e product-identifier HARD | SOFT]

[-p product-identifier

REGISTERED | CONCURRENT | OFF]

[-r product-identifier]

[-u product-identifier num-users]

[-c product-identifier num-connectors]

[-l]

[-v]

[-?]

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-a

製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められています。お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

-e

システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

-p

システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、または CONCURRENT REGISTERED を指定できます。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

-r

製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。

-u

購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

-c

購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクタの数を指定してください。

-l

使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

-v

バージョン情報を表示します。

-?

ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置:

DBI1402I ライセンスが正常に追加されました。

DBI1403I ライセンスが正常に除去されました。

DBI1404N 製品 ID が見つかりません。

説明: 指定された ID が無効であるか、またはこの製品のライセンスが `nodelock` ファイル中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: `-I` オプションを指定してこのコマンドを発行し、入力された ID がこのアクションの対象となる製品にとって正しい製品 ID であるかどうかを確認してください。 `nodelock` パスワードを使用している場合は、この製品のライセンス・キーが `nodelock` ファイルにインストールされているかチェックしてください。

DBI1405I ライセンス・ポリシー・タイプが正常に更新されました。

DBI1406N 無効なライセンス・ポリシー・タイプです。

説明: 入力されたライセンス・ポリシー・タイプが、指定された製品には無効でした。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは、以下のとおりです。

- CONCURRENT
 - REGISTERED
 - CONCURRENT REGISTERED
 - オフ
-

DBI1407N 無効なライセンス証明書ファイルです。

説明: ライセンス証明書ファイルが正しいフォーマットではありません。

ユーザーの処置: 正しいライセンス証明書フォーマットを持つファイルの名前を入力してください。

DBI1408N ファイル `file-name` をオープンできませんでした。

説明: ファイルが見つからないか、またはファイルへのアクセスが拒否されました。

ユーザーの処置: 存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再実行してください。

DBI1409N 無効な制約ポリシー・タイプです。

説明: 指定された制約ポリシー・タイプはこの製品には無効です。

ユーザーの処置: 指定の製品がサポートする有効な制約ポリシー・タイプを入力してください。

DBI1410I 並行ライセンスが正常に更新されました。

DBI1411I 制約ポリシー・タイプが正常に更新されました。

DBI1412W ハード・ストップ制約ポリシーは、ライセンス交付数を越えたときに非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を停止します。

DBI1413W ソフト・ストップ制約ポリシーは、ライセンス違反をログに記録しますが、非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を許可します。

DBI1414I `db2ls` コマンドの準備中です。システムにインストールされた `DB2` コピーを検査しています。

DBI1415I 関連する `DB2` コピーに対する `AIX` システム・ワークロード・パーティション (`WPAR`) `workload-partition-list` 上のアクティブな `DB2` インスタンスを検査していません。

DBI1416N ライセンスを自動的に `nodelock` ファイルに追加できませんでした。

説明: 戻りコードは“<return-code>”です。

ユーザーの処置: ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。また、手操作でライセンスを `nodelock` ファイルに入力することもできます。指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

DBI1417N 指定されたライセンスを `nodelock` ファイルから除去できません。

説明: 戻りコードは“<return-code>”です。

ユーザーの処置: この製品のライセンスが `nodelock` ファイルに存在することを確認してください。

DBI1418I このマシンでライセンスされたプロセッサ
一数が正しく更新されました。

DBI1419N ライセンス・プロセッサ数を更新しよう
としてエラーが発生しました。

説明: 戻りコードは“<return-code>”です。

DBI1420N この製品は、このライセンス・ポリシーの
タイプをサポートしていません。

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適
用されないか、またはサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力し
てください。

DBI1421N 指定された製品は、このシステムにインス
トールされていません。

説明: 製品がインストールされるまで、この製品のライ
センス・ポリシーを構成することはできません。

ユーザーの処置: 製品をインストールしてからコマンド
を実行するか、または正しい製品 ID を指定してくださ
い。システムにインストールされている製品をリストす
るには、db2licm -l コマンドを使用してください。

DBI1422N 並行ライセンス数は更新されませんでした。
た。

説明: 戻りコードは“<return-code>”です。

ユーザーの処置: この製品で並行ポリシーが可能である
ことを確認してください。

DBI1423N このオプションには、インスタンスの作成
が必要です。

説明: このアクションを行うために必要な機能は、イン
スタンスの作成後にアクセス可能になります。

ユーザーの処置: インスタンスを作成し、このコマンド
を出し直してください。

DBI1424N プロセッサ情報にアクセスしているとき
に、予期しないエラーが発生しました。

説明: 戻りコードは“<return-code>”です。

ユーザーの処置: ありません。

DBI1425E DB2 OLAP Server のライセンスを更新す
ることはできません。DB2 OLAP 処理
は、現在アクティブになっています。

説明: DB2 は、DB2 OLAP Server の実行中は DB2
OLAP Server のライセンスを更新できません。

ユーザーの処置: OLAP ライセンスを更新するには、
OLAP 処理をすべて停止してからこの DB2 ライセンス
を再インストールしてください。

DBI1426I この製品は現在、この製品のライセンス・
コピーに付属するご使用条件の指定に基づ
いてご使用いただくことができます。こ
の製品をご使用いただくには、次のディレ
クトリーにある IBM ご使用条件への同意
が必要です: *dir-name*

DBI1427I この製品は現在、この製品の評価版（「試
用版」）に付属するご使用条件の指定に基
づいてご使用いただくことができます。
この製品をご使用いただくには、次のディ
レクトリーにある IBM ご使用条件への同
意が必要です: *dir-name*

DBI1428N ライセンス・プロセッサ数を更新しよう
としてエラーが発生しました。

説明: 入力されたライセンス・プロセッサの数が、こ
の製品で許可されているライセンス・プロセッサの最
大数を超えています。

ユーザーの処置: 定義されている最大数を超えないライ
センス・プロセッサの数を入力してください。ご使
用のシステムのプロセッサの数がこの製品に対して許
可されているプロセッサの最大数を超える場合は、
IBM 担当員または許可されている販売業者にご連絡く
ださい。

DBI1429N この製品は、このライセンス・ポリシーの
組み合わせをサポートしていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーの組み合
わせを入力してください。たとえば、有効な組み合わ
せとして "CONCURRENT REGISTERED" を指定できま
す。

DBI1430N ライセンス日付がオペレーティング・シス
テムの日付よりも後であるため、ライセン
スを *nodelock* ファイルに追加できません
でした。

ユーザーの処置: 証明書ファイルをチェックして、ライ

センスの開始日が現在日付 (オペレーティング・システムに設定されている日付) よりも前であることを確認してください。

DBI1431N このユーザーは、指定されたアクションを実行するだけの権限を持っていません。

説明: このプログラムは、root ユーザー ID または SYSADM 権限を持つユーザー ID でしか実行できません。

ユーザーの処置: このコマンドの実行許可を持つユーザー ID でログインしてください。

DBI1432N ライセンスを **nodelock** ファイルに追加できませんでした。

説明: この製品は、最大数の評価ライセンスを使用しています。評価ライセンスの最大数は *lic-number* です。

ユーザーの処置: 永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

DBI1433N ライセンス数は更新されませんでした。

説明: 指定したライセンス数は有効範囲内にありません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス数を使ってこのコマンドをもう一度実行してください。

DBI1434N DB2 によって **nodelock** ファイルにライセンス項目が追加されましたが、そのライセンス項目はアクティブではありません。

説明: DB2 はこのライセンス項目をアクティブにできなかったため、このライセンスがアクティブになるまでの間、DB2 は前のライセンス構成で実行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再試行しても引き続き失敗する場合は、手動で **nodelock** ファイルを編集するか、または IBM サポートに連絡してください。

nodelock ファイルを手動で編集する場合は、新しいライセンス項目をライセンス項目リストの先頭に移動してください。

nodelock ファイルのロケーションは、プラットフォームごとに以下のとおりです。

AIX /var/ifor/nodelock

Windows

\$DB2PATH/license/nodelock

その他のすべてのオペレーティング・システム:

/var/lum/nodelock

ライセンスについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1435E DB2 の「ファースト・ステップ」をオープンしているときに、エラーが発生しました。サポートされる Web ブラウザーが見つかりません。

説明: DB2 の「ファースト・ステップ」にはサポートされる Web ブラウザーが必要です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの Web ブラウザーをインストールします。

- Internet Explorer 6.0 以上
- Mozilla 1.7 以上
- Firefox 2.0 以上

Windows オペレーティング・システムを使用する場合は、デフォルト・ブラウザを上記のリストから選択したブラウザに設定してください。

DBI1437E **-t** パラメーターに値が指定されていなかったため、**db2cluster_prepare** コマンドが失敗しました。

説明: **db2cluster_prepare** ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

-t パラメーターを使ってトレース・ファイルの絶対パスを指定することにより、**db2cluster_prepare** ユーティリティにトレース・ファイルを生成させることができます。**db2cluster_prepare** ユーティリティは、指定された場所にトレース・ファイルを作成します。このトレース・ファイルを使って、GPFS クラスターの作成中に発生したエラーを調べることができます。

このメッセージは、**-t** パラメーターに値を指定しないで **db2cluster_prepare** コマンドを呼び出した場合に返されません。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: **-t** パラメーターに値を指定して、**db2cluster_prepare** コマンドを再び実行します。

DBI1438E **-l** というパラメーターに値が指定されていなかったため、**db2cluster_prepare** コマンドが失敗しました。

説明: **db2cluster_prepare** ユーティリティを使用して、DB2 pureCluster 環境用に DB2 管理の GPFS (General Parallel File System) を作成できます。

db2cluster_prepare ユーティリティは、GPFS クラスターの作成中に発生する可能性のあるエラーの調査に使用

できるログ・ファイルを生成します。-l というパラメーターで絶対パスを指定することにより、ログ・ファイルの場所を設定できます。-l というパラメーターを使用すると、db2cluster_prepare ユーティリティは、指定された場所にログ・ファイルを作成します。

このメッセージは、-l というパラメーターに値を指定しないで db2cluster_prepare コマンドを呼び出した場合に返されます。

GPFS ファイル・システムは作成されませんでした。

ユーザーの処置: -l というパラメーターに値を指定して、db2cluster_prepare コマンドを再び実行します。

DBI1439W db2set を実行する際にオプション -immediate が使用されましたが、指定された変数を即時に更新できません。

説明: レジストリーは新しい値で正常に更新できましたが、db2set -immediate 呼び出しによって指定された変数に対する変更を即時に有効にすることはできません。-immediate オプションは無視されました。

ユーザーの処置: この固有の変数を更新する際は -immediate オプションを指定しないでください。

DBI1440W db2set -immediate が呼び出され、オフライン・レジストリーは正常に更新されましたが、db2set はインスタンスにアタッチできませんでした。

説明: オフライン・レジストリーは正常に更新されましたが、db2set がインスタンスにアタッチできなかったため、1 人以上のメンバーが値を即時に適用できませんでした。

ユーザーの処置: 明示的にインスタンスへのアタッチを試み、コマンドを再実行して、インスタンスのすべてのメンバーが正常であることを確認してください。

DBI1441W db2set -immediate が呼び出されましたが、1 つ以上のホストまたはメンバーで動的更新が失敗しました。

説明: オフライン・レジストリーは正常に更新され、db2set がアクセスできるすべてのホストまたはメンバーでレジストリーの更新が即時に行われました。

しかし、db2set がアクセスできなかったホストまたはメンバーで、指定された変数の設定が即時に適用されませんでした。

ユーザーの処置: コマンドが発行されたホストからすべてのメンバーにアクセスできるようにしてコマンドを再実行するか、各ホストまたはメンバーへの明示的なアタッチを試行してコマンドを再実行してください。あるいは、

次回の再始動時にすべてのメンバーで変更が表示されるようにします。

DBI1442W 集約変数 aggregate_name によって制御される一部の变数は動的に更新されましたが、その集約変数によって制御される変数の中には即時変更をサポートしていないものがあります。

説明: 集約レジストリー変数は正常に即時更新されました。集約変数によって制御される変数の中には、動的に変更されたものと、有効にするためにインスタンスを再始動する必要があるものがあります。

ユーザーの処置: この集約レジストリー変数によって制御されるすべての変数を有効にするためにインスタンスを再始動してください。

DBI1443W インスタンス全体で有効にされることになっている 1 つ以上のレジストリー変数の値がホストごとに異なっています。

説明: Windows オペレーティング・システムでは、レジストリー変数は各ホストのオペレーティング・システム・レジストリー内に格納されます。現在、ホスト全体で少なくとも 1 つのレジストリー変数の値が異なる値に設定されています。すべてのホストで各レジストリー変数の設定を統一することを強くお勧めします。

ユーザーの処置: すべてのホストで DB2 レジストリー変数の設定をすべて統一し、コマンドを再実行してください。

DBI1444E 想定されるディレクトリー directory-name の中に db2ls コマンドが見つかりません。

説明: オプション -b と共に db2ls コマンドに渡される DB2 インストール・パスは、インストール済み DB2 バージョン 9 以降のコピーのロケーションでなければなりません。

ユーザーの処置: インストール済み DB2 バージョン 9 以降のコピーの DB2 インストール・パスを指定してください。

DBI1445E -q オプションを指定する場合、-b install-path オプションは必須です。照会する DB2 インストール・ロケーションをリストするには、-b および -q オプションを使わずに db2ls コマンドを実行してください。

DBI1446I %1 コマンドの実行中です。お待ちください。

DBI1447E プログラム *program-name* を実行するためには、Java ランタイム環境が必要です。

説明: コマンドの実行には、Java ランタイム環境 (JRE) が必要です。関連する DB2 コピーと一緒に IBM Software Development Kit (SDK) for Java がインストールされている場合、JRE は <DB2DIR>/java/jdk64/jre/bin (64 ビット Linux システム) または <DB2DIR>/java/jdk32/jre/bin (32 ビット Linux システム) にあります。<DB2DIR> は、関連する DB2 コピーのインストール・パスを表します。

どちらのパスにも JRE が見つからない場合、プログラムは以下のいずれかの場所から JRE を検索します。

- 現行ユーザーの \${JAVA_HOME}/jre/bin。または、
- デフォルトの PATH 環境。

この場合は、JRE が現行 DB2 バージョンの要件を満たしている必要があります。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 製品の Java ソフトウェア・サポート』を参照してください。

ユーザーの処置: IBM Software Development Kit (SDK) for Java をインストールして、プログラムを再実行します。

DBI1448E メインメニュー上の DB2 項目を作成または除去する際にエラーが発生しました。詳細については、ログ・ファイル *log-file-name* を調べてください。

説明: Linux オペレーティング・システムの場合、DB2 ツールのメインメニュー項目は、手動または自動で作成/除去できます。db2fs などの DB2 ツールのメインメニュー項目は、db2addicons コマンドを実行することによって手動で追加できます。あるいは、特定の DB2 コマンドを実行すると自動的に作成されます。また、これらのメインメニュー項目は、db2rmicons コマンドを実行することによって手動で除去できます。あるいは、特定の DB2 コマンドを実行すると自動的に除去されます。これらのメインメニュー項目を作成もしくは除去する際にエラーが発生しました。メインメニュー項目を自動的に作成または除去する DB2 コマンドのリストは、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 ツールのメインメニュー項目』を参照してください。

ユーザーの処置: エラー・ログ・ファイルで詳細を調べ、プログラムを再実行します。

DBI1449I 使用法: db2addicons [-h]

説明: db2addicons コマンドは、現行ユーザーの DB2 ツール (db2fs など) のメインメニュー項目を作成します。DB2 ツールのメインメニュー項目は、db2addicons コマンドを手動で実行することによって追加されるほか、特定の DB2 コマンドを実行すると自動的に追加されます。メインメニュー項目を自動的に作成または除去する DB2 コマンドのリストは、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 ツールのメインメニュー項目』を参照してください。

このコマンドの唯一の引数は次のとおりです。

-h

使用情報を表示する

ユーザーの処置: 引数を指定しないで、db2addicons コマンドを入力してください。

DBI1450I 使用法: db2rmicons [-h]

説明: db2rmicons コマンドは、現行ユーザーの DB2 ツール (db2fs など) のメインメニュー項目を除去します。DB2 ツールのメインメニュー項目は、db2rmicons コマンドを手動で実行することによって除去されるほか、特定の DB2 コマンドを実行すると自動的に除去されます。メインメニュー項目を自動的に作成または除去する DB2 コマンドのリストは、DB2 インフォメーション・センターの『DB2 ツールのメインメニュー項目』を参照してください。

このコマンドの唯一の引数は次のとおりです。

-h

使用情報を表示する

ユーザーの処置: 引数を指定せずに、再度 db2rmicons コマンドを入力してください。

DBI1451E DB2 インスタンス環境が、プログラム *program-name* を実行するように設定されていません。

説明: Linux オペレーティング・システムでは、DB2 インスタンス環境が現行ユーザー用に設定されていないとコマンドを実行できません。DB2 インスタンス環境のセットアップは、以下を使用して行うことができません。

- <Instance_HOME>/sqllib/db2profile (Bourne シェルおよび Korn シェル・ユーザーの場合)。または、
- <Instance_HOME>/sqllib/db2chsrc (C シェル・ユーザーの場合)。

DBI1452E

<Instance_HOME> は、インスタンス所有者のホーム・ディレクトリーを表します。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス環境をセットアップして、プログラムを再実行します。

DBI1452E ネットワーク・バージョンの DB2 インフォメーション・センターをインストールする権限がありません。製品 *product-name* をインストールするためには、**root** 権限が必要です。DB2 インフォメーション・センターのワークステーション・バージョンは、フォルダー *folder-location*にある「workstation」サブディレクトリーから入手してください。IBM パスポート・アドバンテージ、または URL www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg27009474 からアクセスできます。ワークステーション・バージョンの DB2 インフォメーション・センターであれば、**root** 権限がなくてもインストールすることができます。

DBI1453E コンポーネント名 *component-name* が無効です。

説明: 指定されたコンポーネント名が正しくないか、つづりが誤っています。コンポーネント名が正しい場合は、このオペレーティング・システムまたはプラットフォームで有効でないコンポーネント名である可能性があります。

ユーザーの処置: コンポーネント名が現在のオペレーティング・システムまたはプラットフォームで有効な DB2 コンポーネントであるかどうかを確認してください。有効なコンポーネント・キーのリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照するか、サンプル・アンインストール応答 DB2DIR/db2un.rsp を参照してください。

DBI1454E *instance-name* は DB2 pureCluster インスタンスです。このタイプのインスタンスの妥当性検査は、現在の DB2 リリースではサポートされていません。

説明: db2val コマンドは、DB2 pureCluster インスタンスの妥当性検査をサポートしていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1455W インスタンス *instance_name* に関する情報は、生成される応答ファイルに追加されません。

説明: 指定されたインスタンスは DB2 pureCluster インスタンスです。db2rspgn コマンドを DB2 pureCluster インスタンスに対して実行する際には、指定されたインスタンスに関する情報は生成される応答ファイルに追加されず、インスタンス・プロファイルは作成されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1456W *command-name* コマンドは、インスタンス *instance-name* の調整メンバーではないメンバーで実行されたために失敗しました。

説明: コマンドは、インスタンスの調整メンバーでのみサポートされています。

ユーザーの処置: インスタンスの調整メンバーでコマンドを実行してください。

DBI1457E DB2 製品またはフィーチャーをアンインストールできませんでした。アンインストールするには、以下のリストのインスタンスをドロップしなければなりません:
instance-list。

説明: 製品またはフィーチャーをアンインストールするときに、それがインスタンスに関連付けられてはなりません。インストールされているインスタンスをリストするには、db2ilist コマンドを使用します。

ユーザーの処置: 問題となっているインスタンスを db2idrop コマンドでドロップしてから、db2_deinstall コマンドを再実行します。

DBI1458E db2iupdt または db2iupgrade コマンドは、非インスタンス所有メンバーではサポートされていません。

説明: db2iupdt コマンドは、リリース内のより高いレベルにインスタンスを更新するために使用できます。db2iupgrade コマンドは、前リリースの DB2 コピーから現行リリースの DB2 コピーにインスタンスをアップグレードします。Windows プラットフォームでは、DPF インスタンスの更新およびアップグレードは、インスタンス所有メンバーでのみサポートされています。

ユーザーの処置: インスタンス所有メンバーで db2iupdt または db2iupgrade コマンドを実行してください。

DBI1459E 使用中の DB2 データベース・ファイルがあったため、db2_deinstall コマンドが失敗しました。

説明: db2_deinstall コマンドを使用して、DB2 データベース製品、フィーチャー、または言語をアンインストールできます。

非 root インストールされた DB2 データベース・マネージャー・インスタンスのどの部分をアンインストールする場合も、事前にそのインスタンス用のすべてのオペレーティング・システム・プロセスとリソースを解放しておかなければなりません。このメッセージは、DB2 データベース関連のシステム・リソースの一部が解放されていないのに、非 root インストールされたインスタンスをアンインストールしようとした場合に返されません。例えば、以下の理由でこのメッセージが返されることがあります。

- DB2 データベース関連のオペレーティング・システム・プロセスがまだ実行中である
- DB2 データベース関連のライブラリーがまだメモリーにロードされている

ユーザーの処置:

1. db2stop force コマンドを使用して、DB2 データベース・マネージャーを停止します
2. db2_deinstall コマンドを再び実行します

DBI1460E コマンド・パラメーターの組み合わせが無効です。

説明: db2setup コマンドを使用するときに、応答ファイルの内容を妥当性検査するために -c パラメーターが指定されている場合、応答ファイルを示す -r パラメーターも指定する必要があります。

ユーザーの処置: -c と -r の両方のパラメーターを指定して db2setup コマンドを再実行してください。

DBI1461E DB2 インストーラーは、基本コピーに DB2 pureCluster コンポーネントが含まれていないことを検出しました。

説明: -H パラメーターとともに installFixPack コマンドを指定するときは、DB2 pureCluster コンポーネントが存在している必要があります。これらのコンポーネントが検出されませんでした。配布されたフィックス・パックのインストールが失敗しました。

ユーザーの処置: -H パラメーターを指定せずに installFixPack コマンドを再実行してください。

DBI1462I 指定された応答ファイルを db2setup コマンドが妥当性検査しています。これには数分かかる可能性があります。

説明: 妥当性検査プロセスが進行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1463E 応答ファイルの妥当性検査が失敗しました。ログ・ファイル: *path_to_logfile*

説明: 応答ファイルで無効な項目が検出されました。詳細については、ログ・ファイルを参照してください。

ユーザーの処置: 応答ファイルのエラーを訂正し、コマンドを再実行してください。

DBI1464E 競合する installFixPack コマンド・パラメーターが指定されています。

説明: パラメーター -H と -L の両方は指定できません。

ユーザーの処置: 特定のホストを更新するために -H パラメーターを指定するか、ローカル・ホストを更新するために -L パラメーターを指定して、installFixPack コマンドを再実行してください。

DBI1465E ホスト・リスト・ファイルでエラーが発生しました。ホスト・ファイル: *host-file-name*。

説明: 指定されたホスト・リスト・ファイルでエラーを検出しました。エラーが発生した原因として、ファイルが存在しない、ファイルを読み取れない、ファイルが空である、ファイルに無効文字が含まれている、パス名が指定されていない、または HOST キーワードが無効であるなどが考えられます。

ユーザーの処置: 指定されたホスト・リスト・ファイルの内容を確認し、コマンドを再実行してください。

DBI1466E インスタンスの妥当性検査が失敗しました。インスタンス名: *instance_name*。理由コード: *reason_code*現在のホスト名: *host_name*。

説明: 指定された理由コードは、以下のいずれかのエラーが発生したことを示しています。

1

IBM Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) ピア・ドメインがオンラインになっていません

2

DBI1467N

IBM General Parallel File System (GPFS) クラスタがオンラインになっていません

3

少なくとも 1 つの db2 クラスタ・サーバー・アラートが示されています

ユーザーの処置: 指定されている理由コードに応じて、適切なアクションを取ってください。

1

コマンド `db2cluster -cm -start -domain domain_name` を入力して、RSCT ピア・ドメインをオンラインにしてください

2

コマンド `db2cluster -cfs -start -host host_name` を入力して、GPFS クラスタを開始してください

3

コマンド `db2cluster -list -alert` を実行して、すべてのアラートをクリアしてください

DBI1467N db2ndrop コマンドは複数のパーティション・インスタンス・メンバー 0 をドロップできませんでした。

説明: `db2ndrop` コマンドは、データベースのないインスタンスからデータベース・パーティション・サーバーをドロップするために使用されます。

`db2ndrop` コマンドは、データベース・パーティション・サーバー (0) を所有するインスタンスをドロップできません。複数の論理データベース・パーティション・サーバーを実行しているマシンから、論理ポート 0 に割り当てられているデータベース・パーティション・サーバーをドロップするには、最初に他の論理ポートに割り当てられている他のデータベース・パーティション・サーバーをすべてドロップする必要があります。各データベース・パーティション・サーバーには、論理ポート 0 に割り当てられているデータベース・パーティション・サーバーが必ず必要です。

ユーザーの処置: `db2idrop` コマンドを使用して複数のパーティション・インスタンス・メンバー 0 をドロップする前に、`db2ndrop` コマンドを使用して他のメンバーをドロップします。

DBI1468E インスタンスの妥当性検査が失敗しました。インスタンス: *instance_name*。ログ・ファイル: *path_to_logfile*。ホスト: *host_name*。

説明: 指定されたホストで妥当性検査が失敗しました。

ユーザーの処置: 詳細については、ログ・ファイルを調べてください。

DBI1469W インスタンスで使用しているホストの DB2 コピーのコード・レベルまたはインストール・パスが同じではありません。インスタンス: *instance_name*。

説明: インスタンスはローリング・アップデートの段階にある可能性があります。

ユーザーの処置: `db2iupdt` コマンドを使用することにより、インスタンスで使用中のホストすべてで、同じレベルおよび同じパスにインスタンスを更新してください。

DBI1470E ホスト *host_name* でインスタンスの妥当性検査が失敗しました。理由コード = *reason_code*。

説明: 指定された理由コードは、以下のいずれかのエラーが発生したことを示しています。

1

指定されたホストでの妥当性検査が、タイムアウトになる前に終了しませんでした。

2

指定されたホストと他のホストとの間で、インスタンス所有者の SSH 通信が失敗しました。

3

インスタンス共有ディレクトリーは、特定のホストからアクセスできないか、または特定のホストとローカル・ホストとの間で共有されていません。

4

インスタンス・ディレクトリー内のいくつかのファイルが損傷しています。ファイルのシンボリック・リンクは、インスタンス共有ディレクトリーを指していません。

5

指定されたホストが、RSCT ピア・ドメインでオフラインです。

6

指定されたホストが、GPFS クラスタで停止されました。

7

指定されたホストで、DB2 コピーのインストール・ファイル妥当性検査が失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されている理由コードに応じて、適切なアクションを取ってください。

1

指定されたりモート・ホストで `db2val` コマンドを再実行します。

2

これらのホストの SSH 通信を修正します。これを行うには、パスワードなしの SSH アクセスをインスタンス所有者のためにセットアップすることが必要です。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

3

インスタンス共有ディレクトリーは、指定されたホストからアクセス可能でなければなりません。このディレクトリーのパスは、すべてのホストからアクセス可能でなければならず、読み取り/書き込みが許可されていなければなりません。

4

シンボリック・リンクを修正するために、root で `db2iupdt <instance_name>` を実行します。

5

コマンド `db2cluster -cm -start -host <host-name>` を実行して、ホストをオンラインにします。

6

コマンド `db2cluster -cfs -start -host <host-name>` を実行して、ホストをオンラインにします。

7

詳細については、ログ・ファイルを調べてください。

DBI1471I `db2setup` で応答ファイルが正常に妥当性検査されました。ログ・ファイル:
`path_to_logfile`。

説明: 妥当性検査プロセスが正常に完了しました。

ユーザーの処置: 詳細については、ログ・ファイルを調べてください。

DBI1472W `db2val -d` パラメーターは推奨されていません。この非推奨パラメーターは、`-t trace_file` パラメーターに置き換わりました。

説明: 推奨されなくなったパラメーターは、将来のリリ

ースでは除去される予定です。

ユーザーの処置: 推奨されないパラメーターを使用しているすべてのスクリプトまたはアプリケーションで、これを新しいパラメーターに置き換えてください。

DBI1473W パラメーター `deprecated-parm-name` は推奨されていません。この推奨されないパラメーターは、新しいパラメーター `new-parm-name` に置き換わりました。コマンド: `command-name`。

説明: この推奨されないパラメーターは、将来のリリースで廃止される可能性があります。

ユーザーの処置: 推奨されないパラメーターを使用しているすべてのスクリプトまたはアプリケーションで、これを新しいパラメーターに置き換えてください。コマンド構文およびパラメーターについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1474E インスタンス共有マウント・ポイントのパスが無効です。コマンド:
`command-name`。

説明: 指定されたコマンドでは、インスタンス共有マウント・ポイントに指定されるパスは新しいパスでなければならず、既存の GPFS ファイル・システムのサブディレクトリーであってはなりません。

ユーザーの処置: インスタンス共有マウント・ポイントの新しいパスを指定して、コマンドを再実行してください。

DBI1475E DB2 pureCluster のインストールを許可されているのは root ユーザーのみであるため、インストールに失敗しました。

説明: DB2 pureCluster Feature をインストールするには、root ユーザーとしてログインする必要があります。DB2 pureCluster で必要とされるコンポーネントはシステムの共有リソースに影響を及ぼすため、インストールは root ユーザーに限定されています。

ユーザーの処置: 新たにインストールを試みる前に、DB2 pureCluster の前提条件を検討してください。

DBI1476E 同時に指定できないオプション "`-f PURECLUSTER`" と "`-f NOSTAMP`" が指定されたため、`db2_install` コマンドが失敗しました。

説明: IBM Tivoli Storage Automation for MultiPlatform (SA MP) は、DB2 pureCluster Feature の必須コンポーネントです。"`-f PURECLUSTER`" オプションと、Tivoli

DBI1477E

SA MP をインストールから除外する "-f NOSTAMP" オプションを指定して db2_install コマンドを実行することは、許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- DB2 pureCluster をインストールに含める場合は、"-f NOSTAMP" オプションを指定しないで db2_install コマンドを再実行します。
- DB2 pureCluster をインストールしない場合は、"-f PURECLUSTER" オプションを指定しないで db2_install コマンドを再実行します。

DBI1477E 構文エラーのために db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。理由コード:
reason-number

説明: 入力された構文が無効でした。エラーの原因の説明については、対応する理由コードを参照してください。

1. -cfs_takeover オプションと -instance_shared_dev オプションは同時に使用できません。一方のオプションを db2cluster_prepare に指定する際は、もう一方を使用できません。
2. 1 つ以上のパラメーターが複数回指定されていたため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。
3. -instance_shared_dev パラメーターに値が指定されていなかったため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。
4. -t パラメーターに値が指定されていなかったため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。
5. -l というパラメーターに値が指定されていなかったため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。
6. -instance_shared_dev パラメーターに値が指定されていなかったため、db2cluster_prepare コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置: 正しい構文を使用して db2cluster_prepare コマンドを再実行します。正しい構文を確認するには、コマンド解説書を参照するか、または "-?" オプションを指定してコマンドを実行 ("db2cluster_prepare -?" と入力) してください。

DBI1478E GPFS バイナリー更新が失敗しました。もともと DB2 製品によってインストールされたのではない、1 つ以上の GPFS 緊急修正プログラムがインストールで検出されました。これらの緊急修正プログラムを手動で削除するまでは、インストールを続行できません。緊急修正プログラム:
efix_list

説明: DB2 インストーラーで検出された GPFS 緊急修正プログラムは、DB2 製品によってインストールされたものではありません。DB2 インストーラーで削除できるのは、DB2 製品インストールの一環としてインストールされた緊急修正プログラムのみです。指定された緊急修正プログラムは、手動で削除する必要があります。

ユーザーの処置: 緊急修正プログラムを手動で削除し、DB2 コマンドを再実行してください。

DBI1479N DB2NDRROP コマンドの構文に誤りがあります。

説明: DB2NDRROP ユーティリティはパーティション・システムからノードをドロップします。

```
DB2NDRROP /n:node  
[ /i:instance]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- /i デフォルト / 現行インスタンス名と異なる場合、インスタンス名を指定してください。

ユーザーの処置: 上記の有効なコマンド・オプションのいずれかを指定して DB2NDRROP コマンドを発行してください。

DBI1480N インスタンス *instance* に対するノード *node* が見つかりません。

説明: ノードがないため、DB2NDRROP が失敗しました。

ユーザーの処置: ノード番号が正しいか確認してコマンドを再発行してください。

DBI1481W インスタンス *instance* に対するノード *node* はすでに削除されました。

説明: DB2NDRROP 処理は正常に完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBI1482E 構文エラーです。フィーチャーの削除をスキップする db2_deinstall コマンド・オプションと、同じフィーチャーを削除する db2_deinstall コマンド・オプションは、同時に使用できません。

説明: '-s' オプションはフィーチャーの削除をスキップしますが、'-F feature-name' オプションはフィーチャー feature-name の削除を指定します。これら 2 つのオプションに同じフィーチャー ID を含めることはできません。

ユーザーの処置: フィーチャーを削除する場合は、'-s

feature-id' オプションを付けずにコマンドを再実行します。フィーチャーの削除をスキップする場合は、'-F feature-id' オプションを付けずにコマンドを再実行します。

DBI1483E 構文エラーです。'-F GPFS' オプションが無効です。

説明: GPFS フィーチャーは、db2_deinstall コマンドの '-F GPFS' オプションで削除できません。デフォルトでは、GPFS が DB2 インストーラーによってインストールされた場合、最後の DB2 コピーを削除する際に GPFS が使用中でないなら、GPFS フィーチャーは 'db2_deinstall -a' コマンドによって削除されます。

ユーザーの処置: '-F GPFS' オプションを指定しないで db2_deinstall コマンドを再実行します。詳しくは、アンインストールに関する資料を参照してください。

DBI1493W **Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) ピア・ドメインが検出されました。IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) は、DB2 アンインストール・プロセスで削除できません。**

説明: RSCT ピア・ドメインが存在する場合、Tivoli SA MP コンポーネントは DB2 コピーと一緒にアンインストールされません。これは、ピア・ドメインまたは Tivoli SA MP に依存している可能性がある、他のコピーまたはアプリケーションの動作に好ましくない影響を与えないためです。

ユーザーの処置: Tivoli SA MP コンポーネントに依存している他の DB2 コピーまたはアプリケーションが存在せず、そのコンポーネントがもはや必要でない場合は、削除してください。

第 82 章 DBI1500 - DBI1999

DBI1500I 使用法:
 db2inst [-f response-file]

説明: 間違った引数が入力されました。 コマンドは、「DB2 インストーラー」応答ファイルのパスの前にオプションのフラグ **-f** を受け入れます。

ユーザーの処置: 有効な引数を指定して、コマンドを再入力してください。

DBI1501E 内部エラーが発生しました。

説明: 内部処理を実行中にエラーを検出しました。

ユーザーの処置: ファイルが置かれているファイル・システムが損傷していないか調べてください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 内部エラー・メッセージの説明
3. 問題の説明

DBI1502E ファイル *file-name* のオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。

説明: ファイルのオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。 次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- ファイルのオープンあるいは読み取りで入出力エラーが発生した。
- 予定の値がファイルに見つからない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

ユーザーの処置: ファイルがユーザーによって修正されている場合、ファイル内のデータが有効かどうか調べてください。 ファイルがユーザーによって修正されていない場合、次の情報を IBM サポート担当者に連絡してください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

DBI1503E ファイル *file-name* のオープンあるいは書き込み中にエラーが発生しました。

説明: データのファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。 次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたディレクトリーに誤ったアクセス許可がある。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

ユーザーの処置: ファイルの親ディレクトリーの許可が正しく設定されているかチェックしてください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

DBI1504E メッセージ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。

説明: “DB2 インストーラー”メッセージ・カタログ・ファイルのオープンおよび読み取りをしようとして失敗しました。 DB2 インストーラーを始動する前に、以下のロケーションで **db2inst.rcx** および **db2inst.cat** の 2 つのリソース・ファイルを検索します。

- DB2 製品ディレクトリー、または
- 分散メディア、または
- 環境変数 **DB2IRCX** および **DB2ICAT**

ユーザーの処置: 環境変数 **DB2IRCX** と **DB2ICAT** を **db2inst.rcx** と **db2inst.cat** の絶対ロケーションに設定してください。

DBI1505E メモリーを割り振ろうとして失敗しました。

説明: メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

DBI1506E IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) をアップグレードできなかったため、インストールが失敗しました。

DBI1507E

説明: Tivoli SA MP 製品は、DB2 インストール・イメージに含まれているバージョン・レベルのものでなければなりません。既存のピア・ドメインに起こりうる問題を回避するため、ピア・ドメインが使用中の場合には、DB2 インストーラーによって Tivoli SA MP のアップグレードは試行されません。Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) ピア・ドメインがシステムに存在するために、Tivoli SA MP インストール済み環境のアップグレードをインストーラーで行うことができません。

ユーザーの処置: Tivoli SA MP 製品を手動でアップグレードしてから DB2 pureCluster Feature のインストールを試行してください。

DBI1507E DB2 インストーラーのインスタンスはすでに開始しています。

説明: DB2 インストーラーを開始しようとして、エラーを検出しました。DB2 インストーラーの別のインスタンスがまだ実行中です。

ユーザーの処置: DB2 インストーラーのすべてのインスタンスを終了して、インストール処理を再始動してください。問題が解決しない場合、ロック・ファイル /tmp/db2inst.lck を除去してから、DB2 インストーラーを再始動してください。

DBI1508W IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) が、DB2 製品のインストールまたはアップグレードのプロセスの一環として更新されました。

説明: SA MP コピーは 1 つだけシステムにインストールできます。DB2 のインストール時に、インストール済みの SA MP 製品を、DB2 インストール・メディアに組み込まれた SA MP のバージョンにアップグレードすることが必要になりました。

ユーザーの処置: 他のソフトウェアが SA MP に依存している場合は、それらのソフトウェアが、更新された SA MP バージョンと互換性があることを確認してください。

DBI1509W DB2 インストーラーは、必要とされるバージョンに IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) を更新できませんでした。インストールされている Tivoli SA MP のバージョン番号: *installed-SA-MP-version*。必要な SA MP のバージョン・レベル: *required-SA-MP-version*。

説明: Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) ピア・ドメインがオフラインまたは保守モードである場合

は、Tivoli SA MP のアップグレードが失敗することがあります。

ユーザーの処置: DB2 のインストールまたは更新が完了した後に、手動で Tivoli SA MP 製品をアップグレードしてください。詳しくは、「Tivoli SA MP Base Component Installation and Configuration Guide」を参照してください。

DBI1510E 非 root ユーザーでは単一の DB2 コピーに制限されており、このユーザーには既に 1 つのコピーが存在しているため、DB2 インストーラーは DB2 コピーのインストールに失敗しました。

説明: DB2 インスタンスのプロセスは、非 root の DB2 インストール済み環境ではユーザー ID により実行されます。すべての DB2 インスタンスは固有の ID で実行する必要があるため、非 root ユーザーは単一のコピーに制限されることとなります。

ユーザーの処置: 既にインストールされている非 root の DB2 コピーを、キーワード "UPGRADE_PRIOR_VERSION" を指定して応答ファイルを使用することでアップグレードします。あるいは、"db2_install -m" を実行して、インストール済みコピーをアップグレードします。

DBI1511E IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のインストールが失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。(TSAMP_RC=TSAMP_RC)。

説明: DB2 インストーラーは、installSAM ユーティリティを使用して、SA MP をインストールします。installSAM ユーティリティからエラーが戻されました。installSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は installSAM ユーティリティからの戻りコードです。

DB2 インストーラーを使用して SA MP をインストールするためには、root 権限が必要なことに注意してください。

SA MP はインストールされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP を手動でインストールするには、installSAM コマンドを使用します。

installSAM コマンドについての詳細は、SA MP Base Component 資料を参照してください。

DBI1512E このオペレーティング・システムでは **DB2 pureCluster** のインストールがサポートされないため、インストールが失敗しました。

説明: DB2 製品は、DB2 pureCluster Feature よりも、多くのオペレーティング・システムでサポートされません。検出されたオペレーティング・システムは、DB2 pureCluster をサポートしていません。

ユーザーの処置: 新たにインストールを試みる前に、DB2 pureCluster の前提条件を検討してください。

DBI1513E **IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のアンインストールが失敗しました。** 詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。(TSAMP_RC=TSAMP_RC)。

説明: db2_deinstall は、uninstallSAM ユーティリティを使用して、SA MP をアンインストールします。uninstallSAM ユーティリティは、エラーを戻しました。uninstallSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は、uninstallSAM ユーティリティからの戻りコードです。

db2_deinstall を使用して SA MP をアンインストールするためには、root 権限が必要なことに注意してください。

SA MP はアンインストールされませんでした。

ユーザーの処置: 詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP を手動でアンインストールするには、uninstallSAM コマンドを使用します。

uninstallSAM ユーティリティについての詳細は、<http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html> を参照してください。

DBI1514I **IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) の DB2 高可用性 (HA) スクリプトが正常にインストールされました。**

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1515E サブプロセスに対するリソースを割り振ろうとして失敗しました。

説明: サブプロセスを開始しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

DBI1516E サブプロセスを終了しようとして失敗しました。

説明: サブプロセスを終了しようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

DBI1517E サブプロセスでコマンドを実行しようとして失敗しました。

説明: サブプロセスでコマンドを実行しようとして、エラーを検出しました。以下の問題のいずれかが発生しました。

- コマンドが存在しない。
- コマンド検索パスが不完全である。
- コマンドに誤ったアクセス許可がある。
- システム・リソースに問題がある。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

DBI1518E **DB2 インストーラーは、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) 用の DB2 高可用性 (HA) スクリプトをインストール中または更新中にエラーを戻しました。**

説明: SA MP を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DBI1519E

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトのインストールまたは更新を試行しましたが、成功しませんでした。

ユーザーの処置: コマンド db2cptsa を使用して、これらのスクリプトを手動でインストールまたは更新してください。

DBI1519E DB2 製品がインスタンスを拡張できません。DB2 クラスター・サービスのセットアップが、host-name というリモート・ホストで失敗しました。

説明: DB2 製品が DB2 pureCluster インスタンスをこのホストまで拡張できません。DB2 クラスター・サービスのセットアップがリモート・ホストで失敗しました。

ユーザーの処置: ホストの /tmp/db2iupdt/ のログ・ファイル db2iupdt.log を調べ、状態を修正してから、db2iupdt コマンドを再実行します。

DBI1520E 端末表示の最小サイズは 24 x 80 です。

説明: 現在の端末またはウィンドウ・サイズが十分な大きさではありません。このプログラムでは最低 24 行 80 列の端末表示が必要です。

ユーザーの処置: 端末またはウィンドウ・サイズをチェックして再試行してください。

DBI1521E 端末機能情報の読み取りに失敗しました。

説明: 端末表示の初期化をしようとして、エラーを検出しました。このエラー・タイプが発生する場合は、次の 2 つが考えられます。

- この関数が、環境変数 TERM を検出できないか、あるいは端末についての正しい terminfo データベース項目を検出できないかのいずれかである。
- 端末表示を初期化中に使用できるメモリー・スペースが十分でない。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

DBI1522E 端末機能情報のリストアに失敗しました。

説明: 端末表示を元の状態にリストアしようとして、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

DBI1523E DB2 製品が、優先 1 次クラスター・キャッシング・ファシリティーをホスト host-name に変更できません。

説明: ホスト名は現在クラスター・キャッシング・ファシリティーではありません。ホストは DB2 メンバーです。

ユーザーの処置: クラスター・キャッシング・ファシリティー名を指定して、このコマンドを再実行します。

DBI1525E DB2 pureCluster インスタンスを完全にドロップするには、db2idrop コマンドで -g オプションを使用する必要があります。

説明: DB2 pureCluster インスタンスに対して、-g オプションを使用せずに db2idrop コマンドが実行されました。DB2 pureCluster インスタンスを完全にドロップするには、-g オプションが必要です。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster インスタンスをすべてのホストで完全にドロップする必要がある場合は、-g オプションを使用して db2idrop コマンドを再実行します。それ以外の場合は、-drop オプションを使用して db2iupdt コマンドを実行します。コマンド構文について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1527E 使用された応答ファイルでは IBM General Parallel File System (GPFS) のインストールが指定されていましたが、DB2 pureCluster が指定されていなかったため、インストールが失敗しました。

説明: GPFS ライセンスを使用できるのは、DB2 pureCluster Feature を併用する場合に限られます。GPFS をインストールするためのインストール応答ファイルでは、DB2 pureCluster が選択されていなければなりません。

ユーザーの処置: インストール応答ファイルを編集して、インストールする両方のコンポーネントを選択してください。

DBI1528E 製品のインストール・パスに存在する DB2 製品のバージョンは、インストール・イメージ上の製品のバージョンと互換性がないため、インストールが失敗しました。インストール・パス: *DB2DIR*。

説明: 製品を DB2 コピーに追加するには、インストール済みの製品と、インストールする製品のバージョンおよびフィックスパック・レベルが同じでなければなりません。

ユーザーの処置: インストール済みのコピーをインストール・イメージ上のバージョンに更新した後に、新しい製品を同じパスにインストールすることができます。あるいは、新しい DB2 コピーをインストールすることもできます。

DBI1529W インスタンス内の他のホストに、追加の言語、製品、またはその両方を手動インストールする必要があります。追加の言語: *added-languages*。追加の製品: *added-products*。

説明: インストール開始ホストで DB2 pureCluster Feature をインストールする際に、メンバーにコピーされるインストール・イメージには、選択されなかった言語パックや製品は組み込まれません。これらのファイルをインストール・イメージから除外することで、ディスクの占有スペースが少なくなり、インストール中のネットワーク・トラフィックが少なくなります。初期 DB2 pureCluster インスタンスの作成後に言語フィーチャーまたは製品を追加する場合には、それらがインスタンスの他のメンバーのインストール・イメージには存在しないため、他のメンバーそれぞれで手動でインストールする必要があります。追加の言語フィーチャーまたは製品を追加した後、DB2 pureCluster インスタンスに新しく追加されるメンバーには、インストール開始ホスト上にインストールされる言語および製品がすべて組み込まれます。

ユーザーの処置: このホストに追加される製品を他のメンバーに手動でインストールすることにより、言語フィーチャーおよび製品を他のメンバーに追加します。

DBI1530E イメージ・ファイルをアンパックできません。

説明: 分散メディアから tar イメージをアンパック中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパス名が存在していないディレクトリーである。
- ファイル・システムに十分なスペースがない。
- 与えられたパスのアクセス許可が誤っている。
- tar コマンドが現行検索パスで見つからない。

ユーザーの処置: インストール処理を再始動して、正しいパス名で再試行してください。

DBI1531E db2val コマンドは、インスタンス・タイプ *instance-type* ではサポートされていません。

説明: db2val コマンドを使ってこのインスタンス・タイプを妥当性検査することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1532W IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) が、DB2 製品のインストールまたはアップグレードのプロセスの一環として更新されます。

説明: 1 つのシステムにインストールできる Tivoli SA MP コピーは 1 つだけです。DB2 のインストール時には、インストール済みの Tivoli SA MP 製品を、DB2 インストール・メディアに組み込まれた SA MP のバージョンにアップグレードする必要があります。

ユーザーの処置: 他のソフトウェアが Tivoli SA MP に依存している場合は、それらのソフトウェアが、更新された Tivoli SA MP バージョンと互換性があることを確認してください。

DBI1533E 現在のホストが IBM GPFS (General Parallel File System) クラスタに含まれているため、db2_deinstall が失敗しました。

説明: 現在のホストが GPFS クラスタの一部であるため、db2_deinstall が続行できません。

ユーザーの処置: このホストに GPFS が不要な場合は、db2iupdt -drop または db2idrop -g のいずれかのコマンドを使用して、このホスト上のすべての DB2 pureCluster インスタンスを削除します。このホスト上に GPFS クラスタを使用するインスタンスがない場合、コマンドを再実行する前に GPFS クラスタを削除してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1534E IBM RSCT (Reliable Scalable Cluster Technology) ピア・ドメインのメンバーシップのために、db2_deinstall コマンドが失敗しました。

説明: 現在のホストが RSCT ピア・ドメインの一部であるため、db2_deinstall コマンドが続行できません。

ユーザーの処置: このホストに IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) が必要な場合は、"db2iupdt -drop" または "db2idrop -g" いずれかのコマンドを使用して、このホスト上のすべての DB2 pureCluster インスタンスを削除します。ピア・ドメインが必要な場合は、"db2_deinstall -a -s TSAMP" を実行して、Tivoli SA MP バイナリーの除去をバイパスしてください。このホスト上でピア・ドメインを使用するリソースがない場合は、コマンドを再実行する前に Tivoli SA MP を手動で削除してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1535W DB2 インストーラーは、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) を必要なバージョン・レベルに更新できません。インストールされている Tivoli SA MP のバージョン番号: installed-SA-MP-version。必要な Tivoli SA MP のバージョン・レベル: required-SA-MP-version。

説明: プリインストール妥当性検査で、Tivoli SA MP をアップグレードできないことが検出されました。Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) ピア・ドメインがオフラインまたは保守モードである場合は、妥当性検査が失敗することがあります。

ユーザーの処置: DB2 のインストールまたは更新が完了した後に、手動で Tivoli SA MP 製品をアップグレードしてください。詳しくは、「Tivoli SA MP Base Component Installation and Configuration Guide」を参照してください。

DBI1536E IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) のインストール中に発生した不明エラーのために、DB2 インストーラーは失敗しました。

説明: Tivoli SA MP は、DB2 pureCluster 環境の必須コンポーネントです。予期しないエラーのために、Tivoli SA MP 製品のインストールまたは更新が行われませんでした。

ユーザーの処置: Tivoli SA MP 製品を手動でインストールしてから DB2 pureCluster 製品をインストールしてください。詳しくは、「Tivoli SA MP Base Component

Installation and Configuration Guide」を参照してください。

DBI1540E 無効な分散メディア・パスが指定されました。

説明: 分散メディア上でインストール可能イメージを見つけようとしてエラーを検出しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたパスと関連付けられたファイル・システムが正しくマウントされていない。
- 指定されたパスに誤ったアクセス許可が割り当てられている。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大/小文字の区別があります。

DBI1541E 与えられた状況ファイルからのオープンまたは読み取りに失敗しました。

説明: 状況ファイルからのオープンまたは読み取りを行おうとしてエラーを検出しました。状況ファイルを手動で修正していない場合、以下のいずれかのエラーが発生しました。

- 誤ったファイル・パスが指定された。
- 誤ったアクセス許可が、状況ファイルに割り当てられている。
- 指定されたパスと関連付けられたファイル・システムが正しくマウントされていない。

ユーザーの処置: パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大/小文字の区別があります。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明
3. 状況ファイル

DBI1550E ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。

説明: ファイル・システムにもっと多くのディスク・スペースを割り振ろうとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 十分なスペースが指定の処理のために用意されてから、コマンドを再試行してください。

DBI1570I 使用方法:
db2olset InstName

説明: 間違った引数が db2olset コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

- hl-?** 使用情報を表示する
- d** デバッグ・モードをオンにする

InstName

OLAP スターター・キットで使用できるようセットアップしたいインスタンスの名前

ユーザーの処置: 次のようにコマンドを入力し直してください。

db2olset InstName

DBI1631E サンプル・データベースを作成中にエラーが発生しました。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

- ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。
- DB2 製品が正しくインストールされていないか、あるいはコンポーネント・ファイルの一部が欠落している。

ユーザーの処置: ディスク・スペースの問題ではない場合、製品の再インストールを行います。問題が解決しない場合、トレースをオンにして CLP を介してデータベースを作成するステップを再試行してください。次に、ファイルにトレース情報を保管して、IBM サポート担当者に次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
 - 問題の説明
 - トレース・ファイル
-

DBI1632E 自動開始インスタンスの構成中にエラーが発生しました。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを自動開始するフィーチャーがすでに有効である。
- "/etc/inittab" ファイルに入力を追加しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

ユーザーの処置: これら 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行します。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
-

- 問題の説明
-

DBI1633E インスタンスを自動開始する構成を削除中にエラーが発生しました。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを自動開始する機能が使用できない。
- "/etc/inittab" ファイルの入力を削除しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

ユーザーの処置: これら 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行します。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
 - 問題の説明
-

DBI1634W /etc/rc.db2v08 を更新して、dlfs ファイル・システムを自動マウントすることができません。

説明: /etc/rc.db2v08 を更新して、システム・リブート時に dlfs ファイル・システムの自動マウントを可能にしようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ファイル /etc/rc.db2v08 を手操作で編集し、次の行を追加してください。

```
if [ -x /etc/rc.dlfs ]; then
/etc/rc.dlfs
fi
```

DBI1635E Administration Server グループ・リストに追加中に、エラーが発生しました。

説明: DB2 インスタンスを Administration Server グループ・リストに追加するときに、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、DB2 インスタンスのグループ名をご使用の NIS サーバーの Administration Server の第 2 グループに追加してみてください。

DBI1637W 「OK」をクリックすると、前のインスタンス設定は失われます。

ユーザーの処置: 続行するには「OK」をクリックしてください。取り消すには「キャンセル」をクリックしてください。

DBI1639E 新規インスタンスをセットアップできません。

説明: 与えられたインスタンス名は既存のインスタンスに属していません。

ユーザーの処置:

- 新しいインスタンスを作成してください。
 - 対話式インストーラーを使用している場合、インスタンス作成パネルで新しいインスタンスを作成するよう選択してください。
 - 応答ファイル・インストーラーを使用している場合、ユーザーについての追加情報を与えてください。
- 既存のインスタンスの名前を入力してください。

DBI1640W 指定されたインスタンスはサーバー・インスタンスではありません。

説明: DB2 サーバー・インスタンスとして構成できるのは、DB2 コンポーネントの一部だけです。

ユーザーの処置:

- 指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。
- 指定されたインスタンスがデータ・リンク Administration Server である場合、インストーラーを終了し、必要であれば、インスタンスをコマンド行でセットアップしてください。

DBI1651E 指定の UID は無効です。

説明: 無効な UID が入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられた UID はシステム上の既存のユーザーにすでに割り当てられている。
- 与えられた UID が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられた UID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のユーザー ID で再試行してください。

DBI1652E 指定のユーザー名が無効です。

説明: 無効な名前が入力されました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在している。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在しているが別のグループ名に属している。
- 与えられたユーザー名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のユーザー名で再試行してください。

DBI1653E 指定のグループが無効です。

説明: 無効なグループ ID あるいはグループ名が入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたグループ ID がすでに存在しているがシステムの別のグループ名に属しているか、あるいは与えられたグループ名がすでに存在しているが別のグループ ID に属している。
- 与えられたグループ ID あるいはグループ名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられたグループ ID が 100 より小さいか等しい。

ユーザーの処置: 別のグループ ID あるいはグループ名で、再試行してください。

DBI1654E 指定したディレクトリーが無効です。

説明: 無効なディレクトリーが入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザーはすでに存在するがシステム上に別のホーム・ディレクトリーを指定している。
- 与えられたディレクトリーが大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

ユーザーの処置: システム上で指定されたユーザーのホーム・ディレクトリーあるいは別のディレクトリーを指定して再試行してください。

DBI1655E 指定されたパスワードが無効です。

説明: 無効なパスワードが入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパスワードの長さがゼロである。
- 与えられたパスワードが確認パスワードと一致しない。
- 与えられたパスワードに無効文字が入っている。

ユーザーの処置: 別のパスワードで再試行してください。

DBI1657E インスタンス名はすでに使用されています。

説明: 同じ名前を持つインスタンスがすでにシステムに存在します。

ユーザーの処置: “db2ilist”コマンドによって報告されたインスタンスのリストで確認してください。別のユーザー名で再試行してください。

DBI1701E 指定された 1 つ以上の TCP/IP パラメーターが無効です。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

- サービス名の長さが 14 文字を超えています。
- 指定されたポート番号は範囲外にあります。この番号は 1024 から 65535 の間の数値にしてください。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1702E 指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。

説明: サービス名あるいはポート番号はサービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス名は別のポート番号ですすでに使用されている可能性があるか、あるいはポート番号が別のサービス名ですすでに使用されている可能性があります。

ユーザーの処置: サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

DBI1703E 有効なサービス名あるいはポート番号が見つかりません。

説明: このインスタンスの有効なサービス名あるいはポート番号が TCP/IP サービス・ファイルに見つかりません。この情報は存在しないか、または無効かのいずれかです。

“DB2 Extended Server Edition”製品をインストールした場合、このコマンドの使用前に、インスタンスのサービス名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: このインスタンスの有効なサービス名およびポート番号を指定して、このコマンドを再入力してください。

DBI1704W TCP/IP はシステムで実行されていません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されていません。TCP/IP サービス・ファイルは更新されません。

DBI1705E 指定されたポート番号 *port-number* は、別のアプリケーションによって使用されています。

説明: 指定されたポート番号は、現在実行中の別のアプリケーションによって使用されているために、使用できません。

ユーザーの処置: 使用されていない別のポート番号を指定してください。ポート番号の範囲は、1024 から 65535 でなければなりません。

DBI1709E TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。

説明: サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

ユーザーの処置: ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。サービス・ファイルも手操作で更新してください。ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性があります。NIS サーバーは手操作で更新してください。この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

DBI1711E 指定された 1 つ以上の IPX/SPX パラメーターが無効です。

説明: 以下の状態のいずれかが発生しました。

- fileserver、objectname、あるいは ipx_socket パラメーターが Null である。
- fileserver サーバー・パラメーターが * に設定されているが objectname は * に設定されていない。
- 指定された objectname あるいは ipx_socket 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1715E NetWare ユーザー ID または NetWare パスワードが無効です。

説明: 指定する NetWare ユーザー ID および NetWare パスワードは既に存在していなければならず、NetWare ファイル・サーバーで DB2 オブジェクト名を登録するために使用されます。また、監視あるいはそれと同等の権限を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 問題を訂正して再度試行してください。

DBI1720E 指定されたユーザー ID あるいはグループ ID は NIS が実行中のため追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規ユーザー ID あるいはグループ ID は NIS がシステムで実行中の間は作成されません。

ユーザーの処置: 以前作成されたユーザー ID およびグループ ID を使用してください。

DBI1722E 指定されたサービスは NIS が実行中のため /etc/services ファイルに追加されません。

説明: NIS がシステムで実行中です。新規サービスは NIS がシステムで実行中の間は /etc/services ファイルに作成されません。

ユーザーの処置: /etc/services ファイルの以前作成されたサービス名およびポート番号を使用して再試行してください。

DBI1725W データウェアハウス・エージェント用のエージェント・デーモンおよびロガー・サービスを作成できません。

説明: TCP/IP はシステムで実行されていません。インストーラーは続行されますが、エージェント・デーモンとロガー・サービスを手操作で作成する必要があります。

ユーザーの処置: システムで TCP/IP をアクティブ化し、インストーラーを実行してください。

DBI1740W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス権限許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置: セキュリティー・リスクの可能性を回避するには、別のユーザー ID を使用してください。

DBI1741W プロトコルが検出されません。

説明: 選択プロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルに必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このユーザーがこのプロトコルの設定値を提供することができます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1744W DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。DB2 Data Links Manager 管理者を作成していないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1745W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行うクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1746W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1747W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置: これが問題となる場合には、別のディレクトリーを選択してください。

DBI1750W セキュリティー・リスクです。

説明: ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス権限許可が与えられます。セキュリティ上の理由から別のユーザー ID

を使用することをお勧めします。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 「キャンセル」を押して別のユーザー ID を入力してください。

DBI1751W プロトコルが検出されません。

説明: 選択プロトコルが検出されません。DB2 インストーラーはプロトコルに必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このユーザーがこのプロトコルの設定値を提供することができます。

ユーザーの処置:

- プロトコルの設定を提供するのであれば「OK」を押してください。
- 無視するのであれば「キャンセル」を押してください。

DBI1753W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。DB2 Administration Server なしでは、データウェアハウス・エージェントは完全にセットアップされません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1754W DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。

説明: DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。DB2 Data Links Manager 管理者を作成しないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1755W Administration Server が作成されません。

説明: Administration Server を作成していません。Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行うクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1756W DB2 インスタンスは作成されません。

説明: DB2 インスタンスを作成していません。DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1757W 指定されたディレクトリーはすでに存在します。

説明: ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

ユーザーの処置:

- このディレクトリーを使用する場合は「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1758W DB2 インスタンスまたは Administration Server を検出しました。

説明: 全 DB2 製品の除去が選択されました。しかし、DB2 インスタンスまたは Administration Server がシステムで検出されました。最初にこれらのインスタンスをドロップせずに DB2 製品をドロップすると、DB2 インスタンスが後で正しく機能できない場合があります。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1759W DB2 インスタンスまたは Administration Server 構成を検出しました。

説明: 選択した Administration Server がありません。これによって、Administration Server および DB2 インスタンス構成が廃棄されてしまいます。

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1760E *pkg-name* をセットアップするには、パッケージをインストールする必要があります。

説明: インスタンスの DB2 コンポーネントを構成するよう選択しました。パッケージがインストールされていなければ、これを行うことはできません。

ユーザーの処置: パッケージをインストールして、もう一度やり直してください。

DBI1761W ソフトウェア前提条件が、ファイル・セットまたはパッケージ *pkg-name* で違反しています。

説明: 示されているファイル・セットまたはパッケージでソフトウェア前提条件を検証中に、エラーが発生しました。処理を続行すると、製品が正しく機能しない可能性があります。前提条件をインストールしないまま処理を続行しますか?

ユーザーの処置:

- 前提条件をインストールしないまま処理を続行する場合には「OK」を押してください。
- インストールを中止するのであれば「キャンセル」を押してください。

DBI1762W ソフトウェア依存関係が、ファイル・セットまたはパッケージ *pkg-name* で違反しています。

説明: 示されているファイル・セットまたはパッケージでソフトウェア依存関係を検証中に、エラーが発生しました。処理を続行すると、ソフトウェア依存関係をすべて削除する可能性があります。ソフトウェア依存関係を除去しますか?

ユーザーの処置:

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

DBI1763I 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルもインストールされます。

説明: 英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルは、英語以外の HTML ドキュメンテーション・ファイルをインストール対象として選択した場合に必要です。これは、ユーザーが DB2 ドキュメンテーション・ライブラリー全体を検索することができるかどうかを確認するためのものです。

DBI1765W 存在しないユーザー ID *InstName* がレジストリーから検出されました。

説明: レジストリーに存在しないユーザー ID が入っています。この状態は、最初にインスタンスをドロップせずにユーザー ID のみをドロップしたために発生します。DB2 の通常の操作には影響しませんが、レジストリーのインスタンス・リストからこのユーザー ID を除去することをお勧めします。

ユーザーの処置: 次のコマンドを指定してレジストリーからこのユーザー ID を除去してください。db2iset -d "<InstName>"

DBI1766W *user-ID* の 2 次グループ・リストを変更することができません。エラー・コード: *err-code*。必要なグループ ID: *group-ID*。

説明: 指定ユーザー ID の 2 次グループ・リストを変更しようとして、エラー・コードが返されました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- NIS が実行中である。
- 与えられたユーザー ID で現在実行中の処理が 1 つ以上ある。

ユーザーの処置: Administration Server が正しく機能するように、指定グループ ID をこのユーザー ID の 2 次グループ・リストに追加します。

- 指定ユーザー ID で実行中の処理がある場合には、これらの処理をすべて終了して、このメッセージ中の指示に従ってこのユーザー ID の 2 次グループ・リストをセットアップします。
- このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、指示に従ってこのユーザー ID の 2 次グループ・リストをご使用の NIS サーバーにセットアップします。

DBI1767W DB2 レジストリーには破壊された情報が入っている可能性があります。

説明: レジストリーには無効なインスタンス情報が入っている可能性があります。これは、インスタンスあるいは Administration Server が、DB2 製品を除去する前に、正しく削除されていないことが原因となっている可能性があります。製品を再インストールして、レジストリー中の既存のインスタンス情報を保持する場合には、「キャンセル」を押してください。そうでない場合には、「OK」を押して、レジストリーを再作成します。レジストリーを再作成しますか?

ユーザーの処置:

- レジストリーを再作成するには、「OK」を押してください。

- 現在のレジストリー情報を保持するには、「キャンセル」を押してください。

DBI1768W *db2profile* をユーザー *inst-name* の *.profile* ファイルに、あるいは *db2cshrc* をこのユーザーの *.login* ファイルに追加できません。

説明: DB2 は、このユーザーの *.profile* ファイルまたは *.login* ファイルを修正することができません。これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。修正をしないと、DB2 を使用するために、このユーザーでログインするたびに、手動で環境を設定する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で応答します。

- プロファイルを *.profile* ファイルに追加します。
- db2cshrc* のロケーションを *.profile* ファイルに追加します。

DBI1769W DB2 プロファイル項目を *inst-name* の *.profile* あるいは *.login* ファイルから除去することができません。

説明: DB2 は、このユーザーの *.profile* ファイルまたは *.login* ファイルにある DB2 環境設定行をコメント化することができません。次回このユーザーでログインする時に、ファイル *db2profile* (あるいは *db2cshrc*) が見つからないというメッセージを受け取る可能性があります。以下のいずれかが原因だと考えられます。

- 2 ファイル (*.profile* と *.login*) が存在していない。
- 2 ファイルに対する書き込み許可がない。

ユーザーの処置: *db2profile* あるいは *db2cshrc* の脱着に関するメッセージを受け取った場合、ご使用の *.profile* あるいは *.login* ファイルを探索し、以下の行をコメント化してください。

```
. sqllib/db2profile (.profile ファイルから)
source sqllib/db2cshrc (.login ファイルから)
```

DBI1770E ファイル */etc/vfs* を更新することができません。

説明: 次の DB2 Data Links Manager 特定項目が */etc/vfs* ファイルに必要です。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none
```

dlfs_num は 12 に設定されるか、または 12 がすでに別の *fs* に割り当てられている場合は、8 から 15 までの番号を設定します。この行を */etc/vfs* ファイルに挿入しようとして、インストール処理が失敗しました。以下のような、さまざまな理由が考えられます。

- このファイルに対する書き込み許可がない。

- 8 から 15 までの番号がすべて使用されており、*dlfs* に割り当てられる番号がない。

ユーザーの処置: 手動で */etc/vfs* ファイルを編集して、*dlfs* 項目を追加してください。

DBI1771I ファイル */etc/vfs* は */tmp/.db2.etcvfs.backup* にコピーされました。

説明: DB2 Data Links Manager を作動させるためには、次の行を */etc/vfs* ファイルに挿入する必要があります。

```
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none
```

オリジナルの */etc/vfs* ファイルのバックアップ・コピーは */tmp/db2.etcvfs.backup* にあります。

DBI1775W 既存の */etc/rc.dlfs* ファイルが変更されました。

説明: DB2 が、既存の */etc/rc.dlfs* ファイルを新しい *dlfs* ファイル・システム・マウント項目で変更しました。

ユーザーの処置: ファイル */etc/rc.dlfs* を調べて、すべての項目が正しいことを確認してください。

DBI1780W DB2 Data Links Manager は、現行オペレーティング・システムのバージョンではサポートされていません。

説明: 現行オペレーティング・システムのバージョンは、DB2 Data Links Manager の実行をサポートしていません。ただし、ご自分の責任において、製品をインストールして構成することはできます。DB2 Data Links Manager をサポートしているオペレーティング・システムを以下にリストします。

- "<OSlist>"

DBI1782E 言語が指定されていません。

説明: 使用できるこれらの言語の中から少なくとも 1 つの言語を指定する必要があります。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1783E トピックが指定されていません。

説明: 使用できるこれらのトピックの中から少なくとも 1 つのトピックを指定する必要があります。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1784E 言語は使用できません。

説明: インストールに使用できない言語を指定しました。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1785E トピック・パッケージは使用できません。

説明: インストールに使用できないドキュメンテーション・パッケージを指定しました。

ユーザーの処置: 完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

DBI1790E ODSSI ユーティリティーはまだインストールされていないため、DB2 検索索引を作成することはできません。

説明: ODSSI ユーティリティーはまだインストールされていません。次のユーティリティー (config_search、config_view および config_help) は、DB2 オンライン資料の検索索引を作成するために必要です。

ユーザーの処置: ODSSI ユーティリティーをインストールして、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml lang_locale,
(x は 1 または FPn、
n はフィックスパック番号)
```

このコマンドは、言語ロケールである lang_locale に、DB2 ドキュメンテーションの検索索引を作成します。どの言語でドキュメンテーションをインストールしても、英語のドキュメンテーションもインストールされることに注意してください。英語ファイルの索引を作成するには、次のコマンドを実行しなければなりません。

```
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml en_US,
(x は 1 または FPn、
n はフィックスパック番号)
```

DBI1791W html ファイルで DB2 検索索引を作成/除去する時に発生する可能性があるエラーです。

説明: DB2 は、システム・ユーティリティー config_view と config_help を実行して、SCOHELP で使用される DB2 検索索引の作成あるいは除去を行います。ただし、システム上に、正しく作成/除去されていない DB2 以外の別の索引がある場合、エラー・メッセージが戻る可能性があります。

ユーザーの処置:

- DB2 索引を作成していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルに追加されている

かどうか、調べてください。"TCP/IP" のようなストリングをテスト検索して、その結果が得られるか調べます。検索が可能であれば、DB2 検索索引は正常に作成されています。

- DB2 索引を除去していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルから除去されているかどうかを確認してください。項目がなくなっていると、DB2 索引は正常に除去されています。
- DB2 索引が正常に作成あるいは除去されているかどうか確認することができない場合、IBM サポートに連絡してください。

DBI1792I DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。お待ちください ...

説明: DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。選択した言語によって、時間がかかる場合があります。

DBI1793W ユーザー ID userID は不明です。

説明: 指定されたユーザーは不明か、または現行システム上で見つかりません。

ユーザーの処置: ユーザーがこのシステムに存在することを確認してから再試行してください。

DBI1794E 1 つのグループに入れようとしたアイコンの数が多すぎます。

説明: デスクトップ・マネージャーによって許可される数を超えるアイコンを必須フォルダーに入れようとした。

ユーザーの処置: デスクトップから不要なアイコンを除去して、コマンドを再試行してください。

DBI1795E 空きメモリーが不足しているため、すべての必要なアイコンを作成できません。

説明: アイコンの生成中、アイコン作成ユーティリティーがメモリー不足になりました。

ユーザーの処置: 不要なプログラムをクローズして、もう一度やり直してください。

DBI1796W 適切な許可なしでディレクトリーにアイコンを作成しようとした。

説明: このユーザー ID は、要求されたユーザーのアイコンを作成するのに必要な許可を持っていません。

ユーザーの処置: ルート権限を持つユーザー、またはユーザー・ディレクトリーにファイルを作成するのに必要

な許可を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再実行してください。

DBI1797I アイコンが正常に作成されました。

DBI1900N Microsoft Cluster Server (MSCS) サポートを利用できません。

説明: DB2 は、Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタにアクセスできません。

ユーザーの処置: Microsoft Cluster Server (MSCS) サポートが正しくインストールされ、クラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1901N DB2 または Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタ・サービスに対するユーザー権限を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 サービスで使用するよう指定されたアカウントに対して必要なユーザー権利を与えようとしたときにエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 有効なアカウントが指定されていてユーザーの権利を与えるのに必要な特権があることを確認してください。

DBI1902N DB2 または Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタ・サービスの構成を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 または Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタ・サービス構成を更新しようとして、DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: サービス・データベースがロックされていないこととアクセス可能であることを確認してください。また、DB2 または Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタ・サービスが作成済みであることも確認してください。

DBI1903N クラスタ・レジストリーのアクセス中にエラーが発生しました。

説明: クラスタ・レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: Microsoft Cluster Server (MSCS) サポートが正しくインストールされ、クラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスタ・レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

DBI1904N DB2 インスタンスがクラスタ化されていません。

説明: DB2 はクラスタ操作を行うためにインスタンスにアクセスしようとしたがインスタンスは DB2 クラスタ・インスタンスとして識別されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンスがクラスタ・オプションで作成されたか確認してください。インスタンスがドロップされてクラスタ・オプションで再作成される可能性があります。ノード・ディレクトリー、データベース・ディレクトリー、およびデータベース・マネージャー構成ファイルは失われます。

DBI1905N DB2 クラスタ操作中にシステム・エラーが発生しました。

説明: DB2 がクラスタ操作を実行中にシステム・エラーを検出しました。

ユーザーの処置: Windows オペレーティング・システムが、クラスタ・サポートに対して適切なレベルにあることを確認してください。

また、Microsoft Cluster Server (MSCS) サポートが正しくインストールされ、クラスタ・サービスが開始済みであることも確認してください。

DBI1906N DB2 クラスタ・インスタンスにノードを追加しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスタ・インスタンスをサポートするノードを更新しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1907N DB2 クラスタ・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: DB2 クラスタ・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

ワークステーション自体からクラスタ・サポートをドロップできません。このタスクを実行するためにインスタンスをドロップしてください。

DBI1908N リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスタ・サポートを有効にするために、リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1909N リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーが発生しました。

説明: クラスタ・サポートを無効にするために、リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーを検出しました。

ユーザーの処置: リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

DBI1910N 使用法 : **DB2NCRT -I:Instance-Name -C:cluster-node**

説明: ユーザーが DB2NCRT コマンドに対して誤った引数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタされたインスタンスおよびクラスタ・ノードに対する有効なワークステーション名を指定してコマンドを再発行してください。

DBI1911N 使用法: **DB2NLIST -I:Instance-Name**

説明: ユーザーが DB2NLIST コマンドに対して誤った引数を指定しました。

ユーザーの処置: クラスタ化されたインスタンスを指定してコマンドを再発行してください。

DBI1912I DB2 クラスタ・コマンドは成功しました。

説明: ユーザー要求は正常に処理されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1913N リモート・マシン・レジストリーへの接続ができません。

説明: リモート・マシンの Windows レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピュータ名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにリモート・マシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1914N クラスタ・レジストリーへの接続ができません。

説明: クラスタ・レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: Microsoft Cluster Server (MSCS) サポートが正しくインストールされ、クラスタ・サービスが開始済みであることを確認してください。

DBI1915N ターゲット・マシンは Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタに属していません。

説明: コマンドは次の理由のいずれかで失敗しました。

- (1) db2iclus ユーティリティーが DB2 MSCS インスタンスからマシンを除去しようとしたがターゲット・マシンが DB2 MSCS インスタンスに追加されていない。
- (2) db2iclus ユーティリティーがマシンを DB2 MSCS インスタンスに追加しようとしたが、必要な Microsoft Cluster Server (MSCS) サポート・ソフトウェアがターゲット・マシンにインストールされていない。

ユーザーの処置: 問題の原因に対応するアクションに従ってください。

- (1) "db2iclus list" コマンドを実行してマシンが DB2 MSCS インスタンスの一部であることを確認する。

- (2) ターゲット・マシンに Microsoft Cluster Server (MSCS) クラスタ・ソフトウェアをインストールして、コマンドを再実行する。

DBI1916N 指定されたインスタンス名が無効です。

説明: インスタンス名パラメーターで指定されたインスタンスがローカル・マシンに存在しません。

ユーザーの処置: 有効なインスタンスのリストを検出するには、db2ilist コマンドを実行してください。有効な

インスタンス名を使用して、コマンドを再発行してください。

DBI1917I インスタンスのアップグレードまたはインスタンスの更新が正常に完了しました。ただし、このインスタンス下にカタログされたインスタンスに対して ODBC データ・ソースの再構成が必要な可能性があります。

説明: インスタンスのアップグレードまたはインスタンスの更新では、どの ODBC データ・ソースが、アップグレードまたは削除されたインスタンスと関連があるかを判別することはできません。その結果、それらのデータ・ソースは変更されていません。

ユーザーの処置: DB2 CATALOG ODBC DATA SOURCE コマンドを使用してデータ・ソースを再構成すると、構成アシスタントまたはデータ・ソース (ODBC) コントロール・パネル・アプレットからデータ・ソースにアクセスできます。

DBI1918N Windows レジストリーのアクセス中にエラーが発生しました。

説明: ターゲット・マシンの Windows レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: 現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンの Windows レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。クラスター化されたインスタンスが既にある場合は、クラスター・サービスが開始されていることを確認してください。問題が解決しない場合は IBM サービス担当者にご連絡ください。

DBI1919N TCP/IP サービス・ファイルのアクセス中にエラーが発生しました。

説明: TCP/IP サービス・ファイルの読み取りあるいは更新中に DB2 でエラーが発生しました。

ユーザーの処置: システムにサービス・ファイルが存在しておりそのファイルが読み取りおよび書き込み権限にアクセスすることができることを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、サービス・ファイルに項目の重複がないことも確認してください。

DBI1920N DB2 インスタンス・プロファイル・パス・パラメーターが無効です。

説明: DB2 インスタンス・プロファイル・パスが存在しないか、または書き込みアクセスが現在のログオン・ユーザー・アカウントに与えられていないため、指定し

た DB2 インスタンス・プロファイル・パスに DB2 はアクセスできません。

ユーザーの処置: DB2 インスタンス・プロファイル・ポイントのパス名が有効なディレクトリーとなっていて、現在のログオン・ユーザー・アカウントがそのディレクトリーに対して書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1921N ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

説明: ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

ユーザーの処置: 正しいアカウントでコマンドを再発行してください。

DBI1922N ホスト名が無効です。

説明: TCP/IP ホスト名パラメーターが無効であるか存在しないかのいずれかです。

ユーザーの処置: TCP/IP がシステムで操作可能であることを確認してください。ドメインのネーム・サーバーを使用している場合、ドメインのネーム・サーバーがアクティブであることを確認してください。正しい TCP/IP ホスト名を使用してコマンドを再発行してください。

DBI1923N TCP/IP ポート範囲パラメーターが指定されていません。

説明: パーティション・データベース・インスタンスに対する TCP/IP ポート範囲のエントリーがサービス・ファイルに追加されていない場合にこのインスタンスを作成するには、db2icrt ユーティリティーには TCP/IP ポート範囲の指定が必要です。

ユーザーの処置: システムで使用できる TCP/IP ポートの範囲を選択し、db2icrt コマンドに -r オプションを付けて再発行してください。

DBI1924N コンピューター名が無効です。

説明: コンピューター名パラメーターが無効です。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにマシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1925N DB2 サービスの状況を照会できません。

説明: DB2 が DB2 サービスの状況を照会することはできません。

ユーザーの処置: DB2 サービスがターゲット・マシンに存在しているか確認してください。現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンのサービス状況を照会できるだけの権限があることを確認してください。

DBI1926N パスワードが期限切れです。

説明: アカウント・パスワードの期限が切れています。

ユーザーの処置: パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。

DBI1927N 使用法:

```
db2iclus { ADD /u:Username,Password
[m:Machine name] |
DROP [m:Machine name] |
MIGRATE /p:Instance profile path |
UNMIGRATE }
[i:instance name]
[DAS DASname]
[c:Cluster name]
```

説明: このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

ADD DB2 MSCS インスタンスに MSCS ノードを追加する

DROP DB2 MSCS インスタンスから MSCS ノードを除去する

MIGRATE

MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスにマイグレーションする

UNMIGRATE

MSCS マイグレーションを取り消す

このコマンドの有効なオプションは以下のとおりです。

/DAS DAS インスタンス名を指定する。このオプションは、DB2 Administration Server に対してクラスター操作を実行するときに必要です。

/c デフォルト/現行クラスターと異なる場合、MSCS クラスター名を指定する

/p インスタンス・プロファイル・パスを指定する。このオプションは、MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスにマイグレーションするときに必要です。

/u DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは別の MSCS

ノードを DB2 MSCS パーティション・データベース・インスタンスに追加する時に必要です。

/m MSCS ノードを追加または除去するためのリモート・コンピューター名を指定する

/i デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合インスタンス名を指定する

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1928N ユーザー・アカウントが指定されていません。

説明: パーティション・データベース・インスタンスを作成したり、パーティション・データベース・インスタンスにノードを追加したりする場合には、ユーザー・アカウント・パラメーターを指定する必要があります。

Windows 環境では、インスタンス・ディレクトリーが置かれたネットワーク共有にアクセスするためには、有効な Windows アカウントの下でそれぞれのデータベース・マネージャー・パーティション (あるいは MPP ノード) を実行する必要があります。

ユーザーの処置: コマンドに -u オプションを指定して、ユーザー・アカウント名とパスワードを指定して、再発行してください。

DBI1929N インスタンスは MSCS サポートですでに構成されています。

説明: インスタンスは MSCS サポートですでに構成されているため、MSCS インスタンスへのインスタンスのアップグレードが失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1930N ターゲット・マシンはすでに DB2 MSCS インスタンスの一部です。

説明: ターゲット・マシンがすでに DB2 MSCS インスタンスの一部であるため MSCS ノードの DB2 MSCS インスタンスへの追加が失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1931N データベース・パーティション・サーバー (ノード) がアクティブです。

説明: データベース・パーティション・サーバーがアクティブのためドロップあるいは修正はできません。

ユーザーの処置: データベース・パーティション・サーバーがドロップあるいは変更の前に停止していることを確認してください。データベース・パーティション・

サーバーを停止するには、次のように db2stop コマンドを使用します。

```
db2stop dbpartitionnum <db-partition-number>
```

DBI1932N リモート・マシン上に同一インスタンスが存在しているためリモート・マシン上にデータベース・パーティション・サーバーを追加できません。

説明: リモート・マシンにインスタンスが存在しているため db2nrt コマンドはリモート・マシン上に新規のデータベース・パーティション・サーバーを追加できません。

ユーザーの処置: リモート・マシン上のインスタンスが使用できない場合リモート・マシン上で db2idrop コマンドを実行してインスタンスを除去してください。

DBI1933N システムにデータベースが存在しているためデータベース・パーティション・サーバーは新規のマシンに移動されません。

説明: db2nchg コマンドが /m:machine オプションを指定して発行されるとこのコマンドはデータベース・パーティション・サーバーを新規のマシンに移動します。システムにデータベースが存在している場合には db2nchg は失敗します。

ユーザーの処置: データベースが存在する時に新規マシンにデータベース・パーティション・サーバーを移動するには、db2start restart コマンドを使用してください。db2start コマンドの詳細については、『DB2 コマンド・リファレンス』を参照してください。

DBI1934N 使用法:
db2iupdt InstName
 /u:username,password
 [/p:instance profile path]
 [/r:baseport,endport]
 [/h:hostname]
 [/?]
 [/q]
 [/a:authType]
 [/j textSearchConfig]

説明: 無効な引数が db2iupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

InstName

インスタンスの名前

/u

DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションはパーティション・データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

/p

更新されたインスタンスに対して新規のインスタンス・プロファイル・パスを指定する

/r

MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されません。

DB2_InstName baseport/tcp

DB2_InstName_END endport/tcp

/h

現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名をオーバーライドする。

/?

この使用情報

/q

抑止モード

/a

authType はインスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

/j

「クライアント」インスタンスに対して使用することはできません。textSearchConfig は、「TEXT_SEARCH」、または「TEXT_SEARCH,servicename」、「TEXT_SEARCH, servicename, portnumber」、「TEXT_SEARCH,portnumber」のいずれかです。DB2 Text Search インスタンス・サービスは、指定したサービス名と TCP/IP ポート番号を使用して構成されます。指定しない場合はデフォルトが生成されます。

ユーザーの処置: 有効な引数を使用してコマンドを再入力してください。

DBI1935N db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

説明: 次の理由のいずれかで db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

- (1) db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在しない。
- (2) db2iupdt コマンドにインスタンス・ディレクトリー内にファイルあるいはサブディレクトリーを作成するのに必要な権限がない。

ユーザーの処置: db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在し現行のログオン・アカウントにインスタンス・ディレクトリーにファイルおよびディレクトリーを作成するだけの権限があることを確認してください。 インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります (ここで InstName はインスタンスの名前です)。

DBI1936N db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。

説明: 前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新ができませんでした。 現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

ユーザーの処置: デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。 インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります。 デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2system という名前で ¥sqllib¥cfg ディレクトリーにあります。

DBI1937W db2ncrt コマンドは正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまでアクティブになりません。

説明: すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノードが組み込まれることはありません。 ファイルが更新されるまで、既存のノードは新規ノードと通信できません。

ユーザーの処置: db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。 すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含むすべてのノードを開始してください。

DBI1940N DB2 Administration Server はアクティブです。

説明: DB2 Administration Server はアクティブのため変更できません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server を変更する前に、これが停止されていることを確認してください。 DB2 Administration Server を停止するには、次のように db2admin コマンドを使用してください。
db2admin stop

DBI1941W DB2 Administration Server が存在しません。

説明: DB2 Administration Server がこのマシンで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: マシン上に DB2 Administration Server を作成してください。

DBI1942N DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しています。

説明: DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しているため、操作を完了できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server をターゲット・マシンから除去し、操作を再試行してください。

DBI1943N DB2 Administration Server はクラスター化されていません。

説明: DB2 が DB2 Administration Server にアクセスしてクラスター操作を実行しようとしたのですが、DB2 Administration server が MSCS サポートで構成されていません。

ユーザーの処置: DB2 Administration Server が MSCS サポートで構成されていることを確認してください。

DBI1944N DB2 Administration Server は MSCS サポートですでに構成されています。

説明: DB2 Administration Server をアップグレードしようとしたのですが、DB2 Administration Server が MSCS サポートですでに構成されているため失敗しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DBI1945N 指定の DB2 コピー名が存在しないか、DB2 レジストリーが破損しています。

説明: 特定の DB2 コピーに対してインスタンスを更新またはアップグレードするには、その DB2 コピーが存在していなければなりません。指定の DB2 コピー名が存在しないか、DB2 レジストリーが破損しています。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー表を確認して、有効な DB2 コピー名を提供してください。インストール済みの DB2 コピーをリストするには、db2ls コマンドを実行します。

DBI1946N db2iupgrade コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2iupgrade コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2iupgrade instanceName
[/q]
[/a:authType]
[/p:instanceProf]
[/u:uid,pwd]
[/j textSearchConfig]
[/?]
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

instanceName

インスタンスの名前を示す

/q

抑止モードをオンにする

/a authType

インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT) を指定

/p instanceProf

アップグレード対象のインスタンスのインスタンス・プロファイル・パスを指定

/u uid,pwd

DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定します。このオプションは、パーティション化されたインスタンスをアップグレードする際に必須です。

/j textSearchConfig

DB2 Text Search インスタンス・サービスを構成します。クライアント・インスタンスにこのパラメーターを指定することはできません。textSearchConfig スtringは、以下のいずれかの値にすることができます。

- "TEXT_SEARCH"
- "TEXT_SEARCH, servicename"
- "TEXT_SEARCH, servicename, portnumber"
- "TEXT_SEARCH, portnumber"

サービス名と TCP/IP ポート番号を指定しない場合、デフォルト値が生成されます。

/?

この使用情報を表示

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1947N db2iupgrade コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。

説明: 前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2iupgrade コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新ができませんでした。現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

ユーザーの処置: デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥instanceName にあります。デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2system という名前です、インストール・パス下の cfg ディレクトリーにあります。

DBI1948N ファイルを削除できませんでした。

説明: 指定されたインスタンスに属するファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルの存在位置への書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1949E インスタンス *inst-name* のアップグレードがサポートされていません。

説明: インスタンスは以下のいずれかの理由により、アップグレードできません。

- このバージョンのインスタンスからのアップグレードがサポートされていない。
- インスタンスがすでに製品の現行バージョンを使用していてアップグレードが必要ない。

ユーザーの処置: このインスタンス・バージョンのアップグレードがサポートされていることを確認し、サポートされるインスタンス名または有効な DB2 コピー名を指定してコマンドを再実行します。アップグレード可能

DBI1950W

な DB2 製品のバージョンについて、詳しくは DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI1950W インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。

説明: 作成またはアップグレード中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1951W インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。

説明: 示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

ユーザーの処置: db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

DBI1952E インスタンス名 *instance-name* が無効です。

説明: インスタンス名が無効です。以下のものは使用できません。

1. 8 文字より長い名前。
2. sql、ibm、または sys で始まる名前。
3. a-z、\$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

ユーザーの処置: 有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBI1953E インスタンスがアクティブ中です。

説明: アクティブなインスタンスを更新またはドロップしようとしたためです。

ユーザーの処置: db2stop を発行 (そのインスタンスのユーザー ID から) して、インスタンスを停止する前に、インスタンスを使用しているアプリケーションがすべて完了しているかを確認してください。

DBI1954E インスタンス名は DB2 Admin Server で使用中です。

説明: インスタンスを DB2 Admin Server で使用中のため作成できません。

ユーザーの処置: 別のインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

DBI1956I db2ilist コマンドに対して無効な引数が入力されました。

説明: db2ilist コマンドは、db2ilist が実行される DB2 インストール・パスに関連した DB2 インスタンスの名前をリストします。

db2ilist コマンドの構文は以下のとおりです。

```
db2ilist [-h]
```

このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

-h

使用情報を表示します。

ユーザーの処置: パラメーターを指定せずに、再度このコマンドを入力します。

DBI1957E db2icrt コマンドの構文に誤りがあります。

説明: db2icrt ユーティリティはデータベース・インスタンスを作成します。

```
db2icrt InstName [-s {ese|wse|standalone|client}]
                  [-p instance profile path]
                  [-u username,password]
                  [-h hostname]
                  [-r baseport,endport]
                  [-j textSearchConfig]
                  [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-s

作成するインスタンスのタイプを指定する

ese

パーティション・データベースがサポートされているローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。

wse

ローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Workgroup Edition、DB2 Express または Express-C Edition、および DB2 Connect Enterprise Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

standalone

ローカル・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタン

スを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

client

IBM データ・サーバー・クライアントのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、IBM データ・サーバー・クライアント製品および DB2 Connect Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

DB2 製品では、デフォルトのインスタンス・タイプ、およびデフォルトより低位のインスタンス・タイプがサポートされています。例えば、DB2 Enterprise Edition では 'ese'、'wse'、'standalone'、および 'client' のインスタンス・タイプがサポートされています。

-p

インスタンス・プロファイル・パスを指定する。

-u

DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは ese インスタンスを作成する時に必要です。

-h

現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名をオーバーライドする。TCP/IP ホスト名はデフォルトのノード (ノード 0) を作成するときに使用されます。

-r

MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されません。

DB2_InstName	baseport/tcp
DB2_InstName_1	baseport+1/tcp
DB2_InstName_2	baseport+2/tcp
DB2_InstName_END	endport/tcp

-j

「クライアント」インスタンスに対して使用することはできません。textSearchConfig は、「TEXT_SEARCH」、または

「TEXT_SEARCH, servicename」、

「TEXT_SEARCH, servicename, portnumber」、 「TEXT_SEARCH, portnumber」のいずれかです。DB2 Text Search インスタンス・サービスは、指定したサービス名と TCP/IP ポート番号を使用して構成されます。指定しない場合はデフォルトが生成されます。

-?

ヘルプを表示する

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

DBI1958N インスタンス・プロファイルがレジストリーに追加できません。

説明: レジストリーにインスタンス・プロファイルを追加しようとしてエラーが発生しました。 インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1959N インスタンス・ディレクトリーが作成できません。

説明: 新規インスタンスに必要なファイルあるいはディレクトリーを作成しようとしてエラーが発生しました。 インスタンスは作成されませんでした。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーが作成されているロケーションに書き込みアクセスがあることを確認してください。インスタンス・ディレクトリーは製品がインストールされているパスの下に作成されません。 db2iupgrade 中で /p オプションを使用して、インスタンスを別のディレクトリーに移動できます。

DBI1960N DB2 サービスが作成できません。

説明: 以下の理由により、DB2 サービスを登録中にエラーが発生しました。

1. 同じ名前のサービスがすでに存在しているか、または削除としてマークされましたが、次回システムがリポートされるまでクリーンアップされません。
2. Windows サービスを作成するための十分なアクセス権がありません。

ユーザーの処置:

1. インスタンスの名前が、どの既存の Windows サービスとも一致していないことを確認してください。 システムのサービスのリストは、Windows レジストリーの HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services の下にあります。このサー

DBI1961N

ビスが削除としてマークされている場合は、マシンをレポートして、システムからサービスを除去する必要があります。

- ローカル管理者グループに属しているユーザー・アカウントにログオンして、操作を再試行してください。

DBI1961N 新規インスタンスのノード・キーをレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーで新規のインスタンスに対するノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1962N 新規ノードをレジストリーに追加できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーに新規のノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1963N インスタンスのアカウントに対するユーザー権限を付与中、エラーが発生しました。

説明: DB2 サービスのアカウントを構成する場合、アカウントに次のユーザー権限を付与する必要があります。

- オペレーティング・システムの一部として機能
- トークン・オブジェクトの作成
- クォータの増加
- サービスとしてログオン
- プロセス・レベル・トークンの置換

インスタンスのアカウントに対するユーザー権限を付与中、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンがドメインに属している場合、1 次ドメイン・コントローラーがアクティブでネットワークからアクセス可能であることを確認してください。そうでない場合には IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1964N ログオン・アカウントが DB2 サービスに割り当てられません。

説明: DB2 サービスにログオン・アカウントを割り当て中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ログオン・アカウントのユーザー名お

よびパスワードが有効であることを確認してください。

DBI1965N ノード *node-number* がノード・リストに見つかりませんでした。

説明: 指定されたノードがノード・リストで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: DB2NLIST コマンドを使用してノードのリストを表示して、ノードが存在することを確認してください。

DBI1966N ノードがレジストリーから削除できません。

説明: インスタンス・プロファイル・レジストリーから指定のノードを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1967N DB2 サービスを登録解除できません。

説明: DB2 サービスの登録解除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: Windows サービスを削除するのに十分な権限があることを確認してください。

DBI1968N プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

説明: プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1969N インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中にエラーが発生しました。

説明: インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーに書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1970N インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

説明: インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1971N インスタンス・プロファイルをレジストリーから除去できません。

説明: レジストリーから インスタンス・プロファイルを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1972N インスタンス・ディレクトリーを除去できません。

説明: 指定されたインスタンスに属する必要なファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: インスタンス・ディレクトリーがあるロケーションへの書き込みアクセスがあることを確認してください。

DBI1973N DB2 サービスの自動開始を構成する試みが失敗しました。

説明: DB2 サービスの自動開始を設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: マシンをリブートしてコマンドを再度試行してください。問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1974N プロファイル変数 **DB2ADMINSERVER** をプロファイル・レジストリーに設定できません。

説明: プロファイル・レジストリーにプロファイル変数 **DB2ADMINSERVER** を設定中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1975N 環境変数 **DB2ADMINSERVER** をプロファイル・レジストリーから除去できません。

説明: プロファイル・レジストリーの環境変数 **DB2ADMINSERVER** を削除中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

DBI1978E インスタンス *inst-name* の更新がサポートされていません。

説明: インスタンスの DB2 コピーが、ターゲット DB2 コピーと同じバージョン番号ではありません。あるコピーから別のコピーへインスタンスを更新できるのは、双方が同じバージョンの場合だけです。異なるバージョン間で DB2 インスタンスを移動するには、`db2iupgrade` コマンドを使用します。

ユーザーの処置: このインスタンスが更新に対して有効であるか確認して有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行します。

DBI1980W UPM でユーザー ID *userID* を作成できません。

説明: 製品のインストール中に提供したユーザー ID が、ユーザー・プロファイル管理 (UPM) で作成されませんでした。このユーザー ID は DB2 Administration Server を開始するために必要です。

ユーザーの処置: UPM を使用するユーザー ID とパスワードを手動で作成し、次に DB2 Administration Server を手動で開始します。“`db2admin`”コマンドを使用して、このユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するよう DB2 Administration Server を設定する必要がある場合があります。

第 83 章 DBI20000 - DBI20499

DBI20000E DB2 インスタンスを指定どおりに作成できませんでした。インスタンス作成のロールバックが開始します。

説明: このメッセージはインスタンス作成が失敗したことを示しています。関係するすべてのホストでインスタンスのロールバックが発生します。以下の 1 つが生じると、インスタンスのロールバックが起動します。

- インストール開始ホスト (IIH) で何らかの操作 (DB2 バイナリーのインストール、GPFS クラスタの設定、RSCT ピア・ドメインの設定、およびインスタンス・ファイル・セットの作成など) が失敗する。
- CF ホストで何らかの操作が失敗する。
- すべてのメンバー・ホストで何らかの操作が失敗する。

インスタンスのロールバックで DB2 バイナリーがロールバックされることはありません。

ユーザーの処置: 詳細については、インストール・ログを参照してください。デフォルトでは、インストール・ログは /tmp ディレクトリーにあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。ログ・ファイルに示されている問題を修正した後で、インスタンス作成コマンドを再実行してください。

DBI20001E DB2 インスタンスを指定どおりに作成できませんでした。インスタンス作成のロールバックが実行されました。

説明: 関係するすべてのホストでインスタンス作成のロールバックが実行されました。DB2 バイナリーは、正常にインストールされている場合、ロールバックされません。現在のインストール中に部分的に作成された DB2 pureCluster インスタンスは削除されました。

ユーザーの処置: 詳細については、インストール・ログを参照してください。デフォルトでは、インストール・ログは /tmp ディレクトリーにあります。ログ・ファイルに示されている問題を修正した後で、インスタンス作成コマンドを再実行してください。

DBI20002E DB2 インスタンスが部分的に作成されました。正常に追加できなかった DB2 メンバーはインスタンスに組み込まれません。影響を受けたメンバーのクリーンアップが開始します。

説明: このメッセージは、一部のホストでインスタンスが部分的に作成される場合に出力されます。インスタンス作成が完了しなかったホストで、インスタンスのロールバックが生じます。インストール・ログのこの行の直後のいくつかのメッセージは、ロールバック関連のもです。メンバー・ホストで何らかの操作 (DB2 バイナリーのインストール、GPFS クラスタの設定、RSCT ピア・ドメインの設定、インスタンス・ファイル・セットの作成など) が失敗すると、部分的なインスタンス作成のロールバックが起動し、次いで対応するホストでロールバックが生じます。

インスタンスのロールバックで DB2 バイナリーがロールバックされることはありません。

ユーザーの処置: 正常にインスタンスに追加されなかったメンバーを判別するには、ログ・ファイルを参照してください。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。このログ・ファイルに示されている問題を修正した後で、インスタンス作成コマンドを再実行してください。

DBI20004E 以下のホストで *registry_variable* グローバル・レジストリー変数レコードを削除しているときに、エラーが発生しました:
host-name-list.

説明: このエラーは、特定のホストから GPFS_CLUSTER グローバル・レジストリーまたは PEER_DOMAIN グローバル・レジストリーを削除するときに発生します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DBI20006E IBM Data Server Driver Package のインストールが失敗しました。コピー名が指定されなかったため、新規コピーをインストールするのか既存のコピーをアップグレードするのかインストーラーが判別できませんでした。

説明: Windows オペレーティング・システムで IBM Data Server Driver Package はアプリケーションのデプロイメントを単純化します。このドライバーはフットプリントが小さく、独立系ソフトウェア・ベンダー (ISV) による再配布や、大企業で一般に見られる大量デプロイメントのシナリオでアプリケーション配布に使用されることを意図して設計されています。

DB2 セットアップ・ウィザードまたは SETUP コマンドのいずれかを使用して、IBM Data Server Driver Package をインストールするか、またはドライバー・パッケージの既存のコピーに対する保守インストールを実行することができます。IBM Data Server Driver Package をインストールする際のインストーラーの動作は、ドライバー・パッケージのコピーが既にインストールされているかどうか、およびドライバー・パッケージのコピー名がインストール・ユーティリティに指定されたかどうかによって異なります。

IBM Data Server Driver Package のインストールが試行された場合に、ドライバー・パッケージの新規コピーを作成するのか、それともドライバー・パッケージの既存のコピーに保守インストールを実行するのかインストーラーが判別できないと、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: IBM Data Server Driver Package の新規コピーをインストールする場合は、以下のいずれかの方法を使用してください。

GUI インストーラーの使用

- SETUP コマンドに /o オプションを指定して実行することによって、デフォルトの生成名で新規コピーをインストールする。
- SETUP コマンドに /n <copy-name> オプションを指定して実行することによって、選択した名前でも新規コピーをインストールする。

サイレント・インストールの使用

応答ファイルの COPY_NAME キーワードに新規コピー名を設定する。

既存の IBM Data Server Driver コピーに保守インストールを実行する場合は、以下のいずれかの方法によってアップグレードするコピーを指定してください。

GUI インストーラーの使用

SETUP コマンドの /n <copy-name> オプションにアップグレードするコピーを指定して実行する。

サイレント・インストールの使用

応答ファイルの COPY_NAME キーワードにアップグレードする既存のコピーを設定する。

DBI20007E IBM Data Server Driver for ODBC and CLI のアップグレードに失敗しました。システムにドライバーのコピーが複数存在しており、アップグレード・ユーティリティは、アップグレードするコピーを特定できませんでした。

説明: IBM Data Server Driver for ODBC and CLI の複

数のコピーを同じマシンにインストールできます。必要とするドライバーのバージョンが異なる 2 つのデータベース・アプリケーションが同じマシン上にある場合に、そうすることが必要になることがあります。このシステムにドライバーのコピーが複数存在する場合、それらのうちのいずれかを「デフォルト」のコピーに指定できます。

IBM Data Server Driver for ODBC and CLI のコピーをアップグレードする場合、同じシステムにドライバーのコピーが複数インストールされているのであれば、アップグレード・ユーティリティは、アップグレードするコピーを次のように 2 とおりの方法で特定します。アップグレードするコピーの名前がアップグレード・コマンドに指定されている場合は、そのコピーをアップグレードします。いずれかのコピーがデフォルトとして指定されていて、アップグレード・コマンドに名前指定がない場合は、アップグレード・ユーティリティはデフォルト・コピーをアップグレードします。

システム上の IBM Data Server Driver for ODBC and CLI の複数のコピーのいずれかのアップグレードが試行された場合に、既存のコピーのいずれもデフォルトとして設定されておらず、また、アップグレード・コマンドにも名前が指定されていないと、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 既存の IBM Data Server Driver コピーをアップグレードする場合は、以下のいずれかの方法を使用してアップグレードするコピーを指定してください。

GUI インストーラーの使用

SETUP コマンドの /n <copy-name> オプションにアップグレードするコピーを指定して実行する。

サイレント・インストールの使用

応答ファイルの COPY_NAME キーワードにアップグレードする既存のコピーを設定する。

DBI20008W 次の DB2 コピーが以前にインストールされているため、IBM Data Server Driver Package のインストール時に PATH 環境変数も CLASSPATH 環境変数も更新されませんでした: *copy-name*。

説明: IBM Data Server Driver Package をインストールする際に、この Data Server Driver Package がデフォルトのデータベース・クライアント・インターフェースになるように指定できます。

インストール中に Data Server Driver Package をデフォルトのデータベース・クライアント・インターフェースとして設定すると、PATH 環境変数と CLASSPATH 環

境変数が自動的に更新されて Data Server Driver Package の詳細情報が組み込まれます。しかし、別の IBM データ・サーバー・クライアントまたはドライバーが既にインストールされていることを Data Server Driver Package インストールが検出した場合は、PATH 環境変数と CLASSPATH 環境変数は Data Server Driver Package の詳細情報を組み込むように更新されません。

Data Server Driver Package インストールが、別の IBM データ・サーバー・クライアントまたはドライバーが既にインストールされていることを検出し、その結果 PATH 環境変数や CLASSPATH 環境変数を更新しない場合に、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: Data Server Driver Package 用に環境を構成するには、PATH 環境変数と CLASSPATH 環境変数を手動で更新してください。

DBI20009E DB2 インスタンス *instance_name* 用の Tivoli SA MP リソースの作成に失敗しました。

説明: このエラーは、DB2 pureCluster インスタンス用の Tivoli SA MP リソースの作成に失敗したことが原因で発生します。

- このエラーが発生するのは、DB2 pureCluster インスタンスの作成中だけです。エラーにより、インスタンスのロールバックが起動します。
- インストーラーが内部的に呼び出すコマンドは `db2cluster -cm -resources -create` です。このコマンドは、インスタンス・ユーザーとして実行されます。詳細については、`db2cluster` コマンドを参照してください。
- このコマンドのログ・ファイルは `<instance_user>/sqllib/db2dump/db2diag.log` です。ロールバック時に `<instance_user>/sqllib` がロールバックされるため、ファイルは `/tmp/db2diag.log.process_id` としてバックアップされます。
- このエラーには、考えられる原因が複数あります。可能性のある理由の 1 つは、`db2nodes.cfg` が不正確であること、またはその作成に失敗したことです。ファイルは `<instance_user>/sqllib/db2nodes.cfg` にあります。ロールバック中に、このファイルは `/tmp/db2nodes.cfg.process_id` としてバックアップされます。

詳しくは、このログでインストール後の推奨処置のセクションを参照してください。

ユーザーの処置: このエラーが発生し、インスタンスのロールバックが起動したら、すべてのログおよびトレース・ファイルを用意して、IBM サービスに連絡してください。トレースおよびログ・ファイルの収集の詳細に

ついては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20011E RSCT ピア・ドメイン *domain_name* の削除が失敗しました。以下のコマンドを実行して、ドメインを手動で削除してください : *command*。

説明: RSCT ピア・ドメインの削除のエラーは、ロールバック中または `db2idrop -g` コマンドの実行中に発生する可能性があります。

ユーザーの処置: RSCT ピア・ドメインを手動で削除するには、以下のステップを実行します。

1. `lssam` を実行し、ピア・ドメインに接続しているリソースがまだあるか確認します。なければステップ 5 に進みます。
2. `su - instance_owner` でインスタンス所有者に切り替えます。
3. `db2cluster -cm -repair -resources` でリソースを削除します。
4. 元の `root` に切り替えます。
5. `db2cluster -cm -delete -domain domain_name` で RSCT ピア・ドメインを削除します。IBM Reliable Scalable Cluster Technology ピア・ドメインの手動クリーンアップの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20013E DB2 インストーラーは、指定された装置パス *device_path* がホスト *host_name* 上のシンボリック・リンクであることを検出しました。

説明: このメッセージは、タイ・プレーカー装置パスまたはインスタンス共有装置のための指定された装置パスが、シンボリック・リンクであることを示しています。装置パスはストレージ装置でなければなりません。

ユーザーの処置: 有効なストレージ装置を装置パスとして指定してください。

DBI20014E DB2 インスタンス *instance_name* で DB2 リソースの削除が失敗しました。

説明: インスタンス・リソースは、インスタンス構成中に DB2 pureCluster インスタンスのために作成された RSCT リソースです。インスタンスは使用可能な状態ではありません。

- このエラーは、DB2 pureCluster インスタンス作成がロールバックされる時、または DB2 pureCluster インスタンスがドロップされる時に発生する可能性があります。

DBI20015E

- インストーラーが内部的に呼び出すコマンドは `db2cluster -cm -resources -delete` であり、このコマンドはインスタンス・ユーザーとして実行されます。詳細については、`db2cluster` コマンドを参照してください。
- `db2idrop -g` の実行中にインスタンス・リソースの削除に失敗すると、インスタンスのドロップの処置はそれ以上実行されません。このコマンドのログ・ファイルは `<instance_user>/sqllib/db2dump/db2diag.log` です。
- `<instance_user>/sqllib/db2nodes.cfg` が有効であるかどうかを確認してください。
- インスタンス作成のロールバック中には、インスタンス・リソース削除も呼び出されます。ロールバック時には `<instance_user>/sqllib` がロールバックされるため、ファイルは `/tmp/db2diag.log.process_id` としてバックアップされます。

ユーザーの処置: 詳細については、`db2diag.log` でエラー・メッセージを参照してください。このログ・ファイルは `<instance_user>/sqllib/db2dump/db2diag.log` にあります。問題を修正して、`db2idrop` コマンドを再実行してください。

DBI20015E 以下のホストで RSCT ピア・ドメイン `domain_name` の縮小が失敗しました:
`host-name-list`。以下のコマンドを実行して、ホストを手動で削除してください:
`command`。

説明: このエラーは、部分的なロールバックまたは `db2iupdt -drop` の実行中に発生する可能性があります。これは、RSCT ピア・ドメインの縮小が失敗したために発生します。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行して、失敗したホストを RSCT ピア・ドメインから手動で削除します。

1. `lssam` を実行し、ホストに接続しているリソースがまだあるか確認します。
 - リソースがまだ接続している場合は、ステップ 2 に進みます。
 - リソースが接続していない場合は、IIIH から `db2cluster -cm -remove -host host_name` を実行します。
2. インストール開始ホスト (IIIH) から `su - instance_owner` を実行して、インスタンス所有者に切り替えます。
3. `db2cluster -cm -delete -resources` を実行して、リソースを削除します。
4. 元の `root` に切り替えます。

5. `db2cluster -cm -remove -host host_name` を実行して、失敗したホストを RSCT ピア・ドメインから削除します。
6. もう一度インスタンス所有者に切り替えます。
7. `db2cluster -cm -create -resources` を実行して、リソースを再作成します。
8. 元の `root` に切り替えます。

DBI20016E ホスト `host_name` のクラスター相互接続ネット名 `net_name` が、インストール開始ホストと同じサブネット上にありません。

説明: このエラーは、ホストのクラスター相互接続ネット名がインストール開始ホストと同じサブネット上にない場合に発生します。

パフォーマンス上の理由から、すべてのクラスター相互接続は同じサブネット上になければなりません (通常、同じサブネット内のすべてのホストへは 1 ルーティング・ホップで到達可能です)。例えば、クラスター相互接続ネットワークがネットワーク・アドレス `192.168.0.0/24` で構成されている場合、すべてのクラスター相互接続ネット名アドレスは先頭が `192.168.0` (例えば、`192.168.0.1`、`192.168.0.2` など) でなければなりません。

ユーザーの処置: 新しいホストのネットワーク・カード構成を確認する (`ifconfig -a` を実行するなど) とともに、`/etc/hosts` を調べて、アドレスではなく名前が使用されていたかどうかを確認します。ネットワーク・アダプターを再構成するか、別のネットワーク・アダプターを選択します。

DBI20017E クラスター相互接続ネット名 `net_name` は無効です。

説明: DB2 インストーラーがクラスター相互接続ネット名を識別できません。

ユーザーの処置: 以下のことを確認してください。

- コマンドにタイプミスのエラーがないか確認します。
- マシンのネットワーク構成を確認します (`/etc/hosts` を確認するなど)。
- `ping` および `nslookup` ツールを使用して、すべてのホストでクラスター相互接続ネット名が同じ IP アドレスにマップされていることを確認します。逆に、すべてのホストでこの IP アドレスが同じクラスター相互接続ネット名にマップされていることを確認します。

有効な装置のネット名または IP アドレスを入力します。

DBI20018E ホスト *host-name* のクラスター相互接続 ネット名が、インストール開始ホストの ping に失敗しました。

説明: 新しいホストを追加するときには、新しいホストがインストール開始ホスト (IH) に小さなデータ・パケットを送信して、応答を受信できるかどうかの検査が行われます。この送信と応答のテストは、一般に ping として知られているものです。このメッセージは、ping の失敗の結果です。

ユーザーの処置: ネットワーク・アダプターとケーブルを確認するか、別のネットワーク・アダプターとケーブルを選択します。問題がある場合、リモート・ホストのコンソールから以下のコマンド行を実行し、結果を確認します: ping <installation-initiating host name>。問題が DB2 インストーラーの外側で発生していることを確認した後、問題の原因を突き止めるためにさまざまな事柄を確認できます。例えば:

- 物理接続の不良 (ケーブルのゆるみなど)。
- ネットワーク・アダプター・ドライバーが正しく機能していない。
- ネットワークの設定ミス。

DBI20019E DB2 インストーラーにより、DEFAULT_INSTPROF レコードと指定されたインスタンス共有ディレクトリーとの間に矛盾が検出されました。

説明: グローバル・レジストリーの DEFAULT_INSTPROF レコードは、インスタンス共有ファイル・システムが既に DB2 インストーラーによってセットアップ済みであることを示しています。この場合、以下のオプションまたはキーワードは不要です。

- 応答ファイル・インストールの場合:
 - INSTANCE_SHARED_DEVICE_PATH
 - INSTANCE_SHARED_DIR
- db2icrt または db2iupdt コマンドの場合:
 - instance_shared_dev
 - instance_shared_dir

INSTANCE_SHARED_DIR (または instance_shared_dir) の値が既存のインスタンス共有ファイル・システムのマウント・ポイントと一致しない場合、インストールは失敗します。

ユーザーの処置: インスタンス共有ディレクトリーを指定しないでください。

DBI20020E 以前にホスト *host_name* 上で GPFS クラスタ *cluster_name* が作成されたことが、DB2 インストーラーによって検出されました。しかし、GPFS クラスタはこのホスト上でオフラインです。

説明: DB2 ソフトウェアによって作成された GPFS クラスタが既に存在しています。この GPFS クラスタを再利用して DB2 pureCluster インスタンスを作成するには、指定されたホストでクラスタをオンラインにしてください。

ユーザーの処置: GPFS クラスタを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
<installed_path>/bin/db2cluster -cfs -start -all
```

db2cluster コマンドについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20021E グローバル・レジストリーに *reg-var* 変数レコードが定義されていることが DB2 インストーラーによって検出されました。しかし、値 *dir-name* は既存のディレクトリーではありません。

説明: このメッセージは、指定されたグローバル・レジストリー変数レコードが、共有ファイル・システムが既に存在していることを示している場合に出力されます。DB2 製品は、インスタンス共有ファイル用の共有ファイル・システムが存在するものと予想します。

ディレクトリー名値はファイル・システムのマウント・ポイントです。システムにマウント・ポイントがないことが DB2 インストーラーによって検出されました。考えられる理由としては、指定されたグローバル・レジストリー・レコードは以前の DB2 操作から残されたもので、実際のファイル・システムはもう存在しなくなっていること、またはファイル・システムがどこか別の場所にマウントし直されたのにレジストリー項目が変更されていないことが挙げられます。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DBI20022E グローバル・レジストリーに変数レコード *reg-var* が定義されていることが DB2 インストーラーによって検出されました。しかし、GPFS クラスタはホスト *host_name* 上に存在しません。

説明: グローバル・レジストリー変数レコード GPFS_CLUSTER は、ホスト上に DB2 作成の GPFS クラスタがあることを示しています。この場合、ホスト上に GPFS クラスタがないことをインストーラーが検出しています。DB2 製品は、このホスト上に GPFS

DBI20023E

クラスターが存在することを期待します。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DBI20023E ホスト *host_name* 上のアクティブな IBM RSCT (Reliable Scalable Cluster Technology) ピア・ドメインが DB2 製品によって作成されていないことを、DB2 インストーラーが検出しました。

説明: このエラーは、DB2 がホスト上でアクティブな RSCT ピア・ドメインの作成に失敗した場合に発生します。このプロセスの間、他の RSCT ピア・ドメインがアクティブであってはなりません。

DB2 インストーラーで RSCT ピア・ドメインを作成する前に、DB2 インストーラーによって作成されたのではないピア・ドメインは停止または削除しておく必要があります。

ユーザーの処置: 問題を修正してから、指定されたホスト上でピア・ドメインを停止し、インストール・プロセスを再始動してください。

指定されたホスト上で `db2cluster` コマンドを使用して、RSCT ピア・ドメインを停止します。同じアクティブ RSCT ピア・ドメインに属するホストに `root` としてログオンし、`db2cluster` コマンドを実行します。例えば:

```
db2cluster -cm -stop -host db2host1
```

ここで、`db2host1` はエラー・メッセージに指定されたホストです。

`db2cluster` が使用不可な場合は、`stoprpdomain` を実行します。例えば、`stoprpdomain db2domain1` です。

DBI20024E 指定された装置パス *device_path* がホスト *host_name* 上の有効な装置ではないことを DB2 インストーラーが検出しました。

説明: このメッセージは、タイ・プレーカー装置パスまたはインスタンス共有装置のための指定された装置パスが、ストレージ装置ではないことを示しています。装置パスはストレージ装置でなければなりません。装置が無効な理由として、次のような可能性があります。

- 既存のファイルまたはディレクトリーがあります
- 装置が存在しません
- 装置がストレージ装置ではありません (パイプ、fifo 装置、キャラクター型装置など)
- 指定されたパスに対する検索可能なアクセス権限を `root` が持っていません
- パス名は長すぎます

ユーザーの処置: 有効なストレージ装置を装置パスとして指定してください。

DBI20025E IBM RSCT (Reliable Scalable Cluster Technology) ピア・ドメイン *domain_name* が以前に DB2 によってホスト *host_name* に作成されたものの、このピア・ドメインはこのホスト上でオフラインであることを DB2 インストーラーが検出しました。

説明: このエラーは、RSCT ピア・ドメインが以前にホスト上に作成されたもののオフラインであり、インストール開始ホストが別の RSCT ピア・ドメインにあることを DB2 インストーラーが検出した場合に発生します。リモート・ホストをホスト・リストから削除する必要があります。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster インスタンスからホストを除去するには、以下のようにします。

1. 同じ DB2 pureCluster インスタンスに属している別のホストにログオンします
2. `run db2iupdt [-d] -add -mlcf <host_name>:<interconnect_name> -u <fenced_id> <instance_owner>`

`db2iupdt` コマンドについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20026E ホスト (*host-name-list*) はインスタンスに含まれていません。

説明: このインストール後メッセージは、エラーが原因でインスタンスに含まれなかったホストを示します。DB2 バイナリーは、正常にインストールされているのであれば、削除されていません。このロールバックの原因となったエラーの詳細については、インストール・ログを参照してください。

ユーザーの処置: このログ・ファイルに示されている問題を修正した後で、インスタンス拡張コマンド (`db2isetup -add` または `db2iupdt -add`) を実行して、インスタンスをこれらのホストに拡張してください。

DBI20027E ホスト *host_name* で GPFS クラスターの作成が失敗しました。失敗したコマンド: *command_name*。

説明: インスタンス作成中に、GPFS クラスターの作成に失敗しました。この失敗により、インスタンス作成のロールバックが起動します。

`db2cluster` コマンドのログ・ファイルは `/tmp/ibm.db2.cluster.*` にあります。

ユーザーの処置: `db2cluster` コマンドのログ・ファイル

を参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行してください。

DBI20028E *command_name* コマンドを使って GPFS クラスタ *db2cluster_xxxx* を削除することができません。

説明: このメッセージは、ロールバック中に GPFS クラスタの削除に失敗した場合に出力されます。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドのログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行して、GPFS クラスタからホストを削除してください。

DBI20029E GPFS クラスタ *db2cluster_xxxx* がファイル・システム *fs_name* を作成することに失敗しました。失敗したコマンド: *command_name*。

説明: このメッセージは、GPFS ファイル・システムの作成に失敗した場合に出力されます。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドのログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行してください。

DBI20030E GPFS クラスタ *db2cluster_xxxx* をホスト *hostname* に拡張することに失敗しました。失敗したコマンド: *command_name*。

説明: このメッセージは、ホストへの GPFS クラスタの拡張に失敗した場合に出力されます。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドのログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行して、ホストを拡張してください。

DBI20031E GPFS クラスタ *db2cluster_xxxx* がファイル・システム *fs_name* を削除することに失敗しました。失敗したコマンド: *command_name*。

説明: このメッセージは、ロールバック中に新しく作成された GPFS ファイル・システムの削除に失敗した場合に出力されます。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドのログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行して、ファイル・システムを削除してください。

DBI20032E タイムアウト期間 *time_period* 内に、ホスト *host_name* の妥当性検査が完了しませんでした。タイムアウトの時間を変更するには、環境変数 *environment-variable-name* を使用して新しいタイムアウト値 (分単位) を設定します。

説明: このエラーは、要求されたタイムアウト期間内にリモート・マシン上の妥当性検査プロセスが戻らなかったために発生します。

ユーザーの処置: マシンが低速の場合は、タイムアウト時間を延長して、完了までに猶予する時間を増やすことができます。タイムアウトの時間を変更するには、環境変数 "environmentvariable1" を使用して、新しいタイムアウト値 (分単位) を設定します。インストール・コマンドを再実行してください。

マシンがハングしている場合は、すべての情報ファイルを収集し、IBM サービスに連絡します。

DBI20033E GPFS クラスタ *db2cluster_xxxx* からホスト *host_name* を削除できません。失敗したコマンド: *command_name*。

説明: このメッセージは、GPFS クラスタがホストの削除に失敗した場合に出力されます。

ユーザーの処置: db2cluster コマンドのログ・ファイルを参照してください。このログ・ファイルは /tmp/ibm.db2.cluster.* にあります。ログ・ファイルには追加のエラー・メッセージと詳細が収められています。問題を解決した後、コマンドを再実行して、GPFS クラスタからホストを削除してください。

DBI20034I アクションは不要です。テークオーバーするユーザー管理クラスタがありません。

説明: db2cluster_prepare コマンドによって IBM General Parallel File System (GPFS) が検出されませんでした。db2cluster_prepare コマンドの実行は不要です。DB2 pureCluster インスタンスを作成すると、GPFS ファイル・システムが自動的に作成されます。

ユーザーの処置: ありません。

DBI20035E インストール開始ホスト (IIH) *host_name* 上の装置パス *device_path* の PVID が、リモート・ホスト *remote_host_name* 上に存在していません。

説明: このメッセージは、IIH 上の指定された装置パスと同じ PVID を持つ装置パスがリモート・ホストに見つからないために出力されます。リモート・ホストには、一致する PVID が必要です。

ユーザーの処置: PVID がすべてのホストにあることを確認するには、次のようにします。

1. IIH マシンの指定された装置パスの PVID を入手します。
2. 同じ PVID がすべてのホストに存在することを確認します。

リモート・ホストに PVID を構成します。PVID の構成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20036E リモート・ホスト *host_name* は、以前に **DB2 pureCluster Feature** によって作成されたアクティブな **IBM RSCT (Reliable Scalable Cluster Technology)** ピア・ドメインに属しています。

説明: このエラーは、DB2 インストーラーが RSCT ピア・ドメインは以前に DB2 pureCluster Feature によって作成されたものであることを検出した場合に発生します。

ユーザーの処置: 続行するには、以下の 1 つを実行します。

- ホスト・リストからリモート・ホストを削除する。
- 指定されたリモート・ホストが DB2 pureCluster インスタンスに属している場合は、db2iupdt -drop コマンドを使ってその DB2 pureCluster インスタンスからリモート・ホストを削除する。

db2iupdt コマンドについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20037E リモート・ホスト *host_name* は以前に **DB2 pureCluster Feature** によって作成されたアクティブな **IBM RSCT (Reliable Scalable Cluster Technology)** ピア・ドメインに属していますが、インストール開始ホストは別の RSCT ピア・ドメイン内にあります。

説明: このエラーは、RSCT ピア・ドメインが以前に DB2 pureCluster Feature によって作成されたものである

ものの、インストール開始ホストが別の RSCT ピア・ドメインにあることを DB2 インストーラーが検出した場合に発生します。

ユーザーの処置: 続行するには、以下の 1 つを実行します。

- ホスト・リストからリモート・ホストを削除する。
- 指定されたリモート・ホストが DB2 pureCluster インスタンスに属している場合は、db2iupdt -drop コマンドを使ってその DB2 pureCluster インスタンスからリモート・ホストを削除する。

db2iupdt コマンドについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20038E リモート・ホスト *host_name* が GPFS クラスタに属しています。

説明: DB2 製品では複数の GPFS クラスタの結合はできません。現在のホストと示されているリモート・ホストは、別々の GPFS クラスタに属しています。

インストール開始ホスト (IIH) が、ある GPFS クラスタの一部である場合、リモート・ホストは GPFS クラスタに属さないか、同じ GPFS クラスタに属するかのどちらかでなければなりません。IIH が GPFS クラスタの一部でない場合、リモート・ホストは GPFS クラスタに属してはなりません。

ユーザーの処置: このエラーを解決するには、以下のいずれかの提案を実行してから、コマンドを再実行します。

- ホスト・リストからリモート・ホストを削除する。
- ホストを現在の DB2 pureCluster セットアップに追加する前に、このホストをもう一方の GPFS クラスタから削除する。
- インスタンス作成の場合、リモート・ホストに定義された GPFS クラスタを再利用するには、リモート・ホスト上でインスタンス作成を開始する。

コマンドを再発行してください。

DBI20039E 新規コピー *new-copy-name* を別のパスにインストールする必要があります。指定されたインストール・パス *new-copy-path* に、DB2 コピー名が *existing-copy-name* である既存の DB2 製品が含まれています。

説明: DB2 では、既存のコピーが含まれていないパスに新規コピーをインストールする必要があります。

ユーザーの処置: 新規コピーをインストールする場合は、新しいパスを指定してください。この場所にインス

トールされた DB2 製品を使って作業を行う場合は、インストールを終了して、DB2 セットアップ・ランチパッドから「既存の製品を操作」オプションを選択してください。

DBI20040E キーワード **FILE** によって応答ファイルで指定されたパス *provided-path* に、**DB2_COPY_NAME** が *existing-copy-name* のインストール済み DB2 コピーが含まれていますが、その名前は応答ファイルで指定されているコピー名 *provided-copy-name* と一致していません。

説明: キーワード **FILE** および **DB2_COPY_NAME** によって応答ファイルで指定されたパスと名前のペアが無効です。指定されたパスに含まれている既存の DB2 コピーのコピー名が、指定されたコピー名と異なります。パスに含めることのできる DB2 コピーは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 正しいコピー名およびパスが指定されていることを確認し、コマンドを再実行してください。

DBI20041E ホスト *host_name* はインストール開始ホスト (IHH) であるため、ホスト *host_name* をインスタンス *instance_name* からドロップすることはできません。インスタンス内の別のホストからホスト *host_name* をドロップすることはできません。

説明: `db2iupdt -drop` コマンドは、DB2 pureCluster インスタンス内の最後のクラスター・キャッシング機能または最後のメンバーをドロップしません。クラスター・キャッシング・ファシリティーまたはメンバーをドロップした後も引き続きインスタンスに属するホストから、`db2iupdt -drop` コマンドを実行する必要があります。

ユーザーの処置: インスタンス内の別のホストから `db2iupdt -drop` コマンドを使用することにより、指定されたホストをドロップできます。

DBI20042E 応答ファイルのキーワード **DB2_COPY_NAME** の値 *provided-copy-name* は、キーワード **FILE** によって指定されたパス *provided-copy-path* に対して無効です。このコピーはパス *existing-copy-path* に存在します。

説明: 指定された **DB2_COPY_NAME** は存在しますが、指定されたパスに存在していません。Windows にインストールされている DB2 の既存のコピーを使って

作業する際は、正しいインストール・パスが指定されている必要があります。

ユーザーの処置: 新規インストールを実行する場合は、**DB2_COPY_NAME** に対して固有値を指定してください。既存のコピーを使って作業を行う場合は、キーワード **DB2_COPY_NAME** が、キーワード **FILE** によって指定された正しいパスと一致していることを確認してください。

DBI20043E 一時ディレクトリー *tmp-directory* での許可設定の制限により、**DB2** のインストールが失敗しました。

説明: 一時ディレクトリーは、インスタンスおよびデータベース・オブジェクトの作成と管理に必要なファイルを保管するために DB2 によって使用されます。DB2 をインストールまたは更新するには、すべてのユーザーが一時ディレクトリーに対して読み取り、書き込み、およびアクセスを実行することが可能でなければなりません。

ユーザーの処置: 一時ディレクトリーに対する読み取り、書き込み、および実行権限をすべてのユーザーに付与してください。Linux および UNIX の場合、コマンド `chmod 0777` を使用してこれを行えます。DB2 pureCluster 環境では、すべてのホストの権限設定が適切なものとなるようにしてください。

DBI20044E パラメーター *parameter-name* がないか、または無効です。

説明: 指定されたパラメーターがないか、または無効です。指定されたコマンドには応答ファイルに必須のパラメーターがありますが、一部の組み合わせはサポートされていません。例えば、**PREFERRED_PRIMARY_CF** パラメーターまたは **PREFERRED_SECONDARY_CF** パラメーターは、'dsf' のインスタンス・タイプにしか指定できません。

ユーザーの処置: 指定されたパラメーターについて応答ファイルで確認してください。応答ファイルおよびコマンドのパラメーターの組み合わせの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20045E 検出されたオペレーティング・システムはサポートされていないため、DB2 は DB2 pureCluster インスタンスを作成できませんでした。

説明: DB2 pureCluster Feature for Linux は特定のディストリビューションでのみサポートされています。

ユーザーの処置: DB2 pureCluster Feature のインストール

の資料で、インストール前提条件のソフトウェアの考慮事項に関する情報を参照してください。

ユーザーの処置:

DBI20046E RDMA 対応のネットワーク・アダプター構成をリストしたファイルにアクセスできなかったため、DB2 pureCluster インスタンスを作成できませんでした。

説明: DB2 pureCluster インスタンスの作成を試行している間に、DAPL (Direct Access Programming Library) ソフトウェア構成ファイルにアクセスできませんでした。DAPL 構成ファイルは、RDMA (Remote Direct Memory Access) 対応のネットワーク・アダプターの有無を検査するため、DB2 pureCluster Feature によって参照されます。ファイルはパス /etc/dat.conf でアクセス可能でなければなりません。

ユーザーの処置: ファイルのバックアップ・コピーが存在するなら、それを元の場所に復元してください。

DBI20047E DB2 インストール・プロセスが以下のホストで失敗しました: *host-list*。

説明: DB2 pureCluster Feature のすべてのソフトウェア・コンポーネントのインストールと構成は、単一のホストから行われます。ホスト・マシンのいずれか 1 つでフィーチャーのインストールが失敗すると、DB2 インストール・プロセスは完了できません。

インストール・プロセスがホスト・マシンで失敗した原因がいくつか考えられます。

- ホスト名が見つかりません。
- ホストが到達不能です。
- root ユーザー以外のユーザーがインストールを実行しています。
- システムが uDAPL または InfiniBand のすべての前提条件を満たしていません。
- /root または /tmp パスに、インストールを完了するのに十分なディスク・スペースがありません。

ユーザーの処置: インストール失敗の理由を特定および解決する助けとして、インストール・イメージに付属の db2support ツールを使用して診断データを収集できません。

影響を受けたホストから診断データを収集するには、-host オプションを指定して 'db2support -install' コマンドを実行します。db2support -install コマンドで DB2 のインストールの問題をトラブルシューティングすることの詳細については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20048E 1 つ以上のホストのクラスター相互接続にリンクするためのアダプターが見つからなかったために DB2 のインストールが失敗しました。ホスト: *host-names*。

説明: DB2 pureCluster 環境のホストはすべて、待ち時間の少ない高速相互接続に接続する必要があります。

ユーザーの処置: ご使用の環境が DB2 インフォメーション・センターでリストされているインストール前提条件を満たしていることを確認し、インストールを再実行してください。

DBI20049C installFixPack コマンドが失敗しました。基本 DB2 コピーには DB2 pureCluster インスタンスが含まれていますが、DB2 インストーラーはこれらのインスタンスでホストを検出できません。ローカル・ホストだけにフィックス・パックをインストールする場合は、-L パラメーターを指定して installFixPack コマンドを再実行してください。すべてのホストにフィックスパックをインストールする場合は、-H パラメーターでホスト・リスト・ファイルを指定して installFixPack コマンドを再実行してください。

説明: DB2 インストーラーは、フィックスパックの適用が必要なホストを検出できません。

ユーザーの処置: ローカル・ホストまたはすべてのホストにフィックスパックを適用するように指定して、コマンドを再実行してください。

DBI20050I -p パラメーターを指定して installFixPack コマンドを実行すると、インスタンスは自動更新されません。db2iupdt コマンドを使用してインスタンスを手動で更新する必要があります。フィックスパックを複数のホストに適用する場合、そのすべてのホストで db2iupdt コマンドを実行する必要があります。

説明: インスタンスは installFixPack -p パラメーターによって自動的に更新されません。これは手動で実行する必要があります。

ユーザーの処置: 示されたとおりに db2iupdt コマンドを実行してください。

DBI20051C リモート・ホスト *host_name* で DB2 のインストールが失敗しました。ログに記録されたエラーを確認した後、それらのマシンで `installFixPack` を再実行してください。

説明: フィックスパックが正常にインストールされませんでした。エラー・ログに詳細情報が含まれています。

ユーザーの処置: エラー・ログを参照して追加情報を調べてください。

DBI20052E DB2 pureCluster コンポーネントがこのホストにインストールされていないため、フィックスパックの更新に失敗しました。

説明: DB2 pureCluster 環境以外の環境では、ホストを跨いでフィックスパックを適用することはできません。

DB2 pureCluster 環境では、複数のホスト間でフィックス・パックの更新を適用するには、すべてのホストで DB2 コピーに DB2 pureCluster コンポーネントがインストールされている必要があります。

ユーザーの処置:

1. ホスト・リスト・ファイルから、DB2 pureCluster コンポーネントがないホストを削除します。
2. `installFixPack` コマンドを再実行してください。

DBI20053C このホストのサービス・レベル (バージョン、リリース、モディフィケーション・レベル) は、**IIH** のサービス・レベルと異なっています。現在のホスト・レベル: *host_level*。 **IIH** のレベル: *iih_level*。複数のホストでフィックス・パックの更新を適用するには、全ホストの基本 DB2 コピーのサービス・レベルを同じにする必要があります。このホストと **IIH** を同じサービス・レベルにするために必要なフィックス・パックを適用し、`installFixPack` コマンドを再実行してください。あるいは、現在のホストをホスト・リスト・ファイルから削除し、`-H` パラメーターを指定して `installFixPack` コマンドを再実行してください。

説明: 続行するには、すべてのホストのサービス・レベルを同じにする必要があります。

ユーザーの処置: 示されたとおりに `installFixPack` を再実行してください。

DBI20054C 指定されたホスト・リスト・ファイルに **IIH** ホストがリストされていません。
IIH ホスト *host_name*。

説明: `-H` パラメーターによって指定されたホスト・リスト・ファイルに **IIH** ホストがリストされている必要があります。

ユーザーの処置: ホスト・リスト・ファイルに **IIH** ホストを追加し、`installFixPack` コマンドを再実行してください。

DBI20055I DB2 インスタンスの TCP/IP 設定を構成する際に、無効な値がポート番号に入力されました。値: *port-value*。

説明: 製品のインストール中に DB2 インスタンスを構成できます。TCP/IP ポート値は、インスタンスの構成中に設定可能な設定値のいずれかになります。DB2 インスタンスが着信 DB2 接続を `listen` するために、TCP/IP ポート番号が使用されます。このメッセージは、無効なポート番号が入力された場合に表示されません。サイレント・インストール操作によって作成されたログ・ファイル内にも、このメッセージが出現します。

ユーザーの処置: 1024 から 65535 までの間の有効なポート値を入力して、再度試行します。

DBI20056I Visual Studio 2005 Service Pack 1 または Visual Studio 2008 がインストールされていないため、*product-name* のインストールを開始できません。

説明: Visual Studio 用の IBM Database Add-In は、別個にインストール可能なコンポーネントとして DB2 Client および DB2 サーバーに組み込まれています。DB2 製品のインストールを終えると、Visual Studio 用の IBM Database Add-In をインストールするためのオプションが表示されます。Visual Studio 2005 Service Pack 1 または Visual Studio 2008 が既にインストールされている必要があるため、製品のインストールが開始しませんでした。

ユーザーの処置: Visual Studio 2005 Service Pack 1 または Visual Studio 2008 をインストールしてから、VSAI のインストールを再試行します。

DBI20057I Visual Studio 2005 Service Pack 1 がインストールされていないため、*product-name* は Visual Studio 2008 だけにインストールされ、Visual Studio 2005 にはインストールされませんでした。

説明: Visual Studio 用の IBM Database Add-In は、別

個にインストール可能なコンポーネントとして DB2 Client および DB2 サーバーに組み込まれています。DB2 製品のインストールを終えると、Visual Studio 用の IBM Database Add-In をインストールするためのオプションが表示されます。

Visual Studio 2008 と Visual Studio 2005 があり、Visual Studio 2005 が Service Pack 1 レベルでない場合は、VSAI は Visual Studio 2008 だけにインストールされます。

ユーザーの処置: Visual Studio 2005 Service Pack 1 をインストールしてから、VSAI のインストールを再試行します。

DBI20058I DB2 のアンインストールの際にユーザー *user-name* を削除できませんでした。

説明: DB2 はインストール・プロセス中に Windows ユーザー・アカウントを作成できます。例えば、インスタンス所有者としてユーザー・アカウントを作成できます。アンインストールの時には、このインストール・プロセス中に DB2 によって作成された Windows ユーザー・アカウントを削除するオプションがあります。

このメッセージは、DB2 製品のアンインストール中に、アンインストール・ユーティリティーが Windows ユーザー・アカウントを削除しようとして失敗した場合に表示されます。

ユーザーの処置: ユーザー・アカウントを手動で削除します。

DBI20059I DB2 のアンインストールの際にユーザー・グループ *user-group-name* を削除できませんでした。

説明: DB2 はインストール・プロセス中に Windows グループ・アカウントを作成できます。アンインストールの時には、このインストール・プロセス中に DB2 によって作成された Windows グループ・アカウントを削除するオプションがあります。このメッセージは、DB2 製品のアンインストール中に、アンインストール・ユーティリティーがグループ・アカウントを削除しようとして失敗した場合に表示されます。

ユーザーの処置: ユーザー・グループ・アカウントを手動で削除します。

DBI20060I DB2 アンインストール・ユーティリティーは、DB2 インストール・ユーティリティーによって作成されたユーザーおよびグループをシステム上で検出しました。ユーザー: *user-list*。グループ: *group-list*。

説明: DB2 はインストール・プロセス中に Windows

ユーザー・アカウントとグループ・アカウントを作成できます。このメッセージは、DB2 製品のアンインストール中に、ユーザー・アカウントとグループ・アカウントが検出された場合に表示されます。これらは、別の DB2 コピーか他の DB2 以外のアプリケーションで使用されている可能性があります。これらのアカウントを維持することをお勧めします。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- ユーザーとグループを維持する場合は、「はい」を選択します。
- ユーザーとグループを維持しない場合は、「いいえ」を選択します。

DBI20061I DB2 アンインストール・ユーティリティーは、DB2 インストール・ユーティリティーによって作成されたユーザーをシステム上で検出しました。ユーザー: *user-list*。

説明: DB2 はインストール・プロセス中に Windows ユーザー・アカウントを作成できます。このメッセージは、DB2 製品のアンインストール中に、ユーザー・アカウントが検出された場合に表示されます。これらは、別の DB2 コピーか他の DB2 以外のアプリケーションで使用されている可能性があります。これらのアカウントを維持することをお勧めします。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- ユーザー・アカウントを維持する場合は、「はい」を選択します。
- ユーザー・アカウントを維持しない場合は、「いいえ」を選択します。

DBI20062I DB2 アンインストール・ユーティリティーは、DB2 インストール・ユーティリティーによって作成されたグループをシステム上で検出しました。グループ: *group-list*。

説明: DB2 はインストール・プロセス中に Windows ユーザー・グループ・アカウントを作成できます。このメッセージは、DB2 製品のアンインストール中に、ユーザー・グループ・アカウントが検出された場合に表示されます。これらのグループは、別の DB2 コピーか他の DB2 以外のアプリケーションで使用されている可能性があります。これらのアカウントを維持することをお勧めします。

ユーザーの処置: 以下のいずれかです。

- グループ・アカウントを維持する場合は、「はい」を選択します。

- グループ・アカウントを維持しない場合は、「いいえ」を選択します。

DBI20064E DB2 バージョン *source-version* から DB2 バージョン *target-version* への DB2 コピーのアップグレードはサポートされていません。

説明: DB2 コピーとは、同じコンピューター上の特定のロケーションにある DB2 データベース製品の 1 つ以上のインストール済み環境のことです。サポートされていない DB2 バージョンからのアップグレードを試みると、DB2 コピーのアップグレードが失敗します。

ユーザーの処置: サポートされているアップグレード・パスを持つソースおよびターゲットの DB2 バージョンを指定して、DB2 コピーのアップグレードを再試行してください。

DBI20065I アクションは不要です。クラスターは DB2 クラスター・サービスによって管理されています。

説明: クラスターをテークオーバーする `db2cluster_prepare` コマンドの実行は不要でした。DB2 クラスター・サービスがクラスターを管理しています。

ユーザーの処置: ありません。

DBI20066E GPFS クラスターが、DB2 pureCluster インスタンスの要件に適合していません。
クラスター名: *cluster*。失敗したコマンド:
command-name。

説明: コマンドの実行中に、GPFS クラスターが、DB2 pureCluster Feature の要件の妥当性検査テストに失敗しました。

ユーザーの処置: GPFS クラスターのセットアップについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20067E DB2 グローバル・プロファイル・レジストリー変数をすべてのホストでは更新できなかったため、操作が失敗しました。グローバル・レジストリー変数:
variable-name。更新されなかったホスト:
comma-separated-host-list。

説明: 特定されたホスト上の DB2 グローバル・レジストリー・ファイルは、操作中に変更できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 グローバル・プロファイル・レジストリーにアクセス可能であることを確認してから、コマンドを再実行してください。

DBI20068E コマンドによる DB2 グローバル・プロファイル・レジストリー変数の更新が、1 つ以上のホストで失敗しました。レジストリー変数: *variable-name*。更新されなかったホスト: *comma-separated-host-list*。ホスト上で実行されたコマンド:
command-name。

説明: 特定されたホスト上の DB2 グローバル・レジストリー・ファイルは、操作中に変更できませんでした。

ユーザーの処置: 示されたホスト上で DB2 グローバル・プロファイル・レジストリーにアクセス可能であることを確認してから、指定どおりにコマンドを各ホストで再実行し、変数レコードを使用して DB2 グローバル・プロファイル・レジストリー・ファイルを更新します。

DBI20069E 2 つのホスト間で通信を確立できませんでした。ソース・ホスト: *host-name1*。ターゲット・ホスト: *host-2*。

説明: DB2 pureCluster インスタンス内のすべてのホストは、そのインスタンスの他の参加ホストすべてにパスワードなしで SSH アクセスできることを必要とします。

ユーザーの処置: ターゲット・マシンがオンラインであることと、ソース・ホストからのパスワードなしの SSH アクセスが構成されていることを確認してください。

DBI20070E 必須のコンポーネントがインストールされていないため、コマンドの実行中にエラーが発生しました。欠落しているコンポーネント: *component-name*。

説明: 欠落しているコンポーネントは、コマンドの実行に不可欠です。

ユーザーの処置: コンポーネントをホストにインストールしてから、コマンドを再実行してください。

DBI20071I クラスターのテークオーバーが正常に完了しました。

説明: ユーザー管理クラスターは、DB2 クラスター・サービスによって管理されるようになりました。

ユーザーの処置: ありません。

DBI20072W DB2 クラスター・サービス・タイプレーカー・ディスクの妥当性検査が失敗しました。指定されたタイプレーカーは構成されませんでした。

説明: DB2 クラスター・サービス・タイプレーカー・ディスクを使用すると、障害発生時にサブクラスターが操作クォーラムを取得し、DB2 pureCluster インスタンスのホストのちょうど半分が残って相互に通信できるようになります。この場合、サブクラスターはそのディスクに対する排他ロックを取得して、操作クォーラムの実現を試みます。構成されたタイプレーカー・ディスクがなくても DB2 pureCluster インスタンスは作動できますが、このディスクがあるならインスタンスの回復力が向上します。

ユーザーの処置: DB2 クラスター・サービスのタイプレーカー・サポートについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターで共有ストレージに関する考慮事項を参照してください。

DBI20073E 応答ファイル内のキーワードに指定された値が無効であったため、指定されたコマンドが失敗しました。値: *keyword-value*。キーワード: *keyword-name*。

説明: 応答ファイルのすべてのキーワードはインストール済み環境に適用できるものでなければならず、すべてのキーワード値は有効でなければなりません。一部のコマンドおよびキーワードは、インスタンス所有者によって実行された場合、あるいは特定のコンポーネント、フィーチャー、または構成がインストール済み環境に含まれている場合に限り有効です。

ユーザーの処置: 応答ファイルを編集して、報告されたエラーを修正します。DB2 セットアップ・ウィザードを使用して、今後使用するために有効な応答ファイルを作成することができます。インストール済み環境が既に存在するなら、応答ファイル生成プログラムを使用して、応答ファイルを作成することができます。

DBI20074E 指定されたキーワードを使用するための権限が不十分であるため、コマンドを実行できません。キーワード: *keyword-name*。

説明: 応答ファイル・インストールを実行する際、指定されたキーワードを使用するには管理権限または root 権限が必要です。

ユーザーの処置: 十分な権限のあるユーザーで、または問題のキーワードを指定しないで、インストールを再実行してください。このキーワードを指定して応答ファイル・インストールを実行する必要がある場合は、システム管理者に連絡してください。

DBI20075E デフォルト・ポートが使用中なので、DB2 インストーラーは IBM Secure Shell Server for Windows サービスを自動的に開始されるように構成できませんでした。デフォルト・ポート番号: *port_number*。

説明: インストール済み環境では、このポート上で自動的に開始するように IBM Secure Shell Server を構成することができません。

ユーザーの処置: 別のポートを選択してこのサービスを手動でインストールし、このポート上で現在実行中のサービスを停止した後に、IBM Secure Shell Server を開始します。

DBI20076E 指定されたディレクトリーは、IBM Secure Shell Server には使用できません。

説明: IBM Secure Shell Server インストール・ディレクトリーと DB2 インストール・ディレクトリーを同じにすることはできません。

ユーザーの処置: DB2 インストール・ディレクトリーとは違うディレクトリーを指定します。

DBI20077E フィックスパックのインストール中に、IBM Secure Shell Server for Windows の更新に失敗しました。

説明: DB2 インストーラーが、IBM Secure Shell Server バイナリーのバージョンに関するエラーを検出しました。フィックスパックのインストール作業を続行できません。

ユーザーの処置: システムに既にインストールされている IBM Secure Shell Server ファイルが、フィックスパック・イメージのレベルより高くならないようにします。

DBI20078W 応答ファイル・キーワード **AUTOSTART_SSH_SERVER** の値が指定されなかったため、DB2 インストーラーは、IBM Secure Shell (SSH) Server for Windows サービスがデフォルト・ポート上で自動的に開始されるように構成しようとして失敗しました。デフォルト・ポート番号: *port-number*。しかし、デフォルト・ポートが既に使用中なので、この構成は失敗しました。IBM SSH Server のサービスを手動で開始する必要があります。

説明: IBM Secure Shell Server のアンインストール中にエラーが発生しました。IBM Secure Shell Server はアンインストールされませんでした。

ユーザーの処置: 管理者ユーザーとしてログインし、IBM Secure Shell Server を手動で除去します。

DBI20079E DB2 のアンインストール・プロセス中に、IBM Secure Shell Server for Windows の除去に失敗しました。

説明: IBM Secure Shell Server のアンインストール中にエラーが発生しました。IBM Secure Shell Server はアンインストールされませんでした。

ユーザーの処置: 管理者ユーザーとしてログインし、IBM Secure Shell Server を手動で除去します。

DBI20080E アンインストール中に、DB2 インSTALLERが、32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの IBM Data Server Driver Package (DSDRIVER) がインストールされていることを検出しました。32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの DSDRIVER 製品が共存することはできません。

説明: ホスト・マシン上で 32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの DB2 製品が共存することはできません。

ユーザーの処置: 競合している製品をアンインストールしてから再インストールを試行してください。db2unins コマンドを使用して、いずれかの DSDRIVER 製品を手動でアンインストールする必要があります。db2unins コマンドについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DBI20081E *directory_name* に十分なフリー・ディスク・スペースがありません。
directory_name で検出されたフリー・スペースは *space_available* ですが、必要なスペースは *space_needed* です。追加スペースを解放して、もう一度やり直してください。

説明: 使用可能なフリー・スペースが不足しています。

ユーザーの処置: ディスク・スペースを開放してコマンドを再試行してください。

第 13 部 DBT メッセージ

第 84 章 DBT1000 - DBT1499

DBT1000I ツールは正常に完了しました。

説明: ツールの処理はエラー無しで完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT1001N DB2INIDB ツールの構文が無効です。

説明: DB2INIDB ツールの構文は、以下のとおりです。

```
db2inidb <database_alias>  
AS < SNAPSHOT | STANDBY | MIRROR >  
[ RELOCATE USING config_file ]
```

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを実行してください。

DBT1002N データベース名 *database-name* が無効です。

説明: コマンドに指定されたデータベース名が無効です。データベース名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャの基本文字セットから使用する必要があります。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1003N プログラム *program-name* が見つかりません。

説明: 指定されたプログラムを実行しようとしたのですが、プログラムが見つからなかったため、失敗しました。

ユーザーの処置: 指定されたプログラムが存在することを確認してください。また、プログラムのパスが PATH 環境変数にあるか調べてください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1004N プログラム *program-name* を実行できません。

説明: 指定されたプログラムを実行しようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 指定されたプログラムが存在しており、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1005N ファイル *file-name1* は *file-name2* にコピーできませんでした。

説明: 指定されたファイルを複製しようとして、エラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたソース・ファイルが存在し、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。また、指定されたターゲット・ファイルがもう存在していないことを確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1006N *file-device-name* ファイルまたはデバイスをオープンできませんでした。

説明: 指定されたファイルまたはデバイスをオープンしようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. ファイルまたはデバイスが存在しており、許可が正しいことを確認してください。
 2. コマンドを再発行してください。
-

DBT1007N *file-device-name* ファイルまたはデバイスで *operation-name* 操作を実行しようとして、エラーが発生しました。

説明: 指定されたファイルまたはデバイスにおいて指定された操作を実行しようとしたのですが、失敗しました。

ユーザーの処置:

1. 問題を訂正してください。可能性のある解決方法には、ディスク・スペースを増やすことや、ファイル許可を修正することなどがあります。
 2. コマンドを再発行してください。
 3. 問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。
-

DBT1008N データベース *database-name* はスプリット・ミラー・イメージではありません。

説明: スプリット・ミラー・イメージではないデータベースで DB2INIDB ツールを使用しようとした。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

ユーザーの処置: スプリット・ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1009N データベース *database-name* は、リカバリー可能なデータベースではありません。

説明: リカバリー不能なスプリット・ミラー・イメージ・データベースに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとした。STANDBY および MIRROR オプションでは、リカバリー可能なスプリット・ミラー・イメージが必要です。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

STANDBY および MIRROR オプションの目的は、スプリット・ミラー・イメージをロールフォワード・ペンディング状態にして、1 次データベースからのログの適用を許可することです。1 次データベースは、スプリット・ミラー・イメージ・データベースに適用できるように、ログ・レコードを保存する必要があります。

ユーザーの処置: リカバリー可能なデータベースのスプリット・ミラー・イメージを指定して、コマンドを再度実行してください。データベースをロールフォワード・リカバリー用に有効にするには、データベース構成パラメーター **logarchmeth1** または **logarchmeth2** に OFF 以外の値を設定します。そして、データベースか

ら既存のアプリケーションをすべて切断し、データベースのオフライン・バックアップを実行します。

DBT1010N スプリット・ミラー・イメージ・データベース *database-name* は、以前にスナップショットとして初期化されています。

説明: 以前に SNAPSHOT オプションを指定して初期化されたスプリット・ミラー・イメージに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとした。SNAPSHOT オプションによってこのスプリット・ミラー・イメージが新しいログ・チェーンを開始するので、STANDBY および MIRROR オプションを使用して、ログ・ファイルを 1 次データベースからロールフォワードすることは、もはやできません。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 新しいスプリット・ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

DBT1011N データベース *database-name* を WRITE RESUME オプションで再始動できません。SQLCODE = *sqlcode*。

説明: 指定したデータベースを WRITE RESUME オプションで再始動しようとしたが失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1012N データベース・ディレクトリーで操作 *operation-name* を実行できません。

説明: データベース・ディレクトリーにおいて指定された操作の実行は失敗しました。

次のような理由が考えられます。

- システムのメモリー量が不十分であるために、データベース・マネージャーが要求を処理できなかった。
- データベース項目がシステム・データベース・ディレクトリーに無かった。
- データベースがシステム・データベース・ディレクトリーに存在していない。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 十分なシステム・リソースが使用できるようにしてください。
- データベースが正しくカタログされていることを確認してください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1013N データベース *database-name* が見つかりません。

説明: 指定したデータベースが既存のデータベースではないか、あるいは、データベースがローカルまたはシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

ユーザーの処置: 指定したデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに無い場合には、データベースが存在しないか、あるいはデータベース名がカタログされていないかのいずれかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが `INDIRECT` である場合には、そのデータベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。

DBT1014N インスタンス名を判別できませんでした。

説明: 現行のインスタンス名を判別しようとしたことが、失敗しました。

ユーザーの処置: `DB2INSTANCE` 環境変数が、現行のインスタンス名に設定されているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1015N メモリーを割り振りができません。

説明: 処理時に、処理を継続するのに十分なメモリーがありませんでした。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

DBT1016N 表スペース・ファイル *file-name1* と *file-name2* のサイズが異なっています。

説明: 指定した 2 つの表スペース・ファイルのサイズは、同じであるはずなのに、違っています。

ユーザーの処置: 技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

- 問題の説明
- 表スペース・カタログ表の内容
- 表スペース・ファイル

DBT1017N DB2RELOCATEDB ツールの構文が無効です。

説明: DB2RELOCATEDB ツールの構文は、以下のとおりです。

```
db2relocatedb -f <config_file>
```

`<config_file>` は、構成情報が含まれているファイルの名前です。

ファイル形式は、次のとおりです:

```
DB_NAME=oldName,newName
DB_PATH=oldPath,newPath
INSTANCE=oldInst,newInst
DBPARTITIONNUM=dbPartitionNumber
LOG_DIR=oldDirPath,newDirPath
CONT_PATH=oldContPath1,newContPath1
CONT_PATH=oldContPath2,newContPath2
MIRRORLOG_PATH=newDirPath
FAILARCHIVE_PATH=newDirPath
LOGARCHMETH1=newDirPath
LOGARCHMETH2=newDirPath
OVERFLOWLOG_PATH=newDirPath
...
```

注:

- データベース名、データベース・パス、およびインスタンス名は、すべて必須フィールドです。これらのフィールドのいずれかが変更されていない場合は、フィールドの古い値と新しい値をリストする必要はなく、古い値/現行の値だけがリストされます。
- 以下のいずれかのデータベース構成パラメーターを設定した場合、構成ファイルで対応するキーワードを指定できます。

- `mirrorlogpath`
- `failarchpath`
- `logarchmeth1`
- `logarchmeth2`

DBT1018N

- overflowlogpath
- ブランク行またはコメント文字 (#) で始まる行は、無視されます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを実行してください。

DBT1018N *field-name* は、構成ファイルの必須フィールドです。

説明: 指定されたフィールドは、構成ファイルの必須フィールドですが、指定されていません。

ユーザーの処置: 指定されたフィールド情報を構成ファイルに追加してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1019N 構成ファイルに無効なデータベース・パスが指定されました。

説明: 構成ファイルに指定されているデータベース・パスが無効です。

Windows の場合、データベース・パスは、ドライブ名の後にコロン文字を付けて指定しなければなりません。それ以外のプラットフォームの場合、データベース・パスは、絶対パスで、パス区切り記号で終了しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しくないデータベース・パスを訂正して、コマンドを再度実行してください。

DBT1020N 構成ファイルの *line-number* 行目に無効な項目があります。理由コード = *reason-code*。

説明: 理由コードによって示されている以下の条件が解決されるまで、DB2RELOCATEDB ツールを使用して再配置することはできません。

1 指定された行が、最大文字数を超過しています。

2 フィールドが指定されましたが、値がありません。

3 フィールドが複数回指定されています。

4 古いデータベース名または新しいデータベース名のいずれかの文字数が多すぎます。

5 古いデータベース・パス名または新しいデータベース・パス名のいずれかの文字数が多すぎます。

古いデータベース・パス名または新しいデータベース・パス名のいずれかの文字数が多すぎます。

6 古いインスタンス名または新しいインスタンス名のいずれかの文字数が多すぎます。

7 DBPARTITIONNUM 項目に無効なノード番号が指定されています。

8 古いログ・ディレクトリー・パスまたは新しいログ・ディレクトリー・パスのいずれかの文字数が多すぎます。

9 古いコンテナ名または新しいコンテナ名のいずれかの文字数が多すぎます。

10 CONT_PATH 項目に重複したコンテナ名が見つかりました。

11 指定された行が無効です。

12 ワイルドカード文字 (*) の使用法が間違っています。

13 古いストレージ・パス名または新しいストレージ・パス名のいずれかの文字数が多すぎます。

14 STORAGE_PATH 項目に重複したストレージ・パスが見つかりました。

15 mirrorlogpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が多すぎます。

16 failarchpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が多すぎます。

17 logarchmeth1 に指定された新しいディレクトリーの文字数が多すぎます。

18 logarchmeth2 に指定された新しいディレクトリーの文字数が多すぎます。

- 19 overflowlogpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が多すぎます。
- ユーザーの処置:** 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。
- 1 指定された行が 1000 文字以内になるようにしてください。
 - 2 問題となっているフィールドに必須の値を指定してください。
 - 3 問題となっているフィールドを 1 度しか指定しないようにしてください。
 - 4 古いデータベース名および新しいデータベース名を 8 文字以下にしてください。
 - 5 古いデータベース・パス名および新しいデータベース・パス名を 215 文字以下にしてください。
 - 6 古いインスタンス名および新しいインスタンス名を 8 文字以下にしてください。
 - 7 ノード番号を 4 桁以下にしてください。
 - 8 古いログ・ディレクトリー・パスおよび新しいログ・ディレクトリー・パスを 242 文字以下にしてください。
 - 9 古いコンテナ名および新しいコンテナ名を 256 文字以下にしてください。
 - 10 CONT_PATH 項目で、各コンテナ名を 1 度しか指定しないようにしてください。
 - 11 問題となっている行の妥当性を検証してください。
 - 12 ワイルドカード文字は、以前のパスと新しいパスの両方で最後の文字である必要があります。
- 13 古いストレージ・パス名および新しいストレージ・パス名を 190 文字以下にしてください。
- 14 STORAGE_PATH 項目で、各ストレージ・パス名を 1 度しか指定しないようにしてください。
- 15 mirrorlogpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が許容される最大長を超えないようにしてください。
- 16 failarchpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が許容される最大長を超えないようにしてください。
- 17 logarchmeth1 に指定された新しいディレクトリーの文字数が許容される最大長を超えないようにしてください。
- 18 logarchmeth2 に指定された新しいディレクトリーの文字数が許容される最大長を超えないようにしてください。
- 19 overflowlogpath に指定された新しいディレクトリーの文字数が許容される最大長を超えないようにしてください。
- 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。
-
- DBT1021N** すべてのコンテナ名の合計サイズが大きすぎます。
- 説明:** コンテナのリストを保管するのに必要な合計スペースが、表スペース・ファイル内の指定された表スペースに割り振られているスペースを超えています。
- ユーザーの処置:** 以下の 1 つ以上を試みてください。
- シンボリック・リンク、マウント・ファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナ名を短縮してください。
 - 表スペースのバックアップを行った後で、データベース管理ユーティリティを使用して、コンテナの数と名前の長さ、またはそのいずれかを減らしてください。その後で、表スペースを新しいコンテナにリストアしてください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1022N DB2RELOCATEDB ツールは、インスタンス *instance-name* の下で実行しなければなりません。

説明: 誤ったインスタンスから DB2RELOCATEDB ツールを実行しようとしてしました。インスタンスを変更している場合には、ツールを新しいインスタンスから実行してください。

ユーザーの処置: 正しいインスタンスでコマンドを再度実行してください。

DBT1023N データベース *release-number* が無効です。

説明: 使用されているツールは、データベースの現行リリースと異なるリリースのものです。コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: 正しいバージョンのツールを使用してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1024N データベース名の変更により、ローカル・データベース・ディレクトリーに重複名が作成されました。

説明: データベースをリネームしようとしてしましたが、ローカル・データベース・ディレクトリーの項目がすでに同じ名前で存在しているため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース名をまだ存在していない名前に変更するか、または、そのデータベースがもう存在していない場合にはデータベースをアンカタログしてください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1025N データベース・ディレクトリーに、新規または旧データベース名のいずれも見つかりません。

説明: データベース・パスの検索に必要なデータベース・トークンを判別しようとしてしましたが、データベース・ディレクトリーに新規データベース名も旧データベース名も見つからなかったため、失敗しました。

ユーザーの処置: 旧データベース名のデータベースが存在しており、正しくカタログされているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1026N コンテナ名 *container-name* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。

説明: データベース・パスをリネームしようとしてしましたが、指定したコンテナ名の先頭に追加すると、コンテナ名の長さ制限を超えるため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース・パスまたはコンテナ名、あるいはその両方を、結合したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1027N ログ・ディレクトリー・パス *log-path* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。

説明: データベース・パスをリネームしようとしてしましたが、指定したログ・ディレクトリー・パスの先頭に追加すると、ログ・ディレクトリー・パスの長さ制限を超えるため、失敗しました。

ユーザーの処置: データベース・パスまたはログ・ディレクトリー・パス、あるいはその両方を、結合したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1028N 表スペース・ファイルをコピーできません。

説明: 表スペース・ファイル *SQLSPCS.1* を複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 表スペース・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1029N バッファース・プール・ファイルをコピーできません。

説明: バッファース・プール・ファイル *SQLBP.1* を複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: バッファース・プール・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1030N ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルをコピーできません。

説明: ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製しようとしてしましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

DBT1031N ログ制御ファイルを更新しようとして、エラーが発生しました。

説明: 各メンバーのログ制御ファイルは以下のとおりです。

- SQLOGCTL1.LFH 1 次ログ制御ファイル
- SQLOGCTL2.LFH 2 次ログ制御ファイル

各データベース・パーティションのグローバル・ログ制御ファイルは以下のとおりです。

- SQLOGCTL.GLFH.1 1 次ログ制御ファイル
- SQLOGCTL2.GLFH.2 2 次ログ制御ファイル

2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルのコピーで、1 次ログ制御ファイルに問題が発生した場合に使用されます。

このエラーは、DB2 データベース・マネージャーが 1 次ログ制御ファイルまたは 2 次ログ制御ファイルを更新できなかったために戻されました。考えられる理由の内の 2 つは以下のとおりです。

- ログ制御ファイルがデータベース・ディレクトリーに存在しない。
- ファイルの許可設定により、読み取り/書き込みアクセスができない。

ユーザーの処置:

1. DB2 診断ログ・ファイルを調べて、DB2 データベース・マネージャーがログ制御ファイルを更新できなかった理由を判別します。
2. 例えば、以下のステップを実行して、問題を訂正します。
 - 1 次ログ制御ファイルと 2 次ログ制御ファイルとともにデータベース・ディレクトリーに存在することを確認します。
 - ファイルの許可設定を変更します。
3. コマンドを再発行してください。

DBT1032N インスタンスは、現在アクティブではありません。

説明: ツールでは、処理を行う前に、インスタンスがアクティブになっている必要があります。

ユーザーの処置: db2start を発行してから、コマンドを発行してください。

DBT1033N インスタンス *instance-name* にアタッチできません。 **SQLCODE = *sqlcode*。**

説明: 指定されたインスタンスにアタッチしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1034N コンテナ *container-name* のストリング *string-one* を *string-two* と置き換えると、制限文字数を超えます。

説明: ワイルドカードを使用してコンテナ・パスの名前を変更しようとしたのですが、変更後のパスが長すぎるため、失敗しました。

ユーザーの処置: コンテナ・パスの最大長は 256 文字です。コンテナ・パスを制限文字数内に変更し、コマンドを再発行してください。

DBT1035N HADR データベース役割をデータベース *database-name* の標準に設定できません。 **SQLCODE = *sqlcode*。**

説明: HADR データベース役割を標準に設定することに失敗しました。

ユーザーの処置: 指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

DBT1036N データベース *database-name* の再配置が成功した後、ディレクトリー・キャッシュのリフレッシュができません。 **SQLCODE = *sqlcode*。**

説明: 必要なディレクトリー・キャッシュのリフレッシュの試行が失敗しました。

ユーザーの処置: 現在のノードでインスタンスを再始動し、RELOCATE USING オプションを指定せずに DB2INIDB ツールを再実行してください。問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

DBT1037N 自動ストレージ表スペースに **CONT_PATH 項目は指定できません。**

説明: 自動ストレージ表スペースのコンテナ・パスを再配置しようとした。

ユーザーの処置: 自動ストレージ表スペースに対応する CONT_PATH 項目を除去してください。自動ストレージ表スペースの再配置に使用できるのは、STORAGE_PATH 項目のみです。

DBT1038N

DBT1038N ストレージ・グループがデータベースに定義されていません。

説明: ストレージ・グループを持たないデータベースのストレージ・パスを再配置しようとした。

ユーザーの処置: 構成ファイルから STORAGE_PATH 項目を除去してください。

DBT1039N ストレージ・グループ・ファイルをコピーできません。

説明: ストレージ・グループ・ファイル SQLSGF.1 を複製しようとしたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 複製ストレージ・グループ・ファイル用に十分なディスク・スペースがあるか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

第 85 章 DBT2000 - DBT2499

DBT2002W テープ終了マーカを書き込むことができ
ません。理由: *reason*

説明: テープ終了マーカへの書き込みに失敗しまし
た。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2006I *db2tapemgr* が正常に完了しました。

説明: エラーや警告なしで処理が完了しました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2007W *db2tapemgr* が警告を出して完了しまし
た。

説明: *db2tapemgr* コマンドはエラーなしで完了しまし
ましたが、警告が出されました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、出力を参照して
ください。

DBT2008N *db2tapemgr* がエラーを出して失敗しまし
た。

説明: *db2tapemgr* がエラーを出して完了しました。

ユーザーの処置: 詳細情報については、出力を参照して
ください。

DBT2009N 内部エラーが発生しました。理由: *error*。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: さらに取るべき処置については、理由
のテキストを参照してください。

DBT2015W ログ・ファイル *log-file-name* がディスク
上にありません。

説明: ログ・ファイルが見つかりません。

ユーザーの処置: 誤ってログ・ファイルが削除された場
合は、ログ・ファイルをリストアしてからコマンドを再
発行するか、履歴ファイルの中にある、欠落したログ・
ファイルの位置フィールドを更新します。

DBT2016I 処理するログ・ファイルが見つかりませ
ん。

説明: 履歴ファイルにはログ・ファイルに関する情報が
ありません。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2017N ラベル *label-one* が磁気テープ・ドライブ
に挿入されていません。ドライブに挿入さ
れているテープのラベルは *label-two* で
す。

説明: 2 つの異なるテープが同じ名前を持つことはあり
ません。

ユーザーの処置: 正しいテープが磁気テープ・ドライブ
に入っていることを確認してください。テープが読めな
い場合は、DELETE TAPE LABEL オプションを使用し
て、履歴ファイルからこのテープの情報を除去してくだ
さい。既存の磁気テープ・ラベルを指定した場合は、別
のラベルを選択してコマンドを再発行してください。

DBT2018N 変数 *variable* の値 *value* が無効です。

説明: 指定した値は無効です。

ユーザーの処置: 有効な値を指定してください。

DBT2019N このテープの内容はまだ有効です。テープ
の有効期限が切れるのは、*expiration-date*
です。

説明: このテープの内容はまだ有効期限内なので、書き
込みはできません。データベースのリカバリーに必要な
ログ・ファイルがテープに入っている可能性があります。

ユーザーの処置: DB2_TAPEMGR_TAPE_EXPIRATION
の値を削減するか、別のテープを挿入してください。

DBT2020N テープのログ・ファイルは別のデータバ
ース *database-name* のものです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベースのも
のです。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オ
プションを指定してください。

DBT2021N テープのログ・ファイルは別のデータバ
ース・インスタンス *instance-name* のも
のです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベース・イ
ンスタンスのものです。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オ

DBT2022N

プションを指定してください。

DBT2022N テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティション *database-partition* のものです。

説明: テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティションのものです。

ユーザーの処置: 別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

DBT2027N テープは、これまでログ・ファイルを保管するために使用されたことのないものです。

説明: テープの内容が、db2tapemgr によって書き込まれたファイルとして認識されません。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2032W *number-of-log-files* 個のログ・ファイルしかテープに収まりません。

説明: 選択した数のログ・ファイルはテープに収まりません。

ユーザーの処置: この警告を回避するには、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの最大数を指定してください。

DBT2036W 履歴ファイルをテープに保管することに失敗しました。理由: *reason*

説明: ログ・ファイルはすでにテープに正常に書き込まれています。

ユーザーの処置: テープがフルの場合は、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの数を制限してください。

DBT2039I 履歴の中で、現在テープ *tape-name* にあるログ・ファイルの位置をクリアすることに失敗しました。

説明: 履歴ファイルの中の、ログ・ファイル項目の位置フィールドがクリアされています。ログ・ファイル項目の位置フィールドが空である場合、それはログ・ファイルが削除または上書きされて、データベースのリカバリに使用できなくなったことを意味します。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2047N テープには、データベース・パーティション番号 *db-partitionnum-1* 用のログ・ファイルが入っていますが、データベース・パーティション番号は *db-partitionnum-2* です。

説明: テープには、指定されたデータベース・パーティションに対応しないデータベース・パーティションのログが入っています。

ユーザーの処置: 正しいデータベース・パーティション番号を指定してください。値を指定しないと、DB2NODE の値が使用されます。

DBT2048I テープにはデータベース *database-name1* のログ・ファイルが入っていますが、データベース *database-name2* が指定されました。

説明: テープには、別のデータベースのログ・ファイルが入っています。

ユーザーの処置: リダイレクトしたリストア操作を実行する場合にだけ、先に進んでください。

DBT2049I テープにはインスタンス *instance1* のログ・ファイルが入っていますが、インスタンス *instance2* が指定されました。

説明: テープには、別のデータベース・インスタンスのログ・ファイルが入っています。

ユーザーの処置: リダイレクトしたリストア操作を実行する場合にだけ、先に進んでください。

DBT2050I ログ・ファイル *log-file* はディスクにあります。

説明: ログ・ファイルはすでにディスク上にあるので、テープから検索されません。

ユーザーの処置: ログ・ファイルをテープから検索し直すには、ディスク上のログ・ファイルを削除して、RETRIEVE オプションを指定します。それ以外の場合、これ以上のアクションは不要です。

DBT2051N 履歴ファイルに、一致するバックアップが見つかりません。

説明: 履歴ファイルにバックアップが入っていません。

ユーザーの処置: 別のロールフォワード時間を指定して、コマンドを再発行してください。あるいは、ALL LOGS または LOGS n TO m オプションを使用して、手動でログ・ファイルをリストアしてください。

DBT2052I 必須のログ・ファイルが見つかりませんでした。

説明: ロールフォワード操作にはログ・ファイルが必須です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが現行のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2053I 必須のログ・ファイルがテープ上にありません。

説明: ロールフォワード操作のためにテープからログ・ファイルを検索する必要があると指定している項目は、履歴ファイルにありません。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが現行のものである場合、これ以上のアクションは不要です。現行のものではない場合は、履歴ファイルにロールフォワード操作に必須のすべての情報が含まれていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2054I タイム・スタンプ *timestamp* に取得されたバックアップに必須のログ・ファイル:

説明: ロールフォワードにはログ・ファイルが必要です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2055I ロールフォワード操作にテープは不要です。

ユーザーの処置: 履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、USING

HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

DBT2062I データベース *database-name* に対して作業を実行します。

説明: DATABASE オプションが指定されていません。デフォルト値 (DB2DBDFT 変数によって制御される) が使用されます。

ユーザーの処置: 別のデータベースに操作を加えるには、DATABASE オプションを指定してください。

DBT2063N DATABASE オプションが指定されておらず、DB2DBDFT が設定されていません。

ユーザーの処置: DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

DBT2065I データベース・パーティション *partition-number* を使用します。

説明: デフォルト値は 0 か、DB2NODE 変数の値です。

ユーザーの処置: データベース・パーティションを変更するには、DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

DBT2067N ディレクトリーが指定されておらず、データベース構成パラメーター OVERFLOWLOGPATH が設定されていません。

説明: 検索操作では、宛先ディレクトリーを設定することが必要です。

ユーザーの処置: TO オプションを指定するか、OVERFLOWLOGPATH データベース構成パラメーターを設定します。

DBT2068N データベース構成パラメーター OVERFLOWLOGPATH の値 *value* が、ディレクトリーではありません。

ユーザーの処置: OVERFLOWLOGPATH ディレクトリーが存在していることを確認してください。

DBT2069N 同じテープに二重保管することはできません。

説明:

ユーザーの処置: 二重保管操作用に、別のテープを選択してください。

DBT2071I

DBT2071I 自動生成された磁気テープ・ラベル *label* を使用します。

説明: ラベルのフォーマットは、現在時刻にデータベース別名が続くものとなります。

ユーザーの処置: 表ラベルを指定するには、TAPE LABEL オプションを使用してください。

DBT2102N ファイル名 *filename1* が *filename2* と一致しません。

説明: ファイル名が、予想されるファイル名に一致しません。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2103N ディレクトリー *directory-name* が存在しません。

説明: 指定されたディレクトリーは存在しません。

ユーザーの処置: 指定されたディレクトリーを作成してください。

DBT2104N ファイル *file-name* が見つかりました。

説明: このテープには複数のファイルがあります。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2106N データベース *database-name* はリモートです。

説明: 指定されたデータベースはリモート・データベースとしてカタログされています。db2tapemgr はローカル・データベースでしか使用できません。

ユーザーの処置: ローカルにログインし、ツールを再呼び出ししてください。

DBT2108N データベース・ディレクトリーにデータベース *database-name* が見つかりません。

説明: 指定されたデータベースがデータベース・ディレクトリーに見つかりません。

ユーザーの処置: 別のデータベース名を選択するか、データベースが存在しているなら、データベースがカタログされていることを確認します。

DBT2109N パラメーター *parameter* が期待されています。

説明: 指定されているパラメーターが期待されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2110N パラメーター *parameter* の値 *value* は長すぎます。

説明: このパラメーターの指定された値は長すぎます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2111N パラメーター *parameter* の値 *value* は短すぎます。

説明: このパラメーターの指定された値は短すぎます。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2112N 装置 *device-name* は磁気テープ装置ではありません。

説明: 指定された装置は、磁気テープ装置として認識されていません。

ユーザーの処置: 認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBT2113N 装置 *device-name* は巻き戻し装置です。

説明: 指定された装置は、非巻き戻し磁気テープ装置として認識されていません。

ユーザーの処置: 認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

DBT2114N 履歴ファイル *history-file* は存在しません。

説明: 指定された履歴ファイルは存在していません。

ユーザーの処置: 履歴ファイルへのパスを検査し、コマンドを再発行してください。

DBT2115N 履歴ファイル *history-file* は、*value* で終了していません。

説明: 指定された履歴ファイルは、db2rhist.asc で終了していません。

ユーザーの処置: 履歴ファイルのファイル名を検査し、コマンドを再発行してください。

DBT2116N パラメーター *parameter* の値 *value* が英数字ではありません。

説明: パラメーターの値は英数字でなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2117N パラメーター *parameter* の値 *value* は範囲外です。

説明: パラメーターの値が範囲外です。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2118N パラメーターのブロック・サイズは 512 の倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 512 の倍数のブロック・サイズを選択し、コマンドを再発行してください。

DBT2119N パラメーター *parameter* の値 *value* が数値ではありません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2120N 操作が指定されていません。

説明: 操作を指定するパラメーターが指定されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2121N 不明な操作 *operation* が指定されていません。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2122N 以下のコマンド・パラメーターに指定されているコマンド引数が多すぎます:
parameter。

ユーザーの処置: 正しい構文で再度コマンドを発行してください。

DBT2123N 時刻形式 *time-format* は無効です。

説明: 時刻形式は YYYY-MM-DD:HH:MM:SS という形式に準拠していなければなりません。

ユーザーの処置: 正しい時刻形式の構文でコマンドを再発行してください。

DBT2124N ログ・ファイルの数を削減することはできません。

ユーザーの処置: *n LOGS* オプションを使用してテーブルに書き込むログ・ファイルの量を制限し、コマンドを再発行してください。

DBT2125N ファイル *file-name1* はテーブル・ヘッダー・ファイルではありません。ファイル *file-name2* が見つかりました。

説明: テープには別のタイプのファイルが入っています。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2126N 無効なテーブル・ヘッダー・フォーマット。

説明: テープ・ヘッダーの内容は認識されません。

ユーザーの処置: テープから手動でログ・ファイルを検索してみてください。

DBT2127N 更新中に履歴ファイルに変更が加えられました。

説明: 別のプロセスが履歴ファイルに更新を加えたため、履歴ファイルの更新は失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2128N オープン・スキャンの最大値が限界を超えました。

説明: 履歴ファイルにアクセス中のプロセスが多すぎるため、履歴ファイルの読み取りが失敗しました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2129W 損傷した履歴ファイルが修正されました。

説明: 損傷した履歴ファイルが自動的に修正されました。

ユーザーの処置: これ以上のアクションは不要です。

DBT2130N 履歴ファイルを修正できません。

説明: 損傷した履歴ファイルが検出されましたが、これを修正できません。

ユーザーの処置: 別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

DBT2131N 履歴ファイル内の表スペースの数が変更されました。

説明: 履歴ファイルの内容が、別のプロセスによって変更されました。

ユーザーの処置: コマンドを再発行してください。

DBT2132N 履歴ファイルの中に、重複したタイム・スタンプが存在しています。

説明: 履歴ファイルに、タイム・スタンプの同じ複数の項目が入っています。

ユーザーの処置: 別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

DBT2138N 履歴ファイルは現行のパーティションに対応していません。

ユーザーの処置: ユーティリティの開始時に指定した ON DBPARTITIONNUM パラメーターに対応する履歴ファイルを指定してください。ユーティリティ開始時にこのパラメーターが指定されていない場合は、値 DB2NODE が使用されています。

DBT2150N db2relocatedb が失敗しました。原因は、db2relocatedb 構成ファイルのキーワード *keyword* に指定された値です。理由コード：*reason-code*

説明: db2relocatedb コマンドを使用すると、データベース全体または一部の名前変更または再配置を行えます。relocatedb は構成ファイルの名前をパラメーターとして取ります。構成ファイルでは、キーワードと値の対を使用して、名前変更されたデータベースまたは再配置されたデータベースの構成を指定できます。

db2relocatedb コマンドと構文の詳細については、DB2 インフォメーション・センターのコマンド・リファレンスを参照してください。

指定のキーワード *keyword* で示された値に問題がある場合、このメッセージが戻ります。理由コードには、問題の性質が示されています。

1

指定されたディレクトリーは存在しません。

2

db2relocatedb ユーティリティには、指定のディレクトリーにアクセスする権限がありません。

3

キーワード *keyword* に値が指定されましたが、再配置しようとしているデータベースには対応するデータベース構成パラメーターが設定されていません。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのエラーに対応します。

1

使用する新しいディレクトリーを作成してから、db2relocatedb コマンドを再び発行します。

2

新しいディレクトリーに対する書き込み権限を db2relocatedb ユーティリティとデータベース・マネージャーに付与してから、db2relocatedb コマンドを再び発行します。

3

構成ファイルからキーワードを除去し、db2relocatedb コマンドを再発行します。このコマンドが正常に完了すると、UPDATE DATABASE CONFIGURATION コマンドまたは db2CfgSet API を使用してデータベース構成パラメーターを設定できます。

DBT2200E このオプションは無効です。オプション：*option-name*

説明: 無効なオプションが指定されました。

ユーザーの処置: 有効なオプションを指定して、コマンドを再実行してください。

第 86 章 DBT3000 - DBT3499

DBT3007I 検査対象の表でタイプ 1 索引が見つかりました。REORG INDEXES ALL コマンドが、次のコマンド・ファイルに生成されました: *file-name*。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、タイプ 1 索引を検出し、指定された出力コマンド・ファイルを更新しました。このコマンド・ファイルには、タイプ 1 索引をタイプ 2 索引に変換するために必要となる、適切な REORG INDEX ステートメントが含まれています。

file-name コマンド・ファイルは、バージョン 9.5 以前のリリースでのみ使用できます。

ユーザーの処置: タイプ 1 索引からタイプ 2 索引に変換するには、以下のアクションを実行します。

1. *file-name* コマンド・ファイルに、変換するすべての索引に対する REORG ステートメントが含まれていることを確認します。
2. [オプション] *file-name* コマンド・ファイルから、後で変換するすべての索引に対する REORG ステートメントを削除します。
3. db2IdentifyType1 ユーティリティーによって作成されたコマンド・ファイル内のコマンドをコマンド・ライン・プロセッサを使用して実行することにより、コマンド・ファイルにリストされているタイプ 1 索引をタイプ 2 索引に変換します。

```
db2 -tvf <file_name>
```

DBT3008I 指定したデータベース、スキーマ、または表の索引は、既にタイプ 2 索引になっています。型付き表の索引は検査されていません。出力は生成されませんでした。

説明: db2IdentifyType1 コマンドはタイプ 1 索引を検出できなかったため、コマンド・ファイルを作成しませんでした。ただし、タイプ 1 索引が存在している可能性があります。db2IdentifyType1 コマンドは、型付き表にタイプ 1 索引またはタイプ 2 索引のどちらが存在するのかを検出できないために、処理中はこれらの索引を無視するからです。

ユーザーの処置: バージョン 9 データベースの場合には、これ以上のアクションは不要です。

タイプ 1 索引および型付き表が存在するかどうかを判別し、こうした表に REORG INDEXES ALL コマンドを手動で実行するには、以下のステップを実行してください。

1. 次の照会を発行して、型付き表のすべてのルート表のリストを生成します。

```
SELECT DISTINCT H.ROOT_SCHEMA, H.ROOT_NAME,
                T.TBSPACEID, T.TABLEID
FROM SYSCAT.TABLES T, SYSCAT.INDEXES I,
     SYSCAT.HIERARCHIES H,
     SYSCAT.NAMEMAPPINGS N
WHERE T.TYPE = 'H' AND
      T.TABSCHEMA = I.TABSCHEMA AND
      T.TABNAME = I.TABNAME AND
      H.METATYPE='U' AND
      H.ROOT_SCHEMA=N.LOGICAL_SCHEMA AND
      H.ROOT_NAME=N.LOGICAL_NAME AND
      T.TABSCHEMA=N.IMPL_SCHEMA AND
      T.TABNAME=N.IMPL_NAME
```

2. 表に関連付けられた索引タイプにかかわらずすべての型付き表に対して REORG INDEXES ALL コマンドを実行するか、型付き表のうちタイプ 1 索引のあるサブセットに対してのみ実行するかを決定します。決定する際は、型付き表のサブセットを手動で判別するのに要する時間とリソースを評価してください。CONVERT 節を含んだ REORG INDEXES ALL コマンドをタイプ 2 索引のある表に対して実行しても、効果はありません。
3. 型付き表のうちタイプ 1 索引のあるサブセットのみを処理するには、INSPECT コマンドと db2inspf コマンドを次のように使用します。

```
db2 INSPECT CHECK TABLE
    NAME root_table_name RESULTS
    KEEP sample.log
    db2inspf
    $INSTHOME/sqllib/db2dump/sample.log
    sample.out
```

各ルート表の索引タイプを利用して、ルート表のリストを生成した照会からの TBSPACEID および TABLEID の値を、db2inspf コマンドからの次のようなフォーマット済み出力内のオブジェクト ID および表スペース ID に対応させます。

表フェーズが開始しました (ID 符号付き: 4、符号なし: 4; 表スペース ID: 3) :

```
データ・フェーズが開始しました。オブジェクト: 4
表スペース: 3
この表の索引タイプは 1 です。
エクステント・マップの全探索 DAT、アンカー 96。
エクステント・マップの全探索が完了しました。
DAT オブジェクト・サマリー:
合計ページ数 20 - 使用済みページ数 20
- フリー・スペース 2%
データ・フェーズが終了しました。
```

索引フェーズが開始しました。オブジェクト: 4

表スペース: 3
 エクステント・マップの全探索 INX、アンカー 160。
 エクステント・マップの全探索が完了しました。
 INX オブジェクト・サマリー:
 合計ページ数 17 - 使用済みページ数 17
 索引フェーズが終了しました。
 表フェーズが終了しました。
 表スペース・フェーズが終了しました。

4. すべてのルート表、または表のうちタイプ 1 索引のあるサブセットに対して、REORG INDEXES ALL コマンドを実行します。例を次に示します。

```
db2 REORG INDEXES ALL
FOR TABLE root_table_name
ALLOW WRITE ACCESS CONVERT
```

DBT3009I 検査対象の表にはユーザー定義索引がありません。索引変換は不要です。

説明: db2Identify Type1 コマンドが検査する表には索引がないので、出力は生成されませんでした。

ユーザーの処置: 検査対象の表には索引がないので、索引変換を行う必要はありません。

DBT3101E -d パラメーターにデータベース名が指定されていません。構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、データベース接続を確立するためにデータベース名を必要とします。

このコマンドの基本構文は、db2IdentifyType1 -d database_name -o file_name です。この 2 つのパラメーターが正しく指定されていなければ、コマンドを実行できません。

「コマンド・リファレンス」で db2IdentifyType1 コマンドの詳細を参照するか、db2IdentifyType1 -h を入力してヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: データベース名を正しい構文で指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3102E -o パラメーターに出力ファイル名が指定されていません。構文を訂正して、コマンドを再実行してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、その出力を書き込めるファイルの名前を必要とします。

このコマンドの基本構文は、db2IdentifyType1 -d database_name -o file_name です。この 2 つのパラメーターが正しく指定されていなければ、コマンドを実行できません。

ファイル名は絶対パスまたは相対パスで修飾できますが、246 文字を超えることはできません。

「コマンド・リファレンス」で db2IdentifyType1 コマ

ンドの詳細を参照するか、db2IdentifyType1 -h を入力してヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: 有効なファイル名を正しい構文で指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3103E 次のパラメーターに値が指定されていません: parameter-name。欠落している値を指定して、コマンドを再実行してください。

説明: パラメーターが値なしで指定されています。「コマンド・リファレンス」で db2IdentifyType1 コマンドの詳細を参照するか、db2IdentifyType1 -h を入力してヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: パラメーターの値を指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3104E 次のパラメーターが複数回指定されていません: repeated-parameter-name。余分なパラメーターを除去して、コマンドを再実行してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、一度に 1 つのデータベース、表、またはスキーマしか処理できません。複数のデータベース名、表名、およびスキーマ名は、サポートされていません。

「コマンド・リファレンス」で db2IdentifyType1 コマンドの詳細を参照するか、db2IdentifyType1 -h を入力してヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: 重複パラメーターを除去して、コマンドを再実行してください。

DBT3105E 次のパラメーターの値が長すぎます: parameter-name。値を短くして指定し、コマンドを再実行してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドのパラメーターの値は、データベース名、表名、およびスキーマ名の DB2 命名規則に従います。パスを含めた出力ファイル名の長さが 246 文字を超えることはできません。

ユーザーの処置: 名前の長さ制限に適合する値を指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3106E 次のパラメーターは、有効なパラメーターのいずれでもありません: parameter-name。有効なパラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、指定されたパラメーターを認識しません。

「コマンド・リファレンス」で db2IdentifyType1 コマンドの詳細を参照するか、db2IdentifyType1 -h を入力して

ヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3107E 次のパラメーターに指定できる値は 1 つのみです: *parameter-name*。余分な値を除去して、コマンドを再実行してください。

説明: 「コマンド・リファレンス」で `db2IdentifyType1` コマンドの詳細を参照するか、`db2IdentifyType1 -h` を入力してヘルプ情報を表示してください。

ユーザーの処置: 余分な値を除去して、コマンドを再実行してください。

DBT3108I このデータベースのバージョン・レベルは、`db2IdentifyType1` ではサポートされていません。検査対象となるのはバージョン 8 以降のデータベースのみです。

説明: `db2IdentifyType1` コマンドが検査できるのは、バージョン 8 以降のデータベースのみです。

ユーザーの処置: データベースをバージョン 8 以降にマイグレーションした後に、コマンドを再実行してください。

DBT3109E 次のスキーマが見つかりませんでした: *schema-name*。スキーマ名を訂正して、コマンドを再実行してください。

説明: `db2IdentifyType1` コマンドは、指定されたスキーマを見つけることができませんでした。

スキーマ名 ID は、システム・カタログ表に現れるとおりの ID を大文字で指定する必要があります。区切り文字で区切られたスキーマ名 ID は、二重引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: 有効なスキーマ名を正しい構文で指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3110E 次の表が見つかりませんでした: *table-name*。表名を訂正して、コマンドを再実行してください。

説明: `db2IdentifyType1` コマンドは、指定された表を見つけることができませんでした。

表名 ID は、システム・カタログ表に現れるとおりの ID を大文字で指定する必要があります。区切り文字で区切られた表名 ID は、二重引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: 有効な表名を正しい構文で指定して、コマンドを再実行してください。

DBT3201E `db2IdentifyType1` コマンドは、環境ハンドルの割り振ることができませんでした。

説明: `db2IdentifyType1` コマンドは、環境ハンドルを割り振ることができませんでした。このエラーは、DB2 インスタンスの環境が正しくセットアップされていない場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: `db2IdentifyType1` コマンドを再実行する前に、DB2 インスタンス環境をセットアップする必要があります。DB2 インスタンスを所有する ID を使用すると、新規ログイン・ウィンドウを開いたり、以下のいずれかのコマンドを実行したりすることができません。

Bourne または Korn シェルの場合

. \$HOME/sqllib/db2profile

C シェルの場合

ソースの \$HOME/sqllib/db2cshrc

\$HOME は、DB2 インスタンスを所有するユーザー ID のホーム・ディレクトリを表します。

DBT3202E `db2IdentifyType1` コマンドは、接続ハンドルを割り振ることができませんでした。詳細情報については、`db2IdentifyType1.err` ログ・ファイルを参照してください。

説明: `db2IdentifyType1` コマンドは、接続ハンドルを割り振ることができませんでした。トラブルシューティング情報が `db2IdentifyType1.err` ファイルに記録されました。このファイルは、`-o` パラメーターに指定されたパスと同じロケーションにあります。

ユーザーの処置: `db2IdentifyType1.err` ファイルの内容を調べてください。問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

DBT3203E 次のデータベースに接続しようとしているときに問題が発生しました: *database-name*。詳細情報については、`db2IdentifyType1.err` ログ・ファイルを参照してください。

説明: データベース接続の問題があったために `db2IdentifyType1` コマンドの処理が停止しました。

以下の状態がデータベース接続エラーの原因になった可能性があります。

- 指定されたデータベース名が存在しない。
- DB2 のユーザー ID とパスワードが正しくない。
- データベースが使用不可である。

DBT3204E

トラブルシューティング情報が db2IdentifyType1.err ファイルに記録されました。このファイルは、-o パラメーターに指定されたパスと同じロケーションにあります。

ユーザーの処置: db2IdentifyType1.err ファイルの内容を調べてください。問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

DBT3204E ユーザー許可を判別できません。詳細情報については、db2IdentifyType1.err ログ・ファイルを参照してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、コマンドを実行するための適切な許可がユーザー ID にあるかどうかを判別できませんでした。SYSADM 権限または DBADM 権限のどちらかが必要です。トラブルシューティング情報が db2IdentifyType1.err ファイルに記録されました。このファイルは、-o パラメーターに指定されたパスと同じロケーションにあります。

ユーザーの処置: db2IdentifyType1.err ファイルの内容を調べてください。問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

DBT3205E このコマンドは、DBADM 権限または SYSADM 権限のあるユーザー ID で実行する必要があります。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、DBADM 権限または SYSADM 権限のあるユーザー ID で実行する必要があります。出力は生成されませんでした。

ユーザーの処置: DBADM 権限または SYSADM 権限のあるユーザー ID でコマンドを再実行してください。

DBT3206E db2IdentifyType1 コマンドは、次のデータベースと通信中に問題を検出しました: *database-name*。詳細情報については、db2IdentifyType1.err ログ・ファイルを参照してください。

説明: データベース接続の問題が原因で db2IdentifyType1 コマンドは実行を停止しました。

トラブルシューティング情報が db2IdentifyType1.err ファイルに記録されている可能性があります。このファイルは、-o パラメーターに指定されたパスと同じロケーションにあります。

ユーザーの処置: データベースがまだアクセス可能であることを確認し、コマンドを再実行してください。

DBT3207E db2IdentifyType1 コマンドは、*output-file-name* というファイルに書き込めませんでした。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、指定されたファイルに出力を書き込めませんでした。以下のいずれかの状態がこのエラーの原因になった可能性があります。

- ディスクがいっぱいか、操作を完了するにはディスク・スペースが不十分である。
- ファイル・ディレクトリーに対する適切な書き込み特権がユーザー ID がない。
- ファイルのロケーションがマウントされていない。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

DBT3208E db2IdentifyType1 コマンドは、ステートメント・ハンドルを割り振ることができませんでした。詳細情報については、db2IdentifyType1.err ログ・ファイルを参照してください。

説明: db2IdentifyType1 コマンドは、ステートメント・ハンドルを割り振ることができませんでした。トラブルシューティング情報が db2IdentifyType1.err ファイルに記録されました。このファイルは、-o パラメーターに指定されたパスと同じロケーションにあります。

ユーザーの処置: db2IdentifyType1.err ファイルの内容を調べてください。問題を訂正して、コマンドを再実行してください。

DBT3209E モジュール *module-name* のロードに失敗しました。SQLCODE = *sqlcode*。

説明: db2IdentifyType1 コマンドにより必要とされるモジュールをロードしようとしたときにエラーが発生しました。これは、指定されたモジュールが見つからないか、リソース・エラーが発生した場合に起きることがあります。

ユーザーの処置: 指定されたモジュールが db2IdentifyType1 プログラムと同じディレクトリーに存在していることを確認するか、sqlcode により示されたエラーを訂正してから db2IdentifyType1 コマンドを再実行してください。

第 87 章 DBT3500 - DBT3999

DBT3500E db2prereqcheck ユーティリティは、XML リソース・ファイルを検出できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

インストール前提条件を検査する対象の DB2 データベースのリリースを XML リソース・ファイルに定義できます。このメッセージは、指定された XML リソース・ファイルまたはデフォルトの XML リソース・ファイルを db2prereqcheck ユーティリティが検出できない場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- db2prereqcheck コマンドに `-f` パラメーターを使用して XML リソース・ファイルを指定します。
- `-f` パラメーターを使用して XML リソース・ファイルを指定しなかった場合は、デフォルトのインストール・ディレクトリーにデフォルトの XML リソース・ファイルがあるかどうかを調べます。

DBT3501E db2prereqcheck ユーティリティは、ファイル `file-name` を開けないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、通常の処理中に db2prereqcheck ユーティリティがファイルを開けないときに返されます。db2prereqcheck ユーティリティは db2prereqcheck コマンドを実行するユーザーと同じ特権で実行されるため、db2prereqcheck コマンドを実行したユーザーが指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持たない場合に、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- 指定されたファイルのアクセス権を変更して、自分のユーザー ID がそのファイルに対する読み書きアクセス権を持つようにします。
- 指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持つユーザー ID でシステムにログインします。

- 指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持つユーザーに db2prereqcheck コマンドの実行を依頼します。

DBT3502E db2prereqcheck ユーティリティは、無効なバージョンの DB2 データベースが XML リソース・ファイルに指定されているために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

インストール前提条件を検査する対象の DB2 データベースのリリースを XML リソース・ファイルに定義できます。このメッセージは、無効なバージョンの DB2 データベースが XML リソース・ファイルに指定されている場合に返されます。

ユーザーの処置: XML リソース・ファイルを修正して、db2prereqcheck コマンドを再度実行してください。

DBT3503E 無効なパラメーターが指定されたために、db2prereqcheck コマンドが失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck コマンドに無効なパラメーターが指定されている場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. db2prereqcheck コマンド構文を確認してください。
2. 有効なパラメーターを指定して、db2prereqcheck コマンドを再度実行してください。

DBT3504E db2prereqcheck ユーティリティは、オペレーティング・システムのレベルを判別できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティが

DBT3505E

オペレーティング・システムの現行レベルを判別できない場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- DB2 データベースおよび db2prereqcheck ユーティリティでサポートされているオペレーティング・システムを確認してください。
- オペレーティング・システムのレベルを手動で取得または調査してください。

DBT3505E db2prereqcheck ユーティリティは、Linux ディストリビューションのレベルを判別できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティが現行 Linux オペレーティング・システムのディストリビューション・レベルを判別できない場合に返されます。ユーティリティがディストリビューション・レベルを判別できない場合、いくつかの理由が考えられます。例えば、ユーティリティが /etc/issue と呼ばれるシステム・ファイルを検出できない、または読み取れない場合、ユーティリティがディストリビューション・レベルを判別できない可能性があります。

db2prereqcheck ユーティリティは、現行の Linux オペレーティング・システムのディストリビューション・レベルを認識できないと、必要な前提条件検査ステップの一部を実行できません。db2prereqcheck ユーティリティを使用して DB2 データベースのインストール前提条件を検査できるようにするには、ユーティリティがディストリビューション・レベルを判別できない原因になっている問題を解決しなければなりません。

ユーザーの処置: db2prereqcheck ユーティリティが現行の Linux オペレーティング・システムのディストリビューション・レベルを判別できるようにするには、以下のアクションを実行してください。

- /etc/issue と呼ばれるシステム・ファイルが存在することを確認します。
- /etc/issue と呼ばれるシステム・ファイルにディストリビューション・レベルの詳細情報が入っていることを確認します。
- /etc/issue と呼ばれるシステム・ファイルに関する読み取り権限があるユーザーとして db2prereqcheck コマンドを実行します。

DBT3506E db2prereqcheck ユーティリティは、rpm コマンドが失敗したために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

DB2 データベースのインストール前提条件の検査中に、db2prereqcheck ユーティリティはリソース・パッケージ・マネージャー・ユーティリティを使用します。このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティが rpm コマンドを呼び出して、その rpm コマンドが失敗する場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. db2prereqcheck レポート・ファイルの診断情報を確認して、rpm が失敗した原因を見極めてください。
2. rpm 失敗の原因を解決してください。
3. db2prereqcheck コマンドを再度呼び出してください。

DBT3507E db2prereqcheck ユーティリティは、パッケージまたはファイル package-or-file-name を検出できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティがインストール前提条件を検査中に、指定されたパッケージまたはファイルを検出できない場合に返されます。

ユーザーの処置: 診断レポート・ファイルを調べるには、-o オプションを指定して db2prereqcheck を実行します。デフォルトでは、前提条件の妥当性検査が画面に表示されます。

DBT3508E db2prereqcheck ユーティリティは、未処理エラーを検出したために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティがそれ自体では分類または解決できないエラーを検出すると返されます。

ユーザーの処置:

1. db2prereqcheck -o オプションを指定して実行してください。
2. db2prereqcheck レポート・ファイルの診断情報を確認して、問題の原因を特定してください。
3. 問題の原因を解決してください。
4. db2prereqcheck コマンドを再度実行してください。

DBT3509E db2prereqcheck ユーティリティは、パッケージ *package-name* のバージョンを判別できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティがインストール前提条件を検査するためにパッケージのバージョンを判別する必要があるのに、ユーティリティがパッケージのバージョンを判別できない場合に返されます。

ユーザーの処置: オペレーティング・システムおよび DB2 データベースでサポートされているソフトウェアのリストを手動で確認してください。

DBT3510E db2prereqcheck ユーティリティは、必須ライブラリー・ファイル *library-file-name* を検出できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

このメッセージは、インストール前提条件を検査するために必要なライブラリー・ファイルを db2prereqcheck ユーティリティが検出できない場合に返されます。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしていることを手動で確認してください。

DBT3511E db2prereqcheck ユーティリティは、マップ・ファイル *map-file-name* を検出できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

このメッセージは、インストール前提条件を検査するために必要なマップ・ファイルを db2prereqcheck ユーティリティが検出できない場合に返されます。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3512W db2prereqcheck ユーティリティは、現在インストールされている C++ 標準ライブラリー *libstdc++* のバージョンの判別に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

インストールされている C++ 標準ライブラリーのバージョンを db2prereqcheck ユーティリティが判別できなくても、現行システムが DB2 データベースのインストール前提条件を満たしている場合があります。

ユーザーの処置: 必要なバージョンの C++ 標準ライブラリーがシステムにあることを手動で確認してください。

DBT3513W db2prereqcheck ユーティリティは、*ldconfig* ユーティリティを使用しての、現在インストールされている C++ 標準ライブラリー *libstdc++* のバージョンの判別に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

db2prereqcheck ユーティリティは、C++ 標準ライブラリーの現行バージョンの判別にいくつかの異なる方式を使用します。このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティが現在インストールされている C++ 標準ライブラリーのバージョンの判別を *ldconfig* ユーティリティを使用して試行する場合に返されます。

インストールされている C++ 標準ライブラリーのバージョンを db2prereqcheck ユーティリティが判別できなくても、現行システムが DB2 データベースのインストール前提条件を満たしている場合があります。

ユーザーの処置: 必要なバージョンの C++ 標準ライブラリーがシステムにあることを手動で確認してください。

DBT3514W db2prereqcheck ユーティリティは、32 ビット・ライブラリー・ファイル *library-file-name* の検出に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティが

DBT3515E

必須ライブラリー・ファイルの 32 ビット版を検出できない場合に返されます。名前の挙げられたファイルが欠落している場合、32 ビット・データベース・アプリケーションが正常に機能しない可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- DB2 データベースと連携して 32 ビット・アプリケーションを使用する予定がない場合、応答は必要ありません。
- DB2 データベースと連携して 32 ビット・アプリケーションを使用することになっている場合は、DB2 データベースをインストールする前に、名前の挙げられた 32 ビット・ライブラリー・ファイルがシステムに存在していることを確認してください。

DBT3515E db2prereqcheck ユーティリティは、現在インストールされている C 標準ライブラリー `glibc` のバージョンの判別に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3516E db2prereqcheck ユーティリティは、コマンド `command` を実行できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、db2prereqcheck ユーティリティがインストール前提条件を検査するコマンドの実行を試行してコマンドが失敗した場合に返されます。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3517E db2prereqcheck ユーティリティは、ファイル `file-name` を読み取れないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、通常の処理中に db2prereqcheck ユーティリティがファイルを読み取れないときに返され

ます。db2prereqcheck ユーティリティは db2prereqcheck コマンドを実行するユーザーと同じ特権で実行されるため、db2prereqcheck コマンドを実行したユーザーが指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持たない場合に、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- 指定されたファイルのアクセス権を変更して、自分のユーザー ID がそのファイルに対する読み書きアクセス権を持つようにします。
- 指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持つユーザー ID でシステムにログインします。
- 指定されたファイルに対する読み書きアクセス権を持つユーザーに db2prereqcheck コマンドの実行を依頼します。

DBT3518E db2prereqcheck ユーティリティは、AIX サービス・パックのレベルを判別できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: 必要な AIX サービス・パック・レベルがシステムにあることを手動で確認してください。

DBT3519E db2prereqcheck ユーティリティは、AIX テクノロジー・レベル (TL) を判別できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: 必要な AIX テクノロジー・レベル (TL) がシステムにあることを手動で確認してください。

DBT3520E db2prereqcheck ユーティリティは、ライブラリー・ファイル `libaio.so.1` を検出できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3521E **db2prereqcheck** ユーティリティは、ライブラリー `libibmc++` のバージョンを判別できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: DB2 データベースの前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3522E **db2prereqcheck** ユーティリティは、パッチ `patch-identifier` を検出できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3523E **db2prereqcheck** ユーティリティは、必要な HP-UX バンドル `bundle-names` を検出できないために、インストール前提条件の検査に失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: DB2 データベースのインストール前提条件を満たしているかどうかを手動で確認します。

DBT3524E **db2prereqcheck** ユーティリティは、XML リソース・ファイルに指定されている DB2 データベースのバージョンでは現行の Windows オペレーティング・システムがサポートされていないことを判別しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

このメッセージは、現在インストールされている Windows オペレーティング・システムが `db2prereqcheck` XML リソース・ファイルに指定されている 1 つ以上のどのバージョンの DB2 データベースによってもサポートされていないことを、`db2prereqcheck` ユーティリティが判別する場合に返されます。

ユーザーの処置: DB2 データベースをインストールするには、Windows オペレーティング・システムを DB2

データベースがサポートするバージョンに変更してください。

DBT3525E XML リソース・ファイルが無効であるために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

インストール前提条件を検査する対象の DB2 データベースのリリースを XML リソース・ファイルに定義できます。このメッセージは、指定された XML リソース・ファイルまたはデフォルトの XML リソース・ファイルの内容を `db2prereqcheck` ユーティリティが処理できない場合に返されます。

ユーザーの処置: XML リソース・ファイルの内容を修正してから、`db2prereqcheck` コマンドを再度実行してください。

DBT3526E `-o` パラメーターに指定した値が無効であるために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

`db2prereqcheck` ユーティリティは、確認された前提条件と検査の成功を記録したログを含むレポート・ファイルの出力を作成します。デフォルトのレポート・ファイル名がありますが、`db2prereqcheck` コマンドの `-o` パラメーターを使用してレポート・ファイルの名前を指定することもできます。

このメッセージは、`-o` パラメーターに指定された値がファイル名には無効である場合に返されます。たとえば、`-o` パラメーターに指定された値がファイル名に有効な形式ではない場合に、このメッセージが返される可能性があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- `-o` パラメーターに有効なファイル名を指定して、`db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出します。
 - `-o` パラメーターを指定せずに `db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出して、デフォルトのレポート・ファイル名を使用します。
-

DBT3527E `-v` パラメーターに指定した値が無効であるために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

`db2prereqcheck` コマンドの `-v` パラメーターを使用して、DB2 データベースのバージョンを 1 つ指定できません。

このメッセージは、`db2prereqcheck` コマンドの `-v` パラメーターに値が指定されているものの、指定された値がリソース XML ファイル内で定義されている有効なバージョンのどの DB2 データベースとも一致しない場合に返されます。

ユーザーの処置: `-v` パラメーターに DB2 データベースの有効なバージョンを指定して、`db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出します。

DBT3528E `-f` パラメーターに指定した値が無効であるために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

`db2prereqcheck` ユーティリティは、検査対象とする前提条件に関する情報を入力 XML リソース・ファイルから読み取ります。デフォルトの XML リソース・ファイル名がありますが、`db2prereqcheck` コマンドの `-f` パラメーターを使用して XML リソース・ファイルの名前を指定することもできます。

このメッセージは、`-f` パラメーターに指定されたファイルが有効な XML ファイルでないか、その内容が

`db2prereqcheck` ツールで認識されない形式である場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- `-f` パラメーターに有効な XML リソース・ファイルを指定して、`db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出します。
- `-f` パラメーターを指定せずに `db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出して、デフォルトの XML リソース・ファイルを使用します。

DBT3529E 相互に排他的なパラメーター `-v` と `-i` が両方とも指定されたために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

`db2prereqcheck` コマンドの `-v` パラメーターを使用して、DB2 データベースのバージョンを 1 つ指定できません。

1 つ以上のバージョンの DB2 データベースをリストする XML リソース・ファイルを使用する場合、`db2prereqcheck` コマンドに `-i` パラメーターを指定することにより、`db2prereqcheck` ユーティリティが XML リソース・ファイルに指定されている DB2 データベースの最新バージョンに対してのみインストール前提条件を検査するようにできます。

`-v` パラメーターと `-i` パラメーターは相互に排他的です。

ユーザーの処置: `-v` パラメーターまたは `-i` パラメーターのどちらか一方だけを指定して、`db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出してください。

DBT3530E `db2prereqcheck` コマンドに `-i` パラメーターが指定されましたが、`db2prereqcheck` ユーティリティは XML リソース・ファイルにリストされている最新の DB2 データベース・バージョンを判別できなかったために、`db2prereqcheck` コマンドが失敗しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

`db2prereqcheck` コマンドの `-v` パラメーターを使用して、DB2 データベースのバージョンを 1 つ指定できません。

1 つ以上のバージョンの DB2 データベースをリストする XML リソース・ファイルを使用する場合、`db2prereqcheck` コマンドに `-i` パラメーターを指定することにより、`db2prereqcheck` ユーティリティが XML リソース・ファイルに指定されている DB2 データベースの最新バージョンに対してのみインストール前提条件を検査するようにできます。

このメッセージは、`db2prereqcheck` コマンドに `-i` パラメーターが指定されているときに、XML リソース・ファイルの内容に指定されている DB2 データベースの最新バージョンが何かを `db2prereqcheck` ユーティリティが判別できなかった場合に返されます。

db2prereqcheck ユーティリティが XML リソース・ファイルから DB2 データベースの最新バージョンを取得できない場合の理由には複数あり、それには以下の理由が含まれます。

- XML リソース・ファイルに DB2 データベースのバージョンが指定されていない。
- XML リソース・ファイルの形式が無効である。
- XML リソース・ファイルに指定されている DB2 データベースのバージョンが無効である。

ユーザーの処置:

1. 以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、問題となり得る点を取り除いてください。
 - XML リソース・ファイルの形式が有効であることを確認します。
 - DB2 データベースの 1 つ以上のバージョンが XML リソース・ファイルに正しく指定されていることを確認します。
2. `-i` オプションを指定しないで `db2prereqcheck` コマンドを再度呼び出して、リソース XML ファイル内で定義されているすべての DB2 データベースのバージョンに関する前提条件を妥当性検査します。

DBT3531E `db2prereqcheck` ユーティリティは、次のメッセージを出力レポート・ファイルのログに記録することに失敗しました:
message-text。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

`db2prereqcheck` ユーティリティは、現行システムで検査されたインストール前提条件に関する情報を含むレポート・ファイルを作成します。

このメッセージは、`db2prereqcheck` がレポート・ファイルへの情報の出力を試行するとエラーが発生する場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. レポート・ファイルに対する書き込み権限がユーザーにあることを確認してください。
2. メッセージに示されているレポート・ファイルに出力できなかった情報を確認し、後でレポート・ファイルに含まれている情報を検討する際にこの情報も考慮してください。

DBT3532E `db2prereqcheck` ユーティリティは、インストール中の DB2 データベース製品には 64 ビットのオペレーティング環境が必要であるのに、現在の環境が 32 ビットの環境であることを判別しました。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: この DB2 データベース製品をインストールするには、64 ビットのオペレーティング環境を使用してください。

DBT3533I `db2prereqcheck` ユーティリティは、DB2 データベース *client-or-server-info feature-info* のすべてのインストール前提条件を満たしていることを確認しました。
バージョン: *DB2-database-version*。

説明: `db2prereqcheck` ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT3535E `db2prereqcheck` ユーティリティは、インストール前提条件の検査に失敗しました。このユーティリティは、次の InfiniBand サポート・パッケージを検出できません: *package_name*

説明: InfiniBand ネットワークまたは 10 ギガビット・イーサネット (10GE) ネットワーク上の Linux オペレーティング・システムには、特定の InfiniBand サポート・パッケージが必要です。必要なパッケージのリストについては、Linux の場合の DB2 pureCluster Feature のインストール前提条件に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 必要な InfiniBand ソフトウェアをインストールするには、`yum` コマンドを使用して、InfiniBand サポート・パッケージのグループ・インストールを実行します。

DBT3536E `db2prereqcheck` ユーティリティは、HPN パッケージ *package_name* を検出できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました

説明: 10 ギガビット・イーサネット (10GE) ネットワーク上の Linux オペレーティング・システムには、特定のハイパフォーマンス・ネットワーキング (HPN) パッケージが必要です。必要なパッケージのリストについては、Linux の場合の DB2 pureCluster Feature のイン

DBT3537E

ストール前提条件に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 必要な HPN パッケージをインストールするには、yum コマンドを使用して、InfiniBand サポート・パッケージのグループ・インストールを実行します。

DBT3537E db2prereqcheck ユーティリティは、RSCT パッケージ *package_name* を検出できなかったために、インストール前提条件の検査に失敗しました

説明: Linux オペレーティングには、特定の Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) パッケージが必要です。必要なパッケージのリストについては、Linux の場合の DB2 pureCluster Feature のインストール前提条件に関するトピックを参照してください。

ユーザーの処置: 必要な RSCT パッケージをインストールするには、必要なパッケージごとに yum インストール・コマンドを実行します。

DBT3538E -t パラメーターに指定した値が無効であるために、db2prereqcheck コマンドが失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

-t パラメーターを使用して、db2prereqcheck ユーティリティによる前提条件の検査の対象となるネットワーク構成のタイプを指定できます。-t パラメーターの有効値は以下の 4 つです。

- SINGLE_IB_PORT_CLUSTER
- MULT_IB_PORT_CLUSTER
- SINGLE_ROCE_PORT_CLUSTER
- MULTI_ROCE_PORT_CLUSTER

このメッセージは、-t パラメーターに無効値が指定されている場合に返されます。

ユーザーの処置: -t パラメーターに有効値を指定して、db2prereqcheck コマンドを再度呼び出します。

DBT3539E -t パラメーターは指定されていましたが、-p パラメーターが指定されていなかったために、db2prereqcheck コマンドが失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

-p パラメーターを指定して、DB2 pureCluster 環境に固有のインストール前提条件を検査できます。

db2prereqcheck ユーティリティで DB2 pureCluster 環境の前提条件を検査するよう指定する場合は、-t パラメーターを使用して、db2prereqcheck ユーティリティによる前提条件の検査の対象となるネットワーク構成のタイプも指定できます。

-p パラメーターを指定しない場合は、-t パラメーターを指定してはいけません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- DB2 pureCluster 環境のインストール前提条件を検査しようとしている場合は、-p パラメーターを指定して db2prereqcheck コマンドを再度呼び出します。-t パラメーターは指定してもしなくてもかまいません。
- DB2 pureCluster 環境のインストール前提条件を検査しようとしていない場合は、-t パラメーターを指定せずに db2prereqcheck コマンドを再度呼び出します。

DBT3540E 現行のオペレーティング・システム・レベルでは db2prereqcheck コマンドがサポートされていないので、db2prereqcheck コマンドが失敗しました。

説明: db2prereqcheck ユーティリティを使用して、DB2 データベースのインストール前提条件を確認できます。

db2prereqcheck ユーティリティには、次のレベル以上のオペレーティング・システム・レベルが必要です。

- AIX 6.1
- HP-UX 11iv3
- Solaris 10

ユーザーの処置: サポートされているオペレーティング・システム・レベルのシステムで db2prereqcheck コマンドを実行します。

DBT3541E db2prereqcheck ユーティリティが解決できない内部エラーを検出したので、インスタンス管理タスクが失敗しました。

説明: DB2 データベース製品のインストール、およびデータベース・マネージャー・インスタンスの作成または管理を行う場合、まず DB2 データベース・マネージャーにより db2prereqcheck ユーティリティの使用を含むさまざまなシステム妥当性検査ステップが実行されます。

このメッセージは、より大きなインストール操作またはインスタンス管理操作の一部として、db2prereqcheck コ

ユーティリティーが未処理エラーを検出した場合に返されます。

ユーザーの処置: この問題の解決に支援が必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

DBT3542E db2prereqcheck ユーティリティーが内部エラーを検出したので、インスタンス管理タスクが失敗しました。理由コード:

reason-code

説明: DB2 データベース製品のインストール、およびデータベース・マネージャー・インスタンスの作成または管理を行う場合、まず DB2 データベース・マネージャーにより db2prereqcheck ユーティリティーの使用を含むさまざまなシステム妥当性検査ステップが実行されます。

理由コードは、次のようなエラーの特定の理由を示します。

1

データベース・マネージャーまたは db2prereqcheck ユーティリティーが、「etc/hosts」と呼ばれるファイルのオープンに失敗しました。

2

データベース・マネージャーまたは db2prereqcheck ユーティリティーが、クラスター・キャッシング・ファシリティがあるマシンの IP アドレスを判別できませんでした。

ユーザーの処置: 示された理由コードに応じて以下のトラブルシューティング・ステップを実行して、このエラーに対応します。

理由コード 1

「etc/hosts」と呼ばれるシステム・ファイルが存在し、アクセス可能で、ファイルの内容が一般的なホスト・ファイルの内容であることを確認します。

理由コード 2

DB2 クラスター内のホスト・マシンが稼働中で、クラスター内のネットワークが正常に機能していることを確認します。

第 88 章 DBT4000 - DBT4499

DBT4000N *option-name* というオプションの値が指定されていません。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

このメッセージで示されたオプションの値を指定する必要があります。

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「db2fedgentf -h」を使用してください。

ユーザーの処置: このメッセージで示されたオプションの値を指定して db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4001N 「-create」も「-drop」も指定されていません。これらのオプションのいずれかを指定することは必須です。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentf コマンドに、-create または -drop のいずれかのオプションを必ず指定する必要があります。

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「db2fedgentf -h」を使用してください。

ユーザーの処置: 「-create」または「-drop」のどちらかを指定して db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4002N 無効なオプションが指定されています:
option-name。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

指定されたオプションは、db2fedgentf コマンドの有効なオプションではありません。

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「db2fedgentf -h」を使用してください。

ユーザーの処置: 有効なオプションを指定して db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4003N 必須指定のオプションである「-db」、「-u」、または「-p」のいずれかが欠落しています。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentf コマンドを呼び出すときは、データベース名、ユーザー名、およびパスワードを指定する必要があります。

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「db2fedgentf -h」を使用してください。

ユーザーの処置: データベース、ユーザー名、およびパスワードを指定して db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4004N 必須指定のオプションである「stpn」または「-c」のどちらかが欠落しています。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentf コマンドを呼び出して特定のフェデレーテッド・ストアード・プロシージャ用の新しい表関数を作成するときは、次の両方を指定する必要があります。

- フェデレーテッド・ストアード・プロシージャの名前（「-stpn」オプションを使用）
- フェデレーテッド・ストアード・プロシージャのシグニチャーの列名と列タイプのペア

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「db2fedgentf -h」を使用してください。

ユーザーの処置: フェデレーテッド・ストアード・プロシージャ名、およびストアード・プロシージャのシグニチャーの列名と列タイプのペアを指定して、db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4005N 「-c」オプションのストリング値が無効です。db2fedgentf は、このストリングで指定された列名と列タイプのペアを解析できませんでした。db2fedgentf 呼び出しに渡されたストリング: *column-name-type-pairs-list*。

DBT4006N

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentf コマンドを呼び出して特定のフェデレーテッド・ストアード・プロシージャ用の新しい表関数を作成するときは、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャのシグニチャーの列名と列タイプのペアを指定する必要があります。

このストリングの形式は、次のようにする必要があります。

```
"<name1> <type1>, <name2> <type2>, ..."
```

例えば:

```
"PID CHAR(10), PRICE DOUBLE, QTY INT"
```

ユーザーの処置:

1. 作成する表関数の対象となるフェデレーテッド・ストアード・プロシージャのシグニチャーを再度確認します。
2. db2fedgentf コマンドの「-c」オプションに渡すストリングの形式を再度確認します。
3. フェデレーテッド・ストアード・プロシージャのシグニチャーの列名と列タイプのペアを、有効な形式のストリングで「-c」オプションに渡して、db2fedgentf コマンドを再度呼び出します。

DBT4006N db2fedgentf は、column-name という列の SQL データ・タイプを JAVA データ・タイプに変換できませんでした。列の SQL データ・タイプ: SQL-data-type。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentdf ユーティリティは JAVA 表関数を作成します。そのためにこのユーティリティは、いくつかのタスクを実行します。まず、新しい表関数のソースを含んだ JAVA ファイルを作成し、生成されたその JAVA ファイルをコンパイルした後に、新しい表関数を登録します。

db2fedgentdf は JAVA 表関数を作成するので、db2fedgentf はストアード・プロシージャ結果セットの列の SQL データ・タイプを JAVA データ・タイプに変換しなければなりません。しかし、このメッセージで示された列から変換できる JAVA データ・タイプが存在しません。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: フェデレーテッド・ストアード・プロシージャを修正して、このメッセージで示された列の SQL データ・タイプを、JAVA データ・タイプに変換できるものに変更してください。

DBT4008N db2fedgentf は、stored-procedure-name というフェデレーテッド・ストアード・プロシージャを見つけれませんでした。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

コマンド行の「-stpn」オプションで指定されたフェデレーテッド・ストアード・プロシージャの項目を db2fedgentf がカタログで見つけることができなかったために、このメッセージが返されました。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: カタログで見つかるフェデレーテッド・ストアード・プロシージャを指定して db2fedgentf を再度呼び出してください。

DBT4011N db2fedgentf ユーティリティは、表関数の JAVA ソース・ファイルの作成に失敗しました。ファイル名: File-name。理由: reason-code。エラー・ストリング: Error-string。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentdf ユーティリティは JAVA 表関数を作成します。そのためにこのユーティリティは、いくつかのタスクを実行します。まず、新しい表関数のソースを含んだ JAVA ファイルを作成し、生成されたその JAVA ファイルをコンパイルした後に、新しい表関数を登録します。

このメッセージが返された理由は、理由コードで示されます。

1

db2fedgentf は、JAVA ソース・ファイルのファイル・ハンドルを割り振れませんでした。

2

db2fedgentf は、JAVA ソース・ファイルに表関数ソースを書き込めませんでした。

3

db2fedgentf は、JAVA ソース・ファイルのファイル・ハンドルをオープンできませんでした。詳細情報については、エラー・ストリングを参照してください。

4

db2fedgentf は、JAVA ソース・ファイルに表関数ソース・コードを書き込めませんでした。詳細情報については、エラー・ストリングを参照してください。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

db2fedgentf を再始動してください。

2

最大数のファイル・ハンドルが割り振られている場合、オープンしているハンドルのいくつかをクローズし、その後 db2fedgentf を再始動してください。

3 および 4

エラー・ストリングの内容に応じて対処します。例えば、必要なファイル・アクセス権が db2fedgentf がない場合は、システム管理者に依頼して、必要なアクセス権を db2fedgentf に付与してもらってください。

DBT4012N db2fedgentf ユーティリティは、表関数の JAVA ソース・ファイルのコンパイルに失敗しました。ファイル名: *File-name*。
理由: *reason-code*。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

db2fedgentdf ユーティリティは JAVA 表関数を作成します。そのためにこのユーティリティは、いくつかのタスクを実行します。まず、新しい表関数のソースを含んだ JAVA ファイルを作成し、生成されたその JAVA ファイルをコンパイルした後に、新しい表関数を登録します。

このメッセージが返された理由は、理由コードで示されます。

1

db2fedgentf は、JAVA ソース・ファイルを作成する現行パスを判別できませんでした。

2

db2fedgentf は、DB2 インストール・パスを判別できませんでした。

3

db2fedgentf は、既存のバージョンのクラス・ファイルを削除できませんでした。

4

db2fedgentf は、クラス・ファイルを <DB2-INSTALL-PATH>/function の宛先にコピーできませんでした。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのメッセージに対応します。

1

db2fedgentf に、現行ディレクトリーに必要なアクセス許可があるかどうか確認してください。

2

DB2 データベースの現在のインストールにエラーがないか調査してください。

3

既存のバージョンのクラス・ファイルを <DB2-INSTALL-PATH>/function から手動で削除してください。

4

db2fedgentf に、<DB2-INSTALL-PATH>/function ディレクトリーに必要なアクセス許可があるかどうか確認してください。必要であれば、システム管理者に依頼して、そのディレクトリーに対するアクセス権限を db2fedgentf に付与してもらってください。

DBT4014I db2fedgentf は、*table-function-name* という表関数を正常にドロップしました。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

DBT4016N **db2fedgentf** は、表関数 *table-function-name* をドロップできませんでした。同じ名前の表関数が複数あるためです。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

このメッセージは、db2fedgentf がドロップする表関数を一意的に特定できなかったときに返されます。これは、同じ名前の表関数が複数ある場合に生じることがあります。

表関数はドロップされませんでした。

ユーザーの処置: 表関数をドロップするために、db2fedgentf と共に `-tfn` オプションではなく `-tfsn` オプションを使用してください。表関数の特定名は、固有のものであります。

DBT4017N **db2fedgentf** が表関数の作成中に次のエラーが発生しました。**SQLSTATE:** *sqlstate*;
SQLCODE: *sqlcode*; **メッセージ・テキスト:** *message-text*。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

db2fedgentf は、新しい表関数の作成中にこの SQL エラーを検出しました。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置:

1. DB2 インフォメーション・センターで SQL エラーに関する情報を検索します。
2. SQL エラーに対処します。
3. db2fedgentf を再度呼び出します。

DBT4018N **db2fedgentf** は、表関数の作成中に内部エラーを検出しました。**db2fedgentf** が実行していたコマンド: *command*。そのコマンドから返された値: *return-code*。診断情報が *file-name* というファイルにあります。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

このタスクを実行するために、db2fedgentf ユーティリティは、複数のデータベース・コマンドを実行し、

JAVA コンパイラー `javac` を起動して表関数用の JAVA ファイルをコンパイルします。db2fedgentf ユーティリティは、DBM 構成パラメーター `JDK_PATH` を読み取ることによって `JDK` パスを取得します。それらのタスクのいずれかがエラーを検出すると、このメッセージが返されます。

表関数はドロップまたは作成されませんでした。

ユーザーの処置:

1. 上記ファイルで診断情報を調べます。
2. DBM 構成パラメーター `JDK_PATH` が正しく設定されているかどうかを確認します。
3. 診断情報で示されるエラーに対処します。
4. db2fedgentf コマンドを再実行します。

DBT4022N **ドロップする表関数が指定されていません。「-tfn」オプションと「-tfsn」オプションの両方が欠落しています。**

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

db2fedgentf コマンドを呼び出して特定のフェデレーテッド・ストアド・プロシージャ用の表関数をドロップするときは、次のいずれかのオプションを使用して表関数を指定する必要があります。

- 表関数名 (「-tfn」オプションを使用)
- 表関数特定名 (「-tfsn」オプションを使用)

db2fedgentf コマンドの構文に関する説明が必要な場合は、コマンド「`db2fedgentf -h`」を使用してください。

ユーザーの処置: 表関数名または表関数特定名のどちらかを使用して表関数を指定して、db2fedgentf コマンドを再度呼び出してください。

DBT4023N **db2fedgentf** は、特定名 *specific-name* を持つ表関数をドロップできませんでした。この表関数はdb2fedgentf を使用して作成されたものではないためです。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。db2fedgentf ユーティリティを使用してドロップできる表関数は、db2fedgentf ユーティリティを使用して作成されたものだけです。

このメッセージは、指定された表関数が、db2fedgentf を使用して作成されなかったために返されました。

表関数はドロップされませんでした。

ユーザーの処置: DROP ステートメントなどの他の方法で表関数をドロップしてください。

DBT4024N 指定されたプロシージャ

procedure-name と同じ名前のプロシージャが複数あるため、**db2fedgentf**は、このプロシージャ用の表関数を作成できませんでした。

説明: **db2fedgentf** ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

このメッセージは、**db2fedgentf** がプロシージャを一意的に特定できなかったときに返されます。これは、同じ名前のプロシージャが複数ある場合に生じることがあります。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: `-stpn` と `-stpc` の両方を使用して、固有のプロシージャを判別してください。

DBT4025N db2fedgentf は、指定されたプロシージャ用の表関数を作成できませんでした。そのプロシージャ用に表関数が既に作成されていたためです。既存の表関数の特定名は、*schema-name.specific-name* です。

説明: **db2fedgentf** ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

db2fedgentf を使用する場合、各フェデレーテッド・ストアード・プロシージャについて作成できる表関数は 1 つだけです。

表関数は作成されませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたプロシージャ用の既存の表関数をドロップし、**db2fedgentf** を再実行してください。

DBT4026I db2fedgentf ユーティリティは、*table-function-name* という名前の表関数を正常に作成しました。この表関数を使用して、*federated-stored-procedure* という名前のフェデレーテッド・ストアード・プロシージャから返される結果セットにアクセスすることができます。

説明: **db2fedgentf** ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果

セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

このメッセージは、**db2fedgentf** ユーティリティが正常に表関数を作成したときに返されます。

ユーザーの処置: 新しい表関数を使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャから返される結果セットにアクセスします。

DBT4027N 環境ハンドルの割り振り中にユーティリティでエラーが発生したため、db2fedgentf コマンドが失敗しました。

説明: **db2fedgentf** ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアード・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできません。

db2fedgentf ユーティリティは Java 表関数を作成します。それを成し遂げるために、ユーティリティはさまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、これらのタスクの実行中に **db2fedgentf** ユーティリティが DB2 データベースの内部エラーを検出した場合に返されます。具体的には、**db2fedgentf** ユーティリティが環境ハンドルの割り振りに失敗したときに、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: **db2fedgentf** ユーティリティを再度実行してください。

1. **db2diag** ログなど入手できる診断情報を検討して、**db2fedgentf** ユーティリティが環境ハンドルの割り振れなかった理由を判別します。
2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。例えば、ハンドルの割り振りエラーの根本原因がシステム・メモリの不足である場合、より多くのメモリーが使用可能になるようにシステムを再構成します。
3. **db2fedgentf** コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - **db2diag** ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT4028N db2fedgentf ユーティリティはデータベース・マネージャー構成パラメーター **JDK_PATH** から、**Software Developer's Kit (SDK) for Java** がインストールされているディレクトリを判別できなかったため、**db2fedgentf** コマンドが失敗しました。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

このタスクを実行するために、db2fedgentf ユーティリティは、複数のデータベース・コマンドを実行し、Java コンパイラ javac を起動して表関数用の Java ファイルをコンパイルします。db2fedgentf ユーティリティは、JDK_PATH 構成パラメータを読み取ることにより、Java SDK がインストールされた場所を判別します。

このメッセージは、何らかの理由で (例えば、構成パラメータが NULL のため) db2fedgentf ユーティリティが JDK_PATH 構成パラメータから Java SDK の場所を判別できない場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. JDK_PATH データベース・マネージャー構成パラメータを、Java SDK がインストールされているディレクトリに設定してください。
2. db2fedgentf を再度実行してください。

DBT4029W db2fedgentf は表関数を正常に作成しましたが、Java ソース・ファイル *Java-source-file-name* を削除できませんでした。

説明: db2fedgentf ユーティリティを使用して、フェデレーテッド・ストアド・プロシージャからの結果セットにアクセスする表関数を作成またはドロップできます。

db2fedgentf ユーティリティは Java 表関数を作成します。それを成し遂げるために、ユーティリティは以下のタスクを実行します。

- 新しい表関数のソースを含む Java ファイルを作成する
- 生成されたその Java ファイルをコンパイルする
- 新しい表関数を登録する
- 生成された Java ソース・ファイルを削除する

このメッセージは、生成された Java ソース・ファイルを db2fedgentf ユーティリティが削除することになっていたのに、ユーティリティがそのファイルを削除できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: オプション: 生成された Java ソース・ファイルを手動で削除することができます。

db2fedgentf ユーティリティは常に固有の名前を付けて Java ソース・ファイルを生成するので、ユーティリティが削除できなかった生成済みソース・ファイルを削除しないことにしても、今後の db2fedgentf の使用に支障

は生じません。しかし、ユーティリティがファイルを削除できなかった理由を判別するため、db2diag ログ・ファイルやオペレーティング・システムの診断ファイルなど、何であれ入手可能な診断情報を検討するようお勧めします。db2fedgentf ユーティリティが Java ソース・ファイルを削除できなかった根本原因は、他のアクティビティでも問題を起こす可能性があります。

第 89 章 DBT5000 - DBT5499

DBT5000I db2checkSD ユーティリティは正常に完了しました。指定されたデータベースは **DB2 pureCluster** 環境で使用可能です。出力ログ・ファイルの名前は *file-name* です。

説明: インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換する前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを特定することができます。

このメッセージは、指定されたデータベースで DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーを db2checkSD ユーティリティが検出できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: オプション: 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。

これで、ご使用のインスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換できるようになりました。

DBT5001W db2checkSD ユーティリティは警告を出して完了しました。この (またはこれらの) データベースは **DB2 pureCluster** 環境で使用できますが、一部のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーを変換するか、使用不可にしなければなりません。出力ログ・ファイルの名前は *file-name* です。

説明: インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換する前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを特定することができます。

このメッセージは、DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーを、指定されたデータベースで db2checkSD ユーティリティが検出したときに返されます。検出されたデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーは、インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換するときに自動的に変換または使用不可にされます。

ユーザーの処置:

1. db2checkSD 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。
2. db2checkSD 出力ログ・ファイルに示される重要と思われるすべての問題を調査してください。
3. インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換してください。

DBT5002N db2checkSD ユーティリティはエラーを出して完了しました。db2checkSD ユーティリティが **DB2 pureCluster** 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーを検出したため、この (またはこれらの) データベースは **DB2 pureCluster** 環境で使用できません。出力ログ・ファイルの名前は *file-name* です。

説明: インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換する前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを特定することができます。

このメッセージは、DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーを、指定されたデータベースで db2checkSD ユーティリティが検出したときに返されます。検出されたデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーは、インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換するときに自動的に変換することも使用不可にすることもできません。

ユーザーの処置:

1. db2checkSD 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。
2. db2checkSD が識別したサポートされていないデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーを変換するか、または使用不可にしてください。
3. db2checkSD ユーティリティを再度実行してください。

DBT5003N 無効なパラメーター *parameter-name* が指定されたために、db2checkSD コマンドが失敗しました。

説明: インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換する前に、db2checkSD ユーティリテ

DBT5004N

ィーを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを特定することができます。

このメッセージは、db2checkSD コマンドに無効なパラメーターが渡されたときに返されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

DBT5004N データベースと **-e** パラメーターの両方が指定されていないため、**db2checkSD** コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

チェックする特定のデータベースの名前を渡すことも、または **-e** パラメーターを使用して db2checkSD ユーティリティが現在の DB2 インスタンスにあるすべてのデータベースをチェックするように指定することもできます。このメッセージは、db2checkSD ユーティリティで検査する 1 つまたは複数のデータベースが指定されない場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下の方法のいずれかによってチェックするデータベースを指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

- 1 つの特定のデータベースを指定してください。
- **-e** パラメーターを渡して、db2checkSD ユーティリティが現在の DB2 インスタンスのすべてのデータベースを検査するようにしてください。

DBT5005N 出力ログ・ファイル名が指定されていないため、**db2checkSD** コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD は、データベース構造、メタデータ、オブジェクト、およびフィーチャーについて db2checkSD ユーティリティが実行した調査に関する詳細情報を含む出力ログ・ファイルを作成します。**-l** パラメーターを使って、出力ログ・ファイルの名前を指定しなければなりません。

このメッセージは、db2checkSD コマンドに **-l** パラメーターを使用して db2checkSD 出力ログ・ファイルの名前

を指定しなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: **-l** パラメーターを使って出力ログ・ファイル名を指定し、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

DBT5006N パラメーター *parameter-name* の値が指定されていないために **db2checkSD** コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

このメッセージは、パラメーターが値なしで db2checkSD コマンドに渡された場合に返されます。

ユーザーの処置: 名前付きパラメーターに値を指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

DBT5007N パラメーター *parameter-name* が複数回指定されたために、**db2checkSD** コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

このメッセージは、あるパラメーターが db2checkSD コマンドに複数回渡された場合に返されます。

ユーザーの処置: そのパラメーターを一度だけ指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

DBT5008N 指定されたログ・ファイル名が長すぎるため、**db2checkSD** コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD は、データベース構造、メタデータ、オブジェクト、およびフィーチャーについて db2checkSD ユーティリティが実行した調査に関する詳細情報を含む出力ログ・ファイルを作成します。**-l** パラメーターを使って、出力ログ・ファイルの名前を指定しなければなりません。ログ・ファイル名の長さは、256 文字を超えてはなりません。

このメッセージは、db2checkSD コマンドに **-l** パラメー

ターを使用して 256 文字を超える出力ログ・ファイル名を指定した場合に返されます。

ユーザーの処置: 256 文字を超えない出力ログ・ファイル名を指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

DBT5009N db2checkSD ユーティリティーが現行バージョンの DB2 データベースでサポートされていないため、db2checkSD コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティーを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD ユーティリティーは、DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 9.7 以降でサポートされています。

db2checkSD ユーティリティーを使用して DB2 バージョン 9.7 より前の DB2 データベースを検査しようとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置:

1. データベースを DB2 バージョン 9.7 以降にアップグレードしてください。
2. データベースがバージョン 9.7 以上である場合、db2checkSD コマンドをデータベースに対してもう一度実行してください。

DBT5010N db2checkSD ユーティリティーは、現行ユーザーに db2checkSD ユーティリティーを実行する十分な権限があることを確認できなかったために失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティーを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD コマンドを実行するには SYSADM 以上の権限が必要です。SYSADM 以上の権限がないユーザーが db2checkSD コマンドを実行しようとすると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行って、このメッセージに対応してください。

- 権限を SYSADM 以上の権限にアップグレードするように要求してから db2checkSD コマンドを再実行してください。
- SYSADM 以上の権限を持つユーザーが db2checkSD コマンドを実行するように要求してください。

DBT5011N データベースに 'NORMAL' 状態にない表スペースがあるため、db2checkSD ユーティリティーが失敗しました。
db2checkSD ユーティリティーは、script-name という名前のユーザー・スクリプトを生成します。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティーを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD ユーティリティーは、以下のタスクを実行します。

1. db2checkSD ユーティリティーは、データベース構造とメタデータを検査し、またデータベースに対して照会を実行することにより、DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトおよびフィーチャーを識別します。
2. db2checkSD ユーティリティーは、データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする準備のために実行するユーザー・スクリプトを生成します。

このメッセージは、db2checkSD ユーティリティーが 'NORMAL' 以外の状態の表スペースを検出し、これにより、データベースが DB2 pureCluster 環境に正常にアップグレードできなくなる場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. db2checkSD ユーティリティーで生成されるユーザー・スクリプトを実行して、'NORMAL' 状態にない表スペースを識別してください。
2. 'NORMAL' 状態にない表スペースを 'NORMAL' 状態にしてください。
3. データベースに対して再度 db2checkSD ユーティリティーを実行します。
4. db2checkSD ユーティリティーが正常に実行されれば、データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードすることができます。

DBT5021N db2checkSD ユーティリティーが DB2 pureCluster 環境でサポートされていない以下の構成を検出しました: インスタンスが、サポートされているより多くの並行アクティブ・データベースを実行するように構成されています。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティーを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサ

ポートされていないものを識別することができます。

db2checkSD ユーティリティは、以下のタスクを実行します。

- db2checkSD ユーティリティは、データベース構造とメタデータを検査し、またデータベースに対して照会を実行することにより、DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトおよびフィーチャーを識別します。
- db2checkSD ユーティリティは、データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする準備のために実行するユーザー・スクリプトを生成します。

このメッセージは、NUMDB データベース・マネージャー構成パラメーターが DB2 pureCluster 環境においてこの DB2 データベース製品に許可されている範囲を超えた値に設定されている場合に返されます。

ユーザーの処置:

- NUMDB データベース・マネージャー構成パラメーターを、DB2 pureCluster 環境の DB2 製品についてサポートされている範囲内の値に変更します。
- データベースに対して再度 db2checkSD ユーティリティを実行します。
- db2checkSD ユーティリティが正常に実行されれば、データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードすることができます。

DBT5022N データベース名と `-e` パラメーターの両方が指定されているため、db2checkSD コマンドが失敗しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

チェックする特定のデータベースの名前を渡すことも、または `-e` パラメーターを使用して db2checkSD ユーティリティが現在の DB2 インスタンスにあるすべてのデータベースをチェックするように指定することもできます。

ユーザーの処置: 以下の方法のいずれかによってチェックするデータベースを指定して、db2checkSD コマンドを再度実行してください。

- 1 つの特定のデータベースを指定してください。
- `-e` パラメーターを渡して、db2checkSD ユーティリティが現在の DB2 インスタンスのすべてのデータベースを検査するようにしてください。

DBT5025N db2checkSD ユーティリティは未処理エラーを出して失敗しました。出力ログ・ファイルの名前は `log-file-name` です。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。db2checkSD ユーティリティは、データベース構造とメタデータを検査し、またデータベースに対して照会を実行することにより、サポートされないデータベース・オブジェクトおよびフィーチャーを識別します。

このメッセージが返されるのは、とりわけ以下の状態です。

- クラスタ・キャッシング・ファシリティ (CF) のみを実行するように構成されたコンピューターから、db2checkSD コマンドの実行が試行された。
- db2checkSD ユーティリティが 1 つ以上のデータベースに接続できない。
- db2checkSD ユーティリティがデータベース構造およびメタデータを検査し、データベースに対して照会を実行している間に、未処理エラー条件が発生した。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- db2checkSD コマンドが CF のみを実行するように構成されているコンピューター上で実行された場合、DB2 メンバーを実行するように構成されているコンピューターからこのコマンドを実行します。
- db2checkSD コマンドが CF のみを実行するように構成されているコンピューター上で実行されなかった場合は、以下の手順を実行してください。
 1. 以下のファイルを収集します。
 - db2checkSD ユーティリティが作成した出力ログ・ファイル
 - db2checkSD ユーティリティが作成した生成ユーザー・スクリプト
 - db2diag ログ
 2. この問題を調査するには、IBM サポートに連絡してください。

DBT5026I db2checkSD ユーティリティは、データベース `dbname` に対する処理を完了しました。

説明: インスタンスを DB2 pureCluster インスタンス・タイプに変換する前に、db2checkSD ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはデータベース・フィーチャーのうち、

DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを特定することができます。

インスタンス内の全データベースを検査するように `-e` オプションを指定して `db2checkSD` ユーティリティを呼び出すと、各データベースの検査が終了した後に、このメッセージが戻されます。

ユーザーの処置: オプション: `db2checkSD` ユーティリティによるインスタンス内の全データベースの検査が終了したら、ログ・ファイルの内容を確認してください。

DBT5027W db2checkSD ユーティリティはどのデータベースもチェックしませんでした。出力ログ・ファイルの名前は `file-name` です。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、`db2checkSD` ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

`db2checkSD` ユーティリティは、データベース構造とメタデータを検査し、またデータベースに対して照会を実行することにより、これらのサポートされていないデータベース・オブジェクトおよびフィーチャーを識別します。このメッセージは、`db2checkSD` ユーティリティが空のデータベース・ディレクトリを検出した場合や、`db2checkSD` ユーティリティがローカル・データベース・ディレクトリを検出できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. `db2checkSD` ユーティリティを使用してチェックするデータベースを、カタログしてください。
2. `db2checkSD` コマンドを再度実行してください。

DBT5029N db2checkSD ユーティリティは、`file-name` という名前のファイルを開いたり、このファイルに書き込んだりすることができませんでした。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、`db2checkSD` ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

`db2checkSD` ユーティリティは、以下のファイルを生成します。

- `db2checkSD` ユーティリティの調査についての詳細を確認できる出力ログ・ファイル
- データベース (複数の場合もある) を DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に除去するか、または使

用不可にする必要のあるデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーを識別するのに使用できるユーザー・スクリプト

このメッセージは、`db2checkSD` ユーティリティが出力ログ・ファイルまたは生成ユーザー・スクリプトを作成できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. `db2checkSD` ユーティリティが出力ログ・ファイルおよび生成ユーザー・スクリプトを作成するパスに対する書き込み許可を `db2checkSD` ユーティリティに付与してください。
2. `db2checkSD` ユーティリティを再度実行してください。

DBT5033W db2checkSD ユーティリティは、インスタンスを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする際に使用不可にされる 1 つ以上のフィーチャーを識別しました。

説明: データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードする前に、`db2checkSD` ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、DB2 pureCluster 環境でサポートされていないものを識別することができます。

このメッセージは、DB2 pureCluster 環境でサポートされないデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーを、指定されたデータベースで `db2checkSD` ユーティリティが検出したときに戻されます。検出されたデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーは、データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードするときに自動的に変換または使用不可にされます。

ユーザーの処置:

1. `db2checkSD` 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。
2. `db2checkSD` ログに示される重要と思われるすべての問題を調査してください。
3. データベースを DB2 pureCluster 環境にアップグレードしてください。

DBT5034I データベース `dbname` が DB2 pureCluster 環境で使用可能であることは、`db2checkSD` ユーティリティによって既に検証されています。

説明: `db2checkSD` ユーティリティは既にこのデータベースに対して実行されており、検査はすべて成功しています。再検査は実行されませんでした。

ユーザーの処置: これ以上の処置は不要です。

DBT5035N db2checkSD ユーティリティがデータベース・マネージャー構成ファイルにアクセスできなかったため、db2checkSD コマンドが失敗しました。

説明: db2checkSD ユーティリティを使用して、特定のデータベースが DB2 pureCluster 環境で使用可能かどうかを検査できます。

このメッセージは、db2checkSD ユーティリティがデータベース・マネージャー構成ファイルを開けなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: db2 get dbm configuration のようなコマンドを使用して、DB2 がデータベース・マネージャー構成ファイルを読み取ろうとする際に発生するエラーの詳細情報を入手してください。

DBT5036N db2checkSD ユーティリティがデータベース構成ファイルにアクセスできなかったため、db2checkSD コマンドが失敗しました。

説明: db2checkSD ユーティリティを使用して、特定のデータベースが DB2 pureCluster 環境で使用可能かどうかを検査できます。

このメッセージは、db2checkSD ユーティリティがデータベース構成ファイルを開けなかった場合に返されません。

ユーザーの処置: データベースに接続するか、db2 get configuration のようなコマンドを使用して、DB2 がデータベース構成ファイルを読み取ろうとする際に発生するエラーの詳細情報を入手してください。

第 90 章 DBT5500 - DBT5999

DBT5500N 現行ユーザーは `db2ckupgrade` ユーティリティを実行するための十分な権限を持っていません。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

`db2ckupgrade` コマンドを実行するには `SYSADM` 以上の権限が必要です。十分な権限がないユーザーが `db2ckupgrade` コマンドを実行しようとすると、このメッセージが返されます。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

1. 自分の権限を `SYSADM` 以上の権限にアップグレードするように依頼し、その後 `db2ckupgrade` コマンドを再実行してください。
2. `SYSADM` 以上の権限を持つユーザーが `db2ckupgrade` コマンドを実行するように依頼してください。

DBT5501N `db2ckupgrade` ユーティリティは、`log-file-name` という名前のファイルを開いたり、このファイルに書き込んだりすることができませんでした。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

`db2ckupgrade` ユーティリティは、実行した処理に関する詳細の確認が可能な出力ログ・ファイルを生成しません。

このメッセージは、`db2ckupgrade` ユーティリティが出力ログ・ファイルのオープンまたは同ファイルへの書き込みができなかった場合に返されます。

ユーザーの処置:

- `db2ckupgrade` ユーティリティが出力ログ・ファイルを作成するパスに対する書き込みアクセス権を、`db2ckupgrade` ユーティリティに付与してください。
- `db2ckupgrade` ユーティリティを再度実行してください。

DBT5502N 指定されたパラメーターの数が正しくないため、`db2ckupgrade` ユーティリティは失敗しました。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、指定されたパラメーターの数が正しくない場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを指定して、`db2ckupgrade` コマンドを再度実行してください。

DBT5503N 無効なパラメーター `parameter-name` が指定されたために、`db2ckupgrade` ユーティリティが失敗しました。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、`db2ckupgrade` コマンドに無効なパラメーターが渡されたときに返されます。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを指定して、`db2ckupgrade` コマンドを再度実行してください。

DBT5504N データベースと `-e` パラメーターの両方が指定されていないため、`db2ckupgrade` ユーティリティが失敗しました。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

チェックする特定のデータベースの名前を渡すか、または `-e` パラメーターを使用して `db2ckupgrade` ユーティリティが現在の DB2 インスタンスにあるすべてのデータベースをチェックするように指定できます。このメッセージは、検査するデータベースが指定されなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下の方法のいずれかによってチェックインする 1 つまたは複数のデータベースを指定して、`db2ckupgrade` コマンドを再度実行してください。

- データベース名を 1 つ指定します。
- `-e` パラメーターを渡して、`db2ckupgrade` ユーティリティが現在の DB2 インスタンスのすべてのデータベースを検査するようにします。

DBT5505N 出力ログ・ファイル名が指定されていないため、**db2ckupgrade** ユーティリティーが失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

db2ckupgrade は、db2ckupgrade ユーティリティーが実行した調査に関する詳細情報を含む出力ログ・ファイルを作成します。-l パラメーターを使って、出力ログ・ファイルの名前を指定しなければなりません。

このメッセージは、db2ckupgrade 出力ログ・ファイルの名前を指定しなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: -l パラメーターを使用して出力ログ・ファイルの名前を指定して、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5506N パラメーター *parameter-name* の値が指定されていないために **db2ckupgrade** ユーティリティーが失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、値を指定されずにパラメーターが db2ckupgrade コマンドに渡された場合に返されます。

ユーザーの処置: 名前の挙げられたパラメーターに値を指定して、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5507N パラメーター *parameter-name* が複数回指定されたために、**db2ckupgrade** ユーティリティーが失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、パラメーターが db2ckupgrade コマンドに複数回渡された場合に返されます。

ユーザーの処置: 名前の挙げられたパラメーターを一度だけ指定して、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5508I **db2ckupgrade** ユーティリティーは正常に完了しました。データベースをアップグレードできます。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティーがすべてのアップグレード条件を満たしていることを検証した場合に返されます。これで、データベースをアップグレードできます。

ユーザーの処置:

1. オプション: 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。
2. これで、データベースをアップグレードできます。

DBT5509N データベースに接続できなかったため、**db2ckupgrade** ユーティリティーは失敗しました。データベース: *database-name*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されず。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティーが指定されたデータベースに接続できない場合に返されます。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置:

1. 指定されたデータベース名が正しいことを確認してください。
2. データベース・マネージャーが稼働していることを確認してください。
3. コマンドを再試行してください。

DBT5510W **db2ckupgrade** ユーティリティーは、アップグレード先として検討中の **DB2** データベースのバージョンではサポートされない次のタイプのオブジェクトがデータベースに含まれていることを検出しました:
XML グローバル変数、または **XML** パラメーターを使用したり **XML** タイプを返したりするコンパイル済みの **SQL** 関数。

説明: db2ckupgrade ユーティリティーを使用して、指定のデータベースがさらに新しいバージョンの **DB2** データベースに正常にアップグレード可能かどうかを検査できます。

アップグレード先の **DB2** データベースのバージョンではサポートされないデータベース・オブジェクトを db2ckupgrade ユーティリティーが検出した場合に、このメッセージは返されます。具体的には、検査対象のデータベース内に以下のデータベース・オブジェクトが存在する場合に、このメッセージが返されます。

- タイプ **XML** のグローバル変数

- タイプ XML のパラメーターを使用したり XML タイプを返したりするコンパイル済みの SQL 関数

ターゲット・バージョンの DB2 データベースへのデータベースのアップグレードを続行すると、これらのオブジェクトはデータベースのアップグレード中に無効化されます。これらのデータベース・オブジェクトをサポートする DB2 データベースのバージョンにアップグレードするまで、これらのデータベース・オブジェクトは使用できません。

ユーザーの処置: アップグレード中に無効化されたデータベース・オブジェクトを使用できるようにするには、XML グローバル変数、および XML パラメーターを使用したり XML タイプを返したりするコンパイル済みの SQL 関数をサポートする DB2 データベースのリリースおよびフィックスパックにアップグレードしてください。これらのデータベース・オブジェクトをサポートするフィックスパックにアップグレードすると、データベースのアップグレードの完了後に初めてオブジェクトが参照された時点で、それらが自動的に再び有効化されます。

DBT5511N パラメーターが長すぎたため、**db2ckupgrade** ユーティリティが失敗しました。パラメーター: *parameter-name*。最大の長さ: *max-length*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティに渡されるパラメーターのいずれかがそのパラメーターに許可されている最大長より長い場合に返されます。

ユーザーの処置: そのパラメーターを正しい長さで指定して、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5513N SYSCATSPACE 表スペースがアップグレードを完了するためにより多くのスペースが必要なため、**db2ckupgrade** ユーティリティが失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

通常、SYSCATSPACE によって定義されるフリー・スペースの容量は、少なくとも現在使用しているスペースの容量と同じにする必要があります。

このメッセージは、SYSCATSPACE によってフリー・ページの残量が 50% より少なくなった場合に返されます。

ユーザーの処置:

- 既存のコンテナのサイズを大きくします。さらにコンテナを追加することも可能です (ただしその場合は、データのバランス調整が発生することもあります)。
- オプション: アップグレード後に、コンテナのサイズを小さくしてもかまいません。

DBT5514N データベースがリストア・ペンディング状態にあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティが失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、検査中のデータベースがリストア・ペンディング状態であることが分かった場合に返されます。

ユーザーの処置: リストアを完了して、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5515N データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、検査中のデータベースがロールフォワード・リカバリーのための開始点を提供するためにバックアップを作成中であるのに、依然としてバックアップ・ペンディング状態である場合に返されます。

ユーザーの処置: バックアップが完了するまで待ってから、db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5516N データベースがロールフォワード・ペンディング状態にあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、検査中のデータベースでロールフォワード・リカバリーが有効にされていて、リストアはされているのにロールフォワードされていない場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. データベースをロールフォワードするか、または **ROLLFORWARD** コマンドを使用して、ロールフォワードを行なわないことを指示してください。デー

データベースのロールフォワードを行なわないと、データベースの最後のバックアップ以降に書かれたレコードが、データベースに適用されないことに注意してください。

2. db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5517N データベースが不整合状態にあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、検査中のデータベースが不整合状態になっていることが分かった場合に返されます。

不整合状態になった原因として、考えられるものは以下のとおりです。

- データベースがオンラインで SQL が発行されたため、データベース内のデータが変更された。
- データベースがオンラインで HADR が有効になっている。

ユーザーの処置:

1. データベースのクリーン・シャットダウンを行います。
2. シャットダウンの後、データベースで HADR が有効になっている場合、データベースに STOP HADR コマンドを発行します。
3. db2ckupgrade コマンドを再発行してください。

DBT5518W db2ckupgrade ユーティリティは 1 つ以上の警告を出して完了しましたが、それでもデータベースをアップグレードできません。ログ・ファイル: *log-file*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティが 1 つ以上の警告を出して完了しましたが、それでもデータベースをアップグレードできる場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. オプション: 出力ログ・ファイルの内容を確認してください。
2. これで、データベースをアップグレードできます。

DBT5519N データベースを非アクティブ化できなかったため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。SQLCODE: *sqlcode*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

db2ckupgrade コマンドは、指定されたデータベースの非活性化およびすべての必要なデータベース・サービスの停止を試行します。このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティがデータベースの非活性化に失敗した場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下の手順を実行してください。

1. SQLCODE を確認し、データベースを非アクティブ化できなかった理由を見極めて、修正処置を行います。
2. db2ckupgrade コマンドを再度実行します。

DBT5520N Query Patroller のバイパス・フラグを設定しているときにエラーが発生したため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。SQLCODE: *sqlcode*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティが DB2_QP_BYPASS_COST 変数の設定を試行して失敗した場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下の手順を実行してください。

1. SQLCODE を確認して、修正処置を行います。
2. db2ckupgrade コマンドを再度実行します。

DBT5521N db2ckupgrade ユーティリティがアップグレード中のインスタンス上で呼び出されなかったために、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを検査します。

db2ckupgrade コマンドは、以前のレベルのインスタンス内のデータベースを検査して、より新しいレベルにアップグレード可能かどうかを判別します。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティが以前のレベルのインスタンス上で呼び出されなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: 以前のレベルのインスタンス上で db2ckupgrade コマンドを再実行してください。

DBT5522N ロード・ペンディング状態にある表が 1 つ以上データベースにあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、データベース内の 1 つ以上の表に対して試行された前回の LOAD が正常に完了しなかった場合に返されます。LOAD 操作が再開または終了するまで、アップグレードは続行できません。

ユーザーの処置: 直前に失敗したこの表に対する LOAD 操作を、RESTART または TERMINATE オプションを指定して LOAD を発行し、再始動または終了します。

どの表がロード・ペンディング状態になっているかを調べるには、以下のコマンドを実行します。

```
select tabname from SYSIBMADM.ADMINTABINFO
  where load_status is not NULL
```

DBT5523N 再配分ペンディング状態にある表が 1 つ以上データベースにあるため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、REDISTRIBUTE ユーティリティがデータベース内の 1 つ以上の表に対して完了していない場合に返されます。REDISTRIBUTE が終了するまで、アップグレードは続行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してください。

1. REDISTRIBUTE ユーティリティが進行中である場合は、完了するまで待ちます。LIST UTILITIES コマンドを使用して、REDISTRIBUTE ユーティリティの進行状態をモニターすることができます。
2. 前回の REDISTRIBUTE 操作が失敗して表が再配布保留状態のままになっている場合、CONTINUE または ABORT オプションを指定して REDISTRIBUTE ユーティリティを再度発行し、この操作を完了させてください。

DBT5524N VARCHAR2 サポート対応のデータベースの DB2 バージョン 9.5 からのアップグレードはサポートされていないため、**db2ckupgrade** ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティが、アップグレード対象のデータベースで VARCHAR2 サポートが有効になっていると判別した場合に返されません。VARCHAR2 対応の DB2 バージョン 9.5 からのアップグレードはサポートされていません。

ユーザーの処置: アクションは必要ありません。データベースをアップグレードできません。

DBT5525N db2ckupgrade ユーティリティは未処理エラーのために失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージが返されるのは、とりわけ以下の状態です。

- クラスタ・キャッシング・ファシリティ (CF) のみを実行するように構成されたコンピューターから、db2ckupgrade コマンドの実行が試行された。
- db2ckupgrade ユーティリティがデータベース構造およびメタデータを検査し、データベースに対して照会を実行している間に、未処理エラー条件が発生した。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

1. db2ckupgrade コマンドが CF のみを実行するように構成されているコンピューター上で発行された場合、DB2 メンバーを実行するように構成されているコンピューターからこのコマンドを実行します。
2. db2ckupgrade コマンドが CF のみを実行するように構成されているコンピューター上で発行されなかった場合、db2ckupgrade ユーティリティが作成した出力ログ・ファイル、db2ckupgrade ユーティリティが作成した生成ユーザー・スクリプト、および db2diag ログを収集します。その後、IBM サポートに連絡して、この問題を調査してください。

DBT5526W db2ckupgrade ユーティリティはどのデータベースもチェックしませんでした。出力ログ・ファイルの名前は *file-name* です。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティが空のデータベース・ディレクトリーを検出した場合や、db2ckupgrade ユーティリティがローカル・データベー

DBT5527N

ス・ディレクトリーを検出できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- db2ckupgrade ユーティリティを使用してチェックするデータベースを、カタログしてください。
- db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5527N データベース・マネージャーを開始できなかったため、db2ckupgrade コマンドは失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

db2ckupgrade コマンドは、検査を実行するためにデータベース・マネージャーを開始する必要がありますが、開始できませんでした。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: 戻りコードを使用して失敗の原因を見極め、再試行してください。

DBT5528N データベースに対する I/O 書き込み操作が中断状態にあるか、中断される途中のため、db2ckupgrade ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、データベースに対する入出力書き込みが中断状態にあるために、db2ckupgrade ユーティリティが作動できない場合に返されます。

ユーザーの処置: データベースに対する書き込み操作が中断される途中の場合は、suspend_io 構成パラメーターを使用してデータベースの状態をモニターし、SET WRITE SUSPEND 操作が完了するまで待ち、完了したら db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5529N db2ckupgrade ユーティリティは正常に完了しませんでした。データベースをアップグレードできません。出力ログ・ファイルの名前は *log-file-name* です。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、db2ckupgrade ユーティリティは完了しているものの、すべてのアップグレード条件を満た

してはいない場合に返されます。データベースをアップグレードできません。

ユーザーの処置:

1. 出力ログ・ファイルの内容を確認して、問題があればそれらを修正してください。
2. db2ckupgrade コマンドを再度実行してください。

DBT5530N 表スペースが正常な状態にないため、db2ckupgrade コマンドは失敗しました。表スペース: *tablespace-name*。状態: *state*。メンバー: *member-name*。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、無効な状態にある表スペースへのアクセスが db2ckupgrade ユーティリティにより試行されたものの、意図されたアクセスがその表スペースに対して許可されていない場合に返されます。

不整合状態の考えられる原因は以下のとおりです。

- データベースがオンラインで SQL が発行されたため、データベース内のデータが変更された。
- データベースがオンラインで HADR が有効になっている。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

1. データベースのクリーン・シャットダウンを行います。
2. シャットダウンの後、データベースで HADR が有効になっている場合、データベースに STOP HADR コマンドを発行します。
3. db2ckupgrade コマンドを再発行してください。

DBT5531W 処理対象のローカル・データベースが何も見つからなかったため、db2ckupgrade ユーティリティは失敗しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されません。

このメッセージは、-e パラメーターが指定されているのに、db2ckupgrade ユーティリティがローカル・データベースを何も検出できない場合に返されます。

コマンドは失敗しました。

ユーザーの処置: システム・データベース・ディレクトリーに何らかのデータベース名が存在しているかどうかを確認してください。システム・データベース・ディレクトリーにデータベース名が何もない場合は、データベ

ースが存在していないか、またはデータベース名がカタログされていないかのどちらかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリに存在し、項目タイプが `INDIRECT` である場合には、指定されたローカル・データベース・ディレクトリにそのデータベースが存在することを確認してください。

DBT5532N システム・ビューに依存している MQT が 1 つ以上あるため、db2ckupgrade ユーティリティは失敗しました。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、`db2ckupgrade` ユーティリティがシステム・ビューに依存する MQT を検出した場合に返されます。データベース・アップグレード中にすべてのシステム・ビューは再作成されるため、システム・ビューに依存する MQT はすべて自動的にドロップされます。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- MQT の作成に必要な DDL を生成してバックアップを作成します。
- MQT をドロップします。
- データベースをアップグレードします。
- MQT を再作成します。

DBT5533N db2ckupgrade ユーティリティは失敗しました。このユーティリティでデータベースをアクティブ化できませんでした。
SQLCODE: *sqlcode*。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、`db2ckupgrade` ユーティリティがデータベースの活動化に失敗したために検査を実行できなかった場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. **SQLCODE** を確認して、データベースを活動化できなかった理由を判別し、修正処置を行ってください。
2. `db2ckupgrade` コマンドを再度実行してください。

DBT5536W db2ckupgrade ユーティリティは、データベース *database-name* に関連付けられている監査ポリシーを検出ませんでした。

説明: `db2ckupgrade` ユーティリティを使用して、データベースのアップグレードが可能かどうかを検査できます。データベースを新規バージョンの DB2 データベースにアップグレードする前に、`db2ckupgrade` ユーティリティを使用して、データベース内のデータベース・オブジェクトまたはフィーチャーのうち、新規バージョンでサポートされていないものを識別することができます。

セキュリティ管理者は、監査ポリシーを使用して、データベースに関する情報を収集するための監査機能を構成します。このメッセージは、`db2ckupgrade` ユーティリティがデータベースに関連付けられている監査ポリシー (`SYSCAT.AUDITUSE` カタログ・ビューで `OBJECTTYPE` がブランクである項目) を検出したものの、そのうちのどの項目も現行データベースに関連付けられていない場合に返されます。 `OBJECTNAME` が現行データベース名と一致する項目はありません。

データベースのアップグレードに監査ポリシーは必要ありません。

ユーザーの処置:

オプション:

1. 次のコマンドを使用して、データベースを監査します。

```
AUDIT DATABASE USING POLICY <policy-ID>
```

2. `db2ckupgrade` コマンドを再度実行します。

データベースを監査しないで `db2ckupgrade` を再実行すると、`SYSCAT.AUDITUSE` カタログ・ビューはデータベースのアップグレード時にクリアされます。

DBT5537I db2ckupgrade ユーティリティは、データベース *database-name* に対する処理を完了しました。

説明: `db2ckupgrade` コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。

このメッセージは、インスタンス内の全データベースを検査するように `-e` オプションを指定して `db2ckupgrade` ユーティリティを呼び出した場合に、各データベースの検査終了後に返されます。

ユーザーの処置: オプション: `db2ckupgrade` ユーティリティによるインスタンス内の全データベースの検査が

DBT5538N

終了したら、ログ・ファイルの内容を確認してください。

DBT5538N db2ckupgrade ユーティリティーは、予期しないマウント・ポイント構成を検出しました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。DB2 V9.8 からのアップグレード時に、データベースのアップグレードによって表スペース・ファイルは新しい場所に移動します。表スペース・コンテナに予期しないマウント・ポイント構成が使用されていると、アップグレード処理で表スペース・データを移動することができません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡します。可能であれば、db2ckupgrade コマンドに関連付けられているログ・ファイルの詳細を用意しておいてください。

DBT5539N db2ckupgrade ユーティリティーは、データベース制御ファイルに矛盾を見つけました。

説明: db2ckupgrade コマンドは、データベースがアップグレード可能かどうかを確認するために使用されます。DB2 V9.8 からアップグレードすると、/MEMBERnnnn/sqlldir の下にあるファイルは単一の場所に統合されます。/sqlldir 内のファイルがすべてのメンバーで同一ではない場合には、アップグレード処理はそれらのファイルを統合することができません。

ユーザーの処置: IBM サポートに連絡します。可能であれば、db2ckupgrade コマンドに関連付けられているログ・ファイルを用意しておいてください。

第 91 章 DBT6000 - DBT6499

DBT6000N グローバル・データベース構成ファイルが無効です。構成ファイル: *file-name*。

説明: グローバル・データベース構成ファイルが異なる DB2 バージョンを使用して作成されたか、または壊れているために、ユーティリティーはグローバル・データベース構成ファイルを更新できません。

ユーザーの処置:

1. 2 次システムで使用している DB2 製品が、1 次システムで使用しているものと同じレベルであることを確認してください。
2. ファイルが壊れている場合に、データベースの元のスプリット・ミラー・コピーが使用可能な場合は、このコピーをリストアしてください。リストア操作の後にも構成ファイルが壊れたままである場合は、データベースの新たなスプリット・ミラー・コピーを作成してください。
3. ユーティリティーを再実行してください。

DBT6001N データベース・マネージャーが 1 つ以上のデータベース・ストレージ・パスを再配置できなかったために、`db2relocatedb` コマンドが失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: `db2relocatedb` コマンドを使用して、データベースを名前変更または再配置することができます。構成キーワードと値の対を含む構成ファイルの名前を渡すことにより、データベースの新しい構成の詳細を指定します。

このメッセージが戻されるのは、`STORAGE_PATH` キーワードを含む構成ファイルを使って `db2relocatedb` コマンドを呼び出すことにより、データベースの 1 つ以上のストレージ・パスを変更しようとしたものの、データベース・マネージャーがストレージ・パス (複数の場合あり) を移動できない場合です。

理由コードは、データベース・マネージャーがストレージ・パス (複数の場合あり) を移動できなかった理由を示しています。

1. ストレージ・グループ制御ファイル `SQLSGF.1` と `SQLSGF.2` の一方または両方が、正常にアップグレードされていません。
2. 構成ファイル内で `STORAGE_PATH` キーワードによって指定された旧ストレージ・パスが、どの既存のストレージ・パスとも一致していません。

ユーザーの処置: 以下のように、理由コードに応じてこのエラーに対応します。

理由コード 1:

1. `/TSF` オプションを指定して `db2dart` ツールを使用することにより、ストレージ制御ファイル `SQLSGF.1` と `SQLSGF.2` が整合性を保ち、適切にアップグレードされていることを確認してください。

理由コード 2:

1. 以下のいずれかの方式を使用して、どのストレージ・パスが存在しているかを判別してください。
 - `db_storage_path` モニター・エレメントを参照する
 - `ADMIN_GET_STORAGE_PATHS` 表関数を呼び出す
2. `STORAGE_PATH` キーワードと共に有効な旧ストレージ・パスだけを含む構成ファイルを指定して、`db2relocatedb` コマンドを再び実行してください。

第 92 章 DBT7000 - DBT7499

DBT7000I `db2caem` が完了しました。出力パス:
output-path。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

`db2caem` ユーティリティが完了すると、このメッセージが返されます。

ユーザーの処置: `db2caem` ユーティリティによって生成される、指定されている出力パスのファイルを確認してください。

DBT7001E *utility-name*: 無効な構文が指定されたために `db2caem` コマンドは失敗しました。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

`db2caem` コマンドで構文エラーが発生すると、このメッセージが返されます。

以下のコマンドを実行すると、`db2caem` コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: `db2caem` コマンド構文を確認し、有効な構文を使ってコマンドを再実行してください。

DBT7002E *utility-name*: 以下の入力値が無効です:
value。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

無効な入力データが指定されると、このメッセージが返されます。

以下のコマンドを実行すると、`db2caem` コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: `db2caem` コマンド構文を確認し、有効な入力を使ってコマンドを再実行してください。

DBT7003E *utility-name*: データベース名が指定されなかったために `db2caem` コマンドは失敗しました。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

データベースが指定されないと、このメッセージが返されます。

以下のコマンドを実行すると、`db2caem` コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: `db2caem` コマンド構文を確認し、`-d` パラメーターを使ってデータベースを指定してコマンドを再実行してください。

DBT7004E *utility-name*: 照会ステートメント・オプション、およびイベント・モニター・オプションが 1 つも指定されなかったため、`db2caem` コマンドが失敗しました。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このコマンドを発行するときには、照会ステートメント・オプションまたはイベント・モニター・オプションを指定する必要があります。このメッセージは、照会ステートメント・オプションが指定されず、イベント・モニター・オプションも指定されていない場合に返されます。

以下のコマンドを実行すると、`db2caem` コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: `db2caem` コマンド構文を確認した後、照会ステートメント・オプションまたはイベント・モニター・オプションを指定してコマンドを再実行してください。

DBT7005E *utility-name*: パラメーター `-u` または `-p` のいずれかが指定されなかったため、`db2caem` コマンドが失敗しました。

説明: `db2caem` ユーティリティを使用すると、アク

DBT7006E

ティビティイー・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-u パラメーターを使ってユーザー ID を、**-p** パラメーターを使ってそのユーザー ID のパスワードをそれぞれ指定できます。

-u と **-p** の両方を指定する必要があります。または、どちらも指定しないでください。このメッセージは、**-u** または **-p** のどちらか 1 つだけが指定された場合に返されます。

以下のコマンドを実行すると、db2caem コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: db2caem コマンド構文を確認した後、**-u** パラメーター (ユーザー ID) および **-p** パラメーター (パスワード) を指定してコマンドを再実行してください。

DBT7006E *utility-name:* 1 つ以上の必須のイベント・モニター・パラメーターが指定されなかったため、db2caem コマンドが失敗しました。

説明: db2caem ユーティリティイーを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

以下のコマンドを実行すると、db2caem コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: db2caem コマンド構文を確認した後、すべての必須パラメーターを指定してコマンドを再実行してください。

DBT7007E *utility-name:* **-st** パラメーターと **-sf** パラメーターの両方が指定されたため、db2caem コマンドが失敗しました。

説明: db2caem ユーティリティイーを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-st パラメーターを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントを指定できます。**-sf** パラメーターを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントが含まれるファイルを指定できます。**-st** パラメーターと **-sf** パラメーターの両方を指定することはできません。このメッ

セージは、**-st** パラメーターと **-sf** パラメーターの両方が指定された場合に返されます。

以下のコマンドを実行すると、db2caem コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: db2caem コマンド構文を確認した後、**-st** パラメーターまたは **-sf** パラメーターのいずれかを指定してコマンドを再実行してください (両方を指定しないでください)。

DBT7008E *utility-name:* 照会ステートメント・オプションおよびイベント・モニター・オプションの両方が指定されたため、db2caem コマンドが失敗しました。

説明: db2caem ユーティリティイーを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このコマンドを発行するときには、照会ステートメント・オプションまたはイベント・モニター・オプションのどちらかを指定できますが、両方のオプションを指定することはできません。このメッセージは、照会ステートメント・オプションとイベント・モニター・オプションの両方が指定された場合に返されます。

以下のコマンドを実行すると、db2caem コマンド構文を表示できます。

```
db2caem -h
```

ユーザーの処置: db2caem コマンド構文を確認した後、照会ステートメント・オプションまたはイベント・モニター・オプションを指定してコマンドを再実行してください。

DBT7009E *utility-name:* 指定されたデータベース名 *database-name* が長すぎるため、db2caem コマンドが失敗しました。

説明: db2caem ユーティリティイーを使用すると、アクティビティイー・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、指定されたデータベース名が、DB2 データベース名に関して規定されている長さ制限よりも長い場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効なデータベース名を指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7010E *utility-name*: 指定されたユーザー ID *user-ID* が長すぎるため、**db2caem** コマンドが失敗しました。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、指定されたユーザー ID が、DB2 データベースによってユーザー名に関して規定されている長さ制限よりも長い場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効なユーザー ID を指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7011E *utility-name*: 指定されたパスワード *password* が長すぎるため、**db2caem** コマンドが失敗しました。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、指定されたパスワードが、DB2 データベースによって規定されているパスワードの長さ制限よりも長い場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効なパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7012E *utility-name*: **-sf** パラメーターで指定されたファイル内の SQL ステートメントが SQL 制限よりも長い場合、**db2caem** コマンドが失敗しました。指定されたステートメントの長さ: *length*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、**-sf** パラメーターによって指定されたファイル内の SQL ステートメントが、DB2 データベースで SQL ステートメントに関して規定されている長さ制限よりも長い場合に返されます。また、このメッセージは、指定された SQL ステートメント内の終了文字が欠落しているか、無効である場合にも返されることがあります。

ユーザーの処置: 有効な SQL ステートメントを指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7013E *utility-name*: 指定された SQL ファイルまたはコンパイル環境ファイルのパスに問題があるため、**db2caem** コマンドが失敗しました。指定されたファイル・パス: *path*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-sf パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントが含まれるファイルを指定できます。**-compenv** パラメーターを使用すると、ファイル内のコンパイル環境情報を指定できます。このメッセージは、指定されたいずれかのファイルを示すファイル・パスに **db2caem** ユーティリティでアクセスできない場合に返されます。

指定されたファイル・パスに **db2caem** ユーティリティがアクセスできない場合、以下のような理由が考えられます。

- 指定されたファイル・パスが存在しない。
- **db2caem** ユーティリティは、**db2caem** コマンドを実行するユーザーと同じ権限を使って実行されます。つまり、**-sf** パラメーターと **-compenv** パラメーターによって指定されたファイル・パスにアクセスできる必要があります。**db2caem** コマンドを実行するユーザーが、指定されたファイル・パスへのアクセス権を持っていないために、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 実際に存在し、しかもアクセス可能なファイル・パスを指定してコマンドを再実行します。

DBT7014E *utility-name*: **-f** パラメーターで指定された SQL ファイルを **db2caem** ユーティリティで開けないため、**db2caem** コマンドが失敗しました。ファイル名: *file-name*。
戻りコード: *return-code*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-sf パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントが含まれるファイルを指定できます。このメッセージは、**-sf** パラメーターで指定されたファイルを **db2caem** ユーティリティで開けない場合に返されます。

指定されたファイルを **db2caem** ユーティリティで開

くことができない場合、以下のような理由が考えられます。

- 指定されたファイルが存在しない。
- db2caem ユーティリティは、db2aem コマンドを実行するユーザーと同じ権限を使って実行されます。つまり、-sf パラメーターで指定されたファイルを開くことができる必要があります。db2caem コマンドを実行するユーザーが、指定されたファイルを開く権限を持っていないために、このメッセージが戻されることがあります。

ユーザーの処置: 実際に存在し、開くことができるファイル・パスを指定して、コマンドを再実行します。

DBT7015W *utility-name:* 内部ファイル *file-name* を db2caem ユーティリティで開けないため、db2caem コマンドが失敗しました。
戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、db2caem ユーティリティの実行時に内部的な一時ファイルにアクセスできない場合に返されます。この警告が出されても、db2caem ユーティリティは正常に完了できます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

DBT7016E *utility-name:* 指定された SQL ファイルまたはコンパイル環境ファイルが長すぎるため、db2caem コマンドは失敗しました。
指定されたファイル名: *file-name*。指定されたファイル名の長さ: *length*

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-sf パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントが含まれるファイルを指定できます。-compenv パラメーターを使用すると、コンパイル環境情報が含まれるファイルを指定できます。このメッセージは、-sf パラメーターまたは -compenv パラメーターで指定されたファイルのフルネーム (パスを含む名前) が長すぎる場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な長さの SQL ファイル名を指定して、コマンドを再実行します。

DBT7017E *utility-name:* 指定された表スペース名が長すぎるため、db2caem コマンドが失敗しました。指定された表スペース名: *table-space-name*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-tbspname パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となる表スペース名を指定できます。このメッセージは、-tbspname パラメーターで指定された表スペース名が長すぎる場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な長さの表スペース名を指定して、コマンドを再実行します。

DBT7018E *utility-name:* 指定されたアクティビティ・イベント・モニター名が長すぎるため、db2caem コマンドが失敗しました。
指定されたアクティビティ・イベント・モニター名: *event-monitor-name*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-actevm パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となるアクティビティ・イベント・モニター名を指定できません。このメッセージは、-actevm パラメーターで指定されたアクティビティ・イベント・モニター名が長すぎる場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な長さのアクティビティ・イベント・モニター名を指定して、コマンドを再実行します。

DBT7019E *utility-name:* 指定されたアプリケーション ID が長すぎるため、db2caem コマンドが失敗しました。指定されたアプリケーション ID: *application-ID*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-appid パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となるアプリケーション ID を指定できます。このメッセージは、-appid パラメーターで指定されたアプリケーション ID が長すぎる場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な長さのアプリケーション ID を指定して、コマンドを再実行します。

DBT7020E *utility-name:* 指定された出力パスが存在しないか、完全修飾でないため、**db2caem** コマンドが失敗しました。指定された出力パス: *path*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-o パラメーターを使用すると、db2caem ユーティリティの出力ファイルの生成場所となるパスを指定できません。このメッセージは、-o パラメーターによって指定されたパスに db2caem ユーティリティがアクセスできない場合に返されます。

指定されたパスに db2caem ユーティリティがアクセスできない場合、以下のような理由が考えられます。

- 指定したパスは存在しません。
- db2caem ユーティリティは、db2caem コマンドを実行するユーザーと同じ権限を使って実行されます。つまり、-o パラメーターによって指定されたパスにアクセスする必要があります。db2caem コマンドを実行するユーザーが、指定された出力パスへのアクセス権を持っていないために、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 実際に存在し、しかもアクセス可能な出力パスを指定してコマンドを再実行します。

DBT7021E *utility-name:* **db2caem** ユーティリティでメモリー不足エラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

メモリー不足エラーは、コマンドの完了を妨げるシステム・エラーです。このメッセージは、db2caem ユーティリティがアクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャしようとしてメモリー不足エラーが発生した場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. 他のプロセスによって使用されているメモリーを解放します。
2. db2caem コマンドを再実行します。

DBT7022E *utility-name:* ディレクトリー *directory-name* を **db2caem** ユーティリティで作成できなかったため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-o パラメーターを使用すると、db2caem ユーティリティの出力ファイルの生成場所となるパスを指定できません。db2caem ユーティリティは出力ディレクトリーの中にサブディレクトリーを作成します。このメッセージは、db2caem ユーティリティが出力ディレクトリー内にサブディレクトリーを作成できない場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. db2diag ログ・ファイルまたは db2caem.log ファイル (作成されている場合) の診断情報を確認することにより、db2caem が出力ディレクトリー内にサブディレクトリーを作成できない理由を判別します。
2. db2caem ユーティリティが出力ディレクトリー内にサブディレクトリーを作成するのを妨げている 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. db2caem コマンドを再び実行します。

DBT7023E *utility-name:* 指定された出力パス名が長すぎるため、**db2caem** コマンドが失敗しました。指定された出力パス名: *file-name*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-o パラメーターを使用すると、db2caem ユーティリティの出力ファイルの生成場所となるパスを指定できません。このメッセージは、-o パラメーターで指定された出力パスの名前が長すぎる場合に返されます。

ユーザーの処置: 有効な長さの出力パス名を指定して、コマンドを再実行します。

DBT7024E *utility-name:* **db2caem** ユーティリティで内部データベース・エラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパ

DBT7025E

パフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するさまざまなデータベース・タスクを実行します。このメッセージは、db2caem ユーティリティでそのようないずれかの内部データベース・タスクの実行が失敗した場合に戻されず (例えば、指定されたファイルのパスの判別に失敗した場合など)。

db2caem ユーティリティは実行を続けることができません。

ユーザーの処置:

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します

DBT7025E *utility-name:* 表 *table-name* の照会によって予期しない行が戻されたため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻された行数: *num-rows-returned*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、指定された表を照会することにより、-st パラメーターで指定された照会ステートメント、-sf パラメーターで指定されたファイル内の照会ステートメント、または -actevm パラメーターで指定された既存イベント・モニターから取得された照会ステートメントについての情報を収集します。db2caem ユーティリティは、この照会により戻された予期しない行を検出しました。従って、解決不能なエラー状態が存在する可能性があります。

ユーザーの処置: db2caem コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します

DBT7026E *utility-name:* 表 *table-name* の照会によって行が戻されなかったため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、指定された表を照会することにより、-st パラメーターで指定された照会ステートメント、-sf パラメーターで指定されたファイル内の照会ステートメント、または -actevm パラメーターで指定された既存イベント・モニターから取得された照会ステートメントについての情報を収集します。db2caem ユーティリティは、この照会によって少なくとも 1 行が戻されることを想定しています。この照会によって行が戻されない場合、解決不能なエラー状態が存在する可能性があります。

-sf パラメーターで指定された SQL ファイルの中で無効な終了文字が使われている場合、または、-actevm パラメーターにより無効なイベント・モニター名が指定されている場合、このメッセージが戻されることがあります。

ユーザーの処置:

1. 戻りコードに基づいて、どんな内部エラーであるか判別します。
2. 内部エラーの発生源を解決します。
3. db2caem コマンドを再び実行します。

DBT7027E *utility-name:* **db2caem** ユーティリティが現在のタイム・スタンプを取得できなかったため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-o パラメーターを使用すると、db2caem ユーティリティの出力ファイルの生成場所となるパスを指定できます。db2caem ユーティリティは出力ディレクトリーの中にサブディレクトリーを作成します。db2caem ユーティリティはタイム・スタンプを含む命名形式を使用して、これらのサブディレクトリーの名前を生成します。このメッセージは、出力ディレクトリー名に使われるタイム・スタンプを db2caem ユーティリティで取得できない場合に戻されます。

db2caem ユーティリティは実行を続けることができません。

ユーザーの処置:

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します

DBT7028E *utility-name*: 指定された入力パラメーターおよび指定された SQL ステートメントの処理中に DB2 データベース・マネージャーでエラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。ハンドル・タイプ: *handle-type*。戻りコード:

return-code。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、**db2caem** コマンドで指定された入力オプション、および **-st** パラメーターで指定された (または **-sf** パラメーターで指定された SQL ファイルに入っている) SQL ステートメントをデータベース・サーバーで処理できない場合に返されます。

指定された SQL ステートメントに構文エラーが含まれる場合に、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置:

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 無効な入力パラメーター、または無効な SQL 構文を修正します。
3. **db2caem** コマンドを再実行します。

DBT7029E *utility-name*: DB2 データベース・マネージャーでハンドル・エラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。ハンドル・タイプ: *handle-type*。戻りコード: *return-code*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、これらのタスクの実行中に **db2caem** ユーティリティが DB2 データベースの内部エラーを検出した場合に返されます。

ユーザーの処置: 次のようにして、アクティビティ・イベント・モニター・データ・アクティビティを再び実行します。

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. **db2caem** コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - **db2diag** ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT7030E *utility-name*: 環境ハンドルの割り振り中に DB2 データベース・マネージャーでエラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、これらのタスクの実行中に **db2caem** ユーティリティが DB2 データベースの内部エラーを検出した場合に返されます。

ユーザーの処置: 次のようにして、アクティビティ・イベント・モニター・データ・アクティビティを再び実行します。

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. **db2caem** コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - **db2diag** ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT7031E *utility-name*: DB2 データベース・マネージャーでエラーが発生したため、**db2caem** コマンドが失敗しました。ハンドル・タイプ: *handle-type*。戻りコード: *return-code*。

説明: **db2caem** ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、これらのタスクの実行中に **db2caem** ユー

DBT7032W

ユーティリティーが DB2 データベースの内部エラーを検出した場合に返されます。

ユーザーの処置: 次のようにして、アクティビティー・イベント・モニター・データ・アクティビティーを再び実行します。

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. db2caem コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT7032W *utility-name:* DB2 データベース・マネージャーで警告が発生したため、db2caem コマンドが失敗しました。戻りコード:
return-code。

説明: db2caem ユーティリティーを使用すると、アクティビティー・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティーは、アクティビティー・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、これらのタスクの実行中に db2caem ユーティリティーが内部 DB2 データベース警告を検出した場合に返されます。

このメッセージは、db2caem ユーティリティーが環境変数を取り出すことができない場合に返されることがあります。

ユーザーの処置: db2caem コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT7033E *utility-name:* 指定された SQL ステートメントの処理中に db2caem ユーティリティーでエラーが発生しました。SQL ステートメント: *statement*。戻りコード:
return-code。

説明: db2caem ユーティリティーを使用すると、アクティビティー・イベント・モニター・データをキャプチャ

できます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

このメッセージは、-st パラメーターで指定された (または -sf パラメーターで指定された SQL ファイルに入っている) SQL ステートメントを処理しているときにデータベース・サーバーでエラーが発生した場合に返されます。

このメッセージは、以下の理由を含むいくつかの理由で返される可能性があります。

- SQL ステートメントに構文エラーがある。
- 無効な終了文字が SQL ステートメントの中で使われている。

ユーザーの処置:

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 無効な入力パラメーター、または無効な SQL 構文を修正します。
3. db2caem コマンドを再実行します。

DBT7034E *utility-name:* db2exfmt コマンドの実行中に db2caem ユーティリティーでエラーが発生しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティーを使用すると、アクティビティー・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティーは、アクティビティー・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。例えば db2caem コマンドは、指定された SQL ステートメント用の EXPLAIN 表の内容をフォーマットするために db2exfmt コマンドを実行します。このメッセージは、db2exfmt ユーティリティーの実行中に db2caem ユーティリティーがエラーを検出した場合に返されます。

db2exfmt エラーが発生しても、db2caem ユーティリティーは実行を続けることができます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7035W *utility-name:* GET CONNECTION ATTRIBUTE コマンドの実行中に db2caem ユーティリティーでエラーが発生しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティーを使用すると、アクティビティー・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティーは、アクティビティー・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまな

データベース・タスクを実行する必要があります。例えば db2caem ユーティリティは接続属性を使用して、コマンド実行中にデータベースとの接続を検証します。このメッセージは、GET CONNECTION ATTRIBUTE コマンドの実行中に db2caem ユーティリティがエラーを検出した場合に返されます。

db2caem ユーティリティが接続属性の取得に失敗したことは、データベース接続の問題を示している可能性があります。

ユーザーの処置: db2caem コマンドが完了した後、出力情報と診断情報を調べて、アクティビティ・イベント・モニター・データが正常に収集されたことを確認してください。

DBT7036W *utility-name:* データベースからの切断中に db2caem ユーティリティでエラーが発生しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、-d パラメーターで指定されたデータベースから切断しているときに db2caem ユーティリティでエラーが発生した場合に戻されます。

データベースからの切断に失敗した場合でも、db2caem ユーティリティは正常に完了できます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7037W *utility-name:* CLI ハンドルの解放中に db2caem ユーティリティでエラーが発生しました。SQLFreeHandle 関数が失敗して、戻りコード *return-code* が戻されました。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。このメッセージは、内部リソースを解放しているときに db2caem ユーティリティでエラーが発生した場合に戻されます。

この CLI ハンドルの解放に失敗した場合でも、db2caem ユーティリティは正常に完了できます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7038I *utility-name:* db2caem ユーティリティはデータベース *database-name* に正常に接続しました。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。例えば、db2caem ユーティリティは指定されたデータベースに接続する必要があります。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7039I *utility-name:* db2caem ユーティリティはデータベース *database-name* から正常に切断しました。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、さまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。例えば、db2caem ユーティリティは指定されたデータベースに接続し、そのデータベースから切断する必要があります。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7040E *utility-name:* 指定されたステートメントの中に、EXPLAIN 可能でなく、db2caem ユーティリティによって実行もされないキーワードが含まれているため、db2caem コマンドが失敗しました。*statement*。キーワード: *keyword*

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するには、db2caem ユーティリティは指定されたステートメントを EXPLAIN または実行できる必要があります。このメッセージは、指定された SQL ステートメントが EXPLAIN 可能でなく、実行もされない場合に戻されます。次のような理由で、これが発生する可能性があります。

DBT7041I

- 例えばステートメントがデータベース・オブジェクトを作成、変更、またはドロップする場合、そのステートメントは EXPLAIN 可能でない可能性があります。
- db2caem ユーティリティは CALL ステートメントを実行しません。CALL ステートメントを実行すると、指定されたデータベースで望ましくない副次作用が発生する可能性があります。

db2caem ユーティリティは、要求されたアクティビティ・イベント・モニター・データを収集できません。

ユーザーの処置:

1. -st パラメーターで指定された (または -sf パラメーターで指定された SQL ファイルに入っている) SQL ステートメントを変更して、EXPLAIN 可能な、しかも CALL キーワードを含まないステートメントにします。
2. 変更後のステートメントを使って db2caem コマンドを再実行します。

DBT7041I *utility-name: db2caem* ユーティリティはデータベース *database-name* に接続しようとしています。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、指定されたデータベースへの接続を含むさまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7042I *utility-name: SQL* ステートメント *statement* を発行しています。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するためにさまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。これには、-st オプションまたは -sf オプションの指定によって示されるステートメントを発行するタスクが含まれます。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7043I *utility-name: db2caem* ユーティリティはデータベース *database-name* から切断しようとしています。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

db2caem ユーティリティは、アクティビティ・イベント・モニター・データを収集するために、指定されたデータベースとの間の接続/切断を含むさまざまなデータベース・タスクを実行する必要があります。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

DBT7044E *utility-name: db2caem* ユーティリティがファイル *file-name* についての情報をオペレーティング・システムから取得できなかったため、db2caem コマンドは失敗しました。戻りコード: *return-code*。

説明: db2caem ユーティリティを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データをキャプチャーできます。それを使って SQL ステートメントのパフォーマンスを分析することができます。

-sf パラメーターを使用すると、アクティビティ・イベント・モニター・データを集める対象となる SQL ステートメントが含まれるファイルを指定できます。-compenv パラメーターを使用すると、コンパイル環境情報が含まれるファイルを指定できます。このメッセージは、-sf パラメーターで指定されたファイル、または -compenv パラメーターで指定されたファイルについての情報を db2caem ユーティリティがオペレーティング・システムから取得できない場合に返されます。

指定されたファイルに db2caem ユーティリティがアクセスできない理由として、以下が考えられます。

- 指定されたファイルが存在しない。
- db2caem ユーティリティは、db2caem コマンドを実行するユーザーと同じ権限を使って実行されます。つまり、-sf パラメーターで指定されたファイル、または -compenv パラメーターで指定されたファイルを開くことができる必要があります。db2caem コマンドを実行するユーザーが、指定されたファイルを開く権限を持っていないために、このメッセージが返されることがあります。

ユーザーの処置: 実際に存在し、しかもアクセス可能なファイル・パスを指定してコマンドを再実行します。

DBT7045E db2cklog ユーティリティーが現在のログ・ファイルをオープンできないため、db2cklog コマンドは失敗しました。ログ・ファイル名: log-file-name。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

db2cklog ユーティリティーは、db2cklog コマンドを実行したユーザーと同じ権限を使って実行されます。このメッセージは、db2cklog ユーティリティーがログ・ファイルをオープンできないために db2cklog ユーティリティーがログ・ファイルを検査できない場合に返されます。db2cklog ユーティリティーは、以下の理由により、ログ・ファイルをオープンできなかった可能性があります。

- ログ・ファイルが db2cklog ユーティリティーがアクセスできないパスにある
- db2cklog ユーティリティーには、ログ・ファイルの読み取り許可がない

ユーザーの処置: アクセスできるパスにある単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルの範囲を指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7046E db2cklog ユーティリティーがメモリーの割り振りに失敗したため、db2cklog コマンドが失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルの妥当性検査に関連したタスクを実行するのに十分なメモリーの割り振りに db2cklog ユーティリティーが失敗した場合に返されます。

ユーザーの処置: 次のようにして、ログ・ファイルの妥当性検査の操作を再度実行します。

1. 入手可能な診断情報を確認します。
2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. db2cklog コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ

2. IBM サポートに連絡します。

DBT7047E db2cklog ユーティリティーが現在のログ・ファイルをクローズできないため、db2cklog コマンドは失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、db2cklog ユーティリティーがログ・ファイルをオープンしてファイルを検査できても、db2cklog ユーティリティーがそのログ・ファイルをクローズできない場合に返されます。db2cklog ユーティリティーがログ・ファイルをクローズできなかったのは、以下の理由による可能性があります。

- ログ・ファイルが db2cklog コマンドが実行されたときと同じ場所がない
- 別のファイル操作がログ・ファイルに影響を与えている

ユーザーの処置: 指定されたアーカイブ・ログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルの範囲、およびログ・ファイルが置かれているディレクトリーが、db2cklog ユーティリティーが実行されている間は存続しているようにして、db2cklog コマンドを再実行してください。

DBT7048E db2cklog ユーティリティーは、現在のログ・ファイルが無効であることを判別しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

db2cklog ユーティリティーは、指定されたログ・ファイルを数々の側面から検査して、ファイルの形式が有効であるかどうかや、内容が有効であるかどうかを判別します。このメッセージは、db2cklog ユーティリティーが、指定されたログ・ファイルのいずれかが無効であるためにロールフォワード・リカバリーで使用できないことを検出した場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. データベース・サーバーによる 2 次アーカイブ・ログ・ファイルの処理方法を決定する logarchmeth2 構成パラメーターの値を参照することによって、指定されたアーカイブ・ログ・ファイルの 2 次コピーがあるかどうかを判別してください。
2. アーカイブ・ログ・ファイルの 2 次コピーがある場合は、以下のステップを実行します。

- a. db2cklog コマンドを 2 次コピーに対して実行することにより、2 次ログ・ファイルの妥当性検査を行います。
 - b. ログ・ファイルの 2 次コピーが妥当性検査をパスした場合、db2cklog ユーティリティーが読み取れないログ・ファイルを、ログ・ファイルの有効な 2 次コピーで置き換えます。
3. アーカイブ・ログ・ファイルのコピーが 1 つしかない場合や、db2cklog ユーティリティーが 2 次ログ・ファイルの検査に失敗した場合、ログ・ファイルの修復は不可能であり、ロールフォワード・リカバリーの目的で使用することができません。できるだけ早く完全なデータベース・バックアップを行うことにより、より新しいリカバリー・ポイントを新規に確立して、ロールフォワード・リカバリー用に使用できないログ・ファイルを使う必要がないようにしてください。

DBT7049E ログ・ファイルのヘッダーにあるログ・ページ数が無効であるため、ログ・ファイルの妥当性検査が失敗しました。予想されたページ数は *expected-number* です。実際のページ数は、*actual-number* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティーが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7050E 指定されたログ・ファイルのログ・ファイル・ヘッダーのコピーが両方とも無効なため、ログ・ファイルの妥当性検査が失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティーが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7051E 指定されたログ・ファイルに判別できないエラーが含まれているため、ログ・ファイルの妥当性検査が失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティーが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7052E 指定されたログ・ファイルにログ・ページが含まれないため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティーが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7053E 指定されたログ・ファイルに無効なログ・ページとこれに続く別の無効なログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティーが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート

担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7054E 指定されたログ・ファイルに無効なログ・ページとこれに続く古いログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7055E 指定されたログ・ファイルに無効なログ・ページとこれに続く部分ログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7056E 指定されたログ・ファイルに無効なログ・ページとこれに続く完全なログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7057E 指定されたログ・ファイルに完全なログ・ページとこれに続く無効なログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7058E 指定されたログ・ファイルの実際のログ・ページ数が予想されたログ・ページ数に一致しないため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。実際のログ・ページ数は *actual-number* です。予想されたログ・ページ数は *expected-number* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7059E ログ・ファイル・ヘッダーのチェック・フィールドが一致しないため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7060E ログ・ファイル・ヘッダーに無効なログ・ファイル番号が含まれているため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。予想されたログ・ファイル名は *expected-log-file-name* です。ヘッダーの予想された番号は *log-file-number* です。検出されたログ・ファイル名は *log-file-name* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7065E 現在のログ・ページが空であり、指定されたログ・ファイルのすべてのログ・ページが処理された訳ではないため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。現在のログ・ページ: *log-page-id*。ログ・ページの合計数: *total-log-pages*。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを

db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7066E ログ・ページが切り捨てられたものとしてマークされていますが、これは指定されたログ・ファイル内の最後のページではないため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7067E ログ・ページが予期しないログ・レコード・タイプで終了しているため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。ログ・ページのヘッダー・フラグ: *header-flag*。予期しないログ・レコード・タイプ: *log-record-type*。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されません。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7068E ログ・レコード・タイプが無効なため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。ログ・レコード・タイプ:

log-record-type。許容される最大タイプ値は、*maximum-log-record-type* です。予想されたタイプ値は *expected-log-record-type* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7069E 指定されたログ・ファイルに無効なログ・レコード・サイズ *log-record-size* が含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7070E 指定されたログ・ファイルでログ・レコード・サイズ *log-record-size* が最大ログ・レコード・サイズを超えているため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されま

す。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7071E ログ・レコードのサイズが無効なため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。ログ・レコード・サイズ:

log-record-size。ログ・レコードの有効な最小サイズは *minimum-log-record-size* です。ログ・レコードの有効な最大サイズは *maximum-log-record-size* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7072E ログ・レコード・サイズが無効なため、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。ログ・レコード・サイズ:

log-record-size。予想されたログ・レコード・サイズは *expected-log-record-size* です。ログ・レコードの有効な最大サイズは *maximum-log-record-size* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7074E 指定されたログ・ファイルで予期しないログ・レコード・タイプが検出されたので、ログ・ファイルの妥当性検査は失敗しました。検出されたログ・レコード・タイプ: *log-record-type*。予想されたログ・レコード・タイプは、*expected-log-record-type* です。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7075E 予期しないトークン *token* が入力パラメーター *input-parameter* の後に検出されたので、db2cklog コマンドが失敗しました。サポートされているトークンには、*input-parameter-tokens* があります。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、db2cklog コマンドで無効なパラメーターまたは値が指定されている場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. [オプション] パラメーターを指定せずに db2cklog コマンドを実行することによってコマンド構文を表示します。
2. サポートされているコマンド構文のみを指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7076E db2cklog ユーティリティが ARCHLOGPATH パラメーターを使って指定されたアーカイブ・ログ・パスにアクセスできなかったため、db2cklog コマンドが失敗しました。指定されたアーカイブ・ログ・パス: *archived-log-path*。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、

db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。ARCHLOGPATH パラメーターを使用して、アーカイブ・ログ・ファイルの絶対パスまたは相対パスを指定することができます。

db2cklog ユーティリティは、db2cklog コマンドを実行したユーザーと同じ権限を使って実行されます。このメッセージは、db2cklog コマンドを実行したユーザーに指定されたパスへの読み取り許可がないために返されることがあります。

ユーザーの処置:

1. システム管理者に問い合わせ、アーカイブ・ログ・パスの読み取り許可を取得してください。
2. ARCHLOGPATH パラメーターを使用してアクセス可能なアーカイブ・ログ・ファイル・パスを指定し、コマンドを再実行してください。

DBT7077E 指定されたアーカイブ・ログ・ファイル・パスが長すぎるため、db2cklog コマンドが失敗しました。指定されたアーカイブ・ログ・ファイル・パス: *path*。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。db2cklog コマンドで ARCHLOGPATH パラメーターを使用して、アーカイブ・ログ・ファイルの絶対パスまたは相対パスを指定することができます。

このメッセージは、db2cklog コマンドで ARCHLOGPATH パラメーターの値として渡されるストリングが、定義された最大長よりも長い場合に返されます。ARCHLOGPATH パラメーターで指定できるアーカイブ・ログ・パスの最大長は、オペレーティング・システムによって異なります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- アーカイブ・ログ・ファイルが存在するディレクトリーから db2cklog コマンドを実行し、ARCHLOGPATH パラメーターをまったく使用しないようにします。
- アーカイブ・ログ・ファイルの絶対パスの長さが、ARCHLOGPATH パラメーターを使って渡すことのできるストリングの最大長以下である場合、ARCHLOGPATH パラメーターで絶対パスを指定して db2cklog コマンドを再実行してください。
- db2cklog コマンドが実行されているディレクトリーからの相対アーカイブ・ログ・パスの長さが、ARCHLOGPATH パラメーターを使って渡すことのできるストリングの最大長以下である場合、

ARCHLOGPATH パラメーターで相対パスを指定して db2cklog コマンドを再実行してください。

DBT7078E 現在のログ・ファイルが db2cklog コマンドが実行されたディレクトリー、または ARCHLOGPATH パラメーターで指定されたアーカイブ・ログ・ファイル・ディレクトリーに存在しないため、db2cklog コマンドが失敗しました。ログ・ファイル名 : *log-file-name*。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

db2cklog コマンドで ARCHLOGPATH パラメーターを使用してパスが指定されている場合、db2cklog ユーティリティは、指定されたアーカイブ・ログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルの範囲を指定されたパスで検索します。しかし、ARCHLOGPATH パラメーターが db2cklog コマンドに渡されない場合、db2cklog ユーティリティは、指定されたアーカイブ・ログ・ファイルまたはアーカイブ・ログ・ファイルの範囲を、db2cklog コマンドが実行されたディレクトリーで検索します。このメッセージは、db2cklog ユーティリティが指定されたアーカイブ・ログ・ファイルをこれらの場所のいずれかで検索できない場合に返されます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このメッセージに応答します。

- アーカイブ・ログ・ファイルが置かれているディレクトリーから db2cklog コマンドを実行します。
- ARCHLOGPATH パラメーターでアーカイブ・ログ・ファイルの場所を指定して、db2cklog コマンドを再実行します。

DBT7079E 内部エラーのため、db2cklog コマンドが失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

ログ・ファイルの妥当性検査と関連するタスクの実行において、このコマンドは各種のシステム・リソースおよびソフトウェア・コンポーネントに依存します。このメッセージは、これらのリソースまたはコンポーネントのいずれかに問題がある場合に返されます。

ユーザーの処置: 次のようにして、ログ・ファイルの妥当性検査の操作を再度実行します。

1. 入手可能な診断情報を確認します。

2. 障害の原因となった 1 つまたは複数の問題を解決します。
3. db2cklog コマンドを再実行します。

問題が引き続き発生する場合は、以下の手順を実行してください。

1. 以下の診断情報を収集します。
 - db2diag ログ
2. IBM サポートに連絡します。

DBT7080E 指定されたログ・ファイルに部分ログ・ページとこれに続く無効なログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査に失敗しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

このメッセージは、ログ・ファイルが無効であることを db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7081W 指定されたログ・ファイルには空のログ・ページが含まれているため、ログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7082W 指定されたログ・ファイルに部分ログ・ページとこれに続く完全ログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7083W 指定されたログ・ファイルに部分ログ・ページとこれに続く古いログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7084W 指定されたログ・ファイルに部分ログ・ページとこれに続く別の部分ログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効にな

ったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7085W 古いログ・ページが *log-page-type* というタイプのログ・ページに続いているため、指定されたログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7086W 指定されたログ・ファイルには完全なログ・ページとこれに続く無効なログ・ページが含まれるため、ログ・ファイルの妥当性検査で警告が出されました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォワード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティを使用して判別できます。

この警告は、ログ・ファイルがアクティブであることを示す可能性のある情報を db2cklog ユーティリティが検出したときに戻されます。このメッセージに記された詳細情報は、ログ・ファイルがどのようにして無効になったかを IBM サポート担当員が調査する際に役立ちます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。この詳細は IBM サポート担当員にのみ有用なものです。

DBT7087W db2cklog ユーティリティは、現在のログ・ファイルに、ログ・ファイルがアクティブである可能性を示す情報を検出しました。

説明: 単一のアーカイブ・ログ・ファイルまたは特定範囲の複数のアーカイブ・ログ・ファイルがロールフォ

ード・リカバリーに対して有効であるかどうかを、db2cklog ユーティリティーを使用して判別できます。db2cklog ユーティリティーは、アクティブなログ・ファイルではなく、アーカイブ・ログ・ファイルの妥当性検査を行うためにのみ使用する必要があります。

アクティブ・データベース・ログ・ファイルは、リカバリーおよびロールバック用に現在必要とされている 1 次および 2 次ログ・ファイルです。アクティブ・ログが開いており、データベース・ロギング情報は依然としてアクティブ・ログに書き込まれている可能性があります。アーカイブ・データベース・ログ・ファイルはクローズしており、通常の処理にはもう必要ありません。これらのファイルはロールフォワード・リカバリーで使用するために保存つまりアーカイブされます。

db2cklog ユーティリティーをアクティブ・ログ・ファイルに対して実行しようとする、db2cklog ユーティリティーがアクティブ・ログ・ファイルの妥当性検査を正確に実行できない可能性があるため、この警告が返されます。

ユーザーの処置: アクティブ・ログ・ファイルではなく、アーカイブ・ログ・ファイルのみを指定して、コマンドを再実行してください。

DBT7088W 診断データの収集中に、ファイル *file* が見つからなかったか、または実行することができませんでした。

説明: db2support -install コマンドを実行する場合、診断データはホスト・マシン上の複数ソースから収集されます。診断データのソースには、ファイル・システム上に保管されるログ・ファイルや、他の診断コマンドを実行することによって返される出力が含まれます。これらのソースのいずれかで診断データを取得できない場合、この警告が返されます。

ユーザーの処置: 可能であれば、db2support -install コマンドは常に root 権限で実行してください。root 権限でコマンドを実行すれば、最も完全な診断データ・セットが収集されます。

このコマンドを既に root 権限で実行している場合は、このメッセージに対応する必要はありません。この詳細は、欠落している診断データについて IBM サポート担当員に注意を促すためにのみ有用です。

DBT7089E 指定されたコマンド構文は、サポートされていないか無効です。

説明: インストール・イメージに含まれる db2support コマンドを実行する場合、db2support 構文のサブセットしか使用できず、ユーザーが含まれるコマンド構文は有効な形式で指定しなければなりません。

ユーザーの処置: db2support -h を実行してサポートされている構文を確認するか、または DB2 インフォメーション・センターの「db2support - 問題分析および環境収集ツール・コマンド」を参照してから、コマンドを再実行してください。

DBT7090E ホスト名 *hostname* が無効です。

説明: ホスト名の妥当性検査を指定どおりに行うことができず、このホストの診断データは収集されていません。

ユーザーの処置: ホスト名のスペルが正しいことを確認してください。-host オプションに有効なホスト名のみを含めてから、コマンドを再実行してください。

DBT7091E ホスト *hostname* は ssh 接続をサポートしないか、またはこれを許可しません。

説明: db2support コマンドには、ローカル・ホスト以外のホストから診断データを収集するために ssh 接続が必要です。ssh 接続を確立できない場合、診断データの収集は失敗します。

ssh がホスト上に構成されていないか、または db2support コマンドによる接続ができないように構成されているため、ssh 接続が失敗することがあります。

ユーザーの処置: ssh が正しく構成されていることを確認してから、コマンドを再実行してください。

DBT7092W db2support コマンドは root 権限で実行されませんでした。結果として、一部の診断データが収集されない可能性があります。

説明: db2support -install コマンドを実行する場合、診断データは、ファイル・システム上に保管されるログ・ファイルや、他の診断コマンドを実行することによって返される出力など、ホスト・マシン上の複数ソースから収集されます。db2support コマンドを実行するユーザーにこれらのソースのいずれかにアクセスする際に必要なレベルの権限がない場合、一部の診断データは収集されなくなります。

ユーザーの処置: 診断データを最も完全に収集するためには、db2support -install コマンドは常に root 権限で実行してください。root 権限でコマンドを実行できない場合、このメッセージに対応する必要はありません。必要な場合、このメッセージは、IBM サポート担当員に対して診断データが欠落している可能性について注意を促すものになります。

DBT7093E ホスト *hostname* に到達できません。

説明: リモート・ホストの診断情報を収集するには、db2support コマンドはネットワークを介してホストに接続できなければなりません。

ホストに到達できない理由には、以下があります。

- ネットワークのケーブル接続が切断されている、ネットワーク・アダプターが反応しない、またはネットワーク構成がネットワーク・アクセスをできないようにしている。
- ホスト・マシンがオフラインである (ホストの電源が入っていない、または再起動中であるなど)。

ユーザーの処置: ホストに到達できないようにしている問題を解決してから、コマンドを再実行してください。

DBT7094E db2support コマンドを指定どおりに実行できません。

説明: 指定されたオプションで db2support コマンドを実行するには、ユーザーはインスタンス所有者でなければなりません。

ユーザーの処置: インスタンス所有者として、db2support コマンドを DB2 インストール・パスから実行してください。

DBT7095E -install オプションは、-host オプション以外の他のオプションと一緒に指定することができません。

説明: インストール・イメージに含まれる db2support コマンドを実行する場合、db2support 構文のサブセットしか使用できず、ユーザーが含めるコマンド構文は有効な形式で指定しなければなりません。-install オプションを指定する場合、-host オプションしか一緒に指定できません。

ユーザーの処置: db2support -h を実行してサポートされている構文を確認するか、または DB2 インフォメーション・センターの「db2support - 問題分析および環境収集ツール・コマンド」を参照してから、コマンドを再実行してください。

DBT7096W インスタンス名を判別できません。

説明: db2support -install コマンドを実行する場合、診断データは、db2instance -list コマンドを実行することによって返される出力など、ホスト・マシン上の複数ソースから収集されます。この警告は、db2instance -list コマンドで指定する必要があるインスタンス名を判別できない場合に返されます。

ユーザーの処置: このメッセージに対処する必要はありません。

ません。この詳細は、欠落している診断データについて IBM サポート担当員に注意を促すためののみ有用です。

第 14 部 DQP メッセージ

第 93 章 DQP0000 - DQP0499

DQP0001E コマンドにデータベース名を指定してください。

説明: コマンド構文により、データベース名の指定が必要です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

データベース名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP0002E Query Patroller は、データベース *databasename* に接続できません。

説明: Query Patroller は、*databasename* データベースへの接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: データベース名が正しく、データベース・マネージャーが実行中であることを確認してください。

このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0003E Query Patroller サーバーを始動できません。

説明: Query Patroller を始動できませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0004E Query Patroller サーバーを停止できません。

説明: Query Patroller サーバーを停止できません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを停止しようとした時に、実際に Query Patroller サーバーが実行中であったか確認してください。このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0005E データベース *databasename* に対する Query Patroller 構成が見つかりません。

説明: データベース *databasename* に対する構成が見つかりません。

ユーザーの処置: qpstop コマンドを発行して、Query Patroller を停止してください。

DQP0006E Java プロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。

説明: 必要なプロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。

ユーザーの処置: sqllib/msg/<locale>/qp/ ディレクトリをチェックして、プロパティー・ファイルが存在するかどうか判別してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0007E 内部エラー *error* が発生しました。

説明: 処理中に内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0008E ユーザー *username* はサブミッター・プロファイルを持っていません。

説明: ユーザーは、それぞれサブミッター・プロファイルを持っている必要があります。

ユーザーの処置: 管理者が、ユーザー用にサブミッター・プロファイルを定義するよう要求してください。

DQP0009E ファイル *filename* をオープンできません。

説明: 指定されたファイルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、その許可が正しいかどうか、確認してください。

このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0010E ユーザー *user-ID* は有効なサブミッター・プロファイルを持っていません。

DQP0011E

説明: ユーザー *user-ID* には、Query Patroller の有効なサブミッター・プロファイルがありません。以下の理由のいずれかにより、発生している可能性があります。

- ユーザーにサブミッター・プロファイルがない可能性があります。
- ユーザーに所属しているユーザーまたはグループ、あるいはその両方のサブミッター・プロファイルが一時停止となる可能性があります。

ユーザーの処置: データベース管理者に、サブミッター・プロファイルを作成するか、またはサブミッター・プロファイルを再活性化するように要求してください。

DQP0011E *property-file1* および *property-file2* のいずれも見つからなかったため、サブミット設定ダイアログを表示できません。

説明: プロパティー・ファイルが見つかりません。この結果、サブミット設定ダイアログを表示できません。

ユーザーの処置: ファイルが存在するかどうか確認してください。

DQP0012E データベース *databasename* は、Query Patroller で使用するためにセットアップされていません。

説明: Query Patroller をデータベース上で使用するには、そのデータベースが含まれるサーバーに、Query Patroller をインストールする必要があります。Query Patroller のインストール中に、管理対象となるデータベースの照会を選択し、Query Patroller コントロール表およびストアド・プロシージャが、このデータベースで作成されます。Query Patroller を使用して、追加データベースの照会を管理する必要がある場合、データベースごとに、qpsetup コマンドを実行しなければなりません。

ユーザーの処置: データベースが含まれるサーバーに Query Patroller をインストールするよう、管理者に要求するか、すでにサーバーにインストールされている場合には、そのデータベースに対して qpsetup コマンドを実行し、Query Patroller をセットアップするように要求してください。

qpsetup コマンドがデータベースに対して実行されていても問題が解決しない場合は、UNIX では `INSTPATH/function` にファイル `db2qp`、および `INSTPATH/function/unfenced` にファイル `db2qpt` があるかどうかを、Windows では `INSTPATH¥function` にファイル `db2qp.dll`、および `INSTPATH¥function¥unfenced` に `db2qpt.dll` があるかどうかをチェックしてください。`INSTPATH` は、DB2 インスタンス・ディレクトリーを意味します。これらのファイルが存在する場合、このメ

ッセージが表示された考えられる原因について `qpdiaq.log` を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0019E *command-name* コマンドを発行するには、SYSADM 権限が必要です。

説明: このコマンドには SYSADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: システム管理者に、このコマンドを実行するよう要求してください。

DQP0020E この機能はサポートされていません。理由コード = *reason-code*。

説明: 以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

- 1 機能が使用できないため、接続コード・ページを設定できません。
- 2 制約事項が不明です。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

- 1 Query Patroller クライアントを新しいバージョンに更新してください。
- 2 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP0021E DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルが異なります。

説明: DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルは、同じでなければなりません。

ユーザーの処置: DB2 サーバーと Query Patroller サーバーが、同じ製品レベルであるかどうか確認してください。Query Patroller サーバーをインストールする前に、DB2 サーバーにフィックスパックを適用している場合は、そのフィックスパックを再適用してください。

製品の前提条件の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP0024E 予期しないエラー *error* が発生しました。

説明: 予期しないエラーが発生しました。

ユーザーの処置: このエラーが表示された原因については、`qpdiaq.log` ファイルを参照してください。

DQP0025E タイム・スタンプ・フォーマット *format* が無効です。

説明: ユーザーが指定したタイム・スタンプ・フォーマットが無効です。正しいタイム・スタンプ・フォーマットは YYYY-MM-DD HH24:MI:SS です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しいタイム・スタンプ・フォーマットを指定し、コマンドを再実行してください。

DQP0406E 最大数 *maxnumber* のクエリー・コントローラーがすでに実行中のため、クエリー・コントローラーを開始できません。

説明: 許可されているクエリー・コントローラーの最大数よりも多くのクエリー・コントローラーを開始しようとしました。

ユーザーの処置: 現在実行中のクエリー・コントローラーの 1 つを使用してください。

DQP0408E コマンド *commandname* を実行するには、DBADM 権限が必要です。

説明: コマンド *command-name* には、DBADM 権限が必要です。

ユーザーの処置: セキュリティ管理者に DBADM 権限を付与するよう要求し、コマンドを再発行してください。

DQP0409E Query Patroller のシステム設定が存在しません。

説明: システム設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

ユーザーの処置: qpsetup コマンドを発行して、Query Patroller システム設定を作成してください。

qpsetup コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP0410E PUBLIC グループのサブミット設定が存在しません。

説明: PUBLIC グループに対するサブミット設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

ユーザーの処置: PUBLIC グループに対するサブミット設定を再作成し、qpstart コマンドを発行して Query Patroller を開始してください。

DQP0412I データベース接続が再確立されました。

説明: データベース接続が再確立されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP0413E データベース接続は失われました。
Query Patroller が終了しました。

説明: データベース接続は失われました。この結果、Query Patroller が終了しました。

ユーザーの処置: データベース接続を再確立してから qpstart コマンドを発行して Query Patroller を再始動してください。

DQP0414E アクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。

説明: キューに入っている照会またはアクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。

ユーザーの処置: FORCE オプションを使用して、コマンドを再実行してください。アクティブな照会が強制されると、Query Patroller を再始動し、照会のリカバリーが完了するまでは、これらの照会是不整合状態になります。

DQP0415I 照会の見積コストが、ユーザーのサブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。

説明: 照会は保留となります。

ユーザーの処置: データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

DQP0416E 照会の見積コストが、システムの最大照会コストを超えています。

説明: 照会は保留となります。

ユーザーの処置: データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

DQP0417E 実行中の照会数がシステムで許可されている最大数に到達しました。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されません。

DQP0418E ユーザー *username* に対して実行されている照会の数が、サブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されません。

DQP0419E 照会クラス *queryclassnumber* の下で実行中の照会の数は、この照会クラスに許可されている最大数です。

説明: 照会はキューに入れられます。

ユーザーの処置: 実行中の照会数が、照会クラスで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されます。

DQP0420I 見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。

説明: サブミットされている照会の見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。

ユーザーの処置: 必要に応じて、システム・ワークロードの最大許可数を増やしてください。

DQP0421I 照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えました。

説明: 照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えているために、照会は保留となります。

ユーザーの処置: 照会を実行できるように、管理者に照会を解放するよう要求するか、または許可される最大システム・ワークロードを増やしてください。

DQP0422E DB2 Query Patroller ライセンスが見つかりません。

説明: DB2 Query Patroller が見つからないか、期限が切れています。

ユーザーの処置: 製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお尋ねください。

DQP0423E Query Patroller はすでに開始済みです。

説明: Query Patroller はすでに実行中のため、開始できません。

ユーザーの処置: Query Patroller を再始動するには、`qppstop` コマンドを発行してから `qppstart` を発行してください。

DQP0424E Query Patroller の開始コマンドが出されていません。

説明: Query Patroller の開始コマンドは処理されていません。Query Patroller の停止コマンドを発行する前に、処理されている必要があります。

ユーザーの処置: Query Patroller の開始コマンド `qppstart` を発行してから、現行コマンドを再発行してください。

DQP0431E DB2 Query Patroller サービスを始動できませんでした。理由コード *reason-code*

説明: 理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. サービスが存在しません。
2. 現行ユーザーは、サービスを開始または停止するための適切な権限を持っていません。
3. サービスを開始できません。
4. サービスのログオン情報は正しくありません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

1. サービスが存在するかどうか確認してください。サービスが存在しない場合、手動で除去されたか、DB2 Query Patroller のインストールが正常に完了しなかった可能性があります。いずれの場合でも、DB2 Query Patroller を再インストールする必要があります。
2. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。
3. コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡するか、このメッセージが表示された原因について、`qpdiag.log` ファイルを参照してください。
4. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。

DQP0432E DB2 Query Patroller Java プロセスと通信できません。

説明: コマンドは、DB2 Query Patrollerの Java プロセスを正常に作成しましたが、出力を入手しようとするときに通信エラーがありました。 ネットワーク・エラーが存在するか、Java プロセスが異常終了した場合に、通信エラーが発生する可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

第 94 章 DQP1000 - DQP1499

DQP1001E 指定された日付および時刻は無効です。

説明: 指定された日付または時間が、誤ったフォーマットになっています。

ユーザーの処置: 正しいフォーマットの日時を入力してください。

DQP1002E 指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。

説明: 指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。

ユーザーの処置: 終了日時よりも前に発生する開始日時を指定してください。

DQP1003E 日付の整合性に違反するため、操作が打ち切られました。 **SQLSTATE** = *sqlstate*。

説明: Query Patroller のコントロール表には、そこに含まれているデータの整合性を保護するためのトリガーがあります。そのようなトリガーは、試行されたアクションを介して活動化されています。構成の整合性の制約違反により、操作が打ち切られました。

ユーザーの処置: qpschema.sql ファイルを調べて、**SQLSTATE** のシグナルを出したトリガーを見つけてください。この調査を基に、再びトリガーがアクションを打ち切らないように、必要な調整を行ってください。

DQP1004E メモリーの割り振りエラーが発生しました。

説明: 処理を続行することのできる十分なメモリーがありません。

ユーザーの処置: システムに十分なメモリーがあるか確認してください。

システム・メモリー要件については、Query Patroller の資料を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1005E 時刻範囲を 2 年より大にすることはできません。

説明: 指定された時刻範囲が 2 年を超えています。

ユーザーの処置: 次の 2 年以内の時刻範囲を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP1006E SQL ステートメント *sqlstmt* が失敗しました。 **SQLCODE** *SQLCODE*。

説明: SQL ステートメントが失敗しました。

ユーザーの処置: このメッセージの原因については、qpdiaog.log ファイルをチェックしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1008E SQL データ・タイプ *datatype* はサポートされていません。

説明: SQL データ・タイプはサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされる SQL データ・タイプに関する情報については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP1009E 結果宛先が大きすぎて表示できません。

説明: 結果がコントロール表の最大サイズ限度を超えているため、クエリー・パトローラー・センターおよび Query Patroller コマンド行プロセッサは、結果を戻すことができません。

ユーザーの処置: 照会を再サブミットして、結果が結果表に保管されるのではなく、アプリケーションに戻されることを確認してください。

照会がバックグラウンドで実行されたために結果表を生成した場合は、結果が戻されるまで待機するようサブミット設定を設定して、照会を再サブミットしてください。

照会が保留後に実行されたために、結果表が生成された場合は、照会を保留せずに再サブミットできるように、サブミッター・プロファイルの照会コストを上げるよう管理者に要求してください。

別の方法として、結果表から直接選択するよう選択することもできますが、結果表の列の名前はユーザーの照会の名前と一致せず、結果表には追加の列である A0000 が含まれます。

DQP1010E ファイル *filename* にアクセスできません。

説明: 指定されたファイルにアクセスできません。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイル許可が正しいかどうか、確認してください。

DQP1011E

DQP1011E ユーザー *username* はこのコマンドの発行を許可されていません。

説明: ユーザーが必要な許可レベルを所有していないため、コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: 必要な許可については、Query Patroller の資料をチェックしてください。ユーザーに必要な権限を付与するようデータベース管理者に要求して、コマンドを再発行してください。

DQP1012E ファイル *filename* は存在しません。

説明: 指定されたファイルが存在しない。

ユーザーの処置: ファイルが存在するかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP1023E ファイル *filename* へ保管中に、エラーが発生しました。

説明: このメッセージが表示される原因として、次のものがあります。

- ファイルに、正しいファイル許可がない。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していません。

ユーザーの処置: 可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル許可を確認してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

DQP1024W 照会クラスの作成、変更、除去は、Query Patroller サーバーが再始動されるまで反映されません。

説明: 照会クラスの作成、変更、または削除を行ったところです。これは、Query Patroller サーバーによる詳細の処理方法の動作を変更します。この動作の変更は、Query Patroller が次回開始されるまで発生しません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーが実行中のコンピューターで、qpstop、qpstart の順でコマンドを実行し、Query Patroller を再始動するよう管理者に要求してください。

DQP1025W 更新は、Query Patroller サーバーの再始動まで反映されません。

説明: 設定は、Query Patroller サーバーの再始動まで反映されません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、変更を反映させてください。

DQP1026W 更新が正常に行われました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。

説明: 更新が正常に行われました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP1028E ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。

説明: ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。

ユーザーの処置: ネットワークが混んでいない時に、コマンドを再実行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、ネットワーク・エラーがないかどうか分析してください。

第 95 章 DQP2000 - DQP2499

DQP2020E パス *path* が無効です。

説明: 指定したパスは無効です。

ユーザーの処置: パスを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2101I ユーザー *username* の演算子プロファイルは正常に追加されました。

説明: このユーザーの演算子プロファイルが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2102I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に追加されました。

説明: このグループの演算子プロファイルが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2103I ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に更新されました。

説明: 既存のユーザー演算子プロファイルが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2104I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に更新されました。

説明: 既存のグループ演算子プロファイルが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2105I ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に除去されました。

説明: ユーザーの演算子プロファイルが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2106I グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に除去されました。

説明: グループの演算子プロファイルが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2107E ユーザー *username* の演算子プロファイルが存在しません。

説明: ユーザーの演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2108E グループ *groupname* の演算子プロファイルが存在しません。

説明: グループの演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: 指定されたグループ名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2109E ユーザー *username* の演算子プロファイルはすでに存在しています。

説明: ユーザーの演算子プロファイルはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 指定されたユーザー名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2110E グループ *groupname* の演算子プロファイルはすでに存在しています。

説明: グループの演算子プロファイルはすでに存在しています。

ユーザーの処置: 指定されたグループ名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2111I 演算子プロファイルが定義されていません。

説明: 表示する演算子プロファイルが定義されていません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2112I 照会クラス *queryclassID* は正常に追加されました。

説明: 新規照会クラスが定義されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2113I

DQP2113I 照会クラス *queryclassID* は正常に更新されました。

説明: 既存の照会クラスが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2114I 照会クラス *queryclassID* は正常に除去されました。

説明: 照会クラスが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2115E 照会クラス *queryclassID* は存在しません。

説明: 照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 指定された照会クラス ID が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2116E 同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在します。

説明: 照会クラスがすでに存在します。

ユーザーの処置: まだ存在しない照会クラスを指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2117I 照会クラスが定義されていません。

説明: 既存の照会クラスはありません。リストにも情報がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2118I ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に追加されました。

説明: このユーザーに対する新規ユーザー・サブミッター・プロフィールが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2119I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に追加されました。

説明: このグループの新規グループ・サブミッター・プロフィールが作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2120I ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に更新されました。

説明: 既存のユーザー・サブミッター・プロフィールが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2121I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に更新されました。

説明: 既存のグループ・サブミッター・プロフィールが更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2122I ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。

説明: ユーザー・サブミッター・プロフィールが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2123I グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。

説明: グループ・サブミッター・プロフィールが除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2124E ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: このユーザーのサブミッター・プロフィールは存在しません。

ユーザーの処置: 既存のユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2125E グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: このグループのサブミッター・プロフィールが存在しません。

ユーザーの処置: 既存のグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2126E ユーザー *username* のサブミッター・プロフィールはすでに存在します。

説明: このユーザーのサブミッター・プロフィールは存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2127E グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールはすでに存在します。

説明: このグループのサブミッター・プロフィールは存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2128I サブミッター・プロフィールが存在しません。

説明: サブミッター・プロフィールがありません。リストにも情報がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2129I Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。

説明: Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2130E 照会 *queryID* は存在しません。

説明: 指定された照会 ID は存在しません。

ユーザーの処置: 存在する照会 ID を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2131I 入力基準に一致する照会がありません。

説明: 入力基準に一致する照会がないため、リストする情報がありません。

ユーザーの処置: 必要な場合には入力基準を変更してください。

DQP2132I ユーザー *username* の新規サブミット設定が追加されました。

説明: ユーザーに対して新規ユーザー・サブミット設定が作成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2133I ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。

説明: 既存のサブミット設定が更新されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2134I ユーザー *username* のサブミット設定が除去されました。このユーザーは、デフォルトのサブミット設定を使用します。

説明: 個人のサブミット設定が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2135E ユーザー *username* のサブミット設定はすでに存在します。

説明: このユーザーのサブミット設定はすでに存在しています。

ユーザーの処置: ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2136I すべての結果表が正常に除去されました。

説明: すべての結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2137I ドロップする既存の結果表がありません。

説明: ドロップする結果表がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2138I ユーザー *username* に所属する結果表が正常に除去されました。

説明: 結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2139I ユーザー *username* に属す結果表がありません。何も除去されませんでした。

説明: ドロップする結果表がありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2140I 照会 *queryID* の結果表が正常に除去されました。

説明: 結果表がドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2141I 照会 *queryID* の結果表が存在しません。何も除去されませんでした。

説明: 指定された照会の結果表が存在しません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2142E 照会 *queryID* が正しい状態にありません。

説明: 照会は、コマンドを実行する正しい状態ではありません。

ユーザーの処置: 照会の状態を確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2143E 無効な時間単位 *timeunit* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。

説明: パラメーターに指定された時間単位は無効です。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しい訂正単位を指定し、コマンドを再実行してください。

DQP2144E 指定されたパラメーター *parametername* は正しくありません。

説明: 指定されたパラメーターは正しくありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2145E パラメーター *parametername* を指定する必要があります。

説明: 指定されたコマンド構文は正しくありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2146E 誤った値 *value* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。

説明: パラメーターに対して誤った値が指定されました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。パラメーター値を訂正して、再度コマンドを発行してください。

DQP2147E パラメーター *parametername* の値が欠落しています。

説明: 必要なパラメーター値がコマンドから欠落しています。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。必要なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2148E 予期しないキーワード *keyword*、予期されているキーワードは *keyword* である可能性があります。

説明: コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2149E 予期しないコマンドの終わり。予期される値には、*value* が含まれている可能性があります。

説明: コマンドで構文エラーが検出されました。

コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2150E パラメーター *parametername* を複数回指定することはできません。

説明: パラメーター *parametername* が複数回指定されました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2151E パラメーター *parametername* のデフォルト値はありません。

説明: このパラメーターには、デフォルト値はありません。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。有効なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2152E パラメーター *parametername* の値を NULL にすることはできません。

説明: パラメーター *parametername* の値を指定してください。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。このパラメーターの値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2153E パラメーター *parametername* の値は、単一引用符で囲む必要があります。

説明: このパラメーターは、単一引用符で囲む必要があります。

ユーザーの処置: コマンドの実行方法の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。パラメーター値を単一引用符で囲んで、再度コマンドを発行してください。 the command.

DQP2154E この照会は現在実行中ではなく、照会の状況は不明です。

説明: 照会は実行中ではありませんが、その最終状況を判別できません。正常に完了しているか、または失敗している可能性があります。これは、次のシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- この照会の実行中に、Query Patroller サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了、またはDB2 への接続の強制切断が起きた。
- この照会が待機または実行中に、DB2 サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会完了状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、Query Patroller サーバーが応答しない。

ユーザーの処置: 照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

DQP2155E ユーザー *username* は一時停止されています。

説明: このユーザーは照会をサブミットしたり、Query Patroller のコマンドを実行する許可を持っていません。

ユーザーの処置: データベース管理者にこのユーザーのサブミッター・プロファイルを再活動化するよう要求してください。

DQP2156E Query Patroller サーバーとの通信がタイムアウトになりました。

説明: DB2 サーバーは、予想時間枠内に Query Patroller サーバーへの接続または通信ができません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーが一時的に多重定義となっているため、通常の応答時間より時間がかかりました。システムのワークロードをチェックして、Query Patroller システムが、最適なパフォーマンスのために正しく調整されていることを確認してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

問題が続く場合、IBM サービス担当者に連絡してください。

DQP2157E ユーザー *username* のサブミット設定が存在しません。

説明: このユーザーに対する既存のサブミット設定がありません。

ユーザーの処置: ユーザーのサブミット設定を作成するか、既存のサブミット設定を持つユーザー名を指定してください。

DQP2158E ユーザー *username* に属するサブミット設定を自分自身にコピーすることはできません。

説明: サブミット設定を自身にコピーすることはできません。

ユーザーの処置: 別のユーザー名を指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2159I 照会 *queryID* の照会情報が除去されました。

説明: *queryID* 照会に関連した既存の情報はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2160I 照会 *queryID* の履歴情報が除去されました。

説明: *queryID* 照会に関連した既存の履歴情報はありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2161I すべての照会情報が除去されました。

説明: 照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2162I すべての履歴照会情報が除去されました。

説明: 履歴照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2163I 照会 *queryID* が取り消されました。

説明: 照会が取り消されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2164I *number* の照会の照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。

説明: *timeunit* より古い照会に関連する情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2165I *number* の照会の履歴照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。

説明: *timeunit* より古い照会に関連する履歴情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2166E 照会 *queryID* を取り消すことはできません。照会がすでに完了、キャンセル、またはアポートしています。

説明: 照会がすでに完了、キャンセル、またはアポートしているため、照会 *queryID* をキャンセルすることはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2167E 予期しないキーワード *keyword* です。コマンドの終わりを予想しました。

説明: コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。構文を訂正し、コマンドを再入力してください。

DQP2168I 指定されたすべての照会の情報が除去されました。

説明: 照会情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2169I 指定されたすべての照会の履歴情報が除去されました。

説明: 照会の履歴情報が除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2170I *Number* の結果表のうち、*timeunit* よりも古いものがドロップされました。

説明: *timeunit* より古いため、結果表は除去されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2171I Query Patroller は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。

説明: 履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

ユーザーの処置: 処理済みの照会の数と履歴データ用に生成された照会の数とが同じであれば、アクションは必要ありません。

そうではない場合、このメッセージが表示された原因について *qpdiag.log* を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2172I 照会クラスの更新には、かなり時間がかかる場合があります。現在待機中の照会および新たにサブミットされる照会は、このプロセスが完了するまで待機中になります。

説明: 照会クラスの更新には、完了までかなり時間がかかる場合があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2173E 照会クラスの更新が進行中です。この時には、別の更新を実行することはできません。

説明: 別の照会クラスの更新が進行中の場合には、照会クラスの更新を実行することができません。

ユーザーの処置: 現行の更新が完了してから、コマンドを再実行してください。

DQP2174I 照会クラスの最大数を超えました。

説明: 照会クラスの最大数に到達しました。新規照会クラスを作成できません。

ユーザーの処置: 既存の照会クラス数を減らしてください。

DQP2175I 同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在するか、照会クラスの最大数を超えました。

説明: 照会クラスの最大数に到達しました。新規照会クラスを作成できません。

照会クラスにはユニークな照会コスト値が必要です。

ユーザーの処置: 既存の照会クラス数を減らし、すべての照会クラスにユニークな照会コスト値があることを確認してください。

DQP2176E キーワード *keyword* の長さが最大許可長を超えています。

説明: 指定されたキーワードの長さが、最大許可長を超えています。

ユーザーの処置: キーワードが有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2177E PUBLIC サブミッター・プロファイルを指定することはできません。

説明: デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルが存在する場合は、自動的に使用されません。サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができます。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

DQP2178E 無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

説明: 無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

ユーザーの処置: 正しいユーザー名とパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2179I 履歴照会情報が存在しません。

説明: 情報が存在しないため、照会の中には履歴情報を除去できないものがあります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2180W 照会 *queryid* は現在バックグラウンドで実行中です。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2181E 結果セットの行数が結果表に入れることのできる行数を超えているため、照会が打ち切られました。

説明: この照会がバックグラウンドで実行されていたか、またはいったん保留されてから開放されたため Query Patroller は、この照会に対する結果表を作成しようとしていました。このサブミッターのサブミット設定は、イベントで結果セットが許可されている最大セットより大きいため、結果が戻らないことを示しました。

照会から戻った行数が、この照会をサブミットしたサブミッター・プロファイルの指定した結果表の最大サイズを超過した場合、Query Patroller は照会を打ち切ります。

ユーザーの処置: 照会から戻る行数を減らすか、あるいは管理者または演算子に結果表で許可される行数を増やすよう要求してください。照会がバックグラウンドで実行されている場合は、照会を開放せず結果を待機するようにしてください。

DQP2182I 保留照会 *queryid* が実行されています。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2183E 照会 *queryid* は、バックグラウンドで実行できません。

説明: 指定された照会はバックグラウンドで実行できません。

ユーザーの処置: バックグラウンドで実行できる照会クラスに関しては、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP2184E *time-unit* より古い結果表は存在しません。

説明: 結果表が存在しません。何も除去されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2185I *time-value* より古い照会情報は存在しません。

説明: 照会情報が存在しないため、除去することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2186I *time-value* より古い履歴照会情報は存在しません。

説明: 履歴照会情報が存在しないため、除去することができません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2187W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

DQP2188W

説明: ユーザーに対する新規サブミット設定が正常に追加されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2188W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミット設定が正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2189W ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2190W ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2191W グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対するサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。ただし、変更を反映するため

の Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2192W グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対する新規サブミッター・プロファイルが正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2193W Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2194W ユーザー *username* のサブミット設定が正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミット設定が正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2195W ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2196W グループ *groupname* のサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。

説明: グループに対するサブミッター・プロフィールが正常に除去されました。ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

ユーザーの処置: Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

DQP2197I 照会 *queryID* は除去できません。

説明: 照会情報を除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2198E 照会 *queryID* の結果セットを表示またはファイルできません。結果セットが存在しません。

説明: 照会の結果セットが存在しません。このエラーは、照会が SELECT ステートメントではない場合、結果セットが手動でドロップされた場合、またはクライアント・アプリケーションが結果宛先として指定される場合に生じる可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2199W 管理対象照会に対して指定されたページ期間が、結果表に対して指定されたページ期間より短くなっています。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。

説明: 管理対象照会に対して指定されたページ期間が、結果表に対して指定されたページ期間より短くなっています。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。そのため、結果表のページ期間は無視されます。

ユーザーの処置: 管理対象照会に対するページ期間を、結果表に対するページ期間以上になるよう設定してください。

DQP2200W 履歴照会に対して指定されたページ期間が、管理対象照会に対して指定されたページ期間より短くなっています。履歴照会が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。

説明: 履歴が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。そのため、管理対象照会の管理対象ページ期間は無視されます。

ユーザーの処置: 履歴照会に対するページ期間を、管理対象照会に対するページ期間以上になるよう設定してください。

DQP2202I 履歴分析データ生成プログラムがユーザーによって停止されました。停止の前に、Query Patroller は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。

説明: 独立したプロセスで GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドが発行されました。履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2203I 履歴データの生成の停止を試行中です。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2204I 現時点で Query Patroller は履歴データを生成していません。

説明: 現時点で履歴データがデータを生成していないため、Query Patroller は GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドを発行できません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2205E 照会サブミッターだけがバックグラウンドで照会を実行できます。

説明: 照会をバックグラウンドで実行するには、照会を元々実行したサブミッターでなければなりません。

ユーザーの処置: 照会をバックグラウンドで実行することの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP2206E パラメーター *parameter1* の値は、パラメーター *parameter2* が *parameter2-value* に設定されたときのように設定する必要があります。

説明: *parameter1* の値を設定する必要があります。

ユーザーの処置: パラメーター *parameter1* の値を指定して、再度コマンドを発行してください。

DQP2207E コマンドは正常に完了しました。

説明: このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2208E 指定されたコマンドの長さが、最大許可長を超えています。

説明: コマンドの長さが長すぎます。

ユーザーの処置: コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

コマンドを再発行してください。

DQP2209W この照会を解放すると、システムは最大システム・ワークロード・コストを超過するワークロードを実行します。

説明: 解放される照会には、システム・ワークロード・コストを超えるコストがかかります。照会が保留状態から解放されると、Query Patroller はキューに入れられた他の照会がなくなるまで、その照会をキューに入れていきます。

これは、この照会と同時に実行される他の照会が存在しないことを保証するものではありません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2210E キュー照会は存在しなくなりました。照会の状況は打ち切られています。

説明: 照会はキューに入れられて、実行を開始しませんでした。これは、以下のいずれかのシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- 照会が待機中に、DB2 サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、Query Patroller サーバーが応答しない。

ユーザーの処置: 照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査

してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

DQP2211E 履歴分析データ生成プログラムが現在実行中であるため、実行することができません。

説明: 1 つのデータベースで一度に実行できる履歴分析データ生成プログラムは 1 つだけです。

ユーザーの処置: 現在実行中の履歴分析データ生成プログラムが完了するのを待ってから、もう一度実行してみてください。または、Query Patroller の GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドを発行して、現在実行中の履歴分析データ生成プログラムを停止してください。

DQP2212W 指定した照会の結果は、ファイル *filename* へ正常に保管されましたが、ユーティリティーに警告が出されました。詳しくは、メッセージ・ファイル *message-file* を参照してください。

説明: DB2 Query Patroller は、DB2 エクスポート・ユーティリティーを使用して、照会結果を保管またはファイルします。結果は正常にファイルへエクスポートされましたが、DB2 エクスポートは、警告を含むメッセージ・ファイル *message-file* を生成しました。

ユーザーの処置: 警告を見るには、メッセージ・ファイルを参照してください。DB2 エクスポート・ユーティリティーの詳細は、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

DQP2213W 1 つ以上の結果表を除去できませんでした。

説明: 1 つ以上の結果表を除去できませんでした。このエラーは、ユーザーが不十分な権限を持っているときに発生する可能性があります。

ユーザーの処置: qpuser.log ファイルを参照して、除去できなかった結果表を探し出し、このメッセージの考えられる原因を判別してください。

DQP2214E ユーザー *username* には、照会 *queryID* の結果表を除去する権限がありません。

説明: ユーザーが十分な権限を持っていないため、結果表を除去できません。

ユーザーの処置: 結果表をドロップするときの許可要件については、Query Patroller の資料を参照してください。

DQP2215E DYN_QUERY_MGMT が使用不可であるため、Query Patroller は照会 *queryid* を保留解除できません。

説明: 照会を保留状態から解除するには、データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能にする必要があります。現在は使用不可です。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能状態に更新するよう管理者に依頼し、保留状態からの照会の解除を再試行してください。

DQP2216E DYN_QUERY_MGMT が使用不可であるため、Query Patroller は照会 *queryid* をバックグラウンドで実行できません。

説明: 照会をバックグラウンドで実行するには、データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能にする必要があります。現在は使用不可です。

ユーザーの処置: データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能状態に更新するよう管理者に依頼し、照会のバックグラウンドでの実行を再試行してください。

DQP2217E Query Patroller は、エラーのために履歴データを生成できませんでした。
SQLCODE = *sqlcode*

説明: 履歴データを生成しようとしてエラーが発生しました。履歴データは生成されませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpdiaq.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2218I ユーザー *user-id* のサブミット設定が正常に追加されました。ユーザーが、サブミッター・プロファイルの選択されているグループに属していない場合、Query Patroller は、ユーザーによってサブミットされた照会を処理するときに、別のサブミッター・プロファイルを自動的に選択します。

説明: 指定したユーザーの照会サブミット設定は正常に作成され、グループ・サブミッター・プロファイルが選択されました。指定したユーザーがグループに属していないか、グループに属さなくなった場合、照会をサブミットするときに、Query Patroller は、ユーザーが属するグループからもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択します。

ユーザーの処置: 照会がサブミットされるときに、ユーザーがサブミッター・プロファイルの指定されたグループに属していることを確認してください。そうではない場合、Query Patroller がもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択するようにしてください。

第 96 章 DQP2500 - DQP2999

DQP2505I データベース・パーティション・グループ *dbpartitiongroupname* は存在しません。
qpsetup コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。

説明: 指定されたデータベース・パーティション・グループが存在しません。

ユーザーの処置: **qpsetup** コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。

DQP2506E 1 つ以上の Query Patroller のコントロール表がすでに存在します。

説明: 1 つ以上の Query Patroller のコントロール表が見つかりました。**qpsetup** コマンドを実行できません。

ユーザーの処置: コントロール表が有効で完全であるか、確認してください。このコントロール表を、新規のコントロール表と置き換えたい場合、**REPLACE** オプションを指定して、**qpsetup** コマンドを再実行してください。

DQP2507E 表スペース *tablespacename* は存在しません。**qpsetup** コマンドを実行できません。

説明: 指定された表スペース名が存在しません。

ユーザーの処置: 表スペース名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

DQP2508E スキーマ *schemaname* はすでに存在しません。コマンド *commandname* を実行できません。

説明: 指定されたスキーマ名がすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニークなスキーマ名を指定して、コマンドを再実行してください。

DQP2516E パッケージ *package-name* をバインドできません。理由 *reason*。

説明: パッケージをバインドしようとして失敗しました。

ユーザーの処置: この失敗が **SQLCODE** によって発生した場合、詳細についてはメッセージ・リファレンスを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サ

ポートに連絡してください。

DQP2518E Query Patroller のコントロール表が存在しません。

説明: Query Patroller のコントロール表が、指定されたデータベースでは見つかりません。

ユーザーの処置: **qpsetup** コマンドを発行して、Query Patroller のコントロール表を作成してください。

DQP2519E 結果表スペース情報を指定した **DB2QP.QP_SYSTEM** 表の更新ができませんでした。理由 = *reason*。

説明: **qpsetup** コマンドは、結果表スペースを指定した **QP_SYSTEM** 表を更新しようとしたのですが、この更新は失敗しました。

ユーザーの処置: 理由を分析して問題を生成し、コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2520W スキーマ *schema-name* はすでに存在しません。**qpsetup** コマンドが、このスキーマを使用して Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。

説明: スキーマが指定されたデータベースにすでに存在します。**qpsetup** コマンドが、このスキーマに Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。このスキーマに存在する DB2 の表は、**REPLACE** オプションが **qpsetup** コマンドで指定されない限り、置き換えられません。

ユーザーの処置: 既存の表に Query Patroller のコントロール表と同じ名前の表がある場合は、別のスキーマに移動してください。

DQP2521E 表スペース・コンテナ *container-path* はすでに使用中です。

説明: 指定された表スペース・コンテナのパスは、別のアプリケーションで使用されています。

ユーザーの処置: パスを確認し、コマンドを再実行してください。

DQP2522E **qpsetup** コマンドは失敗しました。このコマンドで作成されたすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップします。

説明: qpsetup コマンドは失敗しました。表スペース、表、関数、プロシージャなどのすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップします。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpsetup.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

DQP2523I **qpsetup** コマンドが正常に終了しました。

説明: qpsetup コマンドが正常に終了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2526I パッケージ *package-name* が正常にバインドされました。

説明: Query Patroller はパッケージを正常にバインドしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2604I **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが正常に完了しました。

説明: Query Patroller の移行クリーンアップは正常に完了し、バージョン 7 の Query Patroller の表、ビュー、およびトリガーはすべてドロップされました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2605E **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが失敗しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller のデータベース・オブジェクトを移行中に、致命的エラーを検出しました。クリーンアップは正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2606W **Query Patroller** バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが警告を出して完了しました。

説明: Query Patroller の移行クリーンアップは、バージョン 7 の Query Patroller 表を削除している間に警告を

検出しました。ただし、処理は正常に完了している可能性があります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2607I **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行は正常に完了しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは正常に完了しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2608E **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が失敗しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に致命的エラーを検出しました。移行は正常に完了しませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2609W **Query Patroller** のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が警告を出して完了しました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に警告を検出しましたが、移行は正常に完了した可能性があります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

DQP2610E 先に進む前に、**Query Patroller** を停止してください。

説明: Query Patroller 移行ツールを実行する前に、Query Patroller サーバーを停止しておく必要があります。

ユーザーの処置: qpsstop コマンドを発行して、Query Patroller サーバーを停止してください。

DQP2611W ユーザー *username* のユーザー・プロファイルが移行されていません。SQLCODE = *SQLCODE*。

説明: ユーザーは移行されていません。

ユーザーの処置: このメッセージが表示された原因については、SQLCODE を参照してください。

DQP2612I Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が正常に完了しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES に移行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2613W Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が完了しましたが、警告が出されました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF から、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES へ移行する間に警告を検出しました。

ユーザーの処置: 移行されていないユーザーのリストについては、qpmigrate.log を参照してください。ユーザー名の競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

DQP2614W Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が失敗しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、ユーザーおよびグループ・プロファイル情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

DQP2615I Query Patroller のシステム構成の移行が正常に完了しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM に正常に移行されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP2616W Query Patroller のシステム構成の移行が完了しましたが、警告が出されました。

説明: Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からバージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM へ移行している間に警告を検出しました。さまざまなジョブ・キューがすでに表に存在している可能性があります。

ユーザーの処置: マイグレーションされていないジョブ・キューのリストについては、qpmigrate.log ファイルを参照してください。ジョブ・キューの競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

DQP2617E Query Patroller のシステム構成の移行が失敗しました。

説明: バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、システム構成情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

DQP2625W バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID queryid のマイグレーションが失敗しました。これは同一の最大照会コスト querycost を持つ項目がすでに存在するためです。

説明: Query Patroller の移行は、移行されようとしている照会クラスと同一の最大コストを指定した QUERY_CLASS コントロール表で、項目を検出しました。同一の最大コストを指定した項目は許可されません。

ユーザーの処置: 最大コストの競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合、マイグレーションする照会クラスの最大コストを変更して QUERY_CLASS コントロール表へ手動で挿入してください。

DQP2627W

DQP2627W バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID *queueID* の移行が失敗しました。これは、0 の最大照会コストを持つためです。

説明: バージョン 7 ジョブ・キューには、0 の最大照会コストがあります。0 の最大照会コストを持つ照会クラスに属する照会はありません。そのため、ジョブ・キューは移行されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 97 章 DQP3000 - DQP3499

DQP3000E この照会クラスの最大照会数は、**Query Patroller** システムの照会数より小さくなければなりません。

説明: 照会の最大数が、照会クラスおよび **Query Patroller** システム自体に対して設定されている可能性があります。 **Query Patroller** システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 照会クラスに対する最大照会数を低くするか、この照会数を増やすより先に **Query Patroller** システムに対する最大照会数を増やしてください。

DQP3001E この照会クラスの最大照会コストは、**Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストよりも小さくなければなりません。

説明: **Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: 照会クラスに対する最大照会コストを低くするか、この照会コストを増やすより先に **Query Patroller** システムに対する最大ワークロード・コストを増やしてください。

DQP3002E **Query Patroller** システムに指定された値よりも大きい最大照会数を持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。

説明: 照会の最大数が、照会クラスおよび **Query Patroller** システム自体に対して設定されている可能性があります。 **Query Patroller** システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: **Query Patroller** システムの最大照会数を増やすか、システムの最大数を低くできないようにしている照会クラスの最大数を減らしてください。

DQP3003E **Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストに指定された値よりも大きな最大照会コストを持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。

説明: **Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

ユーザーの処置: **Query Patroller** システムの最大ワークロード・コストを増やすか、システムの最大数を低くで

きないようにしている照会クラスの最大コストを減らしてください。

DQP3010E **PUBLIC** サブミッター・プロファイルを除去することはできません。

説明: **PUBLIC** サブミッター・プロファイルを除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

DQP3011E **USER** サブミッター・プロファイル名を指定することができません。

説明: コマンドは、**USER** サブミッター・プロファイル名の指定を受け入れません。 デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルが存在する場合は、自動的に使用されます。 サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができません。

ユーザーの処置: コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

DQP3012E **PUBLIC** サブミット設定を除去することはできません。

説明: **PUBLIC** サブミット設定を除去することはできません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 15 部 EXP メッセージ

このセクションには、Explain (EXP) メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

第 98 章 EXP0000 - EXP0499

EXP0001W 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインを処理または適用中に、予期しないエラーが発生しました。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: システム・エラーのために、エラーが発生しました。SQL ステートメントが正常に処理されましたが、最適化プロファイルを適用できませんでした。

ユーザーの処置: トレースがアクティブな場合は、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトから、独立トレース機能呼び出してください。技術サービス担当者に、以下の情報を知らせてください。

- 問題の説明
- EXPLAIN_DIAGNOSTICS 表と EXPLAIN_DIAGNOSTICS_DATA 表の内容
- db2diag.log
- トレース・ファイル (可能であれば)

EXP0002W 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインを処理するにはメモリー不足でした。

説明: 最適化プロファイルの処理を完了するために使用可能なメモリーが不足していました。

ユーザーの処置: アプリケーション・ヒープ・メモリーのサイズを増やして、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0003W SYSTOOLS スキーマ内の OPT_PROFILE 表は、欠落しているかまたは予期しないフォーマットです。

説明: オプティマイザーは SYSTOOLS スキーマの OPT_PROFILE 表から最適化プロファイルを読み取ろうとして失敗しました。オプティマイザーが表を検出できなかったか、想定されない表形式であったため読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 適切な形式で表を作成して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0004W 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインは、フォーマットが整っていないかまたは無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 最適化プロファイルの形式が無効であるため、オ

プティマイザーはこれを処理できませんでした。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマに適合する整形形式の有効な XML であることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0005W 最適化プロファイルは、処理できなかったか、または SYSTOOLS スキーマの OPT_PROFILE 表内に見つかりませんでした。

説明: ステートメントに関連した最適化プロファイルが、SYSTOOLS スキーマの OPT_PROFILE 表に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: OPTPROFILE バインド・オプションまたは CURRENT OPTIMIZATION PROFILE 特殊レジスターで識別される最適化プロファイルが表の中に含まれることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0006W 最適化プロファイル・キャッシュがメモリー不足のため、パフォーマンスに影響が出る可能性があります。

説明: 指定された最適化プロファイルを最適化プロファイル・キャッシュに挿入できませんでした。今後、これを使用するには、SYSTOOLS.OPT_PROFILE 表から再読み取る必要があります。このため、SQL コンパイル時間のパフォーマンスが低下する可能性があります。

ユーザーの処置: 構成パラメーター *catalogcache_sz* を使用してプロファイル・キャッシュのサイズを増やしてください。

EXP0007W REOPT エLEMENTの VALUE 属性が無効な値 *REOPT-value* を取っています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 行番号および文字番号で REOPT エLEMENTの VALUE 属性に指定された値 *REOPT-value* が無効です。

ユーザーの処置: 無効な REOPT 値を有効値に置き換えて、ステートメントを再コンパイルします。有効な最適化ガイドライン・ELEMENTのリストについては、最適化ガイドラインの資料を参照してください。

EXP0008W アクセス要求が無効です。TABID 属性で識別された表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: TABID 属性で指定された相関名を、最適化されたバージョンのステートメント内のどの相関名にもマップできませんでした。

ユーザーの処置: 無効な相関名を有効な名前に置き換えて、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0009W アクセス要求が無効です。TABLE 属性で識別された表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: TABLE 属性で示される公開/拡張された名前を、ステートメントで参照される表に関する公開/拡張されたどの名前にもマップできませんでした。

ユーザーの処置: 公開/拡張された無効な名前を有効な名前に置き換えて、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0010W アクセス要求が無効です。TABLE 属性で識別された表参照がユニークではありません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: TABLE 属性で示される公開/拡張された名前を複数の表参照にマップすることは許可されていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行してから、ステートメントを再コンパイルしてください。

- ステートメントを変更して、公開/拡張された名前を固有なものにしてください。
- 最適化されたステートメントで、表参照に関連した固有な相関名を使用してください。

EXP0011W アクセス要求が無効です。TABLE および TABID フィールドは同じ表参照を識別する必要があります。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: アクセス要求では、TABID 属性または TABLE 属性を使って表参照を識別することができます。両方を指定する場合は、同じ表参照を識別する必要があります。

ユーザーの処置: 間違った表参照を識別する属性をドロップするか、両方の属性が同じ表参照を示すようにして、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0012W アクセス要求が無効です。索引 *index-name* が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 索引スキャン、リスト・プリフェッチ、または索引 ANDing アクセス要求で、表に定義されていない索引が指定されました。

ユーザーの処置: 無効な索引名を、表に定義されている索引の名前に置き換えて、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0013W 索引 AND 演算アクセス要求が無効です。ブロック索引はレコード索引の前に置く必要があります。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 最適化ガイドラインで指定された索引 ANDing アクセス要求には、レコード索引の参照の前にブロック索引のすべての参照が含まれていません。スター型結合の索引 ANDing アクセス要求の場合、この要求は半結合内部のファクト表の索引アクセスに適用されます。

ユーザーの処置: 無効な索引 ANDing アクセス要求を有効な要求に置き換えて、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0014W アクセス要求または結合要求が無効です。エレメントのデータ長が、該当タイプの DB2 最大値を超えているため、適用できません。エレメント *element*、行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

EXP0015W 結合要求が無効です。結合が、同じ FROM 節内にはない表を参照しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 結合要求の中に、同じ FROM 節内にはない表の参照が含まれています。

ユーザーの処置: 結合要求の中のすべてのアクセス要求が、最適化されたステートメントの同じ FROM 節内の相関名または表名を参照するようにして、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0016W 結合要求が無効です。結合従属関係が矛盾しています。

説明: 相関列参照のために互いに依存するいくつかの派生表を結合しようとしてしました。

ユーザーの処置: 結合要求を修正して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0017W 組み込み最適化ガイドラインを含むコメントがステートメント内で複数見つかりました。

EXP0019W アクセス要求が無効です。指定された関連名と表名の表が見つかりません。DB2 は表の MQT を置換しました。

EXP0020W 表に統計がありません。表 *schema.table-name* 上で *runstats* が実行されていません。その結果、アクセス・プランが最適ではなく、ローパフォーマンスになる可能性があります。

EXP0021W 表列に統計がありません。表 *schema.table-name* の列 *column-number* 上で *runstats* が実行されていません。そのため、カーディナリティーおよび述部フィルターの見積り目の正確さが低くなる可能性があります。

EXP0022W 索引に統計がありません。索引 *schema.index-name* 上で *runstats* が実行されていません。そのため、カーディナリティーおよび述部フィルターの見積り目の正確さが低くなる可能性があります。

EXP0023W 最適化ガイドラインが別のガイドラインと重複しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 同じターゲットを持つ同じ最適化ガイドラインが存在します。

ユーザーの処置: 重複するガイドラインを除去してください。

EXP0024W 最適化ガイドラインが別のガイドラインと対立しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ターゲットが同じで、オプションが互いに対立する複数の最適化ガイドラインが存在します。

ユーザーの処置: 対立するいずれかのガイドラインを除去して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0025W 最適化ガイドラインがあいまいです。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 最適化ガイドラインのターゲットが固有ではありません。

ユーザーの処置: ターゲットが固有になるようガイドラインを調整して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0026W オプション *option* が無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 指定のオプションは無効です。

ユーザーの処置: オプションを訂正して、ステートメントを再コンパイルしてください。

EXP0027W 列名が表参照なしで指定されています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 列名を修飾する TABLE 属性または TABID 属性が必要です。

ユーザーの処置: TABLE または TABID 属性を使ってガイドライン内の列を修飾して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0028W 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されたため、最適化ガイドライン SUBQ2JOIN は適用されませんでした。

説明: SUBQ2JOIN の前提条件が満たされないか、他の再作成規則によってステートメントが変更されました。

ユーザーの処置: この警告を無視するか、エレメントを除去してください。

EXP0029W 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されたため、最適化ガイドライン INLIST2JOIN は適用されませんでした。

EXP0030W 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されているため、最適化ガイドライン NOTEX2AJ は適用されませんでした。

説明: NOTEX2AJ の前提条件が満たされないか、他の再作成規則によってステートメントが変更されました。

ユーザーの処置: この警告を無視するか、エレメントを除去してください。

EXP0031W 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されているため、最適化ガイドライン NOTIN2AJ は適用されませんでした。

説明: NOTIN2AJ の前提条件が満たされないか、他の再作成規則によってステートメントが変更されました。

ユーザーの処置: この警告を無視するか、エレメントを除去してください。

EXP0032W IN リスト述部が見つかりませんでした。行番号 *line-number*。

説明: 指定された表参照および列名に一致する IN リスト述部が存在しません。他の再作成規則によって IN リスト述部が除去された可能性があります。

ユーザーの処置: TABLE、TABID、または COLUMN 属性が誤っている場合はそれを訂正して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0033W アクセス要求が無効です。MQT 名を突き合わせることができませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 指定された名前とスキーマを持つ MQT が存在しません。

ユーザーの処置: MQT が存在すること、および指定した名前とスキーマが正しいことを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0034W アクセス要求が無効です。表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

EXP0035W ガイドラインは適用されません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 指定されたガイドラインをステートメントに適用できませんでした。データベースの限度に達したか、ガイドラインが最適化レベルで許可されていない可能性があります。

ユーザーの処置: 現在の最適化レベルでガイドラインがサポートされていない場合は、レベルを変更してステートメントを再コンパイルします。

EXP0036W アクセス要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* の索引は正しい ID ではありません (区切り文字で区切られていない限り、索引名は前後に空白を取りません)。

EXP0037W 設定要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* のスキーマは正しい ID ではありません (区切り文字で区切られていない限り、スキーマ名は前後に空白を取りません)。

EXP0038W 設定要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* の MQT は正しい ID ではありません。

EXP0039I 照会複合度測定。任意の照会ブロック内での結合の最高数: *joins*。

EXP0040I 列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

EXP0041I バイアス防止のための列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

EXP0042I 列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあることがあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

EXP0043I バイアス防止のための列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあることがあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

EXP0044W MQTENFORCE エLEMENTの TYPE 属性に関する最適化ガイドラインで無効値が指定されました。行番号 *line-number*、列番号 *column-number*。

説明: TYPE 属性を持つ MQTENFORCE エLEMENTを含んでいるオプティマイザー・プロファイル・ガイドラインが、TYPE に無効値を指定しようとした。この属性の有効な値は NORMAL、REPLICATED、および ALL です。

ユーザーの処置: TYPE 属性に NORMAL、REPLICATED、ALL のいずれかを指定してください。

EXP0045W 表 *schema.table-name* には、ファブリケーションされた統計があります。そのため、カーディナリティーおよび述部フィルターの見積り目の正確さが低くなる可能性があります。RUNSTATS コマンドが最後に実行されてから、表のサイズが大幅に変わっています。

説明: ファブリケーションとは、通常のRUNSTATS アクティビティーの一部として統計を収集するのではなく、統計を派生させること、または作成することです。例えば、表のページ数、ページ・サイズ、および平均の行幅が分かれば、表の行数を派生させることができます。

表で多数の更新が行われた場合、あるいは大幅な変更が行われた場合、統計は有効でなくなるため、RUNSTATS コマンドを再実行する必要があります。

ユーザーの処置: パフォーマンス低下を避けるために、RUNSTATS コマンドを使用して新しい統計を収集します。

EXP0046W MQTENFORCE エLEMENTに関する最適化ガイドラインで無効な属性が指定されました。行番号 *line-number*、列番号 *column-number*。

説明: MQTENFORCE エLEMENTを含んでいるオプティマイザー・プロファイル・ガイドラインが、MQTENFORCE に無効な属性を指定しようとした。このELEMENTの有効な属性は、NAME および TYPE です。

ユーザーの処置: MQTENFORCE エLEMENTに NAME または TYPE のいずれかを指定してください。

EXP0047W DPFXMLMOVEMENT エLEMENTの VALUE 属性の値 *DPFXMLMOVEMENT-value* が無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: DPFXMLMOVEMENT エLEMENTの VALUE 属性の値が無効です。

パーティション・データベース環境では、DPFXMLMOVEMENT 要素の VALUE 属性は、データベース・パーティション間で XML 文書を移動する際のオプティマイザーの計画に影響を及ぼします。VALUE 属性の値として、以下のいずれかが可能です。

- REFERENCE を指定した場合、TQ 演算子を介して XML 文書の参照が移動されます。XML 文書はソース・パーティション上に残ります。
- COMBINATION を指定した場合、いくつかの XML 文書が TQ 演算子を介して移動され、他の XML 文書の参照が TQ 演算子を介して移動されます。

デフォルトでは、VALUE 属性を指定しない場合、オプティマイザーはパフォーマンスを最大化するために、REFERENCE と COMBINATION のどちらで XML 文書を移動するかをコストに基づいて決定します。

ユーザーの処置: DPFXMLMOVEMENT エLEMENTの VALUE 属性を有効な値に変更してください。

EXP0051W 以下の MQT は、外れ値述部が見つからなかったため、適格ではありませんでした：*schema.table-name*。

EXP0052W 以下の MQT または統計ビューは、最適化プロファイルに指定されたどの MQT とも一致しなかったため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした：*schema.table-name* 。

EXP0053W 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、分離レベルが照会の分離レベルより下位であるため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした：*schema.table-name*。

EXP0054W 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、CURRENT REFRESH AGE レジスターが ANY に設定されていなかったため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした：*schema.table-name* 。

EXP0055W 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、CURRENT MAINTAINED TABLE TYPES FOR OPTIMIZATION レジスタ—または DFT_MTTB_TYPES 構成パラメーターが ALL、SYSTEM、または USER に設定されていなかったため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

EXP0056W 以下の FEDERATED_TOOL MQT は、CURRENT MAINTAINED TABLE TYPES FOR OPTIMIZATION レジスタ—または DFT_MTTB_TYPES 構成パラメーターが FEDERATED_TOOL に設定されていなかったため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

EXP0057W 以下の MQT または統計ビューは、再帰的 VIEWS に基づいていたか、SELECT、GROUP BY、および UNION ALL 以外の SQL 構成を含んでいたため、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

EXP0058W 以下の MQT または統計ビューは、次の 1 つ以上の理由により、再作成突き合わせの対象として考慮されませんでした。(1) MQT が SET INTEGRITY PENDING 状態だった、(2) MQT が SET INTEGRITY PENDING 状態になりそうだった、(3) MQT が同じステートメント内で変更された、(4) MQT または統計ビューで最適化が有効ではなかった。
schema.table-name。

EXP0059W 以下の MQT または統計ビューは、(1) MQT に照会にはない余分の表結合または GROUP BY 列があったか、または (2) 照会に ORDER BY、FETCH FIRST n ROWS、DISTINCT などの SQL 構成が含まれていたか、突き合わせ不能な副照会が含まれていたか、いずれかの理由で適格ではありませんでした:
schema.table-name。

EXP0060W 以下のマテリアライズ照会表 (MQT) または統計ビューは、照会最適化に関して適格ではありませんでした:
schema.table-name。この MQT で指定されている 1 つ以上の表、ビュー、または副照会が、Explain されている照会の中で見つからなかったため、この MQT は照会最適化に使用できません。

説明: マテリアライズ照会表 (MQT) を使用すると、照会のパフォーマンスを向上させることができます。オプティマイザーは、MQT を使用して、複合照会の応答時間を向上させます。さらに、統計ビューを使用して照会のパフォーマンスを向上させることもできます。オプティマイザーは、ビューの統計を使用して、さまざまなプラン選択肢のコストの見積もり計算を向上させることができます。

指定された照会に Explain ユーティリティを実行するとき、その照会に含まれる表の 1 つに関する MQT に結合述部があるにもかかわらず、照会内にはその結合述部がないため、この結合述部が可逆でない場合に、このメッセージが返されます。結合述部が可逆なのは、結合される結合列がそれぞれの側の述語の参照整合性制約の主キーと外部キーで、この外部キーが NULL 不可である場合だけです。

ユーザーの処置:

1. db2exfmt ツールを使用して、照会の Explain プランを生成します。
2. Explain プランの最適化ステートメントを MQT 定義照会と比較します。
3. 余分の結合述部が、NULL 可能な外部キーがある参照整合性と合致しているかどうかを判別します。
4. 余分の結合述部が、NULL 可能な外部キーがある参照整合性と合致している場合は、以下の方法で外部キー列を変更します。

ビジネス・ロジックで外部キー値が NULL 以外と判別される場合は、外部キーを NULL 不可に定義します。

EXP0061W 以下の MQT または統計ビューは、MQT 内に照会より表結合が多かったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0062W 以下の MQT または統計ビューは、照会で参照される 1 つ以上の列または式が MQT 内に見つからなかったため適格ではありませんでした: *schema.table-name*。

EXP0063W 以下の MQT または統計ビューは、照会内の相関副照会が原因で、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0064W 以下の MQT または統計ビューは、MQT で使用されている UNION 構成が照会と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0065W 以下の MQT または統計ビューは、突き合わせできない GROUP BY 副照会または相関表式が含まれていたため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0066W 以下の MQT または統計ビューは、MQT または照会からの外部結合または副照会が突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 **match:**
schema.table-name。

EXP0067W MQT 拡張が *sqlcode* が原因で失敗したため、SQL 照会再作成で MQT 突き合わせは実行されませんでした。 *sqlcode*。詳細については、*sqlcode* の資料を参照してください。

EXP0068W 以下の MQT または統計ビューは、MQT または照会からの副照会が突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0069W 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に、ORDER BY、FETCH FIRST *n* ROWS、DISTINCT、または最大カーディナリティーの強制などの SQL 構成との相関関係があるため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0070W 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に、ORDER BY、FETCH FIRST *n* ROWS、DISTINCT などの SQL 構成、または最大カーディナリティーの強制があるため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0071W 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に DISTINCT SQL 構成があるため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0072W 以下の MQT または統計ビューは、照会内の GROUP BY 条件を MQT と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0073W 以下の MQT または統計ビューは、照会の 1 つ以上のデータ・フィルター述部を MQT と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0074W 以下の MQT は、照会と MQT の間で適切なバインディングが検出されなかったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0075W 以下の MQT または統計ビューは、内部に含まれる SQL 構成を補正して照会と突き合わせることができなかったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0077W 以下の MQT または統計ビューは、コンパイルできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

EXP0078W 以下の MQT または統計ビューは、等価またはより適切な候補が使用できる状態であったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0079W 以下の MQT は、この MQT に関する計画コストが高かったか、またはより適切な候補があったため、最終アクセス・プランに使用されませんでした。
schema.table-name。

EXP0080W ステートメントの現在の使用方法、または更新、削除、挿入を含むステートメント、またはサンプリングのような構文は、MQT マッチングを制限します。

EXP0081W 照会最適化レベルが 0、1、または 3 に設定されているため、SQL 照会再作成で MQT 突き合わせは実行されませんでした。

EXP0082W 以下の MQT または統計ビューは、MQT と照会との間で **FRIENDLY ARITHMETIC** 特性が一致しなかったため、適格ではありませんでした。
schema.table-name。

EXP0083W 最適化プロファイルで指定されたサーバーが照会で定義されていないために **EXPLAIN** 操作が失敗しました。指定されたサーバー: *server-name*。行番号: *line_number*。文字番号: *character_number*。

説明: EXPLAIN 表には、SQL および XQuery コンパイラーが SQL または XQuery ステートメントを解決するために作成するアクセス・プランに関する詳細な情報が含まれています。EXPLAIN 表のアクセス・プランは、db2exfmt コマンドを使用してテキスト形式で表示できます。

このメッセージは、EXPLAIN 表の内容を表示するために db2exfmt コマンドが呼び出されたが、指定された最適化ガイドラインでの問題により、前の EXPLAIN 操作が失敗した場合に返されます。

トークン *line_number* および *character_number* は、問題のある SERVER エレメントが指定されている XML 入力プロファイルの場所を示します。

ユーザーの処置:

1. 照会で定義されているデータベース・サーバーを指定する最適化プロファイルを使用してステートメントを再び EXPLAIN してください。
2. db2exfmt コマンドを使用して EXPLAIN 表の内容をフォーマットしてください。

EXP0084W ステートメントの最適化プロファイルで無効なオプション名が指定されたために **EXPLAIN** 操作が失敗しました。オプション名: *option_name*。サーバー名: *server-name*。

説明: EXPLAIN 表には、SQL および XQuery コンパイラーが SQL または XQuery ステートメントを解決するために作成するアクセス・プランに関する詳細な情報が含まれています。EXPLAIN 表のアクセス・プランは、db2exfmt コマンドを使用してテキスト形式で表示できます。

このメッセージは、EXPLAIN 表の内容を表示するために db2exfmt コマンドが呼び出されたが、指定された最適化ガイドラインでの問題により、前の EXPLAIN 操作が失敗した場合に返されます。特に、以下の条件のいずれかを満たすオプション名が指定される場合にこのメッセージが返されます。

- 存在しないオプション名が指定されている
- 指定されたデータ・ソースに対して無効である
- 指定されたデータ・ソースのタイプに対して無効である
- 指定されたデータベース・オブジェクトのタイプに対して無効である

ユーザーの処置:

1. 指定されたサーバーに対して有効なサーバー・オプション名を含む最適化プロファイルを使用してステートメントを再び EXPLAIN してください。
2. db2exfmt コマンドを使用して EXPLAIN 表の内容をフォーマットしてください。

EXP0085W ステートメントの最適化プロファイルで指定されたサーバーに対して無効なサーバー・オプションのいずれかに値が指定されたために **EXPLAIN** 操作が失敗しました。オプション名: *option_name*。オプション値: *option_value*。サーバー名: *server_name*。

説明: EXPLAIN 表には、SQL および XQuery コンパイラーが SQL または XQuery ステートメントを解決するために作成するアクセス・プランに関する詳細な情報が含まれています。EXPLAIN 表のアクセス・プランは、db2exfmt コマンドを使用してテキスト形式で表示できます。

このメッセージは、EXPLAIN 表の内容を表示するために db2exfmt コマンドが呼び出されたが、指定された最適化ガイドラインでの問題により、前の EXPLAIN 操作が失敗した場合に返されます。特に、適切な区切り文字が欠落しているオプション値、または無効なオプション値をサーバー・オプション設定の要求で指定される場合にこのメッセージが返されます。

ユーザーの処置:

1. 指定されたサーバーに対して有効なサーバー・オプション値を含む最適化プロファイルを使用してステートメントを再び EXPLAIN してください。
2. db2exfmt コマンドを使用して EXPLAIN 表の内容をフォーマットしてください。

EXP0086W ステートメントの最適化プロファイルでオプションが 2 度指定されたために **EXPLAIN** 操作が失敗しました。オプション名: *option_name*。サーバー名: *server_name*。

説明: EXPLAIN 表には、SQL および XQuery コンパイラーが SQL または XQuery ステートメントを解決するために作成するアクセス・プランに関する詳細な情報が含まれています。EXPLAIN 表のアクセス・プランは、db2exfmt コマンドを使用してテキスト形式で表示できます。

このメッセージは、EXPLAIN 表の内容を表示するために db2exfmt コマンドが呼び出されたが、指定された最適化ガイドラインでの問題により、前の EXPLAIN 操作が失敗した場合に返されます。

ユーザーの処置:

1. 重複オプションをドロップしてください。
2. オプションを 1 つだけ含む最適化プロファイルを使用してステートメントを再び EXPLAIN してください。
3. db2exfmt コマンドを使用して EXPLAIN 表の内容をフォーマットしてください。

EXP0147W 次の統計ビューは、カーディナリティーを見積もるためにオプティマイザーによって使用されました: *schema.table-name*。

説明: このメッセージは、指名された統計ビューをオプティマイザーが検出し、その統計に対するアクセス権がオプティマイザーにあることを示します。

DB2 のコスト・ベースのオプティマイザーは、アクセス・プラン演算子で処理される行数つまりカーディナリティーの見積もりを使用して、その演算子のコストを正確に計算します。このカーディナリティー見積もりの正確さは、runstats ユーティリティーがデータベースから収集する統計に応じて大きく異なります。オプティマイザーは、統計ビューにアクセスせずに演算子のコストを見積もることもできます。統計ビューにアクセスせずに計算したカーディナリティー見積もりが、統計ビュー情報を使用して計算した見積もりと同じになる場合もあります。

オプティマイザーが統計ビューを使用して演算子のコストを見積もる方法について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターのトピック『統計ビュー』を参照してください。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

EXP0148W 以下の MQT または統計ビューが、照会突き合わせで考慮されました。
schema.table-name。

EXP0149W (検討対象になった MQT のうち) 以下の MQT が照会突き合わせで使用されました: *schema.table-name*。

EXP0150W (検討対象になった MQT のうち) 以下の MQT または統計ビューが照会突き合わせで使用されませんでした。
schema.table-name。

EXP0151W 度合いの値が無効です。度合いの要求として指定されたストリングが無効です。行番号 *number*、文字番号 *number*。

説明: 度合いとして指定されたストリングが正しくないのでガイドラインは使用されません。

ユーザーの処置: ガイドラインで VALUE 属性として指定されたストリングが、ANY または -1 から 32767 の間の数値であることを確認してください。

EXP0152W 度合いの値が無視されます。指定の並列処理の度合いは、システムがパーティション内の並列処理ができないため、無視されず。行番号 *number*、文字番号 *number*。

説明: データベース・マネージャーがパーティション内並列処理用に構成されていません。

ユーザーの処置: パーティション内並列処理を使用する場合には、intra_parallel 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

EXP0153W 照会最適化の値が無効です。行番号 *number*、文字番号 *number*。

説明: qryopt 値として指定されたストリングが、受け入れ可能な値ではありません。

ユーザーの処置: サポートされている最適化レベルのリストについては、「管理ガイド」または「SQL リファレンス」を参照してください。

EXP0154W ステートメントは、ローカル・オブジェクトを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0155W

EXP0155W ステートメントは、ビューに更新操作が含まれるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0156W ステートメントは、列参照に 3 部構成の名前を使用するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0157W ステートメントは、ユーザー定義のデータ・タイプを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0158W ステートメントは、ユーザー定義関数を参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0159W ステートメントは、名前変更されたニックネームの列を参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0160W ステートメントは、DB2 特殊レジスタを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0161W ステートメントは、無効なサーバー・オプション値のために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

説明: ファースト・パス処理を有効にするためには、サーバー・オプションの COLLATING_SEQUENCE、VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS、および FASTPATH を「Y」に設定する必要があります。

EXP0162W ステートメントは、複数のサーバーからのニックネームを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0163W ステートメントは、従属のマテリアライズ照会表を伴うニックネームを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0164W ステートメントは、エラー許容度の指定が含まれるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0165W ステートメントは、1 つ以上の述部に lob パラメーターが必要となるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。

EXP0167W 時間値が無効です。時間予算として指定されたストリングが無効です。行番号 *line-num*、文字番号 *char-num*。

EXP0171I ランタイム実行が必要でない SQL ステートメントがコンパイルされました。

説明: このメッセージは、以下のいずれかが行われたことを示します。

- SET INTEGRITY ステートメントのオプションを、OFF、UNCHECKED、または FULL ACCESS に設定し、それにより表の状態が変更された。この場合、カタログのみが更新されます。ランタイム・セクションはありません。
- EXPLAIN REFRESH TABLE または SET INTEGRITY ステートメントを発行した。この場合は、表の保守は不要ということになります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。これらのタイプの DDL 操作では、ダミー・アクセス・プランが生成され、この診断メッセージが Explain 表に保管されません。

EXP0181W 索引 AND 演算アクセス要求が無効です。スター型結合ではない索引 ANDing アクセス要求に、子としての NLJOIN 要素が含まれます。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 'FALSE' に設定されている STARJOIN 属性を使用する索引 ANDing アクセス要求に、子としての 1 つ以上の NLJOIN 結合要求要素が含まれています。STARJOIN 属性が指定されていない場合、または 'TRUE' に設定されている場合にのみ、索引 ANDing アクセス要求に、子としての NLJOIN 結合要求を含めることができます。

ユーザーの処置: 最適化ガイドラインが、現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合し有効であるようにしてから、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0182W スター型結合の索引 ANDing アクセス要求が無効です。スター型結合の索引 ANDing アクセス要求には、'XMLINDEX' に設定された TYPE 属性が含まれます。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合アクセス要求として解釈された索引 ANDing アクセス要求には、'XMLINDEX' に設定された TYPE 属性を含めることができません。

ユーザーの処置: 最適化ガイドラインが、現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合し有効であるようにしてから、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0183W 結合要求が無効です。この要求は、サポートされていない別の類似の要求内にネストされています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合索引 ANDing アクセス要求を別のスター型結合索引 ANDing アクセス要求内またはジグザグ結合内にネストすることはできません。

ジグザグ結合要求を別のジグザグ結合要求内またはスター型結合索引 ANDing アクセス要求内にネストすることはできません。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよび結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0184W 同一の FROM 節内の表に対して、複数のスター型結合の索引 ANDing アクセス要求が見つかりました。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 同一の FROM 節内で参照される表に指定できるスター型結合の索引 ANDing アクセス要求は 1 つだけです。

ユーザーの処置: 最適化ステートメントの同一の FROM 節内の表に対して、1 つのスター型結合の索引 ANDing アクセス要求のみ存在するようにしてから、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0185W スター型結合索引 ANDing アクセス要求に予期しない子要素が含まれています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合アクセス要求として解釈された索引 ANDing アクセス要求に、NLJOIN 結合要求でない子要

素が含まれています。NLJOIN 結合要求要素のみがスター型結合の索引 ANDing アクセス要求の子になることができます。

ユーザーの処置: 最適化ガイドラインが、現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合し有効であるようにしてから、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0186W スター型結合の半結合の内部の子が、ファクト表を参照する IXSCAN アクセス要求要素ではありません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合の半結合 (スター型結合の索引 ANDing アクセス要求の NLJOIN 結合要求の子) は、内部の子として IXSCAN アクセス要求要素が必要です。さらに、この IXSCAN アクセス要求要素は、ネストされているスター型結合の索引 ANDing アクセス要求と同じ TABLE または TABID を参照している必要があります。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0187W ファクト表がスター型結合の半結合の外部アームで参照されています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合の半結合の外部アームにネストされているアクセス要求 (スター型結合の索引 ANDing アクセス要求の NLJOIN 結合要求の子) は、ネストされているスター型結合の索引 ANDing アクセス要求と同じ TABLE または TABID を参照できません。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0188W スター型結合の索引 ANDing アクセス要求が無効です。半結合 *semijoin-number* では、指定されたファクト表の索引の先頭の列を使用して "=" の結合述部を適用できません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ファクト表をスター型結合の半結合の内部アームで使用する場合 (スター型結合の索引 ANDing アクセス要求の NLJOIN 結合要求の子)、索引の最初の列は、ファクト表と NLJOIN の外部アームに指定されている表の 1 つの間にある "=" 結合述部で参照される必要があ

EXP0189W

ります。指定された索引では、そのような述部が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0189W スター型結合の索引 ANDing アクセス要求が無効です。半結合 *semijoin-number* では、索引の最初の列を使用して "=" 結合述部を適用できるファクト表索引が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ファクト表をスター型結合の半結合の内部アームで使用する場合 (スター型結合の索引 ANDing アクセス要求の NLJOIN 結合要求の子)、索引の最初の列は、ファクト表と NLJOIN の外部アームに指定されている表の 1 つの間にある "=" 結合述部で参照される必要があります。この要件を満たすファクト表の索引が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0190W スター型結合の索引 ANDing アクセス要求が無効です。INDEX 属性も、INDEX 子要素も許可されていません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: スター型結合アクセス要求として解釈された索引 ANDing アクセス要求には、INDEX 属性や INDEX 子要素を含めることができません。

ユーザーの処置: 現在の最適化プロファイル・スキーマおよびスター型結合のガイドライン規則に適合する整形式の有効な最適化のガイドラインであることを確認して、ステートメントを再コンパイルします。

EXP0191I 分離数量詞しきい値のため、結合列挙メソッドが変更されました。

EXP0201W ALLINDEXES 属性に無効値 *ALLINDEXES-value* が含まれています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ALLINDEXES 属性は、該当するすべての索引が 옵ティマイザーによって選択されることを示します。

ALLINDEXES 属性の有効な値は、次の 1 つだけです。

- TRUE。これは、該当するすべての索引が 옵ティマイザーによって選択されることを示します。

どの XML 索引を選ぶか、コストに基づいて 옵ティマイザーに決定させたい場合には、ALLINDEXES 属性を指定しないでください。

ユーザーの処置: ALLINDEXES 属性を有効な値に変更してください。

EXP0202W TYPE 属性に無効値 *type-value* が含まれています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: TYPE 属性は、要求が XML アクセス要求であるかどうかを決定します。

TYPE 属性の有効な値は、次の 1 つだけです。

- 値 'XMLINDEX' は、옵ティマイザーが XML 索引アクセス方式を選択する必要があることを指定します。

ユーザーの処置: TYPE 属性を有効な値に変更してください。

EXP0203W アクセス要求が無効です。索引 *index-name* は、この最適化ガイドラインでは無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: XISCAN 最適化ガイドラインの INDEX 属性では XML 索引を指定する必要があります。

ユーザーの処置: XISCAN エLEMENTの INDEX 属性が XML 索引を指定するように変更してください。

EXP0204W アクセス要求が無効です。INDEX 属性または INDEX ELEMENTで XML 索引 *index-name* が指定されましたが、TYPE 属性が XMLINDEX に設定されていません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ACCESS または IXAND 最適化ガイドラインの場合、TYPE 属性が XMLINDEX に設定されている場合に限り、INDEX 属性または INDEX ELEMENTで XML 索引を指定できます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- TYPE 属性を XMLINDEX に設定する。
- 指定された XML 索引を INDEX 属性または INDEX ELEMENTから除去する。

EXP0205W アクセス要求が無効です。
ALLINDEXES 属性が指定されましたが、**TYPE** 属性が **XMLINDEX** に設定されていません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: ACCESS または IXAND 最適化ガイドラインの場合、**TYPE** 属性が **XMLINDEX** に設定されている場合に限り、**ALLINDEXES** 属性を指定できます。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- **TYPE** 属性を **XMLINDEX** に設定する。
- **ALLINDEXES** の指定を除去する。

EXP0206W 最適化ガイドラインで、**INDEX** 属性または **INDEX** エlementと **ALLINDEXES** 属性の値が矛盾しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: **ALLINDEXES** 属性が **TRUE** に設定されている場合、最適化ガイドラインは該当するすべての索引を選択します。この場合、最適化ガイドラインによって選択される特定の索引を示すことはできません。

INDEX 属性または **INDEX** エlementを使って特定の索引だけを指定するには、**ALLINDEXES** 属性を指定しないでください。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを実行します。

- **ALLINDEXES** 属性を除去する。
- **INDEX** の指定を除去する。

EXP0207W 結合メソッドが **XML** タイプに適用できないため、最適化ガイドラインは適用されません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 結合列のタイプが **XML** である場合、**MSJOIN** 結合要求エlementまたは **HSJOIN** 結合要求エlementを指定することはできません。

ユーザーの処置: 結合列のタイプが **XML** である場合、結合タイプを変更して **NLJOIN** 要求エlementまたは **JOIN** 要求エlement (最適化ガイドラインが適切な結合タイプを選択できる) を指定してください。

EXP0208W アクセス要求が無効です。この種類のアクセス要求では、**XML** 索引 *index-name* が許可されていません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: **IXSCAN** または **LPREFETCH** 最適化ガイドラインでは **XML** 索引を指定できません。これらのガイドラインでは、リレーショナル索引だけを指定できます。

ユーザーの処置: **INDEX** 属性または **INDEX** エlement値を変更して、使用可能なリレーショナル索引を指定してください。

EXP0211W 最適化ガイドラインを使用して **SQL** コンパイラー・レジストリー変数 *registry-variable* を設定できません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 最適化ガイドラインで指定された **SQL** コンパイラー・レジストリー変数の設定が無視されました。そのレジストリー変数が存在しないか、このレジストリー変数を最適化ガイドラインで指定できないかのいずれかです。

ユーザーの処置: **SQL** コンパイラー・レジストリー変数 *registry-variable* を確認し、訂正してください。有効な **SQL** コンパイラー・レジストリー変数である場合、これは最適化ガイドラインでサポートされていないため、削除してください。

EXP0212W 最適化ガイドラインの **SQL** コンパイラー・レジストリー変数 *registry-variable* に対して無効な値が指定されています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: 最適化ガイドラインで **SQL** コンパイラー・レジストリー変数に対して指定されている値は無効であり、使用されていません。

ユーザーの処置: レジストリー変数の値を確認し、訂正してください。DB2 インフォメーション・センターを参照して、レジストリー変数の有効な値を確かめてください。

EXP0213W **XML** 最適化プロファイルでは空の **REGISTRY** ガイドライン・エlementは許可されていません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

説明: **XML** 最適化プロファイルの **REGISTRY** ガイドライン・エlementには少なくとも **OPTION** エlementが 1 つ含まれている必要があります。

ユーザーの処置: **REGISTRY** エlement内に 1 つ以上の **OPTION** エlementを指定するか、空の **REGISTRY** エlementを削除してください。

EXP0214W 最適化プロファイルに、行 *line-number* のエレメント *element* に関して無効な属性設定 *invalid-attribute-setting* が含まれています。

説明: 指定された最適化プロファイル・エレメントの設定は無視されました。属性名またはその値のいずれかが無効です。

ユーザーの処置: 指定された最適化プロファイル・エレメントの属性設定を確認し、訂正してください。

EXP0221W EXPLAIN_ACTUALS 表が存在しません。Section actuals を使用できません。

説明: EXPLAIN_ACTUALS 表は作成されませんでした。Section actuals データを取得するには、EXPLAIN_ACTUALS 表が存在している必要があります。

ユーザーの処置: SYSINSTALLOBJECTS プロシージャー、EXPLAIN.DDL、または db2exmig コマンドを使用して EXPLAIN_ACTUALS 表を作成します。

EXP0222W section actuals、バージョン *section_actuals_version* はサポートされていません。

説明: section actuals が現行リリースより後のリリースから収集されている場合、section actuals はサポートされておらず、使用不可です。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを実行できます。

- ご使用の現行 DB2 リリースを section actuals が収集されるバージョンと同一のものにアップグレードしてください。

- section actuals を収集した DB2 リリースでストアード・プロシージャーを再実行してください。

EXP0223W section actuals が無効です。

説明: section actuals データが破壊される可能性があります。

ユーザーの処置: section actuals を再収集してください。

section actuals の再収集を試行した後に再び section actuals が無効になる場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

EXP0224W section actuals が収集されていません。

説明: section actuals の収集メカニズムのセットアップが不適切または不完全なために、section actuals が収集されていません。

ユーザーの処置: 収集メカニズムのセットアップのすべての手順に従うようにしてください。

section actuals を再収集してください。

EXP0225W セクションを統計の収集に使用することができませんでした。

説明: セクションが現行バージョンより上のバージョンの DB2 データベースで作成されているので、現行バージョンの DB2 データベースの EXPLAIN_FROM_ACTIVITY ストアード・プロシージャーは、セクション内の統計データを解釈することができません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方法で、このエラーに対応します。

- 以下のステップを実行して、アプリケーションを再バインドしてください。

1. アプリケーションのパッケージにある REBIND コマンドを使用してセクションを再作成してください。
2. アプリケーションを再実行してください。
3. 再び EXPLAIN_FROM_ACTIVITY ストアード・プロシージャーを呼び出してください。

- セクションを作成するのに使用したデータベース・マネージャと同じバージョンのデータベース・マネージャを使用して、EXPLAIN_FROM_ACTIVITY ストアード・プロシージャーを再び呼び出してください。

EXP0231W 外部キー列 *schema.table-name* の NULL 値のパーセンテージが高くなっています。統計ビュー *schema.view-name* の結合述部で参照される *column-name* が原因で、統計ビューから推測される統計の精度が落ちる可能性があります。

説明: 照会オプティマイザーは、可能な限り参照整合性制約を使用して統計ビューから統計を推測します。統計ビューの結合述部で参照される外部キー列に含まれる NULL 値の割合が高いために、統計ビューから推測される統計の精度が落ちる可能性があります。その結果生成されたアクセス・プランが最適でない可能性があります。アクセス・プランを最適化するために引き続きこの統計が使用されますが、アクセス・プランをさらに改善するた

めに、ユーザー応答セクションの提案を検討してください。

ユーザーの処置: 以下のアクションを検討してください。

- 可能な場合、外部キー列の NULL 値を NULL 以外の適切な値に置き換えます。
- NULL 値の置き換えが行えない場合、外部キー列に影響を与える参照整合性制約を変更して照会の最適化を使用不可にし、統計ビューを追加で作成してアクセス・プランを改善します。

これらのオプションのいずれかを完了した後、照会を再発行してください。

EXP0232W 統計ビュー *schema-name* から統計が推測されています。 *stats-view* が不正確である可能性があります。

説明: 参照整合性制約のすべての外部キー列が統計ビューの結合述部で参照される場合、DB2 オプティマイザーは参照整合性制約を使用して統計ビューから統計を推測する可能性があります (可能な場合)。

統計ビューから推測される統計は、次の場合に不正確になる可能性があります。

- 親表の行と一致しない子表の行が多すぎる (制約が施行されていない場合)
- 結合述部で参照される外部キー列の NULL 値が原因でフィルターに掛けられ除外される結合の行が多すぎる

ユーザーの処置: 統計ビューの結合述部を検討してください。結合述部が参照整合性制約のすべての外部キー列を参照しており、参照整合性制約に上記リストの 1 つ以上の問題がある場合は、以下の方法でそれらの参照整合性制約の問題に対処してください。

- 子表の個々の外部キーと一致する行が親表にそれぞれ存在することを確認します。
- 可能な場合、NULL 値を NULL 以外の適切な値に置き換えます。

これらの変更をデータに加えることが不可能な場合は、参照整合性制約を変更して照会の最適化を使用不可にし、オプションで追加の統計ビューを作成してアクセス・プランを改善してください。

EXP0233I 述部 *predicate-text* に、統計ビューの列 *schema.table-name.column-name* と一致する式が含まれています。

説明: 照会オプティマイザーは、述部で使用される式を、統計ビューの列によって表される式と突き合わせま

した。照会オプティマイザーは、示されている統計ビュー列の統計を使用して述部のフィルターの見積もりを改善した可能性があります (統計が使用可能だった場合)。

ユーザーの処置: これは情報メッセージです。アクションは不要です。

EXP0256I 照会の分析は、追加の索引を作成してジグザグ結合を使用可能にすると照会の実行速度が上がる可能性があることを示しています。スキーマ名: *table-schema*。表名: *table-name*。列のリスト: *column-list*。

説明: 照会の分析は、スター型照会を示しています。しかし、最適ジグザグ結合を使用可能にするファクト表の複数列索引が見つかりませんでした。

ユーザーの処置:

1. 以下のステートメントを使用して索引を作成してください: `CREATE INDEX index_name ON table-schema.table-name column-list`。
2. 照会を再発行してください。

さらに、索引アドバイザー・ユーティリティを実行して照会ワークロードの包括的な索引の推奨を取得することを検討してください。

第 16 部 GSE メッセージ

このセクションでは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature メッセージが記述されています。メッセージは番号順にリストされています。

GSE0000I 操作が正しく完了しました。

説明: この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

msgcode: 0

sqlstate: 00000

GSE0001C 内部エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -1

sqlstate: 38S01

GSE0002C Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスできませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスしようとしていましたが、失敗しました。

ユーザーの処置: 理由コード *reason-code* を記録して、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -2

sqlstate: 38S02

GSE0003N Spatial Extender は、*number* バイトのメモリーを割り振ることができませんでした。

説明: 使用可能なメモリーが十分ではありません。提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

ユーザーの処置: メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

msgcode: -3

sqlstate: 38S03

GSE0004C 内部パラメーター・エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が、内部関数にパラメーターを渡すときに予期しないエラーが発生しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4

sqlstate: 38S04

GSE0005N Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。

説明: Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 環境を検査してください。必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -5

sqlstate: 38S05

GSE0006N 内部ストリング・エラーが発生しました。

説明: Spatial Extender が、内部ストリング操作で予期しないエラーを検出しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -6

sqlstate: 38S06

GSE0007N ストリング *string* には、対になる引用符

GSE0008N

または二重引用符がありません。

説明: この文字列は、クローズする区切り文字がないので、正しく終了していません。

ユーザーの処置: 文字列を正しく終了させてください。文字列が引用符で始まっている場合には、引用符で終了させてください。文字列が二重引用符で始まっている場合には、二重引用符で終了させてください。

msgcode: -7

sqlstate: 38S07

GSE0008N 無効なエラー・コード *error-code* を使用してエラーを起こそうとしました。

説明: 無効な *error-code* を識別コードとするエラーを起こそうとしました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -8

sqlstate: 38S08

GSE0009N DB2 アプリケーション・ヒープに十分なスペースが有りません。

説明: Spatial Extender によって、DB2 のアプリケーション・ヒープに使用可能なメモリーが超過しました。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: このメッセージを受け取ったら、アプリケーションを終了させてください。より多くのアプリケーション・ヒープが使用できるように、データベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

詳しくは、「IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -9

sqlstate: 38S09

GSE0010N DB2 に十分なログ・スペースが有りません。

説明: DB2 のトランザクション・ログで使用可能なすべてのスペースが使用されています。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: データベースが他のアプリケーションによって並行して使用されている場合は、操作を再試行してください。他のアプリケーションがトランザクシ

ョンを完了すると、ログ・スペースが解放される場合があります。

ログ・スペースを大きくするように、データベース構成パラメーターを増やしてください。たとえば、データベース構成パラメーター LOGPRIMARY、LOGSECOND および LOGFILSIZ を変更して、使用可能なログのサイズを大きくしてください。

msgcode: -10

sqlstate: 38S0A

GSE0100N Spatial Extender は、ファイル *file-name* をオープンできませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ファイルをオープンできない理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 8 その名前のファイルを含むディレクトリーが既に存在します。
- 10 Spatial Extender が、既存のファイルを作成しようとしたか、あるいは、既存のファイルをオープンしようとしてそのファイルが見つかりませんでした。
- 12 ディスクがいっぱいです。
- 17 指定されたファイルへのパスが存在しません。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイルおよびディレクトリーに対する許可を検証してから、コマンドを再入力してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -100

sqlstate: 38S10

GSE0101N ファイル *file-name* の処理中に、入出力エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。

説明: ファイルの処理中に入出力エラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。

- 9 Spatial Extender が、ファイルの終わりを越えて読み取りを行おうとしました。
- 12 ディスクがいっぱいです。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイルが存在し、ファイルへの適切なアクセス権があり、ファイルが別の処理によって使用されていないことを確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -101

sqlstate: 38S11

GSE0102N Spatial Extender は、ファイル *file-name* をクローズできませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ファイルのクローズ時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 12 ディスクがいっぱいです。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: ファイル・システムが完全に作動状態であり、十分なディスク・スペースが使用可能であるか確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -102

sqlstate: 38S12

GSE0103N Spatial Extender は、ファイル *file-name* を削除できませんでした。理由コード = *reason-code*。

説明: ファイルの削除時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

- 1 ファイルへのアクセスが拒否されました。
- 3 ディスク・エラーが発生しました。
- 17 指定されたファイルへのパスが存在しません。
- 22 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

ユーザーの処置: 各理由コードごとに、次のようになります。

- 1 ファイルおよびファイルのパスに指定しているすべてのディレクトリーに対して十分な特権を持っているか調べてください。
- 3 ディスクおよびファイル・システムが適切な作業オーダーになっているか調べてください。
- 17 ファイルへのパスが存在しているか調べてください。
- 22 ファイルが別の処理によってアクセスされていないか調べてください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -103

sqlstate: 38S13

GSE0200N データベースへの接続が失敗しました。
SQLERROR = *sql-error*。

説明: Spatial Extender をデータベースに接続できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -200

sqlstate: 38S20

GSE0201W データベースからの切断が失敗しました。
SQLERROR = *sql-error*。

説明: Spatial Extender をデータベースから切断できませんでした。DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +201

sqlstate: 38S21

GSE0202N データベースへの接続は存在しません。

説明: Spatial Extender をデータベースに接続できません。コマンドを正常に実行できません。

ユーザーの処置: Spatial Extender およびデータベースのセットアップを調べてください。データベースへの接続が確立できるようにしてください。

msgcode: -202

sqlstate: 38S22

GSE0203W Spatial Extender は、すでにデータベース *database-name* に接続されています。

説明: Spatial Extender はデータベース *database-name* に接続しようとしたが、すでに接続されています。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: +203

sqlstate: 38S23

GSE0204N トランザクションのコミットが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、現行のトランザクションを正常にコミットできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -204

sqlstate: 38S24

GSE0205W トランザクションのロールバックが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、現行のトランザクションをロールバックできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +205

sqlstate: 38S25

GSE0206N SELECT ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は SELECT ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -206

sqlstate: 38S26

GSE0207N VALUES ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、VALUES ステートメントを

正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -207

sqlstate: 38S27

GSE0208N PREPARE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、SQL ステートメントを正常に準備できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -208

sqlstate: 38S28

GSE0209N SQL カーソルのオープンが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にオープンできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -209

sqlstate: 38S29

GSE0210W SQL カーソルのクローズが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にクローズできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: +210

sqlstate: 38S2A

GSE0211N SQL カーソルのフェッチが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、カーソルから結果を正常にフェッチできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -211

sqlstate: 38S2B

GSE0212N オブジェクトのドロップが失敗しました。

SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は、指定されたデータベース・オブジェクトをドロップできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -212

sqlstate: 38S2C

GSE0213N バインド操作が失敗しました。

SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は、指定されたファイルを現行データベースにバインドできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

このエラーは、DB2 のアプリケーション・ヒープのサイズが小さすぎる場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: このデータベースを空間データ操作に使用することができるか調べてください。

データベースが使用できるにもかかわらずエラーが発生する場合は、Spatial Extender のインストールを調べてください。

問題が解決されない場合は、アプリケーション・ヒープのサイズを指定するデータベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

msgcode: -213

sqlstate: 38S2D

GSE0214N INSERT ステートメントが失敗しました。

SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は、INSERT ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -214

sqlstate: 38S2E

GSE0215N UPDATE ステートメントが失敗しました。 **SQLERROR = sql-error.**

説明: Spatial Extender は、UPDATE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -215

sqlstate: 38S2F

GSE0216N DELETE ステートメントが失敗しました。

SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は DELETE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -216

sqlstate: 38S2G

GSE0217N LOCK TABLE ステートメントが失敗しました。

SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は LOCK TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -217

sqlstate: 38S2H

GSE0218N DECLARE GLOBAL TEMPORARY

TABLE ステートメントが失敗しました。
SQLERROR = sql-error.

説明: Spatial Extender は DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -218

sqlstate: 38S2I

GSE0219N EXECUTE IMMEDIATE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は EXECUTE IMMEDIATE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -219

sqlstate: 38S2J

GSE0220N savepoint の設定が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は savepoint を正常に設定できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -220

sqlstate: 38S2K

GSE0221N データベース名が指定されていません。

説明: Spatial Extender は、データベースの名前が指定されていないために、データベースに接続できませんでした。

ユーザーの処置: データベース名を指定してください。

msgcode: -221

sqlstate: 38S2L

GSE0222N DB2 からの許可リストの検索が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、現行ユーザーの許可リストを検索できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -222

sqlstate: 38S2M

GSE0223N 表スペースの静止が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、表スペースを正常に静止できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -223

sqlstate: 38S2N

GSE0224N 表へのデータのインポートが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、データを表に正常にインポートできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -224

sqlstate: 38S2O

GSE0225N データベース構成またはデータベース・マネージャー構成の検索が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、現行データベースの構成またはデータベース・マネージャーの構成を正常に検索できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -225

sqlstate: 38S2P

GSE0226N トリガーの作成が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、トリガーを正常に作成できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -226

sqlstate: 38S2Q

GSE0227N ALTER TABLE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.

説明: Spatial Extender は、ALTER TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -227

sqlstate: 38S2R

GSE0228N Spatial Extender メッセージ・カタログからのエラー *gse-error* および **SQLCODE = *sqlcode*** の検索が失敗しました。

説明: Spatial Extender は、エラー *gse-error* および **SQLCODE = *sqlcode*** のメッセージを正常に検索できませんでした。

ユーザーの処置: Spatial Extender のインストールを調べてください。また、使用する言語のメッセージ・カタログがインストールされているか調べてください。

msgcode: -228

sqlstate: 38S2S

GSE0229N ファイル *bind-file* のバインドが失敗しました。理由コード = *reason-code*。

説明: Spatial Extender は、*sqlabndx* 関数を使用してファイル *bind-file* をデータベースにバインドしようとしたのですが、失敗しました。*sqlabndx* は、理由コード *reason-code* を戻しました。

ユーザーの処置: このデータベースを空間データ操作に使用することができるか調べてください。

関数 *sqlabndx* の *reason-code* の記述を参照してください。

msgcode: -229

sqlstate: 38S2T

GSE0230N システム・カタログを更新できませんでした。

説明: Spatial Extender は、DB2 サービスを使用してシステム・カタログを変更しようとした時に、エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -230

sqlstate: 38S2U

GSE0231N PREPARE ステートメントで警告状態が検出されました。 **SQLWARNING = *sql-warning***。

説明: Spatial Extender は、SQL ステートメントの準備で警告状態を検出しました。DB2 は、*sql-warning* を戻しました。PREPARE ステートメントは正常に完了しました。

ユーザーの処置: *sql-warning* の記述を参照してください。

msgcode: -231

sqlstate: 38S2V

GSE0300N 指定されたパスワードが長すぎます。

説明: データベースへの接続に使用されるパスワードが長すぎます。

ユーザーの処置: 指定したパスワードが正しいか検証してください。パスワードが正しい場合は、パスワードを短くして、再度操作を実行してください。

msgcode: -300

sqlstate: 38S40

GSE0301N 指定されたスキーマ名 *schema-name* が長すぎます。

説明: スキーマ名の長さが DB2 のスキーマ名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短いスキーマ名を指定してください。スキーマ名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -301

sqlstate: 38S41

GSE0302N 指定された表名 *table-name* が長すぎます。

説明: 表名の長さが DB2 の表名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い表名を指定してください。

表名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -302

sqlstate: 38S42

GSE0303N 指定された列名 *column-name* が長すぎます。

説明: 列名の長さが DB2 の列名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い列名を指定してください。

GSE0304N

列名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -303

sqlstate: 38S43

GSE0304N 指定された索引名 *index-name* が長すぎます。

説明: 索引名の長さが DB2 の索引名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短い索引名を指定してください。索引名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -304

sqlstate: 38S44

GSE0305N 指定されたデータ・タイプ名 *type-name* が長すぎます。

説明: データ・タイプ名の長さが DB2 のデータ・タイプ名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な、より短いタイプ名を指定してください。データ・タイプ名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

msgcode: -305

sqlstate: 38S45

GSE0306N *path* で始まる完全なパスが、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。

説明: 完全なパスの長さが *limit* バイトの制限を超えるため、*path* で始まるパスのファイルにアクセスできません。そのため、サブミットされたステートメントを正常に実行できません。

ユーザーの処置: アクセスするファイルのロケーションを、より短いパスを使って検索できるように変更して、指定したステートメントを再度実行してください。UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、より短いパス名を設定することができます。

msgcode: -306

sqlstate: 38S46

GSE0307N 動的 SQL ステートメントの長さ *statement-length* が、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。

説明: ステートメントが長すぎるため、構成できません。

ユーザーの処置: ステートメントがストアド・プロシージャのコンテキストで構成されている場合には、WHERE 文節が長すぎないか調べてください。必要に応じて、WHERE 文節を短くして、操作を再度実行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -307

sqlstate: 38S47

GSE0308N ストリング *string* が、*limit* バイトの制限を超えています。

説明: ストリング *string* が長すぎるため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: より短いストリングを指定してください。必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

msgcode: -308

sqlstate: 38S48

GSE1000N Spatial Extender は、ユーザー ID *user-id* によって要求された操作 *operation-name* を実行できませんでした。

説明: この操作を実行するための特権または権限のないユーザー ID から操作を要求しました。

ユーザーの処置: 実行する操作に必要な許可を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

msgcode: -1000

sqlstate: 38S50

GSE1001N 指定された値 *value* は、*argument-name* 引数では無効です。

説明: 引数 *argument-name* に入力した値 *value* は、正しくないか、またはつづりが誤っています。

ユーザーの処置: 指定する必要がある値またはその値の範囲を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

msgcode: -1001

sqlstate: 38S51

GSE1002N 必須の引数 *argument-name* が指定されていません。

説明: 必須の引数が指定されていなかったため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 目的の値とともに引数 *argument-name* を指定して、操作を要求し直してください。

msgcode: -1002

sqlstate: 38S52

GSE1003N 空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、すでに別の空間参照系に登録されているため、空間参照系 *srs-name* に登録できませんでした。

説明: 空間参照系は、すでに空間列に登録されています。最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

ユーザーの処置: 空間列の登録を抹消してから、登録する空間参照系に登録するか、または、再登録をしないようにしてください。

msgcode: -1003

sqlstate: 38S53

GSE1004N 指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、すでに登録されています。

説明: このジオコーダーは、すでに登録されています。最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

ユーザーの処置: 固有な名前のジオコーダーを登録するか、または、既存のジオコーダーの登録を抹消してから操作を再度実行してください。

msgcode: -1004

sqlstate: 38S54

GSE1005N 空間列 *schema-name.table-name.column-name* には、すでにジオコーディングが設定されています。

説明: この列には、すでにジオコーディングが設定されています。現行の設定を除去しない限り、ジオコーディングを再度設定することはできません。

ユーザーの処置: 既存のジオコーディング設定を除去するか、またはジオコーディングがすでに設定されている列を選択してください。

msgcode: -1005

sqlstate: 38S55

GSE1006N 空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、登録されていません。

説明: この空間列は、空間参照系に登録されていませんでした。したがって、登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されている空間列を指定するか、または、列の登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1006

sqlstate: 38S56

GSE1007N 指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。

説明: ジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。したがって、登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1007

sqlstate: 38S57

GSE1008N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。

説明: 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。登録を抹消できません。

ユーザーの処置: すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

msgcode: -1008

sqlstate: 38S58

GSE1009N 表 *schema-name.table-name* が存在しません。

説明: 表 *schema-name.table-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な表名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1009

sqlstate: 38S59

GSE1010N 空間列 *schema-name.table-name.column-name* が存在しません。

説明: *schema-name.table-name.column-name* が既存の列を識別していないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効な空間列名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1010

sqlstate: 38S5A

GSE1011N データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しません。

説明: データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 有効なデータ・タイプ名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1011

sqlstate: 38S5B

GSE1012N このデータベースは、空間データ操作に使用できません。

説明: データベースが空間データ操作に使用可能になっていないため、要求された操作を正常に完了できません。したがって、Spatial Extender カタログは作成されていません。

ユーザーの処置: データベースを空間データ操作でできるようにしてください。

msgcode: -1012

sqlstate: 38S5C

GSE1013N データベースはすでに空間データ操作で使用できます。

説明: データベースはすでに空間データ操作で使用できます。再度使用可能にすることはできません。

ユーザーの処置: データベースが予期どおりに使用可能になっていることを確認してください。必要に応じてデータベースを使用不可にしてください。

msgcode: -1013

sqlstate: 38S5D

GSE1014N 列 *schema-name.table-name.column-name* が空間列でないため、Spatial Extender はこの列を登録できませんでした。

説明: この列が空間データ・タイプではないか、またはこの列がローカル表に属していません。

ユーザーの処置: 列 *schema-name.table-name.column-name* に空間データ・タイプを定義するか、または宣言されたタイプとして空間データ・タイプをもつ列を指定してください。

msgcode: -1014

sqlstate: 38S5E

GSE1015N 空間参照系 *srs-name* が存在しません。

説明: 空間参照系 *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1015

sqlstate: 38S5F

GSE1016N 数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。

説明: 指定された数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系 ID を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1016

sqlstate: 38S5G

GSE1017N 座標系 *coordsys-name* はすでに存在しています。

説明: 座標系 *coordsys-name* はすでに存在しています。同じ名前の座標系を別に作成することはできません。

ユーザーの処置: 新しい座標系に固有な名前を指定してください。

msgcode: -1017

sqlstate: 38S5H

GSE1018N 座標系 *coordsys-name* が存在しません。

説明: 座標系 *coordsys-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の座標系を指定してください。

msgcode: -1018

sqlstate: 38S5I

GSE1019N 空間座標系 *coordsys-name* の値が何も指定されていません。

説明: 座標系 *coordsys-name* を変更しようとしたのですが、新しい値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 座標系に、少なくとも 1 つは新しい値を指定してください。

msgcode: -1019

sqlstate: 38S5J

GSE1020N 空間参照系 *srs-name* は、すでに存在しています。

説明: 空間参照系 *srs-name* は、すでに存在しています。同じ名前の空間参照系を別に作成することはできません。

ユーザーの処置: 作成する空間参照系に固有な名前を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1020

sqlstate: 38S5K

GSE1021N 空間参照系 *srs-name* が存在しません。

説明: 空間参照系 *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系名を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1021

sqlstate: 38S5L

GSE1022N 数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。

説明: 数値 ID が *srs-id* の空間参照系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系の数値 ID を指定してください。

msgcode: -1022

sqlstate: 38S5M

GSE1023N 数値 ID *coordsys-id* の座標系が存在しません。

説明: 数値 ID が *coordsys-id* の座標系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存の座標系の数値 ID を指定して、操作を再試行してください。

msgcode: -1023

sqlstate: 38S5N

GSE1024N 空間参照系 *srs-name* の値が何も指定されていません。

説明: 空間参照系 *srs-name* を変更しようとしたのですが、新しい値を指定しませんでした。

ユーザーの処置: 空間参照系に少なくとも 1 つは新しい値を指定してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1024

sqlstate: 38S5O

GSE1025N 関数名 *schema-name.function-name* のジオコーダーがデータベースにありません。

説明: Spatial Extender がジオコーダーの関数 *schema-name.function-name* を検出できなかったため、要求された操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 既存の関数名を持つジオコーダーを指定するか、または関数を作成してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1025

sqlstate: 38S5P

GSE1026N 指定されたデフォルト・パラメーター値の数値 (*number1 values*) が、指定されたジオコーダーに必要なデフォルト・パラメーター値の数値 (*number2 values*) と一致しません。

説明: ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター値に完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

ユーザーの処置: デフォルトのパラメーター値の数値を訂正してください。ジオコーダーの各パラメーターごとにデフォルト値を指定するか、またはデフォルト・パラメーター値に NULL 値を指定してください。

msgcode: -1026

sqlstate: 38S5Q

GSE1027N 指定されたパラメーター記述値の数値 (*number1 values*) が、指定されたジオコーダーに必要なパラメーター記述値の数値 (*number2 values*) と一致しません。

説明: ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター記述

GSE1028N

値の完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

ユーザーの処置: ジオコーダーの各パラメーターごとに記述を指定するか、またはパラメーター記述に NULL 値を指定してください。

msgcode: -1027

sqlstate: 38S5R

GSE1028N ジオコーダー *geocoder-name* が存在しません。

説明: ジオコーダー *geocoder-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 既存のジオコーダー名を指定するか、または指定した名前のジオコーダーを登録してから、操作を再試行してください。

msgcode: -1028

sqlstate: 38S5S

GSE1029N 列 *schema-name.table-name.column-name* には、ジオコーディングが設定されていません。

説明: 列 *schema-name.table-name.column-name* にジオコーディングが設定されていないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: 指定された列にジオコーディングを設定するか、または表スキーマ、表名、および列名を訂正してください。

msgcode: -1029

sqlstate: 38S5T

GSE1030N 自動ジオコーディングが列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっているので、ジオコーディングのセットアップを除去できません。

説明: 自動ジオコーディングが列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっています。そのため、この列のジオコーディングのセットアップを除去することはできません。

ユーザーの処置: 列に対する自動ジオコーディングを使用不可にしてください。

msgcode: -1030

sqlstate: 38S5U

GSE1031N 列 *schema-name.table-name.column-name* には自動ジオコーディングを使用できません。

説明: 自動ジオコーディングは、列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっていません。そのため、この列に対して自動ジオコーディングを使用不可にすることはできません。

ユーザーの処置: 自動ジオコーディングが使用可能になっている正しい列名を指定してください。

msgcode: -1031

sqlstate: 38S5V

GSE1032N 列 *schema-name.table-name.column-name* に対する自動ジオコーディングは、すでに使用可能になっています。

説明: 自動ジオコーディングは、列 *schema-name.table-name.column-name* に対してすでに使用可能になっています。有効になっている自動ジオコーディングを無効にしない限り、この列に対して自動ジオコーディングを再度有効にすることはできません。

ユーザーの処置: (1) 自動ジオコーディングが使用可能になっていない列、(2) ジオコーディングがセットアップされている列、に対して正しい名前を指定してください。

msgcode: -1032

sqlstate: 38S5W

GSE1033N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーが存在しません。

説明: 数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: ジオコーダーに既存の数値 ID を指定するか、数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーを登録してください。

msgcode: -1033

sqlstate: 38S5X

GSE1034N ストアド・プロシージャに渡されたパラメーターには、パラメーター *parameter-name* が組み込まれていません。

説明: ストアド・プロシージャに渡された SQLDA が小さすぎます。SQLDA には、パラメーター *parameter_name* の項目が含まれていません。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャに渡され

るパラメーターを訂正してください。

msgcode: -1034

sqlstate: 38S5Y

GSE1035N ストアド・プロシージャーに渡される *parameter-name* パラメーターのデータ・タイプが誤っています。

説明: ストアド・プロシージャーに渡されるパラメーター *parameter-name* のデータ・タイプが正しくありません。

ユーザーの処置: ストアド・プロシージャーに渡されるパラメーターを訂正してください。

msgcode: -1035

sqlstate: 38S5Z

GSE1036W 操作は正常に終了しました。しかし、特定のデータベース・マネージャーの値およびデータベース構成パラメーターの値を増やす必要があります。

説明: 操作は正常に完了しましたが、Spatial Extender は、より多くのデータベースおよびデータベース・マネージャー・リソースを必要としています。特定のデータベース・マネージャーおよびデータベース構成パラメーターの値を増やすことによって、これらのリソースを取得することができます。

ユーザーの処置: いくつかの構成パラメーターの値を大きくしてください。たとえば、データベース構成の場合は APPLHEAPSZ パラメーターを調べてください。詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: +1036

sqlstate: 38S60

GSE1037N 指定された座標系 *coordsys-name* の定義が無効です。

説明: 座標系 *coordsys-name* に関する定義が無効であるため、作成できません。

ユーザーの処置: 座標系に正しい定義を指定してください。

ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標系と定義を比較することによって座標系定義を検査することができます。

msgcode: -1037

sqlstate: 38S61

GSE1038N ジオコーダー *geocoder-name* に指定されている WHERE 文節が無効です。
Spatial Extender は、文節の検査時に、**SQL エラー *sql-error*** を検出しました。

説明: ジオコードする行を判別する where 文節が無効であるため、要求されたジオコーディングを正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 構文的に正しい WHERE 文節を指定してください。

msgcode: -1038

sqlstate: 38S62

GSE1039N 指定された編成 *organization* と組み合わせて指定されている ID *organization-coordsys-id* によって示される座標系は、すでに存在しています。

説明: 座標系に指定した ID の組み合わせ (システムを定義する編成の名前とその編成に割り当てられている番号) が固有でなかったため、座標系を作成する要求を実行できませんでした。これら 2 つの値は、組み合わせが固有であるか、または NULL でなければなりません。

ユーザーの処置: *organization* および *organization-coordsys-id* の値のユニーク・セットを指定するか、または両方を NULL 値にしてください。

msgcode: -1039

sqlstate: 38S63

GSE1040N 数値 ID *srs-id* の空間参照系は、すでに存在しています。

説明: 空間参照系に割り当てられた数値 ID *srs-id* は、すでに別の空間参照系を識別しているため、空間参照系を作成する要求を実行できませんでした。空間参照系の ID は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 空間参照系に固有の数値 ID を指定してください。

msgcode: -1040

sqlstate: 38S64

GSE1041N 数値 ID *coordsys-id* の座標系は、すでに存在しています。

説明: 座標系に割り当てられた数値 ID *coordsys-id* は、すでに別の空間座標系を識別しているため、座標系を作成する要求を実行できませんでした。空間座標系の ID は固有でなければなりません。

GSE1042N

ユーザーの処置: 座標系に固有な値の *coordsys-id* を指定してください。

msgcode: -1041

sqlstate: 38S65

GSE1042N 数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、すでに存在しています。

説明: ジオコーダー *geocoder-id* の数値 ID は、すでに別のジオコーダーを識別しているため、ジオコーダーを登録する要求を実行できませんでした。ジオコーダーの ID は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: ジオコーダーの数値 ID に固有な値を指定してください。

msgcode: -1042

sqlstate: 38S66

GSE1043N 指定されたグリッド索引 *schema-name.index-name* は、すでに存在しています。

説明: この索引は、すでに存在しています。同じ名前の索引を作成するには、既存の索引をドロップする必要があります。

ユーザーの処置: まだ存在していない索引の名前を指定するか、既存の索引をドロップしてから、操作を再試行してください。

msgcode: -1043

sqlstate: 38S67

GSE1044N 既存の空間参照系が、この座標系を基にしたものであるため、指定された座標系 *coordsys-name* をドロップできません。

説明: 指定された座標系 *coordsys-name* を基にした空間参照系が少なくとも 1 つあります。座標系をドロップできません。

ユーザーの処置: 指定された座標系を基にしたすべての空間参照系をドロップしてください。その後で、座標系のドロップを再試行してください。

msgcode: -1044

sqlstate: 38S68

GSE1045N 空間列がこの空間参照系に登録済みであるため、指定された空間参照系 *srs-name* をドロップできません。

説明: 指定された空間参照系 *srs-name* と関連のある空

間列が少なくとも 1 つ存在します。空間参照系をドロップできません。

ユーザーの処置: 指定された空間参照系と関連のあるすべての空間列を登録抹消してください。その後で、空間参照系のドロップを再試行してください。

msgcode: -1045

sqlstate: 38S69

GSE1046N ジオコーディングのセットアップで使用しているため、指定されたジオコーダー *geocoder-name* を登録抹消できません。

説明: 指定されたジオコーダー *geocoder-name* を使用するジオコーディングのセットアップが少なくとも 1 つあります。ジオコーダーを登録抹消できません。

ユーザーの処置: 指定されたジオコーダーを使用するすべてのジオコーディングのセットアップを除去してください。その後で、ジオコーダーの登録抹消を再試行してください。

msgcode: -1046

sqlstate: 38S6A

GSE1047N ジオコーダー・パラメーター妥当性検査が失敗しました。 **SQLERROR = *sql-error***。

説明: ジオコーダーのパラメーターの妥当性検査に失敗しました。DB2 は、*sql-error* を戻しました。ジオコーダーの登録またはセットアップ中、あるいはその両方で、ジオコーダー・パラメーターは指定されている可能性があります。

ユーザーの処置: *sql-error* 内の情報を使用してどのパラメーターが無効が判別してください。値を訂正して、要求を再サブミットしてください。

msgcode: -1047

sqlstate: 38S6B

GSE1048N 数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、変更することはできません。

説明: 空間参照系は変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、変更することはできません。

ユーザーの処置: この空間参照系を変更しようとしなくてください。異なる定義を使用した測地参照系が必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい測地参照系を作成できます。

msgcode: -1048

sqlstate: 38SP3

GSE1049N 数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、ドロップすることはできません。

説明: 空間参照系は変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、ドロップすることはできません。

ユーザーの処置: この空間参照系をドロップしようとしないうでください。異なる定義を使用した測地参照系が必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい測地参照系を作成できます。

msgcode: -1049

sqlstate: 38SP4

GSE2100N インポートされる属性列の数 (*input-columns columns*) が、ターゲット表の属性列の数 (*table-columns columns*) と一致しません。

説明: 属性データが含まれている列をインポートしている場合には、インポートされる属性列とターゲット表の列を指定するか、あるいは指定しないかを選択することができます。これらの値を指定している場合は、インポートされる属性列の数の指定がターゲット表の列の数の指定と違っている場合に、このエラーが発生します。これらの値を指定していない場合は、インポートされる列の実際数がターゲット表の属性列の実際数と違っている場合に、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: インポートされる属性列の指定した数または実際数が、ターゲット表の列の指定した数または実際数と一致するようにしてください。

msgcode: -2100

sqlstate: 38S70

GSE2101N インポート中に使用されるデータ・タイプ *schema-name.type-name* が、DB2 に認識されません。

説明: 空間データ・タイプ *schema-name.type-name* がデータベースに存在しないため、空間データのインポート時に使用できません。

ユーザーの処置: データベースにデータ・タイプを作成するか、現在あるデータ・タイプを使用してください。

msgcode: -2101

sqlstate: 38S71

GSE2102N インポートに指定された表 *schema-name.table-name* が、存在しません。

説明: 表 *schema-name.table-name* がデータベースに存在しません。また、Spatial Extender は、インポートされるデータを保留するための表の作成を要求されませんでした。データは、インポートされませんでした。

ユーザーの処置: 表が Spatial Extender により作成される場合は、適切なフラグを指定してください。それ以外の場合は、表を作成して、操作を再試行してください。

msgcode: -2102

sqlstate: 38S72

GSE2103N インポートに指定された表 *schema-name.table-name* は、すでに存在しています。

説明: Spatial Extender は、インポートされるデータ用に表 *schema-name.table-name* を作成するよう要求されましたが、その名前の表はデータベースにすでに存在しています。データはインポートされませんでした。

ユーザーの処置: 表が Spatial Extender により作成されない場合は、表の作成を指示しないでください。それ以外の場合は、データベースにまだ存在しない表の名前を指定してください。

msgcode: -2103

sqlstate: 38S73

GSE2104N データのインポート先の列 *schema-name.table-name.column-name* は、存在しません。

説明: データのインポート先の列 *column-name* が、表 *schema-name.table-name* に存在しません。データを表にインポートできません。

ユーザーの処置: 列名を訂正するか、インポート先の表に列を作成するか、または、表名を訂正してください。

msgcode: -2104

sqlstate: 38S74

GSE2105W インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。

説明: インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。例外ファイルにはインポートできないレコ

GSE2106N

ードがあり、その理由がメッセージ・ファイルの情報に含まれています。

ユーザーの処置: すべてのレコードがインポートされなかった理由についてメッセージ・ファイルを調査して問題を解決し、元のファイルまたは例外ファイルについて操作を繰り返してください。

msgcode: +2105

sqlstate: 38S75

GSE2106N 列 *schema-name.table-name.column-name* のデータ・タイプは、*column-type* です。これは、ファイルからインポートされるデータに予測されるタイプ *expected-type* と一致しません。

説明: データのインポート先の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* は、タイプ *column-type* として宣言されています。 *column-type* は、ファイルからインポートされるデータのタイプ名 *expected-type* と一致しません。 データをインポートできません。

ユーザーの処置: インポートされるファイルの構造を持つ表の定義を調べてください。

msgcode: -2106

sqlstate: 38S76

GSE2107N データのインポート先の表は、エラー *sql-error* のために作成できませんでした。

説明: Spatial Extender は、データをインポートする表の作成を要求されましたが、表を正常に作成できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

ユーザーの処置: この *sql-error* の記述を参照してください。

msgcode: -2107

sqlstate: 38S77

GSE2108N ファイルからインポートされる属性列を示す方式指定 *method* が正しくありません。

説明: 方式指定が行われなかったか、または *method* が有効な方式指定ではありません。 ファイルからの空間データのインポートでサポートされる方式指定は、'N' および 'P' だけです。

ユーザーの処置: 方式指定を訂正して、方式を再試行してください。

msgcode: -2108

sqlstate: 38S78

GSE2109N 文字 *expected-char* が検出されるはずでしたが、文字 *found-char* が検出されました。

説明: ファイルからインポートされる属性列を示すストリングで、予期していた *expected-char* ではなく、予期しない文字 *found-char* が検出されました。 ステートメントを正常に処理できません。

ユーザーの処置: ファイルからインポートされる属性列を示すストリングを訂正してください。

msgcode: -2109

sqlstate: 38S79

GSE2110N ストリング *string* の列位置 ID *position* が無効です。

説明: *string* で始まるストリングで指定されている列位置 ID *position* は、有効な範囲内ではありません。 0 (ゼロ) より大きく、インポートされるファイルの列数より小さいか等しい値だけが指定できます。 ステートメントを正常に処理できません。

ユーザーの処置: 列位置 ID を訂正してください。

msgcode: -2110

sqlstate: 38S7A

GSE2111N dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* が長すぎます。

説明: dBASE ファイル (.dbf) の列の名前 *dbf-column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

ユーザーの処置: DB2 の長さ制限を超えない *dbf-column-name* を指定してください。

msgcode: -2111

sqlstate: 38S7B

GSE2112N 列 *dbf-column-name* が dBASE ファイルにありません。

説明: 名前 *dbf-column-name* は、dBASE ファイル (.dbf) の既存の属性列を表していません。 操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: dBASE ファイルに存在する列名を指定してください。

msgcode: -2112

sqlstate: 38S7C

GSE2113N dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* は、サポートされていません。

説明: dBASE ファイル (.dbf) の属性列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。シェイプ・ファイルをインポートできません。

ユーザーの処置: 列リストからその列を除外してください。

msgcode: -2113

sqlstate: 38S7D

GSE2114N 列位置 *position* は範囲外です。dBASE ファイルには、*dbf-column-number* 個の列があります。

説明: 指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。有効な値は、0 (ゼロ) より大きく、*dbf-column-number* より小さいか等しい値です。

ユーザーの処置: 有効な位置を指定してください。

msgcode: -2114

sqlstate: 38S7E

GSE2115N 数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。

説明: 数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。データをインポートできません。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系を指定するか、または、インポート操作を行う前に空間参照系を作成してください。

msgcode: -2115

sqlstate: 38S7F

GSE2116N 座標系定義 *coordsys-def* が長すぎます。

説明: インポートする空間データに使用されている座標系定義 *coordsys-def* が長すぎます。これは、インポートされたデータに使用される空間参照系が基づいている座標系では検査できません。

ユーザーの処置: 展開ファイル (.prj) に定義されている座標系が正しいか調べてください。検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

msgcode: -2116

sqlstate: 38S7G

GSE2117N 座標系定義 *coordsys-def* は、空間参照系 *srs-id* が基づいている座標系定義と一致しません。

説明: 座標系 *coordsys-def* は、空間参照系 *srs-id* が基づいている座標系と一致しません。両方の座標系は、意味体系上、同一でなければなりません。

ユーザーの処置: 展開ファイル (.prj) に定義されている座標系が、空間参照系の座標系と同じであるかを調べてください。検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

msgcode: -2117

sqlstate: 38S7H

GSE2118N 空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に適合しません。

説明: 空間データは、数値 ID が *srs-id* の空間参照系の最小および最大座標値を超えるエリアをカバーしています。

ユーザーの処置: インポートされる空間データが完全に含まれる空間参照系を指定してください。空間参照系に適合する最小および最大座標値については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -2118

sqlstate: 38S7I

GSE2119N 数値 ID *srs-id1* のインポートされるデータの空間参照系は、数値 ID *srs-id2* のターゲット列の空間参照系と一致しません。ターゲット列の名前は、*schema-name.table-name.column-name* です。

説明: 空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、その列に割り当てられている空間参照系 *srs-id2* を使用して登録されました。この空間参照系は、その列にインポートされる空間データに使用されている空間参照系 *srs-id1* と一致しません。データをインポートできません。

ユーザーの処置: その空間列の登録を抹消するか、または、インポートされるデータに、その列が使用しているものと同じ空間参照系を指定してください。

msgcode: -2119

sqlstate: 38S7J

GSE2120N データはインポートされませんでした。

説明: シェイプ・データをインポートできませんでした。すべての行が拒否され、例外ファイルに書き込まれました。

ユーザーの処置: すべての空間データが拒否された理由については、メッセージ・ファイルを参照してください。

msgcode: -2120

sqlstate: 38S7K

GSE2121N 操作を再始動するレコードを指定している値 *restart-count* が範囲外です。シェイプ・ファイルには、*record-count* 個のレコードがあります。

説明: 指定される *restartCount restart-count* は、0 (ゼロ) 以上、*record-count* 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: *restartCount* に、有効な数を指定するか、または、NULL 値を指定してください。

msgcode: -2121

sqlstate: 38S7L

GSE2122N シェイプ・データのインポートに使用される SQL ステートメントが、内部バッファに適合しません。

説明: 表へのシェイプ・データのインポートに使用される SQL ステートメントが、内部バッファに適合しません。ファイルの列が多すぎるのが原因である可能性があります。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルの属性列を少なくしてインポートしてください。

msgcode: -2122

sqlstate: 38S7M

GSE2123N *row-count* 行のデータを保留するためのバッファを割り振れません。

説明: Spatial Extender は、少なくとも *row-count* 行を単一の INSERT ステートメントでインポートしようとしたが、その行のデータを保留するためのバッファを割り振ることができませんでした。必要なメモリ一量が多すぎます。

ユーザーの処置: *row-count* より小さいインポートのコミット・カウントを指定してください。または、インポートされる列を少なくしてください。それによって、必要なメモリ一量が削減されます。

msgcode: -2123

910 メッセージ・リファレンス 第 1 巻

sqlstate: 38S7N

GSE2124N 無効なタイプ ID *type-id* が、インポートされるシェイプ・ファイルのヘッダーで検出されました。

説明: シェイプ・ファイルのデータは、有効な空間データ・タイプではありません。このシェイプ・ファイルは、破壊されている可能性があります。データは、インポートされませんでした。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルが有効であるか確かめてください。

msgcode: -2124

sqlstate: 38S7O

GSE2125N シェイプ・ファイルの列にサポートされないデータ・タイプ *type* があります。

説明: シェイプ・ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。シェイプ・ファイルをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は省略してください。

msgcode: -2125

sqlstate: 38S7P

GSE2126N シェイプ・ファイル *shape-file* のヘッダーが無効です。

説明: シェイプ・ファイル *shape-file* のヘッダーが無効です。シェイプ・ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* の拡張子は、シェイプ・ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。ファイル拡張子には、次のものがあります。

.shp メインファイル

.shx 索引ファイル

.dbf dBASE ファイル

.pri 展開ファイル

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

msgcode: -2126

sqlstate: 38S7Q

GSE2127N シェイプ索引ファイル *shx-file* のレコード *record-number* のオフセット *offset* が無効です。

説明: 索引ファイル (.shx) *shx-file* のレコード *record-number* のオフセット *offset* が無効です。オフセットは、50 以上でシェイプ・ファイルのメインファイル (.shp) の全長より小さくなくてはなりません。オフセットは、16 ビット・ワード単位で測定されます。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2127

sqlstate: 38S7R

GSE2128N シェイプ索引ファイル *shx-file* のレコード *record-number* のシェイプの長さが短すぎます。

説明: シェイプ索引ファイル *shx-file* にあるレコード *record-number* のシェイプの長さが短すぎます。各シェイプは、少なくとも 4 バイト (16 ビット・ワードが 2 つ) で構成されていなければなりません。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2128

sqlstate: 38S7S

GSE2129N Spatial Extender は、シェイプ・ファイル *shp-file* で、予期していたレコード番号 *expected-number* ではなく、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。

説明: Spatial Extender は、シェイプ・ファイル *shp-file* で、レコード番号 *expected-number* を検出するはずでしたが、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2129

sqlstate: 38S7T

GSE2130N シェイプ・ファイル *shp-file* に示されているシェイプ・データのサイズ *record-size* は、シェイプ索引ファイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。

説明: シェイプ・ファイル *shp-file* に示されているシェイプ・データのサイズ *record-size* は、シェイプ索引フ

ァイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。

シェイプ・ファイル (.shp) のメインファイルは、索引ファイル (.shx) と整合性がないため、これ以上処理できません。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2130

sqlstate: 38S7U

GSE2131N dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。

説明: シェイプ・ファイルの形状に関連した属性情報が含まれている dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。

説明は以下のとおりです。

- レコードの最初のバイトは、アスタリスク (*) またはスペース () であってはなりません。
- dBASE ファイル (.dbf) の全列の長さの合計は、ファイルのヘッダーに示されているレコード・サイズと同じでなければなりません。

ユーザーの処置: dBASE ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2131

sqlstate: 38S7V

GSE2132N シェイプ・ファイル *shape-file* のデータが無効です。

説明: シェイプ・ファイル *shape-file* のデータが壊れています。このシェイプ・ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* は、このシェイプ・ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2132

sqlstate: 38S7W

GSE2133N 列 *schema-name.table-name.column-name* は、NULL 可能でないため、インポート操作は失敗しました。

説明: 既存の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* の定義により、列には NULL を含ませることができません。その列は、インポート対象である列のリストに含まれておらず、デフォルト値、生成され

GSE2134N

た列定義やトリガーなど他の手段によって DB2 がその列について値を提供することはありません。

インポート操作を正常に完了できません。

ユーザーの処置: インポート対象である列のリストにその列を含ませて ID 列として識別させるか、または代替手段を定義して、インポート操作中に DB2 がその列について値を生成するようにしてください。

msgcode: -2133

sqlstate: 38S7X

GSE2134N インポートされるデータに関連する空間参照系が、数値 ID が *srs-id* の空間参照系に一致しません。

説明: インポートされるファイルにある空間データは、数値 ID が *srs-id* の空間参照系とは別のオフセットおよびスケール因子で、空間参照系を使用します。データを正常にインポートできません。

ユーザーの処置: インポートされるファイルのデータに必要な空間参照系と同じ定義を持つ空間参照系を指定してください。空間参照系に適合する最小および最大座標値、オフセット、およびスケール因子については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -2134

sqlstate: 38S7Y

GSE2200N SELECT ステートメントの結果に、空間列が組み込まれていませんでした。

説明: エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの空間列を正確に参照しなければなりません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: 1 つの空間列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

msgcode: -2200

sqlstate: 38S90

GSE2201N SELECT ステートメントの結果に、複数の空間列が組み込まれていました。

説明: エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの空間列を正確に指定しなければなりません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: 1 つの空間列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

msgcode: -2201

sqlstate: 38S91

GSE2202N エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、シェイプ・ファイルではサポートされません。

説明: エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、シェイプ・ファイルではサポートされません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: シェイプのエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

msgcode: -2202

sqlstate: 38S92

GSE2203N 列 *column-number* のデータの長さは、*length* です。これは、シェイプ・ファイルにエクスポートするには長すぎます。

説明: 列 *column-number* のデータの長さは、*length* です。これは、シェイプ・ファイルにエクスポートするには長すぎます。

ユーザーの処置: 列の長さを 256 バイト未満に変更してください。DB2 の cast 関数を使用すると、列の長さを短縮することができます。

msgcode: -2203

sqlstate: 38S93

GSE2204N 列名 *column-name* は、dBASE ファイルの 11 文字の制限を超えています。

説明: 列名 *column-name* は、dBASE ファイルの 11 バイトの制限を超えています。データはエクスポートされません。

ユーザーの処置: dBASE ファイル (.dbf) にエクスポートする属性データには、11 バイト以下の列名を指定してください。

msgcode: -2204

sqlstate: 38S94

GSE2205W DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、SQL 警告 *sql-warning* を戻しました。

説明: DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、SQL 警告 *sql-warning* を戻

しました。警告は無視され、データはエクスポートされました。

ユーザーの処置: *sql-warning* の記述を参照してください。警告を許容できない場合には、警告の原因となったものを訂正して、データを再度エクスポートしてください。

msgcode: +2205

sqlstate: 38S95

GSE2206W データはエクスポートされませんでした。

説明: エクスポートに指定された SELECT ステートメントは、どの行も検索しませんでした。データはエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: エクスポートする行を少なくとも 1 行は戻す、SELECT ステートメントを指定してください。

msgcode: +2206

sqlstate: 38S96

GSE2207W SELECT ステートメントで参照された行の一部しかエクスポートされませんでした。

説明: SELECT ステートメントには、エクスポートされた行よりも多くの行が示されていました。このエラーは、エクスポート中にエラーが検出されて操作が終了した場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: メッセージ・ファイルを調べてください。

msgcode: +2207

sqlstate: 38S97

GSE2208N 行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の空間参照系に関連しています。この ID は、前の行の形状に使用された空間参照系の数値 ID *srs-id2* と一致しません。

説明: 行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の空間参照系に関連しています。この ID は、前の行の形状に使用された空間参照系の数値 ID *srs-id2* と一致しません。行 *row-number* は、エクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: エクスポートされるすべての形状が、同じ空間参照系 ID を持っていることを確認してください。同じでない場合は、SELECT ステートメントで ST_Transform() メソッドを使用して、すべての形状を同じ空間参照系に変換してください。

msgcode: -2208

sqlstate: 38S98

GSE2209N エクスポートされる行 *row-number* の形状が NULL 値です。

説明: NULL 値の概念は、形状のエクスポート先のファイルのデータではサポートされていません。行 *row-number* にエクスポートされる形状が NULL 値であるため、エクスポートできません。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを変更して、NULL 値の形状を持つ行をエクスポートから除外してください。

msgcode: -2209

sqlstate: 38S99

GSE2210N 行 *row-number* の形状の空間参照系が無効です。この空間参照系の数値 ID は、*srs-id* です。

説明: 行 *row-number* で、エクスポートされる形状が、無効な空間参照系を使用しています。形状をエクスポートできません。

ユーザーの処置: 示された形状を訂正するか、SELECT ステートメントを変更して、その行をエクスポート操作から除外してください。

msgcode: -2210

sqlstate: 38S9A

GSE2211N エクスポートされる空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に関連していません。この空間参照系に基づいている座標系は、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標系定義 *coordsys-def* と一致しません。

説明: エクスポートされる空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に関連していません。この空間参照系に基づいている座標系は、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標系定義 *coordsys-def* と一致しません。データはエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: 一致する座標系を持つファイルにデータを追加するか、座標系に合わせて空間データをトランスフォームするか、またはデータを別のファイルにエクスポートしてください。

msgcode: -2211

sqlstate: 38S9B

GSE2212N 属性データが dBASE ファイルと一致しません。

説明: エクスポート操作に指定された SELECT ステートメントは、dBASE ファイル (.dbf) に一致しない属性データを生成します。

エクスポート操作の SELECT ステートメントからの属性データを dBASE ファイルに追加できません。可能性のある理由は、以下のとおりです。

- 列の数が一致しない。
- 列のデータ・タイプが一致しない。
- 属性列名が一致しない。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを訂正するか、または、指定した dBASE ファイルに追加しないでください。

msgcode: -2212

sqlstate: 38S9C

GSE2213W 行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が NULL 値です。

説明: 行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が NULL 値です。行はエクスポートされませんでした。

ユーザーの処置: SELECT ステートメントを変更して、NULL 値を持つ形状を除外してください。

msgcode: +2213

sqlstate: 38S9D

GSE2214W 行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリがありません。

説明: 行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリがありません。行はエクスポートされませんでしたでしたが、エクスポート操作は続行されました。

ユーザーの処置: メモリーを増やすか、その行から形状を除外するように、SELECT ステートメントを変更してください。

msgcode: +2214

sqlstate: 38S9E

GSE2215W *record-number* としてシェイプ・ファイルに追加される形状は、シェイプ・タイプが *geometry-shape-type* ですが、これはシェイプ・ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。

説明: *record-number* としてシェイプ・ファイルに追加

される形状は、シェイプ・タイプが *geometry-shape-type* ですが、これはシェイプ・ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。この形状は、そのファイルにエクスポートできません。

有効なシェイプ・タイプは、以下のとおりです。

- 0 空の形状。
- 1 Z 座標および目盛りが無い点。
- 3 Z 座標および目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 5 Z 座標および目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 8 Z 座標および目盛りが無いマルチポイント。
- 9 Z 座標があって目盛りが無い点。
- 10 Z 座標があって目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 11 Z 座標および目盛りがある点。
- 13 Z 座標がおよび目盛りがある行ストリングまたは複数行ストリング。
- 15 Z 座標および目盛りがあるポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 18 Z 座標および目盛りがあるマルチポイント。
- 19 Z 座標があって目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 20 Z 座標があって目盛りが無いマルチポイント。
- 21 目盛りがあって Z 座標が無い点。
- 23 目盛りがあって Z 座標が無い行ストリングまたは複数行ストリング。
- 25 目盛りがあって Z 座標が無いポリゴンまたはマルチポリゴン。
- 28 目盛りがあって Z 座標が無いマルチポイント。

ユーザーの処置: 形状を正しいタイプに変換するか、または別のシェイプ・ファイルにエクスポートしてください。

msgcode: +2215

sqlstate: 38S9F

GSE2216N エクスポートしようとしているシェイプ・データが無効です。

説明: Spatial Extender は、形状をシェイプ・ファイルにエクスポートする前に、シェイプ・データに変換します。このエラーは、形状が変換されたシェイプ・デー

タが無効であったために戻されました。形状はエクスポートされませんでした。

説明は以下のとおりです。

- シェイプ・データが奇数バイトです。
- シェイプ・データが短すぎて、すべての情報が入りません。
- 不明なシェイプの兆候が戻されました。
- 最小結合長方形に関する情報が、タイプ指定と整合性がありません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2216

sqlstate: 38S9G

GSE2217N 出力列リストで列名 *column-name* が重複しています。

説明: 出力列リストに列名 *column-name* が 2 回以上現れます。すべての列名はリスト内で固有でなければなりません。データはエクスポートされません。

ユーザーの処置: 出力列リストに固有な列名を指定してください。

dBASE ファイル (.dbf) では、すべての列名は最大でも 11 バイトにしなければなりません。SDEX ファイルでは、すべての列名は最大でも 32 バイトにしなければなりません。

msgcode: -2217

sqlstate: 38S9I

GSE2299N シェイプ・ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。

説明: シェイプ・ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。シェイプ・ファイルは、16 ビット・ワードの倍数のファイル・サイズです。したがって、シェイプ・ファイルのサイズは常に偶数になります。シェイプ・ファイルが壊れている可能性があります。このファイルを使用できません。

ユーザーの処置: シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

msgcode: -2299

sqlstate: 38S9H

GSE2500N SDEX ファイル *file-name* のヘッダーが無効です。

説明: SDEX ファイル *file-name* のヘッダーが無効です。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

msgcode: -2500

sqlstate: 38SA0

GSE2501N 座標系パラメーターが SDEX ファイル *file-name* から読み込めませんでした。

説明: SDEX ファイル *file-name* は、座標系定義の無効なデータを含んでいます。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに保管されている座標系定義を検証し修正してください。

msgcode: -2501

sqlstate: 38SA1

GSE2502N 列定義が SDEX ファイル *file-name* から読み込めませんでした。

説明: SDEX ファイル *file-name* は、列定義の無効なデータを含んでいます。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに保管されている列定義を検証し修正してください。

msgcode: -2502

sqlstate: 38SA2

GSE2503N SDEX ファイルの列にサポートされないタイプ *type* があります。

説明: SDEX ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。SDEX ファイルをインポートできませんでした。

ユーザーの処置: SDEX ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は省略してください。

msgcode: -2503

sqlstate: 38SA3

GSE2504N 列位置 *position* は範囲外です。SDEX ファイルには、*column-number* 個の列がありません。

説明: 指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。有効な値は、0 (ゼロ) より大きく、*column-number* より小さいか等しい値です。

ユーザーの処置: 有効な位置を指定してください。

msgcode: -2504

sqlstate: 38SA4

GSE2505N SDEX ファイルの列 *column-name* が長すぎます。

説明: SDEX ファイルの列の名前 *column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

ユーザーの処置: DB2 の長さ制限を超えない *column-name* を指定してください。

msgcode: -2505

sqlstate: 38SA5

GSE2506N 列 *column-name* が SDEX ファイルにありません。

説明: 名前 *column-name* は、SDEX ファイルの既存の属性列を表していません。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: SDEX ファイルに存在する列名を指定してください。

msgcode: -2506

sqlstate: 38SA6

GSE2507N SDEX ファイル内の列 *column-name* の SDEX ファイル・データ・タイプ *data-type* はサポートされていません。

説明: SDEX ファイルの属性列 *column-name* の SDEX ファイル・データ・タイプ *data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。SDEX ファイルをインポートできません。

ユーザーの処置: 列リストからその列を除外してください。

msgcode: -2507

sqlstate: 38SA7

GSE2508N 複数の空間列が SDEX ファイル *file-name* に存在します。

説明: Spatial Extender は、SDEX ファイル *file-name* に複数の列を検出しました。空間列は 1 つしか許可されません。ファイルを正常にインポートできません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルを、空間列を 1 つにするよう訂正してください。

msgcode: -2508

sqlstate: 38SA8

GSE2509N SDEX ファイル *file-name* から、レコード *record-number* を読み取ることができません。理由コード: *reason-code*

説明: レコード *record-number* が SDEX ファイル *file-name* から読み込めません。

レコードを読み取ることができない理由は、理由コードによって、次のようになります。

-1 内部エラーが発生しました。

-13 使用可能なメモリが十分ではありません。

ユーザーの処置: 理由コードに従って SDEX ファイルを検証し修正し、またはメモリ不足を解決してください。

msgcode: -2509

sqlstate: 38SA9

GSE2600N SDEX ファイル *file-name* のヘッダーを書き込むことができません。

説明: SDEX ファイル *file-name* のヘッダーを正常に書き込むことが出来ません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2600

sqlstate: 38SF0

GSE2601N SDEX ファイル *file-name* に座標系パラメーターを書き込むことができません。

説明: 座標系パラメーターを SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2601

sqlstate: 38SF1

GSE2602N SDEX ファイル *file-name* に列定義を書き込むことができません。

説明: 列定義を SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2602

sqlstate: 38SF2

GSE2603N 列名 *column-name* は、SDEX ファイルの 32 文字の制限を超えています。

説明: 列名 *column-name* は、SDEX ファイルの 32 バイトの制限を超えています。データはエクスポートされません。

ユーザーの処置: SDEX ファイルにエクスポートするデータには、32 バイト以下の列名を指定してください。

msgcode: -2603

sqlstate: 38SF3

GSE2604N エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。

説明: エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。データをエクスポートできません。

ユーザーの処置: SDE のエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

msgcode: -2604

sqlstate: 38SF4

GSE2605N レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name* に書き込むことができません。

説明: レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問

題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -2605

sqlstate: 38SF5

GSE3000N SRS ID が NULL です。

説明: 数値による空間参照系 ID ではなく、NULL 値が関数またはメソッドに渡されました。

ユーザーの処置: 既存の空間参照系の数値による空間参照系 ID を指定してください。定義されている空間参照系については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3000

sqlstate: 38SU0

GSE3001N SRS ID *srs-id* が無効です。

説明: 空間処理関数に指定された空間参照系 ID *srs-id* は、既存の空間参照系を識別していません。

ユーザーの処置: Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS に定義されている既存の数値による空間参照系 ID を指定するか、または、*srs-id* によって識別される空間参照系を作成してください。

msgcode: -3001

sqlstate: 38SU1

GSE3002N 単位名が NULL です。

説明: 計測単位として NULL が指定されました。計測単位の指定は、単位そのもの (たとえば、“meter” など) でなければなりません。NULL は指定できません。

ユーザーの処置: 空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略するか、または、既存の計測単位を指定してください。サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

msgcode: -3002

sqlstate: 38SU2

GSE3003N 不明な単位 *unit-name* が指定されました。

説明: 空間処理関数またはメソッドに指定された単位 *unit-name* は、既存の計測単位を示していません。

ユーザーの処置: 空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略するか、または、既存の計測単位を指定してください。サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

msgcode: -3003

sqlstate: 38SU3

GSE3004N 単位 *unit-name* への変換はサポートされていません。

説明: 単位 *unit-name* への変換は、サポートされていません。

指定された形状が展開された座標系にない場合、関数 ST_Area、ST_Buffer、ST_Length、および ST_Perimeter は、線形の計測単位を受け入れられません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかの方式を使用してください。

- 空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略してください。
- 角度の計測単位を指定してください。
- ST_Transform 関数を使用して、形状を展開された座標系に展開してください。適当な空間参照系については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3004

sqlstate: 38SU4

GSE3005N SRS に単位がありません。

説明: 形状に対する空間参照系に、関連した線形または角度の単位がありません。要求された計測単位で操作を実行することはできません。

ユーザーの処置: 関連した線形または角度の計測単位がある正しい空間参照系の形状を指定するか、または、操作の要求時に単位パラメーターを省略してください。

msgcode: -3005

sqlstate: 38SU5

GSE3006N 内部タイプ ID が無効です。

説明: この形状の内部データ・タイプ ID は、NULL 値なので、無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3006

sqlstate: 38SU6

GSE3007N 内部タイプ ID *type-id* が不明です。

説明: 形状の内部タイプ ID *type-id* の値が無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3007

sqlstate: 38SU7

GSE3008N 内部タイプ ID のミスマッチ (*type-id1*、*type-id2*)。

説明: 内部データ・タイプ ID のミスマッチが検出されました。Spatial Extender は、内部データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を検索するはずでしたが、内部データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を検索しました。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3008

sqlstate: 38SU8

GSE3009W パーツ数 *part-number* が無効です。

説明: 指定されたパーツ数 *part-number* が無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: 形状が空でない場合は、形状コレクションにおいて 0 (ゼロ) より大きく最大パーツ数以下の有効なパーツ数を指定してください。

ST_NumGeometries 関数を使用すると、形状コレクションのパーツ数を判別することができます。

形状が空の場合は、方式は適用されません。

msgcode: +3009

sqlstate: 01HS0

GSE3010W リング数 *ring-number* が無効です。

説明: 内部リング数に指定された数 *ring-number* が無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: ポリゴン値が空でない場合は、ポリゴンにおいて、1 以上で内部リングの最大数以下の有効なリング数を指定してください。

ポリゴンが空の場合は、関数またはメソッドは適用されません。ST_NumInteriorRings 関数を使用すると、ポリゴンの内部リングの数を判別することができます。

msgcode: +3010

sqlstate: 01HS1

GSE3011W 点数 *point-number* が無効です。

説明: 指定された点数 *point-number* は無効です。NULL 値が戻されました。

ユーザーの処置: 曲線値が空でない場合は、曲線で 0 (ゼロ) より大きく、点の最大数より小さいか等しい有効な点数を指定してください。曲線が空の場合は、関数またはメソッドは適用されません。

ST_NumPoints 関数を使用すると、曲線の定義に使用する点数を判別することができます。

msgcode: +3011

sqlstate: 01HS2

GSE3012N DE9-IM *matrix* が無効です。

説明: ST_Relate 関数に指定された交差マトリックス *matrix* は無効です。マトリックスは 9 文字でなければなりません。また、マトリックスの各文字は、'T'、'F'、'0'、'1'、'2'、'*' のいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 有効な交差マトリックスを指定してください。

msgcode: -3012

sqlstate: 38SU9

GSE3013N 外部リングがリングではありません。

説明: ポリゴンの新規外部リングとなる行ストリングが、リングではありません。リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。この両方の条件あるいはいずれかの条件が満たされていません。

ユーザーの処置: ポリゴンの新規外部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

msgcode: -3013

sqlstate: 38SUA

GSE3014N 内部リングがリングではありません。

説明: ポリゴンの新規内部リングとなる行ストリングが、リングではありません。リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。これらの条件の少なくとも 1 つが満たされていません。

ユーザーの処置: ポリゴンの新規内部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

msgcode: -3014

sqlstate: 38SUB

GSE3015N 理由コード = *reason-code*。SRS *srs-id* へのトランスフォーメーションが失敗しました。

説明: 形状が表されている空間参照系から、数値 ID *srs-id* の空間参照系に、形状をトランスフォームできませんでした。トランスフォームは、理由コード *reason-code* で失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

- 2008** 形状が無効です。
- 2018** トランスフォーメーションを正常に完了するために十分なメモリーがありません。
- 2020** 空間参照系に互換性がありません。両方の空間参照系は、直接または間接的に同じ形状座標系に基づいていなければなりません。
- 2021** 結果の形状の点 (1 つまたは複数) は、新しい空間参照系で可能な最大範囲外にあります。結果の形状を、新しい空間参照系で表すことができません。

GSE3016N

-2025 新しい空間参照系の定義が無効です。

-2026 形状の展開中に、内部エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 空間参照系 *srs-id* にトランスフォームできる空間参照系で形状を表すか、または、形状をトランスフォームする宛先として別の空間参照系 ID を指定してください。

msgcode: -3015

sqlstate: 38SUC

GSE3016N キャスト *type-id1*、*type-id2* はサポートされていません。

説明: 内部タイプ ID *type-id1* のデータ・タイプから、内部タイプ ID *type-id2* のデータ・タイプへ試行されたキャスト操作はサポートされていません。形状をこれ以上処理できません。

ユーザーの処置: サポートされているキャスト操作を指定してください。サポートされている cast 関数について詳しくは、「IBM DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

msgcode: -3016

sqlstate: 38SUD

GSE3020N Z 座標と目盛りの組み合わせが無効です。

説明: 関数またはメソッドが処理しようとした形状は、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されていません。

すべての形状は、Z 座標が含まれているか、または Z 座標が含まれていないかのいずれかでなければなりません。すべての形状は、目盛りが含まれているか、または目盛りが含まれていないかのいずれかでなければなりません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドに、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されている形状を指定してください。

msgcode: -3020

sqlstate: 38SUH

GSE3021N 理由コード = *reason-code*。ロケーター障害。

説明: LOB ロケーターでの空間処理関数またはメソッドの操作時に、内部エラーが発生しました。ロケーター関数によって理由コード *reason-code* が戻されました。

ユーザーの処置: 「IBM DB2 アプリケーション開発ガ

イド」を参照して、LOB ロケーターから戻された *reason-code* の意味を判別して、問題を訂正してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3021

sqlstate: 38SUI

GSE3022N 表記が長すぎます (*append-length* 対 *written-length* バイト)。

説明: Geographic Markup Language (GML) での形状の表記、既知のテキスト (WKT)、既知のバイナリー (WKB)、またはシェイプ表記が長すぎます。*append-length* バイトから、*written-length* バイトだけしかエンコードに追加できません。形状の表記を作成できません。

ユーザーの処置: 形状に重要でない点を省略して、形状を単純化してください。ST_Generalize 関数を使用して、この処理を行うことができます。または、形状をより小さい形状にブレイクダウンしてください。

msgcode: -3022

sqlstate: 38SUJ

GSE3023N 表記が短すぎます (*length* バイト)。

説明: 既知のバイナリー (WKB) 表記またはシェイプ表記での形状の表記が *length* バイトの長さしかありません。シェイプ表記に最低でも 4 バイト、空の形状の既知のバイナリー表記にちょうど 5 バイト、空でない形状の既知のバイナリー表記に最低でも 9 バイト必要です。バイナリー表記は、すべての形状点を含むのに十分な長さでなければなりません。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドに、有効な既知のバイナリー表記またはシェイプ表記を提供してください。

msgcode: -3023

sqlstate: 38SUK

GSE3024N 内部形状が短すぎます。

説明: 形状の内部表記が短すぎます。これ以上、処理できませんでした。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

msgcode: -3024

sqlstate: 38SUL

GSE3025N 形状が不整合です。

説明: 形状値が不整合で、これ以上処理できません。

ユーザーの処置: 有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再作成してください。

msgcode: -3025

sqlstate: 38SUM

GSE3026N 点の数が不整合です (*indicated-number* 対 *data-number*)。

説明: 形状の内部パラメーターは、形状データに *indicated-number* 点が含まれていることを示しています。しかし、実際の形状データには *data-number* 点が含まれています。この不整合により、形状は、処理においてこれ以上使用されません。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を再作成してください。

msgcode: -3026

sqlstate: 38SUN

GSE3027N 点が空です。

説明: これは、X 座標、Y 座標、Z 座標、または空の点に対する目盛りの指定において無効です。

点がコンストラクター関数 `ST_Point` によって構成されている場合、点の X および Y 座標は、両方とも NULL でなければなりません。さらに、点が NULL 値でない限り、Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

空の点の変更に mutator `ST_X`、`ST_Y`、`ST_Z`、または `ST_M` が使用される場合には、点の X および Y 座標は両方とも NULL でなければなりません。NULL でない限り、Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

ユーザーの処置: mutator `ST_X`、`ST_Y`、`ST_Z`、または `ST_M` を使用して、空でない点を変更するか、または、NULL でない値の X および Y 座標の両方を指定して点を構成してください。

msgcode: -3027

sqlstate: 38SUO

GSE3028N 座標が不整合です。

説明: 新しい点を構成している場合には、X および Y 座標を両方とも指定しなければなりません。両方の座標とも NULL であるか、または NULL でないかのいずれかでなければなりません。

両方の座標値が NULL の場合には、結果点は空になります。その場合、結果点が NULL でない限り、Z 座標または目盛りを指定しないでください。

ユーザーの処置: X および Y の両方の座標に NULL を指定するか、または、両方の座標に NULL でない値を指定してください。

msgcode: -3028

sqlstate: 38SUP

GSE3029N バイト・オーダー *byte-order* が無効です。

説明: 形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーは、0 または 1 のいずれかでなければなりません、*byte-order* になっています。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアン・フォーマットを、1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアン・フォーマットを示します。

ユーザーの処置: バイナリー表記におけるバイト・オーダーが 0 または 1 のいずれかになるように訂正してください。

msgcode: -3029

sqlstate: 38SUQ

GSE3030N 形状での点数 *num-points* が無効です。

説明: 形状値に無効な点数 *num-points* があります。この値は、0 (ゼロ) 以上でなければなりません。

形状が空でない場合には、以下の条件を満たしていなければなりません。

点 形状には、点が 1 つだけなければなりません。

行ストリング

形状には、形状を定義する点が 2 つ以上なければなりません。

ポリゴン

形状には、形状を定義する点が 3 つ以上なければなりません。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートさ

GSE3031N

れている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

msgcode: -3030

sqlstate: 38SUR

GSE3031N 形状のエクステント (*min-coord* 対 *max-coord*) が無効です。

説明: いずれかのディメンションにおける形状のエクステントが無効です。形状のすべてのディメンションにおいて、最小座標 *min-coord* は、最大座標 *max-coord* 以下でなければなりません。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

msgcode: -3031

sqlstate: 38SUS

GSE3032N 集約が失敗しました。

説明: 空間データ集約の計算で、内部 ID 間のミスマッチが検出されました。

集約関数は、以下のいずれかの状態において使用される場合、サポートされません。

- パーティション環境。
- 空間データ集約が含まれている照会で A GROUP BY 文節が使用されている場合。
- DB2 集約関数 MAX 以外の関数を使用されている場合。
- 集約関数が正しいコンテキストで使用されていない場合。

ユーザーの処置: Spatial Extender によってサポートされている方法で、集約関数を使用するようにしてください。

msgcode: -3032

sqlstate: 38SUT

GSE3033N バイナリー・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、*type-id2*)。

説明: この空間処理関数またはメソッドに入力として渡されるバイナリー表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。しかし、実際に関数またはメソッドに渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。形状を構成できませんでした。

ユーザーの処置: タイプ *type-id2* の形状を構成する正しい関数またはメソッドを呼び出すか、または、バイナ

リー表記が *type-id1* の形状を表すように訂正してください。

msgcode: -3033

sqlstate: 38SUU

GSE3034N テキスト・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、*type-id2*)。

説明: この空間処理関数またはメソッドに入力として渡されるテキスト表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。しかし、実際に関数に渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。形状を構成できませんでした。

ユーザーの処置: タイプ *type-id1* の形状を構成する正しい関数を呼び出すか、または、テキスト表記が *type-id2* の形状を表すように訂正してください。

msgcode: -3034

sqlstate: 38SUV

GSE3035W 曲線が変更されませんでした。

説明: 曲線に追加するために指定された点が空であったため、曲線は変更されませんでした。

ユーザーの処置: 空でない点を曲線に追加してください。

msgcode: +3035

sqlstate: 01HS3

GSE3036W 形状が正確ではありません。

説明: 空間参照系で、結果の形状を正確に表せませんでした。スケール係数のいずれかが小さすぎて、結果の形状を定義する各点を表すのに十分な精度ではありません。

たとえば、X 座標にスケール係数 1、Y 座標にスケール係数 1 が組み込まれている空間参照系において 'linestring m (10 10 8, 10 11 12)' のように表される既知のテキスト表記の行ストリングがあるとします。関数 ST_MeasureBetween がその行ストリングに適用され、目盛りの上限および下限がそれぞれ 9 および 10 であるとする、既知のテキスト表記で表される結果の行ストリングは 'linestring m (10 10.25 9, 10 10.50 10)' となるはずですが。しかし、Y 座標のスケール係数が 1 なので、小数部を表記できません。座標 10.25 と 10.50 は、丸めを行わないと表すことができないため、誤った結果になります。これらの座標は、形状から除去されます。

ユーザーの処置: より大きいスケール係数の空間参照系

で形状を表してください。または、結果の形状が変わるように別のパラメーターを選択してください。

msgcode: +3036

sqlstate: 01HS4

GSE3037N 無効な GML です。 *position* の位置で *string* ではなく *char* を予想しました。

説明: 形状のジオグラフィー・マークアップ言語で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が、位置 *position* で見つかりました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3037

sqlstate: 38SUW

GSE3038N 無効な GML です。 *position* の位置で *given-tag* ではなく *expected-tag* を予想しました。

説明: タグ *given-tag* が、位置 *position* の形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりましたが、*expected-tag* が予想されていました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3038

sqlstate: 38SUX

GSE3039N 無効な GML です。 *position* の位置で *text* ではなく番号を予想しました。

説明: 予想しないテキスト *text* が、位置 *position* にある形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。代わりに座標を示す数値が使用されました。GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3039

sqlstate: 38SUY

GSE3040N 無効な GML タイプ type。

説明: 予期しないタイプ *type* が、形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。GML は、点、行ストリング、ポリゴン、複数点、複数行ストリング、およびマルチポリゴンをサポートします。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3040

sqlstate: 38SUZ

GSE3041N GML の点の指定が誤っています。

説明: この問題は、以下の理由により発生したと思われます。

- ジオグラフィー・マークアップ言語を使用して表記される点は、座標の設定を 1 つしか持つことができません。指定された点は、座標のセットがなかったか、あるいは複数の座標のセットがあったかのどちらかの状態でした。
- 座標のセットが、対応する `<gml:coord>` または `<gml:coordinates>` タグで囲まれていません。

GML 表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3041

sqlstate: 38SV0

GSE3042N オフセット *offset* にあるロケーターから、*number-bytes* バイトを読み取ることができませんでした。データの合計長は、*length* です。

説明: オフセット *offset* で始まるロケーターから、*number-bytes* バイトを読み取ろうとしました。これは、ロケーターで参照されるデータの *length* の合計長を超過しています。データは切り捨てられる可能性があります。

形状のバイナリー表記に関して、バイナリー表記が無効なバイナリー・エンコードを示す場合があります。エンコードされた形状にはヘッダーが示すより小さい点があります。

ユーザーの処置: 形状の表記を確認して訂正してください。バイナリー表記またはテキスト表記が、Spatial Extender 機能に渡されるまでは切り捨てられていないことを確認してください。

GSE3043N

msgcode: -3042

sqlstate: 38SV1

GSE3043N 無効なパーツ数 *number-parts*。

説明: 形状のバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-parts* が無効です。パーツ数はゼロより大きく、エンコードで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3043

sqlstate: 38SV2

GSE3044N 無効なリング数 *number-rings*。

説明: ポリゴンまたはマルチポリゴンのバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-rings* が無効です。リング数はゼロより大きく、エンコードで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

ユーザーの処置: 正しいリングの数を指定するか、または、その形状のすべてのリングを提供してください。

msgcode: -3044

sqlstate: 38SV3

GSE3045N パーツ・オフセット *part-offset* のシェイプが無効です。

説明: パーツの形状のシェイプ表記に対して、無効なオフセット *part-offset* が検出されました。パーツ・オフセットは、0 (ゼロ) 以上であり、各パーツ・オフセットは先行するオフセットより大きくなければなりません。シェイプ表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: シェイプ表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3045

sqlstate: 38SV4

GSE3046N タイプ ID *type-id* がシェイプで無効です。

説明: 形状のシェイプ表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。シェイプ・データが破壊されている可能性があります。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 形状のシェイプ表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3046

sqlstate: 38SV5

GSE3047N タイプ *type* に対するシェイプ・エンコードの長さ *shape-length* が無効です。予想されるのは *expected-length* バイトのみです。

説明: シェイプ・エンコードには、*shape-length* バイトが含まれます。これは長すぎます。指定されたタイプ *type* の形状をエンコードするには、*expected-length* バイトのみが必要です。シェイプ・データが破壊されている可能性があります。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 形状のシェイプ表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3047

sqlstate: 38SV6

GSE3048N 無効な WKT フォーマットです。 *string* ではなく *char* を予想しました。

説明: 既知の形状のテキスト表記で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が検出されました。既知のテキスト表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3048

sqlstate: 38SV7

GSE3049N 無効な WKT フォーマットです。 *text* ではなく番号を予想しました。

説明: 予期しないテキスト *text* が、形状の既知のテキストで見つかりました。代わりに座標を示す数値が使用されました。既知のテキスト表記は無効です。Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3049

sqlstate: 38SV8

GSE3050N 予期しない括弧が WKT フォーマットの *text* で検出されました。

説明: 予期しない左括弧または右括弧が、形状の既知のテキスト表記の *text* で検出されました。既知のテキス

ト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3050

sqlstate: 38SV9

GSE3051N 括弧が WKT フォーマットで一致しません。 parenthesis が予想されました。

説明: 既知のテキスト表記の終わりに予期せずに達しました。 括弧 *parenthesis* が予想されました。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3051

sqlstate: 38SVA

GSE3052N WKT で不明のタイプ type です。

説明: 形状の既知のテキスト表記には、 *type* の不明タイプ名が含まれています。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

ユーザーの処置: 既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

msgcode: -3052

sqlstate: 38SVB

GSE3053N タイプ ID type-id が WKB で無効です。

説明: 形状の既知のバイナリー表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。 データが破壊されている可能性があります。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

形状のコレクション (複数点、複数行ストリング、またはマルチポリゴン) にある分離パーツのタイプ ID には、 Z と M 座標について形状コレクション自体と同じ標識がある必要があります。

ユーザーの処置: 既知の形状のバイナリー表記を確認して訂正してください。

msgcode: -3053

sqlstate: 38SVC

GSE3300N グリッド・サイズ grid-size-number が無効です。

説明: 位置 *grid-size-number* によって識別されるグリッド・サイズが無効です。 CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、 0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、 0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、 1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、 0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、 2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、 0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: グリッド索引をドロップして、有効なグリッド・サイズだけを使用して新しいグリッド索引を作成してください。

msgcode: -3300

sqlstate: 38SIO

GSE3301N Z-オーダー・パラメーター parameter-number が無効です。

説明: Z-オーダー・インデックスの位置 *parameter-number* によって示されているパラメーターに、無効な値が含まれています。 形状を追加する索引を作成する際に使用された CREATE INDEX ステートメントで、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに NULL 値が指定されました。
- スケール係数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 2 と 4 だけに適用されません)。

GSE3302N

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: 空間データ Z-オーダー・インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

msgcode: -3301

sqlstate: 38SI1

GSE3302N 点を索引化できません。

説明: Z-オーダー・インデックスを使用して索引化しようとしている形状が点ではありません。Z-オーダー・インデックスは点だけしかサポートしていないので、索引項目を生成できません。

ユーザーの処置: Z-オーダー・インデックスが定義されている列に、点ではない形状を挿入しないでください。索引をドロップするか、形状を挿入しないでください。

msgcode: -3302

sqlstate: 38SI2

GSE3303N 4 ディメンション・ツリー・パラメーター *parameter-number* が無効です。

説明: 4 ディメンション・ツリー構造インデックスの作成時に無効なパラメーターが指定されました。パラメーターは、位置 *grid-size-number* によって示されます。

以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに NULL 値が指定されました。
- スケール係数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 3 と 5 だけに適用されます)。
- 最初のパラメーターに 1 より小さい値が指定されました。

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

ユーザーの処置: 空間データ 4 ディメンション・ツリー構造インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

msgcode: -3303

sqlstate: 38SI3

GSE3400C 不明なエラー *error-code*。

説明: 形状の処理時に、コード *error-code* の内部エラーが検出されました。

ユーザーの処置: エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3400

sqlstate: 38SS0

GSE3402C メモリー不足です。

説明: 呼び出した空間処理関数またはメソッドに十分なメモリーが使用できませんでした。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドを実行する DB2 処理で使用できるメモリーの量を増やしてください。

msgcode: -3402

sqlstate: 38SS2

GSE3403N 形状タイプが無効です。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

ユーザーの処置: 有効な形状を指定してください。詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3403

sqlstate: 38SS3

GSE3405N パーツの指定が多すぎます。

説明: 形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数より多くなっています。示されているパーツの数が多すぎるか、または、一部のパーツしか提供されていません。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3405

sqlstate: 38SS5

GSE3406N 形状タイプが誤っています。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、間違ったタイプの形状が渡されました。たとえば、入力としてポリゴンしか必要としない関数またはメソッドに、行ストリングが渡された場合などが考えられます。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドが処理できるタイプの形状を渡すか、あるいは、渡す形状のタイプが受け

入れられる関数またはメソッドを使用してください。

msgcode: -3406

sqlstate: 38SS6

GSE3407N テキストが長すぎます。

説明: 形状に含まれている詳細が多すぎて、既知のテキスト表記に変換できません。既知のテキスト表記が、許容される最大長 (2 ギガバイト) を超えています。

ユーザーの処置: 形状を単純化してください。たとえば、ST_Generalize 関数を使用するか、形状を既知のバイナリー表記に変換してください。

msgcode: -3407

sqlstate: 38SS7

GSE3408N 無効なパラメーター値。

説明: 無効なパラメーターが検出されました。

ユーザーの処置: 関数の正しい構文について IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザース・ガイドおよびリファレンス」を参照して、操作を再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3408

sqlstate: 38SS8

GSE3409N 無効な形状が生成されています。

説明: 関数またはメソッドに指定されたパラメーターが無効な形状 (たとえば、無効なシェイプ表記など) を生じました。無効な形状は、形状のプロパティに違反するものです。

ユーザーの処置: 有効な表記で形状を再構成してください。

msgcode: -3409

sqlstate: 38SS9

GSE3410N 形状に互換性がありません。

説明: 関数またはメソッドは、特定のタイプの 2 つの形状を受け取るはずでしたが、これらを受け取りませんでした。たとえば、ST_AddPoint 関数では、表記と点の 2 つの形状が必要です。

ユーザーの処置: 関数またはメソッドが有効な入力として受け入れる形状を指定してください。この関数およびメソッドに有効な形状タイプを判別するには、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management

Feature の「ユーザース・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3410

sqlstate: 38SSA

GSE3411N 形状が無効です。

説明: 形状の 1 つまたは複数のプロパティが形状の保全性に違反しているため、関数またはメソッドは渡された形状を処理できませんでした。

ユーザーの処置: ST_IsValid 関数を使用して、形状の妥当性を検査してください。形状が無効である場合には、正しい表記で形状を再構成してください。

msgcode: -3411

sqlstate: 38SSB

GSE3412N 点が多すぎます。

説明: 形状の構造が 1 メガバイトのストレージ制限を超えています。形状に点が多すぎます。

ユーザーの処置: 点を少なくして形状を再構成してください。または、可能であれば、いくつかの点を除去してください。パフォーマンスおよびストレージを考慮して、形状を表すのに必要な点だけが含まれるようにしてください。

msgcode: -3412

sqlstate: 38SSC

GSE3413N 形状が小さすぎます。

説明:

ST_Difference、ST_Intersection、ST_SymDifference、または ST_Union 関数から戻された形状が小さすぎて、現行の空間参照系で正確に表すことができません。

たとえば、内部計算によって非常に小さいポリゴンが構成されるのに、空間参照系のスケール係数が、形状をこの空間参照系で表すと行ストリングに縮小表示されてしまうほど低い値である場合などが考えられます。このような場合、ポリゴンとしてのプロパティが失われてしまいます。

ユーザーの処置: 解像度がより高い計算ができる空間参照系を使用してください。ST_Transform 関数を使用すると、ある空間参照系から別の空間参照系に形状を変換することができます。

msgcode: -3413

sqlstate: 38SSD

GSE3414N バッファーが境界外です。

説明: ST_Buffer 関数は、空間参照系が適用する座標の範囲外である、指定された形状の周囲にバッファーを作成しました。

Spatial Extender のカタログ・ビュー

DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。計算されたバッファーが、これらの値を超えてはなりません。

ユーザーの処置: バッファー計算に使用する距離を小さくするか、または、計算が行われる空間参照系を変更してください。ST_Transform 関数を使用すると、ある空間参照系から別の空間参照系に形状を変換することができます。

msgcode: -3414

sqlstate: 38SSE

GSE3415N 無効なスケール係数。

説明: 4 つのディメンション (X、Y、Z、および M) のいずれかのスケール係数が 1 以上です。

ユーザーの処置: 正しく定義された空間参照系を使用して、形状を表してください。

msgcode: -3415

sqlstate: 38SSI

GSE3416N 座標が境界外です。

説明: 少なくとも 1 つのディメンションに関して、座標がシステムの範囲値内の有効な最大絶対値または最小絶対値を超えているため、空間参照系で座標を表すことができません。

Spatial Extender のカタログ・ビュー

DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。

ユーザーの処置: 座標が正しいかどうか判別してください。正しい場合には、座標が、使用している空間参照系の範囲内に収まるかどうか判別してください。この空間参照系については、

DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

msgcode: -3416

sqlstate: 38SSG

GSE3417N 座標定義が無効です。

説明: 形状の空間参照系に基づいている座標系の定義のテキスト表記に 1 つまたは複数のエラーがあります。表記を有効な展開に変換できません。

ユーザーの処置: 空間参照系の座標系定義を検査してください。または、有効な座標系に関連付けられている空間参照系で形状を構成してください。

ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標系と定義を比較することによって座標系定義を検査することができます。

msgcode: -3417

sqlstate: 38SSH

GSE3418N 展開エラー。

説明: 形状を別の空間参照系に展開しようとして、エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 形状が展開の正当なドメイン内にあるか、確認してください。

msgcode: -3418

sqlstate: 38SSI

GSE3419N ポリゴン・リングがオーバーラップしています。

説明: ポリゴンのリングがオーバーラップしています。定義により、ポリゴンの内部および外部のリングがオーバーラップしてはなりません。これらは、正接でのみ交差することができます。つまり、リングは互いに接することしかできず、交差することはできません。

ユーザーの処置: オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。形状の空間参照系のスケール係数が精度に影響を与えることに注意してください。

msgcode: -3419

sqlstate: 38SSJ

GSE3420N 点が少なすぎます。

説明: 以下のいずれかが、エラーの原因と思われます。

- 行ストリングは、少なくとも 2 つの点から構成され、ポリゴンは少なくとも 4 つの点から構成されている必要があります。
- 指定した点で、形状を構成できません。

構成しようとしている形状が空である場合、これらの規則は適用されないことに注意してください。

ユーザーの処置: 有効な点で形状を再構成してください。

msgcode: -3420

sqlstate: 38SSK

GSE3421N ポリゴンが閉じていません。

説明: ポリゴンを定義する内部および外部のリングは、閉じていなければなりません。X および Y ディメンションで開始点と終了点が同じであれば、リングは閉じています。ポリゴンに Z 座標がある場合には、開始点と終了点は Z 座標とも同じでなければなりません。この規則は目盛りには適用されないことに注意してください。目盛りでは、開始点と終了点が異なってもかまいません。

ユーザーの処置: X および Y ディメンションの開始点と終了点が同じ点であるポリゴンには、内部リングおよび外部リングを指定してください。ポリゴンに Z 座標がある場合には、Z 座標点の開始点と終了点も同じでなければなりません。ポリゴンに目盛りがある場合には、開始点と終了点が異なってもかまいません。

msgcode: -3421

sqlstate: 38SSL

GSE3422N 外部リングが無効です。

説明: ポリゴンの外部リングが無効です。

ポリゴンの外部リングは、ポリゴンのすべての内部リングを囲んでいなければなりません。すべての内部リングは、外部リングによって定義されているエリアの完全に内側でなければなりません。また、外部リングと交差してはなりません。

ユーザーの処置: 形状を表す際に、内部リングが、外部リングによって囲まれているエリア内に完全に入るような、内部リングおよび外部リングの有効なセットからなる形状を指定してください。

形状に複数のポリゴンがある場合には、マルチポリゴンを使用してください。

msgcode: -3422

sqlstate: 38SSM

GSE3423N ポリゴンにエリアがありません。

説明: 指定されたポリゴンには、X および Y ディメンションが空のセットではないエリアをカバーする内部がありません。

形状の座標が、X および Y 座標により定義される 2 ディメンション・スペースで 2 ディメンションにまた

がっている場合のみ、形状はポリゴンとなります。

ユーザーの処置: 空でないエリアを囲むポリゴンを指定してください。ポリゴンが空の場合は、空のポリゴンを構成してください。

msgcode: -3423

sqlstate: 38SSN

GSE3424N 外部リングがオーバーラップしています。

説明: マルチポリゴン内の個別のポリゴンの外部リングが、オーバーラップしています。マルチポリゴンの個別のポリゴンはオーバーラップしてはなりません。また、境界は、限られた数の点でしか接してはなりません。つまり、ポリゴンは行セグメントを共有してはなりません。

形状を表すのに使用する空間参照系のスケール係数は、座標に適用する精度に影響を与えます。空間参照系で形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。

空間参照系のスケール係数が精度に影響を与えることに注意してください。

形状が表される空間参照系に使用されるスケール係数については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3424

sqlstate: 38SSO

GSE3425N ポリゴン自体が交差しています。

説明: ポリゴンのリング自体は交差できません。ポリゴンの各リングの開始点および終了点は、リングを横切る際に 2 回接しなければなりません。その他すべての点は、1 回しか接してはなりません。このことは、ポリゴンのリングを定義する行セグメントについてもあてはまります。

形状を表すのに使用する空間参照系のスケール係数は、座標に適用する精度に影響を与えます。空間参照系で形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

ユーザーの処置: リングがそれ自体に交差しない有効なポリゴンを構成してください。

形状が表される空間参照系に使用されるスケール係数については、Spatial Extender のカタログ・ビュー

GSE3426N

DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

msgcode: -3425

sqlstate: 38SSP

GSE3426N 無効なパーツ数。

説明: 形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数と同じではありません。関数またはメソッドに指定されたパーツの数が、少なすぎるか、または多すぎます。

ユーザーの処置: 正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

msgcode: -3426

sqlstate: 38SSQ

GSE3427N SRS に互換性がありません。

説明: 2つの空間参照系に互換性がありません。この2つのシステムをトランスフォームまたは比較することができません。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: 2つの互換性のある空間参照系を指定してください。

msgcode: -3427

sqlstate: 38SSR

GSE3428N BLOB が小さすぎます。

説明: 形状の指定されたバイナリー表記のバイト数が、小さすぎます。

ユーザーの処置: 形状の有効なバイナリー表記を指定してください。

msgcode: -3428

sqlstate: 38SSS

GSE3429N 形状タイプが無効です。

説明: 無効な内部形状タイプが検出されました。形状は無効で、これ以上処理されません。

ユーザーの処置: 有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再構成してください。

msgcode: -3429

sqlstate: 38SST

GSE3430N 無効なバイト・オーダー。

説明: 形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーに無効な値があります。バイト・オーダーは 0 (ゼロ) または 1 でなければなりません。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアンを、1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアンを示します。

ユーザーの処置: 形状のバイナリー表記に有効なバイト・オーダーを指定してください。

msgcode: -3430

sqlstate: 38SSU

GSE3431N 空の形状。

説明: 空の形状が ST_AsBinary 関数に入力として渡されましたが、この関数では空の形状は使用できません。

ユーザーの処置: サブミットした SQL ステートメントを編集して、空でない形状だけが ST_AsBinary 関数に渡されるようにしてください。たとえば、ST_IsEmpty 関数を使用して、WHERE 文節で、空の形状を除外することができます。

msgcode: -3431

sqlstate: 38SSV

GSE3432N 終了点が無効です。

説明: 指定された終了点は、曲線に追加するよう指定されましたが、無効です。

ユーザーの処置: 追加する有効な点を指定してください。

msgcode: -3432

sqlstate: 38SSW

GSE3433N 点が見つかりません。

説明: 指定された点は、変更されるか除去されるよう指定されましたが、曲線に存在しません。

ユーザーの処置: 曲線に存在する点を指定してください。

msgcode: -3433

sqlstate: 38SSX

GSE3500N インスタンス・パスが見つかりません。

説明: ジオコーダーをインプリメントする関数が、DB2 インスタンス・パスを検出できませんでした。

ユーザーの処置: DB2 および IBM DB2 Spatial

Extender が正しくインストールされているか検査してください。 DB2INSTANCE 環境変数が、関数を実行する処理を実行しているユーザーに対して設定されているか調べてください。

問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3500

sqlstate: 38SG0

GSE3501N SRS ID が変わっています (*new-srs-id*, *previous-srs-id*)。

説明: ジオコーダーは、アドレスをジオコードし、単一の SQL ステートメントで結果の点をすべて同じ空間参照系に作成するように最適化されます。しかし、ジオコーダーは、同じ SQL ステートメントで、違う空間参照系を検出しました。新しい空間参照系は、*new-srs-id* で示されています。前の行に使用されていた空間参照系は、*previous-srs-id* で示されていました。

ユーザーの処置: ジオコーダーが実行されている列にデフォルト・パラメーターおよび上書きするパラメーターを指定してください。これは、複数のアドレスを一度にジオコードするために使用される SQL ステートメント内で数値空間参照系 ID を定数のままにして行ってください。

msgcode: -3501

sqlstate: 38SG1

GSE3502N パスが長すぎます。

説明: ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに指定されたパス名が 256 バイトを超えており、長すぎます。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに、より短いパス名を使用してください。UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、パス名を短くすることができます。

msgcode: -3502

sqlstate: 38SG2

GSE3503N ロケーター・ファイルの行 *line-number* が無効です。

説明: ロケーター・ファイルの行 *line-number* に無効な項目が含まれています。ファイル内の各項目は、"property name = property value" のフォームでなければなりません。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルを訂正してください。

msgcode: -3503

sqlstate: 38SG3

GSE3504N ロケーター・ファイルの行 *line-number* で引用符の不一致がありました。

説明: ロケーター・ファイルの行 *line-number* に、引用符文字の平衡が取れていない項目が含まれています。引用される場合は、プロパティ名にもプロパティ値と同様に、開始引用符文字および終了引用符文字がなければなりません。

ユーザーの処置: ロケーター・ファイルを訂正してください。

msgcode: -3504

sqlstate: 38SG4

GSE3505N 理由コード = *reason-code*。プロパティ障害。

説明: ロケーター・ファイル (.loc) に定義されているプロパティの処理中に障害が発生しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

- 502 プロパティが他のプロパティと矛盾しています。
- 503 要求されたプロパティが見つかりませんでした。
- 504 プロパティの値が無効です。
- 505 予期しないプロパティが検出されました。
- 506 スカラー値が予測されるプロパティに値の配列が指定されました。
- 507 プロパティの値が予期されたデータ・タイプではありません。
- 513 プロパティの値が長すぎます。
- 533 プロパティの値に指定された式が無効です。

ユーザーの処置: 理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -3505

sqlstate: 38SG5

GSE3506N プロパティのコピーが失敗しました。

説明: 内部バッファーへのプロパティのコピーが失敗しました。使用可能なメモリーが十分ではありません。

GSE3507N

ユーザーの処置: ジオコーダーがロケータ・ファイルから内部バッファへプロパティをコピーするのに十分な使用可能メモリーを確保してください。

msgcode: -3506

sqlstate: 38SG6

GSE3507N プロパティが多すぎます。

説明: ロケータ・ファイルに含まれるプロパティが多すぎます。ロケータ・ファイルで指定できるのは、最大で 2048 プロパティです。

ユーザーの処置: ロケータ・ファイルに指定されているプロパティ数を減らしてください。

msgcode: -3507

sqlstate: 38SG7

GSE3508N 点が作成されませんでした。

説明: ジオコーダーは、ST_Point 形状ではない形状を作成しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3508

sqlstate: 38SG8

GSE3509N 理由コード = *reason-code*。ジオコーダーの初期化に失敗しました。

説明: ジオコーダーの初期化に失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

-522 ジオコーダーの初期化中に一般的な障害が発生しました。

-527 突き合わせキーの初期化に失敗しました。

-529 アドレス正規化の初期化に失敗しました。

ユーザーの処置: Spatial Extender のインストールを調べてください。

msgcode: -3509

sqlstate: 38SG9

GSE3510N アドレスが正規化されませんでした。

説明: ジオコーダーは、アドレスを正規化できませんでした。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3510

sqlstate: 38SGA

GSE3511N 理由コード = *reason-code*。ジオコーダー・ファイル操作が失敗しました。

説明: ファイル操作中に、理由コード *reason-code* の内部エラーが発生しました。

ファイル操作が失敗する理由は、理由コードによって、次のようになります。

-543 一致規則ファイル (.mat) をオープンできませんでした。

-544 一致規則ファイル (.mat) が無効です。

-547 参照データ・ファイル (.edg) をオープンできませんでした。

-548 参照データ・ファイル (.edg) の表が無いか、またはアクセスできません。

-549 要求された列が参照データ・ファイル (.edg) にありませんでした。

-550 索引ファイルにアクセスできませんでした。

ユーザーの処置: 理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -3511

sqlstate: 38SGB

GSE3512N 理由コード = *reason-code*。ジオコーダーが失敗しました。

説明: ジオコーダーが理由コード *reason-code* の内部エラーで失敗しました。

ユーザーの処置: 内部エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3512

sqlstate: 38SGC

GSE3600N 索引が指定されていません。

説明: 有効な索引が指定されませんでした。索引スキーマ・パラメーター、索引名パラメーター、またはその両方が NULL です。索引パラメーター値を入手できません。

ユーザーの処置: パラメーター情報を検索するのに有効な空間インデックスを指定してください。

msgcode: -3600

sqlstate: 38SQ0

GSE3601N 無効な空間インデックス名
schema-name.index-name.

説明: パラメーター情報を検索する索引に指定した名前が存在しないか、または空間インデックスを識別しません。この名前は *schema-name.index-name* です。

ユーザーの処置: 既存の空間インデックスを指定して、パラメーター情報を検索してください。

msgcode: -3601

sqlstate: 38SQ1

GSE3602N 無効なパラメーター番号 *number* が指定されました。

説明: 指定された空間インデックスでは、パラメーター数 *number* は無効です。

空間インデックスのタイプによって、以下の制限が適用されます。

グリッド索引

パラメーター数は 1 から 3 までです。

Z-オーダー・インデックス

パラメーター数は 1 から 4 までです。

4 ディメンション・ツリー構造インデックス

パラメーター数は 1 から 5 までです。

ユーザーの処置: 空間インデックスに有効なパラメーター数を指定してください。空間インデックスのタイプについては、DB2 システム・カタログを調べてください。

msgcode: -3602

sqlstate: 38SQ2

GSE3603N 無効な列名。

説明: 指定された列は、表に存在しません。表スキーマ、表名、または列名の少なくとも 1 つが NULL 値です。列の索引のパラメーターを取得できません。

ユーザーの処置: 空間インデックスが定義されている既存の列を指定してください。

msgcode: -3603

sqlstate: 38SQ3

GSE3701N 距離 *distance-value* は範囲外です。有効な範囲は、*min* メートル以上、*max* メートル以下です。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効な距離が渡されました。

ユーザーの処置: 有効な距離を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3701

sqlstate: 38SO9

GSE3702N 内部形状エンジンでワークスペースが不足しています。

説明: 測地ワークスペースが操作を実行するのに十分な大きさではありませんでした。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3702

sqlstate: 38SOT

GSE3703N 内部形状エンジンでヒープ・メモリーが不足しています。

説明: 使用可能なメモリーが十分ではありません。提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

ユーザーの処置: メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3703

sqlstate: 38SOU

GSE3704C 内部形状エンジンのデータが壊れているか、入力が無効の可能性があります。

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3704

sqlstate: 38SOV

GSE3706C 内部形状エンジンでエラー番号
hipparchus-error が生じました。

説明: Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3706

sqlstate: 38SOX

GSE3708C 内部エラー: ディスパッチ表項目が空です。

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3708

sqlstate: 38SOR

GSE3709C 内部エラー

説明: Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3709

sqlstate: 38SOY

GSE3712N 緯度 *latitude-value* は範囲外です。

説明: 緯度の値は有効な範囲内でなければなりません。度数で測定した場合、有効な緯度の範囲は -90 度以上、90 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な緯度の範囲は -100 グラード以上、100 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な緯度の範囲は $-PI/2$ ラジアン以上、 $PI/2$ ラジアン以下です。ここで PI は約 3.14159265358979323846 です。

ユーザーの処置: 有効な緯度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3712

sqlstate: 38SO7

GSE3713N 経度 *longitude-value* は範囲外です。

説明: 経度の値は有効な範囲内でなければなりません。度数で測定した場合、有効な経度の範囲は -180 度以上、180 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な経度の範囲は -200 グラード以上、200 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な経度の範囲は $-PI$ ラジアン以上、 PI ラジアン以下です。ここで PI は約 3.14159265358979323846 です。

ユーザーの処置: 有効な経度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3713

sqlstate: 38SO8

GSE3714N 指定したリング (*nrings*) が少なすぎます。少なくとも 1 リングが必要です。

説明: 空ではない ST_Polygon には少なくとも 1 つのリングが必要です。

ユーザーの処置: 少なくとも 1 つのリングを指定し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3714

sqlstate: 38SOD

GSE3716N 指定した点 (*npoints*) が少なすぎます。少なくとも *min* の点が必要です。

説明: 空ではない ST_LineString の点が少なすぎます。ST_LineString 値は少なくとも 2 つの点が必要で、ST_Polygon でリングとして指定された ST_LineString 値は少なくとも 4 つの点が必要です。

ユーザーの処置: 形状値に正しい点数を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3716

sqlstate: 38SOL

GSE3721N 形状コレクションはサポートされていません。

説明: ST_GeomCollection 値は、DB2 Geodetic Data Management Feature ではサポートされていません。

ユーザーの処置: ST_GeomCollection の代わりに、Use ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon タイプを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3721

sqlstate: 38SP6

GSE3722N WKB タイプ・タグが不明であるかサポートされていません: *wkb-type*。

説明: 事前割り当てバイナリー値は、不明であるかサポートされていないタイプです。

ユーザーの処置: 既知の事前割り当てバイナリー・タイプ

(ST_Point、ST_LineString、ST_Polygon、ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon) を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3722

sqlstate: 38SP7

GSE3724N タイプが一致していません: 受信タイプ = *given-type*、予想タイプ = *expected-type*。

説明: 呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

ユーザーの処置: コマンドを再入力してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -3724

sqlstate: 38SON

GSE3726N *type* データ・タイプのバージョン *version-number* は、現在使用中の DB2 Geodetic Data Management Feature ではサポートされていません。

説明: サポートされていないバージョンが形状値に含まれています。

ユーザーの処置: サポートされているバージョンを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3726

sqlstate: 38SOZ

GSE3733W ポリゴンが地球の半分以上を網羅していません。頂点の反時計方向を確認してください。

説明: ポリゴンが地球の半分以上を網羅しています。

ユーザーの処置: 頂点の反時計方向を確認してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: +3733

sqlstate: 01HS5

GSE3734N リング形状が無効です。一致した連続点が *point-value* で検出されました。

説明: リング形状が無効です。一致した連続点が検出されました。

ユーザーの処置: 一致した連続点を除去して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3734

sqlstate: 38SQ4

GSE3735N リング形状が無効です。一連の座標が *point-value* で交差しているか接していません。

説明: リング形状が無効です。一連の座標が交差しているか接しています。

GSE3736N

ユーザーの処置: 交差したり接したりしないリングを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3735

sqlstate: 38SQ5

GSE3736N 構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。各リングの回転方向を調べてください。

説明: 構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。

ユーザーの処置: 各リングの回転方向を調べてください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3736

sqlstate: 38SQ6

GSE3737N ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。

説明: ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。

ユーザーの処置: 境界のあるポリゴンを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3737

sqlstate: 38SQ7

GSE3739N リング形状が無効です。同一線上のセグメントが *point-value* 付近で検出されました。

説明: リング形状が無効です。同一線上のセグメントが検出されました。

ユーザーの処置: 同一線上のセグメントを除去してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3739

sqlstate: 38SQ9

GSE3740N 理由コード *reason-code* サポートされていない測地系 (緯度経度) にもとづく操作です。

説明: DB2 Geodetic Data Management Feature では、以下に示された理由コードのために該当操作がサポートされていません。

「1」 Geodetic Extender のライセンスが使用可能ではありません。

「2」 関数が、SRID が NULL の ST_Geometry 値で呼び出されました。

「3」 関数が、SRID 値が等しくない ST_Geometry 値で呼び出されました。

「4」 関数が、NULL 定義を持つ空間参照系で呼び出されました。

「5」 関数が Geodetic でサポートされていません。

「6」 1 つ以上の ST_Geometry 値のタイプが Geodetic でサポートされていません。

「7」 関数が、測地座標値および測地座標値でない値での実行をサポートしていません。

「8」 測地ポロノイ・インデックス は測地座標値でない値をサポートしていません。

「9」 空間グリッド・インデックスは測地座標値をサポートしていません。

ユーザーの処置: 理由コードに対応するアクションは、以下のとおりです。

「1」 Geodetic Extender のライセンスを使用可能にします。

「2」 すべての ST_Geometry 値に有効な SRID 属性値を指定します。

「3」 測地系 (緯度経度) にもとづく操作のため、すべての ST_Geometry 値に同じ SRID 値が入るようにします。

「4」 問題が解決しない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

「5」 測地範囲内の SRID を指定した ST_Geometry 値でこの関数またはメソッドを呼び出さないでください。

「6」 測地範囲内の SRID を指定したこの ST_Geometry タイプを使用しないでください。

「7」 測地範囲内または測地範囲外の SRID を指定したすべての ST_Geometry 値でこの関数を実行してください。

「8」 測地座標値でない値を含む列では空間グリッド・インデックス仕様を使用してください。

「9」 測地座標値を含む列では 測地ポロノイ・インデッ

クス仕様を使用してください。

問題を訂正したら、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3740

sqlstate: 38SOP

GSE3743N ポロノイ細分 Id *vtid* が見つかりません。

説明: 指定したポロノイ細分 Id が定義されていません。

ユーザーの処置: 定義されたポロノイ細分 Id を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3743

sqlstate: 38SOC

GSE3744N 形状値が大きすぎます。

説明: 形状値が最大値を超えてはなりません。

ユーザーの処置: 形状値の点を少なく指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3744

sqlstate: 38SOK

GSE3745N 空間参照系定義に、正しく定義された SPHEROID 定義がありません。

説明: この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、空間座標系ではないか、SPHEROID 定義を含む DATUM 定義を含んでいません。

ユーザーの処置: 空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3745

sqlstate: 38SOF

GSE3746N 楕円 ID が定義されていません。

説明: DB2 Geodetic Data Management Feature で楕円 ID が定義されていません。

ユーザーの処置: 定義された楕円を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3746

sqlstate: 38SOG

GSE3748N ポリゴンのリングが閉じられていません。

説明: ポリゴンのリングの始点と終点はまったく同じでなければなりません。

ユーザーの処置: 始点と終点をまったく同じにすることでリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3748

sqlstate: 38SOI

GSE3749N ポリゴンの折れ線またはリングで正反対の線分 *linesegment* が検出されました。

説明: これは、楕円の中央から見ると、2つの点がお互いにまったく正反対である線分です。たとえば、線定義 (0 0, 180 0) は北極を移動することも南極を移動することもあり得ます。

ユーザーの処置: この線分にある2つの点のいずれかを移動して正反対の線分をなくして、折れ線またはリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3749

sqlstate: 38SP0

GSE3750N 空間参照系定義に、適切に定義された UNIT 定義がありません。

説明: この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、空間座標系ではないか、UNIT 定義を含んでいません。

ユーザーの処置: 空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

GSE4000N

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

msgcode: -3750

sqlstate: 38SP5

GSE4000N 必須パラメーター *parameter-name* がありません。

説明: 必須パラメーターが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 必須パラメーターを指定して、コマンドの実行を再試行してください。

msgcode: -4000

sqlstate: 38SB0

GSE4001N Spatial Extender が環境ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。

説明: コール・レベル・インターフェース (CLI) を使用して、環境ハンドルを割り振ることができませんでした。操作を正常に完了できませんでした。

ユーザーの処置: CLI 構成を検査してください。問題の原因を見つけられず、訂正できない場合には、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4001

sqlstate: 38SB1

GSE4002N Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。
CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4002

sqlstate: 38SB2

GSE4003N Spatial Extender がデータベースに接続している時に、エラーが発生しました。
CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender がデータベースに接続している

時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4003

sqlstate: 38SB3

GSE4004N Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4004

sqlstate: 38SB4

GSE4005N SQL ステートメントが準備されている時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントを準備している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4005

sqlstate: 38SB5

GSE4006N Spatial Extender が SQL ステートメントにパラメーターを結合している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントにパラ

メーターを結合している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4006

sqlstate: 38SB6

GSE4007N **Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

説明: Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4007

sqlstate: 38SB7

GSE4008N **Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、エラーが発生しました。CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

説明: Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

ユーザーの処置: 詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4008

sqlstate: 38SB8

GSE4009N **オプション *option* が無効です。**

説明: 指定されたオプション *option* が無効です。

ユーザーの処置: 有効なオプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4009

sqlstate: 38SB9

GSE4100N **列 *schema-name.table-name.column-name* が存在しません。**

説明: 指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は存在しません。

ユーザーの処置: 既存の表の既存の列を選択し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4100

sqlstate: 38SC0

GSE4101N **列 *schema-name.table-name.column-name* は空間データ・タイプではありません。**

説明: 指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は、空間データ・タイプではありません。空間データ・タイプは ST_Geometry か、または ST_Geometry 固有のサブタイプのいずれかです。

ユーザーの処置: 空間データ・タイプで列を選択し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4101

sqlstate: 38SC1

GSE4102N **空間グリッド索引 *schema-name.index-name* は存在しません。**

説明: 指定された空間グリッド索引 *schema-name.index-name* は存在しません。

ユーザーの処置: 存在する空間グリッド索引を指定し、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4102

sqlstate: 38SC2

GSE4103N **Spatial Extender が列 *schema-name.table-name.column-name* の索引情報を検索している時に、内部エラーが発生しました。**

説明: Spatial Extender は、列 *schema-name.table-name.table-name* の空間インデックスに関する情報を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4103

sqlstate: 38SC3

GSE4104N Spatial Extender は、空間グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズを検索できませんでした。

説明: Spatial Extender は、グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズ定義を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -4104

sqlstate: 38SC4

GSE4105W 列 *schema-name.table-name.column-name* に分析する行がありません。

説明: 列 *schema-name.table-name.table-name* には、Spatial Extender が分析できる値が含まれていません。

サンプリングが使用されている場合は、サンプル・レートが低すぎる可能性があります。

ユーザーの処置: 形状が含まれている列でコマンドを実行してください。サンプリングが使用されている場合は、より高いサンプリング・レートを使用してください。

msgcode: +4105

sqlstate: 38SC5

GSE4106W Spatial Extender は、*number* 項目の MBR ヒストグラムを検索するのに十分なメモリーを取得できませんでした。

説明: 空間列のすべての形状の最小境界長方形のヒストグラム・サイズが大きすぎます。保管するのに十分なメモリーを割り振ることができませんでした。コマンドを正常に実行できません。

ユーザーの処置: コマンドに SHOW DETAIL オプションを指定しないでください。または、サンプル・レートを低くして形状をサンプリングし、形状の数を減らしてください。

msgcode: +4106

sqlstate: 38SC6

GSE4107N グリッド・サイズ値 *grid-size* は、使用されている箇所では無効です。

説明: 指定されたグリッド・サイズ *grid-size* が無効です。

CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

ユーザーの処置: グリッド・サイズに有効な値を指定してください。

msgcode: -4107

sqlstate: 38SC7

GSE4108W 列 *schema-name.table-name.column-name* の形状は、エクステントをカバーしていません。

説明: 列 *schema-name.table-name.column-name* のすべての形状が、0 (ゼロ) より大きいエクステントにまたがっていません。つまり、列に同一の点だけしか存在しません。索引情報を収集できません。

ユーザーの処置: 空間列に追加の行を挿入してください。

msgcode: +4108

sqlstate: 38SC8

GSE4109N 無効な照会ボックス・サイズ *query-box-size* が指定されました。

説明: 指定された照会ボックス・サイズ *query-box-size* が無効です。照会ボックスは、0 (ゼロ) より大きく 1 以下でなければなりません。照会ボックス・サイズは、通常検索される列のデータに対するエクステントのパーセンテージを示します。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きく 1 以下の値を選択して、照会ボックス・サイズを訂正してください。

msgcode: -4109

sqlstate: 38SC9

GSE4110N 無効な分析行数 *num-rows* が指定されました。

説明: 指定された分析行数 (*num-rows*) が無効です。行数は、0 (ゼロ) より大きくなければなりません。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きい有効な行数を指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4110

sqlstate: 38SCA

GSE4111N 無効なパーセンテージ *percentage* が指定されました。

説明: 指定された、分析行のパーセンテージ *percentage* が無効です。パーセンテージは、0 (ゼロ) より大きく 100 以下の整数でなければなりません。

ユーザーの処置: 0 (ゼロ) より大きく 100 以下の有効なパーセンテージを指定して、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4111

sqlstate: 38SCB

GSE4112W 表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントのサンプルを作成できませんでした。

説明: Spatial Extender は、表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントをサンプリングしようとしたのですが、分析可能なサンプル行をそれ以上作成できませんでした。

ユーザーの処置: 表が空でない場合は、より高いサンプリング・レートを選択して、コマンドを再試行してください。

msgcode: +4112

sqlstate: 38SCC

GSE4113N サンプリングされたデータに対して宣言されているグローバル一時表の表スペースがありません。

説明: Spatial Extender により分析されるデータをサンプリングする必要があるグローバル一時表を宣言するためには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが存在していなければなりません。Spatial Extender が分析しようとしているデータをサンプリングできるようなグローバル一時表が必要です。この表を宣言するには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが必要です。

ユーザーの処置: 適切な USER TEMPORARY 表スペースを作成し、コマンドを再試行するか、または、空間データをサンプリングしないように ANALYZE 文節を使用しないでください。

msgcode: -4113

sqlstate: 38SCD

GSE4200N データ・タイプ *type* のパラメーター *value* は、そのコンテキストで予期されていません。

説明: タイプ *type* のパラメーター値 *value* は、コマンドのコンテキストで予期されていません。

ユーザーの処置: 実行するコマンドを訂正してから、操作を再試行してください。

msgcode: -4200

sqlstate: 38SD0

GSE4201N コマンドが指定されていません。

説明: 実行するコマンドが指定されていません。

ユーザーの処置: コマンドを指定してください。

msgcode: -4201

sqlstate: 38SD1

GSE4202N コマンドの構文解析が失敗しました。

説明: 指定されたコマンド構文を正常に解析できませんでした。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4202

sqlstate: 38SD2

GSE4203N トークン *token* の後で予期しないステートメントの終了が検出されました。

説明: トークン *token* の解析後に、予期しないステートメントの終了が検出されました。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4203

sqlstate: 38SD3

GSE4204N

GSE4204N トークン *token* の周辺で構文解析が失敗しました。

説明: トークン *token* の周辺で予期しない構文解析エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

msgcode: -4204

sqlstate: 38SD4

GSE4205N **Spatial Extender** が、複数の *type* 文節を検出しました。

説明: Spatial Extender は、コマンドの解析中に、データ・タイプ *type* の文節を複数検出しました。

ユーザーの処置: *type* の文節を 1 つだけ指定して、コマンドを再度実行してください。

msgcode: -4205

sqlstate: 38SD5

GSE9000N このデータベースは **Spatial Extender** バージョン 7 レベルではありません。

説明: このデータベースは Spatial Extender バージョン 7 レベルでないにもかかわらず、バージョン 8 へのマイグレーションなどの操作を実行しようとしています。

ユーザーの処置: データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

msgcode: -9000

sqlstate: 38SZ0

GSE9001N このデータベースは、すでに **Spatial Extender** バージョン 8 レベルです。

説明: このデータベースは、すでに Spatial Extender バージョン 8 レベルであるにもかかわらず、バージョン 8 へのマイグレーションなどの操作を実行しようとしています。

ユーザーの処置: データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

msgcode: -9001

sqlstate: 38SZ1

GSE9002N **Spatial Extender** データベース・オブジェクトのアップグレード中にエラーが発生しました。

説明: Spatial Extender カタログと空間処理関数をアッ

プグレードしようとして、エラーが検出されました。次のような理由が考えられます。

- データベースが空間処理対応になっていません。
- アップグレードしようとしているデータベースのバージョンが `db2se upgrade` コマンドでサポートされていません。
- アップグレード処理中に内部処理エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのアクションを行ってください。

- `db2se enable_db` コマンドを使用して、このデータベースを空間処理に使用する。
- アップグレードしようとしているデータベースのバージョンが `db2se upgrade` コマンドでサポートされていることを確認して、このコマンドを再発行する。
- DB2 サポート・チームに連絡を取って内部処理エラーを報告する。

詳しくは、`db2se upgrade` メッセージ・ファイルを参照してください。

msgcode: -9002

sqlstate: 38SZ2

GSE9003N ユーザー定義オブジェクトと **Spatial Extender** オブジェクトの間に従属関係があります。

説明: いくつかのユーザー定義オブジェクトが Spatial Extender オブジェクトに従属しているため、Spatial Extender オブジェクトをアップグレードできません。

ユーザーの処置: `db2se アップグレード・メッセージ・ファイル` を検討して、どのような従属関係が存在するかを判別してください。

`db2se アップグレード・コマンド` を強制オプションを指定して発行し、Spatial Extender オブジェクトに従属しているユーザー定義オブジェクトを保管およびリストアしてください。

msgcode: -9003

sqlstate: 38SZ3

GSE9990C 内部エラーが発生しました: *error-text*.

説明: Spatial Extender は、テキスト *error-text* の予期しない内部エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 示されている *error-text* を読んでください。問題が解決されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -9990

sqlstate: 38SZY

GSE9999C 内部でメッセージ障害

説明: Spatial Extender がエラー・メッセージを検索している時に、内部障害が発生しました。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

msgcode: -9999

sqlstate: 38SZZ

第 17 部 ICM メッセージ

第 99 章 ICM0000 - ICM0499

ICM0001N データベースへの接続中に SQL エラーが発生しました。データベース = *dbname*、カタログ = *catalogname*。

説明: API がデータベースへの接続をオープンしようとして SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0002N アプリケーション *applicationname* の登録中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションを登録中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0003N オブジェクトの検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログの検索を実行中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0004N アプリケーション *applicationname* のインフォメーション・カタログ・マネージャー API 設定にアクセス中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションの設定を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0005N データベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がデータベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0006N 登録済みアプリケーションのリストをロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションのリストを検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0007N アプリケーション *applicationname* のアプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションのアプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0008N オブジェクト・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・タイプ定義を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0009N オブジェクト・タイプ *objecttype* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0010N オブジェクト・タイプ *objecttype* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0011N オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0012N オブジェクト・タイプ *objecttype* の参照 ID の検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプの次に使用可能な参照 ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0013N IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスをロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスのデータをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0014N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* を作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにオブジェクト・インスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0015N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのオブジェクト・インスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0016N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0017N プロパティ *propertyname* のロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・インスタンスのプロパティの値をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0018N リレーションシップ・カテゴリーのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリーをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0019N リレーションシップ・カテゴリー *categoryname* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにリレーションシップ・カテゴリーを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0020N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのリレーションシップ・カテゴリを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0021N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0022N リレーションシップ・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・タイプをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0023N リレーションシップ・タイプ *typename* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにリレーションシップ・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0024N リレーションシップ・タイプ *typename* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのリレーションシップ・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0025N リレーションシップ・タイプ *typename* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0026N リレーションシップ・インスタンスのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・インスタンスの情報をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0027N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0028N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

ICM0029N

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0029N リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0030N コンテキストの変更をコミット中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにコミットしようとして SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0031N コンテキストの変更のロールバック中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにロールバック中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0032N コンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0033N コンテキストの接続プロパティにアクセス中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストのデータベース接続詳細にアクセス中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0034N 検索操作の取り消し中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が検索操作を取り消すユーザー要求を処理中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0035N アクセス制御リストのロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからアクセス制御リストの情報をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0036N アクセス制御リスト *accesslistname* の更新中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのアクセス制御リストを更新中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0037N BLOB プロパティ *propertyname* のデータにアクセス中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定した BLOB プロパティのデータをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0038N IBM DB2 ツール・カタログのバージョン情報の検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がデータベース・エンジンおよび IBM DB2 ツール

ル・カタログのバージョン情報のデータベースを照会中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0039N オブジェクトのアクセス・コントロール項目の検索中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API がオブジェクトのアクセス・コントロール・データをロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0040N アクセス制御リスト *accesslistname* の作成中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにアクセス制御リストを作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0041N アクセス制御リスト *accesslistname* の削除中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからアクセス制御リストを削除中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0042N オブジェクト・タイプ *typename* のロック中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が他のアプリケーションによるアクセスを回避するためにオブジェクト・タイプをロック中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0043N オブジェクト ID のロード中に SQL エラーが発生しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスの ID をロード中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0100N IBM DB2 ツール・カタログに接続できません。(データベース = *databasename*, カタログ = *catalogname*)

説明: 誤った値がデータベース名またはカタログ名に提供されました。

ユーザーの処置: データベースおよびカタログに有効な値を提供してください。データベース名は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API を実行中のシステムでカタログされたデータベースを参照している必要があります。カタログ名は、DB2 ツール・カタログを保留するのに使用されるデータベース内のスキーマを参照している必要があります。

ICM0101N このカタログ・オブジェクトは、すでに IBM DB2 ツール・カタログに接続されています。

説明: すでに接続がオープンされているカタログ・オブジェクトを使用して DB2 ツール・カタログへの接続をオープンするのに失敗しました。

ユーザーの処置: カatalog・オブジェクトがすでにオープンしていないことをチェックしてください。

ICM0102N データベース *databasename* 内のスキーマ *schemaname* に、有効な IBM DB2 ツール・カタログが含まれていません。表 *tablename* が見つかりませんでした。

説明: カatalogが IBM DB2 ツール・カタログへの接続をオープンしたときに、要求された表 *tablename* を見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: スキーマ名とデータベース名が正しいこと、および DB2 ツール・カタログがスキーマ *schemaname* で作成されていることをチェックしてください。

ICM0103N 誤った引数がオーファン・リレーションシップ検索で提供されました。

説明: カタログ・オブジェクトの orphanRelationships(Context, Object, Collection, Collection, boolean, bJolean, SearchRules) 方式への emptySource および emptyTarget パラメーターが両方とも false でした。これは誤りです。

ユーザーの処置: パラメーター emptySource および emptyTarget のいずれか、または両方が true でなければなりません。

ICM0104N applicationname は予約済みのアプリケーション名です。

説明: アプリケーション名 applicationname はインフォメーション・カタログ・マネージャー API で使用されるよう予約されています。

ユーザーの処置: アプリケーション名に別の名前を使用してください。

ICM0105N アプリケーション applicationname はすでに登録されています。

説明: applicationname という名前のアプリケーションは、インフォメーション・カタログ・マネージャー API で以前に登録されています。

ユーザーの処置: 別の名前を使用してアプリケーションを登録するか、または既存の登録済みアプリケーション ID を使用してください。

ICM0106N アプリケーション applicationname は、登録されていません。

説明: 登録されていないアプリケーション名でアプリケーションを使用する試みがなされました。

ユーザーの処置: アプリケーションを使用する前にアプリケーション名を登録するか、またはすでに登録済みのアプリケーション名を使用してください。

ICM0107N IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする前に、アプリケーションをカタログ・オブジェクトと関連付ける必要があります。

説明: アプリケーションをカタログ・オブジェクトと関連付ける前に、IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする試みがなされました。

ユーザーの処置: カタログ・オブジェクトを使用して IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする前に、カタログ・クラスの setApplicationName(String) メソッドを

使用して、アプリケーションをカタログ・オブジェクトに関連付けてください。

ICM0108N コンテキストが解放されない間は、カタログをクローズできません。

説明: カタログ・オブジェクトのクローズ方式が呼び出されたときに、1 つ以上のコンテキストが解放されていない状態でした。

ユーザーの処置: カタログをクローズする前に、カタログに対してオープンされているすべてのコンテキストを解放してください。

ICM0109N 制約の保管中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。

説明: データベースに保管する制約を準備中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 制約オブジェクトがシリアル化可能であることをチェックしてください。

ICM0110N 制約のロード中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。

説明: IBM DB2 ツール・カタログに保管されているデータから制約を再作成中に入出力エラーが発生しました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0111N アプリケーション applicationname を登録できません。使用可能な ID がありません。

説明: 使用可能なアプリケーション ID は 63 個です。64 個目のアプリケーションを登録しようとした。

ユーザーの処置: この IBM DB2 ツール・カタログでもはや使用されていない登録済みアプリケーションを除去して、IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0112N 誤った引数が getACEsForPrincipal(Context, String, boolean, Collection) メソッドに提供されました。

説明: アクセス・コントロール項目を検索するためのオブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合の値が NULL でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合に NULL 以外の値を指定してください。

ICM0113N 誤った引数が `getObjectsOwnedByUser(Context, String, Collection)` 方式に提供されました。

説明: 所有オブジェクトを検索するためのオブジェクト・タイプのユーザーまたは集合の値が NULL でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのユーザーおよび集合の両方に NULL 以外の値を指定してください。

ICM0200N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの `setProperty(Collection)` 方式を使用することはできません。

説明: IBM DB2 ツール・カタログですでに作成されているオブジェクト・タイプについて、`setProperty(Collection)` メソッドを使用しようとしていました。

ユーザーの処置: `addProperty(MetadataPropertyDefinition)` 方式を使用して、個々に新規プロパティを追加するか、または新規オブジェクト・タイプを作成してください。

ICM0201N このオブジェクト・タイプのプロパティを設定するときは、システム・プロパティ `propertyname` を指定しなければなりません。

説明: システム・プロパティ `propertyname` が、`setProperty(Collection)` メソッドに提供されたプロパティのリストにありませんでした。

ユーザーの処置: `setProperty(Collection)` 方式に提供されるプロパティのリストに、すべてのシステム・プロパティが含まれていなければなりません。

ICM0202N プロパティ `propertyname` は、オブジェクト・タイプ `typename` の索引 `indexname` によって使用されています。オブジェクト・タイプのプロパティのリストを設定するときは、プロパティを指定しなければなりません。

説明: プロパティが索引によって使用されているため、プロパティ `propertyname` をオブジェクト・タイプのプロパティのセット内にあるようにしなければなりません。

ユーザーの処置: プロパティを指定された索引から除去するか、索引を除去するか、またはプロパティをオブジェクト・タイプのプロパティのセットに追加してください。

ICM0203N オブジェクト `object` は、メタデータ・プロパティ・オブジェクトではありません。

説明: 誤ったオブジェクトがオブジェクト・タイプに割り当てられているプロパティのセットで見つかりました。

ユーザーの処置: `setProperty(Collection)` に提供されるプロパティのセットには、`MetadataPropertyDefinition` オブジェクトのみが含まれます。異なるタイプのオブジェクトを除去してください。

ICM0204N `propertyname` という名前の重複プロパティがリスト内に見つかりました。

説明: `setProperty(Collection)` への呼び出しで、同じ名前のプロパティ・オブジェクトが複数ありました。

ユーザーの処置: 重複名を持つプロパティを除去またはリネームしてください。

ICM0205N このオブジェクト・タイプに `propertyname` という名前のプロパティ定義は存在しません。

説明: オブジェクト・タイプで定義されていないプロパティを使用して、`getProperty(String)` への呼び出しが行われました。

ユーザーの処置: 特定のプロパティの名前が不明な場合は、すべてのプロパティを検索する `getProperties()` メソッドを使用してください。

ICM0206N `typename` という名前のオブジェクト・タイプは、データ・ストア内にすでに存在します。

説明: オブジェクト・タイプを既存の名前で作成またはリネームしようとしていました。

ユーザーの処置: 新規オブジェクト・タイプには固有の名前を選択してください。

ICM0207N オブジェクト・インスタンスが定義されている場合は、オブジェクト・タイプ `typename` を削除することはできません。

説明: インスタンス削除オプションを選択せずに定義されたインスタンスを持つオブジェクト・タイプを削除しようとしていました。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを削除する前にすべてのインスタンスを削除するか、またはオブジェクト・タイプの `delete(boolean)` メソッドのインスタンス削除オプションを使用してください。

ICM0208N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの `setTableOptions(String)` 方式を使用することはできません。

説明: オブジェクト・タイプが作成された後に表オプション節を変更しようとした。表オプション節は表を作成するときのみ使用できます。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを作成する前に使用する表オプションを設定してください。

ICM0209N オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの `setSchemaName(String)` 方式を使用することはできません。

説明: オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・インスタンス表のスキーマを変更しようとした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを作成する前に使用するスキーマを設定してください。

ICM0210N 索引 `indexname` に対して指定されているプロパティ `propertyname` は、オブジェクト・タイプ `typename` のプロパティではありません。

説明: オブジェクト・タイプに提供された索引に、そのオブジェクト・タイプに属さないプロパティが 1 つ以上含まれていました。

ユーザーの処置: 索引内のすべてのプロパティが、オブジェクト・タイプで定義されている正しいプロパティ定義オブジェクトであることをチェックしてください。正しいプロパティ定義オブジェクトを検索するには、`getProperties()` および `getProperty(String)` 方式を使用してください。

ICM0211N オブジェクト・インスタンス `instancename` のタイプが、オブジェクト・タイプ (`typename`) と一致しません。

説明: 提供されたオブジェクト・インスタンスのいずれかが、`createObjects(Context, Collection)` 方式オブジェクト・タイプと一致しませんでした。

ユーザーの処置: `createObjects(Context, Collection)` 方式は、同じオブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスのみを扱うことができます。

ICM0212N ストリング `searchcriteria` は、名前プロパティに対して無効な検索条件です。

説明: 提供された名前パラメーターが値でないため、オブジェクト・インスタンスを名前で検索するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 名前パラメーターは NULL にすることはできません。

ICM0213N 誤った照会フィルター・オブジェクトがオブジェクト・タイプの `getObjectInstances(Context, Object, QueryFilterObject, SearchRules, boolean)` 方式に提供されました。

説明: 照会フィルター・オブジェクトが NULL であったか、または渡された先のオブジェクト・タイプと異なっていました。

ユーザーの処置: 検索されているオブジェクト・タイプの照会フィルター・オブジェクトを定義してください。

ICM0214N オブジェクト・タイプのリストが無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式のいずれかに提供されたオブジェクト・タイプのリストが無効でした。オブジェクト・タイプのリストが NULL または空でした。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプのリストに少なくとも 1 つのオブジェクト・タイプが含まれていることをチェックしてください。

ICM0215N プロパティ定義オブジェクトの作成中に指定されたデータ・タイプが無効でした。

説明: 指定された値は許可されているデータ・タイプの 1 つではありませんでした。

ユーザーの処置: データ・タイプの値が `MetadataPropertyDefinition` クラスで定義されているデータ・タイプ定数であることをチェックしてください。

ICM0216N オブジェクト・タイプ `typename` の索引 `indexname` が無効です。

説明: オブジェクト・タイプ `typename` に提供された索引に、定義されているプロパティがありませんでした。

ユーザーの処置: 索引に少なくとも 1 つの指定されたプロパティがなければなりません。

ICM0217N プロパティ *propertyname* は、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* で複数回定義されています。

説明: オブジェクト・タイプ *typename* に提供された索引に、複数回定義されている同じプロパティがあります。

ユーザーの処置: すべての重複プロパティを索引から除去してください。

ICM0218N オブジェクト・タイプ *typename* に対して索引 *indexname* が存在しません。

説明: オブジェクト・タイプ *typename* は索引 *indexname* を除去する要求を付与できませんでした。その名前の索引が存在しないためです。

ユーザーの処置: 索引を除去する前に、その索引がオブジェクト・タイプで定義されていることをチェックしてください。

ICM0219N *indexname* という名前を持つ索引は、オブジェクト・タイプ *typename* に対してすでに定義されています。

説明: 指定された名前の索引はすでに存在しています。索引名は固有でなければなりません。

ユーザーの処置: 新規の索引に対して固有の名前を選択するか、または既存の索引を除去して新規の索引に置き換えてください。

ICM0220N 索引 *duplicatename* は、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* の定義と重複します。

説明: 要求したオブジェクト・タイプの定義で、すでに索引が存在しています。

ユーザーの処置: 既存のすべての索引と異なる新規索引に変更するか、または既存の索引がオブジェクト・タイプの索引付けを十分に満たしている場合は、その索引を使用してください。

ICM0300N 要求したオブジェクト・インスタンスがデータ・ストアに見つかりませんでした。

説明: データ・ストアに作成されていないオブジェクト・インスタンスのプロパティの値をロードしようとした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0301N プロパティ更新要求が、プロパティ制約 *constraintname* に違反しています。

説明: 制約 *constraintname* で許可されていないため、操作を実行することができません。

ユーザーの処置: 制約で許可されている値を選択するか、またはプロパティ定義から制約を除去してください。

ICM0302N オブジェクト・タイプがこのインスタンスですすでに設定されています。

説明: すでにタイプが定義されているインスタンスのオブジェクト・タイプを設定しようとした。

ユーザーの処置: タイプがすでに定義されているインスタンスのタイプを変更することはできません。

ICM0303N 指定されたオブジェクト・タイプが無効です。

説明: オブジェクト・インスタンス `setType(ObjectType)` 方式に提供されたオブジェクト・タイプが無効です。オブジェクト・タイプが NULL であるか、または作成されていません。

ユーザーの処置: `setType(ObjectType)` 方式に渡されたオブジェクト・タイプが作成されていることをチェックしてください。

ICM0304N このオブジェクト・インスタンスに *propertyname* という名前のプロパティは存在しません。

説明: 存在しないプロパティを検索しようとした。

ユーザーの処置: プロパティ名のスペルと大文字小文字が一致していることをチェックしてください。すべての定義済みプロパティのリストを取得するには、`getProperties()` 方式を使用してください。

ICM0305N オブジェクト・インスタンスが有効な状態ではありません。

説明: オブジェクト・インスタンスが無効であるため、オブジェクト・インスタンスはデータの要求または更新をハンドルできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。新規インスタンスの場合は、オブジェクト・タイプが設定されていることをチェックしてください。

ICM0306N オブジェクト・インスタンスの名前が必要です。

説明: オブジェクト・インスタンスは名前が設定されていないため無効です。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスの名前プロパティに NULL 以外の値を提供してください。

ICM0307N プロパティ *propertyname* は無効です。

説明: プロパティが必要であるのにプロパティ値が NULL であるか、またはプロパティ値がプロパティ制約のいずれかに違反しているため、オブジェクト・インスタンスが無効です。

ユーザーの処置: 指定されたプロパティに有効な値を提供してください。

ICM0308N 現行アプリケーションにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。

説明: 現行アプリケーションは所有アプリケーションではなく、指定されたオブジェクトでアプリケーション更新権限がありません。

ユーザーの処置: 所有アプリケーションを使用して現行アプリケーションに権限を付与してください。

ICM0309N プロパティ *propertyname* はこのオブジェクト・インスタンスに属していません。

説明: プロパティ値を誤ったオブジェクト・インスタンスにロードしようとしてしました。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0310N プロパティ *propertyname* の値が、プロパティ定義の最大長を超えています。

説明: プロパティ値がオブジェクト・タイプのプロパティ定義で許可されている最大サイズより大きいです。

ユーザーの処置: もっと小さいプロパティ値を使用してください。

ICM0311N プロパティ *propertyname* には値がありません。

説明: プロパティ *propertyname* が要求されていますが、NULL 値で設定されています。

ユーザーの処置: プロパティに NULL 以外の値を設定してください。

ICM0312N プロパティ *propertyname* が、制約 *constraintname* に違反しています。

説明: プロパティ *propertyname* に割り当てられた値が制約 *constraintname* で許可されていません。

ユーザーの処置: 制約で許可されている値を使用するか、またはプロパティ定義から制約を除去してください。

ICM0400N リレーションシップ・オブジェクトのリストが無効です。

説明: リレーションシップ・オブジェクトのリストが NULL または空です。

ユーザーの処置: リレーションシップ・オブジェクトのリストに少なくとも 1 つのリレーションシップが含まれていることをチェックしてください。

ICM0401N 指定されたりレーションシップを追加すると、リレーションシップ・カテゴリ・ツリーでループとなってしまう可能性があります。

説明: 要求された変更により、リレーションシップ・カテゴリがそれ自身を含む可能性があります。

ユーザーの処置: リレーションシップの階層でループがないことをチェックしてください。

ICM0402N リレーションシップ・カテゴリ *categoryname* はすでに存在します。

説明: カテゴリに既存のカテゴリと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・カテゴリを作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 新規リレーションシップ・カテゴリに固有の名前を使用してください。

ICM0403N リレーションシップ・タイプ *typename* はすでに存在します。

説明: タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: 新規リレーションシップ・タイプに固有の名前を使用してください。

ICM0404N リレーションシップ・タイプ *typename* に定義されているリレーションシップ・インスタンスがあるため、これを削除できません。

説明: リレーションシップ・タイプのリレーションシップ・インスタンスが存在する場合は、そのリレーションシップ・タイプを削除することはできません。

ユーザーの処置: タイプを削除する前にリレーションシップ・タイプのすべてのインスタンスを削除するか、またはリレーションシップ・タイプ削除方式のインスタンス削除オプションを使用してください。

ICM0405N **ObjectTypeRelationshipConstraint** に追加される **ObjectType** は作成されていません。

説明: リレーションシップ制約がデータベースに作成されていないオブジェクト・タイプを使用しようとした。

ユーザーの処置: リレーションシップ制約で使用する前に、オブジェクト・タイプの `create()` 方式を呼び出してください。

第 100 章 ICM0500 - ICM0999

ICM0500N リレーションシップ・インスタンスに渡されたオブジェクトが無効です。すべてのオブジェクトが **ObjectInstance** または **ObjectID** オブジェクトでなければなりません。

説明: リレーションシップ・インスタンスにソースまたはターゲットとして提供されたオブジェクトのタイプが、許可されているタイプの 1 つではありませんでした。

ユーザーの処置: リレーションシップ・インスタンスのソースまたはターゲットとして **ObjectInstance** または **ObjectID** オブジェクトのみを使用してください。

ICM0501N オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、オブジェクト・インスタンスをデータベースに作成しなければなりません。

説明: データベースに作成されていないオブジェクト・インスタンスをリレーションシップに割り当てることはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、新規オブジェクト・インスタンスで `create()` 方式を呼び出してください。

ICM0502N **NULL ObjectID** をリレーションシップに追加することはできません。

説明: リレーションシップ・オブジェクトに提供された **ObjectID** を表す Java オブジェクトが **NULL** でした。

ユーザーの処置: **ObjectID** に **NULL** 以外の値を使用してください。

ICM0503N リレーションシップ・インスタンスが 1 つ以上の制約に違反しています。

説明: インスタンスで定義されているソースおよびターゲット・オブジェクトの現在の設定で、1 つ以上のリレーションシップ・インスタンス制約に違反しています。

ユーザーの処置: 定義された制約をチェックし、必要に応じてソースまたはターゲットを追加または除去してください。

ICM0504N リレーションシップ・インスタンスが有効な状態ではありません。

説明: リレーションシップ・インスタンスが使用できない状態にあります。

ユーザーの処置: インスタンスのリレーションシップ・タイプが存在し、どの制約にも違反していないことをチェックしてください。その後、リレーションシップ・インスタンスをデータベースから再ロードしてください。

ICM0600N 現行ユーザーにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。

説明: ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの更新に失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクトを更新する前に、オブジェクトの所有者によりユーザーに許可が付与される必要があります。

ICM0601N 現行ユーザーにはこのオブジェクトを削除する許可がありません。

説明: ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの削除に失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクト所有者はユーザーにオブジェクトを削除する許可を付与する必要があります。

ICM0602N 現行ユーザーにはこのリレーションシップ・タイプのインスタンスの 1 つを削除する許可がありません。

説明: 現行ユーザーにはインスタンスの 1 つを削除する権限がないため、リレーションシップ・タイプおよびそのインスタンスを削除することができません。

ユーザーの処置: リレーションシップ・タイプを削除するには、ユーザーにリレーションシップ・タイプのインスタンスをすべて削除する権限が必要です。

ICM0603N アクセス制御リストを保管する前に、アクセス制御リストの名前を指定しなければなりません。

説明: 名前が **NULL** に設定されているため、アクセス制御リストの更新に失敗しました。

ユーザーの処置: アクセス制御リストに有効な名前があることをチェックしてください。

ICM0604N *accesslistname* という名前のアクセス制御リストは、データ・ストア内にすでに存在します。

説明: 新規アクセス制御リストに既存のアクセス制御リストと同じ名前があるため、これを作成することができません。

ユーザーの処置: 新規アクセス制御リストに固有の名前を指定してください。

ICM0605N *accesslistname* という名前のアクセス制御リストは無効です。

説明: アクセス制御リストはもはや有効でないため、保管できません。

ユーザーの処置: アクセス制御リストを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。

ICM0700N このオブジェクトのデータが別の処理により IBM DB2 ツール・カタログで変更されました。

説明: オブジェクトが現行処理で使用されているときに、ツール・カタログに保管されているオブジェクト・データが別の処理により変更されたため、オブジェクトを更新するのに失敗しました。

ユーザーの処置: オブジェクトをツール・カタログから再ロードするか、または更新方式で上書き設定を使用してください。

ICM0701N オブジェクトが存在しません。

説明: IBM DB2 ツール・カタログに作成されていないオブジェクトを使用しようとしたため、インフォメーション・カタログ・マネージャー API 要求が失敗しました。

ユーザーの処置: 方式を使用する前にオブジェクトの作成方式を呼び出してください。

ICM0702N オブジェクトはすでに存在しています。

説明: すでに作成されているオブジェクトで作成方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: すでに存在するオブジェクトを更新するには、作成方式ではなく更新方式を使用してください。

ICM0703N オブジェクトが有効な状態ではありません。

説明: オブジェクトが有効な状態ではないため、オブジェクトを作成または更新することができません。

ユーザーの処置: オブジェクトを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。

ICM0704N 重複した要求 ID *idname* が検索メソッドに渡されました。

説明: 検索方式に渡された要求 ID は別の検索ですすでに使用中です。

ユーザーの処置: 別の要求 ID を使用するか、または実行中の検索が完了するのを待機してください。

ICM0705N NULL コンテキストに切り替えることができません。

説明: インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトのコンテキストを NULL に設定することはできません。

ユーザーの処置: インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトの `setContext(Context)` 方式に NULL 以外の値を指定してください。

ICM00706N 既存のコンテキストでトランザクションがペンディングの場合は、新規コンテキストに切り替えることはできません。

説明: オブジェクトに関連しているアクティブ・トランザクションがあるときに、オブジェクトのコンテキストを切り替えようとしてしました。

ユーザーの処置: 別のコンテキストに切り替える前に、オブジェクトへの現行コンテキストの変更をコミットしてください。

ICM0707N 別のカタログのコンテキストに切り替えることができません。

説明: オブジェクトのコンテキストを別のカタログに対してオープンしているコンテキストに切り替えようとしてしました。

ユーザーの処置: 同じカタログのコンテキストおよびオブジェクトのみを使用してください。

ICM0708N アクセス・コントロール項目が、指定されたプリンシパル (*principalname*) にすでに存在しています。

説明: アクセス・コントロール項目がすでに存在するた

め、指定されたプリンシパルで新規に作成することができません。

ユーザーの処置: 現行アクセス・コントロール項目を検索し、変更してください。新規アクセス・コントロール項目を作成しないでください。

ICM0709N データ・ストアにアクセスするために提供されたコンテキストが無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API に提供されたコンテキストが無効です。要求された操作を実行できません。

ユーザーの処置: コンテキストが NULL でないこと、および解放されていないことをチェックしてください。

ICM0710N 誤ったパラメーター・タイプが、パラメーター化された SQL ステートメント *sqlstatement* で見つかりました。

説明: 提供されたオブジェクト・パラメーターのタイプが無効です。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式の文書で指定されているタイプのオブジェクトのみを使用してください。

ICM0711N `PermissionElement` の許可値が無効です。

説明: `setPermission(int, Jboolean)` の現行値では許可が無効です。

ユーザーの処置: `PermissionElement` クラスで定義されている許可エレメント定数を使用して許可を設定してください。

ICM00712N 照会フィルター条件に提供されている値の数が正しくありません。パラメーターは期待されていません。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。 `OP_IS_NULL` および `OP_IS_NOT_NULL` ではパラメーターは許可されていません。 `OP_BETWEEN` および `OP_NOT_BETWEEN` では 2 つのパラメーターが必要です。 `OP_IN` および `OP_NOT_IN` ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0713N 照会フィルター条件に提供されている値の数が無効でした。パラメーターは 1 つ期待されています。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。 `OP_IS_NULL` および `OP_IS_NOT_NULL` ではパラメーターは許可されていません。 `OP_BETWEEN` および `OP_NOT_BETWEEN` では 2 つのパラメーターが必要です。 `OP_IN` および `OP_NOT_IN` ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0714N 照会フィルター条件に提供されているパラメーターの数が無効でした。パラメーターは 2 つ期待されています。

説明: 照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

ユーザーの処置: 正しいパラメーター数を提供してください。 `OP_IS_NULL` および `OP_IS_NOT_NULL` ではパラメーターは許可されていません。 `OP_BETWEEN` および `OP_NOT_BETWEEN` では 2 つのパラメーターが必要です。 `OP_IN` および `OP_NOT_IN` ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

ICM0715N リレーションシップ検索に指定されたタイプが無効です。

説明: リレーションシップ検索の `setType(int)` 方式に指定されたタイプの値が無効です。

ユーザーの処置: `setType(int)` 方式には `RelationshipSearch` クラスで定義されている `TYPE_SOURCE` および `TYPE_TARGET` 定数を使用してください。

ICM0716N リレーションシップ検索に指定されたリレーションシップが無効です。

説明: リレーションシップ検索オブジェクトに指定されたリレーションシップが NULL でした。

ユーザーの処置: リレーションシップ検索のリレーションシップに NULL 以外の値を使用してください。

ICM0717N このオブジェクトのアクセス制御リストは作成されていません。

説明: オブジェクトを IBM DB2 ツール・カタログに保管する前に、オブジェクトに割り当てられるアクセス制御リストを作成する必要があります。

ICM0718N

ユーザーの処置: アクセス制御リストで作成方式を呼び出して下さい。

ICM0718N コンテキストは解放されており、使用することができません。

説明: 解放されたコンテキストを使用して IBM DB2 ツール・カタログにアクセスしようとしてしました。

ユーザーの処置: カタログ・オブジェクトで newContext() 方式を使用して新規コンテキストを検索し、解放されたコンテキストの代わりに使用して下さい。

ICM0800N 無効なマイグレーション操作タイプを指定しました。

説明: ICMMigration migrate(int) 方式に指定した操作タイプの値が有効なマイグレーション操作タイプではありませんでした。

ユーザーの処置: ICMDatastoreInit クラス (MIG_REPLACE、MIG_SKIP または MIG_ERROR) で定義されているマイグレーション操作タイプの 1 つを使用して下さい。

ICM0801N マイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* の定義が、DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプの既存のプロパティ定義と異なります。

説明: マイグレーション中のオブジェクト・タイプが DB2 バージョン 8 ツール・カタログにすでに存在しています。オブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが、データ・タイプまたはサイズにおいて DB2 バージョン 7 とバージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義間で異なります。

ユーザーの処置: 置換マイグレーション操作タイプを使用するか、または DB2 バージョン 7 カタログをマイグレーションする前に、DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除して下さい。

ICM0802N IBM DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* が、マイグレーション中の DB2 バージョン 7 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。

説明: マイグレーション中のオブジェクト・タイプがすでに DB2 バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが DB2 バージョン 7

のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

ユーザーの処置: MIG_ERROR とは異なる操作タイプを使用してマイグレーションを実行するか、またはマイグレーションを実行する前に DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除して下さい。

ICM0803N IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* が、DB2 バージョン 8 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。

説明: マイグレーション中のオブジェクト・タイプが DB2 バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 バージョン 7 からマイグレーション中のオブジェクト・タイプのプロパティのいずれかが、DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

ユーザーの処置: 欠落しているプロパティがオプションの場合は、マイグレーションする前に、インフォメーション・カタログ・センターの初期設定ツールを使用して、欠落しているプロパティを DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプに追加して下さい。欠落しているプロパティが必須の場合は、マイグレーションする前に DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプをツール・カタログから除去して下さい。

ICM0804N オブジェクト・タイプ *typename* のインスタンス *instancename* に対するプロパティ *propertyname* の値が、有効な日付/時刻形式ではありません。

説明: DB2 バージョン 7 カタログの日付/時刻プロパティの値が、認識できる日付/時刻形式ではありません。

ユーザーの処置: IBM DB2 バージョン 7 のデータを手動で現行ロケーションの有効な日付/時刻形式に変更して下さい。

ICM0805N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* に対する *propertyname* プロパティは、マイグレーション・ツールによってサポートされていません。

説明: マイグレーション・ツールは、文字または日付/時刻ストリング以外のデータ・タイプを持つプロパティのオブジェクト・タイプをマイグレーションすることはできません。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプをマイグレーションすることはできません。カタログが破壊されてい

ないことをチェックしてください。

ICM0806N **マイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 カタログのリレーションシップ・タイプ・フラグ *typename* を認識できません。**

説明: リレーションシップ・タイプ・フラグの値は認識できる値ではありません。

ユーザーの処置: IBM DB2 バージョン 7 カタログは無効です。このタイプ・フラグを持つリレーションシップ・インスタンスはマイグレーションされません。

ICM0807N **リレーションシップ・タイプ *typename* が見つかりませんでした。**

説明: 定義済みリレーションシップ・タイプ *typename* が IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM0808N **オブジェクト・インスタンス *instancename* は、オブジェクト・タイプ *typename* のユニーク索引に違反しており、作成できません。**

説明: インスタンスがオブジェクト・タイプに定義されているユニーク索引の 1 つに違反しているため、インスタンスを作成することができませんでした。

ユーザーの処置: マイグレーション・ツールを実行する前に、索引を除去するか、または索引違反の原因である IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・インスタンスを削除してください。

ICM0900N **ログ・ファイル *filename* のオープン中に入出力エラーが発生しました。**

説明: 入出力例外のため初期設定ツールはログ・ファイルをオープンすることができませんでした。

ユーザーの処置: 指定されたファイル・パスが存在し、ファイルが読み取り専用ではないこと、あるいはファイルが別のアプリケーションにより使用されていないことをチェックしてください。

ICM0901N **インフォメーション・カタログ・マネージャー API 表を作成中に SQL エラーが発生しました。**

説明: 初期設定ツールがインフォメーション・カタログ・マネージャー API により要求された表を作成中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0902N **マイグレーション中に SQL エラーが発生しました。**

説明: マイグレーション・ツールがマイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 データを検索中に SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0903N **DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログのエミュレーション・ビューの作成中に、SQL エラーが発生しました。**

説明: 初期設定ツールが DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューを作成していたときに、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

ICM0904N **表 *tablename* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。**

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* が定義されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0905N **表 *tablename* に、無効な定義を持つ列が少なくとも 1 つ含まれています。**

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* に要求されているタイプと異なる列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0906N 表 *tablename* に、データ・ストア定義の一部ではない列が少なくとも 1 つ含まれています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* に表定義に存在しない列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

ユーザーの処置: この列で NULL が許可されていない場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API に影響はありません。これを除去するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してこのエラーを訂正してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0907N 表 *tablename* の列 *columnname* がデータ・ストアから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* からインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている列が少なくとも 1 つ欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0908N 表 *tablename* で、主キー定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションによって、表 *tablename* で必須の主キー定義が欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0909N 表 *tablename* で、主キー定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* の主キーがインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている主キーと一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カ

タログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0910N 表 *tablename* で、索引定義が欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションによって、表 *tablename* で必須の索引が欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0911N 表 *tablename* に無効な索引が定義されています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

ユーザーの処置: 索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API の正常な関数に支障がある可能性があります。このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0912N 表 *tablename* の索引 *indexname* はデータ・ストア定義の一部ではありません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

ユーザーの処置: 索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API のプロパティ関数に支障がある可能性があります。このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0913N 関数 *functionname* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、関数 *functionname* が DB2 ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0914N 関数 *functionname* の定義が無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、関数 *functionname* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM0915N トリガー *triggername* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、トリガー *triggername* が DB2 ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0916N トリガー *triggername* の定義が無効です。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、トリガー *triggername* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM00917N トリガー *triggername* はデータ・ストア定義の一部ではありません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、*triggername* という名前のトリガーが DB2 ツール・カタログ表の 1 つで定義され、初期設定ツールで要求されているトリガーのいずれにも一致しないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

ICM00918N ビュー *viewname* が DB2 ツール・カタログから欠落しています。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、*viewname* という名前のビューが定義されていないことが検出されました。

ユーザーの処置: このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

ICM0919N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* にデフォルト・オブジェクト・タイプのプロパティと異なるデータ・タイプがあります。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプションを指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

ICM00920N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* はオブジェクト・タイプのデフォルト定義内に存在しません。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプション

を指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

ICM00921N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティ *propertyname* はデフォルト定義に存在しますが、既存のオブジェクト・タイプから欠落しています。

説明: 既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

ユーザーの処置: 現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE または APP_MERGE オプションを指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

ICM00922N DB2 Warehouse Manager の有効なライセンスが見つからないため、インフォメーション・カタログの管理ウィザードにアクセスすることができませんでした。最寄りのソフトウェア販売店または IBM 営業担当員に連絡してください。

説明: 有効なライセンスなしでインフォメーション・カタログを初期化またはマイグレーションしようとした。

ユーザーの処置: DB2 Warehouse Manager パッケージを購入して、インフォメーション・カタログの管理ウィザードを含む Information Catalog Manager Tools コンポーネントをインストールしてください。

ICM0923N DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログのエミュレーション・ビューのドロップ中に、SQL エラーが発生しました。

説明: 初期設定ツールが DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューをドロップしていたときに、SQL エラーが発生しました。

ユーザーの処置: この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

第 101 章 ICM10000 - ICM10499

ICM10001N インフォメーション・カタログはすでにオープンしています。

説明: インフォメーション・カタログがすでにオープンしているときに、ICMCatalog クラスのオープン方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: カタログをオープンするには重複呼び出しを削除してください。

ICM10002N アクティブ・バッチがないときにバッチ・チェックポイントをコミットすることはできません。

説明: チェックポイント操作はカタログへの変更をペンディングになっているトランザクションのセットをコミットします。トランザクションはインフォメーション・カタログにコミットされます。アクティブ・バッチがないときはペンディングの操作はありません。

ユーザーの処置: アクティブ・バッチがある場合のみバッチ・チェックポイントをコミットしてください。バッチをアクティブにするには startBatch を、終了するには endBatch を使用してください。変更のバッチで中間ポイントをコミットするにはチェックポイントを使用してください。

ICM10003N インフォメーション・カタログがオープンしていません。

説明: この操作を実行する前にカタログをオープンしなければなりません。

ユーザーの処置: この操作を試みる前にカタログをオープンしてください。

ICM10004N *accesslistname* という名前のアクセス制御リストは固有ではありません。

説明: 名前によるアクセス制御リストの検索により、複数のインスタンスが戻されました。アクセス制御リストは固有の名前を持つ必要があるため、これは修正しなければならない内部カタログ・エラーです。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログを訂正してください。

ICM10005N バッチ・モードがアクティブではありません。

説明: バッチがアクティブではないときに endBatch 方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: バッチを終了する前にバッチが開始されていなければなりません。有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

ICM10006N バッチ・モードは、すでにアクティブです。

説明: バッチがアクティブではないときに startBatch 方式が呼び出されました。

ユーザーの処置: 直前のバッチが終了するまではバッチを開始することはできません。有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

ICM10007N 最後に記録されたチェックポイントの除去に失敗しました。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API はバッチの処理中にチェックポイントがコミットされるたびにチェックポイントを記録します。こうすることにより、失敗したときに最後に成功したチェックポイントからバッチを再開することができます。バッチが正常終了すると、チェックポイント記録は除去されません。チェックポイント記録の除去で失敗しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、失敗の原因を判別してください。

ICM10008N エクスポート一時ファイル *filename* の作成中に入出力エラーが発生しました。

説明: エクスポート処理中に情報を保留する一時ファイルを作成中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、問題を訂正してください。

ICM10009N ファイル *filename* に対するエクスポート操作が失敗しました。

説明: エクスポート操作中にエラーが発生しました。

ユーザーの処置: エクスポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

ICM10010N インポートが失敗しました。最後の完了したチェックポイントは *checkpoint* でした。

説明: インポート操作は一部成功しましたが、完了する前に失敗しました。

ユーザーの処置: インポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

ICM10011N インポートが失敗しました。チェックポイントは完了しませんでした。

説明: インポート操作はチェックポイントが完了する前に失敗しました。

ユーザーの処置: インポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

ICM10012N アクセス制御リストがデフォルト・アクセス制御リストではありません。

説明: `setDefaultACL` に提供されたアクセス制御リストは `getDefaultACL` から獲得されるアクセス制御リストでなければなりません。

ユーザーの処置: `ICMCatalog.setDefaultACL` の文書をチェックしてください。

ICM10013N 内部オブジェクト・タイプ *typename* 内のチェックポイント・オブジェクトのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* が固有ではありません。

説明: チェックポイントは内部オブジェクト・タイプ内で、ユーザー、ホスト、バッチ・プロパティに設定されるユニーク ID で保持されます。あいまいなチェックポイント・オブジェクト・インスタンスが存在することはできません。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10014N チェックポイント識別のためのホスト名を検索することができません。

説明: ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10015N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* のオブジェクト・インスタンスのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないプロパティ制約例外が発生しました。

説明: 内部チェックポイント・オブジェクト・タイプのインスタンスで作業中にプロパティ制約インスタンス外が出されました。このオブジェクト・タイプのプロパティではプロパティ制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10016N 内部オブジェクト・タイプ *typename* のオブジェクト・インスタンスのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないセキュリティ例外が発生しました。

説明: バッチでチェックポイントが完了したときに現行ユーザーによってチェックポイント・オブジェクトが所有されています。セキュリティ違反が起きてはなりません。

ユーザーの処置: セキュリティ違反を判別し、訂正してください。

ICM10017N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除履歴を記録中に予期しないプロパティ制約例外が発生しました。

説明: 削除履歴を記録するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスで作業中にプロパティ制約インスタンス外が出されました。このオブジェクト・タイプのプロパティではプロパティ制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

ユーザーの処置: 削除履歴機能をオフにして、データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

ICM10100N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* が見つかりませんでした。このカタログは使用できません。

説明: インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用される内部オブジェクト・タイプが IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

ユーザーの処置: カatalogを含むメタデータ・ストアが

インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることをチェックしてください。

ICM10101N 内部リレーションシップ・タイプ
relationshiptype が見つかりませんでした。
このカタログは使用できません。

説明: インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用される内部リレーションシップ・タイプが IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

ユーザーの処置: カatalogを含むメタデータ・ストアがインフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることをチェックしてください。

ICM10200N *name* という名前のコレクションはすでに存在します。

説明: 提供された集合名は現行ユーザーで所有された既存の集合名と同一でした。

ユーザーの処置: 新規集合に別の名前を指定してください。

ICM10201N 新規集合をデフォルト名で作成することができません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API は 1000 個までの異なる集合名を作成できます。すべての 1000 個のデフォルト名がすでに存在するため、新規集合を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: いくつかの集合をデフォルトではない名前にリネームしてください。

ICM10202N コレクション *name* が削除のために指定されていますが、現行ユーザーが所有するどのコレクションとも一致しません。

説明: 削除操作のターゲットとして指定された集合名が現行ユーザーの集合で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 既存の集合を指定してください。

ICM10203N コレクション *name* のメンバーを識別するリレーションシップ・インスタンスが見つかりませんでした。

説明: 集合のメンバーを識別するのに使用される内部リレーションシップ・タイプ・インスタンスが集合に関連

付けられていませんでした。内部エラーが発生し、集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10204N コレクション *name* に存在するリレーションシップ・インスタンスが多すぎます。

説明: 複数のリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。インフォメーション・カタログで内部エラーが発生し、この集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10205N コレクション *name* のリレーションシップ・インスタンスが無効です。

説明: 誤ったタイプのリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。これはインフォメーション・カタログの内部エラーであり、集合は使用できません。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

ICM10300N 指定されたプロパティ検索タイプを認識できませんでした。

説明: DateSearchCriteria または TextSearchCriteria に提供されたプロパティ検索タイプが定義されているタイプの 1 つではありません。

ユーザーの処置: 定義されているプロパティ検索タイプの 1 つを指定してください。

ICM10301N 検索日付が指定されていません。

説明: 日付を指定せずに日付検索を実行しようとした。

ユーザーの処置: 開始日、終了日、あるいはその両方を指定してください。

ICM10302N 検索に関連した基準がありません。

説明: 関連した基準がない検索をカタログに書き込むための create メソッドを呼び出そうとしました。

ユーザーの処置: 作成する前に、基準を検索と関連付けてください。

ICM10303N 検索 *name* の検索基準をロード中にエラーが発生しました。

説明: 検索のための検索基準をカタログから読み取り中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

ICM10304N 検索 *name* の検索基準を保管中にエラーが発生しました。

説明: 検索のための検索基準をカタログに書き込み中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

ICM10305N 最大戻りオブジェクト・カウントは負にすることはできません。 **カウント:** *error-code*。

説明: SearchCriteria オブジェクトに、最大戻りオブジェクトの負の値が提供されました。 SearchCriteria が実行されるとエラーが発生します。

ユーザーの処置: 負ではない最大オブジェクト・カウントを指定してください。

ICM10306N オブジェクト・タイプ検索集合に外部オブジェクトが含まれています。

説明: 検索する ICMObjectInstances のタイプを識別するのに指定できるのは ICMObjectTypes だけです。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプの集合にタイプ ICMObjectType のオブジェクトのみが含まれることをチェックしてください。

ICM10307N 検索名 *name* は使用中です。

説明: ユーザーは同じ名前前の 2 つの検索を持つことはできません。

ユーザーの処置: 使用中でない検索名を指定してください。

ICM10308N 新規デフォルト検索名が見つかりません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API は新規検索を作成するときに 1000 個までの異なるデフォルト検索名を作成できます。すべてのデフォルト名が使用中のため、新規デフォルト検索名を作成するのに失敗しました。

ユーザーの処置: デフォルト名であるいくつかの検索をリネームしてください。

ICM10309N 検索ストリングが指定されていません。

説明: テキスト・ストリングを指定せずにテキスト検索を実行しようとしてしました。

ユーザーの処置: 突き合わせる検索ストリングを指定してください。

ICM10310N 削除に指定した検索 *name* が現行ユーザーによって所有されている既存の検索と一致しません。

説明: 削除のターゲットとして指定された検索名が現行ユーザーの検索で見つかりませんでした。

ユーザーの処置: 既存の検索を指定してください。

ICM10311N 検索値はテキスト・ストリングでなければなりません。

説明: テキスト・ストリングではない検索値を TextSearchCriteria に設定しようとしてしました。

ユーザーの処置: 突き合わせる検索テキスト・ストリングを指定してください。

ICM10400N メッセージ・テキスト : *user/group* のプロパティ・データを内部オブジェクト・タイプ *objecttype* から検索中にエラーが発生しました。

説明: 保管されているプロパティ情報を内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスから検索中にインスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10401N *user/group* のプロパティ・データを内部オブジェクト・タイプ *objecttype* に保管中にエラーが発生しました。

説明: プロパティ情報をその内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスに保管中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10402N ホスト名を検索できません。

説明: ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

ユーザーの処置: システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

第 102 章 ICM10500 - ICM10999

ICM10500N コマンド・ストリング *command* でプログラムを開始中にエラーが発生しました。

説明: オブジェクト・インスタンスでプログラムを呼び出し中にインスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックし、プログラムまたはパス・オブジェクトを訂正してください。

ICM10501N **BlobProperty** をファイルに書き込み中に内部エラーが発生しました。

説明: **BlobProperty** がデータベースに作成されましたが、関連オブジェクト・インスタンスは作成されていません。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM10502N プロパティー *propertyname* が正しいタイプではありません。

説明: `writeBlobToStream` または `writeClobToWriter` に渡されたプロパティー名は正しい **Blob** または **Clob** プロパティーではありません。

ユーザーの処置: プロパティーが、呼び出されている方式に必要な **Blob** または **Clob** であることをチェックしてください。

ICM10503N オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの *propertyname* プロパティーから値を検索できません。

説明: オブジェクト・タイプのプロパティーから値を検索中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10504N パラメーター化ストリングにアンマッチのパラメーター・マーカがあります。ストリング = *paramstring*。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にパラメーター・マーカ開始文字が対応するパラメーター・マーカ終了文字なしに見つかりました。

ユーザーの処置: パラメーター化ストリングが有効な形式であることをチェックしてください。

ICM10505N **BlobProperty** または **ClobProperty** *propertyname* のデータをファイル

filename に書き込み中にエラーが発生しました。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にタイプ **BlobProperty** または **ClobProperty** のパラメーターがパラメーターの 1 つとして検出されました。プロパティーの内容をファイルに書き込み中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックしてください。

ICM10506N プロパティー *propertyname* のファイルへの書き込み試行中に内部エラーが発生しました。

説明: パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にプロパティーをファイルに書き込もうとしました。プロパティーは **BlobProperty** または **ClobProperty** ではありませんでした。これらのプロパティー・タイプのみがファイルに書き込むことが許可されています。

ユーザーの処置: IBM サービス担当者に連絡してください。

ICM10600N アイコンのデータ・サイズ *datasize* が *maxsize* バイトを超えています。

説明: オブジェクト・タイプに関連するアイコンを指定された最大サイズより大きくすることはできません。

ユーザーの処置: もっと小さいアイコン・ファイルを指定してください。カタログ内のアイコン・データが破壊されている場合はデータベース管理者に連絡してください。

ICM10601N アイコン・データをカタログから検索中にエラーが発生しました。

説明: アイコン・データをオブジェクト・タイプから読み取り中に `SQLException` が発生しました。

ユーザーの処置: ネストされた例外をチェックしてください。

ICM10700N 指定された名前 (*typename*) が複数のオブジェクト・タイプと一致します。

説明: オブジェクト・タイプを検索するのに使用される

ICM10701N

名前が複数のオブジェクト・タイプと一致しました。
名前にワイルドカード文字を使用するとこのエラーが起きる場合があります。

ユーザーの処置: オブジェクト・タイプを一意的に識別する名前を提供してください。

ICM10701N オブジェクト・タイプ *typename* は存在しません。

説明: インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式で使用されたオブジェクト・タイプ名が既存のオブジェクト・タイプと一致しませんでした。

ユーザーの処置: 既存のオブジェクト・タイプの名前を使用してください。

ICM10702N 必須のリレーションシップ・カテゴリ *categoryname* が見つかりません。このカタログは使用できません。

説明: 要求されたインフォメーション・カタログ内のリレーションシップ・カテゴリの 1 つが見つかりませんでした。これは致命的エラーです。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

ICM10703N オブジェクト・タイプ *typename* はインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。

説明: IBM DB2 ツール・カタログは複数のアプリケーション・プログラムをサポートします。インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。オブジェクト・タイプをインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプの 1 つではないインフォメーション・カタログ・マネージャー API に渡そうとしたときに例外が発生しました。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API のみを使用してください。

ICM10704N オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティ可視性フラグを保管する操作が失敗しました。

説明: このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティ可視性を定義する情報を保管中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10705N オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティ可視性フラグをロードする操作が失敗しました。

説明: このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティ可視性を定義する情報をロード中に例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

ICM10706N オブジェクト・タイプ *typename* はインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。

説明: IBM DB2 ツール・カタログは複数のアプリケーション・プログラムをサポートします。インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットにないタイプのオブジェクト・インスタンスがリレーションシップによりインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットのオブジェクト・タイプにリンクされたため、インスタンス外が発生しました。

ユーザーの処置: インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用してください。

ICM10800N 必須のリレーションシップ制約 *constraintname* は除去できません。

説明: リレーションシップ・タイプに設定されたリレーションシップ制約は要求された振る舞いをインフォメーション・カタログ内で実施します。制約は除去されない可能性があります。

ユーザーの処置: 要求されたリレーションシップ制約を除去しないようにしてください。

ICM10801N 必須の制約 *constraintname* をリレーションシップ・タイプ *relationshiptype* に適用中にエラーが発生しました。

説明: 要求された制約オブジェクトをリレーションシップ・タイプに適用するためにインスタンスを生成しようとして例外が発生しました。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

第 18 部 LIC メッセージ

第 103 章 LIC1000 - LIC1499

LIC1052E このプログラムを実行するには **root** である必要があります。

説明: このプログラムは **root** ユーザー ID でのみ実行できます。このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

ユーザーの処置: **root** でログインしてから、コマンドを再発行してください。

LIC1304E 予期しないエラー。

説明: ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: DB2 サービス担当者に連絡してください。

LIC1305E プロファイル・レジストリーが見つかりません。

説明: ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

ユーザーの処置: DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

LIC1309E システム・エラー。

説明: ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

ユーザーの処置: システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。レジストリーがある場所のファイル・システムにメモリーが十分あるか、およびレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

LIC1400N **db2licm** コマンドの構文に誤りがあります。詳細情報については、**db2licm -?** コマンドを実行してください。

説明: **db2licm** ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。 **-l** パラメーターを指定して **db2licm** ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

db2licm [-a filename]

[-e product-identifier HARD | SOFT]

[-p product-identifier

REGISTERED | CONCURRENT | OFF]

[-r product-identifier]

[-u product-identifier num-users]

[-c product-identifier num-connectors]

[-l]

[-v]

[-?]

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-a

製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

-e

システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は **HARD** および **SOFT** です。**HARD** は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。**SOFT** は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

-p

システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。キーワード **CONCURRENT**、**REGISTERED**、または **CONCURRENT REGISTERED** を指定できません。「**OFF**」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

-r

製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。特定の製品のパスワードを取得するには、**-l** オプション付きでコマンドを呼び出します。

-u

購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

-c

購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクタの数を指定してください。

-l

LIC1401I

使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

-v

バージョン情報を表示します。

-?

ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置: 有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

LIC1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャ

説明: db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムに登録されたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。-l パラメーターを指定して db2licm ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

```
db2licm [-a filename]
[-e product-identifier HARD | SOFT]
[-p product-identifier
    CONCURRENT | OFF]
[-r product-identifier]
[-u product-identifier num-users]
[-c product-identifier num-connectors]
    [-g filename]
    [-x]
    [-l][show detail]
[-v]
[-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

-a

製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

-e

システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

-p

システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。並行ユーザー・ポリシーに

は、キーワード CONCURRENT を指定できません。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

-r

製品のライセンスを除去します。製品 ID を指定します。

-u

購入したユーザー・ライセンス数を更新します。製品 ID およびユーザー数を指定します。

-c

購入したコネクタ・ライセンス数を更新します。製品 ID およびコネクタ・ライセンス数を指定します。

-g

準拠レポートを生成してください。出力を保管するファイル名を指定してください。

-x

ライセンス準拠レポートのために、ライセンス準拠情報をリセットしてください。

-l[show detail]

使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。ライセンス機能に関する詳細情報 (存在する場合) を表示するには、[show detail] を指定してください。

-v

バージョン情報を表示します。

-?

ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

ユーザーの処置:

LIC1402I ライセンスが正常に追加されました。

LIC1403I ライセンスが正常に除去されました。

LIC1404N 製品 ID が見つかりません。

説明: 指定された ID が無効であるか、またはこの製品のライセンスが nodelock ファイル中に見つかりませんでした。

ユーザーの処置: -l オプションを指定してこのコマンドを発行し、入力された ID がこのアクションの対象となる製品にとって正しい製品 ID であるかどうかを確認

してください。 nodelock パスワードを使用している場合は、この製品のライセンス・キーが nodelock ファイルにインストールされているかチェックしてください。

LIC1405I **ライセンス・ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

LIC1406N **無効なライセンス・ポリシー・タイプです。**

説明: 入力されたライセンス・ポリシー・タイプが、指定された製品には無効でした。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは、以下のとおりです。

- CONCURRENT
- オフ

LIC1407N **無効なライセンス証明書ファイル**
license-certificate-file-name を登録しようとしています。

説明: ライセンス・ファイルが現行バージョンからのものでないか、またはライセンス・ファイルが破損しています。現行バージョンは、db2licm -v を実行して確認できます。

ユーザーの処置: 現行バージョンの有効なライセンス・ファイルをアクティベーション CD から入手し、db2licm コマンドを再実行してください。例えば、db2licm -a *license-certificate-file-name* とします。

LIC1408N **ファイル *file-name* をオープンできません**
でした。存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

説明: ファイルが見つからないか、またはファイルへのアクセスが拒否されました。

ユーザーの処置: 存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

LIC1409N **無効な制約ポリシー・タイプです。**

説明: 指定された制約ポリシー・タイプはこの製品には無効です。

ユーザーの処置: 指定の製品がサポートする有効な制約ポリシー・タイプを入力してください。

LIC1410I **並行ライセンスが正常に更新されました。**

LIC1411I **制約ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

LIC1412W **ハード・ストップ制約ポリシーが設定されています。この制約ポリシーにより、非ライセンス要求は停止します。**

説明: 制約ポリシーを更新するために、-e パラメーターおよび値 HARD を指定し db2licm コマンドを発行しました。(例えば、db2licm -e db2ese HARD など。) 値 HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。

ユーザーの処置: システムにインストールされている DB2 データベース製品およびフィーチャーを追跡および区別するために、各 DB2 データベース製品およびフィーチャーに対してライセンス・キーを登録することをお勧めします。

非ライセンス要求をログに記録するが制限しないようにする場合は、制約ポリシーを SOFT に変更してください。例えば、db2licm -e db2ese SOFT とします。

LIC1413W **ソフト・ストップ制約ポリシーが設定されています。この制約ポリシーは、非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。**

説明: 制約ポリシーを更新するために、-e パラメーターおよび値 SOFT を指定し db2licm コマンドを発行しました。(例えば、db2licm -e db2ese SOFT など。) 値 SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

ユーザーの処置: 非ライセンス要求を停止する場合は、制約ポリシーを HARD に変更しなければなりません。例えば、db2licm -e db2ese HARD など。

LIC1416N **ライセンスを自動的に nodelock ファイルに追加できませんでした。戻りコードは *return-code* です。**

ユーザーの処置: ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。また、手操作でライセンスを nodelock ファイルに入力することもできます。指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

LIC1417N 指定されたライセンスを `nodelock` ファイルから除去できません。戻りコードは `return-code` です。この製品のライセンスが `nodelock` ファイルに存在することを確認してください。

ユーザーの処置: この製品のライセンスが `nodelock` ファイルに存在することを確認してください。

LIC1418I このマシンでライセンスされたプロセッサ数が正しく更新されました。

LIC1419N ライセンス・プロセッサ数を更新しようとしてエラーが発生しました。戻りコードは `return-code` です。

LIC1420N この製品は、このライセンス・ポリシーのタイプをサポートしていません。

説明: 指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適用されないか、またはサポートされていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーを入力するか、このポリシーをサポートする製品を選択してください。

LIC1421N 指定された製品は、このシステムにインストールされていません。

説明: 製品がインストールされるまで、この製品のライセンス・ポリシーを構成することはできません。

ユーザーの処置: 製品をインストールしてからコマンドを実行するか、または正しい製品 ID を指定してください。システムにインストールされている製品をリストするには、`db2licm -l` コマンドを使用してください。

LIC1422N 並行ライセンス数は更新されませんでした。戻りコードは `return-code` です。

ユーザーの処置: この製品で並行ポリシーが可能であることを確認してください。

LIC1423N このオプションには、インスタンスの作成が必要です。

説明: このアクションを行うために必要な機能は、インスタンスの作成後にアクセス可能になります。

ユーザーの処置: インスタンスを作成し、このコマンドを出し直してください。

LIC1424N プロセッサ情報にアクセスしているときに、予期しないエラーが発生しました。

説明: 戻りコードは `return-code` です。

ユーザーの処置: ありません。

LIC1426I この製品は現在、ご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:
dir-name

LIC1427I この製品は現在、ご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:
dir-name

LIC1428N ライセンス・プロセッサ数を更新しようとしてエラーが発生しました。

説明: 入力されたライセンス・プロセッサの数が、この製品で許可されているライセンス・プロセッサの最大数を超えています。

ユーザーの処置: 定義されている最大数を超えないライセンス・プロセッサの数を入力してください。ご使用のシステムのプロセッサの数がこの製品に対して許可されているプロセッサの最大数を超える場合は、IBM 担当員または許可されている販売業者にご連絡ください。

LIC1429N この製品は、このライセンス・ポリシーの組み合わせをサポートしていません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス・ポリシーの組み合わせを入力してください。たとえば、有効な組み合わせとして "CONCURRENT REGISTERED" を指定できません。

LIC1430N ライセンス日付がオペレーティング・システムの日付よりも後であるため、ライセンスを `nodelock` ファイルに追加できませんでした。

ユーザーの処置: 証明書ファイルをチェックして、ライセンスの開始日が現在日付 (オペレーティング・システムに設定されている日付) よりも前であることを確認してください。

LIC1431N このユーザーは、指定されたアクションを実行するだけの権限を持っていません。

説明: この操作を実行できるのは、root ユーザー ID、または SYSADM 権限を持つユーザー ID のみです。

ユーザーの処置: このコマンドの実行許可を持つユーザー ID でログインしてください。

LIC1432N この製品が最大数の評価ライセンスを使用しているため、ライセンスを **nodelock** ファイルに追加できませんでした。評価ライセンスの最大数は *lic-number* です。永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

説明: この製品は、最大数の評価ライセンスを使用しています。

ユーザーの処置: 永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

LIC1433N ライセンス数は更新されませんでした。

説明: 指定したライセンス数は有効範囲内にありません。

ユーザーの処置: 有効なライセンス数を使ってこのコマンドをもう一度実行してください。

LIC1434N DB2 によって **nodelock** ファイルにライセンス項目が追加されましたが、そのライセンス項目はアクティブではありません。

説明: DB2 はこのライセンス項目をアクティブにできなかったため、このライセンスがアクティブになるまでの間、DB2 は前のライセンス構成で実行されます。

ユーザーの処置: コマンドを再試行しても引き続き失敗する場合は、手動で **nodelock** ファイルを編集するか、または IBM サポートに連絡してください。

nodelock ファイルを手動で編集する場合は、新しいライセンス項目をライセンス項目リストの先頭に移動します。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

Windows XP および Windows 2003

```
X:¥Documents and Settings¥All
Users¥Application Data¥IBM¥DB2¥<DB2 copy
name>¥license
```

Windows Vista

```
X:¥ProgramData¥IBM¥DB2¥<DB2 copy
name>¥license
```

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、**nodelock** ファイルは、この製品のインストール・パス中の **license** ディレクトリにあります。

ライセンスについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

LIC1435E **nodelock** ファイルへのアクセス中に出力エラーが発生しました。ライセンスを追加できませんでした。

説明: **nodelock** ファイルの作成またはアクセス中にエラーが発生しました。このファイル・アクセス設定では、このアクションを行えません。

ユーザーの処置: **nodelock** ファイルと、**nodelock** ファイルのあるディレクトリが、このプログラムへの読み取りアクセスや書き込みアクセスを許可しているかどうかを確認してください。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

Windows XP および Windows 2003

```
X:¥Documents and Settings¥All
Users¥Application Data¥IBM¥DB2¥<DB2 copy
name>¥license
```

Windows Vista

```
X:¥ProgramData¥IBM¥DB2¥<DB2 copy
name>¥license
```

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、**nodelock** ファイルは、この製品のインストール・パス中の **license** ディレクトリにあります。

LIC1436I **nodelock** ファイル中に重複したライセンスが見つかりました。

説明: DB2 は、この DB2 のインストールに関するこのライセンスが **nodelock** ファイルにすでに登録されていることを判別しています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

LIC1437I ライセンスが正常に更新されました。

LIC1438E **nodelock** ファイルへのアクセス中に出力エラーが発生しました。ライセンスを除去できませんでした。

説明: **nodelock** ファイルの作成またはアクセス中にエラーが発生しました。このファイル・アクセス設定で

は、このアクションを行えません。

ユーザーの処置: nodelock ファイルと、nodelock ファイルのあるディレクトリーが、このプログラムへの読み取りアクセスや書き込みアクセスを許可しているかどうかを確認してください。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

Windows XP および Windows 2003

```
X:\Documents and Settings\All
Users\Application Data\IBM\DB2\<DB2 copy
name>\license
```

Windows Vista

```
X:\ProgramData\IBM\DB2\<DB2 copy
name>\license
```

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、nodelock ファイルは、この製品のインストール・パス中の license ディレクトリーにあります。

LIC1439I DB2 サーバーが、システムに *product-name* がインストールされていることを検出しました。このオフファリングにより取得する製品および機能は、ご使用条件に概略されているようにテストまたは開発目的でのみ使用できます。このオフファリングのご使用条件は、この製品のインストール・パスの「license」ディレクトリー内にあります。

LIC1440I ライセンス準拠レポートが正常に生成されました。

LIC1441I ライセンス準拠情報がリセットされました。

LIC1442E 準拠レポートの生成中にエラーが発生しました。

説明: 準拠レポートを作成できませんでした。

ユーザーの処置: このプログラムが指定のファイルに書き込みできることを確認して、再試行してください。

LIC1443E 準拠情報をリセット中に、エラーが発生しました。

説明: 準拠情報をリセットできませんでした。

ユーザーの処置: このプログラムがインストール・パスのライセンス・ディレクトリーに書き込みできることを確認して、再試行してください。

LIC1444E 入出力エラーが発生しました。戻りコードは *return-code* です。

LIC1445E 準拠レポートの生成中にエラーが発生しました。

説明: 準拠レポートの生成中に予期しないエラーが発生しました。準拠レポートを作成できませんでした。

ユーザーの処置:

- 少なくとも 1 つの有効な DB2 インスタンスが作成されていることを確認してください。
- DB2 グローバル・レジストリーが破損していないことを確認してください。
- DB2 Administration Server が正常に開始されたことを確認してください。

LIC1446I SA MP のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* が正常にインストールされました。

説明: IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) を DB2 高可用性 (HA) フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書のインストールまたは更新は正常に行われました。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。

LIC1447N SA MP のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* は正常にインストールされませんでした。

説明: IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (SA MP) を DB2 高可用性 (HA) フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書は正常にインストールまたは更新されませんでした。

DB2 インストーラーを使用してこのライセンス証明書のインストールまたは更新を実行した場合は、DB2 インストール・ログ・ファイル中に、インストールまたは更新が失敗した理由に関する詳細情報が含まれていません。

ユーザーの処置: SA MP Base Component に関するこのライセンス証明書のインストールまたは更新を手動で実行するには、以下のコマンドを発行してください。

- **samlicm** -i *license-certificate-file-name*

samlicm コマンドについての詳細は、SA MP Base Component 資料を参照してください。

LIC1448I DB2 での作業を開始できるように、このライセンスはインストール時に自動的に適用されました。

説明: 完全ライセンスを取得するには、この製品では購入したライセンス・ポリシーに適したライセンスが必要です。

ユーザーの処置: ライセンスは、パスポート・アドバンテージからダウンロードするか、製品パッケージの個別の CD で見つけることができます。ダウンロードと CD のどちらの場合も、「アクティベーション CD」というタイトルが付いています。

ご使用の製品のライセンス交付について詳しくは、「licensing」などの用語を使用してインフォメーション・センターで検索してください。

LIC1449N プラットフォームの制限のため、ライセンスはインストールされていません。

説明: この DB2 製品は、このプラットフォームでは評価モード（「試用」モードとも呼ばれる）でのみサポートされます。

ユーザーの処置: この製品を評価モードで使い続けるか、このプラットフォームでの完全サポート版をインストールしてください。

LIC1450I 証明書 *file-name* でライセンス交付を受けた製品が DB2 コピー内に見つかりませんでした。

説明: 追加の製品のインストールに先立ち、追加のライセンスが DB2 コピーに追加される場合があります。ライセンスは正常に追加されていますが、対応する製品がインストールされるまでは表示されません。

ユーザーの処置: アクションは不要です。この証明書の範囲内にある製品を今後インストールする場合、ライセンスを再登録する必要はありません。

第 19 部 MQL メッセージ

第 104 章 MQL0000 - MQL0499

MQL0001E MQListener を呼び出す際、コマンド行に主要機能が指定されていませんでした。

説明: MQListener コマンド行に、help、run、add、remove、または show などの主要機能が指定されていませんでした。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要な機能を指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0002E MQListener を呼び出す際に、無効なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されました。

説明: MQListener コマンド行に、不明なパラメーター *parameter name* があります。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0003E MQListener を呼び出す際に、必要なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されていませんでした。

説明: MQListener コマンド行に、必要パラメーター *parameter name* がありませんでした。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要パラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0004E MQListener を呼び出す際に、コマンド行パラメーター *parameter name* に無効な値 *parameter value* が指定されました。

説明: MQListener コマンド行の *parameter name* パラメーターの値が正しくありませんでした。正しくない値は *parameter value* です。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqdsn help

MQL0010E MQListener は、操作 *operation name* の実行中にデータベース *database name* にアクセスしていてデータベース・エラーを検出しました。sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)

説明: MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、データベース *database name* にアクセスしていて DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、-configUser で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQL0011E MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* へ接続するのに失敗しました。sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)

説明: MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* への接続を試みている際に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: *database name* が実行中で、MQListener で設定されたパスワードを使用して *user name* にアクセスできることを確認します。必要であれば、MQListener の「remove」および「add」機能を使って MQListener を再構成します。

MQL0020E MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* のオブジェクト *object name* に対する操作 *operation name* の実行中に MQ エラーを検出しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* のオブジェクト *object* に対する操作 *operation name* の実行中に MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code value* です。

ユーザーの処置: MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に

MQLO021E

理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00)を参照してください。

MQLO021E MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* への接続に失敗しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* へ接続している間に MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code*。

ユーザーの処置: MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00)を参照してください。

MQLO022W MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* からの切断に失敗しました。理由コード = *reason code*。

説明: MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* から切断しようとしている間に、MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code*。

ユーザーの処置: MQ のインストールと実行が正しく行われていることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードの正確な意味について調べてください。

MQLO030E MQListener が、データベース *configuration database name* の MQListener 構成 *configuration name* に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* = *sqlcode value*)。

説明: MQListener が、データベース *configuration database name* の MQListener 構成 *configuration name* に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインス

トールされていることと、*-configUser* で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。構成名、入力キュー、およびキュー・マネージャーの組み合わせが、データベースの MQListener 構成タスクの中でユニークであることを確認してください。構成を検査するには、MQListener の「show」コマンドを使用します。

MQLO040E MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、データベース *configuration database name* から設定 *configuration name* を取得しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* = *sqlcode value*)。

説明: MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、データベース *configuration database name* から設定 *configuration name* を取得しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* = *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、*-configUser* で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQLO060E MQListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* からタスクを削除している間に DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* = *sqlcode value*)。

説明: MQListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* からタスクを削除している間に DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode* = *sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、*-configUser* で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

MQL0061I MQLListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* から不明なタスクを削除しようとしてしました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。

説明: MQLListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* から不明なタスクを削除しようとしてしました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。

ユーザーの処置: 指定したパラメーターが正しいことを確認して、MQLListener を再実行してください。構成を検査するには、MQLListener の「show」コマンドを使用します。

MQL0070E MQLListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアド・プロシージャ *schema name.procedure name* の実行準備をしている間に DB2 データベース・エラーを検出しました。 *sqlstate = sqlstate value* (*sqlcode = sqlcode value*)

説明: MQLListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアド・プロシージャ *schema name.procedure name* の実行準備をしている間に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQLListener 構成が正しく指定されていること、正しいシグニチャーを持つ、指定されたスキーマと名前前のストアド・プロシージャが存在していること、および指定されたユーザーからこれがアクセス可能であることを確認してください。

MQL0071E MQLListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアド・プロシージャ *schema name.procedure name* のシグニチャーで、サポートされないデータ・タイプを検出しました。データ・タイプ = *datatype value*。

説明: MQLListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアド・プロシージャ *schema name.procedure name* のシグニチャーで、サポートされないデータ・タイプを検出しました。データ・タイプは *datatype value* です。

ユーザーの処置: MQLListener の資料を参照し、ストア

ード・プロシージャのデータ・タイプが正しいことを確認してください。

MQL0072E MQLListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 ECF エラー・コードは *error code* です。

説明: MQLListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 ECF エラー・コードは *error code* です。

ユーザーの処置: MQLListener 構成が正しいこと (特に *-numInstances* パラメーター)、および必要な数のタスクを同時に実行するのに十分なシステム・リソースが MQLListener プロセスにあることを確認してください。

MQL0073I MQLListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始しました。

説明: MQLListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始しました。

ユーザーの処置: ありません。これはスレッドの開始に関する通常の通知であり、開始または再始動中に出るはずのものです。

MQL0074I MQLListener の入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドが終了しました。

説明: MQLListener の構成 *configuration name* (入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager*) に指定されたタスクを実行するスレッドが終了しました。

ユーザーの処置: ありません。これはスレッドの終了に関する通常の通知であり、シャットダウンまたは再始動中に出るはずのものです。

SQL0075E MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャ *schema name.procedure name* を実行しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode = sqlcode value*)。

説明: MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャ *schema name.procedure name* を実行しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の *sqlstate* は *sqlstate value* です (*sqlcode sqlcode value*)。

ユーザーの処置: MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、指定されたユーザーに MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。ストアード・プロシージャが正しく実行されていることを確認してください。

SQL0080W MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で以下に示す不明なメッセージを受信しました。 *message*

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *queue* で以下に示す不明なメッセージを受信しました。 *message*

ユーザーの処置: MQListener のインストールと構成が正しく行われていること、 MQListener が適切な *-adminQMGr* および *-adminQueue* パラメーター値を指定して実行されていること、および MQListener の「*admin*」コマンドも適切な *-adminQMGr* および *-adminQueue*、または *-adminQueueList* パラメーター値を使用していることを確認してください。
-adminQueueList を使用している場合は、これが適切なキュー名を指定していることを検査します。管理キューを別のアプリケーションが使用していないことを検査します。

SQL0081I MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* でシャットダウン・メッセージを受信しました。

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* でシャットダウン・メッセージを受信しました。

ユーザーの処置: ありません。これは、シャットダウン・メッセージの受信に関する通常の通知です。

SQL0082I MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で再始動メッセージを受信しました。

説明: MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で再始動メッセージを受信しました。

ユーザーの処置: ありません。これは、再始動メッセージの受信に関する通常の通知です。

第 20 部 SAT メッセージ

このセクションには、サテライト (SAT) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

第 105 章 SAT1000 - SAT1499

SAT1000I グループの最初のアプリケーション・バージョンは、代表的なサテライト・インストールで使用される値に一致するようにデフォルト設定されています。

説明: 一般的な方法でサテライトをインストールする場合、サテライトのアプリケーション・バージョンは事前定義値に設定されます。この事前定義アプリケーション・バージョンは、グループで作成される最初のアプリケーション・バージョンのデフォルト値と同じです。

ユーザーの処置: 一般的な方法でこのグループのサテライトをインストールしなかったり、またはグループのアプリケーション・バージョンを変更した場合、あるいはインストール後にさらにサテライトをインストールした場合は、新しいアプリケーション・バージョンを作成するために指定した ID とサテライトのアプリケーション・バージョンの整合性がとれているかどうかを確認してください。

SAT1001I いずれかのノートブック・ページで必須情報が欠落しています。ノートブックは、情報が欠落しているページに戻ります。

説明: アクションを完了するには、すべての必須フィールドが埋められていなければなりません。

ユーザーの処置: 必須情報を入力して、アクションを再試行してください。

SAT1002I 選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントが、指定された認証クレデンシャルを使用して正常に終了しました。

説明: ターゲットへの接続が試みられました。指定の認証クレデンシャルを使用して、接続またはアタッチメントが正常に確立されました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

第 106 章 SAT2000 - SAT2499

SAT2000W 変更は保管されませんでした。今保管しますか？

説明: 変更を保管せずにウィンドウまたはノートブックを終了しようとしています。

ユーザーの処置: 変更を保管するには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2001W ATTACH または CONNECT ステートメントがスクリプト内で検出されました。

説明: スクリプト内容に CONNECT または ATTACH ステートメントが含まれていると思われます。サテライトでは、DB2 インスタンスまたは DB2 データベース・スクリプトが実行される前に、必要なインスタンス・レベル接続またはデータベース・レベル接続が自動的に確立されます。したがって、スクリプトが複数の実行ターゲットを指定しない場合は、DB2 インスタンスまたはデータベース・スクリプトに ATTACH または CONNECT ステートメントを組み込む必要はありません。

ユーザーの処置: スクリプトが複数のターゲットを指定していない場合は、そのスクリプトから CONNECT または ATTACH ステートメントを除去してください。

SAT2002W スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾している可能性があります。

説明: スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾するように変更されたか、またはスクリプト・タイプがスクリプト内容と矛盾するように変更されました。

ユーザーの処置: スクリプト・タイプとスクリプト内容に互換性があることを確認してください。

SAT2003W 暗黙表スペースが作成されました。

説明: プロモーションが少なくとも 1 つの暗黙表スペースを作成しました。

ユーザーの処置: 作成された暗黙表スペースがあなたのビジネス要件に合っていない場合は、スクリプトの表スペースを変更してください。

SAT2014W サテライト *satellite* を本当にプロモートしますか？

説明: サテライトをプロモートすると、サテライトがグ

ループのバッチの実行を開始します。サテライトが修正バッチを正常に実行して、いつでもグループ・バッチを実行できる状態になったときにのみサテライトをプロモートしてください。

ユーザーの処置: サテライトをグループ・バッチの実行にプロモートするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2015W サテライト *satellite* を本当に修正しますか？

説明: サテライトを修正モードに設定すると、サテライトでグループ・バッチを実行できなくなります。サテライトは、グループ・バッチの実行にプロモートされるまで修正バッチしか実行できません。サテライトがサービスを要求したときにのみサテライトを修正モードに設定してください。

ユーザーの処置: サテライトを修正モードに設定して修正バッチを実行できるようにするには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2016W 名前 *object* を持つオブジェクトはデータベース *database* にすでに存在します。オブジェクトを本当に上書きしますか？

説明: オブジェクトを上書きすると、オブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトを上書きするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2017W 名前 *object* のオブジェクトはすでにデータベース *database* に存在しており、他のオブジェクトによって使用中です。オブジェクトの定義を本当に変更しますか？

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2018W オブジェクト *object* の定義を本当に変更しますか？

SAT2019W

説明: オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

ユーザーの処置: オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

SAT2019W 名前 *object* を持つオブジェクトはデータベース *database* にすでに存在します。
object を *database* に作成する前に名前変更しますか?

説明: *database* に *object* を作成中に、同じ名前を持つ別のオブジェクトがすでに存在することが見つかりました。オブジェクトはユニークな名前を持っている必要があります。

ユーザーの処置: 別の名前でオブジェクトを保管するには「はい」をクリックします。そうでなければ、「いいえ」をクリックしてください。オブジェクトは作成されません。

SAT2020W 選択したサテライトの少なくとも 1 つが現在オンラインになっています。オンラインのサテライトで行うアクションはありません。

説明: サテライトがオンラインで同期しているとき、そのサテライトは変更できません。

ユーザーの処置: どのサテライトが現在オンラインかを判別します。これらのサテライトがオフラインになってから、要求を再試行してください。

SAT2021W 指定された認証クレデンシャルを使用した、選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントに失敗しました。

説明: ターゲットへの接続またはアタッチメントが試みられました。認証エラーのため、接続を確立できませんでした。

ユーザーの処置: ターゲットに対する認証クレデンシャルが正しいことを確認してから、要求を再試行してください。

SAT2022W サテライトがテスト・サテライトの場合は、このサテライトへの変更を行うことができます。サテライトが整合状態のままであるように注意してください。

説明: サテライトをテスト・サテライトとして設定することは、サテライトがテスト・バッチを実行することを意味します。テスト・バッチには、不確かな結果をも

たらずバッチ・ステップが含まれている可能性があり、サテライトが不整合状態になるかもしれません。サテライトをテスト・サテライトとして設定するときは、こうしたリスクを含んでいることを十分認識した上で行ってください。

ユーザーの処置: サテライトをテスト・サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

SAT2023W このテスト・サテライトを本当に実動サテライトに変更しますか? このサテライトで使用できる管理関数は厳しく制限されません。

説明: テスト・サテライトは、構成変更を実動サテライトで使用できるようにする前にテストするために使用されます。したがって、構成変更が成功しなかったときにテスト・サテライトが不整合状態になる可能性があります。テスト・サテライトを修復するには、構成変更を繰り返しテストできるようにサテライトを整合状態に戻します。テスト・サテライトには、その他の管理アクションを実行することもできます。サテライトが実動サテライトに変更された場合には、テスト目的で使用できなくなります。このサテライトに使用できる管理関数は、必然的に厳しく制限されます。

ユーザーの処置: サテライトを実動サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

SAT2024W 同期セッションが進行中です。同期セッションを本当に終了しますか?

説明: 同期セッションの処理中に終了アクションが要求されました。

ユーザーの処置: 終了を続行した場合、同期セッションが完了する前に停止されます。終了を取り消して、同期セッションを完了してください。

SAT2025W 統合シナリオに不完全な "整合した変更データ表" 以外の表を使用した場合、ターゲット表は、サテライトが同期化する時にリフレッシュされます。

説明: 統合レプリケーション・シナリオにおいて、不完全な "整合した変更データ表" の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行いません。別の表のタイプ (たとえば、ユーザーのコピーまたはポイント・イン・タイム指定のターゲット表) の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行います。レプリケーション・シナリオを定義する時に、データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定した場合、ターゲット表は、サテライ

トが同期化するたびに完全にリフレッシュされます。
データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定しない場合、ターゲット表は、アプライ・プログラムがサテライトで最初に呼び出された時のみ、完全にリフレッシュされます。

ユーザーの処置: サテライトが同期化する時に、ターゲット表をリフレッシュする場合は、アクションは必要ありません。ターゲット表のタイプを変更する場合は、DB2 コントロール・サーバーから、レプリケーション・サブスクリプションの一般化による影響を除去し、コントロール・センターへ戻ってレプリケーション・シナリオを変更する必要があります。それから、レプリケーション・サブスクリプションを再度一般化してください。

SAT2026W サテライトは、ユーザーがユーザー・データを変更する前に同期化される必要があります。サテライトの最初の同期化の前に変更されたユーザー・データは複製されません。

説明: サテライトが同期化する時、適用およびアプライ・プログラムがサテライトに呼び出されます。レプリケーション・シナリオの定義の仕方によって、最初の同期セッションの前のサテライト・データベースにあるユーザー・データに対して行われる変更は、統合されたソースに複写されないか、またはサテライトで上書きされるかのいずれかとなります。

- 実行するレプリケーションが統合である場合、または任意の場所の更新で、複製の方向が「サテライト→統合ソース」と定義されている場合、最初の同期化セッションの前にユーザー・データに対して行われた変更は、「サテライト→統合ソース」の方向には複製されません。キャプチャー・プログラムが呼び出されると、この変更を収集することができません。
- 実行するレプリケーションが分散である場合、または任意の場所の更新で、複製の方向が「統合ソース→サテライト」と定義されている場合、最初の同期化セッションの前にユーザー・データに対して行われた変更は、サテライトで全リフレッシュが起こった場合に上書きされます。

ユーザーの処置: すべてのサテライト・ユーザーに、サテライトでデータを変更する前に、同期化を行うように指示してください。

第 107 章 SAT3000 - SAT3499

SAT3000N 名前 *name* はすでに存在します。

説明: 作成しようとしているオブジェクトの名前 *name* がすでに存在します。

ユーザーの処置: ユニーク名を指定してください。

SAT3001N コピーのターゲット名 *targetname* はすでにデータベース *cdb* に存在します。

説明: コピーに指定した名前 *targetname* が、ターゲット・サテライト・コントロール・データベース *cdb* でユニークではありません。

ユーザーの処置: ユニーク名を指定してください。

SAT3002N アプリケーション・バージョン *application-version-name* はグループ *group-name* にすでに存在しています。

説明: このアプリケーション・バージョンに指定した名前は、すでにこのグループで使用されています。

ユーザーの処置: グループ *group name* で使用されていないアプリケーション・バージョンの名前を指定してください。

SAT3003N このグループにはアプリケーション・バージョンが存在しません。

説明: グループに対して要求されたアクションには少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが必要です。

ユーザーの処置: グループのアプリケーション・バージョンを作成してください。

SAT3004N オブジェクト *name* は存在しません。

説明: 示されているオブジェクト *name* が存在しません。オブジェクトを含む表示が埋められた後で、オブジェクトが除去された可能性があります。

ユーザーの処置: オブジェクトが表示される表示をリフレッシュしてください。

SAT3005N オブジェクト *name* は、現在他のオブジェクトによって参照されているため削除できません。

説明: 別のオブジェクトが参照しているため、オブジェクト *name* を削除できません。 *name* が削除された場合

は、整合性を維持できません。

ユーザーの処置: このオブジェクトを削除する前に、オブジェクトに従属するすべてのオブジェクトを削除してください。

SAT3006N 少なくとも 1 つの使用可能なサテライトを持っているため、グループ *group-name* を削除できません。

説明: グループを削除する前に、グループとともに削除できるようにそのすべてのサテライトを使用不可にしてください。グループ内に少なくとも 1 つの使用可能なサテライトが見つかりました。

ユーザーの処置: このグループ内のすべてのサテライトを使用不可にしてください。

SAT3007N テスト・レベルか実動レベルのバッチを持つ少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンがあるため、グループ *group-name* を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされます。したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまりアプリケーション・バージョン、アプリケーション・バージョンが属するグループを削除することはできません。

ユーザーの処置: このグループのすべての実動レベル・バッチを廃止し、すべてのテスト・レベル・バッチを除去します。その後、要求を再試行してください。

SAT3008N テスト・レベルか実動レベルのバッチを持っているため、アプリケーション・バージョン *application-version-name* を削除できません。

説明: 実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされます。したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまり、これらのバッチが属するアプリケーション・バージョンを削除することはできません。

ユーザーの処置: このアプリケーション・バージョンの実動レベル・バッチを廃止し、テスト・レベル・バッチを除去します。その後、要求を再試行してください。

SAT3009N 汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。

説明: 汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つの汎用レプリケーション・サブスクリプションが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループに 1 つ以上の汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットを定義してください。

SAT3010N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが存在していなければなりません。

ユーザーの処置: このグループのアプリケーション・バージョンを定義してください。

SAT3011N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* にはデフォルトのレプリケーション・サブスクリプション・セットが存在しません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルト・レプリケーション・サブスクリプション・セットが、汎用化アクションにより生成されます。汎用レプリケーション・サブスクリプションをカスタマイズするには、このようなサブスクリプション・セットが必要です。

ユーザーの処置: 汎用化アクションが正常に完了したことを確認して、要求を再試行してください。

SAT3012N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーが汎用レプリケーション・サブスクリプション・アクションによって生成されました。このようなコントロール・サーバーは、汎用レプリケーション・サブスクリプションがカスタマイズされる前に必要です。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーは存在しません。

ユーザーの処置: レプリケーション・サブスクリプシ

ョンの汎用化が正常に完了したことを確認します。その後、要求を再試行してください。

SAT3013N 確認パスワードが指定されたパスワードと一致しません。

説明: 確認パスワードは、指定されたパスワードと一致していなければなりません。パスワードでは大文字小文字が区別されます。

ユーザーの処置: 確認パスワードをもう一度入力します。入力されたすべての文字が、オリジナルのパスワードとまったく同じであることを確認してください。

SAT3014N 少なくとも 1 つの指定されたバッチ・ステップがターゲット別名、成功コード・セット、またはその両方を持っていません。

説明: 新しいバッチ・ステップとしてスクリプトがインポートまたは追加されたときに、新しいバッチ・ステップ用に追加する必要があるターゲット別名および成功コード・セットが提供されませんでした。

ユーザーの処置: どのバッチ・ステップにターゲット別名または成功コード・セットが欠落しているかを識別して、欠落情報を追加してください。

SAT3015N ターゲット別名が選択されていません。認証クレデンシャルを指定するには、ターゲット別名を選択する必要があります。

説明: 認証をターゲット別名と関連付けるには、まずターゲット別名を指定する必要があります。

ユーザーの処置: ターゲット別名を指定します。その後、要求を再試行してください。

SAT3016N アプリケーション・バージョンがこのサテライトに設定されていません。このページは、サテライトがアプリケーション・バージョンを報告するまで使用できません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、アプリケーション・バージョンのバッチ・ステップを指定できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3017N アクションを実行できません。アプリケーション・バージョンが設定されていません。

説明: サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。したがって、指定されたアクションを実行できません。

ユーザーの処置: サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

SAT3018N 実行ターゲットのタイプがスクリプトのタイプに対して正しくありません。

説明: 正しくないターゲット別名が選択されました。スクリプトは、別のタイプのターゲットに対して実行されるように指定されています。

ユーザーの処置: 選択されたスクリプトと同じタイプのターゲット別名を選択します。その後、要求を再試行してください。

SAT3019N 指定された成功コード範囲が競合していません。

説明: 成功コード・セットには、「より小さい」(<) 関係で指定された数の範囲とオーバーラップする数の範囲を指定する「より大きい」(>) 関係を入れることはできません。たとえば、> 10、< 11 の 2 つの関係を同じ成功コード・セットで使用することはできません。

ユーザーの処置: 範囲内でオーバーラップするこのような関係を成功コード・セットから除去するか、または訂正してください。2 つの数の間に限られた範囲の数を指定するには、範囲内のそれぞれの数に a、b、等号 (=) 関係を指定する必要があります。たとえば、5 と 10 の間に成功コードとして限られた範囲の数を指定するには、=5、=6、=7、=8、=9 および =10 の等号関係が必要です。

SAT3022N プロモーションが以下のエラーで失敗しました。SQLCODE=sqlcode、SQLSTATE=sqlstate、トークン: token1、token2、token3。ロケーション location にエラーがあります。

説明: プロモーションが、予期しない状況で失敗しました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3023N システム・エラーまたは内部エラーが発生しました。

説明: 考えられるエラーには、オペレーティング・システムによって返されるシステム・エラー、リソース不足、不正な構成などがあります。

ユーザーの処置: レプリケーション構成を確認するか、またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3024N レプリケーション・サーバーがサポートされていないレベルにあります。

説明: レプリケーション・サーバーの製品レベルがサポートされていません。

ユーザーの処置: サポートされているレベルにアップグレードしてください。

SAT3025N レプリケーション・サーバーに接続したときに認証障害が発生しました。

説明: このアクションには、レプリケーション・サーバーの認証が必要です。いずれかのサーバーの認証に失敗しました。

ユーザーの処置: 正しいユーザー ID およびパスワードを指定したかどうか確認します。要求を再試行するか、またはシステム管理者に連絡してください。

SAT3026N 生成されたスクリプトのサイズが使用可能なストレージを超えました。

説明: このアクションによってスクリプトが生成されました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが、使用可能な最大ストレージを超えています。

ユーザーの処置: システム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3027N レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、ターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目がインスタンス instance-name に存在しません。

説明: このアクションを行うには、インスタンス instance-name に、レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目が存在する必要があります。ディレクトリー項目の少なくとも 1 つが見つかりませんでした。

ユーザーの処置: instance-name でレプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびタ

SAT3028N

ーゲット・サーバーをカタログします。またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

SAT3028N 修正バッチ *batch* は、少なくとも 1 つのサテライトによって使用されているため削除できません。

説明: 現在使用されているバッチを削除することはできません。

ユーザーの処置: バッチがサテライトで使用されなくなるまでお待ちください。その後、要求を再試行してください。

SAT3029N スクリプト *script* は、少なくとも 1 つの実動または廃止バッチ・ステップによって使用されているため変更できません。

説明: スクリプトは、実動または廃止バッチ・ステップで使用されていない場合のみ変更できます。

ユーザーの処置: スクリプトが実動または廃止バッチ・ステップで現在使用されていないことを確認します。その後、要求を再試行してください。

SAT3030N 廃止されていないバッチによって使用されているため、指定された廃止バッチ・ステップを削除できません。

説明: 廃止バッチ・ステップは、廃止レベルではないバッチによって使用されていない場合のみ削除できます。

ユーザーの処置: このバッチ・ステップを使用するバッチがサテライトで使用されていない場合は、廃止レベルに移動します。その後、要求を再試行してください。

SAT3031N バッチ・ステップのセットの最後のステップではないため、このバッチ・ステップは削除できません。

説明: バッチ・ステップのセットの中にあるバッチ・ステップを削除することはできません。まず、その後のすべてのバッチ・ステップを削除する必要があります。

ユーザーの処置: 削除するバッチ・ステップの後のすべてのバッチ・ステップを削除します。その後、要求を再試行してください。

SAT3032N 実動バッチ・ステップを削除できません。

説明: 実動バッチ・ステップは同期のために実動サテライトで使用されているため、削除できません。削除できるのは、テスト、未割り当て、および廃止バッチ・ステップだけです。

ユーザーの処置: バッチ・ステップを実動から取り出し

ます。その後、要求を再試行してください。

SAT3033N サテライト・コントロール・データベース **SATCTLDB** がデータベース・ディレクトリー内で検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト・コントロール・データベースがデータベース・ディレクトリーに正しくカタログされていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3034N サテライト・コントロール・サーバーでの認証エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: コントロール・サーバーに送信されたユーザー ID またはパスワードが正しくありません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3035N サテライト ID がローカルで検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: このエラーは、オペレーティング・システム・ログオンを省略したために起きた可能性があります。

ユーザーの処置: すでにオペレーティング・システムにログオンしている場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3036N サテライト・コントロール・サーバーがこのサテライトを認識しないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、またはこのサテライトがサテライト・コントロール・サーバーで正しく定義されていません。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3037N 不明エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3038N シンクロナイザーが重大な DB2 エラーを検出しました。同期を継続できません。

説明: この重大エラーの原因は不明です。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3039N サテライトの同期に失敗しました。サテライトがサテライト・コントロール・サーバーで失敗状態にあります。

説明: このサテライトが障害状態になっているため、修正する必要があります。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3040N サテライト・コントロール・サーバーに接触できないため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: サテライトとそのコントロール・サーバーの間の通信を確立できませんでした。コントロール・サーバーが操作可能でないか、または通信構成が正しくない(たとえば、サテライト・コントロール・サーバーのホスト名またはポート番号が正しくない)と考えられます。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3041N サテライト・コントロール・サーバーとの通信が失われたため、サテライトの同期に失敗しました。

説明: 通信リンク障害が起きました。サテライト・コントロール・サーバーが非活動状態になっているか、またはネットワーク障害が起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3042N サテライトの同期セッションで、一部のタスクが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッション中にエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3043N サテライトの同期セッションが正常に開始しませんでした。

説明: サテライト同期セッションの始動フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3044N サテライトの同期セッションのクリーンアップ・フェーズが正常に完了しませんでした。

説明: サテライト同期セッションのクリーンアップ・フェーズでエラーが起きました。

ユーザーの処置: ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

SAT3045N *control-server* は有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。

説明: 選択されたサーバーは有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。要求は完了できません。

ユーザーの処置: 有効なレプリケーション・コントロール・サーバーを選択してから要求を再試行してください。

SAT3046N グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* には汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットが存在しません。

説明: グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* には、汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがありません。一般化されたレプリケーション・サブスクリプション・セットは、カスタマイズの前に存在している必要があります。

ユーザーの処置: アプリケーション・バージョン用に 1 つ以上のレプリケーション・サブスクリプション・セットを一般化して、要求を再度試行してください。

SAT3047N フィールド *field-name* の入力が増えすぎています。このフィールドに対して許可される最大長は *maximum-length* です。

説明: フィールド *field-name* の入力の長さが、*maximum-length* の限度を超えています。

ユーザーの処置: 入力が増え限度内であることを確認して、要求を再試行してください。

SAT3048N 複数のターゲット・サーバーが、コントロール・サーバー *control-server* のアプライ修飾子 *apply-qualifier* に関連づけられています。

説明: レプリケーション・サブスクリプションのターゲット・サーバーが指定のアプリケーション・バージョンを実行しているグループのサテライトを表しています。その結果、提供されたアプライ修飾子にはターゲット・サーバーが 1 つだけ認められます。レプリケーション構成が単一ターゲット・サーバーを指定すると、関連したアプライ修飾子が正しく指定されていない可能性があります。そうでない場合、レプリケーション構成はサテライト環境では一般化のために受け入れられない可能性があります。

ユーザーの処置: まず、レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していないか、確認します。指定している場合、レプリケーション構成を訂正し、レプリケーション・サブスクリプションの一般化要求を再試行してください。レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していない場合、正しいアプライ修飾子がレプリケーション・サブスクリプションの一般化要求に指定されているか確認してください。その後、要求を再試行してください。

SAT3049N ファイル名が無効である。

説明: 文字 ¥ / : * ? " < > | のいずれかが含まれているため、ファイル名は無効です。

ユーザーの処置: ファイル名には、リストされている文字を使用しないようにしてください。その後、要求を再試行してください。

SAT3050N 選択されたサテライトの 1 つまたは複数に、アプリケーション・バージョンがありません。

説明: アプリケーション・バージョンのないサテライトのレプリケーション・パラメーターを変更することはできません。

ユーザーの処置: 選択されたサテライトがすべて、アプリケーション・バージョンを持つようにしてください。その後、要求を再試行してください。

SAT3051N レプリケーション・サブスクリプションの汎用化に失敗しました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

説明: 生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

ユーザーの処置: 汎用化を再試行してください。問題

が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

SAT3052N データベース別名またはデータベース名 *name* が見つかりません。

説明: コマンドに指定されているデータベース名または別名が見つかりません。データベースがデータベース・ディレクトリー内でカタログされていないか、あるいは存在しません。

ユーザーの処置: 示されているデータベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、そのデータベースが存在することを確認してください。その後、要求を再試行してください。

第 108 章 SAT4000 - SAT4499

SAT4000C *cdb* は、有効なサテライト・コントロール・データベースではありません。

説明: データベース *cdb* は、有効なサテライト・コントロール・データベースではありません。まず、データベース *SATCTLDB* がサテライト・コントロール・データベースと想定されます。このようなデータベースに対して実行される、サテライト管理に関するアクションは、まずそのデータベースが有効かどうかを確認します。データベースが正しく構成されていない場合、アクションは成功しません。*cdb* がサテライト・コントロール・データベースの場合、そのデータベースが使用できなくなるように構成が変更されました。そうでない場合は、非コントロール・データベースに *SATCTLDB* という名前が付けられました。

ユーザーの処置: データベースをサテライト・コントロール・データベースと誤って表すことを避けるには、データベースを *SATCTLDB* 以外の名前に変更します。

cdb がサテライト・コントロール・データベースの場合は、その構成をオリジナルの定義とともに確認してください。

第 21 部 SPM メッセージ

このセクションには、同期点マネージャー (SPM) のメッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

第 109 章 SPM0000 - SPM0499

SPM0400 DBALIAS=*dbalias* による未確定トランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - データベースが UOW およびコミットされた LUNAME=*luname* のコーディネーターをロールバックしました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されません。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。DB2 データベースによる解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。*dbalias* で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。

luname の DB2 データベースはトランザクションをロールバックしました。これは、*luname* の DRDA2 コーディネーターのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

dbalias DB2 データベースの別名。

luname コーディネーターの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: COORDINATOR *luname* および DATABASE *dbalias* の両方のデータベース管理者に、*luwid* のトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。COORDINATOR *luname* の DRDA2 AR は、*luwid* が行ったデータベースの更新を COMMIT する決定を行いました。*dbalias* PARTICIPANT は、*luwid* が行った更新を ROLL BACK する経験的な決定を行いました。

SPM0402 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - 参加者はコミットされ、DB2 はロールバックしました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されます。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。参加者による解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。*luname* と *dbalias* によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われたアクションは、このトランザクションをコミットするものでした。これはコーディネーターのロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、この作業単位のロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされました。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luname 参加者の LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: ローカル・データベース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid* でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。DB2 はトランザクションのコーディネーター側で、*luwid* が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。*luname* で、*luwid* が行った更新を COMMIT するヒューリスティック判定が行われました。

SPM0403 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - 参加者はロールバックし DB2 はコミットされました。トランザクションは

LUWID=luwid によって識別されます。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。参加者による解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。*luname* と *dbalias* によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われたアクションは、UOW をロールバックするものでした。これはコーディネーターのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: ローカル・データベース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid* でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。DB2 はトランザクションのコーディネーター側で、*luwid* が行なったデータベースの更新を COMMIT する決定を行ないました。*luname* で、*luwid* が行なった更新を ROLL BACK する経験的な決定が行なわれました。

SPM0404 **LUNAME=luname1** のコーディネーターによる未確定トランザクションの解決中にプロトコル・エラー - **LUNAME=luname2** の DB2 データベースには、**LUWID=luwid** で識別される未確定トランザクションがあります。

説明: DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。LUNAME=luname2 のデータベースと関連づけられた DB2 トランザクションは未確定です。*luname1* によって識別されるコーディネーターによる未確定の解決中にプロトコル・エラーが起こりました。

luname1

コーディネーターとして活動しているパートナーの LU 名。

luname2

トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションは未確定のまま残されます。再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。トランザクションを手操作で解決する必要があります。コーディネーター側で行なわれるコミットまたはアポートの決定は、この参加者の DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

luname と *dbalias* のコーディネーター側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。

未確定トランザクションを解決するためには、この (参加者) *dbalias* で LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してください。

SPM0406 **LUNAME=luname** および **DBALIAS=dbalias** の参加者での **LUWID=luwid** のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。**DB2** はコミットしました。

説明: *luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起こりました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアポートのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをコミットする決定が行なわれましたが、この時点では参加者と通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。その責任については LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname 参加者の LU 装置名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。 適切な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者のアクション: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0407 LUNAME=*luname* の参加者による LUWID=*luwid* トランザクションの自動的な解決によってコミットが行われました。 DB2 Database は *dbname* です。

説明: *dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別されるコーディネーターとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはコミットされました。

luname1

コーディネーターの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

luname2

変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0408 LUNAME=*luname* を使ったパートナーとの自動解決中に、通信エラーが発生しました。使用された通信プロトコル=*protocol*。使用している通信 API=*api*。エラーを検出した通信関数=*function*。プロトコル固有エラー・コード: *rc1*、*rc2*、*rc3*

説明: 1 つ以上の未確定トランザクションが *luname* に存在します。DB2 が未確定のトランザクションを自動的に解決しようとしたのですが、通信エラーが発生しました。

protocol

使用中の通信プロトコル。 サポートされるのは "APPC" だけです。

api 使用中の通信 api。 "CM2 APPC" または "SNA/6000 OS subroutine" のいずれかを指定することができます。

codes "CM2 APPC" api の場合には、*rc1*、*rc2*、および *rc3* に 1 次戻りコード、2 次戻りコード、および SNA センス・コードが入っています。 "SNA/6000 OS Subroutines" api の場合には、*rc1* に *errno* グローバル変数が入っています。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。 適切な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者のアクション: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

SPM0409 LUWID=*luwid* を持つトランザクションは、LUNAME=*luname* のコールド・スタートのため、解決できませんでした。DB2 トランザクション状況=*status*。 DB2 応答可能性=*responsibility*。

説明: *luname* のパートナーに未確定トランザクションが存在します。パートナーが前にコールド・スタートされていて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失っているので、DB2 は未確定トランザクションを解決することができません。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

status DB2 に認識されるトランザクションのコミット状況。 コミット状況は、未確定、コミット、またはロールバックのいずれかです。

responsibility

DB2 トランザクションの担当。 DB2 は、コーディネーターまたは参加者のいずれかになります。

ユーザーの処置: コーディネーターおよび参加者に矛盾するデータがあると考えられます。データベース管理者にトランザクションの状況を知らせてください。

データベース管理者のアクション: 手操作による解決が必要です。 ヒューリスティック判定 (すなわち、トランザクションをコミットするかロールバックするか) は、他の参加者あるいはコーディネーターと調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、コーディネーターがコールド・スタートしていても、コーディネーターのリカバリー・

ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたはアボートの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されま

SPM0410 LUNAME=*luname* のパートナーによるウォーム・スタート接続が拒否されました。パートナーは、少なくとも次のうち 1 つを変更しました。当方側ログ名 *oldourname(newourname)*、相手側ログ名 *oldtheirname(newtheirname)*、同期点プロトコル *oldpa(newpa)*、送信されたフラグ・バイト *oldfb(newfb)*、送信された *ccluname oldccls(newccls)*。そして未確定トランザクションには解決が必要です。

説明: パートナーが通信の失われた時点で使用していたものとは違う同期点パラメーターを指定しているため、パートナーとのウォーム・スタート接続を行おうとする試みが拒否されました。DB2 は、パートナーに関係した (コーディネーターまたは参加者としての) 未確定のトランザクションについての情報を保存しています。このエラーは、パートナーが元の同期点パラメーターを指定して再始動できれば、リカバリー可能エラーになります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname パートナーの LU 名。

oldourname

この DB2 サブシステムのログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、NULL です。

newourname

パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信してきたこの DB2 のログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、NULL です。

oldtheirname

最後の接続時にパートナーが使用して、DB2 が記憶しているログ名。

newtheirname

ウォーム・スタート接続を行おうとしてパートナーが使用したログ名。

oldpa 最後の接続時に使用された、DB2 が記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

newpa 最後の接続時に使用された、パートナーが記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

oldfb 最後の接続時の、DB2 が記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

newfb 最後の接続時の、パートナーが記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

oldccls 会話相関関係子が最後の接続中に、DB2 が記憶している同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

newccls 最後の接続時の、パートナーが記憶している、対話相互関係子の *luname* が同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

パートナーとの接続は拒否されます。DB2 は未確定の情報を保存します。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、パートナーが同じ同期点パラメーター ('oldourname', 'oldtheirname', 'oldpa', 'oldfb', 'oldccls') を、当方側のものとして使ってウォーム・スタートを実行できるかどうかを判断してください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。

これが可能でない場合に可能性のある解決法は次の 2 つです。

- パートナー *luname* に、この DB2 サブシステムとのコールド・スタート接続を実行させる。
- パートナーに次回はコールド・スタート接続で接続させる。

SPM0411 LUNAME=*luname* のコーディネーターによるコールド・スタート接続が受け入れられました。未確定のトランザクションは手操作で解決する必要があります。

説明: DB2 は DRDA2 AS で、未確定トランザクションを担当する参加者を持っています。コーディネーターは、コールド・スタート操作を実行していて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失ったことを DB2 に伝えています。この DB2 の未確定トランザクションは、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決されなければなりません。

dbalias コーディネーターのデータベースの別名。

パートナーとの接続は受け入れられます。トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は参加者で、コーディネーターが *luname* の 1 つまたは複数の未確定のトランザクションを持っています。 *luname* の DBMS がコールド・スタートを実行しました。 DB2 参加者は、コーディネーターのリカバリー・ログが失われたかまたは損傷があつて、未確定のトランザクションを解決できないと見なしています。コーディネーター側に矛盾するデータがあると考えられます。

ヒューリスティック判定 (すなわち、トランザクションをコミットするか打ち切るか) は、他の参加者と調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、コーディネーターがコールド・スタートしていても、コーディネーターのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたはアポートの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されません。

SPM0413 **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。 LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はコミットしました。**

説明: DB2 はトランザクションのコーディネーターです。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違つた順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがつて印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのコミットが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0414 **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* を持つ参加者との未確定トランザクションの解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。 LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はロールバックしました。**

説明: DB2 は、ロールバックされたトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されません。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがつて印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者のアクション: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (経験的に) 解決しなければなりません。

SPM0415 LUNAME=*luname* のコーディネーターによる LUWID=*luwid* トランザクションの自動的な解決によってロールバックが行われました。DB2 Database は *dbname* です。

説明: *dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別されるコーディネーターとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはロールバックされました。

luname1

コーディネーターの LU 名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

luname2

変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0416 LUNAME *luname* のパートナーによるコールド・スタート接続が拒否されました。

説明: DB2 は、パートナー *dbalias* とのコールド・スタート接続を試みました。パートナーがこの接続の試みを拒否しました。

luname コーディネーターの LU 名。

接続は行われませんでした。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 は、パートナー *luname* が DB2 とコールド・スタート接続できるまでパートナー *luname* に接続することはできません。パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡してください。

さらに援助が必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

SPM0417 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。DB2 はロールバックしました。

説明: DB2 はトランザクションのコーディネーターです。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との

SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのロールバックが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

SPM0420 LUNAME=*luname* の参加者によるコールド・スタート接続が受け入れられました。損傷の可能性があります。

説明: DB2 は、参加者側の未確定のトランザクションを担当するコーディネーターを持っていて、前にコールド・スタートしたために、未確定トランザクションについてのすべての情報を失った参加者と接続したところでは、参加者側に損傷のあることが考えられます。

luname 損傷があると考えられる参加者の LU 名。

パートナーとの接続は受け入れられます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: DB2 はコーディネーターで、*luname* の 1 つまたは複数の未確定の作業単位に対する未確定のトランザクションの解決を担当します。 *luname* の DBMS がコールド・スタートを実行し

ました。DB2 は、参加者のリカバリー・ログが失われたかまたは損傷していて、未確定のトランザクションの解決を行うことができないと見なしています。参加者側に矛盾するデータがあると考えられます。少なくとも、参加者は障害が発生した時点で未確定であったトランザクションの最終結果を完全には反映していません。

SPM0421 LUNAME=*luname* のパートナーによる SNA XLN プロトコル違反。

説明: DB2 が、指定された *luname* のパートナーとの SNA 交換ログ名 (XLN) の交換中にプロトコル違反を検出しました。

luname 正しくない XLN メッセージを送信したパートナーの LU 名。

リモート側との接続の試みが正常に実行されていません。XLN プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: リモート側のシステム・プログラマーに連絡してください。正しくない XLN メッセージはトレース・レコードに記録されています。リモート側で正しくない XLN メッセージの原因となったシステムの論理エラーを訂正する必要があります。

SPM0422 LUNAME=*luname* のパートナーによりウォーム・スタート接続は、このパートナーが当方側のログ名を誤って記憶していたため、拒否されました。当方側のログ名は *name1* で、パートナーはそれを *name2* と記憶していました。

説明: パートナーがログ名を *name2* として指定したので、パートナーとのウォーム・スタート接続の試みが拒否されました。このログ名は *name1* で、これはローカル DB2 の *luname* です。このエラーは、パートナーがログ名を *name1* と指定して再始動できれば、リカバリー可能エラーになります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

luname 接続が行われなかったパートナーの LU 名。

name1 こちら側に記憶されているログ名。

name2 パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信したログ名。

パートナーとの接続は拒否されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、この DB2 の *luname*

として指定されている当方側のログ名を使って、パートナーがウォーム・スタートを実行できるかどうかを判断してください。これが可能であれば、次の接続は正常に行われます。または、パートナー *luname* に DB2 とのコールド・スタート接続を実行させてください。

SPM0423 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* のパートナーとの LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決によりコミットが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはコミットの決定が通知されました。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0424 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* のパートナーとの LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決により、ロールバックが行われました。

説明: 未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。参加者にはロールバックの決定が通知されました。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

SPM0425 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者での LUWID=*luwid* のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。DB2 はロールバックしました。

説明: *luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起きました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアポールのためにトランザクションが準備されています。トラ

SPM0426

ンザクションをロールバックする決定が行われましたが、この時点では参加者に通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。その責任については LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

luname 参加者の LU 装置名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

ユーザーの処置: 通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

データベース管理者のアクション: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がロールバックされることを知らせてください。

SPM0426 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者の未確定トランザクション解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。DB2 はコミットしました。

説明: DB2 は、コミットされたトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されません。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的に解決しません。

luname 参加者の LU 名。

dbalias 参加者のデータベースの別名。

luwid トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

ユーザーの処置: データベース管理者に連絡してください。参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

データベース管理者のアクション: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (経験的に) 解決しなければなりません。

SPM0438 同期点マネージャー・リカバリー・ログが正しくありません。

説明: 同期点マネージャーのリカバリー・ログに矛盾があり、DB2 の始動処理中にリカバリーの実行に使用することができません。

ユーザーの処置: DRDA2 アプリケーション・サーバーに未確定のトランザクションが存在する場合があります。これらの未確定のトランザクションは手操作で回復する必要があります。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0439 同期点マネージャー・リカバリー・ログに書き込もうとしているときに、同期点マネージャーにリカバリー不能なエラーが発生しました。

説明: 同期点マネージャーのログに矛盾があり、使用することができません。DB2 の処理中に SPM ログに書き出そうとしているときに、リカバリー不能エラーが検出されました。

ユーザーの処置: 同期点マネージャーは、新しい同期レベル (2 フェーズ) 接続を行うことができません。LIST DRDA INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを出して、未確定のトランザクションの状況を調べてください。

データベース管理者に連絡してください。

データベース管理者のアクション: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

SPM0440E *protocol* プロトコル・サポートの開始試行中に、エラーを検出しました。*function* からの戻りコードは *rc*。このエラーの推定原因として最も可能性があるのは **SNA** が開始されていないことです。**DB2** を停止して **SNA** を開始し、**DB2** を再始動してください。

SPM0448E 同期点マネージャー・プロトコル・サポートを開始しようとした時にエラーが発生しました。同期点マネージャーは、同期点サポート **LUNAME** *luname* の登録ができません。これは、この **LU** が **SNA API** クライアント使用のために構成されているためです。同期点マネージャーに対して別の **LU** を選択するか、あるいはこの **LU** に対するローカル **LU 6.2** 定義での **SNA API** クライアント使用を禁止してください。

説明: このエラーは、カスタマーが **CS/NT 5.01** を使用して同期点マネージャーを開始しようとして、**SNA API** クライアント使用フラグが設定されているローカル **LU 6.2** 定義を使用している時に発生します。

ユーザーの処置: 別のローカル **LU 6.2** (**SNA API** クライアント使用構成なし) を選択するか、ローカル **LU 6.2** 定義に対する **SNA API** クライアント使用フラグを使用不能にしてください。

SPM0449E 接続に失敗しました。この失敗の原因として考えられるのは、**CPIC** サイド情報プロファイル *profile1* で指定された **LU** が **CPIC** サイド情報プロファイル *profile2* で指定された同期点マネージャー **LU** と一致しないことです。

説明: ホスト・システムとの正しい通信を行うには、通信用に定義された **CPIC** サイド情報プロファイルが、構成済みの同期点マネージャーに対して定義されている **LU** と同じ名前を指定する必要があります。

ユーザーの処置: **SNA CPIC** サイド情報プロファイル *profile1* を正しい **LU** を指定して更新し、**SNA** プロファイルを検査して、**SNA** と **DB2** の両方をいったん停止してから再始動して接続をやり直してください。

SPM0450E ライブラリーをロードできませんでした。アクセス許可が拒否されました。

説明: この問題の推定原因として最も可能性があるのは、**Windows NT** のバグです。

ユーザーの処置: システムのすべてのネットワーク・ド

ライブとローカル **PATH** ステートメントが **PATH** ステートメントの終わりにあることを確認してください。

「スタート / 設定 / コントロール パネル / システム / 環境 / システム / パス」を選択して、すべてのネットワーク・ドライブをパス・ステートメントの終わりに移動します。システムをシャットダウンして再始動してください。

SPM0451E **MS SNA** サーバーが始動されていません。

説明: **SNA** サーバーが始動していません。

ユーザーの処置: **SNA** サーバーを始動して **DB2** を再始動してください。

SPM0452I データベース・マネージャー構成に指定されている **SPM_NAME** が、コントロール・ポイント名 *name* と同じではないことを確認してください。**SPM_NAME** は一時的に *temp-name* で置き換えられています。

説明: **SPM_NAME** をコントロール・ポイントと同一名にすることはできません。**SPM_NAME** は一時的に代替名で置き換えられていますが、データベース・マネージャー構成ファイルは変更されていません。

ユーザーの処置: データベース・マネージャー構成ファイルの **SPM_NAME** を更新してください。コントロール・ポイント名ではない名前を指定してください。

SPM0456C 同期点マネージャーは開始されませんでした。**LU** 別名 *lualias* によって表される **LU (LU)** の「クライアント」フィールドに、この **SNA** サーバーの名前が含まれていることを確認してください。

説明: 同期点マネージャーを開始するには、**LU** で同期点操作が可能でなければなりません。**LU** で同期点操作を可能にするには、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスがチェックされ、この **SNA** サーバーの名前が「クライアント」フィールドに入っていることを確認してください。

この状況では、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスはチェックされていますが、「クライアント」フィールドには何も入っていません。

ユーザーの処置: 同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに **SNA** サーバーの名前が入るよう **LU** 定義を変更してください。**SNA** サーバーを停止および再始動し、さらに **DB2** を停止および再始動してください。

SPM0457W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0458W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム x'07'6DB を listen しません。

説明: 同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム x'07'6DB を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

ユーザーの処置: DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen するインスタンスを定義してください。その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

```
db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>
```

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

SPM0459W インストールされている SNA のバージョンには、この DB2 のバージョンとの互換性がありません。

説明: DB2 Connect for AIX and DB2 Universal

Database for AIX V6.1 またはそれ以上には、SNA 接続のために IBM eNetwork Communication Server for AIX V5.0.3 またはそれ以上が必要です。

IBM Communication Server の必須バージョンは、このマシンにはインストールされていません。

ユーザーの処置: IBM eNetwork Communications Server for AIX V5.0.3 にアップグレードしなければなりません。PTF は、以下の URL でダウンロードすることができます。

<http://service.software.ibm.com/cgi-bin/support/rs6000.support/downloads>.

「AIX General Software Fixes」、 「AIX Fix Distribution Service」、 「AIX Version 4」、さらに「Search By PTF Number」を選択してください。検索ストリングとして sna.rte を入力します。「Find Fix」を選択してください。PTF がリストされるので、目的の PTF を選択して「Get Fix Package」をクリックし、指示に従ってください。

第 23 部 付録

付録 A. DB2 技術情報の概説

DB2 技術情報は、さまざまな方法でアクセスすることが可能な、各種形式で入手できます。

DB2 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2インフォメーション・センター
 - トピック (タスク、概念、およびリファレンス・トピック)
 - サンプル・プログラム
 - チュートリアル
- DB2 資料
 - PDF ファイル (ダウンロード可能)
 - PDF ファイル (DB2 PDF DVD に含まれる)
 - 印刷資料
- コマンド行ヘルプ
 - コマンド・ヘルプ
 - メッセージ・ヘルプ

注: DB2 インフォメーション・センターのトピックは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。最新の情報を入手するには、資料の更新が発行されたときにそれをインストールするか、ibm.com にある DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

技術資料、ホワイト・ペーパー、IBM Redbooks® 資料などのその他の DB2 技術情報には、オンライン (ibm.com) でアクセスできます。DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (<http://www.ibm.com/software/data/sw-library/>) にアクセスしてください。

資料についてのフィードバック

DB2 の資料についてのお客様からの貴重なご意見をお待ちしています。DB2 の資料を改善するための提案については、db2docs@ca.ibm.com まで E メールを送信してください。DB2 の資料チームは、お客様からのフィードバックすべてに目を通しますが、直接お客様に返答することはありません。お客様が関心をお持ちの内容について、可能な限り具体的な例を提供してください。特定のトピックまたはヘルプ・ファイルについてのフィードバックを提供する場合は、そのトピック・タイトルおよび URL を含めてください。

DB2 お客様サポートに連絡する場合には、この E メール・アドレスを使用しないでください。資料を参照しても、DB2 の技術的な問題が解決しない場合は、お近くの IBM サービス・センターにお問い合わせください。

DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)

以下の表は、IBM Publications Center (www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss) から利用できる DB2 ライブラリーについて説明しています。英語および翻訳された DB2 バージョン 10.1 のマニュアル (PDF 形式) は、www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947 からダウンロードできます。

この表には印刷資料が入手可能かどうかを示されていますが、国または地域によっては入手できない場合があります。

資料番号は、資料が更新される度に大きくなります。資料を参照する際は、以下にリストされている最新版であることを確認してください。

注: DB2 インフォメーション・センターは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。

表 1. DB2 の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
管理 API リファレンス	SA88-4671-00	入手可能	2012 年 4 月
管理ルーチンおよびビュー	SA88-4672-00	入手不可	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 1 巻	SA88-4676-00	入手可能	2012 年 4 月
コール・レベル・イン ターフェース ガイドお よびリファレンス 第 2 巻	SA88-4677-00	入手可能	2012 年 4 月
コマンド・リファレン ス	SA88-4673-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース: 管理の 概念および構成リファ レンス	SA88-4662-00	入手可能	2012 年 4 月
データ移動ユーティリ ティー ガイドおよびリ ファレンス	SA88-4693-00	入手可能	2012 年 4 月
データベースのモニタ リング ガイドおよびリ ファレンス	SA88-4663-00	入手可能	2012 年 4 月
データ・リカバリーと 高可用性 ガイドおよび リファレンス	SA88-4694-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・セキュ リティー・ガイド	SA88-4695-00	入手可能	2012 年 4 月

表 1. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能かどうか	最終更新
DB2 ワークロード管理ガイドおよびリファレンス	SA88-4685-00	入手可能	2012 年 4 月
ADO.NET および OLE DB アプリケーションの開発	SA88-4665-00	入手可能	2012 年 4 月
組み込み SQL アプリケーションの開発	SA88-4666-00	入手可能	2012 年 4 月
Java アプリケーションの開発	SA88-4669-00	入手可能	2012 年 4 月
Perl、PHP、Python および Ruby on Rails アプリケーションの開発	SA88-4670-00	入手不可	2012 年 4 月
SQL および外部ルーチンの開発	SA88-4667-00	入手可能	2012 年 4 月
データベース・アプリケーション開発の基礎	GI88-4279-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 インストールおよび管理 概説 (Linux および Windows 版)	GI88-4280-00	入手可能	2012 年 4 月
グローバル化ソリューション・ガイド	SA88-4696-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 サーバー機能 インストール	GA88-4679-00	入手可能	2012 年 4 月
IBM データ・サーバー・クライアント機能インストール	GA88-4680-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 1 巻	SA88-4688-00	入手不可	2012 年 4 月
メッセージ・リファレンス 第 2 巻	SA88-4689-00	入手不可	2012 年 4 月
Net Search Extender 管理およびユーザズ・ガイド	SA88-4691-00	入手不可	2012 年 4 月
パーティションおよびクラスタリングのガイド	SA88-4697-00	入手可能	2012 年 4 月
pureXML ガイド	SA88-4686-00	入手可能	2012 年 4 月
Spatial Extender ユーザズ・ガイドおよびリファレンス	SA88-4690-00	入手不可	2012 年 4 月

表 1. DB2 の技術情報 (続き)

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
SQL プロシージャ言語: アプリケーション のイネーブルメントお よびサポート	SA88-4668-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 1 巻	SA88-4674-00	入手可能	2012 年 4 月
SQL リファレンス 第 2 巻	SA88-4675-00	入手可能	2012 年 4 月
Text Search ガイド	SA88-4692-00	入手可能	2012 年 4 月
問題判別およびデータ ベース・パフォーマンス のチューニング	SA88-4664-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 へのアップグレード	SA88-4678-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 バージョン 10.1 の新機能	SA88-4684-00	入手可能	2012 年 4 月
XQuery リファレンス	SA88-4687-00	入手不可	2012 年 4 月

表 2. DB2 Connect 固有の技術情報

資料名	資料番号	印刷資料が入手可能 かどうか	最終更新
DB2 Connect Personal Edition インストールお よび構成	SA88-4681-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect サーバー 機能 インストールおよ び構成	SA88-4682-00	入手可能	2012 年 4 月
DB2 Connect ユーザー ズ・ガイド	SA88-4683-00	入手可能	2012 年 4 月

コマンド行プロセッサから SQL 状態ヘルプを表示する

DB2 製品は、SQL ステートメントの結果の原因になったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

手順

SQL 状態ヘルプを開始するには、コマンド行プロセッサを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate または ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

例えば、? 08003 を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

他のバージョンの DB2 製品の資料は、ibm.com® のそれぞれのインフォメーション・センターにあります。

このタスクについて

DB2 バージョン 10.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1> です。

DB2 バージョン 9.8 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r8/> です。

DB2 バージョン 9.7 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r7/> です。

DB2 バージョン 9.5 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5> です。

DB2 バージョン 9.1 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/> です。

DB2 バージョン 8 のトピックについては、DB2 インフォメーション・センターの URL (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v8/>) を参照してください。

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新

ローカルにインストールした DB2 インフォメーション・センターは、定期的に更新する必要があります。

始める前に

DB2 バージョン 10.1 インフォメーション・センターが既にインストール済みである必要があります。詳しくは、「DB2 サーバー機能 インストール」の『DB2 セットアップ・ウィザードによる DB2 インフォメーション・センターのインストール』のトピックを参照してください。インフォメーション・センターのインストールに適用されるすべての前提条件と制約事項は、インフォメーション・センターの更新にも適用されます。

このタスクについて

既存の DB2 インフォメーション・センターは、自動で更新することも手動で更新することもできます。

- 自動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語を更新します。自動更新を使用すると、手動更新と比べて、更新中にインフォメーション

ン・センターが使用できなくなる時間が短くなるというメリットがあります。さらに、自動更新は、定期的に行う他のバッチ・ジョブの一部として実行されるように設定することができます。

- 手動更新は、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーと言語の更新に使用できます。自動更新は更新処理中のダウン時間を減らすことができますが、フィーチャーまたは言語を追加する場合は手動処理を使用する必要があります。例えば、ローカルのインフォメーション・センターが最初は英語とフランス語でインストールされており、その後ドイツ語もインストールすることにした場合、手動更新でドイツ語をインストールし、同時に、既存のインフォメーション・センターのフィーチャーおよび言語を更新できます。しかし、手動更新ではインフォメーション・センターを手動で停止、更新、再始動する必要があります。更新処理の間はずっと、インフォメーション・センターは使用できなくなります。自動更新処理では、インフォメーション・センターは、更新を行った後に、インフォメーション・センターを再始動するための停止が発生するだけで済みます。

このトピックでは、自動更新のプロセスを詳しく説明しています。手動更新の手順については、『コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新』のトピックを参照してください。

手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされている DB2 インフォメーション・センターを自動更新する手順を以下に示します。

1. Linux オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
 - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
 - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - c. 次のように `update-ic` スクリプトを実行します。

```
update-ic
```
2. Windows オペレーティング・システムの場合、次のようにします。
 - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
 - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`<Program Files>¥IBM¥DB2 Information Center¥バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`<Program Files>` は「Program Files」ディレクトリーのロケーション)。
 - c. インストール・ディレクトリーから `doc¥bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - d. 次のように `update-ic.bat` ファイルを実行します。

```
update-ic.bat
```

タスクの結果

DB2 インフォメーション・センターが自動的に再始動します。更新が入手可能な場合、インフォメーション・センターに、更新された新しいトピックが表示されます。インフォメーション・センターの更新が入手可能でなかった場合、メッセージがログに追加されます。ログ・ファイルは、`doc\%eclipse%configuration` ディレクトリにあります。ログ・ファイル名はランダムに生成された名前です。例えば、`1239053440785.log` のようになります。

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの手動更新

DB2 インフォメーション・センターをローカルにインストールしている場合は、IBM から資料の更新を入手してインストールすることができます。

このタスクについて

ローカルにインストールされた *DB2* インフォメーション・センター を手動で更新するには、以下のことを行う必要があります。

1. コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を停止し、インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで再始動します。インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで実行すると、ネットワーク上の他のユーザーがそのインフォメーション・センターにアクセスできなくなります。これで、更新を適用できるようになります。*DB2* インフォメーション・センターのワークステーション・バージョンは、常にスタンドアロン・モードで実行されます。を参照してください。
2. 「更新」機能を使用することにより、どんな更新が利用できるかを確認します。インストールしなければならない更新がある場合は、「更新」機能を使用してそれを入手およびインストールできます。

注: ご使用の環境において、インターネットに接続されていないマシンに *DB2* インフォメーション・センター の更新をインストールする必要がある場合、インターネットに接続されていて *DB2* インフォメーション・センター がインストールされているマシンを使用して、更新サイトをローカル・ファイル・システムにミラーリングしてください。ネットワーク上の多数のユーザーが資料の更新をインストールする場合にも、更新サイトをローカルにミラーリングして、更新サイト用のプロキシを作成することにより、個々のユーザーが更新を実行するのに要する時間を短縮できます。

更新パッケージが入手可能な場合、「更新」機能を使用してパッケージを入手します。ただし、「更新」機能は、スタンドアロン・モードでのみ使用できます。

3. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止し、コンピューター上の *DB2* インフォメーション・センター を再開します。

注: Windows 2008、Windows Vista (およびそれ以上) では、このセクションの後の部分でリストされているコマンドは管理者として実行する必要があります。完全な管理者特権でコマンド・プロンプトまたはグラフィカル・ツールを開くには、ショートカットを右クリックしてから、「管理者として実行」を選択します。

手順

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のようにします。

1. DB2 インフォメーション・センターを停止します。
 - Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「停止」を選択します。
 - Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 stop
```
 2. インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで開始します。
 - Windows の場合:
 - a. コマンド・ウィンドウを開きます。
 - b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`Program_Files\IBM\DB2 Information Center\バージョン 10.1` ディレクトリーにインストールされています (`Program_Files` は Program Files ディレクトリーのロケーション)。
 - c. インストール・ディレクトリーから `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - d. 次のように `help_start.bat` ファイルを実行します。

```
help_start.bat
```
 - Linux の場合:
 - a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは、`/opt/ibm/db2ic/V10.1` ディレクトリーにインストールされています。
 - b. インストール・ディレクトリーから `doc/bin` ディレクトリーにナビゲートします。
 - c. 次のように `help_start` スクリプトを実行します。

```
help_start
```
- システムのデフォルト Web ブラウザーが開き、スタンドアロンのインフォメーション・センターが表示されます。
3. 「更新」ボタン (🔄) をクリックします。(ブラウザーで JavaScript が有効になっている必要があります。) インフォメーション・センターの右側のパネルで、「更新の検索」をクリックします。既存の文書に対する更新のリストが表示されます。
 4. インストール・プロセスを開始するには、インストールする更新をチェックして選択し、「更新のインストール」をクリックします。
 5. インストール・プロセスが完了したら、「完了」をクリックします。
 6. 次のようにして、スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止します。
 - Windows の場合は、インストール・ディレクトリーの `doc\bin` ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように `help_end.bat` ファイルを実行します。

help_end.bat

注: help_end バッチ・ファイルには、help_start バッチ・ファイルを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。help_start.bat は、Ctrl-C や他の方法を使用して停止しないでください。

- Linux の場合は、インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help_end スクリプトを実行します。

help_end

注: help_end スクリプトには、help_start スクリプトを使用して開始したプロセスを安全に停止するのに必要なコマンドが含まれています。他の方法を使用して、help_start スクリプトを停止しないでください。

7. DB2 インフォメーション・センター を再開します。

- Windows では、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」をクリックします。次に、「DB2 インフォメーション・センター」サービスを右クリックして「開始」を選択します。
- Linux では、以下のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/db2icdv10 start
```

タスクの結果

更新された DB2 インフォメーション・センター に、更新された新しいトピックが表示されます。

DB2 チュートリアル

DB2 チュートリアルは、DB2 データベース製品のさまざまな機能について学習するための支援となります。この演習をとおして段階的に学習することができます。

はじめに

インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v10r1/>) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

演習の中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、チュートリアルを参照してください。

DB2 チュートリアル

チュートリアルを表示するには、タイトルをクリックします。

「*pureXML* ガイド」の『**pureXML**®』

XML データを保管し、ネイティブ XML データ・ストアに対して基本的な操作を実行できるように、DB2 データベースをセットアップします。

DB2 トラブルシューティング情報

DB2 データベース製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

DB2 の資料

トラブルシューティング情報は、「問題判別およびデータベース・パフォーマンスのチューニング」または **DB2** インフォメーション・センターの『データベースの基本』セクションにあります。ここには、以下の情報が記載されています。

- DB2 診断ツールおよびユーティリティーを使用した、問題の切り分け方法および識別方法に関する情報。
- 最も一般的な問題のうち、いくつかの解決方法。
- DB2 データベース製品で発生する可能性のある、その他の問題の解決に役立つアドバイス。

IBM サポート・ポータル

現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを見つけるには、IBM サポート・ポータルを参照してください。Technical Support サイトには、最新の DB2 資料、TechNotes、プログラム診断依頼書 (APAR またはバグ修正)、フィックスパック、およびその他のリソースへのリンクが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

IBM サポート・ポータル (http://www.ibm.com/support/entry/portal/Overview/Software/Information_Management/DB2_for_Linux,_UNIX_and_Windows) にアクセスしてください。

ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用度: これらのご利用条件は、IBM Web サイトのあらゆるご利用条件に追加で適用されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM® の商標: IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

付録 B. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。IBM 以外の製品に関する情報は、本書の最初の発行時点で入手可能な情報に基づいており、変更される場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
U59/3600
3600 Steeles Avenue East
Markham, Ontario L3R 9Z7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、

利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる種類の保証も提供されません。IBM は、これらのサンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

更新

DB2 インフォメーション・センター 1027, 1029

ご利用条件

資料 1032

[サ行]

資料

印刷 1024

概要 1023

使用に関するご利用条件 1032

PDF ファイル 1024

[タ行]

チュートリアル

トラブルシューティング 1032

問題判別 1032

リスト 1031

pureXML 1031

特記事項 1035

トラブルシューティング

オンライン情報 1032

チュートリアル 1032

[ハ行]

ヘルプ

SQL ステートメント 1026

[マ行]

メッセージ 1, 1019

問題判別

チュートリアル 1032

利用できる情報 1032

D

DB2 インフォメーション・センター

更新 1027, 1029

バージョン 1027

I

IBM Data Server

メッセージ 1, 1019

S

SQL ステートメント

ヘルプ

表示 1026



Printed in Japan

SA88-4688-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IBM DB2 10.1 for Linux, UNIX, and Windows

メッセージ・リファレンス 第 1 巻

